

2025年度 文学部 講義概要（シラバス）



法政大学

科目一覧

〔発行日：2025/5/1〕 最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目	〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目	〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs	〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ	〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室
〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル	

【A2000】卒業論文（哲学科）〔哲学科専任教員〕年間授業/Yearly	1
【A2000】卒業論文（日本文学科）〔日本文学科専任教員〕年間授業/Yearly	2
【A2000】卒業論文（心理学科）〔心理学科専任教員〕年間授業/Yearly	3
【A2000】卒業論文（英文学科）〔英文学科専任教員〕年間授業/Yearly	5
【A2000】卒業論文（史学科）〔史学科専任教員〕年間授業/Yearly	6
【A2000】卒業論文（地理学科）〔地理学科専任教員〕年間授業/Yearly	7
【A2206】基礎演習1〔佐藤 真人〕春学期授業/Spring	8
【A2207】基礎演習1〔内山 真莉子〕春学期授業/Spring	10
【A2209】基礎演習2〔内山 真莉子〕秋学期授業/Fall	11
【A2210】基礎演習2〔佐藤 真人〕秋学期授業/Fall	12
【A2212】哲学特講（1）－1〔奥田 和夫〕春学期授業/Spring	14
【A2213】哲学特講（1）－2〔山下 真〕秋学期授業/Fall	15
【A2216】哲学特講（3）－1〔佐藤 真人〕春学期授業/Spring	16
【A2217】哲学特講（3）－2〔古屋 俊彦〕秋学期授業/Fall	18
【A2218】哲学特講（4）－1〔菅沢 龍文〕春学期授業/Spring	19
【A2219】哲学特講（4）－2〔近堂 秀〕秋学期授業/Fall	20
【A2220】哲学特講（5）－1〔長谷川 徹〕春学期授業/Spring	21
【A2221】哲学特講（5）－2〔相原 博〕秋学期授業/Fall	22
【A2222】哲学特講（6）－1〔大橋 基〕春学期授業/Spring	23
【A2223】哲学特講（6）－2〔押山 詩緒里〕秋学期授業/Fall	24
【A2224】哲学特講（7）－1〔富田 絢矢〕春学期授業/Spring	25
【A2225】哲学特講（7）－2〔鶴澤 和彦〕秋学期授業/Fall	26
【A2226】哲学特講（8）－1〔木島 泰三〕春学期授業/Spring	27
【A2227】哲学特講（8）－2〔中釜 浩一〕秋学期授業/Fall	28
【A2230】哲学演習（1）〔佐藤 真人〕年間授業/Yearly	29
【A2231】哲学演習（2）〔奥田 和夫〕年間授業/Yearly	31
【A2232】哲学演習（3）〔菅沢 龍文〕年間授業/Yearly	33
【A2233】哲学演習（4）〔岩野 卓司〕年間授業/Yearly	35
【A2234】哲学演習（5）〔吉田 敬介〕年間授業/Yearly	36
【A2235】哲学演習（6）〔君嶋 泰明〕年間授業/Yearly	37
【A2236】哲学演習（7）〔山本 伸裕〕年間授業/Yearly	38
【A2237】哲学演習（8）〔安東 祐希〕年間授業/Yearly	40
【A2238】哲学演習（9）〔中釜 浩一〕年間授業/Yearly	41
【A2239】哲学演習（10）〔内山 真莉子〕年間授業/Yearly	42
【A2240】哲学演習（11）〔内藤 淳〕年間授業/Yearly	43
【A2241】科学哲学1〔中釜 浩一〕春学期授業/Spring	44
【A2242】科学哲学2〔中釜 浩一〕秋学期授業/Fall	45
【A2245】現代思想2（フランスの思想）1〔大池 惣太郎〕春学期授業/Spring	46
【A2246】現代思想2（フランスの思想）2〔大池 惣太郎〕秋学期授業/Fall	47
【A2247】美学・芸術学1〔吉田 敬介〕春学期授業/Spring	48
【A2248】美学・芸術学2〔吉田 敬介〕秋学期授業/Fall	49
【A2249】東洋哲学史1〔計良 隆世〕春学期授業/Spring	50
【A2250】東洋哲学史2〔山本 伸裕〕秋学期授業/Fall	51
【A2251】宗教学1（伝統宗教）1〔松本 力〕春学期授業/Spring	53

【A2252】宗教学1（伝統宗教）2 [松本 力] 秋学期授業/Fall	54
【A2254】心理学1（心理学概論）1 [福田 由紀] 春学期授業/Spring	55
【A2255】心理学1（心理学史）2 [矢口 幸康] 秋学期授業/Fall	56
【A2256】心理学2（社会心理学）1 [越智 啓太] 春学期授業/Spring	57
【A2258】心理学3（臨床心理学）1 [杉山 崇] 秋学期授業/Fall	58
【A2259】心理学3（犯罪心理学）2 [越智 啓太] 秋学期授業/Fall	59
【A2260】日本思想史1 [山本 伸裕] 春学期授業/Spring	60
【A2261】日本思想史2 [山本 伸裕] 秋学期授業/Fall	61
【A2262】文化史1 [伊藤 直樹] 春学期授業/Spring	62
【A2263】文化史2 [伊藤 直樹] 秋学期授業/Fall	63
【A2264】社会思想1（社会学概論）1 [岩野 卓司] 春学期授業/Spring	64
【A2265】社会思想1（社会学概論）2 [岩野 卓司] 秋学期授業/Fall	65
【A2266】社会思想2（社会思想史）1 [政井 啓子] 春学期授業/Spring	66
【A2267】社会思想2（社会思想史）2 [鈴木 由加里] 秋学期授業/Fall	67
【A2268】ラテン語1 [金子 佳司] 春学期授業/Spring	69
【A2269】ラテン語2 [金子 佳司] 秋学期授業/Fall	70
【A2270】ギリシア語1 [白根 裕里枝] 春学期授業/Spring	71
【A2271】ギリシア語2 [白根 裕里枝] 秋学期授業/Fall	72
【A2274】歴史思想（史学概論）[齋藤 勝] 春学期授業/Spring	73
【A2303】心理学2（集団社会心理学）2 [越智 啓太] 秋学期授業/Fall	74
【A2304】哲学概論1 [中釜 浩一] 春学期授業/Spring	75
【A2305】哲学概論2 [中釜 浩一] 秋学期授業/Fall	76
【A2306】論理学概論1 [安東 祐希] 春学期授業/Spring	77
【A2307】論理学概論2 [安東 祐希] 秋学期授業/Fall	78
【A2308】倫理学概論1 [大橋 基] 春学期授業/Spring	79
【A2309】倫理学概論2 [大橋 基] 秋学期授業/Fall	80
【A2310】西洋哲学史Ⅰ－1 [奥田 和夫] 春学期授業/Spring	81
【A2311】西洋哲学史Ⅰ－2 [奥田 和夫] 秋学期授業/Fall	82
【A2312】西洋哲学史Ⅱ－1 [菅沢 龍文] 春学期授業/Spring	83
【A2313】西洋哲学史Ⅱ－2 [菅沢 龍文] 秋学期授業/Fall	84
【A2314】現代思想1（ドイツの思想A）1 [吉田 敬介] 春学期授業/Spring	85
【A2315】現代思想1（ドイツの思想B）2 [吉田 敬介] 秋学期授業/Fall	86
【A2316】宗教学2（キリスト教思想史）A [鶴澤 和彦] 春学期授業/Spring	87
【A2317】宗教学2（キリスト教思想史）B [鶴澤 和彦] 秋学期授業/Fall	89
【A2318】宗教学3（仏教思想論）A [計良 隆世] 春学期授業/Spring	91
【A2319】宗教学3（仏教思想論）B [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	92
【A2320】フランス語（第三外国語としてのフランス語A）1 [廣松 勲] 春学期授業/Spring	93
【A2321】フランス語（第三外国語としてのフランス語B）2 [廣松 勲] 秋学期授業/Fall	94
【A2322】人間学1（環境倫理学）A [竹中 真也] 秋学期授業/Fall	95
【A2323】人間学1（環境倫理学）B [加藤 壮一郎] 秋学期授業/Fall	96
【A2326】言語と論理1（言語学講義ⅠA）[石川 潔] 春学期授業/Spring	97
【A2327】言語と論理1（言語学講義ⅠB）[石川 潔] 秋学期授業/Fall	98
【A2328】言語と論理2（数理論理学）A [安東 祐希] 春学期授業/Spring	99
【A2329】言語と論理2（数理論理学）B [安東 祐希] 秋学期授業/Fall	100
【A2332】基礎ゼミⅠ（文・哲）[佐藤 真人] 春学期授業/Spring	101
【A2333】基礎ゼミⅡ（文・哲）[内山 真莉子] 秋学期授業/Fall	102
【A2334】基礎ゼミⅠ（文・哲）[奥田 和夫] 春学期授業/Spring	103
【A2335】基礎ゼミⅡ（文・哲）[菅沢 龍文] 秋学期授業/Fall	104
【A2336】ドイツ語（第三外国語としてのドイツ語A）1 [林 志津江] 春学期授業/Spring	106
【A2337】ドイツ語（第三外国語としてのドイツ語B）2 [林 志津江] 秋学期授業/Fall	108
【A2340】人間学2（徳と倫理）A [内山 真莉子] 春学期授業/Spring	109
【A2341】人間学2（徳と倫理）B [内山 真莉子] 秋学期授業/Fall	110
【A2342】人間学5（人間存在論）A [森村 修] 春学期授業/Spring	111
【A2343】人間学5（人間存在論）B [森村 修] 秋学期授業/Fall	113
【A2401】日本文芸学概論A [王 安、中沢 けい、田中 和生、藤村 耕治、中丸 宣明、小林 ふみ子、阿部 真弓] 春学期授業/Spring	115

【A2402】日本文芸学概論A〔王 安、中沢 けい、田中 和生、藤村 耕治、中丸 宣明、小林 ふみ子、阿部 真弓〕春学期授業/Spring.....	116
【A2403】日本文芸学概論B〔王 安、加藤 昌嘉、小秋元 段、遠藤 星希、スティーヴン ネルソン、森 陽香〕秋学期授業/Fall.....	117
【A2404】日本文芸学概論B〔王 安、加藤 昌嘉、小秋元 段、遠藤 星希、スティーヴン ネルソン、森 陽香〕秋学期授業/Fall.....	118
【A2405】日本文芸史ⅠA〔森 陽香〕春学期授業/Spring.....	119
【A2406】日本文芸史ⅠA〔加藤 昌嘉〕春学期授業/Spring.....	120
【A2407】日本文芸史ⅠB〔阿部 真弓〕秋学期授業/Fall.....	121
【A2408】日本文芸史ⅠB〔小林 ふみ子〕秋学期授業/Fall.....	122
【A2409】日本言語学概論A〔間宮 厚司〕春学期授業/Spring.....	123
【A2410】日本言語学概論A〔古牧 久典〕春学期授業/Spring.....	124
【A2411】日本言語学概論B〔間宮 厚司〕秋学期授業/Fall.....	125
【A2412】日本言語学概論B〔古牧 久典〕秋学期授業/Fall.....	126
【A2413】大学での国語力〔小林 ふみ子〕春学期授業/Spring.....	127
【A2414】大学での国語力〔遠藤 星希〕春学期授業/Spring.....	128
【A2415】大学での国語力〔森 陽香〕春学期授業/Spring.....	129
【A2416】大学での国語力〔中丸 宣明〕春学期授業/Spring.....	130
【A2417】大学での国語力〔藤村 耕治〕春学期授業/Spring.....	131
【A2418】大学での国語力〔藤村 耕治〕春学期授業/Spring.....	132
【A2419】大学での国語力〔田中 和生〕春学期授業/Spring.....	133
【A2420】大学での国語力〔加藤 昌嘉〕春学期授業/Spring.....	134
【A2421】大学での国語力〔阿部 真弓〕春学期授業/Spring.....	135
【A2422】大学での国語力〔遠藤 星希〕春学期授業/Spring.....	136
【A2423】大学での国語力〔小秋元 段〕春学期授業/Spring.....	137
【A2425】文学概論A〔中丸 宣明〕春学期授業/Spring.....	138
【A2427】文学概論B〔中丸 宣明〕秋学期授業/Fall.....	139
【A2429】日本文芸史ⅡA〔藤村 耕治〕春学期授業/Spring.....	140
【A2430】日本文芸史ⅡA〔矢澤 美佐紀〕春学期授業/Spring.....	141
【A2431】日本文芸史ⅡB〔藤村 耕治〕秋学期授業/Fall.....	142
【A2432】日本文芸史ⅡB〔矢澤 美佐紀〕秋学期授業/Fall.....	143
【A2433】日本言語史A〔間宮 厚司〕春学期授業/Spring.....	144
【A2435】日本言語史B〔間宮 厚司〕秋学期授業/Fall.....	145
【A2437】日本文法論A〔松浦 光〕春学期授業/Spring.....	146
【A2438】日本文法論A〔八木 健太郎〕春学期授業/Spring.....	147
【A2439】日本文法論B〔松浦 光〕秋学期授業/Fall.....	148
【A2440】日本文法論B〔八木 健太郎〕秋学期授業/Fall.....	149
【A2441】日本文章史A〔中沢 けい〕春学期授業/Spring.....	150
【A2443】日本文章史B〔中沢 けい〕秋学期授業/Fall.....	151
【A2445】文章表現論A〔田中 和生〕春学期授業/Spring.....	152
【A2446】文章表現論A〔伊東 祐吏〕春学期授業/Spring.....	153
【A2447】文章表現論B〔田中 和生〕秋学期授業/Fall.....	154
【A2448】文章表現論B〔伊東 祐吏〕秋学期授業/Fall.....	155
【A2553】日本文芸批評史A〔伊東 祐吏〕春学期授業/Spring.....	156
【A2555】日本文芸批評史B〔伊東 祐吏〕秋学期授業/Fall.....	157
【A2557】日本言語学特殊研究A〔田嶋 圭一〕春学期授業/Spring.....	158
【A2559】日本言語学特殊研究B〔田嶋 圭一〕秋学期授業/Fall.....	159
【A2561】中国文芸史A〔遠藤 星希〕春学期授業/Spring.....	160
【A2562】中国文芸史A〔吉井 涼子〕春学期授業/Spring.....	161
【A2563】中国文芸史B〔遠藤 星希〕秋学期授業/Fall.....	162
【A2564】中国文芸史B〔吉井 涼子〕秋学期授業/Fall.....	163
【A2566】書誌学〔山口 恭子〕春学期授業/Spring.....	164
【A2568】メディアと社会〔中沢 けい〕秋学期授業/Fall.....	165
【A2569】音楽芸能史特殊研究A〔野川 美穂子〕春学期授業/Spring.....	166
【A2571】音楽芸能史特殊研究B〔野川 美穂子〕秋学期授業/Fall.....	167
【A2574】編集実務A〔谷村 順一〕春学期授業/Spring.....	168
【A2576】編集実務B〔谷村 順一〕秋学期授業/Fall.....	169

【A2577】美術史（西洋）A [安藤 智子] 春学期授業/Spring	170
【A2578】美術史（西洋）B [安藤 智子] 秋学期授業/Fall	171
【A2581】文化史1 [安原 眞琴] 春学期授業/Spring	172
【A2582】文化史2 [山口 恭子] 秋学期授業/Fall	173
【A2584】表現と著作権A [平井 彰司] 春学期授業/Spring	174
【A2586】表現と著作権B [平井 彰司] 秋学期授業/Fall	175
【A2604】古文・漢文の基礎 [栗山 元子] 秋学期授業/Fall	176
【A2605】ゼミナール入門 [森 陽香] 秋学期授業/Fall	177
【A2606】ゼミナール入門 [中丸 宣明] 秋学期授業/Fall	178
【A2607】ゼミナール入門 [加藤 昌嘉] 秋学期授業/Fall	179
【A2608】ゼミナール入門 [藤村 耕治] 秋学期授業/Fall	180
【A2609】ゼミナール入門 [小林 ふみ子] 秋学期授業/Fall	181
【A2610】ゼミナール入門 [田中 和生] 秋学期授業/Fall	182
【A2611】ゼミナール入門 [スティーヴン ネルソン] 秋学期授業/Fall	183
【A2612】ゼミナール入門 [遠藤 星希] 秋学期授業/Fall	184
【A2613】ゼミナール入門 [中沢 けい] 秋学期授業/Fall	185
【A2614】ゼミナール入門 [加藤 昌嘉] 秋学期授業/Fall	186
【A2615】ゼミナール1 A [遠藤 星希] 春学期授業/Spring	187
【A2616】ゼミナール1 B [遠藤 星希] 秋学期授業/Fall	188
【A2617】ゼミナール2 A [森 陽香] 春学期授業/Spring	189
【A2618】ゼミナール2 B [森 陽香] 秋学期授業/Fall	190
【A2619】ゼミナール3 A [加藤 昌嘉] 春学期授業/Spring	191
【A2620】ゼミナール3 B [加藤 昌嘉] 秋学期授業/Fall	192
【A2621】ゼミナール4 A [阿部 真弓] 春学期授業/Spring	193
【A2622】ゼミナール4 B [阿部 真弓] 秋学期授業/Fall	194
【A2623】ゼミナール5 A [小秋元 段] 春学期授業/Spring	195
【A2624】ゼミナール5 B [小秋元 段] 秋学期授業/Fall	196
【A2625】ゼミナール6 A [小林 ふみ子] 春学期授業/Spring	197
【A2626】ゼミナール6 B [小林 ふみ子] 秋学期授業/Fall	198
【A2627】ゼミナール7 A [スティーヴン ネルソン] 春学期授業/Spring	199
【A2628】ゼミナール7 B [スティーヴン ネルソン] 秋学期授業/Fall	200
【A2629】ゼミナール8 A [中司 由起子] 春学期授業/Spring	201
【A2630】ゼミナール8 B [中司 由起子] 秋学期授業/Fall	202
【A2631】ゼミナール9 A [中丸 宣明] 春学期授業/Spring	203
【A2632】ゼミナール9 B [中丸 宣明] 秋学期授業/Fall	204
【A2635】ゼミナール11 A [藤村 耕治] 春学期授業/Spring	205
【A2636】ゼミナール11 B [藤村 耕治] 秋学期授業/Fall	206
【A2637】ゼミナール12 A [渋谷 百合絵] 春学期授業/Spring	207
【A2638】ゼミナール12 B [渋谷 百合絵] 秋学期授業/Fall	208
【A2639】ゼミナール13 A [間宮 厚司] 春学期授業/Spring	209
【A2640】ゼミナール13 B [間宮 厚司] 秋学期授業/Fall	210
【A2641】ゼミナール14 A [間宮 厚司] 春学期授業/Spring	211
【A2642】ゼミナール14 B [間宮 厚司] 秋学期授業/Fall	212
【A2643】ゼミナール15 A [塩田 雄大] 春学期授業/Spring	213
【A2644】ゼミナール15 B [塩田 雄大] 秋学期授業/Fall	214
【A2645】ゼミナール16 A [松浦 光] 春学期授業/Spring	215
【A2646】ゼミナール16 B [松浦 光] 秋学期授業/Fall	216
【A2647】ゼミナール17 A [中沢 けい] 春学期授業/Spring	217
【A2648】ゼミナール17 B [中沢 けい] 秋学期授業/Fall	218
【A2649】ゼミナール18 A [中沢 けい] 春学期授業/Spring	219
【A2650】ゼミナール18 B [中沢 けい] 秋学期授業/Fall	220
【A2651】ゼミナール19 A [田中 和生] 春学期授業/Spring	221
【A2652】ゼミナール19 B [田中 和生] 秋学期授業/Fall	222
【A2653】ゼミナール20 A [田中 和生] 春学期授業/Spring	223
【A2654】ゼミナール20 B [田中 和生] 秋学期授業/Fall	224
【A2655】ゼミナール21 A [山口 和人] 春学期授業/Spring	225
【A2656】ゼミナール21 B [山口 和人] 秋学期授業/Fall	226

[A2657]	日本文芸研究特講 (1) 上代A [森 陽香]	春学期授業/Spring	227
[A2658]	日本文芸研究特講 (1) 上代B [森 陽香]	秋学期授業/Fall	228
[A2659]	日本文芸研究特講 (1) 上代C [萩野 了子]	春学期授業/Spring	229
[A2660]	日本文芸研究特講 (1) 上代D [萩野 了子]	秋学期授業/Fall	230
[A2661]	日本文芸研究特講 (2) 中古A [栗山 元子]	春学期授業/Spring	231
[A2662]	日本文芸研究特講 (2) 中古B [加藤 昌嘉]	秋学期授業/Fall	232
[A2665]	日本文芸研究特講 (3) 中世A [阿部 真弓]	春学期授業/Spring	233
[A2666]	日本文芸研究特講 (3) 中世B [阿部 真弓]	秋学期授業/Fall	234
[A2669]	日本文芸研究特講 (4) 近世A [小林 ふみ子]	春学期授業/Spring	235
[A2670]	日本文芸研究特講 (4) 近世B [齊藤 千恵]	秋学期授業/Fall	236
[A2672]	日本文芸研究特講 (4) 近世D [藤川 雅恵]	秋学期授業/Fall	237
[A2673]	日本文芸研究特講 (5) 近代A [細沼 祐介]	春学期授業/Spring	239
[A2674]	日本文芸研究特講 (5) 近代B [細沼 祐介]	秋学期授業/Fall	240
[A2677]	日本文芸研究特講 (6) 現代A [藤木 直実]	春学期授業/Spring	241
[A2678]	日本文芸研究特講 (6) 現代B [藤木 直実]	秋学期授業/Fall	242
[A2679]	日本文芸研究特講 (6) 現代C [高口 智史]	春学期授業/Spring	243
[A2680]	日本文芸研究特講 (6) 現代D [梅澤 亜由美]	秋学期授業/Fall	245
[A2681]	日本文芸研究特講 (7) 漢文A [遠藤 星希]	春学期授業/Spring	246
[A2682]	日本文芸研究特講 (7) 漢文B [遠藤 星希]	秋学期授業/Fall	247
[A2685]	日本文芸研究特講 (8) 言語A [塩田 雄大]	春学期授業/Spring	248
[A2686]	日本文芸研究特講 (8) 言語B [塩田 雄大]	秋学期授業/Fall	249
[A2687]	日本文芸研究特講 (9) 表現A [藤谷 治]	春学期授業/Spring	250
[A2688]	日本文芸研究特講 (9) 表現B [藤谷 治]	秋学期授業/Fall	251
[A2689]	日本文芸研究特講 (10) 演劇A [深澤 希望]	春学期授業/Spring	252
[A2690]	日本文芸研究特講 (10) 演劇B [深澤 希望]	秋学期授業/Fall	253
[A2691]	日本文芸研究特講 (10) 演劇C [上野 火山]	春学期授業/Spring	254
[A2692]	日本文芸研究特講 (10) 演劇D [上野 火山]	秋学期授業/Fall	255
[A2693]	日本文芸研究特講 (11) 音楽芸能史A [本塚 亘]	春学期授業/Spring	256
[A2694]	日本文芸研究特講 (11) 音楽芸能史B [本塚 亘]	秋学期授業/Fall	257
[A2695]	日本文芸研究特講 (12) 詩歌A [山崎 修平]	春学期授業/Spring	258
[A2696]	日本文芸研究特講 (12) 詩歌B [山崎 修平]	秋学期授業/Fall	259
[A2697]	日本文芸研究特講 (13) 児童文芸A [渋谷 百合絵]	春学期授業/Spring	260
[A2698]	日本文芸研究特講 (13) 児童文芸B [渋谷 百合絵]	秋学期授業/Fall	261
[A2699]	日本文芸研究特講 (14) 沖縄文芸A [福 寛美]	春学期授業/Spring	262
[A2700]	日本文芸研究特講 (14) 沖縄文芸B [福 寛美]	秋学期授業/Fall	263
[A2703]	日本文芸研究特講 (15) 国際日本学A [スティーヴン ネルソン]	春学期授業/Spring	264
[A2704]	日本文芸研究特講 (15) 国際日本学B [スティーヴン ネルソン]	秋学期授業/Fall	265
[A2705]	日本文芸研究特講 (16) 特域A [日原 傳]	春学期授業/Spring	266
[A2706]	日本文芸研究特講 (16) 特域B [日原 傳]	秋学期授業/Fall	267
[A2707]	日本文芸研究特講 (16) 特域C [安原 眞琴]	春学期授業/Spring	268
[A2708]	日本文芸研究特講 (16) 特域D [山口 恭子]	秋学期授業/Fall	269
[A2709]	編集理論A [武田 俊]	春学期授業/Spring	270
[A2710]	編集理論B [武田 俊]	秋学期授業/Fall	272
[A2713]	教養ゼミⅠ (文芸創作の実践A) [藤村 耕治]	春学期授業/Spring	274
[A2714]	教養ゼミⅡ (文芸創作の実践B) [藤村 耕治]	秋学期授業/Fall	275
[A2715]	情報リテラシー実習A [谷村 順一]	春学期授業/Spring	276
[A2716]	情報リテラシー実習B [谷村 順一]	秋学期授業/Fall	277
[A2717]	情報メディア演習A [武田 俊]	春学期授業/Spring	278
[A2718]	情報メディア演習B [武田 俊]	秋学期授業/Fall	279
[A2719]	書道A(書写を中心とする) [橋本 匡朗]	春学期授業/Spring	280
[A2720]	書道B(書写を中心とする) [橋本 匡朗]	秋学期授業/Fall	281
[A2721]	書道A(書写を中心とする) [橋本 匡朗]	春学期授業/Spring	282
[A2722]	書道B(書写を中心とする) [橋本 匡朗]	秋学期授業/Fall	283
[A2724]	国語科教育法(1) [今藤 晃裕]	春学期授業/Spring	284
[A2725]	国語科教育法(2) [今藤 晃裕]	秋学期授業/Fall	285
[A2727]	国語科教育法(3) [小清水 裕子]	春学期授業/Spring	286
[A2728]	国語科教育法(4) [小清水 裕子]	秋学期授業/Fall	287

[A2735]	ゼミナール 2 2 A [王 安] 春学期授業/Spring	288
[A2736]	ゼミナール 2 2 B [王 安] 秋学期授業/Fall	289
[A2737]	日本文芸研究特講 (8) 言語 C [王 安] 春学期授業/Spring	291
[A2738]	日本文芸研究特講 (8) 言語 D [王 安] 秋学期授業/Fall	292
[A2739]	くずし字入門 A [中司 由起子] 春学期授業/Spring	294
[A2740]	くずし字入門 B [中司 由起子] 秋学期授業/Fall	295
[A2804]	英語学概論 A [椎名 美智] 春学期授業/Spring	296
[A2805]	英語学概論 B [福元 広二] 秋学期授業/Fall	297
[A2806]	言語学概論 A [石川 潔] 春学期授業/Spring	298
[A2807]	言語学概論 B [石井 創] 秋学期授業/Fall	299
[A2808]	英語・言語学講義 A [椎名 美智] 秋学期授業/Fall	301
[A2809]	英語・言語学講義 B [石川 潔] 秋学期授業/Fall	302
[A2810]	社会言語学 [椎名 美智] 春学期授業/Spring	303
[A2811]	応用言語学 [川崎 貴子] 秋学期授業/Fall	304
[A2824]	比較文学 A [柳橋 大輔] 春学期授業/Spring	305
[A2825]	比較文学 B [柳橋 大輔] 秋学期授業/Fall	306
[A2826]	英語表現演習 (Writing)(1) A [高村 遼] 春学期授業/Spring	307
[A2827]	英語表現演習 (Writing)(1) B [高村 遼] 秋学期授業/Fall	308
[A2828]	英語表現演習 (Writing)(2) A [畑 和樹] 春学期授業/Spring	309
[A2829]	英語表現演習 (Writing)(2) B [畑 和樹] 秋学期授業/Fall	310
[A2830]	英語表現演習 (Writing)(3) A [JAMES O ESSEX] 春学期授業/Spring	311
[A2831]	英語表現演習 (Writing)(3) B [JAMES O ESSEX] 秋学期授業/Fall	313
[A2834]	英語表現演習 (Writing)(5) A [杉 亜希子] 春学期授業/Spring	315
[A2835]	英語表現演習 (Writing)(5) B [杉 亜希子] 秋学期授業/Fall	317
[A2836]	英語表現演習 (Writing)(6) A [畑 和樹] 春学期授業/Spring	319
[A2837]	英語表現演習 (Writing)(6) B [畑 和樹] 秋学期授業/Fall	320
[A2838]	英語表現演習 (Writing)(7) A [PAUL K KALLENDER] 春学期授業/Spring	321
[A2839]	英語表現演習 (Writing)(7) B [PAUL K KALLENDER] 秋学期授業/Fall	323
[A2840]	英語表現演習 (Writing)(8) A [田中 邦佳] 春学期授業/Spring	325
[A2841]	英語表現演習 (Writing)(8) B [田中 邦佳] 秋学期授業/Fall	326
[A2844]	英語表現演習 (翻訳) (1) A [吉川 純子] 春学期授業/Spring	327
[A2845]	英語表現演習 (翻訳)(1) B [吉川 純子] 秋学期授業/Fall	328
[A2846]	英語表現演習 (Speaking)(1) A [杉 亜希子] 春学期授業/Spring	329
[A2847]	英語表現演習 (Speaking)(1) B [杉 亜希子] 秋学期授業/Fall	331
[A2848]	英語表現演習 (Speaking)(2) A [PAUL K KALLENDER] 春学期授業/Spring	333
[A2849]	英語表現演習 (Speaking)(2) B [PAUL K KALLENDER] 秋学期授業/Fall	335
[A2850]	英語表現演習 (Speaking)(3) A [リチャード ストーン] 春学期授業/Spring	336
[A2851]	英語表現演習 (Speaking)(3) B [リチャード ストーン] 秋学期授業/Fall	337
[A2854]	英語表現演習 (Speaking)(5) A [Niall Murtagh] 春学期授業/Spring	338
[A2855]	英語表現演習 (Speaking)(5) B [Niall Murtagh] 秋学期授業/Fall	339
[A2856]	英語表現演習 (Speaking)(6) A [JAMES O ESSEX] 春学期授業/Spring	340
[A2857]	英語表現演習 (Speaking)(6) B [JAMES O ESSEX] 秋学期授業/Fall	342
[A2858]	英語表現演習 (Speaking)(7) A [Niall Murtagh] 春学期授業/Spring	344
[A2859]	英語表現演習 (Speaking)(7) B [Niall Murtagh] 秋学期授業/Fall	345
[A2860]	英語表現演習 (Speaking)(8) A [高村 遼] 春学期授業/Spring	346
[A2861]	英語表現演習 (Speaking)(8) B [高村 遼] 秋学期授業/Fall	347
[A2901]	英語史 A [福元 広二] 春学期授業/Spring	348
[A2902]	英語史 B [福元 広二] 秋学期授業/Fall	349
[A2903]	英文学史 A [田中 裕希] 春学期授業/Spring	350
[A2904]	英文学史 B [小澤 央] 秋学期授業/Fall	351
[A2905]	米文学史 A [宮川 雅] 春学期授業/Spring	352
[A2906]	米文学史 B [宮川 雅] 秋学期授業/Fall	353
[A2907]	英米文学講義 I A [波戸岡 景太] 春学期授業/Spring	354
[A2908]	英米文学講義 I B [波戸岡 景太] 秋学期授業/Fall	355
[A2909]	英米文学講義 II A [小澤 央] 春学期授業/Spring	356
[A2910]	英米文学講義 II B [田中 裕希] 秋学期授業/Fall	357
[A2911]	英語学講義 A [福元 広二] 春学期授業/Spring	358

[A2912]	英語学講義B [福元 広二]	秋学期授業/Fall	359
[A2913]	言語学講義 I A [石川 潔]	春学期授業/Spring	360
[A2914]	言語学講義 I B [石川 潔]	秋学期授業/Fall	361
[A2915]	言語学講義 II A [伊藤 達也]	春学期授業/Spring	362
[A2916]	言語学講義 II B [伊藤 達也]	秋学期授業/Fall	363
[A2919]	英語音声学A [川崎 貴子]	春学期授業/Spring	364
[A2920]	英語音声学B [川崎 貴子]	秋学期授業/Fall	365
[A2923]	英語・言語学特殊講義A [塩田 雄大]	春学期授業/Spring	366
[A2924]	英語・言語学特殊講義B [塩田 雄大]	秋学期授業/Fall	367
[A2935]	英語学演習(1)A [福元 広二]	春学期授業/Spring	368
[A2936]	英語学演習(1)B [福元 広二]	秋学期授業/Fall	369
[A2937]	英語学演習(2)A [椎名 美智]	春学期授業/Spring	370
[A2938]	英語学演習(2)B [椎名 美智]	秋学期授業/Fall	371
[A2939]	言語学演習(1)A [石川 潔]	春学期授業/Spring	372
[A2940]	言語学演習(1)B [石川 潔]	秋学期授業/Fall	373
[A2941]	言語学演習(2)A [川崎 貴子]	春学期授業/Spring	374
[A2942]	言語学演習(2)B [川崎 貴子]	秋学期授業/Fall	375
[A2943]	英米文学演習(1)A [波戸岡 景太]	春学期授業/Spring	376
[A2944]	英米文学演習(1)B [波戸岡 景太]	秋学期授業/Fall	377
[A2951]	英米文学演習(5)A [日野原 慶]	春学期授業/Spring	378
[A2952]	英米文学演習(5)B [日野原 慶]	秋学期授業/Fall	380
[A2953]	英米文学演習(6)A [小澤 央]	春学期授業/Spring	382
[A2954]	英米文学演習(6)B [小澤 央]	秋学期授業/Fall	383
[A2957]	英米文学演習(8)A [山崎 暁子]	春学期授業/Spring	384
[A2958]	英米文学演習(8)B [山崎 暁子]	秋学期授業/Fall	385
[A2959]	英米文学演習(9)A [利根川 真紀]	春学期授業/Spring	386
[A2960]	英米文学演習(9)B [利根川 真紀]	秋学期授業/Fall	387
[A2961]	英語教育学演習A [ブライアン ウィスナー]	春学期授業/Spring	388
[A2962]	英語教育学演習B [ブライアン ウィスナー]	秋学期授業/Fall	389
[A2969]	文学研究方法論A [波戸岡 景太]	春学期授業/Spring	390
[A2970]	文学研究方法論B [波戸岡 景太]	秋学期授業/Fall	391
[A2971]	2年次演習(1) [波戸岡 景太]	春学期授業/Spring	392
[A2972]	2年次演習(2) [山崎 暁子]	春学期授業/Spring	393
[A2973]	2年次演習(3) [田中 裕希]	春学期授業/Spring	394
[A2974]	2年次演習(4) [ブライアン ウィスナー]	春学期授業/Spring	395
[A2975]	2年次演習(5) [福元 広二]	春学期授業/Spring	396
[A2976]	2年次演習(6) [川崎 貴子]	春学期授業/Spring	397
[A2977]	英語の文法力 I [椎名 美智]	春学期授業/Spring	398
[A2978]	英語の文法力 II [椎名 美智]	秋学期授業/Fall	399
[A2979]	メディア・リテラシー I [田中 邦佳]	秋学期授業/Fall	400
[A2980]	メディア・リテラシー II [吉川 純子]	秋学期授業/Fall	401
[A2981]	比較文化論(1) [波戸岡 景太]	秋学期授業/Fall	402
[A2982]	英米文化概論A [田中 裕希]	春学期授業/Spring	403
[A2983]	英米文化概論B [田中 裕希]	秋学期授業/Fall	404
[A2984]	AcademicWritingA [神藤 理恵]	春学期授業/Spring	405
[A2985]	AcademicWritingB [神藤 理恵]	秋学期授業/Fall	406
[A2986]	SeminarinCross-culturalStudiesA [田中 裕希]	春学期授業/Spring	407
[A2987]	SeminarinCross-culturalStudiesB [田中 裕希]	秋学期授業/Fall	408
[A2988]	ComparativeCulture(2) [田中 裕希]	秋学期授業/Fall	409
[A2991]	PublicSpeaking [椎名 美智]	秋学期授業/Fall	410
[A2993]	英語表現演習(総合) [ブライアン ウィスナー]	春学期授業/Spring	411
[A2994]	英語表現演習(総合) [ブライアン ウィスナー]	春学期授業/Spring	412
[A2995]	英語表現演習(総合) [ブライアン ウィスナー]	秋学期授業/Fall	413
[A2996]	英語表現演習(総合) [ブライアン ウィスナー]	秋学期授業/Fall	414
[A3001]	言語習得論演習A [近藤 隆子]	春学期授業/Spring	415
[A3002]	言語習得論演習B [近藤 隆子]	秋学期授業/Fall	417
[A3003]	世界文学講義Ⅲ [小澤 央]	春学期授業/Spring	418

[A3004]	世界文学講義Ⅳ [小澤 央] 秋学期授業/Fall	419
[A3005]	世界文学講義Ⅰ [林 志津江] 春学期授業/Spring	420
[A3006]	世界文学講義Ⅱ [林 志津江] 秋学期授業/Fall	422
[A3007]	英語圏文学研究A [小澤 央] 春学期授業/Spring	424
[A3008]	英語圏文学研究B [小澤 央] 秋学期授業/Fall	425
[A3009]	英語圏文学演習A [田中 裕希] 春学期授業/Spring	426
[A3010]	英語圏文学演習B [田中 裕希] 秋学期授業/Fall	427
[A3011]	Introduction to Film Studies [KUKHEE CHOO] 秋学期授業/Fall	428
[A3087]	Sociolinguistics [渡辺 宥泰] 秋学期授業/Fall	429
[A3092]	Sociolinguistics [渡辺 宥泰] 秋学期授業/Fall	430
[A3093]	教養ゼミⅠ [上田 知夫] 春学期授業/Spring	431
[A3094]	教養ゼミⅡ [上田 知夫] 秋学期授業/Fall	432
[A3095]	Psycholinguistics [石田 真子] 秋学期授業/Fall	433
[A3096]	基礎ゼミⅠ (文・英文) [福元 広二] 春学期授業/Spring	434
[A3097]	基礎ゼミⅠ (文・英文) [小澤 央] 春学期授業/Spring	435
[A3098]	基礎ゼミⅠ (文・英文) [波戸岡 景太] 春学期授業/Spring	436
[A3099]	基礎ゼミⅠ (文・英文) [田中 裕希] 春学期授業/Spring	437
[A3101]	日本史概説Ⅰ [小倉 淳一] 春学期授業/Spring	438
[A3102]	日本史概説Ⅱ [大塚 紀弘] 秋学期授業/Fall	439
[A3103]	日本史概説Ⅲ [中山 学] 春学期授業/Spring	440
[A3104]	日本史概説Ⅳ [内藤 一成] 秋学期授業/Fall	441
[A3105]	東洋史概説Ⅰ [塩沢 裕仁] 春学期授業/Spring	442
[A3106]	東洋史概説Ⅱ [塩沢 裕仁] 秋学期授業/Fall	443
[A3107]	東洋史概説Ⅲ [高井 康行] 春学期授業/Spring	444
[A3108]	東洋史概説Ⅳ [高井 康行] 秋学期授業/Fall	445
[A3109]	西洋史概説Ⅰ [内田 康太] 春学期授業/Spring	446
[A3110]	西洋史概説Ⅱ [内田 康太] 秋学期授業/Fall	447
[A3111]	西洋史概説Ⅲ [皆川 卓] 春学期授業/Spring	448
[A3112]	西洋史概説Ⅳ [皆川 卓] 秋学期授業/Fall	450
[A3113]	日本考古学 [高橋 健] 秋学期授業/Fall	452
[A3114]	日本古代史 [春名 宏昭] 春学期授業/Spring	453
[A3115]	日本中世史 [及川 亘] 秋学期授業/Fall	454
[A3116]	日本近世史 [大橋 幸泰] 秋学期授業/Fall	455
[A3117]	日本近代史 [内藤 一成] 春学期授業/Spring	456
[A3118]	日本現代史 [劉 傑] 春学期授業/Spring	457
[A3119]	日本考古資料学Ⅰ [小倉 淳一] 春学期授業/Spring	458
[A3120]	日本考古資料学Ⅱ [小倉 淳一] 秋学期授業/Fall	459
[A3121]	日本古代史科学Ⅰ [春名 宏昭] 秋学期授業/Fall	460
[A3124]	日本近世史科学Ⅰ [清水 詩織] 春学期授業/Spring	461
[A3125]	日本近世史科学Ⅱ [清水 詩織] 秋学期授業/Fall	462
[A3126]	日本近代史科学 [内藤 一成] 秋学期授業/Fall	463
[A3127]	日本現代史科学 [劉 傑] 秋学期授業/Fall	464
[A3128]	日本考古学演習 [小倉 淳一] 年間授業/Yearly	465
[A3129]	日本古代史演習 [小口 雅史] 年間授業/Yearly	466
[A3130]	日本中世史演習 [大塚 紀弘] 年間授業/Yearly	467
[A3131]	日本近世史演習 [野本 禎司] 年間授業/Yearly	468
[A3134]	日本現代史演習 [柏木 一郎] 年間授業/Yearly	469
[A3135]	東洋古代史 [飯尾 秀幸] 春学期授業/Spring	470
[A3136]	東洋中世史 [塩沢 裕仁] 秋学期授業/Fall	471
[A3139]	東洋史外書講読Ⅰ [山元 貴尚] 春学期授業/Spring	472
[A3140]	東洋史外書講読Ⅱ [宇佐美 久美子] 秋学期授業/Fall	473
[A3143]	西洋古代史 [内田 康太] 春学期授業/Spring	474
[A3144]	西洋中世史 [内川 勇太] 春学期授業/Spring	475
[A3145]	西洋近代史 [中嶋 毅] 春学期授業/Spring	476
[A3146]	西洋現代史 [古川 高子] 秋学期授業/Fall	477
[A3147]	西洋史外書講読Ⅰ [内田 康太] 秋学期授業/Fall	478
[A3148]	西洋史外書講読Ⅱ [皆川 卓] 春学期授業/Spring	479

【A3149】西洋現代史演習〔大澤 広晃〕年間授業/Yearly	480
【A3150】西洋前近代史演習〔内田 康太〕年間授業/Yearly	481
【A3151】西洋近代史演習〔皆川 卓〕年間授業/Yearly	482
【A3152】考古学概論〔高橋 健〕春学期授業/Spring	483
【A3153】史学概論〔齋藤 勝〕春学期授業/Spring	484
【A3154】日本史特講Ⅰ〔大橋 幸泰〕春学期授業/Spring	485
【A3155】日本史特講Ⅱ〔大塚 紀弘〕春学期授業/Spring	487
【A3156】日本史特講Ⅲ〔稲田 奈津子〕秋学期授業/Fall	488
【A3157】日本史特講Ⅳ〔中山 学〕秋学期授業/Fall	489
【A3158】日本史特講Ⅴ〔清水 詩織〕秋学期授業/Fall	490
【A3159】日本史特講Ⅵ〔米崎 清実〕春学期授業/Spring	491
【A3160】日本史特講Ⅶ〔山田 康弘〕春学期授業/Spring	492
【A3162】東洋史特講Ⅰ〔飯尾 秀幸〕秋学期授業/Fall	494
【A3163】東洋史特講Ⅱ〔澁谷 由紀〕春学期授業/Spring	495
【A3164】東洋史特講Ⅲ〔芦沢 知絵〕秋学期授業/Fall	496
【A3165】東洋史特講Ⅳ〔塩沢 裕仁〕秋学期授業/Fall	497
【A3166】東洋史特講Ⅴ〔宇佐美 久美子〕春学期授業/Spring	498
【A3168】西洋史特講Ⅰ〔内田 康太〕秋学期授業/Fall	499
【A3169】西洋史特講Ⅱ〔伊丹 聡一郎〕秋学期授業/Fall	500
【A3170】西洋史特講Ⅲ〔辻 英史〕秋学期授業/Fall	501
【A3171】西洋史特講Ⅳ〔皆川 卓〕春学期授業/Spring	502
【A3172】西洋史特講Ⅴ〔皆川 卓〕秋学期授業/Fall	504
【A3173】西洋史特講Ⅵ〔遠藤 泰生〕春学期授業/Spring	506
【A3174】西洋史特講Ⅶ〔遠藤 泰生〕秋学期授業/Fall	508
【A3176】美術史（日本）A〔稲本 万里子〕春学期授業/Spring	510
【A3177】美術史（日本）B〔稲本 万里子〕秋学期授業/Fall	511
【A3201】日本史特講Ⅸ〔内藤 一成〕春学期授業/Spring	512
【A3202】日本史特講Ⅹ〔森田 貴子〕秋学期授業/Fall	513
【A3203】日本近代史演習〔内藤 一成〕年間授業/Yearly	514
【A3204】日本古代史科学Ⅱa〔山口 英男〕春学期授業/Spring	515
【A3206】日本古文書学Ⅰ〔大塚 紀弘〕春学期授業/Spring	517
【A3207】日本古文書学Ⅱ〔大塚 紀弘〕秋学期授業/Fall	518
【A3208】東洋近現代史〔芦沢 知絵〕春学期授業/Spring	519
【A3209】東洋考古・美術史〔塩沢 裕仁〕春学期授業/Spring	520
【A3210】東洋史物質資料演習〔塩沢 裕仁〕年間授業/Yearly	521
【A3211】東洋史文献史料演習〔齋藤 勝〕年間授業/Yearly	522
【A3214】東洋史序説〔山元 貴尚〕春学期授業/Spring	523
【A3215】西洋史序説〔阿部 衛〕春学期授業/Spring	524
【A3216】日本史特講Ⅺ〔小倉 慈司〕秋学期授業/Fall	525
【A3217】東洋史特講Ⅶ〔徳留 大輔〕春学期授業/Spring	526
【A3218】東洋史特講Ⅷ〔松本 隆志〕春学期授業/Spring	528
【A3219】西洋史特講Ⅸ〔吉岡 潤〕秋学期授業/Fall	529
【A3220】日本史特講ⅧA〔岡野 浩二〕春学期授業/Spring	530
【A3221】日本史特講ⅧB〔岡野 浩二〕秋学期授業/Fall	531
【A3222】東洋史特講ⅥA〔齋藤 勝〕春学期授業/Spring	532
【A3223】東洋史特講ⅥB〔齋藤 勝〕秋学期授業/Fall	533
【A3224】西洋史特講ⅧA〔大澤 広晃〕春学期授業/Spring	534
【A3225】西洋史特講ⅧB〔大澤 広晃〕秋学期授業/Fall	535
【A3226】日本史序説〔齋藤 智志〕春学期授業/Spring	536
【A3227】歴史特講〔柏木 一郎、塩沢 裕仁、内田 康太、皆川 卓、高井 康行〕秋学期授業/Fall	537
【A3228】基礎ゼミⅠ（文・史）〔小倉 淳一〕春学期授業/Spring	538
【A3229】基礎ゼミⅠ（文・史）〔齋藤 勝〕春学期授業/Spring	539
【A3230】基礎ゼミⅠ（文・史）〔大澤 広晃〕春学期授業/Spring	540
【A3231】基礎ゼミⅠ（文・史）〔大塚 紀弘〕春学期授業/Spring	541
【A3232】東洋史特講Ⅸ〔水上 香織〕春学期授業/Spring	542
【A3233】東洋史特講Ⅹ〔水上 香織〕秋学期授業/Fall	543
【A3234】東洋史特講Ⅺ〔長谷部 圭彦〕春学期授業/Spring	544

[A3235] 東洋史特講Ⅻ [長谷部 圭彦] 秋学期授業/Fall	545
[A3236] 西洋史外書講読Ⅲ [大澤 広晃] 秋学期授業/Fall	546
[A3237] 西洋史特講Ⅹ [渡辺 知] 春学期授業/Spring	547
[A3238] 西洋史特講Ⅺ [内川 勇海] 秋学期授業/Fall	548
[A3239] 西洋史特講Ⅻ [竹下 和亮] 春学期授業/Spring	549
[A3240] 西洋史特講ⅩⅢ [内川 勇太] 秋学期授業/Fall	550
[A3401] 地理学概論(1) [前杵 英明] 春学期授業/Spring	551
[A3402] 地理学概論(2) [伊藤 達也] 秋学期授業/Fall	552
[A3403] 地理実習(1) [前杵 英明] 秋学期授業/Fall	553
[A3404] 地理実習(1) [前杵 英明] 春学期授業/Spring	554
[A3405] 地理実習(2) [小原 丈明] 春学期授業/Spring	555
[A3406] 地理実習(2) [小原 丈明] 秋学期授業/Fall	556
[A3407] 現地研究 [地理学科専任教員] 年間授業/Yearly	557
[A3408] 地誌学概論(1) [小寺 浩二] 春学期授業/Spring	558
[A3412] 地球科学概論Ⅰ [穴倉 正展] 春学期授業/Spring	559
[A3413] 地球科学概論Ⅱ [穴倉 正展] 秋学期授業/Fall	560
[A3416] 地質・岩石学及び実験 [福與 直人] 秋学期授業/Fall	561
[A3417] 自然環境論 [福與 直人] 春学期授業/Spring	562
[A3418] 地形学及び実験Ⅰ [前杵 英明] 春学期授業/Spring	563
[A3419] 地形学及び実験Ⅱ [前杵 英明] 秋学期授業/Fall	564
[A3420] 生物・土壌地理学及び実験Ⅰ [小川 滋之] 春学期授業/Spring	565
[A3421] 生物・土壌地理学及び実験Ⅱ [小川 滋之] 秋学期授業/Fall	566
[A3422] 気候・気象学及び実験Ⅰ [山口 隆子] 春学期授業/Spring	567
[A3423] 気候・気象学及び実験Ⅱ [山口 隆子] 秋学期授業/Fall	568
[A3424] 海洋・陸水学及び実験Ⅰ [飯泉 佳子] 春学期授業/Spring	569
[A3425] 海洋・陸水学及び実験Ⅱ [飯泉 佳子] 秋学期授業/Fall	570
[A3443] 世界地誌(1) [倉光 ミナ子] 秋学期授業/Fall	571
[A3444] 世界地誌(2) [小原 丈明] 春学期授業/Spring	572
[A3445] 世界地誌(3) [小寺 浩二] 秋学期授業/Fall	573
[A3449] 地理学読図演習(1) [山口 隆子] 春学期授業/Spring	574
[A3450] 地理学読図演習(2) [福與 直人] 秋学期授業/Fall	575
[A3453] 自然地理学特講(3) [丸本 美紀] 春学期授業/Spring	576
[A3455] 人文地理学特講(1) [小田 宏信] 春学期授業/Spring	577
[A3457] 人文地理学特講(3) [松井 圭介] 秋学期授業/Fall	578
[A3459] 地図学Ⅰ [若林 芳樹] 春学期授業/Spring	579
[A3460] 地図学Ⅱ [福與 直人] 秋学期授業/Fall	580
[A3461] 測量学及び測量実習Ⅰ [菅 富美男] 秋学期授業/Fall	581
[A3462] 測量学及び測量実習Ⅱ [菅 富美男] 秋学期授業/Fall	582
[A3463] 写真判読Ⅰ [八木 浩司] 春学期授業/Spring	583
[A3464] 写真判読Ⅱ [郭 榮珠] 秋学期授業/Fall	584
[A3469] 外書講読(1) [小寺 浩二] 秋学期授業/Fall	585
[A3470] 外書講読(2) [村田 陽平] 秋学期授業/Fall	586
[A3471] 地理情報システム(GIS)Ⅰ [中山 大地] 春学期授業/Spring	587
[A3472] 地理情報システム(GIS)Ⅱ [中山 大地] 春学期授業/Spring	588
[A3482] 文化地理学(1) [吉野 裕] 春学期授業/Spring	589
[A3483] 文化地理学(2) [川添 航] 秋学期授業/Fall	590
[A3500] 自然地理学特講(1) [藁谷 哲也] 春学期授業/Spring	591
[A3510] 地学実験(1) (コンピュータ活用含む) [吉岡 美紀] 春学期授業/Spring	593
[A3511] 地学実験(2) (コンピュータ活用含む) [山口 隆子] 秋学期授業/Fall	594
[A3513] 地理学史 [杉山 和明] 秋学期授業/Fall	595
[A3514] 物理学概論Ⅰ [石川 壮一] 春学期授業/Spring	596
[A3515] 物理学概論Ⅱ [石川 壮一] 秋学期授業/Fall	597
[A3516] 化学概論Ⅰ [田中 雅人] 春学期授業/Spring	598
[A3517] 化学概論Ⅱ [田中 雅人] 秋学期授業/Fall	599
[A3518] 生物学概論Ⅰ [植木 紀子] 春学期授業/Spring	600
[A3519] 生物学概論Ⅱ [植木 紀子] 秋学期授業/Fall	601
[A3520] 物理学実験Ⅰ (コンピュータ活用含) [吉田 智] 春学期授業/Spring	602

【A3521】	物理学実験Ⅱ(コンピュータ活用含) [吉田 智] 秋学期授業/Fall.....	603
【A3522】	化学実験Ⅰ(コンピュータ活用含) [向井 知大] 春学期授業/Spring	604
【A3523】	化学実験Ⅱ(コンピュータ活用含) [向井 知大] 秋学期授業/Fall.....	605
【A3524】	生物学実験Ⅰ(コンピュータ活用含) [島野 智之] 春学期授業/Spring.....	606
【A3525】	生物学実験Ⅱ(コンピュータ活用含) [島野 智之] 秋学期授業/Fall	607
【A3527】	理科教育法(1) [狩野 真規] 春学期授業/Spring	608
【A3528】	理科教育法(2) [狩野 真規] 秋学期授業/Fall.....	609
【A3530】	理科教育法(3) [狩野 真規] 春学期授業/Spring	610
【A3531】	理科教育法(4) [狩野 真規] 秋学期授業/Fall.....	611
【A3601】	心理学概論 [福田 由紀] 春学期授業/Spring	612
【A3602】	心理学史 [矢口 幸康] 秋学期授業/Fall	613
【A3611】	心理学測定法Ⅰ [押尾 恵吾] 春学期授業/Spring	614
【A3612】	心理学測定法Ⅰ [押尾 恵吾] 春学期授業/Spring	615
【A3613】	心理学測定法Ⅱ [押尾 恵吾] 秋学期授業/Fall	616
【A3614】	心理学測定法Ⅱ [押尾 恵吾] 秋学期授業/Fall	617
【A3615】	心理検査法Ⅰ [宮田 昌明] 春学期授業/Spring	618
【A3616】	心理検査法Ⅰ [宮田 昌明] 春学期授業/Spring	619
【A3617】	心理検査法Ⅱ [宮田 昌明] 秋学期授業/Fall.....	620
【A3618】	心理検査法Ⅱ [宮田 昌明] 秋学期授業/Fall.....	621
【A3619】	脳の科学 [木村 健太] 秋学期授業/Fall	622
【A3620】	認知心理学 [竹島 康博] 秋学期授業/Fall.....	623
【A3621】	認知科学入門 [田嶋 圭一] 春学期授業/Spring	624
【A3622】	発達心理学 [渡辺 弥生] 春学期授業/Spring	625
【A3623】	教育心理学 [福田 由紀] 秋学期授業/Fall.....	626
【A3624】	学習心理学 [藤田 哲也] 春学期授業/Spring	627
【A3625】	社会心理学 [越智 啓太] 春学期授業/Spring	628
【A3626】	学校心理学 [原田 恵理子] 秋学期授業/Fall	629
【A3627】	演習Ⅰ (1) [木村 健太] 春学期授業/Spring	630
【A3628】	演習Ⅰ (2) [渡辺 弥生] 春学期授業/Spring	631
【A3629】	演習Ⅰ (3) [三浦 大志] 春学期授業/Spring	632
【A3630】	演習Ⅰ (4) [下山 晃司] 春学期授業/Spring	633
【A3631】	演習Ⅰ (5) [太田 碧] 春学期授業/Spring.....	634
【A3643】	研究法Ⅰ (1) [木村 健太] 春学期授業/Spring.....	635
【A3644】	研究法Ⅰ (2) [竹島 康博] 春学期授業/Spring.....	636
【A3645】	研究法Ⅰ (3) [渡辺 弥生] 春学期授業/Spring.....	637
【A3646】	研究法Ⅰ (4) [福田 由紀] 春学期授業/Spring.....	638
【A3647】	研究法Ⅰ (5) [田嶋 圭一] 春学期授業/Spring.....	639
【A3648】	研究法Ⅰ (6) [藤田 哲也] 春学期授業/Spring.....	640
【A3650】	研究法Ⅰ (8) [越智 啓太] 春学期授業/Spring.....	641
【A3651】	研究法Ⅱ (1) [木村 健太] 秋学期授業/Fall	643
【A3652】	研究法Ⅱ (2) [竹島 康博] 秋学期授業/Fall	644
【A3653】	研究法Ⅱ (3) [渡辺 弥生] 秋学期授業/Fall	645
【A3654】	研究法Ⅱ (4) [福田 由紀] 秋学期授業/Fall	646
【A3655】	研究法Ⅱ (5) [田嶋 圭一] 秋学期授業/Fall	647
【A3656】	研究法Ⅱ (6) [藤田 哲也] 秋学期授業/Fall	648
【A3658】	研究法Ⅱ (8) [越智 啓太] 秋学期授業/Fall	649
【A3659】	精神生理学特講 [木村 健太] 春学期授業/Spring.....	650
【A3660】	言語学特講Ⅰ [田嶋 圭一] 春学期授業/Spring	651
【A3661】	言語学特講Ⅱ [田嶋 圭一] 秋学期授業/Fall.....	652
【A3662】	認知科学特講 [田嶋 圭一] 秋学期授業/Fall	653
【A3663】	認知心理学特講 [竹島 康博] 春学期授業/Spring.....	654
【A3664】	スポーツ心理学特講 [荒井 弘和] 秋学期授業/Fall	655
【A3665】	生理心理学 [木村 健太] 春学期授業/Spring	656
【A3666】	生理心理学実習 [木村 健太] 秋学期授業/Fall	657
【A3667】	言語心理学 [福田 由紀] 春学期授業/Spring	658
【A3668】	感情心理学 [足立 にれか] 秋学期授業/Fall	659
【A3670】	行動分析学 [熊 仁美] 春学期授業/Spring.....	660

【A3671】 対人認知論 [太田 碧] 春学期授業/Spring	661
【A3672】 科学哲学Ⅰ [木島 泰三] 春学期授業/Spring	662
【A3673】 科学哲学Ⅱ [中釜 浩一] 秋学期授業/Fall	663
【A3674】 人工知能 [市瀬 龍太郎] 春学期授業/Spring	664
【A3675】 情報処理技法Ⅰ [山口 剛] 春学期授業/Spring	665
【A3676】 情報処理技法Ⅰ [山口 剛] 春学期授業/Spring	666
【A3677】 情報処理技法Ⅱ [山口 剛] 秋学期授業/Fall	667
【A3678】 情報処理技法Ⅱ [山口 剛] 秋学期授業/Fall	668
【A3680】 発達心理学特講 [渡辺 弥生] 秋学期授業/Fall	669
【A3682】 学習心理学特講 [藤田 哲也] 秋学期授業/Fall	670
【A3683】 発達臨床心理学Ⅰ [桜井 美加] 春学期授業/Spring	671
【A3684】 発達臨床心理学Ⅱ [桜井 美加] 秋学期授業/Fall	672
【A3687】 社会心理学特講 [渡辺 弥生、福田 由紀、田嶋 圭一、竹島 康博、木村 健太] 秋学期授業/Fall	673
【A3690】 臨床心理学 [杉山 崇] 秋学期授業/Fall	674
【A3691】 犯罪心理学 [越智 啓太] 秋学期授業/Fall	675
【A3701】 心理統計法Ⅰ [三浦 大志] 春学期授業/Spring	676
【A3702】 心理統計法Ⅱ [三浦 大志] 秋学期授業/Fall	677
【A3703】 心理統計法実習Ⅰ [伊藤 尚枝] 春学期授業/Spring	678
【A3704】 心理統計法実習Ⅰ [伊藤 尚枝] 春学期授業/Spring	679
【A3705】 心理統計法実習Ⅱ [伊藤 尚枝] 秋学期授業/Fall	680
【A3706】 心理統計法実習Ⅱ [伊藤 尚枝] 秋学期授業/Fall	681
【A3707】 心理学基礎実験Ⅰ [太田 碧] 春学期授業/Spring	682
【A3708】 心理学基礎実験Ⅰ [太田 碧] 春学期授業/Spring	683
【A3709】 心理学基礎実験Ⅱ [竹島 康博] 秋学期授業/Fall	684
【A3710】 心理学基礎実験Ⅱ [竹島 康博] 秋学期授業/Fall	685
【A3711】 演習Ⅱ (1) [太田 碧] 秋学期授業/Fall	686
【A3712】 演習Ⅱ (2) [押尾 恵吾] 秋学期授業/Fall	687
【A3713】 演習Ⅱ (3) [竹島 康博] 秋学期授業/Fall	688
【A3714】 演習Ⅱ (4) [藤田 哲也] 秋学期授業/Fall	689
【A3715】 演習Ⅱ (5) [田嶋 圭一] 秋学期授業/Fall	690
【A3716】 研究法Ⅰ (9) [荒井 弘和] 春学期授業/Spring	691
【A3717】 研究法Ⅰ (10) [林 容市] 春学期授業/Spring	692
【A3718】 研究法Ⅱ (9) [荒井 弘和] 秋学期授業/Fall	693
【A3719】 研究法Ⅱ (10) [林 容市] 秋学期授業/Fall	694
【A3720】 心理学英語Ⅰ [常深 浩平] 春学期授業/Spring	695
【A3722】 心理学特殊講義Ⅰ [木村 健太] 秋学期授業/Fall	696
【A3723】 言語心理学特講 [福田 由紀] 秋学期授業/Fall	697
【A3724】 人格心理学 [杉山 崇] 春学期授業/Spring	698
【A3725】 集団社会心理学 [越智 啓太] 秋学期授業/Fall	699
【A3726】 カウンセリング心理学 [下山 晃司] 秋学期授業/Fall	700
【A3727】 心理学特殊講義Ⅱ [財津 亘] 秋学期授業/Fall	701
【A3728】 心理学特殊講義Ⅲ [福田 由紀] 秋学期授業/Fall	703
【A3730】 心理学英語Ⅱ [常深 浩平] 秋学期授業/Fall	704
【A3738】 身体運動の心理と生理 [林 容市] 春学期授業/Spring	705
【A3739】 基礎ゼミⅠ (文・心理) [藤田 哲也] 春学期授業/Spring	706
【A3740】 基礎ゼミⅡ (文・心理) [藤田 哲也] 秋学期授業/Fall	708
【A3741】 基礎ゼミⅠ (文・心理) [藤田 哲也] 春学期授業/Spring	710
【A3742】 基礎ゼミⅡ (文・心理) [藤田 哲也] 秋学期授業/Fall	712
【A3803】 マス・メディア論 [君塚 洋一] 春学期授業/Spring	714
【A3805】 言語文化論Ⅰ [栗飯原 文子] 春学期授業/Spring	716
【A3806】 言語文化論Ⅱ [大野 ロベルト] 春学期授業/Spring	717
【A3809】 民俗学Ⅰ [室井 康成] 春学期授業/Spring	718
【A3810】 民俗学Ⅱ [室井 康成] 秋学期授業/Fall	719
【A3811】 イスラム世界論Ⅰ [松本 隆志] 春学期授業/Spring	720
【A3812】 イスラム世界論Ⅱ [松本 隆志] 秋学期授業/Fall	721
【A3813】 文学部生のキャリア形成 [渡辺 弥生、利根川 真紀、田中 雅人] 春学期授業/Spring	722
【A3814】 現代のコモンセンス [菅沢 龍文、皆川 卓、森 陽香] 秋学期授業/Fall	723

【A3819】 歴史地理学（１）[米家 志乃布] 春学期授業/Spring	724
【A3820】 歴史地理学（２）[米家 志乃布] 秋学期授業/Fall	725
【A3821】 医療福祉工学 [川瀬 利弘] 秋学期授業/Fall	726
【A3851】 文化史１（資格）[伊藤 直樹] 春学期授業/Spring	727
【A3852】 文化史２（資格）[伊藤 直樹] 秋学期授業/Fall	728
【A3853】 美術史（西洋）A（資格）[安藤 智子] 春学期授業/Spring	729
【A3854】 美術史（西洋）B（資格）[安藤 智子] 秋学期授業/Fall	730
【A3855】 考古学概論（資格）[高橋 健] 春学期授業/Spring	731
【A3856】 日本考古学（資格）[高橋 健] 秋学期授業/Fall	732
【A3857】 美術史（日本）A（資格）[稲本 万里子] 春学期授業/Spring	733
【A3858】 美術史（日本）B（資格）[稲本 万里子] 秋学期授業/Fall	734
【A3859】 民俗学Ⅰ（資格）[室井 康成] 春学期授業/Spring	735
【A3860】 民俗学Ⅱ（資格）[室井 康成] 秋学期授業/Fall	736
【A3861】 文化史１（資格）[安原 眞琴] 春学期授業/Spring	737
【A3862】 文化史２（資格）[山口 恭子] 秋学期授業/Fall	738
【A3901】 地誌学概論 [南 春英] 春学期授業/Spring	739
【A3902】 日本地誌 [阪上 弘彬] 春学期授業/Spring	740
【A3903】 地理情報システム（GIS）Ⅰ [中山 大地] 秋学期授業/Fall	741
【A3904】 地理情報システム（GIS）Ⅱ [中山 大地] 秋学期授業/Fall	742
【A3905】 社会経済地理学A（１）[小原 文明] 春学期授業/Spring	743
【A3906】 社会経済地理学A（２）[小原 文明] 秋学期授業/Fall	744
【A3907】 社会経済地理学B（１）[伊藤 達也] 春学期授業/Spring	745
【A3908】 社会経済地理学B（２）[伊藤 達也] 秋学期授業/Fall	746
【A3909】 社会経済地理学C（１）[佐々木 達] 春学期授業/Spring	747
【A3910】 社会経済地理学C（２）[佐々木 達] 秋学期授業/Fall	748
【A3911】 自然地理学演習A（Ⅰ）[山口 隆子] 春学期授業/Spring	749
【A3912】 自然地理学演習A（Ⅱ）[山口 隆子] 秋学期授業/Fall	750
【A3913】 自然地理学演習B（Ⅰ）[小川 滋之] 春学期授業/Spring	751
【A3914】 自然地理学演習B（Ⅱ）[小川 滋之] 秋学期授業/Fall	752
【A3915】 自然地理学演習C（Ⅰ）[前杵 英明] 春学期授業/Spring	753
【A3916】 自然地理学演習C（Ⅱ）[前杵 英明] 秋学期授業/Fall	754
【A3917】 人文地理学演習A（Ⅰ）[佐々木 達] 春学期授業/Spring	755
【A3918】 人文地理学演習A（Ⅱ）[佐々木 達] 秋学期授業/Fall	756
【A3919】 人文地理学演習B（Ⅰ）[増淵 敏之] 春学期授業/Spring	757
【A3920】 人文地理学演習B（Ⅱ）[増淵 敏之] 秋学期授業/Fall	758
【A3921】 人文地理学演習C（Ⅰ）[小原 文明] 春学期授業/Spring	759
【A3922】 人文地理学演習C（Ⅱ）[小原 文明] 秋学期授業/Fall	760
【A3923】 人文地理学演習D（Ⅰ）[伊藤 達也] 春学期授業/Spring	761
【A3924】 人文地理学演習D（Ⅱ）[伊藤 達也] 秋学期授業/Fall	762
【A3927】 基礎ゼミⅠ（文・地理）[伊藤 達也] 春学期授業/Spring	763
【A3928】 基礎ゼミⅠ（文・地理）[米家 志乃布] 春学期授業/Spring	764
【A3929】 基礎ゼミⅠ（文・地理）[山口 隆子] 春学期授業/Spring	765
【A3930】 基礎ゼミⅠ（文・地理）[福與 直人] 春学期授業/Spring	766
【A3931】 地理学研究法基礎（１）[前杵 英明、山口 隆子、小寺 浩二] 秋学期授業/Fall	767
【A3932】 地理学研究法基礎（２）[佐々木 達、米家 志乃布] 春学期授業/Spring	768
【A3933】 基礎統計学 [矢部 直人] 春学期授業/Spring	769
【A3934】 観光地理学 [呉羽 正昭] 春学期授業/Spring	770
【A3935】 政治地理学 [加賀美 雅弘] 春学期授業/Spring	771
【A3936】 人文地理学演習F（Ⅰ）[村田 陽平] 春学期授業/Spring	772
【A3937】 人文地理学演習F（Ⅱ）[村田 陽平] 秋学期授業/Fall	773
【A9017】 身体の測定と評価 [鈴木 康弘] 春学期授業/Spring	774
【Q6209】 人文地理学セミナーA [増淵 敏之] 春学期授業/Spring	775
【Q6210】 人文地理学セミナーB [増淵 敏之] 秋学期授業/Fall	777

PHL400BF (哲学 / Philosophy 400)

卒業論文 (哲学科)

哲学科専任教員

授業コード：A2000 | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

年間授業/Yearly・8単位 | 配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

各受講者に対して、卒業論文のテーマ設定、執筆準備、執筆、完成までの作業を指導する。

【到達目標】

各自で設定したテーマに関して、学位取得の水準に達する論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

卒業論文担当が決定してから、各学生の進捗状況に応じて【概要と目的】に記したことについて必要な指導を行なう。指導の方法は、対面もしくはZoom等を使った個別指導、文献紹介や卒論構想報告とそれに基づく指導、添削指導などによる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	論文の構成 論文の提出に関する諸注意の確認
第2回	補 足	テーマの設定 (どのような問題があるか) 研究メモについて
第3回	テーマの確認	テーマの確定に向けての議論
第4回	テーマの見直し	テーマの確定に向けての考察
第5回	テーマの再確認	テーマの確定に向けての資料収集と読解
第6回	テーマの確定 (暫定)	論文の構成模索、考察、資料収集と読解
第7回	テーマの確定	論文の構成確定、考察、議論
第8回	補 足	論文の構成と研究メモの整理、資料収集と読解
第9回	研究ノートの作成	資料収集と読解、考察 研究ノートの作成
第10回	補 足	研究ノートの完成 (随時、補正する) 資料収集と読解、考察、再考
第11回	本文執筆開始	論文の提出に関する諸注意の再確認 研究ノートをもとに、本文作成、随時研究メモも参照、確認
第12回	本文執筆継続	注のメモ作成 研究ノートをもとに、本文作成、随時研究メモも参照、確認
第13回	本文執筆さらなる継続	テーマと本文の議論にズレがないか確認 時間をかけて慎重に確認
第14回	本文再考 構成、行論	構成、行論の確認
第15回	本文再考 主張	主張の確認
第16回	本文再考 根拠資料	根拠資料の確認
第17回	本文執筆再開	構成に隙がないか再確認
第18回	本文執筆再開上の注意	主張に論理的過誤はないか
第19回	本文執筆再開上のチェック	根拠資料に誤読はないか
第20回	本文執筆 終了	本文全体の確認
第21回	注	注の作成 注の内容に過不足がないか
第22回	参考文献表	参考文献表の作成
第23回	読み直し 構成と行論	構成、行論の最終確認
第24回	読み直し 主張	主張の最終確認
第25回	読み直し 注、参考文献表	注、参考文献表の最終確認
第26回	読み直し 文章全体について	全体の確認、微調整
第27回	念 校	決定稿の確認
第28回	完 成	提出に関する注意最終確認、提出

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

論文完成に向けて、進捗段階に応じて資料調査やその内容の精査、論文構成の検討、執筆を行う。

【テキスト (教科書)】

教科書は用いない。

【参考書】

各学生のテーマに即して必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

論文作成の諸段階における研究状況を参考にしつつ、完成した論文 (内容と結論) を【到達目標】の基準に照らして評価する。

【学生の意見等からの気づき】

文献引用の仕方や注の書き方など、基本的な論文執筆ルールの指導を十分に行う。

【Outline (in English)】

(Course outline) The aim of this course is to guide each student in setting a topic, researching materials, and writing a thesis for graduation.

(Learning Objectives) The goal of this course is completion of each student's graduation thesis.

(Learning activities outside of classroom) Students will research materials, scrutinize their contents, and write the paper in order to complete the thesis.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to term-end examination (100%).

LIT400BF (文学 / Literature 400)

卒業論文 (日本文学科)

日本文学科専任教員

授業コード：A2000 | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

年間授業/Yearly・8単位 | 配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

卒業論文のテーマ設定、執筆準備、執筆、完成までの作業を指導する。

【到達目標】

学位取得の水準に達する論文の完成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

卒業論文担当が決定してから、定期的に【概要と目的】に記したことにについて必要な指導を行なう (3週間に1回程度)。指導の方法は基本的には大学内での対面による。事情によって Zoom による面談を行なう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	論文の構成
第2回	補 足	論文の提出に関する諸注意の確認 テーマの設定 (どのような問題があるか) 研究メモについて
第3回	テーマの確認	テーマの確定に向けての議論
第4回	テーマの見直し	テーマの確定に向けての考察
第5回	テーマの再確認	テーマの確定に向けての資料収集と読解
第6回	テーマの確定 (暫定)	論文の構成模索、考察、資料収集と読解
第7回	テーマの確定	論文の構成確定、考察、議論
第8回	補 足	論文の構成と研究メモの整理、資料収集と読解
第9回	研究ノートの作成	資料収集と読解、考察 研究ノートの作成
第10回	補 足	研究ノートの完成 (随時、補正する) 資料収集と読解、考察、再考
第11回	本文執筆開始	論文の提出に関する諸注意の再確認 研究ノートをもとに、本文作成、随時研究メモも参照、確認
第12回	本文執筆継続	注のメモ作成 研究ノートをもとに、本文作成、随時研究メモも参照、確認 テーマと本文の議論にズレがないか確認
第13回	本文執筆さらなる継続	テーマと本文の議論にズレがないか時間をかけて慎重に確認
第14回	本文再考 構成、行論	構成、行論の確認
第15回	本文再考 主張	主張の確認
第16回	本文再考 根拠資料	根拠資料の確認
第17回	本文執筆再開	構成に隙がないか再確認
第18回	本文執筆再開上の注意	主張に論理的過誤はないか
第19回	本文執筆再開上のチェック	根拠資料に誤読はないか
第20回	本文執筆 終了	本文全体の確認
第21回	注	注の作成 注の内容に過不足がないか
第22回	参考文献表	参考文献表の作成
第23回	読み直し 構成と行論	構成、行論の最終確認
第24回	読み直し 主張	主張の最終確認
第25回	読み直し 注、参考文献表	注、参考文献表の最終確認
第26回	読み直し 文章全体について	全体の確認、微調整
第27回	念 校	決定稿の確認
第28回	完 成	提出に関する注意最終確認、提出

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

論文完成に向けて勉強、資料調査に励む。

【テキスト (教科書)】

教科書は用いない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

論文作成の諸段階における研究状況を参考にしつつ、完成した論文 (内容と結論) を【到達目標】の基準に照らして評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今のところない。

【学生が準備すべき機器他】

ノートと筆記用具

【その他の重要事項】

提出締切に絶対に遅れないこと。

【Outline (in English)】

(Course outline) The aim of this course is to help students write a paper for taking a BA degree.

(Learning Objectives) The goal of this course is completion of a good paper of students.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to practice the course content.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to term-end examination(100%).

PSY400BF（心理学 / Psychology 400）

卒業論文（心理学科）

心理学科専任教員

授業コード：A2000 | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

年間授業/Yearly・8単位 | 配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学部心理学科では、卒業論文を必修としています。これまでに培った専門知識・思考力・文章力・実証力・批判力・判断力などすべてを傾注して作成する、4年間の学業の集大成です。

【到達目標】

学科の教育目標である、①実証的論理構成能力の養成、②批判的思考力の涵養を目指し、これらを充足させた卒業論文を作成することができる。また、専門領域の研究に深く分け入り、知的探求の成果を文章やデータで他者に伝える作業に徹底的に携わることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

3年次に提出する卒業論文指導希望調査票によって学科で決定した教員の指導のもとで論文を完成させます。卒業論文指導願の提出は4年生になってから行いますが、2年次からの演習などの授業に参加しながら卒業論文に対する意識を高め、自主的に専門書や論文を読み進めて、自分のテーマを探すことが大切です（卒業論文の登録は4年次に行いますが、1年間でできるものではありません）。1月の卒業論文提出後に、面接審査に代わる研究発表会を行います。一般の授業で言えば定期試験に相当するその発表会での質疑応答までが、「卒業論文」という科目の内容です。指導をきちんと受けることが大切ですが、レポートとは異なり、方法論も含めて主体的に選択し、執筆・作成することが求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	指導・成果報告 提出・面接	構想 1
2	指導・成果報告 提出・面接	構想 2
3	指導・成果報告 提出・面接	文献研究 1
4	指導・成果報告 提出・面接	文献研究 2
5	指導・成果報告 提出・面接	文献研究 3
6	指導・成果報告 提出・面接	文献研究 4
7	指導・成果報告 提出・面接	文献研究 5
8	指導・成果報告 提出・面接	文献のまとめ
9	指導・成果報告 提出・面接	問題点の抽出
10	指導・成果報告 提出・面接	実験計画の策定 1
11	指導・成果報告 提出・面接	実験計画の策定 2
12	指導・成果報告 提出・面接	実験計画の発表 1
13	指導・成果報告 提出・面接	実験計画の発表 2
14	指導・成果報告 提出・面接	実験計画の修正等
15	指導・成果報告 提出・面接	実験実施 1
16	指導・成果報告 提出・面接	実験実施 2
17	指導・成果報告 提出・面接	実験実施 3
18	指導・成果報告 提出・面接	実験実施 4
19	指導・成果報告 提出・面接	分析 1
20	指導・成果報告 提出・面接	分析 2

21	指導・成果報告 提出・面接	考察 1
22	指導・成果報告 提出・面接	考察 2
23	指導・成果報告 提出・面接	研究のまとめと議論
24	指導・成果報告 提出・面接	プレゼンテーション準備 1
25	指導・成果報告 提出・面接	プレゼンテーション準備 2
26	指導・成果報告 提出・面接	プレゼンテーション練習 1
27	指導・成果報告 提出・面接	プレゼンテーション練習 2
28	指導・成果報告 提出・面接	プレゼンテーション実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回指導教員の指示に従って課題を行う。課題には実験、分析、プレゼンテーション準備、卒業論文の執筆などが含まれる。

【テキスト（教科書）】

その都度、担当教員が指示する。

【参考書】

各自の卒業論文内容に従って、担当教員が個別に紹介する

【成績評価の方法と基準】

心理学科では、提出された論文と面接審査（発表会）の発表を以下の12項目について評価し、質疑に対する応答を総合的に勘案し、S、A+、A、A-、B+、B、B-、C+、C、C-、D、Eの判定を行ないます。
①タイトルの適切さ、②問題の適切さ、③研究方法の適切さ、④データ分析法の適切さ、⑤図表表現の完成度の高さ、⑥考察における文献の検討と問題との対応、⑦論文の独創性、⑧全体構成の論理性・明快さ、⑨文章表現の明快さ・分かりやすさ、段落構成の適切さ、⑩誤字・脱字、表現の不統一のなさ、⑪発表の明瞭さ・わかりやすさ、発表の工夫、⑫スライドの見やすさ・わかりやすさ。

【学生の意見等からの気づき】

毎年、公開での卒論発表を行い、活発な議論が行われる。学生の評価は概して高いので、従来通りの方法で継続して行っていく予定である。

【その他の重要事項】

・実験・調査・検査などを行なうにあたっては、法政大学文学部心理学科・心理学専攻倫理委員会が作成する「人を対象とした研究倫理ガイドライン」を遵守し、実施に先立ち同委員会に「研究計画申請書」を提出し承認を得なければなりません。また、卒論本文の「方法」には、研究倫理審査を受け、承認を得ている旨と、付与される承認番号を明記してください。
・一連の卒業論文関係の説明会や提出物などについては、『文学部履修の手引き』の「卒業論文」の当学科の記載をよく読むとともに、心理学実習室前の掲示や『法政心理ネット』の記載に注意してください。
・卒業論文の要旨は『法政心理学会年報』に掲載されます。
・研究のオリジナル性を満たすため、文献の引用は適切に行い、剽窃の疑いが生じることのないよう注意してください。
・法政大学文学部心理学科・心理学専攻倫理委員会への申請や卒業論文作成の詳細については、Web ページ『法政心理ネット』の「卒論・修論・博論」のページに記載されているので、注意深く読んでください。
・卒業論文の形式：原稿サイズはA4判。『法政心理ネット』で公開されている所定のひな形をダウンロードして使ってください。1ページあたりの字詰めは40字×30行=1,200字、文字サイズは11ポイントに設定されています。余白の設定もそのまま使ってください（上下 20mm、左 30mm、右 20mm）。本文（内表紙、目次、引用文献の後に付録として付ける資料を除く。ただし本文中に含めるべき図表は本文ページ内に含む）と引用文献一覧を合わせて、この書式で17 ページ目の最終行（30 行目）まで埋めるか超えることが必要条件です。
・「卒業論文要旨」の形式：原稿サイズはA4判。『法政心理ネット』で公開されている所定のひな形をダウンロードして使ってください。レイアウトは二段組み、文字サイズは9ポイントに設定されています。余白の設定もそのまま使ってください（上下 20mm、左 30mm、右 20mm）。氏名、クラス、学生証番号、指導教員名、キーワードを明記してください。この書式で図表や引用文献一覧などを含めて1ページに収めることが必要条件です。書式は「卒論要旨チェックリスト」で確認をしてください。
・心理学科全体としては、提出する卒論に、内表紙、目次、要旨を含めることを必須とはしませんが、指導教員から卒論に含めるよう指示があれば、その指示に従ってください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The Department of Psychology, Faculty of Letters requires a graduation thesis. It is the culmination of four years of academic work.

(Learning objectives)

The educational objectives of the department aim to cultivate (1) demonstrative logical construction abilities and (2) foster critical thinking skills, enabling students to create graduation theses that satisfy these criteria. Furthermore, students will be able to delve deeply into research within their specialized field and actively engage in the task of conveying the results of intellectual inquiries to others through written work and data.

(Learning activities outside of classroom)

Students will perform tasks according to the guidance of their supervisor. These tasks encompass activities such as experiments, analysis, preparation for presentations, and the writing of graduation theses.

(Grading criteria /Policy)

The Department of Psychology, Faculty of Letters evaluates the graduation thesis based on the following 12 criteria and the responses to questioning during the interview examination (presentation). The overall grading includes S, A+, A, A-, B+, B, B-, C+, C, C-, D, and E determinations.

- (1) Appropriateness of the title
- (2) Appropriateness of the research question
- (3) Appropriateness of the research methods
- (4) Appropriateness of the data analysis method
- (5) Completeness of figure and table representation
- (6) Examination of literature in the discussion and its correspondence to the research question
- (7) Originality of the paper
- (8) Logical and clear overall structure
- (9) Clarity and readability of writing expression, appropriateness of paragraph structure
- (10) Absence of typos, misspellings, and inconsistency in expression
- (11) Clarity and ingenuity of presentation
- (12) Ease of understanding of presentation slide

LIT400BF (文学 / Literature 400)

卒業論文 (英文学科)**英文学科専任教員**

授業コード：A2000 | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

年間授業/Yearly・8単位 | 配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

文学部英文学科では、卒業論文を必修としています。論文の分量としては、タイトルページと目次、そして謝辞がある場合はそれものぞいて、400字詰め原稿用紙に換算して35枚以上、英語の場合は5000語以上とします。これまでに培った専門知識・思考力・文章力・調査力・批判力・判断力などを傾注して作成される、4年間の学業の集大成です。

【到達目標】

学科の教育目標ののっとり、① 批判的思考能力の涵養、② 英語・日本語能力の養成を基準に置き、これらを充足させた卒業論文を作成することを目標とします。また、あわせて、専門領域の研究に深く分け入り、知的探求の成果を文章で他者に伝える営みに徹底的に携わることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

「卒業論文計画書」によって学科の決定した指導教員の指導のもとで、指定されたプロセスを踏みながら論文を完成させます。卒業論文ガイダンスは3年次の秋に行われますが、3年次の春から、「ゼミ」などの授業に参加しながら卒業論文について各自意識を高め、自主的に研究書や論文、また原典を読み進めて、自分のテーマを探ることが大切です（登録は4年次の科目ですが、1年間だけで完成できるものではありません）。英文学科全体では11月に「第一稿提出」をすることになっています（教員によっては10月締め切りもあります）。卒業論文提出後に、面接審査をおこないますが、この、一般の授業でいえば定期試験に相当する口頭試問までが、「卒業論文」という科目の内容です。指導は原則的に個別の指導教員による個人指導となります。指導をきちんと受けることが大切ですが、レポートとは異なり、テーマの設定や方法論も含めて主体的に選択し執筆・作成することが求められます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1～28回	成果報告	研究→報告→執筆→指導→推敲 →提出→面接審査

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自、テーマや方法を主体的に選び、研究や執筆を自発的に進めていくことが必須となります。

【テキスト (教科書)】

各自

【参考書】

各自

【成績評価の方法と基準】

以下の評価項目および面接審査の内容を総合的に勘案し、成績の判定をおこないます。

- ① 論文研究の目的が明瞭で、先行研究を踏まえた独創性を含むか。
- ② 論理の展開が、飛躍や不整合がなく、明快であるか。
- ③ 十分な調査がなされ、根拠・論証や分析が示されているか。
- ④ 文章が明晰で、誤字脱字がなく、指定された書式で書かれているか。
- ⑤ 指導教員の指導をきちんと受け、まじめに取り組んだか。

【学生の意見等からの気づき】

執筆の過程で、専門知識だけでなく、社会人として今後も必要とされるタイムマネジメントの力や文章力も身についたという声が多かったです。

【その他の重要事項】

- ・3年次秋の卒業論文ガイダンスに始まる一連の卒業論文関係の行事や提出物などについては、『文学部履修の手引き』の「卒業論文の個別手続きについて」の当学科の記載をよく読むとともに、掲示に注意すること。
- ・卒論「第一稿提出」手続きを経ること。
- ・「卒業論文計画書」「卒業論文指導願」を所定の期日までに提出しないと卒業論文の提出が認められなくなるので注意すること。
- ・卒業論文ガイダンスの際に配布される「英文学科卒業論文作成・提出上の注意事項」をよく読み、作成のルールに従うこと。とくに剽窃 (plagiarism) についてはくれぐれも留意すること。
- ・優秀論文が英文学科 Links の雑誌『Smile』に掲載される。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students write their graduation thesis, which is the culmination of their undergraduate studies.

(Learning objectives)

At the end of this course, students are expected to complete their graduation thesis.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to work on their graduation thesis.

(Grading criteria /Policy)

Grading will be decided based on the following:

1. Thesis and originality
2. Organization and logic
3. Research and support
4. Sentence craft and style
5. Commitment

HIS400BF（史学 / History 400）

卒業論文（史学科）

史学科専任教員

授業コード：A2000 | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

年間授業/Yearly・8単位 | 配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文のテーマ設定、執筆準備、執筆、完成までの作業を指導する。

【到達目標】

学位取得の水準に達する論文の完成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

卒業論文担当が決定してから、定期的に【概要と目的】に記したことにについて必要な指導を行なう（3週間に1回程度）。指導の方法は基本的には大学内での対面による。事情によって Zoom による面談を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	論文の構成
第2回	補 足	論文の提出に関する諸注意の確認 テーマの設定（どのような問題があるか） 研究メモについて
第3回	テーマの確認	テーマの確定に向けての議論
第4回	テーマの見直し	テーマの確定に向けての考察
第5回	テーマの再確認	テーマの確定に向けての資料収集と読解
第6回	テーマの確定（暫定）	論文の構成模索、考察、資料収集と読解
第7回	テーマの確定	論文の構成確定、考察、議論
第8回	補 足	論文の構成と研究メモの整理、資料収集と読解
第9回	研究ノートの作成	資料収集と読解、考察 研究ノートの作成
第10回	補 足	研究ノートの完成（随時、補正する） 資料収集と読解、考察、再考
第11回	本文執筆開始	論文の提出に関する諸注意の再確認 研究ノートをもとに、本文作成、随時研究メモも参照、確認 注のメモ作成
第12回	本文執筆継続	研究ノートをもとに、本文作成、随時研究メモも参照、確認 テーマと本文の議論にズレがないか確認
第13回	本文執筆さらなる継続	テーマと本文の議論にズレがないか時間をかけて慎重に確認
第14回	本文再考 構成、行論	構成、行論の確認
第15回	本文再考 主張	主張の確認
第16回	本文再考 根拠資料	根拠資料の確認
第17回	本文執筆再開	構成に隙がないか再確認
第18回	本文執筆再開上の注意	主張に論理的過誤はないか
第19回	本文執筆再開上のチェック	根拠資料に誤読はないか
第20回	本文執筆 終了	本文全体の確認
第21回	注	注の作成 注の内容に過不足がないか
第22回	参考文献表	参考文献表の作成
第23回	読み直し 構成と行論	構成、行論の最終確認
第24回	読み直し 主張	主張の最終確認
第25回	読み直し 注、参考文献表	注、参考文献表の最終確認
第26回	読み直し 文章全体について	全体の確認、微調整
第27回	念 校	決定稿の確認
第28回	完 成	提出に関する注意最終確認、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文完成に向けて勉強、資料調査に励む。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

論文作成の諸段階における研究状況を参考にしつつ、完成した論文（内容と結論）を【到達目標】の基準に照らして評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

ノートと筆記用具

【その他の重要事項】

提出締切に絶対に遅れないこと。

【Outline (in English)】

(Course outline) The aim of this course is to help students write a paper for taking a BA degree.

(Learning Objectives) The goal of this course is completion of a good paper of students.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to practice the course content.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to term-end examination(100%).

GEO400BF（地理学 / Geography 400）

卒業論文（地理学科）

地理学科専任教員

授業コード：A2000 | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

年間授業/Yearly・8単位 | 配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文のテーマ設定、執筆準備、執筆、完成までの作業を指導する。

【到達目標】

学位取得の水準に達する論文の完成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

卒業論文担当が決定してから、定期的に【概要と目的】に記したことについて必要な指導を行なう（3週間に1回程度）。指導の方法は基本的には大学内での対面による。事情によって Zoom による面談を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	論文の構成
第2回	補 足	論文の提出に関する諸注意の確認 テーマの設定（どのような問題があるか） 研究メモについて
第3回	テーマの確認	テーマの確定に向けての議論
第4回	テーマの見直し	テーマの確定に向けての考察
第5回	テーマの再確認	テーマの確定に向けての資料収集と読解
第6回	テーマの確定（暫定）	論文の構成模索、考察、資料収集と読解
第7回	テーマの確定	論文の構成確定、考察、議論
第8回	補 足	論文の構成と研究メモの整理、資料収集と読解
第9回	研究ノートの作成	資料収集と読解、考察 研究ノートの作成
第10回	補 足	研究ノートの完成（随時、補正する） 資料収集と読解、考察、再考
第11回	本文執筆開始	論文の提出に関する諸注意の再確認 研究ノートをもとに、本文作成、随時研究メモも参照、確認 注のメモ作成
第12回	本文執筆継続	研究ノートをもとに、本文作成、随時研究メモも参照、確認 テーマと本文の議論にズレがないか確認
第13回	本文執筆さらなる継続	テーマと本文の議論にズレがないか時間をかけて慎重に確認
第14回	本文再考 構成、行論	構成、行論の確認
第15回	本文再考 主張	主張の確認
第16回	本文再考 根拠資料	根拠資料の確認
第17回	本文執筆再開	構成に隙がないか再確認
第18回	本文執筆再開上の注意	主張に論理的過誤はないか
第19回	本文執筆再開上のチェック	根拠資料に誤読はないか
第20回	本文執筆 終了	本文全体の確認
第21回	注	注の作成 注の内容に過不足がないか
第22回	参考文献表	参考文献表の作成
第23回	読み直し 構成と行論	構成、行論の最終確認
第24回	読み直し 主張	主張の最終確認
第25回	読み直し 注、参考文献表	注、参考文献表の最終確認
第26回	読み直し 文章全体について	全体の確認、微調整
第27回	念 校	決定稿の確認
第28回	完 成	提出に関する注意最終確認、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文完成に向けて勉強、資料調査に励む。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

作成された卒業論文の評価で100%とし、その上で、卒業論文の内容の評価は【到達目標】の基準に照らして評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今のところない。

【学生が準備すべき機器他】

ノートと筆記用具

【その他の重要事項】

提出締切に絶対に遅れないこと。

【Outline (in English)】

(Course outline) The aim of this course is to help students write a paper for taking a BA degree.

(Learning Objectives) The goal of this course is completion of a good paper of students.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to practice the course content.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to term-end examination(100%).

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

基礎演習 1

[2年A組]

佐藤 真人

授業コード：A2206 | 曜日・時限：月4/Mon.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デカルト『省察』の精読を通し、①西洋近世哲学の幕開けを告げるデカルト形而上学がいかにして樹立されたか、②その狙いは何であったか、③その革新性と伝統性はどこにあるのか、といった点について考察するのがこの授業の目的です。

『省察』は西洋哲学史上の不朽の名著であり、何度読んでも汲み尽くせない味わいと新たな発見をもたらしてくれる西洋哲学の精華ですが、読解には多少のコツが必要です。虚心坦懐に読解することが必要な点では他の著述と同様ですが、『省察』ではデカルトの「推論の連鎖と結合」を追いつつ、「感覚と先入見から精神を引き離し」、デカルトと「共に真剣に省察」することが必要です。つまり『省察』の探究をいかに皆さん自身のこととして読めるか、そしてデカルトの思索の道を自身のものとして歩むことができるかが『省察』読解の鍵です。

【到達目標】

- ① デカルト哲学の革新性と伝統性を正確に理解する。
- ② 関連文献を読みながら自身で問いと答えを探し、また他者との議論を通じて理解と考察を深める。
- ③ 論拠に基づく議論を組み立て、自身の言葉で論理的に表現できる。
- ④ 剽窃等の研究活動上の不適切な行為について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、教員が前回課題の解説・コメントを通して、講読箇所の概説を行います。授業後半では、発表担当班が予め作成したレジュメに基づいて発表をし、それについての質疑応答を受講者全員で行います。

具体的な手順は以下の通り。

- ①発表担当班によるレジュメ作成と発表
- ②全体での質疑応答を通じた考察の深化
- ③毎回の講読内容について各自で考察した小レポート（リアクション・ペーパー）を提出。

これらを通じ、哲学への学問的な取り組み方と実践（文献の読解、問題設定、議論の組み立て）の訓練を重ねます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入部	授業の概要や今後の進め方、研究倫理、グループ分け等
第2回	『省察』以前のデカルト哲学	若きデカルトの達成と課題、『省察』の狙いについて
第3回	「第一省察」	「方法的懐疑」とは何か。発表と議論
第4回	「第二省察」①	「私」とは何か。発表と議論
第5回	「第二省察」②	「蜜蠟の分析」。発表と議論
第6回	「第三省察」①	観念とは何か。発表と議論
第7回	「第三省察」②	神の実在証明Ⅰ。発表と議論
第8回	「第三省察」③	神の実在証明Ⅱ。発表と議論
第9回	「第四省察」①	誤謬の起源について。発表と議論
第10回	「第四省察」②	意志の自由について。発表と議論

第11回	「第五省察」	神の実在証明Ⅲ。発表と議論
第12回	「第六省察」①	物体の実在について。発表と議論
第13回	「第六省察」②	心身合一についてⅠ。発表と議論
第14回	「第六省察」③	心身合一についてⅡ。発表と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う箇所を丁寧に読み、理解した内容や疑問などを各自でまとめること。この作業はグループ発表時のレジュメ作成や、個人での小レポートの作成に役立ちます。

発表担当のグループは、各メンバーが内容を調べ、話し合いながら、発表用のレジュメを作成してください。

本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

デカルト『省察・情念論』、中公クラシックス、2002年。

【参考書】

デカルト哲学の参考書は数多くありますが、①まずは参考書に頼らず、『省察』を丁寧に読み取ること。そのうえで、②テーマに関連する参考書を各自で探すこと（以下のみ掲げておきます）。

野田又男『デカルト』（岩波新書）

所雄章『人類の知的遺産〈32〉デカルト』（講談社）

— 『デカルト』全二巻（勁草書房）

デカルト研究会（編）『現代デカルト論集』全三巻（勁草書房）

ネット上の哲学辞典としては「スタンフォード哲学百科事典」がお勧め。

<https://plato.stanford.edu/index.html>

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回の課題や参加姿勢など）35%、発表15%、期末レポート50%の割合とし、到達目標の達成度合いに応じて成績評価します。欠席4回で「不可」なので注意してください（事情がある場合は要相談）。

【到達目標】欄の事項の達成度合いが評価基準になります。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく丁寧にわかりやすい説明と、皆さんの自主的な読解と考察を促す授業を心がけます。

【その他の重要事項】

・進捗状況に応じて、関連する他の著述を読む可能性もあり、授業の順序や内容は多少変わる場合もあります。

・パソコン・携帯電話等は使用禁止。必ず手でノートを取ってください。

・体調不良等の事情がある場合を除き、授業途中の入退室は認めませんので、充分注意してください。

【Outline (in English)】

Through a close reading of Descartes's *Meditations*, the purpose of this course is to examine (1) how Descartes's metaphysics, which marks the dawn of early modern Western philosophy, was established, (2) what its aims were, and (3) where its innovation and tradition lie.

The *Meditations* is undoubtedly an immortal and sublime work in the history of Western philosophy which, no matter how many times you read it, will always bring you new discoveries and an inexhaustible profundity, but it does require some skill to read and understand. Like the writings of other philosophers, it is necessary to understand Descartes' writings with an open mind and not be bound by one's own views, but in *Meditations* it is necessary to understand Descartes' "chain of reasoning and combination", to "withdraw the mind from all sensations and preconceptions" and to "meditate seriously together" with Descartes. In other words, the key to reading *Meditations* is to read it in the first person, not as Descartes, but as yourself, and to walk Descartes' path of speculation as your own.

Students are expected by the end of the course 1) to understand precisely contents of the Cartesian metaphysics in comparison with Scholastic philosophy, 2) to find their own questions in it, search for answers and deepen their understanding and consideration through discussions with others, 3) to construct their arguments logically through readings and discussions, and 4) to explain them clearly in their own words.

Before each class meeting, students are to read carefully the relevant text of the next class and to summarize what the text is arguing for. Group or individual in charge of presentation of the day is to prepare a resume to be distributed. Required study time is two hours each before and after the class.

Grade will be decided on the following proportion. In-class contribution: 35%, Presentation: 15%, Term-end report: 50%.

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

基礎演習 1

[2年B組]

内山 真莉子

授業コード：A2207 | 曜日・時限：月4/Mon.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アウグスティヌスの『告白』とアリストテレス『自然学』の「記憶」と「時間」に関する議論を読み解きながら、大学の哲学科での研究において必須となる技法である「哲学的テキストの読解」・「発表用のレジュメの作成」・「議論の作法」・「レポート作成」の習得を目指す。これは翌年からのゼミでの学習に向けた基盤づくりを目的とするものである。

【到達目標】

- ・哲学的な文章を根気強く読み解き、一定の理解を得ることができる。
- ・自分なりの問題意識を抱き、それを論理的に構成し他者へ示すことができる。
- ・他者との議論の中で、自他相互に問題意識を深めることができる。
- ・参考文献を活用しながら、哲学に関するレポートを論理的に作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

〈発表・議論〉

- ・全受講者にテキストの担当箇所を割り当て、その箇所について担当者はレジュメを作成し、発表する。
- ・発表内容を元に、受講者全員で質疑応答・議論を行う。
- ・授業内での発表や議論の内容に関するリアクションペーパーを提出する。

〈フィードバックに関して〉

議論の際には適宜、教員がフィードバックを行う。またリアクションペーパーは、授業時に匿名でいくつか紹介し、授業内容の理解を深めることに用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の概要と今後の進め方について
第2回	アリストテレスとアウグスティヌス	テキストの概要および思想的立ち位置について
第3回	『告白』第10巻①	第1章～5章
第4回	『告白』第10巻②	第6章～8章
第5回	『告白』第10巻③	第9章～14章
第6回	『告白』第10巻④	第15章～19章
第7回	『告白』第10巻⑤	第20章～26章
第8回	『告白』第11巻①	第1章～5章
第9回	『告白』第11巻②	第6章～13章
第10回	『告白』第11巻③	第14章～18章
第11回	『告白』第11巻④	第19章～26章
第12回	『告白』第11巻⑤	第27章～31章
第13回	『自然学』第4巻①	第10章～11章
第14回	『自然学』第4巻②	第13章～14章

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に各授業回の該当箇所を熟読し、疑問点をまとめておく。
各授業回の担当者は、該当箇所を熟読した上でレジュメを作成する。
本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

アウグスティヌス『告白』山田晶訳、中央公論新社、2014年。
『アリストテレス全集4』『自然学』内山勝利訳、岩波書店、2017年。
※授業内での使用箇所についてコピーを配布する予定。

【参考書】

まずは参考書などを参照せず、アウグスティヌスとアリストテレスの思想を丁寧に読み解くことに集中する。その上で、各章ごとの哲学テーマに関する参考書を自身で見つけ出していく力を養成することが、この基礎演習の目的の一つである。

【成績評価の方法と基準】

テキスト内容についての理解と、自分なりの疑問点をもつことができているか、論理的に考察することができるか、他者の意見を尊重しつつ自身の考察を深めることができるか、といった観点から、以下の3項目にて評価する。

- ①発表担当時の発表内容：30%
- ②質疑応答・議論への参加、リアクションペーパーの記入：30%
- ③期末レポート：40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In their exploration of the concepts of "memory" and "time" in Augustine's "Confessions" and Aristotle's "Physics," students aim to acquire essential research skills needed in university philosophy departments. These skills include "reading philosophical texts," "creating presentation resumes," "practicing argumentative etiquette," and "report writing." This foundational knowledge is intended to prepare students for more advanced learning in seminars in the following year.

【Learning Objectives】

This course aims to help students become familiar with philosophical concepts, develop logical thinking skills, engage in useful discussions, and learn the basics of writing a philosophy report.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, it is expected that students will have read the pertinent chapter from the textbook. After reading it carefully, the individual in charge will create a summary of the chapter. To prepare a report, you should review materials and resumes on a topic that interests you. You are required to dedicate at least four hours to studying for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 40%, Contents of presentation as person in charge: 30%, in-class contribution: 30%

PHL200BB（哲学 / Philosophy 200）

基礎演習 2

[2年A組]

内山 真莉子

授業コード：A2209 | 曜日・時限：月4/Mon.4
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アウグスティヌスの『告白』とアリストテレス『自然学』の「記憶」と「時間」に関する議論を読み解きながら、大学の哲学科での研究において必須となる技法である「哲学的テキストの読解」・「発表用のレジュメの作成」・「議論の作法」・「レポート作成」の習得を目指す。これは翌年からのゼミでの学習に向けた基盤づくりを目的とするものである。

【到達目標】

- ・哲学的な文章を根気強く読み解き、一定の理解を得ることができる。
- ・自分なりの問題意識を抱き、それを論理的に構成し他者へ示すことができる。
- ・他者との議論の中で、自他相互に問題意識を深めることができる。
- ・参考文献を活用しながら、哲学に関するレポートを論理的に作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

〈発表・議論〉

- ・全受講者にテキストの担当箇所を割り当て、その箇所について担当者はレジュメを作成し、発表する。
- ・発表内容を元に、受講者全員で質疑応答・議論を行う。
- ・授業内での発表や議論の内容に関するリアクションペーパーを提出する。

〈フィードバックに関して〉

議論の際には適宜、教員がフィードバックを行う。またリアクションペーパーは、授業時に匿名でいくつか紹介し、授業内容の理解を深めることに用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の概要と今後の進め方について
第2回	アリストテレスとアウグスティヌス	テキストの概要および思想的立ち位置について
第3回	『告白』第10巻①	第1章～5章
第4回	『告白』第10巻②	第6章～8章
第5回	『告白』第10巻③	第9章～14章
第6回	『告白』第10巻④	第15章～19章
第7回	『告白』第10巻⑤	第20章～26章
第8回	『告白』第11巻①	第1章～5章
第9回	『告白』第11巻②	第6章～13章
第10回	『告白』第11巻③	第14章～18章
第11回	『告白』第11巻④	第19章～26章
第12回	『告白』第11巻⑤	第27章～31章
第13回	『自然学』第4巻①	第10章～11章
第14回	『自然学』第4巻②	第13章～14章

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に各授業回の該当箇所を熟読し、疑問点をまとめておく。
各授業回の担当者は、該当箇所を熟読した上でレジュメを作成する。
本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

アウグスティヌス『告白』山田晶訳、中央公論新社、2014年。
『アリストテレス全集4』『自然学』内山勝利訳、岩波書店、2017年。
※授業内での使用箇所についてコピーを配布する予定。

【参考書】

まずは参考書などを参照せず、アウグスティヌスとアリストテレスの思想を丁寧に読み解くことに集中する。その上で、各章ごとの哲学テーマに関する参考書を自身で見つけ出していく力を養成することが、この基礎演習の目的の一つである。

【成績評価の方法と基準】

テキスト内容についての理解と、自分なりの疑問点をもつことができているか、論理的に考察することができるか、他者の意見を尊重しつつ自身の考察を深めることができるか、といった観点から、以下の3項目にて評価する。

- ①発表担当時の発表内容：30%
- ②質疑応答・議論への参加、リアクションペーパーの記入：30%
- ③期末レポート：40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In their exploration of the concepts of "memory" and "time" in Augustine's "Confessions" and Aristotle's "Physics," students aim to acquire essential research skills needed in university philosophy departments. These skills include "reading philosophical texts," "creating presentation resumes," "practicing argumentative etiquette," and "report writing." This foundational knowledge is intended to prepare students for more advanced learning in seminars in the following year.

【Learning Objectives】

This course aims to help students become familiar with philosophical concepts, develop logical thinking skills, engage in useful discussions, and learn the basics of writing a philosophy report.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, it is expected that students will have read the pertinent chapter from the textbook. After reading it carefully, the individual in charge will create a summary of the chapter. To prepare a report, you should review materials and resumes on a topic that interests you. You are required to dedicate at least four hours to studying for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 40%, Contents of presentation as person in charge: 30%, in-class contribution: 30%

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

基礎演習 2

[2年B組]

佐藤 真人

授業コード：A2210 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デカルト『省察』の精読を通し、①西洋近世哲学の幕開けを告げるデカルト形而上学がいかにして樹立されたか、②その狙いは何であったか、③その革新性と伝統性はどこにあるのか、といった点について考察するのがこの授業の目的です。

『省察』は西洋哲学史上の不朽の名著であり、何度読んでも汲み尽くせない味わいと新たな発見をもたらしてくれる西洋哲学の精華ですが、読解には多少のコツが必要です。虚心坦懐に読解することが必要な点では他の著述と同様ですが、『省察』ではデカルトの「推論の連鎖と結合」を追いつつ、「感覚と先入見から精神を引き離し」、デカルトと「共に真剣に省察」することが必要です。つまり『省察』の探究をいかに皆さん自身のこととして読めるか、そしてデカルトの思索の道を自身のものとして歩むことができるかが『省察』読解の鍵です。

【到達目標】

- ① デカルト哲学の革新性と伝統性を正確に理解する。
- ② 関連文献を読みながら自身で問いと答えを探し、また他者との議論を通じて理解と考察を深める。
- ③ 論拠に基づく議論を組み立て、自身の言葉で論理的に表現できる。
- ④ 剽窃等の研究活動上の不適切な行為について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、教員が前回課題の解説・コメントを通して、講読箇所の概説を行います。授業後半では、発表担当班が予め作成したレジュメに基づいて発表をし、それについての質疑応答を受講者全員で行います。

具体的な手順は以下の通り。

- ①発表担当班によるレジュメ作成と発表
- ②全体での質疑応答を通じた考察の深化
- ③毎回の講読内容について各自で考察した小レポート（リアクション・ペーパー）を提出。

これらを通じ、哲学への学問的な取り組み方と実践（文献の読解、問題設定、議論の組み立て）の訓練を重ねます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入部	授業の概要や今後の進め方、研究倫理、グループ分け等
第2回	『省察』以前のデカルト哲学	若きデカルトの達成と課題、『省察』の狙いについて
第3回	「第一省察」	「方法的懐疑」とは何か。発表と議論
第4回	「第二省察」①	「私」とは何か。発表と議論
第5回	「第二省察」②	「蜜蠟の分析」。発表と議論
第6回	「第三省察」①	観念とは何か。発表と議論
第7回	「第三省察」②	神の実在証明Ⅰ。発表と議論
第8回	「第三省察」③	神の実在証明Ⅱ。発表と議論
第9回	「第四省察」①	誤謬の起源について。発表と議論
第10回	「第四省察」②	意志の自由について。発表と議論

第11回	「第五省察」	神の実在証明Ⅲ。発表と議論
第12回	「第六省察」①	物体の実在について。発表と議論
第13回	「第六省察」②	心身合一についてⅠ。発表と議論
第14回	「第六省察」③	心身合一についてⅡ。発表と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う箇所を丁寧に読み、理解した内容や疑問などを各自でまとめること。この作業はグループ発表時のレジュメ作成や、個人での小レポートの作成に役立ちます。

発表担当のグループは、各メンバーが内容を調べ、話し合いながら、発表用のレジュメを作成してください。

本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

デカルト『省察・情念論』、中公クラシックス、2002年。

【参考書】

デカルト哲学の参考書は数多くありますが、①まずは参考書に頼らず、『省察』を丁寧に読み取ること。そのうえで、②テーマに関連する参考書を各自で探すこと（以下のみ掲げておきます）。

野田又男『デカルト』（岩波新書）

所雄章『人類の知的遺産（32）デカルト』（講談社）

— 『デカルト』全二巻（勁草書房）

デカルト研究会（編）『現代デカルト論集』全三巻（勁草書房）

ネット上の哲学辞典としては「スタンフォード哲学百科事典」がお勧め。

<https://plato.stanford.edu/index.html>

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回の課題や参加姿勢など）35%、発表15%、期末レポート50%の割合とし、到達目標の達成度合いに応じて成績評価します。欠席4回で「不可」なので注意してください（事情がある場合は要相談）。

【到達目標】欄の事項の達成度合いが評価基準になります。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく丁寧にわかりやすい説明と、皆さんの自主的な読解と考察を促す授業を心がけます。

【その他の重要事項】

・進捗状況に応じて、関連する他の著述を読む可能性もあり、授業の順序や内容は多少変わる場合もあります。

・パソコン・携帯電話等は使用禁止。必ず手でノートを取ってください。

・体調不良等の事情がある場合を除き、授業途中の入退室は認めませんので、充分注意してください。

【Outline (in English)】

Through a close reading of Descartes's *Meditations*, the purpose of this course is to examine (1) how Descartes's metaphysics, which marks the dawn of early modern Western philosophy, was established, (2) what its aims were, and (3) where its innovation and tradition lie.

The *Meditations* is undoubtedly an immortal and sublime work in the history of Western philosophy which, no matter how many times you read it, will always bring you new discoveries and an inexhaustible profundity, but it does require some skill to read and understand. Like the writings of other philosophers, it is necessary to understand Descartes' writings with an open mind and not be bound by one's own views, but in *Meditations* it is necessary to understand Descartes' "chain of reasoning and combination", to "withdraw the mind from all sensations and preconceptions" and to "meditate seriously together" with Descartes. In other words, the key to reading *Meditations* is to read it in the first person, not as Descartes, but as yourself, and to walk Descartes' path of speculation as your own.

Students are expected by the end of the course 1) to understand precisely contents of the Cartesian metaphysics in comparison with Scholastic philosophy, 2) to find their own questions in it, search for answers and deepen their understanding and consideration through discussions with others, 3) to construct their arguments logically through readings and discussions, and 4) to explain them clearly in their own words.

Before each class meeting, students are to read carefully the relevant text of the next class and to summarize what the text is arguing for. Group or individual in charge of presentation of the day is to prepare a resume to be distributed. Required study time is two hours each before and after the class.

Grade will be decided on the following proportion. In-class contribution: 35%, Presentation: 15%, Term-end report: 50%.

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講 (1) - 1

奥田 和夫

授業コード：A2212 | 曜日・時限：火4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ソクラテスについて III

2021、2022 年度の 2 回にわたり、この特殊講義において「ソクラテスについて」と題する講義をおこなった。それらの講義の中で、当然のことであるが、とりわけプラトンとクセノポンに注目し、そのソクラテス像を受講者に紹介しながら、歴史上に実在したソクラテスが現実にはどのような人物であったのか、手探りで考えてみた。

上の 2 回の特殊講義にておぼろげながら感じられたことが 2 点ある。それらは次のようなことである。

1. ソクラテスを若者に接する人物としてみた場合、クセノポンのソクラテスはプラトンのソクラテスと大きく相違するとは見えないこと (この点は欧米の研究者たちの意見にも幅がある)、つまり、教育者としてのソクラテスは当時の人々の中にあって、ある特徴的な型を有する個性的な人物であったのではないかと想像がふくらむ。
2. その「ある型」としてクセノポンのソクラテスから気づかされることは、ソクラテスはまず克己節制の人であり、また自身でも克己節制の重要性を強く自覚していたらしいことである。この特徴は、プラトンのソクラテス (=『パイドン』始めの箇所での快苦の考察を長く行なってきたことを示唆する登場人物ソクラテス、『国家』の「魂の機能の三区分」説における節制の特別な役割を語る登場人物ソクラテス) にも反映されているのではないかとさえ思われる。

今年度のこの授業は上の 2 回の講義の続編である。講義概要と目的にも変更はない。自分の読解を頼りに、もう少し前にすすんでみたい。

【到達目標】

関連テキストの慎重な読解と分析にもとづき、新たに、ソクラテスの人物と哲学に関する解釈上の正当な論点をさぐる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、その授業の概要と資料を提示し、講義形式ですすめる。質問は口頭でもリアクションペーパーでも受けつける。後者の場合、回答は次回の授業の冒頭にて前回の授業の復習を行なう際にのべる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ソクラテスを考えるときの資料とその性格
第2回	クセノポンとソクラテス	2021,2022 年度授業のまとめ クセノポンの人物とソクラテスを知る条件と制限
第3回	クセノポンのソクラテス 1	『ソクラテスの思い出』から 1
第4回	クセノポンのソクラテス 2	『ソクラテスの思い出』から 2
第5回	クセノポンのソクラテス 3	『ソクラテスの思い出』から 3
第6回	クセノポンのソクラテス 4	クセノポン『ソクラテスの弁明』から
第7回	クセノポンのソクラテス 5	クセノポン『饗宴』から
第8回	プラトンのソクラテス 1	初期作品から 1

第9回	プラトンのソクラテス 2	初期作品から 2
第10回	プラトンのソクラテス 3	中期作品から
第11回	プラトンのソクラテス 4	プラトン作品に登場するソクラテス像 (変化と全体像)
第12回	プラトンのソクラテスとクセノポンのソクラテス 1	両者の相違点と近似点
第13回	プラトンのソクラテスとクセノポンのソクラテス 2	彼らはソクラテスに何を見ていたのか
第14回	ソクラテスの人物と哲学 まとめ	ソクラテスはどのような人物であつたと考えられるのか

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義で紹介する著作、関連する著作を読む。本授業の準備・復習時間は、4 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教科書はない。講義内容と講義で使用する資料からともに考えてもらう。

【参考書】

田中美知太郎『ソクラテス』(岩波新書) その他は講義で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

「到達目標」に記した内容の到達度に照らして、① 数回の小レポート (40%) ② 期末レポートの内容 (60%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

なし。

【Outline (in English)】

(Course outline) In 2021,2022, we read Aristophanes, Xenophon, Plato and Aristotle, and challenged the Socratic Problem anew. This year we renew the subject and read mainly the texts of Xenophon and Plato to grasp Socrates' personality and thoughts.

(Learning Objectives) The goals of this course are careful reading of texts, and understanding of the way Socrates thinks and estimation of his personality and thoughts.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to the following process, term-end examination(60%), and short reports(40%).

PHL300BB（哲学 / Philosophy 300）

哲学特講（1）－2

山下 真

授業コード：A2213 | 曜日・時限：水4/Wed.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義のテーマは、「ハイデガーとアレント：〈共に在ること〉と〈複数性〉の哲学」です。

20世紀ドイツの哲学者、マルティン・ハイデガーの著『存在と時間』（1927年）は、今日に至るまで現代哲学に甚大な影響を与えています。この書物の目的は、「存在とは何か？」という究極の問いの解明を通じて、西洋哲学の伝統を根本的に克服することでした。そのためにハイデガーは、人間存在の鋭利な構造分析を展開。〈死〉の不安にさらされた有限な主体が、他の誰とも異なる自らの〈単独性〉へと立ち返り、自己自身の〈本来性〉に目覚める過程を提示しました。他者へと埋没する人間に警鐘を鳴らし、〈個〉の在り方を問うこの議論は、優れた実存思想です。しかしそれは後に、ハイデガーのナチス加担を背景として、「決断主義」や「他者の不在」といった批判を招くことにもなりました。

一方、ハイデガーのもとで学んだ弟子、ハンナ・アレントは、ユダヤ人迫害のためにドイツを追われ、最終的にアメリカへ亡命。無国籍難民となって世界を流浪した体験から、独自の政治哲学を確立しました。彼女の思想は、他者を圧殺する〈全体主義〉誕生の歴史的経緯の反省により、あるべき政治の回復を目指すものです。とりわけ『人間の条件』（1958年）では、人間存在の根源的な〈複数性 Plurality〉に基づき、多様な人格が〈個〉として現れ得る空間、コミュニケーション的な〈公共性〉の論理が探究されています。

授業では、ハイデガーとアレントの哲学を説明し、両者の思想的関係や対立点を検討します。ハイデガーが語った〈共に在ること／共存在 Mitsein〉の概念は、何を意図し、どこに限界があったのか。アレントは、ハイデガーから何を受け継ぎ、それを〈複数性〉の概念によってどう乗り越えようとしたのか。受講者は、こうした問題の考察を通して、人間存在の共同性に対する哲学的理解を深めることになるでしょう。

【到達目標】

受講者が達成すべき目標は、以下の三点です。

- ① ハイデガーとアレント、それぞれの哲学の問題設定や基本概念について学ぶ。
- ② 両者の哲学を比較し、その影響関係を踏まえ、問題点や対立点を具体的に理解する。
- ③ 現代に生きる自分たちにとって、人間の〈共同性〉や〈複数性〉の思考が持つ意義を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、配布資料を使って講義形式で進めます。毎回、テーマとなる哲学者の中心課題や基本概念を解説し、問題となっている事柄を捉えています。受講者には、出席票を兼ねたリアクションペーパーで、感想や意見、質問を提出してもらいます。そのうち重要なものについては、次の回の授業でいくつか取り上げ、応答することとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義の概要と導入	ハイデガー、アレントの思想と生涯
第2回	ハイデガー（1）	〈存在の問い〉の基本構想と現存在分析
第3回	ハイデガー（2）	〈世界内存在〉と実存の開示性
第4回	ハイデガー（3）	道具連関、および他者との〈共存在〉
第5回	ハイデガー（4）	日常性における頹落、〈ひと〉
第6回	ハイデガー（5）	〈死への先駆〉から自己の本来性へ
第7回	ハイデガー（6）	本来的共存在と〈民族〉の概念
第8回	アレント（1）	全体主義と複数性の破壊
第9回	アレント（2）	〈公的領域〉と〈私的領域〉
第10回	アレント（3）	〈活動的生〉の諸相：〈労働〉と〈仕事〉
第11回	アレント（4）	〈活動的生〉の諸相：〈行為／活動〉と言論
第12回	アレント（5）	哲学的理性と政治的判断力
第13回	アレント（6）	アイヒマン裁判、〈悪の凡庸さ〉と〈無思考性〉
第14回	講義全体の総括	複数性の哲学の今日的意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、配布資料や指定した参考文献を読解し、予習・復習を実施して参加すること（大学の基準では、本授業の準備・復習時間は、毎回4時間以上が標準とされています）。

各回の連続性が高いので、欠席が多いと内容を理解できなくなります。学んだ事柄を自主的に整理した上で、極力休まず参加してください。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

多岐に渡るので、各回の授業内で配布資料に掲載して紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席状況およびリアクションペーパーでの理解度や意見・質問の積極性、受講態度などの平常点（50％）と、筆記による論述形式の期末テスト（50％）で、上記「到達目標」三点の達成度を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

各人の経験に引きつけて思考できるよう、常に具体的な事例を織り交ぜた説明を心がけています。また、背景となる哲学史的な知識や、様々な術語の原語に含まれるニュアンスなど、詳しく話しています。配布資料では哲学者のテキストを多く引用し、原典の言葉から問題を理解できるような手法をとります。リアクションペーパーへの応答は参考になるとの声が多いので、各回時間を取って対応しています。

【Outline (in English)】

[Course outline]

The theme of this lecture is “Heidegger and Arendt: Philosophy of With-being and Plurality”. Martin Heidegger's ontology in “Being and Time (Sein und Zeit)” presented a structural analysis of finite and individual human existence and its authenticity (Eigentlichkeit). However, later, his philosophy was criticized for lack of otherness. This is because his concept of “With-being (Mitsein)”, which aims to ground human community, has limitations. On the other hand, Hannah Arendt, who studied under Heidegger, proposed her own political philosophy based on the “plurality” of human existence. Arendt thought the realm in which individual personalities communicate through speech and action by her central concept of “publicness” or “space of appearance”. In this lecture, we will consider the relationships and conflicts between the philosophies of Heidegger and Arendt. The student will obtain basic knowledge about human plurality as philosophical issue by this lecture.

[Learning Objectives]

The goals of this course are

- (1) to learn basic knowledge about the outline and concepts of the philosophies of Heidegger and Arendt.
- (2) to understand contemporary problems and meanings of the thought of plurality.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to have read the teaching materials and reference books. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

[Grading Criteria]

Grading will be decided based on usual performance score (50%), and term-end examination (50%).

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講 (3) - 1

佐藤 真人

授業コード：A2216 | 曜日・時限：木3/Thu.3
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

デカルトの「考える私」によって近世哲学は華々しく幕を開けたと喧伝されてきた一方で、その解釈史は批判 (カント、フッサール、ハイデガー) と誤解の歴史でもありました。「私」の問題は古代ギリシアやとりわけアウグスティヌスにおいて既に見られるものの、デカルトの「私」にはたしかにそれらとは一線を画す内容が含まれています。

デカルトの「私」の革新性と哲学的意義はいかなる点にあり、後の哲学者たちは、デカルトの「私」の何を批判 (ないし誤解、あるいは自身の哲学のための「踏み台」に) してその超克をもくろんだのか。そもそも、「私」とは何ものなのか。

こういった問いを検討するため、「私」の理論が含む問題点とその可能性について、パスカルの「憎むべき私」を皮切りに、デカルトと諸哲学者の議論を対比したうえで考察することが本講義の目的です。

【到達目標】

- ① 「私」の概念形成史を精確に理解する。
- ② 「私」とは何であるかについて、特にデカルトを中心とした哲学者たちの解釈と思想を精確に理解する。
- ③ 理解・学習・考察した内容を基に文献を調べて問題を探究し、論理的な議論を構築できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

対面の講義形式で、配布テキストとスライド資料 (またはレジュメ) を用いつつ説明するので、必ず事前にテキストを読むこと。授業後に出席票を兼ねたリアクション・ペーパー (小レポート) を毎回提出してもらい、その幾つかを次回授業で共有してコメントします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	パスカルと憎むべき「私」	なぜ「私」は憎まれねばならないのか
第2回	「汝自身を知れ」	古代ギリシアの「私」論と「主体」について
第3回	友を求める「私」	アリストテレスとキケローの友情論について
第4回	「私」の中には何があるのか	アウグスティヌスの懐疑・記憶・愛について
第5回	「私」とは何か	デカルトの「考える私」について
第6回	「この私」	デカルトによる心身の実在的区別と「私」の意識について
第7回	「個別的な自然としての私」	心身の実体的結合による「私」の悲しみと喜びについて
第8回	「私」の失敗	スピノザ『知性改善論』はなぜ未完なのか
第9回	「私」と「自己」	ロックにおける知性、内省、意識について
第10回	多くを語る「私」	ライプニッツによる困難な「私」と世界の調和について
第11回	「私」には何が可能か	ドイツ観念論における「自我」について

第12回	「私」とは誰か	フッサールによる現象学的還元とハイデガーによる「私」の形而上学の終焉について
第13回	新たな哲学を切り拓く「私」	マリオンによる「私」の飽和について
第14回	「私」を超える「私」	再びデカルトへ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配布されたテキストを丁寧に読み、理解した内容や疑問などを各自でまとめるようにしてください。

内容のまとめと、疑問・質問を明らかにしたうえで授業に臨めば理解がいつそう深まり、そこからさらなる疑問が生じることで、もっと知りたいという思考の流れの好循環が生まれます。本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Hoppil上またはコピーで配布予定。

とりわけ、アウグスティヌス『告白』、パスカル『パンセ』、デカルト『省察』、スピノザ『知性改善論』、ライプニッツ『形而上学叙説』『モナドロジー』、フッサール『イデー』、ハイデガー『存在と時間』を中心に考察予定 (購入は任意ですが、いずれも持っておいて損はありません)。

【参考書】

G・ロディス・レヴィス『デカルトの著作と体系』、紀伊国屋書店、1990年

野田又夫『デカルト』、岩波新書、1966年

小林道夫『デカルト哲学の体系』、勁草書房、1995年

福居純『デカルト研究』、創文社、1997年

上野修『スピノザの世界』、講談社現代新書、2005年

— 『デカルト、ホッブズ、スピノザ』、講談社学術文庫、2011年

— 『哲学者たちのワンダーランド』、講談社、2013年

— 『スピノザ考』、青土社、2024年

その他は授業で適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (リアクション・ペーパーの内容や参加姿勢) 約40%、期末試験 (またはレポート) 約60%の割合で、到達目標の達成度合いに応じて成績評価します。

なお、欠席4回で不可としますので注意してください (事情がある場合は要相談)。

【到達目標】欄の事項の達成度合いが評価基準になります。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく丁寧でわかりやすい説明と、皆さんの自主的な思考を促す授業を心がけます。

【その他の重要事項】

・進捗状況に応じて、関連する他の著述を読む可能性もあり、授業の順序や内容は多少変わる場合もあります。

・パソコン・携帯電話等は使用禁止。必ず手でノートを取ってください。

・体調不良等の事情がある場合を除き、授業途中の入退室は認めませんので、充分注意してください。

【Outline (in English)】

While Descartes's 'ego cogito' has been touted as the dawn of the European early modern philosophy, its interpretative history has also been a history of criticism (Kant, Husserl, Heidegger) and misunderstanding. Although the question of the 'ego' (myself or self) can already be found in ancient Greece and especially in Augustine, Descartes' self certainly contains something that sets it apart from them.

What is the innovative nature of Descartes' self, how was it formulated, and what philosophical significance does it have? And what did later philosophers criticize (or misunderstand, or use as a 'springboard' for their own philosophy) Descartes' self and attempt to transcend it?

In order to examine these questions, the aim of this lecture is to consider the problems and possibilities involved in the theory of the self, starting with Pascal's 'hateful self' and contrasting the arguments of Descartes and various philosophers.

Students are expected by the end of the course (1) to understand precisely the history of the formation of the concept of self.

(2) to accurately understand the interpretations and ideas of philosophers, especially Descartes, on what the self is.

(3) to be able to research the issue by examining the literature based on what has been understood, studied and discussed, and to construct logical arguments.

Before each class meeting, students are to read carefully the relevant text of the next class and summarize what the text is arguing for. The group or individual in charge of the presentation of the day is to prepare a resume to be distributed. Required study time is two hours each before and after the class.

The grade will be decided on the following proportion. In-class contribution: 40%, Term-end examination or report: 60%.

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講 (3) - 2

古屋 俊彦

授業コード：A2217 | 曜日・時限：火5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソシュールの『一般言語学講義』を詳しく読み、現代思想の理解に不可欠な言語の本質についての考察を学ぶ。ソシュール自身が書いた草稿も合わせて読む。

構造主義と構造主義以後の現代思想を理解するためにはソシュールの『一般言語学講義』における考察を正確に知っていなければならない。今は古典となっているこのような本の丁寧な読解は常に必要だが、特にソシュールの『一般言語学講義』は本質的かつ具体的な言語の考察が際立っていて今でも特異性を失わないので読む価値がある。更に構造主義思想の具体的な展開を知るためにデュルケムとモースとレヴィ=ストロースの著書を参照する。

【到達目標】

ソシュールの『一般言語学講義』に書かれている、言語の本質に関する考え方や基本的な概念とその言い換えなどを理解する。予備知識として十九世紀から二十世紀の言語学の歴史を把握し、『一般言語学講義』の考察を、その中で位置づけて理解する。更に、『一般言語学講義』の考察を、現代思想、その中でも特に構造主義と構造主義以後の思想への影響の中で理解する。以上の理解を前提として、課題となる小論文の中で、『一般言語学講義』にならって言語に関する原理的な考察を自分なりに試みる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、ソシュールの『一般言語学講義』の講読を講義形式で進める。受講者は、事前に本を読み、疑問点や問題点を授業中あるいはウェブサイトで提示する。受講生は、毎回、受講報告として、授業を受けて考えたことを文章で書いて提出する。教員は疑問点や問題点を検討して次の回到返答する。受講報告についても同様に次の回到詳しく返答する。要約や詳述などの資料は独自に作成したウェブサイトを使用して講義と同時に開示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業概要	授業の説明、自己紹介
第2回	まえおき その1	『一般言語学講義』の成立事情、基本概念、同時代の思想との関連
第3回	まえおき その2	言語学者としてのソシュールの経歴、影響関係、比較言語学、音韻論、ソシュール以後の言語学との関係
第4回	まえおき その3	デュルケム、モース、レヴィ=ストロースなどの構造主義思想の展開
第5回	前年度までの内容 その1	序論
第6回	前年度までの内容 その2	第1部 一般原理
第7回	前年度までの内容 その3	第2部 共時言語学
第8回	前年度までの内容 その4	第3部 通時言語学
第9回	前年度までの内容 その5	第3部と第4部への付録
第10回	前年度までの内容 その6	第4部 言語地理学
第11回	第4部 言語地理学	第1章から第2章 第3章 地理的多様性の原因 第4章 言語的な波の伝搬
第12回	第5部 回顧的言語学の諸問題	2つの観点 第2章 最古の言語と原型 第3章 再建
第13回	第5部 回顧的言語学の諸問題	第4章 人類学と先史学での言語の証拠 第5章 語族と言語類型
第14回	ソシュール自身の草稿	一般言語学講義メモなど

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ソシュールの『一般言語学講義』の指定箇所をあらかじめ読み、疑問点、問題点を書き出しておく。授業と並行して、小論文の課題を進める。小論文は、できるだけ早く提出を始めて、書き直しながら再提出を繰り返す。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『一般言語学講義』 フェルディナン・ド・ソシュール、町田健訳、研究社、3500円

【参考書】

フェルディナン・ド・ソシュール『一般言語学』著作集、岩波書店

エミール・デュルケム『社会学的方法の規準』、岩波文庫

マルセル・モース『贈与論』、岩波文庫

それ以外は、授業の中で、必要に応じて紹介していく

【成績評価の方法と基準】

小論文60%

『一般言語学講義』の理解に基づいて言語に関する原理的な考察を継続的に文章の中で仕上げていく過程を特に評価の対象とする。基本的な概念の理解は重要だが考察を積み重ねていく努力を特に重視する。

平常点40%

毎回提出する受講報告から授業への取り組みの度合いを評価する

【学生の意見等からの気づき】

要約の資料だけでなく解説的な補足資料を用意する

【Outline (in English)】

(Course outline)

Reading of the 'Course in the General Linguistics' by Ferdinand de Saussure in Japanese translation. We learn about the essence of the language itself for understanding of the contemporary philosophy.

(Learning Objectives)

Understanding the fundamental concept concerning essence of language in the 'Course in the General Linguistics' by Ferdinand de Saussure, and as a background knowledge, the history of linguistics of 19 and 20 century, and the influences to the contemporary thinking especially the structuralism. On the assumption of that, the continuous exercise is writing and polishing of the essay on the own thinking about the language.

(Learning activities outside of classroom)

Reading of the concerned text in advance of each lecture, and extracting the phrases that is obscure. At the same time, try to write and polish of the essay continuously.

(Grading Criteria /Policies)

writing and polishing of the essay concerning language: 60%

short reports to each lecture: 40%

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講（４）－１

菅沢 龍文

授業コード：A2218 | 曜日・時限：火3/Tue.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カント『人倫の形而上学』の内容についてテキストに沿って順次学び、道徳にかんするカントの洞察について考えます。そして、毎回のテーマの内容について考えることにより、全体としては、法と倫理とについてのカント独特の考え方の理解を深め、道徳的に生きるとはどういうことかを考えます。

【到達目標】

- (1) 法と倫理との相補的な関係について、考察を深めて表現できる。
- (2) 法の義務と倫理（徳）の義務について、考察を深めて表現できる。
- (3) 法的正しさ、倫理的善さの観点から、物事について考察を深めて表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- (1) 授業の初めに、前回は提出された作文について、フィードバックされます。
- (2) プロジェクターおよびプリント（PDF）と板書を用いて説明し、質問を受け付けます。
- (3) 毎回、授業で考えたことにかんして作文をして授業支援システム（Hoppii）に提出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	(1)オリエンテーション (2)テキストへの導入	(1)本授業について (2)「人倫の形而上学」について
第2回	『法論の形而上学的原理』①	「法論」について
第3回	『法論の形而上学的原理』②	「私法」について
第4回	『法論の形而上学的原理』③	「公法」について
第5回	『徳論の形而上学的原理』①	「徳論」について ー同時に義務でもある目的ー
第6回	『徳論の形而上学的原理』②	「法論」と「徳論」の区別について
第7回	『徳論の形而上学的原理』③	「徳の義務」について
第8回	『徳論の形而上学的原理』④	自分自身に対する義務について（自殺の禁止、他）
第9回	『徳論の形而上学的原理』⑤	自分自身に対する義務について（良心、他）
第10回	『徳論の形而上学的原理』⑥	他者に対する「徳の義務」について（愛）
第11回	『徳論の形而上学的原理』⑦	他者に対する徳の義務について（尊敬）
第12回	『徳論の形而上学的原理』⑧	人間の状態にかんする人間相互の倫理的義務 ー友情および社交ー
第13回	『徳論の形而上学的原理』⑨	倫理学の教授法、修行法 ーおよび道徳と宗教ー
第14回	全体を振り返っての考察	法と倫理にかんして、全体を振り返ってレポートする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
(予習) 授業で取り上げる内容について、テキスト等を参照して考えておく。
(復習) 授業で考えたことにかんして作文して学習支援システム（Hoppii）に提出する。

【テキスト（教科書）】

- (1) カント『人倫の形而上学 第一部 法論の形而上学的原理』熊野純彦訳、岩波文庫、2024年
- (2) カント『人倫の形而上学 第二部 徳論の形而上学的原理』宮村悠介訳、岩波文庫、2024年

【参考書】

- ・カント『人倫の形而上学』（カント全集：岩波版・第11巻、理想社版・第十一巻）
- ・カント『道徳形而上学の基礎づけ』大橋容一郎訳、岩波文庫（最新訳）
（本書には他にも沢山の邦訳書がある。1～2章は授業に関係が深い。）
- ・高峯一愚『カント講義』（論創社）

（「第三章 道徳の問題」の箇所が関係が深い。）
※その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

【成績評価基準】

- (1) 授業への出席および参加姿勢と、毎回提出の作文への取り組み
- (2) セメスター末（第14回）の期末レポート
- (1)を7割、(2)を3割として、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

口頭での説明の際に、発音を明瞭にし、ゆっくり分かりやすく話すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の作文を作成して提出するために学習支援システム（Hoppii）を用いるので、インターネットに接続可能なパソコン（推奨）または、タブレットやスマホが必要となります。

【Outline (in English)】

Course outline:

We will study the content of Kant's *Metaphysics of Morals* in sequence with the text and consider Kant's insights into morality. By considering the content of each topic, we will deepen our understanding of Kant's unique ideas about law and ethics and what it means to live morally as a whole.

Learning Objectives:

- (1) Can reflect on and express the complementary relationship between law and ethics.
- (2) Can reflect on and express the duties of law and ethics (virtue).
- (3) Can reflect on and express things from the perspective of legal rightness and ethical goodness.

Learning activities outside of classroom:

The standard preparation and revision time for this class is 2 hours each.

(Preparation) Students should think about the topics to be discussed in class, using the textbooks and other sources.

(Review) Write an essay on the topics discussed in class and submit it to the learning support system (Hoppii).

Grading Criteria /Policy :

- (1) Attendance and participation in class and commitment to the essay submitted each time.
- (2) Final report at the end of the semester (14th session).
- (1) 70% and (2) 30% of the overall grade.

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

Term-end report: 70%, in class contribution: 30%.

哲学特講 (4) - 2

近堂 秀

授業コード：A2219 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

イマヌエル・カントの哲学思想の現代的意義を分析哲学との関係に注目して検討する。

【到達目標】

学問としての哲学の特徴を理解し、哲学を通じて時代状況について主体的に考察する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

カントの主要著作を読み、関連文献を参照しながら、カントと現代の哲学思想の関係を考察する。授業は講義形式で進め、課題の提出とフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学を学ぶとは	時代状況と哲学
第2回	カントの哲学思想(1)	カント哲学の概要
第3回	カントの哲学思想(2)	カントの理論哲学
第4回	カントの哲学思想(3)	カントの実践哲学
第5回	『純粋理性批判』を読む(1)	超越論的感性論と超越論的論理学
第6回	『純粋理性批判』を読む(2)	超越論的分析論と超越論的弁証論
第7回	『純粋理性批判』を読む(3)	純粋悟性概念の形而上学的演繹
第8回	『純粋理性批判』を読む(4)	純粋悟性概念の超越論的演繹
第9回	『純粋理性批判』を読む(5)	『純粋理性批判』の自己意識論
第10回	カントと現代の哲学思想	カントと現象学、分析哲学、プラグマティズム
第11回	カントと分析哲学(1)	カントとウイトゲンシュタイン
第12回	カントと分析哲学(2)	カントと超越論的論証
第13回	カントと分析哲学(3)	カントと心の哲学
第14回	カントの哲学思想の現代的意義	『純粋理性批判』の言語分析哲学的解釈

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内で参照を指示した資料文献を分析し、関連文献を調査する。準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

授業内で指示する。

【参考書】

牧野英二編『新・カント読本』, 法政大学出版局, 2018年。
 近堂秀『『純粋理性批判』の言語分析哲学的解釈——カントにおける知の非還元主義』, 晃洋書房, 2018年。
 トム・ロックモア『カントの航跡のなかで——二十世紀の哲学』, 牧野英二監訳, 法政大学出版局, 2008年。

【成績評価の方法と基準】

学問としての哲学の特徴を理解し、哲学の著作を読む力は出席率と授業の内容理解度によって、哲学を通じて時代状況について主体的に考察する力は学期末レポートによって、それぞれ30%と70%の割合で評価する。

※定期試験は実施しない

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容と理解度とのバランスを調整する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the philosophical problems of Kant and analytic philosophy.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the fundamental problems of Kant's philosophy and modern philosophy.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講 (5) - 1

長谷川 徹

授業コード：A2220 | 曜日・時限：金3/Fri.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年度：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ：やまとことばから考える日本精神史
漢語 (真名) を導入する以前から用いられてきた「やまとことば」には、その語の来歴や原義に、日本人の心の規範となる思想の観念が色濃く込められており、時代を経ながらさらに多義化・広義化しつつ深められてきた。そうした「やまとことば」がもつ精神風土の豊かなふくらみ・広がりを「日本人の心の古層」として掘り起こし、あらためて確認・検討することによって、日本人が「どう生きてきたか」を跡づけ、たしかな理解へとつなげていく。もって、日本語で哲学するということを実践する。

【到達目標】

- ・「やまとことば」に備わっている日本の思想について理解を深め、かつその思想理解をみずからの内で咀嚼し、自分の言葉で語り直すことが出来る。
- ・日本の古代から近代へといたるまでの様々なテキストを読み解くことが出来る。
- ・テキストに含まれている論点を自身で見出すことが出来る。
- ・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として文章化し表現出来る。
- ・講義で得た知識を通じて、参考文献を探して読み、自身の思考内容を深めることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

※すべての回において対面式で実施する予定。

- (1) 講義形式を基本とする。
 - (2) 毎回の講義時に、講義担当教員が資料・レジュメを作成・配布し、そのレジュメをもとにして講義を進めていく。
- <課題に対するフィードバックの方法>
毎回、代表的な意見を採り上げて講評する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと本講義における問題の概容	「日本人の心の古層」としての「やまとことば」とは何か
2	日本人と哲学	・日本における思想の営み ・日本語で哲学すること ・文献案内
3	「日本的自然」の諸相	・日本語の「おのずから」と「みずから」
4	無心とおのずから	・三木清『哲学入門』 ・日本人にとっての行為観念
5	おのずからと運命論	・親鸞の善悪観と宿業理解 ・運とは何か
6	日本人と謝罪	・太平洋戦争の総括のあり方 ・丸山眞男「無責任の体系」 ・自然主義と自然法爾
7	古事記とおのずから	・中空構造の社会 ・成る論理 ・世阿弥の能
8	偶然を哲学する	・偶然と必然と自然概念 ・偶有性と人生論

9	仕合わせとは何か	・仕合わせと幸せの違い ・縁に生きる私たち ・「塞翁が馬」の意義
10	みずから——日本の人為の位置	・出逢うことの超越性と偶発力 ・可能世界SFの問い
11	偶然性と縁の論理 (いま・この「私」を、不可知の展望に委ねること)	・なるべく努めること ・為せば成る
12	合わせの文化	・「あう」とは何か ・「あいだ」と「あわい」
13	自己本位と則天去私	・漱石の無私無心 ・つくことはつくらないこと ・リルケの詩人論と創作行為
14	全体の総括	・日本思想の基礎観念

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【準備学習 二時間】

前回配付された講義資料等の内容・テーマにもとづいて、関連しそうな文献資料を自分なりに下調べしておく。

【復習 二時間】

今回扱った講義資料等を丁寧に読み返すなどし、あらためて理解を確かにしていくとともに、関連資料等を調べ、さらに自分なりの考察・検討を行う。その上でコメント課題を提出する。

【テキスト (教科書)】

教科書は指定しないが適宜資料を配付する。

【参考書】

講義時に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点で評価する。課題提出などを含む授業への参加度・貢献度100%。コメント課題等は、講義内容の理解度、独自の思考があるか、自分の言葉で書かれているか、推敲は適切になされているか、等を見て評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

講義で配布されたレジュメ資料は毎回持参すること。

【その他の重要事項】

授業時に告知する重要な伝達事項を聞き漏らさないよう注意してください。
いずれの回も以下のことを念頭に受講してください。講義の中で気になったキーワードや語彙に関しては、辞書等で意味内容をしっかり確認・把握をしておくこと。講義を通して日頃から、自分の身近に見聞した実際の・具体的な事例に照らし合わせ、自分なりに理解や考えを深めるよう心がけておくこと。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to acquire an understanding of Japanese thought and philosophy through reading various books. By the end of this course, students should be able to fully grasp the feature of Japanese thought and culture. Student will be expected to have completed the required assignments and submit a short report after each class. Your study time will be more than four hours for writing a paper. Grading will be decided based on Short reports 100%.

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講 (5) - 2

相原 博

授業コード：A2221 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業の内容は、「考えながら学ぶ哲学」の発展編です。授業では毎回、私たちに身近なテーマを取り上げて、そのテーマにかんする哲学の基本的な考えを学びます。身近なテーマとは、授業計画にあるように、同情、芸術鑑賞、技術や労働、自由や歴史などです。これらのテーマについて、過去の哲学者の考えを紹介することで、受講生が「自分で考える」ためのヒントを提供する予定です。また哲学を学ぶことは、たんに過去の哲学者の考えを理解すること、暗記することではありません。自分で考えることにこそ、哲学の哲学たるゆえんがあります。そのため、授業では実際に問題を考えてもらうことで、自ら「哲学する」訓練をしてもらいます。具体的には、哲学の問題について、他の受講生たちと対話してもらいます。それによって、自分で考える力、哲学的に考える能力を得ることを目的とします。

【到達目標】

第一に、哲学にかんする知識を身につけながら、自分で説明することができる。第二に、日常の様々な出来事について、哲学的に問題を立てて考えるとともに、論じることができる。第三に、議論を通して、多様な意見の存在を知り、自分の考えを深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行いますが、受講生との意見交換を重視します。また積極的に参加してもらうため、毎回の授業ではグループで議論し、その結論を発表してもらいます。受講にあたって、自分自身で考えること、他の受講生と議論すること、また授業で発言できることが必要です。その他、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・哲学とは何か	授業の進め方、評価方法などについて説明する
第2回	なぜ他者に同情するのか	アダム・スミスとショーペンハウアーの考えを説明する
第3回	芸術鑑賞には準備が必要か	ヒュームとヘーゲルの考えを説明する
第4回	芸術作品は複製できるか	カントとベンヤミンの考えを説明する
第5回	労働をどう考えるべきか	ルソーとアーレントの考えを説明する
第6回	社会のなかで自由は実現できるか	フーコーとキルケゴールの考えを説明する
第7回	技術の進歩をどう考えるべきか	ベーコンとホルクハイマーおよびアドルノの考えを説明する
第8回	技術の可能性をどう考えるべきか	デカルトとヨナスの考えを説明する
第9回	「理性的」とは何か	デカルトとホルクハイマーの考えを説明する
第10回	意識の働きはどのようなものか	ジェームズとフッサールの考えを説明する
第11回	無意識は存在するのか	フロイトとフロムの考えを説明する
第12回	政治とは何か	カントとアーレントの考えを説明する
第13回	歴史をどう考えるべきか	コンドルセとニーチェの考えを説明する
第14回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しません。適宜資料を配付します。

【参考書】

貴成人『哲学マップ』、ちくま新書、2004年。
熊野純彦『西洋哲学史—古代から中世へ』、岩波新書、2006年。
熊野純彦『西洋哲学史—近代から現代へ』、岩波新書、2006年。
伊藤邦武『物語 哲学の歴史 自分と世界を考えるために』、中公新書、2012年。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度と授業後のレポートによって、哲学者の考えを理解しているかどうか、また自分の考えを表現できるかどうか評価します(40%)。また学期末試験によって、哲学者の考えを正しく理解しているかどうか、また哲学的に問題を立てて考え、論じることができるかどうか評価します(60%)。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が議論や質問しやすい雰囲気づくりを心がけたい。またわかりやすい授業を行うために努力したい。

【Outline (in English)】

The content of this course is the advanced part of "Learning Philosophy While Thinking". In each class, we will take up a theme that is familiar to us and learn the basic philosophical ideas related to that theme. Familiar themes include sympathy, art, technology and labor, freedom, and history, as described in the lesson plan.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A. While acquiring knowledge of philosophy, students will be able to give their explanations.

B. Students will be able to formulate, think about, and discuss philosophical issues regarding various everyday events.

C. Through discussion, students can learn about the existence of diverse opinions and deepen their thinking.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 60%, Short reports and in class contribution: 40%.

PHL300BB（哲学 / Philosophy 300）

哲学特講（6）－1

大橋 基

授業コード：A2222 | 曜日・時限：金3/Fri.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「民主政治の形骸化」を避けるためにアーレントとハーバーマスの導いた批判原理の意義と難点を検討する。

【到達目標】

古代ギリシアの「公的生活」を理想化したアーレントの問題意識を説明できる。「自由な対話」の成立条件を定めるハーバーマスの「討議倫理学」を応用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教員が作成した「講義用資料」（学生各自が「学習支援システム」からプリントアウト・持参する、または、授業時にPCで参照する）を用いた講義。毎回、授業終了時に、リアクションペーパーを提出する（教員からの回答は、次回授業時とする）。
期末レポートの評価に関しては、「学習支援システム」から提出者全体の回答傾向に応じた「総評」を示す。また希望者には、同システムの「教材」機能から、各自のレポートに対する「コメント」を返却する（ただし、得点は開示しない）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
講義	ガイダンス	講義概要・授業方法・成績評価の説明
講義	ワイマール民主制の自己解体	なぜ民衆は「ナチズム」を選んだのか？
講義	『全体主義の起源』の特異な歴史観	国粋主義＋人種差別＝全体主義？
講義	『イェルサレムのアイヒマン』の倫理問題	凡庸な殺人者の法外な罪悪
講義	『人間の条件』の政治思想	古代ギリシアを理想化した「活動的生活」
講義	『革命について』における理想と現実の接点	歴史における「活動」の痕跡
講義	伝統的な哲学の「非政治的性格」	なぜ哲学は政治に対して無関心だったのか？
講義	伝統的な哲学の「独話論的性格」	なぜ哲学は単一の原理に執着してきたのか？
講義	『公共性の構造転換』における政治の閉塞化	近代民主制が形骸化した経緯
講義	『コミュニケーション的行為の理論』の時代診断	システムによる「生活世界」の植民地化
講義	「討議倫理学」における発想の転換	「民主政治」が再生する可能性の条件
講義	自由主義経済と民主政治の均衡点	リベラリズムとコミュニタリアニズムの論争点
講義	情報革命以後の政治動向	民主政治は独裁政治に反転してしまうのか？
レポート	期末レポート	「活動」概念と「討議倫理学」の意義と限界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「学習支援システム」にアップされている該当回の「講義用資料」を参照して、その要点や疑問点を整理し、授業のさいに確認・質問できるようにしておく。講義の進捗に応じて必要となる歴史的知識を各自で確認する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

授業内で適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（小論文形式）70％、平常点30％の比率で、成績評価を行い、60点以上を及第点とする。リアクションペーパー・Eメール・口頭での質問・意見から平常点を算出する。

【学生の意見等からの気づき】

専門用語を用いるさいは、できる限り日常言語での説明、具体的事例による解説を心がける。

リアクションペーパーやメールによる質問に対する回答のなかで重要なものは「学習支援システム」に掲載して、常時、確認可能にする（そのさい学生の個人名は伏せる）。

【学生が準備すべき機器他】

HoppiiやZoomを利用できる電子端末

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the Public Philosophy as developed by Hannah Arendt and Jürgen Habermas who precisely define the democratic ideal against the political division in the present society. It deals with three themes as follow: 1. Arendt's critique of "totalitarianism" as political institution that denies human rights and free will and her political ideal as "vita activa" has its origin in ancient Greece, 2. The undemocratic features of "non-political thought" and "monologue reasoning" in western classical philosophies, 3. Habermas' critique of "procedural political system" and his "discourse ethics" for activating our "living world" as a basis for democratic consensus building. By the end of the course, students should be able to give careful consideration to the possibility and limit of the liberal and democratic society after the information revolution. Before each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report: 70%, and in class contribution: 30%.

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講 (6) - 2

押山 詩緒里

授業コード：A2223 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの生きている世界は、多様な価値観、多様な文化、多様なアイデンティティ、多様な「意見」によって構成されています。多様さは、一方で人間存在の豊かな可能性の現れですが、他方で異なる価値観の間に摩擦を生じさせ、誤解と対立を招く原因でもあります。

こうした人間の多様さについて思索をしたのが、20世紀を代表する政治哲学者の一人であるハンナ・アーレント（Hannah Arendt, 1906-1975）です。アーレントによれば、自由で平等な公的空間は、政治的な「想像力」(imagination)によって形成可能になります。政治的な想像力とは、自分とは異なる他者の立場について、自分自身の頭で考える働きを意味しています。人間一人ひとりが想像力によって、異質な他者と「語り」と「聴取」の関係をそのつど形成することが、政治の本来の意味であり、人間として生きるための根源的な条件だということです。

なぜアーレントは、政治的な想像力と公的空間の重要性を主張したのでしょうか。それは、「誰もが公の場所に姿を現し、声を発すること」ができなくなったとき、どれだけ悲惨で、非人間的な事態が起こるのかを、自身の体験とともに知っていたからです。その最も象徴的な事例は、20世紀のナチスドイツ政権下で行われた大量虐殺であり、絶滅収容所でした。

本授業では、アーレントの『人間の条件』（1958）を基本的なテキストとして、哲学的思索の重要性や、「異質な他者と共に生きること」の意味について考えます。アーレントの思索を学ぶことを通じて、参加者の一人ひとりが哲学的な問いを自分自身の問題として考える力を身につけることを目指します。

【到達目標】

- (1) 「哲学的思索」の訓練を通じて、論理的な思考力と、自分自身の問題と結びつける実践的な思考力を身につける。
- (2) アーレントの政治哲学の基本的な知識を学ぶ。
- (3) 受講者ひとりひとりが、自分自身の生き方について、自分の頭で考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は対面による講義形式で行います。
- ・学習支援システムを通じて、授業資料の提示を行います。
- ・毎回の授業でリアクションペーパー（ミニレポート）の配布と回収を行い、次の授業の冒頭でペーパーに対する回答やコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業概要 ・レジュメ、レポートの書き方について ・卒論の書き方について ・アーレントとは誰か？
第2回	『人間の条件』①	・労働、仕事、活動
第3回	『人間の条件』②	・政治的自由とはなにか？
第4回	『人間の条件』③	・人間存在の「かけがえのなさ」
第5回	『人間の条件』④	・「生の物語」の開示と聴取
第6回	『人間の条件』⑤	・制作と活動
第7回	『人間の条件』⑥	・「現れの空間」とはなにか？
第8回	『人間の条件』⑦	・「政治的想像力」と「共通感覚」
第9回	『人間の条件』⑧	・行為の不可逆性と赦し
第10回	『人間の条件』⑨	・行為の予測不可能性と約束
第11回	アイヒマン裁判	・根源悪と「悪の凡庸さ」
第12回	「哲学的思索」とはなにか	・カント、ハイデガー、アーレントにおける「思考」の意味
第13回	現代的な意義と課題	・ジュディス・バトラーのアーレント批判 ・アーレントとパレスチナ ・「真理」と「意見」の差異
第14回	まとめ	・授業全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業前に、次回範囲のテキストを必ず読んでおくこと。
- ・本授業の予習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・ハンナ・アーレント『人間の条件』、志水速雄訳、筑摩書房、1994年

【参考書】

- ・Hannah Arendt, *The Human Condition*, 2nd ed., introduction by Margaret Canovan, University of Chicago Press, 2018.
- ・H・アーレント『イェルサレムのアイヒマン——悪の陳腐さについての報告』（新版）、大久保和郎訳、みすず書房、1994年
- ・R・J・バーンスタイン『根源悪の系譜——カントからアーレントまで』、阿部ふく子ほか訳、法政大学出版局、2013年（新装版2021年）
- ・E・ヤング＝ブルーエル『なぜアーレントが重要なのか』、矢野久美子訳、みすず書房、2008年
- ・M・カノヴァン『アレント政治思想の再解釈』、寺島俊徳・伊藤洋典訳、未來社、2004年
- ・杉浦敏子『ハンナ・アーレント入門』、藤原書店、2002年
- ・千葉真『アーレントと現代——自由の政治とその展望』、岩波書店、1996年
- ・押山詩緒里『〈砂漠〉の中で生きるために——アーレント政治哲学の現象学的研究』、法政大学出版局、2024年
- ※ その他必要なものは、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験・レポート（30％）、授業内レポート・レジュメ（30％）、平常点（40％）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

- ・哲学のテキストは、抽象的な表現や、難解な専門用語が多く用いられています。そのため、身近な事例などを挙げながら、具体的に分かりやすく説明するようにしています。

【学生が準備すべき機器他】

リアクションペーパー、課題提出等に学習支援システムを利用することがあります。授業前後に確認してください。

【その他の重要事項】

- ・本授業は「自分自身の頭で哲学的思索の訓練」を行う場所です。そのため、レポート等における生成AIツールの使用を禁止します。
- ・受講希望者は、初回授業に必ず出席するようにしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Modern society is composed of plural values, plural cultures, plural identities, and plural opinions. Plurality, on the one hand, is a manifestation of the rich possibilities of human existence, but on the other hand, it gives rise to misunderstandings and conflicts between different values.

Hannah Arendt (1906-1975), one of the leading political philosophers of the 20th century, considered plurality of human being. This course aims to study meaning and problems of "living with other", using Arendt's *The Human Condition* (1958) as the basic text.

According to Arendt, the public space composed among plural people is constituted by imagination, the ability to think in one's own mind about the position of others who are different from oneself.

Why did Arendt insist on the importance of imagination and public space? Perhaps it is because she knew from her own experience that the loss of freedom of voice and public space causes tragic and dehumanizing situations. The most symbolic example of this was the genocide and extermination camps under the Nazi regime in the 20th century.

The purpose of this course is to consider what the imagination means for our political life. By reading Arendt's text, students will be expected to develop the ability to think for themselves about a variety of issues.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to think philosophically.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 30%, Short reports : 30%, in class contribution: 40%.

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講 (7) - 1

富田 絢矢

授業コード：A2224 | 曜日・時限：火4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は、哲学の中でも特に、「道徳哲学」を中心に扱います。
「道徳」というと、みなさんは何を思い浮かべますか？ 他の人に「親切」にすることでしょうか？ たしかに、道徳的な人はたいてい親切ですが、道徳哲学において「道徳」と言うときはもっと狭く、〈人間ならば誰もが最低限守るべき決まりごと〉のことを指します。とはいえ、具体的に何をすると決まりごと違反になるのでしょうか。多分こう言われて、みなさんの頭の中にはまず、「常識」的な考え方の数々が浮かぶでしょうけれども、そうした「常識」は、どこまで根拠のあるものなのでしょう？ 他の人の目を気にせず考えたときに、あなた自身は、それらの常識に心から納得できますか？ 道徳哲学とは、簡単に言えば、〈道徳について、じっくり考えた上で、たしかに守る価値があると思われる決まりごとを見定める〉こと、言い換えれば、〈よく考えてみたら大して根拠のない慣習は、きっぱり切り捨てる〉こと、また、そうして〈新たな決まり事を率先して考案すること〉です。

本授業では、わたしたちが現実の生活の中で判断を迫られている「応用」問題と、哲学者たちが悩み抜いた未考案してきた「理論」とを往復しつつ、道徳哲学の基礎知識の獲得を目指します。

【到達目標】

- (1) 日々の中に道徳の問題を見つけ、「本当にこの慣習のままでよいのだろうか？」と立ち止まる知的体力をみなさんが身に着けること。
- (2) (1) に際して、まったくの素人考えというわけではなく、道徳哲学の専門的な道具立てを使って考える、一定程度熟達した技法をみなさんが獲得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による一方的な講義のみでなく、グループディスカッションを用い、互いに意見交換・議論しつつ進めます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	道徳哲学とは何であるか	道徳とは何か、それについて哲学的に考えるとは何をすることなのかを考えます。
第2回	通俗的道徳を乗り越える (1) —— 不快と《シンセツ》	通俗的に「道徳」と呼ばれる《シンセツ》について、批判的に検討します。
第3回	通俗的道徳を乗り越える (2) —— 義務論と《シンセツ》	第2回で見た《シンセツの道徳》を、義務論の立場から批判的に検討します。
第4回	喫 煙	タバコ規制をめぐる繰り広げられがちな通俗的な議論を乗り越えることを目指します。
第5回	変容の経験・平等について (1)	私たちのアイデンティティがさまざまな経験を通じて「変容」することについて考えます。また、男女平等について考えます。
第6回	平等について (2) —— そもそも平等とは何なのか	カントの「人間性の方式」や、基本的人権を踏まえつつ、私たちの等しさが何にあるのかを考えます。
第7回	ケアの道徳・過集中・依存	ケアの道徳の強みを引き継ぎつつ、単なる依存ではない道徳的依存について考えます。

第8回	功利主義	ときには悪名高い「功利主義」ですが、ここでは功利主義の何が画期的だったのかを考えます。
第9回	ルッキズム (1) —— イケメンや美人が好きで悪いか	よく問題にされる「ルッキズム」ですが、それはどのように定義されるべきなのかを考えます。
第10回	モノ化・ヘア主義的な平等	ルッキズムの問題を紐解くのに、「モノ化」の概念でどこまでいけるか、考えてみます。
第11回	ルッキズム (2) ・サールの構成的規則	ルッキズム問題に、ヘア主義に基づいて一応の終止符を打った上で、いよいよ道徳の一般原則を考える準備に取り掛かります。
第12回	契約論とマッキー	道徳についての契約論の基礎的知識を踏まえた上で、マッキーの契約論を批判的に検討します。
第13回	道徳と人生の意味 (1)	道徳が生き方の問題である以上、それは人生の意味と無関係でありえません。ここでは人生の意味について考えるための道具立てを作ります。
第14回	道徳と人生の意味 (2)	人生の意味について論じられるようになった上で、この議論がもつ暴力性について考えます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の最後に小課題を示し、それに対して解答してもらい、期限までに提出してもらいます。なお、小課題においては、みなさんの側からも問題提起をしてもらうため、これが予習を兼ねます。これらを合わせて4時間程度を想定しています。

【テキスト (教科書)】

特に教科書は使いません。授業に必要な資料は、すべて授業時に配布します。

【参考書】

【基本書】

- ・永井玲衣『水中の哲学者たち』晶文社、2021年。
- ・ジュリアン・パッジーニ、ピーター・フォスル (長滝祥司、廣瀬覚訳)『倫理学の道具箱』共立出版、2012年。
- 【より専門的に学びたい人へ】
- ・永井均『倫理とは何か——猫のアインジヒトの挑戦』ちくま書房、2011年。
- ・富田絢矢『道徳はなぜ価値判断の問題になるのか——ヘアの道徳哲学と好敵手たち』名古屋大学出版会、2023年。

【成績評価の方法と基準】

- 【各回の小課題】 80 %
小課題の詳細については、授業時間外の学習の欄に記載の通りです。なお、原則以下の二つの規準によって評価を行います。
 - (1) 授業の内容を踏まえていること。
 - (2) みなさん自身の心からの疑問に基づく、独自の観点からの問題提起が為されていること。
- 【学期末レポート】 20 %
評価規準は小課題と同じです。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目なので、アンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with applied ethics.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students are expected to be able to step back and think carefully about moral problems in daily life, using technical theories in ethics.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria / Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Short reports in class: 80%, Term-end report: 20%.

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講 (7) - 2

鶴澤 和彦

授業コード：A2225 | 曜日・時限：水5/Wed.5
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

カントと形而上学の問題

本授業では『純粋理性批判』の「弁証論」を講読しながら、特殊形而上学（魂・世界・神の存在）に対するカントの批判を考察するとともに、経験認識の体系的統一を目指す理念の統制的使用の意義を学びます。あわせて「自然」と「自由」の二律背反とその批判的解決が、カントの批判哲学体系の基礎となることを解説します。

【到達目標】

①『純粋理性批判』「弁証論」には、特殊形而上学を批判する消極的側面と、理念を統制的に使用する積極的側面があります。本授業を通じて、これらの側面を正確に理解できるようになります。
 ② カント哲学体系の根底にある「自然」と「自由」の二元論、すなわち彼の多元的思考の原点について学び、カント批判哲学体系の理解を深めることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行われ、3回から4回に1度の割合でグループワーク（ディスカッションを含む）の時間を取ります。グループワークの目的は、授業内容が理解されているかを確認すること、ならびに、ディスカッションを通じて内容理解の深化を図ることです。課題の出題・提出、評価は、学習支援システムHoppiiを通じて行います。出席・質問・感想は、各授業の教材欄にあるGoogle Formに記入してください。各授業の最後に、その認証コードをお伝えします。質問に対する解答は、次回授業時の冒頭で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと導入	授業のガイダンスのほか、導入として「形而上学」「弁証論」の意味を解説します。
第2回	序論	理性の論理的使用と純粋使用、「仮象」および「理念」、超越論的理念の体系について説明します。
第3回	第1章 純粋理性の誤謬	合理的心理学における魂（自我）の実体性、単純性に対する批判の論拠を説明します。
第4回	純粋理性の誤謬推論：同一性、現実性	合理的心理学における魂（自我）の同一性、現実性に対する批判の論拠を解説します。
第5回	第1回グループワーク	第1回から第3回までの課題と授業内容に関する質疑応答を行います。
第6回	第2章 純粋理性の二律背反	第1から第4の二律背反の論拠と解説を行います。
第7回	超越論的観念論	宇宙論的弁証論の解決の鍵としての超越論的観念論について解説します。
第8回	理性の統制的使用	自然必然性の普遍的法則と調和する自由による因果性の可能性を説明します。

第9回	第2回グループワーク	第5回から第7回までの課題と授業内容に関する質疑応答を行います。
第10回	第3章 純粋理性の理想	理想一般、神の現存在を推論する証明根拠の批判について解説します。
第11回	存在論的証明	神の現存在の存在論的証明に対する批判について説明します。
第12回	宇宙論的証明	神の現存在の宇宙論的証明に対する批判を解説します。
第13回	自然神学の証明	自然神学による神の現存在の目的論的証明に対する批判を説明します。
第14回	第3回グループワーク	第9回から12回までの課題と授業内容に関する質疑応答を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：指定した箇所のテキストを読み、理解できない点をまとめる。また、それに関連する哲学の諸概念を調べる。（2時間）
 復習：再度テキストを読み直し、疑問点が解決できたかどうかを確認する。さらに質問があれば、Google Formに質問を記入してください。（2時間）

【テキスト（教科書）】

牧野英二編『新・カント読本』（法政大学出版局、2018年）

【参考書】

原佑/渡辺二郎[訳]『純粋理性批判』上、中、下（平凡社ライブラリー、2005年）

【成績評価の方法と基準】

①平常点と毎回の課題プリント（到達目標の知識と態度の習得）、②セメスター末の期末レポート（到達目標の技術の習得）。①と②を50%として、受講生の成績を総合的に評価します。課題プリントの評価については、カントの理論哲学の概念とその議論を的確に理解しているかどうかを基準にします。また、期末レポートに関しては、小論文の形式を満たしているかどうか、また、内容把握が的確かどうかを基準にして判定します。

【学生の意見等からの気づき】

病気などで休んでも、すべての学習教材は、学習支援システムHoppiiにアップロードされてありますので、Hoppiiから教材をダウンロードして、自習なさってください。

【学生が準備すべき機器他】

授業時そして予習や復習の際にも、学習支援システムHoppiiとGoogle Formを利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】

Google Formに入力する出席は必須ですが、質問と感想の入力は任意です。授業終了後に出席だけ先に出して、後で質問と感想を書くこともできます。また、授業時間内にGoogle Formを入力する時間も設けます。

【Outline (in English)】

This course explores Kant's critique of special metaphysics and the regulative use of ideas in Critique of Pure Reason. We will also examine how the antinomy between "nature" and "freedom" shapes his critical philosophy.

The following are the aims of the study of Kant's dialectic.

1. Understand Kant's critique of special metaphysics and the regulative use of ideas.
2. Gain insight into the dualism of "nature" and "freedom" as the foundation of his philosophy.

Homework: Read the textbook and the handouts in Hoppii to get an overview (2 hours). Review the contents of the previous class using the handouts to ensure that you have acquired the knowledge of epistemology (2 hours). Grading Criteria: (1) Ordinary points, including class participation and assignment evaluations, and (2) the winter semester exam scores. Each component will account for 50% of the final grade.

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講 (8) - 1

木島 泰三

授業コード：A2226 | 曜日・時限：月2/Mon.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
備考 (履修条件等)：心理学科生は「科学哲学Ⅰ」として履修。
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「近代科学と目的論」をテーマとする。よく知られているように、17世紀科学革命はアリストテレスの「目的論的自然観」を根底から掘り崩す自然観の変動、すなわち「機械論的自然観」の成立をもたらした。だが、自然に対する目的論的な見方は直ちに消滅したわけではなく、「デザイン神学」に基づく自然神学やさまざまな生気論的思想としてその後も生き延びた。ダーウィンの自然選択説はデザイン神学を凋落させ、生命現象の目的論的説明を不要にしたが、それは同時に「目的論の自然化」を可能にし、現代進化生物学における「適応主義」という研究プログラムを可能にした。そして現在、このような適応主義プログラムは人間の心における「真の意味での」目的論な思考活動の「自然化」を射程に入れ始めている。本講義では、このような目的論的自然観と近代科学との複雑な関係を歴史的な経過を追う中で概観し、考察していくことを目指すものである。

【到達目標】

到達目標は次の2点である：

- (1) 講義で取り上げた科学史の事項やそれと関連する哲学的諸問題について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
(2) その知識をベースに、上記の事項および諸問題に関して、各種資料の裏付けに支えられた自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後学習支援システムを通じて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。学期末にはレポート提出を求める。レポートは最終の授業の後、受講後学習支援システムから受け付ける (最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する)。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講師の自己紹介、授業の進め方や成績評価などの説明、授業の概要など
第2回	神話から哲学への移行と心のモジュール構造／ソクラテス以前の自然哲学	「神話から哲学へ」と称される古代ギリシャにおける哲学的／科学的思考の誕生を、現代における認知宗教科学 (CSR) の知見をベースに考察する。続いて古代ギリシャの初期自然哲学を概観する
第3回	デモクリトスとプラトン	イオニア自然哲学の一つの頂点としてのデモクリトスの原子論と、その後に登場したソクラテス・プラトンによるそれへの反動を見ていく
第4回	アリストテレスの目的論的自然観(1)	師プラトンの神話的自然学を科学的な目的論的自然観へと構築し直したアリストテレス自然学を見ていく
第5回	アリストテレスの目的論的自然観(1)／ストア派とエピクロス派	引き続きアリストテレス自然学を見ていき、その後、目的論的自然観について対照的な立場をとったストア派とエピクロス派の自然哲学を概観する
第6回	中世の思想と17世紀科学革命	中世思想のいくつかの重要なトピックを概観した上で、17世紀科学革命の概観を示す
第7回	デカルトによる機械論的自然観の哲学的基礎づけ	17世紀科学革命の成果を体系化し、機械論的自然観を哲学的に基礎づけたデカルトの形而上学を概観する
第8回	ライブニッツとニュートンの論争	デカルト主義的機械論をベースにしつつ、なおも目的論的自然観の延命をはかる2つの路線としての「デザイン論」と「生気論」の初期の代表者としてのライブニッツとニュートンの論争を見ていく

第9回	ヒューム『自然宗教をめぐる対話』に見られるデザインの問題	ダーウィンに先立つ時代において自然目的論の問題を徹底して思索した哲学者ヒュームの『対話』を、当時の論争状況の批判的概観として読み解く
第10回	ダーウィンの自然選択説(1)	ダーウィン『種の起原』の前身とその核心に位置する自然選択説の内容を詳しく見ていく
第11回	ダーウィンの自然選択説(2)	引き続き、自然選択説について、それへのありがちな誤解の検討などを中心に見ていく
第12回	「ダーウィニズムの失墜」から総合説の成立、その背景となる生命観の変遷	ダーウィン以降に生じた「ダーウィニズムの失墜」と、その後の「総合説」の成立を、近代的生気論の歴史と共に見ていく
第13回	現代における「目的論の自然化」のさらなる動向	ダーウィンがもたらした「目的論の自然化」を補完する、分子生物学や「認知革命」などによる機械論的自然観の現代的勝利の経過を追う
第14回	社会生物学論争と進化論的人間観の哲学的考察	1980年代以降の「社会生物学論争」とそれ以降確立しつつある現代の進化論的人間観の歴史的な経過の学びとその哲学的考察

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講後学習支援システムを用いた受講後の受講確認課題 (ごく簡単な回答で済むものにする予定) によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと (質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に進めてもよい)。講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。特にレポート準備においてはこれら講義外での調査や学習も重要になる。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間 (計4時間) を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、主要な参考書として、木島泰三『自由意志の向こう側』(講談社選書メチエ)、ピーター・J・ボウラー『進化思想の歴史 (上・下)』(朝日選書)、ピーター・J・ボウラー『ダーウィン革命の神話』(朝日新聞出版)、ウリカ・セーゲルストローレ『社会生物学論争史——誰かが真理を擁護していた (1・2)』(みすず書房)、キース・E・スタノヴィッチ『the ROBOT'S REBELLION ロボットの反逆』(ダイヤモンド社) など (なお、挙げた本の中には新刊が品切れのものもある)。

【成績評価の方法と基準】

各講義の受講確認課題により、「到達目標」(1)の到達度の評価、および、平常の受講態度の評価を行う (30%)。加えて、期末レポートによる (2)の到達度の評価を行う (70%)。

【学生の意見等からの気づき】

板書なるべく整理して書くこと、急がず落ち着いて語ることを心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

受講確認課題、および期末レポートの提出のため、受講後学習支援システムにアクセス可能な端末が必要となる。講義資料をPDFファイルで配布する場合があります、pdf閲覧できる環境が望ましいが、できない場合は相談に応じる。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline:

Our theme is "Modern science and teleology". As is well known, the scientific revolution of the 17th century brought about a change in the view of nature that undermined Aristotelian teleological view of nature and the establishment of a mechanistic view of nature. However, the teleological view of nature did not immediately disappear, but survived thereafter as natural theology based on "design argument" and various vitalistic theories. Darwin's theory of natural selection caused the fall of design theology, rendering teleological explanations unnecessary, but it also made possible the "naturalization of teleology" and the research program of "adaptationism" in modern evolutionary biology. And now, such an adaptationist program is beginning to include the naturalization of "truly" teleological activity in the human mind. This lecture aims to review and discuss the complex relationship between such an teleological view of nature and modern science over the course of history.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through internet and to understand the course content if you would feel uncompleted. You are also expected to read relevant literature especially for your term-end report. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (70%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(30%) .

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講 (8) - 2

中釜 浩一

授業コード：A2227 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

備考 (履修条件等)：心理学科生は「科学哲学Ⅱ」として履修。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ：自己と自己知。

「自己の正体と自己知の本性」の問題は、多くの哲学者を悩ませてきた難問の一つである。この問題に対するデカルト以降の代表的哲学者達の見解を現代的視点から検討することで、「自己」の問題への洞察を深める。

【到達目標】

「自己とは何か」に関する哲学者達の議論を理解し、「自己について知るとはということか」を考える際の哲学的論点を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義とそれに対する学生からの疑問・質問、およびその解答によって議論を進める。

授業の冒頭で前回の小課題の解説、質問・疑問への解答をする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	「自己」はなぜ哲学の問題となるのか
第2回	デカルトと自己 (1)	「自己」と確実な知識
第3回	デカルトと自己 (2)	実体としての「自己」
第4回	ロックと自己 (1)	自己の同一性の問題
第5回	ロックと自己 (2)	身体と記憶
第6回	バークリーと自己 (1)	観念論と自己
第7回	バークリーと自己 (2)	想像力と自己
第8回	ヒュームと自己 (1)	「自己」の知覚不可能性
第9回	ヒュームと自己 (2)	「自己」の非存在
第10回	現代哲学と自己 (1)	ウィトゲンシュタインの議論 (1)
第11回	現代哲学と自己 (2)	ウィトゲンシュタインの議論 (2)
第12回	現代哲学と自己 (3)	パーフィットの議論
第13回	現代哲学と自己 (4)	シューメーカーの議論
第14回	まとめ	自己について何が解けていないのか

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業後に課された小課題をHoppii上で提出する。

デカルト、ロック、バークリー、ヒューム、ウィトゲンシュタインらの著作から「自己」に関する議論を読んでおく。

本講義の準備復習時間は、毎回4時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

使用しない。

【参考書】

デカルト「省察」、ロック「人間知性論」、バークリー「人知原理論」、ヒューム「人間本性論」、ウィトゲンシュタイン「哲学探究」など。

【成績評価の方法と基準】

毎回の小課題の提出70%、期末レポート30%

【学生の意見等からの気づき】

学生の疑問点には可能な限り答える。

【Outline (in English)】

Theme: Self and Self-knowledge

Problems of the Self and Self-knowledge is one of the most difficult philosophical problems which have puzzled many great philosophers over the centuries. We will discuss some of main positions since Descartes, and deepen our insight concerning our own Self.

Learning activities outside of classroom: After each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the content and to write the short paper on the topic of the day.

Grading Criteria: assignments 70% term-end test: 30%

PHL400BB (哲学 / Philosophy 400)

哲学演習 (1)

佐藤 真人

授業コード：A2230 | 曜日・時限：火4/Tue.4
年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スピノザ『エチカ』の精読を通し、①スピノザ哲学の特殊性をその形式・内容の双方から考察、②特にデカルト哲学と比較したうえでのスピノザ哲学の特色と狙いの考察、③『エチカ』がいかなる意味で「倫理学」であるのかを考察、これが本授業の主目的です。『エチカ』で論じられる問題は大きく見ると①神 (特に困難)、②精神と物体の在り方、③意志・自由・情念 (人間の考え方と生き方) の三つの分野に大別できます。デカルト哲学の考察からその哲学的キャリアを開始したスピノザですが、『エチカ』は自身の哲学の結晶であるとともに、デカルト哲学への最大の批判的応答となっており、それはまた「最も不敬虔で危険」(アルノー) な哲学と目されました。これらはそれぞれいかなる意味でそう言えるのか、その主張によってスピノザは何を打ち立てようとしたのか—こういった問題を一つずつ明らかにしていきます。

【到達目標】

- ① スピノザの哲学を精確に理解する。
- ② スピノザ哲学がいかなる意味で革新的だったのかを、とりわけデカルト哲学と対比して考察する。
- ③ 関連文献を読みながら自身で問いと答えを探し、また他者との議論を通じて理解と考察を深める。
- ④ 論拠に基づく議論を組み立て、自身の言葉で論理的に表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

以下の手順で進めます。

- ① 発表担当者によるレジュメ作成と発表
- ② それに基づく質疑応答や全体での議論
- ③ 教員による補足説明。

授業後には小レポート (リアクション・ペーパー) を提出。その幾つかを次回授業で共有し、さらなる考察と議論のための材料とします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：『エチカ』の位置づけ	スピノザ哲学における『エチカ』の意味
第2回	「自己原因」と「実体」	伝統的解釈 (特にデカルトの定義)
第3回	『エチカ』第一部 1	定義・公理
第4回	『エチカ』第一部 2	定理1～定理8
第5回	『エチカ』第一部 3	定理9～定理12
第6回	『エチカ』第一部 4	定理13～定理15
第7回	『エチカ』第一部 5	定理16～定理18
第8回	『エチカ』第一部 6	定理19～定理23
第9回	『エチカ』第一部 7	定理24～定理29
第10回	『エチカ』第一部 8	定理30～定理33
第11回	『エチカ』第一部 9	定理34～付録
第12回	『エチカ』第一部 10	付録②
第13回	『エチカ』第二部 1	定義・公理
第14回	『エチカ』第二部 2	定理1～定理7
第15回	『エチカ』第二部 3	定理8～定理12
第16回	『エチカ』第二部 4	定理13①
第17回	『エチカ』第二部 5	定理13②～定理16

第18回	『エチカ』第二部 6	定理17～定理21
第19回	『エチカ』第二部 7	定理22～定理29
第20回	『エチカ』第二部 8	定理30～定理39
第21回	『エチカ』第二部 7	定理40～定理43
第22回	『エチカ』第二部 8	定理44～定理49
第23回	『エチカ』第二部 9	備考
第24回	『エチカ』第三部 1	序言・定義・要請
第25回	『エチカ』第三部 2	定理1～定理3
第26回	『エチカ』第三部 3	定理4～定理13
第27回	『エチカ』第三部 4	定理14～定理21
第28回	『エチカ』第三部 5	定理22～定理28

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で扱う箇所を丁寧に読み、理解した内容や疑問などを各自でまとめるようにしてください。

発表担当者は、発表用のレジュメを作成することになりますが、必ず自分の言葉で書き、参考書の文言をそのまま引き写さないこと (この点は論文・レポートと同様)。
本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

以下のどちらかを入手すること。

スピノザ『スピノザ全集Ⅲ エチカ』(上野修 訳)、岩波書店、2022年
スピノザ『エチカ (倫理学)』(上) (畠中尚志 訳)、岩波文庫、1951年

【参考書】

まずは参考書に頼らず、先入見を排して『エチカ』を丁寧に読むことから始めてください。そのうえで、テーマに関連する参考書を各自で探してみてください (まずは以下のみ掲げます)。

上野修『スピノザの世界』、講談社現代新書、2005年

- 『デカルト、ホッブズ、スピノザ』、講談社学術文庫、2011年
- 『哲学者たちのワンダーランド』、講談社、2013年
- 『スピノザ考：人間ならざる思考へ』、青土社、2024年

工藤善作『スピノザ〈人類の知的遺産〉35』、講談社、1979年

福居純『スピノザ『エチカ』の研究』、知泉書館、2002年

河合徳治『スピノザ エチカ』、晃洋書房、2011年

ピエール＝フランソワ・モロー『スピノザ入門』、白水社 (文庫クセジュ)、2021年

ネット上の哲学辞典としては「スタンフォード哲学百科事典」がお勧め。

<https://plato.stanford.edu/index.html>

【成績評価の方法と基準】

平常点 (リアクション・ペーパーや議論への参加など) 40%、発表20%、期末試験・レポート40%の割合で、到達目標の達成度合いに応じて成績評価します。

欠席4回 (半期) で「不可」なので注意してください (事情がある場合は要相談)。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく丁寧にわかりやすい説明と、皆さんの自主的な探究を促す授業を心がけます。

【その他の重要事項】

・最後まで読むことより、丁寧に読解と議論を重視したいので、年度中に読了しない可能性もありえます。

・体調不良等の事情がある場合を除き、授業途中の入退室は認めませんので、充分注意してください。

【Outline (in English)】

Through a close reading of Spinoza's *Ethica*, the main objectives of this course are (1) to examine the particularities of Spinoza's philosophy from both its form and content, (2) to consider the characteristics and aims of Spinoza's philosophy, especially in comparison with Descartes' philosophy, and (3) to consider in what sense the *Ethica* is said to be an "ethics".

The issues discussed in *Ethica* can be broadly classified into three areas: (1) God, (2) the natures of mind and bodies, and (3) will, freedom and passions (the human way of thinking and living). Spinoza began his philosophical career by examining Cartesian philosophy, and the *Ethica* was not only the crystallisation of his philosophy, but also one of the most critical responses in the history of philosophy to Cartesian philosophy, being regarded as “the most impious and dangerous” (Arnauld) philosophy. In what sense can each of these be said to be so, and what was Spinoza trying to establish with his arguments? - these questions will be clarified in the course one by one.

Students are expected by the end of the course 1) to understand precisely contents of Spinoza’s philosophy, especially in comparison with Cartesian philosophy, 2) to find their own questions in it, search for answers and deepen their understanding and consideration through reading of relevant literature and discussions with others, 3) to construct logically their arguments based on evidence and to explain them clearly in their own words.

Before each class meeting, students are to read carefully the relevant text of the next class and to summarize what the text is arguing for. Group or individual in charge of presentation of the day is to prepare a resume to be distributed. Required study time is two hours each before and after the class.

Grade will be decided on the following proportion. In-class contribution: 40%, Presentation: 20%, Term-end report: 40%.

PHL400BB (哲学 / Philosophy 400)

哲学演習 (2)

奥田 和夫

授業コード：A2231 | 曜日・時限：金2/Fri.2
年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

プラトンの後期作品『ティマイオス』を読解する。プラトンの著作は公刊されたほとんどすべての著作が今日まで伝わっており、それらはいずれも傑作ぞろいである。しかし、実は、古代末期からルネサンスの時代まで、プラトンの著作の中で人々に読まれた著作は『ティマイオス』だけであった、と言っても過言ではない。しかもただ読まれたのではなく、思想史・宗教史のうえで大きな影響を与えた。「宇宙の始まりから人間の誕生まで」を物語るこの作品はプラトンが当時の最先端の諸科学の情報を参考に驚くべき創作力で執筆したと想像される。

信頼できる邦訳として岩波版『プラトン全集』第12巻の種山恭子訳(1975)が有名であるが、学部生が入手するには困難であった。この度、およそ半世紀を隔てて土屋睦廣訳が講談社学術文庫の1冊として出版された。これを機に、この演習において『ティマイオス』を味読してみよう。およそ2300年前にプラトンは「宇宙の始まりから人間の誕生まで」をどのように構想したのだろうか。

【到達目標】

プラトンの後期作品『ティマイオス』を精読することにより、プラトンの宇宙論、自然学、そして宇宙における人間の位置づけを確認し、各人がその思想の意味を考究することが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

『ティマイオス』本文については日本語訳により読みすすめる。必要に応じて、ギリシア語、英訳等を参照する。

また、履修者による「担当箇所の内容要旨・問題点・考察」の発表および発表者と参加者との討議によりすすめる。履修者の意見や質問へのフィードバックを含む。

発表者は発表にあたり、次の点に留意すること。

1. 内容要旨の作成にあたっては正確さを旨とする。
2. 問題点の指摘については、不明な点の調査、関連情報の収集をおこなう。
3. 上の1. 2. を基礎に、担当箇所の内容に関する考察をのべる。その考察は、まず自分でよく考え、自分の言葉で説明することに留意する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	プラトン著作、思想の展開における『ティマイオス』の位置づけと関連事項
第2回	『ティマイオス』第1－2章の検討・理解	対話篇の導入部 登場人物ソクラテスの昨日の話
第3回	第3－4章の検討・理解	アトランティス物語
第4回	第5－6章の検討・理解	ティマイオスの宇宙論の諸前提 宇宙生成の原因
第5回	第7－8章の検討・理解	宇宙の魂、時間
第6回	第9－10章の検討・理解	惑星、恒星、

第7回	第11－12章の検討・理解	大地
第8回	第13－14章の検討・理解	神々(天体)と人間の魂
第9回	第15－16章の検討・理解	頭、四肢、眼、「補助原因」
第10回	第17－18章の検討・理解	理性と必然「場」
第11回	第19－20章の検討・理解	宇宙の素材、正多面体の構成
第12回	第21－22章の検討・理解	宇宙は無限個か1つか、火、空気、水、土
第13回	第23－24章の検討・理解	四元素の種類
第14回	第25－26章の検討・理解	感覚的性質 夏季レポート提出
第15回	春学期のまとめ 春学期の復習	感覚的諸性質(続)
第16回	第27－28章の検討・理解	感覚的性質諸(続)
第17回	第29－30章の検討・理解	肝臓と脾臓
第18回	第31－32章の検討・理解	腸、髄、骨、肉、腱、皮膚、毛髪、食物(植物)
第19回	第33－34章の検討・理解	身体
第20回	第35－36章の検討・理解	身体の灌漑と呼吸
第21回	第37－38章の検討・理解	「回り押し」の理論 生長と老衰
第22回	第39－40章の検討・理解	身体
第23回	第41－42章の検討・理解	魂の病
第24回	第43－44章の検討・理解	病の治癒、女性、鳥、獣、水棲動物
第25回	『ティマイオス』全体 のまとめ1	病の治癒、女性、鳥、獣、水棲動物
第26回	『ティマイオス』全体 のまとめ2	病の治癒、女性、鳥、獣、水棲動物
第27回	『ティマイオス』全体 のまとめ3	病の治癒、女性、鳥、獣、水棲動物
第28回	『ティマイオス』全体 のまとめ4	病の治癒、女性、鳥、獣、水棲動物

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

まず『ティマイオス』全体を通読、熟読する。気づいた問題点(疑問点)について必要な調査、情報収集を積極的におこなう。問題点についてよく考える。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

プラトン『ティマイオス』の日本語訳を各自用意すること。
土屋睦廣訳が講談社文庫として出版されたので、この訳書をメインの読解テキストとする。

【参考書】

田中美知太郎『プラトン』I－IV(岩波書店)
その他は随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習での発表、討議への貢献度(50%)、2回の学期末レポート(25% x 2)に見られる『ティマイオス』の内容理解度を【授業の目的】および【到達目標】を基準として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

基本的な読解が完了したのち、学術論文を読解して専門研究にふれる機会を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

なし。

【Outline (in English)】

(Course outline) In this course we peruse Plato's "Timaeus".

(Learning Objectives) The goals of this course are perusal of the book, understanding of the way Plato think and estimation of his thoughts on the problems of philosophy and cosmology.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to the following process, term-end examinations (25% x 2), and presentation of results of reserches and in-class contribution (50%).

PHL400BB (哲学 / Philosophy 400)

哲学演習 (3)

菅沢 龍文

授業コード：A2232 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

カントの『人倫の形而上学』第二部「徳論の形而上学原理」(「徳論」)の本論を読み解く。「徳論」では多様な「徳の義務」が語られており、それらの義務は人間の本性に根づいていて、時代や国境を越えて認められるような道徳的義務であると考えられる。テキストを深読みすることによりこれらの「徳の義務」の微妙なニュアンスを味わいつつ、この義務を現代のわれわれへの問いかけとしても引き受けて、ゼミで考えを深めていきたい。

【到達目標】

- (1) 哲学の古典的テキストを丁寧に読み解き、その内容を整理して、自分の感想や意見をプレゼンすることができる。
- (2) テキストの疑問点を見だし、とことん追究・調査して、テキストの理解を深めることができる。
- (3) ゼミのなかでの話題にかんして、他人の意見をよく聴き、自分の意見を説得的に述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- (1) ゼミの初めに、前回の考察として提出された作文がフィードバックされます。
- (2) 複数の担当者でテキストのレポートを分担してリレー式にプレゼンし、これについて質疑応答して、テキストの理解を深めます。
- (3) テキストにかんして、他人の考えを聞き、自分の考えを述べ、質疑応答するなかで、なかが問題であるか考えを深め、ゼミ後に学習支援システムでその考えたことを書いて提出します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・自分自身に対する義務一般について 「序論」(100-107頁)
第2回	「自分自身に対する完全義務」(108-114頁)	・自己殺害について
第3回	「自分自身に対する完全義務」(114-119頁)	・情欲的な自己冒瀆(ほうとく)について
第4回	「自分自身に対する完全義務」(120-126頁)	・不節制による自己麻痺について ・虚言について①
第5回	「自分自身に対する完全義務」(126-132頁)	・虚言について② ・吝嗇(りんしょく)について①
第6回	「自分自身に対する完全義務」(132-138頁)	・吝嗇について② ・卑屈について①
第7回	「自分自身に對する完全義務」(138-144頁)	・卑屈について② ・良心について①
第8回	「自分自身に対する完全義務」(144-150頁)	・良心について② ・「君自身を認識せよ」について①
第9回	「自分自身に対する完全義務」(150-155頁)	・「君自身を認識せよ」について② ・自然破壊や動物虐待にかんする義務
第10回	「自分自身に対する人間の不完全義務」(156-162頁)	・「自分の自然的完全性」にかんする義務 ・「自分の道徳的完全性」にかんする義務
第11回	「他者に対する徳の義務」(163-168頁)	・「他の人間に対する愛の義務」について ・「人間愛(博愛)」について①
第12回	「他者に対する徳の義務」(168-174頁)	・「人間愛(博愛)」について② ・親切の義務について①
第13回	期末レポート発表会Ⅰ	第1回～第6回のテーマにかんするレポート
第14回	期末レポート発表会Ⅱ	第7回～第12回のテーマにかんするレポート
第15回	「他者に対する徳の義務」(174-179頁)	・親切の義務について② ・感謝の義務について①
第16回	「他者に対する徳の義務」(180-186頁)	・同情の義務について ・「人間憎悪」という悪徳について①
第17回	「他者に対する徳の義務」(187-193頁)	・「人間憎悪」という悪徳について② ・「尊敬」にもとづく徳の義務について ・「軽蔑」について①

第18回	「他者に対する徳の義務」(194-200頁)	・「軽蔑」について② ・「高慢」について ・「陰口」について
第19回	「他者に対する徳の義務」(200-205頁)	・「愚弄」について ・「人間の状態にかんする人間相互の倫理的義務」について ・友情について①
第20回	「原理論のむすび」(206-212頁)	
第21回	「原理論のむすび」(212-216頁)	・友情について② ・社交の徳について
第22回	「倫理学の方法論」(218-224頁)	・「倫理学の教授法」
第23回	「倫理学の方法論」(224-231頁)	・「道徳的問答法」①
第24回	「倫理学の方法論」(231-235頁)	・「道徳的問答法」② ・「倫理学の修行法」
第25回	「むすび」(236-240頁)	・「純粋な道徳哲学」と宗教論
第26回	「むすび」(240-246頁)	・「純粋な道徳哲学」と宗教論にかんする「注解」 ・自分自身に対する義務 ・他者に対する義務
第27回	春・秋を通じてのゼミ全体の振り返り	全体を振り返って、カントの「徳の義務」にかんするテーマのレポートを作成して発表する。
第28回	学年末レポート発表会	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
[予習] ゼミで取り上げるテキストの該当箇所を読み込んでおく。レポート・プレゼン担当者は担当箇所の内容を整理して感想や考察を加えたプリント(PDFファイルやワープロファイル)を学習支援システム(Hoppii)上に配布しておく。
[復習] ゼミで考えたことについて作文して、学習支援システム(Hoppii)で提出する。

【テキスト(教科書)】

カント『人倫の形而上学 第二部 徳論の形而上学原理』宮村悠介訳、岩波文庫

【参考書】

- カント『道徳形而上学の基礎づけ』大橋容一郎訳、岩波文庫、2024年
(本書には多数の邦訳書があるなかの最新訳、1～2章でカントの義務論の基礎を知ることができる。)
 - 日本カント協会編『日本カント研究 23』インターネット公開書籍
(「シンポジウム：カントと徳倫理学」所収)、2022年
 - フィリップ・フット『人間にとって善とは何かー徳倫理学入門』高橋久一郎監訳、筑摩書房、2014年
(入門とはいえ、カントの思想その他の幅広い知識が前提されている。)
 - 「徳倫理学」にかんする書籍
(カントの倫理思想の位置づけを知ることができる。)
- ※その他必要に応じてゼミで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

【成績評価基準】

- (1) プレゼンや質疑応答などのゼミへの参加姿勢と、毎回の提出作文
- (2) 春学期、秋学期末の期末レポートとその発表
- (1)を7割、(2)を3割として、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業では、聞き取りやすい発声を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

課題作文提出用に学習支援システム(Hoppii)を利用するので、インターネットに接続したパソコン(推奨)または、タブレットやスマホが必要となります。

【Outline (in English)】

Course outline:

Read the main argument of Kant's *Metaphysics of Morals*, Part II, "Metaphysical First Principles of the Doctrine of Virtue" ("Doctrine of Virtue"). The "Theory of Virtue" speaks of various "moral duties" that are rooted in human nature and are regarded as moral duties that can be recognised across time and borders. By reading the text in depth, we can appreciate the subtle nuances of these "moral duties", and we would like to deepen our thoughts in the seminar by taking these duties as a question for us today.

Learning Objectives:

- (1) Read and understand classical philosophical texts carefully, organise their content and express their own thoughts and opinions.
- (2) Find questions in the text, pursue and investigate them thoroughly, and deepen their understanding of the text.
- (3) Listen carefully to the opinions of others on topics discussed in seminars and express their own opinions persuasively.

Learning activities outside of classroom:

The standard preparation and revision time for this class is 2 hours each.

[Preparation] Read the relevant sections of the texts to be covered in the seminar. Those in charge of reports and presentations should organise the content of the assigned sections and distribute printouts (PDF files or word processing files) on the learning support system (Hoppii) with their comments and reflections added.

[Review] Write an essay on what you have thought about in the seminar and submit it via the learning support system (Hoppii).

Grading Criteria /Policy:

(1) Attitude towards participation in seminars, including presentations and question and answer sessions, and essays submitted each time.

(2) Final reports and presentations at the end of the spring and autumn semesters.

(The overall mark will be 70% for (1) and 30% for (2).)

PHL400BB (哲学 / Philosophy 400)

哲学演習 (4)

岩野 卓司

授業コード：A2233 | 曜日・時限：金3/Fri.3
年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

今日、資本主義の発展は多くの問題をもたらしている。地球を危機に至らせる気候変動、富裕層から非正規雇用者や失業者に至る経済的格差の拡大、家族や村社会からの転換を迫られている「無縁社会」、こういったものを資本主義は加速させている。ゼミでは、今この社会にどういった共同体や共同性が必要であるかを考えていく。

【到達目標】

このゼミでは、社会の問題を考えることで、政治、経済、社会、文化についての問題意識や批判意識を獲得できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

最初の2回は教員が扱うテーマや方法について解説するが、3回目以降は発表形式にする。回ごとに発表担当者と質問担当者を決める。発表と質問の応答の後、全員でディスカッションをする。最後に教員がまとめる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のやり方、発表の担当などをきめる。
2	贈与とは何か？	贈与と資本主義についての概説
3	マルセル・モース (1)	贈与にはお返しを 学生による発表
4	マルセル・モース (2)	理想と危険 学生による発表
5	マルセル・モース (3)	互酬制
6	レヴィ＝ストロース (1)	ワインとインセスト 学生による発表
7	レヴィ＝ストロース (2)	クリスマスとハロウィン 学生による発表
8	レヴィ＝ストロース (3)	贈与論と親族
9	ジョルジュ・バタイユ (1)	贈与のスカトロロジー 学生の発表
10	ジョルジュ・バタイユ (2)	太陽による贈与 学生の発表
11	ジョルジュ・バタイユ (3)	一方的な贈与
12	シモーン・ヴェイユ (1)	愛の狂気 学生の発表
13	シモーン・ヴェイユ (2)	贈与と狂気
14	学期末のまとめ イントロダクション	全体のまとめ 発表担当をきめる。 贈与論についての 展望
2	ジャック・デリダ (1)	贈与は贈与でない！ 学生の発表
3	ジャック・デリダ (2)	死の贈与 学生の発表
4	ジャック・デリダ (3)	贈与と現前性
5	ジャン＝リュック・マリ オン (1)	贈与を哲学すると？ 学生の発表
6	ジャン＝リュック・マリ オン (2)	贈与としての愛 学生の発表
7	ジャン＝リュック・マリ オン (3)	哲学と愛をどう考えるか
8	「結論に代えて」を読む (1)	人間中心主義と動物による贈与 学生の発表
9	「結論に代えて」を読む (2)	互酬制と返礼なき贈与 学生の発表
10	「結論に代えて」を読む (3)	「結論に代えて」をどう読むか
11	『借りの哲学』(1)	借りの効用 学生の発表
12	『借りの哲学』(2)	借りの限界 学生の発表

13	『借りの哲学』(3)	『借りの哲学』総括
14	学期末のまとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。授業では発表を聞いた後で討論することが求められるので、毎回予習をすること。

【テキスト (教科書)】

岩野卓司『贈与論 資本主義を突き抜けるための哲学』青土社、2019年。

【参考書】

マルセル・モース『贈与論』森山工訳、岩波文庫、クロード・レヴィ＝ストロース『親族の基本構造』福井和美訳、青弓社、ジョルジュ・バタイユ『呪われた部分』酒井健訳、ちくま文庫など

【成績評価の方法と基準】

授業での発表、質問、討議への参加といった授業への参加度(70%)と学期末のレポートかテスト(30%)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

Today, the development of capitalism has brought about many problems. Capitalism is accelerating climate change that is devastating the earth, the widening economic gap from the wealthy to non-regular employees and the unemployed, and the "society of ties" that is forcing people to move away from family and village societies. In this seminar, we will consider what kind of community and communality is needed in this society today. It is advisable to read related books outside of class time. Your overall grade will be decided based on the following: in class contributions 70% and Term-end examination 30%.

PHL400BB (哲学 / Philosophy 400)

哲学演習 (5)

吉田 敬介

授業コード：A2234 | 曜日・時限：月3/Mon.3

年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、批判理論の哲学者Th・W・アドルノによるテキストの講読を通して、現代社会におけるアクチュアルな哲学的思考のあり方について考察します。

アドルノは、伝統的な哲学の遺産を引き継ぎながら、歴史的・社会的な条件のなかで、なおも可能な哲学的思考のあり方を模索しています。その際にアドルノは、哲学そのものの問いから、宗教や芸術、文化産業やファシズムに至るまで、様々なテーマに即した批判的思考を展開しています。

授業では、初期講演「哲学のアクチュアリティ」のほか、『批判的モデル集』や『文学ノート』に収録された幾つかのテキストを読解・検討することで、アドルノの思想への理解を深めながら、私たちが生きる社会における哲学的・批判的思考の可能性について考察したいと思います。

【到達目標】

- (A) アドルノのテキストの内容を理解できる。
 (B) テキスト読解から、批判理論や社会哲学の諸問題について考察できる。
 (C) 理解・考察した内容を他者に提示し、議論を展開できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

はじめにアドルノの生涯や思想、著作について導入をした後、テキスト講読を進めます。その際、適宜ドイツ語原文や英語訳も参照しながら、また必要に応じて歴史的・社会的コンテキストや重要な用語を確認しながら、テキストの内容を丁寧に検討し、そこに見出される諸問題を考察していきます。

講読に際しては、各回に報告者と質問者を設定します。担当箇所について、報告者は内容のまとめや考察を、質問者は疑問点や確認したい点を、それぞれレジュメにまとめて発表します。またそれ以外の受講者にも、テキストを事前に読み疑問点やコメントを考えておくことが求められます。報告者・発表者を中心に、全体でテキストについて議論をするので、受講者には積極的な参加が望まれます。また、受講者の希望に応じて、グループディスカッションの機会や、卒業論文に関する発表の機会も作ります。

毎回の授業後にリアクションペーパーの提出を求める他、授業の内容に関連するレポート課題を提出してもらう予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。レポート課題の内容・提出時期等については、授業内で説明します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システムを確認するようお願いします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の確認
第2回	アドルノの人と思想、著作について	生涯や思想、授業で扱うテキストについての導入
第3回	「哲学のアクチュアリティ」講読(1)	『初期論集』2-9 頁
第4回	「哲学のアクチュアリティ」講読(2)	『初期論集』10-18 頁
第5回	「哲学のアクチュアリティ」講読(3)	『初期論集』19-27 頁
第6回	「哲学のアクチュアリティ」講読(4)	『初期論集』27-36 頁
第7回	「形式としてのエッセー」講読(1)	『文学ノート1』3-11 頁
第8回	「形式としてのエッセー」講読(2)	『文学ノート1』11-17 頁
第9回	「形式としてのエッセー」講読(3)	『文学ノート1』17-24 頁
第10回	「形式としてのエッセー」講読(4)	『文学ノート1』24-31 頁
第11回	「主観と客観について」講読(1)	『批判的モデル集Ⅱ』201-208 頁
第12回	「主観と客観について」講読(2)	『批判的モデル集Ⅱ』208-216 頁
第13回	「主観と客観について」講読(3)	『批判的モデル集Ⅱ』216-225 頁
第14回	春学期のまとめ	春学期の講読内容の整理・検討
第15回	春学期の振り返りと秋学期の展望	春学期の講読内容の振り返り 秋学期の進め方について展望

第16回	「理性と啓示」講読(1)	『批判的モデル集Ⅱ』19-24 頁
第17回	「理性と啓示」講読(2)	『批判的モデル集Ⅱ』24-30 頁
第18回	「アウシュビッツ以後の教育」講読(1)	『批判的モデル集Ⅱ』110-118 頁
第19回	「アウシュビッツ以後の教育」講読(2)	『批判的モデル集Ⅱ』118-126 頁
第20回	「アウシュビッツ以後の教育」講読(3)	『批判的モデル集Ⅱ』126-133 頁
第21回	受講生による発表(1)	卒業論文の構想発表と検討(1)
第22回	受講生による発表(2)	卒業論文の構想発表と検討(2)
第23回	受講生による発表(3)	卒業論文の構想発表と検討(3)
第24回	「テレビジョン序論」講読(1)	『批判的モデル集Ⅰ』85-93 頁
第25回	「テレビジョン序論」講読(2)	『批判的モデル集Ⅰ』93-100 頁
第26回	「芸術は明朗か」講読	『文学ノート2』360-368 頁
第27回	秋学期のまとめ	秋学期の講読内容の整理・検討
第28回	一年間のまとめ・展望	一年間の講読内容の整理・検討

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

・『哲学のアクチュアリティ 初期論集』みすず書房

・『文学ノート1／2』みすず書房

・『批判的モデル集Ⅰ／Ⅱ』法政大学出版局

※入手困難なものが多いため無理に購入する必要はありません。テキストの入手方法については、第1回の授業時にお知らせします。

※ドイツ語原文や英語訳についての詳細も、第1回の授業時にお知らせします。

【参考書】

・麻生博之「アドルノ」(『哲学の歴史 第10巻 危機の時代の哲学 [20世紀Ⅰ]』中央公論新社、588-620頁所収)

・細見和之『フランクフルト学派——ホルクハイマー、アドルノから21世紀の「批判理論」へ』中央公論新社〔中公新書〕

その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点(予習した上での授業参加、リアクションペーパーの提出、報告者・質問者としての発表、議論への参加、その他の授業への取り組みなどの総合評価)60%、レポート課題の評価40%です。成績評価に際しては、【到達目標】(A)～(C)を基準とし、その達成度合いを考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

・リアクションペーパーを活用しながら、受講者相互の意見交換や議論が活発になされるよう努めます。

・わかりにくい概念や思想内容、歴史的・社会的背景について、ドイツ語原文や英語訳、二次文献などを紹介しながら丁寧に説明するよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with Adorno's Critical Theory by reading his texts.

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand Adorno's texts, (B) examine his Critical Theory, and (C) discuss relevant topics.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (60%), and term-end report (40%).

PHL400BB (哲学 / Philosophy 400)

哲学演習（6）

君嶋 泰明

授業コード：A2235 | 曜日・時限：木4/Thu.4
年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20世紀ドイツの哲学者マルティン・ハイデガーの著『存在と時間』（1927年）を読みます。同書でハイデガーは、「存在」という概念がその意味をつねに「時間」から得ていると見立て、そのことを論証するために興味深い議論を展開しました。受講者は演習を通じて、20世紀を代表する哲学書『存在と時間』の思想を理解するとともに、独自の用語を駆使する哲学の難解な議論も、一つ一つの言葉や文の意味を吟味していけば十分に理解可能となることを学んでいきます。

【到達目標】

- ①ハイデガー『存在と時間』の思想を理解する。
- ②哲学文献を読み解くのに必要な態度とスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

担当者は、割り当てられた箇所のレジュメを作成し、授業で報告します。授業ではそれに基づいて全員で議論し、内容の理解を深めます。なお、以下の授業計画に記した節番号はあくまで目安であり、進度に応じて適宜変更します。また『存在と時間』の概要を理解することを優先し、いくつかの節は飛ばして読み進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	踏まえておくべき予備知識を解説する
第2回	存在について問う必要性	報告と討議（第1節）
第3回	存在の問いの構造	報告と討議（第2節）
第4回	存在の問いが優先される理由①	報告と討議（第3節）
第5回	存在の問いが優先される理由②	報告と討議（第4節）
第6回	現存在の分析の主題	報告と討議（第9節）
第7回	世界内存在	報告と討議（第12節）
第8回	世界の世界性	報告と討議（第14節）
第9回	世界の内では出会う存在者	報告と討議（第15節）
第10回	世界適合性	報告と討議（第16節）
第11回	指示と記号	報告と討議（第17節）
第12回	適所性と有意義性	報告と討議（第18節）
第13回	現存在とは誰か	報告と討議（第25節）
第14回	共現存在と共存在	報告と討議（第26節）
第15回	自己と世人	報告と討議（第27節）
第16回	情状性としての現存在	報告と討議（第29節）
第17回	了解としての現存在	報告と討議（第31節）
第18回	了解と解釈	報告と討議（第32節）
第19回	不安という根本情状性	報告と討議（第40節）
第20回	気遣いとしての現存在	報告と討議（第41節）
第21回	死の構造	報告と討議（第50節）
第22回	死へとかわる存在	報告と討議（第51節）
第23回	死の完全な概念	報告と討議（第52節）
第24回	死へとかわる本来的存在	報告と討議（第53節）
第25回	気遣いの呼び声としての良心	報告と討議（第57節）
第26回	呼びかけの了解と責め	報告と討議（第58節）
第27回	先駆的決意性としての本来性	報告と討議（第62節）
第28回	気遣いの意味としての時間性	報告と討議（第65節）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。担当者は、割り当てられた箇所のレジュメを教員の指示に従って作成します。参加者は該当箇所を熟読してきます。

【テキスト（教科書）】

M. ハイデガー著、原佑・渡邊二郎訳『存在と時間Ⅰ～Ⅲ』、中公クラシックス、2003年

【参考書】

『存在と時間』の翻訳は数多くありますが、この授業では上記の訳を用います。その他の参考書は適宜授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

担当者としての評価が50%、議論への参加度の評価が50%。上記の到達目標がどれだけ達成されているかが主な評価基準となります。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度を配慮しながら適宜解説を加えつつ授業を進めます。

【Outline (in English)】

(Course outline)
This course deals with Martin Heidegger's *Being and Time*.
(Learning Objectives)
The goal of this course is to understand Heidegger's thought in *Being and Time*.
(Learning activities outside of classroom)
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hours for each class meeting.
(Grading Criteria /Policies)
Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and short reports (50%).

PHL400BB (哲学 / Philosophy 400)		第9回	「上つ巻」を読む	・瀬邇芸命 1 天孫の誕生 2 猿田毘古神 3 天孫降臨 4 猿女の君 5 木花の佐久夜毘売
哲学演習（7）		第10回	「上つ巻」を読む	・火遠理命 1 海幸彦と山幸彦 2 海神の宮訪問 3 火照命の服従 4 鵜葺草葺不合命
山本 伸裕		第11回	「中つ巻」を読む	・神武天皇① 1 東征
授業コード：A2236 曜日・時限：水2/Wed.2		第12回	「中つ巻」を読む	・神武天皇② 2 皇后選定 3 当芸志美美命の反逆
年間授業/Yearly・4単位 配当年次：3・4年		第13回	「中つ巻」を読む	・崇神天皇 1 后妃皇子女 2 神々の祭祀 3 三輪山伝説 4 建波邇安王の反逆 5 初国知らしし天皇 こまでの全体を振り返る。
その他属性：		第14回 第15回	まとめ 「中つ巻」を読む	・垂仁天皇 1 后妃皇子女 2 沙本毘古王の反逆 3 本牟智知瓦王 4 円野比売 5 多遲摩毛理
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		第16回	「中つ巻」を読む	・景行天皇① 1 后妃皇子女 2 大碓命 3 小碓命の西征
『古事記』を読む。日本独自の自然宗教である「神道」には、開祖も聖典も存在しない。神道思想において聖典的な役割を果たしてきたのが『古事記』や『日本書紀』の神話である。この演習では、最古の歴史書の一つ『古事記』を取り上げ、上・中・下巻を通読する。『古事記』はやまと言葉で記述されているが、やまと言葉に込められた原義を丁寧に見ていくことは、古代日本人の思想構造を理解するうえで大いに助けになるはずである。		第17回	「中つ巻」を読む	・景行天皇② 4 小碓命の東伐 5 倭建命の薨去 6 倭建命の子孫
【到達目標】		第18回	「中つ巻」を読む	・仲哀天皇 1 后妃皇子女 2 神功皇后の新羅征討 3 忍熊王の反逆 4 氣比の大神と酒楽の歌
・日本思想を学ぶにあたって、日本語の古典を読み解く基礎力を身につけることができる。		第19回	「中つ巻」を読む	・応神天皇① 1 后妃皇子女 2 大山守命と大雀命 3 矢河枝比売 4 髪長比売
・テキストに含まれている論点を自身で見出すことができるようになる。		第20回	「中つ巻」を読む	・応神天皇② 5 国主の歌・百濟の朝貢 6 大山守命の反逆 7 天之日矛 8 秋山の下氷壮夫と春山の霞壮夫 9 天皇の御子孫
・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として文章化し表現することができるようになる。		第21回	「下つ巻」を読む	・仁徳天皇① 1 后妃皇子女・聖帝 2 皇后の嫉妬・黒日売 3 八田若郎女
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		第22回	「下つ巻」を読む	・仁徳天皇② 4 女烏王と速総別王の反逆 5 雁の卵の祥瑞 6 枯野という船
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連		第23回	「下つ巻」を読む	・履中天皇 1 后妃皇子女 2 墨江中王の反逆 3 水歯別命と曾婆訶理
【授業の進め方と方法】		第24回	「下つ巻」を読む	・允恭天皇 1 后妃皇子女 2 天皇の即位と氏姓の正定 3 輕太子と衣通王
・授業（演習）は毎回対面で行われる。		第25回	「下つ巻」を読む	・安康天皇 1 押木の玉縵 2 日弱王の乱 3 市辺の忍齒王の難
・春学期と秋学期、それぞれのタームで、必ず一回は発表することが求められる。		第26回	「下つ巻」を読む	・雄略天皇 1 后妃皇子女 2 皇后求婚 3 赤猪子 4 吉野 5 葛城山 6 金祖岡・長谷の百枝槻
・演習なので、受け身の姿勢ではなく、自発的・積極的に発言してほしい。				・清寧天皇 1 二王子発見 2 袁邨命と志毘臣
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】				・顕宗天皇 1 置日老嫗 2 御陵の土
あり /Yes				
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】				
なし /No				
【授業計画】 授業形態：対面/face to face				
回	テーマ	内容		
第1回	ガイダンス	・『古事記』について ・読み進め方		
第2回	「上つ巻」を読む	・序第一段 稽古照今 ・序第二段 古事記撰録の発端 ・序第三段 古事記の成立		
第3回	「上つ巻」を読む	・別天つ神五柱 ・神世七代 ・伊邪那岐命と伊邪那美命① 1 国土の修理固成 2 二神の結婚 3 大八島国の生成 4 神々の生成		
第4回	「上つ巻」を読む	・伊邪那岐命と伊邪那美命② 5 火神被殺 6 黄泉の国 7 禊祓と神々の化生 8 三貴子の分治 9 須佐之男命の涕泣		
第5回	「上つ巻」を読む	・天照大神と須佐之男命 1 須佐之男命の昇天 2 天の安の河の誓約 3 須佐之男命の勝さび 4 天の石屋戸 5 五穀の起原 6 須佐之男命の大蛇退治		
第6回	「上つ巻」を読む	・大国主神① 1 稲羽の素戔 2 八十神の迫害 3 根の国訪問		
第7回	「上つ巻」を読む	・大国主神② 4 沼河北売求婚 5 須勢理毘売の嫉妬 6 大国主の神裔 7 少名毘古那神と国作り 8 大年神の神裔		
第8回	「上つ巻」を読む	・葦原中国の平定 1 天菩比神 2 天若日子 3 建御雷神 4 事代主神の服従 5 建御名方神の服従 6 大国主神の国譲り		

第27回	「下つ巻」を読む	・継体天皇 ・欽明天皇 ・敏達天皇 ・用明天皇 ・崇峻天皇 ・推古天皇
第28回	総まとめ	議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

◎事前：自分の発表回でなくても、必ずテキストを読み込んでくること。分らないことがあれば、各自下調べをして演習に臨むこと。事前学習時間の目安：2時間以上

自分の発表回には、準備のために少なくとも12時間の時間をかけて臨むこと。

◎事後：自分の発表に備える意味でも、毎回、それまで読み進んだ内容を整理すること。事後学習時間の目安：2時間以上

【テキスト（教科書）】

倉野憲司校註『古事記』（岩波文庫 黄 1-1）、1963年、岩波書店、960円＋税。
※第89刷まで出ているようだが、何刷でも構わない。

【参考書】

中村啓信訳『新版 古事記 現代語訳付き』（角川ソフィア文庫 A 111-1）、2009年、角川書店、1160円＋税。

【成績評価の方法と基準】

発表担当回の内容の評価（50％）と、演習に取り組む姿勢（演習内での質問、積極的な発言、出席回数など）（50％）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

演習後だけでなく、演習中にも気づきや質問は受け付ける（質問や指摘、学修相談はHoppiiの掲示板機能などを通じて行うことも可能）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

To know the foundation of Japanese thought, we read the Kojiki (『古事記』), as a text. It also enhances the development of student's skill not only in Japanese Philosophy but also in Western Philosophy.

【Learning Objectives】

At the end of this course, students are expected to acquire basic knowledge in Japanese thought or mythology and to learn how to think for myself.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend more than 4 hours to understand the course content.

Students are required to make at least one presentation each term. Your study time will be more than 12 hours for preparing your own presentation paper.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in this class will be calculated according to the following process: Presentation 50%, Attitude towards attending class 50%.

PHL400BB (哲学 / Philosophy 400)

哲学演習 (8)

安東 祐希

授業コード：A2237 | 曜日・時限：火2/Tue.2
年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

数とは何か、数はどのようにして定義されうるものなのか、について学ぶ。ここで考察の対象とする数は、複素数のような「複雑な」数ではない。1や2、あるいは0や-3といった、われわれに大変なじみのある数である。しかしそのなじみのある数、「意味」がよくわかっているつもの数について、あらためてそれが何であるかと問われたらどうか。当たり前に感ずるものである分、かえって返答に窮するかもしれない。例えば、5とは何か、さらに整数($\cdots, -2, -1, 0, 1, 2, \cdots$)とは何か。また、整数が定義できたとして、 2×3 と 3×2 はなぜ等しいのか、一般に整数 a 、 b に対し $a \times b$ と $b \times a$ はなぜ等しいのか。これらを含め、整数の定義、およびそれに従って証明される整数の性質について学んでゆく。

【到達目標】

整数の定義方法を理解し、それを用いて、整数の基本的性質が成り立つことを証明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書に従い、省略されている詳細部分も含め、定義・定理・証明あるいは例を履修者が分担して発表し、それに対して教員および他の参加者により質疑応答を行う。(発表が「課題」であり、質疑応答において「フィードバック」する。)

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	概要説明
第2回	準備 (集合の表現と演算)	教科書「前書き」前半
第3回	準備 (写像と同値関係)	教科書「前書き」後半
第4回	整数の公理 (公理I)	教科書第1章§1序盤
第5回	整数の公理 (公理II)	教科書第1章§1中盤
第6回	整数の公理 (公理I、IIの妥当性)	教科書第1章§1終盤
第7回	一般定理 (定理1.1、定理1.2)	教科書第1章§2序盤
第8回	一般定理 (定理1.3、定理1.4)	教科書第1章§2中盤
第9回	一般定理 (定理1.5、定理1.6)	教科書第1章§2終盤
第10回	無限列としての整数 (定理1.7、定理1.8)	教科書第1章§3序盤
第11回	無限列としての整数 (定理1.9、定理1.10)	教科書第1章§3中盤
第12回	無限列としての整数 (定理1.11、定理1.12、定理1.13)	教科書第1章§3終盤
第13回	加法 (定理1.14、定理1.15、定理1.16)	教科書第1章§4前半
第14回	加法 (定理1.17、定理1.18、定理1.19)	教科書第1章§4後半
第15回	乗法 (定理1.20、定理1.21)	教科書第1章§5序盤
第16回	乗法 (定理1.22、定理1.23)	教科書第1章§5中盤
第17回	乗法 (定理1.24、定理1.25)	教科書第1章§5終盤
第18回	無限列の範疇性 (定理1.26)	教科書第1章§6前半
第19回	無限列の範疇性 (対角線法的操作)	教科書第1章§6後半
第20回	自然数、正負の整数 (Peanoの公理)	教科書第1章§7前半
第21回	自然数、正負の整数 (正と負)	教科書第1章§7後半
第22回	物の数、計量数 (定理1.27)	教科書第1章§8前半
第23回	物の数、計量数 (定理1.28)	教科書第1章§8後半

第24回	無限集合 (定理1.29)	教科書第1章§9前半
第25回	無限集合 (定理1.30)	教科書第1章§9後半
第26回	環 (定理1.31)	教科書第1章§10前半
第27回	環 (指標)	教科書第1章§10後半
第28回	まとめ	整数とは何か (再考)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教科書の定理について、紙に書きながら試行錯誤して自ら証明することを目指し、十分な演習を行うこと。また、発表に際しては、行間の説明や具体例の提示などを含めて準備しておくこと。なお、予復習時間の標準は4時間である。

【テキスト(教科書)】

・高木貞治『数の概念』(岩波書店)改訂版1970年[初版1949年]

なお、上記は現在品切れであるが、次の新装版がある。

・高木貞治『数の概念』(講談社ブルーバックス)2019年

履修にあたって準備する教科書は岩波書店の改訂版、講談社ブルーバックスの新装版のどちらでもよい。

【参考書】

・足立恒雄『数とは何か そしてまた何であったか』(共立出版)2011年

・リヒャルト・デデキント(淵野昌 訳)『数とは何か そして何であるべきか』(ちくま学芸文庫)2013年

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の提示・解題能力を担当箇所の発表内容(60%)において、さらに、目標の問題全般にわたる理解度を他者担当時の質疑応答(40%)において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

担当者による発表の時間と、参加者間の議論の時間との比率がより適切となるよう、工夫したい。

【その他の重要事項】

ゼミの一環として、夏に合宿を行う予定(詳細は年度初めに相談)。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with the definition and some properties of integers.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to answer the following questions:

-How can we define integers?

-Why does it hold that a times b equals b times a for any integers a and b ?

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Final grade will be calculated according to the following process:

Presentation as the person in charge for some parts of the text (60%) and contribution in question-and-answer sections (40%).

PHL400BB (哲学 / Philosophy 400)

哲学演習 (9)

中釜 浩一

授業コード：A2238 | 曜日・時限：火3/Tue.3
年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ：ジョン・サール「意識の神秘」を精読し、クリック・ベンローズ・デネット・チャーマーズらの考え方に対するサールの生物学的自然主義の立場からの批判を通じて、「物理的世界の中にどうして意識が存在できるか」を検討する。

【到達目標】

「意識」に対する種々のアプローチを検討し、テキストの読解やディスカッションを通して現代の心の哲学の議論を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回テキストの分担部分に関して、発表者・反論者・司会者を指名し、担当学生およびフロア側学生による発表・反論・討論によって授業を進める。学生間のディスカッションやディベートを主体とし、教員による解説を適宜挿入する。
本講義の予習復習時間は、授業ノートの整理・課題の執筆・参考文献の読解を合わせて毎回4時間程度を標準とする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	本ゼミの目的・方法・テキストの説明	教員によるゼミの目的・方法の説明
第2回	第1章 生物学的問題としての意識 (1)	意識と生物学
第3回	第1章 生物学的問題としての意識 (2)	中国語の部屋
第4回	第2章 クリック・結びつけ問題 (1)	ニューロンと意識
第5回	第2章 クリック・結びつけ問題 (2)	消去法的唯物論
第6回	第3章 エーデルマンとリエントラント写像 (1)	エーデルマンの議論
第7回	第3章 エーデルマンとリエントラント写像 (2)	脳と意識
第8回	第3章 エーデルマンとリエントラント写像 (3)	クオリア
第9回	第4章 ベンローズ・ゲーデル・細胞骨格 (1)	量子力学と心
第10回	第4章 ベンローズ・ゲーデル・細胞骨格 (2)	ベンローズの議論
第11回	第4章 ベンローズ・ゲーデル・細胞骨格 (3)	不完全性定理と心
第12回	第5章 デネット・否定される意識 (1)	デネットと意識の否定
第13回	第5章 デネット・否定される意識 (2)	多重草稿モデル
第14回	第5章 デネット・否定される意識 (3)	コネクションニズム
第15回	第5章 デネット・否定される意識 (4)	デネット vs. サール
第16回	ここまでのまとめ	要約とディスカッション
第17回	第6章 チャーマーズ・意識する心 (1)	2元論の復活
第18回	第6章 チャーマーズ・意識する心 (2)	チャーマーズの議論
第19回	第6章 チャーマーズ・意識する心 (3)	クオリアの問題
第20回	第6章 チャーマーズ・意識する心 (4)	ハードプロブレム
第21回	第6章 チャーマーズ・意識する心 (5)	チャーマーズ vs. サール

第22回	第7章 ローゼンフィールド・身体イメージと自己 (1)	ローゼンフィールドの議論
第23回	第7章 ローゼンフィールド・身体イメージと自己 (2)	身体と自己
第24回	結論 意識の神秘と意識の問題 (1)	サールの主張の要約
第25回	結論 意識の神秘と意識の問題 (2)	機械は意識を持ちうるか
第26回	結論 意識の神秘と意識の問題 (3)	脳と意識
第27回	結論 意識の神秘と意識の問題 (4)	サールの立場と属性2元論
第28回	全体のまとめ	まとめのディスカッション

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

発表者とコメントータは分担部分に関するレジュメを作成する。
司会者は発表者・コメントータのレジュメをあらかじめ読んだ上で、議論をどう進めていくかのプランを立てる。
フロア側の学生はテキストを精読し、発表者とコメントータのレジュメを読んだ上で、疑問点や反論をまとめておく。
本講義の予習復習時間は、テキストの読解・授業ノートの整理・コメントの執筆を合わせて毎回4時間程度を標準とする。

【テキスト (教科書)】

ジョン・サール「意識の神秘」(新曜社)

【参考書】

ベンローズ「心の影」(みすず書房)
デネット「解明される意識」(青土社)
チャーマーズ「意識する心」(白揚社)
など

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業コメント：40 %
発表と討論への参加：40 %
期末レポート：20 %

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ多くの者が毎回の議論に加われるように、グループディスカッションを工夫する。

【Outline (in English)】

Course outline: This course aims at deepening students' ability to understand modern philosophy of mind and consciousness by reading Searle's book "The Mysteries of Consciousness".
Learning Objectives: To understand human mind and consciousness more deeply and to acquire modern ways of thinking on philosophy of mind.
Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students should carefully read the assigned part of the text and construct their opinions and after each meeting students should write a short paper concerning the topic of the day. Students are expected to spend four hours for each class meeting.
Grading Criteria: In-class activities: 40%, assignments 40% term-end test: 20%

PHL400BB (哲学 / Philosophy 400)

哲学演習 (10)

内山 真莉子

授業コード：A2239 | 曜日・時限：木2/Thu.2
年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

トマス・アキナスの『神学大全』の中から、人間の幸福に関する箇所を抜粋し読解する。西洋中世の神学者であるトマス・アキナスは、古代ギリシャ哲学の理論・概念を用いながらこの世界についてのみならず、神と人間との関係についても理性的に説明することを試みた。『神学大全』はその説明を体系的にまとめた書物であり、主題は多岐にわたる。その中から、人間の究極目的としての幸福について扱っている箇所を読み進めることで、有神論的世界観における人間は何を目的としており、それがどのように神と関わるのかを考察する。

【到達目標】

- ・トマスのテキストの読解を通じて、スコラ哲学の基本的な思想について理解する。
- ・テキストの内容について、自分なりの言葉で説明し直し、他者に共有できる。
- ・他者との議論の中で、自分自身の問題意識を深めることができる。
- ・古典作品を現代的な視点で読み解き、自身の考察に役立てることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①全受講者にそれぞれ担当箇所を割り当て、その箇所について担当者はレジュメを作成し、発表する。
- ②発表内容を元に、受講者全員で質疑応答・議論を行う。
- ③質疑・議論の内容について、適宜教員が補足説明・フィードバックを行う。
- ④授業内での発表や議論の内容に関するリアクションペーパーを各自提出し、次回授業時に共有することで理解を深める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の概要と今後の進め方、予備知識について
第2回	第2-1部第1問題第2項	目的と理性的自然本性
第3回	第2-1部第1問題第4項	人生に究極目的は存在するか
第4回	第2-1部第1問題第5項	ひとりの人間にいくつもの究極目的があるか
第5回	第2-1部第1問題第6項	人間は究極目的のために全てを意志するか
第6回	第2-1部第1問題第7,8項	万人にとって単一の究極目的があるか
第7回	第2-1部第2問題第1項	富と幸福
第8回	第2-1部第2問題第2項	名誉と幸福
第9回	第2-1部第2問題第3項	名声、栄光と幸福
第10回	第2-1部第2問題第4項	権力と幸福
第11回	第2-1部第2問題第5項	身体の善と幸福
第12回	第2-1部第2問題第6項	悦楽と幸福
第13回	第2-1部第2問題第7項	魂の善と幸福
第14回	第2-1部第2問題第8項	被造的な善と幸福
第15回	人間の幸福について	今までの振り返りと今後の内容
第16回	第2-1部第3問題第2項	幸福は働きか
第17回	第2-1部第3問題第3項	幸福は感覚的働きか知性的働きか
第18回	第2-1部第3問題第5項	幸福は観照的知性の働きか実践的知性の働きか
第19回	第2-1部第3問題第8項	人間の幸福は神の本質を観ることか
第20回	第2-1部第4問題第2項	幸福において主要なもの
第21回	第2-1部第4問題第4項	幸福と意志のただしさ
第22回	第2-1部第4問題第5項	人間の幸福と身体
第23回	第2-1部第4問題第8項	幸福と友人
第24回	第2-1部第5問題第2項	ひとりの人間は他の人間より幸福か
第25回	第2-1部第5問題第3項	ひとはこの世の生において幸福か
第26回	第2-1部第5問題第4項	いったん持たれた幸福は失われるか
第27回	第2-1部第5問題第7項	幸福と善き所業
第28回	第2-1部第5問題第8項	万人が幸福を欲するか

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に各授業回の該当箇所を熟読し、疑問点をまとめておく。
各授業回の担当者は、該当箇所を熟読した上でレジュメを作成する。
本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

トマス・アキナス『神学大全』高田三郎・日下昭夫・大鹿一正ほか訳、創文社、1960年。
※図書館にて利用可能であるが、授業内での使用箇所についてコピーを配布する予定。

【参考書】

トマス・アキナス『神学大全Ⅰ・Ⅱ』山田晶訳、中央公論新社、2014年。
『トマス・アキナス』稲垣良典著、講談社、1999年。
『トマス・アキナス『神学大全』』稲垣良典著、講談社、2019年。
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テキスト内容についての理解と、自分なりの疑問点をもつことができているか、論理的に考察することができているか、他者の意見を尊重しつつ自身の考察を深めることができているか、といった観点から、以下の3項目にて評価する。

- ①発表担当時の発表内容：30%
- ②質疑応答・議論への参加、リアクションペーパーの記入：30%
- ③期末レポート：40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course will examine excerpts from Thomas Aquinas' "Summa Theologiae" that focus on human happiness. By exploring these passages, which address happiness as the ultimate goal of human life, the course aims to enhance our understanding of humanity's purpose within a theistic worldview and its relationship to God.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should comprehend the fundamental concepts of medieval philosophy and be able to articulate them in their own words. Additionally, they should deepen their awareness of their own issues through discussions with others.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, it is expected that students will have read the pertinent chapter from the textbook. The individual in charge will create a summary of the chapter after reading it carefully. You are required to dedicate at least four hours to studying for a class.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 40%, Contents of presentation as person in charge: 30%, in-class contribution: 30%

PHL400BB (哲学 / Philosophy 400)

哲学演習 (1 1)

内藤 淳

授業コード：A2240 | 曜日・時限：月2/Mon.2
年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

安藤寿康『なぜヒトは学ぶのか：教育を生物学的に考える』（講談社現代新書、2018年）を精読する。タイトルにある通り、人間にとって「教えること」「学ぶこと」がどのような意味を持つのかを考えるのがテーマであるが、それを生物学や進化心理学、行動遺伝学の観点から「遺伝」を踏まえて考察する。他の動物との比較を通じてヒトという生物の特性を把握し、それに即して、そもそもヒトが社会を形成して生き延びていく上で「教える」「学ぶ」ことがどのような意味を持つのかを考えると共に、教育や学習が「自分にとって」どのような意味を持つのかを受講生に考えてもらおうことがねらいである。あわせて、卒業論文に関する構想報告と書き方の指導を随時行う。

【到達目標】

- (1) 人間という生き物の生態や特性に照らして「教える」「学ぶ」ことの意義が分かるようになる。
(2) それに基づいて、大学を含めた学校や社会の中でモノを学ぶことが、自分が一生を過ごす中でどのような意味を持つかについて、自分なりの理解を持つようになる。
(3) 人間についての科学的な研究や考察を踏まえて、人間とはどういう存在なのかに関する自分なりの「人間観」を持てるようになる。
(4) 論理的な文章を正確に理解する読解力と、その内容をレジュメや図表を使って他の人に分かりやすく説明する力を身に付ける。
(5) 自分の意見を合理的・説得的に説明する力を習得すると共に、他人の意見を聞いてその趣旨を正しく理解する力、それに対して合理的に批判・反論する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回あらかじめ報告者と応答者、小論文担当者を定め、報告者による担当箇所の内容報告と応答者による質問・意見、小論文担当者による自説の主張を中心に、参加者間での討論を行う。それらを通じて、受講生各人の思考力や分析力の鍛錬を図るので、受講生には主体的な授業参加と議論、その前提となる事前の十分な準備・予習を求める。また、期間中に4年生の卒業論文の構想報告とそれについての議論・検討も行う予定である。なお、このでの内容は、「人間の性質や行動」に関する学問的な分析と考察がねらいであって、政治的・宗教的な主張やイデオロギーを唱えたり戦わせたりすることはしないので十分注意すること。授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。開講後の議論・検討状況等に応じて、進度や検討箇所は随時柔軟に設定していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	担当箇所の割り当てや役割分担の説明、授業進行に関する説明・協議など テキスト序章の講読と検討
第2回	教育は何のためにあるのか？	
第3回	人間にとって学習とは？	テキスト 30-46 頁の講読と検討
第4回	人間と他の動物の学習の比較	テキスト 47-64 頁の講読と検討
第5回	模倣学習から教育へ	テキスト 46-83 頁の講読と検討
第6回	狩猟採集民の教育	テキスト 84-106 頁の講読と検討
第7回	「斜めの教育」とおばあさん仮説	テキスト 106-131 頁の講読と検討
第8回	教育と遺伝	テキスト 134-151 頁の講読と検討
第9回	遺伝と環境	テキスト 151-173 頁の講読と検討
第10回	卒業論文構想報告：1 回目（1）	卒業論文のテーマについての報告：4 年生の第1グループ
第11回	卒業論文構想報告：1 回目（2）	卒業論文のテーマについての報告：4 年生の第2グループ
第12回	卒業論文構想報告：1 回目（3）	卒業論文のテーマについての報告：4 年生の第3グループ
第13回	卒業論文構想報告：1 回目（4）	卒業論文のテーマについての報告：4 年生の第4グループ
第14回	卒業論文構想報告：1 回目（5）	卒業論文のテーマについての報告：4 年生の第5グループ
第15回	遺伝と学力	テキスト 174-190 頁の講読と検討
第16回	多重知能モデル	テキスト 190-209 頁の講読と検討

第17回	卒業論文構想報告：2 回目（1）	卒論の内容構成の報告と検討：4 年生の第1グループ
第18回	卒業論文構想報告：2 回目（2）	卒論の内容構成の報告と検討：4 年生の第2グループ
第19回	卒業論文構想報告：2 回目（3）	卒論の内容構成の報告と検討：4 年生の第3グループ
第20回	卒業論文構想報告：2 回目（4）	卒論の内容構成の報告と検討：4 年生の第4グループ
第21回	遺伝を踏まえた学習の意味	テキスト 210-224 頁の講読と検討
第22回	知識と脳	テキスト 226-245 頁の講読と検討
第23回	卒業論文構想報告：3 回目（1）	卒論の中心主張の報告と検討：4 年生の第1グループ
第24回	卒業論文構想報告：3 回目（2）	卒論の中心主張の報告と検討：4 年生の第2グループ
第25回	卒業論文構想報告：3 回目（3）	卒論の中心主張の報告と検討：4 年生の第3グループ
第26回	卒業論文構想報告：3 回目（4）	卒論の中心主張の報告と検討：4 年生の第4グループ
第27回	脳の機能と遺伝	テキスト 245-258 頁の講読と検討
第28回	あなたにとっての教育と学習	テキスト 258-274 頁の講読と検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告者は、担当回の授業までに担当箇所の内容を整理し、レジュメを作成する。応答者は担当箇所に関する疑問点・問題点をまとめておく。小論文担当者は、担当箇所を読み、その内容について自分の考えを論じた小論文を書く。その他の参加者は、テキストを予習すると共に、指示した参考書などを読んで内容を把握しておく。報告者をはじめいずれの立場においても、テキストの内容について「分かったところ」「分からないところ」を正確且つ具体的に特定できるよう求めるので、中途半端でない十分な読解を予習として行うこと。詳細は授業の中で説明する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

安藤寿康『なぜヒトは学ぶのか：教育を生物学的に考える』講談社現代新書、2018年

【参考書】

安藤寿康『遺伝子の不都合な真実：すべての能力は遺伝である』ちくま新書、2012年
橘玲・安藤寿康『運は遺伝する：行動遺伝学が教える「成功法則」』NHK出版新書、2023年
長谷川寿一・長谷川眞理子・大槻久『進化と人間行動（第2版）』東京大学出版会、2022年
その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

①担当回の報告内容、②執筆小論文の内容、③討論への参加状況・議論内容により、「到達目標」で示した(1)～(5)の達成度を評価する。評価割合は①②の点数が80%（①②のいずれか自身が担当したもの）、③が20%の予定である。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の意見やコメントを積極的に取り上げて、討論での検討の材料にしたい。

【その他の重要事項】

授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)
This course deals with "education" and "learning" in the perspective of evolutionary psychology and behavioral genetics. The main content of this class is to examine why do humans learn and why do humans teach. (Learning Objectives)
The goals of this course are to understand the meaning of learning and teaching for human nature. At the end of the course, students are expected to understand the significance of "teaching" and "learning" in light of human nature. (Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content including writing short essays on the content of each class. (Grading Criteria/Policy)
Final Grade will be decided based on assigned essays, presentations at seminars (80% each in charge of either) and contribution in class discussion (20%).

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

科学哲学 1

中釜 浩一

授業コード：A2241 | 曜日・時限：木3/Thu.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

正しく論証を組み立て、間違った議論を見分ける技能は、あらゆる分野において重要だが、現代論理学のシステムを実際の議論に応用することは必ずしも容易ではない。科学哲学 1 では、直観的な理解が容易で、議論への応用に最も適していると思われる「タブロー法」の技法を習得し、論理的な議論を組み立て反論するための技法に熟達することを目指す。

【到達目標】

タブロー法を用いた論証の妥当性の判定や証明のテクニックに習熟する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎回練習問題を課する。
授業の冒頭で、前回の練習問題の解答を解説し、補足説明を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論理と言語	論理の目的
第2回	命題論理とタブロー法 (その1)	命題論理と記号言語
第3回	命題論理とタブロー法 (その2)	記号化のポイント
第4回	命題論理とタブロー法 (その3)	タブロー法と推理規則
第5回	命題論理とタブロー法 (その4)	タブロー法による妥当性の判定
第6回	命題論理とタブロー法 (その5)	タブロー法の補助規則
第7回	命題論理とタブロー法 (その6)	中間テストと解説
第8回	述語論理とタブロー法 (その1)	述語論理とは何か
第9回	述語論理とタブロー法 (その2)	記号化とモデル
第10回	述語論理とタブロー法 (その3)	述語タブロー
第11回	述語論理とタブロー法 (その4)	述語タブローと論証の妥当性
第12回	述語論理とタブロー法 (その5)	タブローも用いた証明の方法
第13回	述語論理とタブロー法 (その6)	述語論理の完全性
第14回	まとめ	期末テストと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容を整理し、課題として出される練習問題を解いて提出する。
論理学の参考文献を自分で読み進める。
本講義の予習復習時間は、授業ノートの整理・課題の執筆・参考文献の読解を合わせて毎回4時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

Wilfreid Hodges, Logic (penguin books)
リチャードジェフリー「形式的論理学」（産業図書）
中釜他「論理学の初歩」（梓出版）

【成績評価の方法と基準】

課題の提出 40 %
中間試験 30 %
期末の試験 30 %

【学生の意見等からの気づき】

練習問題の解説を丁寧に行う。

【その他の重要事項】

・科学哲学 2 は科学哲学 1 の発展なので科学哲学 1 と合わせて年間受講することが望ましい。
・ILAC 科目として受講する学生には定員があるので、初回の授業に必ず出席し教員の説明を聞くこと。

・文学部哲学科生以外が本科目を受講する場合、「科学哲学 1」は「科学論 L A」、「科学哲学 2」は「科学論 L B」に読み替えること。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with the first order logic in terms of the tableau method.

Learning Objectives: To acquire skills to construct valid arguments and criticize invalid reasonings.

Learning activities outside of classroom: After each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the day's content and to solve problems of exercise.

Grading Criteria: assignments: 40%, mid-term examination: 30%, term-end examination: 30%

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

科学哲学2**中釜 浩一**

授業コード：A2242 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様相の概念（必然、偶然、可能、不可能）は、言語の意味理解、原因結果の概念、責任や義務の分析等々、現代の重要な諸問題を展開する上で必須の概念的装置である。科学哲学2では、科学哲学1に引き続いて、様相概念の意味と、それに関わる論理に習熟することを目指し、様相体系K、T、S4、S5への展開を扱う。

【到達目標】

科学哲学1の十分な理解を前提とした上で、タブローの方法の様相論理の体系K、T、S4、S5への拡張してその技法に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎回練習問題を課する。
各回の授業の冒頭で前回の課題の解答と補足解説を与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	タブロー法に関する復習	タブロー法のポイント
第2回	様相とは何か (その1)	様相概念の説明
第3回	様相とは何か (その2)	可能世界の概念
第4回	体系K (その1)	Kの説明
第5回	体系K (その2)	Kタブロー
第6回	体系K (その3)	Kタブローによる証明
第7回	中間まとめ	中間テストと解説
第8回	体系T (その1)	KとTの違い
第9回	体系T (その2)	Tタブローと証明
第10回	体系S4 (その1)	S4の説明
第11回	体系S4 (その2)	S4タブローと証明
第12回	体系S5 (その1)	S5の説明
第13回	体系S5 (その2)	S5タブローと証明
第14回	まとめ	期末テストと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ノートを整理し、練習問題を解いて提出する。
論理学の参考文献を読み進める。
本講義の予習復習時間は、授業ノートの整理・課題の執筆・参考文献の読解を合わせて毎回4時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

リチャードジェフリー「形式的論理学」（産業図書）
中釜他「論理学の初歩」（梓出版）
Priest, An Introduction to Non-Classical Logic

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題：40 %
中間試験：30 %
期末の試験：30 %

【学生の意見等からの気づき】

練習問題の解説を丁寧に行う。

【その他の重要事項】

・科学哲学1の内容の理解を前提とするので、科学哲学1を受講しておくか、参考文献によってタブロー法に習熟しておくこと。
・ILAC科目として受講する学生には定員があるので、初回の授業には必ず出席すること。
・文学部哲学科生以外が本科目を受講する場合、「科学哲学1」は「科学論L A」、「科学哲学2」は「科学論L B」に読み替えること。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with some systems of modal logic in terms of the tableau method.

Learning Objectives: To acquire the skill to construct valid arguments and criticize invalid reasonings.

Learning activities outside of classroom: After each class meeting, students are expected spend four hours to understand the content and to solve problems of exercise.

Grading Criteria: assignments: 40%, mid-term examination: 30%, term-end examination: 30%

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

現代思想2 (フランスの思想) 1

大池 惣太郎

授業コード：A2245 | 曜日・時限：金5/Fri.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ジョルジュ・バタイユの思想と東洋哲学 (特に禅) の接点について考察します。主に、バタイユの後期の神秘主義関連著作と、鈴木大拙や井筒俊彦といった禅思想家、東洋研究者の著作を、思想的に交差させながら読み解いていきます。その作業を通じて、バタイユ思想および20世紀フランス思想のいくつかの争点や射程、問題点を学ぶことが授業目的。

【到達目標】

- (1) バタイユの神秘主義思想と東洋哲学の接点について、用語や問いの射程を含めた基本的な理解を得ること。
- (2) また、レポートや発表を通じて、学んだ知見を一定程度の水準で哲学的に考察、議論、論述できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・参加者全員が指定されたテキストを読んだ上で授業に参加する。
- ・各自、課題範囲についてコメント・質問事項を準備する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	バタイユの神秘主義と東洋思想の接点について
第2回	「第一の前提」読解	バタイユにおける神秘体験の (無) 原則
第3回	「非知」読解	「非-知」について
第4回	「真面目さの彼方」読解1	「到来しないもの」について
第5回	「真面目さの彼方」読解2	言葉の道徳主義とその彼岸について
第6回	「純然たる幸福」読解1	「笑い」について
第7回	「純然たる幸福」読解2	生の意味について
第8回	『意識と本質』講読1	「無」について
第9回	『意識と本質』講読2	井筒俊彦についてのイントロダクション
第10回	『意識と本質』講読3	現象学と仏教思想
第11回	『意識と本質』講読4	「本質」論について
第12回	『意識と本質』講読5	直感知について
第13回	『意識と本質』講読6	已発と未発について
第14回	『意識と本質』講読7	「窮理」と非知について

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・指定された文献をあらかじめ読んで授業に参加すること。
- ・本授業は準備学習2時間、復習時間2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

ジョルジュ・バタイユ『純然たる幸福』(酒井健訳、ちくま学芸文庫、2009年)、井筒俊彦『意識と本質 精神的東洋を求めて』(岩波文庫、1991年)、鈴木大拙『東洋的な見方 (新編)』(岩波文庫、1997年)

【参考書】

ジャン=リュック・ナンシー『神的な様々の場』(大西雅一郎訳、松籟社、2001年)、モーリス・ブランショ『終わりなき対話 II 限界-経験: 経験』(湯浅博雄他訳、筑摩書房、2017年)、ロラン・バルト『《中性》について ロラン・バルト講義集成: コレージュ・ド・フランス講義2 (1977-1978年度)』(塚本昌則訳、筑摩書房、2006年)

【成績評価の方法と基準】

平常点 (議論への参加度、発表) 70%とレポート30%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to explore the intersection between Georges Bataille's mystical philosophy and Eastern philosophy, particularly Zen thought. By examining prior research on this topic, the course will primarily focus on Bataille's later mystical works, and engage with the writings of Zen thinkers and Eastern scholars such as Daisetsu Suzuki and Toshihiko Izutsu. Through this, we will analyze these texts from a historical-philosophical perspective, shedding light on the key debates, scope, and issues within 20th-century French thought, offering a fresh perspective on these intellectual developments.

Before each class, students are expected to have read the designated text. This course is designed with a standard of two hours of preparatory study and two hours of review.

Evaluation will be based on class presentations and participation (70%), and the final report (30%).

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

現代思想2 (フランスの思想) 2

大池 惣太郎

授業コード：A2246 | 曜日・時限：金5/Fri.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ジョルジュ・バタイユの思想と東洋哲学 (特に禅) の接点について考察します。主に、バタイユの後期の神秘主義関連著作と、鈴木大拙や井筒俊彦といった禅思想家、東洋研究者の著作を、思想的に交差させながら読み解いていきます。その作業を通じて、バタイユ思想および20世紀フランス思想のいくつかの争点や射程、問題点を学ぶことが授業目的。

【到達目標】

- (1) バタイユの神秘主義思想と東洋哲学の接点について、用語や問いの射程を含めた基本的な理解を得ること。
- (2) また、レポートや発表を通じて、学んだ知見を一定程度の水準で哲学的に考察、議論、論述できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・参加者全員が指定されたテキストを読んだ上で授業に参加する。
- ・各自、課題範囲についてコメント・質問事項を準備する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	西洋的「無」、東洋的「空」
第2回	『意識と本質』講読8	「本質直感」について／バタイユの直接経験について
第3回	『意識と本質』講読9	禅における言語的意味の問題
第4回	『意識と本質』講読10	「対話」について (ブランショの観点から)
第5回	『東洋の見方』講読1	「妙」について／狂気と半自然
第6回	『東洋の見方』講読2	「自由」について／実存論の行き詰まり
第7回	『東洋の見方』講読3	「無位の真人」について／バタイユの主権性
第8回	『東洋の見方』講読4	「詩」について (供犠と無意味)
第9回	『東洋の見方』講読5	「宗教的経験」について
第10回	東洋と西洋の主体論	ポスト主体論と東洋哲学
第11回	東洋と西洋の自由論	自由と非従属
第12回	東洋と西洋の言語観	言語論的転回の二側面
第13回	東洋と西洋の知	東洋「哲学」は可能か／バタイユは「哲学者」か
第14回	総括	今学期のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・指定された文献をあらかじめ読んで授業に参加すること。
- ・本授業は準備学習2時間、復習時間2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

ジョルジュ・バタイユ『純然たる幸福』(酒井健訳、ちくま学芸文庫、2009年)、井筒俊彦『意識と本質 精神的東洋を求めて』(岩波文庫、1991年)、鈴木大拙『東洋的な見方 (新編)』(岩波文庫、1997年)

【参考書】

ジャン＝リュック・ナンシー『神的な様々の場』(大西雅一郎訳、松籟社、2001年)、モーリス・ブランショ『終わりなき対話 II 限界-経験: 経験』(湯浅博雄他訳、筑摩書房、2017年)、ロラン・バルト『〈中性〉について ロラン・バルト講義集成: コレージュ・ド・フランス講義2 (1977-1978年度)』(塚本昌則訳、筑摩書房、2006年)

【成績評価の方法と基準】

平常点 (議論への参加度、発表) 70%とレポート30%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to explore the intersection between Georges Bataille's mystical philosophy and Eastern philosophy, particularly Zen thought. By examining prior research on this topic, the course will primarily focus on Bataille's later mystical works, and engage with the writings of Zen thinkers and Eastern scholars such as Daisetsu Suzuki and Toshihiko Izutsu. Through this, we will analyze these texts from a historical-philosophical perspective, shedding light on the key debates, scope, and issues within 20th-century French thought, offering a fresh perspective on these intellectual developments.

Before each class, students are expected to have read the designated text. This course is designed with a standard of two hours of preparatory study and two hours of review.

Evaluation will be based on class presentations and participation (70%), and the final report (30%).

ART200BB (芸術学 / Art studies 200)

美学・芸術学 I

吉田 敬介

授業コード：A2247 | 曜日・時限：金2/Fri.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、哲学の一分野としての「美学」の成立と展開を概観します。「美学」(aesthetics)は、西洋近代哲学の歴史と共に、「感性的認識の学」かつ「美しいものの学」として、独自の展開を遂げました。授業ではまず、古代ギリシャ以来の芸術論を踏まえた上で、特に近世・近代の哲学者たち（デカルト、ライプニッツ、バウムガルテン、ヘルダーら）の議論の中で「美学」が成立するプロセスを確認します。その上で、カント、シラー、ヘーゲルらにおいて、「美学」が体系化し独自の重要性を帯びていくその諸相を見ていきます。なお扱う内容に応じて実際の芸術作品にも言及はしますが、芸術作品（やその歴史）それ自体はこの授業の主題でないことには注意してください。授業においては、あくまでも哲学の一分野としての「美学」について基本的な知識を獲得することが目指されます。

【到達目標】

- (A) 近代哲学における美学の展開を、理解できる。
- (B) 美学の内容を、哲学の一分野として考察できる。
- (C) 美学について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示（必要に応じて配布）します。

毎回の授業時にリアクションペーパーの提出を求める他、学期末には授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学期末課題もしくは試験の内容は授業で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システムを確認するをお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の確認
第2回	そもそも「美学」とは？	「美的なものの学」としての「美学」への問い
第3回	「美学」前史（1）	プラトンの美の哲学と詩人追放論
第4回	「美学」前史（2）	アリストテレス『詩学』と「ミメシス」論
第5回	「美学」の背景（1）	近代化における「芸術」と「美」の変化
第6回	「美学」の背景（2）	デカルトと否定的感性論
第7回	「美学」の誕生（1）	ライプニッツと「混然たる認識」の肯定
第8回	「美学」の誕生（2）	バウムガルテンと「感性的認識の学」としての美学
第9回	「美学」の誕生（3）	ヘルダーの「触覚の美学」と力の表現
第10回	「美学」の展開（1）	カントの「美的判断力」論と「天才」概念
第11回	「美学」の展開（2）	カントの「崇高」論とシラーの「美的教育」綱領
第12回	「美学」の展開（3）	ヘーゲルの芸術の哲学
第13回	「美学」の誕生と展開	学習事項のまとめと展望
第14回	課題もしくは試験	学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。授業で扱われる各トピックについて、教科書や参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、教科書や参考文献を参照しつつ内容をまとめ直しておくことが望まれます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】

- ・小田部胤久『西洋美学史』東京大学出版会
- ・井奥陽子『近代美学入門』筑摩書房〔ちくま新書〕
- ・クリストフ・メンケ『力 美的人間学の根本概念』杉山卓史／中村徳仁／吉田敬介（訳）、人文書院
- ・ウード・クルターマン『芸術論の歴史』神林恒道／太田喬夫（訳）、勁草書房
- ・『美学の事典』美学会（編）、丸善出版

その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点（リアクションペーパーの提出、その他の授業への取り組みなどの総合評価）40％、学期末課題もしくは試験の評価60％です。成績評価に際しては、【到達目標】（A）～（C）を基準とし、その達成度合いを考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・リアクションペーパーを参照し、わかりにくい概念や思想内容、歴史的背景について丁寧に説明するよう努めます。
- ・必要に応じて、授業内容に関連した参考文献等を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期、合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with the development of aesthetics in the context of modern philosophy.

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand the development of aesthetics, (B) examine it philosophically, and (C) explain it properly.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on inclass contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

ART200BB（芸術学 / Art studies 200）

美学・芸術学2

吉田 敬介

授業コード：A2248 | 曜日・時限：金2/Fri.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、19世紀から20世紀にかけての芸術や美的経験をめぐる議論を概観します。

近代における「美学」の確立以来、芸術における美的経験は、きわめて重要な意義を持つものと見なされるようになりました。芸術や美的経験は、一方で現実社会からの解放をもたらす自律したものとして賞賛されるようになり、他方で歴史的・社会的状況に応じた独特の機能を果たすものとして注目されるようになったのです。授業においては、19世紀から20世紀にかけてのこうした議論の諸相を参照しつつ、時に作品そのものに目を向けながら、「社会に対する社会的アンチテーゼ」としての芸術のあり方について考察します。そこからさらに、芸術や美的経験のポテンシャルについて検討したいと思います。

【到達目標】

- (A) 19世紀・20世紀の芸術論の展開を、理解できる。
- (B) 授業で扱った芸術論の内容を、実際の作品や現実の社会と関連させて考察できる。
- (C) 授業で扱った芸術論について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示（必要に応じて配布）します。

毎回の授業時にリアクションペーパーの提出を求める他、学期末には授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学期末課題もしくは試験の内容は授業で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システムを確認するようにお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の確認
第2回	近代美学の成立と芸術論	近代美学史の確認と、19-20世紀の議論の導入
第3回	芸術と美的経験（1）	ショーペンハウアーと美的「観照」
第4回	芸術と美的経験（2）	キルケゴールと美的な生への批判
第5回	美的経験の両義性（1）	ニーチェ『悲劇の誕生』における芸術論
第6回	美的経験の両義性（2）	ニーチェのヴァーグナー批判と「芸術家」論
第7回	大衆文化と美的経験（1）	20世紀における芸術の変化と批判理論
第8回	大衆文化と美的経験（2）	ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』と大衆文化の両義性
第9回	大衆文化と美的経験（3）	『啓蒙の弁証法』における「文化産業」批判
第10回	社会的なものとしての芸術（1）	アドルノの美学とモダニズム
第11回	社会的なものとしての芸術（2）	「アウシュヴィッツ以後」の芸術への問い
第12回	社会的なものとしての芸術（3）	クラカウアーの映画論とボイスの「挑発」
第13回	19-20世紀の芸術論と美的経験	学習事項のまとめと展望
第14回	課題もしくは試験	学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

授業で扱われる各トピックについて、教科書や参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、教科書や参考文献を参照しつつ内容をまとめ直しておくことが望まれます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】

- ・ヴァルター・ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」（『ベンヤミン・コレクション① 近代の意味』浅井健二郎（編訳）／久保哲司（訳）、筑摩書房〔ちくま学芸文庫〕所収）
 - ・テオドール・W・アドルノ『模範像なしに 美学小論集』竹峰義和（訳）、みすず書房
 - ・伊藤守（編）『メディア論の冒険者たち』東京大学出版会
 - ・ウッド・クルターマン『芸術論の歴史』神林恒道／太田喬夫（訳）、勁草書房
 - ・『美学の事典』美学会（編）、丸善出版
- その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点（リアクションペーパーの提出、その他の授業への取り組みなどの総合評価）40％、学期末課題もしくは試験の評価60％です。成績評価に際しては、【到達目標】（A）～（C）を基準とし、その達成度合いを考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・リアクションペーパーを参照し、わかりにくい概念や思想内容、歴史的背景について丁寧に説明するよう努めます。
- ・必要に応じて、授業内容に関連した参考文献等を紹介しします。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期、合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with the development of art theory in the 19th and 20th centuries.

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand the development of art theory, (B) examine it from historical and social perspectives, and (C) explain it properly.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on inclass contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

PHL200BB（哲学 / Philosophy 200）

東洋哲学史 1

計良 隆世

授業コード：A2249 | 曜日・時限：火4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド大乘仏教思想展開史
この授業では、インド大乘仏教思想、特に徹底的な空思想を説く中観思想の展開史を扱います。中観思想展開史を中心に扱いながら、中観派という学派とその学説の成立に大きな影響を与えた、大乘仏教の瑜伽行唯識学派の思想と思想史についても説明します。

【到達目標】

・初期・中期・後期の中観思想のそれぞれの思想的特徴を理解する。
・経典に説かれる「唯心」等の教えについての、瑜伽行派と中期と後期中観派における解釈の相違を理解する。
・後期中観思想が企てた、仏教諸思想の序列化（哲学階梯）とその方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式。毎回、教科書と資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。

単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（3～4回実施予定）。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	この授業について インド仏教の成立と展開 仏教思想の多様性・多様化
第2回	大乘仏教思想を理解するための予備知識（1）	縁起・此縁性
第3回	大乘仏教思想を理解するための予備知識（2）	修行論上の目標と実践方法 「空」とは何か？ 人無我と法無我
第4回	初期中観思想（1）	ナーガールジュナの歴史的位置付け 『中論』により果たした役割
第5回	初期中観思想（2）	『宝行王正論』に説かれる中観思想と倫理思想
第6回	瑜伽行唯識学派（1）	学派展開史： 論師と論書 三性・三無性説 識の転変
第7回	瑜伽行唯識学派（2）	唯識説： 認識対象についての考察
第8回	瑜伽行唯識学派（3）	唯識説： 心・心作用
第9回	中期中観思想（1）	瑜伽行派との対立： 「唯心」の解釈 パーヴィヴェーカ
第10回	中期中観思想（2）	チャンドラキールティ
第11回	後期中観思想（1）	ジュニャーナガルバ
第12回	後期中観思想（2）	シャーンタラクシタ カマラシーラ 三性・三無性解釈
第13回	後期中観思想（3）	唯心解釈 道・瞑想の階梯
第14回	授業内試験	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

授業前学習：テキスト・プリント資料の精読

授業後学習：授業内容の確認、参考文献の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】

計良龍成著『中道を生きる：中観』、春秋社、2023年、¥2200＋税
その他の文献資料はプリントで配布します。

【参考書】

桂紹隆・斎藤明・下田正弘・末木文美士編『シリーズ大乘仏教6 空と中観』、春秋社、2012年
桂紹隆・斎藤明・下田正弘・末木文美士編『シリーズ大乘仏教7 唯識と瑜伽行』、春秋社、2012年

桂紹隆・斎藤明・下田正弘・末木文美士編『シリーズ大乘仏教9 認識論と論理学』、春秋社、2012年

その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末授業内筆記試験の成績（60％）と授業内容確認小テストの成績（30％）と平常点（10％）により評価します。

学期末試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。

試験の評価基準は、仏教専門用語の意味を正確に理解しているか、問題とする思想・学説を正しく理解し丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史における意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか（恣意的で偏った見方で評価していないか）、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】

殆どの学生にとって、インド大乘仏教の思想と思想展開史を授業で学ぶのは初めてのことと思います。専門用語の説明も含め、解説は丁寧にを行います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）。

【Outline (in English)】

This is a course to learn the history of Mahayana Buddhist philosophy in India. This course mainly deals with the historical development of Madhyamaka philosophy.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. Characteristics of early, middle, and later Madhyamaka philosophy.
 2. Differences in the interpretation of teachings such as mind-only between Yogācāra and the middle and later Mādhyamika schools.
 3. The ordering or hierarchization of Buddhist philosophies established by the later Mādhyamika school in order to attain the wisdom of truth.
- Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

東洋哲学史 2

山本 伸裕

授業コード：A2250 | 曜日・時限：水3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の日本社会に身を置きながら、共時的な思想課題に向き合うには、まずもって自らが抱えて立つ思想的足場となる東洋哲学について知っておくことは、不可欠な前提と言える。この講義では、インドや中国の思想哲学、およびそれらの影響下に形成された日本の諸思想を広く学んでいく。

【到達目標】

◎古代インドや古代中国を源流とし、日本の思想文化に影響を与えた諸思想について知識を深めることができる。

◎日本に根付いた諸思想のエッセンスを、古代から近代まで幅広く学ぶことができる。

◎思想史の観点から、東洋の哲学を概観することのできる野をもつことができる。

◎近現代の社会が直面している思想的課題が何であるかについて、自分なりの思索を展開できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

◎対面による講義形式で行います。

◎毎回、リアクションペーパーを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 〈「東洋哲学史」を学ぶにあたって〉	I. 「東洋哲学」の誕生 II. アジアに「哲学」はあるか？ III. 寄せられる疑義 IV. 自ら「哲学」するために V. 世界の中のインド
第2回	インド篇① 〈バラモン教〉	1) インド思想文化圏 2) 日本人とインド思想 3) 対ユダヤ・キリスト教文化 II. ヴェーダ聖典 1) 初期ヴェーダ 2) プラーフマナ文獻 3) ウパニシャッドの哲学 III. インドの哲学・宗教 1) 四姓制度 2) 反ヴェーダの思想 3) 六派哲学
第3回	インド篇② 〈原始仏教〉	I. 釈尊の生涯 1) 四門出遊 2) 成道 3) 原始仏典の成立 II. 仏陀の見たもの 1) 見（ドグマ）の否定 2) 因縁縁起 3) 仏陀となる道 III. アビダルマの哲学 1) 根本分裂 2) 論蔵の成立 3) 法実有論
第4回	インド篇③ 〈大乘仏教の興隆〉	I. 大乘仏教運動 1) 自閉するサンガ 2) 大乘と小乗 3) 菩薩の願 II. 初期大乘經典 1) 『般若経』 2) 『法華経』 3) 『華嚴経』 III. 中観の思想 1) 空の哲学龍樹 2) 中観派の展開 3) 三昧（禪定）の実践
第5回	インド篇④ 〈インド哲学の展開〉	I. 大乘仏教の展開 1) 悉有仏性 2) 如来蔵思想 3) 浄土の思想 II. 唯識の思想 1) 瑜伽行唯識 2) 唯識の哲学 3) 唯識から禪仏教へ III. ヒンドゥー教の形成 1) バラモン教の復興 2) 秘密仏教 3) インド仏教の滅亡

第6回	中国篇① 〈諸子百家の思想〉	I. 百家争鳴の時代 1) 天人の相関 2) 諸子百家 3) 墨子の思想 II. 孔子の思想 1) 儒家の形成 2) 人倫の道 3) 徳治政治 III. 性善説と性悪説 1) 孟子と荀子 2) 仁義の道 3) 礼治主義
第7回	中国篇② 〈中国思想の展開〉	I. 老子の思想哲学 1) 道家の形成 2) 自然の道 3) 理想社会 II. 荘子の思想哲学 1) 万物斉同 2) 無用の用 3) 真人 III. 新儒学 1) 新儒学の提唱 2) 朱熹の思想 3) 王陽明の思想
第8回	中国篇③ 〈中国仏教の形成〉	I. 道家の思想と仏教 1) 黄老思想 2) 玄学の流行 3) 格義仏教 II. 中国天台の思想 1) 教相判釈 2) 天台の世界観 3) 天台の行法 III. 華嚴宗と華嚴の哲学 1) 地論宗と摂論宗 2) 華嚴の教判 3) 法界縁起
第9回	中国篇④ 〈中国仏教の展開〉	I. 禪仏教の成立 1) 華嚴と禪 2) 達磨大師の禪 3) 北宗禪と南宗禪 II. 浄土教の隆盛 1) 往生思想 2) 曇鸞・道綽の思想 3) 善導の思想 III. 密教の隆盛と衰退 1) 顕教と密教 2) 両界曼荼羅 3) 中国密教の衰退
第10回	日本篇① 〈神道の世界〉	I. 神道と日本人 1) 八百万の神 2) 日本の習俗 3) 日本人の宗教心 II. 記紀神話 1) 天地創造 2) 罪と穢れ 3) 天孫降臨 III. 神道の思想 1) 神仏習合 2) 惟神の道 3) 神社の縁起
第11回	日本篇② 〈仏教文化の形成と発展〉	I. 仏教伝来 1) 仏教公伝 2) 崇仏論争 3) 仏教興隆の詔 II. 南都仏教 1) 南都六宗 2) 鎮護国家思想 3) 南都仏教の腐敗 III. 北嶺の仏教 1) 伝教大師・最澄 2) 弘法大師・空海 3) 末法意識の高まり
第12回	日本篇③ 〈仏教思想の展開〉	I. 鎌倉期の仏教 1) 浄土教系 2) 禅宗系 3) 日蓮宗および旧仏教 II. 仏教と文学 1) 無常の文学 2) 隠遁者の文学 3) 五山文学 III. 世法との共存 1) 世法と仏法 2) 仏教とキリスト教 3) 馴化された仏教
第13回	日本篇④ 〈近世の諸思想〉	I. 日本の朱子学 1) 禅僧から朱子学へ 2) 林羅山の思想 3) 古学・古義学・古文辞学 II. 庶民の思想 1) 石門心学 2) 報徳思想 3) 自然世 III. 日本の陽明学 1) 中江藤樹の思想 2) 社会批判 3) 吉田松蔭の思想
第14回	授業内試験	実質的にはまとめのレポートに近い。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

◎事前：参考文献などに目を通すなどして基本的知識を確認する

事前学習時間の目安：約2時間

◎事後：配布されたレジュメに沿って、講義の内容を復習する。

◎事後：単元ごとにリアクションペーパーを作成する。

事後学習時間の目安：約2時間

【テキスト（教科書）】

◎特になし。

【参考書】

◎早島鏡正『インド思想史』（東京大学出版会、1982年）

◎平川彰『仏教通史—インド・中国・日本』（春秋社、2006年）

◎木村清孝『中国仏教思想史（パープル叢書）』（世界聖典刊行協会、1979年）

◎中島隆博『中国哲学史—諸子百家から朱子学、現代の新儒家まで（中公新書）』（中央公論新社、2022年）

- ◎大野達之助『新稿日本仏教思想史』(吉川弘文館、1973年)
- ◎末木文美士『日本仏教史—思想史としてのアプローチ(新潮文庫)』(新潮社、1996年)
- ◎和辻哲郎『日本倫理思想史(岩波文庫、全4巻)』(岩波書店、2011～2012年)
- ◎清水正之『日本思想全史(ちくま新書)』(筑摩書房、2014年)
- ◎藤田正勝『日本哲学入門(講談社現代新書)』(講談社、2024年)

【成績評価の方法と基準】

- ◎期末試験：75%

※第13回目の講義終了後にテーマを提示するので、あらかじめ考えをまとめて、教室で授業時間内に各自レポートを作成する。持ち込み不可。

- ◎リアクションペーパー：25%

【学生の意見等からの気づき】

◎毎回授業の初めに前回のリアクションペーパーの中からいくつか学生のコメントをピックアップして紹介する。重要な質問などについてはその場で答える。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with the Philosophy of India, China and Japan. It also enhances the development of student's skill in Western Philosophy.

【Learnig Objectives】

At the end of this course, students are expected to acquire basic knowledge in Asian thought and to learn how to think for myself.

【Learnig activities outside of classroom】

Students will be expected to submit a short report after finishing each section. Your study time will be more than four hours for writing a paper.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in this class will be calculated according to the following process: Short reports 25%, Term-end report 75%.

PHL200BB（哲学 / Philosophy 200）

宗教学 1（伝統宗教） 1**松本 力**

授業コード：A2251 | 曜日・時限：木3/Thu.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宗教学の準備として、三大宗教（仏教、キリスト教、イスラーム）を学ぶ。

【到達目標】

学生は、この授業を通して、宗教についての基本的な知識を獲得し、説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を受け、学習支援システム上で「課題」に答えることが、この授業の進め方になります。

皆さんの解答に対して個別にコメントすることはありませんが、質問を書き込んでおいてもらえば、次回の授業開始時までに学習支援システムで返答します。また、質問がなかったとしても、授業内容の補足などを学習支援システム内で行うこともあるので、授業日には学習支援システムをチェックしておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	宗教学とはどのような学問か	宗教学を学ぶために、予備作業としての宗教の知識を獲得する。
第2回	仏教①	仏陀について
第3回	仏教②	仏陀の教えについて
第4回	仏教③	仏教が目指したもの
第5回	キリスト教①	旧約聖書について
第6回	キリスト教②	キリスト教の受容と変化
第7回	キリスト教③	キリスト教の神について
第8回	キリスト教④	イエス・キリストについて
第9回	キリスト教⑤	キリスト教の人間像
第10回	キリスト教⑥	キリスト教の終末観
第11回	イスラーム①	ムハンマドについて
第12回	イスラーム②	クルアーンについて
第13回	イスラーム③	イスラーム共同体について
第14回	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配布して授業を行うため、教科書は使用しません。

【参考書】

島田進『宗教学の名著30』、ちくま新書。

渡辺照宏『仏教 第二版』、岩波新書。

エルンスト・ベンツ『キリスト教 その本質とあらわれ』、平凡社。

小杉泰『イスラームとは何か』、講談社現代新書。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業内容についての学生の意見を求める課題（30％）と、授業内容全体についての理解度を確かめる試験（70％）によって、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

最終的には資料の内容について十分に理解できていることが求められます。課題に取り組みながら、資料の内容を読み込んでください。

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to help students acquire the religious thoughts.

Learning Objectives
At the end of the course, students are expected to explain the religious thoughts.

Learning activities outside of classroom

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 30%, Term-end examination: 70%

PHL200BB（哲学 / Philosophy 200）

宗教学 1（伝統宗教） 2

松本 力

授業コード：A2252 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宗教学で取り上げられるさまざまな著作について学ぶ。

【到達目標】

学生は、宗教に関するさまざまな著作を読むことで、宗教とは何かを説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を受け、学習支援システム上で「課題」に答えることが、この授業の進め方になります。

皆さんの解答に対して個別にコメントすることはありませんが、質問を書き込んでおいてもらえば、次回の授業開始時までに学習支援システムで返答します。また、質問がなかったとしても、授業内容の補足などを学習支援システム内で行うこともあるので、授業日には学習支援システムをチェックしておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	宗教学とはどのような学問か	この授業で紹介する著作についての概容。
第2回	デイビッド・ヒューム『自然宗教をめぐる対話』	ヒュームの信仰について。
第3回	フリードリヒ・ニーチェ『反キリスト者』	ニーチェにとってのキリスト教について。
第4回	H・リチャード・ニーバー『アメリカ型キリスト教の社会的起源』①	キリスト教における経済的・社会的要因の考察。
第5回	H・リチャード・ニーバー『アメリカ型キリスト教の社会的起源』②	教会と福音との乖離について。
第6回	ルドルフ・オットー『聖なるもの』①	スミノーゼについて。
第7回	ルドルフ・オットー『聖なるもの』②	スミノーゼの諸要因。
第8回	ウィリアム・ジェームズ『宗教的経験の諸相』①	宗教的経験の特徴。
第9回	ウィリアム・ジェームズ『宗教的経験の諸相』②	トルストイの信仰の考察。
第10回	アンリ・ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』①	道徳的責務について。
第11回	アンリ・ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』②	動的宗教。
第12回	ヴィクトール・フランクフル『人生の意味と神』①	宗教の次元。
第13回	ヴィクトール・フランクフル『人生の意味と神』②	神について。
第14回	試験	まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

この授業では配布資料を使うため、教科書は使用しません。

【参考書】

島藺進『宗教学の名著30』、ちくま新書。
デイビッド・ヒューム『自然宗教をめぐる対話』、岩波文庫。
フリードリヒ・ニーチェ『ニーチェ全集 偶像の黄昏 反キリスト者』、ちくま学芸文庫。
H・リチャード・ニーバー『アメリカ型キリスト教の社会的起源』、ヨルダン社。
ルドルフ・オットー『聖なるもの』、岩波文庫。
ウィリアム・ジェームズ『宗教的経験の諸相 下巻』、岩波文庫。
アンリ・ベルクソン『道徳と宗教の二つの源泉』、ちくま学芸文庫。
ヴィクトール・フランクフル、ビンハス・ラビーデ『人生の意味と神 信仰をめぐる対話』、新教出版社。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業内容について学生に意見を求める課題（30％）と、授業全体の内容の理解度を確認する試験（70％）によって、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

資料の内容から、それぞれの著者の考え方について、自分なりに言葉でまとめられるようになることが求められます。課題を通して資料を読み込んでみてください。

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to help students acquire the religious thoughts.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to explain the religious thoughts.

Learning activities outside of classroom

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 30%, Term-end examination: 70%.

PSY100BG（心理学 / Psychology 100）

心理学 1（心理学概論） 1

福田 由紀

授業コード：A2254 | 曜日・時限：火2/Tue.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の諸領域の基本的な理論や考え方に関する基礎知識を得ることが本授業の目的です。それにより、日常生活において心理学的な見方が身につくでしょう。また、法政心理で学べる心理学分野の概略が理解できます。さらに、実社会で望まれるスキルである「聞きながらメモを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

【到達目標】

- ①心理学の基礎知識が身につく。
- ②心理学的な見方ができる。
- ③聞きながらメモをとることができる。
- ④階層構造を意識したノートをとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本は講義形式です。教科書は毎時間「使用します！」ので持参してください。また、Hoppiiを通じて、授業の前に宿題の提出、授業後に小テストへの回答をしてください。なお、授業の初めに、提出された宿題の内容に関して、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、心理学的な見方	授業の進め方の説明、心理学的な見方とは
第2回	感覚・知覚	知覚の特性、視覚システムの特徴
第3回	行動の形成	遺伝－環境論争、人間の行動の特徴
第4回	学習理論とその応用	古典的条件づけ、道具的条件づけ、社会的学習
第5回	記憶とその変容	ワーキングメモリ、記憶の変容
第6回	読むことと書くこと	文章の理解と産出
第7回	思考	問題解決、人の思考のクセ
第8回	自己意識の発達、心の理論	自己意識の発達、心の理論
第9回	動機づけ	動機づけの機能と種類、ストレス
第10回	認知発達	ピアジェ・ヴィゴツキー・情報処理理論的な考え方
第11回	集団の中の個人	集団の圧力、研究の倫理的な問題
第12回	帰属過程	帰属理論、帰属のバイアス
第13回	性格	性格の記述の考え方、性格測定法
第14回	期末テストとその解説、まとめ	期末テストの実施とその解説、授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

* 次週の授業内容にあわせて、短い宿題が出ます。授業前にHoppiiから提出して下さい。

- 第1回 錯視を体験する。
- 第2回 ヒトの行動の形成に影響する要因を考え、書く。
- 第3回 自動的に行っている日々の行動を省察する。
- 第4回 自分の記憶術を振り返る。
- 第5回 行間を理解することを体験する。
- 第6回 覆面算と水がめ問題を体験する。
- 第7回 中間テストの準備を行い、自己評価する。
- 第8回 日常のストレス状態を省察する。
- 第9回 保存課題を体験する。
- 第10回 一人きりで一日を過ごせないことを省察する。
- 第11回 他者の行動の帰属を推測する。
- 第12回 性格テストを体験する。
- 第13回 期末テストの準備を行い、自己評価する。

* 受講した授業の内容に関して、小テストをHoppiiを通じて行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「心理学要論-こころの世界を探る- 改訂版」福田由紀編 培風館 2010年

【参考書】

適宜授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点20%（宿題と小テスト）と期末テストの結果を80%として、総合点により決定されます。期末テストの追試は、履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容、自分で教科書を読んだ内容、そして応用問題が問われます。形式は多肢選択式です。

【学生の意見等からの気づき】

「工夫していた」8割超、「授業を受けてよかった」が約8割と回答してくれました。ありがとうございます！主に1年生が受講している授業です。法政大学では100分授業。高校までよりかなり長いですね。そのために、授業を2ないしは3分割して、そこまでのまとめを自分で書いてもらう活動を入れています。その活動に関する自由記述です。「まとめの時間が個人的には非常に有意義な学習時間だった。単純に講義を受けるだけでは、先生のわかりやすい説明を聞いてさもわかったかのような気分になって終わってしまうが、まとめを自分の言葉でまとめ、記述することで、自身の理解度を客観性を持って理解することができた。」このように、まとめの時間を入れることは学習効果がありそうなので、続けていきますね。

【その他の重要事項】

大学の授業では、高校までの授業とは異なり、科目担当者の専門性に反映した内容が取り上げられます。そのため、類似した科目名であっても重点が置かれている内容が異なります。例えば、ILAC科目には「心理学I/II（100番台）」、「心理学LA/LB（200番台）」、総合科目「人間行動学A/B（300番台）」、教養ゼミI/II「心理的ウェルビーイングを考えるA/B（300番台）」などがあります。それぞれの科目担当者の先生は、以下の通りです。

* 宇野カオリ先生担当：ポジティブ心理学

* 櫻井登世子先生担当：発達心理学（特に児童心理学）

* 浅川希洋志先生担当：フロー理論、臨床心理学、文化心理学

シラバスの内容をよく読んで、履修可能性年次も考慮しつつ、自分の興味にあった科目を選択して下さい。

また、本授業は、様々な分野を抱えている心理学全般に関する入門的内容になっています。そのため、授業の中で、心理学科に置かれている2年次以降に履修できる基礎科目や専門科目を紹介します。特定の授業回で興味を持った場合には、それらの科目を受講してください。

【教員の実務経験】

- ・小学校国語教科書編集委員（教育出版）1996年4月1日－2015年3月31日
- ・中央教育審議会初等中等教育分科会言語能力の向上に関する特別チーム 2014年10月21日－2017年2月14日
- ・文化審議会臨時委員（国語分科会）2016年3月20日－2023年3月31日

【実験や調査への参加】

授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【Outline (in English)】

Course outline：This course introduces psychology.

Learning Objectives：By the end of the course, students should be able to do the following:

- － A. deepen their understanding about psychology
- － B. broaden their perspectives form psychology
- － C. take memos while hearing
- － D. take notes organized hierarchically

Learning activities outside of classroom：Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.

Grading Criteria：Your overall grade in the class will be determined based on the following: final examination: 80%, in-class contribution: 20%.

PSY100BG（心理学 / Psychology 100）

心理学 1（心理学史） 2

矢口 幸康

授業コード：A2255 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では心理学の歴史を学びます。心理学が独立した学問として認められたのはまだ120年ほど前のことであり、それからさまざまな変遷がありました。現在の心理学を当たり前のものと考えずに、人々が人間のこころや行動について考えるとはどういうことかをさらに深く理解するために、心理学の歴史と前史を学びます。

【到達目標】

この心理学史を受講することで、心理学の流れを理解することができます。19世紀後半にまず欧米の大学で心理学を学ぶことが可能になりましたが、なぜその時代にならないと学べなかったのかを理解するために、まず19世紀までの前史を学びます。そのあとで心理学における20世紀の3大潮流を学び、「心理学の世紀」と呼ばれた20世紀の展開を学びます。これらの知識から、なぜ今の心理学が統計学や実験方法を使う一方で、個人の主観的な言説をデータとして利用しているのかについて理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを利用した講義が中心です。心理学史において有名な人物は必ずしも他の授業のなかで登場するわけではないので、そういう人々の生涯も含めて説明します。パワーポイントの資料はhoppiiに事前に掲載するので、授業を欠席した人も内容を事後に確認することができます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	心理学史を学ぶ意義と、心理学史の方法論について
第2回	心理学誕生前史	19世紀哲学・医学・生物学が心理学へ与えた影響について
第3回	近代心理学の始まり・展開	ドイツにおける心理学の誕生と展開について
第4回	アメリカにおける心理学の展開	アメリカにおける大学心理学の展開について
第5回	日本における心理学の展開	日本における大学心理学の展開について
第6回	社会における心理学の展開	20世紀初頭の社会において心理学が果たした役割について
第7回	20世紀の3大潮流(1)行動主義	行動主義の誕生と展開について
第8回	20世紀の3大潮流(2)精神分析	精神分析の誕生と展開について
第9回	20世紀の3大潮流(3)ゲシュタルト心理学	ゲシュタルト心理学の誕生と展開について
第10回	第3勢力の台頭(1)認知心理学	認知心理学の誕生と展開について
第11回	第3勢力の台頭(2)人間性心理学	人間性心理学の誕生と展開について
第12回	戦争が心理学に与えた影響	第一次・第二次世界大戦が心理学研究に与えた影響について
第13回	臨床心理学の展開	心理学研究成果の社会還元について
第14回	まとめと振り返り	授業内容の再確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は「心理学概論」の内容を理解していることを前提としています。それでも授業のなかで知らない概念が出てきた場合には、復習して理解してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使いません。各回資料PDFはHoppiiで閲覧可能です。

【参考書】

サトウタツヤ・高砂美樹 2022 流れを読む心理学史【補訂版】 有斐閣アルマ
高砂美樹 2021 心理学史はじめての一步（改訂電子版） アルテ

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

【学生の意見等からの気づき】

1年生の受講科目だと思って油断していると、上級生でも単位を落とすことがあります。他学部の履修者にも心理学の基礎知識を要求しますので、それを理解したうえで受講してください。

【学生が準備すべき機器他】

使う予定の資料（PDF）はHoppiiにあげておきますので、適宜、事前に自分でダウンロードして教科書代わりに使用してください。

【Outline (in English)】

The lectures on the basic history of psychology, including Japanese one, are given. The students are supposed to understand the background and the transition of trends of psychology from the late 19th to the end of the 20th century after the whole lectures. The slides to be used in the lectures can be obtained through Hoppii to prepare for better understanding. The grading criteria: 80% final exam, 20% attendance with small tasks.

By taking this course in the history of psychology, you can understand the flow of psychology. It was not until the late 19th century that it became possible to study psychology at universities in the West, but in order to understand why it could not be studied until that era, we first learn the prehistory up to the 19th century. After that, we learn about the three major trends in psychology in the 20th century and the development of the 20th century, which was called the “century of psychology”. From this knowledge, you can understand why current psychology uses statistics and experimental methods, while also utilizing individual subjective discourse as data.

This course assumes that you understand the content of “Introduction to Psychology.” Even so, if unfamiliar concepts emerged during the course, please review and understand them. The standard time for the preparatory study and review for this course was 2 h each.

The grade of this subject was determined by the final examination (100%).

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

心理学 2（社会心理学） 1

越智 啓太

授業コード：A2256 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業概要：

人間の社会行動を科学的に解明する

社会心理学は、我々が、日々遭遇するさまざまな行動を心理学的な観点から分析していく学問です。この授業ではとくに、社会と個人の関係、個人と個人についての問題を取り上げていきます。「社会」などというとし難い感じがしますが、例えば、どのようにすれば良い印象を与えることができるのか、なぜ転校生が来るのがいやなのか、勉強してきたくせになぜみんなテストの日に「私全然やってない」というのか、どうせ外れるのになぜ宝くじを買いつけるのか、なぜ本屋とCDショップはデパートの上の方の階にあるのか、性格と顔は恋愛においてどっちが重要なのか、恋愛が崩壊するのはなぜか、なぜ困っている人を助けられない人がいるのか、いらいらするといじわるしたくなるのはなぜか、などの問題がじつは社会心理学と関係しており、とても身近な学問です。

授業の目的・意義

社会心理学の基礎概念と方法論を科学的に理解し、我々が普段遭遇する社会的な事象について心理学的観点から分析できるようになる。

【到達目標】

- (1) 社会心理学の基本的な概念について、その定義やその概念に関連した基本的な研究が解説できるようになる。
(2) それらの概念について自分の具体的な経験と結びつけて説明できるようになる。
(3) 効果的なプレゼンテーションレポート作成を経験する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業の進め方：我々の社会行動について順次取り上げて、その理論と根拠になった実験例、応用、問題点などについて順次紹介していく。半期の授業なので、広い社会心理学の分野をすべて取り上げることが出来ないが、みなに関心を持つようなテーマをいくつか選んで深く掘り下げてみたい。

授業方法：講義形式、記憶する必要のある用語のリストや印刷資料は授業支援システムからダウンロードできる。

フィードバック：毎回リアクションペーパーを提出する（授業支援システムに登録）。リアクションペーパーおよびレポート課題については次回の講義時の最初あるいは授業支援システム上で講評および追加解説を行う。また、レポート等については講評、個人指導など授業支援システム上で追加の解説を行う。授業について有用な質問やコメントについては期末評価に加点する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会心理学とは何か	授業の進め方、採点ポリシーの説明、社会心理学の概要、社会心理学の研究手法
第2回	外見の魅力（1）	美人、ハンサム等の外見的魅力を規定する要因について明らかにする。
第3回	外見の魅力（2）	社会的要因による外見の魅力が影響を受ける過程について明らかにする。
第4回	対人印象形成	対人印象形成における中心特性と初頭効果、ステレオタイプについて解説する。
第5回	恋愛行動（1）	恋愛における外見の魅力の効果、SVR理論について。
第6回	恋愛行動（2）	恋愛を科学的に測定する方法、恋愛の類型論、恋愛と情動、恋愛進展
第7回	恋愛行動（3）	恋愛における情動の錯誤帰属、恋愛の進展、ひとめぼれのメカニズム
第8回	恋愛行動（4）	恋愛の個人差、恋愛の崩壊、恋愛における再確認傾向、拒絶感受性、結晶化、失恋のカウンセリング
第9回	セルフ（1）自己呈示、自己概念維持	自己概念、自己概念維持
第10回	セルフ（2）セルフハンディキャッピング	獲得的セルフハンディキャッピング、主張的セルフハンディキャッピング
第11回	攻撃行動（1）メディアバイオレンス	マスメディアと攻撃の促進、バイオレンスゲームと攻撃行動、暴力メディアの長期的影響

第12回	攻撃行動（2）	攻撃行動の個人差、攻撃行動とパーソナリティ、攻撃行動のメカニズム、サイコパス
第13回	援助行動（1）	援助行動の規定要因、援助行動の実験室研究
第14回	援助行動（2）	社会的インパクト理論と援助行動、経済的地位と援助行動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自受講に際しては、あらかじめ授業支援システムから該当する講義のプリントをダウンロードして読んでおくこと。ただし、予習よりは復習の部分に力を入れて欲しい。各チャプターごとに記憶すべき用語（キーワード）を提示するので、この用語を記憶し、使いこなせるようにしておくこと。指定した授業に関する動画視聴と事前、事後課題を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。講義に使用するパワーポイントは抄録版を授業支援システムで配布する（重要な部分は網羅してある）。補足資料や自習用資料、動画なども配信する。

【参考書】

越智啓太（編）私たちはなぜ傷つけ合いながら助け合うのか：心理学ビジュアル百科 社会心理学編 創元社（推奨）
越智啓太（著）美人の正体 実務教育出版
越智啓太（著）恋愛の科学 実務教育出版
中里・松井・中村（編）社会心理学の基礎と展開 八千代出版
を予復習用参考書に使用する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価のためには3/5以上の出席を前提とする。出席は基準を満たしているかどうかの判断にのみ使用する。
レポート（80%）+ 授業コメント（20%）

【学生の意見等からの気づき】

毎回、比較的良好な評価をいただいております。とくに知的好奇心が満たされた、などのポイントが高くなっています。昨年に比べ、ウェブを通じて配付する資料や動画資料をさらに充実させました。また、授業で取り上げる、具体的な事例等を最新のものに刷新しました。今年は例年よりもより面白くなるように努力します！

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は各自、授業支援システムからダウンロードする。
授業で取り上げられなかった部分は動画で補足する。

【その他の重要事項】

- (1) 「集団社会心理学」とペアで社会心理学全体を概観する。そのため、「集団社会心理学」も同時に履修することが望ましい。
(2) 他の教員の授業に比べて、A+、Aは少ない。毎年、D評価のものが5%程度でているので、楽勝科目ではないと思う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, we will give an overview of social psychology. In particular, I will explain issues within and between individual social behaviors.

【Learning Objectives】

- (1) To be able to explain the definition of the basic concept of social psychology and basic research related to the concept.
(2) You will be able to explain these concepts in connection with your own concrete experience.
(3) Experience effective presentation report creation.

【Learning activities outside of classroom】

Each lesson requires 2 hours of preparation and 2 hours of review.

【Grading Criteria/Policy】

Participation in classes of 3/5 or higher is a prerequisite for grade evaluation.

Class participation is used only to determine attendance criteria.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Report (80%) + comment & discussion (20%)

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

心理学3（臨床心理学）1

杉山 崇

授業コード：A2258 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代臨床心理学の体系的な理解を通して、現代社会における心理学の応用にについて一つの視野を形成することを目指す。

【到達目標】

臨床心理学が扱う心の問題と心の正常な機能、および問題を軽減して正常化を図る方法としての心理療法の正しい知識を身につけることを通して、人間への深い理解を形成する。また、人間への深みのある理解を通して、自己理解、他者理解、人間社会の理解を自分の言葉で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

臨床心理学は人間の十全な人生の展開を心理-社会的に支えるために発展した応用心理学である。臨床心理学の対象は非常に広く、医学的な診断名のあるうつ病、統合失調症、不安障害、パーソナリティ障害などの各種精神疾患から、不登校、NEET、家族不和、子育て、職場の人間関係、キャリア開発、各種福祉サービスなど実社会的問題まで扱う。

そのため社会心理学、認知心理学、神経-生理心理学、行動心理学などいわゆる心理科学から、精神医学、精神分析、分析心理学まで幅広く統合して今日の臨床心理学は構成されている。

ここでは講義を中心に体験的なワークも交えて、現代社会に比較的多い症状の理解、その心理的支援の理解、そして心理科学と臨床心理学アプローチを学ぶ。なお担当教員は臨床心理学の幅広いフィールドで心理的な支援の実践に関わっているが、この10数年の社会変動の中で臨床心理学とその実践が大きく変化するのを目の当たりにしてきた。実社会における心理学の応用・活用の諸問題について学生諸君とともに考えたい気持ちである。心理学の連続性について体系的な理解を目指す。

なお、課題として毎回、リアクションペーパーの提出（またはそれに代わるオンライン上での記入）を貸し、その内容については次回の授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	臨床心理学総論①	歴史とガイダンス
第2回	臨床心理学総論②	目的と対象
第3回	力動的アプローチ	精神分析とユング心理学
第4回	人間性と欲求	欲求とパーソナリティ
第5回	生物・心理・社会モデル	効果的なカウンセリングのためのアセスメント
第6回	関係構築と願望	カウンセリングの3stepsモデル
第7回	心を整える方法	認知再構成法とマインドフルネス
第8回	行動を整える方法	セリフモニタリングと活動記録
第9回	対人関係療法①	社会脳と対人関係
第10回	対人関係療法②	社会的感情と社会的欲求
第11回	対人関係療法③	人間関係の最適化
第12回	事例研究①	適正に悩む女性の事例
第13回	事例研究②	不安、強迫観念、抑うつ
第14回	事例研究③	うつ病からの復職支援

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：指定した専門用語について2時間ほど調べてくること。

復習：2時間程度の復習レポートを書き下ろす。

【テキスト（教科書）】

『事例でわかる、働く人へのカウンセリングと認知行動療法・対人関係療法』金子書房

【参考書】

『カウンセリングの援助と実際』北樹出版

臨床心理学の「現場」を実態を通して紹介した画期的な良書。事例を学ぶのに最適。

<http://www.hokuju.jp/books/view.cgi?cmd=dp&num=821&Tfile=Data>

『事例でわかる、基礎心理学のうまい活かし方』金剛出版

心理学がどのように心理療法に活かされているか、事例を通して学ぶ画期的な図書。

<https://7net.omni7.jp/detail/1106063973>

【成績評価の方法と基準】

平常点（復習課題＋授業態度）30%とレポート（到達目標の達成度）70%

【学生の意見等からの気づき】

学生諸君の忌憚のないご意見に基づきオンライン参加のサポート、プロジェクトの適正な起動など、学習環境の円滑な整備を試みたい。今年度もみなさんのご意見を楽しみにしています。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで資料配布し課題を出すためPC、インターネットを活用できる環境が必須。また、動画を配信する場合もあります。詳しくは授業支援システムで指示します。

【Outline (in English)】

Through systematic understanding of modern clinical psychology, we aim to form a viewpoint of application of psychology in contemporary society.

Goal : Ability to express self-understanding, understanding of others, and understanding of modern society based on clinical psychology in one's own words.

Work to be done outside of class (preparation, etc.) : Preparation: Look up the specified specialized terminology for about 2 hours.

Review: Write a review report for about 2 hours.

Grading Criteria /Policy : Normal score (review assignment + class attitude) 30% and report (achieving target) 70%

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

心理学3（犯罪心理学）2

越智 啓太

授業コード：A2259 | 曜日・時限：火1/Tue.1
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

犯罪心理学は、犯罪に関する人間行動を科学的に解明していく学問であるが、なぜ犯罪が起きるのかについて検討する「犯罪原因論」、犯罪捜査への心理学の応用について検討する「捜査心理学」、犯罪者や非行少年をいかに更正させていくかについて検討する「矯正心理学」などの分野がある。この授業では、このうち、「捜査心理学」を取り上げ、その基本的な原理から最先端の研究までを概観する。具体的には連続殺人、大量殺人、テロリズム、子どもに対する性犯罪、ストーキングなどを取り扱う。また、プロファイリングや犯罪者に対する処遇、精神疾患の犯罪者の責任能力、FBIの捜査システム、日本の警察における犯罪捜査の現状と問題点、などの問題に関しても時間が許す限り取り上げてみたい。なお、授業の中では実際の事件以外にも、映画や小説などもとりあげる。推理小説、刑事映画マニアの人の受講も歓迎する。

【到達目標】

- (1) 犯罪についての科学研究のアプローチ方法について説明できるようになる。
- (2) 各種犯罪についての基本的な用語、知識について説明できるようになる。
- (3) 各種犯罪についての学問的な成果を元に犯罪現象について心理学的な観点から論ずることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業方法は、講義形式。基本的にパワーポイントを使用する。授業についての質問、感想、意見などを毎回、授業支援システムにアップすること。これについて、次回の授業か、ウェブ上でフィードバックを行う。ほかに参考資料などを授業支援システムにアップするので、各自参考して学習を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	犯罪心理学の概要	犯罪原因論、捜査心理学、裁判心理学、矯正心理学の概要、犯罪心理学の方法論、犯罪精神医学と犯罪心理学の違い、犯罪捜査の問題点など
第2回	殺人	日本における殺人事件の状況、司法統計の見方、現実の殺人とメディアの殺人の違い。
第3回	連続殺人（1）	男性による連続殺人、タイポロジーと書くタイプの原因、動機、行動パターン、プロファイリング
第4回	連続殺人（2）	女性による連続殺人、タイポロジーと書くタイプの原因、動機、行動パターン、プロファイリング
第5回	大量殺人	大量殺人の定義とタイポロジー、典型的な事例、動機と典型的な行動パターン、防犯手法とその問題点、インセル大量殺人
第6回	テロリズム（1）	政治テロ（左翼テロと右翼テロ）、動機と行動パターン、プロファイリング
第7回	テロリズム（2）	宗教テロ、伝統宗教の原理主義テロ、新興宗教のテロ、事例と犯行の分析手法など
第8回	テロリズム（3）	ローンオフエンダー型テロリズム、エコテロリズム、ホームグロウンテロリズム
第9回	子どもに対する性犯罪（1）	子どもに対する性犯罪の加害者、被害者、犯行手口
第10回	子どもに対する性犯罪（2）	犯行の起こる場所、環境的防犯手法、防犯対策
第11回	ドメスティックバイオレンス（1）	DV防止、ストーカー防止のための法、DVの定義と具体例
第12回	ドメスティックバイオレンス（2）	加害者の動機、犯人に対する矯正手法、社会防衛手法、被害者心理
第13回	非行	非行の現状と問題点、非行に対する司法システムの概略と心理職の役割、非行の原因に関する諸理論
第14回	司法心理学	離婚、養育権、ハーグ条約、子どもの面会交流、子どもの奪い合い裁判

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ、テキストの指定する部分を読んでおく。また、あらかじめ、テキスト（プログレスのほう）の該当する章の予習問題をやっておく。復習としては、授業内で取り上げる各種事件について、インターネットなどを使用してより詳しく調査しておくとともに受講中に新聞やニュースをチェックし、関連する事件があった場合にはその内容をまとめておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

越智啓太 ケースで学ぶ犯罪心理学 北大路書房
越智啓太 progress and application 司法犯罪心理学 サイエンス社

【参考書】

法と心理学会（編） 入門司法犯罪心理学 有斐閣
越智啓太 ワードマップ 犯罪捜査の心理学 新曜社
越智啓太 桐生正幸（編著） テキストブック司法犯罪心理学 北大路書房

【成績評価の方法と基準】

レポート（80％）＋授業コメント（20％）

【学生の意見等からの気づき】

本授業は、毎年高い評価をいただいておりますが、要望に応え、本年は新しい事例をくわえました。また、動画、配付コンテンツなどを充実させ、これをhoppiiより利用できるようにしてあります。さらに新しく、さらに知的好奇心を満たすものにすべく努力します。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントを使用する。パワーポイントは、授業支援システムで配布する。

【その他の重要事項】

- (1) 本講義は、犯罪という不快な現象を取り扱い、不快な資料なども使用する可能性があるため、各自の進路や適性を十分考慮して受講するか否かを決定すること。
- (2) 例年、5％～10％がD評価になります。他の教員に比べてS,A+はつきにくいので楽勝科目ではない。
- (3) 講師は、警視庁科学捜査研究所での実務経験があるので、実際の犯罪捜査場面やケースなどに関連付けながら講義を行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, we will give an overview of criminal and forensic psychology. In particular, I will explain issues criminal behavior, For example, serial murderer, mass murderer, terrorist, domestic violence offender.

【Learning Objectives】

- (1) To be able to explain the definition of the basic concept of forensic psychology and basic research related to the concept.
- (2) To be able to explain these concepts in connection with real crimes.
- (3) To be able to discuss crime scientifically

【Learning activities outside of classroom】

Each lesson requires 2 hours of preparation and 2 hours of review.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Report (80%) + comment & discussion (20%)

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

日本思想史 1

山本 伸裕

授業コード：A2260 | 曜日・時限：火2/Tue.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本思想史」と銘打たれているが、近代以前の日本においては、思想の歴史的展開を明らかにすることは、ほぼ不可能である。この授業では、日本独自の思想哲学は、日本語の語彙や日本語表現の中に蓄積され、日本語を母国語として生活する人びとの血肉になってきたとする視点に立って、言葉の語源、特にやまと言葉の語源に焦点を当てる。そうした手法は、日本人の心根を明らかにするうえで、最も有効であると考えられる。

【到達目標】

- ◎古代から培われてきた日本人の思想の基底にある包括的な世界観を知ることができる。
- ◎日本人の倫理思想の基本構造を、明確に理解することができる。
- ◎西洋の思想哲学との共通点、相違点について明確に理解できるようになる。
- ◎現代思想の観点から、日本の思想を再評価する眼を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ◎対面による講義形式で行う。
- ◎毎回、授業終了後にリアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本思想とは何か	i) 思想と哲学 ii) 言葉と人間
第2回	やまと言葉で考える	i) 日本語の多重性 ii) 「もの」と「こと」 iii) 日本人の宗教心 iv) 言葉と語り
第3回	日本倫理の基層	i) 意味の顛倒 ii) 「あわい（間）」の思想 iii) しなければならぬ iv) してはならぬ
第4回	日本人の職業倫理	i) 仕事の倫理 ii) 「士」の倫理 iii) 「農」の倫理 iv) 「工」「商」の倫理
第5回	生成する命	i) 「命」の概念 ii) おのずからの命 iii) つくる命、うむ命 iv) 命の本源
第6回	連鎖する命	i) 動的平衡 ii) 子孫繁栄を願う iii) 食と健康 iv) 慎ましく生きる
第7回	「老」に向き合う	i) 老いの苦しみ ii) 若さの価値 iii) 老いの成熟 iv) 老人を敬う
第8回	「病」の諸相	i) 東洋医学の発想 ii) 「闇」と「病」 iii) 「養生」のすすめ iv) 病に寄り添う
第9回	人生の悲哀	i) 哲学の動機 ii) 空虚な現実 iii) 世を捨てる iv) 振る舞いの優しさ
第10回	感謝と謝罪の倫理	i) 謝意の表明 ii) 罪過を認める iii) 日本語の謝罪表現 iv) 罪障を滅す
第11回	「死」の受容	i) 生死を見つめる ii) 死者の行方 iii) 魂の救済 iv) 「さよう」の確認
第12回	「死」を弔う	i) 死体の扱い ii) 死者を葬る iii) 魂の叫び iv) 死者の霊を祀る
第13回	まったき人生	i) 粹と野暮 ii) 強さと脆さ iii) へこたれない強さ iv) 有終の美を飾る

第14回 授業内テスト

前もって課題を出すので、実質的には授業内レポート。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ◎事前：参考文献などに目を通すなどして基本的知識を確認する。
事前学習時間の目安：約2時間
- ◎事後：配布されたレジュメに沿って、講義の内容を復習する。
- ◎事後：単元ごとにリアクションペーパーを作成する。
事後学習時間の目安：約2時間

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。毎回レジュメを配布する。

【参考書】

竹内整一『やまと言葉の人間学』ベリかん社、2024年
竹内整一『かなしみの哲学』NHK出版、2009年
山本伸裕『日本人のものの見方～〈やまと言葉〉で考える』青灯社、2015年
荒木博之『やまとことばの人類学』朝日選書、1985年
『日本国語大辞典（第二版）』小学館、2000年
増井金典『日本語語源広辞典（初版）』ミネルヴァ書房、2010年 など

【成績評価の方法と基準】

- ◎期末試験：75 %
※第13回目の講義終了後にテーマを提示するので、あらかじめ考えをまとめて、教室で授業時間内に各自レポートを作成する。持ち込み不可。
- ◎リアクションペーパー：25 %

【学生の意見等からの気づき】

◎毎回授業の初めに前回のリアクションペーパーの中からいくつか学生のコメントをピックアップして紹介する。重要な質問などについてはその場で答える。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with Japanese thought before modern times, focusing on Japanese language; "Yamato Kotoba (やまと言葉)". It also enhances the development of student's skill in Western Philosophy.

【Learnig Objectives】

At the end of this course, students are expected to acquire basic knowledge in Japanese thought or ethics and to learn how to think for myself.

【Learnig activities outside of classroom】

Students will be expected to submit a short report after finishing each lecture. Your study time will be more than four hours for writing a paper.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in this class will be calculated according to the following process: Short reports 25%, Term-end report 75%.

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

日本思想史2

山本 伸裕

授業コード：A2261 | 曜日・時限：火2/Tue.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋哲学の流入を機に、明治近代以降に展開された日本の思想哲学の流れを追うことがこの授業の主旨である。日本の独創的な思想哲学と言って、京都哲学を思い浮かべる人は少なくないであろうが、そこでは西洋哲学からどのような刺激を受け、何が克服されるべき思想課題として捉えられていたのか。そのあたりの問題意識を問い直すことは、日本の思想哲学を詳しく学びたい学生のみならず、西洋哲学を学びたい学生にとっても必須のことであると考ええる。

【到達目標】

- ◎近代日本哲学の主要課題を知ることができる。
- ◎哲学界のみならず、哲学界の動きと連動した、宗教界、文学界の動向を知ることができる。
- ◎日本における西洋哲学の受容のされ方の特殊性を知ることができる。
- ◎現代思想の観点から、日本の思想哲学を再評価する眼を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ◎毎回の講義の終盤に、講義内容の確認と次回の講義内容へとつながるリアクションペーパー（ミニレポート）を作成し、講義中に提出してもらうことになる。
- ◎講義の開始時に、前週の講義で課した要約課題のいくつかを取り上げ講評し、フィードバックを行う。
- ◎対面による講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「日本思想」とは～ガイダンス	1. 「思想」と「哲学」 2. 近代日本の「哲学」
第2回	「哲学」と合理の精神～近代以前	1. 西洋研究の先駆け 2. 「蘭学」の興隆 3. 合理の精神 4. 幕末の思想
第3回	近代黎明期の「哲学」～啓蒙の思想	1. 「蘭学」から「洋学」へ 2. 近代の教育 3. 明六社と啓蒙思想 4. 哲学士の台頭
第4回	哲学士の養成～草創期の哲学科	1. 東京大学の創設 2. 文学部哲学科 3. 哲学科の教授陣 4. 大学院の設置
第5回	近代日本の思想課題～「哲学会」と『哲学雑誌』	1. 仏教界の危機感 2. 東本願寺の改革 3. 哲学会の立ち上げ 4. 明治期の「哲学」理解
第6回	宗教との交渉（1）～哲学界の新旗手	1. 激化する論争 2. 思想界の雄 3. 哲学上の喫緊の課題 4. 清沢満之の宗教哲学
第7回	宗教との交渉（2）～宗教界との連携	1. 仏教界の団結 2. キリスト教徒の動き 3. 大西祝の批評哲学 4. キリスト教の展開
第8回	宗教との交渉（3）～新時代の宗教	1. 哲学青年の煩悶 2. 禅の近代化 3. 禅と哲学 4. 真言宗系の取り組み
第9回	文学の射程～近代日本文学の諸課題	1. ロマン主義 2. エリート青年と文学 3. 自然主義文学 4. 反自然主義の文学
第10回	日本への回帰～思想の左傾化と右傾化	1. 宗教と社会主義 2. 国粋主義 3. 真宗原理主義 4. 日蓮主義
第11回	在野の精神～大地に根差す思想	1. 等身大の思想 2. 在野の思想家 3. デモクラシーの思想 4. 常民の思想

第12回	京大と京都学派（1）～日本哲学界の新風	1. 東大哲学科の萎靡不振 2. 文学部の創設 3. 「場」の哲学 4. 「種」の論理
第13回	京大と京都学派（2）～日本哲学の展開と発展	1. 偶然性の論理 2. 日本の倫理学の提唱 3. ログスとバトス 4. 近代から現代へ
第14回	授業内レポート	前もってレポート課題を提示しておく。授業内でレポートを作成してもらう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ◎事前：参考文献などに目を通すなどして基本的知識を確認する。事前学習時間の目安：約2時間
- ◎事後：授業の終わりにミニレポートを作成する。また配布されたレジュメに沿って、講義の内容を復習する。事後学習時間の目安：約2時間

【テキスト（教科書）】

- ◎教科書は指定しない。
- ◎毎回の講義時に教員が作成したレジュメを配布するので、そのレジュメを紛失しないようにファイルしておくこと。

【参考書】

山本伸裕『「精神主義」は誰の思想か』2011年6月 法蔵館
安富信哉編、山本伸裕校註『清沢満之集』2012年6月 岩波文庫
山本伸裕『他力の思想—仏陀から植木等まで』（叢書 魂の脱植民地化4）2013年6月 青灯社
山本伸裕『清沢満之と日本近現代思想—自力の呪縛から他力思想へ』2014年10月 明石書店
山本伸裕、碧海寿広編『清沢満之と近代日本』2016年11月 法蔵館
山本伸裕『清沢満之の宗教哲学』2025年2月 筑摩選書

【成績評価の方法と基準】

- ◎毎回の講義時に課すミニレポートの評価（30％）と、学期末レポート（70％）によって評価する。
- ◎最終回の授業内で、学期末レポートを作成してもらう。レポート課題は第13回の授業の終わりに提示する。

【学生の意見等からの気づき】

- ◎毎回授業の初めに前回のリアクションペーパーの中からいくつか学生のコメントをピックアップして紹介する。重要な質問についてはその場で答える。

【Outline (in English)】

- ・ The aim of this course is to acquire an understanding of Japanese thought and philosophy through reverwing the history of Japanese modern thought.
- ・ By the end of this course, students should be able to fully grasp the central issues of modern Japanese thought.
- ・ Student will be expected to have completed the required assignments after each class.
- ・ Your study time will be more than four hours for a class.
- ・ Grading will be decided based on short reports 30%, term-end reports 70%.

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

文化史 1

伊藤 直樹

授業コード：A2262 | 曜日・時限：火1/Tue.1

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

備考（履修条件等）：文学部以外の学生は資格科目として履修する (A3851)

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、縦軸に古代ギリシア文化をとり、横軸に演劇をとって講義をすすめる、アリストテレスの詩学、ギリシア悲劇、ニーチェ『悲劇の誕生』などを扱います。

かつて自然は、人間の文化を制約していました。しかし、人間はその制約を一つずつ取り払って行き、現代は、その制約をなきものにしようとする勢いです。その結果のひとつがAIでしょう。では、科学によって取り払われてきた、その「制約」とはどんなもののでしょうか。古代ギリシアの場合、それは「神の秩序」です。人間はその秩序に支配され、受け入れ、しかし反抗し、そして人間自身の秩序を生み出そうとします。ギリシア悲劇が描こうとするのは、そうしたつばぜり合いであり、それが「ドラマ」のひとつの原型となるのです。

本講義では、このつばぜり合いとしてのドラマであるギリシア悲劇を中心に据えて講義を進めます。

本講義を受講することによって、受講生は、ギリシア悲劇の理解とドラマの本質についての理解を得ることができます。

【到達目標】

講義を終えた後、受講生が、上記の諸問題について自分なりに考えてゆくことができるようになることが、到達目標である。具体的には、学期末のレポートにおいて、それを行なってもらおう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

前提として、ギリシア神話についての知識が必要なので、学習支援システムで、マンガ形式の『ギリシア神話』を資料として示します。目を通しておい

てください。

はじめは、アリストテレスの『詩学』から入ります。『詩学』——と聞くと、なんだか難しそうな作品ですが、光文社古典新訳文庫の帯が、その特徴を的確に述べています。「2000年間、クリエイターたちの必読書である。『ストーリー創作』の原点。」そのとおり、どうすればよいドラマ（悲劇）が出来上がるのか、を論じている作品です。次に、ギリシア悲劇の全体像にふれます。三大悲劇作家、アイスキュロス、ソフォクレス、エウリピデスです。とくに、ソフォクレス『オイディプス王』をていねいに解説します。〈オイディプス〉は、フロイトのエディプス・コンプレックスの元になった話ですね。ここでは神と人間が抜き差しならないしかたで対峙しています。そのうえで、この舞台の映像を観ます。さらに、ニーチェによるギリシア悲劇の解釈である『悲劇の誕生』を扱います。この著作のキーワードは「ディオニュソスとアポロン」ですね。アリストテレスや『オイディプス王』を知った目からすると、この解釈がよりよくわかるでしょう。そして最後に、ドイツの哲学者H-G・ガダマーの『真理と方法』での芸術論を扱います。ガダマーの芸術論が念頭に置いているのは演劇です。ギリシア悲劇も射程に入っています。

毎回、リアクションペーパーを書いてもらいます。授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行うようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義に関するオリエンテーション。 単位取得の条件、単位評価の基準、 本講義のねらいなどの説明。
第2回	ギリシア神話について	ギリシア神話の魅力について
第3回	アリストテレスの『詩学』（1）	アリストテレス思想の全体像
第4回	アリストテレスの『詩学』（2）	アリストテレスの『詩学』について ：ミメシス、歴史との違いなど
第5回	アリストテレスの『詩学』（3）	アリストテレスの『詩学』続き：カタルシスなど
第6回	ギリシア悲劇について（1）	ソフォクレス『オイディプス王』について
第7回	ギリシア悲劇について（2）	『オイディプス王』を観る
第8回	ニーチェ『悲劇の誕生』について（1）	ニーチェ思想の全体像
第9回	ニーチェ『悲劇の誕生』について（2）	ディオニュソスとアポロン

第10回 ニーチェ『悲劇の誕生』について（3） ソクラテス主義と悲劇の死

第11回 ガダマーの芸術論（1） ガダマー思想の全体像

第12回 ガダマーの芸術論（2） 芸術と遊び

第13回 ガダマーの芸術論（3） 形態化への変貌、ミメシスの本質

第14回 まとめ 授業全体を回顧してまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容を自分なりに復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内容が多岐にわたるため、特定のテキストは用いない。授業ごとに、資料を配布する。

【参考書】

参考文献等は、そのつどの講義で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末のレポート70%、授業への積極的な貢献度（コメントカードの記述など）30%、となります。

【学生の意見等からの気づき】

マンガや映像などを取り入れ、かつディスカッションなども行った点が、受講生の理解に資することになったようである。

今年度も、そうした方法を取り入れたい。

【Outline (in English)】

This course deals with Greek tragedy, Aristotle's Poetics, Nietzsche's The Birth of Tragedy, etc. By taking this course, students acquire an understanding of Greek tragedy and the nature of drama. Students will submit comments on the class content after attending the lecture. These comments will be used to review the previous class. Final grade will be calculated according to the following process term-end report (70%), and in-class contribution (30%).

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

文化史 2

伊藤 直樹

授業コード：A2263 | 曜日・時限：火 1/Tue.1
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年
備考（履修条件等）：文学部以外の学生は資格科目として履修する (A3852)
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

まず自伝の本質とは何かということについて解説する。
自分が自分について語る自伝には固有の真実がある。客観的な事実が書かれてあるわけでもなく、かといって虚構が書かれているのでもない。その中間にある。ここに自伝の魅力がある。
作品として、アウグスティヌス『告白』、ルソー『告白』、ゲーテ『詩と真実』、フランクリン『フランクリン自伝』、福沢諭吉『福翁自伝』をとりあげ、その時代状況のなかで読み解いてゆく。その上で、受講者全員が、任意の自伝を選びそれについて発表する。最後に、レポートで、上記の自伝を読み、その内容から得たものを報告する。さらに、自分で短い自分史を書く。
昨年度、受講生が自ら取り上げた自伝には、次のようなものがあった。
やなせたかし『アンパンマンの遺書』、三谷幸喜『仕事、三谷幸喜の』、小田凱人『凱旋一九歳で癌になった僕が一七歳で世界一になるまでの話』、美空ひばり『ひばり自伝 わたしと影』、C・ディオール『DIOR by Dior クリスチャン・ディオール自伝』、藤井輝明『この顔でよかった コンプレックスがあるから人は幸せになれる』、マツコ・デラックス『デラックスじゃない』いろいろありました。
この授業を受講することによって、自伝の本質を理解することができます。自伝とはなにかをよく知らない方が多いので、末尾の項目で、昨年度の受講生の感想を取り上げました。参照してください。

【到達目標】

この授業では、「自伝」とはなにか、また著名な自伝はどのようなものであるかを、それぞれの作品が置かれている歴史的、地理的状況を踏まえつつ解説してゆく。受講生の大半は、「自伝」という言葉を知ってはいるが、実際に「自伝」にふれたことがない。しかし、受講生は、この講義を通して、「自伝」についての確実な知識を得て、かつ複数の「自伝」に目を通したことがあることになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて、自伝一般について、また重要な自伝について講義をする。毎回、リアクション・ペーパーを配布し、それに応答しつつ理解を深める。そのうえで、受講生に、任意の一つの作品をとりあげて紹介してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ー「学生に対する評価」 を中心とした、シラバスの 内容説明：自伝とは なにか（1）	自伝の定義：ルジュンヌなどを手が かりに、自伝とはなにかというこ を明らかにします。
第2回	自伝とはなにか（2）	自伝において、自己を語るというこ とについて解説します。
第3回	アウグスティヌス『告 白』（1）	アウグスティヌスという人物と彼が 置かれていた時代について紹介しま す。
第4回	アウグスティヌス『告 白』（2）	アウグスティヌスの『告白』の構造 を解明します。
第5回	ルソー『告白』（1）	ルソーという人物と彼が置かれてい た時代について紹介します。
第6回	ルソー『告白』（2）	ルソーの『告白』の構造を解明しま す。
第7回	ゲーテ『詩と真実』（1）	ゲーテという人物と彼が置かれてい た時代について紹介します。
第8回	ゲーテ『詩と真実』（2）	ゲーテの『詩と真実』の構造を解明 します。
第9回	『フランクリン自伝』	ベンジャミン・フランクリンという 人物とその時代、そしてその自伝に ついて紹介します。
第10回	『福翁自伝』	福沢諭吉という人物とその時代、そ してその自伝について紹介します。
第11回	ボーヴォワールの自伝 を読む	ボーヴォワールの、『娘時代』『女ざ かり』などをとりあげ、紹介します。
第12回	自分史について	「自分史」について紹介します。

第13回	自伝紹介 1	受講生に、自分で選んだ自伝を紹介 してもらいます。
第14回	まとめ	全体を振り返り、クラス全体で自伝 についての意見交換をします。そし てレポート提出をしてもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

11月末に、自伝紹介レポートを提出してもらうので、それまでの講義を受けながら、自分なりに自伝とはなにかを問い、紹介すべき自伝を探す。そのうえで、紹介文を書く。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書となるような特定のテキストは用いません。

【参考書】

取り上げる自伝は、次のものです。アウグスティヌス『告白』岩波文庫ほか、ルソー『告白』岩波文庫ほか、ゲーテ『詩と真実』岩波文庫ほか、ベンジャミン・フランクリン『フランクリン自伝』岩波文庫、福澤諭吉『福翁自伝』岩波文庫

【成績評価の方法と基準】

自伝紹介レポートの提出および発表。（自分自身で、任意の自伝を選び、それを読んで授業内で発表する。）

課題レポート。（授業内で取り扱った自伝作品についてのレポート。）
授業への積極的な貢献度（コメントカードの記述など）30％ レポート70％

自伝紹介レポートでは、講義された内容を踏まえつつ、受講生自らが自伝を選定し、読んで報告する。これが課題レポート提出の必要条件となる。次いで、課題レポートでは、講義内容、自分で自伝紹介を踏まえて、さらに、講義内容で扱われたテキストに自らあたることによって、自伝の理解を確認してもらう。
※定期試験は実施しない

【学生の意見等からの気づき】

自伝——と聞いても、わかりづらいので、昨年度の受講生に受講した感想を書いてもらいました。
「「自伝を学ぶ」とは何だろう？ と授業を受ける前は思っていましたが、とても興味深かったです。自伝の定義や在り方を学んただけでなく、これからの人生で自分からはふれなさそうな自伝を読んだり、自分で選んだ自伝を他の人に紹介したり、自分史を書いてみたり、と今後経験しなさそうなことを実践することができてよかったです。」
「自伝という括りで歴史的にも有名な作品を概観し、特徴を比較するというのも十分興味深かったのですが、それを元に学生自身が読んできた自伝について紹介し合ったり、自分史を記すという体験が貴重で、取り組んでいて面白かったです。」

【Outline (in English)】

This course deals with the autobiography. By taking this course, students acquire an understanding of Essence of Autobiography. Students will submit comments on the class content after attending the lecture. These comments will be used to review the previous class. Final grade will be calculated according to the following process term-end report (70%), and in-class contribution (30%).

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

社会思想 1 (社会学概論) 1

岩野 卓司

授業コード：A2264 | 曜日・時限：木3/Thu.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代では人と社会の関係は希薄になりつつある。テレビゲームやインターネットの普及は人間の孤立化を加速させているし、ケータイやメールというコミュニケーション手段の発展も逆に「生の」人間関係を影の薄いものになっている。引きこもりやオタクでなくても、現代社会は人に「孤独に」生きることを強いるのである。しかし、対人関係が希薄であるとはいえ、私たちは自分が意識しようとしまいと様々な社会的な制約を受けているのだ。「国籍」、「法」、「時代」、「流行」、「メディア」等々。授業では、人間がいかに「社会的動物」であるかということを考えていき、このことを理解していくことが授業の目標である。

【到達目標】

今期のテーマは「借り」である。「借りること」は私たちの日常ではごく当たり前の現象である。私たちは図書館で本を借りたり、友達からノートを借りたり、人からお金を借りたりする。そしてその場合、必ず「返す」ことが前提になっている。未開社会の贈与交換も貸し借りであるし、商業的な交換でも同時決済であろうとクレジットの決済であろうと貸し借りの論理を前提にしている。現代の資本主義も、企業が銀行から資金を借りることで成立している。それのみならず、「借り」は精神的な価値を伴う。「貸し手」は「借り手」に対して精神的に優位に立つし、返せない場合は「借り手」は罪悪感を覚える。負債と負い目は密接な関係にあるのだ。授業ではこの「借り」を主に贈与と交換との関係から考えていき、次の5つのテーマを検討していく。(1) 負債(借金)というかたちで、「借り」がどのように資本主義の原動力となっているのか。(2) 負債と負い目という形での「借り」がもつ物質的な価値と精神的な価値が「贈与交換」や道德にどのような影響を与えているのか。(3) 人間は生まれながらにして根源的な「借り」を背負っているのではないのか。原罪はどうだろうか。母との関係はどうだろうか。(4) 臓器移植のように相手に「お礼」ができないときに背負う「借り」はどう解消すべきなのか。「返す」ことのできない「借り」はどう考えるべきか。(5) 人から受けた恩は返すものではなく、他の人に「送る」べきではないのか。「借り」は贈与の連鎖を生み出すのではないのか。

授業では、これらのテーマを通して、「借り」と共同体についての理解を深めることを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式

毎回、前回の授業の復習をしたうえで、授業をすすめていく。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	共同体における借りと贈与
第2回	負債(借金)とは?	資本主義の原動力
第3回	負債(借金)のもたらず 悪夢	宮部みゆき『火車』の分析
第4回	資本主義とキリスト教	キリスト教はどう資本主義の足かせとなっていたのか。しかし、時代が経つにつれてどう資本主義の発展を促したのか。
第5回	資本主義の交換VS慈愛 と友情の贈与論。	シェイクスピア『ヴェニスの商人』の分析
第6回	負債と負い目	マルセル・モース『贈与論』：贈与交換における贈与者の優位
第7回	負債と負い目(2)	ニーチェ『道德の系譜』：宗教と道德の起源における負債
第8回	根源的な借り	原罪とは? フロイトのトーテム論
第9回	根源的な借り(2)	母と子の関係、母の暴力性
第10回	返せない贈与	臓器移植の場合
第11回	贈与の連鎖	「恩送り」の原理：「返す」のではなく「送る」こと
第12回	贈与が贈与を呼ぶ!	ペイ・フォワード：カルマ・キッチンなど
第13回	贈与が贈与を呼ぶ! (2)	。 クルミド・コーヒー店の冒険
第14回	まとめと試験	復習と解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業で配布したプリントや参考文献に基づいて復習し、自分の日常や取り巻く社会との関係に照らし合わせて、よく考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

授業でプリントを配布

岩野卓司『贈与論 資本主義を突き抜けるための哲学』(青土社)

【参考書】

マルティン・ハイデッガー『存在と時間』(岩波文庫)
岩野卓司編『共にあることの哲学』(書肆心水)
フリードリッヒ・ニーチェ『道德の系譜』(岩波文庫)
マルセル・モース『贈与論』(岩波文庫)
宮部みゆき『火車』(新潮社)
ナタリー・サルトルー＝ラジュ『借りの哲学』(太田出版)
ウィリアム・シェイクスピア『ヴェニスの商人』(新潮文庫)
デヴィッド・グレーバー『負債論』(以文社)
マウリツィオ・ラッツァラート『借金人間 製造工場』(作品社)
山崎吾郎『臓器移植の人類学』(世界思想社)
クロード・レヴィ＝ストロース『親族の基本構造』(青弓社)
小島庸平『サラ金の歴史』(中公新書)
平川克美『株式会社の世界史』(東洋経済新報)
三好春樹・芹沢俊介『老人介護とエロス』(雲母書房)
芹沢俊介『現代(子ども)暴力論』(春秋社)
今村仁司『貨幣とは何だろうか?』(ちくま新書)
影山知明『ゆっくり、いそげ』(大和書房)
吉本隆明『母型論』(思潮社)

【成績評価の方法と基準】

平常点(30%)と学期末の試験(70%)

到達目標がどれだけ反映されているかが成績評価の規準となる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

外国語の能力は必要とされない。哲学や社会思想の予備知識もいらない。

【Outline (in English)】

In modern times the relationship between people and society is becoming thin. The spread of video games and the Internet has accelerated the isolation of human beings and the development of communication means such as mobile phones and e-mails, on the contrary, makes the "raw" human relationship less obscure. Even though it is not a withdrawal or a geek, modern society forces people to live "lonely". However, although interpersonal relationships are scarce, we are subject to various social constraints as they try to be conscious of themselves. "Nationality", "Law", "Age", "Fashion", "Media" and so on. In the lesson, it is the goal of the lesson to think about how human beings are "social animals" and to understand this. It is advisable to read related books outside of class time. Your overall grade will be decided based on the following Term-end examination 70% and in class contributions 30%.

社会思想 1 (社会学概論) 2

岩野 卓司

授業コード：A2265 | 曜日・時限：木3/Thu.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代では人と社会の関係は希薄になりつつある。テレビゲームやインターネットの普及は人間の孤立化を加速させているし、ケータイやメールというコミュニケーション手段の発展も逆に「生の」人間関係を影の薄いものになっている。引きこもりやオタクでなくても、現代社会は人に「孤独に」生きることを強いるのである。しかし、対人関係が希薄であるとはいえ、私たちは自分が意識しようとしまいと様々な社会的な制約を受けているのだ。「国籍」、「法」、「時代」、「流行」、「メディア」等々。授業では、人間がいかに「社会的動物」であるかということを考えていき、このことを理解していくことが授業の目標である。

【到達目標】

今日、資本主義の発展は多くの問題をもたらしている。一握りの金持ちが世界の富の大半を握っているとともに、派遣労働者や失業者の数の増大が社会問題と化している。また、家族の制度が崩壊しつつある昨今、無縁社会が問題となっている。そういう状況を考えてみると、共同体や人間の共同性について模索する必要があるのではないのか。

授業ではこの共同性を贈与との関係から考えていく。まず資本主義の功罪を説明したあと、講義ではポスト資本主義における贈与の重要性を次の二つのテーマから検討していく。

(1) 社会保障：『贈与論』の著書であるマルセル・モースは、社会保険の制度を贈与交換の理論で根拠づけようとした。古代人の贈与の知恵は、現代の資本主義に抵抗するために有効な考え方である。将来導入が議論されているベーシック・インカムやますます重要性を増している脱成長の思想も、贈与の考え方をベースにして考えることができるのだ。

(2) 臓器移植と再生医療：現代医学の重要な一角を占めている臓器移植は贈与として法制化されている。臓器売買とならないために、臓器を受け取った者はそのドナーに謝礼してはいけないのだ。この点で臓器移植は商業的交換の論理には取まらない。しかし、この贈与は同時にカニバリズムとも見られることもある。臓器移植というかたちで他人の肉体の一部を延命のために我有化することで、人肉食と同じことをしているからである。ここでは他者の臓器と贈与とカニバリズムの問題を考えていく。

授業では、これらのテーマを通して、贈与と共同体についての理解を深め、ポスト資本主義社会における贈与の役割を理解することを到達目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式

毎回、前回の授業の復習をしたうえで、授業をすすめていく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	共同体とは何か？ 贈与とは何か？
第2回	資本主義とは何か？	商業的交換と資本の蓄積
第3回	資本主義とは何か？ (2)	新自由主義
第4回	資本主義とは何か？ (3)？	金融と負債
第5回	モース『贈与論』(1)	贈与とお返し
第6回	モース『贈与論』(2)	ハウヤボトラッチ
第7回	社会保障制度	贈与交換による社会主義
第8回	ベーシック・インカム	国家による贈与
第9回	脱成長	蓄積と成長とは別の考え方
第10回	臓器移植	臓器移植の現在
第11回	臓器移植とカニバリズム	レヴィ＝ストロースの思想
第12回	臓器移植と他者	他者を取り込むこと
第13回	アフリカの段階と再生 医療	人類の起源に遡ること
第14回	まとめと試験	復習と解説、そして試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で配布したプリント、教科書、参考文献に基づいて復習し、自分の日常や取り巻く社会との関係に照らし合わせて、よく考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業でプリントを配布

岩野卓司『贈与をめぐる冒険 新しい社会をつくるには』(ヘウレーカ)を読むのが望ましい。

【参考書】

岩野卓司『贈与論 資本主義を突き抜けるための哲学』(青土社)

岩野卓司『贈与をめぐる冒険 新しい社会をつくるには』(ヘウレーカ)

岩野卓司『野生の教養』(法政大学出版)

マルセル・モース『贈与論』(岩波文庫)

クロボトキン『相互扶助論』(同時代社)

モーリス・ブランショ『無為の共同体』(ちくま文庫)

ジャン＝リュック・ナンシー『無為の共同体』(以文社)

斎藤幸平『人新世の資本論』(集英社新書)

デヴィッド・グレーバー『負債論』

セルジュ・ラトゥーシュ『脱成長』(白水社)

原田泰『ベーシック・インカム』(中公新書)

アラン・カイエ『功利的理性批判』(以文社)

山崎吾郎『臓器移植の人類学』(世界思想社)

レヴィ＝ストロース『われらみな食人種 (カニバル)』(創元社)

吉本隆明『アフリカの段階について』(試行社)

中沢新一『カイエ・ソバージュ』(講談社)

棚島次郎・出河雅彦『移植治療』(岩波新書)

京都大学iPS研究所上廣倫理研究部門編/山中伸弥監修『科学知と人文知の接点』(弘文堂)

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) と学期末の試験 (70%)

到達目標がどれだけ反映されているかが成績評価の規準となる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

外国語の能力は必要とされない。社会思想の予備知識もいらない。

【Outline (in English)】

In modern times the relationship between people and society is becoming thin. The spread of video games and the Internet has accelerated the isolation of human beings and the development of communication means such as mobile phones and e-mails, on the contrary, makes the "raw" human relationship less obscure. Even though it is not a withdrawal or a geek, modern society forces people to live "lonely". However, although interpersonal relationships are scarce, we are subject to various social constraints as they try to be conscious of themselves. "Nationality", "Law", "Age", "Fashion", "Media" and so on. In the lesson, it is the goal of the lesson to think about how human beings are "social animals" and to understand this.

【Learning activities outside of classroom】

Review based on the handouts, textbooks, and reference materials distributed in class, and think carefully about what you learned in light of your daily life and your relationship with the society around you. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Normal score (30%) and final exam (70%)

The criteria for grade evaluation is how well the achievement goals are reflected.

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

社会思想2 (社会思想史) 1

政井 啓子

授業コード：A2266 | 曜日・時限：水4/Wed.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期では、ヨーロッパ社会思想史における、古代ギリシャから近世までの基本的な諸思想を学びます。

「社会思想史」は、「人間と社会共同体との関係はどうあるべきか」という問題についての人類の探求の歴史です。

古代ギリシャから近世まで、哲学者たちは「自然本来の恒常不変な秩序」を探索していました。この「恒常不変な秩序」とは、人間にとって変更不可能なものであり、人間社会での、真偽・正不正・美醜善悪などを区別するための基盤となるものでもあります。探究の仕方は、知性主義あるいは感覚経験重視など、哲学者によって異なり、また「人間に認識可能な恒常不変な秩序というものはない」という相対主義や懐疑主義思想もあります。このような探究に基づいて、哲学者たちは多様な世界観と人間観を提示し、そして様々な望ましい社会のあり方を考えました。

本授業では古典にふれながら、順序正しく考えることの大切さ、常識や教科書的な通説とされる事柄を疑うということの重要性など、学生が人間の思考活動の豊かさを実感して、さらに自分の考えを具体的な表現で論理的に説明できるようになることを目指します。

【到達目標】

(1) 学生が、古典思想を学ぶことを通して、論理的な思考法と、「恒常不変な秩序」についての諸研究を理解する。

(2) 学生が、現代社会の諸問題についての冷静な分析力や判断力を養い、自分の考えをできるだけ明確にし、文章として表現できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**【授業の進め方と方法】**

本授業は講義形式です。毎回、授業のレジュメと資料を配布し、それを元に解説します。

受講生には、授業後にリアクションペーパー (質問・感想・意見) を提出してもらい、次回の授業でそのいくつかを匿名で紹介し、コメントします。学期中に小レポートを提出してもらいます (4～5回の予定)。期末試験は論述形式です。

オンライン授業は、Zoom使用 (リアルタイム) でおこないます。

☆学習支援システムの「お知らせ」を確認してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし /No**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期の概説	古代から近世までの思想の流れ。 授業の進め方の説明
第2回	アテネ民主政時代の思想	「自然本来の秩序」と「人間社会の法」
第3回	プロタゴラスの思想 (人間は万物の尺度である)	民主政と道徳的相対主義
第4回	ソクラテスの思想	愛知の精神。無知の自覚
第5回	プラトンのイデア論	「恒常不変であるもの」
第6回	プラトンの国家観	「理想国」と民主政への疑問
第7回	アリストテレスの思想	人間の幸福と社会共同体

第8回	ヘレニズム時代の思想	政治的自由の喪失と個人主義思想
第9回	ルネサンスの思想と科学革命	古代哲学の復興と「自然」の探究
第10回	デカルトの思想	1 「私は考える、ゆえに私は在る」
第11回	デカルトの思想	2 自然学 (自然科学) の基礎付け
第12回	自然科学の発展	「科学」と「技術」と「社会制度」
第13回	自然法思想	「社会契約説」
第14回	春学期のまとめと期末試験	授業内筆記試験・まとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回授業で配布する資料および授業内で紹介する文献を読んで、準備と復習をしてください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しません。

【参考書】

『社会思想史』(法政大学通信教育部 発行)。プラトンやアリストテレスやデカルトなどの哲学者の著作、その他の参考文献は授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容の理解度と上記「到達目標」の達成度によって評価します。大体の目安として、平常点 (リアクションペーパー) 25 %、小レポート 25 %、期末試験 (論述式) 50 % です。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料を工夫し、授業内容をより理解しやすく伝えるよう努めます。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces some fundamental thoughts in the history of European social thought from ancient Greece to the early modern period, to students taking this course. From ancient Greece to the early modern period, philosophers sought "the constant and unchanging order of nature." This unchangeable order of nature is also the basis for discriminating between right and wrong, good and evil, etc. in human society. Through such quests, philosophers expressed diverse opinions about the world and human beings, and devised various ideal social systems.

(Learning Objectives)

(1) The goals of this course are for students to understand logical thinking, and recognize researches on "constant and unchanging order", by learning classical philosophy.

(2) At the end of this course, students are expected to be able to calmly analyze various problems in modern society, clarify their thoughts and express them in logical sentences.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short reports: 25%, Reaction papers: 25%

PHL200LA (哲学/Philosophy 200)

社会思想2 (社会思想史) 2

鈴木 由加里

授業コード：A2267 | 曜日・時限：水4/Wed.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義の目的は、社会思想としての「フェミニズム」について考察することである。現代の日本社会において、ジェンダー格差が問題にされることは多い。メディアの報道で世界経済フォーラムによるジェンダーギャップ指数のランキングなどを目にすることもある。「フェミニズム」は女性解放とジェンダー平等の実現を課題にしてきた社会運動であり、社会思想の一つである。本講義では、「フェミニズム」の歴史的意義と現代的価値について学び、現代社会に存在する具体的な問題、性暴力、セクシュアル・ハラスメントなどに対する考察と分析、対象方法などを考えることを目的としている。また、ジェンダー概念によって開かれた問題、性的マイノリティの権利問題などについても考察研究する予定である。

【到達目標】

社会思想に関する基本的な歴史を踏まえつつ、社会思想としての「フェミニズム」について論じられるようになることが本授業の目的である。歴史的な事象や現在世界および日本社会で起こっていることについての確かな情報の把握、学問的分析を行い、感情論ではない自分なりの見解を正しい知識の基づいて文章化できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

この授業は、PowerPointを使った講義と映像資料などを活用し、ディスカッションとレポート(リアクションペーパー)作成によって構成される。レポートは、大学の「課題」提出システムを使ったデジタルでの提出を予定している。リアクションペーパーについては、講義内で講評し特に優れたものについては、授業中に匿名で紹介する予定である。資料などはプリントアウトしたものを教室で配布予定。

また、コロナ禍が収束せず、対面授業が不可能な場合は、以下のような形で講義形式になる。

【遠隔授業の場合】

PowerPoint ファイルに動画を載せた動画やインターネット上の動画視聴と課題によって、構成される。質問などについては、授業時間中に文字チャットで対応。Google のシステム、ハンアウトを利用。課題は、Hoppii のシステムを利用し個別に採点して返却。こちらへの参加は、大学から与えられているメールアドレスでの参加をすること。

「学習支援システムガイド」の「お知らせ」から、授業動画、参照動画へのリンク先を指示する。教材のところから、各自レジュメ、資料などをダウンロードして学習に役立てること。

動画の視聴可能期間は、1 週間。課題提出も 1 週間後に設定予定。オンデマンドなので、動画は何度でも視聴可能。質問や文字チャットによる意見交換(自由参加)は、水曜日 4 限の授業時間中に行う。課題提出をもって、出席とする。

なお、授業計画内容は学生の理解度などによって前後したり別のものに差し替えられる可能性がある。「学習支援システム」のお知らせを毎回確認して欲しい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業説明及び社会思想とフェミニズムの関係について。	課題提出の方法、成績評価の認定、レポートのレベルや採点基準の説明。 簡単に講義全体のテーマについての説明を行う。課題の出題あり。
第2回	社会思想とはどのような学問か？ (概論)	社会思想史という学問の歴史と対象領域についての基礎的なことについての講義を行う。
第3回	フェミニズムの歴史①	フェミニズム前史から第一波フェミニズムの成立まで。フランス革命から婦人参政権運動。
第4回	フェミニズムの歴史②	社会運動としての「フェミニズム」から第二波フェミニズム成立について歴史的経緯を学ぶ。
第5回	第二波フェミニズムの問題射程と現代社会	婦人参政権獲得後の「フェミニズム」の課題について学ぶ。アメリカとフランスの事例について。
第6回	日本におけるフェミニズム	「ウーマンリブ」とは何であったのか？ 第二波フェミニズムの日本への影響について。
第7回	フェミニズムとジェンダー概念	ジェンダー概念の意味と歴史的経緯を学ぶ
第8回	ジェンダーに対する社会的理解と誤解	日本の社会において「ジェンダー」という言葉がどのように使われてきたかを学ぶ。
第9回	「ジェンダー」概念によって開かれた問題①	ジェンダー・アイデンティティについて学ぶ
第10回	「ジェンダー」概念によって開かれた問題②	性的指向について学ぶ。いわゆる「LGBT」問題について考察する。
第11回	ジェンダー差別という問題設定	社会的不平等論と現代の日本社会について学ぶ
第12回	性暴力について	性暴力被害とはどのような「被害」であるのかを分析する。可能ならば動画の紹介をする。
第13回	社会問題としてのセクシュアル・ハラスメント	セクハラ問題の現状と分析
第14回	ジェンダー論とフェミニズムについて	フェミニズムは過去の社会思想なのかを問い直す。参考資料としての動画視聴と最終課題の提示。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

参考文献、資料などを読み、どの知識が不足しているのかを確認し、各自補足すること。参考文献、参考資料などを読み込んでおいてほしい。

授業後については、授業時間内では十分な形で各種の資料を紹介出来ない。できる範囲で映像資料を視聴したり、配布された文章資料などの読解をすすめる努力をしてもらいたい。授業内で配布された参考文献リストなどに目を通し、学習を深めておこう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

担当教員が作成した授業レジュメ、デジタルデータは学習支援システム「教材」フォルダにPDFファイルもしくはjpg ファイルの形でアップロードする。

【参考書】

『フェミニズム ワードマップ』江原 由美子(編集), 金井 淑子(編集) 新曜社 (1997/09)

『フェミニズムの歴史』 ジャン・ラボー著 加藤康子訳新評論 (1987/10)

『現代日本女性史—フェミニズムを軸として』 鹿野政直 有斐閣 (2004/07)

『女性解放思想史 ちくま学芸文庫』 水田珠枝 筑摩書房 (1994/05)

『フェミニズム (思考のフロンティア)』 竹村和子 岩波書店 (2000/10/20)

その他授業時、レジュメなどで参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」で出題されるレポート課題をすべてを提出することが必須である。提出されたレポート課題の内容から到達目標の達成度合いを判断して成績を評価をする。

レポートの評価は、課題提出の回数×取得点数/10＝総合点数→100点換算

として点数化

レポートもしくはテストは各回 10 点満点

＊課題の回数は学生の理解度と授業進度によって変わる。課題については授業時に詳細を発表するので、欠席した場合は各自情報を集めること。

レポート 80% 平常点 20%

【学生の意見等からの気づき】

定員未満の人数での教場利用だったが、多少息苦しさを感じた。人数が多いため細部に目が行き届かず、いねむりやサボりに対する配慮が難しかった。まじめに授業に取り組めるように環境面やコミュニケーションにあり方に配慮したいと思う。

【学生が準備すべき機器他】

課題の提出に「学習支援システム」を利用するのでレポート提出、文字チャットに耐えうる情報機器及び通信環境が必要。

【その他の重要事項】

この講義では、セクシュアリティについて語ることが多い。特に、第十二講、第十三講では、「性暴力」がテーマになる。PTSD、フラッシュバックなどを引き起こす可能性がある。心身の健康を考えて、受講を検討してほしい。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to consider "feminism" as social thought. "Feminism" is a social movement, a social movement that has been a subject of the realization of liberation of women and gender equality. This lecture aims to learn about the historical importance and contemporary value of "feminism", to consider and analyze concrete problems existing in contemporary society.

[Learning Objectives]

At the end of the course, students are expected to be able to gain knowledge about feminism as a social thought and write essays on modern gender issues.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to read references and materials to see what knowledge they lack and supplement themselves.

[Grading Criteria /Policies]

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports : 80%、in class contribution: 20%

LIN200BB（言語学 / Linguistics 200）

ラテン語 1

金子 佳司

授業コード：A2268 | 曜日・時限：火4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古代ローマで使われていた古典ラテン語を読むための基本的な文法の知識を1年間かけて修得することを目的としますが、ラテン語1では、名詞、形容詞、代名詞、動詞の基本的な変化などを学びます。

古典ラテン語は紀元前1世紀から紀元後1世紀に使われた言語ですが、それ以降の西洋文化の根幹をなす言語でもありますから、西洋の文化や学問を理解するためにはラテン語の知識は必要不可欠です。

【到達目標】

ラテン語1では、古典ラテン語の名詞、形容詞、動詞の基本的な変化を覚え、辞書を使えば簡単なラテン語が読めるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、教科書の2～3課分の文法を説明し、それらの課の練習問題のラテン文の和訳を宿題として行なってもらいます。そして、解答に対しては毎回添削をして返却しますが、必要に応じて、授業の中でも解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第1課・第2課の説明	文字と発音 音節とアクセント
第2回	練習問題1,2の解説 第3課～第5課の説明 引用句1	動詞第一、第二活用 名詞第一活用 動詞第三、第四、第五活用
第3回	練習問題3,5,7の解説 第6課～第8課の説明 引用句2,3	名詞第二活用(1) 形容詞第一、第二活用(1) 動詞未完了過去形
第4回	練習問題9,11,13の解説 第9課～第11課の説明 引用句4,5	名詞第二活用(2) 形容詞第一、第二活用(2) 動詞未来形
第5回	練習問題15,17,19の解説 第12課～第14課の説明 引用句6,7	前置詞、所格(locative)、eoの変化 不定詞、sum,possumの変化 i音幹名詞
第6回	練習問題21,23,25の解説 第15課～第17課の説明 引用句8,9	i音幹形容詞 動詞完了形、過去完了形、未来完了形
第7回	練習問題27,29,31の解説 第18課・第19課の説明 引用句10	黙音幹名詞、混合幹名詞
第8回	練習問題33,35の解説 第20課・第21課の説明 引用句11,12	動詞受動相（受動態） 流音幹鼻音幹名詞
第9回	練習問題37,39の解説 第22課・第23課の説明 引用句13,14	s音幹名詞 混合幹形容詞、子音幹形容詞
第10回	練習問題41,43の解説 第24課・第25課の説明 引用句15	動詞完了、過去完了、未来完了受動相（受動態） 動詞の主要部分、volo nolo ,maloの変化
第11回	練習問題45,47の解説 第26課・第27課の説明 引用句16	名詞第四、第五活用 能動相（能動態）欠如動詞、fio,feroの変化
第12回	練習問題49,51の解説 第28課・第29課の説明 引用句17,18	指示代名詞、限定代名詞 疑問代名詞、不定代名詞
第13回	練習問題53,55の解説 簡単な読み物	簡単なラテン語で書かれた文章を読んでみる。
第14回	理解度の確認	春学期に扱った練習問題、引用句、読み物が理解できたかどうかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、指示された課の練習問題のラテン文をすべて和訳するとともに、そのラテン文を文法的に説明できるようにすること。また、授業後には、自分が間違っていたところを必ず見直すこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

また、予習・復習のための教材をHoppii上に毎回アップしますので活用してください。

【テキスト（教科書）】

田中利光著『ラテン語初歩（改訂版）』（岩波書店）

【参考書】

入手しやすい辞書には、水谷智洋編『羅和辞典（改訂版）』（研究社）があります。その他の参考書は、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎行行なってもらう練習問題（＝ラテン文の和訳）（50%）と期末試験（50%）の結果で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度も、ラテン語と近現代語（特に英語）との関係の説明を心がけましたが、今年度もさらに、ラテン語がいかに近現代語に影響を及ぼしているかを理解してもらえようにしたいと思います。

【Outline (in English)】

Course outline : In this course, students learn the basics of classical Latin grammar. Classical Latin is a language used from the first century B.C. to the first century A.D., and on the model of it many generations after them have written their works in Latin. So Latin is very important to understand Western culture.

Learning Objectives : The goals of this course are to learn Latin nouns, adjectives, and verbs, and to be able to read simple Latin sentences.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to translate the Latin sentences of the exercises into Japanese, and after each class meeting, to review the translations. The study time for your preparations and reviews will be 4 hours for each class.

Grading Criteria : I will evaluate the results of the exercises (50%) and the exam (50%) .

LIN200BB（言語学 / Linguistics 200）

ラテン語2

金子 佳司

授業コード：A2269 | 曜日・時限：火4/Tue.4
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古代ローマで使われていた古典ラテン語を読むための基本的な文法の知識を1年間かけて修得することを目的としますが、ラテン語2では、接続法、命令法、条件文、比較文、不定詞、分詞、動名詞などを学びます。ラテン語2はラテン語1とは独立した科目ですが、ラテン語1で学んだ知識を前提としていますので、ラテン語2をとる場合は、できる限りラテン語1も受講してください。

古典ラテン語は西洋文化の根幹をなす言語ですから、西洋の文化や学問を理解するためにはラテン語の知識は必要不可欠です。

【到達目標】

ラテン語2では、ラテン語1で学んだ知識を踏まえた上で、さらに古典ラテン語の基本的な文法事項全体を身につけ、辞書を使えば標準的なラテン語が読めるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、教科書の2課分（または1課分）の文法を説明し、それらの課の練習問題のラテン文の和訳を宿題として行なってもらいます。そして、解答に対しては毎回添削をして返却しますが、必要に応じて、授業の中でも解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期の授業の復習 第30課・第31課の説明 引用句 19,20	動詞接続法現在形、未完了過去形、 目的節で使われる接続法 人称代名詞
第2回	練習問題 57,59 の解説 第32課・第33課の説明 引用句 21	所有形容詞、強意代名詞 動詞接続法完了形、過去完了過去形、 間接疑問文で使われる接続法
第3回	練習問題 61,63 の解説 第34課・第35課の説明 引用句 22,23	事実に反する仮定を表す条件文 仮想を表す条件文と予想を表す条件文
第4回	練習問題 65,67 の解説 第36課・第37課の説明 引用句 24	動詞完了不定詞、対格不定詞節 動詞未来不定詞
第5回	練習問題 67,69 の解説 第38課・第39課の説明	関係代名詞 非人称動詞
第6回	練習問題 73,75 の解説 第40課・第41課の説明 文例 1	動詞現在分詞 動詞完了分詞、未来分詞、状況を表す分詞 パエドルスの寓話「人の欠点」を読む。
第7回	練習問題 77,79 の解説 第42課・第43課の説明 引用句 25,26 文例 2	奪格の独立的用法 形容詞の比較級、最上級 パエドルスの寓話「狐と葡萄」を読む。
第8回	練習問題 81,83 の解説 第44課・第45課の説明	形容詞の不規則な比較級、最上級
第9回	練習問題 85,87 の解説 第46課・第47課の説明 引用句 27	数詞 動名詞 動形容詞
第10回	練習問題 89,91 の解説 第48課の説明 文例 3 文例 4	動名詞の代わりに用いられる動形容詞 カエサル『ガリア戦記』を読む。 キケロ『善と悪の究極について』を読む。
第11回	練習問題 93,95 の解説 第49課・第50課の説明 引用句 28	命令法 能動相欠如動詞の命令法、主文における接続法
第12回	練習問題 97,99 の解説 第51課の説明 引用句 29 文例 5	目的分詞 デカルト『省察』を読む。
第13回	文例 6	ユークリッド『幾何学原論』を読む。
第14回	理解度の確認	秋学期に学んだ文法事項が理解できたかどうかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、指示された課の練習問題のラテン文をすべて和訳するとともに、そのラテン文を文法的に説明できるようにすること。また、授業後には、自分が間違っていたところを必ず見直すこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

また、予習・復習のための教材を Hoppii 上に毎回アップしますので活用してください。

【テキスト（教科書）】

田中利光著『ラテン語初歩（改訂版）』（岩波書店）

【参考書】

入手しやすい辞書には、水谷智洋編『羅和辞典（改訂版）』（研究社）があります。その他の参考書は、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎行行なってもらふ練習問題（＝ラテン文の和訳）（50％）と期末試験（50％）の結果で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度も、ラテン語と近現代語（特に英語）との関係の説明を心がけましたが、今年度もさらに、ラテン語がいかに近現代語に影響を及ぼしているかを理解してもらえるようにしたいと思います。

【Outline (in English)】

Course outline : In this course, students learn the basics of classical Latin grammar. Classical Latin is a language used from the first century B.C. to the first century A.D., and on the model of it many generations after them have written their works in Latin. So Latin is very important to understand Western culture.

Learning Objectives : The goals of this course are to learn the basic Latin grammar, and to be able to read standard Latin sentences.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to translate the Latin sentences of the exercises into Japanese, and after each class meeting, to review the translations. The study time for your preparations and reviews will be 4 hours for each class.

Grading Criteria : I will evaluate the results of the exercises (50%) and the exam (50%) .

LIN200BB（言語学 / Linguistics 200）

ギリシア語 1

白根 裕里枝

授業コード：A2270 | 曜日・時限：木5/Thu.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古典ギリシア語の基礎文法を学ぶことを目的にしています。古典ギリシア語は、主としてB.C. 5世紀前後の古典期のアテナイを中心に哲学や歴史書などの散文に用いられた言語です。ヨーロッパの諸言語の元になる言語で、古典ギリシア語の知識があると、ラテン語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語、英語などを学ぶ上で、その体系的理解に大いに役に立ちます。また、西洋文学の源をなすホメロスの『イリアス』や『オデュッセイア』、哲学の源であるプラトン（ソクラテス）の対話篇や、アリストテレスの諸著作、そして新約聖書などが書かれたこの言語を学ぶ意義は大変に大きなものです。数学や科学で使われるギリシア文字の $\Sigma \pi \gamma \theta \mu$ や、時計の Ω オメガ、シンボジウム、シンフォニー、オーケストラ、銀河鉄道999のメーテル、エヴァンゲリオン、胃腸薬のエビオスも、もとはギリシア語で、現在でもいろいろな場面でギリシア語に出会うことと思います。ギリシア語を学んでみたいという意欲ある学生の参加を望みます。

【到達目標】

授業では、まずはギリシア語を読めるようになること、そして、ギリシア語文法の基本的な構造を理解して、自分で辞書や変化表を調べて、単語の意味を確実に捉え、基礎的な文を読んだり、古典の名文句などの内容を読んで理解できるようになることを目的としています。できるだけ、ギリシアの古典のなかから格言や平易な単文を選んで併読し、実際のギリシア語に親しみ、味わい、古典を読む喜びを共有したいと思います。哲学科の学生は、まずギリシア語を学ぶことから哲学を始めてほしいですし、また、法学や歴史・文学・経済など他専攻の学生も、在学中に一度はこの言語に挑戦していただきたい。というのも、他の科目は自分で本を読んで学ぶこともできますが、ギリシア語だけは、大学を出てしまうと、自分で学ぶこともよそで学ぶことも難しいからです。通年での履修が望ましいです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

今年度は授業形態はまだ未定ですが、おそらく、隔週でオンラインと対面授業を交互に行う予定です。学生の希望に応じて、毎週、対面授業にすることもあり得ます。初回と2回目を対面授業として、相談の上、決めたいと思います。「授業形態」には、その後の対面授業とオンラインを隔週に設定してありますが、参考にしてください。

授業では、下記のテキストを用いて、全くの初歩から文法を学び、語形変化を記憶し、練習問題を解くという形で、この美しい言語を理解する力を養ってゆきます。毎回、補助解説用の「ツボ・プリント」を用いて、問題の解き方のポイントなどを詳しく解説します。学生は「書き込み用プリント」を用いて、単語の意味などの丁寧な下調べをすることができます。毎回、練習問題を解いてもらい、対面授業の場合は、文法的説明をもう一度一緒に学んだ上で、練習問題の解答を丁寧に解説することによって理解を深めてゆきます。オンラインの場合は、主として資料の配布と音声ファイルで授業を進めます。文法の解説や変化表のプリント、音声、動画による解説も予定しています。毎回1～2課ずつ進んで、できるだけ多く進みたいと思います。通年での履修が望ましいです。必ず前期から履修してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文字を知る	1. 字母、発音、音韻の分類、氣息記号
第2回	文字の読み方	2. 音節、アクセント、句読点、語末音
第3回	動詞変化1, 名詞変化1	3. 動詞現在形 4. 名詞A変化1
第4回	名詞変化2	5. 名詞A変化2
第5回	動詞変化2, 名詞変化3	6. 動詞未来形 7. 名詞A変化3
第6回	名詞変化4	8. 名詞A変化4
第7回	動詞変化3	9. 動詞、未完了過去
第8回	名詞変化5	10. 名詞O変化
第9回	形容詞変化	11. 形容詞変化（第一・第二変化）
第10回	前置詞	12. 前置詞
第11回	動詞変化4	13. 動詞アオリスト
第12回	動詞変化5	14. 動詞完了形
第13回	代名詞変化	15. 指示代名詞、強意代名詞
第14回	人称語尾1,2	16. 本時称の人称語尾 17. 副時称の人称語尾

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、次の練習問題の解答のための予習を必要とします。本授業の準備・復習時間、並びに毎回の課題の提出準備は、各3～4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ギリシア語入門 新装版』田中美知太郎、松平千秋著、岩波書店、2012、¥2640

【参考書】

『しっかり学ぶ初級古典ギリシア語』堀川宏著、ベレ出版、2021、¥2750

【成績評価の方法と基準】

平常点評価。語学の授業ですから、毎回の予習と出席（課題の提出）による、練習問題の解答を重視します。出席と課題の提出70%、毎回の解答の出来具合30%。対面授業の場合は、前に出て解答を書いてももらったり、手元を写して解答を発表してもらいます。オンラインでも解答を毎週、期日までに提出すること。練習問題を訳せるように毎回準備して出席し、解答することを最後まで続けた者に対して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学ぶ機会の少ない古典ギリシア語という新しい言語を覚えることは、難しいけれど、楽しいと学生は言う。初めが肝心で、基礎から、丁寧に分かりやすく教えるので、ぜひ最後まで挑戦してもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインの回は「学習支援」を通じて課題を配布したり、提出してもらったりするので、パソコンで課題を印刷してそれに記入し、写メを撮って提出したり、PDFを添付できたりすることが望ましい。スマートフォンやタブレットでだと、しっかり取り組めないと感じる。

【その他の重要事項】

ギリシア語習得はたしかに難しいかもしれませんが、語学はのめり込むとおもしろく、大学で本当に勉強したという実感を持てるでしょう。とはいえ、ギリシア語を読むのは意外に簡単ですし、練習問題の内容も、現代の私たちが忘れた、古典的教養に満ちあふれた格言などが古典文化そのもののへと誘ってくれます。言葉の船に乗って一緒に古代への旅にでましょう。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to acquire an understanding of the basics of classical Greek grammar.

After two semesters, students will be able to understand the outline of the classical Greek grammar and prepared to read classical Greek texts with the aid of dictionaries and grammar books.

Students will be expected to complete the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on the following, In-class exercises: 30%, Assignments: 70%.

LIN200BB（言語学 / Linguistics 200）

ギリシア語2

白根 裕里枝

授業コード：A2271 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古典ギリシア語の基礎文法を学ぶことを目的にしています。古典ギリシア語は、主として B.C. 5 世紀前後の古典期のアテナイを中心に哲学や歴史書などの散文に用いられた言語です。ヨーロッパの諸言語の元になる言語で、古典ギリシア語の知識があると、ラテン語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語、英語などを学ぶ上で、その体系的理解に大いに役に立ちます。また、西洋文学の源をなすホメロスの『イリアス』や『オデュッセイア』、哲学の源であるプラトン（ソクラテス）の対話篇や、アリストテレスの諸著作、そして新約聖書などが書かれたこの言語を学ぶ意義は大変に大きなものです。数学や科学で使われるギリシア文字の $\Sigma \pi \gamma \beta \theta \mu$ や、時計の Ω オメガ、シンボジウム、シンフォニー、オーケストラ、銀河鉄道 999 のメーテル、エヴァンゲリオン、胃腸薬のエビオスも、もとはギリシア語で、現在でもいろいろな場面でギリシア語に出会うことと思います。ギリシア語を学んでみたいという意欲ある学生の参加を望みます。

【到達目標】

授業では、まずはギリシア語を読めるようになること、そして、ギリシア語文法の基本的な構造を理解して、自分で辞書や変化表を調べて、単語の意味を確実に捉え、基礎的な文を読んだり、古典の名文句などの内容を読んで理解できるようになることを目的としています。できるだけ、ギリシアの古典のなかから格言や平易な単文を選んで併読し、実際のギリシア語に親しみ、味わい、古典を読む喜びを共有したいと思います。哲学科の学生は、まずギリシア語を学ぶことから哲学を始めてほしいですし、また、法学や歴史・文学・経済など他専攻の学生も、在学中に一度はこの言語に挑戦していただきたい。というのも、他の科目は自分で本を読んで学ぶこともできますが、ギリシア語だけは、大学を出てしまうと、自分で学ぶこともよそで学ぶことも難しいからです。通年での履修が望ましいです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

今年度は授業形態はまだ未定ですが、おそらく、隔週でオンラインと対面授業を交互に行う予定です。学生の希望に応じて、毎週、対面授業にすることもあり得ます。初回と2回目の対面授業で相談の上、決めたいと思います。授業では、下記のテキストを用いて、全くの初歩から文法を学び、語形変化を記憶し、練習問題を解くという形で、この美しい言語を理解する力を養ってゆきます。毎回、補助解説用の「ツボ・プリント」を用いて、問題の解き方のポイントなどを詳しく解説します。学生は「書き込み用プリント」を用いて、単語の意味などの丁寧な下調べをすることができます。毎回、練習問題を解いてもらい、対面授業の場合は、文法的説明をもう一度一緒に学んだ上で、練習問題の解答を丁寧に解説することによって理解を深めてゆきます。オンラインの場合は、主として資料の配布と音声ファイルで授業を進めます。文法の解説や変化表のプリント、音声、動画による解説も予定しています。毎回12課ずつ進んで、できるだけ多く進みたいと思います。通年での履修が望ましいです。必ず前期から履修してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期の復習	動詞、名詞変化の基本復習
第2回	動詞変化6	18.mi 動詞
第3回	代名詞2	19.疑問代名詞、不定代名詞
第4回	動詞変化7	20.動詞, 中動相
第5回	代名詞3, 動詞変化8	21.人称代名詞 22.動詞, 中動相2
第6回	代名詞4	23.再帰代名詞その他
第7回	動詞変化9	24.動詞, 第2アオリスト
第8回	動詞変化10	25.動詞受動形
第9回	名詞変化6, 第三変化	26.第三変化の名詞1
第10回	動詞変化11	27.約音動詞1
第11回	名詞変化7	28.第三変化の名詞2
第12回	動詞変化12	29.約音動詞2
第13回	動詞変化13	30.動詞完了形2、中動相
第14回	第三変化の形容詞	31.第三変化の形容詞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、次回の練習問題の解答のための予習を必要とします。本授業の準備・復習時間、並びに毎回の課題の提出準備は、各3～4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ギリシア語入門 新装版』田中美知太郎、松平千秋著、岩波書店、2012、¥2640

【参考書】

『しっかり学ぶ初級古典ギリシャ語』堀川宏著、ベレ出版、2021、¥2750

【成績評価の方法と基準】

平常点評価。語学の授業ですから、毎回の予習と出席（課題の提出）による、練習問題の解答を重視します。出席と課題の提出 70 %、毎回の解答の出来具合 30 %。対面授業の場合は、前に出て解答を書いてもらったり、手元を写して解答を発表してもらいます。オンラインでも解答を毎週、期日までに提出すること。練習問題を訳せるように毎回準備して出席し、解答することを最後まで続けた者に対して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学ぶ機会の少ない古典ギリシア語という新しい言語を覚えることは、難しいけれど、楽しいと学生は言う。初めが肝心で、基礎から、丁寧に分かりやすく教えるので、ぜひ最後まで挑戦してもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインの回は「学習支援」を通じて課題を配布したり、提出してもらったりするので、パソコンで課題を印刷してそれに記入し、写メを撮って提出したり、PDF を添付できたりすることが望ましい。スマートフォンやタブレットだけだと、しっかり取り組めないと感じる。

【その他の重要事項】

ギリシア語習得はたしかに難しいかもしれませんが、語学はのめり込むとおもしろく、大学で本当に勉強したという実感を持てるでしょう。とはいえ、ギリシア語を読むのは意外に簡単ですし、練習問題の内容も、現代の私たちが忘れた、古典的教養に満ちあふれた格言などが古典文化そのものへと誘ってくれます。言葉の船に乗って一緒に古代への旅にしましょう。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to acquire an understanding of the basics of classical Greek grammar.

After two semesters, students will be able to understand the outline of the classical Greek grammar and prepared to read classical Greek texts with the aid of dictionaries and grammar books.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on the following. In-class exercises: 30%, Assignments: 70%.

HIS200BE（史学 / History 200）

歴史思想（史学概論）**齋藤 勝**

授業コード：A2274 | 曜日・時限：木1/Thu.1
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学という学問の特性について認識を深める。
 自らの歴史研究のあり方や位置づけを省みるために、歴史学という学問の持つ特性を多角的に学ぶ。

【到達目標】

歴史学という学問の性質、方法、潮流、他の学問との関係等についての理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で行っていきます。質問等は原則として授業の前後に行ってください。課題等に対するフィードバックは、学習支援システムを通じて行います。なお、授業の進捗等により授業計画が変更される場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文学部史学科の位置づけ	伝統的な学問の分類と文学部史学科
第2回	歴史学の流れと現在	史学概論の扱う課題
第3回	史学概論と歴史学①	史学概論の位置づけ・目的と歴史学の特性
第4回	史学概論と歴史学②	歴史学の可能性と限界、約束ごと
第5回	歴史学の目的①	学問の効用・意義と目的
第6回	歴史学の目的②	歴史学の目的の主要な三分
第7回	歴史学の目的③	三つの歴史学の相互関係
第8回	歴史学の目的④	歴史学の効用
第9回	歴史学の対象①	歴史学の対象の設定
第10回	歴史学の対象②	事実についての問題
第11回	歴史学の対象③	事実の種類
第12回	歴史学の対象④	史料による事実の確認と復元
第13回	歴史学の対象⑤	事実の認識
第14回	まとめ	歴史学の特性と研究の関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
 予習・復習として指定された関連文献を読むことが求められます。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験もしくはレポート100%。
 試験かレポートかは授業の進展に応じて決めていきます。
 講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象とする予定です。
 決定や変更については、試験実施もしくはレポート提出期限の二週間前までに告知します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with characteristics of the study of history.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider characteristics, methods and history of the study of history and relations with other academic fields.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report or examination(100%)

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

心理学 2（集団社会心理学） 2

越智 啓太

授業コード：A2303 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

<授業概要>

人間の社会行動を科学的に解明する

社会心理学は、我々が、日々遭遇するさまざまな行動を心理学的な観点から分析していく学問です。集団社会心理学の授業では、そのなかでも特に集団と人との交わりの部分、パーソナリティと集団の関係の部分に焦点を当てて検討していきます。具体的には、集団内での自分のポジショニング(キャラを作っていくこと)、ものを売るとき買うときの心理、効果的な広告の方法、部活などにおいて適切なリーダーシップとは、人を説得するときどうすれば良いのか、集団でものを決めると本当にうまくいくのか、3人寄れば文殊の知恵というのは本当か、なぜ国どおしが憎しみあうのかなど、ミクロからマクロまでさまざまなテーマを取り扱います。実際、とても身近な学問です。

<学習目標>

社会心理学の基礎概念と方法論を科学的に理解し、我々が普段遭遇する社会的な事象について心理学的観点から分析できるようにする。

【到達目標】

<到達目標>

- (1) 社会心理学の基本的な用語、概念について、その定義や基本的な研究が解説できるようにする。
- (2) それらの概念について自分の具体的な経験と結びつけて説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

<授業内容>

我々の社会行動について順次取り上げて、その理論と根拠になった実験例、応用、問題点などについて順次紹介していく。基本的には講義形式である。半期の授業なので、広い社会心理学の分野をすべて取り上げることが出来ないが、みなが関心を持つようなテーマをいくつか選んで深く掘り下げてみたい。授業後には毎回リアクションペーパーを、授業支援システムに書き込む。リアクションペーパーおよびレポート課題については次の講義時かウェブ上で講評および追加解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	集団社会心理学とは何か	授業の進め方、採点ポリシーの説明、社会心理学の概要、社会心理学の研究手法
第2回	消費者行動（1）	価格認知、プロスペクト理論、内的参照価格、ヒューリスティクス
第3回	消費者行動（2）	価格戦略、ブランドコミュニケーション、ブランド認知
第4回	説得的コミュニケーション（1）	態度、説得、送り手の効果、メッセージの効果、スリーパー効果
第5回	説得的コミュニケーション（2）	恐怖喚起コミュニケーション、比較広告、精緻化見込みモデル
第6回	説得的コミュニケーション（3）	要請過程、フットインザドア、ドアインザフェイステクニック、悪徳商法
第7回	うわさ（1）	うわさの伝達を規定する要因、不安と曖昧さの効果
第8回	うわさ（2）	都市伝説の伝達、都市伝説の誕生
第9回	同調とマイノリティインフルエンス（1）	同調行動、同調行動を規定する要因、アッシュの実験
第10回	同調とマイノリティインフルエンス（2）	マイノリティインフルエンス、服従、洗脳
第11回	集団意思決定（1）	社会的な抜き現象
第12回	集団意志決定（2）	集団意志決定におけるバイアス、リスキースhift
第13回	リーダーシップ（1）	リーダーシップのスタイル、リーダーシップを規定する要因、PM理論
第14回	リーダーシップ（2）	コンティンジェンシー理論、パス=ゴール理論、組織学習、地位は人を作るか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自受講に際しては、ダウンロードした授業資料の該当部分を読むことが必要であるが、予習よりは復習の部分に力を入れて欲しい。各チャプターごとに記憶すべき用語（キーワード）使いこなせるようにするとともに、あらかじめ提示する設問を解いておくこと。動画資料や追加資料も準備して、ウェブから利用できるようにしておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。授業に使用するパワーポイント（の抄録版）は、授業支援システムからダウンロードできるようにしておく

【参考書】

越智啓太（編）私たちはなぜ傷つけ合いながら助け合うのか：心理学ビジュアル百科 社会心理学編 創元社（推奨）

越智啓太（著）買い物の科学 実務教育出版

越智啓太（著・監訳）サボタージュマニュアル 北大路書房

中里・松井・中村（編）社会心理学の基礎と展開 八千代出版

を予復習用参考書に使用する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価のためには3/5以上の出席を前提とする。

レポート（80%）+コメント（20%）

【学生の意見等からの気づき】

毎回、比較的良好な評価をいただいております。とくに知的好奇心が満たされた、などのポイントが高くなっています。今年は例年よりもより面白くなるように努力します！今までに比べ、ウェブを通して配付する資料をさらに充実させました。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は各自、授業支援システムからダウンロードする。

【その他の重要事項】

（1）「社会心理学」（哲学科は心理学2社会心理学）とペアで社会心理学という学問全体を概観する。そのため、「社会心理学」と同時に履修することが望ましい。

（2）D評価のものが毎年5%～10%程度はでているので、決して、「楽勝科目」ではない。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, we will give an overview of social psychology. In particular, I will explain issues communication process and group dynamics.

【Learning Objectives】

(1) To be able to explain the definition of the basic concept of social psychology and basic research related to the concept.

(2) to be able to explain these concepts in connection with your own concrete experience.

(3) Experience effective presentation report creation.

【Learning activities outside of classroom】

Each lesson requires 2 hours of preparation and 2 hours of review.

【Grading Criteria /Policy】

Participation in classes of 3/5 or higher is a prerequisite for grade evaluation.

Class participation is used only to determine attendance criteria.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Report (80%) + comment & discussion (20%)

PHL100BB (哲学 / Philosophy 100)

哲学概論 1**中釜 浩一**

授業コード：A2304 | 曜日・時限：木5/Thu.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学や哲学史の詳しい知識を前提とすることなく、「哲学的問が現実の中でどのような仕方ではじめるか」を直接体験し検討することで、各自が「哲学的に思考する」感覚と能力の基礎を身につけることを目指す。哲学概論Ⅰでは、より基本的なトピックを扱う。

【到達目標】

- ①「哲学的に思考するとはどういうことか」を、いくつかの具体的問題を考えることで体験する。
- ②科学・宗教・芸術などの思考と区別される「哲学的思考法」が、どんな方法や議論の仕方に基づくものかを理解する。
- ③「哲学すること」の現代的役割を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎回その回で論じた内容に関して小課題を課し、次回授業の冒頭で、補足的解説や疑問点の解答等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	常識の批判としての哲学
第2回	知識の問題（1）	自分は一体何を知っているのか
第3回	知識の問題（2）	夢と現実（フェイクとリアル）
第4回	知識の問題（3）	懐疑論（われわれは何も知りえない）とその批判
第5回	他者問題（1）	「他人の心を知る」とはどういうことか？
第6回	他者問題（2）	他人が「ゾンビ」でないと考える理由はあるのか
第7回	他者問題（3）	ロボットに心を認めてならない理由はあるのか
第8回	心の正体（1）	心身二元論と唯物論（心とは脳の何か）
第9回	心の正体（2）	二元論の致命的弱点
第10回	心の正体（3）	唯物論は勝利したのか
第11回	決定論と自由（1）	因果の根本原理
第12回	決定論と自由（2）	決定論（すべては決定されている）の証明
第13回	決定論と自由（3）	それでもなお「自由」は可能なのか
第14回	まとめ	まとめの議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に出される課題に解答して提出する。

指定された図書やプリント等を読んでおく。

本講義の予習復習時間は、授業ノートの整理・課題の執筆・参考文献の読解を合わせて毎回4時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

トマス・ネーゲル「哲学ってどんなこと」（昭和堂）

【参考書】

プラトン「ゴルギアス」、デカルト「省察」、ヒューム「人間本性論」、カント「プロレゴメナ」、ラッセル「哲学の諸問題」

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーの内容：70%

期末レポート：30%

【学生の意見等からの気づき】

毎回の課題の解説をさらに充実させる。

【Outline (in English)】

Course outline: This course will introduce some of the basic philosophical problems without presupposing any detailed knowledge of history of philosophy.

Learning Objectives: To acquire ability to think and argue philosophically.

Learning activities outside of classroom: After each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the content and to write the short paper on the topic of the day.

Grading Criteria: short papers:70%, term-end examination:30%

PHL100BB (哲学 / Philosophy 100)

哲学概論 2

中釜 浩一

授業コード：A2305 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学概論1に引き続き、いくつかの「哲学的パラドクス」を検討することで、自ら哲学的に思考する能力を身につけることを目指す。哲学概論2では、哲学概論1よりもさらに進んだトピックを扱う。

【到達目標】

- ①「哲学的に思考するとはどういうことか」を、いくつかの具体的問題を考えることで体験する。
- ②他の思考法とは区別される「哲学的思考法」が、いかなる方法や議論の仕方に基づくものかを理解する。
- ③「哲学すること」の現代的意味を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎回その回で論じた内容に関して小課題を課し、次回授業の冒頭で、補足的解説や疑問点の解答等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	パラドクスと哲学
第2回	パルメニデスと否定のパラドクス（1）	「ないもの」はあるのか
第3回	パルメニデスと否定のパラドクス（2）	「ないもの」についてどうして語れるのか
第4回	パルメニデスと否定のパラドクス（3）	「ないものがある」とは何を意味するか
第5回	ゼノンと運動のパラドクス（1）	飛ばない矢とアキレス
第6回	ゼノンと運動のパラドクス（2）	数学的解決と「無限」の概念
第7回	ゼノンと運動のパラドクス（3）	パラドクスは解決したのか？ 数学と哲学の関係
第8回	時間のパラドクス（1）	「本当の今」は存在するのか？
第9回	時間のパラドクス（2）	宿命論（未来は変えられない）の議論
第10回	時間のパラドクス（3）	ニューカムの問題（過去は変えられる）の検討
第11回	道徳の逆説（1）	道徳の不自然さ
第12回	道徳の逆説（2）	罪と罰（道徳的運の問題）
第13回	道徳の逆説（3）	幸福と道徳（幸せに生きることと正しく生きること）は本当に両立できるのか？
第14回	まとめ	哲学的に思考するとはどういうことか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に課される課題の解答を提出する。
指定された図書やプリント等を読んでおく。
本講義の予習復習時間は、授業ノートの整理・課題の執筆・参考文献の読解を合わせて毎回4時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

セインズブリー「パラドクスの哲学」（勁草書房）
サンデル「これからの「正義」の話をしよう」（ハヤカワ文庫）
山川偉也「ゼノン 4つの逆理」（講談社学術文庫）

【成績評価の方法と基準】

毎回の小課題の提出内容：70%

期末レポート：30%

【学生の意見等からの気づき】

課題の解説をより充実させる。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with some of the famous philosophical paradoxes and representative arguments concerning them.

Learning Objectives: To deepen the ability to think and argue philosophically.

Learning activities outside of classroom: After each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the content and to write the short paper on the topic of the day.

Grading Criteria: short papers: 70%, term-end examination: 30%

PHL100BB (哲学 / Philosophy 100)

論理学概論 1

安東 祐希

授業コード：A2306 | 曜日・時限：水 1/Wed.1
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人と話をするとき、考え事をするとき、意識するにせよしないにせよわれわれは論理を使う。では、論理的に思考するとはいったいどういうことなのだろうか。春期「論理学概論1」と秋期「論理学概論2」を通して、現代の記号論理学の基礎について、統語論と意味論の両面から学ぶ。このうち、春期科目では、命題の形式化の方法と、命題論理・述語論理における意味論を学ぶ。

【到達目標】

次のような疑問に対して答えることができる。

- ・命題はどのように表すことができるのか。
- ・命題が「正しい」とはどういうことか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。（「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論理的な言明	日常言語における例
第2回	命題と論証	真偽と妥当性
第3回	命題の組み立て	論理結合子
第4回	主語と述語	変数と述語記号
第5回	「全て」と「存在」	量化子
第6回	形式的表現の整理	括弧の省略
第7回	多義性の分析	量化子の順序
第8回	命題論理の意味論	付値と真理値関数
第9回	命題の比較	論理式の同値
第10回	命題とは（再考）	同値による分類
第11回	論理的とは（再考）	恒真式と妥当な論証
第12回	述語の取り扱い	1変数述語記号の解釈
第13回	述語論理の意味論	量化子と解釈
第14回	関係の取り扱い	2変数述語記号の解釈

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は4時間である。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

授業は自己完結する形で進むので、参考書は特に必要とされるわけではない。なお、さらに学習する際は、例えば次にあげる書籍などが参考となる。ただし、授業とは異なる記号表現を用いている場合もあるので注意されたい。

- ・松本和夫『復刊 数理論理学』（共立出版）2001年（初版 1970）
- ・Raymond M. Smullyan, *First-Order Logic*, Dover 1995 (first published by Springer 1968)

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問に対応する時間を授業内でも増やしたい。

【その他の重要事項】

単位取得後は、期間を空けずに秋期科目「論理学概論2」を履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course deals with basic concepts and techniques of modern symbolic logic, especially the way of the formalization for propositions and the semantics for propositional and predicate logic.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to answer the following questions:

-How can we express propositions?

-What is the meaning of the word “valid”?

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to do exercises with many sheets of paper.

Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria/Policies]

Final grade will be calculated according to the following process:

Term-end examination (60%) and quizzes in class (40%).

PHL100BB (哲学 / Philosophy 100)

論理学概論 2

安東 祐希

授業コード：A2307 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人と話をするとき、考え事をするとき、意識するにせよしないにせよわれわれは論理を使う。では、論理的に思考するとはいったいどういうことなのだろうか。春期「論理学概論1」と秋期「論理学概論2」を通して、現代の記号論理学の基礎について、統語論と意味論の両面から学ぶ。このうち、秋期科目では、論証の妥当性の分析と、健全で完全な形式的演繹体系の定義を学ぶ。

【到達目標】

次のような疑問に対して答えることができる。

- ・ 論証の妥当性を判定することは可能か。
- ・ 妥当な論証をすべて作り出す方法はあるか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。（「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	前提と結論の表現	推件式の定義
第2回	論理式との関係	推件式の意味論
第3回	妥当性の表現	恒真な推件式
第4回	判定機の組立て	木構造の表現
第5回	「かつ」の分析	連言の恒真分解
第6回	「または」の分析	選言の恒真分解
第7回	「ならば」の分析	含意の恒真分解
第8回	「でない」の分析	否定の恒真分解
第9回	「すべて」の分析	全称量化の恒真分解
第10回	「ある」の分析	存在量化の恒真分解
第11回	演繹体系の定義	LK証明図の推論規則
第12回	構造規則の役割	LK証明図(命題論理)
第13回	変数の選択	LK証明図(述語論理)
第14回	演繹体系の性質	健全性と完全性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は4時間である。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

授業は自己完結する形で進むので、参考書は特に必要とされるわけではない。なお、さらに学習する際は、例えば次にあげる書籍などが参考となる。ただし、授業とは異なる記号表現を用いている場合もあるので注意されたい。

- ・ 松本和夫『復刊 数理論理学』（共立出版）2001年（初版 1970）
- ・ Raymond M. Smullyan, *First-Order Logic*, Dover 1995 (first published by Springer 1968)

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問に対応する時間を授業内でも増やしたい。

【その他の重要事項】

履修にあたり、春期科目「論理学概論1」の内容を理解していることが求められる。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course deals with basic concepts and techniques of modern symbolic logic, especially the analysis for the validity of sequents and the definition of one of the sound and complete logical systems.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to answer the following questions:

-Is the validity of arguments decidable?

-Are there any algorithms generating all of the valid arguments?

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to do exercises with many sheets of paper.

Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria/Policies]

Final grade will be calculated according to the following process:

Term-end examination (60%) and quizzes in class (40%).

PHL200BB（哲学 / Philosophy 200）

倫理学概論 1**大橋 基**

授業コード：A2308 | 曜日・時限：金4/Fri.4
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本文化」の倫理的特徴を理解・検討するために、「西洋倫理学」の6つの基本発想を学ぶ。

【到達目標】

「日本文化」と「西洋倫理学」が想定する「善／悪」の違いを説明できる。
 「西洋倫理学」の6つの基本発想それぞれの利点と難点を比較検討できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教員が作成した「講義用資料」（学生各自が「学習支援システム」からプリントアウト・持参する、または、授業時にPCで参照する）を用いた講義。毎回、授業終了時に、リアクションペーパーを提出する（教員からの回答は、次回授業時とする）。
 期末レポートの評価に関しては、「学習支援システム」から提出者全体の回答傾向に応じた「総評」を示す。また希望者には、同システムの「教材」機能から、各自のレポートに対する「コメント」を返却する（ただし、得点は開示しない）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
講義	『ハゲワシと少女』の倫理問題	「行為規範」の種類と「倫理学」の視点
講義	行為の「善／悪」を判断する主体	ロックの「人格」とデカルトの「自由意志」
講義	「恥の文化」は「日本」に対する偏見か？	和辻哲郎の「間柄の倫理」と丸山眞男の「無責任の体系」
講義	現代の縮図としての「救命艇問題」	ハーディンの「倫理的利己主義」とホプズの「心理学的利己主義」
講義	「利他主義」の可能性と拡張範囲	ヘーゲルの「相互承認」とショーペンハウアーの「道徳」
講義	「自己利害」とは、誰の、何か？	「自／他」の区別と「利／害」の判別の曖昧な基準
講義	「帰結主義」としての「功利主義」	ベンサムによる「行為の帰結」に対する「量的」な適用
講義	「満足したブタ」から「飢えたソクラテス」へ	J・S・ミルによる「行為の規則」に対する「質的」な適用
講義	「義務論」としての「定言命法」	カントによる「道徳」に対する「普遍化テスト」
講義	「虚言の禁止」を正当化する論拠	「定言命法」の種類と「義務」の優先順位
講義	「倫理」は「目的を忘却した習慣」にすぎない？	「キリスト教道徳」に対するニーチェの批判
講義	「社会契約説」のゲーム論的解釈	『リヴァイアサン』を換骨奪胎する目的と方法
講義	はるか古の「徳倫理学」の復権	古代ギリシアからみた「近代倫理学」の盲点
講義	「日本文化」に必要な倫理とは？	「リスク」や「コスト」に還元しえない価値

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「学習支援システム」にアップされている該当回の「講義用資料」を参照して、その要点や疑問点を整理し、授業のさいに確認・質問できるようにしておく。講義の進捗に応じて必要となる歴史的ならびに社会的な知識を各自で確認する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

大橋 基『18歳で学ぶ哲学的リアル【改訂版】—常識の解剖学—』ミネルヴァ書房、2019年（3200円＋税）。その他は、授業内で適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト70％、平常点30％の比率で、成績評価を行い、60点以上を及第点とする。リアクションペーパー・Eメール・口頭での質問・意見から平常点を算出する。

【学生の意見等からの気づき】

専門用語を用いるさいは、できる限り日常言語での説明、具体的事例による解説を心がける。

リアクションペーパーやメールによる質問に対する回答のなかで重要なものは「学習支援システム」に掲載して、常時、確認可能にする（そのさい学生の個人名は伏せる）。

【学生が準備すべき機器他】

HoppiiやZoomを利用できる電子端末

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic concepts of Western moral philosophies in order to redefine and improve our ethical thought understood as a “Culture of Shame”. It deals with four themes as follow: 1. The ethical characteristics of the Japanese form of life, 2. The difference and similarity between “egoism” and “altruism”, 3. The advantages and defects of “utilitarianism” and “deontology”, 4. The game theoretic interpretation of “social contract theory” and the reevaluation of “ancient virtue ethics”. By the end of the course, students should be able to give careful consideration to the necessary elements for our Japanese ethical life. Before each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end exam: 70%, and in class contribution: 30%.

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

倫理学概論 2

大橋 基

授業コード：A2309 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境破壊や技術革新によって生じた「現代の社会問題」に関する「倫理学的課題」を考察する。

【到達目標】

現代の社会問題に対する「西洋倫理学」の意義と限界を説明できる。
今後生じうる「倫理的問題」を予想して、その対応策を検討できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教員が作成した「講義用資料」（学生各自が「学習支援システム」からプリントアウト・持参する、または、授業時に PC で参照する）を用いた講義。毎回、授業終了時に、リアクションペーパーを提出する（教員からの回答は、次回授業時とする）。

期末レポートの評価に関しては、「学習支援システム」から提出者全体の回答傾向に応じた「総評」を示す。また希望者には、同システムの「教材」機能から、各自のレポートに対する「コメント」を返却する（ただし、得点は開示しない）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
講義	「西洋倫理学」をめぐる現代的な争点	なぜ「メタ倫理学」と「応用倫理学」が分節化したのか？
講義	「自由で民主的な社会」の原理としての「正義」	「ディケー」が付けるべきは、どんな「目隠し」か？
講義	「出発点の不平等」と「異文化間の対立」	現代政治を複雑にしている「論争点」はいかなるものか？
講義	「熟議民主主義」を阻む「ポピュリズム」	「異文化問題」に有効なのは「訪問権」か「歓待権」か？
講義	「環境破壊」に対処する「サステイナブル社会」	「SDGs」は、どんな種類の「環境問題」を扱っているか？
講義	「世代間倫理」と「カーボン・クレジット」	未来世代への「免罪符」になりうるのは何か？
講義	「動物解放論」と「アニマル・ウェルフェア」	動植物に付与しうる「権利」はどのようなものか？
講義	「終末医療」に求められる「ケアの倫理」	どのような「死」を迎えることが望ましいのか？
講義	「生殖医療」を後押しする「大人の事情」	「出生前診断」や「人工妊娠中絶」が容認される理由は何か？
講義	「万能細胞研究」の倫理的なハードル	「創業」や「臓器作製」の先に何が待っているか？
講義	「身体拡張」が切り拓く「近未来」	人間は「ヒト」の限界を越えて、何に成りたいのか？
講義	「科学技術」が呼び戻した「デカルトの問い」	「人工知能」が「魂の座」でありうるとしたら？
講義	「サイバー空間」で生じている「倫理問題」	どこまで「ネット・リテラシー」で対応できるか？
講義	義務や責任という「倫理的負担」からの逃走	「技術的特異点」に期待されているのは何か？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「学習支援システム」にアップされている該当回の「講義用資料」を参照して、その要点や疑問点を整理し、授業のさいに確認・質問できるようにしておく。講義の進捗に応じて必要となる歴史的ならびに社会的な知識を各自で確認する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

大橋 基「18歳で学ぶ哲学的リアル【改訂版】—常識の解剖学—」ミネルヴァ書房、2019年（3200円＋税）。その他は、授業内で適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト70％、平常点30％の比率で、成績評価を行い、60点以上を及第点とする。リアクションペーパー・Eメール・口頭での質問・意見から平常点を算出する。

【学生の意見等からの気づき】

専門用語を用いるさいは、できる限り日常言語での説明、具体的事例による解説を心がける。

リアクションペーパーやメールによる質問に対する回答のなかで重要なものは「学習支援システム」に掲載して、常時、確認可能にする（そのさい学生の個人名は伏せる）。

【学生が準備すべき機器他】

HoppiiやZoomを利用できる電子端末

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the ethical problems of our present society that are resulted from the industrial development and/or the advanced technology. It deals with four themes as follow: 1. The difficulty of cultural diversity in the liberal democratic society, 2. The limits of the modern concept of responsibility to the environmental destruction, 3. The merits and demerits of extending the concept of rights to accommodate changes of medical technology, 4. The influences of the artificial intelligence on the conventional concept of human being as free will. By the end of the course, students should be able to discover and consider the ethical issues could be happened in the future. Before each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end exam: 70%, and in class contribution: 30%.

PHL100BB (哲学 / Philosophy 100)

西洋哲学史 I - 1**奥田 和夫**授業コード：A2310 | 曜日・時限：水2/Wed.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋古代哲学史とくに古代ギリシア哲学に関する基礎的な知識を修得する。西洋において哲学がどのように始まり、それはどのように展開して西洋思想の基礎が作られたのかを学ぶことが目的である。「西洋哲学史 I - 2」（秋学期）とともに履修すること。

【到達目標】

各哲学者の思想の重要点を正確に理解する。そしてそれらの思想を時間を追って総観した場合に、どのような「思考世界」が展開し成立するのかを把握することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義概要と資料をもとに講義する。履修者は毎回の出席確認ペーパーに質問・感想等を書いて提出する。質問には次回授業の冒頭に回答する。また、小レポートの提出を課することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	哲学史を学ぶ意義 古代哲学史研究の対象と時間的・地理的範囲、研究上の制限
第2回	ミレトス学派	哲学の始まり
第3回	ピュタゴラスとその学派	輪廻転生と数的世界観
第4回	ヘラクレイトス	対立するものの調和、ロゴスの哲学
第5回	パルメニデス	有ると有らぬ
第6回	ゼノン、メリッソス	運動と多のパラドクス 空虚など
第7回	エンペドクレス	多元論 1
第8回	アナクサゴラス	多元論 2
第9回	レウキッポス、デモクリトス	多元論 3（原子論）
第10回	ソフィストたち	プロタゴラス、ゴルギアス、ヒippias、プロディコス、「ノモスとビュシス」
第11回	ソクラテス 1	生涯、善美なるものについての無知の自覚
第12回	ソクラテス 2	魂の配慮、エレンコス
第13回	ソクラテス 3	哲学と政治
第14回	小ソクラテス学派 春学期のまとめ	キュレネ学派、キュニコス学派、メガラ学派 ミレトス学派から小ソクラテス学派までの展開

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する授業内容レジュメ、資料等をよく読み、必要な関連事項を調べる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

春学期用：広川洋一『ソクラテス以前の哲学者』（講談社学術文庫）

【参考書】

配布する授業内容のレジュメにおいて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の解答内容によって評価する。期末試験の評価100%。

【学生の意見等からの気づき】

今年度は特になし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

学習支援システムでのお知らせなどに注意すること。
「西洋哲学史 I - 2」（秋学期）とともに履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) In this course we learn the history of Greek philosophy to grasp the base of European thought. We study from Thales to the Minor Socratics in the term.

(Learning Objectives) The goals of this course are to understand essences of each thoughts and to summarize the overview of the historical development.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to the following process, term-end examination (100%).

PHL100BB (哲学 / Philosophy 100)

西洋哲学史 I - 2

奥田 和夫

授業コード：A2311 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋古代哲学史とくに古代ギリシア哲学に関する基礎的な知識を修得する。西洋において哲学がどのように始まり、それはどのように展開して西洋思想の基礎が作られたのかを学ぶことが目的である。「西洋哲学史 I - 1」（春学期）とともに履修すること。

【到達目標】

各哲学者の思想の重要点を正確に理解する。そしてそれらの思想を時間を追って総観した場合に、どのような「思考世界」が展開・成立するのかを把握することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義概要と資料をもとに講義する。履修者は毎回の出席確認ページに質問・感想等を書いて提出する。質問には次回授業の冒頭に回答する。また、小レポートの提出を課することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期イントロダクション	小ソクラテス学派までの哲学史の概観
第2回	プラトン 1	生涯、著作
第3回	プラトン 2	ソクラテス哲学の継承
第4回	プラトン 3	『国家』等の著作に見られるイデア論
第5回	プラトン 4	哲人統治説と政治哲学
第6回	アリストテレス 1	生涯、著作
第7回	アリストテレス 2	哲学体系、形而上学
第8回	アリストテレス 3	自然学、倫理学
第9回	アリストテレス 4	政治学
第10回	エピクロス	生涯、著作、認識論、自然学、倫理学
第11回	ストア学派	主要人物、認識論、自然学、倫理学
第12回	懐疑派	主要人物、認識論、倫理学
第13回	プロティノス 1	生涯、著作、形而上学 三つの原理的なもの
第14回	プロティノス 2	一者からの発出と一者への帰還
第15回	古代哲学の終焉	古代哲学の思考世界
第16回	秋学期のまとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する授業内容レジュメ、資料等をよく読み、必要な関連事項を調べる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

秋学期：教科書は使用しない（配布プリント、資料を使用）。

【参考書】

配布する授業内容のレジュメにおいて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の解答内容によって評価する。期末試験の評価100%。

【学生の意見等からの気づき】

今年度は特になし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

学習支援システムでのお知らせなどに注意すること。

「西洋哲学史 I - 1」（春学期）とともに履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) In this course we learn the history of Greek philosophy to grasp the base of European thought. We study from Plato to Plotinus in the term.

(Learning Objectives) The goals of this course are to understand essences of each thoughts and to summarize the overview of the historical development.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to the following process, term-end examination (100%).

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

西洋哲学史Ⅱ－1

菅沢 龍文

授業コード：A2312 | 曜日・時限：金1/Fri.1
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋の近代哲学思想の歴史を入門的に学びます。春学期は、西洋のルネサンスから始めて、カント以前の18世紀啓蒙思想に至る主要な思想家たちの思想を取り上げます。そして哲学者たちが何を問題としたのか、その問題にどのように答えたのかを考察します。目標は、西洋近代の哲学思想史を視野に入れて、現代にいたる西洋近代文明がもつ意味や、抱える諸問題について、現代思想の中でこれまでよりいっそう深く考察できるようになることです。

【到達目標】

- ルネサンスから啓蒙思想へ至る主要な西洋思想に関して
- (1) 主要な思想家の思想について適切に文章で表現できる。
 - (2) 諸思想の全体の流れ、関係を適切に文章で表現できる。
 - (3) 人間、社会、世界、自然、宇宙、神などの哲学的テーマについて考察できる。
 - (4) 近・現代文明がかかえる諸問題と関係づけて、考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は授業プリントと課題プリントのPDFを事前に「学習支援システム」で配布し、プロジェクターを用いて行う講義です。（※講義後に「学習支援システム」により、理解度チェックの選択問題の解答と、毎回の課題小作文の提出が課せられ、小作文集のPDF（パスワード付）が復習用に提供されます。フィードバックとして授業冒頭に前回の選択問題と課題に関して説明します。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	(1) 授業について、(2) 哲学史、(3) ルネサンス、(4) プラトン哲学の復興、など
第2回	ピコ・デッラ・ミランドラ	(1) 二重真理説、(2) カバラ、(3) 自由意志、など
第3回	ジョルダーノ・ブルーノ	(1) 宇宙の無限性、(2) 汎神論、(3) 近代宇宙論の展開、など
第4回	デカルト（1）	(1) 永遠真理の創造説、(2) 哲学の第一原理、(3) 神の存在、など
第5回	デカルト（2）	(1) 物体の存在、(2) 心身関係、(3) 高邁の精神、など
第6回	スピノザ	(1) 神学と理性、(2) 汎神論と決定論、(3) 神の知的愛、など
第7回	ライブニッツ	(1) モナドロジー、(2) 予定調和、(3) オプティミズム、など
第8回	ベーコン、ホッブズ	(1) 帰納法、(2) ホッブズの自然主義、(3) 社会契約と政教分離、など
第9回	ジョン・ロック	(1) 観念、(2) 知識、(3) 社会契約と宗教的寛容、など
第10回	バークリ、ヒューム	(1) 唯心論、(2) ヒュームの自然主義、(3) 道徳感情、など
第11回	パスカル	(1) 科学者パスカル、(2) 繊細の精神、(3) 気晴らしと信仰、など
第12回	ジャン・ジャック・ルソー	(1) フランス啓蒙思想、(2) 文明批判、(3) 社会契約と一般意志、など
第13回	トマジウス、ヴォルフ	(1) 近代自然法、(2) 倫理と法、(3) 完全性の原理、など
第14回	15～18世紀半ばの西洋思想	(1) 近代前半の思想の流れ、(2) 対決する思想家たち、(3) 近代前半の思想の諸テーマ、など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
《準備学習》事前に「学習支援システム」で配布される授業プリントのPDFや参考書によって授業内容を把握しておく。
《授業後》「学習支援システム」で、授業課題を行い、その後に提供される課題小作文集（パスワード付PDF）を使って復習する。また、参考書の関連箇所を読み、必要に応じて思想家の原典も読んで、理解を深める。

【テキスト（教科書）】

授業時には授業用プリントを用います。

【参考書】

基礎的なものとしては、近現代に関しては野田又夫著『西洋近代哲学史 ルネサンスから現代まで』（ミネルヴァ書房）、古代から現代にわたっては岩崎武雄著『西洋哲学史（再訂版）』（有斐閣）があります。詳しいものは『哲学の歴史』7～9巻（中央公論新社）や宗像恵／中岡成文編著『西洋哲学史〔近代編〕』（ミネルバ書房）、西洋哲学史全体にわたるものでは、岡崎・春日部・中釜他著『西洋哲学史』（昭和堂）などがあり、またテーマ史的には、たとえば大東・奥田・菅沢・大貫編『自然と人間』（粹出版社）があります。その他にも入手しやすい新書や文庫本をはじめ、基礎知識を前提とした高度な参考書まで数多くあるので、必要に応じて用いてください。

【成績評価の方法と基準】

ルネサンスから啓蒙思想へ至る主要な西洋思想に関する、諸思想の理解、そして思想の潮流、諸思想の関係、哲学的テーマに関する理解、さらに現代への視点、といった到達目標に関して、次の2つの方面から成績評価する。
(1) 毎回の参加態度、および提出物で確認された到達目標達成度
(2) 学期末に行う試験によって確認された到達目標達成度
これらのうち(1)を70%(2)を30%の配分として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

口頭での説明を明瞭な発音で、ゆっくり分かりやすく行うようにする。
各回の主要なポイントが分かるように、メリハリを付けて解説する。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の課題を学習支援システム（Hoppii）で行うことになるので、インターネットに接続して作業することのできるパソコン（推奨）、タブレット、スマホなどが必要となります。

【Outline (in English)】

We study the elementary history of modern European philosophical thought. What we learn during the spring semester is the thoughts of the major philosophers who worked from the Renaissance to the Enlightenment of the 18th century before philosopher Kant. On what questions the philosophers have discussed and how they've answered them will be examined. With a view to the history of modern Western philosophical thought our aim is to examine the meaning of modern Western civilization up to the present day and the problems it faces in the context of modern thought.

【Goal】

In terms of the Western thoughts of the great philosophers from the Renaissance to the Enlightenment of 18th century we acquire the abilities:

- (1) to write appropriately about the ideas of the great philosophers.
- (2) to write appropriately about the streams and relations of the ideas of the great philosophers.
- (3) to consider the philosophical topics: human being, society, world, nature, cosmos and God.
- (4) to consider the ideas of the great philosophers in association with the problems of our modern civilization.

【Learning activities outside of classroom】

The preparation (2 hours): To grasp the contents of the next lecture with the delivered materials and books for reference.
The brush-up (2 hours): To do the assignments on "Hoppii", review the lesson with the assigned essays returned and read the books for reference. To read the text of the great philosophers when needed.

【Grading Criteria /Policy】

The grades are given in terms of 1. the understanding of the thoughts of great philosophers, 2. the understanding of the streams and relations of ideas, 3. the understanding of the philosophical subjects, 4. the points of view from the modern civilization. In this regard the following two aspects are respected. (1) 70%: The score of the assignments on "Hoppii", the attendance and the attitudes. (2) 30%: The score of the final examination.

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

西洋哲学史Ⅱ－2

菅沢 龍文

授業コード：A2313 | 曜日・時限：金1/Fri.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋の近代哲学思想の歴史を入門的に学びます。秋学期は、西洋の18世紀末のカントから19世紀末のニーチェに至るまでの主要な思想家たちの思想を取り上げます。そして哲学者たちが何を問題としたのか、そしてその問題にどのように答えたのかを考察します。目標は、西洋近代の思想史を視野に入れて、現代にいたる西洋近代文明がもつ意味や、抱える諸問題について、現代思想の中でこれまでよりいっそう深く考察できるようになることです。

【到達目標】

18世紀末のカントから19世紀末の主要な西洋思想に関して

- (1) 主要な思想家の思想について適切に文章で表現できる。
- (2) 諸思想の全体の流れ、関係を適切に文章で表現できる。
- (3) 人間、社会、世界、自然、宇宙、神などの哲学的テーマについて考察できる。
- (4) 近・現代文明がかかえる諸問題と関係づけて、哲学思想を考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は授業プリントと課題プリントのPDFを事前に「学習支援システム」で配布し、プロジェクターを用いて行う講義です。（※講義後に「学習支援システム」により、理解度チェックの選択問題の解答と、毎回の課題小作文の提出が課せられ、小作文集のPDF（パスワード付）が復習用に提供されます。授業冒頭にフィードバックとして前回の選択問題と課題に関して説明します。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	カント（1）	(1) コペルニクス的転回、(2) アプリオリな総合判断、(3) 現象と物自体、など
第2回	カント（2）	(1) 仮象、(2) アンチノミー、(3) 理念の統制的使用、など
第3回	カント（3）	(1) 定言命法、(2) 目的の国、(3) 最高善、など
第4回	フィヒテ	(1) カント哲学の発展的継承、(2) 自我と非我、(3) 無神論論争、など
第5回	シェリング	(1) 自然哲学、(2) 同一哲学、(3) 神の実存、など
第6回	ヘーゲル（1）	(1) カントからの自立、(2) フィヒテ、シェリングからの自立、(3) 弁証法、など
第7回	ヘーゲル（2）	(1) 精神の現象学、(2) 論理学、(3) 法哲学、など
第8回	ショーペンハウアー	(1) 根拠律、(2) 意志と表象としての世界、(3) ペシミズムと解脱、など
第9回	キルケゴール	(1) アイロニー、(2) 実存の三段階、(3) 絶望と信仰
第10回	ニーチェ	(1) 主知主義の批判、(2) 超人、(3) ニヒリズム、など
第11回	フォイエルバッハ、マルクス	(1) 神学の本質は人間学、(2) マルクスの近代市民社会批判、(3) 史的唯物論、など
第12回	ベンサム、ミル	(1) 功利主義、(2) ミルの功利主義と経験主義、(3) 自由論、など
第13回	コント、スベンサー	(1) 実証哲学、(2) 社会有機体説、(3) 社会進化論、など
第14回	18世紀末～19世紀末の西洋思想	(1) カント以降の哲学者たち (2) 人間の生、社会と歴史、神と宗教 (3) 対立する諸思想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
《準備学習》事前に「学習支援システム」で配布される授業プリントのPDFや参考書によって授業内容を把握しておく。
《授業後》「学習支援システム」で、授業の理解度チェックの選択問題の解答をして、授業で示された課題の小作文を提出し、その後に提供される小作文集（パスワード付PDF）を使って復習する。また、参考書の関連箇所を読み、必要に応じて思想家の原典も読んで、理解を深める。

【テキスト（教科書）】

授業時には授業用プリントを用います。

【参考書】

基礎的なものとしては、近現代に関しては野田又夫著『西洋近代哲学史 ルネサンスから現代まで』（ミネルヴァ書房）、古代から現代にわたっては岩崎武雄著『西洋哲学史（再訂版）』（有斐閣）があります。詳しいものは『哲学の歴史』7～9巻（中央公論新社）や宗像恵／中岡成文編著『西洋哲学史〔近代編〕』（ミネルヴァ書房）、西洋哲学史全体にわたるものでは、岡崎・春日部・中釜他著『西洋哲学史』（昭和堂）などがあり、またテーマ史的には、たとえば大東・奥田・菅沢・大貫編『自然と人間』（粹出版社）があります。その他にも入手しやすい新書や文庫をはじめ、基礎知識を前提とした高度な参考書まで数多くあるので、必要に応じて用いてください。

【成績評価の方法と基準】

18世紀末のカントから19世紀末までの主要な西洋思想に関する、基礎知識、諸思想の関係の理解、哲学的テーマへの哲学史的理解、現代への視点、といった到達目標に関して、次の2つの方面から成績評価する。

(1) 毎回の参加態度、および提出物で確認された到達目標達成度

(2) 学期末に行う試験によって確認された到達目標達成度

これらのうち(1)を70%(2)を30%の配分として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

口頭での説明を明瞭な発音で、ゆっくり分かりやすく行うようにする。

各回の主要なポイントが分かるように、メリハリを付けて解説する。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の課題を学習支援システム（Hoppii）で行うことになるので、インターネットに接続して作業することのできるパソコン（推奨）、タブレット、スマホなどが必要となります。

【Outline (in English)】

We study the elementary history of modern European philosophical thought. What we learn during the autumn semester is the thoughts of the major philosophers from Kant to Nietzsche who worked from the end of the 18th century to the end of the 19th century. On what questions the philosophers have discussed and how they've answered them will be examined. In the context of the history of modern Western thought our aim is to examine the meaning of modern Western civilization and the problems it faces up to the present day.

【Goal】

In terms of the Western thoughts of the great philosophers from the end of the 18th century to the end of the 19th century we acquire the abilities:

(1) to write appropriately about the ideas of great philosophers.

(2) to write appropriately about the streams and relations of the ideas of great philosophers.

(3) to consider the philosophical topics: human being, society, world, nature, cosmos and God.

(4) to consider the ideas of great philosophers in association with the problems of our modern civilization.

【Learning activities outside of classroom】

The preparation (2 hours): To grasp the contents of the next lecture with the delivered materials and books for reference.

The brush-up (2 hours): To do the assignments on "Hoppii", review the lesson with the assigned essays returned and read the books for reference. To read the text of the great philosopher when needed.

【Grading Criteria /Policy】

The grades are given in terms of 1. the understanding of the thoughts of great philosophers, 2. the understanding of the streams and relations of ideas, 3. the understanding of the philosophical subjects, 4. the points of view from the modern civilization. In this regard the following two aspects are respected. (1) 70%: The score of the assignments on "Hoppii", the attendance and the attitudes. (2) 30%: The score of the final examination.

PHL300LA (哲学/Philosophy 300)

現代思想 1 (ドイツの思想A) 1

吉田 敬介

授業コード：A2314 | 曜日・時限：火2/Tue.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、20世紀前半という「危機」の時代のドイツ語圏の哲学を、とりわけ実存哲学と批判理論に着目しながら、概観します。

20世紀前半のドイツ語圏では、観念論(理想主義)への幻滅とともに、文明や学問が「危機」に陥っているという意識が強まりました。その危機意識に対応するように、一方ではヤスパースやハイデッガーらの「実存哲学」、また他方ではホルクハイマーやアドルノらの「批判理論」(あるいは「フランクフルト学派」)といった思想潮流が展開されました。授業においては、こうした歴史的・社会的な文脈を踏まえつつ、様々な哲学者たちの言説を検討し、その思想内容を理解することが目指されます。

【到達目標】

(A) 20世紀前半のドイツ語圏の哲学・思想の要点を理解できる。
 (B) 扱われた哲学・思想を、歴史的・社会的視座から考察できる。
 (C) 扱われた哲学・思想について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示(必要に応じて配布)します。

毎回の授業時にリアクションペーパーの提出を求める他、学期末には授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学期末課題もしくは試験の内容は授業で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システムを確認するようお願いします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
 なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の確認
第2回	そもそも「ドイツ哲学」とは？	「ドイツ哲学」の定義づけの困難と可能性
第3回	19世紀のドイツ哲学(1)	ドイツ観念論とその挫折
第4回	19世紀のドイツ哲学(2)	キルケゴール、マルクス、ニーチェの思想とその影響
第5回	20世紀前半の思想的状況(1)	ヨーロッパのニヒリズムと『西洋の没落』
第6回	20世紀前半の思想的状況(2)	時代の「危機」意識と現象学
第7回	実存哲学の生成と展開(1)	ヤスパース『時代の精神的状況』と実存哲学
第8回	実存哲学の生成と展開(2)	ハイデッガー『存在と時間』の存在論
第9回	実存哲学の生成と展開(3)	ナチス政権下の哲学者たち
第10回	批判理論の生成と展開(1)	政治的決断主義 社会研究所の設立と亡命 ホルクハイマー「伝統的理論と批判的理論」
第11回	批判理論の生成と展開(2)	ベンヤミン『歴史哲学テーゼ』と「進歩」への問い

第12回	批判理論の生成と展開(3)	ホルクハイマー／アドルノ『啓蒙の弁証法』と近代的理性の自己省察
第13回	「危機」の時代のドイツの思想	学習事項のまとめと展望
第14回	課題もしくは試験	学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
 授業で扱われる各トピックについて、参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、参考文献を参照しつつ内容をまとめ直すしておくことが望まれます。

【テキスト(教科書)】

特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】

・『ドイツ哲学入門』ミネルヴァ書房
 ・『哲学の歴史 第9巻 反哲学と世紀末【19-20世紀】』中央公論新社
 ・『哲学の歴史 第10巻 危機の時代の哲学【20世紀I】』中央公論新社
 ・フッサール／ハイデッガー／ホルクハイマー『30年代の危機と哲学』清水多吉／手川誠士郎(訳)、平凡社[平凡社ライブラリー]
 その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点(リアクションペーパーの提出、その他の授業への取り組みなどの総合評価)40%、学期末課題もしくは試験の評価60%です。成績評価に際しては、【到達目標】(A)～(C)を基準とし、その達成度合いを考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

・リアクションペーパーを参照し、わかりにくい概念や思想内容、歴史的背景について丁寧に説明するよう努めます。
 ・必要に応じて、授業内容に関連した参考文献等を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoomに接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期、合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with German philosophy in the first half of the 20th century (especially existential philosophy and Critical Theory).

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand German philosophy in the first half of the 20th century, (B) examine it from historical and social perspectives, and (C) explain it properly.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

現代思想 1 (ドイツの思想 B) 2

吉田 敬介

授業コード：A2315 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、20世紀後半のドイツ語圏の哲学を、歴史的・社会的諸問題との関連から概観します。

20世紀中盤から後半にかけてのドイツ語圏の哲学は、幾つかの重要な実際の問題と対峙しなければなりません。ホロコーストを含む第三帝国の過去の「克服」、東西ドイツの分裂とその再統一、ヨーロッパへの統合と国際社会との関わり、そしてそれらに通底する「ドイツ」のアイデンティティをめぐる問い、といった諸問題です。授業においては、これらの歴史的・社会的諸問題に関するコンテキストを踏まえながら、哲学者たちの言説を検討し、その思想内容を理解することが目指されます。

【到達目標】

(A) 20世紀後半のドイツ語圏の哲学・思想の要点を理解できる。
(B) 扱われた哲学・思想を、歴史的・社会的視座から考察できる。
(C) 扱われた哲学・思想について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示 (必要に応じて配布) します。

毎回の授業時にリアクションペーパーの提出を求める他、学期末には授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学期末課題もしくは試験の内容は授業で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システムを確認するようお願いいたします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の確認
第2回	「危機」の時代から戦後へ	20世紀前半のドイツの哲学と戦後の課題
第3回	哲学者たちと「過去の克服」(1)	ニュルンベルク裁判と「過去の忘却」
第4回	哲学者たちと「過去の克服」(2)	ヤスパースの戦争責任論
第5回	哲学者たちと「過去の克服」(3)	亡命知識人たちの帰還とファシズムへの問い
第6回	「アウシュヴィッツ以後」の哲学 (1)	アウシュヴィッツ裁判と1968年運動
第7回	「アウシュヴィッツ以後」の哲学 (2)	アドルノと「アウシュヴィッツ以後」の文化への問い
第8回	「ドイツ」のアイデンティティへの問い (1)	ハーバーマースと「公共性」の思想
第9回	「ドイツ」のアイデンティティへの問い (2)	1980年代の歴史修正主義と「歴史家論争」
第10回	「ドイツ」のアイデンティティへの問い (3)	ナショナリズムと憲法パトリオティズム

第11回	ヨーロッパの中のドイツ (1)	東西ドイツの再統一とヨーロッパ統合
第12回	ヨーロッパの中のドイツ (2)	デリダとハーバーマースのヨーロッパ論
第13回	過去の克服と「ドイツ」のアイデンティティ再考	学習事項のまとめと展望
第14回	課題もしくは試験	学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業で扱われる各トピックについて、参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、参考文献を参照しつつ内容をまとめ直しておくことが望まれます。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】

・『ドイツ哲学入門』ミネルヴァ書房
・三島憲一『戦後ドイツ その知的歴史』『現代ドイツ 統一後の知的軌跡』、岩波書店〔岩波新書〕
・ヤスパース『われわれの戦争責任について』橋本文夫 (訳)、筑摩書房〔ちくま学芸文庫〕2015年
・ハーバーマース『近代 未完のプロジェクト』三島憲一 (訳)、岩波書店〔岩波現代文庫〕
その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点 (リアクションペーパーの提出、その他の授業への取り組みなどの総合評価) 40%、学期末課題もしくは試験の評価60%です。

【学生の意見等からの気づき】

・リアクションペーパーを参照し、わかりにくい概念や思想内容、歴史的背景について丁寧に説明するよう努めます。
・必要に応じて、授業内容に関連した参考文献等を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期、合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with German philosophy in the second half of the 20th century.

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand German philosophy in the second half of the 20th century, (B) examine it from historical and social perspectives, and (C) explain it properly.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

宗教学2 (キリスト教思想史) A

鵜澤 和彦

授業コード：A2316 | 曜日・時限：金4/Fri.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

キリスト教は、わたしたち人間存在、人間社会と生活環境、そして、それらの創造主としての神に関する教義を通して、西欧の人間社会及び文化の諸領域に甚大な影響を与えてきました。本授業は信仰 (信じること) と理性 (知ること) の両側面から、このキリスト教の知的遺産を歴史的に学びます。受講生がこれらの学習を通して、キリスト教思想史の理解を深めていくことを目的とします。春期授業 (キリスト教思想史A) は、初代教会と聖書の成立から中世後期の神秘主義思想までを学びます。

【到達目標】

①キリスト教の教義とその歴史的発展に関する理解を深めることができる。②キリスト教と深い関係にある哲学の諸概念をよりよく理解することができる。③政治・経済・社会ならびに文化 (芸術など) に与えているキリスト教の影響を把握することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

講義は授業支援システム Hoppii を使用しながら、対面の形式で行います。聖書はオンラインで参照できるようにするほか、関連資料を適宜提供します。また、4回から5回に1度、グループワークと質疑応答の時間を作り、教科書の内容理解の深化を図ります。質問と感想は、授業時に配布するリアクションペーパーに記入してください。このペーパーの提出をもって、出席と判断します。質問へのフィードバックは次回授業時に行います。課題の出題、回収、評価とフィードバックは、Hoppii を使用して行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	シラバスの各項目を説明するほか、キリスト教思想史の意義を解説します。
第2回	第1章 ギリシア思想の特質	神話に現れた「霊」、ギリシア宗教の諸段階、哲学の誕生などを学びます。
第3回	第2章 ヘブライズムの思想的特質	旧約聖書の思想、キリスト教の成立、イエスの教えなどについて説明します。
第4回	グループワークと質疑応答	第1章と第2章の内容についてグループワークを行い、質疑応答を行います。
第5回	第3章 教父思想の特質	ユスティノスとプラトン主義、オリゲネス、ニカイア公会議などについて学びます。
第6回	第4章 アウグスティヌスの思想	思想と基礎経験、プラトン主義とキリスト教、「神の像」の探求などを解説します。
第7回	第5章 中世思想の構造と展開	中世思想の構造と展開、修道制の確立、中世的な霊性の形成などについて学びます。
第8回	第6章 中世初期の思想家とスコラ哲学	ボエティウス、スコトゥス、エリウゲナ、アンセルムスなどについて解説します。

第9回	グループワークと質疑応答	第3章から第6章までの内容についてグループワークを行い、質疑応答を行います。
第10回	第7章 トマス・アキナスの神学体系	神学大全の構成と方法、自然神学の諸問題、恵恩と自由意志などについて学びます。
第11回	第8章 後期スコラ哲学の展開	トマスとスコトゥス、オッカムの二重真理説、ルターによる後期スコラ哲学の批判を解説します。
第12回	第9章 神秘的霊性思想の展開	アウグスティヌスの伝統、ベルナルの霊性思想、ボナヴェントゥラの神秘神学、エックハルトの神秘主義を学びます。
第13回	第10章 ダンテと中世文学の思想	中世文学の展開、宮廷的恋愛詩、ダンテの『新生』『新曲』、ペトラルカなどについて学びます。
第14回	グループワークと質疑応答	グループワークと質疑応答を行いながら、春期授業の内容を振り返ります。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習：指定されたテキストの箇所を読み、理解できない点をまとめてください。また、それに関連する諸概念を調べてください。(2時間) 復習：再度、テキストや授業資料を読み直し、疑問点が解決できたかどうかを確認してください。疑問があれば、Hoppii の投稿欄に質問を記入してください。また、課題の問題に答えてください。(2時間)

【テキスト (教科書)】

金子 晴勇 (著) 『ヨーロッパ思想史 ―理性と信仰のダイナミズム―』筑摩選書、ISBN-13 : 978-4480017284、1980円、生協書籍部で購入してください。

【参考書】

若松英輔・山本芳久 (共著) 『キリスト教講義』文芸春秋、ISBN-13 : 978-4163909455、2019年、1850円

【成績評価の方法と基準】

①毎回の課題評価、②春学期の期末レポート (到達目標の技術の習得)。①を50%、②を50%として、受講生の成績を総合的に評価します。課題プリントの評価については、授業内容を的確に把握しているかどうかを基準にします。また、期末レポートに関しては、小論文の形式を満たしているかどうか、また、内容把握が的確かどうかを基準にして判定します。

【学生の意見等からの気づき】

病気などで体調が悪くなっても、すべての学習教材は、学習支援システム Hoppii にアップロードされています。病欠した授業の内容を自習して、課題を提出すれば、その課題を評価します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】

その他の詳細は、授業支援システム Hoppii に記載しますので、そちらをご覧ください。

【Outline (in English)】

What kind of beings are we as human beings? How should we understand the world around us and God as its origin? Christianity has a rich intellectual heritage that explores these fundamental questions of existence. This course examines this heritage from the perspectives of faith (believing) and reason (knowing). The course aims to:(1) Deepen students' understanding of Christian doctrine and its historical development. (2) Enhance comprehension of philosophical concepts closely related to Christianity. (3)

Explore Christianity's influence on politics, economics, society, and culture (including art and the liberal arts). Grading Criteria: (1) Evaluation of assignments submitted after each class. (2) Final report at the end of the semester. Each component (1) and (2) will account for 50% of the final grade, and students' overall performance will be assessed comprehensively. Preparation: Students should read the relevant sections of the textbook in advance. Additionally, they should use reference books to understand technical terms and key concepts (2 hours). Review: Students should go through the materials distributed in class (lecture notes and reference materials). After each session, they must complete the assigned tasks using the class support system. Furthermore, they should summarize their thoughts on the topic, incorporating insights from discussions with other students (2 hours).

PHL300LA (哲学/Philosophy 300)

宗教学2 (キリスト教思想史) B

嶋澤 和彦

授業コード：A2317 | 曜日・時限：金4/Fri.4
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年年
その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

キリスト教は、わたしたち人間存在、人間社会と生活環境、そして、それらの創造主としての神に関する教義を通して、西欧の人間社会及び文化の諸領域に甚大な影響を与えてきました。本授業は信仰（信じること）と理性（知ること）の両側面から、このキリスト教の知的遺産を歴史的に学びます。受講生がこれらの学習を通して、キリスト教思想史の理解を深めていくことを目的とします。秋期授業（キリスト教思想史B）は、ルネサンスと宗教改革から近代ヨーロッパ文学の人間観までを学びます。

【到達目標】

①キリスト教の教義とその歴史的発展に関する理解を深めることができる。②キリスト教と深い関係にある哲学の諸概念をよりよく理解することができる。③政治・経済・社会ならびに文化（芸術など）に与えているキリスト教の影響を把握することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義は授業支援システムHoppiiを使用しながら、対面の形式で行います。聖書はオンラインで参照できるようにするほか、関連資料を適宜提供します。また、3回から4回に1度、グループワークと質疑応答の時間を作り、教科書の内容理解の深化を図ります。出席、質問、感想は、Google Formを通じて提出してもらいます。質問へのフィードバックは次回の授業時に行います。課題の出題、回収、評価とフィードバックは、Hoppiiを使用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	シラバスの各項目を説明するほか、春期授業の内容を振り返ります。
第2回	第10章 ダンテと中世文学の思想	中世文学の歴史的展開、ダンテの『新生』『神曲』、ペトラルカの文学を学びます。
第3回	第11章 キリスト教共同体の終焉と近代への移行	ダンテの『帝政論』、マルシリウスの『平和の擁護者』、クザーヌスの『普遍的一致』を解説します。
第4回	グループワークと質疑応答	第10章と第11章の内容について、グループワークと質疑応答を行います。
第5回	第12章 ルネサンスと宗教改革の思想	ルネサンスとは何か、イタリア人文主義の思想、ルターの信仰特質およびキリスト教的霊性の定義などについて説明します。
第6回	第13章 宗教改革から近代思想へ	プロテスタンティズムの歴史的な成果と残された問題などについて学びます。
第7回	第14章 近代的自我の確立	デカルトのコギトと哲学の出発点、パスカルの問いと人間の理解などを解説します。
第8回	第14章続き パスカールと信仰	パスカルの生涯、決定的回心（メモリアル）、イエズス会との論争について学びます。

第9回	グループワークと質疑応答	第12章から第14章までの内容について、グループワークと質疑応答を行います。
第10回	第15章 啓蒙思想と敬虔主義	欧州各国の啓蒙思想、敬虔主義の覚醒運動、シュライアマッハーの宗教論について解説します。
第11回	第16章 ヘーゲルの思想体系	ヘーゲルとフランス革命、歴史の弁証法とその影響などについて学びます。
第12回	第17章 ヘーゲル体系の批判と解体	フォイエルバッハ、マルクス、キルケゴールの思想などを解説します。
第13回	第18章 近代ヨーロッパ文学の人間観	中世から近代への歴史的変遷、近代ヨーロッパ文化および文学について学習します。
第14回	秋期授業のまとめと質疑応答	秋期授業の内容を振り返った後で、第15章から第18章までの内容について、グループワークと質疑応答を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：指定されたテキストの箇所を読み、理解できない点をまとめてください。また、それに関連する諸概念を調べてください。（2時間）
復習：再度、テキストや授業資料を読み直し、疑問点が解決できたかどうかを確認してください。疑問があれば、Hoppiiの投稿欄に質問を記入してください。また、課題の問題に答えてください。（2時間）

【テキスト（教科書）】

金子 晴勇（著）『ヨーロッパ思想史―理性と信仰のダイナミズム―』筑摩選書、2021年、ISBN-13：978-4480017284、1980円、生協書籍部で購入してください。

【参考書】

若松英輔・山本芳久（共著）『キリスト教講義』文芸春秋、2019年、ISBN-13：978-4163909455、1850円

【成績評価の方法と基準】

①毎回の課題評価、②秋学期の期末レポート（到達目標の技術の習得）。①を50%、②を50%として、受講生の成績を総合的に評価します。課題プリントの評価については、授業内容を的確に把握しているかどうかを基準にします。また、期末レポートに関しては、小論文の形式を満たしているかどうか、また、内容把握が的確かどうかを基準にして判定します。

【学生の意見等からの気づき】

病気などで体調が悪くなっても、すべての学習教材は、学習支援システムHoppiiにアップロードされています。病欠した授業の内容を自習して、課題を提出すれば、その課題を評価します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムHoppiiを利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】

その他の詳細は、授業支援システムHoppiiに記載しますので、そちらをご覧ください。

【Outline (in English)】

This course aims to explore the intellectual heritage of Christianity through the lenses of both faith and reason. The goal is to provide a comprehensive understanding of the historical progression of Christian doctrine. Moreover, we will delve into the philosophical concepts closely related to Christianity and how they have influenced various aspects of society, including politics, economics, and culture. Scope of autumn classes: students will study everything from the Renaissance and Reformation to modern European literature's view of the human person.

In preparing for the assignment, students should start by reading the assigned text to understand technical terms (2 hours). They will revise their responses to the questions and complete assignments for the class (2 hours).

Your performance in this course will be evaluated based on two factors: assignment evaluation each time and a final report at the end of the semester. Both carry equal weightage in the grading criteria.

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

宗教学3 (仏教思想論) A

計良 隆世

授業コード：A2318 | 曜日・時限：木4/Thu.4
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インド初期仏教思想・仏教史

釈迦 (仏陀) 自身の思想とその特徴。初期仏教の基本思想と西洋思想との比較。

この授業では、ある特定の信仰に基づいた、いわゆる「宗学」を扱わず、西洋の文献学的方法に基づいた、客観的な思想史研究をまず第一に扱います。そして、その思想史研究によって明らかにされてきた仏教の基本思想について、その特徴・価値を理解するために、比較思想的考察 (西洋哲学思想との比較) を試みます。
 (初期仏教の学習だけでは仏教思想の本質の理解として不十分です。秋学期の「仏教思想論B」も必ず履修してください。)

【到達目標】

・釈迦 (仏陀) 自身の思想・哲学は本来どのようなものであったのか、仏陀が説いたとされることばから考え、理解する。
 ・釈迦の思想は、哲学思想史上、どのような思想・哲学と見なされるのか、その思想・哲学としての特徴を、比較思想的考察 (西洋哲学思想との比較) を通して考え、理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。
 学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います (4～5回実施予定)。
 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
 なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
 なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	仏教成立の経緯 (1)	この授業について 仏教研究について ウパニシャッドの哲学
第2回	仏教成立の経緯 (2)	ヴェーダ文明 ブラフマニズム 自由思想家の登場
第3回	仏教の成立	仏陀の生涯
第4回	仏教の教育指導法 (説法)	対機説法 仏教思想の多様性・段階性
第5回	仏教の基本思想 (1)	五蘊・十二処・十八界 三つの真理 (三法印) 「諸行無常」 比較思想的考察
第6回	仏教の基本思想 (2)	「一切皆苦」 四つの真理 (四諦説) 十二支縁起 八支聖道・中道 『はじめての説法』
第7回	仏教の基本思想 (3)	仏陀のさとり得た真理とその特徴 『梵天勧請』 『縁』経、他 比較思想的考察

第8回	仏教の基本思想 (4)	「諸法無我」 人無我と法無我 ミリンダ王経
第9回	仏教教団と教団運営	律蔵文献 戒・波羅提木叉
第10回	初期仏典講読 (1)	『ダンマパダ』
第11回	初期仏典講読 (2)	『スッタニパータ』 「慈しみ」他
第12回	初期仏典講読 (3)	『スッタニパータ』 「田を耕すパーラドヴァージャ」 他
第13回	初期仏典講読 (4)	『スッタニパータ』 真理についての争い
第14回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習と復習時間は、各2時間を標準とします。

授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読

授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】

佐々木閑著『ゴータマは、いかにしてブッダとなったのか』、NHK出版新書、2013年

その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績 (60%) と授業内容確認小テストの成績 (30%) と平常点 (10%) により評価します。

学期末試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。

試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか (恣意的で偏った見方で評価していないか)、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】

仏陀自身のことば・思想を、先入見を持たずに、正しく真直ぐに捉え、深く理解することに努めてください。解説は丁寧に行います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン (学習支援システムを利用するため)

【その他の重要事項】

仏教思想の本質、特に仏教の人生観・世界観の理解のためには、春学期の「仏教思想論A」だけでは不十分です。秋学期の「仏教思想論B」も必ず履修してください。

【Outline (in English)】

This is a course to learn early Indian Buddhist philosophy.

The aim of this course is to give students both an elucidation of Gotama Buddha's own philosophy by means of historical study and an understanding of its philosophical meaning by means of the comparative study between his philosophy and Western philosophy.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The Buddha's philosophy consisting in dependent arising, impermanence, sufferings and selflessness.
2. His own idea on nirvana.
3. His ideas exposed in the Sutta Nipata and Dhammapada.
4. Buddhist morality explained in the vinaya.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL300LA (哲学/Philosophy 300)

宗教学3 (仏教思想論) B

計良 隆世

授業コード：A2319 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インド初期・部派仏教から大乘仏教への展開：世界観・人生観の変遷
 インド仏教は、初期仏教以後、どのように思想的に展開し、どのようにして大乘仏教が起こってきたのか、またその思想展開に応じてどのように世界観・人生観が変化したのか、これらを学びながら、インド大乘仏教が理想とした生き方・人生観とはどのようなものであったのかを考え、理解することを目指します。

(本授業は、初期仏教思想の理解・知識を前提としています。春学期の「仏教思想論A」からの履修を強く勧めます。)

【到達目標】

- ・インド仏教思想の歴史的展開を把握し、初期仏教・部派仏教・大乘仏教それぞれの思想的な特徴と違いを理解する。
- ・仏教思想はどうして多様化したのか、その理由を理解する。
- ・初期・部派仏教から大乘仏教にかけて、世界観・人生観が基本的にどのように変化したのかを理解する。
- ・大乘仏教徒の人生観、特に仏教論理学派や後期中観派が説く人生観のもつ思想的・思想史的意義について考え理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。
 単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います(3～4回実施予定)。
 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
 なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
 なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	この授業について インド仏教思想展開史概説
第2回	部派仏教の成立	仏教思想の多様性・多様化 諸部派成立から大乘仏教へ
第3回	部派仏教 (説一切有部) の思想 (1)	ダルマの体系 (1) : 五位七十五法
第4回	部派仏教 (説一切有部) の思想 (2)	ダルマの体系 (2) : 有為ダルマの二性質
第5回	仏教の世界観	『俱舍論』が説く世界観 大乘仏教の世界観
第6回	大乘仏教 (1)	大乘仏教の教理的特徴
第7回	大乘仏教 (2)	大乘諸経典 『般若経』 『阿闍世王経』 『維摩経』
第8回	大乘仏教 (3)	ナーガールジュナ 思想史上の位置づけ 二真理説、空、中道
第9回	大乘仏教 (4)	縁起の思想 (1) 外縁起・内縁起 『入楞伽経』 『稲苢経』

第10回	大乘仏教 (5)	縁起の思想 (2) 縁起二種観察法 『稲苢経』・『稲苢経註』
第11回	大乘仏教 (6)	大乘仏教の人生観 (1) 到達目標・理想的境地・中道
第12回	大乘仏教 (7)	大乘仏教の人生観 (2) 『維摩経』
第13回	大乘仏教 (8)	大乘仏教の人生観 (3) 仏教論理学派と後期中観思想： 仏陀・経典の権威について
第14回	まとめ・授業内試験	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
 授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読
 授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】

佐々木閑著『仏教は宇宙をどう見たか アビダルマ仏教の科学的世界観』、Dojin 選書、2013年
 桜部健・上山春平著『仏教の思想2 存在の分析<アビダルマ>』、角川ソフィア文庫、1996年
 計良龍成著『中道を生きる：中観』、春秋社、2023年
 その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績 (60%) と授業内容確認小テストの成績 (30%) と平常点 (10%) により評価します。
 学期末試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。
 試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか (恣意的で偏った見方で評価していないか)、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】

東アジアには殆ど伝わらなかった後期中観思想を含め、インド本来の大乘仏教思想を初めて学ぶことで、その人生観等の思想に新鮮な驚きを感じる学生が多いようです。初期仏教より思想内容が高度になりますが、わかりやすい丁寧な解説につとめたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン (学習支援システムを利用するため)

【その他の重要事項】

授業内容の深い理解のために、春学期の「仏教思想論A」から履修することを強く推奨します。

【Outline (in English)】

This is a course to learn Indian Hinayana (Shrāvakayāna) Buddhism and Mahayana (Bodhisattvayāna) Buddhism.
 The aim of this course is to give students a historical elucidation of the reason of the philosophical diversification in Indian Buddhism and an understanding of the historical and philosophical development of Indian Buddhists' world view (cosmology) and view of life.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. Sarvāstivādin's interpretation of impermanence, i.e., momentariness of conditioned dharmas.
2. Later Madhyamaka philosophy consisting of the ideas of dependent origination, emptiness, middle way and non-abiding nirvana.
3. Dharmakīrti's and later Mādhyamika position on scriptural authority.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）

フランス語（第三外国語としてのフランス語A） 1

廣松 勲

授業コード：A2320 | 曜日・時限：水3/Wed.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年 フランス語履修者は履修不可 年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降に向かうための基礎固めを行う。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験（仏検）4級～5級レベル到達を目指す。基礎的なフランス語文法を用いて発話・筆記できるようになると同時に、簡単にでも（フランス共和国を含めた）現代のフランス語圏社会の状況を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明・練習・解説という手順で進める。また、時間の許す限り、フランス共和国を含めたフランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

コメントシートやミニ課題などについては、できるだけ次回以降の授業で反映・返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Leçon 0	・授業の進め方や評価方法などの確認 ・アルファベットの読み方 ・挨拶表現 ・数字1～10
2	Leçon 0 Leçon 1	職業や国籍を言う ・綴り字の読み方 ・名詞の性と数 ・主語人称代名詞 ・動詞 être
3	Leçon 1	職業や国籍を言う ・否定形 ・綴り字の読み方
4	Leçon 2	言語や好みを言う ・ER 動詞の活用 ・定冠詞と不定冠詞
5	Leçon 2	言語や好みを言う ・形容詞 ・綴り字の読み方
6	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・動詞 avoir ・否定の de ・疑問文 ・数字11～20
7	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・代名詞の強勢形 ・疑問形容詞 ・綴り方の読み方
8	中間まとめ	・これまでの学習事項の総復習 ・進度の調整

9	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・所有形容詞 ・不規則動詞（aller, venir, vouloir）
10	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・国名に付く前置詞 ・綴り字の読み方
11	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・部分冠詞 ・近接過去と近接未来 ・動詞 pouvoir
12	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・指示形容詞 ・疑問代名詞 ・動詞 prendre, attendre
13	Leçon 6	たずねる（いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ）、命令する ・疑問副詞 ・前置詞と定冠詞の縮約 ・動詞 devoir
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題提出以外にも、教科書に出てくる例文などの意味を調べるなど「予習・復習」を確りとして欲しい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。
音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子著、『ヴァズィ！（改訂二版）』、駿河台出版社、2023年。

（＊自分で入手する場合、2023年刊行の「改訂二版」であることに注意してほしい。）

【参考書】

教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズでも「仏和辞書」を購入して欲しい。お薦めの辞書は、以下の通り。
宮原信他著、『ディコ仏和辞典』、白水社、2003年。

西村牧夫他編訳、『ロベール・クレ 仏和辞典』、駿河台出版社、2011年。

また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点と期末テストに基づき、総合的に評価する。

- ①平常点（ミニ課題など）：30％
- ②期末テスト：70％

【学生の意見等からの気づき】

学生がフランス語で表現する機会（特に発音と筆記）を増やすとともに、進捗にも気を付けながら授業を進める。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of french langage to students learning it as the third language. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.

The goals of this course are to understanding and writing/ speaking the elementary French language.

Before and after each class meeting,students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

in class contributions (mini-exercice, etc): 30%, term-end test: 70%.

LANf300LA (フランス語 / French language education 300)

フランス語 (第三外国語としてのフランス語B) 2

廣松 勲

授業コード：A2321 | 曜日・時限：水3/Wed.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年 フランス語履修者は履修不可年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降の基礎固めを行う。春学期から継続して授業を進める。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験 (仏検) 4級～5級レベル到達を目指す。基礎的なフランス語文法を用いて発話・筆記ができるようになると同時に、簡単にでも (フランス共和国を含めた) 現代のフランス語圏社会の状況を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心に、説明・練習・解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス共和国を含めたフランス語圏の文化や社会に関して紹介する。コメントシートやミニ課題などについては、できるだけ次回以降の授業で反映・返却します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	復習 Leçon 6つづき Leçon 7	たずねる (いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ)、命令形 ・ 命令形 ・ 時の表現 人・ものを描写する ・ IR動詞 (つづき) ・ 形容詞 ・ 動詞 savoir, voir
2	Leçon 7	人・ものを描写する ・ 数量表現 ・ 名詞 + à + 不定詞 ・ 動詞 mettre
3	Leçon 8	時刻・天気を言う ・ 目的補語人称代名詞 ・ 非人称構文 ・ 動詞 connaître
4	Leçon 8	時刻・天気を言う ・ 数字 21～69 ・ 動詞 faire, écrire
5	Leçon 9	日常の活動を言う ・ 代名動詞 ・ 日常の活動を表す表現
6	Leçon 9	日常の活動を言う ・ 代名動詞の否定文、疑問文、命令文 ・ 日常の活動を表す表現 (つづき)
7	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・ 直説法単純未来 ・ 形容詞・副詞の比較級

8	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・ 形容詞・副詞の最上級 ・ 特殊な優等比較級・優等最上級 ・ 指示代名詞
9	中間まとめ	・ これまでの学習事項を総復習 ・ 進度の調整
10	Leçon 11	過去のことを言う (1) ・ 数字 70～100 ・ 直説法複合過去 ・ 目的補語人称代名詞を含む複合過去
11	Leçon 11	過去のことを言う (1) ・ 代名動詞を含む複合過去 ・ 中性代名詞 en
12	Leçon 12	過去のことを言う (2)、否定する ・ 直説法半過去 ・ 直説法複合過去と直説法半過去の違い
13	Leçon 12	過去のことを言う (2)、否定する ・ 直接法大過去 ・ 中性代名詞 y と le ・ 様々な否定表現
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

課題を含めて、教科書の例文の意味を調べるなど「予習・復習」を確りとしてほしい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

田辺保子、西部由里子著、『ヴァズィ! (改訂二版)』, 駿河台出版社, 2023年.

(※自分で入手する場合、2023年刊行の「改訂二版」であることに注意してほしい。)

【参考書】

教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズでも仏和辞書を持っていて欲しい。お薦めの辞書は以下の通り。

宮原信他著、『ディコ仏和辞典』, 白水社, 2003年

西村牧夫他編訳、『ロバール・クレ 仏和辞典』, 駿河台出版社, 2011年

また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点と期末テストに基づき、総合的に評価する。

①平常点 (ミニ課題など) : 30%

②期末テスト : 70%

【学生の意見等からの気づき】

学生がフランス語で表現する機会 (特に発音・筆記) を増やすとともに、進度にも気を付けながら授業を進める。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of french language to students learning it as the third language. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.

The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

in class contributions (mini-exercice, etc): 30%, term-end test: 70%.

PHL200HA (哲学 / Philosophy 200)

人間学 1 (環境倫理学) A

竹中 真也

授業コード：A2322 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

環境倫理学は1970年にアメリカに誕生した応用倫理学の一分野であり、日本では1990年代に始まった若い分野である。本講義では環境倫理学の全体像とともに、各分野を概観する。受講者はそれを通して倫理的なアプローチの特色を学ぶことになる。

【到達目標】

環境倫理学の多様な主題、具体的中身を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面	人新世と環境倫理学	現在の時代状況とともに、環境倫理学を概観する。
対面	功利主義	功利主義の基本的な用語、発想をおさえる。
対面	義務論	義務論の基本的な用語と、発想をおさえる
対面	徳倫理	徳倫理の基本的な用語と発想を押さえる
対面	世代間倫理	世代間倫理がいかなるものかを知り、問題を考える。
対面	環境正義	環境正義の由来、その意味を理解し、現実の問題に取り組む。
対面	気候正義	気候正義の問題から、温暖化の問題について考える。
対面	人口と環境	人口増大から生じる、経済格差と平等の問題を考える。
対面	風景	空間でなく、場所がもつ意味、風土とのかかわりを概観する。
対面	食農倫理	食農において何が問題になっているかを押さえ、その取り組みを知る。
対面	土地倫理	土地倫理がいかなるもので、その由来がどこにあるかを知る。
対面	都市の環境倫理	都市と自然の関係を再考する。
対面	エコツーリズムと環境倫理	観光と自然環境と文化の関係について考察する。
対面	全体の総括	これまでの議論を整理し、総合的な視点でとらえかえす。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教科書をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学 3STEPシリーズ』昭和堂、2020年

【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年

吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年
吉永明弘『はじめて学ぶ環境倫理』ちくまプリマー新書、2021年
その他の参考書は、そのつど授業で紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (毎回の課題) 30%と、学期末の課題70%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマートフォンなど情報電子機器。

【その他の重要事項】

ディスカッションの時間を設けるので、積極的に議論に参加してください。

【Outline (in English)】

This course deals with environmental ethics. At the end of the course, students are expected to get an overview on environmental ethics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, Usual performance score: 30%, term-end examination:70%.

PHL300HA (哲学 / Philosophy 300)

人間学 1 (環境倫理学) B

加藤 壮一郎

授業コード：A2323 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「都市の環境倫理」について学ぶ。特に、近代から現代にかけての都市環境づくりに注目して都市論、場所論、まちづくり論などを学ぶ。あわせて、SDG s de 地方創生カードゲームの実施や、アメニティマップの作成などを通じて、各人が自分にとって良好な都市や環境とはいかなるものかについての認識を深めることを目標とする。

【到達目標】

「良い都市・環境とは何か」について自分なりの答えが見つけられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

講義、質疑応答、レポートへの応答。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市・環境・まちづくり・倫理学	本講義のテーマとなる都市環境問題に注目した思想・まちづくりへのアプローチについて説明する。
2	都市論① 産業社会における都市問題と都市思想	ヨーロッパを中心とした産業革命後の都市問題、都市思想について紹介する。
3	都市論② 近代都市計画の思想	ル・コルビジエを中心とした近代都市計画思想を紹介する。
4	都市論③ 現代都市計画の思想	ジェーン・ジェイコブスを中心とした現代都市計画思想を紹介する。
5	場所論 場所の感覚	古代の都市の誕生から現代の地球環境問題にいたる人々の「場所の感覚 (センス・オブ・プレイス)」について考察する。
6	SDG s ① SDG s とは	国連が掲げる「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)」について学ぶ。
7	SDG s ② SDG s de 地方創生 カードゲーム	SDG s de 地方創生 カードゲームを通して、持続可能な地域づくりを疑似体験する。
8	SDG s ③ カードゲーム講評 中間レポート講評	カードゲームの講評を通して連関する社会課題の全体像について理解し、議論する。中間レポートの講評。
9	アメニティマップについて	過去のアメニティマップを紹介しながら、作り方を説明する。
10	まちづくり論① 北欧都市の挑戦	デンマークの都市環境づくりを通して、現代における先進的取組を紹介する。

11	まちづくり論② 日本	日本のまちづくりの事例について紹介し、その特性について議論する。
12	アメニティマップの発表 (1)	各自が作成したアメニティマップを発表し議論する
13	アメニティマップの発表 (2)	各自が作成したアメニティマップを発表し議論する
14	アメニティマップ講評とまとめ	アメニティマップについての講評と本講義のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

日端康雄『都市計画の世界史』講談社現代新書、2008年

【参考書】

吉永明弘『はじめて学ぶ環境倫理』ちくまプリマー新書、2021年
吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年
吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年
吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年
S・E・ラスムッセン (横山正訳)『都市と建築』東京大学出版会、1993年

【成績評価の方法と基準】

課題レポート (中間レポート・最終レポート) (50%) とマップ作成 (50%)。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を設けます。

【Outline (in English)】

We learn about "urban environmental ethics." In particular, we will study urban theory, place theory, and town development theory, focusing on urban environment creation from modern times to the present. In addition, we will play the Card Game "SDGs de Regional Revitalization" and make an amenity map, with the goal of deepening each person's understanding of what a good city or environment is for us.

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

言語と論理 1（言語学講義 I A）

石川 潔

授業コード：A2326 | 曜日・時限：月 3/Mon.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

（英語学習者または英語教師になる人のための）音声知覚、単語の聞き取りや文理解に関する心理言語学の入門

【到達目標】

（英語学習／教育にも役立つはずの）人間の言語情報処理に関する入門レベルの知識の習得

言語研究にも役立つけど、社会人一般にも役立つ、データ分析の基礎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的には講義ですが、実習（やグループ・ディスカッション？）を行う回もある予定です。

リアクションペーパーには、オンライン配信または口頭で、フィードバックを行う予定です（フィードバック方法は内容／文量によります）。

学生の理解度や要望などに応じて、スケジュールは柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業全体の説明
第2回	<i>Olympic</i> を片仮名表記するとしたら、「オリンピック」と「オリムピック」の、どっちにすべき？	人間は、自分がやっていることを自覚できないもの、という教訓（その1）
第3回	<i>rice</i> と <i>rise</i> 、語尾に母音を入れないで発音できる？	人間は、自分がやっていることを自覚できないもの、という教訓（その2）
第4回	「しおり」は可愛い……のかな？ 比較対象は？	実験と統計分析の必要性：統制条件、仮説と予測
第5回	強形と弱形	<i>syllable</i> の概念が必要な理由、英語の <i>stress</i> の物理的実体
第6回	英語のリズム	知識を得た上で、聞き取り実習
第7回	英語の L と R、聞き分けられる？	フォルマント（遷移）の概念
第8回	英語その他での「有声・無声」の違い	VOT の概念
第9回	音響情報のままには聞き取れない場合	語彙効果など
第10回	「発音できたら聞き取れるようになる」って本当？	<i>Motor Theory</i> が解決してくれる／くれないこと
第11回	その単語、どういう意味？（その1）	意味ブライミング（その1）：単語検索
第12回	その単語、どういう意味？（その2）	意味ブライミング（その2）： <i>ambiguity resolution</i>
第13回	単語が聞き取れない!!	単語認識の諸モデル
第14回	全体のまとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ話に基づいて、テレビやネットの報道や広告を批判的に眺め直してみてください。

また、英語で歌う機会も設けてください（理由は授業を受ければわかる……はず）。

なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて資料配布。

【参考書】

適宜、指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30％、期末試験 70％。

公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】

2023年度に比べて2024年度の方が理解度の数値が上がりました。2024年度に心がけた構造化の効果が出たものと思います。それでも、まだ理解度の数値は充分ではないように思うので、まずは用語の説明をもっと丁寧にしたいと思います。

【その他の重要事項】

原則「言語学講義 I B」と連続履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) An introduction to psycholinguistic studies of speech perception, auditory word recognition and sentence processing (for English learners as well as prospective teachers of English).

(Learning Objectives) To grasp experimental methods on the one hand, and an introductory knowledge of human language processing on the other.

(Learning activities outside of classroom) Critically examine advertisements etc. encountered on the net etc. Furthermore, sing in English! (Why sing? Well, join the class to find out!)

(Grading Criteria/Policy) Participation (30%); Final (70%)

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

言語と論理 1（言語学講義 I B）

石川 潔

授業コード：A2327 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語と日本語を「文法」の面から比較します。

【到達目標】

- ・母語干渉につながる言語間の違いを認識すること。
- ・でも、言語間には共通性もあることを認識すること。
- ・論理的な分析能力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

主として講義の予定です。

リアクションペーパーには、オンラインまたは口頭でのフィードバックを行う予定です。

学生の理解度や要望などに応じて、計画は柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	英語の「助動詞」って何なのか、改めて考える	統語論的な規則性と意味的な「直感」とのズレ
第2回	英語の「主語」、日本語の「主語」	「主語」は、「行為をする人」という意味では、ないです。
第3回	英語の時制とアスペクト1	述語の2分類
第4回	英語の時制とアスペクト2	英語の進行形の基本
第5回	英語の時制とアスペクト3	英語の進行形の応用
第6回	英語の時制とアスペクト4	英語に「未来形」ってあるのか？
第7回	英語の時制とアスペクト5	英語の完了形の基本
第8回	英語の時制とアスペクト6	英語の完了形の応用
第9回	日本語の時制とアスペクト1	日本語に「現在形・過去形」はない？
第10回	日本語の時制とアスペクト2	telicity
第11回	日本語の時制とアスペクト3	主観 対 客観
第12回	日本語の時制とアスペクト4	絶対テンス 対 相対テンス
第13回	日本語の時制とアスペクト5	テイルの意味（基本編）
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日英語の文法比較のうち授業でカバーできるのは、ごく一部だけですが、授業中でも、様々な謎を「答えなし」のまま残します。答えを考えてみてください。また、授業で紹介された分析への反例も、見つけてください（きっと見つかるはず）。もし学期中に見つかれば、教員に反論してくださいませ（有効な反論、特に教員が言い返せない反論をしてくれば、平常点に大幅加算となります）。

なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて教材配信。

【参考書】

教材に記載。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %。

公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】

2023年度に比べて2024年度の方が理解度の数値が下がってしまいました。内容をもっと整理して構造化の度合いを上げると同時に、各回の最後の「まとめ」をもっと充実したいと思います。

【その他の重要事項】

原則「言語学講義 I A」と連続履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) Comparisons of English and Japanese "grammars."

(Learning Objectives) To grasp differences and commonalities between English and Japanese; to acquire logical analysis skills.

(Learning activities outside of classroom) To seek for answers to those questions left unanswered in the classroom; to try to find counterexamples to the analyses presented in the classroom.

(Grading Criteria /Policy) Participation (30%); Final (70%)

MAT300LA (数学 / Mathematics 300)

言語と論理2 (数理論理学) A

安東 祐希

授業コード：A2328 | 曜日・時限：火1/Tue.1
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**論理とは何か ～～ まずは最小限の論理**

数理論理学を学び、論理とは何かについて考える。特に、論理が複数あること(理論が複数あるという事実とは別のこと)を知るための第一歩として、どの論理にも共通する最小論理について学ぶ。それは後に論理を広げて次のような例を考えるときの準備となる。

～～～

ある国のある時点において、次の条件をみたしている人をクシャミ大王とよぶことにする。すなわち、もしクシャミ大王がくしゃみをしているならば、同時にその国の人々全員がくしゃみをしている、という条件である。すると、今年の元旦午前零時において日本にはクシャミ大王がいたことが証明できる。しかもそれは今年の元旦に日本が特別な国であったわけではなく、実はどんな国のどの時点においても、クシャミ大王がいた(あるいは、いる)ことが、**論理的に証明**できる。(クシャミ大王は国と日時に依存することに注意。)

～～～

クシャミ大王の存在証明が可能な論理をつくるためには、この授業で扱う最小論理に何らかのものを付け加える必要がある。最小論理を直観主義論(人の論理)、さらには古典論理(神の論理)まで広げるのである。その付加するものの役割を理解するため、まずは論理の共通部分とは何かについて学んでゆく。

【到達目標】

最小論理の範囲で、推論規則を用いて演繹を表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	クシャミ大王	授業概要の説明
第2回	「かつ」を壊す	連言の除去
第3回	「かつ」を作る	連言の導入
第4回	「または」を壊す	選言の除去
第5回	「または」を作る	選言の導入
第6回	「ならば」を壊す	含意の除去
第7回	「ならば」を作る	含意の導入
第8回	「でない」を壊す	否定の除去
第9回	「でない」を作る	否定の導入
第10回	「すべて」を壊す	全称量化の除去
第11回	「すべて」を作る	全称量化の導入
第12回	「ある」を壊す	存在量化の除去
第13回	「ある」を作る	存在量化の導入
第14回	まとめ	まとめの問題

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は4時間である。

【テキスト(教科書)】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

前原昭二『記号論理入門[新装版]』(日本評論社)2005年(初版1967)

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験(60%)において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート(40%)において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】

- (1) 秋期科目「数理論理学B」の予備知識となる内容を含む。
- (2) 文学部哲学科生が履修の場合、科目名は「言語と論理2(数理論理学)A」。

【Outline (in English)】**[Course outline]**

This course deals with basic concepts of mathematical logic, especially inference rules in minimal logic.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to construct proof-figures in minimal logic.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria/Policies]

Final grade will be calculated according to the following process:

Term-end examination (60%) and quizzes in class (40%).

MAT300LA (数学 / Mathematics 300)

言語と論理2 (数理論理学) B

安東 祐希

授業コード：A2329 | 曜日・時限：火1/Tue.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

論理とは何か ～～ 人の論理、さらには神の論理

数理論理学を学び、論理とは何かについて考える。特に、論理が複数あること(理論が複数あるという事実とは別のこと)を知り、その中でも古典論理(神の論理)と直観主義論理(人の論理)について学ぶ。次のような例を考えると、二つの論理に違いが現れてくる。～～～

ある国のある時点において、次の条件をみたしている人をクシャミ大王とよぶことにする。すなわち、もしクシャミ大王がくしゃみをしているならば、同時にその国の人々全員がくしゃみをしている、という条件である。すると、今年の元旦午前零時において日本にはクシャミ大王がいたことが証明できる。しかもそれは今年の元旦に日本が特別な国であったわけではなく、実はどんな国のどの時点においても、クシャミ大王がいた(あるいは、いる)ことが、**論理的に証明**できる。(クシャミ大王は国と日時に依存することに注意。)～～～

ここでいう論理的な証明は、「神の論理」における証明である。われわれは実は何の疑問もなく「神の論理」を用いることがある。一方、「神の論理」の無制限な使用を自省することにより得られた「人の論理」においては、クシャミ大王の存在を一般には示すことができない。春期授業の最小論理に何を加えるとこれらの論理ができるのかについて学んでゆく。

【到達目標】

直観主義論理および古典論理の範囲で、推論規則を用いて演繹を表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。〔「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。〕

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり /Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	今できること	最小論理
第2回	万能薬	量子子の順序
第3回	矛盾がどうした	否定と含意
第4回	矛盾が生み出す	矛盾の推論
第5回	人の論理	直観主義論理
第6回	どちらかだ	排中律
第7回	神の論理	古典論理
第8回	クシャミ大王再考	古典論理の応用
第9回	別の顔	背理法
第10回	得意分野	古典論理の表現
第11回	真か偽か	古典論理の意味論
第12回	まだわからない	可能世界
第13回	人の論理とは	直観主義の意味論

第14回 まとめ

まとめの問題

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は4時間である。

【テキスト(教科書)】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

前原昭二『記号論理入門[新装版]』(日本評論社) 2005年(初版1967)

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験(60%)において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート(40%)において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】

(1) 春期科目「数理論理学A」で扱う内容を既知として授業を進める。

(2) 文学部哲学科生が履修の場合、科目名は「言語と論理2(数理論理学)B」。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with basic concepts of mathematical logic, especially inference rules in intuitionistic and classical logic.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to construct proof-figures in intuitionistic and classical logic.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Final grade will be calculated according to the following process:

Term-end examination (60%) and quizzes in class (40%).

BSP100BB（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミ I（文・哲）

佐藤 真人

授業コード：A2332 | 曜日・時限：火3/Tue.3
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年
 備考（履修条件等）：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学者の文章を読解し、それについて自身で考えて書き、発表し、さらに考えを深めるという一連の作業を通して、大学で哲学を学び、書くための基礎的・実践的な力を身につけることをめざします。これにより、翌年の「基礎演習」へ向けた哲学的な地盤を固めます。

【到達目標】

- ① 大学のレポート・論文の基礎を理解し、自身で書くことができる。
- ② 関連文献を読みながら自身で問いと答えを探し、また他者との議論を通じて理解と考察を深める。
- ③ 論拠に基づく議論を組み立て、自身の言葉で論理的に表現できる。
- ④ 剽窃等の研究活動上の不適切な行為について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半は前回課題のいくつかを共有し、その解説・コメントを通して全体へのフィードバックを行います。授業後半では、発表担当班が予め作成したレジュメに基づいて発表をし、それについての質疑応答を受講者全員で行います。

具体的な手順は以下の通り。

- ①発表担当班によるレジュメ作成と発表
- ②全体での質疑応答を通じた考察の深化
- ③毎回の講読内容について各自で考察した小レポート（リアクション・ペーパー）を提出。

これらを通じ、哲学への学問的な取り組み方の基本と実践（文献の読解、問題設定、議論の組み立て）の訓練を重ねます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション ～レポート・論文の書き方①	授業概要。なぜ、どのようにレポートを書くのか。
第2回	レポート・論文の書き方②	レポートの内容・章立ての実際。グループ分け。
第3回	レポート・論文の書き方③／プラトンの哲学	プラトン哲学の導入部
第4回	『メノン』①	発表と議論①
第5回	『メノン』②	発表と議論②
第6回	『メノン』③	発表と議論③
第7回	『メノン』④	発表と議論④
第8回	『メノン』⑤	発表と議論⑤
第9回	『饗宴』①	発表と議論①
第10回	『饗宴』②	発表と議論②
第11回	『饗宴』③	発表と議論③
第12回	『饗宴』④	発表と議論④
第13回	『饗宴』⑤	発表と議論⑤
第14回	『饗宴』⑥	発表と議論⑥

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う箇所を丁寧に読み、理解した内容や疑問などを各自でまとめること。この作業はグループ発表時のレジュメ作成や、個人での小レポートの作成に役立ちます。

発表担当のグループは、各メンバーが内容を調べ、話し合いながら、発表用のレジュメを作成してください。
 本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プラトン『メノン』（渡辺邦夫訳）、光文社古典新訳文庫、2012年
 プラトン『饗宴』（中澤務訳）、光文社古典新訳文庫、2013年

【参考書】

戸田山和久『論文の教室：レポートから卒論まで』、NHKブックス、2002年；2022年

河野哲也『レポート・論文の書き方入門 第4版』慶應義塾大学出版会、2018年

以上は持っておいて損はありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回の課題や参加姿勢など）35%、発表15%、期末レポート50%の割合とし、到達目標の達成度合いに応じて成績評価します。欠席4回で「不可」なので注意してください（事情がある場合は要相談）。

【到達目標】 欄の事項の達成度合いが評価基準になります。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく丁寧にわかりやすい説明と、皆さんの自主的な読解と考察を促す授業を心がけます。

【その他の重要事項】

「図書館ツアー」をどこかの授業で実施する可能性があります。

【Outline (in English)】

Through a series of tasks in which students read philosophers' texts, think about them, write about them, present their understanding and further deepen their thinking, the aim is to acquire the basic and practical skills for studying and writing about philosophy at university.

In this way, the students will strengthen their philosophical foundations for the following year's 'Elementary Seminar in Philosophy'.

Students are expected by the end of the course (1) to understand the basics of university reports and dissertations and to be able to write them, (2) to search for questions and answers on their own while reading relevant literature, and deepen understanding and consideration through discussion with others, (3) to construct arguments based on evidence and express them logically in their own words, and (4) to understand inappropriate behaviour in research activities such as plagiarism.

Before each class meeting, students are to read carefully the relevant text of the next class and to summarize what the text is arguing for. Group or individual in charge of presentation of the day is to prepare a resume to be distributed. Required study time is two hours each before and after the class.

Grade will be decided on the following proportion. In-class contribution: 35%, Presentation: 15%, Term-end report: 50%.

BSP100BB（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミⅡ（文・哲）

内山 真莉子

授業コード：A2333 | 曜日・時限：火3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1年

備考（履修条件等）：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、大学で学ぶに際して必要となる基本的な態度やスキルを身に付けることを目的とする。とりわけ、哲学的な文章を読み解き、自分なりの観点で考察することや、資料を作成し議論の場で発表すること、またレポートを作成するために必要な事柄を習得することを目指す。

【到達目標】

- ・哲学的な文章を根気強く読み解き、一定の理解を得ることができる。
- ・自分なりの問題意識を抱き、それを論理的に構成し他者へ示すことができる。
- ・他者との議論の中で、自他相互に問題意識を深めることができる。
- ・哲学に関するレポートの基本的な書き方を理解し、実践できる。
- ・捏造、改ざん、盗用、それ以外の研究活動上の不適切な行為について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

〈発表・議論〉

- ・全受講者にテキストを配布し担当箇所を割り当て、その箇所について担当者はレジュメを作成し、発表する。
- ・発表内容を元に、受講者全員で質疑応答・議論を行う。
- ・授業内での発表や議論の内容に関するリアクションペーパーを提出する。

〈レポート作成〉

授業内で扱った事柄の中からいくつかをテーマとしてピックアップし、それに関するレポートを作成する。

〈フィードバックに関して〉

議論の際には適宜、教員がフィードバックを行う。またリアクションペーパーは、授業時に匿名でいくつか紹介し、授業内容の理解を深めることに用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の概要と今後の進め方について
第2回	発表・議論（1）	哲学的思考とは
第3回	発表・議論（2）	科学について①
第4回	発表・議論（3）	科学について②
第5回	発表・議論（4）	哲学的懐疑①
第6回	発表・議論（5）	哲学的懐疑②
第7回	発表・議論（6）	価値について①
第8回	発表・議論（7）	価値について②
第9回	発表・議論（8）	意識
第10回	発表・議論（9）	行為者性
第11回	発表・議論（10）	目的
第12回	発表・議論（11）	意識と目的の進化
第13回	レポート作成（1）	レポートの書き方と研究倫理（捏造、改ざん、盗用等）について
第14回	レポート作成（2）	期末レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に各授業回の該当箇所を熟読し、疑問点をまとめておく。

各授業回の担当者は、該当箇所を熟読した上でレジュメを作成する。

レポート作成に当たり、自分が関心を抱いたテーマについて資料・レジュメを見直す。

本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『哲学思考トレーニング』伊勢田哲治著、筑摩書房、2005年。

『意識と目的の科学哲学』田中泉史・鈴木大地・太田紘史、慶應義塾大学三田哲学会、2024年。

【参考書】

『レポート・論文の書き方入門 第4版』河野哲也著、慶應義塾大学出版会、2018年。

その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テキスト内容についての理解と、自分なりの疑問点をもつことができているか、論理的に考察することができるか、他者の意見を尊重しつつ自身の考察を深めることができるか、といった観点から、以下の3項目にて評価する。

①発表担当時の発表内容：30%

②質疑応答・議論への参加、リアクションペーパーの記入：30%

③期末レポート：40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to equip students with the fundamental attitudes and abilities needed to succeed in university studies. Specifically, students will learn how to comprehend philosophical texts and interpret them from their viewpoints, develop materials and present them effectively in class discussions, and write reports.

【Learning Objectives】

This course aims to familiarize students with philosophical concepts, enhance their logical thinking skills, facilitate engaging discussions, teach the basics of writing a philosophy report, and promote understanding of concepts like fabrication, falsification, plagiarism, and other unethical research behaviors.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, it is expected that students will have read the pertinent chapter from the textbook. The individual in charge will create a summary of the chapter after reading it carefully. To prepare a report, you should review materials and resumes on a topic that interests you. You are required to dedicate at least four hours to studying for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 40%, Contents of presentation as person in charge: 30%, in-class contribution: 30%

BSP100BB（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミ I（文・哲）

奥田 和夫

授業コード：A2334 | 曜日・時限：火3/Tue.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年
備考（履修条件等）：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、大学での授業の接し方・勉強方法、とくにレポートや論文の書き方、またその他に心得ておかねばならない情報・知識、身に着けるべき技術・能力について学び、その練習をします。

【到達目標】

大学での授業の接し方、とくにレポート、論文の書き方、資料収集の方法等を習得し、自分で実践することができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

【到達目標】に記した目標を念頭において、授業で修得すべきことを説明します。そして授業の回ごとに、学んだことを実際に練習します。授業内の練習をととして履修生に必要なフィードバックを行ないます。提出物によるものは次回の授業でその問題点等を説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 大学と社会、大学生活、 大学の授業と研究 研究倫理	大学で何をどのように学ぶか 高校までの授業と何が違うか 社会人としての注意事項、研究倫理 の理解（捏造・改ざん・盗用・それ 以外の研究活動上の不適切な行為に ついて）
第2回	授業の理解、ノートと メモ	何を学んでいるのか ノートとメモ
第3回	要約1（練習） 読む技術	要約の能力の重要性 要約のコツ
第4回	要約2（練習） 読んで振り返る 要約3（練習）	読んでみて、何を読み取ったのかを 確認し理解する メモまたはノートを書く 必要に応 じて調査する
第5回	要約4（練習）	上の事項の反復練習
第6回	読んだことをまとめる 要約5（練習）	読んでみて、何を読んだのか書く 事実（or 書かれているコトガラ）は 何なのか、または著者の主張は何か、 を探る
第7回	何をどう書くか（練習）	テーマと材料 知らないことは話せない、考えるこ とはもっとできない
第8回	資料の探し方 図書館ガイダンス	図書館と図書館の利用法
第9回	資料の探し方（練習） テーマの発見1 （練習）	図書館の利用 （実施練習） ことがらに対する考察 自分が考え ることは何か
第10回	テーマの発見2 （練習）	「何を論じるのか」「何が論じられる のか」の自覚 知識、情報の蓄積
第11回	事実または他者の意見 に対する自分の意見1 （練習）	自分が知っていること、それに対す る意見を書いてみる
第12回	事実または他者の意見 に対する自分の意見2 （練習）	上の事項の反復練習 発想法について
第13回	レポートと論文 （練習）	論文・レポートの要件と構成 出発点 と到着点 引用、注、文献表などの必要性とそ の意味
第14回	まとめ	期末レポート 修得した技術を活用してレポートを 作成し提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
自分で読み書きの練習をし、課題を提出すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回、プリントを配布します。

【参考書】

授業の中で適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

「到達目標」に記した内容の到達度に照らして、① 数回の課題提出物の内
容（40%）② 期末レポートの内容（60%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

今年度はなし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

第8回の授業で図書館の利用法を扱います。実際に図書館の館員に図書館
の説明、利用法などの説明を受けます。ただし、図書館の事情により日程は
変更になる可能性もあります。日にちの変更は授業内、または学習支援シス
テムで知らせます。

【Outline (in English)】

(Course outline) The aim of this course is to help students acquire
literacy and technique of reading, writing and gathering material.

(Learning Objectives) The goals of this course are to acquire literacy and
technique of reading, writing and gathering material.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class
meeting, students will be expected to spend four hours to understand
the course content.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to
the following process, term-end examination (60%), and in-class short
papers (40%).

BSP100BB（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミⅡ（文・哲）

菅沢 龍文

授業コード：A2335 | 曜日・時限：火3/Tue.3
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1年
 備考（履修条件等）：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
 (1) 論理 (2) 知識 (3) 自我 (4) 行為（道徳）、に関する哲学的に基本的事柄を取り上げ、毎回グループワークを実践する。そして最後に論文・レポートの書き方について学び、レポート作成を実践する。これにより、問題となる物事について論理的・哲学的に考えて解決するための基礎力をつける。

【到達目標】
 (1)「矛盾」と「反対」とを区別でき、「矛盾」が理解できる。
 (2)「分析判断」と「総合判断」の特性を理解できる。
 (3)「必要条件」と「十分条件」が理解できる。
 (4)「思想」と「事実」と「言語」の関係について理解できる。
 (5)「唯名論」対「実在論」、「唯物論」対「観念論」が理解できる。
 (6)物や人格の「同一性」の諸相について理解できる。
 (7)「物体」の性質の諸相について理解できる。
 (8)自我の「明証性」について理解できる。
 (9)「人格」や「主観」、「客観」について理解できる。
 (10)「道徳的価値」について理解できる。
 (11)「黄金律」と「定言命法」について理解できる。
 (12)「決定論」と「自由」について理解できる。
 (13)論文・レポートの作成について心得る。
 (14)実際に問題や課題を立てて、適切なレポートが書ける。
 (15)捏造、改ざん、盗用などの研究倫理上の不適切な行為について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
 ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
 (1) 授業の始めに前回の課題についての復習。
 （小作文集によるフィードバックをする。）
 (2) 次に今回のプリント教材の内容と課題についての解説。
 (3) その後に授業の課題についてグループワークを行う。
 （※授業後に「授業支援システム」で課題についての小作文を提出。小作文集（パスワード付PDF）をゼミ内で共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	(1) 授業の進め方 (2) 真・善・美 (3) 自我 テキスト：16, 27 頁
第2回	矛盾	(1) 「矛盾」の由来 (2) 矛盾と同一性 (3) 「矛盾」の定義 テキスト：29, 33, 37 頁
第3回	分析判断、総合判断 （※矛盾律、必要条件）	(1) 矛盾律 (2) 分析判断・総合判断 (3) 必要条件 テキスト：42-44, 83 頁
第4回	思想・事実・言語 （※矛盾と反対）	(1) 事実と概念 (2) 概念と言語 (3) 反対対当 テキスト：46-50, 53-56 頁
第5回	唯名論 vs. 実在論 （※必要十分条件）	(1) 必要十分条件 (2) 唯名論（ノミナリズム） (3) 総体および皆無の原理 テキスト：76-81, 83-86, 93, 236 頁
第6回	同一性の諸相	(1) 感覚 (2) 判断・推理 (3) 物の同一性 テキスト：98, 102-115 頁
第7回	物体と懷疑	(1) 一次性質と二次性質 (2) 感覚知覚への疑い (3) 算術・幾何学への疑い テキスト：118-120, 126-130 頁
第8回	自我の明証性	(1) 私は存在する (2) 私は考える (3) 明証的な知覚 テキスト：132-136, 141-142 頁

第9回	人格および主観、客観	(1) 私はあるが、誰でもない？ (2) 人格（ベルソナ） (3) 主観的と客観的 テキスト：157-172 頁
第10回	行為の価値 — 行為する自我 —	(1) 善い意志 (2) 義務に基づく (3) 道徳的価値 テキスト：177-181 頁
第11回	善い意志 — 隣人愛の観点から —	(1) 隣人愛 (2) 法則に対する尊敬 (3) 定言命法と黄金律 テキスト：182-183, 186-187, 190-191 頁
第12回	自由と道徳 — 行為の哲学 —	(1) 「である」と「べきである」 (2) 悪と自発性 (3) 心情と結果 テキスト：215-219, 223-228 頁
第13回	レポートの心得 および研究倫理	・レポート作成 (0) レポート課題と題名 (1) 資料収集・消化・検討 (2) アウトライン作成 (3) 文章を書く (4) 捏造、改ざん、盗用などについて（研究倫理）
第14回	レポートの実践	課題・表題を設定し、レポートを書く

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
 準備：「学習支援システム」で事前に配布された教材プリントPDFによって授業内容を把握しておく。（ゼミでは、さらに理解や考えを深める。）
 復習：授業後に「学習支援システム」で課題の小作文を提出する。その後に「学習支援システム」に掲載されるゼミ小作文集（パスワード付PDF）により復習する。

【テキスト（教科書）】
 ラインハルト・ブランド著『哲学 ひとつの入門』（理想社）

【参考書】
 授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
 到達目標に掲げられている各回の課題に関して次の観点から評価する。
 (1) 毎回のゼミへの参加態度と課題小作文の評価（70％）
 (2) セメスター末のレポート作文の評価（30％）

【学生の意見等からの気づき】
 授業では、聞き取りやすい発声を心がける。
 授業で課題となるポイントを的確に伝える。

【学生が準備すべき機器他】
 法政大学の学習支援システム（Hoppii）にインターネット接続して、課題作文を提出するためのパソコン（推奨）やタブレット、スマホが必要です。

【その他の重要事項】
 なし

【Outline (in English)】
 We will cover the basic philosophical issues of (1) logic, (2) knowledge, (3) ego, and (4) action (moral), and group work will be conducted each time. Finally, we will learn how to write papers and reports, and practice writing them. In this way, students will acquire the basic skills to solve problems logically and philosophically.
[Learning Objectives]
 (1) To be able to distinguish between "contradiction" and "opposition" and understand "contradiction".
 (2) To understand the characteristics of "analytical judgment" and "synthetic judgment".
 (3) To be able to understand "necessary conditions" and "sufficient conditions".
 (4) To understand the relationship between "thought", "fact" and "language".
 (5) To understand "nominalism" versus "realism" and "materialism" versus "idealism".
 (6) To understand the various aspects of the "identity" of objects and of personalities.
 (7) To be able to understand the various aspects of properties of "objects".
 (8) To understand the "evidentiality" of the ego.
 (9) To understand "personality", "subjectivity" and "objectivity".
 (10) To understand "moral value".
 (11) To be able to understand the "Golden Rule" and "Categorical Imperative".
 (12) To be able to understand "determinism" and "freedom".
 (13) To be able to understand how to write papers and reports.
 (14) To be able to actually formulate a problem or issue and write an appropriate report.
[Learning activities outside of classroom]
 The standard preparation and review time for this class is each 2 hours. Preparation: Understand the content of the class in the printed PDF materials distributed in advance via the "Learning Support System". (In the seminar, we will further deepen our understanding and ideas.)

Review: After the class, submit the assigned small essay on the "Learning Support System" and review it using the collection of the seminar small essays (PDF with password) posted on the "Learning Support System".

[Grading Criteria /Policy]

Depending on the achievement of the objectives, the following will be graded.

- (1) Attitude toward each seminar and evaluation of small essays (70%)
- (2) Evaluation of the essay or report at the end of the semester (30%)

LANd300LA (ドイツ語 / German language education 300)

ドイツ語 (第三外国語としてのドイツ語A) 1

林 志津江

授業コード：A2336 | 曜日・時限：火3/Tue.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年 ドイツ語履修者は履修不可年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

初習者を対象にしたドイツ語の入門編です。発音の規則を習得するとともに、平易なドイツ語で書かれた文章の読解や会話練習を通じて、ドイツ語文法の基礎を学びます。ドイツ語学習を通じて「大人の外国語の学び方」もしっかり身につけます。

【到達目標】

1) ドイツ語の発音の規則、初級文法、簡単な文章表現などの練習を通じて、ドイツ語の考え方の基本を理解すること。具体的には、ドイツ語技能検定試験(独検)の4級～5級合格レベル到達を目指します。
2) ドイツ語(外国語)の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力や、他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっていることを実感できること。
3) ドイツ語・ドイツ語圏という異文化と接することで、自分の属する文化と言語圏について反省的に考えられるようになることが最大の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテキストの読解(グループワーク)や会話練習(ペアワーク)などの作業を通じて、テキストの内容や文法を確認していきます。

・LMSとして、Google Classroomを使用します。

・連絡手段として、学期を通じ法政Gメールをチェックしてください。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／ Lektion1：発音の規則(1)、あいさつの表現	授業の進め方と辞書についての説明、アルファベットと発音の規則1、あいさつの表現1
2	Lektion1：発音の規則(2)、ドイツ語圏ってどこにあるの？	つづり字と発音の規則、ドイツ語ってどこで話されている言葉？ ふたつの二人称
3	Lektion1 & Lektion2：発音の規則(3)、動詞の不定詞と現在人称変化(1)、並列の接続詞	自己紹介1：人称代名詞(1格)と動詞の現在人称変化(1)、平叙文と定動詞第2位の原則
4	Lektion2：動詞の現在人称変化(2)	人称代名詞(1格)と動詞の現在人称変化(2)、自己紹介2、さまざまな疑問文のパターン
5	Lektion3：名詞の性と格(1)	名詞の格(1)、定冠詞と不定冠詞(1)
6	Lektion3：名詞の性と格(2)	名詞の格、定冠詞と不定冠詞、否定冠詞keinと否定文
7	Lektion4：名詞の複数形・人称	「品詞」について今一度理解度を確認する(1)、人称代名詞と所有冠詞をしっかりと区別する

8	Lektion5：不定冠詞類・定冠詞類	「品詞」について今一度理解度を確認する(2)、人称代名詞と所有冠詞をしっかりと区別する
9	Lektion6：語幹の母音が変音する動詞(不規則動詞)(1)	動詞の現在人称変化(3)
10	Lektion6：語幹の母音が変音する動詞(不規則動詞)(2)	動詞の現在人称変化(4)
11	Lektion7：命令法と態(Modus)	2人称と依頼の表現、ドイツ語の日常的なモノと人の感覚について
12	Lektion7：話法の助動詞(1)	「話法の助動詞」の構文、枠構造の意味
13	Lektion7：話法の助動詞(2)	話法の助動詞を使うそのココロを理解する
14	まとめ	学期末最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

予習：次週扱うテキストの箇所を読んでくること。
復習：文法問題を中心とした提出課題(宿題)を随時用意します。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

・新倉真矢ほか著『ゲナウ！ Grammatik neu』(郁文堂、2018/2023年)(¥2,200)
・学習用独和辞典(別途授業内で案内します)

【参考書】

中島悠爾、朝倉巧、平尾浩三著『(改訂版) 必携ドイツ文法総まとめ』(白水社)2003年(¥1,728)

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加(ペアワーク・グループワーク含む)と提出物の成果を合わせて評価する平常点(50%)および学期末試験(50%)の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

・独和辞典(学習用)は必携です。必ず用意して毎回の授業に持参して下さい(辞書類については第一回授業時に説明をします)
・WiFiが利用可能なデジタルガジェット(PCまたはタブレット、スマートフォン)

【その他の重要事項】

・上記に記した内容や順序は、皆さんの理解度に応じて変更されることがあります。

・「ドイツ語技能検定試験(公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催)」や「ドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験(Goethe Zertifikat)」等の受検とその結果は、上記「成績評価の方法と基準」のうち、「授業への積極的な参加」に加算されます(2025年7月下旬までに担当者に通知されたものに限りです)。

【Outline (in English)】

【Course outline】

German course for absolute Beginners - This course introduces elementary Grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to master elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines of german language.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.

The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each. There are prescribed preparation and review tasks.

【Grading Criteria /Policy】

The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class, presentations, submitted assignments) and 50% of end-of-term assignments (tests).

LANd300LA (ドイツ語 / German language education 300)

ドイツ語 (第三外国語としてのドイツ語B) 2

林 志津江

授業コード：A2337 | 曜日・時限：火3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年 ドイツ語履修者は履修不可年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

初習者を対象にしたドイツ語の入門編です。(春学期開講の「第三外国語としてのドイツ語A」に引き続き) 初級文法の基礎を学びます。簡単なドイツ語を読み、書き、話すためのトレーニングとともに、ドイツ語学習の体験を単なる知識のインプットに留まらない「大人の外国語の学び方」の習得につなげていきます。

【到達目標】

- 1) ドイツ語の発音の規則、初級文法、簡単な文章表現などの練習を通じて、ドイツ語の考え方の基本を理解すること。具体的には、ドイツ語技能検定試験(独検)の4級～5級合格レベル到達を目指します。
- 2) ドイツ語(外国語)の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力や、他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっていることを実感できること。
- 3) ドイツ語・ドイツ語圏という異文化と接することで、自分の属する文化と言語圏について反省的に考えられるようになることが最大の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテキストの読解(グループワーク)や会話練習(ペアワーク)などの作業を通じて、テキストの内容や自分の文法理解を確認します。

- ・LMSとして、Google Classroomを使用します。
- ・連絡手段として、学期を通じ法政Gメールをチェックしてください。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	動詞の現在人称変化、名詞の格変化(冠詞)と人称の格変化、話法の助動詞
2	Lektion8: 再帰代名詞・再帰動詞	他動詞の再帰表現、再帰代名詞を用いた表現
3	Lektion9: 分離動詞・非分離動詞	動詞の前綴りの話、複合動詞のいろいろ、前つづりと定動詞・枠構造の関連を理解する
4	Lektion9: zu不定詞	不定詞とzu不定詞およびその用法、zu不定詞句を使った表現
5	Lektion9: 従属の接続詞	従属接続詞と副文の作り方、主文と副文の違いを理解する
6	Lektion10: 動詞の3基本形(I)(1)・現在完了形	現在完了形を使うそのココロとは？
7	Lektion10: 動詞の3基本形(I)(2)・過去時制	過去時制と過去人称変化、現在完了形と過去時制の違いとは？
8	Lektion11: 動詞の3基本形(II)・受動態	なんで受動態にしなきゃいけないワケ？ 受動の助動詞2種類(行為受動、状態受動)

9	Lektion12: 形容詞(1)・形容詞の格変化	形容詞の用法と形容詞の格変化
10	Lektion12: 形容詞(2)・比較表現	並列の接続詞、従属の接続詞、形容詞の用法、付加語の用法と格変化
11	Lektion12: 関係代名詞(1)	定関係代名詞・指示代名詞の格変化、関係代名詞(副文)
12	Lektion12: 関係代名詞(2)	関係副詞・不定関係代名詞
13	補足: 接続法	接続法第I式および第II式について
14	まとめ	学期末最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

予習：次週扱うテキストの箇所を読んでくること。
復習：文法問題を中心とした提出課題(宿題)を随時用意します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

- ・新倉真矢子ほか著『ゲナウ！ Grammatik neu』(郁文堂、2018/2023年)(¥2,200)
- ・学習用独和辞典(別途授業内で案内します)

【参考書】

中島悠爾、朝倉巧、平尾浩三著『(改訂版) 必携ドイツ文法総まとめ』(白水社)2003年(¥1,728)

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加(ペアワーク・グループワーク含む)と提出物の成果を合わせて評価する平常点(50%)および学期末試験(50%)の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・独和辞典(学習用)は必携です。必ず用意して毎回の授業に持参して下さい。
- ・WiFiが利用可能なデジタルガジェット(PCまたはタブレット、スマートフォン)

【その他の重要事項】

- ・上記に記した内容や順序は、皆さんの理解度に応じて変更されることがあります。
- ・「ドイツ語技能検定試験(公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催)」や「ドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験(Goethe Zertifikat)」等の受検とその結果は、上記「成績評価の方法と基準」のうち、「授業への積極的な参加」に加算されます(2025年7月下旬までに担当者へ通知されたものに限りです)。

【Outline (in English)】

【Course outline】

German course for absolute Beginners - This course introduces elementary Grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to master elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines of german language.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.

The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each. There are prescribed preparation and review tasks.

【Grading Criteria /Policy】

The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class, presentations, submitted assignments) and 50% of end-of-term assignments (tests).

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

人間学2 (徳と倫理) A

内山 真莉子

授業コード：A2340 | 曜日・時限：金5/Fri.5
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

倫理学とは、人が〈善く生きる〉とはどのようなことかを探求する学問である。本授業は、西洋における倫理思想の流れを概観することで、倫理学の議論への手引きとなることを目的とする。着目するキーワードとして、「徳」と「善」を設定する。

西洋における倫理思想と一口に言っても、そのトピックは様々にある。春学期はその中でも古代・中世に焦点を当て、どのようなことが論点として扱われてきたのかを見ていく。そこで得た知見をもとに、自分自身の問題意識を深めていくことも目標とする。

【到達目標】

- ・古代・中世における倫理思想の主要な論点について理解を深める。
- ・倫理学の論点について考察するとはどのようなことなのかを理解し、実践することができる。
- ・様々な倫理思想に触れることで、自分自身の問題意識を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は講義形式で、毎回レジュメを配布しそれを元に解説を行う。
- ・授業毎に、当該授業の内容に関わるリアクションペーパーを提出してもらう。
- ・次回授業の冒頭に、リアクションペーパーのいくつかを匿名で共有し、フィードバックを行う。
- ・授業最終回に、論述形式の試験を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方と導入	倫理学とは
第2回	ソクラテスとプラトン①	徳と知
第3回	ソクラテスとプラトン②	善とアイデア
第4回	アリストテレス①	徳と善と幸福
第5回	アリストテレス②	善と社会
第6回	エピクロス	快と幸福
第7回	ストア派	自然本性と懐疑
第8回	アウグスティヌス①	善く生きること
第9回	アウグスティヌス②	罪と自由
第10回	トマス・アキナス①	徳と神と愛
第11回	トマス・アキナス②	善と幸福
第12回	救済論	徳と死生観
第13回	スコトゥス／オッカム	理性と信仰
第14回	倫理学的考察の実践	授業内試験と解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

レジュメを精読することで見直し、リアクションペーパーの作成を通じて自分なりの考察を深める。
 本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しない。レジュメ・資料は授業毎に配布する。

【参考書】

『倫理学入門』品川哲彦著、中公新書、2020年。
 『西洋哲学史〔古代・中世編〕』内山勝利・中川純男編、ミネルヴァ書房、1996年。
 その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標に即して、以下の2項目にて評価する。

- ①授業最終回の論述試験：60%
- ②リアクションペーパーの内容：40%

【学生の意見等からの気づき】

板書での補足が多々あるので、見やすくなるよう心がけます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Ethics is the study of how to live a good life. The goal of this course is to offer a roadmap for conversations about ethics by presenting an overview of the development of ethical ideas in the Western world. The key concepts to focus on are "virtue" and "goodness."

【Learning Objectives】

This course aims to deepen your understanding of ethical thought in ancient and medieval times, practice consideration of ethical issues, and enhance self-awareness by exploring various ethical ideas.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to review their resumes and create reaction papers to deepen their reflections.

You are required to dedicate at least four hours to studying for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, Reaction papers: 40%

PHL300LA (哲学/Philosophy 300)

人間学2 (徳と倫理) B

内山 真莉子

授業コード：A2341 | 曜日・時限：金5/Fri.5
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

倫理学とは、人が〈善く生きる〉とはどのようなことかを探求する学問である。本授業は、西洋における倫理思想の流れを概観することで、倫理学の議論への手引きとなることを目的とする。着目するキーワードとして、「徳」と「善」を設定する。

西洋における倫理思想と一口に言っても、そのトピックは様々にある。秋学期はその中でも近世～現代に焦点を当て、どのようなことが論点として扱われてきたのかを見ていくのだが、とりわけ「徳倫理学」について重点的に扱う。そこで得た知見をもとに、自分自身の問題意識を深めていくことも目標とする。

【到達目標】

- ・近世～現代における倫理思想の主要な論点について理解を深める。
- ・倫理学の論点について考察するとはどのようなことなのかを理解し、実践することができる。
- ・様々な倫理思想に触れることで、自分自身の問題意識を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は講義形式で、毎回レジュメを配布しそれを元に解説を行う。
- ・授業毎に、当該授業の内容に関わるリアクションペーパーを提出してもらう。
- ・次回授業の冒頭に、リアクションペーパーのいくつかを匿名で共有し、フィードバックを行う。
- ・授業最終回に、論述形式の試験を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方と導入	徳倫理学とは
第2回	ルターと信仰	自由意志と奴隷的意志
第3回	ヒュームと徳	人間本性と道徳原理
第4回	義務倫理	カントの自律
第5回	功利主義	幸福と利益
第6回	ムーアとメタ倫理学	自然主義的誤謬
第7回	エイヤーと倫理的判断	情緒主義
第8回	アンスコムと徳①	道徳哲学の有益性について
第9回	アンスコムと徳②	行為と意図
第10回	マッキンタイアと徳	倫理思想の歴史
第11回	ロールズと正義	善と正
第12回	共同体主義と徳	個人は共同体に先立つか
第13回	現代の徳倫理学	アリストテレスへの回帰
第14回	倫理学的考察の実践	授業内試験と解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

レジュメを精読することで見直し、リアクションペーパーの作成を通じて自分なりの考察を深める。
本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しない。レジュメ・資料は授業毎に配布する。

【参考書】

『倫理学入門』品川哲彦著、中公新書、2020年。

ダニエル・C・ラッセル編『ケンブリッジ・コンパニオン 徳倫理学』立花幸司監訳、春秋社、2015年。

その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標に即して、以下の2項目にて評価する。

- ①授業最終回の論述試験：60%
- ②リアクションペーパーの内容：40%

【学生の意見等からの気づき】

板書での補足が多々あるので、見やすくなるよう心がけます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Ethics is the study of how to live a good life. The goal of this course is to offer a roadmap for conversations about ethics by presenting an overview of the development of ethical ideas in the Western world. The key concept to focus on is virtue ethics.

【Learning Objectives】

This course aims to deepen your understanding of ethical thought from early modern to modern times, practice consideration of ethical issues, and enhance self-awareness by exploring various ethical ideas.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to review their resumes and create reaction papers to deepen their reflections.

You are required to dedicate at least four hours to studying for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, Reaction papers: 40%

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

人間学5 (人間存在論) A

森村 修

授業コード：A2342 | 曜日・時限：水4/Wed.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

【授業の概要】

本科目「人間存在論A」〔哲学科専門科目「人間学5 (人間存在論) A」〕では、いわゆる「現代思想」や「ポストモダン思想」(欧米では一般的に「ポスト構造主義」と呼ばれる) 哲学思想の流れを歴史的に辿りながら、主要な哲学について検討する。

第二次世界大戦後から、1960年代の「政治の季節」と呼ばれる時期を挟んで、21世紀の現在に至るまでの欧米中心の西洋の哲学思想を歴史的に辿りながら、重要な哲学的なテーマを中心に考察する。

おもに、フーコー・ドゥルーズ・デリダという「フランス現代思想」を代表する3人の哲学思想とその意義を、現代を生きる我々の視点から再考することを目的とする。その際に、彼らの哲学思想がどのように今日の哲学思想に影響をもたらしているかを、「同一性 (アイデンティティ) と差異」、「マジョリティとマイノリティ」などをキー・ワードとして検討する。また、彼らの哲学を批判的に乗り越えていこうとする哲学者・思想家 (ジュデイス・バトラー、スラヴォイ・ジジェク、カトリヌ・マラブーら) を視野に入れつつ、21世紀に生きる私たちの生存／実存 (existence) を哲学的・倫理的に考察する。

【到達目標】

- ①現代思想 (モダニズムからポストモダニズム、構造主義からポスト構造主義) の歴史的概略について考察できるようになる。
- ②現代思想が抱えている哲学的・倫理学的問題を哲学的に考えることができる。
- ③哲学テキストの読解力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

・基本的には、講義形式で行う。ただし、哲学的なテーマについて、受講生との討議・議論を積極的に行なっていく。
・人数がそれほど多くない (30名定員) ことから、受講生それぞれに主要な哲学者の哲学テキストを抜粋して配布し、それを読んでもらい、テキストについての簡単な小レポート (あるいはレジュメ) を書いてもらう。授業では、各自のレポートを利用して議論することも考えている。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・選抜試験 ・受講上の注意点 ・授業の概要説明
2	構造主義とポスト構造主義①	第一章 構造主義を振り返る① 1. サルトルと実存主義
3	構造主義とポスト構造主義②	第一章 構造主義を振り返る② 2. レヴィ=ストロースと構造主義の登場
4	構造主義とポスト構造主義③	第一章 構造主義を振り返る③ 3. ジャック・ラカンと精神分析
5	構造主義とポスト構造主義④	第一章 構造主義を振り返る④ 4. ルイ・アルチュセールとマルクス主義哲学

6	構造主義とポスト構造主義⑤	第二章 構造主義からポスト構造主義へ① 1. 「ポスト構造主義」の誕生
7	構造主義とポスト構造主義⑥	第二章 構造主義からポスト構造主義へ② 2. ロラン・バルト——現代の神話とテキスト理論
8	構造主義とポスト構造主義⑦	第二章 構造主義からポスト構造主義へ③ 3. フーコーと「知の考古学」
9	構造主義とポスト構造主義⑧	第二章 構造主義からポスト構造主義へ④ 4. フーコーの権力論
10	構造主義とポスト構造主義⑨	第二章 構造主義からポスト構造主義へ⑤ 5. デリダの脱構築論
11	構造主義とポスト構造主義⑩	第二章 構造主義からポスト構造主義へ⑥ 6. デリダの「倫理的転回」
12	構造主義とポスト構造主義⑪	第二章 構造主義からポスト構造主義へ⑦ 7. ドゥルーズの「差異の哲学」
13	構造主義とポスト構造主義⑫	第二章 構造主義からポスト構造主義へ⑧ 8. ドゥルーズの生成の哲学
14	ポスト構造主義とは何だったのか？	まとめと総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキスト (教科書) としては使わないが、授業に際して主に参照する書籍

- ① 渡名喜庸哲『現代フランス哲学』ちくま新書1749、2023年
- ② 岡本裕一郎『フランス現代思想史——構造主義からデリダ以後へ』中公新書2300、2015年
- ③ 伊東直『戦後フランス思想——サルトル、カミュからバタイユまで』中公新書2799、2024年

【参考書】

- ① 船木亨『現代思想史入門』ちくま新書1183、2016年
- ② 船木亨『現代思想講義——人間の終焉と近未来社会のゆくえ』ちくま新書1334、2018年
- ③ 川口茂雄・越門勝彦・三宅岳史編『現代フランス哲学入門』ミネルヴァ書房、2020年
- ④ 鹿島徹・川口茂雄・佐藤慶太・渡辺和典編『ドイツ哲学入門』ミネルヴァ書房、2024年 (これは、あくまで参考書)

【成績評価の方法と基準】

- (1) 平常点 (リアクションペーパー／小テスト) (30%) (質問を3点以上用意する)
- (2) 期末レポート (70%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・秋学期科目「人間存在論B」(哲学科専門科目「人間学5 (人間存在論) B」) と内容的に連続しているので、両方を受講することが望ましい。
・また「受講上の注意」として、秋学期科目「人間存在論B」(哲学科専門科目「人間学5 (人間存在論) B」) については、選抜試験で「人間存在論A」(哲学科専門科目「人間学5 (人間存在論) A」) の受講許可のある学生のみが登録・履修できることに注意してもらいたい

【受講上の注意】

・本授業は、定員 (30名) が決められている。初回の授業で、受講予定者が多い場合、選抜試験を実施し、合格者のみが受講登録できる。
・初回の試験を未受験の人は、受講できないので注意してほしい。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this course "Human Ontology A" [Specialized Course in the Department of Philosophy, "Anthropology 5 (Human Ontology) A"] we will discuss major philosophers, tracing historically what is called "modern thought" or "postmodern thought" (commonly called "poststructuralism" in the West).

Specifically, Western philosophical thought will be traced historically from the post-World War II period through the "political season" of the 1960s to the present in the 21st century.

【Course Objectives】

Primarily, we aim to rethink the philosophical thought of Foucault, Deleuze, and Derrida, the three leading figures of "contemporary French thought," and their significance from our contemporary perspective. We will examine how their philosophical thought has influenced contemporary philosophical thought, using "identity and difference" and "majority and minority" as keywords.

We will also look at philosophers and thinkers (Judith Butler, Slavoj Žižek, Catherine Malabou, etc.) who are trying to critically transcend their philosophies and examine our existence in the 21st century from a philosophical and ethical perspective.

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

人間学5 (人間存在論) B

森村 修

授業コード：A2343 | 曜日・時限：水4/Wed.4
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

【授業の概要】

本科目「人間存在論B」〔哲学科専門科目「人間学5 (人間存在論) B」は、春学期科目「人間存在論A」(哲学科専門科目「人間学5 (人間存在論) A」との連続性がある科目である。「人間存在論A」と同様に、いわゆる「現代思想」や「ポストモダン思想」(欧米では一般的に「ポスト構造主義」と呼ばれる) 哲学思想の流れを歴史的に辿りながら、主要な哲学について検討する。

第二次世界大戦後から、1960年代の「政治の季節」と呼ばれる時期を挟んで、21世紀の現在に至るまでの欧米中心の西洋の哲学思想を歴史的に辿りながら、重要な哲学的なテーマを中心に考察する。

おもに、フーコー・ドゥルーズ・デリダという「フランス現代思想」を代表する3人の哲学思想とその意義を、現代を生きる我々の視点から再考することを目的とする。その際に、彼らの哲学思想がどのように今日の哲学思想に影響をもたらしているかを、「同一性(アイデンティティ)と差異」、「マジョリティとマイノリティ」などをキー・ワードとして検討する。また、彼らの哲学を批判的に乗り越えていこうとする哲学者・思想家(ジュディス・バトラ、スラヴォイ・ジジック、カトリヌ・マラブーら)を視野に入れつつ、21世紀に生きる私たちの生存／実存(existence)を哲学的・倫理的に考察する。

【到達目標】

- ①現代思想(モダニズムからポストモダニズム、構造主義からポスト構造主義)の歴史的概略について考察できるようになる。
- ②現代思想が抱えている哲学的・倫理学的問題を哲学的に考えることができる。
- ③哲学テキストの読解力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

・基本的には、講義形式と演習形式の双方で行うことを考えている。ただし、哲学的なテーマについて、受講生との討議・議論を積極的に行なっていく。

・人数がそれほど多くない(30名定員)ことから、受講生それぞれに主要な哲学者の哲学テキストを抜粋して配布し、それを読んでもらい、テキストについての簡単な小レポート(あるいはレジュメ)を書いてもらう。授業では、各自のレポートを利用して議論することもある。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・選抜試験 ・受講上の注意点 ・授業の概要説明
2	転換点としての80年代①	第三章 ポストモダン社会か新自由主義社会か① 1. リオタールとポストモダン
3	転換点としての80年代②	第三章 ポストモダン社会か新自由主義社会か② 2. リオタールの哲学

4	転換点としての80年代③	第三章 ポストモダン社会か新自由主義社会か③ 3. ボードリヤールとシミュレーション
5	転換点としての80年代④	第三章 ポストモダン社会か新自由主義社会か④ 4. ボードリヤールの「象徴交換と死」
6	転換点としての80年代⑤	第三章 ポストモダン社会か新自由主義社会か⑤ 5. ドゥルーズ&ガタリの「アンチ・オイディプス」
7	転換点としての80年代⑥	第三章 ポストモダン社会か新自由主義社会か⑥ 6. ドゥルーズ&ガタリの「ミル・プラトー」①
8	転換点としての80年代⑦	第三章 ポストモダン社会か新自由主義社会か⑦ 3. フーコーの生権力論
9	変容する社会①	第四章 ジェンダー／フェミニズム思想① 1. ボーヴォワールとフェミニズム 2. イリガライの性的差異の倫理
10	変容する社会②	第四章 ジェンダー／フェミニズム思想② 3. シクスーとエクリチュール・フェミニン 4. クリステヴァと母性の思想
11	変容する社会③	第四章 ジェンダー／フェミニズム思想③ 5. マラブーと社会的トラウマ 6. プレシアドの自然的な性の批判
12	哲学の最前線？①	哲学研究の継承と刷新① 1. メイヤスーと思弁的实在論 2. グレアム・ハーマンのオブジェクト指向存在論
13	哲学の最前線？②	哲学研究の継承と刷新② 3. バディウと数学的存在論——60年代の回帰
14	哲学に最先端はあるのか？	まとめと総括

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

テキスト(教科書)としては使わないが、授業に際して主に参照する書籍

- ① 渡名喜庸哲『現代フランス哲学』ちくま新書1749、2023年
- ② 岡本裕一郎『フランス現代思想史——構造主義からデリダ以後へ』中公新書2300、2015年
- ③ 伊東直『戦後フランス思想——サルトル、カミュからバタイユまで』中公新書2799、2024年

【参考書】

- ① 船木亨『現代思想史入門』ちくま新書1183、2016年
- ② 船木亨『現代思想講義——人間の終焉と近未来社会のゆくえ』ちくま新書1334、2018年
- ③ 川口茂雄・越門勝彦・三宅岳史編『現代フランス哲学入門』ミネルヴァ書房、2020年
- ④ 鹿島徹・川口茂雄・佐藤慶太・渡辺和典編『ドイツ哲学入門』ミネルヴァ書房、2024年(これは、あくまで参考書)

【成績評価の方法と基準】

- (1) 平常点(リアクションペーパー／小テスト)(30%) (質問を3点以上用意する)
- (2) 期末レポート(70%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・秋学期科目「人間存在論A」（哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）A）」と内容的に連続しているので、両方を受講することが望ましい。

・また「受講上の注意」として、春学期科目「人間存在論A」（哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）A）」を受講・登録していない学生で、春学期最初の授業で選抜試験を受けておらず、授業担当者から受講許可がない場合は、当該科目「人間存在論B」（哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）B）」の受講登録・履修できないので、注意してもらいたい。

【受講上の注意】

・本授業は、定員（30名）が決められている。「人間存在論A」の初回の授業で、選抜試験を合格し、授業担当者から受講許可がある学生のみが受講登録できる。

・春学期「人間存在論A」の試験を未受験の人は、受講登録できないので注意してほしい。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this course "Human Ontology B" [Specialized Course in the Department of Philosophy, "Anthropology 5 (Human Ontology) B"] we will discuss major philosophers, tracing historically what is called "modern thought" or "postmodern thought" (commonly called "poststructuralism" in the West).

Specifically, Western philosophical thought will be traced historically from the post-World War II period through the "political season" of the 1960s to the present in the 21st century.

【Course Objectives】

Primarily, we aim to rethink the philosophical thought of Foucault, Deleuze, and Derrida, the three leading figures of "contemporary French thought," and their significance from our contemporary perspective. We will examine how their philosophical thought has influenced contemporary philosophical thought, using "identity and difference" and "majority and minority" as keywords.

We will also look at philosophers and thinkers (Judith Butler, Slavoj Žižek, Catherine Marabou, etc.) who are trying to critically transcend their philosophies and examine our existence in the 21st century from a philosophical and ethical perspective.

LIT100BC (文学 / Literature 100)

日本文学概論A

王安、中沢 けい、田中 和生、藤村 耕治、中丸 宣明、小林 ふみ子、阿部 真弓

昼間時間帯

授業コード：A2401 | 曜日・時限：土2/Sat.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～3（※2011以前入学者は1～4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の文学・言語・芸能の歴史や現状について、専門分野ごとに異なる視点で概説してゆきます。

★「日本文学概論A・B」は、日本文学科の“必修科目”です。土曜2限か水曜6限、いずれかを選択して受講してください。

【到達目標】

- ①文学・言語・芸能の歴史や現状について、基礎的な知識を身につける。
- ②各専門分野の研究方法を理解する。
- ③上記の知識を、他者に対してしっかり説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

日本文学科の専任教員がリレー（オムニバス）形式で授業を担当します。

★春学期は、6名の教員が担当します。

★各回、学習支援システムから、課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）を提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	王安「ガイダンス」
2	近現代文学	中沢けい「アジアの中の日本現代文学」
3	近現代文学	中沢けい「活版印刷からデジタル技術へ」
4	近現代文学	田中和生「近代評論——批評とはなにか」
5	近現代文学	田中和生「現代評論——現代文学の条件」
6	近現代文学	藤村耕治「作品論の実践」
7	近現代文学	藤村耕治「研究と批評」
8	近現代文学	中丸宣明「近代文学の形成（1）」
9	近現代文学	中丸宣明「近代文学の形成（2）」
10	近世文学	小林ふみ子 「近世文学の多様性（1）ーことば・文体ー」
11	近世文学	小林ふみ子 「近世文学の多様性（2）ー本文と挿絵ー」
12	中古文学	阿部真弓「日記文学の魅力」
13	中古文学	阿部真弓「本歌取り・物語取りの面白さ」
14	まとめ	王安「春学期のまとめ」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各教員の各回の授業を受講した後、定められた期限内に、学習支援システムから、課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）を提出してください。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

6名の教員が、それぞれ、毎回の授業で課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）の提出を求めます。定められた期限内に提出してください。

1. 課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）の提出状況（20%）
2. 課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）の出来（80%）

【学生の意見等からの気づき】

◎「色々な作品、様々な研究について学べた」、「今まで興味がなかったジャンルにまで視野を広げられた」などの感想を多くもらいました。12月にゼミを選ぶときの参考にもなるとと思います。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces the history of Japanese literature, performing arts, and language.**Learning Objectives:** The purposes of this course are (1) to understand the basic history of Japanese literature, performing arts, and language, (2) to understand the basic research methods of each area, and (3) to acquire the ability to explain what we have learned in this course to other people.**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: submission rate of short reports (20%); quality of the short reports submitted for each class (80%).

LIT100BC (文学 / Literature 100)

日本文学概論A

王安、中沢 けい、田中 和生、藤村 耕治、中丸 宣明、小林 ふみ子、阿部 真弓

夜間時間帯

授業コード：A2402 | 曜日・時限：水6/Wed.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～3（※2011以前入学者は1～4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の文学・言語・芸能の歴史や現状について、専門分野ごとに異なる視点で概説してゆきます。

★「日本文学概論A・B」は、日本文学科の“必修科目”です。土曜2限から水曜6限、いずれかを選択して受講してください。

【到達目標】

- ①文学・言語・芸能の歴史や現状について、基礎的な知識を身につける。
- ②各専門分野の研究方法を理解する。
- ③上記の知識を、他者に対してしっかり説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

日本文学科の専任教員がリレー（オムニバス）形式で授業を担当します。

★春学期は、6名の教員が担当します。

★各回、学習支援システムから、課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）を提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	王安「ガイダンス」
2	近現代文学	中沢けい「アジアの中の日本現代文学」
3	近現代文学	中沢けい「活版印刷からデジタル技術へ」
4	近現代文学	田中和生「近代評論——批評とはなにか」
5	近現代文学	田中和生「現代評論——現代文学の条件」
6	近現代文学	藤村耕治「作品論の実践」
7	近現代文学	藤村耕治「研究と批評」
8	近現代文学	中丸宣明「近代文学の形成（1）」
9	近現代文学	中丸宣明「近代文学の形成（2）」
10	近世文学	小林ふみ子 「近世文学の多様性（1）ーことば・文体ー」
11	近世文学	小林ふみ子 「近世文学の多様性（2）ー本文と挿絵ー」
12	中古文学	阿部真弓「日記文学の魅力」
13	中古文学	阿部真弓「本歌取り・物語取りの面白さ」
14	まとめ	王安「春学期のまとめ」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各教員の各回の授業を受講した後、定められた期限内に、学習支援システムから、課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）を提出してください。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

6名の教員が、それぞれ、毎回の授業で課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）の提出を求めます。定められた期限内に提出してください。

1. 課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）の提出状況（20%）
2. 課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）の出来（80%）

【学生の意見等からの気づき】

◎「色々な作品、様々な研究について学べた」、「今まで興味がなかったジャンルにまで視野を広げられた」などの感想を多くもらいました。12月にゼミを選ぶときの参考にもなるとと思います。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces the history of Japanese literature, performing arts, and language.

Learning Objectives: The purposes of this course are (1) to understand the basic history of Japanese literature, performing arts, and language, (2) to understand the basic research methods of each area, and (3) to acquire the ability to explain what we have learned in this course to other people.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: submission rate of short reports (20%); quality of the short reports submitted for each class (80%).

LIN100BC (言語学 / Linguistics 100)

日本文芸学概論B

王安・加藤 昌嘉・小秋元 段・遠藤 星希・スティー
ヴン ネルソン、森 陽香

昼間時間帯

授業コード：A2403 | 曜日・時限：土2/Sat.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～3 (※2011以前入学者
は1～4) 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本の文学・言語・芸能の歴史や現状について、専門分野ごとに異なる視点で概説してゆきます。

★「日本文芸学概論A・B」は、日本文学科の“必修科目”です。土曜2限か水曜6限、いずれかを選択して受講してください。

【到達目標】

- ①文学・言語・芸能の歴史や現状について、基礎的な知識を身につける。
- ②各専門分野の研究方法を理解する。
- ③上記の知識を、他者に対してしっかり説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

日本文学科の専任教員がリレー (オムニバス) 形式で授業を担当します。

★秋学期は、6名の教員が担当します。

★各回、学習支援システムから、課題 (もしくはリアクションペーパーに相当するもの) を提出してもらいます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	王安「ガイダンス」
2	中古文学	加藤昌嘉「『源氏物語』の謎 (1)」
3	中古文学	加藤昌嘉「『源氏物語』の謎 (2)」
4	中世文学	小秋元段「大学で学ぶ古典文学—『平家物語』—」
5	中世文学	小秋元段「古典文学の常識を疑う—『徒然草』—」
6	上代文学	森陽香「有名な万葉歌を味わう」
7	上代文学	森陽香「おもしろい万葉歌を味わう」
8	中国文学	遠藤星希「李白「静夜思」を読む」
9	中国文学	遠藤星希「白居易「長恨歌」を読む」
10	対照言語学	王安「外国語から日本語を考える (1)」
11	対照言語学	王安「外国語から日本語を考える (2)」
12	日本音楽史	S・ネルソン「古典音楽の種目と楽器」
13	日本音楽史	S・ネルソン「『越天楽』歌謡の系譜」
14	まとめ	王安「秋学期のまとめ」

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各教員の各回の授業を受講した後、定められた期限内に、学習支援システムから、課題 (もしくはリアクションペーパーに相当するもの) を提出してください。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

プリントを配布します。

【参考書】

随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

6名の教員が、それぞれ、毎回の授業で課題 (もしくはリアクションペーパーに相当するもの) の提出を求めます。定められた期限内に提出してください。

1. 課題 (もしくはリアクションペーパーに相当するもの) の提出状況 (20%)
2. 課題 (もしくはリアクションペーパーに相当するもの) の出来 (80%)

【学生の意見等からの気づき】

◎「色々な作品、様々な研究について学べた」、「今まで興味がなかったジャンルにまで視野を広げられた」などの感想を多くもらいました。12月にゼミを選ぶときの参考にもなると思います。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces the history of Japanese literature, performing arts, and language.**Learning Objectives:** The purposes of this course are (1) to understand the basic history of Japanese literature, performing arts, and language, (2) to understand the basic research methods of each area, and (3) to acquire the ability to explain what we have learned in this course to other people.**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: submission rate of short reports (20%); quality of the short reports submitted for each class (80%).

LIN100BC (言語学 / Linguistics 100)

日本文芸学概論B

王安・加藤 昌嘉・小秋元 段・遠藤 星希・スティーヴン ネルソン、森 陽香

夜間時間帯

授業コード：A2404 | 曜日・時限：水6/Wed.6

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～3（※2011以前入学者は1～4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の文学・言語・芸能の歴史や現状について、専門分野ごとに異なる視点で概説してゆきます。

★「日本文芸学概論A・B」は、日本文学科の“必修科目”です。土曜2限から水曜6限、いずれかを選択して受講してください。

【到達目標】

- ①文学・言語・芸能の歴史や現状について、基礎的な知識を身につける。
- ②各専門分野の研究方法を理解する。
- ③上記の知識を、他者に対してしっかり説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

日本文学科の専任教員がリレー（オムニバス）形式で授業を担当します。

★秋学期は、6名の教員が担当します。

★各回、学習支援システムから、課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）を提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	王安「ガイダンス」
2	中古文学	加藤昌嘉「『源氏物語』の謎（1）」
3	中古文学	加藤昌嘉「『源氏物語』の謎（2）」
4	中世文学	小秋元段「大学で学ぶ古典文学—『平家物語』—」
5	中世文学	小秋元段「古典文学の常識を疑う—『徒然草』—」
6	上代文学	森陽香「有名な万葉歌を味わう」
7	上代文学	森陽香「おもしろい万葉歌を味わう」
8	中国文学	遠藤星希「李白「静夜思」を読む」
9	中国文学	遠藤星希「白居易「長恨歌」を読む」
10	対照言語学	王安「外国語から日本語を考える（1）」
11	対照言語学	王安「外国語から日本語を考える（2）」
12	日本音楽史	S・ネルソン「古典音楽の種目と楽器」
13	日本音楽史	S・ネルソン「『越天楽』歌謡の系譜」
14	まとめ	王安「秋学期のまとめ」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各教員の各回の授業を受講した後、定められた期限内に、学習支援システムから、課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）を提出してください。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

6名の教員が、それぞれ、毎回の授業で課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）の提出を求めます。定められた期限内に提出してください。

1. 課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）の提出状況（20%）
2. 課題（もしくはリアクションペーパーに相当するもの）の出来（80%）

【学生の意見等からの気づき】

◎「色々な作品、様々な研究について学べた」、「今まで興味がなかったジャンルにまで視野を広げられた」などの感想を多くもらいました。12月にゼミを選ぶときの参考にもなると思います。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces the history of Japanese literature, performing arts, and language.

Learning Objectives: The purposes of this course are (1) to understand the basic history of Japanese literature, performing arts, and language, (2) to understand the basic research methods of each area, and (3) to acquire the ability to explain what we have learned in this course to other people.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: submission rate of short reports (20%); quality of the short reports submitted for each class (80%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸史 I A

森 陽香

昼間時間帯

授業コード：A2405 | 曜日・時限：水2/Wed.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

上代（奈良時代）～中古（平安時代）の文学史を学ぶ。上代（奈良時代）～中古（平安時代）に作られた、史書・歌集・日記・物語を読み、文学史を概観する。同時に、古典文学にアプローチするための、さまざまな研究方法を学ぶ。
【なお、「日本文学史 I A・B」は、日本文学科2～3年次、全コースの必修科目です。火曜6限（加藤&小林）クラスか、水曜2限（森&阿部）クラス、いずれかを選んで受講してください】

【到達目標】

（A）古典文学の成立・構造・表現・背景などを知る。（B）古典文学を研究するための着眼点や方法を知る。（C）古典文学を、歴史の流れの中、文化の枠組の中で捉える

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。リアクションペーパーや課題に対するフィードバックは授業中に適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概説	授業概説
第2回	文字の歴史	文字習得の歴史、いわゆる万葉仮名、そしてひらがな・カタカナの成立について基礎知識を確かめる。
第3回	『古事記』	文学史における『古事記』の意義を学ぶ。
第4回	『日本書紀』	文学史における『日本書紀』の意義を学ぶ。
第5回	『萬葉集』	文学史における『萬葉集』の意義を学ぶ。
第6回	『竹取物語』	文学史における『竹取物語』の意義を学ぶ。
第7回	『古今和歌集』	文学史における『古今和歌集』の意義を学ぶ。
第8回	『土佐日記』	文学史における『土佐日記』の意義を学ぶ。
第9回	『伊勢物語』	文学史における『伊勢物語』の意義を学ぶ。
第10回	『源氏物語』	文学史における『源氏物語』の意義を学ぶ。
第11回	『更級日記』	文学史における『更級日記』の意義を学ぶ。
第12回	『枕草子』	文学史における『枕草子』の意義を学ぶ。
第13回	『大鏡』	文学史における『大鏡』の意義を学ぶ。
第14回	春学期総括、レポート試験、まとめ。	春学期の学習理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回プリント資料を配布するので、購入必須のテキストは無し。

【参考書】

授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

レポート試験（60％）、各回のリアクションペーパーなど、授業への参加度（40％）により、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出には、学習支援システムを使用します。

【Outline (in English)】

Course Outline: This is a lecture course on the history of Japanese literature from the Nara period (710-794) to the Heian period (794-1185). Students will read histories, poetry anthologies, diaries, and stories of these periods, and learn various research methods for approaching classical literature.

Learning Objectives: The objectives of this course are: 1. to learn about the formation, structure, expression, and background of classical literature; 2. to learn about perspectives and methods for researching classical literature; and 3. to understand classical literature in its historical and cultural context.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are expected to read the listed textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Evaluation will be based on a report exam (60%) and participation in class (40%), including reaction papers for each session.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸史 I A

加藤 昌嘉

夜間時間帯

授業コード：A2406 | 曜日・時限：火6/Tue.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

◆上代・中古・中世（奈良～平安～鎌倉時代）に成った、歌集や日記や物語を読み、文学がいかに変幻自在に作られて来たかを俯瞰します。同時に、今も議論が続く、定説が更新されつつある、《研究上の論争点・未解決問題》を考察してゆきます。

※「日本文芸史 I A・B」は、日本文学科2年次以上、全コースの“必修科目”です。火曜6限（加藤&小林）クラスか、水曜2限（森&阿部）クラス、いずれかを選んで受講してください。

【到達目標】

◆以下の3点を目標とします。

- (A) 文学の作られ方、構成、表現などを学ぶ。
- (B) 文学を研究するための着眼点や方法を知る。
- (C) 文学を、歴史の流れの中で捉える目を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

◆プリントを配布し、講義形式で進めます。

◆受講者からの疑問やアイディアは、授業内で紹介し、フィードバック（フォローアップ）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	定説はアップデートされる
2	『竹取物語』	複数種類の竹取説話
3	『伊勢物語』	和歌から物語を作る
4	『古今和歌集』	巧みな配列
5	ブックデザイン	写本の形を見てみよう
6	『源氏物語』	映画のような場面構成
7	『蜻蛉日記』『更級日記』	夢を信じる？ 信じない？
8	『枕草子』	類聚章段、回想章段
9	『大鏡』『今鏡』	貴族たちの裏エピソード
10	『日本霊異記』	善の報い、悪の報い
11	『今昔物語集』	不思議な話、滑稽な話
12	ことば遊び	物名、折句、沓冠を作ってみよう
13	『百人秀歌』『百人一首』	藤原定家が編纂した？
14	『平家物語』	灌頂巻の建礼門院

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

◆授業内で取り上げられた本を、図書館や書店で手に取り、（部分的でもいいので）読んでみることを。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

▼以下の国語便覧を教科書とします。歴史や文化を知るためのビジュアルハンドブックです。高校で教わる内容が、最新の研究成果とどれくらい違うのか、この本で確認します。

◎足立直子ほか監修『プレミアムカラー国語便覧 改訂版』（数研出版）

【参考書】

▼以下のシリーズには、授業で取り上げる作品の、原文+現代語訳+注釈が収められています。レポートを書く際に使ってください。

◎角川ソフィア文庫（KADOKAWA）

◎講談社学術文庫（講談社）

◎ちくま学芸文庫（筑摩書房）

◎岩波文庫【黄帯】（岩波書店）

◎笠間文庫（笠間書院）

◎新編日本古典文学全集（小学館）

◎新潮日本古典集成（新潮社）

◎新日本古典文学大系（岩波書店）

▼以下のシリーズには、小説家や詩人による、古典文学の現代語訳が収められています。

◎古典新訳コレクション（河出文庫）

▼以下のデータベースで、新編日本古典文学全集（小学館）全巻を読むことができます。

◎法政大学図書館ホームページ「オンラインデータベース」→自宅の場合はVPN接続→ログイン→「ジャパンナレッジLib」を選び、ログイン→「本棚」の中の「新編日本古典文学全集」

【成績評価の方法と基準】

◆期末レポート（72%）、各回のリアクションペーパー（28%）。

※期末レポートは、複数の課題の中から1つを選択し、2000字～3000字程度の小論文を書くものです。

※毎回、リアクションペーパーに、疑問・アイディア・創作文などを書いて、提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

◆文学コースの受講者だけでなく、言語コースや文芸コースの受講者にも、有益な考え方や調べ方を紹介します。

◆日本の古典だけでなく、現代の文学や海外の文学も取り挙げます。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course provides an overview of the varieties of literature by reading poetry anthologies, diaries, and stories produced during the Nara (8th century), Heian (8th-12th centuries), and Kamakura (12th-14th centuries) periods. At the same time, we will examine "unresolved issues in the history of research" that are still being debated and the theories that are still being updated.

Learning Objectives: The goals of the course are the following three points:

- To understand the formation, composition, expression, etc. of classical literature.
- To understand the viewpoints and methods for studying classical literature.
- To learn to view classical literature in the context of historical trends.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to read the books introduced in class. Preparation and review time will be 2 hours for each class.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on a final report (72%), and reaction papers for each session (28%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸史 I B

阿部 真弓

昼間時間帯

授業コード：A2407 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世（院政期～戦国時代）～近世（桃山時代～江戸時代）の文学史を考察します。

時代の流れにゆるやかに即して、中世・近世に展開した、芸能も含むさまざまなジャンルの特徴、その主要な作品について歴史的背景などもふくめて解説しつつ、主要な作品のさわりを読解してゆきます。

【到達目標】

- (A) 古典文学の各ジャンルの成立・特徴・表現などを知る。
- (B) 古典文学を、歴史の流れの中、文化の枠組の中で捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義形式で行います。授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要の説明
第2回	中世 1	和歌・連歌
第3回	中世 2	説話
第4回	中世 3	日記文学・紀行文学
第5回	中世 4	随筆
第6回	中世 5	軍記物語
第7回	中世 6	中世王朝物語・お伽草子
第8回	近世 1	漢詩
第9回	近世 2	和歌・狂歌
第10回	近世 3	俳諧
第11回	近世 4	仮名草子
第12回	近世 5	浮世草子
第13回	近世 6	近世中期の小説
第14回	近世 7	近世後期的小説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容を覚えているうちに復習して課題に取り組み、次の授業およびレポート執筆に備えましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回、資料を配付します。

【参考書】

作品・ジャンルごとに、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（35%）、学期末レポート（35%）、平常点（30%）によって評価します。レポートは【授業の到達目標】(A)(B)に照らして採点します。また平常点については、毎回、学習支援システムに提出された課題によって授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

中世・近世は時間数に対して、ジャンルの展開や作品数が多様なので、煩雑になりすぎないように内容を厳選して構成し、理解を確認しながら進めるようにします。

文芸コースや言語コースの人にも必修となっているのは、日本語の歴史、表現の多様な手法を知ることは不可欠だからです。前向きに履修しましょう。

受講生からの質問をできるだけ取り上げ、疑問点を解消できるよう努めます。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the history of Japanese literature from medieval (late12th-16th c.) to early modern (17th-early 19th c.) times.

Learning Objectives: The goals of this course are to understand Japanese classical literary works in their historical and cultural context.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: Mid-term report (35%); Term-end report: (35%); Short reports (30%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸史 I B

小林 ふみ子

夜間時間帯

授業コード：A2408 | 曜日・時限：火6/Tue.6

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【テーマ】中世後半～近世（鎌倉時代末～江戸時代）の文学史時代の流れにゆるやかに即して、中世・近世に展開した、韻文・散文、さらに芸能も含むさまざまなジャンルの特徴について歴史的背景などもふくめて解説しつつ、主要な作品のさわりを読解し、その文体にも触れます。有名作品を紹介していくだけでなく、近代文学が生まれてくるまで約500年間にわたる文学のダイナミズムを学びましょう。

【到達目標】

- (A) 中世・近世文学の各ジャンルの成立・特徴・表現などを知る。
(B) 中世・近世文学を、歴史の流れの中、文化の枠組の中で捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と資料（デジタル）に触れてもらう時間、皆さん自身に作品を読解してもらう時間を交互に交えながら展開します。わかったこと、考えたことをリアクションペーパーや授業支援システムに書き込んでもらい、フィードバックしながらできるだけ双方向を確保できるように努めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	『徒然草』が拓く世界 -中世1	鎌倉時代の末の成立ののち実は江戸時代になって広く読まれるようになった『徒然草』の影響力を探ります。
第2回	武者たちの物語の展開 -中世2	室町時代の軍記物語『太平記』に触れ、その英雄たちがその後の文芸や芸能のなかで活躍するさまを見てみましょう。
第3回	昔話の由来 -中世3	「御伽草子」として知られる一群の作品について学び、昔話とのつながりを確認します。
第4回	漢詩と和歌（1） -中世から近世へ1	日本文学史を貫く重要ジャンルである漢詩と和歌が中世～近世前半にどのように展開したのかを学びます。
第5回	連歌と俳諧 -中世から近世へ2	かの一体も登場！ 和歌の席の遊戯として始まった連歌と、そこから派生した俳諧が近世文芸の重要ジャンルとして確立するまでを学びます。
第6回	近世小説のはじまり - 近世1 中間試験	太平の世を迎えて出版を通じて文学が流通し始める時代、どんな文学が生み出されたのか、その多様な展開に触れます。 最後30分でここまでの試験を実施します。
第7回	「浮世」の楽しみ - 近世2	17世紀の末、大坂に西鶴が登場します。前代とは異なる画期性はどこにあるのか、その次世代の作者たちがどんな工夫で先人を乗り越えようとしたのかを見ていきます。
第8回	劇場の愉楽 - 近世3	江戸時代らしい演劇として歌舞伎と人形浄瑠璃が発展します。双方を紹介しつつ、とりわけ人形浄瑠璃がどんな芸能なのかを理解します。
第9回	俳諧のその後、そして川柳 - 近世4	芭蕉による俳諧の文芸性確立から以後の全国展開、そこから派生した雑俳・川柳が派生するさまを学びます。
第10回	詩心のゆくえ：漢詩と和歌（2） - 近世5	江戸時代中期以後、漢詩や和歌も、近世らしい素材を扱う時代がやってきます。
第11回	世にも奇妙な物語：近世編 - 近世6	文芸思潮の展開と共に学びましょう。浮世草子の時代から移りかわり『雨月物語』をはじめとする前期読本が生まれてくるさまをみてみましょう。

第12回	古典と戯れ、知で笑う：江戸の知識人文芸 - 近世7	18世紀なかば以降、知的なしかけに富んだ笑いの文芸が江戸で流行します。黄表紙・洒落本・狂歌など、さまざまなジャンルに触れていきましょう。
第13回	事件、冒険、恋、笑い：江戸庶民の世界 - 近世8	読者層が拡大した19世紀、大衆に歓迎されるさまざまなジャンルが展開します。今日のエンタメにもつながるその諸相を学びましょう。
第14回	落語はどのようにしてできたのか - 近世9 期末試験	江戸時代に入って以来、上方でも江戸でも作られてきた笑話集から落語ができるまでを概観します。 最後30分で期末試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習30分程度、復習時間3時間程度を標準とします。中間・期末試験への取り組みで一コマあたり4時間になります。

【テキスト（教科書）】

各回、学習支援システムを通じて資料を配付します。

【参考書】

長島弘明編『〈奇〉と〈妙〉の江戸文学事典』（文学通信 2019）その他、作品・ジャンルごとに、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパー40%（採点対象）、中間・期末試験（各30%、試験問題2問のうち1問は予告）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

なにより、楽しかった、興味が持てたといってもらえるように、各ジャンルのエッセンスをお伝えします。
中世・近世は時間数に対して、ジャンルの展開や作品数が多様なので、煩雑になりすぎないように内容を厳選して構成します。
単なる知識の習得に終わらないよう、現物やデジタル資料ももちいて、文学＝書物のリアリティを体感できるように工夫します。
文芸コースや言語コースの人にも必修となっているのは、日本語の歴史、表現の多様な手法を知ることには創作においても言語分析においても不可欠だからです。前向きに履修しましょう！

【その他の重要事項】

（通学の学生のみみなさんへ）担当教員の専門が近世であることから、中世についてはのちの時代につながる、影響の大きいジャンルや作品を中心に扱います。中世を重点的に学びたい人は、水曜2限の日本文芸史IBを選択することをオススメします。
とはいえ、高校までの教科書では接点が限られていた近世文学の豊かな世界、きっと楽しめるはずですよ！

【Outline (in English)】

Course Outline: Learning the history of Japanese literature from the medieval (late 12th to 16th c.) to early modern (17th to early 19th c.) times in various genres.

Learning Objectives: The goal of this course is to learn about each genre of the literature of the time, understanding them in the flow of their history.

Learning Activities Outside of the Classroom: Preparation for 30 minutes, review for 2 hours for each class. It will be about 4 hours including the time for writing 4 short reports/semester.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (40%), short reports (60%).

LIN100BC (言語学 / Linguistics 100)

日本語学概論A

間宮 厚司

昼間時間帯

授業コード：A2409 | 曜日・時限：水2/Wed.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～3（※2011以前入学者は1～4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語に関する知識を幅広く修得し、応用のきく考える力を多方面から養います。沖縄最古の歌謡集『おもろさうし』の言語を大和古語と比較することで、問題の立て方、資料の集め方、論の組み立て方、書き方についても学びます。その他、日本語の興味深い点について、いろいろと紹介します。

【到達目標】

この授業は、1年生から履修できる日文の必修科目ということで、日本語を様々な角度からよく観察し、客観的に分析する方法を学ぶことによって、日本語学への理解を深め、その魅力を知ることを到達目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はプリントとテキストを併用して進めます。前半は、プリントで具体例を示しながら、身近な日本語の意外に知られていない面を受講生と共に考えます。後半は、テキストを用いて、沖縄方言の古い姿を大和古語と比較することで、語源・文法・表記について丁寧に解説します。講義形式の授業ですが、リアクションペーパーに書かれた「質問・コメント・感想等」を次の授業で紹介したり、個別に答えたりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・テキスト・成績評価等についての説明
第2回	沖縄古語の語源（1）	グスク（城）の語源
第3回	沖縄古語の語源（2）	テダ（太陽）の語源
第4回	沖縄古語の語源（3）	オモロ（神歌）の語源
第5回	沖縄古語の語源（4）	アデ（按司）の語源
第6回	沖縄古語の語源（5）	ミルヤ・カナヤ（神観念語）の語源
第7回	沖縄古語の語源（6）	アマミヤ・シネリヤ（神観念語）の語源
第8回	沖縄古語の語源（7）	オボツ・カグラ（神観念語）の語源
第9回	沖縄古語の語源（8）	チャウ（門）とウリズン（季節語）の語源
第10回	沖縄古語の文法（1）	係り結びの種類と用法
第11回	沖縄古語の文法（2）	形容詞の種類と用法 自称名詞ア・ワ（我）
第12回	沖縄古語の表記（1）	助詞ガの表記 助詞テの表記と語釈
第13回	沖縄古語の表記（2）	類推表記をめぐって 助詞ハの表記・発音
第14回	まとめ	定期試験の説明と注意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読んで、授業に臨んで下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

間宮厚司『沖縄古語の深層 [増補版]』（森話社、2014年、1900円＋税）

【参考書】

山口佳紀編『暮らしのことば 新語源辞典』（講談社、2008年、4500円）
山口伸美編『暮らしのことば 擬音・擬態語辞典』（講談社、2003年、3800円）

【成績評価の方法と基準】

平常点（1）アクションペーパーによる授業の理解度及び質問・コメント・感想等の内容）と定期試験の点数を各50％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度サバティカルのため無し。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this lecture, we will use the textbook shown in the list. The lectures introduce issues of Japanese language.

Learning Objectives: This class is a compulsory subject for the Department of Japanese Literature and it can be taken from freshman level. Students observe Japanese from different perspectives and analyze it objectively, so that they can deepen their understanding of Japanese linguistics and get to know its appeal.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class, students need to read the textbook. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: usual performance score (based on reaction paper comments, opinions, and questions at each class meeting, 50%); regular exam (50%).

LIN100BC (言語学 / Linguistics 100)

日本語学概論A

古牧 久典

夜間時間帯

授業コード：A2410 | 曜日・時限：火6/Tue.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～3（※2011以前入学者は1～4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、ことばについての考え方を学ぶ。特に、言語の持つ柔軟性・流動性という側面を中心に概観する。

【到達目標】

- ・ことばの性質に迫るための考察技法を理解する。
- ・多角的な視点からことばを観察することができる。
- ・日本語を相対化し、ことばの本質を捉える姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は配布資料によるスライドを使用し、講義形式で行い、リアクションペーパーで内容についてのコメント・意見を求めるという形式で進む。考える必要のあるコメント・意見を集約し、一部を次の授業内で紹介することにより、理解を深め、検討や議論を行う。毎回テーマごとに関連する現象について、事例を収集・整理する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	「日本語学概論」の概要
第2回	ことばの常識を疑う	言語についての常識
第3回	「言語」とは？	言語・ことばの本質
第4回	従来の言語学とは？	比較・歴史言語学
第5回	言語の科学とは？	共時・汎時言語学
第6回	ことばが異なれば思考も違うのか？	人類言語学
第7回	心とことばの関係は？	心理言語学
第8回	ことばはどう習得される（する）のか？	言語習得論
第9回	社会とことばの関係は？	社会言語学
第10回	「方言」とは？	地域方言学
第11回	ことばの世代差とは？	年齢差の社会方言学
第12回	ことばのジェンダーとは？	ジェンダーの社会方言学
第13回	対人関係を築くことば遣いとは？	ボライトネス理論
第14回	まとめ	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は事前の予備知識は必要としないが、ことばに日頃から興味を持つ姿勢を身につける。授業で扱った現象の事例を収集、検討してみる。毎回簡単な課題が出るので、その課題に取り組む。疑問が生じた場合には、（質問も歓迎するが）図書館等を積極的に活用し、調べる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

加藤 重広 著 『ことばの科学（学びのエクササイズ）』（ひつじ書房）
斎藤 純男・田口 善久・西村 義樹 編 『明解言語学辞典』（三省堂）
その他、講義内で適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー・課題（70%）、期末レポート（30%）
（ただし、期末レポートが未提出の場合には、合格評価とはならない。）

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近な例を使ってわかりやすい説明を心がけます。

【その他の重要事項】

質問がある場合には、授業終了後に受け付ける。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is a general introduction to linguistics, the study of human language. The aim of this class is to help students learn the methodology of linguistics and related fields, such as the areas of approaches to language as a sign system (general linguistics), the study of the historical relationships of languages (comparative linguistics), anthropology of language (ethnolinguistics), psychology of language (psycholinguistics), and sociology of language (sociolinguistics).

Learning Objectives: The goals of this course are to introduce students to different perspectives on language issues.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: short reports (70%); term-end report (30%). (You will not pass this course without submitting your final report.)

LIN100BC（言語学 / Linguistics 100）

日本語学概論B

間宮 厚司

昼間時間帯

授業コード：A2411 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～3（※2011以前入学者は1～4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『万葉集』の名歌・類歌・難訓歌を取り上げ、言語学的に読み解く方法について考えます。万葉歌の訓読の再検討と類歌の比較を行うことにより、上代日本語の表記・文法・表現について理解を深めます。

【到達目標】

千年以上も前に、漢字だけで書かれた万葉歌を言語学的に読み解くプロセスを通して、上代日本語の歌ことばについて学びます。テキストを読み進め、解説することで、問題点の発見・資料の集め方・論証の仕方・論の展開・結論の導き方についても学び、応用のきく、考える力を多方面から身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で、テキストとプリントを併用して、丁寧に解説します。講義形式の授業ですが、リアクションペーパーに書かれた「質問・コメント・感想等」を次の授業で紹介したり、質問に対しては個別に答えたりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・テキスト・成績評価等についての説明
第2回	『万葉集』の基礎知識	テキストの5頁～22頁を解説
第3回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較	テキストの第1話
第4回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較	テキストの第2話と第2話補遺
第5回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較	テキストの第3話導入と第3話
第6回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較	テキストの第4話と第5話
第7回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較	テキストの第6話と第7話
第8回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較	テキストの第8話と第9話
第9回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較	テキストの第10話と第11話
第10回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較	テキストの第12話と第13話
第11回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較	テキストの第14話と第15話
第12回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較	テキストの第16話と第17話
第13回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較	テキストの第18話と第19話
第14回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較	テキストの第20話と第21話 大レポートの注意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読んで、授業に臨んで下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

間宮厚司『万葉異説【増補版】』（森話社、2021年、2000円＋税）

【参考書】

参考書はテキストの158頁に一覧してありますが、授業の進行にそって、そのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎時間提出する「課題（感想等）」(50%)と学期末の大レポート(50%)の内容を勘案して、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度は別教員が担当したため無し。

【Outline (in English)】

Course Outline: This lecture introduces the method for reading the poems of Man'yōshū. We use the textbook cited in the Japanese syllabus. Learning Objectives: Through the process of reading man'yōshū, which were written in kanji (Chinese characters) over a thousand years ago, students learn the uta-kotoba (words for man'yōshū) of Old Japanese. By reading the textbook and listening to the instructor's commentary, students learn how to discover problems, collect materials, set out arguments, and draw conclusions. Students acquire the ability to think flexibly from different perspectives.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class, students need to read the textbook. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: assignment (comments, thoughts, etc.) at each class meeting (50%), term-end report (50%).

LIN100BC (言語学 / Linguistics 100)

日本語学概論B

古牧 久典

夜間時間帯

授業コード：A2412 | 曜日・時限：火6/Tue.6

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～3（※2011以前入学者は1～4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、ことばについての考え方を学ぶ。特に、言語の持つ安定性・規則性という側面を中心に概観する。

【到達目標】

- ・言語学の基礎知識を習得する。
- ・ことばについて多角的な視点で考えることができる。
- ・ことばの性質に迫るための考察技法を運用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は配布資料によるスライドを使用し、講義形式で行い、リアクションペーパーで内容についてのコメント・意見を求めるという形式で進む。考える必要のあるコメント・意見を集約し、一部を次の授業内で紹介することにより、理解を深め、検討や議論を行う。毎回テーマごとに講義内で扱われた用語について、定義やその具体例を考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要と目的、授業の方法について
第2回	「ことば」を考えると は？	ことばの学問
第3回	ことばの様々な側面と は？	言語学の射程
第4回	言語学の隣接領域とは？	学際分野としての言語学
第5回	コミュニケーションと は？	語用論・コミュニケーション論
第6回	ことばの意味とは？	意味論
第7回	ことばの比喩とは？	レトリック論
第8回	文法とは？	文法論
第9回	文の構造とは？	統語論
第10回	単語とは？	形態論
第11回	言語学には何種類ある のか？	音声学
第12回	同じ発音とは？ 違う発 音とは？	音韻論
第13回	ことばの相同性をどう 考えるか？	言語類型論
第14回	まとめ	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で登場する用語・概念について、正確な定義と的確な具体例を提示できるかを確認するための課題が毎回出る。その課題に取り組む中で、疑問が生じた場合には、（質問も歓迎するが）図書館等を積極的に活用し、調べる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

黒田 龍之介 著 『はじめての言語学』（講談社現代新書）
斎藤 純男 著 『言語学入門』（三省堂）
斎藤 純男・田口 善久・西村 義樹 編 『明解言語学辞典』（三省堂）
その他、講義内で適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー・課題（70％）、期末レポート（30％）
（ただし、期末レポートが未提出の場合には、合格評価とはならない。）

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近な例を使ってわかりやすい説明を心がけます。

【その他の重要事項】

同科目Aを履修済みであることが望ましい。（必須ではない。）

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is a general introduction to linguistics, the study of human language. This class provides an introduction to linguistic subfields analyzing sound pronunciation systems (phonetics and phonology), word and sentence structure (morphology and syntax, or grammar), and systems of meaning (semantics and pragmatics).

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand linguistic data by using the methodology of modern linguistics.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short reports (70%); Term-end report (30%). (You will not pass this course without submitting your final report.)

BSP100BC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

大学での国語力

小林 ふみ子

授業コード：A2413 | 曜日・時限：月3/Mon.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～3（※2011以前入学者は1～4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学では、“自ら課題を発見し、調査・分析を行い、説得力のある結論を導き出す力”が必要とされます。その基礎を養うために、この授業では、講義を的確に聴取し、論文を正確に読解し、意見を明快に表現することのできる「国語力」を鍛錬してゆきます。

★日本文学科の“必修科目”です。1年生は必ず受講してください。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載予定の《日本文学科「大学での国語力」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

【到達目標】

1. 論理的な文章を正確に読解することができる
2. 必要な文献を探索し参考に行うことができる
3. 自らの見解を論理的に表現することができる
4. ねつ造、改ざん、盗用などの研究活動上の不適切な行為について理解する

学生が以上のような力を身につけたうえで、「2000字程度のレポートを書く」ことが出来るようになることを最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文章を読む、文章を書く、文献を捜す、口頭発表をするといった実践的な課題に取り組み、最終的に、2000字程度のレポートを完成させます。

★受講者のレポートなどに対するフォローアップ（フィードバック）は、授業内および学習支援システム内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス①	自己紹介
2	ガイダンス②	図書館の使い方
3	導入編①	ノートの取り方
4	導入編②	文章を読む（見出しを付ける）
5	導入編③	文章を読む（要約）
6	導入編④	文章を読む（疑問点を挙げる）
7	基礎編①	レポートの書き方
8	基礎編②	資料の探し方
9	基礎編③	引用の仕方（盗用・ねつ造・改ざんなどの研究倫理についても触れる）
10	基礎編④	文章を書く（根拠を挙げる）
11	発展編①	「問い」と「答え」の設定
12	発展編②	章立て（目次）を検討する
13	発展編③	レポート完成／相互採点
14	発展編④	レポートを修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の課題に取り組むこと。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版（下記のサイトからダウンロードできます）

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

【成績評価の方法と基準】

1. 授業への積極的な参加（課題提出も含む）：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。

2. 最終レポートの出来：40% ※課題の未提出がある場合には、単位を修得できないことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「具体例や根拠を挙げて文章を書くことの大切さが良くわかった」、「形式・構成・表現など、レポートの基本事項を身につけることが出来た」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員で毎年ミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces critical reading, logical writing, and the methods of academic research.

Learning Objectives: The objectives of this course are (1) to acquire the ability to read texts correctly, (2) to acquire the ability to search for books and papers, (3) to acquire the ability to put into words correctly and logically what we think, and (4) to understand inappropriate behavior in research activities, such as falsification, alteration, and plagiarism.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: assignments and learning attitude in class(60%), term-end report (40%).

BSP100BC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

大学での国語力

遠藤 星希

授業コード：A2414 | 曜日・時限：月3/Mon.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～3（※2011以前入学者は1～4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学では、“自ら課題を発見し、調査・分析を行い、説得力のある結論を導き出す力”が必要とされます。その基礎を養うために、この授業では、講義を的確に聴取し、論文を正確に読解し、意見を明快に表現することのできる「国語力」を鍛錬してゆきます。

★日本文学科の“必修科目”です。1年生は必ず受講してください。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載予定の《日本文学科「大学での国語力」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

【到達目標】

1. 論理的な文章を正確に読解することができる
2. 必要な文献を探索し参考にすることができる
3. 自らの見解を論理的に表現することができる
4. ねつ造、改ざん、盗用などの研究活動上の不適切な行為について理解する
学生が以上のような力を身につけたうえで、「2000字程度のレポートを書く」ことが出来るようになることを最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文章を読む、文章を書く、文献を捜す、口頭発表をするといった実践的な課題に取り組み、最終的に、2000字程度のレポートを完成させます。

★受講者のレポートなどに対するフォローアップ（フィードバック）は、授業内および学習支援システム内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス①	自己紹介
2	ガイダンス②	図書館の使い方
3	導入編①	ノートの取り方
4	導入編②	文章を読む（見出しを付ける）
5	導入編③	文章を読む（要約）
6	導入編④	文章を読む（疑問点を挙げる）
7	基礎編①	レポートの書き方
8	基礎編②	資料の探し方
9	基礎編③	引用の仕方（盗用・ねつ造・改ざんなどの研究倫理についても触れる）
10	基礎編④	文章を書く（根拠を挙げる）
11	発展編①	「問い」と「答え」の設定
12	発展編②	章立て（目次）を検討する
13	発展編③	レポート完成／相互採点
14	発展編④	レポートを修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の課題に取り組むこと。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版（下記のサイトからダウンロードできます）

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

【成績評価の方法と基準】

1. 授業への積極的な参加（課題提出も含む）：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。
2. 最終レポートの出来：40% ※課題の未提出がある場合には、単位を修得できないことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「具体例や根拠を挙げて文章を書くことの大切さが良くわかった」、「形式・構成・表現など、レポートの基本事項を身につけることが出来た」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員で毎年ミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces critical reading, logical writing, and the methods of academic research.

Learning Objectives: The objectives of this course are (1) to acquire the ability to read texts correctly, (2) to acquire the ability to search for books and papers, (3) to acquire the ability to put into words correctly and logically what we think, and (4) to understand inappropriate behavior in research activities, such as falsification, alteration, and plagiarism.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: assignments and learning attitude in class(60%), term-end report (40%).

BSP100BC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

大学での国語力

森 陽香

授業コード：A2415 | 曜日・時限：月3/Mon.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～3（※2011以前入学者は1～4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学では、“自ら課題を発見し、調査・分析を行い、説得力のある結論を導き出す力”が必要とされます。その基礎を養うために、この授業では、講義を的確に聴取し、論文を正確に読解し、意見を明快に表現することのできる「国語力」を鍛錬してゆきます。

★日本文学科の“必修科目”です。1年生は必ず受講してください。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載予定の《日本文学科「大学での国語力」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

【到達目標】

1. 論理的な文章を正確に読解することができる
2. 必要な文献を探索し参考にすることができる
3. 自らの見解を論理的に表現することができる
4. ねつ造、改ざん、盗用などの研究活動上の不適切な行為について理解する

学生が以上のような力を身につけたうえで、「2000字程度のレポートを書く」ことが出来るようになることを最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文章を読む、文章を書く、文献を捜す、口頭発表をするといった実践的な課題に取り組み、最終的に、2000字程度のレポートを完成させます。

★受講者のレポートなどに対するフォローアップ（フィードバック）は、授業内および学習支援システム内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス①	自己紹介
2	ガイダンス②	図書館の使い方
3	導入編①	ノートの取り方
4	導入編②	文章を読む（見出しを付ける）
5	導入編③	文章を読む（要約）
6	導入編④	文章を読む（疑問点を挙げる）
7	基礎編①	レポートの書き方
8	基礎編②	資料の探し方
9	基礎編③	引用の仕方（盗用・ねつ造・改ざんなどの研究倫理についても触れる）
10	基礎編④	文章を書く（根拠を挙げる）
11	発展編①	「問い」と「答え」の設定
12	発展編②	章立て（目次）を検討する
13	発展編③	レポート完成／相互採点
14	発展編④	レポートを修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の課題に取り組むこと。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版（下記のサイトからダウンロードできます）

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

【成績評価の方法と基準】

1. 授業への積極的な参加（課題提出も含む）：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。

2. 最終レポートの出来：40% ※課題の未提出がある場合には、単位を修得できないことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「具体例や根拠を挙げて文章を書くことの大切さが良くわかった」、「形式・構成・表現など、レポートの基本事項を身につけることが出来た」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員で毎年ミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces critical reading, logical writing, and the methods of academic research.

Learning Objectives: The objectives of this course are (1) to acquire the ability to read texts correctly, (2) to acquire the ability to search for books and papers, (3) to acquire the ability to put into words correctly and logically what we think, and (4) to understand inappropriate behavior in research activities, such as falsification, alteration, and plagiarism.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: assignments and learning attitude in class(60%), term-end report (40%).

BSP100BC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

大学での国語力

中丸 宣明

授業コード：A2416 | 曜日・時限：月3/Mon.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～3（※2011以前入学者は1～4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学では、“自ら課題を発見し、調査・分析を行い、説得力のある結論を導き出す力”が必要とされます。その基礎を養うために、この授業では、講義を的確に聴取し、論文を正確に読解し、意見を明快に表現することのできる「国語力」を鍛錬してゆきます。

★日本文学科の“必修科目”です。1年生は必ず受講してください。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載予定の《日本文学科「大学での国語力」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

【到達目標】

1. 論理的な文章を正確に読解することができる
2. 必要な文献を探索し参考にすることができる
3. 自らの見解を論理的に表現することができる
4. ねつ造、改ざん、盗用などの研究活動上の不適切な行為について理解する
学生が以上のような力を身につけたうえで、「2000字程度のレポートを書く」ことが出来るようになることを最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文章を読む、文章を書く、文献を捜す、口頭発表をするといった実践的な課題に取り組み、最終的に、2000字程度のレポートを完成させます。

★受講者のレポートなどに対するフォローアップ（フィードバック）は、授業内および学習支援システム内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス①	自己紹介
2	ガイダンス②	図書館の使い方
3	導入編①	ノートの取り方
4	導入編②	文章を読む（見出しを付ける）
5	導入編③	文章を読む（要約）
6	導入編④	文章を読む（疑問点を挙げる）
7	基礎編①	レポートの書き方
8	基礎編②	資料の探し方
9	基礎編③	引用の仕方（盗用・ねつ造・改ざんなどの研究倫理についても触れる）
10	基礎編④	文章を書く（根拠を挙げる）
11	発展編①	「問い」と「答え」の設定
12	発展編②	章立て（目次）を検討する
13	発展編③	レポート完成／相互採点
14	発展編④	レポートを修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の課題に取り組むこと。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版（下記のサイトからダウンロードできます）

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

【成績評価の方法と基準】

1. 授業への積極的な参加（課題提出も含む）：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。
2. 最終レポートの出来：40% ※課題の未提出がある場合には、単位を修得できないことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「具体例や根拠を挙げて文章を書くことの大切さが良くわかった」、「形式・構成・表現など、レポートの基本事項を身につけることが出来た」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員で毎年ミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces critical reading, logical writing, and the methods of academic research.

Learning Objectives: The objectives of this course are (1) to acquire the ability to read texts correctly, (2) to acquire the ability to search for books and papers, (3) to acquire the ability to put into words correctly and logically what we think, and (4) to understand inappropriate behavior in research activities, such as falsification, alteration, and plagiarism.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: assignments and learning attitude in class(60%), term-end report (40%).

BSP100BC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

大学での国語力

藤村 耕治

授業コード：A2417 | 曜日・時限：月3/Mon.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～3（※2011以前入学者は1～4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学では、“自ら課題を発見し、調査・分析を行い、説得力のある結論を導き出す力”が必要とされます。その基礎を養うために、この授業では、講義を的確に聴取し、論文を正確に読解し、意見を明快に表現することのできる「国語力」を鍛錬してゆきます。

★日本文学科の“必修科目”です。1年生は必ず受講してください。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載予定の《日本文学科「大学での国語力」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

【到達目標】

1. 論理的な文章を正確に読解することができる
2. 必要な文献を探索し参考にすることができる
3. 自らの見解を論理的に表現することができる
4. ねつ造、改ざん、盗用などの研究活動上の不適切な行為について理解する
学生が以上のような力を身につけたうえで、「2000字程度のレポートを書く」ことが出来るようになることを最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文章を読む、文章を書く、文献を捜す、口頭発表をするといった実践的な課題に取り組み、最終的に、2000字程度のレポートを完成させます。

★受講者のレポートなどに対するフォローアップ（フィードバック）は、授業内および学習支援システム内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス①	自己紹介
2	ガイダンス②	図書館の使い方
3	導入編①	ノートの取り方
4	導入編②	文章を読む（見出しを付ける）
5	導入編③	文章を読む（要約）
6	導入編④	文章を読む（疑問点を挙げる）
7	基礎編①	レポートの書き方
8	基礎編②	資料の探し方
9	基礎編③	引用の仕方（盗用・ねつ造・改ざんなどの研究倫理についても触れる）
10	基礎編④	文章を書く（根拠を挙げる）
11	発展編①	「問い」と「答え」の設定
12	発展編②	章立て（目次）を検討する
13	発展編③	レポート完成／相互採点
14	発展編④	レポートを修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の課題に取り組むこと。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版（下記のサイトからダウンロードできます）

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

【成績評価の方法と基準】

1. 授業への積極的な参加（課題提出も含む）：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。
2. 最終レポートの出来：40% ※課題の未提出がある場合には、単位を修得できないことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「具体例や根拠を挙げて文章を書くことの大切さが良くわかった」、「形式・構成・表現など、レポートの基本事項を身につけることが出来た」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員で毎年ミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces critical reading, logical writing, and the methods of academic research.

Learning Objectives: The objectives of this course are (1) to acquire the ability to read texts correctly, (2) to acquire the ability to search for books and papers, (3) to acquire the ability to put into words correctly and logically what we think, and (4) to understand inappropriate behavior in research activities, such as falsification, alteration, and plagiarism.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: assignments and learning attitude in class(60%), term-end report (40%).

BSP100BC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

大学での国語力

藤村 耕治

授業コード：A2418 | 曜日・時限：月4/Mon.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～3（※2011以前入学者は1～4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学では、“自ら課題を発見し、調査・分析を行い、説得力のある結論を導き出す力”が必要とされます。その基礎を養うために、この授業では、講義を的確に聴取し、論文を正確に読解し、意見を明快に表現することのできる「国語力」を鍛錬してゆきます。

★日本文学科の“必修科目”です。1年生は必ず受講してください。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載予定の《日本文学科「大学での国語力」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

【到達目標】

1. 論理的な文章を正確に読解することができる
2. 必要な文献を探索し参考にすることができる
3. 自らの見解を論理的に表現することができる
4. ねつ造、改ざん、盗用などの研究活動上の不適切な行為について理解する
学生が以上のような力を身につけたうえで、「2000字程度のレポートを書く」ことが出来るようになることを最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文章を読む、文章を書く、文献を捜す、口頭発表をするといった実践的な課題に取り組み、最終的に、2000字程度のレポートを完成させます。

★受講者のレポートなどに対するフォローアップ（フィードバック）は、授業内および学習支援システム内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス①	自己紹介
2	ガイダンス②	図書館の使い方
3	導入編①	ノートの取り方
4	導入編②	文章を読む（見出しを付ける）
5	導入編③	文章を読む（要約）
6	導入編④	文章を読む（疑問点を挙げる）
7	基礎編①	レポートの書き方
8	基礎編②	資料の探し方
9	基礎編③	引用の仕方（盗用・ねつ造・改ざんなどの研究倫理についても触れる）
10	基礎編④	文章を書く（根拠を挙げる）
11	発展編①	「問い」と「答え」の設定
12	発展編②	章立て（目次）を検討する
13	発展編③	レポート完成／相互採点
14	発展編④	レポートを修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の課題に取り組むこと。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版（下記のサイトからダウンロードできます）

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

【成績評価の方法と基準】

1. 授業への積極的な参加（課題提出も含む）：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。
2. 最終レポートの出来：40% ※課題の未提出がある場合には、単位を修得できないことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「具体例や根拠を挙げて文章を書くことの大切さが良くわかった」、「形式・構成・表現など、レポートの基本事項を身につけることが出来た」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員で毎年ミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces critical reading, logical writing, and the methods of academic research.

Learning Objectives: The objectives of this course are (1) to acquire the ability to read texts correctly, (2) to acquire the ability to search for books and papers, (3) to acquire the ability to put into words correctly and logically what we think, and (4) to understand inappropriate behavior in research activities, such as falsification, alteration, and plagiarism.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: assignments and learning attitude in class(60%), term-end report (40%).

BSP100BC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

大学での国語力

田中 和生

授業コード：A2419 | 曜日・時限：月4/Mon.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～3（※2011以前入学者は1～4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学では、“自ら課題を発見し、調査・分析を行い、説得力のある結論を導き出す力”が必要とされます。その基礎を養うために、この授業では、講義を的確に聴取し、論文を正確に読解し、意見を明快に表現することのできる「国語力」を鍛錬してゆきます。

★日本文学科の“必修科目”です。1年生は必ず受講してください。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載予定の《日本文学科「大学での国語力」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

【到達目標】

1. 論理的な文章を正確に読解することができる
2. 必要な文献を探索し参考にすることができる
3. 自らの見解を論理的に表現することができる
4. ねつ造、改ざん、盗用などの研究活動上の不適切な行為について理解する
学生が以上のような力を身につけたうえで、「2000字程度のレポートを書く」ことが出来るようになることを最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文章を読む、文章を書く、文献を捜す、口頭発表をするといった実践的な課題に取り組み、最終的に、2000字程度のレポートを完成させます。

★受講者のレポートなどに対するフォローアップ（フィードバック）は、授業内および学習支援システム内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス①	自己紹介
2	ガイダンス②	図書館の使い方
3	導入編①	ノートの取り方
4	導入編②	文章を読む（見出しを付ける）
5	導入編③	文章を読む（要約）
6	導入編④	文章を読む（疑問点を挙げる）
7	基礎編①	レポートの書き方
8	基礎編②	資料の探し方
9	基礎編③	引用の仕方（盗用・ねつ造・改ざんなどの研究倫理についても触れる）
10	基礎編④	文章を書く（根拠を挙げる）
11	発展編①	「問い」と「答え」の設定
12	発展編②	章立て（目次）を検討する
13	発展編③	レポート完成／相互採点
14	発展編④	レポートを修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の課題に取り組むこと。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版（下記のサイトからダウンロードできます）

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

【成績評価の方法と基準】

1. 授業への積極的な参加（課題提出も含む）：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。
2. 最終レポートの出来：40% ※課題の未提出がある場合には、単位を修得できないことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「具体例や根拠を挙げて文章を書くことの大切さが良くわかった」、「形式・構成・表現など、レポートの基本事項を身につけることが出来た」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員で毎年ミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces critical reading, logical writing, and the methods of academic research.

Learning Objectives: The objectives of this course are (1) to acquire the ability to read texts correctly, (2) to acquire the ability to search for books and papers, (3) to acquire the ability to put into words correctly and logically what we think, and (4) to understand inappropriate behavior in research activities, such as falsification, alteration, and plagiarism.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: assignments and learning attitude in class(60%), term-end report (40%).

BSP100BC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

大学での国語力

加藤 昌嘉

授業コード：A2420 | 曜日・時限：月4/Mon.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～3（※2011以前入学者は1～4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学では、“自ら課題を発見し、調査・分析を行い、説得力のある結論を導き出す力”が必要とされます。その基礎を養うために、この授業では、講義を的確に聴取し、論文を正確に読解し、意見を明快に表現することのできる「国語力」を鍛錬してゆきます。

★日本文学科の“必修科目”です。1年生は必ず受講してください。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載予定の《日本文学科「大学での国語力」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

【到達目標】

1. 論理的な文章を正確に読解することができる
2. 必要な文献を探索し参考にすることができる
3. 自らの見解を論理的に表現することができる
4. ねつ造、改ざん、盗用などの研究活動上の不適切な行為について理解する
学生が以上のような力を身につけたうえで、「2000字程度のレポートを書く」ことが出来るようになることを最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文章を読む、文章を書く、文献を捜す、口頭発表をするといった実践的な課題に取り組み、最終的に、2000字程度のレポートを完成させます。

★受講者のレポートなどに対するフォローアップ（フィードバック）は、授業内および学習支援システム内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス①	自己紹介
2	ガイダンス②	図書館の使い方
3	導入編①	ノートの取り方
4	導入編②	文章を読む（見出しを付ける）
5	導入編③	文章を読む（要約）
6	導入編④	文章を読む（疑問点を挙げる）
7	基礎編①	レポートの書き方
8	基礎編②	資料の探し方
9	基礎編③	引用の仕方（盗用・ねつ造・改ざんなどの研究倫理についても触れる）
10	基礎編④	文章を書く（根拠を挙げる）
11	発展編①	「問い」と「答え」の設定
12	発展編②	章立て（目次）を検討する
13	発展編③	レポート完成／相互採点
14	発展編④	レポートを修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の課題に取り組むこと。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版（下記のサイトからダウンロードできます）

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

【成績評価の方法と基準】

1. 授業への積極的な参加（課題提出も含む）：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。
2. 最終レポートの出来：40% ※課題の未提出がある場合には、単位を修得できないことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「具体例や根拠を挙げて文章を書くことの大切さが良くわかった」、「形式・構成・表現など、レポートの基本事項を身につけることが出来た」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員で毎年ミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces critical reading, logical writing, and the methods of academic research.

Learning Objectives: The objectives of this course are (1) to acquire the ability to read texts correctly, (2) to acquire the ability to search for books and papers, (3) to acquire the ability to put into words correctly and logically what we think, and (4) to understand inappropriate behavior in research activities, such as falsification, alteration, and plagiarism.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: assignments and learning attitude in class(60%), term-end report (40%).

BSP100BC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

大学での国語力

阿部 真弓

授業コード：A2421 | 曜日・時限：月4/Mon.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～3（※2011以前入学者は1～4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学では、“自ら課題を発見し、調査・分析を行い、説得力のある結論を導き出す力”が必要とされます。その基礎を養うために、この授業では、講義を的確に聴取し、論文を正確に読解し、意見を明快に表現することのできる「国語力」を鍛錬してゆきます。

★日本文学科の“必修科目”です。1年生は必ず受講してください。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載予定の《日本文学科「大学での国語力」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

【到達目標】

1. 論理的な文章を正確に読解することができる
2. 必要な文献を探索し参考にすることができる
3. 自らの見解を論理的に表現することができる
4. ねつ造、改ざん、盗用などの研究活動上の不適切な行為について理解する
学生が以上のような力を身につけたうえで、「2000字程度のレポートを書く」ことが出来るようになることを最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文章を読む、文章を書く、文献を捜す、口頭発表をするといった実践的な課題に取り組み、最終的に、2000字程度のレポートを完成させます。

★受講者のレポートなどに対するフォローアップ（フィードバック）は、授業内および学習支援システム内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス①	自己紹介
2	ガイダンス②	図書館の使い方
3	導入編①	ノートの取り方
4	導入編②	文章を読む（見出しを付ける）
5	導入編③	文章を読む（要約）
6	導入編④	文章を読む（疑問点を挙げる）
7	基礎編①	レポートの書き方
8	基礎編②	資料の探し方
9	基礎編③	引用の仕方（盗用・ねつ造・改ざんなどの研究倫理についても触れる）
10	基礎編④	文章を書く（根拠を挙げる）
11	発展編①	「問い」と「答え」の設定
12	発展編②	章立て（目次）を検討する
13	発展編③	レポート完成／相互採点
14	発展編④	レポートを修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の課題に取り組むこと。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版（下記のサイトからダウンロードできます）

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

【成績評価の方法と基準】

1. 授業への積極的な参加（課題提出も含む）：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。
2. 最終レポートの出来：40% ※課題の未提出がある場合には、単位を修得できないことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「具体例や根拠を挙げて文章を書くことの大切さが良くわかった」、「形式・構成・表現など、レポートの基本事項を身につけることが出来た」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員で毎年ミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces critical reading, logical writing, and the methods of academic research.

Learning Objectives: The objectives of this course are (1) to acquire the ability to read texts correctly, (2) to acquire the ability to search for books and papers, (3) to acquire the ability to put into words correctly and logically what we think, and (4) to understand inappropriate behavior in research activities, such as falsification, alteration, and plagiarism.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: assignments and learning attitude in class(60%), term-end report (40%).

BSP100BC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

大学での国語力

遠藤 星希

授業コード：A2422 | 曜日・時限：月4/Mon.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～3（※2011以前入学者は1～4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学では、“自ら課題を発見し、調査・分析を行い、説得力のある結論を導き出す力”が必要とされます。その基礎を養うために、この授業では、講義を的確に聴取し、論文を正確に読解し、意見を明快に表現することのできる「国語力」を鍛錬してゆきます。

★日本文学科の“必修科目”です。1年生は必ず受講してください。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載予定の《日本文学科「大学での国語力」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

【到達目標】

1. 論理的な文章を正確に読解することができる
2. 必要な文献を探索し参考にすることができる
3. 自らの見解を論理的に表現することができる
4. ねつ造、改ざん、盗用などの研究活動上の不適切な行為について理解する
学生が以上のような力を身につけたうえで、「2000字程度のレポートを書く」ことが出来るようになることを最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文章を読む、文章を書く、文献を捜す、口頭発表をするといった実践的な課題に取り組み、最終的に、2000字程度のレポートを完成させます。

★受講者のレポートなどに対するフォローアップ（フィードバック）は、授業内および学習支援システム内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス①	自己紹介
2	ガイダンス②	図書館の使い方
3	導入編①	ノートの取り方
4	導入編②	文章を読む（見出しを付ける）
5	導入編③	文章を読む（要約）
6	導入編④	文章を読む（疑問点を挙げる）
7	基礎編①	レポートの書き方
8	基礎編②	資料の探し方
9	基礎編③	引用の仕方（盗用・ねつ造・改ざんなどの研究倫理についても触れる）
10	基礎編④	文章を書く（根拠を挙げる）
11	発展編①	「問い」と「答え」の設定
12	発展編②	章立て（目次）を検討する
13	発展編③	レポート完成／相互採点
14	発展編④	レポートを修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の課題に取り組むこと。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版（下記のサイトからダウンロードできます）

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

【成績評価の方法と基準】

1. 授業への積極的な参加（課題提出も含む）：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。
2. 最終レポートの出来：40% ※課題の未提出がある場合には、単位を修得できないことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「具体例や根拠を挙げて文章を書くことの大切さが良くわかった」、「形式・構成・表現など、レポートの基本事項を身につけることが出来た」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員で毎年ミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces critical reading, logical writing, and the methods of academic research.

Learning Objectives: The objectives of this course are (1) to acquire the ability to read texts correctly, (2) to acquire the ability to search for books and papers, (3) to acquire the ability to put into words correctly and logically what we think, and (4) to understand inappropriate behavior in research activities, such as falsification, alteration, and plagiarism.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: assignments and learning attitude in class(60%), term-end report (40%).

BSP100BC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

大学での国語力

小秋元 段

授業コード：A2423 | 曜日・時限：金5/Fri.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～3（※2011以前入学者は1～4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学では、「自ら課題を発見し、調査・分析を行い、説得力のある結論を導き出す力」が必要とされます。その基礎を養うために、この授業では、講義を的確に聴取し、論文を正確に読解し、意見を明快に表現することのできる「国語力」を鍛錬してゆきます。

★日本文学科の“必修科目”です。1年生は必ず受講してください。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載予定の《日本文学科「大学での国語力」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

【到達目標】

1. 論理的な文章を正確に読解することができる
2. 必要な文献を探索し参考にすることができる
3. 自らの見解を論理的に表現することができる
4. ねつ造、改ざん、盗用などの研究活動上の不適切な行為について理解する
学生が以上のような力を身につけたうえで、「2000字程度のレポートを書く」ことが出来るようになることを最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文章を読む、文章を書く、文献を捜す、口頭発表をするといった実践的な課題に取り組み、最終的に、2000字程度のレポートを完成させます。

★受講者のレポートなどに対するフォローアップ（フィードバック）は、授業内および学習支援システム内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス①	自己紹介
2	ガイダンス②	図書館の使い方
3	導入編①	ノートの取り方
4	導入編②	文章を読む（見出しを付ける）
5	導入編③	文章を読む（要約）
6	導入編④	文章を読む（疑問点を挙げる）
7	基礎編①	レポートの書き方
8	基礎編②	資料の探し方
9	基礎編③	引用の仕方（盗用・ねつ造・改ざんなどの研究倫理についても触れる）
10	基礎編④	文章を書く（根拠を挙げる）
11	発展編①	「問い」と「答え」の設定
12	発展編②	章立て（目次）を検討する
13	発展編③	レポート完成／相互採点
14	発展編④	レポートを修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の課題に取り組むこと。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版（下記のサイトからダウンロードできます）

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

【成績評価の方法と基準】

1. 授業への積極的な参加（課題提出も含む）：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。
2. 最終レポートの出来：40% ※課題の未提出がある場合には、単位を修得できないことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「具体例や根拠を挙げて文章を書くことの大切さが良くわかった」、「形式・構成・表現など、レポートの基本事項を身につけることが出来た」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員で毎年ミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces critical reading, logical writing, and the methods of academic research.

Learning Objectives: The objectives of this course are (1) to acquire the ability to read texts correctly, (2) to acquire the ability to search for books and papers, (3) to acquire the ability to put into words correctly and logically what we think, and (4) to understand inappropriate behavior in research activities, such as falsification, alteration, and plagiarism.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: assignments and learning attitude in class(60%), term-end report (40%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

文学概論A

中丸 宣明

昼間時間帯

授業コード：A2425 | 曜日・時限：月4/Mon.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19世紀20世紀の文学。日本の19世紀20世紀文学の展開を論ずるとともに、文学的近代とは何かということについて論ずる。なお、講義の進行の中で、研究状況の進展を反映し、また受講者の反応に応じて、扱うテーマに若干の異同が生ずる場合がある。

【到達目標】

これまでの日本の文学史の常識や定説を相対化し、あわせて文学研究の今日的論点を理解する。

To relativize the common sense and established theories of Japanese literary history, and understand the current issues of literary research.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義によるが講義中に取り上げた作品・研究文献はつとめて読むようにすること。また映画・演劇なども取り上げるので、それらに対しても接する努力をすること。それらの経験をふまえて講ずる。リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは、結果の集計ないし代表的な応答をプリント等で共有し、講義の際話題とする。See "Outline and objectives."

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	一年間の講義の概要
第2回	文学史の時代区分について	口承から写本へ
第3回	文学史の時代区分について1	印刷から出版へ
第4回	文学史の時代区分について2	IT時代へ
第5回	文学史のダイナミズム1	上の文学／下の文学 漢学・国学・洋学の展開1
第6回	文学史のダイナミズム2	上の文学／下の文学 漢学・国学・洋学の展開2
第7回	文学史のダイナミズム3	上の文学／下の文学 漢詩・和歌・俳諧の展開1
第8回	文学史のダイナミズム4	上の文学／下の文学 漢詩・和歌・俳諧の展開2
第9回	文学史のダイナミズム5	上の文学／下の文学 漢詩・和歌・俳諧の展開3
第10回	文学史のダイナミズム6	上の文学／下の文学 説話・物語・小説の展開1
第11回	文学史のダイナミズム7	上の文学／下の文学 説話・物語・小説の展開2
第12回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 説話・物語・小説の展開3
第13回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 演劇・芸能の展開1
第14回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 演劇・芸能の展開2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業であつかう、ないしあつかった作品・論文などは読むように心がけること。なお、大学の講義は、すでに「教科書」となっている「常識」を講ずるのではなく、新しい発見や知見を摸索するものであるということを肝に命ずべし。本授業の準備学習・復習時間は、各6時間を標準とします。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 6hours to understand the course content. See "Outline and objectives."

【テキスト（教科書）】

特に定めず。必要な場合はプリントによる。

None. I'm a textbook.

【参考書】

講義中に適宜指示。

Instructions during the lecture.

【成績評価の方法と基準】

期末レポートないしテスト（70％）。および毎講義に提出してもらう「リアクションペーパー」の内容（30％）。「リアクションペーパー」は単なる出席確認に留まらず、講義内容への感想・希望・理解度を反映させることができるものとする。

Our overall grade in the class will be decided based on the following: short reports at each class meeting (70%), term-end report (30%).

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくとわかりやすい話し方を心がけ、リアクションカードを有効活用します。

【Outline (in English)】

See the Japanese text. Those who do not understand the Japanese language are not eligible. Because this class is an academic lecture on Japanese literature, it requires more Japanese ability than daily conversation does.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

文学概論B

中丸 宣明

昼間時間帯

授業コード：A2427 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19世紀20世紀の文学。日本の19世紀20世紀文学の展開を論ずるとともに、文学的近代とは何かということについて論ずる。なお、講義の進行の中で、研究状況の進展を反映し、また受講者の反応に応じて、扱うテーマに若干の異同が生ずる場合がある。

【到達目標】

これまでの日本の文学史の常識や定説を相対化し、あわせて文学研究の今日的論点を理解する。

To relativize the common sense and established theories of Japanese literary history, and understand the current issues of literary research.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義によるが講義中に取り上げた作品・参考文献はつとめて読むようにすること。また映画・演劇なども取り上げるので、それらに対しても接する努力をすること。それらの経験をふまえて講ずる。リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは、結果の集計ないし代表的な応答をプリント等で共有し、講義の副話題とする。See "Outline and objectives."

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の内容の確認と秋学期授業を聞く上での知識の確認。（春学期講義未受講者への対策指導あり）
第2回	メディア論 総論1	メディアとは何か1 リテラシーと都市
第3回	メディア論 総論2	リテラシーの質
第4回	メディア論 書籍出版1	仮名草子の世界
第5回	メディア論 書籍出版2	江戸期の出版1 洒落本系出版物の展開
第6回	メディア論 書籍出版3	江戸期の出版2 読本系出版物の展開
第7回	メディア論 書籍出版4	江戸期の出版3 草双紙系出版物の展開
第8回	メディア論 書籍出版4	翻訳論－読本の伝統から 純文学の出発
第9回	メディア論 新聞1	草双紙から小新聞へ
第10回	メディア論 新聞	新聞に付属する出版 大衆文学へ
第11回	メディア論 雑誌論	投稿雑誌
第12回	メディア論 雑誌論	文学雑誌へ／から
第13回	デジタルメディア論	I T革命とは
第14回	デジタルメディア論	これからのメディア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業であつかう、ないしあつかった作品・論文などは読むように心がけること。大学の講義は、すでに「教科書」となっている「常識」を講ずるのではなく、新しい発見や知見を摸索するものであると言うことを肝に命ずべし。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。Before/after each class meeting, students will be expected to spend 6 hours to understand the course content. See "Outline and objectives."

【テキスト（教科書）】

特に定めず。必要な場合はプリントによる。

None. I'm a textbook.

【参考書】

『物語を紡ぐ女たち』（中丸宣明、翰林書房、2022.2.20）。選択的な課題として同書の内容を課す場合がある。他には、授業中に適宜指示。特に分析対象作品は読むように心がけること。

"Monogatari wo tumugu onnatachi"(nakamaru nobuaki,kanrinn-shobo,2022.2.20) The contents of this book may be assigned as a selective assignment. Other instructions will be given during class. Please make an effort to read the work to be analyzed in particular.

【成績評価の方法と基準】

期末レポートないしテスト（60％）、および毎講義の「リアクションペーパー」の内容（40％）。リアクションペーパーは単なる出席確認に留まらず、講義内容への感想・希望・理解度が反映されたものと判断する。

Our overall grade in the class will be decided based on the following: short reports at each class meeting (60%), term-end report (40%).

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくりとわかりやすく、また日々のリアクションカードを有効活用します。

【Outline (in English)】

See the Japanese text. Those who do not understand the Japanese language are not eligible. Because this class is an academic lecture on Japanese literature, it requires more Japanese ability than daily conversation does.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸史ⅡA

藤村 耕治

授業コード：A2429 | 曜日・時限：火3/Tue.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

明治期の日本文芸の歴史を通して、現代につながる近代文学の生成と変化、文芸と社会との関わり、文学意識や理論などを学びます。

文学史的事実をただ羅列し、それを機械的に覚えてもらうのではなく、部分的にせよ作品に具体的に触れながら、その史的意義や現代との関わりなどについて理解することがテーマとなります。

【到達目標】

日本近現代文学史に対する概括的な知識を得るのみならず、個々の作家や作品が歴史の中において持つ位置や意義を、受講者が自分なりに考えられるようになるのが目標です。つまり、ただ受動的に講義を聞いて終わりにするのではなく、受講生各人が、より多くの作品に触れ、読解し、享受することのできる基本的な力をも身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期セメスターでは、明治初期から中期、日本近代文学の出発期の文芸史の流れを辿ります。上記の様々な問題について、なるべく具体的に作品に当たりながら、考えていきます。とはいえ、限られた授業時間で多くの作品を読んでいく事は事実上不可能ですから、毎回のテーマごとに読んで欲しい文献の案内を行いますので、受講者はそれを積極的に読み進めていって欲しい。

授業は講義が中心となりますが、場合によっては授業内で簡単なテストやレポートを随時書いてもらったりすることもあります。あるいは、指定した作品についての感想などを書いてもらう場合もあります。

また、毎回授業終了時に質問や意見、感想などをリアクションペーパーに記入してもらいます。そこで出された質問については次回授業冒頭で答えることで、前回の授業内容を簡単に復習しつつ、併せてフィードバックを行います。意見や感想についても適宜紹介し、理解をより深めたり授業改善に役立てたりすることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	明治日本の国家政策と文芸①	文明開化と啓蒙主義思想—福沢諭吉の思想
第2回	明治日本の国家政策と文芸②	江戸末期から明治に至る戯作文学の位置—馬琴から魯文まで
第3回	明治日本の国家政策と文芸③	漢詩文と政治小説
第4回	近代文学の出発・坪内逍遙①	『小説神髓』を読む
第5回	近代文学の出発・坪内逍遙②	『小説神髓』のテーマを考える
第6回	二葉亭四迷の挑戦①	二葉亭四迷「小説総論」と「浮雲」
第7回	二葉亭四迷の挑戦②	「浮雲」第一編を読む
第8回	二葉亭四迷の挑戦③	「浮雲」第二編・第三編を読む
第9回	二葉亭四迷の挑戦④	「浮雲」のテーマとはなにか
第10回	森鷗外の場合①	森鷗外の業績
第11回	森鷗外の場合②	「舞姫」を読む
第12回	森鷗外の場合③	「舞姫」のテーマを深掘りする
第13回	森鷗外の場合④	「浮雲」と「舞姫」を比較する
第14回	春学期のまとめ	近代文学の出発期についての総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習としては、シラバスの各回の内容に沿って、各自が持っている文学史の書物の該当部分に眼を通して頂くことで、おおよその流れがつかみやすくなります。

また、授業内で紹介した作品や、特に読むことを指示した作品などをできるだけ多く読み、自分の文学鑑賞眼を磨くことを心がけてください。

したがって、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。読むべき作品などについては適宜指示・紹介します。

【参考書】

日本近代文学史についての書籍を一冊、用意しておくといでしょう。文献案内は授業の初回に行います。

【成績評価の方法と基準】

授業後に授業内容や質問等を書いて提出して貰うリアクションペーパー70%、学期末のレポート30%、それに受講態度などを総合的に加味して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特に重要な点や理解しにくい点については、繰り返し説明したり、次回冒頭でポイントを復習したりするなど、十全な理解ができるよう工夫します。

【その他の重要事項】

文学史の学習は、とすれば作家や作品の羅列の暗記や、知識の吸収などに陥りがちなイメージがあります。もちろん、そういう学習もある程度は必要ですが、それを自分の興味や関心に引き付けて、生きた文学史知識とする為には、なるべく多くの実作品に触れる必要があります。上にも記したとおり、授業内で読める作品は非常に少ないものに限られますが、それを機会に、自ら進んで多くの作家・作品を読み進めていってほしい。

【Outline (in English)】

Course Outline: Through the history of Japanese literature in the Meiji era, students learn about the generation of modern literature, relationships with society, literary consciousness and theory. The theme is to understand the historical significance and relationship with the present day while touching on the text of works as much as possible.

Learning Objectives: It is not just to gain knowledge, but also to allow students to think about the meaning and value of individual writers and works themselves.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read the descriptions of various literary histories for the contents of each lecture in advance. Also read as many works as you can that are dealt with in class. The standard preparation and review time for class is two hours each.

Grading Criteria/Policy: I will evaluate final grades with 70% based on reaction papers submitted after class, and 30% based on an end-of-semester report.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸史ⅡA

矢澤 美佐紀

夜間時間帯

授業コード：A2430 | 曜日・時限：木6/Thu.6
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文芸の歴史を通して、現代につながる日本の近代文学の生成と変化、文芸と社会との関わり、文学意識や理論などを学びます。
文学史的事実をただ機械的に覚えてもらうのではなく、主要箇所については具体的な作品に即しながら、その歴史的意義や現代社会との関わりなどについて理解することがテーマとなります。
また、女性の文芸や視点から既成の文芸史を相対化させることを試みます。

【到達目標】

日本近現代文芸史に対する概括的な知識を得るのみならず、個々の作家や作品が歴史においてもつ位置づけや意義を、受講者が自分なりに考えられるようになるのが目標です。たんに受動的に講義を聞いていくのではなく、受講生各自がより多くの作品に触れ、解釈するための基本的な力を身につけ、多様で立体的な視点からものごとをとらえる能力の育成を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期では、日本が近代国家として歩み始めた明治期における文芸史の流れをたどります。上記の様々な問題について、できるだけ具体的に作品に即しながら考察します。授業時間内で多くの作品を読むことは不可能ですから、各テーマごとに読んでほしい文献を案内しますので、受講者はそれを積極的に読み進めてください。
授業は講義が中心となりますが、場合によっては意見を求めたり、指定した作品についての感想などを書いてもらう場合もあります。途中、中間テストを実施します。また、作品への理解を補うために、適宜、関連する映像作品を鑑賞します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス 日本近代文学の成立について①	文明開化と啓蒙主義ー 福沢諭吉を中心に
第2回	日本近代文学の成立について②	文明開化と戯作文学ー 三遊亭円朝を参考に
第3回	日本近代文学の成立について③	国家政策と「国語」「標準語」の成り立ち
第4回	坪内逍遙と二葉亭四迷の言文一致運動	「小説神髓」「当世書生気質」「浮雲」を読む
第5回	坪内逍遙の挑戦と限界	「細君」を読む
第6回	中間テスト 樋口一葉の文学①	5回までの講義内容から出題 「十三夜」を読む
第7回	樋口一葉の文学②	「わかれ道」を読む
第8回	森鴎外の文学①	「舞姫」・続編「普請中」を読む
第9回	森鴎外の文学② ー森しげを参考に	「半日」「波瀾」を読む
第10回	島崎藤村と清水紫琴の文学	「こわれ指環」「移民学園」を読む
第11回	山田美妙と田澤稲舟の文学の文学	「胡蝶」「しろばら」を読む
第12回	夏目漱石の文学①	「こころ」を読む
第13回	夏目漱石の文学②	「明暗」を読む
第14回	試験・まとめと解説	授業のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にシラバスの各回の内容に沿って、指定した文学史の書物の該当部分に眼を通してください。おおよその流れを把握しておきましょう。毎回二時間を目安に予習するよう心がけてください。
また、講義で身につけた知識を復習し、授業内で紹介したり読むことを指示した作品などをできるだけ多く読んで、自分の読解能力を向上させましょう。復習も毎回二時間を目安にしてください。

【テキスト（教科書）】

安藤宏『日本近代小説史 新装版』（中公選書、2015）をテキストに指定します。必ず購入してください。
適宜、補足資料のプリントを配布します。読むべき作品などについても案内します。

【参考書】

文献は授業の初回と各回ごとに紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験の成績70％、授業内の中間テスト30％、それに受講態度などを総合的に加味して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特に重要な点や理解しにくい点については、繰り返し説明します。また、ポイントを復習したりするなど十分な理解ができるよう工夫します。

【その他の重要事項】

文芸史の学習は、作家や作品の羅列的な暗記や知識の単純な吸収などに陥りがちな印象があるかもしれません。もちろん、基礎知識を身につける学習は必須ですが、学んだことを自分の興味や関心に引きつけて生きた文学史的知識とするためには、できるだけ多くの作品にふれる必要があります。上にも記したとおり、授業内で読める作品は非常に限られますので、自ら進んで多くの作家に興味を持ち、多様な作品を読み進めてほしいと思います。

【Outline (in English)】

Course Outline: Through a historical study the Japanese literature of the Meiji era, students will learn about the generation of modern Japanese literature, the relationship between literature and society, and literary consciousness and theory. The point of the course is not just to have students memorize historical facts mechanically, but to understand the historical significance of literature and relationship with modern society by referring to specific works. The course also attempts to relativize existing literary history from the perspective of women's literature.

Learning Objectives: The goal is not only to provide students with an overview of the modern history of Japanese literature, but also to enable them to think about the historical position and significance of individual writers and works in their own way. Rather than merely passively listening to lectures, students will be exposed to a great number of works, acquire the basic skills to interpret them, and develop the ability to perceive things from a variety of perspectives.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before class, students should read through the appropriate sections of the designated books on literary history according to the contents of each session of the syllabus. Students should have an approximate grasp of the flow of the course. Prepare for two hours each time. Review the knowledge you have acquired in the lectures and improve your reading comprehension by reading as many of the works introduced or assigned to read in class as possible. Allow two hours for review of each lecture.

Grading Criteria/Policy: The grade will be determined based on an examination (70%) and an in-class mid-term test (30%), supplemented with appraisal of overall attitude toward the class.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸史ⅡB

藤村 耕治

授業コード：A2431 | 曜日・時限：火3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の流れを受けて、明治後期の文芸作品に即しつつ、日本近代文学の確立と、多様化するそれぞれの文学状況を解説していきます。

文学史の事実をただ羅列し、それを機械的に覚えてもらうのではなく、部分的にせよ作品に具体的に触れながら、その史的意義や現代との関わりなどについて理解することがテーマとなります。

【到達目標】

Aと同様、単なる知識の習得にとどまらず、個々の作家や作品が歴史の中において持つ位置や意義を受講者が各自で考え、文学作品を時代や作者の背景に留意しつつ読み解くことができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

明治中後期、すなわち日本近代文学の確立期の文芸史の流れを追っていきます。春学期と同様、なるべく具体的なテキストを読みながら考えていきます。

授業は講義が中心となりますが、適宜意見を求めたり、授業内で簡単なテストや小レポートを書いてもらったり、とり上げた作品について受講生同士で討論を行ってもらったりすることもあります。

また、毎回授業終了時に質問や意見、感想などをリアクションペーパーに記入してもらいます。そこで出された質問については次回授業冒頭で答えることで、前回の授業内容を簡単に復習しつつ、併せてフィードバックを行います。意見や感想についても適宜紹介し、理解をより深めたり授業改善に役立てたりすることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本近現代文学の見取り図	明治期の文芸史についての概括的な解説
第2回	硯友社の文学①	硯友社とは何か
第3回	硯友社の文学②	尾崎紅葉「金色夜叉」を読む
第4回	浪漫主義の文学①	北村透谷の文学論
第5回	浪漫主義の文学②	北村透谷の恋愛論
第6回	浪漫主義の文学③	北村透谷と浪漫主義文学
第7回	女性作家の登場①	樋口一葉略伝
第8回	女性作家の登場②	樋口一葉「たけくらべ」を読む
第9回	女性作家の登場③	樋口一葉「たけくらべ」の文学史的 位置
第10回	自然主義前史	ゾラの自然主義と日本自然主義前史
第11回	自然主義文学①	島崎藤村「破戒」を読む
第12回	自然主義文学②	島崎藤村「破戒」の可能性
第13回	自然主義文学③	田山花袋『蒲団』を読む
第14回	自然主義文学④	自然主義から私小説へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習としては、シラバスの各回の内容に沿って、各自が持っている文学史の書物の該当部分に眼を通して頂くことで、おおその流れがつかみやすくなります。

また、授業内で紹介した作品や、特に読むことを指示した作品などをできるだけ多く読み、自分の文学鑑賞眼を磨くことを心がけてください。

したがって、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。読むべき作品などについては適宜指示・紹介します。

【参考書】

日本近代文学史についての書籍を一冊、用意しておくといでしょう。文献案内は授業の初回に行います。

【成績評価の方法と基準】

授業後に授業内容や質問等を書いて提出して貰うリアクションペーパー70%、学期末のレポート30%、それに受講態度などを総合的に加味して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特に重要な点や理解しにくい点については、繰り返し説明したり、次回冒頭でポイントを復習したりするなど、十全な理解ができるよう工夫します。

【その他の重要事項】

日本文芸史ⅡAに同じ。

【Outline (in English)】

Course Outline: Through the history of Japanese literature in the Meiji era, students learn about the generation of modern literature, relationships with society, literary consciousness and theory. The theme is to understand the historical significance and relationship with the present day while touching on the text of works as much as possible.

Learning Objectives: It is not just to gain knowledge, but also to allow students to think about the meaning and value of individual writers and works themselves.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read the descriptions of various literary histories for the contents of each lecture in advance. Also read as many works as you can that are dealt with in class. The standard preparation and review time for class is two hours each.

Grading Criteria/Policy: I will evaluate final grades with 70% based on reaction papers submitted after class, and 30% based on an end-of-semester report.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸史ⅡB

矢澤 美佐紀

夜間時間帯

授業コード：A2432 | 曜日・時限：木6/Thu.6

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の流れを受けて、大正期から現在に至る文芸作品に即しつつ、日本近代文学の確立と、多様化するそれぞれの文学状況を解説していきます。文学史的事実をただ機械的に覚えてもらうのではなく、主要箇所については作品に即しながら、具体的にその歴史的意義や現代との関わりなどについて理解することがテーマとなります。

また、女性の文芸や視点から既成の文芸史を相対化させることを試みます。

【到達目標】

春学期と同様、単なる知識の習得ではなく、個々の作家や作品が日本近代の歴史において有する位置づけや意義を受講者が意識的に考え、文学作品を時代や作者の背景に留意しつつ読み解くことができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

大正期から現代に至る日本近代の文芸史の流れを追っていきます。春学期と同様、なるべく具体的な作品を読みながら考えていきます。

授業は講義が中心となりますが、適宜意見を求めたり、授業内で感想を書いてももらったり、とりあげた作品について受講生同士で討論を行ってもらったりすることもあります。復習の中間テストを実施します。また、作品への理解を補うために適宜関連する映像作品を鑑賞します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大正期の概観／大正文壇の成立	明治期との差異を考察
第2回	有島武郎の文学	「或る女」を読む
第3回	『青鞥』の文学	平塚らいてうと伊藤野枝の作品を読む
第4回	芥川龍之介の文学	「藪の中」を読む
第5回	日本のモダニズム文学①	モダニズムの概観 梶井基次郎「檸檬」を読む
第6回	日本のモダニズム文学②	尾崎翠「第七官界彷徨」「歩行」を読む
第7回	中間テスト プロレタリア文学の実相①	6回までの講義内容から出題 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」、 プロレタリア短歌等を読む
第8回	プロレタリア文学の実相②	松田解子「乳を売る」、佐多稲子「くれない」を読む
第9回	戦時下の文学 太宰治の場合	「右大臣実朝」を読む
第10回	戦後の文学 大江健三郎・倉橋由美子の場合	「個人的な体験」、「パルタイ」を読む
第11回	中上健次・津島佑子の文学	「枯木灘」「龍児」を読む
第12回	ポストモダンの時代 村上春樹・吉本ばななの場合	「ノルウェイの森」「キッチン」を読む
第13回	現代文学の多様性 多和田葉子・朝井リョウ・小山田浩子・村田沙耶香・川上未映子の文学	「献灯使」「何者」「穴」「信仰」「青かける青」を読む
第14回	試験・まとめと解説	授業のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本文芸史ⅡAに同じ。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

日本文芸史ⅡAに同じ。

【参考書】

日本文芸史ⅡAに同じ。

【成績評価の方法と基準】

試験の成績70%、授業内の中間テスト30%、それに受講態度などを総合的に加味して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特に重要な点や理解しにくい点については、繰り返し説明します。ポイントを復習したりするなど、十全な理解ができるよう工夫します。

【その他の重要事項】

日本文芸史ⅡAに同じ。

【Outline (in English)】

Course Outline: Following on from the spring semester, this course will explain the establishment of modern Japanese literature and its diversifying literary contexts, while focusing on literary works from the Taishō period to the present. The point of this course is not to have students memorize historical facts mechanically, but to understand the historical significance of major works and their relation to the present day, while referring to them in concrete terms. The course also attempts to relativize existing literary history from the perspective of women's literature.

Learning Objectives: As in the spring semester, the goal is not merely to acquire knowledge, but to enable students to consciously consider the position and significance of individual authors and their works in modern Japanese history, and to read and understand literary works with attention to the background of the period and author.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before class, students should read through the appropriate sections of the designated books on literary history according to the contents of each session of the syllabus. Students should have an approximate grasp of the flow of the course. Prepare for two hours each time. Review the knowledge you have acquired in the lectures and improve your reading comprehension by reading as many of the works introduced or assigned to read in class as possible. Allow two hours for review of each lecture.

Grading Criteria/Policy: The grade will be determined based on an examination (70%) and an in-class mid-term test (30%), supplemented with appraisal of overall attitude toward the class.

LIN200BC (言語学 / Linguistics 200)

日本語史A

間宮 厚司

昼間時間帯

授業コード：A2433 | 曜日・時限：火3/Tue.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語の歴史について様々な面から、ある時は広く浅く、ある時は狭く深く学びます。

【到達目標】

日本語の「過去・現在・未来」について、理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

プリントやビデオ等を使用して、日本語の歴史に関する知識を修得します。毎時間、100～200字程度の小レポートを授業中に提出してもらい、次の時間に紹介します。なお、受講者数が確定した段階で、座席を指定する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・成績評価等についての説明
第2回	奈良時代の言語的特徴 (1)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (1)
第3回	奈良時代の言語的特徴 (2)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (2)
第4回	奈良時代の言語的特徴 (3)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (3)
第5回	奈良時代の言語的特徴 (4)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (4)
第6回	平安時代の言語的特徴 (1)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (5)
第7回	平安時代の言語的特徴 (2)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (6)
第8回	平安時代の言語的特徴 (3)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (7)
第9回	平安時代の言語的特徴 (4)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (8)
第10回	鎌倉・室町時代の言語的特徴 (1)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (9)
第11回	鎌倉・室町時代の言語的特徴 (2)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (10)
第12回	鎌倉・室町時代の言語的特徴 (3)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (11)
第13回	鎌倉・室町時代の言語的特徴 (4)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (12)
第14回	まとめ	大レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を活用し、日本語の歴史に関する本を積極的に多く読みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定せず、プリントを使用します。

【参考書】

参考書は授業の進行にそって、そのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎時間提出する小レポート (50%) と最終授業時に提出する大レポート (50%) の内容を勘案して、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度サバティカルのため無し。

【Outline (in English)】

Course Outline: The lecture introduces the history of the Japanese language. We will use several handouts to be distributed in class.

Learning Objectives: Students deepen their understanding of Japanese (past, present, and future).

Learning Activities Outside of the Classroom: Use the library and read as many books related to the history of Japanese as you can. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: short report at each class meeting (50%); long report at the last class meeting (50%).

LIN200BC（言語学 / Linguistics 200）

日本語史B

間宮 厚司

昼間時間帯

授業コード：A2435 | 曜日・時限：火3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語の歴史について様々な面から、ある時は広く浅く、ある時は狭く深く学びます。

【到達目標】

日本語の「過去・現在・未来」について理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

プリントやビデオ等を使用して、日本語の歴史に関する知識を修得します。毎時間、100～200字程度の小レポートを授業中に提出してもらい、次の時間に紹介し、質問に答えます。なお、受講者数が確定した段階で、座席を指定する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・成績評価等についての説明
第2回	江戸時代の言語的特徴(1)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出(1)
第3回	受講生の春学期の大レポートの報告(1) 江戸時代の言語的特徴(2)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出(2)
第4回	受講生の春学期の大レポート報告(2) 江戸時代の言語的特徴(3)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出(3)
第5回	受講生の春学期の大レポート報告(3) 江戸時代の言語的特徴(4)	プリント等で解説し、授業内に小レポートを提出(4)
第6回	受講生の春学期の大レポート報告(4) 明治時代から戦前の言語的特徴(1)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出(5)
第7回	受講生の春学期の大レポート報告(5) 明治時代から戦前の言語的特徴(2)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出(6)
第8回	受講生の春学期の大レポート報告(6) 明治時代から戦前の言語的特徴(3)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出(7)
第9回	受講生の春学期の大レポート報告(7) 明治時代から戦前の言語的特徴(4)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出(8)
第10回	受講生の春学期の大レポート報告(8) 戦後の言語的特徴(1)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出(9)
第11回	受講生の春学期の大レポート報告(9) 戦後の言語的特徴(2)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出(10)
第12回	受講生の春学期の大レポート報告(10) 戦後の言語的特徴(3)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出(11)
第13回	受講生の春学期の大レポート報告(11) 戦後の言語的特徴(4)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出(12)
第14回	まとめ	大レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を活用し、日本語史に関する本を積極的に多く読みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定せず、プリントを使用します。

【参考書】

参考書は授業の進行にそって、そのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎時間提出する「課題（感想等）」(50%)と学期末の大レポート(50%)の内容を勘案して、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度サバティカルのため無し。

【Outline (in English)】

Course Outline: The lecture introduces the history of the Japanese language. We will use several handouts to be distributed in class.

Learning Objectives: Students deepen their understanding of Japanese (past, present, and future).

Learning Activities Outside of the Classroom: Use the library and read as many books related to the history of Japanese as you can. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: short report at each class meeting (50%); long report at the last class meeting (50%).

LIN200BC (言語学 / Linguistics 200)

日本文法論A

松浦 光

授業コード：A2437 | 曜日・時限：金3/Fri.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語学の基礎を確認しながら、現代日本語の文法的な規則を振り返る。そして、認知言語学による現代日本語文法へのアプローチを検討する。そこから、国語教育をはじめとした社会につながる国語力を身につけていく。

【到達目標】

(1) 国語教員がおさえておきたい日本語文法の基礎を理解し、それについて具体例をあげて説明できるようになる。
(2) 日本語文法の逸脱・例外について理解し、それについて具体例を挙げて説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

▼基本的には講義形式で進めるが、ずっと受身で話を聞くだけではなく受講生にも積極的に考えてもらいたいので、様々な問題・課題を授業内で与える。
▼授業の理解を確認するため、小課題を課すこともある。
▼リアクションペーパー等における質問やコメントへのフィードバックは次の授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業に関するオリエンテーション・アンケート	自分が気になる文法現象についてまとめる。
第2回	認知言語学の文法観	認知言語学における文法観を理解する。
第3回	社会の中の国語力と学校の中の国語力	自分の国語学習経験を振り返る。
第4回	推論と意図理解	推論と意図理解のメカニズムについて理解する。
第5回	＜文字通りでない意味＞の日常性	＜文字通りでない意味＞が反映された表現を考える。
第6回	似ていない比喻	換喩・提喩のメカニズムを理解する。
第7回	文法とレトリック	文法とレトリックの連続性を理解する。
第8回	物語における＜文字通りでない意味の理解＞	テキストと意味の関係を検討する。
第9回	比喻からみた慣用句	慣用句の成立と比喻的な動機づけを理解する。
第10回	文章に書いていないことを読む	言葉の言外の意味について考える。
第11回	文法と視点	多様な視点が反映される言語表現を考える。
第12回	話しことばにおける＜文字通りでない意味＞の理解	話しことばの特性と意味解釈のメカニズムを理解する。
第13回	現代日本語の用例の収集と整理の方法	現代日本語の用例の収集と整理の方法を学ぶ。
第14回	授業のまとめ	授業の内容の復習を行い、期末レポートに備える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

※本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。テキストを読み込み、授業の内容について理解を深めてください。

【テキスト（教科書）】

菅井三実(2021)『社会につながる国語教室—文字通りでない意味を読む力』東京：開拓社。（¥2,200）

【参考書】

教場で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①期末レポート50%、②小課題30%、③平常点・授業参加への積極性20%

【学生の意見等からの気づき】

学生同士が積極的にディスカッションできる場も設けていきたいです。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期でそれぞれ扱うテキストは異なる。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces modern Japanese grammar by cognitive linguistics for Japanese public junior high schools, and points out some irregularities or bugs in it.

Learning Objectives: The objectives of this class are to understand such irregularities and to become able to explain them to someone else.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (50%), short reports (30%), in-class contribution (20%).

LIN200BC（言語学 / Linguistics 200）

日本文法論A

八木 健太郎

夜間時間帯

授業コード：A2438 | 曜日・時限：木6/Thu.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces the Japanese traditional grammar adopted in the textbooks for Japanese public junior high schools, and points out some irregularities or bugs in it.

小中学校の国語で習う文法は橋本進吉の理論に基づいており「学校文法」とも呼ばれている。しかし、教科書に採用されているからといって、決して完璧な理論とは言えず、不備や例外もある。どこが間違っているのか、どう修正すべきなのか、それらを考えながら、学校文法を概観する。

【到達目標】

The objectives of this class are to understand such irregularities and to become able to explain them to someone else.

- (1) 国語教員が押さえておきたい学校文法の基礎を理解し、それについて具体例をあげて説明できるようになる。
- (2) 学校文法の不備・例外について理解し、それについて具体例を挙げて説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

▼基本的には講義形式で進めるが、ずっと受身で話を聞くだけではなく受講生にも積極的に考えてもらいたいので、様々な問題・課題を授業内で与える。

▼受講者に積極的な理解を促すため、授業の最後に小テストを行う。

▼リアクションペーパー等における質問やコメントへのフィードバックは次の授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	品詞	品詞の定義と問題点について
第2回	活用	活用のしくみと問題点について
第3回	文構造	単文の構造と節どうしの関係について
第4回	格助詞	格助詞の用法と意味について
第5回	副助詞	副助詞の用法と意味について
第6回	接続助詞	接続助詞の用法と意味について
第7回	修飾	連用修飾と連体修飾の問題点について
第8回	助動詞(1)	受身・使役・可能の助動詞とその問題点について
第9回	助動詞(2)	否定・時間の助動詞とその問題点について
第10回	助動詞(3)	モダリティについて
第11回	助動詞と働きかけの形式	対人的モダリティについて
第12回	敬語	敬語の分類とその問題点について
第13回	文章・談話	よりも大きな言語単位について
第14回	文法	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

山田敏弘著『国語教師が知っておきたい日本語文法』東京：くろしお出版。（¥1,600）

【参考書】

庵功雄ほか2000.『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』東京：スリーエーネットワーク。（¥2,310）

町田健 2002.『まちがいだらけの日本語文法』東京：講談社（¥735）

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: short exam at the end of the each class (50%), term-end report (50%).

毎回の小テスト 50 %

学期末レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces the Japanese traditional grammar adopted in the textbooks for Japanese public junior high schools, and points out some irregularities or bugs in it.

Learning Objectives: The objectives of this class are to understand such irregularities and to become able to explain them to someone else.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: short exam at the end of the each class (50%), term-end report (50%).

LIN200BC (言語学 / Linguistics 200)

日本文法論B

松浦 光

授業コード：A2439 | 曜日・時限：金3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

認知言語学・構文文法の観点から、日本語文法について考え直すことを目的とする。授業の前半は認知言語学の基本的な概念を学び、中盤では分析事例について学ぶ。後半では、学習した概念が言語分析にどのように利用されているのかを学ぶ。

【到達目標】

意味や文法における様々な「拡張・逸脱表現」について、(1)そのような表現のどの部分が「拡張・逸脱」であるのかを理解することと、(2)そのような「拡張・逸脱」が生まれたプロセスや動機付けについて、認知言語学の観点から分析・説明できるようになること、の2点が到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

▼基本的には講義形式で進めるが、ずっと受身で話を聞くだけではなく受講生にも積極的に考えてもらいたいので、様々なトピックについて議論を行うこともある。

▼授業の理解を確認するため、小課題を課すこともある。

▼リアクションペーパー等における質問やコメントへのフィードバックは次の授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	これまでの学習の復習を行う。
第2回	視点とことば	視点が関与する言語表現を考える。
第3回	主観的移動と主観的变化	主観的移動と主観的变化が反映された表現を理解する。
第4回	知覚・経験と存在	知覚・経験と存在と言語表現について考える。
第5回	話し手としての「私」	話者と人称の関係を検討する。
第6回	人称と視点	人称と視点の関係から言語表現を考察する。
第7回	視点からみた日本語らしさ	他の言語と日本語について検討する。
第8回	モノの性質からみた知覚と行為	モノの性質と身体性による意味づけについて考える。
第9回	イメージ・スキーマ	イメージ・スキーマの例と言語表現の関係を考える。
第10回	多義語	多義語の例を考えて、分析する。
第11回	事物の意味とフレーム	フレームが反映された言語表現を考える。
第12回	概念メタファー	概念メタファーの働きについて理解を深める。
第13回	自己と主観性	自己と主観性が反映された言語表現を考える。
第14回	まとめ	本講義の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・小課題（2時間）

その日の講義の復習（2時間）

【テキスト（教科書）】

本多啓(2013)『知覚と行為の認知言語学—「私」は自分の外にある』東京：開拓社。（¥2,090）

【参考書】

教場で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①期末レポート50%、②小課題30%、③平常点・授業参加への積極性20%

【学生の意見等からの気づき】

学生が主体的に参加できる工夫も取り入れていきたいです。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期でそれぞれ扱うテキストは異なる。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is an introduction to cognitive linguistics and construction grammar. We will focus on grammatically exceptional expressions or extended constructions in Japanese, and try to locate them in the networks of our linguistic knowledge.

Learning Objectives: The objectives of this course are (1) to acquire the ability to differentiate normal (grammatical) expressions and grammatically extended expressions, and (2) to situate the latter expressions in the networks of our linguistic knowledge.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (50%), short reports (30%), in-class contribution (20%).

LIN200BC (言語学 / Linguistics 200)

日本文法論B

八木 健太郎

夜間時間帯

授業コード：A2440 | 曜日・時限：木6/Thu.6

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語の特徴的な事例を分析し、それについて簡潔な説明を与える練習をする。授業の前半はその回の事例について分析し、後半では、当該事例に関わる研究論文を概観する。

【到達目標】

特徴的な日本語表現がなぜそのようになっているのかという点について、小中学生や日本語学者にもわかるように説明できるようになることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

▼個々の受講生に自身の分析を訪ねたり、小グループで分析をまとめてもらったりしながら進める。

▼授業の理解を確認するため、小課題を課すこともある。

▼リアクションペーパー等における質問やコメントへのフィードバックは次の授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「は」と「が」	「～は」と「～が」の違いについて考察する。
第2回	「に」と「で」	「～に」と「～で」の違いについて考察する。
第3回	「いる」と「ある」	「いる」と「ある」の違いについて考察する。
第4回	動詞の自他の対応	動詞の自他対応の仕組みについて考察する。
第5回	受給・受益の表現	やりもらい表現について考察する。
第6回	複合動詞	複合動詞の成立条件について考察する。
第7回	指示表現	コ・ソ・アの使い分けについて考察する。
第8回	ウナギ文	「僕はウナギだ」のような文の仕組みについて考察する。
第9回	数量詞	数量詞が文中に置かれる位置について考察する。
第10回	反復表現・省略表現・曖昧表現	反復表現、省略表現、曖昧表現について考察する。
第11回	待遇表現	待遇表現について考察する。
第12回	隠喩	日本語に見られる隠喩（メタファー）について考察する。
第13回	換喩	日本語に見られる換喩（メトニミー）について考察する。
第14回	視点	日本語に現れる視点の影響について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・小課題（2時間）

その日の講義の復習（2時間）

【テキスト（教科書）】

『ケーススタディ 日本文法』おうふう

『ケーススタディ 日本語の表現』おうふう

【参考書】

教場で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①期末レポート50%、②小課題30%、③平常点・授業参加への積極性20%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

Course Outline: In this course, each student will practice analyzing a specific case in the Japanese language and giving a brief explanation for it. In the first half of the class, the student will analyze the case, and in the second half, the student will introduce a research paper related to the case.

Learning Objectives: The objective of this course is to acquire the ability to explain the reasons for distinctive Japanese expressions in a way that elementary and junior high school students and Japanese language scholars can understand.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (50%), short reports (30%), in-class contribution (20%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文学史 A

中沢 けい

昼間時間帯
授業コード：A2441 | 曜日・時限：木3/Thu.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：文芸コースのみ履修可。文学・言語コースの学生は夜間時間帯のみ。
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語の文章の変遷を学びます。言葉は時代とともに変化しています。言葉の変化とともに文章もまた変化していきます。その変化を文章を表現する技術の変化と並行させながら学んでいきます。

【到達目標】
文章の変化と表現技術の変化を理解する。とくに現在は従来の活版印刷からデジタル技術への転換期にあるので、過去の変化をもとに将来的な変化を想像する手がかりを得ることが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式。授業中に発言を求める場合があります。また映像資料を用いる場合もあります。**Hoppii**を用いて授業の感想を求めます。時にはこちらから質問をする場合もあります。皆さんのお答えの中から必要なものを選び授業時にコメント付きで紹介いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	日本語文章の変化の概略を辿ります。
第2回	原稿用紙について	原稿用紙と活版印刷の関係、現代の日本語の正書法についてお話しします。
第3回	活版印刷の登場	デジタル技術は活版印刷登場以来の革命と言われました。出は活版印刷は何をもたらしたのでしょうか。
第4回	グーテンベルグ登場当時の日本	グーテンベルグが活版印刷を普及した時代は日本の鎌倉時代から室町時代にあたります。日欧の比較をお話しします。
第5回	宗教改革から大航海時代へ。	活版印刷は欧州に新旧のキリスト教による宗教戦争をもたらしました。それが後の大航海時代へとつながります。
第6回	大航海時代と日本の戦国時代。	日本が最初に欧州と出会うのは戦国時代末期です。日本語文章の変化の視点から日本と諸外国との関係を辿り直します。
第7回	ちょっとお休み。毎月の本だな。	毎月1回程度、本を紹介する回をもうけます。同時に私が文学上どのような興味を持っているかをお話しします。
第8回	古代から中世末期までの日本の文章変化 1	中国からの文字（漢字）の輸入から中古の文字の変化（かな、カタカナ）中世の倭館混交文まで大急ぎで振り返ります。
第9回	古代から中世末期までの日本の文章変化 2	漢文と和文の二系統の文章が継続的に存続したことをお話しします。
第10回	古代から沖積末期までの日本の文章変化 3	漢文脈、和文脈の2系統の文章が現代の文章にも影響を与えていることをお話しします。
第11回	町人の文化形成とプレ口語文の時代	近世の出版文化と、近代の口語文の前身となる町人の話言葉を反映させた文章の登場についてお話しします。
第12回	福沢諭吉と口語文の工夫 活版印刷の登場と造本の変化	幕末から明治にかけて膨大な文章を口語文で書いた福沢諭吉についてお話しします。
第13回	樋口一葉は原稿用紙を使っていた。	活版印刷の登場によって、日本語の正書法が変化をしたことをお話しします。
第14回	表現のための技術と文章の関係	最終回はみなさんのご意見をうかがう回といたします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
デジタル技術やネット関連のニュースを新聞などで読んでおいてください。文学作品を読む時、時代背景を考察するようにこころがけてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時にプリントをお渡しします。

【参考書】
授業時に随時お示しします。また「今月の本だな」の項目で新しい本をご紹介します。
「現代の歴史総合 みる・読みとく・考える」 山川出版社 歴総 708 高校教科書 テキスト - 2022/1/1 1310円

【成績評価の方法と基準】
授業への意欲的な参加40パーセント、授業後コメントシートの提出とレポート40パーセント、期末レポート20パーセント

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
小説家。代表作に「海を感じる時」「女ともだち」「楽隊のうさぎ」などがある。実際の創作の観点から授業を行う。

【Outline (in English)】
Course Outline: This lecture surveys the history of written Japanese and transitions in the forms that those written texts have taken.
Learning Objectives: The goal of this lecture is to understand changes in the written language and in techniques for its expression, with a view to anticipating changes that the digital revolution may bring.
Learning Activities Outside of the Classroom: Students should make efforts to keep up with news of new developments in digital techniques, and take care to understand the historical background of literary works that they read.
Grading Criteria/Policy: Grading will be based on: active participation in the class (40%); contents of reaction papers written after each lecture (40%); and an end-of-semester report (20%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文学史 B

中沢 けい

昼間時間帯

授業コード：A2443 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：文芸コースのみ履修可。文学・言語コースの学生は夜間時間帯のみ。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語文章の変化を近代から現代までを技術変化に着目しながら考察します。

【到達目標】

活版印刷から出版文化の隆盛、デジタル技術の登場とそれによる表現の変化について各自が考察できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と質疑応答。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	近代とはどのような時代でしょうか。	文語文から口語文への変化を近代と言う社会背景から概略を説明します。
第2回	産業革命から市民革命と日本の近世 1	欧州で産業革命と市民革命が起きた時代と日本の近世を並行的に考察します。
第3回	産業革命と市民革命と日本の近世 2	欧州に登場した市民と日本の近世に登場した町人の比較を試みます。
第4回	近代口語文の登場	春学期でお話した福沢諭吉の登場がもたらした日本語文章の改革について再度、お話をします。
第5回	近代に登場した数々の表現技術と出版文化。	写真、映画、ラジオなどが登場します。また新聞が社会の中で大きな役割を占めることをお話しします。
第6回	近代の映像を見てみましょう。	HNKで放送された「映像の世紀」から近代初期の映像を視聴します。
第7回	近代のイメージ	受講生の皆さんが近代についてどのようなイメージを持ったのかを質問しながら質疑応答いたします。
第8回	戦争と映画。戦争と新聞、雑誌報道	日清、日露、第一次世界大戦、日中戦争、日米戦争での主要メディアについてお話しします。
第9回	テレビの登場、週刊誌の登場	マスメディアについてお話しします。マスメディアは後に頂上するパーソナルなメディアとの比較を試みます。
第10回	デジタル技術の登場	デジタル技術とインターネットは文章を変化させるのか？この疑問について、現在、考えていることをお話しします。
第11回	世論形成とフェイクニュース	デジタル技術はパーソナルな情報発信を可能にしました。一方で、フェイクニュースの流布などの問題をもたらしたことをお話しします。
第12回	アジア諸国の台頭と新しい比較文学	アジア諸国の経済発展は神話学や物語の比較文学に新しい研究成果をもたらしています。
第13回	大航海時代以来形成された価値観の問い直しと、文章への影響。	大航海時代以来、世界に形成された価値観の構造的な問い直しが進んでいます。価値観の問い直しは文章へどのような影響を与えるのでしょうか。
第14回	これからの文章	これからどのような文章が創造されて行くのか、受講生に皆さんと質疑応答をいたします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

考デジタル技術やネット関連のニュースを新聞などで読んでください。文学作品を読む時、時代背景を考えるように心がけてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントをお渡しします。

【参考書】

授業内の随時ご紹介します。また「今月の本だな」の項目を使って私の興味関心のある本を紹介してゆきます。
現代の歴史総合 みる・読みとく・考える」 山川出版社 歴総 708 高校教科書 テキスト - 2022/1/1 1301円

【成績評価の方法と基準】

授業への意欲的な参加40パーセント、授業後コメントシートの提出とレポート40パーセント、期末レポート20パーセント

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

小説家。代表作に「海を感じる時」「女ともだち」「楽隊のうさぎ」などがある。実際の創作の観点から授業を行う。

【Outline (in English)】

Course Outline: This lecture surveys transitions in the forms that written Japanese texts have taken in the modern and contemporary periods.

Learning Objectives: The goal of this lecture is to understand the boom in print culture brought about by type printing, and the changes and challenges presented by the introduction of digital technology.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students should make efforts to keep up with news of new developments in digital techniques, and take care to understand the historical background of literary works that they read.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on: active participation in the class (40%); contents of reaction papers written after each lecture (40%); and an end-of-semester report (20%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

文章表現論 A

田中 和生

昼間時間帯

授業コード：A2445 | 曜日・時限：火2/Tue.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

書きたいことを自分で見つけ、それを自分の好きなように書く、という新しい文章がはじまることの自由さを味わい、同時にその困難さも理解します。その自由さと困難さを入り口にして、どうしたら自分の言いたいことをうまく言葉にできるのか、日本語による表現を模索し、その延長線上に現れる、詩や物語や批評といった文学的な言葉の使い方を身につけることを目指します。

【到達目標】

まず書きたいことを見つけて文章を書きはじめる、という基本的な構えを身につけて文章に向かうこと。

次にその書きたいことをできるだけ明確に他人に伝える、という自分なりの表現を模索する姿勢を手に入れること。

以上を目標とし、理想としてはそれでもうまく言葉にすることができない、文学的な文章を書くということの自由さと困難さを実感します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

書いてもらった作文を軸にして講義を進めます。作文には毎回フィードバックとして書き込みの指摘と講評を行い、また学生自身が評価をする機会も設けて、作文を書くことと評価されることについて、双方向的に理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文章表現とはなにか	作文の基礎知識について確認します。
第2回	メモと作文	メモを取って作文することを実践します。
第3回	テーマと題名	書きたいことを自分で見つけるとはどういうことかを考察します。
第4回	詩の言葉への触手	散文と詩の違いを理解します。
第5回	書き出しの言葉を待つ	書き出しに注意して作文を実践します。
第6回	作文を評価する（1）	学生自身が他の学生の作文を評価し、よい作文を選ぶという作業を行います。
第7回	具体的に書く	抽象的な書き方の問題について理解を深めます。
第8回	物語の力	小説と物語の違いについて考察を加えます。
第9回	別の角度から考える	客観的な言葉を書くための準備を行ってから作文に取り組みます。
第10回	紋切り型と一般論	自分の言葉を見つけたとはどういうことかを理解します。
第11回	批評性のある文章	批評的な言葉に触れます。
第12回	感情のなかで書く	言葉の力を実感しながら作文することを目指します。
第13回	作文を評価する（2）	学生自身が他の学生の作文を評価し、コメントを交換します。
第14回	書き終わりは突然に	文章の終わりについて考察します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要時応じて指示しますが、とくに2回目以降の作文では事前にテーマを発表して作文の準備をしてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布します。

【参考書】

加藤典洋『言語表現法講義』（岩波書店）、荒川洋治『日記をつける』（岩波現代文庫／岩波アクティブ新書・絶版）をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】

授業中に4回800字程度の作文を書いて提出してもらいます。またおたがいに作文を評価しあう機会が2回あります。作文自体の評価（5割）と、作文へ取り組む姿勢（5割）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

提出される作文に応じ、いつも文章表現とはなにかを考えながら授業に臨んでいます。

【その他の重要事項】

文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして講義し、作文を評価します。

【Outline (in English)】

< Course Outline > Through the exploration of discovering what they want to write and writing it as they like, students experience the freedom of starting a new text and come to understand the difficulties involved in it. With an understanding of both its freedom and difficulties, they will search for phrases in Japanese to express what they want to say effectively, and acquire skill in the use of literary expression within poetry, stories and criticism.

< Learning Objectives > Students learn the basic stance necessary in writing, and learn how to write what they want to write as clearly as possible. This gives them an understanding of the nearly inexpressible freedom and difficulty that literary creation involves.

< Learning Activities Outside of the Classroom > Guidance will be given as necessary, but as a general rule students prepare and give a presentation on the topic of their writing before moving on to its actual creation. Standard preparation and review for this class will take two hours each.

< Grading Criteria/Policy > During the semester students submit four examples of creative writing more than 800 Japanese characters in length. They are then given opportunities to critically review each other's creations. Grading takes into account the creative works themselves (50%) and a comprehensive appraisal of individual students' stance toward literary creation (50%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

文章表現論 A

伊東 祐吏

夜間時間帯

授業コード：A2446 | 曜日・時限：水5/Wed.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人はなぜ文章を書くのか。書くとは、どのような行為なのか。私は、書くことは、自分の考えを表現する手段や技術であるだけでなく、考えるという行為そのものだと考えます。それは、文学（小説や批評）に限らず、学問（論文や研究）にも共通しています。書くことによって、テーマと向き合い、自分自身と対話し、自分の考えを発見する。この授業は、書くことの本質を体験するための習練の場です。書く楽しさと苦しさを全身で味わってください。

【到達目標】

自分の書きたいことを見つける。
自分の文章のスタイルを身につける。
文学や学問についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

生徒が書いた文章をもとに、講義や講評をおこないます。（毎回、課題にコメントをつけて返却する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文章表現とは何か	文章を書くうえでの心得
第2回	メモと設計図	構想の練り方
第3回	書き出しと書き終わり	冒頭と末尾の決め方
第4回	テーマと題名	書く内容と方向性を定める
第5回	文章の呼吸と運動	文章の生命はどこから来るのか
第6回	詩と散文	その性質と違い
第7回	書きやすさと書きにくさ	文章への力の入れ方
第8回	紋切型と一般論	自分だけの言葉を書く
第9回	批評という酵母	批評的要素の働きについて
第10回	読者の想定	人に届く文章のあり方
第11回	物語と小説	両者の違いと関係性
第12回	執筆と感情	執筆時の感情との向き合い方
第13回	熱意と体力	執筆の肉体労働性について
第14回	小説を書く理由	人はなぜ小説を書くのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、おもに事前にテーマを発表して、作文の準備をしてもらいます。（課題の準備には、毎回、数時間を要する。）

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布します。

【参考書】

梅田卓夫・清水良典・服部左右一・松川由博『新作文宣言』（ちくまライブラリー）、加藤典洋『言語表現法講義』（岩波テキストブックス）

【成績評価の方法と基準】

800字程度の作文を4回ほど提出してもらいます。その内容への評価（5割）と取り組む姿勢（5割）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

新規につき該当なし

【Outline (in English)】

Basic practice for writing novels, criticism, and essays.

Course Outline: Why do people write? What kind of act is writing? I believe that writing is not only a means or technique of expressing one's thoughts, but also the act of thinking itself. This is true not only of literature (novels and criticism) but also of academia (essays, papers and research). Through writing, students confront their themes, interact with themselves, and discover their own ideas. This class is a place to learn to experience the essence of writing. Experience the joy and pain of writing with your whole body.

Learning Objectives: Students who successfully complete this course will: 1. discover what they want to write; 2. develop their own writing style; and 3. deepen their understanding of literature and scholarship.

Learning Activities Outside of the Classroom:

Students will be given instructions as needed, but mainly they will be asked to prepare essays after having presented a theme in advance. (Preparation of the assignment will take several hours each time.)

Grading Criteria/Policy: Students will be asked to submit four 800-word essays. The overall evaluation will be based on the evaluation of their content (50%) and the effort that went into their preparation (50%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

文章表現論 B

田中 和生

昼間時間帯

授業コード：A2447 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分がよく知っていることを正確に書く困難さと、その内容に限界があることを理解し、知らないことやフィクションを交えた文章を書く自由さを体験します。そうして知っていることだけを書く文章と知らないことを交えた文章の違いに注意することで、フィクションとして自分が書きたいことはどんなことなのか、自らの主題を深く模索することを目指します。

【到達目標】

まずよく知らないことを交えた内容を、知っていることだけを書いた文章であるかのように書くこと。

次にそうでなくては明確に他人に伝える文章で書けないこと、むしろ書きやすいものがあるということを知ること。

以上を目標とし、主に小説の歴史を参照しながらフィクションの自由さについて理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

書いてもらった作文を軸にして講義を進めます。作文には毎回フィードバックとして書き込みの指摘と講評を行い、また学生自身が評価する機会も設けて、作文を書くことと評価されることについて、双方向的に理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	フィクションと事実	文章表現の本質について考察を加えます。
第2回	他人になりきって書く	事実を離れて作文することを実践します。
第3回	細部まで想像する	文章が真実らしくなる条件について考察します。
第4回	一人称と三人称	人称から小説の文章について分析します。
第5回	スピードを落とす	客観的な言葉を選ぶことを目指して作文を書きます。
第6回	フィクションを評価する (1)	学生自身が他の学生の作文を評価し、コメントを交換します。
第7回	フィクションの真実	知っていることを書くとはどういうことかを考察します。
第8回	描写と「もの」	リアリズムという視点から小説の歴史をふり返ります。
第9回	声を合わせる	他人の言葉で書くことを実践します。
第10回	主観と客観のあいだ	読者にとってリアリティのある文章とはどういうものか考察します。
第11回	衣装としての文章	引用と参照による文学史を構想します。
第12回	知らない人に向かって書く	引用と参照を行った作文を実践します。
第13回	フィクションを評価する (2)	学生自身が他の学生の作文を評価し、よい作文を選ぶという作業を行います。
第14回	時間を流す	散文的芸術の本質について考察を加えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに作文では事前にテーマを発表して作文の準備をしてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布します。

【参考書】

村上春樹『若い読者のための短編小説案内』（文春文庫）、高橋源一郎『一億三千万人のための小説教室』（岩波新書）をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】

授業中に4回800字程度の作文を書いて提出してもらいます。またおたがいに作文を評価しあう機会が2回あります。作文自体の評価（5割）と、作文へ取り組む姿勢（5割）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

提出される作文に応じ、いつも文章表現とはなにかを考えながら授業に臨んでいます。

【その他の重要事項】

文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして講義し、作文を評価します。

【Outline (in English)】

< Course Outline > Students will come to understand the difficulty of writing what they know well precisely and the limitations on the content if they do so, and experience the freedom of writing what they don't know about, while incorporating fictional elements. With an understanding of the differences between writing about what they know and what they don't know, they will be able to explore their own subject matter deeply, and come to a realization as to what they really want to write as fiction.

< Learning Objectives > Students should first write about things with content that they do not know much about, as if they were writing only about things that they know well. Secondly, by doing so they learn that otherwise it is not possible to write in a way that clearly communicates content to others, and that some things are easier to write than others. With these goals in mind, they will deepen their understanding of the freedom of fiction, with reference to historical examples of successful novels.

< Learning Activities Outside of the Classroom > Guidance will be given as necessary, but as a general rule students prepare and give a presentation on the topic of their writing before moving on to its actual creation. Standard preparation and review for this class will take two hours each.

< Grading Criteria/Policy > During the semester students submit four examples of creative writing more than 800 Japanese characters in length. They are then given opportunities to critically review each other's creations. Grading takes into account the creative works themselves (50%) and a comprehensive appraisal of individual students' stance toward literary creation (50%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

文章表現論 B

伊東 祐吏

夜間時間帯

授業コード：A2448 | 曜日・時限：水5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人はなぜ文章を書くのか。書くとは、どういう行為なのか。私は、書くことは、自分の考えを表現する手段や技術であるだけでなく、考えるという行為そのものだと考えます。それは、文学（小説や批評）に限らず、学問（論文や研究）にも共通しています。書くことによって、テーマと向き合い、自分自身と対話し、自分の考えを発見する。この授業は、書くことの本質を体験するための習練の場です。書く楽しさと苦しさを全身で味わってください。

【到達目標】

自分の書きたいことを見つける。
自分の文章のスタイルを身につける。
文学や学問についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

生徒が書いた文章をもとに、講義や講評をおこないます。（毎回、課題にコメントをつけて返却する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「書く」までのアプローチ	その道のりと空白を楽しむ
第2回	「書く」ことの楽しみ	書くなかでの発見を待つ
第3回	「読む」と「書く」	自分の読書方法を点検する
第4回	疑問を育てる	論点の見極めとテーマの設定
第5回	論を書く	学問の仕組みを知る
第6回	学問と文学	「頭のよさ」と「頭の強さ」の違い
第7回	描写と比喻	言葉による描写の特徴
第8回	事実とフィクション	両者の違いと共通点
第9回	リアリティの正体	人は文章のどこに真実味を感じるか
第10回	一人称と三人称	人称と小説の関係
第11回	フィクションの力	その必要性と可能性
第12回	小説への道のり	「私」ではない人物として文章を書く
第13回	取材と調査	書き手に必要な準備とは
第14回	オリジナルと模倣	独創への近道と回り道

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、おもに事前にテーマを発表して、作文の準備をしてもらいます。（課題の準備には、毎回、数時間を要する。）

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布します。

【参考書】

村上春樹『若い読者のための短編小説案内』（文春文庫）、井上ひさし『自家製文章読本』（新潮文庫）

【成績評価の方法と基準】

800字程度の作文を4回ほど提出してもらいます。その内容への評価（5割）と取り組む姿勢（5割）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

新規につき該当なし

【Outline (in English)】

Basic practice for writing novels, criticism, and essays.

Course Outline: Why do people write? What kind of act is writing? I believe that writing is not only a means or technique of expressing one's thoughts, but also the act of thinking itself. This is true not only of literature (novels and criticism) but also of academia (essays, papers and research). Through writing, students confront their themes, interact with themselves, and discover their own ideas. This class is a place to learn to experience the essence of writing. Experience the joy and pain of writing with your whole body.

Learning Objectives: Students who successfully complete this course will: 1. discover what they want to write; 2. develop their own writing style; and 3. deepen their understanding of literature and scholarship.

Learning Activities Outside of the Classroom:

Students will be given instructions as needed, but mainly they will be asked to prepare essays after having presented a theme in advance. (Preparation of the assignment will take several hours each time.)

Grading Criteria/Policy: Students will be asked to submit four 800-word essays. The overall evaluation will be based on the evaluation of their content (50%) and the effort that went into their preparation (50%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸批評史A

伊東 祐吏

授業コード：A2553 | 曜日・時限：金4/Fri.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近代文学における文芸批評の歴史を、個々の文芸評論家の文章と批評自体の流れから概観します。

【到達目標】

近代文学における批評の役割を理解すること。
日本の近代文学史を相対化する視点を手に入れること。
自らのうちに一つの批評眼を確立すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と発表を組み合わせて進めます。

講義では、評論文を読みながら、文学史における批評の流れについて解説します。

発表では、課題を出して、自分の考えを述べたり文章を書いたりしてもらい、感想やコメントを返します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本の近代文学の概説	前史と西洋近代文学の影響
第2回	批評とは何か	その特徴について
第3回	坪内逍遙と二葉亭四迷	日本の近代文学のはじまり
第4回	尾崎紅葉と幸田露伴	その後の文学の展開
第5回	森鷗外の評論	坪内逍遙との論争
第6回	北村透谷の批評	山路愛山との論争
第7回	高山樗牛の評論	作品と若者への影響について
第8回	斎藤緑雨の箴言	風刺と皮肉の効用
第9回	正岡子規の歌論	短歌・俳句と写生文
第10回	自然主義の誕生	国木田独步、島崎藤村、田山花袋
第11回	言文一致運動	その過程の論争
第12回	反自然主義	自然主義と違う立場の作家
第13回	平塚雷鳥と与謝野晶子	女性解放運動をめぐる批評
第14回	大逆事件	石川啄木や徳富蘆花の評論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本近代文学史についての専門的知識は特に必要ありませんが、自分のテーマや目標に応じて、授業でとりあげる作家や評論家の作品を読むことが望まれます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選』[明治・大正篇] および[昭和篇]（岩波文庫）。（ただし、入手困難のため、毎回プリントを配布します。）

【参考書】

必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は平常点5割、発表（課題）5割で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アクティブラーニングの時間をなるべく増やします

【Outline (in English)】

Acquire an overview of the history of literary criticism in the Japanese modern literature through the writings of each critic and the stream of criticism.

Course Outline: This course provides an overview of the history of literary criticism in modern Japanese literature, in terms of both the writings of individual literary critics and the criticism itself.

Learning Objectives: Students who successfully complete this course will: 1. understand the role of criticism in modern literature; 2. gain a relative perspective on the history of modern Japanese literature; and 3. develop their own critical eye.

Learning Activities Outside of the Classroom: Although specialized knowledge of the history of modern Japanese literature is not required, students are encouraged to read the works of authors and critics discussed in class according to their own interests and goals.

Grading Criteria/Policy: Grades will be based on a comprehensive evaluation, with 50% for regular work and 50% for presentations (assignments).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸批評史B

伊東 祐吏

授業コード：A2555 | 曜日・時限：金4/Fri.4
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近代文学における文芸批評の歴史を、個々の文芸評論家の文章と批評自体の流れから概観します。

【到達目標】

近代文学における批評の役割を理解すること。
日本の近代文学史を相対化する視点を手に入れること。
自らのうちに一つの批評眼を確立すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と発表を組み合わせて進めます。
講義では、評論文を読みながら、文学史における批評の流れについて解説します。
発表では、課題を出して、自分の考えを述べたり文章を書いたりしてもらい、感想やコメントを返します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大正・昭和期の文学の概説	20世紀の西洋文学との比較
第2回	夏目漱石の批評	文明批評について
第3回	和歌と漢文	日本人の文化的喪失について
第4回	白樺派	武者小路実篤の作品と批評
第5回	佐藤春夫と印象批評	菊池寛との論争
第6回	谷崎潤一郎と芥川龍之介	純文学と通俗小説に関する論争
第7回	プロレタリア文学と新感覚派	関東大震災後の新たな潮流
第8回	小林秀雄の批評	日本における近代文芸批評の確立
第9回	戦時下の文学と言論	日本浪漫派と文学報国会
第10回	敗戦と占領下の批評	終戦直後の状況について
第11回	坂口安吾と太宰治	無頼派の批評や作品について
第12回	「政治と文学」論争	「近代文学」と中野重治の論争
第13回	吉本隆明と江藤淳	戦後を代表する左派と右派の思想
第14回	ポストモダンとその後	柄谷行人と加藤典洋について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本近代文学史についての専門的知識は特に必要ありませんが、自分のテーマや目標に応じて、授業でとりあげる作家や評論家の作品を読むことが望まれます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選』[明治・大正篇] および [昭和篇]（岩波文庫）。（ただし、入手困難のため、毎回プリントを配布します。）

【参考書】

必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は平常点5割、発表（課題）5割で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アクティブラーニングの時間をなるべく増やします

【Outline (in English)】

Acquire an overview of the history of literary criticism in the Japanese modern literature through the writings of each critic and the stream of criticism.

Course Outline: This course provides an overview of the history of literary criticism in modern Japanese literature, in terms of both the writings of individual literary critics and the criticism itself.

Learning Objectives: Students who successfully complete this course will: 1. understand the role of criticism in modern literature; 2. gain a relative perspective on the history of modern Japanese literature; and 3. develop their own critical eye.

Learning Activities Outside of the Classroom: Although specialized knowledge of the history of modern Japanese literature is not required, students are encouraged to read the works of authors and critics discussed in class according to their own interests and goals.

Grading Criteria/Policy: Grades will be based on a comprehensive evaluation, with 50% for regular work and 50% for presentations (assignments).

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

日本言語学特殊研究A

田嶋 圭一

授業コード：A2557 ｜ 曜日・時限：火2/Tue.2
春学期授業/Spring・2単位 ｜ 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは、ことばを無意識に、かつ流暢に使いこなします。しかしそこには大変複雑な知識が潜んでいます。本授業では、その言語に関わる知識の解明に迫る言語学について概観します。春学期では、言語学の中でも特に「単語」や「文」の構造を扱う形態論・統語論を中心に授業を進めます。身近な日本語や英語からたくさん例を挙げながら、言語学の基礎概念を初歩から学びます。

【到達目標】

単語の内部構造や新しい単語を作り出す仕組み（形態論）、単語から句や文を作り出す仕組み（統語論）について学び、その枠組みが日本語や英語などの諸言語にどのように当てはまるかを具体例を通して理解し、問題を解く能力を身に付けることを授業の目標とします。授業を通して、無意識に使っている言語の背後にある原理を意識化し、言語に対する観察力を磨くことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式ですが、個別あるいはグループで問題を解く作業なども交えて授業を進めます。課題やテストに関するフィードバックを授業中または学習支援システムを利用して返します。また、学生からの質問やコメントのいくつかを、次の授業スライドの末尾に回答とともに掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入、言語と言語学	シラバスの説明、言語とは、「真の言語」の特徴
第2回	言語知識	2種類の言語、言語に関する様々な知識、言語学の諸分野
第3回	形態論への導入	心内辞書と一般辞書、形態論と形態素、形態素の種類
第4回	語形成過程（1）：様々な語形成過程	語形成過程の種類、偶発的な語形成、少し規則的な語形成、規則性の高い語形成：複合
第5回	語形成過程（2）：複合、派生	複合語の意味、主要部の考え方、派生語
第6回	語形成過程（3）：派生、転換、屈折	複雑な派生語の構造、語の樹形図、転換、屈折・活用
第7回	中間テスト、形態素解析（1）、異形態	形態素解析の方法と練習問題、異形態とは
第8回	形態素解析（2）、語彙範疇、格	形態素解析の練習問題つづき、日英語の語彙範疇格とその種類
第9回	統語論（1）：導入	構成素、句構造、句の主要部
第10回	統語論（2）：カテゴリー、意味役割、マージ	言語の階層構造、文を作り上げるための材料：カテゴリー、項と意味役割、文を組み立てる仕組み：マージ、様々な種類の句
第11回	統語論（3）：文の組み立て	英語の文・日本語の文の組み立て、VPの組み立て、屈折辞と格、一般的な句の構造
第12回	統語論（4）：補文	VPの拡張、補部と指定部、文の中の文＝補文
第13回	統語論（5）：補文つづき、授業のまとめ	課題の復習、授業のまとめ
第14回	期末テスト、授業の振り返り	授業内容の理解度を確認するための授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにアップされた資料を読んだり、動画を視聴したり、授業後に課題に取り組んだり内容を振り返ったりすることで、毎回の授業の予習・復習を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。レジュメ等を授業支援システム経由で配布します。

【参考書】

参考書として以下を挙げておきます。

西光 義弘（編集）（1999）、『日英語対照による英語学概論：増補版』くろしお出版。

上山 あゆみ（1991）、『はじめての人の言語学 ―ことばの世界へ―』くろしお出版。

星 浩司（2006）、『言語学への扉』慶應義塾大学出版会。

大津 由紀雄・池内 正幸・今西 典子・水光 雅則（編）（2002）、『言語研究入門 ―生成文法を学ぶ人のために―』研究社。

Fromkin, V., Rodman, R., & Hyams, N. (2003). *An Introduction to Language*, 7th edition. Boston: Heinle.

Tserdanelis, G. & Wong, W. Y. P. (2004). *Language Files*, 9th edition. Ohio State University Press.

【成績評価の方法と基準】

平常点・課題25%、中間テスト25%、期末テスト50%の割合で評価します。言語学は知識だけでなく問題を解く能力が要求されるので独学は困難です。また、積み重ねの要素が大きく、授業を休むとその後の内容が分からなくなります。毎回授業に参加し、授業外でも概念の習得や問題を解く作業に時間を掛ける心づもりでいてください。また、課題や中間テストを通して、内容の理解度チェックをこまめに行ってください。原則として、正当な理由なく4回を超えて授業を欠席した場合、または期末テストを未受験の場合は単位が授与されないものとします。

【学生の意見等からの気づき】

回答者11名のうち、全員が「履修してよかった」「工夫されていた」、9名（82%）が「理解できた」と回答してくれました。受講生数が例年より少なかったぶん受講生の理解度や反応などに合わせて進められたのがよかったのかもしれませんが。授業外学習時間については「1～2時間」が9名でした。「毎週の課題や授業内の練習問題で知識の確認をする機会があったので、テスト前に焦ることなく取り組むことが出来て良かった」「レジュメやプリントがあらかじめ公開されていたため、授業の準備がしやすかった」「スライドや講義動画など自分で復習する際の資料が豊富だった」などポジティブなコメントをたくさんいただきました。一方、「宿題の確認に時間をかけすぎて、授業本体が駆け足になってしまうこともあった」「スモールステップの積み重ねが重視されるあまり、全体像が掴みづらかった」といった改善点もご指摘いただきました。今後に役立てたいと思います。

【その他の重要事項】

授業の内容や運営方法の詳細について説明しますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces students to the field of linguistics, the scientific study of language. The spring semester focuses on examining the structure of words (morphology) and phrases and sentences (syntax).

【Learning objectives】

Through this course, students should be able to understand the basic principles of morphology and syntax, and develop problem-solving skills. They should be able to develop greater awareness of language-related phenomena and problems in their daily lives.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to study the assigned materials, work on homework assignments, and prepare for the next class. The standard study time required before and after each class is 4 hours total.

【Grading criteria/policy】

Your overall grade will be determined based on class participation and homework (25%), midterm test (25%), and final test (50%). As a rule, if you are absent for more than 4 classes or neglect to take the final test without a legitimate reason, course credit will not be granted.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

日本語学特殊研究B

田嶋 圭一

授業コード：A2559 | 曜日・時限：火2/Tue.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは、ことばを無意識に、かつ流暢に使いこなします。しかしそこには大変複雑な知識が潜んでいます。本授業では、その言語に関わる知識の解明に迫る言語学について概観します。秋学期では、言語学の中でも特に言語の「音」を扱う音声学・音韻論を中心に授業を進めます。身近な日本語や英語からたくさん例を挙げながら、言語学の基礎概念を初歩から学びます。

【到達目標】

言語学の中でも特に言語の「音」を扱う音声学・音韻論の基礎的枠組みを学び、その枠組みが日本語や英語などの諸言語にどのように当てはまるかを具体例を通して理解し、問題を解く能力を身に付けることを授業の目標とします。授業を通して、無意識に使っている言語の背後にある原理を意識化し、言語に対する観察力を磨くことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式ですが、個別あるいはグループで問題を解く作業やコメントシートを作成する作業なども交えて授業を進めます。課題やテストに関するフィードバックを授業中または学習支援システムを利用して返します。また、学生からの質問やコメントのいくつかを、次の授業スライドの末尾に回答と共に掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入、音声学と音韻論	シラバスの説明、音声学と音韻論の違い
第2回	音声学への導入、発話のメカニズム	音声学とは、発話のメカニズム、音声器官、音声学的直観を磨く：母音
第3回	母音	母音の調音的記述・有標性、音声学的直感を磨く：子音
第4回	子音	子音の調音的記述・有標性、自然音類
第5回	言語音を書き起こす方法	日本語の音素表記と音声表記
第6回	日本語の発音	長音、促音、撥音、ガ行鼻音化、母音無声化など
第7回	中間テスト、音韻論への導入、音素	音と意味との関係、音素、ミニマルペア、音素設定の基準：重複分布・相補分布、音声的類似性、音素分析
第8回	日本語の音韻変化	撥音の同化、ハ行音の同化、母音の融合・交替、連濁など、音素分析の練習問題
第9回	音象徴	音象徴、オノマトペ、音素分析の練習問題つづき
第10回	言葉のリズム	日本語のリズム、モーラ、英語のリズム、音節
第11回	アクセント（1）	アクセントとは、東京方言のアクセント、アクセントの規則と表記法
第12回	アクセントとイントネーション	アクセントの方言差、イントネーションとは
第13回	アクセント（2）、まとめ	複合語のアクセント、授業のまとめ
第14回	期末テスト、総括	理解度評価のための試験、授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにアップされた資料を読んだり、動画を視聴したり、授業後に課題に取り組んだり内容を振り返ったりすることで、毎回の授業の予習・復習を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。レジュメ等を学習支援システムから配布します。

【参考書】

参考書として以下を挙げておきます。
西光 義弘（編集）（1999）.『日英語対照による英語学概論：増補版』くろしお出版.
上山 あゆみ（1991）.『はじめての人の言語学 ―ことばの世界へ―』くろしお出版.
星 浩司（2006）.『言語学への扉』慶應義塾大学出版会.
大津 由紀雄・池内 正幸・今西 典子・水光 雅則（編）（2002）.『言語研究入門 ―生成文法を学ぶ人のために―』研究社.

Fromkin, V., Rodman, R., & Hyams, N. (2003). *An Introduction to Language, 7th edition*. Boston: Heinle.
Tserdanielis, G. & Wong, W. Y. P. (2004). *Language Files, 9th edition*. Ohio State University Press.

【成績評価の方法と基準】

平常点・課題25%、中間テスト25%、期末テスト50%の割合で評価します。言語学は知識だけでなく問題を解く能力が要求されるので独学は困難です。また、積み重ねの要素が大きく、授業を休むとその後の内容が分からなくなります。毎回授業資料を利用して内容理解に努めてください。原則として、正当な理由なく4回を超えて課題が未提出の場合、または期末試験を未受験の場合は単位が授与されないものとします。

【学生の意見等からの気づき】

回答者8名のうち、全員が「工夫していた」「履修してよかった」、5名が「理解できた」と回答してくれました。例年に比べて理解度がやや低下したのが残念でしたが、今後は特にこの点に注意して授業を行いたいと思います。テスト/アンケートでの毎回の課題は提出後にすぐにフィードバックが返ってくるので理解度チェックに役立った、レジュメに加えて講義動画や授業スライドが公開されていたので授業が分からないまま終わっても自分で復習することができた、適宜グループワークや個別に問題を解く時間があつたので理解が促進された、といったコメントをいただきました。一方、専門用語が多くて覚えるのが大変だった、課題が少し難しかった、といった意見もありました。これらの点をどのように改善できるか、検討したいと思います。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course introduces students to the field of linguistics, the scientific study of language. The fall semester focuses on examining the sounds of language and how they are produced (phonetics) and organized (phonology).

[Learning objectives]

Through this course, students should be able to understand the basic principles of phonetics and phonology, and develop problem-solving skills. They should be able to develop greater awareness of language-related phenomena and problems in their daily lives.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to study the assigned materials, work on homework assignments, and prepare for the next class. The standard study time required before and after each class is 4 hours total.

[Grading criteria/policy]

Your overall grade will be determined based on class participation and homework (25%), midterm test (25%), and final test (50%). As a rule, if you are absent for more than 4 classes or neglect to take the final test without a legitimate reason, course credit will not be granted.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

中国文芸史A

遠藤 星希

授業コード：A2561 | 曜日・時限：木2/Thu.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【先秦・漢・魏・晋・南北朝文芸史】

中国文芸史における時代区分のうち、最も古い先秦・漢・魏・晋・南北朝時代（すなわち唐より前の時代）の文芸及びその土壌となった社会背景について講義をする。中国の古典文学といえば、おそらく唐詩（李白や杜甫、白居易などの詩）が日本にとって最も馴染み深いものの一つといえるだろうが、その唐詩を生み出す源泉となった唐より前の時代の文芸がどのようなものであったのかを学ぶ。

【到達目標】

先秦時代から南北朝時代までの文芸史のアウトラインを理解すること。また、各時代の代表的な文学作品を読解することを通して、中国文芸の様々なジャンルについて広く学び、同時に作品の背景にある中国文化や民間習俗、日本文化との違いについても確認すること。加えて、中国の古い文献を読解したり探したりする際に利用すべき基本資料を把握することなどを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行う。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映す。毎回簡単な課題を出し、学習支援システム上で提出してもらう（同時に質問も受けつける）。課題や質問に対するフィードバックは、次週の授業の冒頭に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	中国古典文学についての概説
第2回	中国神話	中国の古代神話とその特徴について
第3回	詩経	中国最古の歌謡集である『詩経』の歌謡を読む
第4回	楚辞	戦国時代の楚の地方で発祥した韻文『楚辞』の諸篇を読む
第5回	諸子百家	戦国時代の諸子百家の思想書を読む
第6回	漢代の楽府	「楽府」と呼ばれる民間歌謡を読む
第7回	漢代の賦と『史記』	漢代に盛行した「賦」と呼ばれる文学ジャンルと司馬遷の『史記』から、漢代の人々の世界観をさぐる
第8回	漢代の古詩	漢代に発祥した五言詩を読む
第9回	西晋の文学（1）	西晋の代表的文人である潘岳の悼亡詩を読む
第10回	西晋の文学（2）	西晋の左思が自分の娘を詠んだ「嬌女の詩」を読む
第11回	六朝志怪小説（1）	六朝時代に数多く記された怪異譚「志怪小説」についての概説
第12回	六朝志怪小説（2）	志怪小説中に見える異類婚姻譚を読む
第13回	陶淵明の詩賦と南朝の艶詩	東晋の陶淵明の作品と、南朝で流行した「艶詩」と呼ばれるジャンルの詩を読む
第14回	南朝の民歌	南朝の民間歌謡に見える恋の歌を読む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマと内容について、授業前にあらかじめ参考書に目を通して大まかなイメージを掴んでおく。時間がなければ、インターネットの検索サイトを利用して、授業のテーマに関連するサイトをなるべく多く閲覧しておく。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイル化されたものが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業開始時に配布する。

【参考書】

・前野直彬編『中国文学史』（東京大学出版会、1975年）
・松原朗・佐藤浩一・児島弘一郎著『教養のための中国古典文学史』（研文出版、2009年）
その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100%学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則として学期末試験の受験資格を失う。なお、出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数を受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容の一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course Outline: Amongst other periods in the history of Chinese literature, this lecture course will focus on the literature and the underlying social background of the most ancient periods, from Pre-Qin to Han, Wei, Jin, and Northern and Southern dynasties (i.e., periods before the Tang dynasty). As far as Chinese classical literature goes, Tang poetry (the poetry of Li Bai, Du Fu and Bai Juyi) is arguably one of the most familiar genres for the Japanese, and in this course we will learn about the characteristics of literature of periods prior to the Tang dynasty, which formed the foundation for the creation of Tang poetry.

Learning Objectives: By the end of the course, students will:

- A. understand the outline of the history of literature from the Pre-Qin Dynasty to the Northern and Southern Dynasties;
- B. have knowledge of the various genres of Chinese literature through reading representative literary works of each period, and at the same time understand the background of Chinese culture, folk customs, and differences with Japanese culture; and
- C. have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Term-end examination (100%)

LIT200BC (文学 / Literature 200)

中国文芸史A

吉井 涼子

夜間時間帯

授業コード：A2562 | 曜日・時限：月6/Mon.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

先秦時代の有名な書物や親しみのある故事成語の典拠などを用い、比較的短文のものやシンプルな構造のものから読み始めることで、漢文（古典中国語）の訓読法の基礎を学習する。当時の文化や習俗も合わせて学んでいく。

【到達目標】

漢文の基礎構造を学び、訓読の手法を理解する。

有名な文獻や故事成語の典拠、エピソードなどを読むことで、古代中国の歴史・文化に対する知識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。調点（句読点・返り点・送り仮名）を付した漢文資料をテキストとして配布し、文の構造を解説しながら精読する。読解に必要な時代背景や古代中国の文化に関する知識も、適時解説する。毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味・方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。授業計画各回の「内容」にあるものは主として取り扱うものであり、適宜加える可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容及び採点方法などの説明をする。また、先秦時代についての概要を学習する。
第2回	『論語』を読む	為政篇を中心に学ぶ。
第3回	『孟子』を読む	梁惠王上から「五十歩百歩」などの出典の部分などを読む。
第4回	『詩経』を読む	中国の現存最古の歌謡集である『詩経』について知る。
第5回	『莊子』を読む	『莊子』は寓意的な話の宝庫である。斉物論から「夢に胡蝶となる」の話を、応帝王から「混沌の死」を読み解く。
第6回	『淮南子』を読む	『淮南子』人間から「塞翁が馬」の故事を読む。
第7回	『春秋左氏伝』を読む	『春秋』と『春秋左氏伝』の違いについて解説し、「不及黄泉、無相見也」の故事を知る。
第8回	『史記』越世家を読む（1）	「臥薪嘗胆」の故事で有名な『史記』越世家を読む。
第9回	『史記』越世家を読む（2）	「呉越同舟」でも知られる呉と越の争いを読む。
第10回	『史記』越世家を読む（3）	呉と越が、どのような結末を迎えるかを知る。
第11回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む（1）	当時の中国の歴史状況を解説しつつ、「完璧」の故事の部分を読む。
第12回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む（2）	「完璧」の故事の部分の結末を読む。
第13回	復習と総括	改めて、漢文の基礎構造や初歩的な訓読方法を復習する。
第14回	試験・まとめと解説	授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配られたテキストには必ず予習を行うこと。

予習には漢和辞典・漢字辞典が必須となる。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業時に配布するプリントをテキストとする。

【参考書】

三省堂『全訳 漢辞海』（漢和辞典）

高校時代に使用した国語便覧など。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を30%、期末考査の点数を70%として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は、漢文訓読を通じて行う。中国・台湾などからの留学生の方には難解な技法かと思うが、この点にご留意の上で受講を決めるようにしていただきたい。

1 回ごときちゃんと理解ができるよう、授業はゆるやかなペースで行う。

【学生が準備すべき機器他】

・できれば紙のものが望ましいが、アプリ等でも構わないので漢和辞典

・高校国語の副教本(便覧・要覧)

など。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this class, we learn how to read classical Chinese using familiar stories. We start with simple and short passages from famous books of the pre-Qin Dynasty, carefully reading them while touching on Chinese culture and stories, in order to cultivate basic skills in reading classical Chinese.

Learning Objectives: Students will learn the basic structures of classical Chinese and gain an understanding of the *kundoku* method for reading Chinese in literary Japanese. They will also deepen their knowledge of the history and culture of ancient China by reading famous works of literature, historical stories and episodes.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students should prepare by examining the materials distributed in advance. Chinese-Japanese dictionaries and Chinese character dictionaries are necessary for preparation (printed versions preferable, but apps may be used). The preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: A general grade based on contents of regular reaction papers and short assignments (70%), and a final examination (30%). Attendance is assumed.

Lecture format: Chinese materials with *kunten* (punctuation marks, *kaeriten*, *okurigana*) are distributed as texts and we read them carefully as I explain the structure of the sentences. I will also explain the historical background necessary for reading and knowledge of ancient Chinese culture in a timely manner. In each class, you will submit a reaction paper or sub-assignment, which checks the students' understanding and interests, and I will explain the sections and questions that need to be supplemented in the next class. The "contents" of each lesson plan may be added to as appropriate. In addition to dictionaries, high school supplementary textbooks will also be of use.

Remarks for International Students: This class is conducted through *kundoku*, a method for reading ancient Chinese in literary Japanese. I think that it may be difficult for international students from China, Taiwan, etc., but please pay attention to this point before deciding to take the course. Classes are held at a gentle pace.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

中国文芸史B

遠藤 星希

授業コード：A2563 | 曜日・時限：木2/Thu.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【唐代文芸史】

中国文芸史における時代区分のうち、日本文学への影響力がとりわけ強かった唐代の文芸及びその土壌となった社会背景について講義をする。中国の古典文学といえば、おそらく唐詩（李白・杜甫・白居易などの詩）が日本にとって最も馴染み深いものの一つといえるだろうが、唐代の文芸ジャンルは詩だけではなく、「伝奇」と呼ばれる小説や韓愈・柳宗元らの散文も文芸史上において重要な意義を持っている。本授業では、唐代各期の様々なジャンルの文学作品を読解することを通して、唐代に書かれた詩や小説・散文の多様性、現代にも通じるその芸術性及び現代では理解しがたい特殊性などについて、幅広い知識を習得する。

【到達目標】

唐代文芸史のアウトラインを理解すること。また、唐詩の形式的特徴（絶句・律詩など）や内容的特徴（辺塞詩・閨怨詩・送別詩など）及び唐代に書かれた小説や散文の特徴について、具体例に即して人に説明できるようになること。加えて、中国の古い文献を読解したり探したりする際に利用すべき基本資料を把握することなどを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行う。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映す。毎回簡単な課題を出し、学習支援システム上で提出してもらう（同時に質問も受けつける）。課題や質問に対するフィードバックは、次の授業の冒頭に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（1）	唐代文学についての概説
第2回	ガイダンス（2）	中国古典詩における諸々の規則についての概説
第3回	初唐の詩	初唐の代表的な詩人の作品を読む
第4回	辺塞詩	辺境地帯の風物や出征兵士の嘆きを詠じた「辺塞詩」というジャンルの詩について
第5回	閨怨詩	愛の喪失を嘆く女性の姿を詠じた「閨怨詩」というジャンルの詩について
第6回	盛唐の詩（1）	中国を代表する詩人であり、「詩仙」とも呼ばれる李白の詩を読む
第7回	盛唐の詩（2）	中国を代表する詩人であり、「詩聖」とも呼ばれる杜甫の詩を読む
第8回	唐代伝奇小説（1）	唐代に書かれた「伝奇」と呼ばれる短篇小説についての概説
第9回	唐代伝奇小説（2）	中国では散逸し、日本に渡って生き残った伝奇「遊仙窟」を読む
第10回	唐代伝奇小説（3）	中島敦「山月記」の粉本として知られる伝奇「李徴」を読む
第11回	唐代伝奇小説（4）	芥川龍之介による翻案で知られる伝奇「杜子春」を読む
第12回	中唐の詩	中唐の代表的な詩人である韓愈・柳宗元・李賀の詩を読む
第13回	唐代古文運動	中唐期に勃興した古文復興運動について概説し、あわせて韓愈と柳宗元の散文を読む
第14回	晩唐の詩	晩唐期の代表的な詩人である杜牧と李商隠の詩を読む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマと内容について、授業前にあらかじめ参考書に目を通して大まかなイメージを掴んでおく。時間がなければ、インターネットの検索サイトを利用して、授業のテーマに関連するサイトをなるべく多く閲覧しておく。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイル化されたものが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業開始時に配布する。

【参考書】

- ・前野直彬編『中国文学史』（東京大学出版会、1975年）
- ・小川環樹著『唐詩概説』（岩波文庫、2005年）
- ・松原朗・佐藤浩一・児島弘一郎著『教養のための中国古典文学史』（研文出版、2009年）
- その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100％学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話だけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

- ・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
- ・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則として学期末試験の受験資格を失う。なお、出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数は受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
- ・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容の一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course Outline: Amongst other periods in the history of Chinese literature, this lecture course will be focus on the literature and the underlying social background during the Tang dynasty, when there was a particularly strong influence on Japanese literature. As far as Chinese classical literature goes, Tang poetry (the poetry of Li Bai, Du Fu and Bai Juyi) is arguably one of the most familiar genres for the Japanese. Poetry, however, was not the only literary genre of the Tang, and novels called *chuan-qi* as well as the prose of Han Yu and Liu Zongyuan are particularly noteworthy in the history of Chinese literature. In this course, through reading literary works of various genres from each period during the Tang, we will attain broad knowledge of the diversity of poetry, novels and prose written during the Tang dynasty, their artistry that can be appreciated today, as well as peculiarities that are difficult to understand today.

Learning Objectives: By the end of the course, students will:

- A. understanding the outline of Tang-Dynasty literary history;
- B. understand the form and content of Tang poetry and the characteristics of novels and prose written in the Tang Dynasty; and
- C. have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Term-end examination (100%)

LIT200BC (文学 / Literature 200)

中国文芸史B

吉井 涼子

夜間時間帯

授業コード：A2564 | 曜日・時限：月6/Mon.6

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

親しみのある歴史上人物の話をテキストとして用い、漢文（古典中国語）訓読の基礎を学習する。
当時の中国文化・歴史に触れつつ長文を精読し、漢文読解のための基礎力を高める。

【到達目標】

漢文の基礎構造を学び、訓読のスキルを習得する。
有名な故事成語の典拠や書物、エピソードを用いることで、古代中国の歴史・文化に対する広い視野を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。調点（句読点・返り点・送り仮名）を付した漢文をテキストとして配布し、文の構造を解説しながら精読する。
毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。
授業計画各回の「内容」にあるものは主として取り扱う部分であり、適宜加える可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容及び採点方法などの説明をする。また、『史記』や司馬遷についての概要を学習する。
第2回	『史記』刺客列伝を読む（1）	『史記』の刺客列伝から荊軻の部分を精読する。
第3回	『史記』刺客列伝を読む（2）	当時の中国がどのような状況であったのかを理解しつつ読み進める。
第4回	『史記』刺客列伝を読む（3）	精読することで、燕国と秦国の状況や荊軻の置かれた立場などを理解する。
第5回	『史記』刺客列伝を読む（4）	太子と荊軻の認識の差などに留意しつつ読解する。
第6回	『史記』刺客列伝を読む（5）	秦王暗殺を試みる場面を精読する。
第7回	『史記』刺客列伝を読む（6）	荊軻の暗殺計画がどのような結末を迎えたのか、その結果歴史がどうなっていたのかを理解する。
第8回	『史記』刺客列伝を読む（7）	荊軻列伝全体の流れを整理し、『史記』の他の部分ではこの事件がどう記されているかを見る。
第9回	『史記』秦始皇本紀を読む（1）	「本紀」について解説し、秦の始皇帝とその時代について知る。
第10回	『史記』秦始皇本紀を読む（2）	始皇帝の行った歴史的事業を理解する。
第11回	『史記』秦始皇本紀を読む（3）	始皇帝の本紀から、当時の人々の思想などを読み解く。
第12回	『史記』秦始皇本紀を読む（4）	秦の滅亡と、その後の項羽と劉邦の争いに触れる。
第13回	復習と総括	改めて、漢文の基礎構造や初歩的な訓読方法を復習する。
第14回	試験・まとめと解説	授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配られたテキストには必ず予習を行うこと。
予習には漢和辞典・漢字辞典が必須となる。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業時に配布するプリントをテキストとする。

【参考書】

三省堂『全訳 漢辞海』（漢和辞典）
高校時代に使用した国語便覧など。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を30%、期末考査の点数を70%として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は、漢文訓読を通じて行う。中国・台湾などからの留学生の方には難解な技法かと思うが、この点にご留意の上で受講を決めるようにしていただきたい。

【学生が準備すべき機器他】

・できれば紙のものが望ましいが、アプリ等でも構わないので漢和辞典・高校の副教本(便覧・要覧)など。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this class, we learn how to read classical Chinese using stories about familiar historical figures. We read longer passages, reading them carefully while touching on Chinese culture and stories, in order to strengthen basic skills in reading classical Chinese.

Learning Objectives: Students will learn the basic structures of classical Chinese and gain an understanding of the *kundoku* method for reading Chinese in literary Japanese. They will also deepen their knowledge of the history and culture of ancient China by reading famous works of literature, historical stories and episodes.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students should prepare by examining the materials distributed in advance. Chinese-Japanese dictionaries and Chinese character dictionaries are necessary for preparation (printed versions preferable, but apps may be used). The preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Grades will be based on the following: a general grade based on contents of regular reaction papers and short assignments (70%), and a final examination (30%). Attendance is assumed.

Lecture format: Chinese materials with *kunten* (punctuation marks, *kaeriten*, *okurigana*) are distributed as texts and we read them carefully as I explain the structure of the sentences. I will also explain the historical background necessary for reading and knowledge of ancient Chinese culture in a timely manner. In each class, you will submit a reaction paper or sub-assignment, which checks the students' understanding and interests, and I will explain the sections and questions that need to be supplemented in the next class. The "contents" of each lesson plan may be added to as appropriate. In addition to dictionaries, high school supplementary textbooks will also be of use.

Remarks for International Students: This class is conducted through *kundoku*, a method for reading ancient Chinese in literary Japanese. I think that it may be difficult for international students from China, Taiwan, etc., but please pay attention to this point before deciding to take the course. Classes are held at a gentle pace.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

書誌学

山口 恭子

夜間時間帯

授業コード：A2566 | 曜日・時限：火5/Tue.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・授業の概要

本授業では、書誌学の基礎を講ずるとともに、くずし字解読を行い、翻刻の基礎力を養います。

書誌学とは、「本」そのものを研究対象とする学問です。本の形態や歴史、料紙や出版書肆など幅広く精査し、それを踏まえてその本の作成年代や流通などについて追究することを目的とします。本授業では、とくに日本の江戸時代までの本を対象とし、書物の装訂や素材、出版の展開など、書誌学の基礎的なことについて講義します。

・授業の目的

日本古典籍書誌学の基礎を学ぶことを目的とします。本にまつわる様々な文化、およびそれを作りあげた人々の知の世界と一緒に眺め学んでゆきましょう。書誌学を学び和本の知識をもつことは、将来、学芸員や司書、その他、本や文化財に携わりたいというかたにおおいに役立ちます。また、今日の本や出版の文化への理解を深めることにもつながります。

【到達目標】

・「書誌学」の概念を知る。

・日本古典籍書誌学の基礎的事項、とくに江戸時代までの写本と版本の特徴や歴史、本にまつわる文化について理解し、かつそれらを的確に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・授業各回において、まず書誌学的な調査研究に欠くことのできない基本的なくずし字の解読（翻刻）作業を行います。次いで、日本古典籍書誌学の基礎的事項を講義してゆきます。

・くずし字については写本・版本の教材（和歌等）を皆で翻刻してゆく時間を設けます。書誌学についてはパワーポイント資料や配布プリントをもとに進めます。

・毎時、リアクションペーパーを提出していただきます。次回授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行ってゆきます。

・受講生の数によって、授業内容に若干の変更が生ずることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・「書誌学」という学問の概要や目的について ・くずし字の基礎について ・授業計画について
第2回	装訂の様々	・卷子本から冊子本に至る、書物の主な装訂と発展について
第3回	写本の姿（1）	・写本に関する様々な用語の意味と使い方について
第4回	写本の姿（2）	・転写本における「写す」方法と特徴について
第5回	古筆切と手鑑	・古筆切の種類と特徴、および手鑑の歴史について
第6回	料紙について（1）	・紙の歴史、および和紙の材料と製法について
第7回	料紙について（2）	・日本の加工料紙、とくに平安時代の料紙装飾について
第8回	版本の歴史（1）	・版本の種類に関する概説
第9回	版本の歴史（2）	・中世までの印刷の歴史について ・キリシタン版について
第10回	版本の歴史（3）	・古活字版の特徴と種類について ・古活字版から整版本への移行について
第11回	江戸時代の本屋について	・書肆（本屋）の始まりと展開について
第12回	本の顔かたち（1）	・本の構成要素、とくに、「表紙」「外題」のバリエーションについて

第13回	本の顔かたち（2）	・本の構成要素、とくに、「内題」「奥付」「刊記」について ・前回の講義内容とあわせ、書物の特徴を理解するための観点について講ずる
第14回	まとめ	半期の授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・参考文献や授業資料に予め目を通し、授業に臨みましょう。
・随時配布される復習用プリントをもとに復習に努めましょう。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

くずし字の翻刻のために笠間影印叢刊行会編『字典かな』（笠間書院）を用意すること（他社の字典をすでにお持ちであればそれを使用して構いません）。書誌学に関してはテキストを定めず、配布プリントを用います。

【参考書】

・廣庭基介・長友千代治『日本書誌学を学ぶ人のために』（世界思想社、1998年）
・『日本古典籍書誌学辞典』（岩波書店、1999年）
・橋口侯之介『和本入門』・『続和本入門』（平凡社、2005年・2007年）
・堀川貴司『書誌学入門』（勉誠出版、2010年）
このほか、授業時に提示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（70%）に、平常点（30%）を加味して評価します。期末試験は筆記試験とし、書誌学という学問の意味を理解したか、そして、授業において講じた書誌学の基本事項を理解したかを主な評価基準とします。後者は、書誌学的事項を正しく説明できるかについての評価も含まれます。

【学生の意見等からの気づき】

実際の古典籍を多く見せたり、現代の書物・出版物との関連を示すなどすることで、学習のモチベーションを高める工夫をしたいと考えています。

【Outline (in English)】

Course Outline: *Shoshigaku* ("bibliography") is the study of books. This course deals with the basic concepts of bibliography.

Learning Objectives: The purposes of this course are as follows:

- (1) to master basic knowledge of classical Japanese bibliography
- (2) to understand the culture of books

Learning Activities Outside of the Classroom: Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours understanding the content of the course.

Grading Criteria/Policy: The overall grade of the class will be determined based on: final exam (70%); performance in class (30%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

メディアと社会

中沢 けい

夜間時間帯

授業コード：A2568 | 曜日・時限：火5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文芸創作は社会から孤立した営為ではありません。文芸作品は社会の中に置かれています。この講義では、社会の中に置かれた文芸創作、文章表現などがどのような問題性をもっているのかを学んでもらいます。同時に創作とは何か？表現とは何か？という根本的な問題を現実の事例を通して、受講生ひとりひとりに考察してもらうことが目標になります。

Relationship between media and society

【到達目標】

社会的制度から創作とは何を考えるのが目的です。また情報技術の変化がメディアにもたらす変化についても考察する手がかりを得てください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

オムニバス形式です。講師にはそれぞれの分野の第一線で活躍している先生方をお招きしています。授業時にはコメント付きの出席をとります。コメントはHOPPIIを用いて提出してもらいます。コメントの内容については授業時に適宜、御紹介いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業のねらいについてお話しします。(中沢けい)
第2回	韓国文学を紹介する。	近年、韓国の文化、芸術は多方面にわたり注目を集めています。そのなかから日本での韓国文学の受容についてお話いただきます。
第3回	同上	金承福講師（クオン主催者）
第4回	海外の著作権取得について	翻訳書を作る時、海外から著作権を取得します。それはどのような作業なのでしょう。
第5回	同上	山口和人講師（元談話社文芸局勤務）
第6回	アニメーションをプロデュースする。	多様な人が関わるアニメーション制作の現場でのプロデュースについてお話いただきます。
第7回	同上	石井龍講師（アニメーションプロデューサー）
第8回	編集とはどのような仕事か	編集をいうものが持つ意味を広い視野で捉えます
第9回	同上	仲俣暁生講師（編集者）
第10回	ノンフィクションの現在	ノンフィクションの意味。現在のノンフィクションについて考えます。
第11回	同上	安田浩一講師（ノンフィクション作家）
第12回	建築と文学の空間創造	文学と建築、この一見、異なる世界の繋がりを考えてみましょう。
第13回	建築と文学の空間創造	鈴木隆之講師（建築家、小説家）
第14回	現代社会と表現の相克	中沢けい まとめの講義とともに受講生の意見交換をいたします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第一線で御活躍の講師の先生をお招きしてお話をお聞きます。講師の御著作を紹介いたしますので、読んでおくようにしてください。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にそれぞれの講師からプリントが配布されます。プリントはレポートで使用しますのでファイルしておいて下さい。

【参考書】

講師から提示されます。

【成績評価の方法と基準】

「配分（％）」：レポート30％ 平常点 70％

「評価基準」：積極的な授業参加と洞察力に富んだレポート内容。

【学生の意見等からの気づき】

現在、起きていることについて具体的な講義を聞くのがこの授業の目的です。新聞報道などに多く目を通し、感覚を磨くようにしておくことが重要になります。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業計画補足：ご都合などにより講義の順番が変更されることがありますのでご注意ください。

中沢けい

小説家。1978年「海を感じる時」で第21回群像新人賞受賞。1985年「水平線にて」で第6回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline (in English)】

Course Outline: Literary creation is not an activity isolated from society; on the contrary, literary works are situated within society. In this course, students will learn about the issues involved in literary creation and written expression in society.

Learning Objectives: The objective is to consider what creation means from the perspective of social systems and institutions. The course will also provide hints for considering the changes that shifts in information technology are bringing to the media.

Learning Activities Outside of the Classroom: We will invite lecturers who are active in the forefront of the field to speak to us. Please be sure to read the lecturers' publications. Standard preparation and review time for each class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Performance in class (70%); report (30%). The criteria are active class participation and insightful report content.

ART300BC (芸術学 / Art studies 300)

音楽芸能史特殊研究A

野川 美穂子

授業コード：A2569 | 曜日・時限：水3/Wed.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降に発展した芸能のうち、「三曲」と呼ばれる種目の特徴と魅力を学びます。

【到達目標】

音楽を中心に、近世以降に発展した芸能（とくに「三曲」）への関心を広げること、そのための基本的な知識（歴史、特徴）を身につけることを到達目標とします。

The goals of this course are to expand interest in music and performing arts that have developed since the early modern period, and to acquire basic knowledge of their history and characteristics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

近世以降の日本の芸能を対象に、歴史、音楽と詞章の特徴、演劇や舞踊との関連、享受する人間の身分や階層など、さまざまな側面から概観します。春学期（A2569）と秋学期（A2571）の授業は個別に履修可能ですが、内容的には関連します。

春学期には、お稽古事の対象として普及し、音楽のみで楽しめることの多い「三曲」（地歌、箏曲、尺八楽、胡弓楽）をとりあげます。まずは「三曲」に使われる楽器を紹介し、続いて、それらの音色を生かし、歌としての魅力にも富む多彩な作品を紹介します。知識としてではなく、目で耳で感じ取ることができるよう、多くの視聴覚教材を使います。なお、「三曲」の大正時代以降の状況については、秋学期の授業で紹介します。

毎授業の最初に、前回の授業で提出されたリアクションペーパーのコメントや質問にもとづいて、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス。	講義内容の説明。近世に発展した音楽芸能の概観。
第2回	近世芸能の概観。 三曲とは何か。 三曲に使う楽器。	三曲の伝承者の特徴。三曲に使う楽器（箏、三味線、尺八、胡弓）の特徴。絹糸弦の製作方法。
第3回	三味線の伝来。	三味線伝来の経緯。伝承の基本と
第4回	地歌の歴史と特徴①	なった三味線組歌と長歌物。
第5回	地歌の歴史と特徴②	叙情性に満ちた端歌物。
第6回	地歌の歴史と特徴③	音色の重なりと緩急の変化が楽しい手事物。
第7回	地歌の歴史と特徴④	芝居の一場面を歌う浄瑠璃物と滑稽な物語を歌う作物。
第8回	箏曲の歴史と特徴①	箏の製作方法。箏曲の誕生。
第9回	箏曲の歴史と特徴②	伝承の基本となった箏組歌。器楽曲である段物のルーツ。
第10回	箏曲の歴史と特徴③	段物の魅力。美しい響きの幕末新箏曲。
第11回	箏曲の歴史と特徴④	江戸で人気を得た山田流箏曲。
第12回	尺八楽の歴史と特徴①	尺八の歴史のなぞ。尺八本曲の魅力。
第13回	尺八楽の歴史と特徴②	尺八本曲の魅力。
第14回	胡弓楽の歴史と特徴。	胡弓の歴史のなぞと胡弓曲の魅力。
第13回	明治時代の三曲。	明治時代の演奏会の特徴。明治新曲について。
第14回	他の種目との関連。	文楽や歌舞伎に登場する地歌・箏曲。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に紹介される作品を、自身の感性を研ぎ澄まし、自分なりに受けとめる姿勢が基本です。授業前の予習はとくに必要ありません。授業後には、配布資料を整理し、それぞれの作品の歴史的背景や特徴を復習して、次回の授業に備えます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Before and after each class, students are expected to spend four hours understanding the course content and organizing the materials.

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、毎回、資料を配布します。

【参考書】

参考書は、授業時に随時紹介します。「三曲」の魅力を味わえる演奏会情報も紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、平常点40%、期末試験60%の比率で評価します。出席回数が授業総数の3分の2に満たない場合には、特別な理由がない限り、不可とします。Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (60%); in-class contribution (40%).

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ具体的に、わかりやすく説明します。

【Outline (in English)】

Regarding the Japanese performing arts that developed after the early modern era, we will learn about the history, the characteristics of music and lyrics, the relation to theater and dance, the characteristics of experts and enthusiasts, and above all the music. In the spring semester, we mainly target music for the *koto*, *shamisen*, *shakuhachi* and *kokyū*.

The goals of this course are to expand interest in music and performing arts that have developed since the early modern period, and to acquire basic knowledge of their history and characteristics.

Before and after each class, students are expected to spend four hours understanding the course content and organizing the materials.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (60%); in-class contribution (40%).

ART300BC（芸術学 / Art studies 300）

音楽芸能史特殊研究B

野川 美穂子

授業コード：A2571 | 曜日・時限：水3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降に発展した芸能のうち、歌舞伎、文楽を中心に、それぞれの特徴と魅力を学びます。

【到達目標】

音楽を中心に、近世以降に発展した芸能（とくに歌舞伎と文楽）への関心を広げること、そのための基本的な知識（歴史、特徴）を身につけることを到達目標とします。

The goals of this course are to expand interest in music and performing arts that have developed since the early modern period, and to acquire basic knowledge of their history and characteristics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

近世以降の日本の芸能を対象に、歴史、音楽と詞章の特徴、演劇や舞踊との関連、享受する人間の身分や階層など、さまざまな側面から概観します。春学期（A2569）と秋学期（A2571）の授業は個別に履修可能ですが、内容的には関連します。

秋学期には、舞踊や演劇との関連が強い文楽や歌舞伎をとりあげます。また、箏や尺八などを用いる「三曲」（春学期の授業内容）の大正時代以降の状況、歌舞伎の明治以降の状況を紹介し、音楽芸能の未来についても考えます。

多くの視聴覚教材を使って授業を進めます。教室内のプロジェクターによる鑑賞ではありますが、それぞれの芸能の魅力をじっくりと味わってもらいたいと思います。

毎授業の最初に、前回の授業で提出されたリアクションペーパーのコメントや質問にもとづいて、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス。近世の芸能。	講義内容の説明。近世に発展した音楽芸能の分類。
第2回	劇場で使われる楽器。	文楽や歌舞伎で使われる楽器の特徴。
第3回	文楽の歴史と特徴①	義太夫節の歴史。三業一体とは何か。
第4回	文楽の歴史と特徴②	文楽の名作の魅力。
第5回	歌舞伎の歴史と特徴①	歌舞伎の歴史。歌舞伎における音楽の役割。
第6回	歌舞伎の歴史と特徴②	歌舞伎の名作の魅力。
第7回	文楽と歌舞伎の比較。	同じ題材の作品で、文楽と歌舞伎の演出を比較する。
第8回	豊後系浄瑠璃。	歌舞伎舞踊を支える常磐津節と清元節の魅力。艶のある新内節の魅力。
第9回	他の種目との関連①	道成寺物の魅力。
第10回	長唄①	歌舞伎を支える長唄の魅力。
第11回	長唄②	長唄の多様性。
第12回	他の種目との関連②	石橋物の魅力。
第13回	近代・現代の三曲。	洋楽を取り入れた新日本音楽。多様性を見せる現代邦楽。
第14回	現代の歌舞伎。	現代劇の脚本家や演出家とのコラボレーションをはじめ、最新技術を駆使して新しい展開を見せる歌舞伎。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に紹介する作品を、自身の感性を生かし、自分なりに受けとめる姿勢が基本です。授業前の予習はとくに必要ありません。授業後には、配布資料を整理し、それぞれの作品の歴史的背景や特徴を復習して、次の授業に備えます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Before and after each class, students are expected to spend four hours understanding the course content and organizing the materials.

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、毎回、資料を配布します。

【参考書】

参考書は、必要に応じて、授業時に随時紹介します。文楽や歌舞伎の上演情報も紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、平常点40％、期末試験60％の比率で評価します。出席回数が授業総数の3分の2に満たない場合には、特別な理由がない限り、不可とします。

Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (60%); in-class contribution (40%).

【学生の意見等からの気づき】

それぞれの作品の特徴をできるだけ具体的に説明します。

【Outline (in English)】

Regarding Japanese performing arts that developed after the early modern era, we will learn about the history, the characteristics of music and lyrics, the relation to theater and dance, the characteristics of experts and enthusiasts, and above all the music. In the fall semester, we mainly focus on *bunraku* and *kabuki*.

The goals of this course are to expand interest in music and performing arts that have developed since the early modern period, and to acquire basic knowledge of their history and characteristics.

Before and after each class, students are expected to spend four hours understanding the course content and organizing the materials.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (60%); in-class contribution (40%).

LIT200BC（文学 / Literature 200）		
編集実務 A		
谷村 順一		
授業コード：A2574 曜日・時限：月 4/Mon.4 春学期授業/Spring・2単位 配当年次：2～4年		
その他属性：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 出版業界で標準となっているコンピュータを用いた DTP（Desk Top Publishing）による誌面構成の方法を中心に、本作りの実際を学ぶ		
【到達目標】 編集実務に必要な基礎技術の習得を目標とし、具画像編集に使用する Adobe Photoshop、ポスターなどの印刷物やロゴマークなどの制作に使用する Adobe Illustrator の基本的な操作方法の取得を目的とします。なお、ページものの編集には Adobe InDesign を使用するので、InDesign をあつかう「編集実務 B」と併せて受講することが望ましい。 The goal is to acquire the basic skills necessary for editing practice, and to acquire the basic operation methods of Adobe Photoshop used for editing tool images, and Adobe Illustrator used for producing printed materials such as posters and logo marks. Since Adobe InDesign is used for editing pages, it is desirable to take this course together with "Editing Practice B" that deals with InDesign.		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連		
【授業の進め方と方法】 【授業内容】 書籍、雑誌の誌面デザインに必要な各種アプリケーションの操作方法を学び、対面授業が可能であれば実際にパソコンを使って誌面デザインを行います。オンラインの場合は操作方法についてのデモンストレーションを行います。数回の小課題の作成とプレゼン、期末課題には小冊子の作成を予定しています。 Students learn how to operate various applications required for the design of books and magazines, and if face-to-face lessons are possible, actually design a magazine using a personal computer. If online, we will demonstrate how to operate it. We plan to create and present several small assignments and a booklet for the final assignment.		
【授業方法】 アプリケーションの操作方法などを講義。その後は各自で課題を作成し、プレゼンを行ってもらいます。 ※課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。 【Course content】 Students learn how to operate various applications required for the design of books and magazines, and if face-to-face lessons are possible, actually design a magazine using a personal computer. If online, we will demonstrate how to operate it. We plan to create and present several small assignments and a booklet for the final assignments.		
【Class method】 First there is a lecture on how to operate the application. After that, each student will create an assignment and be asked to give a presentation. Submission of and feedback on assignments will be done through the "learning support system".		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし / No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	初回ガイダンス	開講にあたってのガイダンスを行います
第2回	DTPとはなにか？	DTPの概略についての説明
第3回	Adobe Photoshopを用いた切り抜きと合成	Photoshopを用いた画像の切り抜きと合成について説明を行います
第4回	写真のレタッチ	Photoshopを用いた写真のレタッチについて説明を行います
第5回	クリッピングマスク（選択範囲の作成）	Photoshopを用いてアートワークをマスクする方法について（選択範囲を作成する方法）説明を行います
第6回	クリッピングマスク（クリッピングパスの作成）	Photoshopを用いてアートワークをマスクする方法について（クリッピングパスを実際に作成する）説明を行います
第7回	IllustratorやInDesignとの連携	Photoshopで作成したビットマップ画像を、IllustratorやInDesignといったベクター画像を扱うアプリケーションで使用方法について説明を行います
第8回	Adobe Photoshop ための課題	ここまで説明したことをふまえて小課題に取り組んでもらいます
第9回	Adobe Illustrator 長方形ツールと楕円形ツール	長方形ツールと楕円形ツールを用いたオブジェクトの作成方法について説明を行います
第10回	オブジェクトの塗りと線の設定	Illustratorでの描画の基本となるオブジェクトの塗りと線の設定方法について説明を行います
第11回	選択ツールとダイレクト選択ツール	Illustratorの基本操作の要となる選択ツールとダイレクト選択ツールについて説明を行います
第12回	文字の入力	テキストツールを用いた文字の入力方法について説明を行います
第13回	Photoshopとの連携	Illustratorで作成したオブジェクトをPhotoshopで使用方法について説明を行います
第14回	Adobe Illustrator ための課題	ここまで説明したことをふまえて小課題に取り組んでもらいます
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 授業内にて指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。 I will give instructions in class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.		
【テキスト（教科書）】 必要に応じて授業中に紹介します。 I will introduce them during class as needed.		
【参考書】 必要に応じて授業中に紹介します。 I will introduce them during class as needed.		
【成績評価の方法と基準】 平常点と小課題、期末課題で評価します。 平常点 30% 小課題+期末課題 70% Evaluation is based on: class performance (30%); short assignments and term-end assignment (70%).		
【学生の意見等からの気づき】 特になし Nothing in particular.		
【学生が準備すべき機器他】 資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。 We will use the lesson support system to distribute materials and submit assignments.		
【その他の重要事項】 ※授業の性質上、自分の手で実際に演習してみることが重要になります。授業時間内・外に関わらず演習に時間を惜しまないでください。また気になった書籍や雑誌を見つけたら、その本の「どこ」が気になるのか、「何」に惹かれるのか、意識して見るようにしてください。コンピュータの数に限りがあるため、30名限定とします。受講希望者が多い場合は1回目の授業時に選抜を行います。 ※InDesignを扱う編集実務Bを併せて履修することががのぞましい。 ※「情報学入門 メディア情報処理Ⅰ・Ⅱ」を事前に履修しておくことよりいい。 ・Due to the nature of the lesson, it is important to actually practice with your own hands. Please do not spare time for the exercises, whether during or outside class. Also, if you find a book or magazine that interests you, be aware of what you are interested in and what you are attracted to. Due to the limited number of computers, we will limit the class to 30 people. If there are many applicants, selection will be made at the time of the first class. ・It is recommended that you also take Editing Practice B, which deals with InDesign. ・It is better to take "Introduction to Information Science Media Information Processing I/II" in advance.		
【Outline (in English)】 Students learn the actual process of making books, centering on methods of magazine composition by DTP (Desk Top Publishing) using computers that are standard in the publishing industry. The goal is to acquire the basic skills necessary for editing practice, and to acquire the basic operation methods of Adobe Photoshop used for editing tool images, and Adobe Illustrator used for producing printed materials such as posters and logo marks. Since Adobe InDesign is used for editing pages, it is desirable to take this course together with "Editing Practice B" that deals with InDesign. I will give instructions in class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Evaluation is based on: class performance (30%); short assignments and term-end assignment (70%).		

LIT200BC (文学 / Literature 200)

編集実務 B

谷村 順一

授業コード：A2576 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

出版業界で標準となっているコンピュータを用いた DTP (Desk Top Publishing) による誌面構成の方法を中心に、本作りの実際を学ぶ

【到達目標】

編集実務に必要な基礎技術の習得を目標にします。具体的にはページものの作成に不可欠な Adobe InDesign の基本的な操作方法の取得を目的とします。なお、画像やイラストなど誌面に必要な要素の作成のために Adobe Photoshop、Illustrator を使用するので「編集実務 A」と併せて受講することが望ましい。The goal is to acquire the basic skills necessary for editing practice. Specifically, the purpose is to acquire the basic operation method of Adobe InDesign, which is indispensable for creating pages. Since Adobe Photoshop and Illustrator are used to create the elements necessary for a magazine, such as images and illustrations, it is desirable to take this course together with "Editing Practice A". I will give instructions in class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

【授業内容】

書籍、雑誌の誌面デザインに必要な各種アプリケーションの操作方法を学び、対面授業が可能であれば実際にパソコンを使って誌面デザインを行います。オンラインの場合は操作方法についてのデモンストレーションを行います。数回の小課題の作成とプレゼン、期末課題には小冊子の作成を予定しています。

Students learn how to operate various applications required for the design of books and magazines, and if face-to-face lessons are possible, actually design a magazine using a personal computer. If online, we will demonstrate how to operate it. We plan to create and present several small assignments and a booklet for the final assignment.

【授業方法】

アプリケーションの操作方法などを講義。その後は各自で課題を作成し、プレゼンを行ってもらいます。

※課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【Course content】

Students learn how to operate various applications required for the design of books and magazines, and if face-to-face lessons are possible, actually design a magazine using a personal computer. If online, we will demonstrate how to operate it. We plan to create and present several small assignments and a booklet for the final assignment.

【Class method】

First there is a lecture on how to operate the application. After that, each student will create an assignment and be asked to give a presentation.

Submission of and feedback on assignments will be done through the "learning support system".

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	本作りの過程	企画から編集、製本までの一連の書籍製作の過程について
第3回	Adobe InDesign① グリッドフォーマットの作成	誌面作成の基礎となる版面の設定方法について
第4回	Adobe InDesign② マスターページの設定と文字の流し込み	マスターページの役割と文字の流し込みの実践について
第5回	Adobe InDesign③ 文字組み設定	組版の基本となる各種設定について
第6回	Adobe InDesign④ ルビ	ルビの振り方について
第7回	Adobe InDesign⑤ 画像の取り込み	Photoshop や Illustrator で作成した各種画像の取り込み方について
第8回	小課題	小課題作成

第9回	総合課題① Photoshop、Illustrator、InDesign を使用して表紙、誌面を作成する	ラフの作成
第10回	総合課題② Photoshop、Illustrator、InDesign を使用して表紙、誌面を作成する	素材の準備
第11回	総合課題③ Photoshop、Illustrator、InDesign を使用して表紙、誌面を作成する	各種アプリケーションを用いたレイアウト作業
第12回	総合課題④ Photoshop、Illustrator、InDesign を使用して表紙、誌面を作成する	提出データの最終確認
第13回	発表と講評	発表と講評
第14回	発表と講評	発表と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内にて指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

I will give instructions in class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業中に紹介します。

I will introduce them during class as needed.

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

I will introduce them during class as needed.

【成績評価の方法と基準】

平常点と小課題、期末課題で評価します。

平常点 30 % 小課題 + 期末課題 70 %

Evaluation is based on: class performance (30%); short assignments and term-end assignment (70%).

【学生の意見等からの気づき】

特になし

Nothing in particular.

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

We will use the lesson support system to distribute materials and submit assignments.

【その他の重要事項】

※授業の性質上、自分の手で実際に演習してみることが重要になります。授業時間内・外に関わらず演習に時間を惜しまないでください。また気になった書籍や雑誌を見つけたら、その本の「どこ」が気になるのか、「何」に惹かれるのか、意識して見るようにしてください。コンピュータの数に限りがあるため、30名限定とします。受講希望者が多い場合は1回目の授業時に選抜を行います。

※ InDesign を扱う編集実務 B を併せて履修することががのぞましい。

※※「情報学入門 メディア情報処理Ⅰ・Ⅱ」を事前に履修しておくとうりいい。を事前に履修しておくとうりいい。

・Due to the nature of the lesson, it is important to actually practice with your own hands. Please do not spare time for the exercises, whether during or outside class. Also, if you find a book or magazine that interests you, be aware of what you are interested in and what you are attracted to. Due to the limited number of computers, we will limit the class to 30 people. If there are many applicants, selection will be made at the time of the first class.

・It is recommended that you also take Editing Practice B, which deals with InDesign.

・It is better to take "Introduction to Informatics Media Information Processing I/II" in advance.

【Outline (in English)】

Students learn the actual process of making books, centering on methods of magazine composition by DTP (Desk Top Publishing) using computers that are standard in the publishing industry.

The goal is to acquire the basic skills necessary for editing practice. Specifically, the purpose is to acquire the basic operation method of Adobe InDesign, which is indispensable for creating pages. Since Adobe Photoshop and Illustrator are used to create the elements necessary for a magazine, such as images and illustrations, it is desirable to take this course together with "Editing Practice A".

Evaluation is based on: class performance (30%); short assignments and term-end assignment (70%).

ART300BC (芸術学 / Art studies 300)

美術史 (西洋) A

安藤 智子

授業コード：A2577 | 曜日・時限：木4/Thu.4
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年
 備考 (履修条件等)：文学部 (哲・日文・英文・史) 以外の学生は資格科目として履修 (A3853)
 その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近代から現代までの美術史の文脈において、芸術作品を様々な視点から考察するとともに、その鑑賞方法を習得する。

【到達目標】

芸術作品の主題、様式、技法等に関する美術史の基礎知識の習得に加え、同時代の鑑賞者の特徴、美術制度や社会状況を踏まえた上で、多角的・重層的に捉える視点を持って、芸術作品を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業当日に資料をアップした上で講義を行う。
 講義では、パワーポイントで作品の画像を映写し解説していく。
 授業の最後にリアクションペーパーを配布し、各自の考察や感想を記入してもらう。
 このリアクションペーパーの提出によって出席とみなす。リアクションペーパーの内容が貧弱で不適切であった場合に欠席となるので留意すること。
 また、期末試験の対策として、絵画のディスクリプションについて解説し、授業内で記述方式の演習を行うので必ず出席すること。
 春学期は西洋美術史を学習する上での基礎編、秋学期はその応用編といった構成になっている。できれば秋学期も通じ、1年間受講してほしい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
 なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
 あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と展覧会情報 美術史の学習方法・参考文献
第2回	美術史の基礎概念	美術におけるジャンルとは？
第3回	美術史の基礎用語	絵画鑑賞の基礎となる概念及び造形的な要素を説明する
第4回	絵画のジャンル① 神話画・宗教画・寓意画	ギリシア神話や聖書に典拠した絵画や事物に意味を読み取る寓意、また時事的な絵画まで、物語や出来事を表現する絵画を見ていく
第5回	絵画のジャンル③ 肖像画・風景画・風俗画	物語画以外のジャンルの絵画について外観する
第6回	物語から表象へ	聖書の主題である「受胎告知」を例にとり、テキストから絵画イメージへの変換の過程を検証する
第7回	ロココ芸術から新古典主義へ	ロココから新古典主義の様式の変容を、王侯貴族の支配する社会から市民社会への変革と関係づけて理解する。
第8回	ロマン主義の絵画	時事的な主題を扱った作品や人間の暗部に焦点を当てたロマン主義の絵画を紹介する
第9回	美術館見学	美術館に行き、作品を鑑賞する。

第10回	クールベのレアリスム	第二共和政の時代に起きた新しい美術運動としてのレアリスムを考察する。
第11回	パリの都市大改造	ナポレオン3世が進めたオスマンの都市改造計画により、パリは経済が活況になり文化が花開く。この時期に都市を描いた作品を見ていく。
第12回	印象派の展覧会 絵画のディスクリプションの演習	画家たちが自主的に企画したという視点で印象派の展覧会を検討し、新しい絵画とアカデミックな絵画との相違点を理解する。また、期末試験の対策として、絵画のディスクリプションについて解説し演習を行う。
第13回	田舎の表象	パリ中心の都市文化とは対照的に、田舎の自然の風景や農民の姿を表象した絵画を考察する。
第14回	まとめと質疑応答	これまでの考察をもとに、芸術作品への見方の多様性を確認する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

美術館にできるだけ出向いて、常設のコレクションや企画展に展示されている実際の美術作品を見てほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用せず、参考文献を授業中に適宜紹介する。

【参考書】

『世界美術大全集 西洋編』、小学館、19-24巻、1993-96年
 高階秀爾・三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』、新書館、1997年
 三浦篤『まなざしのレッスン1—西洋伝統絵画』、東京大学出版会、2001年
 三浦篤『まなざしのレッスン2—西洋近現代絵画』、東京大学出版会、2015年
 E.H.ゴンブリッチ『美術の物語』、ファイドン、2007年日本語版初版。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験 (70%) と、平常点 (主に授業で紹介した作品に対するコメント、30%) を参考に成績評価を決定する。
 芸術作品に関する基礎知識を身に付けた上で、分析と論証の手続きが一定のレベルに達しているかを評価基準とする。平常点には授業内コメントを含む。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけアート作品を見る機会を増やしてもらうために、授業中に開催中の展覧会の紹介する。また状況が許せば展覧会見学も実施したい。

【Outline (in English)】

Focusing on modern and contemporary art created in Europe, particularly in France, we will study art history from a variety of perspectives.

The goal of this course is to learn how to understand works of art in the context of art history.

If possible, students should voluntarily go to museums to view artworks based on the knowledge they learn in class.

The final grade will be determined by short comments written by the students at the end of each class (30%) and the exam at the end of the course (70%).

ART300BC (芸術学 / Art studies 300)

美術史（西洋）B

安藤 智子

授業コード：A2578 | 曜日・時限：木4/Thu.4
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年
備考（履修条件等）：文学部（哲・日文・英文・史）以外の学生は資格科目として履修（A3854）
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代から現代までの美術史の文脈において、芸術作品を様々な観点から考察するとともに、その鑑賞方法を習得する。

【到達目標】

芸術作品の生成と構造を、美術史の基礎概念をもとに、さらに深く理解する。
芸術と社会との関係性をより多角的に捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業当日に資料をアップした上で講義を行う。
パワーポイントで作品の画像を映写し解説していく。
授業最後にリアクションペーパーを配布し、各自の考察や感想を記入してもらう。
このリアクションペーパーの提出によって出席とみなす。リアクションペーパーの内容が貧弱で不適切であった場合に欠席となるの留意すること。
期末試験は講義の内容を理解しているかを問うもので、論述式で解答する。
春学期にすでに絵画のディスクリプションについては解説するので、この知識と理解をベースに論述することが望まれる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要 美術史へのアプローチ
第2回	筆触の多様性～印象主義から新印象主義へ	美術史の流れに従って、筆触という技法の表現が変容していく過程を考察する
第3回	視点とパースペクティブ～セザンヌからキュビズムへ	絵画空間における視点、及びパースペクティヴに着目し、19世紀後半から20世紀初頭にかけて、ドラスティックな絵画空間の変化を確認する。
第4回	素朴さへの憧れ～ゴッホとゴッホ	近代社会の進歩や工業化に反発し、非西洋文明のイメージを具現化したゴッホやゴッホの絵画を検証する
第5回	異文化との出会い	19世紀にイギリスやフランスで開催された万国博覧会から異国の文化、とくに日本美術がヨーロッパ諸国に波及する過程を追う
第6回	象徴主義	19世紀から20世紀にかけて制作された絵画における物語の表象とゴッホにおける象徴主義までを考察する

第7回	アヴァンギャルド芸術①	20世紀初頭の、フォーヴという美術運動、それに続く西欧社会の軍国主義を反映したイタリア未来派の絵画について考察する
第8回	アヴァンギャルド芸術②	20世紀初頭に現出した美術運動であるダダとシュルレアリスムについて解説する
第9回	ドイツ表現主義と抽象絵画	対象を現実に見ているように再現する芸術作品から、概念によって構成された芸術作品へと転換する過程を考察する
第10回	美術市場の形成	19世紀から20世紀にかけて、画廊やコレクターの活動を参照し、個人コレクションが形成される過程を見る
第11回	写真と絵画	19世紀に登場した写真が及びした視覚芸術への影響を考察する
第12回	コンテンポラリーアート	20世紀後半から現代までの美術動向を見る。とくに近年の展覧会で紹介された美術作品を概観する。
第13回	美術館見学	実際に芸術作品を見て考察を深める
第14回	双方向の授業によるディスカッション	これまでの総括 芸術と社会との関係性を包括的に考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できれば、春学期と通年で履修してください。
様々な美術館の展覧会に出向き、芸術作品を実際に鑑賞してください。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業の内容に沿って参考図書を適宜紹介していきます。

【参考書】

世界美術大全集 西洋編、小学館、19-24巻、1993-96年
高階秀爾・三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』、新書館、1997年
三浦篤『まなざしのレッスン1ー西洋伝統絵画』、東京大学出版会、2001年
三浦篤『まなざしのレッスン2ー西洋近現代絵画』、東京大学出版会、2015年
E.H. ゴンブリッチ『美術の物語』、ファイドン、2007年日本語版初版。

【成績評価の方法と基準】

対面授業の場合は、学期末試験（70％）と、平常点（主に授業で紹介した作品についてのコメント、30％）を参考に成績評価を決定する。

芸術作品に関する基礎知識を身に付けた上で、分析と論証の手続きが一定のレベルに達しているかを評価基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容に沿って、開催中の展覧会を紹介する。
秋に開催される展覧会によって状況が変わる場合があるが、展覧会見学を行う予定。

【Outline (in English)】

Focusing on modern and contemporary art created in Europe, particularly in France, we will study art history from a variety of perspectives.
The goal of this course is to learn how to understand works of art in the context of art history.
If possible, students should voluntarily go to museums to view artworks based on the knowledge they learn in class.
The final grade will be determined by short comments written by the students at the end of each class (30%) and the exam at the end of the course (70%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

文化史 1

安原 眞琴

授業コード：A2581 | 曜日・時限：木6/Thu.6
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文芸読解の前提としての江戸／東京を、古地図や浮世絵などを見ながら学ぶ。

【到達目標】

- ・現在我々がいる「場」への関心、理解を高めることができる。
- ・文学の舞台の重要性に気付くことができる。
- ・古地図や浮世絵の知識を身に付けることができる。
- ・資料の分析・解釈を行う上で必要となる情報を収集し、それらを咀嚼し発表するなど、活用することができる。
- ・現在と過去の町を比較することで、都市の成り立ちや町づくりのあり方などを考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回アクションペーパーを提出し平常点を付加していく。
授業は講義形式だが、中間レポート以降、各自実際に町に出て調査してもらう予定である。

リアクションペーパーと中間レポートはMLS上で点数でフィードバックする。最終レポートはブラッシュアップ時に必要であればアドバイスするが、最終的な点数などの評価はフィードバックも公表もしない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業の進め方などを説明する。 ・文学の舞台になってきた武蔵野／江戸／東京の土地の歴史を学ぶ。
第2回	東京の概要を知る	「東京」の成り立ちを学ぶ。
第3回	東京の概要を知る	23区の1区ごとの位置や特徴などを学ぶ。（国会図書館のサイト参照）
第4回	古地図の見方を知る	古地図の種類と見方を学ぶ。
第5回	「江戸城」を知る	町の中心「江戸城」について学ぶ。
第6回	城下町「江戸」を知る	町の構造「下町と山の手」について学ぶ。
第7回	日本橋を知る	具体的な町の歴史や特徴を学ぶ。（下町の中心）
第8回	上野を知る	具体的な町の歴史や特徴を学ぶ。（町の鬼門）
第9回	浅草を知る	具体的な町の歴史や特徴を学ぶ。（武蔵野以来の要衝地）
第10回	品川を知る	具体的な町の歴史や特徴を学ぶ。（繁華街・四宿）
第11回	両国を知る	具体的な町の歴史や特徴を学ぶ。（繁華街・火除地）
第12回	吉原を知る	具体的な町の歴史や特徴を学ぶ。（日本最大の繁華街）
第13回	吉原を知る	具体的な町の歴史や特徴を学ぶ。（日本最大の繁華街）
第14回	王子・飛鳥山を知る	具体的な町の歴史や特徴を学ぶ。（郊外・遊山・散歩）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：授業内容に関する事柄を事前に学習してくる（2時間）
復習：授業で学んだことを踏まえて、事前学習をブラッシュアップしてくる。（2時間）
宿題：担当する町について調べる。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、授業時に指示する。

【参考書】

錦絵で楽しむ江戸の名所（国会図書館のサイト：<https://www.ndl.go.jp/landmarks/index.html>）
安原眞琴『東京の老舗を食べる』（亜紀書房、2015）
安原眞琴『東京おいしい老舗散歩』（東海教育研究所、2017）

【成績評価の方法と基準】

- ・リアクションペーパーを毎回提出させ平常点として加算していきます。60%
 - ・中間レポート（宿題）20%
 - ・期末レポート20%
- これらの総合判断により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎年、まじめな学生が多く、この先どんな分野に進むにせよ、ますますの成長を楽しみにさせてくれる。これからも、何か少しでも自分のために学ぼうとし、且つ学んだことを自分のこやしにしていってほしい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使いたいと思っています。

【その他の重要事項】

授業終了時の教壇前での会話・相談をオフィスアワーとします。
ただし、重要な連絡がある場合は、次の安原眞琴公式ホームページのコンタクト欄を使用します。
<http://www.makotooffice.net/>

【Outline (in English)】

Course Outline: In this class, we learn about Edo/Tokyo as a premise for reading comprehension, while examining old maps and ukiyo-e woodblock prints.

Learning Objectives: The aims of the class are to become more conscious of where we are, and of the settings of works of literature, while gaining knowledge about old maps and ukiyo-e. Students learn to collect and digest relevant information, and report on it. Comparing urban areas of the past and present gives students insight into how they are formed and evolve.

Learning Activities Outside of the Classroom: 1 to 2 hours of preparation on the topic of each lecture, and a similar amount of time of review. This will occasionally be supplemented with short assignments.

Grading Criteria/Policy: Grading is based on the following: written reactions to each lecture (60%); mid-semester assignments (20%); and final report (20%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

文化史 2

山口 恭子

授業コード：A2582 | 曜日・時限：木6/Thu.6
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、中国、および日本の「書の歴史」を学びます。また、このことを通じ、広く文字の文化に関する知見を養います。

【到達目標】

中国、および日本の書芸術の流れと、それに関わる基本的な事項を習得することを目標とします。とくに、主要な書道史の事項、人物、作品、それらの書道史上の意義等について理解し、説明することができるよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

中国、および日本における書の史的展開について講義します。中国の書道史では漢字の起こりから唐代までを、日本の書道史では飛鳥・奈良時代から江戸時代初期までを中心に上げます。

なお、授業の内容に関して毎時リアクションペーパーを提出していただきます。次回授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行ってゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 中国書道史1 (殷・周の書)	・書および書道史研究について ・古代の漢字 ・甲骨文と金文
第2回	中国書道史2 (秦・漢の書)	・始皇帝の文字統一 ・隸書の発展と後漢の石碑
第3回	中国書道史3 (三国の書)	・書体の発展
第4回	中国書道史4 (東晋の書)	・王羲之、王献之の書
第5回	中国書道史5 (南北朝の書)	・北朝の石刻について
第6回	中国書道史6 (唐の書)	・初唐の三大家と楷書
第7回	日本書道史1 (飛鳥・奈良の書)	・文字の受容 ・聖武天皇、ならびに光明皇后の書
第8回	日本書道史2 (平安前期の書)	・三筆の書
第9回	日本書道史3 (平安中期の書)	・三蹟の書 ・和様の成立
第10回	日本書道史4 (仮名の書のさまたち)	・仮名の書とその書美
第11回	日本書道史5 (平安後期の書)	・西本願寺本三十六人家集
第12回	日本書道史6 (中世の書)	・尊円親王の書 ・さまざまな書流
第13回	日本書道史7 (近世の書)	・寛永の三筆の書
第14回	まとめ	・中国書道史、日本書道史のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館で、『書道全集』（平凡社、1974年）、石川九楊『書の宇宙』（二玄社、1996年）といった全集、図版類を見たり、可能であれば博物館・美術館での展示に足を運ぶなどして、より多くの書にふれること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しません。パワーポイント資料や配布プリントをもとに進めます。

【参考書】

・書学書道史学会編『日本・中国・朝鮮 書道史年表事典』（荏原書房、2005年）
・角井博監修『中国書道史』（芸術新聞社、2009年）
・名兄耶明監修『日本書道史』（芸術新聞社、2009年）
そのほか、講義時に提示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50％）、課題（30％）、平常点（20％）により評価します。試験では、主要な書道史の事項、書家、書作品、それらの書道史上の意義について理解し、説明することができるかを評価基準とします。

【学生の意見等からの気づき】

書の歴史を講ずるだけでなく、作品の鑑賞や解釈などについてみなさんとともに考察する機会を設け、学習のモチベーションを高める工夫をしたいと考えています。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the history of Chinese and Japanese calligraphy.

Learning Objectives: This course aims to understand the fundamentals of the history of calligraphy, such as styles and schools of calligraphy, major calligraphers, and the significance of surviving examples of calligraphy.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours understanding the content of the course

Grading Criteria/Policy: The overall grade of the class will be determined based on: final exam (50%), assignments (30%), and regular class performance (20%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

表現と著作権A

平井 彰司

夜間時間帯

授業コード：A2584 | 曜日・時限：火5/Tue.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

著作権の歴史と権利の淵源を概観し、著作権法を読み解くことを通じて、著作権思想の全体像をつかむ。著作権の基礎を学習して、著作権と社会との関係がテーマの秋学期へと繋ぐ。

【到達目標】

我が国著作権法の主要な規定について、その内容と効用を習得することを目指す。併せて文学部生に求められる法秩序の基本を理解し、法律の記述ルールや条文読解のポイントを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者が法律学の基礎カリキュラムを通過していないことを前提に講義形式で行います。また、必要に応じて発言を求める場合があります。原則として、毎回授業終了時にリアクションペーパーの提出を求めます。疑問や意見、感想など自由に記入してください。次回以降にフィードバックを行うとともに、授業の進行に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	文学部生が身につけるべき著作権理解について考える。
第2回	創作の系譜	作品の形式と伝達の変化を抑えつつ、創作行為と受容の類型を理解する。
第3回	近代著作権の概要	著作権誕生の背景とそれを支える思想、概念の変遷をたどる。
第4回	著作権法	我が国の法秩序における位置づけの確認と、基本的な構成を概観する。
第5回	著作物	著作物とは何か。類例を基に著作性について考える。
第6回	著作者	著作者とは誰か。著作権者との違いとは何かを整理する。
第7回	保護の対象・期間	法律で保護される種類と範囲を見ていく（海外作品も含めて）。
第8回	権利の種類	著作権者が専有する権利（支分権）の詳細を理解する。
第9回	権利の制限	例外的に権利者の許諾なしに利用可能な場合と、その要件を整理する。
第10回	人格権・隣接権	著作者の財産権以外で法律に規定されている権利を知る。
第11回	許諾・契約	著作物の利用許諾の態様や利用契約の実際に触れる。
第12回	著作権管理、補償金	多くの著作権を集めて管理したり、補償金を分配する組織の実際に触れる。
第13回	裁定・登録・あっせん	私権である著作権に対して行政が調整的機能を持つ事例を見ていく。
第14回	補足・まとめ	学習の成果を踏まえ、著作権の基礎を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介した参考文献・資料等には極力目を通しておくこと。折に触れて、世界史や国際関係、ビジネスに関する知識が求められます。各受講者の必要に応じた予備学習を心掛けてください。本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

Please make an effort to read through the references and materials introduced in class as much as possible. Knowledge of world history, international relations, and business will be required from time to time. Please be mindful of doing preliminary study according to your needs. The standard preparation and review time for this class is one hour each.

【テキスト（教科書）】

最新の著作権法をネットや図書館等を通じて準備すること。

【参考書】

随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーを含む平常点50%、期末レポートの内容50%を評価の目安とします。

The grading criteria will be 50% based on regular class performance including reaction papers and 50% on the content of the final report.

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

表現と著作権A・Bの通年履修を推奨します。

日本文藝家協会事務局長。筑摩書房にて知的財産の保護・活用、デジタルビジネスの企画・開発、表現の自由と人権問題等の編集コンプライアンスを掌管。著作権領域に関する出版界全体の調整、著作者団体・各種利用者・関係省庁等へのロビイングに従事。2021年より現職。

<専門領域>出版分野を中心とした著作権実務全般

<研究テーマ>著作権制度、メディア論、出版論

<主要研究業績>特になし

【Outline (in English)】

The course provides an overview of the history of copyright and the abyss of rights, and through a reading of copyright law, students will grasp the overall picture of copyright thought. The course will connect to the fall semester, in which the theme will be the relationship between copyright and society, by learning the basics of copyright.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

表現と著作権B

平井 彰司

夜間時間帯

授業コード：A2586 | 曜日・時限：火5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

著作権そのものへの理解を深めた春学期を受けて、テクノロジーの進化／深化を軸に著作権と外部とのかわり＝社会との相互関係やビジネスとの相克等を総合的に考察していく。

【到達目標】

法律条文の解釈論にとどまらず、社会全体の視座から著作権が創作・媒介・受容の営みに果たす役割について理解し、文学部生として身につけるべき著作権リテラシー習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者が法律学の基礎カリキュラムを通過していないことを前提に講義形式で行います。また、必要に応じて発言を求める場合があります。原則として、毎回授業終了時にリアクションペーパーの提出を求めます。疑問や意見、感想など自由に記入してください。次回以降にフィードバックを行うとともに、授業の進行に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	著作権の基本を再確認し、現状が抱える諸問題の射程を整理する。
第2回	紛争処理・罰則	民事解決と刑事罰、賠償額の算定や罰則の水準について学ぶ。
第3回	係争と裁判手続	著作権裁判の実例を見ていくとともに、和解解決やソフトローを紹介する。
第4回	著作権制度	法律改正の要件から成立、公布・施行、運用までのプロセスを理解する。
第5回	知的財産権	知的財産権一般と対比しながら、他とは一線を画す特殊な性格を知る。
第6回	文字記録・印刷物	グーテンベルク以前から現代まで。パッケージの進歩や頒布方法を含めて。
第7回	保存・再生技術の歴史	画像・音声・映像。創作の領域を拡張する技術の進化をたどる。
第8回	伝達手段の展開	移動・運搬から通信・放送へと位相を転じた伝達の変遷を見ていく。
第9回	デジタルテクノロジー	コンピュータとネットワークの進化は著作物をめぐる環境をどう変えたか。
第10回	出版物の電子化	書籍書籍・電子ジャーナル等を手掛かりに読書行為への影響を探る。
第11回	海賊版・アーカイブ	著作権を制限する運動やデジタルアーカイブの展開、海賊版対策の実態を知る。
第12回	A I ・メタバース	創作と伝達、受容をとりまく最新のトピックを採り上げる。
第13回	著作権とは	著作権の性質と構造を再確認し、社会における意義や射程について考察する。
第14回	補足・まとめ	現在の著作権システムの考察を通じて、創作・媒介・受容の未来を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介した参考文献・資料等には極力目を通しておくこと。折に触れて、世界史や国際関係、ビジネスに関する知識が求められます。各受講者の必要に応じた予備学習を心掛けてください。本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

Please make an effort to read through the references and materials introduced in class as much as possible. Knowledge of world history, international relations, and business will be required from time to time. Please be mindful of doing preliminary study according to your needs. The standard preparation and review time for this class is one hour each.

【テキスト（教科書）】

最新の著作権法をネットや図書館等を通じて準備すること。

【参考書】

随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーを含む平常点50%、期末レポートの内容50%を評価の目安とします。

The grading criteria will be 50% based on regular class performance including reaction papers and 50% on the content of the final report.

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

表現と著作権A・Bの通年履修を推奨します。

日本文藝家協会事務局長。筑摩書房にて知的財産の保護・活用、デジタルビジネスの企画・開発、表現の自由と人権問題等の編集コンプライアンスを掌管。著作権領域に関する出版界全体の調整、著作者団体・各種利用者・関係省庁等へのロビイングに従事。2021年より現職。

<専門領域>出版分野を中心とした著作権実務全般

<研究テーマ>著作権制度、メディア論、出版論

<主要研究業績>特になし

【Outline (in English)】

Following the spring semester in which we deepened our understanding of copyright itself, we will comprehensively examine the relationship between copyright and the outside world = interrelationships with society and conflicts with business, etc., centered on the evolution/deepening of technology.

LIT100BC (文学 / Literature 100)

古文・漢文の基礎

栗山 元子

授業コード：A2604 | 曜日・時限：木5/Thu.5
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今年度は江戸後期の学者・尾崎雅嘉著『百人一首一夕話』を題材に、百人一首作者についての評伝を読む中で、歌の解釈・歌人の逸話・歌に影響を与えた漢籍故事や漢詩文などについて学んでいきます。その過程を通じて古文や漢文を読み解くのに必要な基礎知識を学び直し、古典作品への理解・興味を深めていくことを目指します。

【到達目標】

- ①古文・漢文を理解するのに役立つ文法などを学び直し、正確な理解ができる力を養います。
- ②古典や漢文を読むにあたって必要な文学史・歴史的背景について知ること、古典作品をより深く理解することができます。
- ③古典作品に対する解釈が一樣ではなく、多様な解釈がさまざまな語られていることを知ることで、文学の受容という問題への視点を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・テキストとして岩波文庫『百人一首一夕話』を使用し、必要に応じて、参考資料を配布します。
- ・授業は対面で行い、講師による講読を行います。理解の促進のためにパワーポイントも使用します。
- ・毎回の授業時にリアクションペーパーの提出を課します。
- ・リアクションペーパーに対するフィードバックは次回の授業の冒頭が第14回のまとめの回で行います。メールでの質問などは常時受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容・方針についての説明を行います。
第2回	巻の一・「安倍仲磨」を読む	安倍仲磨の百人一首歌の解釈・逸伝中に引用される漢詩文の解説などを行います。
第3回	巻の二・「小野小町」を読む①	小野小町についての評伝を読んでいます。文が長いので、二回に分けて読んでいきます。
第4回	巻の二・「小野小町」を読む②	小野小町についての評伝を読んでいます。文が長いので、二回に分けて、前回に続いて講読していきます。
第5回	巻の二・「蟬丸」を読む	蟬丸の評伝を読み、歌の解釈・蟬丸をめぐる逸話の展開について確認していきます。
第6回	巻の二・「参議簗」を読む	小野簗の百人一首歌の解釈・逸話の読解・逸伝中に引用される漢詩文の解説などを行います。簗をめぐる伝説についても紹介します。
第7回	巻の二・「河原左大臣」を読む	源融の百人一首歌の解釈・評伝に引用される河原院伝説の紹介を行います。
第8回	巻の二・「在原業平朝臣」を読む	在原業平の百人一首歌の解釈・評伝を講読します。
第9回	巻の三・「菅家」を読む①	菅原道真の百人一首歌の解釈・評伝を講読し、引用された漢詩文の読解も行います。
第10回	巻の三・「菅家」を読む②	前回に続き、菅原道真の百人一首歌の解釈・評伝を講読し、引用された漢詩文の講読も行います。
第11回	巻の三・「菅家」を読む③	菅原道真の評伝が長文のため、三回に分けて読んでいきます。あわせて道真作の漢詩文の講読も行います。
第12回	巻の四「壬生忠見」を読む	壬生忠見の百人一首歌の解釈・評伝の講読を行います。
第13回	巻の四・「藤原実方朝臣」を読む	藤原実方の百人一首歌の解釈・評伝の講読を行います。
第14回	まとめと試験	授業のまとめと総括、理解度を測る試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にはテキストで取り上げる人物についての記載内容を読み、大体の概要をつかんでおいてください。また授業後には授業内容を整理・復習し、古語や歴史用語などの言葉についても辞書などで確認をしておいてください。授業前後の学習は各2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は『百人一首一夕話（上）』（尾崎雅嘉著・古川久校訂 岩波文庫 黄235-1 ISBN9784003023518）を使用します。上巻のみを今回は扱いますので、下巻は購入せずとも結構です。

【参考書】

『百人一首で読み解く平安時代』（吉海直人著 角川選書 516 ISBN9784047035164）、『百人一首の作者たち』（目崎徳衛著 角川ソフィア文庫 ISBN9784044056018）、『百人一首―編集がひらく小宇宙』（田淵句美子 岩波新書新赤版 ISBN9784004320067）など。

【成績評価の方法と基準】

- ①毎回の授業を踏まえてのリアクションペーパーを授業時間内に提出してもらいます。
- ②最終週に試験を行います。
- ③これらを授業に対する取り組み姿勢・授業内容の理解度を測るものとして評価していきます。成績をつけるにあたっての①と②の比重については、①が70%、②が30%の割合とし、その合算により最終的な評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

課題やコメントシートに書かれた疑問に対しては、次回の授業冒頭の時間などを利用して答えたり、意見なども紹介を行う形でフィードバックを行います。

【Outline (in English)】

Course Outline:In this class, we will read "Hyakunin Isshu hitoyogatari" by Masaya Ozaki, a scholar from the late Edo period. This book contains anecdotes from Hyakunin Isshu poets, including interpretations of their poems, and is useful for deepening knowledge of Japanese and Chinese classical literature.**Learning Objectives:** The goals of this course are to acquire and expand basic knowledge of Chinese and Japanese classical literature.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class, students will be expected to read in advance the next time we deal with the text. After each class, students are expected to revise the class content. These tasks take four hours each week.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on 14 assignments (70%) and a examination (30%).

BSP100BC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

ゼミナール入門

森 陽香

授業コード：A2605 | 曜日・時限：月3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文学科では、2・3年次に所属する「ゼミナール」（ゼミ）によって、文学／言語／文芸の3コースに分かれます。ゼミでは、専門性の高い課題に、共同で取り組んでゆきます。そして、4年次には、学業の集大成として、卒業論文を執筆することになります。

この授業では、ゼミに必要なプレゼンテーション力やディスカッション力を養うために、発表の技術や討議の方法を「入門」的に学んでゆきます。

★「ゼミナール入門」は、2・3年次にゼミで学習してゆくための導入授業です。1年次の受講を強く推奨します。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載される《日本文学科「大学での国語力」「ゼミナール入門」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

【到達目標】

1. 問題提起的な発表内容を準備することができる
 2. わかりやすいレジュメを作成することができる
 3. 他人の発表を聴き疑問点を見出すことができる
- 以上のような力を身につけたうえで、「レジュメ（発表資料）を使って研究成果を発表し、他者と議論することができること」を、最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文献調査、レジュメの作成、口頭発表（プレゼンテーション）、質疑応答（ディスカッション）など、実践的な課題に取り組んでもらいます。

★受講者のレジュメなどに対するフォローアップ（フィードバック）は、授業内および学習支援システム内で行います。

★10月下旬頃に、コースとゼミ選抜についてのガイダンスを実施します（全クラス合同）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介・課題選択など
2	準備編①	テーマを考える
3	準備編②	文献調査
4	準備編③	ミーティング
5	準備編④	レジュメの準備
6	ガイダンス	コースとゼミ選抜の説明
7	発展編①	発表・質疑応答
8	発展編②	発表・質疑応答
9	発展編③	発表・質疑応答
10	発展編④	発表・質疑応答
11	応用編①	発表・質疑応答
12	応用編②	発表・質疑応答
13	応用編③	発表・質疑応答
14	応用編④	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの作成や発表の準備を、各自で進めること。
※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版（下記のサイトからダウンロードできます）

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

【成績評価の方法と基準】

1. 授業・質疑応答への積極的な参加：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。
2. 発表の内容：40% ※発表をしなかった場合には、単位を修得できないことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「どうやってテーマを絞るのか、どうやってレジュメに落とし込むのか、どうやってプレゼンをするのか、具体的に理解できた」、「クラスメイトと議論することができ、ゼミに入るための準備ができた」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員でミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces the methods of academic presentation and academic discussion.

Learning Objectives: The objective of this course is to learn how to give an academic presentation and how to have an academic discussion.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: discussions and learning attitude in class(60%), presentations (40%).

BSP100BC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

ゼミナール入門

中丸 宣明

授業コード：A2606 | 曜日・時限：月3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文学科では、2・3年次に所属する「ゼミナール」（ゼミ）によって、文学／言語／文芸の3コースに分かれます。ゼミでは、専門性の高い課題に、共同で取り組んでゆきます。そして、4年次には、学業の集大成として、卒業論文を執筆することになります。

この授業では、ゼミに必要なプレゼンテーション力やディスカッション力を養うために、発表の技術や討議の方法を「入門」的に学んでゆきます。

★「ゼミナール入門」は、2・3年次にゼミで学習してゆくための導入授業です。1年次の受講を強く推奨します。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載される《日本文学科「大学での国語力」「ゼミナール入門」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

【到達目標】

1. 問題提起的な発表内容を準備することができる
 2. わかりやすいレジュメを作成することができる
 3. 他人の発表を聴き疑問点を見出すことができる
- 以上のような力を身につけたうえで、「レジュメ（発表資料）を使って研究成果を発表し、他者と議論することができること」を、最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文献調査、レジュメの作成、口頭発表（プレゼンテーション）、質疑応答（ディスカッション）など、実践的な課題に取り組んでもらいます。

★受講者のレジュメなどに対するフォローアップ（フィードバック）は、授業内および学習支援システム内で行います。

★10月下旬頃に、コースとゼミ選抜についてのガイダンスを実施します（全クラス合同）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介・課題選択など
2	準備編①	テーマを考える
3	準備編②	文献調査
4	準備編③	ミーティング
5	準備編④	レジュメの準備
6	ガイダンス	コースとゼミ選抜の説明
7	発展編①	発表・質疑応答
8	発展編②	発表・質疑応答
9	発展編③	発表・質疑応答
10	発展編④	発表・質疑応答
11	応用編①	発表・質疑応答
12	応用編②	発表・質疑応答
13	応用編③	発表・質疑応答
14	応用編④	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの作成や発表の準備を、各自で進めること。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版（下記のサイトからダウンロードできます）

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

【成績評価の方法と基準】

1. 授業・質疑応答への積極的な参加：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。

2. 発表の内容：40% ※発表をしなかった場合には、単位を修得できないことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「どうやってテーマを絞るのか、どうやってレジュメに落とし込むのか、どうやってプレゼンをするのか、具体的に理解できた」、「クラスメイトと議論することができ、ゼミに入るための準備ができた」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員でミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces the methods of academic presentation and academic discussion.

Learning Objectives: The objective of this course is to learn how to give an academic presentation and how to have an academic discussion.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: discussions and learning attitude in class(60%), presentations (40%).

BSP100BC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

ゼミナール入門

加藤 昌嘉

授業コード：A2607 | 曜日・時限：月3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文学科では、2・3年次に所属する「ゼミナール」（ゼミ）によって、文学／言語／文芸の3コースに分かれます。ゼミでは、専門性の高い課題に、共同で取り組んでゆきます。そして、4年次には、学業の集大成として、卒業論文を執筆することになります。

この授業では、ゼミに必要なプレゼンテーション力やディスカッション力を養うために、発表の技術や討議の方法を「入門」的に学んでゆきます。

★「ゼミナール入門」は、2・3年次にゼミで学習してゆくための導入授業です。1年次の受講を強く推奨します。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載される《日本文学科「大学での国語力」「ゼミナール入門」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

【到達目標】

1. 問題提起的な発表内容を準備することができる
 2. わかりやすいレジュメを作成することができる
 3. 他人の発表を聴き疑問点を見出すことができる
- 以上のような力を身につけたうえで、「レジュメ（発表資料）を使って研究成果を発表し、他者と議論することができること」を、最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文献調査、レジュメの作成、口頭発表（プレゼンテーション）、質疑応答（ディスカッション）など、実践的な課題に取り組んでもらいます。

★受講者のレジュメなどに対するフォローアップ（フィードバック）は、授業内および学習支援システム内で行います。

★10月下旬に、コースとゼミ選抜についてのガイダンスを実施します（全クラス合同）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介・課題選択など
2	準備編①	テーマを考える
3	準備編②	文献調査
4	準備編③	ミーティング
5	準備編④	レジュメの準備
6	ガイダンス	コースとゼミ選抜の説明
7	発展編①	発表・質疑応答
8	発展編②	発表・質疑応答
9	発展編③	発表・質疑応答
10	発展編④	発表・質疑応答
11	応用編①	発表・質疑応答
12	応用編②	発表・質疑応答
13	応用編③	発表・質疑応答
14	応用編④	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの作成や発表の準備を、各自で進めること。
※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版（下記のサイトからダウンロードできます）

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

【成績評価の方法と基準】

1. 授業・質疑応答への積極的な参加：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。
2. 発表の内容：40% ※発表をしなかった場合には、単位を修得できないことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「どうやってテーマを絞るのか、どうやってレジュメに落とし込むのか、どうやってプレゼンをするのか、具体的に理解できた」、「クラスメイトと議論することができ、ゼミに入るための準備ができた」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員でミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces the methods of academic presentation and academic discussion.

Learning Objectives: The objective of this course is to learn how to give an academic presentation and how to have an academic discussion.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: discussions and learning attitude in class(60%), presentations (40%).

BSP100BC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

ゼミナール入門

藤村 耕治

授業コード：A2608 | 曜日・時限：月3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文学科では、2・3年次に所属する「ゼミナール」（ゼミ）によって、文学／言語／文芸の3コースに分かれます。ゼミでは、専門性の高い課題に、共同で取り組んでゆきます。そして、4年次には、学業の集大成として、卒業論文を執筆することになります。

この授業では、ゼミに必要なプレゼンテーション力やディスカッション力を養うために、発表の技術や討議の方法を「入門」的に学んでゆきます。

★「ゼミナール入門」は、2・3年次にゼミで学習してゆくための導入授業です。1年次の受講を強く推奨します。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載される《日本文学科「大学での国語力」「ゼミナール入門」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

【到達目標】

1. 問題提起的な発表内容を準備することができる
 2. わかりやすいレジュメを作成することができる
 3. 他人の発表を聴き疑問点を見出すことができる
- 以上のような力を身につけたうえで、「レジュメ（発表資料）を使って研究成果を発表し、他者と議論することができること」を、最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文献調査、レジュメの作成、口頭発表（プレゼンテーション）、質疑応答（ディスカッション）など、実践的な課題に取り組んでもらいます。

★受講者のレジュメなどに対するフォローアップ（フィードバック）は、授業内および学習支援システム内で行います。

★10月下旬頃に、コースとゼミ選抜についてのガイダンスを実施します（全クラス合同）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介・課題選択など
2	準備編①	テーマを考える
3	準備編②	文献調査
4	準備編③	ミーティング
5	準備編④	レジュメの準備
6	ガイダンス	コースとゼミ選抜の説明
7	発展編①	発表・質疑応答
8	発展編②	発表・質疑応答
9	発展編③	発表・質疑応答
10	発展編④	発表・質疑応答
11	応用編①	発表・質疑応答
12	応用編②	発表・質疑応答
13	応用編③	発表・質疑応答
14	応用編④	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの作成や発表の準備を、各自で進めること。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版（下記のサイトからダウンロードできます）

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

【成績評価の方法と基準】

1. 授業・質疑応答への積極的な参加：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。
2. 発表の内容：40% ※発表をしなかった場合には、単位を修得できないことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「どうやってテーマを絞るのか、どうやってレジュメに落とし込むのか、どうやってプレゼンをするのか、具体的に理解できた」、「クラスメイトと議論することができ、ゼミに入るための準備ができた」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員でミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces the methods of academic presentation and academic discussion.

Learning Objectives: The objective of this course is to learn how to give an academic presentation and how to have an academic discussion.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: discussions and learning attitude in class(60%), presentations (40%).

BSP100BC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

ゼミナール入門

小林 ふみ子

授業コード：A2609 | 曜日・時限：月3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文学科では、2・3年次に所属する「ゼミナール」（ゼミ）によって、文学／言語／文芸の3コースに分かれます。ゼミでは、専門性の高い課題に、共同で取り組んでゆきます。そして、4年次には、学業の集大成として、卒業論文を執筆することになります。

この授業では、ゼミに必要なプレゼンテーション力やディスカッション力を養うために、発表の技術や討議の方法を「入門」的に学んでゆきます。

★「ゼミナール入門」は、2・3年次にゼミで学習してゆくための導入授業です。1年次の受講を強く推奨します。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載される《日本文学科「大学での国語力」「ゼミナール入門」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

【到達目標】

1. 問題提起的な発表内容を準備することができる
 2. わかりやすいレジュメを作成することができる
 3. 他人の発表を聴き疑問点を見出すことができる
- 以上のような力を身につけたうえで、「レジュメ（発表資料）を使って研究成果を発表し、他者と議論することができること」を、最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文献調査、レジュメの作成、口頭発表（プレゼンテーション）、質疑応答（ディスカッション）など、実践的な課題に取り組んでもらいます。

★受講者のレジュメなどに対するフォローアップ（フィードバック）は、授業内および学習支援システム内で行います。

★10月下旬頃に、コースとゼミ選抜についてのガイダンスを実施します（全クラス合同）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介・課題選択など
2	準備編①	テーマを考える
3	準備編②	文献調査
4	準備編③	ミーティング
5	準備編④	レジュメの準備
6	ガイダンス	コースとゼミ選抜の説明
7	発展編①	発表・質疑応答
8	発展編②	発表・質疑応答
9	発展編③	発表・質疑応答
10	発展編④	発表・質疑応答
11	応用編①	発表・質疑応答
12	応用編②	発表・質疑応答
13	応用編③	発表・質疑応答
14	応用編④	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの作成や発表の準備を、各自で進めること。
※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版（下記のサイトからダウンロードできます）

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

【成績評価の方法と基準】

1. 授業・質疑応答への積極的な参加：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。
2. 発表の内容：40% ※発表をしなかった場合には、単位を修得できないことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「どうやってテーマを絞るのか、どうやってレジュメに落とし込むのか、どうやってプレゼンをするのか、具体的に理解できた」、「クラスメイトと議論することができ、ゼミに入るための準備ができた」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員でミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces the methods of academic presentation and academic discussion.

Learning Objectives: The objective of this course is to learn how to give an academic presentation and how to have an academic discussion.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: discussions and learning attitude in class(60%), presentations (40%).

BSP100BC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

ゼミナール入門

田中 和生

授業コード：A2610 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文学科では、2・3年次に所属する「ゼミナール」（ゼミ）によって、文学／言語／文芸の3コースに分かれます。ゼミでは、専門性の高い課題に、共同で取り組んでゆきます。そして、4年次には、学業の集大成として、卒業論文を執筆することになります。

この授業では、ゼミに必要なプレゼンテーション力やディスカッション力を養うために、発表の技術や討議の方法を「入門」的に学んでゆきます。

★「ゼミナール入門」は、2・3年次にゼミで学習してゆくための導入授業です。1年次の受講を強く推奨します。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載される《日本文学科「大学での国語力」「ゼミナール入門」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

【到達目標】

1. 問題提起的な発表内容を準備することができる
 2. わかりやすいレジュメを作成することができる
 3. 他人の発表を聴き疑問点を見出すことができる
- 以上のような力を身につけたうえで、「レジュメ（発表資料）を使って研究成果を発表し、他者と議論することができること」を、最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文献調査、レジュメの作成、口頭発表（プレゼンテーション）、質疑応答（ディスカッション）など、実践的な課題に取り組んでもらいます。

★受講者のレジュメなどに対するフォローアップ（フィードバック）は、授業内および学習支援システム内で行います。

★10月下旬頃に、コースとゼミ選抜についてのガイダンスを実施します（全クラス合同）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介・課題選択など
2	準備編①	テーマを考える
3	準備編②	文献調査
4	準備編③	ミーティング
5	準備編④	レジュメの準備
6	ガイダンス	コースとゼミ選抜の説明
7	発展編①	発表・質疑応答
8	発展編②	発表・質疑応答
9	発展編③	発表・質疑応答
10	発展編④	発表・質疑応答
11	応用編①	発表・質疑応答
12	応用編②	発表・質疑応答
13	応用編③	発表・質疑応答
14	応用編④	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの作成や発表の準備を、各自で進めること。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版（下記のサイトからダウンロードできます）

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

【成績評価の方法と基準】

1. 授業・質疑応答への積極的な参加：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。
2. 発表の内容：40% ※発表をしなかった場合には、単位を修得できないことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「どうやってテーマを絞るのか、どうやってレジュメに落とし込むのか、どうやってプレゼンをするのか、具体的に理解できた」、「クラスメイトと議論することができ、ゼミに入るための準備ができた」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員でミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces the methods of academic presentation and academic discussion.

Learning Objectives: The objective of this course is to learn how to give an academic presentation and how to have an academic discussion.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: discussions and learning attitude in class(60%), presentations (40%).

BSP100BC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

ゼミナール入門

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2611 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文学科では、2・3年次に所属する「ゼミナール」（ゼミ）によって、文学／言語／文芸の3コースに分かれます。ゼミでは、専門性の高い課題に、共同で取り組んでゆきます。そして、4年次には、学業の集大成として、卒業論文を執筆することになります。

この授業では、ゼミに必要なプレゼンテーション力やディスカッション力を養うために、発表の技術や討議の方法を「入門」的に学んでゆきます。

★「ゼミナール入門」は、2・3年次にゼミで学習してゆくための導入授業です。1年次の受講を強く推奨します。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載される《日本文学科「大学での国語力」「ゼミナール入門」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

【到達目標】

1. 問題提起的な発表内容を準備することができる
 2. わかりやすいレジュメを作成することができる
 3. 他人の発表を聴き疑問点を見出すことができる
- 以上のような力を身につけたうえで、「レジュメ（発表資料）を使って研究成果を発表し、他者と議論することができること」を、最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文献調査、レジュメの作成、口頭発表（プレゼンテーション）、質疑応答（ディスカッション）など、実践的な課題に取り組んでもらいます。

★受講者のレジュメなどに対するフォローアップ（フィードバック）は、授業内および学習支援システム内で行います。

★10月下旬頃に、コースとゼミ選抜についてのガイダンスを実施します（全クラス合同）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介・課題選択など
2	準備編①	テーマを考える
3	準備編②	文献調査
4	準備編③	ミーティング
5	準備編④	レジュメの準備
6	ガイダンス	コースとゼミ選抜の説明
7	発展編①	発表・質疑応答
8	発展編②	発表・質疑応答
9	発展編③	発表・質疑応答
10	発展編④	発表・質疑応答
11	応用編①	発表・質疑応答
12	応用編②	発表・質疑応答
13	応用編③	発表・質疑応答
14	応用編④	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの作成や発表の準備を、各自で進めること。
※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版（下記のサイトからダウンロードできます）

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

【成績評価の方法と基準】

1. 授業・質疑応答への積極的な参加：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。
2. 発表の内容：40% ※発表をしなかった場合には、単位を修得できないことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「どうやってテーマを絞るのか、どうやってレジュメに落とし込むのか、どうやってプレゼンをするのか、具体的に理解できた」、「クラスメイトと議論することができ、ゼミに入るための準備ができた」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員でミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces the methods of academic presentation and academic discussion.

Learning Objectives: The objective of this course is to learn how to give an academic presentation and how to have an academic discussion.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: discussions and learning attitude in class(60%), presentations (40%).

BSP100BC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

ゼミナール入門

遠藤 星希

授業コード：A2612 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文学科では、2・3年次に所属する「ゼミナール」（ゼミ）によって、文学／言語／文芸の3コースに分かれます。ゼミでは、専門性の高い課題に、共同で取り組んでゆきます。そして、4年次には、学業の集大成として、卒業論文を執筆することになります。

この授業では、ゼミに必要なプレゼンテーション力やディスカッション力を養うために、発表の技術や討議の方法を「入門」的に学んでゆきます。

★「ゼミナール入門」は、2・3年次にゼミで学習してゆくための導入授業です。1年次の受講を強く推奨します。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載される《日本文学科「大学での国語力」「ゼミナール入門」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

【到達目標】

1. 問題提起的な発表内容を準備することができる
 2. わかりやすいレジュメを作成することができる
 3. 他人の発表を聴き疑問点を見出すことができる
- 以上のような力を身につけたうえで、「レジュメ（発表資料）を使って研究成果を発表し、他者と議論することができること」を、最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文献調査、レジュメの作成、口頭発表（プレゼンテーション）、質疑応答（ディスカッション）など、実践的な課題に取り組んでもらいます。

★受講者のレジュメなどに対するフォローアップ（フィードバック）は、授業内および学習支援システム内で行います。

★10月下旬頃に、コースとゼミ選抜についてのガイダンスを実施します（全クラス合同）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介・課題選択など
2	準備編①	テーマを考える
3	準備編②	文献調査
4	準備編③	ミーティング
5	準備編④	レジュメの準備
6	ガイダンス	コースとゼミ選抜の説明
7	発展編①	発表・質疑応答
8	発展編②	発表・質疑応答
9	発展編③	発表・質疑応答
10	発展編④	発表・質疑応答
11	応用編①	発表・質疑応答
12	応用編②	発表・質疑応答
13	応用編③	発表・質疑応答
14	応用編④	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの作成や発表の準備を、各自で進めること。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版（下記のサイトからダウンロードできます）

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

【成績評価の方法と基準】

1. 授業・質疑応答への積極的な参加：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。

2. 発表の内容：40% ※発表をしなかった場合には、単位を修得できないことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「どうやってテーマを絞るのか、どうやってレジュメに落とし込むのか、どうやってプレゼンをするのか、具体的に理解できた」、「クラスメイトと議論することができ、ゼミに入るための準備ができた」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員でミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces the methods of academic presentation and academic discussion.

Learning Objectives: The objective of this course is to learn how to give an academic presentation and how to have an academic discussion.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: discussions and learning attitude in class(60%), presentations (40%).

BSP100BC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

ゼミナール入門

中沢 けい

授業コード：A2613 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文学科では、2・3年次に所属する「ゼミナール」（ゼミ）によって、文学／言語／文芸の3コースに分かれます。ゼミでは、専門性の高い課題に、共同で取り組んでゆきます。そして、4年次には、学業の集大成として、卒業論文を執筆することになります。

この授業では、ゼミに必要なプレゼンテーション力やディスカッション力を養うために、発表の技術や討議の方法を「入門」的に学んでゆきます。

★「ゼミナール入門」は、2・3年次にゼミで学習してゆくための導入授業です。1年次の受講を強く推奨します。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載される《日本文学科「大学での国語力」「ゼミナール入門」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

【到達目標】

1. 問題提起的な発表内容を準備することができる
 2. わかりやすいレジュメを作成することができる
 3. 他人の発表を聴き疑問点を見出すことができる
- 以上のような力を身につけたうえで、「レジュメ（発表資料）を使って研究成果を発表し、他者と議論することができること」を、最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文献調査、レジュメの作成、口頭発表（プレゼンテーション）、質疑応答（ディスカッション）など、実践的な課題に取り組んでもらいます。

★受講者のレジュメなどに対するフォローアップ（フィードバック）は、授業内および学習支援システム内で行います。

★10月下旬頃に、コースとゼミ選抜についてのガイダンスを実施します（全クラス合同）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介・課題選択など
2	準備編①	テーマを考える
3	準備編②	文献調査
4	準備編③	ミーティング
5	準備編④	レジュメの準備
6	ガイダンス	コースとゼミ選抜の説明
7	発展編①	発表・質疑応答
8	発展編②	発表・質疑応答
9	発展編③	発表・質疑応答
10	発展編④	発表・質疑応答
11	応用編①	発表・質疑応答
12	応用編②	発表・質疑応答
13	応用編③	発表・質疑応答
14	応用編④	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの作成や発表の準備を、各自で進めること。
※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版（下記のサイトからダウンロードできます）

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

【成績評価の方法と基準】

1. 授業・質疑応答への積極的な参加：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。
2. 発表の内容：40% ※発表をしなかった場合には、単位を修得できないことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「どうやってテーマを絞るのか、どうやってレジュメに落とし込むのか、どうやってプレゼンをするのか、具体的に理解できた」、「クラスメイトと議論することができ、ゼミに入るための準備ができた」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員でミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces the methods of academic presentation and academic discussion.

Learning Objectives: The objective of this course is to learn how to give an academic presentation and how to have an academic discussion.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: discussions and learning attitude in class(60%), presentations (40%).

BSP100BC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

ゼミナール入門

加藤 昌嘉

授業コード：A2614 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文学科では、2・3年次に所属する「ゼミナール」（ゼミ）によって、文学／言語／文芸の3コースに分かれます。ゼミでは、専門性の高い課題に、共同で取り組んでゆきます。そして、4年次には、学業の集大成として、卒業論文を執筆することになります。

この授業では、ゼミに必要なプレゼンテーション力やディスカッション力を養うために、発表の技術や討議の方法を「入門」的に学んでゆきます。

★「ゼミナール入門」は、2・3年次にゼミで学習してゆくための導入授業です。1年次の受講を強く推奨します。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載される《日本文学科「大学での国語力」「ゼミナール入門」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

【到達目標】

1. 問題提起的な発表内容を準備することができる
 2. わかりやすいレジュメを作成することができる
 3. 他人の発表を聴き疑問点を見出すことができる
- 以上のような力を身につけたうえで、「レジュメ（発表資料）を使って研究成果を発表し、他者と議論することができること」を、最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文献調査、レジュメの作成、口頭発表（プレゼンテーション）、質疑応答（ディスカッション）など、実践的な課題に取り組んでもらいます。

★受講者のレジュメなどに対するフォローアップ（フィードバック）は、授業内および学習支援システム内で行います。

★10月下旬頃に、コースとゼミ選抜についてのガイダンスを実施します（全クラス合同）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介・課題選択など
2	準備編①	テーマを考える
3	準備編②	文献調査
4	準備編③	ミーティング
5	準備編④	レジュメの準備
6	ガイダンス	コースとゼミ選抜の説明
7	発展編①	発表・質疑応答
8	発展編②	発表・質疑応答
9	発展編③	発表・質疑応答
10	発展編④	発表・質疑応答
11	応用編①	発表・質疑応答
12	応用編②	発表・質疑応答
13	応用編③	発表・質疑応答
14	応用編④	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの作成や発表の準備を、各自で進めること。
※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版（下記のサイトからダウンロードできます）

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

【成績評価の方法と基準】

1. 授業・質疑応答への積極的な参加：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。
2. 発表の内容：40% ※発表をしなかった場合には、単位を修得できないことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「どうやってテーマを絞るのか、どうやってレジュメに落とし込むのか、どうやってプレゼンをするのか、具体的に理解できた」、「クラスメイトと議論することができ、ゼミに入るための準備ができた」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員でミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces the methods of academic presentation and academic discussion.

Learning Objectives: The objective of this course is to learn how to give an academic presentation and how to have an academic discussion.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: discussions and learning attitude in class(60%), presentations (40%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

ゼミナール 1 A

遠藤 星希

授業コード：A2615 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『唐詩選』は、明代の李攀龍（1514—1570）が編纂したとされる唐詩の選集（全部で465首の詩を取録）であり、江戸時代の日本で最もよく読まれた漢籍として知られている。本授業では、この『唐詩選』の中から比較的短い詩を選んで精読し、その魅力を堪能すると同時に、既存の日本語訳や漢文で書かれた注などを批判的に検討しながら、オリジナルの翻訳を完成させる。また、唐詩を生み出す土壌となった唐代の社会背景や文化・習慣、さらには唐詩の形式や規則についても併せて学ぶ。

【到達目標】

1. 『唐詩選』についての基礎的な知識を習得する。
2. 唐詩の形式や規則を把握する。
3. 唐詩を読解するための基礎的なスキル（辞書の引き方や用例の調べ方を含む）を身につける。
4. 既存の訳注を批判的に検討し、作品を独自に解釈・鑑賞する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

最初の数回のみ講義形式、残りは演習形式で行う。3年生と2年生から成るグループを作り、担当作品を決める。担当者はレジュメを準備して発表し、その内容を元にして全員で討論する。質問は授業中に随時受け付け、その場で返答できない場合は、次週の授業の冒頭に口頭で返答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（1）	『唐詩選』と唐詩についての概説。担当者の決定。発表の方法についてのレクチャー。
第2回	ガイダンス（2）	唐詩の形式と規則についての概説。
第3回	ガイダンス（3）	中国古典文学関連の文献・資料・論文・用例の調べ方について。
第4回	『唐詩選』精読（1）	張九齡「照鏡見白髮」
第5回	『唐詩選』精読（2）	李白「黃鶴樓送孟浩然之広陵」
第6回	『唐詩選』精読（3）	李白「早發白帝城」
第7回	『唐詩選』精読（4）	岑參「胡笳歌送顔真卿使赴河隴」
第8回	『唐詩選』精読（5）	王昌齡「西宮秋怨」
第9回	『唐詩選』精読（6）	杜甫「旅夜書懷」
第10回	『唐詩選』精読（7）	杜甫「九日藍田崔氏莊」
第11回	『唐詩選』精読（8）	王維「九月九日憶山東兄弟」
第12回	『唐詩選』精読（9）	韋應物「登樓寄王卿」
第13回	『唐詩選』精読（10）	李商隱「寄令狐郎中」
第14回	『唐詩選』精読（11）	太上隱者「答人」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者はその準備、その他の受講者は発表者の担当する詩について予習し、事前に内容を把握した上で、疑問点や検討を要する箇所について整理しておく。授業後には討論で得た情報と意見を自分なりにまとめておく。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。プリントを配布する。

【参考書】

- ・前野直彬注解『唐詩選』上・中・下巻（岩波文庫、1961-1963）
 - ・高木正一著『唐詩選』一・二・三・四（朝日文庫、1978）
 - ・松浦友久編著『漢詩の事典』（大修館書店、1999）
 - ・小川環樹著『唐詩概説』（岩波文庫、2005）
- その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告者としての発表内容（40%）、学期末レポート（40%）、討論への参加度・貢献度（20%）。学期中に必ず一度は発表することが成績評価の前提。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の討論にほとんど参加せず、聞いているだけの受講者が毎回確認できたので、質問や問題提起をしやすいような雰囲気を作り、場合によっては教員から受講者に質問して回答やコメントを求めるなど、全員参加型の授業となるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則としてE評価となる。

- ・出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数は受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
- ・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容を一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course Outline: *Tang-shi xuan* (*Selection of Tang Poems*) is an anthology of Tang poetry (465 poems) compiled by Li Panlong (1514-1570) during the Ming dynasty, and is known to have been a widely read Chinese classic during the Edo period in Japan. In this course, we will select and closely read relatively short poems from *Tang-shi xuan*, and while appreciating their appeal, we will complete original translations by critically examining existing Japanese translations, as well as commentaries written in literary Chinese. In addition, we will learn about the social background, culture and customs during the Tang which formed the foundation for the creation of Tang poetry, as well as the forms and rules of Tang poetry.

Learning Objectives: By the end of the course, students will:

- A. have acquired basic knowledge about *Tang-shi xuan*;
- B. understand the form and rules of Tang poetry;
- C. have acquired basic skills for reading and understanding Tang poetry; and
- D. be able to critically examine existing translations and notes and have acquired the ability to interpret Tang poetry in an original way.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are expected to read the presentation material prior to each class. Study time will be a minimum of 4 hours per class.

Grading Criteria/Policy: presentations 40%; participation in discussion 20%; final paper 40%.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

ゼミナール 1 B

遠藤 星希

授業コード：A2616 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『三体詩』は、南宋の周弼が編集したとされる唐詩の選集（全部で494首の詩を収録）であり、室町時代の日本で大変よく読まれた漢籍として知られている。本授業では、この『三体詩』の中から代表的な詩を選んで精読し、その魅力を堪能すると同時に、既存の日本語訳や漢文で書かれた注などを批判的に検討しながら、オリジナルの翻訳を完成させる。また、唐詩を生み出す土壌となった唐代の社会背景や文化・習慣、さらには唐詩の形式や規則についても併せて学ぶ。

【到達目標】

- 『三体詩』についての基礎的な知識を習得する。
- 唐詩の形式や規則を把握する。
- 唐詩を読解するための基礎的なスキル（辞書の引き方や用例の調べ方を含む）を身につける。
- 既存の訳注を批判的に検討し、作品を独自に解釈・鑑賞する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

最初の数回のみ講義形式、残りは演習形式で行う。3年生と2年生から成るグループを作り、担当作品を決める。担当者はレジュメを準備して発表し、その内容を元にして全員で討論する。質問は授業中に随時受け付け、その場で返答できない場合は、次週の授業の冒頭に口頭で返答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	『三体詩』についての概説。担当者の決定。発表の方法についてのレクチャー。
第2回	春学期の復習	春学期で習得した知識の復習と秋学期における新たな課題の提示。
第3回	『三体詩』精読（1）	李頎「琴歌」
第4回	『三体詩』精読（2）	王湾「次北固山下」
第5回	『三体詩』精読（3）	杜甫「春望」
第6回	『三体詩』精読（4）	王維「雑詩」
第7回	『三体詩』精読（5）	王維「過香積寺」
第8回	『三体詩』精読（6）	錢起「帰雁」
第9回	『三体詩』精読（7）	柳宗元「江雪」
第10回	『三体詩』精読（8）	白居易「香炉峰下新卜山居草堂初成偶題東壁」
第11回	『三体詩』精読（9）	杜牧「秋夕」
第12回	『三体詩』精読（10）	杜牧「江南春」
第13回	『三体詩』精読（11）	李商隐「春雨」
第14回	『三体詩』精読（12）	張祜「金山寺」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者はその準備、その他の受講者は発表者の担当する詩について予習し、事前に内容を把握した上で、疑問点や検討を要する箇所について整理しておく。授業後には討論で得た情報と意見を自分なりにまとめる。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。プリントを配布する。

【参考書】

- ・村上哲見著『三体詩』一・二・三・四（朝日文庫、1978）
- ・田部井文雄著『唐詩三百首詳解』上巻・下巻（大修館書店、1988-1990）
- ・村上哲見著『漢詩と日本人』（講談社選書メチエ、1994）
- ・松浦友久編著『漢詩の事典』（大修館書店、1999）
- ・小川環樹著『唐詩概説』（岩波文庫、2005）
- ・村上哲見著『中国文学と日本 十二講』（創文社、2013）

その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告者としての発表内容（40%）、学期末レポート（40%）、討論への参加度・貢献度（20%）。学期中に必ず一度は発表することが成績評価の前提。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の討論にほとんど参加せず、聞いているだけの受講者が毎回確認できたので、質問や問題提起をしやすいような雰囲気を作り、場合によっては教員から受講者に質問して回答やコメントを求めるなど、全員参加型の授業となるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

- ・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則としてE評価となる。
- ・出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数は受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
- ・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容の一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course Outline: *Santi Tangshi (Tang Poetry in Three Forms)* is an anthology (494 poems) believed to have been compiled by Zhou Bi in the South Song Dynasty. It is known to have been read quite broadly in Japan during the Muromachi period. In this course, we will select and closely read exemplary poems from *Santi Tangshi*, and while appreciating their appeal, we will complete original translations by critically examining Japanese translations, as well as commentaries written in literary Chinese. In addition, we will learn about the social background, culture and customs during the Tang dynasty which formed the foundation for the creation of Tang poetry, as well as the forms and rules of Tang poetry.

Learning Objectives: By the end of the course, students will:

- have acquired basic knowledge of *Santi Tangshi*;
- understand the form and rules of Tang poetry;
- have acquired basic skills for reading and understanding Tang poetry; and
- be able to critically examine existing translations and notes and have acquired the ability to interpret Tang poetry in an original way.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are expected to read the presentation material prior to each class. Study time will be a minimum of 4 hours per class.

Grading Criteria/Policy: presentations 40%; participation in discussion 20%; final paper 40%.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

ゼミナール 2 A

森 陽香

授業コード：A2617 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

上代文学（奈良時代の文学。具体的には『古事記』『日本書紀』『万葉集』『風土記』など）を扱うゼミです。1300年以上も前に成立した文学作品を扱うこととなりますが、「古代」は大昔の人によって書かれた文字の中だけにあるのではなく、今の私たちの身の回りの生活の中にも「古代性」を見つけたことができるはずですので、文学・民俗学などさまざまな研究方法を取り入れて、現代に生きる私たちが上代文学を学ぶ意義について考えます。春学期は、主に『万葉集』を取り上げます。

【到達目標】

- (1) 上代文学作品（特に『万葉集』）について基礎的な知識を手に入れる。
- (2) 上代文学を研究するさまざまな学的方法を知る。
- (3) 上代文学を学ぶことによどのような意味があるかを考えるきっかけを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習とを組み合わせで行います。演習は、個人での調査発表と、グループ活動との両方を行う予定です。また校外へ出て実習をする可能性もあります（天候等により変更あり）。フィードバックは、その都度授業内で行うほか、学生からの希望があれば、授業時間外に個別に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方を確認し、上代文学の概説を行います。
第2回	『万葉集』について概説	『万葉集』の全体的な説明をします。
第3回	『万葉集』の研究手法と、このゼミでの学び方について	『万葉集』の研究手法を確認し、このゼミでの学習の方向性を決めます。
第4回	発表準備1 歌の理解を確かめる	春学期はグループでの発表を予定しますので、その準備を行います。
第5回	発表準備2 歌の理解を確かめる	春学期はグループでの発表を予定しますので、その準備を行います。
第6回	発表準備3 歌を鑑賞する	春学期はグループでの発表を予定しますので、その準備を行います。
第7回	発表準備4 歌を鑑賞する	春学期はグループでの発表を予定しますので、その準備を行います。
第8回	発表準備5 最終発表の準備をする	春学期はグループでの発表を予定しますので、その準備を行います。
第9回	発表準備6 最終発表の準備をする	春学期はグループでの発表を予定しますので、その準備を行います。
第10回	最終発表7 最終発表の準備をする	春学期はグループでの発表を予定しますので、その準備を行います。
第11回	最終発表 1・2組目	これまでの学習成果を披露します。
第12回	最終発表 3・4組目	これまでの学習成果を披露します。
第13回	最終発表予備日	最終発表が前週までに終了していた場合は、教員から半年間の総括を行います。
第14回	まとめレポート提出（個人）	一人ひとりに対して、個別にフィードバックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ活動になりますが、自分の役割を認識し、積極的に参加することが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業内で指示します。購入の必要はありませんが、上代文学を学習する際には、小学館の『新編日本古典文学全集』のシリーズを利用することを勧めます。

【成績評価の方法と基準】

授業時間中の活動（グループ活動、発表内容、質疑応答など）の達成度＝80％、学期末のまとめレポート＝20％

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

まとめレポートは、学習支援システムを経由して提出する予定です。

【Outline (in English)】

In this course, we research the literature of the Nara period. The goals are to acquire basic knowledge, learn about various research methods, and think about the meaning of studying literature from the Nara period.

Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 20%, in class contribution: 80%.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

ゼミナール 2 B

森 陽香

授業コード：A2618 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

上代文学（奈良時代の文学。具体的には『古事記』『日本書紀』『万葉集』『風土記』など）を扱うゼミです。1300年以上も前に成立した文学作品を扱うこととなりますが、「古代」は大昔の人によって書かれた文字の中だけにあるのではなく、今の私たちの身の回りの生活の中にも「古代性」を見つけたことができるはずですので、文学・民俗学などさまざまな研究方法を取り入れて、現代に生きる私たちが上代文学を学ぶ意義について考えます。秋学期は、主に『古事記』『風土記』を取り上げます。

【到達目標】

- (1) 上代文学作品（特に『古事記』『風土記』）について基礎的な知識を手に入れる。
- (2) 上代文学を研究するさまざまな学的方法を知る。
- (3) 上代文学を学ぶことにどのような意味があるかを考えるきっかけを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習とを組み合わせで行います。演習は、個人での調査発表が中心です。また校外へ出て実習をする可能性もあります（天候等により変更あり）。フィードバックは、その都度授業内で行うほか、学生からの希望があれば、授業時間外に個別に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、『古事記』概説	授業の進め方を確認し、『古事記』の概要を説明します。
第2回	『風土記』概説	『風土記』の概要を説明します。
第3回	『古事記』『風土記』の研究 方法と、このゼミでの 学び方について	『古事記』『風土記』の研究方法を 確認し、このゼミでの学習の方向性を 決めます。
第4回	発表準備1 研究対象 を見定める	秋学期は個人での発表を予定します ので、その準備を行います。
第5回	発表準備2 研究対象 を見定める	秋学期は個人での発表を予定します ので、その準備を行います。
第6回	発表準備3 知りたい ことを明確にする	秋学期は個人での発表を予定します ので、その準備を行います。
第7回	発表準備4 知りたい ことに対するアプロ ーチの仕方を考える	秋学期は個人での発表を予定します ので、その準備を行います。
第8回	発表準備5 最終発表 の準備をする	秋学期は個人での発表を予定します ので、その準備を行います。
第9回	最終発表1	秋学期は個人での発表を予定します ので、順番に一人ずつ、学習成果を 報告します。
第10回	最終発表2	秋学期は個人での発表を予定します ので、順番に一人ずつ、学習成果を 報告します。
第11回	最終発表3	秋学期は個人での発表を予定します ので、順番に一人ずつ、学習成果を 報告します。
第12回	最終発表4	秋学期は個人での発表を予定します ので、順番に一人ずつ、学習成果を 報告します。
第13回	最終発表予備日	最終発表が前週までに終了していた 場合は、教員から半年間の総括を行 います。
第14回	まとめレポート提出（個 人）	一人ひとりに対して、個別にフィ ードバックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業内で指示します。購入の必要はありませんが、上代文学を学習する際には、小学館の『新編日本古典文学全集』のシリーズを利用することを勧めます。

【成績評価の方法と基準】

授業時間中の活動（発表準備態度、発表内容、質疑応答など）の達成度＝80％、
学期末のまとめレポート＝20％

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

まとめレポートは、学習支援システムを経由して提出する予定です。

【Outline (in English)】

In this course, we research the literature of the Nara period. The goals are to acquire basic knowledge, learn about various research methods, and think about the meaning of studying literature from the Nara period.

Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 20%, in class contribution: 80%.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

ゼミナール3 A

加藤 昌嘉

授業コード：A2619 | 曜日・時限：月5/Mon.5
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

◆『源氏物語』を精読し、様々な問題点について議論します。

【到達目標】

◆以下の力を養うことを目標とします。

- 1、『源氏物語』の本文を読解する力
- 2、問題点を発見し、深く調査する力
- 3、わかりやすい発表を行う力
- 4、皆でディスカッションする力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
 に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

◆担当者が問題点を整理して発表し、皆で議論します。

◆フォローアップ（フィードバック）は、授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	『源氏物語』概説
2	ガイダンス	注釈書、図書館
3	花散里	A班発表
4	須磨①	B班発表
5	須磨②	C班発表
6	須磨③	D班発表
7	須磨④	E班発表
8	明石①	F班発表
9	明石②	G班発表
10	明石③	H班発表
11	明石④	I班発表
12	滯標①	J班発表
13	滯標②	K班発表
14	まとめ	秋学期の班決め

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

◆『源氏物語』第1部を読み進めること。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

◆注釈テキストは、以下のいずれかを座右に置いてください。

◎柳井滋ほか『源氏物語』1～3（岩波文庫）

◎玉上琢彌『源氏物語 現代語訳付き』1～3（角川ソフィア文庫）

◎石田穰二ほか『新潮日本古典集成 源氏物語』1～3（新潮社）

【参考書】

◆最初は、以下のような現代語訳を読むことを勧めます。

◎大塚ひかり『源氏物語』1～2（ちくま文庫）

◎角田光代『源氏物語』1～3（河出文庫）

◎林望『謹訳源氏物語 改訂新修』1～3（祥伝社文庫）

◎瀬戸内寂聴『源氏物語』1～3（講談社文庫）

◆平安時代の文化・政治・宗教・地理などを知りたいときは、以下の事典を引きましょう。

◎倉田実編『平安大事典—図解でわかる「源氏物語」の世界—』（朝日新聞出版）

【成績評価の方法と基準】

◆プレゼンの出来（50%）

◆ディスカッション参加度（50%）

【学生の意見等からの気づき】

◆9月初頭、希望者のみで、ゼミ旅行を実施します（京都など。寺社巡り、装束体験など）。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this class, we will read *The Tale of Genji* and discuss issues related to its content.

Learning Objectives: The objective is to develop competency in the following four areas:

- reading ancient texts accurately;
- discovering and deeply investigating problems;
- giving clear presentations; and
- discussing various issues with others

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are expected to read the first part of *The Tale of Genji*. Preparation and review time will be 2 hours for each class.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on the quality of presentations (50%), and degree of participation in discussion (50%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

ゼミナール3B

加藤 昌嘉

授業コード：A2620 | 曜日・時限：月5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

◆『源氏物語』を精読し、様々な問題点について議論します。

【到達目標】

◆以下の力を養うことを目標とします。

- 1、『源氏物語』の本文を読解する力
- 2、問題点を発見し、深く調査する力
- 3、わかりやすい発表を行う力
- 4、皆でディスカッションする力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

◆担当者が問題点を整理して発表し、皆で議論します。

◆フォローアップ（フィードバック）は、授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	『源氏物語』概説
2	滞標③	L班発表
3	滞標④	M班発表
4	絵合①	N班発表
5	絵合②	O班発表
6	松風①	P班発表
7	松風②	Q班発表
8	薄雲①	R班発表
9	薄雲②	S班発表
10	薄雲③	T班発表
11	薄雲④	U班発表
21	朝顔①	V班発表
13	まとめ	来年度の解説
14	卒業論文の準備	3年生の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

◆『源氏物語』第1部を読み進めること。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

◆注釈テキストは、以下のいずれかを座右に置いてください。

◎柳井滋ほか『源氏物語』1～3（岩波文庫）

◎玉上琢彌『源氏物語 現代語訳付き』1～3（角川ソフィア文庫）

◎石田穰二ほか『新潮日本古典集成 源氏物語』1～3（新潮社）

【参考書】

◆以下の入門書・解説書を推薦します。

◎竹内正彦監修『図説あらすじと地図で面白いほどわかる！ 源氏物語』（青春新書）

◎高木和子『源氏物語を読む』（岩波新書）

◎工藤重矩『源氏物語の結婚』（中公新書）

【成績評価の方法と基準】

◆プレゼンの出来（50％）

◆ディスカッション参加度（50％）

【学生の意見等からの気づき】

◆源氏絵を使って、装束や建物などの理解を深めます。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this class, we will read *The Tale of Genji* and discuss issues related to its content.

Learning Objectives: The objective is to develop competency in the following four areas:

- reading ancient texts accurately;
- discovering and deeply investigating problems;
- giving clear presentations; and
- discussing various issues with others

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are expected to read the first part of *The Tale of Genji*. Preparation and review time will be 2 hours for each class.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on the quality of presentations (50%), and degree of participation in discussion (50%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

ゼミナール4 A

阿部 真弓

授業コード：A2621 | 曜日・時限：火4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『六百番歌合』を取り上げ、ゼミナール形式で読解、考察します。

『六百番歌合』は鎌倉初期に藤原良経の主催で行われた歌合で、『千載和歌集』撰者の藤原俊成が判者を務め、後に『新古今和歌集』の撰者となる藤原有家、藤原定家、藤原家隆、寂蓮を含め、十二人の歌人が参加したイベントです。和歌史上、きわめて重要な作品であり、また当時の歌人たちの『源氏物語』への評価がうかがえる、物語史上的にも大変興味深い資料です。

伝統と新風、両派の和歌を鑑賞するとともに、歌人たちの和歌に対する考え方を解釈し、和歌史の展開を考察します。

【到達目標】

- ①作品の注解作業を通して、文献調査、作品分析、考究の方法等、中世の文学作品を研究するために必要な技術を身につける。
- ②プレゼンテーション能力、ディスカッション能力の向上に努める。
- ③ゼミの発表・討論の内容を踏まえ、論理的で説得力のあるレポートが執筆できるようになる。
- ④簡単なくずし字が読める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

初めの数回は作品の概要、研究上の課題、発表の方法等について、教員が解説を行います。その後の回は、ゼミ生が担当番について調べ（2年生と3年生のペア）、考察したことを、作成した資料を用いながら発表し、ゼミ生同士で討論します。その他、変体仮名読解練習等を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス (1)	『六百番歌合』概説
第2回	ガイダンス (2)	研究上の課題・発表項目に関する解説
第3回	変体仮名読解練習	変体仮名についての解説
第4回	『六百番歌合』読解	発表と討論
第5回	『六百番歌合』読解	発表と討論
第6回	『六百番歌合』読解	発表と討論
第7回	『六百番歌合』読解	発表と討論
第8回	『六百番歌合』読解	発表と討論
第9回	『六百番歌合』読解	発表と討論
第10回	『六百番歌合』読解	発表と討論
第11回	『六百番歌合』読解	発表と討論
第12回	『六百番歌合』読解	発表と討論
第13回	『六百番歌合』読解	発表と討論
第14回	まとめ	春学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・発表者は発表の準備を万全に行い、発表にのぞむこと。発表者以外の受講者は、発表される和歌について予習をした上で授業にのぞむこと。
- ・テキストは影印ですので、各自、くずし字の読解練習に励んでください。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。発表準備については、数週間を要します。

【テキスト（教科書）】

『実用変体がな』（かな研究会編、新典社、1988年）
『六百番歌合』については、プリントを配布します。

【参考書】

新日本古典文学大系38『六百番歌合』（岩波書店、1998年）
新日本古典文学大系11『新古今和歌集』（岩波書店、1992年）
新編日本古典文学全集43『新古今和歌集』（小学館、1995年）
そのほかの参考書については、授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】

【授業の到達目標】①～④に照らし、発表内容40％（①②④）、レポート40％（①②③）、討論への参加状況20％（②）という配分で、総合的に評価します。

なお、単位を修得する上で、毎回出席することは大前提です。無断欠席が多い場合、単位は修得できませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も引き続き、ゼミ生による司会進行を進めます。

【その他の重要事項】

発表担当者は自分の発表に責任をもつこと。また、それ以外の受講者も自主的に発言し、積極的にゼミに関わっていきましょう。ゼミがおもしろくなるかどうかは、ゼミ生全員の意欲次第。ゼミの主役は受講生のあなたたちです！

なお、夏休み中に、古典文学ゆかりの地を訪ねるゼミ合宿を行います。企画・実施はすべてゼミ生主導で進めますので、全員参加を原則とします。

参考：2024年度 熱田神宮・延暦寺・京都御所など
2023年度 清水寺・源氏物語ミュージアム・住吉大社など
2019年度 鶴岡八幡宮・建長寺・円覚寺など
2018年度 京都御所・天龍寺・清水寺など
2017年度 伊勢神宮・斎宮歴史博物館など
2016年度 厳島神社・出雲大社など

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with *The Poetry Contest in Six Hundred Rounds* (六百番歌合 *Roppyakuban uta'awase*).

Learning Objectives: The goal of this course is to help students acquire an understanding of Japanese classical literature. It also enhances the development of students' skill in giving oral presentations and participating in discussion.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: oral presentation (40%); term-end report (40%); and in-class contribution (20%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

ゼミナール4 B

阿部 真弓

授業コード：A2622 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『枕草子』を取り上げ、ゼミナール形式で読解し、考察します。
『枕草子』は「『をかし』の文学」として知られる古典文学の代表的作品ですが、清少納言のいう「をかし」とはいったいどういう意味なのでしょう。古語辞典に書かれている「おかしい」「趣深い」をそのまま当てはめても、実はあまり意味が通じないのです。また、『枕草子』は、前置きもなく唐突に「春はあけぼの」という言葉で始まりますが、よく考えればこれも意味不明です。なぜ清少納言はこんなことをいきなり言い始めたのか、当時の人はこれでも理解できたのか。『枕草子』は高校までに必ず学習する、おなじみの作品ですが、謎も多い作品なのです。

そこで、秋学期のゼミでは、各自で『枕草子』をしっかりと読み込み、疑問点や解明したい点を自ら見だし、適切な資料を用いて考察した結果を発表します。そして提示された問題について、ゼミのメンバーで討論していきます。

【到達目標】

- ①自らテーマを選び、考究する力を養う。
- ②文献調査、作品分析、考究の方法等、日本古典文学作品を研究するために必要な技術を身につける。
- ③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力の向上に努める。
- ④ゼミの発表・討論の内容を踏まえ、論理的で説得力のあるレポートが執筆できるようになる。
- ⑤簡単なくずし字が読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

初めの数回は作品の概要、研究上の課題、発表の方法等について、教員が解説を行います。その後の回は、ゼミ生各自がテーマを決め、調べ、考察したことを個人発表し、ゼミ生同士で討論します。その他、卒業論文ミニ発表会等を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス(1)	『枕草子』概説
第2回	ガイダンス(2)	研究上の課題・発表項目に関する解説
第3回	『枕草子』研究	発表と討論
第4回	『枕草子』研究	発表と討論
第5回	『枕草子』研究	発表と討論
第6回	『枕草子』研究	発表と討論
第7回	『枕草子』研究	発表と討論
第8回	『枕草子』研究	発表と討論
第9回	『枕草子』研究	発表と討論
第10回	『枕草子』研究	発表と討論
第11回	『枕草子』研究	発表と討論
第12回	『枕草子』研究	発表と討論
第13回	卒業論文について	卒業論文執筆に関する説明
第14回	卒業論文ミニ発表会	3年生による卒業論文テーマの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表者は発表の準備を万全に行って、発表にのぞみ、発表者以外の受講者は、事前に配布されたレジュメを読み、発表内容について予習をした上で授業にのぞみましょう。

なお、各回の始めに、変体がなの小テストを行うので、テキスト（『実用変体がな』）を使ってしっかり自習しましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。発表準備については、数週間を要します。

【テキスト（教科書）】

- ・新編日本古典文学全集18『枕草子』（小学館、1997年）
- ・『実用変体がな』（かな研究会 編、新典社、1988年）

【参考書】

授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】

【到達目標】①～⑤に照らし、発表内容35%（①②③）、レポート35%（①②④）、討論への参加状況20%（③）、変体がな小テスト10%（⑤）という配分で、総合的に評価します。

なお、単位を修得する上で、毎回出席することは大前提です。無断欠席が多い場合、単位は修得できませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も引き続き、ゼミ生による司会進行で進めます。

【その他の重要事項】

発表担当者は自分の発表に責任をもつこと。また、それ以外の受講者も自主的に発言し、積極的にゼミに関わっていきましょう。ゼミがおもしろくなるかどうかは、ゼミ生全員の意欲次第。ゼミの主役は受講生のあなたたちです！

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with *The Pillow Book* (枕草子, *Makura no Sōshi*).

Learning Objectives: The goal of this course is to help students acquire an understanding of Japanese classical literature. It also enhances the development of students' skill in giving oral presentations and participating in discussion.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: oral presentation (35%); term-end report (35%); in-class contribution (20%); and short exams (10%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

ゼミナール5 A

小秋元 段

夜間時間帯

授業コード：A2623 | 曜日・時限：金6/Fri.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世文学を読む、調べる、発表する。『平家物語』をとりあげ、グループ発表の形式で読み進めてゆく。

【到達目標】

本科目の到達目標は、以下の3項目にある。

- 1. 『平家物語』について、その内容を正確に理解すること。
- 2. 先行研究の批判、諸本の差違の考察、資料との比較などを通じて、虚構化された作品世界の特質を理解すること。
- 3. 自ら問題点を発見し、調査・考察する方法を身につけ、発表・討論を通じて、自らの研究内容をわかりやすく他者へ伝えること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

『平家物語』を教材とする。2～3名でグループを作り、グループごとに希望する章段をとりあげ、その語釈、訳、先行研究を調査し、さらには自ら設定した問題点に対する考察を行い、資料を作成し、発表・討論する。そのうえで教員も講評を行う。また、夏期休業中にはレポートも執筆してもらう。レポートに対しては学生・教員による合評を行う。なお、授業に関する質問や研究の相談は教室、オフィスアワーで応じるほか、電子メール、Zoomで対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	春学期の授業内容の紹介。
第2回	『平家物語』について（1）	作品の概要、成立、作者の解説。
第3回	『平家物語』について（2）	諸本の解説。
第4回	研究方法について	先行研究の検索方法についての解説。
第5回	模擬演習（1）	『平家物語』の複数の章段を設定し、研究テーマをいかに見いだすか、グループディスカッションする。
第6回	模擬演習（2）	『平家物語』の複数の章段を設定し、研究テーマをいかに見いだすか、グループディスカッションする。
第7回	発表準備（1）	グループ発表に向けて、対象とする『平家物語』の章段についてディスカッション、調査を行う。
第8回	発表準備（2）	グループ発表に向けて、対象とする『平家物語』の章段についてディスカッション、調査を行う。
第9回	発表準備（3）	グループ発表に向けて、対象とする『平家物語』の章段についてディスカッション、調査を行う。
第10回	発表（1）	第1グループによる『平家物語』に関する研究の発表。
第11回	発表（2）	第2グループによる『平家物語』に関する研究の発表。
第12回	発表（3）	第3グループによる『平家物語』に関する研究の発表。
第13回	発表（4）	第4グループによる『平家物語』に関する研究の発表。
第14回	発表（5）	第5グループによる『平家物語』に関する研究の発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

口頭発表の準備やレポート執筆を授業時間以外に行ってもらう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

三弥井古典文庫、佐伯真一校注『平家物語』上・下（三弥井書店、1993・2000年）

【参考書】

大津雄一・日下力・佐伯真一・櫻井陽子編『平家物語大事典』（東京書籍、2010年）
延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈』巻一～十二（汲古書院、2005～19年）

【成績評価の方法と基準】

授業時の討論の状況、研究発表の内容に1/2ずつの比重を置く。なお、欠席は2回までしか認めない。

【学生の意見等からの気づき】

「模擬演習」を積極的に行いたいという要望があったので、これに対応して授業を進める。

【その他の重要事項】

例年、中世文学の舞台を訪ねるゼミ合宿を行っている。行き先は学生と相談のうえ決定する。これまで下記のような地を訪ねている。

2007年度	京都
2008年度	厳島神社（広島）、壇ノ浦（山口）
2009年度	平泉（岩手）
2010年度	太宰府（福岡）、壇ノ浦（山口）
2011年度	京都
2012年度	呉、厳島神社（広島）
2013年度	京都
2014年度	松江、出雲、大森銀山
2015年度	京都
2016年度	札幌、小樽
2017年度	京都
2018年度	太宰府（福岡）、壇ノ浦（山口）
2019年度	京都
2020年度	実施せず
2021年度	実施せず
2022年度	京都
2023年度	伊豆・箱根
2024年度	京都

【Outline (in English)】

Course Outline: In this course, we will read *Heike monogatari* (*The Tale of the Heike*).

Learning Objectives: The goals of this course are to understand *Heike monogatari* and the methods for studying it.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Final grades will be calculated as follows: research presentation (50%) and in-class contribution (50%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

ゼミナール5 B

小秋元 段

夜間時間帯

授業コード：A2624 | 曜日・時限：金6/Fri.6

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世文学を読む、調べる、発表する。『宇治拾遺物語』をとりあげ、グループ発表の形式で読み進めてゆく。

【到達目標】

本科目の到達目標はつぎのとおり。

1. 『宇治拾遺物語』について、その内容や作品の特徴を正確に理解すること。
2. 作品研究を行うにあたり、自ら問題点を発見し、調査・考察する方法を身につけること。
3. 発表・討論を通じて、自らの研究内容をわかりやすく他者へ伝える技術を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

『宇治拾遺物語』を教材とする。2～3名でグループを作り、グループごとに希望する説話をとりあげ、その語釈、訳、先行研究を調査し、さらには自ら設定した問題点に対する考察を行い、資料を作成し、発表・討論する。そのうえで教員も講評を行う。また、夏期休業中にはレポートも執筆してもらう。レポートに対しては学生・教員による合評を行う。なお、授業に関する質問や研究の相談は教室、オフィスアワーで応じるほか、電子メール、Zoomで対応する。をとりあげる。2～3人で1グループを作り、希望する説話を1つ選び、その語釈、訳、先行研究を調査し、さらには自ら設定した問題点に対する考察を行い、発表・討論してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	秋学期の授業内容の紹介。
第2回	説話文学について	説話文学について解説する。
第3回	『宇治拾遺物語』について	作品について解説する。
第4回	研究方法について	調査方法の解説する。
第5回	模擬演習（1）	『宇治拾遺物語』の複数の説話を設定し、研究テーマをいかに見いだすか、グループディスカッションする。
第6回	模擬演習（2）	『宇治拾遺物語』の複数の説話を設定し、研究テーマをいかに見いだすか、グループディスカッションする。
第7回	調査準備（1）	グループ発表に向けて、対象とする『宇治拾遺物語』の説話についてディスカッション、調査を行う。
第8回	発表準備（2）	グループ発表に向けて、対象とする『宇治拾遺物語』の説話についてディスカッション、調査を行う。
第9回	発表準備（3）	グループ発表に向けて、対象とする『宇治拾遺物語』の説話についてディスカッション、調査を行う。
第10回	発表（1）	第1グループによる『宇治拾遺物語』に関する研究の発表。
第11回	発表（2）	第2グループによる『宇治拾遺物語』に関する研究の発表。
第12回	発表（3）	第3グループによる『宇治拾遺物語』に関する研究の発表。
第13回	発表（4）	第4グループによる『宇治拾遺物語』に関する研究の発表。
第14回	発表（5）	第5グループによる『宇治拾遺物語』に関する研究の発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

口頭発表の準備やレポート執筆を授業時間以外に行ってもらふ。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中島悦次校注、角川文庫『宇治拾遺物語』（角川書店、1962年）

【参考書】

三木紀人ほか校注、新日本古典文学大系『宇治拾遺物語 古本説話集』（岩波書店1990年）

小林保治ほか校注・訳、新編日本古典文学全集『宇治拾遺物語』（小学館、1996年）

境田四郎ほか編『増補改訂 日本説話文学索引』（清文堂、1976年）

説話と説話文学の会編、『日本説話索引』第1巻～第5巻（清文堂、2020～24年、刊行継続中）

神山重彦『物語要素事典』（国書刊行会、2024年）

【成績評価の方法と基準】

授業時の討論の状況、研究発表の内容、夏期休業中に執筆してもらうレポートに3分の1ずつの比重を置く。なお、欠席は2回までしか認めない。

【学生の意見等からの気づき】

グループごとの調査時間を十分とりたいという要望があったので、これに対応して授業を進めたい。

【その他の重要事項】

例年、中世文学の舞台を訪ねるゼミ合宿を行っている。行き先は学生と相談のうえ決定する。これまで下記のような地を訪ねている。

2007年度	京都
2008年度	厳島神社（広島）、壇ノ浦（山口）
2009年度	平泉（岩手）
2010年度	太宰府（福岡）、壇ノ浦（山口）
2011年度	京都
2012年度	呉、厳島神社（広島）
2013年度	京都
2014年度	松江、出雲、大森銀山
2015年度	京都
2016年度	札幌、小樽
2017年度	京都
2018年度	太宰府（福岡）、壇ノ浦（山口）
2019年度	京都
2020年度	実施せず
2021年度	実施せず
2022年度	京都
2023年度	伊豆・箱根
2024年度	京都

【Outline (in English)】

Course Outline: In this course, we will read *Ujishui monogatari*.

Learning Objectives: The goals of this course are to understand *Ujishui monogatari* and the methods for studying it.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Final grades will be calculated as follows: research presentation (1/3), in-class contribution (1/3), and report (1/3).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

ゼミナール6 A

小林 ふみ子

授業コード：A2625 | 曜日・時限：火4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは、近世文学について学びます。
韻文・散文・演劇、雅・俗、和・漢と多岐にわたる近世文学の中でも、春学期は前期の上方文芸界のスター井原西鶴による『西鶴諸国ばなし』を読みます。（このテーマは新3年生の話し合いで決めたものです）

【到達目標】

- (1) 辞書を引きて語釈をつけたり、その他の資料を調べたりしながら作品を精読する方法を身につける。
- (2) 研究成果を他者に伝える力、それについて議論する力を養う。
- (3) 作品論執筆に挑戦し、どのように作品を論じたらよいかについて知る。
- (4) 考察をしっかりと構成と体裁をもつレポートにしあげる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

作品概要や研究法を全体で学んだあと5チームに分かれて担当話を決め、その概要と主題などについて研究する。
各チームの発表ののち、それについてディスカッションします。
それを受けて各チームでは研究を深めて補足の発表をします。
教員は発表準備への個別の助言、発表時の助言、最終レポートにはコメントをつけて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス①	目標・進め方の確認・各種役割の決定
第2回	ガイダンス②	発表のしかた・発表順の決定、作品について、作者について
第3回	準備①	チーム内で分担した本文の内容を紹介し合い、梗概を把握、担当する話しの見どころを話し合う。
第4回	準備②	チームごとに話し合いをふまえて発表の大枠を決定、分担する。
第5回	発表①	第1話チームの発表
第6回	発表②	第2話チームの発表
第7回	発表③	第3話チームの発表
第8回	発表④	第4話チームの発表
第9回	発表⑤	第5話チームの発表
第10回	発表⑥	第1話チームの発表・2回目
第11回	発表⑦	第2話チームの発表・2回目
第12回	発表⑧	第3話チームの発表・2回目
第13回	発表⑨	第4話チームの発表・2回目
第14回	発表⑩	第5話チームの発表・2回目

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分のチームの担当箇所以外も、毎週事前にテキストを読んできましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・『新編日本古典文学全集 井原西鶴集②』（小学館、JapanKnowledge掲載）
その他コピーを配布します。

【参考書】

・『新日本古典文学大系 西鶴諸国ばなし（ほか）』（岩波書店）
・『対訳西鶴全集五 西鶴諸国ばなし 懷硯』（明治書院）
・『三弥井古典文庫 西鶴諸国ばなし』（三弥井書店）
・『小学館ライブラリー 現代語訳・西鶴 西鶴諸国ばなし』（小学館）
いろいろ見比べ、注釈や訳の違いやその理由にも注意して、自分なりの読みを探究しましょう。

【成績評価の方法と基準】

担当日の発表（40％）、各期末のレポート（4000字程度・40％）、発言その他のゼミへの貢献度（20％）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生間での意見交換が活発にできるように話し合いでは小グループ→全体という流れで行います。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで資料共有を行うのでパソコンが使えるように用意しましょう。タブレットでも差し支えありませんが、卒論までにはキーボードやワードに習熟するようにしてください。

【その他の重要事項】

ゼミは学生が主体で運営するものです。毎回の出席はみんなでもりあげるため、当然の前提です。積極的な参加を期待しています。

ゼミの発表準備、研究発表によって、必要な情報を収集し、その要点を把握し、それらを批判的に検討して発信する力、それを論理的な文章にまとめあげる力をやしなうことは将来の就業力育成にもつながります。またゼミ運営自体が他人と協働する経験です。

意識的に、こうした社会で求められる力を養っていきましょう。

【Outline (in English)】

Course Outline: We study early modern (Tokugawa period) literature, focusing on *Saikaku Shokokubanashi* by Ihara Saikaku.

Learning Objectives: The goals of this course are to learn how to read works of the period, discuss them, and communicate one's analysis to others orally and in the form of a report.

Learning Activities Outside of the Classroom: Preparing presentations on allocated sections. In addition, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text before each class meeting.

Grading Criteria/Policy: Presentation in class (40%); final report (40%); and attitude in class (20%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

ゼミナール6 B

小林 ふみ子

授業コード：A2626 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは、近世文学について学びます。
秋学期のテーマや進め方は春学期の様子をふまえて話し合いで決定します。
関心の近い学生同士でグループを作って研究発表を行うと卒論につながる
関心が育っていいかなと教員としては思いますが、どうするのがよいか議論
して決めましょう。

【到達目標】

- (1) 既存の注釈を、各種の文献に照らして再検討しながら、作品を精読する方法を身につける。
- (2) 研究成果を口頭で効果的に他者に伝える力、それについて議論する力を養う。
- (3) 作品論執筆に挑戦し、どのように作品を論じたらよいかについて知る。
- (4) 近世文学史について一通りの知識を身につけ、各自、卒業論文で取り組みたい作者・作品を見出す。(2年間を通じて)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

チームを作り、チームごとに作品を選び、テーマを決めて発表します。
各学期に1チーム2回発表。
発表チームは取り上げる作品について既存の注釈や先行研究と対照して点検した上で発表し、それについて皆で議論します。
教員は発表準備への個別の助言、発表時の助言、最終レポートにはコメントをつけて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス①	目標・進め方の確認・作品選定・各種役割の決定
第2回	ガイダンス②	発表のしかた・発表順の決定、作品について、作者について
第3回	チーム①	作品の概要紹介
第4回	チーム①	研究発表
第5回	チーム②	作品の概要紹介
第6回	チーム②	研究発表
第7回	チーム③	作品の概要紹介
第8回	チーム③	研究発表
第9回	チーム④	作品の概要紹介
第10回	チーム④	研究発表
第11回	チーム⑤	作品の概要紹介
第12回	チーム⑤	研究発表
第13回	チーム⑥	作品の概要紹介
第14回	チーム⑥	研究発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

他のチームの発表の場合も、各自、前もってテキストの該当箇所に目を通し、問題点がどこにあるかを考えてきましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内の学生の決定に従って、指定する。

【参考書】

『新版 近世文学研究事典』（おうふう 2006年）／『〈奇〉と〈妙〉の江戸文学事典』（文学通信 2019年）
作品やテーマ選びの参考にしましょう！

【成績評価の方法と基準】

担当日の発表（40％）、各期末のレポート（4000字程度・40％）、また発言その他のゼミへの貢献度（20％）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答の際に質問を出すポイントについて、あらかじめ考える機会を設けたいと思います。
卒業論文への関心を育てるように参考文献などを積極的に提示するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで資料共有や意見交換などをします。

【その他の重要事項】

みなさんそれぞれが個人として成長するとともに、グループの一員として協働する力を伸ばしていただけることを期待しています！

【Outline (in English)】

Course Outline: We study early modern (Tokugawa period) literature, focusing on *Ugetsu monogatari* (*Tales of Moonlight and Rain*) by Ueda Akinari.

Learning Objectives: The goals of this course are to learn how to read works of the period, discuss them, and communicate one's analysis to others orally and in the form of a report.

Learning Activities Outside of the Classroom: Preparing presentations on allocated sections. In addition, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text before each class meeting.

Grading Criteria/Policy: Presentation in class (40%); final report (40%); and attitude in class (20%).

ART300BC (芸術学 / Art studies 300)

ゼミナール7A

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2627 | 曜日・時限：木4/Thu.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本年度のゼミのテーマは「『平家物語』と音楽」とします。これには：①音楽（語り物）としての「平家語り」、②『平家物語』の中の音楽、③『平家物語』と同時代（12世紀）の音楽史との関係、④『平家物語』が後世の音楽・芸能に及ぼした影響（能、幸若舞、浄瑠璃、歌舞伎など）の事柄が含まれます。春学期はガイダンスの後、『平家物語』の音楽場面（巻第七～巻第九）を主たる研究対象とし、特に音楽関係の用語に注意を払いながら、その場面場面の内容を「正しく読む」ことを目的とします。

【到達目標】

- 1. 音楽（語り物）としての「平家語り」の歴史と音楽構造を理解すること
- 2. 『平家物語』の音楽場面を正しく把握し、説明できること
- 3. 問題点を発見し、詳しく調査して上で、自らの見解が述べられること
- 4. 発表が明快に行えること
- 5. 問題点について客観的に討論できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

導入はネルソンによる講義・解説が中心ですが、第5回以降は学生による口頭発表が中心になります。グループごとに発表してもらい、質疑応答を行います。発表に対するフィードバックはその場で行い、期末レポートや楽譜課題は赤字コメント入りのものを次学期の第1回授業までに返却します。なお、本ゼミナールは演習形式であり、ゼミ生個人個人に合せた指導をしますので、下記「授業計画」はあくまでも予定であり、実施に際して変更が当然生じてくるものと考えてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	自己紹介・序説	自己紹介（全員）、教員による授業の進め方の説明、ゼミ名簿作成、発表スケジュールの調整など
第2回	ガイダンス①	導入—『平家物語』と音楽— 音楽場面の調査方法について
第3回	ガイダンス②	『平家物語』に現れる楽器 管絃と舞楽
第4回	ガイダンス③	種々の声楽曲 奈良～平安時代の楽譜
第5回	巻第七について 「竹生鳥参詣」を読む	発表（Aグループ）と討論
第6回	「木曾願書」を読む	発表（Bグループ）と討論
第7回	「主上都落」を読む	発表（Cグループ）と討論
第8回	「忠度都落」を読む	発表（Dグループ）と討論
第9回	「経正都落」を読む	発表（Eグループ）と討論
第10回	「青山」を読む	発表（Fグループ）と討論
第11回	巻第八について 「緒環」を読む	発表（Gグループ）と討論
第12回	巻第九について 「生数奇沙汰」を読む	発表（Hグループ）と討論
第13回	「宇治川」を読む	発表（Iグループ）と討論
第14回	春学期のまとめ、および 卒業論文の中間発表	春学期の授業の総括、および4年生 による中間発表 期末レポート・楽譜課題提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第1回 5分程度の事項紹介を用意し、授業に期待することが述べられるように考えておくこと
 - 第2～4回 事前配付の資料を読んでくること
 - 第5回以降 グループ発表の準備とレジュメ作成
 - 第14回 期末レポート・楽譜課題作成
- 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。

【参考書】

佐伯真一校注、三弥井古典文庫『平家物語』下（三弥井書店、2007年）
山下宏明校注、校注古典叢書『平家物語』下（明治書院、1979年初版の重版）
遠藤徹 構成『雅楽』（平凡社、別冊太陽、2004年）
日下力・鈴木彰・出口久徳『平家物語を知る事典』（東京堂出版、2005年）
五味文彦・櫻井陽子 編『平家物語図典』（小学館、2005年）

今井勉（平家琵琶）、薦田治子（解説）『琵琶法師の世界 平家物語』（CV/DVD、Ebisu-13 19、2009年）
大津雄一・日下力・佐伯真一・櫻井陽子 編『平家物語大事典』（東京書籍、2010年）
遠藤徹『雅楽を知る事典』（東京堂出版、2013年）

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション（詳しく調査した結果を明快に発表できたか）30％、平常点とディスカッション（毎回出席し、意欲的に、積極的に発言したか）30％、レポートと楽譜課題（論証のしっかりしたレポートと誤りのない楽譜課題を提出したか）40％

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course Outline: This undergraduate seminar deals with the music of and music in *The Tale of the Heike*. This topic includes: 1. *The Tale of the Heike* as a genre of narrative music (*heike-gatari*); 2. the depiction of music in the tale; 3. its relationship to the music history of the time it depicts (12th century); and 4. the influence of the tale and its music on later genres of performing arts, including *nō*, *kōwaka-mai*, *jōruri* and *kabuki*. In the spring semester, four introductory lectures by the instructor are followed by close reading of episodes from Chapters 7 to 9, with presentations each week by groups of students. Episodes include: "The Visit to Chikubushima," "The Petition," "The Emperor's Flight from the Capital," "Tadanori's Flight from the Capital," "Tsunemasa's Flight from the Capital," "Concerning Seizan," "The Reel of Thread," "The Matter of Ikezuki," and "The First Man Across the Uji River." Particular attention is paid to the correct understanding of musical structure and terminology.

Learning Objectives: Through this study of music in *The Tale of the Heike*, seminar students learn to identify research issues, undertake basic research, give effective presentations, and participate actively in critical, objective debate. They also learn to read old written Japanese of various types, and traditional music notation.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are expected to read materials distributed ahead of class by the instructor for the first few lessons, to prepare their presentations on passages from the tale, and then to write a final paper on a topic developed in consultation with the instructor during the semester.

Grading Criteria/Policy: presentations 30%; participation in discussion 30%; final paper and music assignment (transnotation) 40%.

ART300BC (芸術学 / Art studies 300)

ゼミナール7 B

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2628 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本年度のゼミのテーマは「『平家物語』と音楽」とします。これには：①音楽（語り物）としての「平家語り」、②『平家物語』の中の音楽、③『平家物語』と同時代（12世紀）の音楽史との関係、④『平家物語』が後世の音楽・芸能に及ぼした影響（能、幸若舞、浄瑠璃、歌舞伎など）の事柄が含まれます。秋学期では、春学期で行った『平家物語』（巻第一～巻第六）の音楽場面の精読を続けるとともに、その影響を受けて成立した作品を取り上げ、影響関係を明らかにします。なお、取り上げる作品は受講者と相談して決めます。

【到達目標】

1. 音楽（語り物）としての「平家語り」の歴史と音楽構造を理解すること
2. 『平家物語』の音楽場面を正しく把握し、説明できること
3. 問題点を発見し、詳しく調査して上で、自らの見解が述べられること
4. 発表が明快に行えること
5. 問題点について客観的に討論できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

導入はネルソンによる講義・解説が中心ですが、第4回以降は学生による口頭発表が中心になります。グループごとに発表してもらい、質疑応答を行います。発表に対するフィードバックはその場で行い、期末レポートや楽譜課題は赤字コメント入りのものを次学期の第1回授業までに返却します。なお、本ゼミナールは演習形式であり、ゼミ生個人個人に合せた指導をしますので、下記「授業計画」はあくまでも予定であり、実施に際して変更が当然生じてくるものと考えてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス①	春学期レポートの講評、秋学期発表スケジュールの調整など
第2回	ガイダンス②	図書館ガイダンス
第3回	ガイダンス③	『平家物語』音楽研究史概説
第4回	「木曾最後」を読む	発表（Aグループ）と討論
第5回	「忠度」を読む	発表（Bグループ）と討論
第6回	「敦盛」を読む	発表（Cグループ）と討論
第7回	巻第十について 「海道下」を読む	発表（Dグループ）と討論
第8回	「千手前」を読む	発表（Eグループ）と討論
第9回	卒業論文の中間発表 ガイダンス④	ゼミ4年生による卒業論文の中間発表、講評 『平家物語』の影響を受けて成立した作品に対する調査方法について
第10回	作品① 未定	発表（Fグループ）と討論
第11回	作品② 未定	発表（Gグループ）と討論
第12回	作品③ 未定	発表（Hグループ）と討論
第13回	作品④ 未定	発表（Iグループ）と討論
第14回	秋学期のまとめ	秋学期の授業の総括、および卒業論文の講評 期末レポート・楽譜課題提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1～3、10回 事前配付の資料を読むこと

第4回以降 グループ発表の準備とレジュメ作成

第14回 期末レポート・楽譜課題作成

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。

【参考書】

佐伯真一校注、三弥井古典文庫『平家物語』下（三弥井書店、2007年）
 山下宏明校注、校注古典叢書『平家物語』下（明治書院、1979初版の重版）
 遠藤徹 構成『雅楽』（平凡社、別冊太陽、2004年）
 日下力・鈴木彰・出口久徳『平家物語を知る事典』（東京堂出版、2005年）
 五味文彦・櫻井陽子 編『平家物語図典』（小学館、2005年）
 今井勉（平家琵琶）、藤田治子（解説）『琵琶法師の世界 平家物語』（CV/DVD、Ebisu-13 19、2009年）
 大津雄一・日下力・佐伯真一・櫻井陽子 編『平家物語大事典』（東京書籍、2010年）
 遠藤徹『雅楽を知る事典』（東京堂出版、2013年）

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション（詳しく調査した結果を明快に発表できたか）30％、平常点とディスカッション（毎回出席し、意欲的に、積極的に発言したか）30％、レポートと楽譜課題（論証のしっかりしたレポートと誤りのない楽譜課題を提出したか）40％

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course Outline: This undergraduate seminar deals with the music of and music in *The Tale of the Heike*. This topic includes: 1. *The Tale of the Heike* as a genre of narrative music (*heike-gatari*); 2. the depiction of music in the tale; 3. its relationship to the music history of the time it depicts (12th century); and 4. the influence of the tale and its music on later genres of performing arts, including *nō*, *kōwaka-mai*, *jōruri* and *kabuki*. In the autumn semester, three introductory lectures are followed by close reading of episodes from Chapters 9 and 10, with presentations each week by groups of students. Episodes include: "The Death of Kiso," "The Death of Tadanori," "The Death of Atsumori," "The Journey Down the Eastern Sea Road," and "Senju-no-Mae." Finally there are group presentations on four works from other genres of performing arts influenced by episodes studied in the spring and autumn semesters, selected according to the students' preferences.

Learning Objectives: Through this study of music in *The Tale of the Heike*, seminar students learn to identify research issues, undertake basic research, give effective presentations, and participate actively in critical, objective debate. They also learn to read old written Japanese of various types, and traditional music notation.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are expected to read materials distributed ahead of class by the instructor for the first few lessons, to prepare their presentations on passages from the tale, and then to write a final paper on a topic developed in consultation with the instructor during the semester.

Grading Criteria/Policy: presentations 30%; participation in discussion 30%; final paper and music assignment (transnotation) 40%.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

ゼミナール 8 A

中司 由起子

授業コード：A2629 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多く能の作品に触れ、能楽についての理解を深める。ゼミ在籍中にできるだけ多くの作品に触れると同時に、能の歴史についても知識を蓄える。また能は室町時代に生まれた総合芸術である。古典文学・日本文化・様々な芸能に対しての造詣を深めることによって、多角的に能という芸能を捉えることができるようにする。

【到達目標】

能を専門的に学ぶだけでなく、学んだ知識をアウトプットするまでが勉強・研究である。春学期は発表・発言するための土台作りに主眼をおき、どのような方法で調べれば、発表資料の作成ができるかを経験的に知ることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的にグループの発表形式で進める。はじめに参考文献一覧を渡すので、それをもとに、能の作品の概要・歴史・問題点を調査した資料を作成し、口頭発表を行なう。年1、2回程度、能楽堂で能狂言を鑑賞する機会を設ける予定である。
授業のはじめにリアクションペーパーからいくつか取り上げて、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミ生の自己紹介と年間の計画を相談。
第2回	能楽の基礎知識	能と狂言の関係とそれぞれの芸能的特質について。
第3回	能の種類	能の分類について解説する。
第4回	能の歴史について	世阿弥の功績と能作者について。
第5回	能の演技	能の謡・舞・演技などについて。
第6回	能楽研究事始（1）	研究の方法と実践。
第7回	能楽研究事初（2）	「本説」と他芸能との関係。
第8回	謡曲精読（1）	協能を口語訳しながら精読する。
第9回	謡曲精読（2）	修羅能を口語訳しながら精読する。
第10回	謡曲精読（3）	鬘物を口語訳しながら精読する。
第11回	謡曲精読（4）	物狂能を口語訳しながら精読する。
第12回	謡曲精読（5）	四番目物を口語訳しながら精読する。
第13回	謡曲精読（6）	鬼能を口語訳しながら精読する。
第14回	春学期のまとめ	これまで精読した作品を踏まえ、全体討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自主的に能楽鑑賞に行くことを勧める。能楽だけでなく、歌舞伎・人形浄瑠璃にも観劇に行ってもいい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊藤正義校注『謡曲集』上・中・下、新潮日本古典集成、新潮社、1983～1988年

【参考書】

竹本幹夫校注『風姿花伝・三道』角川ソフィア文庫、角川学芸出版、2009年

【成績評価の方法と基準】

授業での発表 40％
授業での発言やゼミ活動への積極的参加 40％
学期末レポート 20％

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces Noh and Kyogen to students taking this course.

Learning Objectives: The goals of this course are to acquire basic knowledge of Noh and Kyogen and to be able to explain that knowledge to others.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to go to see performances of Noh and Kyogen. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on presentations (40%), in-class contribution (40%) and term-end report (20%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

ゼミナール 8 B

中司 由起子

授業コード：A2630 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

能と狂言の個人・グループ発表を通して、能楽への理解を深める。能楽だけでなく古典文学・日本文化・様々な芸能に対する知識を深めるのは春学期同様だが、その知識をアウトプットする方法を学ぶことに主眼を置く。またゼミのメンバーと討論することで、自分が考えた能の姿を何度も考え直していくことを目指す。

【到達目標】

能を専門的に学ぶだけでなく、学んだ知識をアウトプットするまでが勉強・研究である。社会に出て「能楽」の魅力を伝えることができるようになることが最終目標である。またグループごとの発表を通して、調査と資料の作成の仕方を学び、口頭発表とディスカッションの能力を鍛錬する。このような技術は、社会生活のあらゆる場面で役に立つはずである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に個人発表形式で進める。はじめに能楽に関する基礎的知識を習得し、参考文献について学んでから、謡曲の輪読を進めていく。発表は報告を聞くだけでなく、問題点をグループごとに考えた上で、ディスカッションを行なう。授業のはじめにリアクションペーパーからいくつか取り上げて、フィードバックする。また1、2回程度、能楽堂で能狂言を鑑賞する機会を作る予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	春学期のまとめと秋学期の展望
第2回	個人発表—課題曲1（口語訳）	課題曲の口語訳を行なう。
第3回	個人発表—課題曲1（語釈）	重要語句の語釈を行なう。
第4回	個人発表—課題曲1（テーマ研究）	課題曲の関連テーマについての分析。
第5回	個人発表—課題曲1（まとめ）	問題点のディスカッション。
第6回	個人発表—課題曲2（口語訳）	課題曲の口語訳を行なう。
第7回	個人発表—課題曲2（語釈）	重要語句の語釈を行なう。
第8回	個人発表—課題曲2（テーマ研究）	課題曲の関連テーマについての分析。
第9回	個人発表—課題曲2（まとめ）	問題点のディスカッション。
第10回	個人発表—課題曲3（口語訳）	課題曲の口語訳を行なう。
第11回	個人発表—課題曲3（語釈）	重要語句の語釈を行なう。
第12回	個人発表—課題曲3（テーマ研究）	課題曲の関連テーマについての分析。
第13回	個人発表—課題曲3（本説）	課題曲の典拠の調査。
第14回	個人発表—課題曲3（まとめ）	問題点のディスカッション。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表は早目に準備を始め、不明な点があれば相談すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊藤正義校注『謡曲集』上・中・下、新潮日本古典集成、新潮社、1983～1988年

【参考書】

竹本幹夫校注『風姿花伝・三道』角川ソフィア文庫、角川学芸出版、2009年

【成績評価の方法と基準】

授業での発表 40%

授業での発言やゼミ活動への積極的参加 40%

学期末レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces Noh and Kyogen to students taking this course.

Learning Objectives: The goals of this course are to acquire expert knowledge of Noh and Kyogen and to be able to explain that knowledge to others.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to go to see performances of Noh and Kyogen. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on presentations (40%), in-class contribution (40%) and term-end report (20%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

ゼミナール9 A

中丸 宣明

授業コード：A2631 | 曜日・時限：木4/Thu.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19世紀・20世紀前半の日本文学の研究。化政期・幕末・明治・大正期・昭和前期に発表された文学・芸能・演劇をとりあげ、文学研究の方法を学ぶ。

【到達目標】

文学研究の基礎を身につける。具体的には以下の通り。

- ・先行文献の調査・整理の方法
- ・注釈の方法
- ・文学・文化学の理論の理解と応用
- ・立論から行論・結論への構成法
- ・プレゼンテーション能力

To acquire the basics of literary research. See "Outline and objectives."

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の担当者は、各自任意の作品を選び、調査・研究・発表する。受講者はその日に取り上げる作品についての感想レポートを提出し、司会者は全体の進行に当たる。リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは、結果の集計ないし代表的な応答をプリント等で共有し、議論のテーマとする。See "Outline and objectives."

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミ進行について
第2回	各自の発表	担当作品についての発表
第3回	各自の発表	担当作品についての発表
第4回	各自の発表	担当作品についての発表
第5回	各自の発表	担当作品についての発表
第6回	各自の発表	担当作品についての発表
第7回	各自の発表	担当作品についての発表
第8回	各自の発表	担当作品についての発表
第9回	各自の発表	担当作品についての発表
第10回	各自の発表	担当作品についての発表
第11回	各自の発表	担当作品についての発表
第12回	各自の発表	担当作品についての発表
第13回	各自の発表	担当作品についての発表
第14回	各自の発表	担当作品についての発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表者は担当作品に関する調査・研究を発表する。必要時間は無限。他の受講者は当該作品についての視点・論点の感想文を提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各24時間を標準とします。

Research presenters prepare for an infinite time. Other students will be expected to spend 24 hours to understand the course content. See "Outline and objectives."

【テキスト（教科書）】

受講者の便宜・要請に従って、決定する。発表者は当該作品のテキストを決定し、ゼミ員に指示すること。See "Outline and objectives."

【参考書】

各自の発表の中で、発表者の示すものに加えて指示。See "Outline and objectives."

【成績評価の方法と基準】

各自の発表内容（40％）と討議参加内容（40％）期末レポート（20％）
Completeness of research presentation (40%), quality of discussion (40%), term-end report (20%).

【学生の意見等からの気づき】

再発表（やりなおし）が必要な場合、集中して行い全体像を見失わないように導く。

【Outline (in English)】

See the Japanese text. Those who do not understand the Japanese language are not eligible. Because this seminar is an academic study of Japanese literature, it requires more Japanese ability than daily conversation.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

ゼミナール 9 B

中丸 宣明

授業コード：A2632 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミナール 9 A に引き続き、19 世紀・20 世紀前半の日本文学の研究。化政期（19 世紀前半、天保の改革まで）・幕末・明治・大正期・昭和前期に発表された小説・詩歌・演劇・芸能をとりあげ、文学・文化研究の方法を学ぶ。今年度は最終的に卒論にまで延長できるよう、各自の希望に合わせ、討議の結果対象作品を選択する。

【到達目標】

文学研究の基礎を身につける。具体的には以下の通り。

- ・先行文献の調査・整理の方法
- ・注釈の方法
- ・文学・文化学の理論の理解と応用
- ・立論から行論・結論への構成法
- ・プレゼンテーション能力

To acquire the basics of literary research. See "Outline and objectives."

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の担当者は、各自任意の作品を選び、調査・研究・発表する。リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは、結果の集計ないし代表的な応答をプリント等で共有し、議論のテーマとする。

Research presenters prepare for an infinite time. Other students will be expected to spend 24 hours to understand the course content.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミ進行について
第2回	各自の発表	担当作品についての発表
第3回	各自の発表	担当作品についての発表
第4回	各自の発表	担当作品についての発表
第5回	各自の発表	担当作品についての発表
第6回	各自の発表	担当作品についての発表
第7回	各自の発表	担当作品についての発表
第8回	各自の発表	担当作品についての発表
第9回	各自の発表	担当作品についての発表
第10回	各自の発表	担当作品についての発表
第11回	各自の発表	担当作品についての発表
第12回	各自の発表	担当作品についての発表
第13回	各自の発表	担当作品についての発表
第14回	各自の発表	担当作品についての発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表者は担当作品に関する調査・研究を発表する。準備時間は最大限の努力時間。他の受講者は当該作品についての視点・論点の感想文を提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各 24 時間を標準とします。

Research presenters prepare for an infinite time. Other students will be expected to spend 24 hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

受講者の便宜・要請に従って、発表者が本文を指示する。

【参考書】

各自の発表の中で、発表者の示すものに加えて指示。

【成績評価の方法と基準】

各自の発表内容（40％）討議に参加内容（40％）と期末レポート（20％）
Completeness of research presentation (40 %), quality of discussion (40 %), term-end report (20%).

【学生の意見等からの気づき】

再発表（やりなおし）が必要な場合、集中して行い全体像を見失わないように導く。

【Outline (in English)】

See the Japanese text. Those who do not understand the Japanese language are not eligible. Because this seminar is an academic study of Japanese literature, it requires more Japanese ability than daily conversation.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

ゼミナール 1 1 A

藤村 耕治

授業コード：A2635 | 曜日・時限：火4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近現代作家とくに昭和から戦後を経て現代にいたるまでの作家の多くの作品に触れ、読解・分析・評価する具体的な方法を習得します。昭和期以降の作家・作品を取り上げ、作家の生涯の全体的な鳥瞰図、個別的な作品の主題・モチーフ・時代背景・影響関係・文体などの検討を通して、当該作品の作家における、また文学史における位置づけや価値などを追究し、評価を下すことができる力を身につけます。

【到達目標】

最終的には、卒業論文のテーマを発見し、執筆に取り組む下地を作ります。そのためには、みずから上に記したさまざまなアプローチによって多角的に作品を探索すると同時に、先行研究を参照したり、他者と議論を戦わせたリ、論理的に自説を展開したりする力を身につけることが必要です。このゼミナールでは、これらの実践を通して、作家や作品に対する自らの考えを明確にし、それを確に論として表現できる文章力を磨くことで、卒業論文を作成する能力を鍛えていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

昭和初期から戦後にわたる作家たちの作品を一作ずつ取り上げます。担当班による発表形式で行います。したがって受講者は、自分の希望する作家・作品をあらかじめ決定し、よく読み込んでおく必要があります。具体的には、作品構造・作中および執筆時期の時代背景・作中人物の分析などを通して、主題やモチーフ、方法を明らかにしていくとともに、当該作家の別の作品との関係や、先行研究の調査・検討なども加味して、各人なりの評価を下していくということです。発表班はサブゼミを行い、そこでの議論をもとに発表用レジュメを作成し、ゼミにのぞみます。一作品につき二回（二週）でまとめることを原則とし、各人一作品以上を担当することとします。レジュメは箇条書きやコピペでは不可で、ある程度の長さをもった文章で作成してもらいます。期末には、発表や討議を通して得た知見をもとに、作品論としてまとめたものを提出してもらいます。発表班は、一回ごとの発表において討論で出された意見を受けて、次回以降の発表レジュメに反映させます。最後の発表後は、期末レポート作成に向けての教員やゼミ生の意見を受けて、レポートを作成します。

また、発表担当者以外の受講生も、一週目の発表までに当該作品の主題についての小レポート（800字程度）を作成して、それをもとに討議に参加してもらいます。したがって、全員がテキストを用意し、事前に精読して出席することが不可欠となります。

なお、下に挙げた作家・作品以外でも、対象に対して特別に強いモチベーションを持つ受講者に関しては、任意に発表作品を決定してもら場合もあります。特に、卒業論文で対象とする作家を取り上げたいという希望については、できる限り受け入れたいと思います。

毎年夏季にゼミ合宿、冬季に卒論合宿を行います。合宿も授業の一環ですので、参加を原則とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミナールの進め方Ⅰ	発表の方法、レジュメの作成法などについてのガイダンス
第2回	ゼミナールの進め方Ⅱ	発表担当者、担当作品、スケジュールなどの決定
第3回	昭和の文学Ⅰ	芥川龍之介「河童」①問題提起と先行論文の整理・討議
第4回	昭和の文学Ⅱ	芥川龍之介「河童」②前回討議内容を受けての深化・発展・まとめ
第5回	昭和の文学Ⅲ	谷崎潤一郎「春琴抄」①問題提起と先行論文の整理・討議
第6回	昭和の文学Ⅳ	谷崎潤一郎「春琴抄」②前回討議内容を受けての深化・発展・まとめ
第7回	昭和の文学Ⅴ	北条民雄「いのちの初夜」①問題提起と先行論文の整理・討議
第8回	昭和の文学Ⅵ	北条民雄「いのちの初夜」②前回討議内容を受けての深化・発展・まとめ
第9回	無頼派の文学Ⅰ	太宰治「道化の華」①問題提起と先行論文の整理・討議
第10回	無頼派の文学Ⅱ	太宰治「道化の華」②前回討議内容を受けての深化・発展・まとめ

第11回	戦後の文学Ⅰ	野間宏「崩解感覚」①問題提起と先行論文の整理・討議
第12回	戦後の文学Ⅱ	野間宏「崩解感覚」②前回討議内容を受けての深化・発展・まとめ
第13回	予備日	二週で発表がまとまった場合はまとめの講義や映画化された作品の鑑賞などをする。
第14回	春学期のまとめ	発表を元に、レポートへと深化させるための講義を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は、各自上記のとおり事前に担当する作品について読み込み、さまざまな側面から作家・作品を分析・検討してもらいます。人物論・構造論・文体論・時代背景・作家の生涯・異稿の調査・先行研究の検討などといったテーマごとに担当者を決め、授業前にサブゼミを行い、発表班としての見解をまとめたレジュメを作成・発表してもらいます。この準備については、個人で5時間、サブゼミで2時間程度を標準とします。

また、これも上記のとおり発表担当者以外の受講者も、各自作品を読み、自分なりの考えをまとめた小レポートを作成、毎回提出してもらいます。この準備については、3時間程度を標準とします。

一回の発表が終了するごとに、新たに問題となった点や、より深い考察を要する点などを発表班員のみならず受講者全員が共有して、繰り返し読み直すことになります。これをうけて、発表者・受講者それぞれが上記同様な準備と復習をしてもらうことになります。

【テキスト（教科書）】

なるべく上記文庫の最新版を使用してください。
＊作品は変更となる場合もあります。

【参考書】

各作家の年譜を必ず参照し、作家の作品史における当該作品の位置づけを確認しましょう。また、関連する他作品やエッセイ等にもできるだけ目を通しておいて下さい。
その他、必要と思われる参考文献は、適宜授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

全回出席を大原則とします。正当な理由のない欠席は認めません。（規定回数以上の無断欠席をしたものはその時点で受講資格を失います。）
発表とレジュメの水準・発言内容などの平常点が50％、期末の作品論（レポート）の評価が20％、発表班以外の受講者に課す提出物（小レポート）の評価が30％。これらを総合的に加味して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

相互の議論を活発にするために、班内討議の時間をできる限りもうけます。

【その他の重要事項】

発表には周到な準備とレジュメ作成やサブゼミの負担がかかりますし、担当者以外にも担当者に準ずる用意が必要となります。ゼミに穴をあけることがないように、個人的なスケジュールを勘案して計画的に取り組んでください。

【Outline (in English)】

Course Outline: Students learn concrete methods to comprehend, analyze, and evaluate the works of many Japanese writers from the beginning of the Shōwa era through the postwar period to the present age. Through examination of the writers' lives, the subjects and motivations of their works, their historical backgrounds, influences, styles, etc., students will acquire the ability to properly evaluate them.
Learning Objectives: Students will discover a theme for their graduation thesis and develop the ability to write it.
Learning Activities Outside of the Classroom: The presenter researches and examines the work, and prepares a resume. It takes about 5 hours to do this. Other students will submit a short report, which will take about 3 hours.
Grading Criteria/Policy: I will evaluate the level of the presentation and remarks at50%, 20% for the final report, and 30% for the short report.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

ゼミナール 1 1 B

藤村 耕治

授業コード：A2636 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近現代作家たち、とくに昭和から戦後を経て現代にいたる作家の多くの作品に触れ、読解・分析・評価する具体的な方法を習得します。作家の生涯の全体的な鳥瞰図、個別的な作品の主題・モチーフ・時代背景・影響関係・文体などの検討を通して、当該作品の作家における、また文学史における位置づけや価値などを追究し、評価を下すことができる力を身につけます。

【到達目標】

最終的には、卒業論文のテーマを発見し、執筆に取り組む下地を作ります。そのためには、みずから上に記したさまざまなアプローチによって多角的に作品を探索すると同時に、先行研究を参照したり、他者と議論を戦わせたリ、論理的に自説を展開したりする力を身につけることが必要です。このゼミナールでは、これらの実践を通して、作家や作品に対する自らの考えを明確にし、それを論としての確に表現できる文章力を磨くことで、卒業論文を作成する力を鍛えていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

戦後から現在にわたる作家たちの作品を一つずつ取り上げます。担当班（5名前後）による発表形式で行います。したがって受講者は、自分の希望する作家・作品をあらかじめ決定し、よく読み込んでおく必要があります。具体的には、作品構造・作中および執筆時代の時代背景・作中人物の分析などを通して、主題やモチーフ、方法を明らかにしていくとともに、当該作家の別の作品との関係や、先行研究の調査・検討なども加味して、各人なりの評価を下していくということです。発表班はサブゼミを行い、そこでの討論をもとに発表用レジュメを作成し、ゼミにのぞみます。一作品につき二回（二週）でまとめることを原則とし、各人一作品以上を担当することとします。レジュメは箇条書きやコピペでは不可で、ある程度の長さを持った文章で作成してもらいます。期末には、発表や討論を通して得た知見をもとに、作品論としてまとめたものを提出してもらいます。発表班は、一回ごとの発表において討論で出された意見を受けて、次回以降の発表レジュメに反映させます。最後の発表後は、期末レポート作成に向けての教員やゼミ生の意見を受けて、レポートを作成します。また、発表担当者以外の受講生も、主題や疑問点などについての小レポート（800字程度）を毎回作成し、それをもとに討論に参加してもらいます。したがって、全員がテキストを用意し、事前に精読して出席することが不可欠となります。なお、下に挙げた作家・作品以外でも、対象に対して特別に強いモチベーションを持つ受講者に関しては、任意に発表作品を決定してもらった場合もあります。特に、卒業論文で対象とする作家を取り上げたいという希望については、できる限り受け入れたいと思います。毎年夏季にゼミ合宿、冬季に卒論合宿を行います。合宿も授業の一環ですので、参加を原則とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミナールの進め方	発表担当者・担当作品・スケジュールなどの決定
第2回	戦後文学を読むⅠ	武田泰淳「ひかりごけ」①問題提起と先行研究の整理、討議
第3回	戦後文学を読むⅡ	武田泰淳「ひかりごけ」②前回討議内容を受けての深化・発展、まとめ
第4回	第三の新人の文学Ⅰ	小島信夫「アメリカンスクール」①問題提起と先行研究の整理、討議
第5回	第三の新人の文学Ⅱ	小島信夫「アメリカンスクール」②前回討議内容を受けての深化・発展、まとめ
第6回	内向の世代の文学Ⅰ	古井由吉「杵子」①問題提起と先行研究の整理、討議
第7回	内向の世代の文学Ⅱ	古井由吉「杵子」②前回討議内容を受けての深化・発展、まとめ
第8回	ミステリを読むⅠ	坂口安吾「不連続殺人事件」①問題提起と先行研究の整理、討議
第9回	ミステリを読むⅡ	坂口安吾「不連続殺人事件」②前回討議内容を受けての深化・発展、まとめ
第10回	SF小説を読むⅠ	小松左京「地には平和を」①問題提起と先行研究の整理、討議
第11回	SF小説を読むⅡ	小松左京「地には平和を」②前回討議内容を受けての深化・発展、まとめ

第12回	現代文学を読むⅠ	村田沙耶香「生命式」①問題提起と先行研究の整理、討議
第13回	現代文学を読むⅡ	村田沙耶香「生命式」②前回討議内容を受けての深化・発展、まとめ
第14回	卒業論文執筆に向けて	卒業論文ガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は、各自上記のとおり事前に担当する作品について読み込み、さまざまな側面から作家・作品を分析・検討してもらいます。人物論・構造論・文体論・時代背景・作家の生涯・異稿の調査・先行研究の検討などといったテーマごとに担当者を決め、授業前にサブゼミを行い、発表班としての見解をまとめたレジュメを作成・発表してもらいます。この準備については、個人で5時間、サブゼミで2時間程度を標準とします。

また、これも上記のとおり発表担当者以外の受講者も、各自作品を読み、自分なりの考えをまとめた小レポートを作成、毎回提出してもらいます。この準備については、3時間程度を標準とします。

一回の発表が終了することにより、新たに問題となった点や、より深い考察を要する点などを発表班員のみならず受講者全員が共有して、繰り返し読み直すことになります。これをうけて、発表者・受講者それぞれが上記同様な準備と復習をしてもらうことになります。

【テキスト（教科書）】

なるべく上記文庫の最新版を使用してください。

＊作品は変更となる場合もあります。

【参考書】

各作家の年譜を必ず参照し、作家の作品史における当該作品の位置づけを確認しましょう。また、関連する他作品やエッセイ等にもできるだけ目を通して下さい。

その他、必要と思われる参考文献は、適宜授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

全出席を大原則とします。正当な理由のない欠席は認めません。（規定回数以上の無断欠席をしたものはその時点で受講資格を失います。）

発表とレジュメの水準・発言内容などの平常点50％、期末の作品論（レポート）の評価が20％、発表班以外の受講者に課す提出物（小レポート）の評価が30％。これらを総合的に加味して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

相互の議論を活発にするために、班内討論の時間をできる限りもうけます。

【その他の重要事項】

発表には周到な準備とレジュメ作成やサブゼミの負担がかかりますし、担当者以外にも担当者に準ずる用意が必要となります。ゼミに穴をあけることがないように、個人的なスケジュールを勘案して計画的に取り組んでください。

【Outline (in English)】

Course Outline: Students learn concrete methods to comprehend, analyze, and evaluate the works of many Japanese writers from the beginning of the Shōwa era through the postwar period to the present age. Through examination of the writers' lives, the subjects and motivations of their works, their historical backgrounds, influences, styles, etc., students will acquire the ability to properly evaluate them.

Learning Objectives: Students will discover a theme for their graduation thesis and develop the ability to write it.

Learning Activities Outside of the Classroom: The presenter researches and examines the work, and prepares a resume. It takes about 5 hours to do this. Other students will submit a short report, which will take about 3 hours.

Grading Criteria/Policy: I will evaluate the level of the presentation and remarks at 50%, 20% for the final report, and 30% for the short report.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

ゼミナール 1 2 A

渋谷 百合絵

授業コード：A2637 | 曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代文学研究の基礎的手続きを身につけながら、御伽噺、童話、児童文学作品について研究する。作品自体の言葉を丁寧に読み解くだけでなく、作者や同時代の社会的・文化的状況にも目を向け、当該作品の同時代的意味についても考察することを目指す。また時に「児童文学」をめぐる議論や文化現象についても調査を行い、近現代の児童文学がどのようにして成立し、受容されてきたかも捉えていきたい。

【到達目標】

自ら研究課題を設定し、近代文学研究の基礎的な手順をふまえて研究を行い、作品や文化現象について自分なりの見解を持つことができる。またこれについて発表し、議論ができる。さらに、議論の中で明らかになった課題を解決し、レポートにまとめることができる。近代文学史・近代史における「児童文学」の位置について理解し、「児童文学」とは何か、について自らの考えを獲得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は演習。グループまたは個人で作品研究、発表を行い、これに対して全員で議論する。発表者は発表の一週間前までに、発表で扱う作品の本文を学習支援システムに上げ、全員が読んでくる。また参加者は自分が発表者でない場合にも、作品についての自分の読みをまとめておく。発表資料は事前に学習支援システムに上げておく。課題等の提出・フィードバックも学習支援システムを通じて行う。また年度末には、個人研究発表における議論の内容をふまえ、自分の発表を練り直したレポートを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミの目標・自己紹介・グループ編成・発表順序の決定	ゼミの目標についての確認。また、教員および学生の自己紹介。グループ編成、発表順序を決める。
第2回	研究の手順・資料収集の方法	作品研究の基本的な手順や、資料の調べ方・手段について説明する。必要であれば図書館実習を行う。
第3回	グループ研究発表①	3人一組のグループで作品研究を行い、分担して行った調査結果と、各自の作品解釈を発表する。また発表に対して全員で議論する。
第4回	グループ研究発表②	3人一組のグループで作品研究を行い、分担して行った調査結果と、各自の作品解釈を発表する。また発表に対して全員で議論する。
第5回	グループ研究発表③	3人一組のグループで作品研究を行い、分担して行った調査結果と、各自の作品解釈を発表する。また発表に対して全員で議論する。
第6回	グループ研究発表④	3人一組のグループで作品研究を行い、分担して行った調査結果と、各自の作品解釈を発表する。また発表に対して全員で議論する。
第7回	グループ研究発表⑤	3人一組のグループで作品研究を行い、分担して行った調査結果と、各自の作品解釈を発表する。また発表に対して全員で議論する。
第8回	グループ研究発表⑥	3人一組のグループで作品研究を行い、分担して行った調査結果と、各自の作品解釈を発表する。また発表に対して全員で議論する。
第9回	グループ研究発表⑦	3人一組のグループで作品研究を行い、分担して行った調査結果と、各自の作品解釈を発表する。また発表に対して全員で議論する。
第10回	卒業論文構想発表①	一人につき発表15分＋議論15分、3名発表。
第11回	卒業論文構想発表②	一人につき発表15分＋議論15分、3名発表。
第12回	卒業論文構想発表③	一人につき発表15分＋議論15分、3名発表。

第13回	卒業論文構想発表④	一人につき発表15分＋議論15分、3名発表。
第14回	個人研究発表3年生①	一人につき発表25分＋議論25分、2名発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ研究では、グループで協力して研究を行い、発表の準備を進めること。4年生は卒業論文で扱う題材を定め、これについて先行研究の整理、問題設定、問題に対する見通し、等をまとめ、構想発表を行う。個人研究発表についても、各自研究を進め、発表を準備を進める。なお、発表で扱われる作品は必ず事前に読み、積極的に議論に参加できるようにすること。特に作品の解釈について、自分なりの考えをまとめておく。書式と様式に注意して、レポート・論文を書く。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

発表で扱う作品本文

【参考書】

鳥越信編『はじめて学ぶ 日本児童文学史』ミネルヴァ書房 3,300円
『日本近代文学大事典』日本近代文学館編（ジャパナレッジで利用可能）
『日本児童文学大事典』大阪国際児童文学館編、大日本図書
菅忠道『増補改訂版 日本の児童文学』大月書店
各作家の全集・各種児童文学全集類など

【成績評価の方法と基準】

発表60%、議論への参加40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

授業中に指示する・「学習支援システム」

【その他の重要事項】

秋学期との通年履修を前提とする（春学期のみ履修の場合には、期末レポートを提出する必要がある）。4年生は卒業論文を各自進めていくこと。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

In this seminar, students acquire the basics of modern literary research and study children's literature. Students interpret the works and also consider the author and contemporary society.

【到達目標（Learning Objectives）】

Students will be able to conduct research and make presentations based on the basics of literary research. They can also actively participate in discussions. A report can then be created based on the discussion.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students are required to read fairy tale works before class. Students must also prepare for their own presentation and write a report after the presentation.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Presentation 60%, Discussion participation 40%

LIT300BC (文学 / Literature 300)

ゼミナール12B

渋谷 百合絵

授業コード：A2638 | 曜日・時限：金2/Fri.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代文学研究の基礎を身につけ、これによって近代の児童文学作品を分析することができる。また、日本の近代児童文学の特質について理解を深める。春学期に引き続き、個人での研究発表を行うことができる。また発表に対して全員でディスカッションができる。4年生は卒業論文の完成を見据えた中間発表ができる。また3年生は来年度取り組む卒業論文で何を扱うか、おおよその見通しを立て、先行研究を集め始める。

【到達目標】

春期のグループ研究をふまえて、作品研究の基礎的な手順を、個人別の研究を通じて定着させることができる。また作品の表現を丁寧に読み込み、独自の解釈を定め、発表することができる。発表に対して積極的に議論することができる。また議論でのやり取りをふまえて、年度末レポートにまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は演習。個人研究に基づく発表およびディスカッションを基本とする。また、このディスカッションで指摘されたこと、アドバイスされたことに基づいて研究を練り直し、年度末レポートにまとめることができる。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	個人研究発表3年生②	一人につき発表25分＋議論25分、2名発表。
第2回	個人研究発表3年生③	一人につき発表25分＋議論25分、2名発表。
第3回	個人研究発表3年生④	一人につき発表25分＋議論25分、2名発表。
第4回	個人研究発表3年生⑤	一人につき発表25分＋議論25分、2名発表。
第5回	卒業論文発表①	一人につき発表30分＋議論20分、2名発表。
第6回	卒業論文発表②	一人につき発表30分＋議論20分、2名発表。
第7回	卒業論文発表③	一人につき発表30分＋議論20分、2名発表。
第8回	卒業論文発表④	一人につき発表30分＋議論20分、2名発表。
第9回	卒業論文発表⑤	一人につき発表30分＋議論20分、2名発表。
第10回	個人研究発表2年生①	一人につき発表25分＋議論25分、2名発表。
第11回	個人研究発表2年生②	一人につき発表25分＋議論25分、2名発表。
第12回	個人研究発表2年生③	一人につき発表25分＋議論25分、2名発表。
第13回	個人研究発表2年生④	一人につき発表25分＋議論25分、2名発表。
第14回	個人発表2年生⑤	一人につき発表25分＋議論25分、2名発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

夏季休暇中に個人研究・卒業論文を進めておく。発表で扱われる作品は必ず事前に読み、積極的に議論に参加できるようにすること。特に作品の解釈について、自分なりの考えをまとめておく。書式と様式に注意して、レポート・論文を書くことができる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

発表で扱う作品本文

【参考書】

鳥越信編『はじめて学ぶ 日本児童文学史』ミネルヴァ書房 3,300円
『日本近代文学大事典』日本近代文学館編（ジャパナレッジで利用可能）
『日本児童文学大事典』大阪国際児童文学館編、大日本図書
菅忠道『増補改訂版 日本の児童文学』大月書店
各作家の全集・各種児童文学全集類
など

【成績評価の方法と基準】

発表50%、議論への参加30%、レポート20%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

授業中に指示する・「学習支援システム」

【その他の重要事項】

個人研究発表を練り直したレポートを年度末に提出してもらうため、その準備を各自進めておく。4年生は卒業論文の完成に向けて計画を立てて取り組むこと。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

In this seminar, students acquire the basics of modern literary research and study children's literature. Students interpret the works and also consider the author and contemporary society.

【到達目標（Learning Objectives）】

Students will be able to conduct research and make presentations based on the basics of literary research. They can also actively participate in discussions. A report can then be created based on the discussion.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students are required to read fairy tale works before class. Students must also prepare for their own presentation and write a report after the presentation.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Presentation 50%, Discussion participation 30%, Report 20%

LIN300BC (言語学 / Linguistics 300)

ゼミナール 13A

間宮 厚司

授業コード：A2639 | 曜日・時限：火4/Tue.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語研究に関する各自のテーマについて、調査・分析・考察を行い、発表してもらいます。日本語を研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から、自分の頭で考え、自分のことばで表現し、自分なりの論を立てられるようになるための授業です。

【到達目標】

最終目標である卒業論文の作成に役立つスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ生による研究発表を中心に行います。発表内容は日本語の研究に関することならば何でも可。ただし、研究に値する解決可能なテーマに限ります。発表者はプリントを人数分準備・配布して発表し、発表後に質疑応答や助言を行います。誤りを恐れず、のびのびと研究発表をして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミ生の自己紹介など
第2回	前年度の研究紹介（1）	発表順の決定や発表の仕方など
第3回	前年度の研究紹介（2）	プリントの作り方など
第4回	ゼミ生の研究発表（1）	発表・質疑応答・助言（1）
第5回	ゼミ生の研究発表（2）	発表・質疑応答・助言（2）
第6回	ゼミ生の研究発表（3）	発表・質疑応答・助言（3）
第7回	ゼミ生の研究発表（4）	発表・質疑応答・助言（4）
第8回	ゼミ生の研究発表（5）	発表・質疑応答・助言（5）
第9回	ゼミ生の研究発表（6）	発表・質疑応答・助言（6）
第10回	ゼミ生の研究発表（7）	発表・質疑応答・助言（7）
第11回	ゼミ生の研究発表（8）	発表・質疑応答・助言（8）
第12回	ゼミ生の研究発表（9）	発表・質疑応答・助言（9）
第13回	ゼミ生の研究発表（10）	発表・質疑応答・助言（10）
第14回	まとめ	レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

参考書は各自の研究テーマにそって、そのつど指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）・発表（30％）・レポート（40％）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度サバティカルのため無し。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is an interactive lecture, with presentations about what we learn in the class related to Japanese language, and a question-and-answer session.

Learning Objectives: To acquire the skills necessary for writing a graduation thesis (the ultimate goal).

Learning Activities Outside of the Classroom: In addition to using the library for study, students should visit the instructor's office for consultation if needed. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: performance in class (30%); presentation (30%); and report (40%).

LIN300BC (言語学 / Linguistics 300)

ゼミナール 13B

間宮 厚司

授業コード：A2640 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語研究に関する各自の研究テーマについて、調査・分析・考察を行い、発表してもらいます。日本語を研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から、自分の頭で考え、自分のことばで表現し、自分なりの論を立てられるようになるための授業です。

【到達目標】

最終目標である卒業論文の作成に役立つスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ生による研究発表を中心に行います。発表内容は日本語の研究に関することならば、何でも可。ただし、研究に値する解決可能なテーマに限ります。発表者は、プリントを人数分準備・配布して発表し、発表後に質疑応答や助言を行います。誤りを恐れず、のびのびと研究発表をして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミ長・副ゼミ長の選出
第2回	春学期のレポート紹介	発表順の決定など
第3回	秋学期の研究テーマ	研究テーマの確認など
第4回	ゼミ生の研究発表（1）	発表・質疑応答・助言（1）
第5回	ゼミ生の研究発表（2）	発表・質疑応答・助言（2）
第6回	ゼミ生の研究発表（3）	発表・質疑応答・助言（3）
第7回	ゼミ生の研究発表（4）	発表・質疑応答・助言（4）
第8回	ゼミ生の研究発表（5）	発表・質疑応答・助言（5）
第9回	ゼミ生の研究発表（6）	発表・質疑応答・助言（6）
第10回	ゼミ生の研究発表（7）	発表・質疑応答・助言（7）
第11回	ゼミ生の研究発表（8）	発表・質疑応答・助言（8）
第12回	ゼミ生の研究発表（9）	発表・質疑応答・助言（9）
第13回	ゼミ生の研究発表（10）	発表・質疑応答・助言（10）
第14回	まとめ	レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

参考書は各自の研究テーマにそって、そのつど指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）・発表（30％）・レポート（40％）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度サバティカルのため無し。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is an interactive lecture, with presentations about what we learn in the class related to Japanese language, and a question-and-answer session.

Learning Objectives: To acquire the skills necessary for writing a graduation thesis (the ultimate goal).

Learning Activities Outside of the Classroom: In addition to using the library for study, students should visit the instructor's office for consultation if needed. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: performance in class (30%); presentation (30%); and report (40%).

LIN300BC (言語学 / Linguistics 300)

ゼミナール 1 4 A

間宮 厚司

夜間時間帯

授業コード：A2641 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古典語（古文のことば）に関する各自の研究テーマについて、調査・分析・考察を行い、発表してもらいます。古典語を研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から、自分の頭で考え、自分のことばで表現し、自分なりの論を立てられるようになるための授業です。

【到達目標】

最終目標である卒業論文の作成に役立つスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ生による研究発表を中心に行います。発表内容は古典語の研究に関するものならば、何でも可。ただし、研究に値する解決可能なテーマに限ります。発表者は、プリントを人数分準備・配布して発表し、発表後に質疑応答や助言を行います。誤りを恐れず、のびのびと研究発表をして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミ生の自己紹介など
第2回	前年度の研究紹介（1）	発表順の決定や発表の仕方など
第3回	前年度の研究紹介（2）	プリントの作り方など
第4回	ゼミ生の研究発表（1）	発表・質疑応答・助言（1）
第5回	ゼミ生の研究発表（2）	発表・質疑応答・助言（2）
第6回	ゼミ生の研究発表（3）	発表・質疑応答・助言（3）
第7回	ゼミ生の研究発表（4）	発表・質疑応答・助言（4）
第8回	ゼミ生の研究発表（5）	発表・質疑応答・助言（5）
第9回	ゼミ生の研究発表（6）	発表・質疑応答・助言（6）
第10回	ゼミ生の研究発表（7）	発表・質疑応答・助言（7）
第11回	ゼミ生の研究発表（8）	発表・質疑応答・助言（8）
第12回	ゼミ生の研究発表（9）	発表・質疑応答・助言（9）
第13回	ゼミ生の研究発表（10）	発表・質疑応答・助言（10）
第14回	まとめ	レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

参考書は各自の研究テーマにそって、そのつど指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）・発表（30％）・レポート（40％）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度サバティカルのため無し。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is an interactive lecture, with presentations about what we learn in the class related to Japanese language, and a question-and-answer session.

Learning Objectives: To acquire the skills necessary for writing a graduation thesis (the ultimate goal).

Learning Activities Outside of the Classroom: In addition to using the library for study, students should visit the instructor's office for consultation if needed. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: performance in class (30%); presentation (30%); and report (40%).

LIN300BC（言語学 / Linguistics 300）

ゼミナール 14B

間宮 厚司

夜間時間帯

授業コード：A2642 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古典語（古文のことば）に関する各自の研究テーマについて、調査・分析・考察を行い、発表してもらいます。古典語を研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から、自分の頭で考え、自分のことばで表現し、自分なりの論を立てられるようになるための授業です。

【到達目標】

最終目標である卒業論文の作成に役立つスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ生による研究発表を中心に行います。発表内容は古典語の研究に関するものならば、何でも可。ただし、研究に値する解決可能なテーマに限ります。発表者は、プリントを人数分準備・配布して発表し、発表後に質疑応答や助言を行います。誤りを恐れず、のびのびと研究発表をして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミ長・副ゼミ長の選出
第2回	春学期のレポート紹介	発表順の決定など
第3回	秋学期の研究テーマ	研究テーマの確認など
第4回	ゼミ生の研究発表（1）	発表・質疑応答・助言（1）
第5回	ゼミ生の研究発表（2）	発表・質疑応答・助言（2）
第6回	ゼミ生の研究発表（3）	発表・質疑応答・助言（3）
第7回	ゼミ生の研究発表（4）	発表・質疑応答・助言（4）
第8回	ゼミ生の研究発表（5）	発表・質疑応答・助言（5）
第9回	ゼミ生の研究発表（6）	発表・質疑応答・助言（6）
第10回	ゼミ生の研究発表（7）	発表・質疑応答・助言（7）
第11回	ゼミ生の研究発表（8）	発表・質疑応答・助言（8）
第12回	ゼミ生の研究発表（9）	発表・質疑応答・助言（9）
第13回	ゼミ生の研究発表（10）	発表・質疑応答・助言（10）
第14回	まとめ	レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

参考書は各自の研究テーマにそって、そのつど指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）・発表（30％）・レポート（40％）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度サバティカルのため無し。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is an interactive lecture, with presentations about what we learn in the class related to Japanese language, and a question-and-answer session.

Learning Objectives: To acquire the skills necessary for writing a graduation thesis (the ultimate goal).

Learning Activities Outside of the Classroom: In addition to using the library for study, students should visit the instructor's office for consultation if needed. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: performance in class (30%); presentation (30%); and report (40%).

LIN300BC (言語学 / Linguistics 300)

ゼミナール 15A

塩田 雄大

授業コード：A2643 | 曜日・時限：水3/Wed.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本語のさまざまな側面をめぐって観察し、言語研究の基本的な観点・姿勢を学ぶ。

【到達目標】

- (1) 日常の言語生活の中から、問題点を探し出すことができる。
- (2) 言語研究（特に語彙論および社会言語学）の基礎的・基本的な概念と手法を把握することができる。
- (3) 重要な先行研究の内容を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は、言語研究的姿勢を学ぶための基礎的・基本的な記事・論文を取り上げ、各自の発表と意見交換をおこなう。
後半は、日常の言語生活の中で見つけ出した「気になることば」に関して、各自の視点からの問題提起の発表と意見交換をおこなう。
履修者の興味・関心および理解度に応じて、内容を柔軟に検討・構成してゆく。必要に応じて、グループ発表もおこなう予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入（前半）	ガイダンス
第2回	導入（後半）	各自紹介
第3回	論文1（語彙論）	解説発表と意見交換
第4回	論文2（辞書論）	解説発表と意見交換
第5回	論文3（音韻論）	解説発表と意見交換
第6回	論文4（社会言語学）	解説発表と意見交換
第7回	論文5（近現代日本語史）	解説発表と意見交換
第8回	論文6（語用論）	解説発表と意見交換
第9回	トピック発表1（語彙論）	発表・討論
第10回	トピック発表2（辞書論）	発表・討論
第11回	トピック発表3（音韻論）	発表・討論
第12回	トピック発表4（社会言語学）	発表・討論
第13回	トピック発表5（近現代日本語史）	発表・討論
第14回	まとめ	発表・討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

随時課題を示す。必要に応じて、サブゼミ的な集まりを実施すること。
※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

なおテキストとして用いるものではないが、『三省堂国語辞典 第八版』（見坊豪紀ほか、三省堂、2022年）の書籍版（普通版3,300円、小型版3,080円）、あるいはアプリ版（3,200円程度；時期による変動あり）を、必ず購入のこと。ゼミ時間外もできるかぎり持ち歩き、気になったことばはすぐに引く習慣をつける。また、このほか国語辞書関連のアプリはできるかぎり入手しておくことが望ましい。

【参考書】

- 一般論として、書籍はできるかぎり購入して自分のものしておくこと。すぐに読めなくてもかまわない。そのなかに、いずれ役に立つものが出てくる。参考書は授業内で随時紹介する。下記、あくまで例としていくつか掲げておく。
- (1) 『語用論的方言学の方法』（小林隆、2023年、ひつじ書房）
 - (2) 『国語辞典を食べ歩く』（サンキュータツオ、2021年、女子栄養大学出版部）
 - (3) 『比べて楽しい国語辞書ディープな読み方』（ながさわ、河出書房新社、2021年）
 - (4) 『ものの言いかた西東』（小林隆・澤村美幸、2014年、岩波書店）
 - (5) 『その一言が余計です。』（山田敏弘、ちくま新書、2013年）
 - (6) 『辞書を編む』（飯間浩明、光文社、2013年）
 - (7) 『変わる日本語 それでも変わらない日本語』（塩田雄大、世界文化社、2023年）
 - (8) 『社会言語学の枠組み』（井上史雄・田邊和子（編）、くろしお出版、2022年）

- (9) 『「させていただく」大研究』（椎名美智・滝浦真人編、くろしお出版、2022年）
- (10) "Handbook of Japanese Sociolinguistics" (Y. Asahi, M. Usami, F. Inoue (eds.), Berlin: Walter de Gruyter. 2022)
- (11) 『近代の語彙(2) 日本語の規範ができる時代(シリーズ〈日本語の語彙〉6)』（飛田良文（編）、朝倉書店、2022年）
- (12) 『実践方言学講座1 社会の活性化と方言』（半沢康・新井小枝子（編）、くろしお出版、2020年）
- (13) 『日本語配慮表現の原理と諸相』（山岡政紀（編）、くろしお出版、2019年）
- (14) 『わかりやすい日本語』（野村雅昭・木村義之（編）、くろしお出版、2016年）
- (15) 『はじめて学ぶ方言学』（井上史雄・木部暢子（編）、ミネルヴァ書房、2016年）
- (16) 『現代日本語の動態研究』（相沢正夫（編）、おうふう、2013年）

【成績評価の方法と基準】

問題提起の発表による議論活性化への寄与度 40 %
期間中提出課題 30 %
最終提出課題 30 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックなし

【学生が準備すべき機器他】

各自が使用するメールアドレスは原則として法政大学のアカウントとする。全員への連絡事項および資料配付は基本的に学習支援システムを用いておこなう予定である。紙資料は配付しないため、毎回の受講時には【PCまたはタブレット】を持参するのが望ましい（スマホだけだと配布資料が読みにくいはず）。

【その他の重要事項】

質問・相談は、メールにて随時受け付ける。アドレスは教員の法政大アカウントのものを使用する。

【Outline (in English)】

The outline and purpose of this class is to learn the basic perspectives and attitudes of language research by making observations about various aspects of modern Japanese.
With regard to learning outside of class time, the faculty will present assignments to students as needed. If necessary, gatherings such as sub seminars should be conducted.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. The method and criteria for evaluating student performance will be as follows;
Contribution to stimulating discussion by presenting the issues: 40%.
Submissions during the term: 30%.
Final assignment: 30%.

LIN300BC (言語学 / Linguistics 300)

ゼミナール 15B

塩田 雄大

授業コード：A2644 | 曜日・時限：水3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語研究の基本的な観点・姿勢から見た現代日本語の諸問題を、先行研究をふまえながら分析する。

【到達目標】

- (1) 言語上の問題点についての具体的な分析手法を適用・駆使することができる。
- (2) 言語研究の基礎的・基本的な概念と手法をある程度使いこなすことができる。
- (3) 適切な先行研究を自分で探し出すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各自が取り扱ってゆくトピックを整理し、それに関する先行研究の探索・読み込みと独自の分析を発表して、意見交換をおこなう。履修者の興味・関心および理解度に応じて、内容を柔軟に検討・構成してゆく。必要に応じて、グループ発表もおこなう予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入（前半）	ガイダンス
第2回	導入（後半）	論文紹介
第3回	課題整理発表1（学生A、B、C）	発表・討論
第4回	課題整理発表2（学生D、E、F）	発表・討論
第5回	課題整理発表3（学生G、H、I）	発表・討論
第6回	課題整理発表4（学生J、K、L）	発表・討論
第7回	課題整理発表5（学生M、N、O）	発表・討論
第8回	中間総括	発表・討論
第9回	探索的発表1（学生A、B、C）	発表・討論
第10回	探索的発表2（学生D、E、F）	発表・討論
第11回	探索的発表3（学生G、H、I）	発表・討論
第12回	探索的発表4（学生J、K、L）	発表・討論
第13回	探索的発表5（学生M、N、O）	発表・討論
第14回	まとめ	発表・討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

随時課題を示す。必要に応じて、サブゼミ的な集まりを実施すること。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

なおテキストとして用いるものではないが、『三省堂国語辞典 第八版』（見坊豪紀ほか、三省堂、2022年）の書籍版（普通版3,300円、小型版3,080円）、あるいはアプリ版（3,200円程度；時期による変動あり）を、必ず購入のこと。ゼミ時間外でもできるかぎり持ち歩き、気になったことはすぐに引く習慣をつける。また、このほか国語辞書関連のアプリはできるかぎり入手しておくことが望ましい。

【参考書】

一般論として、書籍はできるかぎり購入して自分のものにしておくこと。すぐに読めなくてもかまわない。そのなかに、いずれ役に立つものが出てくる。参考書は授業内で随時紹介する。下記、あくまで例としていくつか掲げておく。

- (1) 『語用論的方言学の方法』（小林隆、2023年、ひつじ書房）
- (2) 『国語辞典を食べ歩く』（サンキュータツオ、2021年、女子栄養大学出版社）
- (3) 『比べて楽しい国語辞書ディープな読み方』（ながさわ、河出書房新社、2021年）
- (4) 『ものの言いかた西東』（小林隆・澤村美幸、2014年、岩波書店）
- (5) 『その一言が余計です。』（山田敏弘、ちくま新書、2013年）
- (6) 『辞書を編む』（飯間浩明、光文社、2013年）

- (7) 『変わる日本語 それでも変わらない日本語』（塩田雄大、世界文化社、2023年）
- (8) 『社会言語学の枠組み』（井上史雄・田邊和子（編）、くろしお出版、2022年）
- (9) 『「させていただく」大研究』（椎名美智・滝浦真人編、くろしお出版、2022年）
- (10) "Handbook of Japanese Sociolinguistics" (Y. Asahi, M. Usami, F. Inoue (eds.), Berlin: Walter de Gruyter, 2022)
- (11) 『近代の語彙(2) 日本語の規範ができる時代(シリーズ「日本語の語彙」6)』（飛田良文（編）、朝倉書店、2022年）
- (12) 『実践方言学講座1 社会の活性化と方言』（半沢康・新井小枝子（編）、くろしお出版、2020年）
- (13) 『日本語配慮表現の原理と諸相』（山岡政紀（編）、くろしお出版、2019年）
- (14) 『わかりやすい日本語』（野村雅昭・木村義之（編）、くろしお出版、2016年）
- (15) 『はじめて学ぶ方言学』（井上史雄・木部暢子（編）、ミネルヴァ書房、2016年）
- (16) 『現代日本語の動態研究』（相沢正夫（編）、おうふう、2013年）

【成績評価の方法と基準】

問題提起の発表による議論活性化への寄与度 40 %

期間中提出課題 30 %

最終提出課題 30 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックなし

【学生が準備すべき機器他】

各自が使用するメールアドレスは原則として法政大学のアカウントとする。全員への連絡事項および資料配付は基本的に学習支援システムを用いておこなう予定である。紙資料は配付しないため、毎回の受講時には【PCまたはタブレット】を持参するのが望ましい（スマホだけだと配布資料が読みにくいはず）。

【その他の重要事項】

質問・相談は、メールにて随時受け付ける。アドレスは教員の法政大アカウントのものを使用する。

【Outline (in English)】

The outline and purpose of this class is to analyze various issues in contemporary Japanese language from the basic viewpoints and attitudes of linguistic research, taking into account previous studies.

With regard to learning outside of class time, the faculty will present assignments to students as needed. If necessary, gatherings such as sub seminars should be conducted.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. The method and criteria for evaluating student performance will be as follows;

Contribution to stimulating discussion by presenting the issues: 40%.

Submissions during the term: 30%.

Final assignment: 30%.

LIN300BC (言語学 / Linguistics 300)

ゼミナール16A

松浦 光

夜間時間帯

授業コード：A2645 | 曜日・時限：金4/Fri.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will study how to analyze the structures and meanings of the Japanese we use in our daily life.

若者ことばのような、現代日本語の問題を取り上げながら、言語を分析する手法を学ぶ。

【到達目標】

The objectives of this course are (1) to understand the claims and evidence of research papers correctly, (2) to learn how to give a review presentation, and (3) to learn how to use corpora in order to investigate a variety of Japanese expressions.

- (1) 論文の主張を的確に理解・要約することができる。
- (2) 論文の内容を分かりやすくプレゼンテーションすることができる。
- (3) コーパスを使って、言葉遣いについて調べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

▼決められたトピックに関してグループ発表を中心とし、皆でディスカッションをしながら授業を進める。基礎概念を補足説明については講義形式として行う場合もある。言語学的な研究手法を学ぶことができる雑誌記事・学術論文を読み、発表してもらう。

▼必要に応じて、ZOOMを用いたオンライン授業を行う。その場合は、学習支援システムでURLや事前課題などを連絡する。チャット機能を利用した双方向授業になるため、通信環境を整えておくこと。

▼フィードバックは可能な限り授業内で行うこととし、レポートなどの提出物についても授業内で講評を行う。ただし、必要に応じて授業支援システムでも行う。

▼ゼミはディスカッションをすることが目的でもあるため、リアクションペーパーなどは用いない。質問があれば、その場ですること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、コーパスの使い方	本科目のオリエンテーション及び、授業で扱うコーパスの紹介を行う
第2回	3年生(学生A, B, C)による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第3回	3年生(学生A, B, C)による個人研究発表 3年生(学生D, E, F)による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第4回	グループ発表1（他已紹介）	各グループの自己紹介、他已紹介、テーマ紹介をする
第5回	3年生(学生G, H, I)による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第6回	論文レビュー1（若者言葉の分析）	若者言葉の意味・文法の拡張について研究した論文を読み、その問題点について討議する
第7回	グループ発表2（先行研究とまとめ）	各グループの研究テーマの先行研究とその問題点について発表する
第8回	3年生(学生A, B, C)による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第9回	3年生(学生D, E, F)による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第10回	論文レビュー2（ボライトネスに関する若者言葉の分析）	若者言葉とボライトネスに関する論文を読み、全員で討議する
第11回	3年生(学生G, H, I)による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第12回	2年生(学生A, B, C, D, E)による論文リポート	2年生に論文リポート（発表）をしてもらい、その論文の問題点について討議する

第13回	2年生(学生F, G, H, I, J)による論文リポート	2年生に論文リポート（発表）をしてもらい、その論文の問題点について討議する
第14回	グループ発表3（調査結果と代案の提示）	各グループが調査したことを発表し、最終的な主張を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題論文の基本用語・重要概念については事前に下記参考書を使用して十分に理解し、授業で皆に説明できるようにしておく。※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

- (1)『認知言語学研究の方法—内省・コーパス・実験』（辻幸夫監修、ひつじ書房）
- (2)『日本語教育のためのコーパス調査入門』（李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子、くろしお出版）
- (3)『日本語文法大辞典』（山口明徳・秋本守英編著、明治書院）

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentations (30%); discussions (30%); and assignments (40%).

発表30%、質疑応答30%、課題40%

半期で3回欠席した者は即刻単位不認定。遅刻2回で欠席1回とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

グループワークではノートPC必須。発表ではパワーポイント（Googleクラウドでも可）。そのため、個人でノートPCを持参することが望ましい。また、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の検索ができるように、「中納言」（国立国語研究所提供）の利用者登録を推奨する。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will study how to analyze the structures and meanings of the Japanese we use in our daily life.

Learning Objectives: The objectives of this course are (1) to understand the claims and evidence of research papers correctly, (2) to learn how to give a review presentation, and (3) to learn how to use corpora in order to investigate a variety of Japanese expressions.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentations (30%), discussions (30%), assignments (40%).

LIN300BC (言語学 / Linguistics 300)

ゼミナール16B

松浦 光

夜間時間帯

授業コード：A2646 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will study how to analyze language grammatically.
若者ことばを客観的に見つめ直し、文法的に分析する。

【到達目標】

The objectives of this course are (1) to learn basic linguistic terms, (2) to learn how to analyze language logically and linguistically, and (3) to experience collaborative research with other students.

(1) 言語分析に必要な言語学の基本概念やコーパス使用法を習得する。(2) ある問題について、論理的かつ言語学的に考えることができるようになる。(3) グループ・ワークやサブゼミを通じ、他者と協働しながら課題を達成しようとする姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

▼数多くの事例について皆で考えながら授業を進める。問題提起となる研究発表は、2年生はグループ発表中心で、3年生は個人発表中心で行う。

▼必要に応じて、ZOOMを用いたオンライン授業を行う。その場合は、学習支援システムでURLや事前課題などを連絡する。チャット機能を利用した双方向授業になるため、通信環境を整えておくこと。

▼フィードバックは可能な限り授業内で行うこととし、レポートなどの提出物についても授業内で講評を行う。ただし、必要に応じて授業支援システムでも行う。

▼ゼミはディスカッションをすることが目的でもあるため、リアクションペーパーなどは用いない。質問があれば、その場ですること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	3年生(学生A, B, C)による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究するためには何が必要かを討議する。
第2回	3年生(学生D, E, F)による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究するためには何が必要かを討議する。
第3回	3年生(学生G, H, I)による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究するためには何が必要かを討議する。
第4回	グループ発表1（先行研究）	2年生のグループ発表を聞き、その問題点と、より良い研究するためには何が必要かを討議する。
第5回	課題論文1（若者ことばの論文）	若者言葉の意味・文法の拡張について研究した論文を読み、その問題点について討議する。
第6回	コーパス実習（BCCWJ）	BCCWJなどオンラインコーパスの使用法について学ぶ。
第7回	グループ発表2（先行研究の問題点）	2年生のグループ発表を聞き、その問題点と、より良い研究するためには何が必要かを討議する。
第8回	課題論文2（文法化の論文）	若者言葉を文法化の観点から研究した論文を読んで、その問題点を討議する。
第9回	データベース実習（日本語教育関連）	日本語教育に関するデータベースの使用法を学ぶ。
第10回	グループ発表3（調査結果の提示）	2年生のグループ発表を聞き、その問題点と、より良い研究するためには何が必要かを討議する。
第11回	3年生(学生A, B, C)による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究するためには何が必要かを討議する。
第12回	3年生(学生D, E, F)による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究するためには何が必要かを討議する。
第13回	3年生(学生G, H, I)による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究するためには何が必要かを討議する。

第14回 グループ発表4（代案の提示） 2年生のグループ発表を聞き、その問題点と、より良い研究するためには何が必要かを討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

グループ発表に備え、各グループで毎週1回サブゼミを実施すること。また、各回の議論内容・決定事項・反省点などは、ポートフォリオ代りとなるフェイスブック・グループに書き込むこと。※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

『認知言語学研究の方法―内省・コーパス・実験』（辻幸夫監修、ひつじ書房）
『日本語教育のためのコーパス調査入門』（李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子著、くろしお出版）

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentations (30%); discussions (30%); and assignments (40%).

発表30%、質疑応答30%、課題40%

半期で3回欠席した者は即刻単位不認定。遅刻2回で欠席1回とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

グループワークではノートPC必須。発表ではパワーポイント（Googleクラウドでも可）。そのため、個人でノートPCを持参することが望ましい。また、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の検索ができるように、「中納言」（国立国語研究所提供）の利用者登録を推奨する。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will study how to analyze language grammatically.

Learning Objectives: The objectives of this course are (1) to learn basic linguistic terms, (2) to learn how to analyze language logically and linguistically, and (3) to experience collaborative research with other students.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentations (30%); discussions (30%); and assignments (40%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

ゼミナール17A

中沢 けい

授業コード：A2647 | 曜日・時限：木4/Thu.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

創作について学びます。春学期は妖怪・怪異研究をします。創作とは何か、イメージとはなにかを学びます。夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。後期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

Literature creation

【到達目標】

妖怪や怪異を通し虚構とは何か、創作とは何かを各自がイメージできるようになるのが目標です。好きな妖怪を見つけましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですすんで授業を作ってゆくと考えてください。授業では各自にレジュメを作成してもらいます。発表で用いてください。授業時にレジュメの内容などを質問することがあります。適宜リアクションペーパーを求めます。リアクションペーパーの内容を授業内と紹介する場合があります。授業内の質疑応答を通じてリアクションペーパーなどの内容をフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	ガイダンス2 なぜ妖怪や怪異について調べるのか	妖怪や怪異について私のイメージや考えを講義します。
第3回	受講生による発表	好きな妖怪、気になる怪異について発表してください。
第4回	受講生による発表 他の学生の発表を聞きましょう。	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第5回	受講生による発表 発表内容に対する質問を考えましょう。	具体的な文章の引用をしましょう。
第6回	受講生による発表 発表者に質問する前に、おとなりの人と少し相談するといいかもしれません。	引用に基づいた感想を話すようにしましょう。
第7回	受講生による発表 レジュメの作り方受講生にを研究してみましょう。	読むことはすなわち「創造」です。
第8回	受講生による発表 発表に機材が必要な場合は申し出てください。	「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。
第9回	ゼミ誌制作の準備	作品は「本」になって初めて原稿ではなく作品になります。
第10回	受講生による発表	再び、リストによる作品購読でさまざまな読み方を学びます。
第11回	受講生による発表 ときには脱線してお喋りをするのもおもしろいものです。	作品の研究論文、評論などを探しましょう。
第12回	受講生による発表 夏季休暇が近づいてきました。ゼミ誌の作品制作は進んでいるでしょうか？ という時期になります。	先行研究や評論とあなたの感じ方の違いを比べてみましょう。
第13回	受講生による発表 ゼミ誌作品制作の進行具合をお尋ねするかもしれません。	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。

第14回 受講生による発表 先行作品から新しい作品を生み出す
最終授業日までにゼミ誌 ヒントを探してみましょう。
の制作にめどがたっているといいのですけど。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけたくさんの本を読みましょう。詩、批評、戯曲なども読みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

参考書欄のテキストを適宜に用います。博物館などのHPも適宜に用います。

【参考書】

小松 和彦 (監修), 常光 徹 (編集), 山田 奨治 (編集), 飯倉 義之 (編集)
日本怪異妖怪大事典 普及版 (東京堂出版) - 2025/1/28 4950円
妖怪や怪異については無数の本があります。探してみましょう。

【成績評価の方法と基準】

配分 (%) は授業へ積極的参加 50 % ゼミ誌作品 50 %。 評価基準は創作のセンスの良さ。

【学生の意見等からの気づき】

とくにありません。

【学生が準備すべき機器他】

原稿用紙のアプリケーション

【その他の重要事項】

授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。新型コロナの感染状況によっては合宿は中止となることがあります。あしからずご理解ください。
小説家。1978年「海を感じる時」で第21回群像新人賞受賞。1985年「水平線にて」で第6回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline (in English)】

We will learn about creative writing. In the spring semester, we will study monsters and other supernatural phenomena. We will learn what creative writing is and what images are.

During the summer vacation, students will produce a seminar journal. This will be the textbook for the second semester, the object of joint critiques. A camp is also scheduled during the summer.

Learning Objectives: The goal is to be able to critically read creative works.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read as many books as possible, including poetry, criticism, plays, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: active participation in class (50%), seminar journal work (50%). The evaluation criterion is good taste in creative writing.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

ゼミナール17B

中沢 けい

授業コード：A2648 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。後期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

【到達目標】

ゼミ生相互に作品批評をします。同一の作品でも人により読み方が違うことが理解できます。その中で自分の作品について必要な批評を聞き分けられるようになりましょう。自分自身がどのような形態の作品を書きたいのかを意識できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですすんで授業を作っていくと考えてください。授業では各自にレジュメを作成してもらいます。発表で用いてください。授業時にレジュメの内容などを質問することがあります。授業内で作品の講評をお話します。また質疑応答を通じて個々の作品について考察します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	講読作品の選定とスケジュール作り	講読作品の選定とスケジュール作り
第3回	受講生による発表	リストによる購読で批評の方法を学びます。
第4回	受講生による発表	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第5回	受講生による発表	具体的な文章の引用をしましょう。
第6回	受講生による発表	引用に基づいた感想を話すようにしましょう。
第7回	受講生による発表	読むことはすなわち「創造」です。
第8回	受講生による発表	「読むこと」と「書くこと」のつながりを考えましょう。
第9回	受講生による発表	作品は「本」になって初めて原稿ではなく作品になります。
第10回	受講生による発表	人によって読み方はさまざまです。
第11回	受講生による発表	自分の作品の理解者を探してみましょう。
第12回	受講生による発表	作品はイメージ通りに書けましたか。
第13回	受講生による発表	作品の修正の方法を考えてみましょう。
第14回	受講生による発表	修正したほうがいいのかあ新しい作品を書いたほうがいいのかを考えてみましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけたくさん本を読みましょう。詩、批評、戯曲なども読みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ゼミ誌

【参考書】

ゼミ誌の批評をレジュメにまとめてもらいます。各自でほかのゼミ生のレジュメを読み比べてみましょう

【成績評価の方法と基準】

配分（％）は授業へ積極的参加50％ゼミ誌作品50％。 評価基準は創作のセンスの良さ。

【学生の意見等からの気づき】

とくにありません。

【その他の重要事項】

授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。新型コロナの感染状況によっては合宿は中止となります。あしからずご了解ください。
小説家。1978年「海を感じる時」で第21回群像新人賞受賞。1985年「水平線上にて」で第6回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline (in English)】

Course Outline: Students will produce a seminar journal during the summer vacation period. The seminar journal will be the textbook for the second semester classes, in which we will undertake joint critiques of each student's work.

Learning Objectives: The seminar students will critique each other's work. This will help students to understand that even the same work can be read in different ways by different people. Through this process, you will learn to distinguish necessary critiques of your own work. You will become aware of what form of work you would like to write yourself.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read as many books as possible, including poetry, criticism, plays, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: active participation in class (50%), seminar journal work (50%). The evaluation criterion is good taste in creative writing.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

ゼミナール18A

中沢 けい

夜間時間帯

授業コード：A2649 | 曜日・時限：金6/Fri.6
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

創作について学びます。春学期は妖怪・怪異研究をします。創作とは何か、イメージとはなにかを学びます。夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。

後期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

Literature creation

【到達目標】

妖怪や怪異を通し虚構とは何か、創作とは何かを各自がイメージできるようになるのが目標です。好きな妖怪を見つけましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですすんで授業を作っていくと考えてください。授業では各自にレジュメを作成してもらいます。発表で用いてください。授業時にレジュメの内容などを質問することがあります。適宜リアクションペーパーを求めます。リアクションペーパーの内容を授業内と紹介する場合があります。授業内の質疑応答を通じてリアクションペーパーなどの内容をフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	ガイダンス2 なぜ妖怪や怪異について調べるのか	妖怪や怪異について私のイメージや考えを講義します。
第3回	受講生による発表	リストによる講読で批評の方法を学びます。
第4回	受講生による発表 他の学生の発表を聞きましょう。	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第5回	受講生による発表 発表者に質問する前に、おとなりの人と少し相談するといいかもしれません。	具体的な文章の引用をしましょう。
第6回	受講生による発表 レジュメの作り方を研究してみましょう。	引用に基づいた感想を話すようにしましょう。
第7回	受講生による発表 レジュメの作り方受講生にを研究してみましょう。	読むことはすなわち「創造」です。
第8回	受講生による発表 発表に機材が必要な場合は申し出てください。	「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。
第9回	ゼミ誌制作の準備	作品は「本」になって初めて原稿ではなく作品になります。
第10回	受講生による発表	再び、リストによる作品購読でさまざまな読み方を学びます。
第11回	受講生による発表 ときには脱線してお喋りをするのもおもしろいものです。	作品の研究論文、評論などを探しましょう。
第12回	受講生による発表 夏季休暇が近づいてきました。ゼミ誌の作品制作は進んでいるでしょうか？ という時期になります。	先行研究や評論とあなたの感じ方の違いを比べてみましょう。
第13回	受講生による発表 ゼミ誌作品制作の進行具合をお尋ねするかもしれません。	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。

第14回 受講生による発表 先行作品から新しい作品を生み出す
最終授業日までにゼミ誌 ヒントを探してみましょう。
の制作にめどがたっているといいいですけど。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけたくさん本を読みましょう。小説に限らず詩、批評、戯曲なども読みましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

参考書欄のテキストを適宜に用います。博物館などのHPも適宜に用います。ゼミ誌を受講生自身で制作します。

【参考書】

小松 和彦 (監修), 常光 徹 (編集), 山田 奨治 (編集), 飯倉 義之 (編集)
日本怪異妖怪大事典 普及版 (東京堂出版) - 2025/1/28 4950円
妖怪や怪異については無数の本があります。探してみましょう。

【成績評価の方法と基準】

配分 (%) は授業へ積極的参加 50 % ゼミ誌作品 50 % 。 評価基準は創作のセンスの良さ。

【学生の意見等からの気づき】

とくにありません。

【学生が準備すべき機器他】

原稿用紙アプリケーション

【その他の重要事項】

授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。新型コロナウイルスの感染状況によっては合宿は中止といたします。あしからずお許しください。

小説家。1978年「海を感じる時」で第21回群像新人賞受賞。1985年「水平線にて」で第6回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline (in English)】

We will learn about creative writing. In the spring semester, we will study monsters and other supernatural phenomena. We will learn what creative writing is and what images are.

During the summer vacation, students will produce a seminar journal. This will be the textbook for the second semester, the object of joint critiques. A camp is also scheduled during the summer.

Learning Objectives: The goal is to be able to critically read creative works.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read as many books as possible, including poetry, criticism, plays, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: active participation in class (50%), seminar journal work (50%). The evaluation criterion is good taste in creative writing.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

ゼミナール 18B

中沢 けい

夜間時間帯

授業コード：A2650 | 曜日・時限：金6/Fri.6

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

創作について学びます。まず、注意深くいろいろな作品を読んでゆくことにしましょう。夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。秋学期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

【到達目標】

ゼミ生相互に作品批評をします。同一の作品でも人により読み方が違うことが理解できます。その中で自分の作品について必要な批評を聞き分けられるようになりましょう。自分自身がどのような形態の作品を書きたいのかを意識できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですんで授業を作ってゆくと考えてください。授業では各自にレジュメを作成してもらいます。発表で用いてください。授業時にレジュメの内容などを質問することがあります。授業内で作品の講評をお話します。また質疑応答を通じて個々の作品について考察します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	講読作品の選定とスケジュール作り	講読作品の選定とスケジュール作り
第3回	受講生相互の批評	作品にたいする批評をレジュメにして提出してもらいます。
第4回	受講生による発表	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第5回	受講生による発表	具体的な文章の引用をしましょう。
第6回	受講生による発表	引用に基づいた感想を話すようにしましょう。
第7回	受講生による発表	読むことはすなわち「創造」です。
第8回	受講生による発表	「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。
第9回	受講生による発表	読みかたは人によって異なります。
第10回	受講生による発表	自分はどのような作品を書きたかったのかを考えてみましょう。
第11回	受講生による発表	作品の理解したうえでの批評を探しましょう。
第12回	受講生による発表	作品の修正の方法を考えてみましょう。
第13回	受講生による発表	作品を修正したほうが良いのか、それとも新しい作品を書くほうがよいのかを考えてみましょう。
第14回	受講生による発表	次作のイメージを作ってみましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけたくさんのお話を聞きましょう。小説に限らず詩、批評、戯曲なども読みましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ゼミ誌を受講生自身で制作します。

【参考書】

自分の作品のイメージを喚起する作品を先行作品の中から探してみましょう。

【成績評価の方法と基準】

配分（％）は授業へ積極的参加50％ゼミ誌作品50％。 評価基準は創作のセンスの良さ。

【学生の意見等からの気づき】

とくにありません。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

【その他の重要事項】

授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。新型コロナの感染状況によっては合宿が中止となることがあります。あしからず。

小説家。1978年「海を感じる時」で第21回群像新人賞受賞。1985年「水平線にて」で第6回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline (in English)】

Course Outline: Students will learn about creative writing. First, we will carefully read a variety of works. During the summer vacation, students will produce a seminar journal. This will be the textbook for the second semester, the object of joint critiques. A camp is also scheduled during the summer.

Learning Objectives: The seminar students will critique each other's work. Students will understand that even the same work can be read in different ways by different people. In this way, you will learn to distinguish necessary critiques of your own work. You will become aware of what form of work you would like to write yourself.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read as many books as possible, including poetry, criticism, plays, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: active participation in class (50%), seminar journal work (50%). The evaluation criterion is good taste in creative writing.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

ゼミナール 19A

田中 和生

授業コード：A2651 | 曜日・時限：火4/Tue.4
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】

創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むことが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦し、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

小説についての研究発表を中心に進め、夏休み明けに提出する創作の準備を行います。できるだけ学生同士の自発的な議論に時間を使いますが、それを踏まえて授業の最後に教員からフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	役割分担と創作の計画。
第2回	日本の短篇を読む (1)	発表と質疑、リレー小説1。
第3回	日本の短篇を読む (2)	発表と質疑、リレー小説2。
第4回	日本の長篇を読む (1)	発表と質疑、リレー小説3。
第5回	日本の長篇を読む (2)	発表と質疑、リレー小説4。
第6回	日本の長篇を読む (3)	発表と質疑、リレー小説5。
第7回	日本の長篇を読む (4)	発表と質疑、リレー小説6。
第8回	日本の長篇を読む (5)	発表と質疑、リレー小説7。
第9回	日本の長篇を読む (6)	発表と質疑、リレー小説8。
第10回	日本の長篇を読む (7)	発表と質疑、リレー小説9。
第11回	日本の長篇を読む (8)	発表と質疑、リレー小説10。
第12回	日本の長篇を読む (9)	発表と質疑、リレー小説11。
第13回	日本の長篇を読む (10)	発表と質疑、リレー小説12。
第14回	日本の長篇を読む (11)	発表と質疑、リレー小説13。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに夏期休暇中の課題創作が重要です。春学期からじっくり書き方や内容を準備して取り組んでもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

ゼミナールでの発表（6割）と授業への積極的な参加姿勢（4割）によって、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

【その他の重要事項】

文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして創作について指導します。

【Outline (in English)】

< Course Outline > Choose the form of expression that suits you for creative writing in Japanese.

< Learning Objectives > Any genre of creative writing is acceptable, but students should determine the form of expression they create on the condition that they like to read works in that form. Students will also learn to understand literary works internally from the author's point of view, as a prerequisite for literary creation. The students will then improve their language skills by challenging themselves to write original works, not only through imitation.

< Learning Activities Outside of the Classroom > I will give you instructions as necessary, but it is especially important that you write during the summer vacation. Take time to prepare, and work on your writing style and content from the spring semester. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

< Grading Criteria/Policy > Students will be evaluated based on their presentations (60%), and their performance in class (40%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

ゼミナール 19B

田中 和生

授業コード：A2652 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】

創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むのが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦し、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

夏休み明けに創作を提出し、その作品について合評を行います。できるだけ学生同士の自発的な議論に時間を使いますが、それを踏まえて授業の最後に教員からフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	校正について	課題提出と授業計画。
第2回	ゼミ誌について	リレー小説の校正。
第3回	創作合評（1）	合評と作者質疑。
第4回	創作合評（2）	合評と作者質疑。
第5回	創作合評（3）	合評と作者質疑。
第6回	創作について	創作についての考察。
第7回	創作合評（4）	合評と作者質疑。
第8回	創作合評（5）	合評と作者質疑。
第9回	創作合評（6）	合評と作者質疑。
第10回	文学を探索！	文学的なものの調査。
第11回	創作合評（7）	合評と作者質疑。
第12回	創作合評（8）	合評と作者質疑。
第13回	創作合評（9）	合評と作者質疑。
第14回	創作合評（10）	合評と作者質疑。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに秋学期に提出する課題創作が重要です。夏期休暇中にじっくり納得のいくものを仕上げてもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

ゼミナールでの創作（6割）と授業への積極的な参加姿勢（4割）によって、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

【その他の重要事項】

文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして創作について指導します。

【Outline (in English)】

< Course Outline > Choose the form of expression that suits you for creative writing in Japanese.

< Learning Objectives > Any genre of creative writing is acceptable, but students should determine the form of expression they create on the condition that they like to read works in that form. Students will also learn to understand literary works internally from the author's point of view, as a prerequisite for literary creation. Students will then challenge themselves to write original works and improve their language skills.

< Learning Activities Outside of the Classroom > I will give you instructions as necessary, but it is especially important that you write works to be submitted in the fall semester. Take time during the summer vacation to complete your work to your satisfaction. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

< Grading Criteria/Policy > Students will be evaluated based on the content of their creative work in seminar activities (60%), and their performance in class (40%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

ゼミナール20A

田中 和生

夜間時間帯

授業コード：A2653 | 曜日・時限：月6/Mon.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】

創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むのが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内部的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦し、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

小説についての研究発表を中心に進め、夏休み明けに提出する創作の準備を行います。できるだけ学生同士の自発的な議論に時間を使いますが、それを踏まえて授業の最後に教員からフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	役割分担と創作の計画。
第2回	世界の短篇を読む (1)	発表と質疑、リレー小説1。
第3回	世界の短篇を読む (2)	発表と質疑、リレー小説2。
第4回	世界の長篇を読む (1)	発表と質疑、リレー小説3。
第5回	世界の長篇を読む (2)	発表と質疑、リレー小説4。
第6回	世界の長篇を読む (3)	発表と質疑、リレー小説5。
第7回	世界の長篇を読む (4)	発表と質疑、リレー小説6。
第8回	世界の長篇を読む (5)	発表と質疑、リレー小説7。
第9回	世界の長篇を読む (6)	発表と質疑、リレー小説8。
第10回	世界の長篇を読む (7)	発表と質疑、リレー小説9。
第11回	世界の長篇を読む (8)	発表と質疑、リレー小説10。
第12回	世界の長篇を読む (9)	発表と質疑、リレー小説11。
第13回	世界の長篇を読む (10)	発表と質疑、リレー小説12。
第14回	世界の長篇を読む (11)	発表と質疑、リレー小説13。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに夏期休暇中の課題創作が重要です。春学期からじっくり書き方や内容を準備して取り組んでもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

ゼミナールでの発表（6割）と授業への積極的な参加姿勢（4割）によって、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思っています。

【その他の重要事項】

文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして創作について指導します。

【Outline (in English)】

< Course Outline > Choose the form of expression that suits you for creative writing in Japanese.

< Learning Objectives > Any genre of creative writing is acceptable, but students should determine the form of expression they create on the condition that they like to read works in that form. Students will also learn to understand literary works internally from the author's point of view, as a prerequisite for literary creation. The students will then improve their language skills by challenging themselves to write original works, not only through imitation.

< Learning Activities Outside of the Classroom > I will give you instructions as necessary, but it is especially important that you write during the summer vacation. Take time to prepare, and work on your writing style and content from the spring semester. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

< Grading Criteria/Policy > Students will be evaluated based on their presentations (60%), and their performance in class (40%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

ゼミナール20B

田中 和生

夜間時間帯

授業コード：A2654 | 曜日・時限：月6/Mon.6

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】

創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むのが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内部的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦し、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

夏休み明けに創作を提出し、その作品について合評を行います。できるだけ学生同士の自発的な議論に時間を使いますが、それを踏まえて授業の最後に教員からフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	校正について	課題提出と授業計画。
第2回	ゼミ誌について	リレー小説の校正。
第3回	創作合評（1）	合評と作者質疑。
第4回	創作合評（2）	合評と作者質疑。
第5回	創作合評（3）	合評と作者質疑。
第6回	創作について	創作についての考察。
第7回	創作合評（4）	合評と作者質疑。
第8回	創作合評（5）	合評と作者質疑。
第9回	創作合評（6）	合評と作者質疑。
第10回	文学を探せ！	文学的なものの調査。
第11回	創作合評（7）	合評と作者質疑。
第12回	創作合評（8）	合評と作者質疑。
第13回	創作合評（9）	合評と作者質疑。
第14回	創作合評（10）	合評と作者質疑。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに秋学期に提出する課題創作が重要です。夏休み明け中にじっくり納得のいくものを仕上げてもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

ゼミナールでの創作（6割）と授業への積極的な参加姿勢（4割）によって、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

【その他の重要事項】

文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして創作について指導します。

【Outline (in English)】

< Course Outline > Choose the form of expression that suits you for creative writing in Japanese.

< Learning Objectives > Any genre of creative writing is acceptable, but students should determine the form of expression they create on the condition that they like to read works in that form. Students will also learn to understand literary works internally from the author's point of view, as a prerequisite for literary creation. Students will then challenge themselves to write original works and improve their language skills.

< Learning Activities Outside of the Classroom > I will give you instructions as necessary, but it is especially important that you write works to be submitted in the fall semester. Take time during the summer vacation to complete your work to your satisfaction. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

< Grading Criteria/Policy > Students will be evaluated based on their creative work (60%), and their performance in class (40%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

ゼミナール21A

山口 和人

授業コード：A2655 | 曜日・時限：月6/Mon.6
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説の書き方について学びます。誰でも、これは傑作！という“会心の作”を書いてみたいですね。しかしアウトプットの前にはインプットが必要です。春学期では同時代作家（大江健三郎、村上春樹、小川洋子、角田光代、多和田葉子、堀江敏幸、川上未映子、村田沙耶香、東野圭吾、西尾維新ほか多数）の短篇小説を講読します。優れた作品に触れることは何よりインスピレーションを与えてくれます。グラスの水があふれるくらい、自分も書きたくて堪らなくなるくらい、多くの作品に触れましょう。絵画でも音楽でも、スポーツでもダンスでも、最初は憧れとマネから始まります。同時に毎回、創作の具体的ヒントについて解説します。テーマ、プロット（ストーリー）、構造、タイトル、書き出し、登場人物、セッティング、場面、描写、会話、文体、視点、推敲などについて実践的なコツを示します。また夏休み期間を利用してゼミ誌を制作します。このゼミ誌は秋学期のテキストになります。文芸編集者として培った目を生かしながら、これを皆さんと一緒に合評し、気づきを通して小説の楽しさ、奥深さを探求します。※本ゼミは原則として2年連続で受講されることを想定しています。したがって、「創作のヒント」については、本年度（1年目）はテーマ、プロット（ストーリー）、小説構造、書き出し、登場人物、場所（セッティング・トボス、場面（シーン）、描写、会話、文体、視点、推敲などに焦点を当てますが、次年度（2年目）はアナロジー、喩え（直喩・暗喩・メタファー）、伏線、小道具、声（ヴォイス）、引用、語り方（ナラティブ）、タイトル、校正、社会・歴史・哲学的事象（大きな問題）への接続、風俗への接続、エンジンとしての”謎・ミステリー”、どうしても書きあぐねた場合、既存小説構造の解体・脱臼などを取り上げたいと思います。つまり1年目と2年目で扱う項目を別立てにして交互に論じます。

【到達目標】

- ・ひとつの小説作品を書けるようになる。
- ・小説作品を多面的・批評的に読解できるようになる。
- ・自分の創作作品を読者の目で客観的に批評できるようになる。
- ・正確で豊かな文章表現力が身に着く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式ゆえ積極的なクラス参加・貢献が必要です。楽しく温かい雰囲気の中で、自由闊達な議論ができるゼミを目指します。春学期では既存の有名作家の作品を読みます。夏休み開始直後には創作を提出していただき、夏休み中にゼミ誌を制作します。秋学期ではこのゼミ誌を使って自分たちの作品を合評します。授業中、課題として提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション & オリエンテーション および自己紹介	ゼミ概要、講読テキスト指定と作品 批評発表の割り当て
第2回	現代日本の小説読解・批評その1	名作短篇小説を合評。創作のヒント ①優れた小説とは？
第3回	現代日本の小説読解・批評その2	名作短篇小説を合評。創作のヒント ②テーマ
第4回	現代日本の小説読解・批評その3	名作短篇小説を合評。創作のヒント ③プロット（ストーリー）
第5回	現代日本の小説読解・批評その4	名作短篇小説を合評。創作のヒント ④小説構造
第6回	現代日本の小説読解・批評その5	名作短篇小説を合評。創作のヒント ⑤書き出し
第7回	現代日本の小説読解・批評その6	名作短篇小説を合評。創作のヒント ⑥登場人物（キャラクター）
第8回	現代日本の小説読解・批評その7	名作短篇小説を合評。創作のヒント ⑦場所（セッティング・トボス）
第9回	現代日本の小説読解・批評その8	名作短篇小説を合評。創作のヒント ⑧場面（シーン）
第10回	現代日本の小説読解・批評その9	名作短篇小説を合評。創作のヒント ⑨描写
第11回	現代日本の小説読解・批評その10	名作短篇小説を合評。創作のヒント ⑩会話

第12回	現代日本の小説読解・批評その11	名作短篇小説を合評。創作のヒント ⑪文体
第13回	現代日本の小説読解・批評その12	名作短篇小説を合評。創作のヒント ⑫視点
第14回	現代日本の小説読解・批評その13	名作短篇小説を合評。創作のヒント ⑬推敲 ※創作のヒントの各項目扱い順は変動します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎週論じる課題短篇小説の読了と予めの考察。
- ・リアクションペーパー執筆と事前提出。
- ・創作作品執筆とゼミ誌制作。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時指定、あるいは配布します。

【参考書】

特にありませんが、できるかぎり多くの文学作品、映画、コミック、美術、音楽等の芸術表現に親しむようにしましょう。

【成績評価の方法と基準】

- ・クラス参加への積極性・貢献度50%、提出創作作品の評価50%
- ・正当な理由（体調不良・就活・公式部活動等）がない場合、および欠席する（した）旨の教官への連絡がない場合の欠席は減点の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの意見、感想等のフィードバックは常時大歓迎です。ゼミの進め方に生かしますので、ご遠慮なくお聞かせください。

【学生が準備すべき機器他】

Wordを搭載したPCを使用できる環境にあること。

【その他の重要事項】

【プロフィール】

講読社・文芸出版部および「群像」にて永年にわたり編集に携わる。この間、赤坂真理、阿部和重、新井満、伊藤比呂美、絲山秋子、大江健三郎、小川洋子、奥泉光、加賀乙彦、角田光代、鹿嶋田真希、倉橋由美子、小島信夫、佐伯一麦、鷲沢満、庄野潤三、諏訪哲史、高橋源一郎、高橋たか子、多和田葉子、津島佑子、中沢けい、平野啓一郎、藤野千夜、星野智幸、村上龍、村田沙耶香、室井光広、山田詠美、吉村昭各氏等多くの作家を担当。特に大江健三郎氏担当は28年に及ぶ。同時に海外翻訳小説の紹介にも力を入れ、J.K. ローリングの小説ほか、欧米の話題作、ベストセラー多数を編集・刊行。上智大学卒、マサチューセッツ大学大学院英米文学専攻修士課程修了、ペンシルヴェニア州立大学大学院比較文学専攻博士課程中退。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We will learn how to write a short story in this creative writing course. I am sure that everybody hopes to write a “masterpiece.” However, we need “input” before “output.” In the spring semester, we will read short stories by contemporary writers. Reading excellent stories will inspire our creativity. Let's read as many stories as possible, until you cannot wait to start writing something yourself, until water flows over the rim of a glass. In other fields such as painting, music, sports, and dance, they also start with admiration and imitation. In every class, I will explain some practical writing tips: theme, plot, structure, beginning, character, setting, scene, showing/telling, conversation, style, point of view, and elaboration.

Students will edit and make a small literary magazine consisting of their own short stories during the summer break and we will use it as a textbook in the fall semester.

【Learning Objectives】

- ・ Students will be able to write a novel.
- ・ Students will be able to read novels in a multifaceted and critical manner.
- ・ Students will be able to objectively critique their creations through the eyes of readers.
- ・ Students will acquire accurate and rich writing expression.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria / Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Creative works: 50%, in class contribution: 50%

LIT300BC (文学 / Literature 300)

ゼミナール21B

山口 和人

授業コード：A2656 | 曜日・時限：月6/Mon.6
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説の書き方について学びます。誰でも、これは傑作！という“会心の作”を書いてみたいですね。しかしアウトプットの前にはインプットが必要です。春学期では同時代作家（大江健三郎、村上春樹、小川洋子、角田光代、多和田葉子、堀江敏幸、川上未映子、村田沙耶香、東野圭吾、西尾維新ほか多数）の短篇小説を講読します。優れた作品に触れることは何よりインスピレーションを与えてくれます。グラスの水があふれるくらい、自分も書きたくて堪らなくなるくらい、多くの作品に触れましょう。絵画でも音楽でも、スポーツでもダンスでも、最初は憧れとマネから始まります。同時に毎回、創作の具体的ヒントについて解説します。テーマ、プロット（ストーリー）、構造、タイトル、書き出し、登場人物、セッティング、場面、描写、会話、文体、視点、推敲などについて実践的なコツを示します。また夏休み期間を利用してゼミ誌を制作します。このゼミ誌は秋学期のテキストになります。文芸編集者として培った目を生かしながら、これを皆さんと一緒に合評し、気づきを通して小説の楽しさ、奥深さを探求します。※本ゼミは原則として2年連続で受講されることを想定しています。したがって、「創作のヒント」については、本年度（1年目）はテーマ、プロット（ストーリー）、小説構造、書き出し、登場人物、場所（セッティング・トボス、場面（シーン）、描写、会話、文体、視点、推敲などに焦点を当てますが、次年度（2年目）はアナロジー、喩え（直喩・暗喩・メタファー）、伏線、小道具、声（ヴォイス）、引用、語り方（ナラティブ）、タイトル、校正、社会・歴史・哲学的事象（大きな問題）への接続、風俗への接続、エンジンとしての”謎・ミステリー”、どうしても書きあぐねた場合、既存小説構造の解体・脱臼などを取り上げたいと思います。つまり1年目と2年目で扱う項目を別立てにして交互に論じます。

【到達目標】

- ・ひとつの小説作品を書けるようになる。
- ・小説作品を多面的・批評的に読解できるようになる。
- ・自分の創作作品を読者の目で客観的に批評できるようになる。
- ・正確で豊かな文章表現力が身に着く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式ゆえ積極的なクラス参加・貢献が必要です。楽しく温かい雰囲気の中で、自由闊達な議論ができるゼミを目指します。春学期では既存の有名作家の作品を読みます。夏休み開始直後には創作を提出していただき、夏休み中にゼミ誌を制作します。秋学期ではこのゼミ誌を使って自分たちの作品を合評します。授業中、課題として提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション & オリエンテーション	ゼミ誌の配布。 毎回、批評をリアクションペーパーとして提出しましょう。
第2回	ゼミ生創作作品の合評・相互鑑賞	以降毎回、春学期で学んだ下記のポイント（創作のヒント）に着目して作品を読んでみましょう。
第3回	ゼミ生創作作品の合評・相互鑑賞	主要着目点：テーマ（以下順不同）
第4回	ゼミ生創作作品の合評・相互鑑賞	主要着目点：プロット（ストーリー）
第5回	ゼミ生創作作品の合評・相互鑑賞	主要着目点：小説構造
第6回	ゼミ生創作作品の合評・相互鑑賞	主要着目点：書き出し
第7回	ゼミ生創作作品の合評・相互鑑賞	主要着目点：登場人物（キャラクター）
第8回	ゼミ生創作作品の合評・相互鑑賞	主要着目点：場所（セッティング・トボス）
第9回	ゼミ生創作作品の合評・相互鑑賞	主要着目点：場面（シーン）
第10回	ゼミ生創作作品の合評・相互鑑賞	主要着目点：描写
第11回	ゼミ生創作作品の合評・相互鑑賞	主要着目点：会話

第12回	ゼミ生創作作品の合評・相互鑑賞	主要着目点：文体
第13回	ゼミ生創作作品の合評・相互鑑賞	主要着目点：視点
第14回	ゼミ生創作作品の合評・相互鑑賞	主要着目点：推敲・校正

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎週論じる課題短篇小説の読了と予めの考察。
- ・リアクションペーパー執筆と事前提出。
- ・創作作品執筆とゼミ誌制作。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時指定、あるいは配布します。

【参考書】

特にありませんが、できるかぎり多くの文学作品、映画、コミック、美術、音楽等の芸術表現に親しむようにしましょう。

【成績評価の方法と基準】

- ・クラス参加への積極性・貢献度50％、提出創作作品の評価50％
- ・正当な理由（体調不良・就活・公式部活動等）がない場合、および欠席する（した）旨の教官への連絡がない場合の欠席は減点の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの意見、感想等のフィードバックは常時大歓迎です。ゼミの進め方に生かしますので、ご遠慮なくお聞かせください。

【学生が準備すべき機器他】

Wordを搭載したPCを使用できる環境にあること。

【その他の重要事項】

【プロフィール】

講談社・文芸出版部および「群像」にて永年にわたり編集に携わる。この間、赤坂真理、阿部和重、新井満、伊藤比呂美、絲山秋子、大江健三郎、小川洋子、奥泉光、加賀乙彦、角田光代、鹿嶋田真希、倉橋由美子、小島信夫、佐伯一麦、鷺沢萌、庄野潤三、諏訪哲史、高橋源一郎、高橋たか子、多和田葉子、津島佑子、中沢けい、平野啓一郎、藤野千夜、星野智幸、村上龍、村田沙耶香、室井光広、山田詠美、吉村昭各氏等多くの作家を担当。特に大江健三郎氏担当は28年に及ぶ。同時に海外翻訳小説の紹介にも力を入れ、J.K. ローリングの小説ほか、欧米の話題作、ベストセラー多数を編集・刊行。上智大学卒、マサチューセッツ大学大学院英米文学専攻修士課程修了、ペンシルヴェニア州立大学大学院比較文学専攻博士課程中退。

【Outline (in English)】

We will learn how to write a short story in this creative writing course. I am sure that everybody hopes to write a “masterpiece.” However, we need “input” before “output.” In the spring semester, we will read short stories by contemporary writers. Reading excellent stories will inspire our creativity. Let’s read as many stories as possible, until you cannot wait to start writing something yourself, until water flows over the rim of a glass. In other fields such as painting, music, sports, and dance, they also start with admiration and imitation. In every class, I will explain some practical writing tips: theme, plot, structure, beginning, character, setting, scene, showing/telling, conversation, style, point of view, and elaboration.

Students will edit and make a small literary magazine consisting of their own short stories during the summer break and we will use it as a textbook in the fall semester.

【Learning Objectives】

- ・ Students will be able to write a novel.
- ・ Students will be able to read novels in a multifaceted and critical manner.
- ・ Students will be able to objectively critique their creations through the eyes of readers.
- ・ Students will acquire accurate and rich writing expression.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Creative works: 50%, in class contribution: 50%

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（１）上代A

森 陽香

授業コード：A2657 | 曜日・時限：木4/Thu.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現存する日本最古の書物である『古事記』の、上巻部分（神話）を講読します。『古事記』はもちろん過去の作品ですが、現代の私たちの生活や感情と照らしあわせ、また民俗学的な視点も取り入れながら読むことで、日本人が伝統的に保持してきた神話的な思考法を探ってゆくことを目指します。

【到達目標】

（１）まず、上代文学全体および『古事記』の概要と、『古事記』神話の全体的な内容について、正確な知識を得ることが、第一段階の目標になります。
（２）そのうえで、古代の日本人たちが、実生活のなかのどのようなところに目を向けて神話を観想し組み立てていったのか、日本人の神話的な思考方法の特徴を明らかにすることが、第二段階の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎時間資料を配布し、教員が中心となって『古事記』神話をはじめから順番に読み進めていく、講義形式の授業です。民俗学的な視点を取り入れるために、必要に応じて、DVDなどを視聴することもあります。半期の授業の間に、5回、リアクションペーパーの提出を求めるとともに、期末にはレポートを課します（大学の学習支援システムを使用します）。提出されたリアクションペーパーに対しては、全体の講評は授業の中で行い、個別の質問には個別に返信します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要と『古事記』概説	授業全体の進め方などの確認と、『古事記』の概要を学びます。
第2回	天地初発（世界の始まり）の神話	『古事記』冒頭、イザナキ・イザナミの誕生以前を読みます。
第3回	イザナキ・イザナミの結婚	イザナキ・イザナミの国生み・神生み神話を読み進めます。
第4回	黄泉の国の神話	イザナキが、死んだイザナミを追いかけていった、死後の世界である「黄泉の国」場面を講読します。
第5回	アマテラス・ツクヨミ・スサノヲの誕生	イザナキにとって最も貴い存在とされた三神の誕生場面を取り上げます。
第6回	スサノヲとアマテラスと	スサノヲが心の清らかさを証明する「うけい」という場面を読みます。
第7回	天の石屋	『古事記』神話の中でもとても有名な場面を、丁寧に確認します。
第8回	ヤマタノヲロチ退治	スサノヲが地上でヲロチを退治し結婚する場面を講読します。
第9回	オホアナムチの冒険	オホクニヌシ（オホアナムチ）がシロウサギを助ける場面などを読みます。
第10回	葦原中国と高天原と	国譲りを求める天の神々とオホクニヌシとの関係を確認します。
第11回	オホクニヌシの国譲りと天孫降臨	『古事記』神話全体の中で、一つの大きな山場の場面です。
第12回	ニニギノミコトの結婚	降臨してきたニニギノミコトが山の神様の娘と結婚し、子が誕生する場面を読みます。
第13回	ワタツミの宮訪問	誕生した子が、今度は海の神様の娘と結婚する様子を確認します。
第14回	まとめとレポート提出	神話を発想しようとする、日本人の心のありかたを考察し、まとめとします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を事前に読んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント教材を配布しますので、必ず購入しなければならない教科書はありません。

【参考書】

参考文献は、授業内で適宜指示します。（参考までに、現代の『古事記』研究で一般的に使われているテキストとしては、小学館の、新編日本古典文学全集『古事記』などがあります）

【成績評価の方法と基準】

・授業内で実施するリアクションペーパーは、1回10点配点×5回で、50%配点です。主に、到達目標に記した（１）の項目の達成度を判定します。
・期末レポートは50%配点で、到達目標の（２）項目の達成度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

リアクションペーパーや期末レポートは学習支援システムを経由して提出します。

【Outline (in English)】

In this course, we will study the literature of the Nara period, especially the myth of the Kojiki.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
(1) First, the goal of the first stage is to gain accurate knowledge about the outline of the Kojiki and the overall content of the Kojiki myths.
(2) After that, the goal of the second stage is to clarify the characteristics of the Japanese mythical way of thinking.
Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 50%、Short reports:50%.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（１）上代Ｂ

森 陽香

授業コード：A2658 | 曜日・時限：木4/Thu.4
秋学期授業/Fall・２単位 | 配当年次：１～４年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現存する日本最古の和歌集である『万葉集』は、4500首を超える歌を取載しています。そのすべてを読むことはもちろんできませんが、およそ、古い歌から新しい歌へ、という順序を立てて、有名な歌を取り上げ、歌という文学をととして個の自覚が成長してゆく過程を学びたいと思います。必要に応じて、『古事記』『日本書紀』の歌謡も取り上げます。

【到達目標】

（１）まず、『万葉集』の概要、有名な歌人と作品、といった基礎的な知識を身に付けることを目指します。また、その正確な知識をもとに、自由に作品を鑑賞する能力も養います。
（２）そのうえで、歌という文学をととしてゆたかな個性や人間性が発揮されてゆく様子を見つめることで、文学を学ぶ意義について、自分なりの考えを持つことが最終目標になります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎時間資料を配布し、教員が中心となって『万葉集』の歌を読み進めてゆく、講義形式の授業です。民俗学的な視点を取り入れたり、歌を鑑賞する能力を養うために、必要に応じて、DVDなどを視聴することもあります。半期の授業の間に、５回、リアクションペーパーの提出を求めるとともに、期末にはレポートを課します（大学の学習支援システムを使用します）。提出されたリアクションペーパーに対しては、全体の講評は授業の中で行い、個別の質問には個別に返信します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要と、『万葉集』の概説	授業の進め方などの説明と、『万葉集』の基礎知識を確認します。
第2回	文字の歴史、『万葉集』の文字表記	ひらがな・かたかなの無かった時代の、表記の工夫を味わいます。
第3回	『万葉集』の歌１ 伝承期	『万葉集』の中でも、もっとも古い（とされている）歌を読みます。
第4回	『万葉集』の歌２	いわゆる「第一期」に位置づけられている作品群の中から、いくつかの歌を取り上げます。
第5回	『万葉集』の歌３	いわゆる「第二期」に位置づけられている作品群の中から、いくつかの歌を取り上げます。
第6回	『万葉集』の歌４	いわゆる「第三期」に位置づけられている作品群の中から、いくつかの歌を取り上げます。
第7回	『万葉集』の歌５	いわゆる「第四期」に位置づけられている作品群の中から、とくに大伴家持の歌を取り上げます。
第8回	『万葉集』の歌６	いわゆる「第四期」に位置づけられている作品群の中から、とくに防人たちの歌を取り上げます。
第9回	『万葉集』の歌７	『万葉集』の中でも、特に変わった歌が集められている、巻十六を読みます。
第10回	『万葉集』と記紀歌謡１	植物の「葦」に注目して、その表現史を学びます。今回は主に『万葉集』を材料にします。
第11回	『万葉集』と記紀歌謡２	植物の「葦」に注目して、その表現史を学びます。今回は主に『古事記』『日本書紀』歌謡を材料にします。
第12回	『万葉集』と記紀歌謡３	景色を読むということについて考えます。
第13回	『万葉集』と記紀歌謡４	新年の歌を取り上げ、文学伝承の機会について考察します。
第14回	まとめとレポート提出	『万葉集』を、そして文学を学ぶ意義について、あらためて考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を事前に読んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント教材を配布しますので、必ず購入しなければならない教科書はありません。

【参考書】

参考文献は、授業内で適宜指示します。（参考までに、現代の『万葉集』研究で一般的に使われているテキストとしては、小学館の、新編日本古典文学全集『万葉集』などがあります）

【成績評価の方法と基準】

・授業内で実施するリアクションペーパーは、１回１０点配点×５回で、５０％配点です。主に、到達目標に記した（１）の項目の達成度を判定します。
・期末レポートは５０％配点で、到達目標の（２）項目の達成度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

リアクションペーパーや期末レポートは学習支援システムを経由して提出します。

【Outline (in English)】

In this course, we will study the literature of the Nara period, especially Man-yo-shu.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
(1) First, the aim is to acquire basic knowledge of the Man-yo-shu. Based on this accurate knowledge, students will also develop the ability to freely appreciate works of art.
(2) After that, The ultimate goal is to develop your own ideas about the significance of studying literature.
Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 50%、Short reports:50%.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講 (1) 上代C

萩野 了子

夜間時間帯

授業コード：A2659 | 曜日・時限：金4/Fri.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

『万葉集』の和歌をテーマごとに読み進める。時代背景、文字表記などを確認しつつ、『万葉集』の和歌表現、延いては古代の人々の世界観に対する理解を深める。

【到達目標】

『万葉集』に載る歌の、用語や文法について詳細に学び、当時の人々が和歌の表現にどのような工夫をしているのかを確認することで、歌の作者の心情に迫ることが出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。学習支援システムにアップする教材を見ながら学習する。毎回アクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業方針の説明
第2回	上代文学史 (1)	上代について
第3回	上代文学史 (2)	上代の散文について
第4回	上代文学史 (3)	万葉集の成立・概要について
第5回	上代文学史 (4)	万葉集の時代区分と作者について
第6回	葛飾真間手児名伝承を 読む (1)	「真間の手児名伝承」概説
第7回	葛飾真間手児名伝承を 読む (2)	高橋虫麻呂・山部赤人が描く手児名
第8回	葛飾真間手児名伝承を 読む (3)	井戸について
第9回	虫麻呂詠の考察 (1)	枕詞について
第10回	虫麻呂詠の考察 (2)	「行きかぐれ」について
第11回	東歌における手児名伝承	「言寄せ」について
第12回	赤人詠の考察 (1)	方言について
第13回	赤人詠の考察 (2)	東国の女性像について
第14回	試験・まとめと解説	論述試験の実施

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業後、学んだ内容を自分の中に定着させるべく、授業内容を復習しておく。配布資料内の古典の原文がしっかり解釈出来る状態にあるか確認すること。授業中紹介された「参考文献」を中心に、授業に関わる文献を適宜読みさらに理解を深める。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

学習支援システムで教材をアップするので、テキストを用意する必要はない。

【参考書】

授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席やリアクションペーパー等、授業への積極的な貢献度 (40%) と、定期試験結果 (60%) によって総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

授業後、もしくはリアクションペーパーで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course Outline】: In this course, we will read < waka > poems from < Man'yōshū > (Anthology of Myriad Leaves) sorted by theme. While confirming the historical background, methods of writing, etc., students will deepen their understanding of the < waka > expressions in < Man'yōshū > and the worldview of the ancient people.

【Learning Objectives】: By learning the terminology and grammar of the poems in the < Man'yōshū > in detail and confirming the ingenuity of the people of the time in composing and expressing < waka >, students will be able to approach the emotions of the authors of the poems.

【Learning Activities Outside of the Classroom】: After class, students should review the contents of the class in order to consolidate what they have learned in their own minds. Students should make sure that they are in a position to interpret the original classical texts in the handouts. Students are expected to deepen their understanding by reading the references introduced in class and other class-related literature as appropriate.

【Grading Criteria/Policy】: Grading will be based on the following: regular marks (40%); final exam (60%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（１）上代D

萩野 了子

夜間時間帯

授業コード：A2660 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『万葉集』の和歌をテーマごとに読み進める。『万葉集』で確認出来る伝承の歌を、他の文献と比較しながら学び、『万葉集』の和歌表現、延いては古代の人々の世界観に対する理解を深める。

【到達目標】

当時の人々の発想、感覚と、現代の我々のそれとの擦れを意識しながら読解を進めることで、『万葉集』の歌を正しく解釈する力がつくと同時に、固定観念に囚われることなく古典作品に向き合うことが出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。学習支援システムにアップする教材を見ながら学習する。毎回の授業でリアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方について
第2回	上代文学史（１）	上代について
第3回	上代文学史（２）	万葉集概説
第4回	上代文学史（３）	表記方法について
第5回	上代文学史（４）	平安文学との比較
第6回	浦島伝承を読む（１）	「浦島太郎」説話の矛盾
第7回	浦島伝承を読む（２）	日本書紀について
第8回	浦島伝承を読む（３）	丹後風土記について
第9回	浦島伝承を読む（４）	万葉集の浦島子
第10回	虫麻呂詠を考察する（１）	魚と亀について
第11回	虫麻呂詠を考察する（２）	悲惨な結末
第12回	浦島伝承の比較（１）	異界の位置
第13回	浦島伝承の比較（２）	箱の中身について
第14回	試験・まとめと解説	論述試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後、学んだ内容を自分の中に定着させるべく、授業内容を復習しておく。配布資料内の古典の原文がしっかり解釈出来る状態にあるか確認すること。授業中紹介された「参考文献」を中心に、授業に関わる文献を適宜読みさらに理解を深める。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで教材をアップするので、テキストを用意する必要はない。

【参考書】

授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席やリアクションペーパー等、授業への積極的な貢献度（40％）と、定期試験結果（60％）によって総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

授業後、もしくはリアクションペーパーで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course Outline】： In this course, we will read < waka > poems in the ancient collection < Man'yōshū > (Collection of a Myriad Leaves) according to theme, and appreciate their means of expression.

【Learning Objectives】： The aim of this course is to help students acquire and understanding of the ancients' view of the world. Students will develop the ability to interpret the poems of the < Man'yōshū > correctly, and, at the same time, learn how to approach classical works without being bound by stereotypes.

【Learning Activities Outside of the Classroom】： After class, students should review the contents of the class in order to consolidate what they have learned, confirming that they can interpret the original classical texts in the handouts. Students are expected to deepen their understanding by reading references introduced in class, as well as other class-related literature as appropriate.

【Grading Criteria/Policy】： regular marks (40%), final exam (60%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（2）中古A

栗山 元子

授業コード：A2661 | 曜日・時限：火5/Tue.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『源氏物語』の主人公・光源氏は、現代ではとく好色のイメージが先行し、批判的に捉えられることが多いようです。しかしそもそも物語の主人公とは常人と異なる美質を有していたり、当時の理想を具現化したような人物として描かれるべき存在であるはずで、光源氏の場合もまた、輝かしい魅力的な主人公としてまずは登場しているものと言ってよいでしょう。では、その光源氏の理想性とは一体どのような点に見受けられるのでしょうか。さらに光源氏の人物像への評価は時代により異なるところがあるのでしょうか。そして『源氏物語』成立以前の物語の主人公や以後の物語の主人公像とはどのような影響関係が見られるのでしょうか。この授業では、こういった光源氏の人物造型をめぐる謎についての考察を通じて、『源氏物語』および古典文学作品を読む力を深めていくことを目指します。

【到達目標】

- ①主人公の造型法を通じて、物語史の展開の様相についての学びを深めることができる。
- ②古典文学作品を読む際に必要な歴史的・文学的知識を修得することで、古典作品の読解力を高め、その魅力や意義について深く知ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・毎回講師の作成したプリントを配布し講義を行います。
- ・毎回授業内容についての理解度を計るために、授業内でのリアクションペーパーの提出を課します。
- ・リアクションペーパーに書かれた意見の紹介や質問への解答を通じてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業に関する説明と『源氏物語』についての基礎的な知識の確認	授業内容・方針・方法などについての説明を行い、『源氏物語』の概要についての講義を行います。
第2回	平安期の社会と女性	『源氏物語』を読むにあたって必要な知識である、平安期の社会における女性の地位や生き方、結婚などについて学んでいきます。
第3回	異常出生譚と光源氏の成長	光源氏の幼少期の描かれ方について見ていきます。
第4回	光源氏の容姿美	光源氏的美貌の意味、その持つ力について考えていきます。
第5回	光源氏の若紫君略奪について考える①	若紫巻での光源氏の若紫君略奪について考察していきます。
第6回	光源氏の若紫君略奪について考える②	若紫巻での光源氏の若紫君略奪について、継子いじめ譚との関わりから考察していきます。
第7回	『伊勢物語』の昔男像と光源氏	光源氏の造型における『伊勢物語』の影響について考えていきます。

第8回	光源氏と末摘花	没落した高貴な女性と光源氏との関わりから、源氏の理想性について考えていきます。
第9回	光源氏の准掎	光源氏像造型に影響を与えていると考えられる人物を紹介し、その意味を考察していきます。
第10回	光源氏像の変化	第一部と第二部における光源氏像の変化について考察していきます。
第11回	光源氏の晩年の描かれ方／後期物語の主人公像への影響について	光源氏の晩年の姿がどのように描かれているかを見ていきます。また『源氏物語』以後の物語の男主人公像には光源氏像の影響はあるのかということについて見ていきます。
第12回	光源氏に対する後世の評価①	光源氏という主人公に対し、後世はどのような評価をしていたのかについて見ていきます。
第13回	光源氏に対する後世の評価②	主に近現代を中心に、光源氏という主人公に対し、どのような評価がなされてきたかを見ていきます。
第14回	授業のまとめと試験	授業のまとめと理解度の確認のためのテストを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習としては問題意識をもって授業に臨めるように参考文献にあげた図書などを各自読んで自習をしてください。授業後には授業内容を振り返って整理し、要点の把握に努め、自分で関連論文などにあたって学びを深めてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講師作成の資料を作成します。

【参考書】

中野幸一編『新装版 常用 源氏物語要覧』（武蔵野書院 2012）、林田孝和他編集『源氏物語事典』（大和書房 2002）、高木和子『源氏物語を読む』（岩波新書 2021）、岩波文庫『源氏物語』（1～9）、小学館『新編日本古典文学全集 源氏物語』1～6など。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に課すリアクションペーパーに拠る評価が70%、授業内容の理解度を測る試験による評価が30%とします。評価のポイントは、課題への取り組み姿勢と授業内容の理解度の深浅に拠ります。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい講義を心がけたいと思います。なお授業に関しての質問や意見にはフィードバックとして次回の授業冒頭で対応をするようにします。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this class, we will learn various aspects of how the ideal nature of" Hikaru Genji, the protagonist of The Tale of Genji, is portrayed. By looking at the world of expression in "The Tale of Genji" through the existence of Hikaru Genji, this course aims to enhance students' ability to read classical literary works.**Learning Objectives:** The goals of this course is to get the knowledge necessary for understanding of Japanese classic literature.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class, students will be expected to have read the materials listed in the bibliography.After each class, students are expected to revise the class content, read the materials related to the lecture content.These tasks take four hours each week.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on 14 assignments (70%) and a examination (30%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（2）中古B

加藤 昌嘉

授業コード：A2662 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

◆この授業のテーマは、物語における《超自然現象》《怪奇事件》です。例えば、未来予言、生まれ変わり、テレパシー、天人降臨、霊、鬼、天狗、蛇、龍、生首、血など。

◆この授業では、中古（平安時代）の『今昔物語集』や『うつほ物語』などを読んでゆきます。さらに、中世（鎌倉～室町時代）・近世（江戸時代）のお伽草子や浄瑠璃や読本も取り挙げます。近現代の小説も取り挙げます。

◆説話集の編者は、《超常現象》を、独自の概念によって整理しています。フィクションの作者は、《超常現象》を、ストーリーを展開するための仕掛けとして使っています。それらを客観的に考察してゆきます。

【到達目標】

A、中古・中世の思想・宗教・世界観を知る。

B、フィクションの仕掛けを客観的に分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

●毎回、プリントを配布して講義を行います。

●受講者からの質問やアイデアは、授業内で紹介し、フィードバック（フォローアップ）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	『今昔物語集』	霊鬼
2	『今昔物語集』	僧と天狗
3	『今昔物語集』	狐、野猪
4	『日本霊異記』『沙石集』	雷、蛇
5	『栄花物語』『紫式部集』など	物の気、怨霊
6	『源氏物語』『マクベス』	未来を予言する
7	『うつほ物語』	音楽で天が感応
8	『狭衣物語』『夜の寝覚』	天人降臨、神託
9	『浜松中納言物語』	愛する人が転生
10	古代の信仰・習俗	夢、鏡、虹
11	お伽草子『天稚彦草子』など	蛇、龍、七夕
12	『阿弥陀胸割』『妹背山婦女庭訓』	生肝、鹿の血
13	上田秋成『春雨物語』	笑う首、乾かぬ血
14	泉鏡花『紫障子』など	基石を飲む、魚が降る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

●授業で取り上げられた本のうち、面白そうだったものを、書店や図書館で入手して、（部分的でもよいので）読んでみることを。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

●毎回、プリントを配布します。

【参考書】

▼各回のプリントで、入門書・解説書を紹介します。

▼この授業に関連する解説書を2つだけ挙げておきます。

◎森正人『今昔物語集の怪異を読む』（勉誠社、2023年）

◎小山聡子『もののけの日本史』（中公新書、2020年）

▼以下の事典は、世界の様々な物語のモチーフ・アイテムを整理していて、たいへん有益です。

◎神山重彦『物語要素事典』（国書刊行会、2024年）

▼古典文学の原文＋現代語訳＋注釈は、以下のシリーズに収録されています。レポートを書く際に使ってください。

◎新編日本古典文学全集（小学館）

◎新潮日本古典集成（新潮社）

◎新日本古典文学大系（岩波書店）

◎岩波文庫（岩波書店）

◎角川ソフィア文庫（KADOKAWA）

◎講談社学術文庫（講談社）

【成績評価の方法と基準】

●期末レポート（72％）、各回のリアクションペーパー（28％）。

※期末レポートは、複数のテーマの中から1つを選択し、2000～3000字程度の小論文を書くものです。

※毎回、リアクションペーパー（コメントカード）に、疑問やアイデアなどを書いて提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

●上記【授業計画】は、予定に過ぎません。受講者から出された疑問やアイデアなどをもとに、臨機応変に、授業内容を膨らませてゆきます。

●比較として、海外の文学や、現代のドラマ・マンガなどにも言及します。

【Outline (in English)】

Course Outline: ◆The theme of this class is “Supernatural Phenomena” and “Mysterious Incidents” in stories. For example, prophecy of the future, reincarnation, telepathy, descent from heaven, spirits, demons, dragons, fresh heads, blood, etc.

◆In this class, we will read *Konjaku Monogatari-shu* and *Utsuho Monogatari* from the Heian period. In addition, fictions from the Kamakura - Muromachi period, Edo period, and Meiji period will also be discussed.

◆Story editors organize the paranormal into their own concepts. The author of the fiction uses the paranormal as a device to develop the story. We need to consider them objectively.

Learning Objectives: The goals of the course are the following two points:

- To learn about the culture and thought of the Heian - Muromachi period.

- To develop the ability to objectively analyze how stories are made.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to read the books introduced in class. Preparation and review time will be 2 hours for each class.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on a final report (72%), and reaction papers for each session (28%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講 (3) 中世A

阿部 真弓

授業コード：A2665 | 曜日・時限：火2/Tue.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代の日本において最も身近でありながら、今なお謎の多い歌集『百人一首』をとりあげ、成立の問題を解説した後、代表的和歌について講義します。今年度は天皇・上皇の和歌を取り上げ、各歌の解釈のほか、当該歌をめぐる問題や『百人一首』の古注釈ではどのように解釈されているか等について解説します。そして、この歌集が和歌史、文化史にどのように位置づけられるか考察を試みます。

【到達目標】

- ①和歌の表現に関する知識を身につける。
- ②古典和歌を解釈する力を養う。
- ③和歌史に関する基本的な知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義形式で行います。授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

和歌の解釈にあたっては、現代の注釈書のほか、適宜、歌学書や古注釈を参照しながら、解説します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画の説明など
第2回	『百人一首』の謎	成立の問題について
第3回	『百人一首』の謎	二条派歌人の動向
第4回	『百人一首』古注釈	中世・近世の古注釈について
第5回	『百人一首』講読	天智天皇「秋の田の」歌 (1) 解説
第6回	『百人一首』講読	天智天皇「秋の田の」歌 (1) 古注釈
第7回	『百人一首』講読	持統天皇「春さぎて」歌 (2) 解説
第8回	『百人一首』講読	持統天皇「春さぎて」歌 (2) 古注釈
第9回	『百人一首』講読	後鳥羽院「人もをし」歌 (99) 解説
第10回	『百人一首』講読	藤原定家と後鳥羽院の関係
第11回	『百人一首』講読	後鳥羽院「人もをし」歌 (99) 古注釈
第12回	『百人一首』解説	順徳院「もしきや」歌 (100) 解説
第13回	『百人一首』解説	順徳院「もしきや」歌 (100) 古注釈
第14回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内容をしっかり復習し、理解した上で、次の授業に臨みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

・講談社学術文庫『百人一首』(有吉保、講談社、1983年)
 ・角川ソフィア文庫『新版 百人一首』(島津忠夫、KADOKAWA、1999年)
 ・角川ソフィア文庫『ビギナーズ・クラシックス 日本の古典 百人一首 (全)』(谷知子、KADOKAWA、2010年)
 その他の参考書については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート (70%)、平常点 (30%) によって評価します。レポートは【授業の到達目標】①～③に照らして採点します。また平常点については、毎回、学習支援システムに提出された課題によって授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライドのプリントアウトにノートを取ってもらう形を、今年度も継続します。また、双方向授業を目指していきます。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the waka anthology *Hyakunin Isshu* (one hundred waka poems by one hundred poets).

Learning Objectives: The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of Japanese classical literature and waka poetry.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（3）中世B

阿部 真弓

授業コード：A2666 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目では中世日記文学『とはずがたり』を取りあげます。作者は後深草院に仕えた二条という女性です。若く美しい作者は後深草院の寵愛を受けることになりますが、それが彼女の苦悩の始まりでした。

この作品には、両統迭立期の院御所の有様がつぶさに記され、後深草院と亀山院の対立関係、公卿たちの動向、そしてそうした場で繰り広げられる男女の愛憎劇が描写されており、きわめて複雑な作品構造をしています。混沌とした中で一つの軸として見えてくるのは作者自身と後深草院の関係性という問題です。

当授業では、作者が後深草院をどのように描写しているか、院と自分との関係をどのように認識し表現しているのかに注目しながら、読解を進めます。表現・人物造型の方法、政治的動向を描く際の手法等を分析しながら、日記文学の特質や面白さ、また文学史的位置づけについて考察していきます。

【到達目標】

- ①日記文学に関する基本的な知識を習得する。
- ②中世の歴史的文化的背景を理解した上で作品を解釈する。
- ③和歌や物語の享受の様相を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義形式で行います。学習支援システムにアップロードされた質問やコメントに、できるかぎり回答していきます。授業を進めます。また状況に応じてクリッカーを用い、理解度を確認したり、アンケートをとったりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画の説明など
第2回	『とはずがたり』概説	作品の概要、研究史など
第3回	『とはずがたり』巻一	後深草院との新枕
第4回	『とはずがたり』巻一	後深草院と「雪の曙」
第5回	『とはずがたり』巻一	東二条院へのとりなし
第6回	『とはずがたり』巻二	粥杖事件
第7回	『とはずがたり』巻二	「有明の月」との関係
第8回	『とはずがたり』巻二	六条院の女楽事件
第9回	『とはずがたり』巻三	「有明の月」への仲介
第10回	『とはずがたり』巻三	院御所からの追放
第11回	『とはずがたり』巻四	伏見での邂逅
第12回	『とはずがたり』巻五	熊野での夢想
第13回	『とはずがたり』巻五	後深草院の葬送
第14回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内容を復習し、理解した上で、次の授業に臨むようにしてください。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

参考文献は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート（70%）、平常点（30%）によって評価します。レポートは【到達目標】①～③に照らして採点します。また平常点については、学習支援システムに毎回提出してもらう課題によって、授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

現代語訳付きプリントを配布する等、古典文学に苦手意識がある人にも理解しやすい、また復習しやすい教材作りに努めます。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with *The Confessions of Lady Nijō* (とはずがたり *Towazugatari*).

Learning Objectives: The goal of this course is to help students acquire an understanding of works of courtly literature of the Kamakura period.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (70%); short reports (30%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（４）近世A

小林 ふみ子

授業コード：A2669 | 曜日・時限：火2/Tue.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【近世文学と古典文学】

江戸時代には、出版文化を背景に中世までのさまざまな古典をふまえた作品が作られました。それら現代でいう二次創作の作品は、原作にたいして、ちやかしたり、オマージュを捧げたり、態度はさまざまですが、それぞれ原作を当世（現代）＝江戸時代化することで成りたっています。『源氏物語』『平家物語』をはじめ、さまざまな古典文学に親しみつつ、江戸時代の特徴を考える一挙両得の講義です。

【到達目標】

1. 江戸文芸に表れた近世の特徴を理解する。
2. 雅俗にわたり、擬古文と会話体が併存した江戸文芸の表現の多様性を知る。
3. デジタル公開されている江戸の文芸や浮世絵の資料の調査方法を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

2～3回で1ジャンルを学ぶ。
提供した授業資料と指定したデジタル公開資料などを読み解いてもらい、各ジャンルの特徴を知る。
100分を個人での課題への取り組み、グループ・ディスカッションでの共有、講義などを織りまぜて構成、作品の作り方を追体験してもらうべく、創作にも挑戦する。
発表に対しては授業内でフィードバックし、最終レポートはコメントを付けて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	江戸時代の特徴を知る。
第2回	パロディ文芸のはじまり①	江戸時代初期のパロディ文芸のなかから『吉原徒然草』を読む
第3回	パロディ文芸のはじまり②	『吉原徒然草』にならってパロディに挑戦する
第4回	近世的『源氏物語』としての『好色一代男』①	西鶴の『好色一代男』巻一～の設定から光源氏のやつしとしての世之介を考える
第5回	近世的『源氏物語』としての『好色一代男』②	『好色一代男』巻四～二形見の水櫛において『伊勢物語』『源氏物語』がどう活かされているかを考える
第6回	和歌ではなく狂歌で遊ぶ①	狂歌というジャンルと江戸狂歌について知る
第7回	和歌ではなく狂歌で遊ぶ②	歌麿描く江戸狂歌の名作『画本虫撰』を読んで創作にチャレンジする
第8回	和歌ではなく狂歌で遊ぶ③	狂歌とことば遊びの見立絵本『絵本見立仮響尽』を読み、創作にチャレンジする
第9回	『平家物語』のストーリーをちやかす-黄表紙①	「源平の戦いも面倒なので」打たれる真似をして茶番で済ませる!?という設定の恋川春町画作『万歳集著微来歴』前半をよむ
第10回	『平家物語』のストーリーをちやかす-黄表紙②	「万歳集著微来歴」後半を読む
第11回	『平家物語』を言葉でちやかす-滑稽本①	ことばの面白さを追求した式亭三馬が『平家物語』敦盛最期をちやかして遊んだ『大千世界楽屋探』を読む
第12回	『平家物語』を言葉でちやかす-滑稽本②	『大千世界楽屋探』を分析し、創作にチャレンジする
第13回	『源氏物語』を近世化する-合巻①	黄表紙の後継ジャンルである合巻について学び、『修紫田舎源氏』の大枠を知る
第14回	『源氏物語』を近世化する-合巻②	『修紫田舎源氏』の『源氏物語』夕顔巻に該当する部分の前半を読む
第15回	『源氏物語』を近世化する-合巻③	『修紫田舎源氏』の夕顔巻に該当する部分の後半を読む
まとめ		最後にこの時代の文芸の特質を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末の試験やレポートを課す代わりに、単元ごとに小課題を出します。

本授業の準備学習は30分・復習時間は平均して3時間程度を標準に考えます。

【テキスト（教科書）】

各回、資料提供し、参照すべきURLを提示します。

【参考書】

長島弘明編『〈奇〉と〈妙〉の江戸文学事典』（文学通信 2019）・小林ふみ子『へんちくりん江戸挿絵本』（集英社インターナショナル［インターナショナル新書］、2019）ほか

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクション・ペーパー（20％）、単元ごとの課題の得点（80％）を合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

口語体の多い江戸文芸ですが、現代語訳を確認しながら進めるようにします。講義と（予習も含めた）個人での読解作業とグループでの解説と全体の共有のよいバランスを模索したいと思います。グループは、一人で受講する学生も・友だちのいる学生にも公平になるように、できるだけ参加者の意欲の有無で左右されないように工夫したいと思います。そしてなにより、パロディ、妖怪・・・今日のサブカルチャーにも通じる江戸戯作の世界をご堪能ください！

【学生が準備すべき機器他】

デジタル資料の参照を推奨しますので、教室で参加する場合も（スマホでもいいのですが）、ノートパソコンまたはスマホより画面の大きなタブレットを用意すると便利です。図書館のデータベースのうちジャパナレッジは随時使えるようにしておきましょう。

【Outline (in English)】

Course Outline: Reading and analyzing literature from the Tokugawa period based on the canons such as the tale of Genji or the tale of Heike etc.

Learning Objectives: The main goal of this course is to learn the features of the works from the Tokugawa period compared with the canons from earlier times.

Learning Activities Outside of the Classroom: Preparation for 30 minutes and Review for **Course Outline:** Reading and analyzing literature from the Tokugawa period based on the canons such as the tale of Genji or the tale of Heike etc.

Learning Objectives: The main goal of this course is to learn the features of the works from the Tokugawa period compared with the canons from earlier times.

Learning Activities Outside of the Classroom: Preparation for 30 minutes, review for 2hours for each class. It will be about 4 hours, including the time for writing 4 short reports/semester.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (20%), short reports (80%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（４）近世Ｂ

齊藤 千恵

授業コード：A2670 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「忠臣蔵」とその周辺文化について学ぶ。
赤穂義士の討ち入り事件は広く世に知られ、早くから舞台化も行われた。なかでも大ヒットしたのは、『仮名手本忠臣蔵』である。人形浄瑠璃として作られ、すぐに歌舞伎化されたこの作品は、さまざまなジャンルの「忠臣蔵もの」作品を生み出す母体となった。その流れは今日まで続き、「忠臣蔵」を扱った小説、テレビドラマや映画なども多く作られている。本講義では、「忠臣蔵もの」作品が生まれる母体となった『仮名手本忠臣蔵』と、その派生的作品をいくつか採り上げ、忠臣蔵文化の拡がりを学ぶ。

【到達目標】

- ①人形浄瑠璃・歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」の特色を学び、日本人を魅了し続けた芸能について深く理解する。
- ②「仮名手本忠臣蔵」から派生した「忠臣蔵もの」の作品を分析できる。
- ③人形浄瑠璃・歌舞伎・浮世絵・近世小説・落語などに触れ、その楽しみ方、味わい方を身につける。
- ④現代にも通じる「忠臣蔵」文化の始原のあり様を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とし、質問・意見はリアクション・ペーパーを用いて募る。また、半年間で2回程度、小課題の提出を求める。リアクション・ペーパー及び小課題については、授業中にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入・時代背景	物語の生み出された土壌と、史実の赤穂事件について理解を深める。
第2回	人形浄瑠璃と歌舞伎	人形浄瑠璃と歌舞伎の芸能としての特性を理解し、『仮名手本忠臣蔵』が生み出されるまでの流れを知る。
第3回	「仮名手本忠臣蔵」①	判官の無念の死はどのように引き起こされたのか。『仮名手本忠臣蔵』に描かれた事件の真相に迫る。
第4回	「仮名手本忠臣蔵」②	勘平はどのようにして追い詰められ、早すぎた死を選ぶのか。運命に翻弄された男の悲劇を味わう。
第5回	「仮名手本忠臣蔵」③	遊興にふける由良之助の真意はどこにあるのか。それを悟った兄妹の動向を理解する。
第6回	「仮名手本忠臣蔵」④	大星家と加古川家の関係を考える。本蔵の死によってもたらされたものを知る。
第7回	「仮名手本忠臣蔵」⑤	敵討を支える登場人物たちの動きから、上演の問題点を把握する。
第8回	歌舞伎「東海道四谷怪談」①	作品の成り立ちと初演時の上演形態から、「忠臣蔵」との関わりを読み解く。
第9回	歌舞伎「東海道四谷怪談」②	鶴屋南北の表現手法と演出技法に触れ、作品の魅力に迫る。
第10回	「忠臣蔵もの」の浮世絵	「忠臣蔵」を描いたさまざまな浮世絵に触れ、その面白さを知る。
第11回	「忠臣蔵もの」の草双紙	「忠臣蔵」のパロディ絵本を読み解く。
第12回	「忠臣蔵もの」の舌耕文芸	落語「中村仲蔵」『四段目』の面白さを味わう。
第13回	「忠臣蔵もの」の滑稽本と劇書	評論『忠臣蔵偏痴気論』『古今いろは評林』を読む。
第14回	まとめ 「忠臣蔵もの」のゆくえ	「忠臣蔵もの」文芸の特質を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料をよく読み、予習・復習に生かすこと。
授業外に提出課題を課すことがある。
本授業の準備時間は1時間程度、復習時間は平均して3時間程度とする。
最近多く配信されている古典芸能の映像を鑑賞したり、ネット公開されている各種関連資料を閲覧してみるなど、積極的に見聞を広めてほしい。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

『仮名手本忠臣蔵を読む』（服部幸雄編、吉川弘文館、2008）
『新潮日本古典集成 浄瑠璃集』（土田衛校注、新潮社）
『新編日本古典文学全集 浄瑠璃集』（鳥越文蔵ほか校注・訳、小学館）
その他、講義中にも参考書・URL等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーへの取り組み）：40％
小課題（×2回）：60％

【学生の意見等からの気づき】

視聴覚教材を用いて、イメージを捉えやすい講義を行う。
講義で扱う近世文芸の各ジャンルについても、ジャンルの特性に触れられるよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiを活用するため、スマートフォン・タブレット等を用意してほしい（ただし、何らかの事情で利用できない学生にも適宜配慮します）。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは設けませんが、質問等は授業後およびリアクションペーパーで受け付ける。
第8回以降で扱う作品は、受講生の状況により変更する可能性もある。

【Outline (in English)】

Course Outline: This lecture course is about *Kanadehon Chūshingura* (*The Treasury of Loyal Retainers*) and derivative works. The historical incident of the revenge of the forty-seven *rōnin* of Akō is widely known, and was adapted for the stage from early on. One of the most successful stage productions was *Kanadehon Chūshingura*. Originally a puppet play (*ningyō jōruri*), it was soon performed on the *kabuki* stage, and many derivative works were born in various other genres. This trend has continued to the present day, and many novels, TV dramas, and movies have been produced on the same theme.

Learning Objectives: At the completion of this course, students will:

1. understand the characteristics of the *ningyō jōruri* and *kabuki* versions of *Kanadehon Chūshingura*;
2. will be able to analyze works derived from *Kanadehon Chūshin-gura*;
3. will have learned how to enjoy and savor *ningyō jōruri*, *kabuki*, *ukiyo*e, early modern novels, *rakugo*, etc.
4. will understand the evolution of *Chūshingura* as a cultural phenomenon, which still retains its relevance today.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are required to read the handouts and use them for preparation and review. About 2 assignments are to be done outside of class. Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content. The standard learning and review time after each class is 3 hours.

Grading Criteria/Policy: Performance in class (reaction papers): 40%. Short assignments (2): 60 %.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（４）近世D

藤川 雅恵

夜間時間帯

授業コード：A2672 | 曜日・時限：水5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、江戸時代前期の怪異を扱った作品について学びます。井原西鶴作『西鶴諸国はなし』を精読することを中心として、怪談奇談の構造を分析し、その面白さや作者の怪異に対する認識を知ることを目指しています。

【到達目標】

作品の原本に慣れ親しむ（くずし字読解）。
古典の文章に親しみ、怪談・奇談の内容を理解する。
挿絵の役割を理解する。
江戸時代の怪異のあり方と、現代の価値観の相違を理解する。
江戸時代の価値観を参考にして、現代にも通じることを見出し、自分の考えを述べる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進めます。授業で取り上げた作品について、その概要をまとめ、教員からの発問についての簡単なコメントをリアクションペーパーに書き、授業終了後に提出してもらいます。フィードバックの方法としては、翌週の授業にて採点済みのものを各自に返却し、最も良かったものについては授業で紹介します。学期末には授業で取り上げたテーマについてのレポート（コラム）を書いてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
講義形式	西鶴とばけもの	授業のオリエンテーション 浮世草子と井原西鶴 『西鶴諸国はなし』序文を読む
講義形式	西鶴と幽霊	『西鶴諸国はなし』巻五の五「執心の息筋」を読み、内容の解説とテーマの考察をします。
講義形式	西鶴と狐（１）	『西鶴諸国はなし』巻一の七「狐四天王」を読み、内容の解説とテーマの考察をします。
講義形式	西鶴と狐（２）	『西鶴諸国はなし』巻三の四「紫女」を読み、内容の解説とテーマの考察をします。
講義形式	西鶴と仙人	『西鶴諸国はなし』巻二の四「残る物とて金の鍋」を読み、内容の解説とテーマの考察をします。
講義形式	西鶴と人魚（１）	『西鶴諸国はなし』巻四の七「鯉のちらし紋」を読み、内容の解説とテーマの考察をします。
講義形式	西鶴と人魚（２）	『武道伝来記』巻二の四「命とらるる人魚の海」を読み、内容の解説とテーマの考察をします。
講義形式	西鶴と異郷訪問	『西鶴諸国はなし』巻二の五「夢路の風車」を読み、内容の解説とテーマの考察をします。
講義形式	西鶴と竜宮（１）	『西鶴諸国はなし』巻三の五「行末の宝舟」を読み、内容の解説とテーマの考察をします。

講義形式	西鶴と竜宮（２）	『伽婢子』巻一の一「竜宮の棟上」を読み、内容の解説とテーマの考察をします。
講義形式	西鶴と蘇生（よみがえり）	『西鶴諸国はなし』巻三の二「面影の焼残り」を読み、内容の解説とテーマの考察をします。
講義形式	西鶴と盲人	『西鶴諸国はなし』巻一の五「不思議のあし音」を読み、内容の解説とテーマの考察をします。
講義形式	西鶴と肝試し	『武道伝来記』巻三の二「按摩とらする化物屋敷」を読み、内容の解説とテーマの考察をします。
講義形式	西鶴と百物語	『好色二代男 諸艶大鑑』巻二の五「百物語に恨が出る」を読み、内容の解説とテーマの考察をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業テーマについての概要を、事前にインターネット等で自分なりに知識を得ておくこと（20分程度）。
授業の復習として、自分の得た知識との相違を理解すること（20分程度）。
学期末のレポートに備えて、コラムを書く時のテーマになりそうな題材を探すこと（10分程度）。

【テキスト（教科書）】

資料を配布します。

【参考書】

麻生磯次・富士昭雄『決定版 対訳西鶴全集 西鶴諸国ばなし・懷硯』、同『決定版 対訳西鶴全集 諸艶大鑑』、同『決定版 対訳西鶴全集 武道伝来記』（明治書院）
松田修・渡辺守邦・花田富士夫『新日本古典文学大系75 伽婢子』（岩波書店）
その他は、授業時に適宜注記します。

【成績評価の方法と基準】

授業時に提出したリアクションペーパー（70％）、学期末レポート（30％）で評価します。
レポートは、授業で取り上げたテーマを用いて、自分なりの視点でのコラムを書いてもらう予定です。
形式を守りつつ、面白い切り口で書かれていることを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業中、電子機器使用の必要はありません。

【その他の重要事項】

教育実習・介護実習などで、やむを得ず欠席する場合は、予めお知らせ下さい。

【Outline (in English)】

In this class, you will learn about the monsters of the early Edo period. Focusing on a close reading of Ihara Saikaku's "Saikaku Sshokoku Banashi", the purpose of this course is to analyze the structure of ghost stories and to learn about their fun and the author's perception of the monstrosity. Familiarize yourself with the original work (reading cursive characters). Get acquainted with classical texts and understand the content of ghost stories and strange tales. Understand the role of illustrations. Comprehend the nature of oddities in the Edo period and the differences in modern values. Using the values of the Edo period as a reference, find connections that resonate with the present and express your own thoughts. Gain knowledge about the theme of each class in advance through the internet or other means (about 20 minutes). Understand the differences between your acquired knowledge and the class content as a review (about 20 minutes). Look for topics that could serve as themes for your column in preparation for the end-of-term report (about 10 minutes).

Assessment will be based on the reaction paper submitted during class (70%) and the final report (30%). The report is expected to be a column written from your own perspective using themes covered in class. It will be evaluated based on adherence to format while also being written in an interesting way.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（5）近代A

細沼 祐介

授業コード：A2673 | 曜日・時限：月4/Mon.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近代文学史を、「見る」ことをテーマに読み解きます。ここでいう「見る」は単に身体的な視覚を用いた行為だけではなく、世界観や主体としての意識を含む哲学的な概念です。文学史は難解ですが、個々の作家たちが自身の作品を通して「誰が」、「何を」、「どのように」捉えてきたのか、つまりは「見る」ことを追求していったのかを軸にして考察することで、極めて明瞭な見取り図を描き出すことができます。また、この視点を用いることで、それぞれの作品や作家に対する理解を深めるだけでなく、現在に生きる我々に直結した「近代」という特殊な時代を理解することを目指します。

【到達目標】

- ①近代の文化における「見る」ことの意味とその特殊性を理解する
- ②上記を通じて日本近代文学史の概要を把握する
- ③文学史を通じて近代という時代区分の特徴を学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

「見る」ことをテーマに個々の作家の特徴を浮き彫りにし、同時代の他の作家との立ち位置の差を明確にすることで、文学史上に位置付けていきます。また、日本の近代を理解するにおいて西洋の文化を無視することはできません。この講義では前半二回の講義を使用して基礎教養としての西洋文化史も学びます。講義内では具体的な作品の引用や作家の概略を説明していきますが、紹介された作品は可能な限り自身でも読むようにしてください。毎授業リアクションペーパーの提出を求めますが、授業への参加が伝わるようなしっかりとした分量のもの以外評価対象としません。またリアクションペーパーで提出された質問については、次の授業冒頭で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と方針について
第2回	人にとって「見る」こととはなにか	視点と世界観がもたらす作用について
第3回	教養としての西洋文化史①	「普遍」と「特殊」の近代前史
第4回	教養としての西洋文化史②	「見る」の発明と近代文学
第5回	輸入と翻訳の時代	異文化をインストールすることの困難
第6回	錯乱する写実性	言文一致運動と視点の関わり
第7回	硯の海にうつるもの	明治二十年代の文学状況
第8回	「自然」を見つめる人々	反近代という近代性
第9回	日本式自然主義の誕生	ロマン主義と自然主義の連続性
第10回	遠望する高踏派	漱石と鷗外の文学
第11回	大正文壇のフォーマット	近代の定着とその影響
第12回	大正文壇の諸相①	教養主義と白樺派
第13回	大正文壇の諸相②	耽美派と都市の間
第14回	総括	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上述のように、紹介した作品を可能な限り読んでおきましょう。作品は実際に鑑賞してこそです。よって本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とし、復習時間としての読書に多くを割くことが望ましいです。また、文学を理解するためには作品だけを読めばいいわけではありません。授業で紹介された種々の文化を論じた本を併せて読んでおきましょう。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

講義内で適宜紹介する作品を読んでください。前提として文学史の一般的な概略を学べるものとしては、安藤宏『日本近代小説史』（中公選書、2015年）がおすすめです。

【成績評価の方法と基準】

平常点5割、期末レポート5割。なお平常点はリアクションペーパーで評価を行います。

成績に反映する以上、リアクションペーパーは毎授業ごとにかなりの文字数のものを要求するので、覚悟しておいてください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出や資料配布に学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

関連した内容を春学期と秋学期で学んでいくため、可能であれば併せての履修が望ましいです。また、初回は人数の把握のためにオンデマンド形式での実施とします。こちらからの連絡をお待ちください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, we will learn about the methodologies of individual writers in the history of modern Japanese literature from the perspectives of "who sees," "what they see," and "how they see."

【Learning Objectives】

The goal of this class is to provide an overview of the history of modern Japanese literature and to gain a deeper understanding of the spirit of the modern era.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to read the novels introduced in class after class. Students will study for a minimum of 4 hours per class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 50%, in class contribution: 50%.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（5）近代B

細沼 祐介

授業コード：A2674 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近代文学史を、「見る」ことをテーマに読み解きます。ここでいう「見る」は単に身体的な視覚を用いた行為だけではなく、世界観や主体としての意識を含む哲学的な概念です。文学史は難解ですが、個々の作家たちが自身の作品を通して「誰が」、「何を」、「どのように」捉えてきたのか、つまりは「見る」ことを追求していったのかを軸にして考察することで、極めて明瞭な見取り図を描き出すことができます。また、この視点をを用いることで、それぞれの作品や作家に対する理解を深めるだけでなく、現在に生きる我々に直結した「近代」という特殊な時代を理解することを目指します。

【到達目標】

- ①近代の文化における「見る」ことの意味とその特殊性を理解する
- ②上記を通じて日本近代文学史の概要を把握する
- ③文学史を通じて近代という時代区分の特徴を学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

「見る」ことをテーマに個々の作家の特徴を浮き彫りにし、同時代の他の作家との立ち位置の差を明確にすることで、文学史上に位置付けていきます。春学期の内容を引き受け、今学期では大正時代末から昭和初期をスタート地点とし、戦後までを概観します。講義内では具体的な作品の引用や作家の概略を説明していきますが、紹介された作品は可能な限り自身でも読むようにしてください。毎授業リアクションペーパーの提出を求めますが、授業への参加が伝わるようなしっかりとした分量のもの以外評価対象としません。またリアクションペーパーで提出された質問については、次の授業冒頭で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と方針、春学期の復習
第2回	近代の爛熟	大正期の政治、経済的状況と近代の性質
第3回	モダニズムの洗礼①	プロレタリア文学の特徴
第4回	モダニズムの洗礼②	新感覚派の特徴
第5回	焦点化される意識	意識の流れと書く主体
第6回	大衆文学の隆盛	大衆小説に溶け込んでいく近代精神
第7回	新人たちと大家たち	昭和十年代の文学状況と各種の実験
第8回	戦争の描き方①	直接的に戦火を描く作家たち
第9回	戦争の描き方②	意図的になにかを書かない作家たち
第10回	戦後文学の視座①	戦後の文学状況
第11回	戦後文学の視座②	植谷雄高の文学
第12回	客体化する三島由紀夫①	三島由紀夫で読む戦後史
第13回	客体化する三島由紀夫②	三島文学の到達点とその遺産
第14回	総括	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上述のように、紹介した作品を可能な限り読んでおきましょう。作品は実際に鑑賞してこそです。よって本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とし、復習時間としての読書に多くを割くことが望ましいです。また、文学を理解するためには作品だけを読めばいいわけではありません。授業で紹介された種々の文化を論じた本を併せて読んでおきましょう。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

講義内で適宜紹介する作品を読んでください。前提として文学史の一般的な概略を学べるものとしては、安藤宏『日本近代小説史』（中公選書、2015年）がおすすめです。

【成績評価の方法と基準】

平常点5割、期末レポート5割。なお平常点はリアクションペーパーで評価を行います。成績に反映する以上、リアクションペーパーは毎授業ごとにかなりの文字数のものを要求するので、覚悟しておいてください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出や資料配布に学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

関連した内容を春学期と秋学期で学んでいくため、可能であれば併せての履修が望ましいです。また、初回は人数の把握のためにオンデマンド形式での実施とします。こちらからの連絡をお待ちください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, we will learn about the methodologies of individual writers in the history of modern Japanese literature from the perspectives of "who sees," "what they see," and "how they see."

【Learning Objectives】

The goal of this class is to provide an overview of the history of modern Japanese literature and to gain a deeper understanding of the spirit of the modern era.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to read the novels introduced in class after class.

Students will study for a minimum of 4 hours per class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 50%, in class contribution: 50%.

日本文芸研究特講（6）現代A

藤木 直実

授業コード：A2677 | 曜日・時限：火3/Tue.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

森鷗外作品とそのアダプテーション（鷗外作品を素材とする演劇や映画）を、ジェンダーとセクシュアリティに焦点化して読む。20世紀初頭に編制された性をめぐる規範を確認し、規範形成過程と文学との相関の様相を知る。鷗外作品の精読を通じて、文学テキストを批評的に読解する視点と技術と方法を身につける。以上の学修によって、実社会にもつながる課題や自身の研究への示唆を、受講者それぞれが発見し、考える、きっかけとなることを目指す。

【到達目標】

近現代文学作品および演劇や映画を、ジェンダーとセクシュアリティの観点から精読するための方法を身につけ、現代にまでつながる問題をみずから発見し思考する力を涵養する。

To learn how to read modern and contemporary literary works, plays and movies from a gender and sexuality perspective, and to develop the ability to discover and think about problems that lead to the present day.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

おおむね講義形式によるが、校外学習・調査学習・ワークショップ形式などを取り入れる場合がある。双方向的な授業構築のために、リアクションペーパーの提出を課す。リアクションペーパーにおいて提示された質問や感想には適宜リプライを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要、スケジュール、評価方法などをガイダンスする
第2回	「舞姫」(1)	「近代的自我とその挫折の物語」としての受容の系譜
第3回	「舞姫」(2)	定番教材としての受容の系譜
第4回	「舞姫」(3)	「妊娠小説」へのパラダイムシフトと日本のフェミニズム文学批評について
第5回	「舞姫」(4)	ジェンダーの観点から「舞姫」を再読する
第6回	映画「舞姫」(1)	篠田正浩監督「舞姫」を鑑賞する
第7回	映画「舞姫」(2)	鑑賞の続きとグループワークによる批評
第8回	映画「舞姫」(3)	各グループでの討議内容の発表
第9回	鷗外と女性たち	鷗外と明治大正期の女性表現者たちとのかわりを知る
第10回	鷗外と第一波フェミニズム(1)	鷗外と第一波フェミニズムとの関わりを踏まえて、「さへづり」を読む
第11回	鷗外と第一波フェミニズム(2)	鷗外と第一波フェミニズムとの関わりを踏まえて、「なのりそ」「団子坂」その他を読む
第12回	鷗外と性欲の問題系	「キタ・セクスアリス」などの鷗外作品を読む
第13回	鷗外と性暴力の問題系	「魔睡」「鼠坂」などの鷗外作品を読む
第14回	全体のまとめ	今期の振り返りとレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【準備学習】①森鷗外の作品やその周辺について調査する。②各回でとりあげる作品を通読し、不明な点については辞書や注釈を参照する。③各作品についての自身の感想・印象を整理する。

【復習】①講義内容を踏まえて作品を再読し、理解の定着につとめる。②紹介された文献を入手し、通読する。③他の鷗外作品や同時代の小説を読む。

【宿題】文京区立森鷗外記念館、神奈川県立神奈川近代文学館、そのほか授業中に紹介された博物館展示を踏査する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Preparation: 1. Investigate the works of Ogai Mori and their context. 2. Read through the works covered in each session, and refer to dictionaries and annotations for any unclear points. 3. Organize your own impressions and impressions of each work.

Review: 1. Reread the work based on the content of the lecture and try to consolidate your understanding. 2. Obtain literature introduced in class and read it through. 3. Read other Ogai works and contemporaneous novels.

Homework: Visit and explore Mori Ogai Memorial Museum (Bunkyo Ward), Kanagawa Museum of Modern Literature, and other museum exhibits introduced during class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

授業時にプリント配布する。鷗外作品の多くについては青空文庫でのダウンロードを用いる。

。映像作品の視聴方法については授業時に指示する。

【参考書】

『鷗外近代小説集』（岩波書店）、金子幸代編『鷗外女性論集』（不二出版）、その他授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーおよび小レポートの内容30%、期末レポート(または試験)70%。3分の2以上の出席を必須とする。

The final grade will be calculated according to the following process: Short reports (30%), term-end examination (70%). Attending at least two-thirds of classes is required.

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心を広げるため、鷗外作品と今日のトピックを架橋する話題提供を行う。学生の意見を尊重してその発想に学問的裏付けが得られるようサポートするために、リアクションペーパー用いた質問・コメントと、それに対するリプライを徹底する。映像資料や視覚資料を活用し、学修内容の理解につとめる。文献調査の仕方やレポートの書き方の基本的なガイダンスを行い、卒業論文執筆のための参考に供する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンが使用できることが望ましい。プリンターがあれば学習効率がより高くなると思われる。

【その他の重要事項】

明治末期から大正期にかけての文学史的知識を備えていること、フェミニズム／ジェンダーの学知について興味と関心があること、春学期・秋学期あわせて履修することが望ましい。質問については授業時に受け付けるほかメールでも対応する。メールでの質問の場合は、件名を「日本文芸研究特講 学籍番号 氏名」とすること。メール宛先は開講時に指示する。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will focus our scrutiny on works of literature by Mori Ogai. After ascertaining Japan's contemporary gender norms, we will attempt to discern aspects of the interplay between these norms and Ogai's literature in line with specific works, reflecting on how the gender of the writer has influenced their works and expressions. Through these tasks, we seek to provide students with the opportunity to master the perspectives, techniques, and methods for critical reading of literature. In doing so, students will discover and think about challenges that are also relevant to today's society, as well as suggestions for their own research.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

Read modern and contemporary literary works, plays and movies from a gender and sexuality perspective, and discover and think about problems that lead to the present day.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Preparation: 1. Investigate the works of Ogai Mori and their context. 2. Read through the works covered in each session, and refer to dictionaries and annotations for any unclear points. 3. Organize your own impressions and impressions of each work.

Review: 1. Reread the work based on the content of the lecture and try to consolidate your understanding. 2. Obtain literature introduced in class and read it through. 3. Read other Ogai works and contemporaneous novels.

Homework: Visit and explore Mori Ogai Memorial Museum (Bunkyo Ward), Kanagawa Museum of Modern Literature, and other museum exhibits introduced during class.

Grading Criteria/Policy: The final grade will be calculated according to the following process: Short reports (30%), term-end examination (70%). Attending at least two-thirds of classes is required.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（6）現代B

藤木 直実

授業コード：A2678 | 曜日・時限：火3/Tue.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

森鷗外作品とそのアダプテーション（鷗外作品を素材とする演劇や映画）を、ジェンダーとセクシュアリティに焦点化して読む。20世紀初頭に編制された性をめぐる規範を確認し、規範形成過程と文学との相関の様相を知る。鷗外作品の精読を通じて、文学テキストを批評的に読解する視点と技術と方法を身につける。以上の学修によって、実社会にもつながる課題や自身の研究への示唆を、受講者それぞれが発見し、考える、きっかけとなることを目指す。

【到達目標】

近現代文学をジェンダーとセクシュアリティの観点から精読するための方法を身につけ、現代にまでつながる問題をみずから発見し思考する力を涵養する。To acquire the ability to carefully read modern and contemporary literature from the perspective of gender and sexuality, and to develop the ability to discover and think about problems that lead to the present age.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

おおむね講義形式によるが、校外学習・調査学習・ワークショップ形式などを取り入れる場合がある。双方向的な授業構築のために、リアクションペーパーの提出を課す。リアクションペーパーにおいて提示された質問や感想には適宜リプライを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の内容、スケジュール、評価方法などをガイダンスする
第2回	森鷗外「半日」の波紋	「半日」をめぐる私小説としての受容について
第3回	森鷗外「半日」の戦略	設定とプロットを検討し、「半日」のテーマを考える
第4回	「作家の妻」とテクスチュアルハラスメント	森しげ（鷗外後妻）へのハラスメントについて知る
第5回	永井愛「鷗外の怪談」(1)	演劇作品「鷗外の怪談」(2014)の鑑賞
第6回	永井愛「鷗外の怪談」(2)	鑑賞の続きと解説
第7回	鷗外と大逆事件	大逆事件の影響下で書かれた鷗外作品の概略を知る
第8回	森しげ「波瀾」の戦略と「あだ花」の宛先	森しげの代表作を読む
第9回	鷗外・しげのインタテクスチュアリティ	二作家の作品群のテキスト間相互関連性について知る
第10回	森しげ「お鯉さん」の逸脱と挫折	「お鯉さん」に描かれた女性から女性への欲望の様相を読む
第11回	雑誌『三越』と鷗外、しげ、与謝野晶子(1)	三越百貨店機関雑誌『三越』の成立と、寄稿された鷗外作品について
第12回	雑誌『三越』と鷗外、しげ、与謝野晶子(2)	三越百貨店機関雑誌『三越』の成立と、寄稿された森しげと与謝野晶子の作品について
第13回	鷗外と与謝野晶子	自然主義時代における与謝野晶子の活動と鷗外との関係について
第14回	全体のまとめ	今期の振り返りとレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【準備学習】①森鷗外の作品やその周辺について調査する。②各回でとりあげる作品を通読し、不明な点については辞書や注釈を参照する。③各作品についての自身の感想・印象を整理する。

【復習】①講義内容を踏まえて作品を再読し、理解の定着につとめる。②紹介された文献を入手し、通読する。③他の鷗外作品や同時代の小説を読む。

【宿題】文京区立森鷗外記念館、神奈川県立神奈川近代文学館、そのほか授業中に紹介された博物館展示を踏査する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Preparation: 1. Investigate the works of Ogai Mori and their context. 2. Read through the works covered in each session, and refer to dictionaries and annotations for any unclear points. 3. Organize your own impressions and impressions of each work.

Review: 1. Reread the work based on the content of the lecture and try to consolidate your understanding. 2. Obtain literature introduced in class and read it through. 3. Read other Ogai works and contemporaneous novels.

Homework: Visit and explore Mori Ogai Memorial Museum (Bunkyo Ward), Kanagawa Museum of Modern Literature, and other museum exhibits introduced during class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

授業時にプリント配布する。

【参考書】

『鷗外近代小説集』（岩波書店）、『明治文学全集』（筑摩書房）、その他授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの内容 30%、期末レポート（または試験）70%。3分の2以上の出席を必須とする。

The final grade will be calculated according to the following process: Short reports (30%), term-end examination (70%). Attending at least two-thirds of classes is required.

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心を広げるため、鷗外作品と今日的トピックを架橋する話題提供を行う。学生の意見を尊重してその発想に学問的裏付けが得られるようサポートするために、リアクションペーパーを用いた質問・コメントと、それに対するリプライを徹底する。映像資料や視覚資料を活用し、学修内容の理解につとめる。文献調査の仕方やレポートの書き方の基本的なガイダンスを行い、卒業論文執筆のための参考に供する。

【その他の重要事項】

明治末期から大正期にかけての文学史的知識を備えていること、フェミニズム／ジェンダーの学知について興味と関心があること、春学期・秋学期あわせて履修することが望ましい。質問については各回の授業時に対応するほかメールでも受け付ける。メールでの質問の場合は件名を「学籍番号 氏名」とすること。メール宛先については開講時に指示する。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will focus our scrutiny on works of literature by Mori Ogai. After ascertaining Japan's contemporary gender norms, we will attempt to discern aspects of the interplay between these norms and Ogai's literature in line with specific works, reflecting on how the gender of the writer has influenced their works and expressions. Through these tasks, we seek to provide students with the opportunity to master the perspectives, techniques, and methods for critical reading of literature. In doing so, students will discover and think about challenges that are also relevant to today's society, as well as suggestions for their own research.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

Read modern and contemporary literary works, plays and movies from a gender and sexuality perspective, and discover and think about problems that lead to the present day.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Preparation: 1. Investigate the works of Ogai Mori and their context. 2. Read through the works covered in each session, and refer to dictionaries and annotations for any unclear points. 3. Organize your own impressions and impressions of each work.

Review: 1. Reread the work based on the content of the lecture and try to consolidate your understanding. 2. Obtain literature introduced in class and read it through. 3. Read other Ogai works and contemporaneous novels.

Homework: Visit and explore Mori Ogai Memorial Museum (Bunkyo Ward), Kanagawa Museum of Modern Literature, and other museum exhibits introduced during class.

Grading Criteria/Policy: The final grade will be calculated according to the following process: Short reports (30%), term-end examination (70%). Attending at least two-thirds of classes is required.

日本文芸研究特講（6）現代C

高口 智史

夜間時間帯

授業コード：A2679 | 曜日・時限：木6/Thu.6
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1940年代前半の文学を読む

1940年代前半とは昭和15年から20年までの5年間を指す。歴史的には太平洋戦争の前年から敗戦までの5年間であり、最も戦争が苛烈だった時代である。これまでの文学史では、この時代の文学は言論・表現の自由が奪われ、たとえ存在しても国策に追従するものばかりの「暗黒の時代」と考えられている。しかし本当に文学は死んだのだろうか。文学史年表を見ると、この時代には数は少ないが今日でも読み継がれている「名作」を見ることが出来るだろう。

今回取り上げるのは、新美南吉「おじいさんのランプ」「ごんごろ鐘」、井伏鱒二「へんろう宿」、堀辰雄「曠野」、太宰治「待つ」、中島敦「山月記」「李陵」といった作家や作品である。

なぜこの時期に、今日でも読み継がれる作品が書かれたのだろう。（同じ時期の作品としてここに堀辰雄「菜穂子」や太宰の「走れメロス」や「津軽」、中島敦の「名人伝」「弟子」を加えてもいい。）戦時下の文学というと「反戦」（権力への抵抗）や「転向」（権力への屈服）といった枠組みで作品を評価してしまいがちだが、それでは答えは出てこない。

これらの作家、作品を見ると、教科書教材に採用されているものが結構多いのにも気づくだろう。私たちが戦時下の文学の豊穡性に気づかなかったのは、これらの作品はこれまで歴史的コンテクストを消去することによって読まれてきたからだ。そこでこの授業では戦時下という時代状況との関係を念頭に作品を読むことを通し、1940年代前半の文学と時代に新たな光を当てていきたいと思う。

【到達目標】

- ・戦時下の文学の歴史的意味を新しい視点から理解する。
- ・文学作品のもつ想像性や批評性を理解する。
- ・小説の基本的な構造分析を学び読みの力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業終了時ごとに、作品や授業についての感想や質問、意見を提出してもらい、適宜その内容について授業で発表し問題を共有していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンス	① 授業内容の概要と進め方について ② 評価の方法について 「おじいさんのランプ」「ごんごろ鐘」を読む
第二回	新美南吉を読む―〈転向〉再考 第一回	1930年代と1940年代の差異について考える―「ごんぎつね」「ひろったラッパ」との比較を通して
第三回	新美南吉を読む―〈転向〉再考 第二回	① 「へんろう宿」を読む ② 戦時下の表現と批評―その抵抗のかたち
第四回	井伏鱒二「へんろう宿」を読む	「曠野」を読む―原作「今昔物語集」との差異
第五回	堀辰雄「曠野」を読む 第一回	① 承前 ② 戦時下の表現と批評―全体主義と個の問題について
第六回	堀辰雄「曠野」を読む 第二回	「山月記」の語りの構造について―対話の物語を読む
第七回	中島敦「山月記」を読む 第一回	① 承前 ② 戦時下における生き方をめぐる思索
第八回	中島敦「山月記」を読む 第二回	「待つ」を読む―戦時下を生き延びる批評と方法（女性の語りの意味）
第九回	太宰治「待つ」を読む	① 「一」の語りの方法と意図について（「山月記」との関連から） ② 「二」司馬遷の物語を読む―戦時下の表現として
第十回	中島敦「李陵」を読む 第一回	① 承前 ② 「三」李陵の物語を読む―戦時下の表現として
第十一回	中島敦「李陵」を読む 第二回	

第十二回	中島敦「李陵」を読む 第三回	① 承前 ② 中島敦―戦時下の批評と抵抗
第十三回	まとめ	1940年代前半「戦時下」の文学の可能性―戦時下の文学が批評する現在（戦後に持ち越された問いについて） ①授業の理解を確認する試験 ②試験の解説
第十四回	学期末試験	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に参加して作品についてたんに「知識」として学ぼうとするだけではない。事前に必ず作品を読んで授業に臨んでほしい。その過程で自分なりの表現についてのこだわりを確認してもらいたい。いずれも文庫でテキストが手に入りやすい作品なので、その周辺の作品にも目を通してあればよりよい。また今回取り上げる作品の歴史的コンテクストについても予習し、時代についてのおおまかなイメージをつかんでおいてもらいたい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは基本的にこちらで準備したものを使用する。ただし中島敦「山月記」「李陵」だけは新潮文庫を使用する。

【参考書】

- ・内田樹「映画の構造分析」（文春文庫）なぜテキスト論なのか、映画を対象にテキスト分析の実際をわかりやすく論じている。
- ・土方洋一「物語のレッスン」（青簡舎）絶版で手に入りにくいですが、読み方をめぐる最良の入門書。探してでも読んでほしい。
- ・廣野由美子「批評理論入門―『フランケンシュタイン』解剖講義」（中公新書）カタログ的な本だが、テキスト分析用語、様々な批評理論についての知識を身につけるためにはよい。
- ・三原芳秋他編『〈クリティカル・ワード〉文学理論 読み方を学び文学と出会いたいおす』（フィルムアート社）さらに深く文学理論について学びたい人は挑戦しよう。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点＝各作品をめぐる感想や授業コメント等（30％）
授業に対する取り組み姿勢（作品をしっかり読みこんでいるか、授業を理解しようとする姿勢があるか等）
- ・課題レポート＝学期の途中に一回レポートを提出してもらう。（20％）
- ・学期末試験（50％）

【学生の意見等からの気づき】

- ・講義形式で一方通行になりがちなので、学習支援システムを有効に活用し出来る限りリアクションペーパーや感想を通して受講生の声を取り上げていきたい。
- ・話が早くて理解が追いつかないという意見もあった。なるべく基本的な点については丁寧に説明するように心掛けたい。

【Outline (in English)】

Reading literature from the early 1940s

Historically, the early 1940s were the five years from the year before the Pacific War until Japan's

defeat, when the war was at its most intense. In the history of literature so far, literature of this period is

considered a "dark age" in which freedom of speech and freedom of expression were taken away, and

those that existed, if at all, were only in accordance with national policies. But did literature really die?

Looking at the chronology of literature history, we can see some

"masterpieces" from this period that are

still being read today, even though they are few in number.

This time, we will look at authors and works such as Niimi Nankichi's "Grandfather's Lamp" and

"Gongoro Bell," Ibuse Masuji's "Henro Inn,"

Hori Tatsuo's "Kyouya," Dazai Osamu's "Waiting," and

Nakajima Atsushi's "Sangetsuki," and Li Ling's

"Why were works that are still being read today written during this period? Other works from the same

period include Hori Tatsuo's "Naoko," Dazai's

"Run Meros," and "Tsugaru," and Nakajima

Atsushi's

"Meijinden," and "Deshi." When it comes to

wartime literature, we tend to evaluate works within the

framework of "anti-war" (resistance to authority) or

"conversion" (submission to authority), but that does

not provide the answer. Looking at the authors and works listed above,

you will notice that quite a few

have been adopted as textbook materials. The reason we have not

noticed the richness of wartime

literature is that until now these works have been read without any

historical context. In this class,

therefore, we would like to shed new light on the literature and times of

the early 1940s by reading these

works with the wartime situation in mind.

Learning activities outside of classroom

It is not enough to simply learn the works as "knowledge." Please make sure to read the works before coming to class. In the process of reading the works, please check the points that impressed you about the expressions. Since all of the works are easily available in paperback, it is even better if you read the works related to them by the author. Also, please prepare in advance for the historical context of the works to be covered this time, and get a rough idea of the era. The standard preparation and review time for this class is 2 hours for each work.

Grading Criteria /Policy

- Regular marks = impressions on each work, class comments, etc. (30%)
Attitude toward the class (whether the works have been thoroughly read, whether there is an attitude of trying to understand the class, etc.)
- Assignment report = Please submit a report once during the semester. (20%)
- Final exam (50%)

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（6）現代D

梅澤 亜由美

夜間時間帯

授業コード：A2680 | 曜日・時限：月5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

＊近代小説の語りの構造、および視点と小説の関係について考える。
→この授業では、1930年代以降の一人称で書かれた小説を読みます。小説の背景を学ぶと同時に、一人称の小説の語りの構造、および視点に注目し、その効果を考えていきます。また、実際に自分で一人称小説を探し、分析してもらいます。最終的には、小説における語り・視点の分析が自分でできること、またその役割について理解することを目標とします。

【到達目標】

- 1、小説における語り・視点の役割について、理解することができる。
- 2、語りの構造や視点と小説の関係を分析することができる。
- 3、学んだことを応用し、自分で小説の分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、以下の3つによって講義を進めます。

- 1、指定された資料を用いての事前学習
- 2、教員による講義、および学生同士の意見交換
- 3、その日のワーク

ワーク①：小説の内容確認や語り・視点についての分析をしてもらいます。
ワーク②：語り・視点を変えた場合の小説の可能性について考察してもらいます。

→ワークについては、前回の授業で提出されたものの中からいくつかをとりあげ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ、目標、やり方について説明する。
第2回	武田泰淳『審判』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第3回	梅崎春生『蜆』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第4回	太宰治『トカトントン』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第5回	小松左京『くだんのはは』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第6回	吉屋信子『鶴』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第7回	三島由紀夫『雛の宿』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第8回	遠藤周作『パロディ』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第9回	安部公房『死んだ娘が歌った……』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第10回	村上春樹『レキシントンの幽霊』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。

第11回	川上弘美『神様』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第12回	一人称小説の分析実践編	授業で学んだことをもとに、各自で一人称小説を探し分析する。
第13回	一人称小説の分析実践編	授業で学んだことをもとに、各自で一人称小説を探し分析する。
第14回	まとめ①	一人称小説の語り、視点の特徴とは何か。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・【事前学習】指定されたテキストを必ず読み、以下を行う。

→登場人物を抜き出す（テキストに印をつける）。

→語り手の特徴を抜き出す（テキストに印をつける）。

・【事後学習】講義をもとに、提示された課題を行い、学習支援システムから提出する

→語り・視点を変えた場合の小説への影響を考える（他の人物が語り手になったらどう変わるか）。語りの特徴について、分析する。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小説テキストについては、第1回で指示します。教員が使用しているのは、以下になります。

武田泰淳『審判』、『上海の蜩・審判』P+D BOOKS所収

梅崎春生『蜆』、『ボロ家の春秋』講談社文芸文庫

太宰治『トカトントン』、『ヴィヨンの妻』新潮文庫

小松左京『くだんのはは』、『くだんのはは』ハルキ文庫

吉屋信子『鶴』、『鬼火・底のぬけた柄杓』講談社文芸文庫

三島由紀夫『雛の宿』、『女神』新潮文庫所収

遠藤周作『パロディ』、『遠藤周作短篇名作選』講談社文芸文庫所収

安部公房『死んだ娘が歌った……』、『R 62号の発明・鉛の卵』新潮文庫所収

村上春樹『レキシントンの幽霊』文春文庫

【参考書】

安藤宏『「私」をつくる一近代小説の試み』岩波新書

廣野由美子『一人称小説とは何か―異界の「私」の物語』ミネルヴァ書房

石原千秋他・木股知史・小森陽一・島村輝・高橋世織『読むための理論』世織書房

【成績評価の方法と基準】

①各回課題（60パーセント）、②学期末課題（40パーセント）の評価を合わせ、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

・ワークはワードファイルでワークを提出してもらっていたのが、少し手間というコメントがありました。インライで提出できるようにします。

・他の人の意見を聞くのが参考になるという声が多いので、意見発表の場を重視したいと思います。

・学期末課題の発表会も、おおむね肯定的です。みなさんの発表を多くすることも検討中です。

【学生が準備すべき機器他】

PC、タブレット、スマホなど。PDFのファイルを見るのに利用します。

【その他の重要事項】

・秋学期の授業となります。必ず秋学期最初に、再度、シラバスを確認するようにしてください。なお、選定された小説、および順序に若干の変更がでる可能性があります。

・学期末課題は、以下の2つから1つを選んでもらう予定です。

①自分で一人称小説を探し、学んだことをもとに分析してもらいます。近代文学～現代文学まで、自分で一人称の在り方が面白いと思う小説をとりあげてほしいです。

②語り手を変えて、小説の一部を書き換えてもらいます。

なお、学期末課題の提出は11回授業終了後、12月初旬となります。授業のまとめとして、提出されたレポートを紹介していく予定です。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces the style of stories called “first-person novels” written after the 1930’s. We learn about its position in the history of literature, and analyze examples in terms of the expression of perspective.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Understand the role of narrative in novels.
- ・ Explain the relation between narrative and theme in novels.
- ・ Write analytical papers of their original thought using the theory learned in class.

Learning Activities Outside of the Classroom:

Preparation: Students read each novel and think about the characters and the narrator in the novel.

Review: Students write and upload a short paper after each class meeting.

Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policy: Your final grade will be calculated according to the following process: regular short papers (60%); final paper (40%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（7）漢文A

遠藤 星希

授業コード：A2681 | 曜日・時限：木4/Thu.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

先秦時代の諸子百家の書から比較的有名な文章を精選し、原文で読解する。諸子百家の「諸子」とは、孔子・孟子・韓非子・老子・莊子・墨子・孫子などを代表とする諸々の思想家たちのこと、「百家」とは、儒家・法家・道家・墨家・兵家などを代表とする数多くの学派のことである。戦乱が恒常化した世の中で、学術・思想の自由競争社会を生き抜くため、春秋・戦国時代の思想家たちは様々な思索をめぐらせた。諸子百家の書を通じて彼らの思索を追体験することにより、現代社会をとらえ直す新たな視野を獲得することを目指し、同時に漢文を読解するための基礎的なスキルを養う。

【到達目標】

1. 漢文の基礎的な語法・句法を習得し、平易な漢文を読解できるようになる。
2. 訓点（句読点・返り点・送り仮名）がついた漢文を正確に訓読できるようになる。
3. 書き下し文を参照しながら白文に返り点をつけることができるようになる。
4. 諸子の各学派の思想的特徴を把握する。
5. 漢文を読解する際に利用すべき基本的な工具書（辞典・目録など）を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行う。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映す。毎回簡単な課題を出し、学習支援システム上で提出してもらう（同時に質問も受け付ける）。課題や質問に対するフィードバックは、次の週の授業の冒頭に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	諸子百家の思想とその時代背景についての概説
第2回	儒家の思想（1）	『論語』を読む（1）：「為政篇」「公冶長篇」「先進篇」等より
第3回	儒家の思想（2）	『論語』を読む（2）：「雍也篇」「述而篇」「憲問篇」等より
第4回	儒家の思想（3）	『孟子』を読む（1）：「公孫丑上」「離婁上」等より
第5回	儒家の思想（4）	『孟子』を読む（2）：「梁惠王上」「尽心上」等より
第6回	道家の思想（1）	『老子』を読む：「第一章」「第五章」等より
第7回	道家の思想（2）	『莊子』を読む（1）：「齊物論篇」「大宗師篇」等より
第8回	道家の思想（3）	『莊子』を読む（2）：「応帝王篇」「秋水篇」等より
第9回	道家の思想（4）	『列子』を読む：「天瑞篇」「周穆王篇」等より
第10回	法家の思想（1）	『韓非子』を読む（1）：「五蠹篇」等より
第11回	法家の思想（2）	『韓非子』を読む（2）：「外儲説篇」等より
第12回	雑家の思想	『淮南子』を読む：「人間訓」等より
第13回	墨家の思想	『墨子』を読む：「非攻篇上」等より
第14回	兵家の思想	『孫子』を読む：「謀攻篇」「軍争篇」等より

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料のプリントは1週間以上前に配布されるので、授業前に必ず予習（辞書を引いて文意をつかむ等）をして、問題点・疑問点を明確にしておくこと。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイルが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を教室で配布する。

【参考書】

- ・前野直彬『漢文入門』（ちくま学芸文庫、2015年）
- ・古田島洋介『これならわかる返り点』（新典社、2009年）

- ・加地伸行『漢文法基礎』（講談社学術文庫、2010年）
 - ・古田島洋介・湯城吉信『漢文訓読入門』（明治書院、2011年）
 - ・古田島洋介『これならわかる漢文の送り仮名』（新典社、2012年）
- その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100％学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

- ・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則としてE評価となる。
- ・出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数は受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
- ・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容の一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will carefully select relatively famous passages from the writings of the *zhuzi baijia* (the Hundred Schools of Thought) during the Pre-Qin period in China and closely read them in the original language. *Zhuzi* in *zhuzi baijia* refers to various thinkers including Confucius, Mencius, Han Fei, Laozi, Zhuangzi, Mozi, and Sunzi. *Baijia* refers to a variety of schools including Confucianism, Daoism, Mohism, and the School of the Military. Against the backdrop of continuous wars, thinkers during the Spring and Autumn period and the Warring States period pursued their thoughts in various forms in order to survive the free competition between schools of thought. Through the works of *zhuzi baijia*, we will relive their thoughts and in so doing seek to attain a novel perspective from which to revisit contemporary society, while at the same time developing basic skills for reading literary Chinese.

Learning Objectives: By the end of the course, students will:

- A. have acquired Classical Chinese grammar and be able to read and comprehend plain Classical Chinese texts;
- B. be able to accurately read Chinese classical writings with *kunten* (marks for reading the Chinese into literary Japanese);
- C. be able to add return markers to the unmarked Chinese texts with reference to transcription of the Chinese classics into Japanese;
- D. have grasped the characteristics of the philosophy of the *zhuzi baijia*; and
- E. have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Term-end examination (100%)

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（7）漢文B

遠藤 星希

授業コード：A2682 | 曜日・時限：木4/Thu.4
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

史書の『戦国策』と『史記』の中から比較的有名な文章を精選し、原文で読解する。『戦国策』は、戦国時代の遊説家の弁論や献策、逸話などを国別にまとめたもので、前漢末の劉向の編とされる。平安時代の日本にはすでに伝来しており、その後もわが国で広く読まれた。『史記』は前漢の司馬遷が著した史書であり、黄帝の時代から前漢中期に至る三千年にわたる通史である。『枕草子』に「ふみは、文集、文選、新賦、史記五帝本紀……」とあるように平安時代の貴族にとって最も馴染み深い漢籍の一つであり、『源氏物語』にもその影響が色濃く見えるのみならず、その後の日本文学にも影響力を持ち続けた。本授業では、『戦国策』と『史記』の文を精読することを通して、古代中国の社会・文化に対する理解を深め、そこに描かれた人々の英知を吸収すると同時に、漢文資料を読解するための基礎的なスキルを養う。

【到達目標】

1. 漢文の基礎的な語法・句法を習得し、平易な漢文を読解できるようになる。
2. 訓点（句読点・返り点・送り仮名）がついた漢文を正確に訓読できるようになる。
3. 書き下し文を参照しながら白文に返り点をつけることができるようになる。
4. 『戦国策』と『史記』についての基礎的な知識を習得する。
5. 漢文を読解する際に利用すべき基本的な工具書（辞典・目録など）を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行う。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映す。毎回簡単な課題を出し、学習支援システム上で提出してもらう（同時に質問も受けつける）。課題や質問に対するフィードバックは、次週の授業の冒頭に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	『戦国策』ガイダンス	『戦国策』と中国の戦国時代についての概説
第2回	『戦国策』精読（1）	「斉策」より
第3回	『戦国策』精読（2）	「燕策」より
第4回	『戦国策』精読（3）	「楚策」より
第5回	『戦国策』精読（4）	「魏策」より
第6回	『史記』ガイダンス	『史記』と司馬遷についての概説
第7回	『史記』精読（1）	「廉頗藺相如列伝」より「完璧」
第8回	『史記』精読（2）	「廉頗藺相如列伝」より「渾池の会」
第9回	『史記』精読（3）	「項羽本紀」より
第10回	『史記』精読（4）	「淮陰侯列伝」より
第11回	『史記』精読（5）	「管晏列伝」より
第12回	『史記』精読（6）	「伍子胥列伝」より
第13回	『史記』精読（7）	「孫子呉起列伝」より
第14回	『史記』精読（8）	「刺客列伝」より

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料のプリントは1週間以上前に配布されるので、授業前に必ず予習（辞書を引いて文意をつかむ等）をして、問題点・疑問点を明確にしておくこと。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイルが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

- ・前野直彬『漢文入門』（ちくま学芸文庫、2015年）
 - ・古田島洋介『これならわかる返り点』（新典社、2009年）
 - ・加地伸行『漢文法基礎』（講談社学術文庫、2010年）
 - ・古田島洋介・湯城吉信『漢文訓読入門』（明治書院、2011年）
 - ・古田島洋介『これならわかる漢文の送り仮名』（新典社、2012年）
- その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100％学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

- ・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則としてE評価となる。
- ・出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数は受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
- ・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容の一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will carefully select and read relatively famous passages from *Zhan Guo Ce* (*Strategies of the Warring States*) and *Shiji* (*Records of the Grand Historian*) in the original language. *Zhan Guo Ce* is a compilation by dynasty of rhetoric, strategic suggestions and anecdotes of strategists during the Warring States period, compiled by Liu Xiang at the end of the former Han period. It had already been introduced to Japan by the Heian period, and was widely read thereafter. *Shiji* is a history book written by Sima Qian during the early Han period, and is one of the most familiar Chinese classic books that not only exerted strong influence on *The Tale of Genji* but also had enduring effects on subsequent Japanese literature. In this course, through close reading of passages from *Zhan Guo Ce* and *Shiji*, we will deepen our understanding of ancient Chinese society and culture and absorb the wisdom of the people described therein, and develop basic skills for reading Chinese classical writings.

Learning Objectives: By the end of the course, students will:

- A. have acquired Classical Chinese grammar and be able to read and comprehend plain Classical Chinese texts.
- B. be able to accurately read Chinese classical writings with *kunten* (marks for reading the Chinese into literary Japanese);
- C. be able to add return markers to the unmarked Chinese texts with reference to transcription of the Chinese classics into Japanese;
- D. have acquired a basic knowledge of *Zhan Guo Ce* and *Shiji*.
- E. have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Term-end examination (100%)

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講 (8) 言語A

塩田 雄大

授業コード：A2685 | 曜日・時限：水1/Wed.1
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

言語を研究する観点として、「言語そのもの」の構造を明らかにしようとするものと、「現実の社会とのかかわりの中で、言語がどのように使われているか」に注目するものがある。当講義では、この前者と後者を行きつ戻りつしながら、日本語学そして言語学の一端を (広く薄く) 概観しようとするものである。

この講義で取り扱うテーマは非常に多岐にわたり、音声言語 (音声日本語) に限らず、視覚言語 (日本手話) についても考察を進める。毎回の課題準備と、学生諸君からの意見の紹介・検討を通して、「いま・現在」のことばの使われ方を、各自が知恵を絞って考えてゆく。(履修者の状況に応じて、内容を適宜変更する場合がある)

【到達目標】

日本語学的・言語学的な「ものの見方・考え方」ができるようになる。履修前と履修後でことばをめぐる風景が異なって見えるようになり、最終的には自分で選んだテーマによるしっかりしたレポートを仕上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講師による説明・解説だけではなく、学生諸君から寄せられた成果・意見の紹介を積極的におこなう。また、各自のPC・タブレット等を用いたアンケートや意見収集を講義中または講義時間外に実施することがある。課題等の提出・フィードバックは、Google フォームおよび学習支援システムを通じておこなう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義全般、および取り上げる概要の説明
第2回	音声・音韻(1)	母音、子音、連濁 ほか
第3回	音声・音韻(2)	モーラ、アクセント ほか
第4回	手話言語(1)	手話は世界共通か、手話に「文法」はあるのか ほか
第5回	手話言語(2)	手話単語の音韻、非手指表現、バリエーション ほか
第6回	方言・社会言語学(1)	地域方言、社会方言 ほか
第7回	方言・社会言語学(2)	言語接触、スタイル、インターアクション ほか
第8回	認知言語学(1)	全称量化と存在量化 ほか
第9回	認知言語学(2)	きもちの文法、体験と知識 ほか
第10回	語用論(1)	ことばの意味と話し手の意味 ほか
第11回	語用論(2)	世間話の意味 ほか
第12回	日本語史	動詞の活用、です・ますの成立 ほか
第13回	心理言語学	語・文法・第二言語の獲得 ほか
第14回	ふりかえり	講義の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

課題の事前準備 (テキスト該当箇所の要約および批判的検討)・提出を毎回求める予定である。事前準備等には毎回ある程度のまとまった時間 (標準的には4時間以上) が必要であるはずなので、その旨承知されたい。

【テキスト (教科書)】

『よくわかる言語学』(窪田晴夫編、ミネルヴァ書房、2019年、2860円)

<https://www.minervashobo.co.jp/book/b472725.html>

※上記、履修者は必ず購入のうえ持参すること。テキストなしでの受講は不可。

【参考書】

一般論として、書籍はできるかぎり購入して自分のものしておくこと。すぐに読めなくてもかまわない。そのなかに、いずれ役に立つものが出てくる。学生時代に三千円の投資をケチる人は、その後に三千円以上の損をすることになる。

関連する文献は講義内で適宜紹介するが、下記、例をいくつか掲げておく。

- (1) 『ことばの力学 ―応用言語学への招待』(白井恭弘、岩波書店、2013年)
- (2) 『子どもに学ぶ 言葉の認知科学』(広瀬友紀、筑摩書房、2022年)
- (3) 『新世代の言語学 ―社会・文化・言語をつなぐもの』(飯野公一ほか 編著、くろしお出版、2003年)
- (4) 『その一言が余計です。』(山田敏弘、筑摩書房、2013年)
- (5) 『改訂新版 はじめての手話』(木村晴美・市田泰弘、生活書院、2014年)

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の事前準備課題 30 %
- ・最終レポート 70 %

課題および最終レポートに関しては、剽窃・無断引用が不可であるのはもちろん、テキストの内容のみや、講義内で講師が提示した内容のみを記したのも、不可となる。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、手話言語への理解を深める目的で、簡単な日本手話の練習を講義内でおこなったが、これがためになったという意見が寄せられた。今年度も、講義末尾等の時間で練習をおこなう予定である。

【学生が準備すべき機器他】

各自が使用するメールアドレスは原則として法政大学のアカウントとする。全員への連絡事項および資料配付は基本的に学習支援システムを用いておこなう予定である。紙資料は配付しないため、毎回の受講時には【PCまたはタブレット】を持参するのが望ましい (スマホのみだと配付資料が読みにくいはず)。

【その他の重要事項】

▼質問・相談は、講義終了後、あるいは学習支援システム上に随時受け付ける。

▼本講義の受講にあたっては英語の能力を前提としておらず、日本語の知識だけで十分である。

▼耳の聞こえて苦労している学生の履修も当然歓迎するので、ぜひ申し出られたい。

▼この講義は毎回の事前準備が必要であり、決して「楽な」講義ではない。知的好奇心の高い学生、なにかを真剣に知ろうとする学生が集まって知恵を寄せ合い、満足度の高い時間を共有することを目指したい。こうした考えに共感する学生の履修を、強く希望する。

【Outline (in English)】

＊ ＊ Course outline ＊ ＊

To study linguistics, there are two kinds of viewpoint, one is to clarify the structure of "the language itself", and the another one is to research "how the language is used in the real context of society". This lecture attempts to give an overview of some aspects of (Japanese) linguistics, moving back and forth between the former and the latter.

The topics covered in this lecture are very diverse, and are not limited to spoken language (spoken Japanese), but also include visual language (Japanese Sign Language).

＊ ＊ Learning Objectives ＊ ＊

The students are expected to be able to see and think about things in terms of (Japanese) linguistics.

＊ ＊ Learning activities outside of classroom ＊ ＊

Students will be expected to prepare and submit assignments in advance (summarizing and critically reviewing the relevant sections of the textbook). Please be aware that a certain amount of time (typically 4 hours or more) will be required for preparation each time.

＊ ＊ Grading Criteria /Policy ＊ ＊

Preparatory work for each class (30%), and final report (70%).

Plagiarism and unauthorized quotations are not

allowed in the assignments and final report, nor is writing only on the content of the textbook or the content presented by the instructor in the lecture.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講 (8) 言語B

塩田 雄大

授業コード：A2686 | 曜日・時限：水1/Wed.1
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

言語を研究する観点として、各言語のいわゆる「標準語」に焦点を当てて分析を進める姿勢が一つにある。しかし、当然のことだが、各言語は「標準語」だけから成り立つものではない。当講義では、日本語の「標準語」と「方言」の両方を射程に入れて、おもに音声面および文法面の特性の一端を概観しようとするものである。

この講義で取り扱うテーマは、音声および文法に関して多岐にわたる。毎回の課題準備と、学生諸君からの意見の紹介・検討を通して、「いま・現在」の標準語・方言の使われ方を、各自が知恵を絞って考えてゆく。(履修者の状況に応じて、内容を適宜変更する場合がある)

【到達目標】

標準語および方言を視野に入れた「ものの見方・考え方」ができるようになる。履修前と履修後でことばをめぐる風景が異なって見えるようになり、最終的には自分で選んだテーマによるしっかりしたレポートを仕上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講師による説明・解説だけではなく、学生諸君から寄せられた成果・意見の紹介を積極的におこなう。また、各自のPC・タブレット等を用いたアンケートや意見収集を講義中または講義時間外に実施することがある。課題等の提出・フィードバックは、Google フォームおよび学習支援システムを通じておこなう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義全般の説明、基本的な問題の提示
第2回	母音と子音	発音のしくみ ほか
第3回	五十音図と特殊拍	「ん」とは、「っ」とはどんな音か ほか
第4回	アクセント	「箸を持って橋の端を渡る」はどう発音するか ほか
第5回	形態素	「酒 (さけ)」と「酒屋 (さかや)」の形態論 ほか
第6回	語と句	「古い新聞」と「古新聞」は同じか ほか
第7回	格ととりたて	「屋根まで飛んだ」は何が飛んだのか ほか
第8回	複文	「ボタンを〔押せば／押すと／押したら〕ジュースが出てくる」 ほか
第9回	活用	「早く〔しゃべれ／しゃべろ〕」ほか
第10回	ヴォイス	「恋人にふられた」と「雨に降られた」 ほか
第11回	アスペクト、テンス	「このあと、授業あった？」は過去形なのか ほか
第12回	モダリティ	話し手の「気持ち」を表す言語要素 ほか
第13回	待遇表現	敬語の体系 ほか
第14回	ふりかえり	講義の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

課題の事前準備 (テキスト該当箇所の課題回答と批判的検討)・提出を毎回求める予定である。事前準備等には毎回ある程度のまとまった時間 (標準的には4時間以上) が必要であるはずなので、その旨承知されたい。

【テキスト (教科書)】

『ワークブック 方言で考える日本語学』(松丸真大ほか、くろしお出版、2023年、1650円)

https://www.9640.jp/book_view/?934

※履修者は必ず購入のうえ持参すること。テキストなしでの受講は不可。

【参考書】

一般論として、書籍はできるかぎり購入して自分のものにしておくこと。すぐに読めなくてもかまわない。そのなかに、いずれ役に立つものが出てくる。学生時代に三千円の投資をケチる人は、その後に三千円以上の損をすることになる。

関連する文献は講義内で適宜紹介するが、下記、例をいくつか掲げておく。

(1)『方言学入門』(木部暢子ほか編著、三省堂、2013年)

(2)『はじめて学ぶ方言学』(井上史雄ほか編著、ミネルヴァ書房、2016年)

(3)『実践方言学講座 第1巻 社会の活性化と方言』(半沢康・新井小枝子編著、くろしお出版、2020年)

(4)『新・方言学を学ぶ人のために』(徳川宗賢ほか編、世界思想社、1991年)

【成績評価の方法と基準】

・毎回の事前準備課題 30 %
・最終レポート 70 %

課題および最終レポートに関しては、剽窃・無断引用が不可であるのはもちろん、テキストの内容のみや、講義内で講師が提示した内容のみを記したのも、不可となる。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、方言への理解を深める目的で、簡単な沖縄語 (沖縄方言) の練習を講義内でおこなったが、これがためになったという意見が寄せられた。今年度も、講義末尾等の時間で練習をおこなう予定である。

【学生が準備すべき機器他】

各自が使用するメールアドレスは原則として法政大学のアカウントとする。全員への連絡事項および資料配付は基本的に学習支援システムを用いておこなう予定である。紙資料は配付しないため、毎回の受講時には【PCまたはタブレット】を持参するのが望ましい (スマホのみだと配付資料が読みにくいはず)。

【その他の重要事項】

▼質問・相談は、講義終了後、あるいは学習支援システム上に随時受け付ける。

▼本講義の受講にあたっては英語の能力を前提としておらず、日本語の知識だけで十分である。また、首都圏以外の地域の方言を持つ学生は特に積極的に履修してほしい。

▼耳の聴こえて苦労している学生の履修も当然歓迎するので、ぜひ申し出られたい。

▼この講義は毎回の事前準備が必要であり、決して「楽な」講義ではない。知的好奇心の高い学生、なにかを真剣に知ろうとする学生が集まって知恵を寄せ合い、満足度の高い時間を共有することを目指したい。こうした考えに共感する学生の履修を、強く希望する。

【Outline (in English)】

＊ ＊ Course outline ＊ ＊

One perspective on studying languages is to focus on the so-called 'standard language' of each language. However, as a matter of course, each language does not consist only of a 'standard language'. This lecture attempts to give an overview of some of the main phonetic and grammatical characteristics of both the 'standard' and 'dialects' of the Japanese language.

＊ ＊ Learning Objectives ＊ ＊

The students are expected to be able to 'see and think things' with a view to standard and dialectal languages.

＊ ＊ Learning activities outside of classroom ＊ ＊

Students will be expected to prepare and submit assignments in advance (answering the assignments and critically reviewing the relevant sections of the textbook). Please be aware that a certain amount of time (typically

4 hours or more) will be required for preparation each time.

＊ ＊ Grading Criteria /Policy ＊ ＊

Preparatory work for each class (30%), and final report (70%).

Plagiarism and unauthorized quotations are not allowed in the assignments and final report, nor is writing only on the content of the textbook or the content presented by the instructor in the lecture.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（9）表現A

藤谷 治

授業コード：A2687 | 曜日・時限：水3/Wed.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学における多様な表現の諸相を、小説を例にとり原理的に考えていきます。

【到達目標】

文学における「表現」の意義、目的を多角的にとらえる。「読む」ことから見えてくる文学のあり方の基本を、小説を例にとって考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

藤谷治「小説は君のためにある」を読みながら、講義形式で進めます。レポートを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「君」とは何か	文学が成り立つ最低必要条件である「君」という存在について
第2回	表現の存在意義	なぜ表現はあるのか
第3回	文学とは何か	文学を定義する
第4回	文学の評価	文学を評価するための基本について
第5回	文学の拠点	文学のありかについて
第6回	書く	文学における創作という側面と、その価値について
第7回	表現と情報	表現と情報の違いについて
第8回	小説 人物の複数性	小説の顕著な特徴である「登場人物」とその複数性について
第9回	作者の存在	小説における作者の役割と、その存在がもたらす文学への影響について
第10回	小説の自由	小説表現が本来持っている自由について
第11回	稗史としての小説	稗史と、その子孫としての小説の一面について
第12回	非現実	小説における荒唐無稽や空想について
第13回	ストーリー	小説にとってのストーリーの位置と価値
第14回	まとめ	これまでのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容によって読むべき文献が指示される可能性あり。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤谷治「小説は君のためにある」（ちくまプリマー新書）

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

授業の参加状況50%。レポート50%。

【学生の意見等からの気づき】

授業後に毎回アクション・ペーパーを提出していただきます。そこからの意見や質問等を選び、次回の授業で応じます。

【その他の重要事項】

講師は小説家。2003年デビュー。2015年『世界でいちばん美しい』で第31回織田作之助賞受賞。他に『いつか棺桶はやってくる』（第21回三島由紀夫賞候補）『船に乗れ！』（第7回本屋大賞第7位）『燃えよ、あんず』『小説は君のためにある』など。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will undertake an elementary study of various aspects of literature with selected examples from novels.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to be able to see the significance of “expression” from multiple perspectives.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before and after each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the textbook.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and short reports (50%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（9）表現B

藤谷 治

授業コード：A2688 | 曜日・時限：水3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学における表現の諸相が、作品を実際を書く上でどのように実現されるか、小説の創作を例にとって解析する。

【到達目標】

表現と創作の実際の困難や非論理性などを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。レポートを課します。

各授業ごとにHoppiにてリアクションペーパーを提出してください。

レポートの課題は授業内、およびHoppiにて告知します。

提出された課題は合否判定の上、短評をつけてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	発想	趣向について
第2回	取材	空気を吸うことについて
第3回	文章	スタイルの選択
第4回	起筆	書き出しについて
第5回	持続	書き続けることの困難
第6回	題名	題名を決める
第7回	人物	性格の否定について
第8回	禁止	自らに課す禁止事項及びボルノの自戒について
第9回	推敲	文章の検討と批判
第10回	改稿	初稿の否定について
第11回	構成	作品全体について
第12回	秘密	語りえないこと及び読者との秘密の共有について
第13回	完成	作品の独立について
第14回	まとめ	一年間のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容によって読むべき文献が指示される可能性あり。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤谷治「燃えよ、あんず」（小学館文庫）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業の参加状況 50%。レポート 50%。

【学生の意見等からの気づき】

「情報」ではなく、経験に基づいた「思索」を中心に講義を進めます。

【その他の重要事項】

職業作家である講師が、創作の現場で考察し、また直面する文学とその表現について指導します。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will analyze the way a story progresses, with selected example from novels, and discuss how aspects of expression are realized in literary works.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand the realistic difficulty and inconsequentiality of expression.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before and after each class meetings, students will be expected to spend two hours to read the textbook.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and short reports (50%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（10）演劇A

深澤 希望

授業コード：A2689 | 曜日・時限：水1/Wed.1
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

台本を読解した上で、映像で舞台を鑑賞する。狂言という演劇の特徴を理解し、作品を深く味わう。

【到達目標】

- ・鑑賞する上で必要な基本的な知識を習得し、狂言という芸能について自分の言葉で説明できるようになる。
- ・狂言の台詞の特徴を理解し、作品の内容を解釈できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業。基本的には講義形式で進めるが、台本の音読は受講生にも参加してもらう。舞台芸術を取り上げる授業のため、視聴覚資料を用いる。古典芸能である狂言は、独自の約束事が多い。毎回配布するコメントカードに疑問に思った事柄等を積極的に記入してほしい。回答は次回の授業冒頭で行い、フィードバックしながら授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	狂言とは何か
第2回	狂言「附子」を読む	狂言の台本について知る
第3回	狂言「附子」を鑑賞する	狂言の主従関係①太郎冠者・次郎冠者VS主
第4回	狂言「呼声」を読む	狂言の主従関係②太郎冠者VS主・次郎冠者
第5回	狂言「呼声」を鑑賞する	囃子物の効果
第6回	狂言「鞍馬」を読む	狂言の主従関係③大名・太郎冠者・猿引
第7回	狂言「鞍馬」を鑑賞する	動物を演じること
第8回	狂言「鎌腹」を読む	狂言に描かれる夫婦関係
第9回	狂言「鎌腹」を鑑賞する	わわしい女と頼りない男
第10回	狂言「節分」を読む	狂言に描かれる鬼
第11回	狂言「節分」を鑑賞する	鬼の演技
第12回	狂言「無布施経」を読む	狂言に描かれる宗教者
第13回	狂言「無布施経」を鑑賞する	「間」の演技
第14回	まとめ	狂言の広がり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習の時間は各2時間を標準とする。準備学習は台本を精読し正確に音読できるようすること、復習は鑑賞後の感想をまとめ疑問点を明かにすること等を中心に取り組んでほしい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、プリントを随時配布する。

【参考書】

小山弘志編『狂言鑑賞案内』岩波講座能・狂言7（岩波書店、1990）

【成績評価の方法と基準】

コメントカード（毎回）70％、学期末レポート30％

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge about Kyōgen.

The goal of this course is to enable students to interpret Kyōgen works.

Lecture/two credits

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Comment cards: 70%, Term-end report: 30%

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（10）演劇B

深澤 希望

授業コード：A2690 | 曜日・時限：水1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

謡曲を読解した上で、映像で舞台を鑑賞する。能という芸能の特徴を理解し、作品を深く味わう。

【到達目標】

謡曲を読解した上で、映像で舞台を鑑賞する。能という芸能の特徴を理解し、作品を深く味わう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業。基本的には講義形式で進めるが、台本の音読は受講生にも参加してもらう。舞台芸術を取り上げる授業のため、視聴覚資料を用いる。古典芸能である能は、独自の約束事が多い。毎回配布するコメントカードに疑問に思った事柄等を積極的に記入してほしい。回答は次回の授業冒頭で行い、フィードバックしながら授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	能とは何か
第2回	能「実盛」を読み・鑑賞する①	世阿弥伝書、本説『平家物語』
第3回	能「実盛」を読み・鑑賞する②	アイの独語、ワキの独語、シテの登場
第4回	能「実盛」を読み・鑑賞する③	シテ・ワキの応対
第5回	能「実盛」を読み・鑑賞する④	アイの物語、ワキの待受、後ジテの登場
第6回	能「実盛」を読み・鑑賞する⑤	ワキ・シテの応対、シテの物語①
第7回	能「実盛」を読み・鑑賞する⑥	シテの物語②
第8回	能「井筒」を読み・鑑賞する①	世阿弥伝書、本説『伊勢物語』
第9回	能「井筒」を読み・鑑賞する②	ワキの登場、前シテの登場
第10回	能「井筒」を読み・鑑賞する③	ワキ・シテの応対
第11回	能「井筒」を読み・鑑賞する④	前シテの物語
第12回	能「井筒」を読み・鑑賞する⑤	アイの語り、ワキの待受、後ジテの登場
第13回	能「井筒」を読み・鑑賞する⑥	後ジテの舞事、結末
第14回	まとめ	世阿弥の作能法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習の時間は各2時間を標準とする。準備学習は台本を精読し正確に音読できるようすること、復習は鑑賞後の感想をまとめ疑問点を明らかにすること等を中心に取り組んでほしい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、プリントを随時配布する。

【参考書】

小山弘志ほか編『能鑑賞案内』岩波講座能・狂言6（岩波書店、1989）
別冊太陽 日本のこころ 173『能』（平凡社、2010年）

【成績評価の方法と基準】

コメントカード（毎回）70％、学期末レポート30％

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge about Nō.

The goal of this course is to enable students to interpret Nō works.

Lecture/two credits

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Comment cards: 70%, Term-end report: 30%

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（10）演劇C

上野 火山

夜間時間帯

授業コード：A2691 | 曜日・時限：火5/Tue.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は『比較演劇論』といいます。ここでは古今東西、そしてジャンルを問わず、社会学的視点、思想史的視点、及び政治経済的視点から人間の行う演劇の営為を観察し比較することで、現代に失われ理解されないままに置かれた価値観や倫理を再発見し、「今」を理解したいと思います。

【到達目標】

< 到達目標> 受講者は、受身のまま、思考停止状態に甘んじることなく、批判的及び批評的に思考することを正しく理解し、作品鑑賞のみならず現実世界に応用できるようにする。

< 講義内容> 演劇とはドラマです。舞台芸術を始め、映画、テレビ、ラジオ、インターネットといった様々なメディアを通じ、演劇は姿を変えながらも存在し続けています。あるメディアと別のメディア、海外と日本、過去と現在、日常と非日常、見えるものと見えないもの、見せられているものと隠れているもの、といった比較対照を通して、失われ見えにくくなったり、あるいはまた、あらかじめ隠されているものを発見し、在るはずの、在るべきものを見いだしてみたいと思います。演劇はどこへ向かうのだろうか。このまま権力のプロパガンダに墮すのだろうか。それを考えることは我々自身がどこへ向かっているのかを見据えることになると思います。作品自体の比較もさることながら、方法論の差異、世界における観価値観の差異、時代の差異、思想の差異といった比較を通して「ドラマ」あるいは「物語」の共通性や普遍性へ向かい、単なる「消費者」ではない「真の良き観客」をめざしたいと思います。仮にあなたが創作者であろうとも、すべては「真の良き観客」であるところから始まるのですから。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心に行います。授業ごとにリアクションペーパーを出して頂き、各講義の最初にリアクションペーパーの内容を一部取り上げ、質問等にも答えていきます。時にはディスカッションも組み込みたいと思いますので、発言を求められた場合は積極的にお願いします。講義中に映像等の資料も観ていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	演劇（ドラマ）とは何か	比較演劇論への招待
2	テレビドラマの可能性 1	テレビという媒体の絶望と希望の絶望の間で
3	映画と演劇の「劇場性」	その歴史と未来:劇場とは何か
4	テレビドラマの可能性 2	付度し萎縮する媒体とその未来とは
5	< 映像作品を観る >	「劇映画」を授業内で観ます
6	演劇の制度化:80 年代以降のポストモダニズムの系譜	ポストモダニズムとは何だったのか; 現代への影響と余韻
7	リアルとは何か	現在のリアリティー; 空気を読む時代
8	禁忌(タブー)について	疑問を持ってはならない:教育の刃
9	メディアコントロールの自覚	劇場化した政治経済と民主主義の幻想; 市民の家畜化
10	ネオリベラリズムと演劇: もしくはグローバル化と演劇	ステルスマーケティングとサブリミナルの実在; 演劇の価値観付与機能
11	< 映像作品を観ます >	ドキュメンタリー作品を授業内で観ます
12	日本人の戦後教育の実態	終わりのなき戦後 GHQ の影とその影響; 現在の日本の真の姿と形
13	共感と反感の次元へ	「共感」とその可能性:孤立化し分断された時代に「再発見」しなくてはならないもの
14	前期のまとめと前期試験	与えられたテーマに沿った「小論文」試験です。テーマは前もって講義の中でお伝えします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この講義に出る限りは、できる限り多くの舞台作品、もしくは映像作品に触れて欲しいと思います。そして講義で触れた文献の読書及び作品の鑑賞、それらが準備であり復習です。従って、本授業の準備・復習時間は、紹介作品の鑑賞を含め各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用致しません。

【参考書】

特に用意して頂く参考書はございません。毎回、レジュメ(プリントもしくはPDF)を講義内、もしくはオンラインでお渡しします。参考文献等はレジュメに明記します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は以下の通りに行います。

●平常点(授業への参加態度を含む) 70%

●小論文試験30%

※注意点! 「試験」のみの参加では単位にはなりません。

【学生の意見等からの気づき】

種々様々な問題が噴出しているこの萎縮した時代にあつて、例年にも増して、更に一層自分自身の言葉を大切に、学生諸君に伝えていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません

【Outline (in English)】

Course Outline:

The theme of this course is “Comparative Dramatics.” It represents a means of analyzing drama with a view to understanding the meaning and value of our current reality from sociological, ideological, philosophical, political-economic and other perspectives.

Learning Objectives:

On completing this course, students will be able to correctly understand how to think critically, without being passive or in a state of suspended thinking, and will be able to apply this knowledge not only to the appreciation of works of art but also to the real world.

Learning Activities Outside of the Classroom:

If you attend this lecture, I would like you to be exposed to as many theatrical or visual works as possible. For preparation and review students should read the literature and view the works mentioned in the lecture. Standard preparation and review time for this class is 2 hours each, including the viewing of the works introduced in the lecture.

Grading Criteria/Policy:

Ordinary marks including class

participation (70%); essay exam (30%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（10）演劇D

上野 火山

夜間時間帯

授業コード：A2692 | 曜日・時限：火5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は『比較演劇学』といいます。ここでは古今東西、そしてジャンルを問わず、社会学的視点、思想史的視点、及び政治経済的視点から人間の行う演劇の営為を観察し比較することで、現代に失われ理解されないままに置かれた価値観や倫理を再発見し、「今」を理解したいと思います。

【到達目標】

< 到達目標 > 受講者は、受身のまま、思考停止状態に甘んじることなく、批判的及び批評的に思考することを正しく理解し、作品鑑賞のみならず現実世界に応用できるようにする。

< 講義内容 > 演劇とはドラマです。舞台芸術を始め、映画、テレビ、ラジオ、インターネットといった様々なメディアを通じ、演劇は姿を変えながらも存在し続けています。あるメディアと別のメディア、海外と日本、過去と現在、日常と非日常、見えるものと見えないもの、見せられているものと隠れているもの、といった比較対照を通して、失われ見えにくくなったり、あるいはまた、あらかじめ隠されているものを発見し、在るはずの、在るべきものを見いだしてみたいと思います。演劇はどこへ向かうのだろうか。このまま権力のプロパガンダに墮すのだろうか。それを考えることは我々自身がどこへ向かっているのかを見据えることになると思います。作品自体の比較もさることながら、方法論の差異、世界における観価値観の差異、時代の差異、思想の差異といった比較を通して「ドラマ」あるいは「物語」の共通性や普遍性へ向かい、単なる「消費者」ではない「真の良き観客」をめざしたいと思います。仮にあなたが創作者であろうと、すべては「真の良き観客」であるところから始まるのですから。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心に行います。授業ごとにリアクションペーパーを出して頂き、各講義の最初にリアクションペーパーの内容を一部取り上げ、質問等にも答えていきます。時にはディスカッションも組み込みたいと思いますので、発言を求められた場合は積極的にお願いします。講義中に映像等の資料も観ていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	エンターテインメント	娯楽の価値と、武器としての娯楽を考える
2	不条理と物語ること	我々の価値観を知らぬ間に決定づける隠喩とは
3	永遠と一日	「反復とずれ」から考える小津安二郎の世界
4	夢見る力について	スノビズムとシニシズムの超克
5	日常の向う側	創り手のモラル（道徳）とエスィックス（倫理）の問題
6	< 映像作品 > を観ます	劇映画を観ます
7	コーポラティズム（企業中心主義）の世界	極端な商業主義的、もしくは新自由主義的資本主義の下で「芸術」は可能か
8	「ならず者たち」より	J. デリダの最後の言葉から現在の政治のドラマ性と虚偽性を読み解く
9	すべてはラストシーンからはじまった	1970年代という時代
10	メッセージ	本気の時代から、本気を取り戻す時代へ
11	< 映像作品 > を観ます	ドキュメンタリー作品を観ます
12	喜劇と悲劇の間で	日常の何気ない営為こそドラマである
13	「共感の次元」を超えて	「汝と我」を繋ぎ、そして隔てるもの
14	後期のまとめと後期試験	与えられたテーマに沿った「小論文」試験です

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この講義に出る限りは、できる限り多くの舞台作品、もしくは映像作品に触れて欲しいと思います。そして講義で触れた文献の読書及び作品の鑑賞、それらが準備であり復習です。従って、本授業の準備・復習時間は、紹介作品の鑑賞を含め各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用致しません。

【参考書】

特に用意して頂く参考書はございません。毎回、レジュメ(プリントもしくはPDF)を講義内、もしくはオンラインでお渡しします。参考文献等はレジュメに明記します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は以下の通りに行います。

●平常点(授業への参加態度を含む) 70%

●小論文試験30%

※注意点！「試験」のみの参加では単位にはなりません。

【学生の意見等からの気づき】

種々様々な問題が噴出しているこの萎縮した時代にあって、例年にも増して、更に一層自分自身の言葉を大切に、学生諸君に伝えていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline (in English)】

Course Outline:

The theme of this course is “Comparative Dramatics.”

It represents a means of analyzing drama with a view to understanding the meaning and value of our current reality from sociological, ideological, philosophical, political-economic and other perspectives.

Learning Objectives:

On completing this course, students will be able to correctly understand how to think critically, without being passive or in a state of suspended thinking, and will be able to apply this knowledge not only to the appreciation of works of art but also to the real world.

Learning Activities Outside of the Classroom:

If you attend this lecture, I would like you to be exposed to as many theatrical or visual works as possible. For preparation and review students should read the literature and view the works mentioned in the lecture. Standard preparation and review time for this class is 2 hours each, including the viewing of the works introduced in the lecture.

Grading Criteria/Policy:

Ordinary marks including class participation (70%); essay exam (30%).

ART200BC（芸術学 / Art studies 200）		
日本文芸研究特講（11）音楽芸能史 A		
本塚 亘		
授業コード：A2693 曜日・時限：木2/Thu.2 春学期授業/Spring・2単位 配当年次：1～4年		
その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 本授業では、日本の音楽の歴史について、古代・中世を中心に概観しながら、古典文学作品の中に表れる音楽描写について学んでいきます。春学期は「日本の音楽とは何か」という問題について考えます。雅楽や仏教音楽、平家語りなどを中心に、「日本の音楽」を外来文化とのかかわりの中で客観的に捉え、その普遍性と特殊性について考えてみましょう。		
【到達目標】 ・日本音楽史（古代・中世）の概要について理解を深めます。 ・古典文学作品に表れる音楽描写について正確に理解できるようにします。 ・日本の音楽と外来文化との関係性について理解を深めます。 ・日本の音楽の普遍性と客観性について考察を深めます。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連		
【授業の進め方と方法】 原則として対面講義形式での授業を行う予定です。ただし、新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、形式を変更する可能性があります。 授業は4つのテーマ、すなわち「Ⅰ：日本の音楽とは」、「Ⅱ：日本音楽略史」、「Ⅲ：外来楽について」、「Ⅳ：在来楽について」、および「補論」に分かれます。ⅠからⅣについては、小課題として要約などの課題を設けます。 資料の配布・公開、質問の受付、小課題の提出、およびフィードバックは、教室で直接行う場合と、学習支援システムを介して行う場合と、またはこれらを併用する場合とがあります。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし / No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
第1回	テーマ Ⅰ：日本の音楽とは - ガイダンス	内容 授業の進め方、扱う範囲、評価方法等の確認。小課題（全4回）と期末レポートの出題。
第2回	- ジャンルと楽器	雅楽（管絃）に用いられる楽器や楽譜、演奏形式の由来について考える。
第3回	- フィードバック	「Ⅰ：日本の音楽とは」に関する履修者の質問への回答、および補遺。
第4回	Ⅱ：日本音楽略史 - 制度の形成	出土品や『隋書』倭国伝、『古事記』の記述などをもとに、日本の音楽の黎明について学び、その様相や対外的な機能について考える。
第5回	- 確立と発展	律令制度の整備に伴って組織化された日本の音楽の体系を学び、その機能や思想的背景について考える。
第6回	- フィードバック	「Ⅱ：日本音楽略史」に関する履修者の質問への回答、および補遺。
第7回	Ⅲ：外来楽について - 舞楽（左方・右方）	舞楽（左方・右方）の編成や形式などについて学び、『源氏物語』における舞楽の描写を鑑賞する。
第8回	- 管絃と御遊	管絃の編成や御遊の形式などについて学び、『源氏物語』における管絃の描写を鑑賞する。
第9回	- フィードバック	「Ⅲ：外来楽について」に関する履修者の質問への回答、および補遺。
第10回	Ⅳ：在来楽について - 国風歌謡	国風歌舞（久米舞、大和舞、東遊などの在来歌舞）について学び、その由来や享受について考える。
第11回	- 催馬楽について	御遊などで歌われる催馬楽について学び、その音楽性や歌謡の性質について学ぶ。
第12回	- フィードバック	「Ⅳ：在来楽について」に関する履修者の質問に回答、および補遺。
第13回	V：補論 - 源氏物語と音楽	『源氏物語』における音楽場面（舞楽・管絃・催馬楽など）について取り上げる。
第14回	- 平家語り、語り物の普遍性	平家語りについて学び、雅楽や声明から受けた影響について考える。また国外の語り物文化との関係について学び、語り物芸能の普遍性について考える。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 授業時間外に、学習支援システム上で小課題等の入力をお願いします。 ・小課題：テーマ毎（Ⅰ～Ⅳ）に要約等の課題を設けます。全4回。 ・期末レポート：3000字程度のレポートを課します。 ・質問（任意）：毎時受け付けます。 ・アンケート（任意）：都度協力をお願いする場合があります。 課題回答、および準備学習・復習については4時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】 なし。教室での配布資料、または学習支援システムを経由して資料を公開します。		
【参考書】 ・岸辺成雄『古代シルクロードの音楽』（講談社、1982） ・平野健二ほか編『日本音楽大事典』（平凡社、1989） ・『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社、2007） ・遠藤徹『雅楽を知る事典』（東京堂出版、2013） その他、授業時に適宜紹介します。		
【成績評価の方法と基準】 すべての授業に出席していただくことを前提に授業を進めます。そのため、特別な事由がある場合を除き、5回以上の欠席がある受講者は評価不可となります（休講・公欠は出席としてカウントします）。その上で、【到達目標】に照らして以下の2項目を評価の対象とします。 ・小課題 60% ・期末レポート 40%		
【学生の意見等からの気づき】 2023- ・毎時の学習到達目標を明確にする。 ・学生の反応をみながら難易度を適宜調整する。 2024- ・小課題・期末レポートの出題・回答期間の調整。 ・小課題の評点および採点基準の一部開示。 ・小課題の主題内容、難易度、回答条件の調整。 ・単位修得の条件として最低出席回数を設定。		
【学生が準備すべき機器他】 自宅等で学習支援システムにアクセスできるPC、インターネット環境を用意してください。教室内でPCを利用してもかまいませんが、必須ではありません。		
【その他の重要事項】 新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、上記の授業内容を変更する可能性があります。変更があった場合は、学習支援システムにて連絡いたします。		
【Outline (in English)】 Outline: This is an undergraduate-level lecture that provides an overview of Japanese music from the ancient to early medieval period, while interpreting the depiction of music in classical literary works. In the spring semester, we will focus on the question “What is Japanese music?” by learning about <i>gagaku</i> , Buddhist music, <i>Heike-gatari</i> and so on. We objectively consider these genres of “Japanese music” in relation to foreign cultures and learn about their universal and unique characteristics. Goals: By the end of the course, students should have deepened their understanding of the following: - The basics of ancient and medieval Japanese music history. - The depiction of music in classical literary works. - The relationship between Japanese music and foreign cultures. - The universality and objectivity of Japanese music. Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading Criteria/Policies: Attendance in all classes. Students who miss more than 5 classes will not be evaluated unless there is a justifiable reason, such as an official absence. And in accordance with the above Goals , the following two elements will be graded: - Subtasks (60%). - Final report (40%).		

ART200BC（芸術学 / Art studies 200）

日本文芸研究特講（11）音楽芸能史B

本塚 亘

授業コード：A2694 | 曜日・時限：木2/Thu.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の音楽の歴史について、古代・中世を中心に概観しながら、古典文学作品の中に表れる音楽描写について学んでいきます。秋学期は「うたと音楽との関係」について考えます。和歌や催馬楽、朗詠などを中心に、旋律に乗って歌われる言葉の機能や、替え歌によって生じるイメージの拡がり进行分析し、その多様性と歴史的な複層性について考えてみましょう。

【到達目標】

- ・日本音楽史（古代・中世）の概要についての理解を深めます。
- ・古典文学作品に表れる音楽描写について正確に理解できるようにします。
- ・日本の「うた」の文学性と音楽性についての理解を深めます。
- ・歌謡における旋律と詞章との重層的な関係について考察を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として対面講義形式での授業を行う予定です。ただし、新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、形式を変更する可能性があります。

授業は4つのテーマ、すなわち「Ⅰ：和歌をうたう」、「Ⅱ：表記と歌唱形式」、「Ⅲ：和歌のレトリック」、「Ⅳ：歌合について」、および「補論」に分かれます。ⅠからⅣについては、小課題として要約などの課題を設けます。

資料の配布・公開、質問の受付、小課題の提出、およびフィードバックは、教室で直接行う場合と、学習支援システムを介して行う場合と、またはこれらを併用する場合とがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Ⅰ：和歌をうたう - ガイダンス	授業の進め方、扱う範囲、評価方法等の確認。小課題（全4回）と期末レポートの出題。
第2回	- 和歌の歌唱例	現代における和歌の発声・歌唱例を鑑賞する。
第3回	- フィードバック	「Ⅰ：和歌をうたう」に関する履修者の質問への回答、および補遺。
第4回	Ⅱ. 表記と歌唱形式 - 『万葉集』のうたいかた	『万葉集』中の歌の発声や演奏に関する表現を概観し、音声としての和歌の享受の在り方を学ぶ。
第5回	- 歌謡と歌体	記紀歌謡や『万葉集』における歌体と、『琴歌譜』などで実際に歌われた形式とを比較し、その関係を学ぶ。
第6回	- フィードバック	「Ⅱ. 表記と歌唱形式」に関する履修者の質問への回答、および補遺。
第7回	Ⅲ：和歌のレトリック - 上代～中古	和歌（短歌）の成立過程、および枕詞、序詞などのレトリックについて学び、その発声上の機能について考える。
第8回	- 中世・その他	縁語や掛詞、本歌取り、体言止めなどのレトリックについて学び、和歌史における質的な変遷について考える。
第9回	- フィードバック	「Ⅲ：和歌のレトリック」に関する履修者の質問への回答、および補遺。
第10回	Ⅳ：歌合について - 初期の歌合	歌合の歴史を概観しながら、初期歌合における演出や、和歌の詠唱方法、歌の評価観等について学ぶ。
第11回	- 歌合の変遷	平安時代末から中世にかけて起こった歌合の変化について学ぶ。
第12回	- フィードバック	「Ⅳ：歌合について」に関する履修者の質問への回答、および補遺。
第13回	補論 - 越殿楽の系譜	雅楽が寺院歌謡に取り込まれ、やがて越殿楽歌物として様々な芸能分野に拡散していく過程を追う。

第14回 - 君が代の歴史

和歌や朗詠、隆達節歌謡など、様々な形で伝播し、やがて数奇な運命をたどるに至った「君が代」について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、学習支援システム上で小課題等の入力をお願いします。

- ・小課題：テーマ毎（Ⅰ～Ⅳ）に要約等の課題を設けます。全4回。
 - ・期末レポート：3000字程度のレポートを課します。
 - ・質問（任意）：毎時受け付けます。
 - ・アンケート（任意）：都度協力を願います場合があります。
- 課題回答、および準備学習・復習については4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。教室での配布資料、または学習支援システムを経由して資料を公開します。

【参考書】

- ・平野健二ほか編『日本音楽大事典』（平凡社、1989）
 - ・青柳隆『日本朗詠史 研究篇』（笠間書院、1999）
 - ・『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社、2007）
 - ・渡部泰明編『和歌とは何か』（岩波文庫 新赤版 1198、2013）
- その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

すべての授業に出席していただくことを前提に授業を進めます。そのため、特別な事由がある場合を除き、5回以上の欠席がある受講者は評価不可となります（休講・公欠は出席としてカウントします）。その上で、【到達目標】に照らして以下の2項目を評価の対象とします。

- ・小課題 60%
- ・期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

2023-

- ・毎時の学習到達目標を明確にする。
- ・学生の反応をみながら難易度を適宜調整する。

2024-

- ・小課題・期末レポートの出題・回答期間の調整。
- ・小課題の評点および採点基準の一部開示。
- ・小課題の主題内容、難易度、回答条件の調整。
- ・単位修得の条件として最低出席回数を設定。

【学生が準備すべき機器他】

自宅等で学習支援システムにアクセスできるPC、インターネット環境を用意してください。教室内でPCを利用してもかまいませんが、必須ではありません。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、上記の授業内容を変更する可能性があります。変更があった場合は、学習支援システムにて連絡いたします。

【Outline (in English)】

Outline: This is an undergraduate-level lecture giving an overview of Japanese music from the ancient to early medieval period, while interpreting the depiction of music in classical literary works. In the autumn semester, we center on the relationship between song and music by learning about *waka*, *saibara*, *rōei*, and so on. We analyze the function of the words sung to the melody and the spread of the image caused by change in the lyrics, and think about the diverse and historical multilayered nature of song.

Goals: By the end of the course, students should have deepened their understanding of the following:

- The basics of ancient and medieval Japanese music history.
- The depiction of music in classical literary works.
- The literary and musical characteristics of ancient Japanese *uta* songs.
- The multilayered relationship between melody and lyrics.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Attendance in all classes. Students who miss more than 5 classes will not be evaluated unless there is a justifiable reason, such as an official absence. And in accordance with the above **Goals**, the following two elements will be graded:

- Subtasks (60%).
- Final report (40%).

LIT300BC（文学 / Literature 300）		
日本文芸研究特講（１２）詩歌 A		
山崎 修平		
授業コード：A2695 ｜ 曜日・時限：水 4/Wed.4 春学期授業/Spring・2 単位 ｜ 配当年次：2～4 年		
その他属性：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 詩歌を読み、書く授業です。 古今東西のいわゆる文学作品としての詩だけではなく、日常にあるさまざまな詩を探します。 歌詞、キャッチコピー、手紙にも、そして写真、絵画、映画、演劇といった多分野にわたって詩は潜んでいます。 「これは詩だ！」、「これも詩だ！」という発見と驚きの授業にしたいと思います。		
【到達目標】 自分の言葉で詩歌を書くことができる。 日常から詩歌を探し出すことができる。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連		
【授業の進め方と方法】 講義形式と詩のワークショップ形式のどちらも採り入れて実践します。 講義形式では、さまざまな詩歌を紹介し、詩の広さや楽しさについて学びます。 ワークショップ形式では、グループワークやディスカッションといった、いわゆるアクティブラーニングを取り入れながら、自分の言葉で詩を見つけ、書き上げます。また、最終回はまとめとして、受講生の作品をそれぞれがポエトリーリーディング（詩の朗読）することを予定しています。 リアクションペーパーや、書き上げた詩の提出等によって成績を評価します。毎授業の冒頭で、前回授業の振り返りをします。リアクションペーパーや提出された詩のなかから優れたものを取り上げてコメントする場合があります。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり /Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 あり /Yes		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	講師と受講生の自己紹介のあと、授業の概要や進め方について説明します。
第二回	これも詩だ！あれも詩だ！	「詩」と聞くと、高尚な文学作品ではないかと、構えてしまいがちです。歌詞や、漫画、アニメ等々、さまざまなところに詩は潜んでいます。広く大きな詩の世界に旅立ちましょう。
第三回	「他人」となって詩を書いてみよう	歴史上の人物、友達、悪人、想像上の人等、「他人」に成り代わって言葉を組み立てて詩を書きます。
第四回	短歌の面白さについて触れよう	五七五七七の定型詩である短歌について、現代短歌の有名歌について紹介します。また、キャッチコピーや歌詞にある「定型」の感覚について学びます。
第五回	歌会をしてみよう	受講生が予め作った短歌を持ち寄って歌会をします。受講人数にも依りますが、グループ毎にディスカッションするかたちを想定しています。
第六回	現代詩の面白さについて触れよう	現代詩の作品をさまざま紹介します。気になる詩、わからない詩、難しい詩、共感する詩、さまざまな詩と出会いましょう。
第七回	詩を探しに行こう	受講人数や、天候にも依りますが、教室を離れ、散策するなかで詩の素になるものを探していきます。
第八回	詩を読み合おう	受講生同士で、あるいはグループとなって詩の批評をします。他者との読み方や書き方の違いから、自分だけの言葉を探します。
第九回	実験詩の実践	シュルレアリスムの手法を取り入れて、実験的な詩を書きます。
第十回	海外詩と日本詩	海外の詩を読み、日本の詩との違いを学びます。また、翻訳の違いによって読後の印象にどのような変化があるかを学びます。
第一一回	自分のことを詩歌にしてみよう	自分の体験や経験から、自分だけの言葉を引き出して詩歌にします。
第一二回	街にある詩、詩がある街	受講生が街で見つけた詩を発表します。キャッチコピー、言葉に限らず、写真、音、映像、どのような形態でも構いません。
第一三回	連詩	グループ毎に協力してひとつの詩を書き上げます。
第一四回	ポエトリーリーディング	受講生の書いた作品を持ち寄ってポエトリーリーディング（詩の朗読会）をします。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 毎回のリアクションペーパーの他、創作した詩歌の提出を数回程度課題とします。 本授業の準備・復習時間は、各四時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】 ありません。 必要が生じた際は、レジュメを配布します。		
【参考書】 山崎修平『テゲベックのきれいな香り』（河出書房新社） 山崎修平『ダンスする食う寝る』（思潮社） 山崎修平『ロックンロールは死んだらしいよ』（思潮社） あくまでも参考です。授業には、必ずしも持参せずとも構いません。		
【成績評価の方法と基準】 リアクションペーパー・課題提出 70 % 平常点 30 %		
【学生の意見等からの気づき】 本年度より当授業を担当するため、フィードバックはできません。		
【学生が準備すべき機器他】 資料配布や課題提出等のために学習支援システムを利用します。 フィールドワークの際など、詩を書くときには電子機器ではなく、筆記用具で書くことを勧めますが、各々の書きやすいやり方で構いません。		
【その他の重要事項】 この授業は実務経験のある教員による授業です。 詩や小説の創作、及び文芸批評や書評、創作ワークショップ等の実務経験を有しています。 履修者数が多数の場合、抽選等の方法によって履修者数に制限をかける場合があります。		
【Outline (in English)】 【授業の概要（Course outline）】 This class is for reading and writing poetry. 【到達目標（Learning Objectives）】 To be able to write poetry in one's own words. To be able to find poems from daily life. 【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】 In addition to each reaction paper, students will be assigned several times to submit poems they have created. The standard preparation and review time for this class is four hours each. 【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】 Reaction paper/ assignment submission 70 % Usual performance score 30%.		

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸研究特講（1 2）詩歌 B

山崎 修平

授業コード：A2696 | 曜日・時限：水 4/Wed.4
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

詩歌を読み、書く授業です。
古今東西のいわゆる文学作品としての詩だけではなく、日常にあるさまざまな詩を探します。
歌詞、キャッチコピー、手紙にも、そして写真、絵画、映画、演劇といった多分野にわたって詩は潜んでいます。
「これは詩だ!」、「これも詩だ!」という発見と驚きの授業にしたいと思います。

【到達目標】

自分の言葉で詩歌を書くことができる。
日常から詩歌を探し出すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式と詩のワークショップ形式のどちらも採り入れて実践します。
講義形式では、さまざまな詩歌を紹介し、詩の広さや楽しさについて学びます。
ワークショップ形式では、グループワークやディスカッションといった、いわゆるアクティブラーニングを取り入れながら、自分の言葉で詩を見つけ、書き上げます。また、最終回はまとめとして、受講生の作品をそれぞれがポエトリーリーディング（詩の朗読）することを予定しています。
リアクションペーパーや、書き上げた詩の提出等によって成績を評価します。
毎授業の冒頭で、前回授業の振り返りをします。リアクションペーパーや提出された詩のなかから優れたものを取り上げてコメントする場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	講師と受講生の自己紹介のあと、授業の概要や進め方について説明します。
第二回	詩であるもの、詩ではないもの	詩ではないものを考えることによって、詩であるものを学んでいきます。
第三回	他人の言葉を引用して詩を書く	自己意識や癖から離れて、他人の言葉を引用します。敢えて自分らしさから外れることによって自己の言葉を見つめ直します。
第四回	現代短歌の楽しさ	現代短歌の歌人、特に若手と言われる歌人の作品について学びます。
第五回	歌会をしてみよう	受講生が予め作った短歌を持ち寄って歌会をします。受講人数にも依りますが、グループ毎にディスカッションするかたちを想定しています。
第六回	現代詩の面白さについて触れよう	現代詩の作品をさまざま紹介します。気になる詩、わからない詩、難しい詩、共感する詩、さまざまな詩と出会いましょう。
第七回	詩を探しに行こう	受講人数や、天候にも依りますが、教室を離れ、散策するなかで詩の素になるものを探しにいきます。
第八回	詩を読み合おう	受講生同士で、あるいはグループとなって詩の批評をします。他者との読み方や書き方の違いから、自分だけの言葉を探します。
第九回	実験詩の実践	現在の詩における実験的な詩を紹介した上で、受講者も実験的な詩を書くことを試みます。
第十回	海外詩について	海外の詩が日本に「輸入」され、日本の詩人に「影響」を及ぼしたことについて学びます。
第一一回	創作上の「自分について」書いてみよう	あくまでもフィクションalブルな存在としての自分の体験や経験から、自分だけの言葉を引き出して詩歌にします。
第一二回	街にある詩、詩がある街	受講生が街で見つけた詩を発表します。キャッチコピー、言葉に限らず、写真、音、映像、どのような形態でも構いません。
第一三回	連詩	グループ毎に協力してひとつの詩を書き上げます。

第一四回 ポエトリーリーディング 受講生の書いた作品を持ち寄ってポエトリーリーディング（詩の朗読会）をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回のリアクションペーパーの他、創作した詩歌の提出を数回程度課題とします。
本授業の準備・復習時間は、各四時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ありません。
必要が生じた際は、レジュメを配布します。

【参考書】

山崎修平『テゲベックのきれいな香り』（河出書房新社）
山崎修平『ダンスする食う寝る』（思潮社）
山崎修平『ロックンロールは死んだらしいよ』（思潮社）
あくまでも参考です。授業には、必ずしも持参せずとも構いません。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー・課題提出 70 %
平常点 30 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度より当授業を担当するため、フィードバックはできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等のために学習支援システムを利用します。
フィールドワークの際など、詩を書くときには電子機器ではなく、筆記用具で書くことを勧めますが、各々の書きやすいやり方で構いません。

【その他の重要事項】

この授業は実務経験のある教員による授業です。
詩や小説の創作、及び文芸批評や書評、創作ワークショップ等の実務経験を有しています。
履修者数が多数の場合、抽選等の方法によって履修者数に制限をかける場合があります。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】 This class is for reading and writing poetry.

【到達目標 (Learning Objectives)】 To be able to write poetry in one's own words. To be able to find poems from daily life.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】 In addition to each reaction paper, students will be assigned several times to submit poems they have created.

The standard preparation and review time for this class is four hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Reaction paper/ assignment submission 70 %
Usual performance score 30%.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸研究特講（1 3）児童文芸A

渋谷 百合絵

授業コード：A2697 | 曜日・時限：金1/Fri.1
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近代児童文学において中心的な役割を果たした、「童話」というジャンルの成立過程とその表現形式としての特殊性について理解する。前期には、明治期の巖谷小波のお伽噺の成立から、大正期の児童雑誌『赤い鳥』の文体改革の成果を概観するとともに、大正期童話運動が鈴木三重吉ら文壇作家によって牽引されたことをふまえ、小川未明や佐藤春夫の作品を具体的に分析することを通じて、近代小説と童話の関係についても考えていく。

【到達目標】

江戸期の絵入り小説から明治のお伽噺、近代童話がいかに確立されたか、その成立課程と表現形式の特殊性を理解する。授業中に取り上げる具体的なお伽噺、童話作品について、授業中に出される課題に基づいて分析し、ディスカッションを通じて考えを深め、上述の表現史や表現形式の特殊性を捉えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義を基本とするが、授業中に作品や資料を読み、授業者が提示する問に基づいて自分の考えをまとめ、意見交換を行う。議論への積極的な参加、発言を求める。授業後にはHoppiiの授業内掲示板に上述の問についての自分の考えや、感想を投稿し、出席確認をすること。具体的な授業の準備等は、授業中に指示する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	近代児童文学史の概観・「童話」の定義	本講義の概要を捉える。また「童話」という語をめぐる言葉の歴史を辿る。
第2回	「童話」批評史	大正期童話運動における作家たち、神話学者たち、それぞれの立場から「童話」がどのように論じられてきたかを把握する。
第3回	戦後の私小説批判と「童話伝統批判」との関係	戦後の私小説批判と「童話伝統批判」の関係をとらえることで、今日の「童話」評価を決定づける「童話伝統批判」の有効性を再考する。
第4回	巖谷小波の功績と黄表紙からの影響	巖谷小波の功績を概観するとともに、雑誌『少年世界』上に展開された小波のお伽噺の表現の可能性を、江戸期の黄表紙の影響に着目して探って行く。
第5回	巖谷小波の『日本昔噺』	巖谷小波の重要な功績の一つである『日本昔噺』シリーズの表現の特徴を捉え、本シリーズに向けられた研究上の批判を再検討する。
第6回	『赤い鳥』の文体改革	巖谷小波のお伽噺文体と比較することで、『赤い鳥』が文体の変革を第一に目指したことを理解し、『赤い鳥』の童話文体がもたらしたものを捉える。
第7回	小川未明 小説から童話へ	童話創作の前段階となる小川未明の小説の特質や問題意識を探り、未明童話が如何にして生み出されたかを考察する。
第8回	「赤い蠟燭と人魚」分析①	「赤い蠟燭と人魚」に対する戦後の批判を概観することで、未明童話に対する戦後の児童文学者たちの評価を捉える。また語りの意図に着目して作品分析を行う。
第9回	「赤い蠟燭と人魚」分析②	「赤い蠟燭と人魚」に取り込まれた、昔話の類型や、修辭表現に着目して分析を行い、未明童話への批判を再考する。
第10回	プロレタリア児童文学の動き	大正末期の未明童話の可能性を探る上で、初期プロレタリア児童文学において「童話」が果たした役割を理解する。

第11回	小川未明「白刃に載る火」分析	「童話作家宣言」直前の、未明のプロレタリア童話を分析し、「童話」という表現形式が持つ効果をプロレタリア文学の枠組みのなかで捉えていく。
第12回	佐藤春夫 小説から童話へ	佐藤春夫の初期小説と童話との関係を「家」の概念に着目して明らかにし、文壇の小説との関わりの中で「童話」が確立されていった可能性を探る。
第13回	白樺派と「子ども」・童話	白樺派の文学に現れる「子ども」の概念と、白樺派の作家たちが書いた童話作品との関わりを探り、大正期童話が描こうとした「子ども」とは何かを考える。
第14回	『赤い鳥』綴方教育の功罪 ＊期末試験を行う可能性あり	『赤い鳥』の童話文体は、綴方教育との相互関係で培われた。そうした文体が、戦時の綴方ブームにおいてどのような効果を発揮したかを探り、『赤い鳥』の童話・綴方文体の評価を再考する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的には授業中に指示するが、講義で扱う作品や資料を事前に読んでおく。講義後の感想を必ずHoppiiに投稿し出席確認をとること。講義をふまえて作品や資料を読み直す。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各作家の作品集・全集

事前に配信・授業中に配布する資料

【参考書】

鳥越信編『はじめて学ぶ 日本児童文学史』ミネルヴァ書房 3,300円

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムの授業内掲示板に毎回授業中の問に対する自分の意見・感想を投稿し、教員とコミュニケーションをとること。この投稿をもって出席とする。

平常点（授業への参加態度・議論への参加度）30%

授業後に投稿する意見や感想30%

期末試験（論述）40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

授業中に指示する・「学習支援システム」

【その他の重要事項】

秋学期との通年履修推奨。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

Students will understand the unique ways of expressing modern Japanese fairy tales. In the spring semester, students will think about how the fairy tale "Akai Tori" was created from Meiji fairy tales. In particular, we will analyze the works of Mimei Ogawa and Haruo Sato, and consider the relationship between modern novels and fairy tales.

【到達目標（Learning Objectives）】

Students will be able to understand how modern Japanese fairy tales were created. In addition, through analysis and discussion of specific works, students will be able to grasp the uniqueness of the expressive form of fairy tales.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students read fairy tales before the lecture. After the lecture, students submit their opinions and thoughts about the lecture to Hoppii. Two hours each will be required for preparation and review for this class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Participation in class 30%, Comments after class 30%, Final exam 40%

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸研究特講（13）児童文芸B

渋谷 百合絵

授業コード：A2698 | 曜日・時限：金1/Fri.1
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の内容を受けて、童話の表現形式の特徴を昔話の様式研究の成果を参照して確認した上で、秋学期は宮沢賢治の童話を取り上げて、その表現の可能性を具体的に検討していく。賢治作品は、同時代の様々な文化的事象をモチーフとして取り込み、童話の表現形式と巧みに融合させることで、独自の作品世界を構築している。自然科学、道德教育、農業、小波お伽噺との接続、宗教、比喩表現などに着目して、作品の表現を丁寧に読み解き、賢治童話の面白さを理解するとともに、「童話」という表現形式は何を表現しうるかを捉えることを目指す。

【到達目標】

春学期にみてきたように、近代の童話は東西の昔話の翻訳・翻案から出発している。マックス・リュティや、ウラジミール・ブロップなどの昔話の様式研究の成果をふまえ、近代の童話表現の特殊性を捉えることができる。宮沢賢治の童話作品を、童話の表現形式の特徴や、同時代の文化的・社会的事象とのつながりに着目して、具体的に読み解くことで、宮沢賢治の童話の独自性を理解するとともに、「童話」という表現形式が小説とどのように異なっているか、どのような点を掘り下げることで新しい読みが見えてくるか、を学ぶことができる。また学期末には、講義で学んだ視点を用いて、自ら童話の作品分析に取り組むことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義を基本とするが、授業中に作品や資料を読み、授業者が提示する問に基づいて自分の考えをまとめ、意見交換を行う。議論への積極的な参加、発言を求める。授業後にはHoppiiの授業内掲示板に上述の問についての自分の考えや、感想を投稿し、出席確認をすること。具体的な授業の準備等は、授業中に指示する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	今学期の予定・賢治童話のイメージ	今学期の目標を確認、ディスカッションのためのグループ編成、宮沢賢治の童話についての意見交換
第2回	リュティ、ブロップの昔話理論から見る童話の特性	マックス・リュティ、ウラジミール・ブロップの理論を理解する。その上で、昔話と童話の共通点、相違点を考察する。
第3回	宮沢賢治「よだかの星」作品分析－童話と科学－①	宮沢賢治の童話「よだかの星」について、まずは『赤い鳥』童話との共通点、相違点を捉える。
第4回	「よだかの星」作品分析－童話と科学－②	「よだかの星」について、同時代の自然科学をどのように取り入れているか、結末をどのように解釈できるかを探っていく。
第5回	「雪渡り」作品分析－童話と道德教育－①	宮沢賢治の童話「雪渡り」について、子どもたちのかけ合う歌の意味や、狐の幻燈会の構成を捉える。
第6回	「雪渡り」作品分析－童話と道德教育－②	「雪渡り」について、同時代の通俗道德教育における幻燈会の役割や、「狐」が近代置かれた状況の変化をふまえて、本作の意義を考える。
第7回	「オツベルと象」作品分析－童話と農業	宮沢賢治の童話「オツベルと象」について、同時代の企業型農場や、プロレタリア童話の枠組みに着目して分析を行う。
第8回	「まなづるとダアリヤ」と「菊の紋」－小波お伽噺との関係－①	宮沢賢治の童話「まなづるとダアリヤ」について、巖谷小波の「菊の紋」との比較を通じて改稿過程の意味を捉える。
第9回	「まなづるとダアリヤ」と「菊の紋」－小波お伽噺との関係－②	「まなづるとダアリヤ」の改稿の意味について、宮沢賢治が参加していた菊花会の社会的意義に着目して考察する。
第10回	「マリヴロンと少女」－童話と宗教－①	宮沢賢治の童話「マリヴロンと少女」について、初期形態「めくらぶだうと虹」からの改稿の意味を捉える。

第11回	「マリヴロンと少女」－童話と宗教－②	「マリヴロンと少女」の改稿の意味について、宮沢賢治が入信していた日蓮宗団体国柱会の言説との関わりから考察する。
第12回	「銀河鉄道の夜」作品分析－童話の比喩表現の効果－①	宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」について、現実／非現実の描き方を分析し、同時代の理科読み物と比較してその特殊性を捉える。
第13回	「銀河鉄道の夜」作品分析－童話の比喩表現の効果－②	「銀河鉄道の夜」について、主人公の心理的傾向、「ほんとうのみんなの幸」という主題の展開を読み解いていく。
第14回	賢治童話の現代的広がり ＊期末試験を行う可能性あり	宮沢賢治の童話が今日の文化に与える影響を、宮崎駿の映画などを取り上げて考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的には授業中に指示するが、講義で扱う作品や資料を事前に読んでおく。講義後の感想を必ずHoppiiに投稿し出席確認をとること。講義をふまえて作品や資料を読み直す。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宮沢賢治の文庫・全集

事前に配信・授業中に配布する資料

【参考書】

鳥越信編『はじめて学ぶ 日本児童文学史』ミネルヴァ書房 3,300円

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムの授業内掲示板に毎回授業中の間に対する自分の意見・感想を投稿し、教員とコミュニケーションをとること。この投稿をもって出席とする。

平常点（授業への参加態度・議論への参加度）30%

授業後に投稿する意見や感想30%

期末試験（論述）40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

授業中に指示する・「学習支援システム」

【その他の重要事項】

春学期との通年履修推奨。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

In the fall semester, students will analyze Kenji Miyazawa's fairy tales and understand the uniqueness of the expressive form of fairy tales. Kenji Miyazawa's fairy tales skillfully fuse various contemporary cultures with the expression form of fairy tales. Through an analysis of Kenji Miyazawa's fairy tales, we will consider what fairy tales can express.

【到達目標（Learning Objectives）】

By analyzing and discussing Kenji Miyazawa's fairy tales, students can understand the appeal of Kenji Miyazawa's fairy tales. Through this, we can also understand how modern fairy tales differ from novels and what they can express.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students read fairy tales before the lecture. After the lecture, students submit their opinions and thoughts about the lecture to Hoppii. Two hours each will be required for preparation and review for this class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Participation in class 30%, Comments after class 30%, Final exam 40%

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸研究特講（14）沖縄文芸A

福 寛美

授業コード：A2699 | 曜日・時限：金3/Fri.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

琉球王国初文字資料である神歌集、『おもろさうし』のおもろ（神歌）に親しむ。また琉球の口頭伝承を記した『遺老説伝（いろうせつでん）』の説話や口頭伝承に影響を及ぼしたと考えられる日本本土由来の説話のことも考察していく。その過程を通し、琉球の神歌や文芸が周辺諸地域と関わりを持ちつつ、独自の世界を形成していることを知ることができる。

【到達目標】

『おもろさうし』は簡単な漢字とひらかなを用いた神歌集であるが、内容は難解で日本本土のどのような歌とも似ていない。その不思議な神歌（おもろ）の世界に分け入り、独特の世界観と信仰を知ることが目的とする。あわせて、琉球王国時代の口頭伝承を書き記した『遺老説伝（いろうせつでん）』、おもろや口頭伝承に影響を及ぼした、と考えられる日本本土由来の説話のことも考察していく。その過程を通し、琉球の神歌や文芸が周辺諸地域と関わりを持ちつつ、独自の世界を形成していることを知ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心とする。琉球・沖縄の文学を知るためには、民俗や音楽も知る必要があり、音源を鑑賞する時間も設ける。また、授業数回に一回程度、リアクションペーパーの提出を求める。リアクションペーパーに対しては、次の授業でフィードバックする。具体的には質問にこたえ、感想に対して所感を述べる。状況に応じて学習支援システムを用い、簡単な課題を出す。課題に目を通し、各自に対し所感を述べる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	『おもろさうし』の鷺の用例	『おもろさうし』のおもろの読み方と、おもろ世界の鷺の用例をみる。
第2回	『おもろさうし』の「鷺をつかう」という用例	おもろの中で「鷺をつかう」という用例がある。その用例をみていく。
第3回	『おもろさうし』の「鷺をとる」という用例	「鷺をとる」というおもろの意味を考えていく。
第4回	鷺の霊能がどのようなものか	おもろ世界の鷺は霊能を持つ存在である。その具体例をみていく。
第5回	鷺が不可視のものをみる、という霊能を持つことについて	おもろ世界の鷺は不可視のものをみる、とされる。その意義を考える。
第6回	鷺のつく地名	おもろ世界では鷺のつく地名がある。その地名を考察していく。
第7回	鷺と王権との結びつき	おもろ世界の鷺と王権は結びついていて、そのことを考察していく。
第8回	鷺が戦勝の霊力を持つことについて	鷺には戦勝の霊力があるとみなされていた。そのことを考察する。
第9回	船と鷺のダブルイメージについて	おもろ世界の船が猛禽類のダブルイメージについて考察する。
第10回	琉球船と猛禽類の同一視について	琉球船は猛禽類と同一視されることがある。そのことを考察していく。
第11回	説話集、『遺老説伝』の鷺羽について	琉球の口頭伝承を集めた『遺老説伝』にある鷺羽の事例をみていく。
第12回	鷺のイメージと神話、そして鷺の尾羽が矢羽根になることについて	巨大な鷺のイメージがいかに形成されたかを神話などから考察する。
第13回	鷺のイメージと「鳥の墓」について	南西諸島の百合若大臣の物語の鷺のイメージを考察する。
第14回	「鷺之鳥節」の鷺について	八重山諸島で現在も愛される鷺之鳥節の鷺のイメージを考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の『火山と竹の女神』の「おもろ世界の鷺」を読むこと。また、おもろを読んでいく上で必要なことは、別にプリントを作成する。学習支援システムにアップするので、教科書の理解を進めるために、読んでいくこと。本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『火山と竹の女神』（福寛美、七月社、2021年、本体2500円）を教科書として使用する。

【参考書】

『喜界島・鬼の海域』（福寛美、新典社、2008年）
『「おもろさうし」と群雄の世紀』（福寛美、森話社、2013年）

『ぐすく造営のおもろ』（福寛美、新典社、2015年）
『奄美群島おもろの世界』（福寛美、南方新社、2018年）

【成績評価の方法と基準】

・記述式の期末試験を行う。問題をいくつか提示し、その内2つを選んで、それぞれ300字以上記述する、という形をとる。
・平常点も参考にする。最低6回は出席すること。
・期末試験で70%、平常点で30%の配分とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容を『おもろさうし』主体にすると、必ず難解である、という学生からの意見がある。それは仕方がない部分もあるが、なるべくわかり易く説明するように努める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

春学期、秋学期は同じ教科書を使用する。

【Outline (in English)】

Course Outline: The *Omoro sōshi* is the first written compilation of sacred songs and poems collected by the Ryukyu kingdom. The Ryukyuan folklore in the *Irō setsuden* and the Okinawan cultural background may have affected the development of its oral traditions. In this course, you will learn how Ryukyuan sacred songs and literature are related to the cultures of the surrounding areas and developed their own unique styles.

Learning Objectives: The goal is to understand the difference between Ryukyuan and Japanese literature.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read the textbook and references carefully.

Grading Criteria/Policy: Attend at least 6 times and take the exam. The exam makes up 70% of the grade, and performance in class makes up 30%.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸研究特講（14）沖縄文芸B

福 寛美

授業コード：A2700 | 曜日・時限：金3/Fri.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

南西諸島の神話や民俗は南九州と深く関わっている。薩摩（さつま）、そして薩南の島々を自在に航海していた人々を、隼人（はやと）という。その隼人の神話を学び、移動する海民について考察する。日本神話における隼人の重要性を認識することを到達目標とする。

【到達目標】

- ・日本神話と火山、という視点は従来あまり顧みられなかった。しかし、火山列島でもある日本で、噴火はまさに神の仕業としか考えられなかったはずである。その視点で神話を読み解くと、新たな知見が得られる。
- ・コノハナノサクヤビメ、そしてその神話的末裔の『竹取物語』のカグヤヒメを火山と関わる存在、と捉えると興味深い事象が認識できる。
- ・南九州を出自とする隼人と日本神話の関係から、日本神話における隼人の存在価値を知り、古代の九州の文化への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心とする。授業数回に一回、リアクションペーパーの提出を求める。リアクションペーパーには講義内容に対する質問などを書くこととする。次の授業で質問に答えるようつとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	噴火	日本古代における火山の噴火について述べる。
第2回	コノハナノサクヤビメ	降臨した天孫（てんそん）と結ばれた地上の女神について考察する。
第3回	コノハナノサクヤビメの行動	女神についての神話を解説し、女神が天上のアマテラスを模すこと、一方で隼人の女神らしい行動をとることを述べる。
第4回	ヨ（よ・世・代・節）1	ヨ（ユ）は区切られた年代のほか、様々な意味を持つ。そのことを考察する。
第5回	ヨ2	南西諸島の祭祀において、世を乞う（ユークイ）という儀礼が行なわれる。ヨ、ユとは何かを考察する。
第6回	ヨ3	『竹取物語』のカグヤヒメは竹の節にいた。この節もまたヨといわれる。そのことを考察する。
第7回	カグという語	カグヤヒメのカグは、大和三山の香具（カグ）山、火の神のカグツチと関わる。そのことを考察する。
第8回	カゲ（影）	カゲは霊力を意味する言葉であり、南西諸島では光を意味することもある。その用例を考察する。
第9回	隼人と畿内	南九州の隼人が畿内に移動していたことと、その働きについて考察する。
第10回	このはなのサクヤビメとなよたけのカグヤヒメ	サクヤビメとカグヤヒメの神話的類似について考察する。
第11回	富士山	コノハナノサクヤビメは富士山の女神とされる。そのことを考察する。
第12回	隼人と水の献上	隼人は古代の朝廷で水を献上する役割を担っていた。そのことを考察する。
第13回	日向出身の皇妃	神話には日向出身の隼人の女性が皇妃になったことを語る。その意義を考察する。
第14回	隼人と狗（いぬ）吠え	朝廷で、隼人は魔を祓うため特殊な声を出す（狗吠え）役割を担っていた。そのことを考察し、秋学期の授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・『火山と竹の女神』の「火山と竹の女神」の項目をよく読むこと。また授業内容の理解を助けるためのプリントを授業支援システムにアップするので、プリントも参照すること。
- ・簡単な参考文献、インターネットで読める資料なども周知するようにするので、そちらも参考にすること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『火山と竹の女神』（福寛美、七月社、2021年、本体価格2500円）を教科書とする。

【参考書】

- 『夜の海、永劫の海』（福寛美、新典社、2011年）
- 『うたの神話学』（福寛美、森話社、2010年）
- 『新うたの神話学』（福寛美、新典社、2020年）

【成績評価の方法と基準】

- ・学期末に試験を行う。問題を複数提示し、2問を選び、それぞれ300字以上記述する、という形にする。
- ・平常点も留意する。最低6回は出席すること。
- ・試験を70%、平常点を30%として採点する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容が受講生にとって未知で難解なものである場合、戸惑いの声を聞くこともあるが、なるべくわかりやすく解説するようにつとめる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

春学期、秋学期ともに同じ教科書を使用する。

【Outline (in English)】

Course Outline: The myths and folklore of the Nansei Islands are closely related to those of Southern Kyushu. The Hayato were the people who sailed across the Southern Kyushu and Southern Satsuma islands. In this course, we will learn about the myth of the Hayato and the people of the sea who sailed across the Nansei areas. The relationship between the Hayato from the Southern Kyushu and Japanese myths reveals the presence of Hayato people in Japanese myths. The culture of ancient Kyushu will be looked at in detail.

Learning Objectives: The goal is to recognize the importance of the Hayato in Japanese mythology.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read the textbook and references carefully.

Grading Criteria/Policy: Attend at least 6 times and take the exam. The exam makes up 70% of the grade, and performance in class makes up 30%.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸研究特講（15）国際日本学A

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2703 | 曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本意識」といえるものが芽生え、発展していった現象を概観した後、幕末・明治期の日本の外国とのかかわり合いを、主に2つの観点から考察します。題材として取り上げるのは、幕末から明治期にかけて滞日した外国人（特にイギリス人）の残した文章と、明治期という激変の時代を生き、西洋文明に接した日本の知識人3人が、海外へ発信するために英文で著した次の文献です。
・内村鑑三（1861-1930）*Representative Men of Japan*（代表的日本人、1908。*Japan and the Japanese* [1894]の改訂版）。
・新渡戸稲造（1862-1933）*Bushido: The Soul of Japan*（武士道、1900）。
・岡倉天心（1862-1913）*The Book of Tea*（茶の本、1906）。
文学と芸術（美術・音楽）にも触れます。

【到達目標】

・幕末・明治期に滞日した外国人がどんな印象を持ったか、日本をどう理解したかを知る
・西洋文明に接した明治期の日本人が、日本文化について何を西洋人に伝えるべきだと思ったかを知る
・幕末から明治・大正期にかけて日本の文学や芸術が世界的に知られていったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心ですが、計3回の討論会（授業第5・9・13回）で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず1回参加するとともに、議論にも参加します。授業第1～3回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序説	授業履修の意味を確認 アンケート
第2回	「(国際) 日本学」とは	プレゼンテーション担当の調整 世界の中の日本 文化圏の存在 プレゼンテーションの準備
第3回	日本意識の芽生えと発展	「中華思想」との接触 中世の日本意識 プレゼンテーションの準備（続）
第4回	ヨーロッパ人との出会い 江戸期という「閉ざされた時代」の中で	キリスト教宣教師の見聞（ザビエルとフロイス） 長崎（出島）歴代オランダ商館長らの研究
第5回	討論会① 内村鑑三著 『代表的日本人』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第6回	明治維新前後の外国人の活躍①	オールコック、アストン等
第7回	明治維新前後の外国人の活躍②	アーネスト・サトウ等 Asiatic Society of Japanの設立と活動
第8回	明治維新前後の外国人の活躍③	チェンバレン、ハーン
第9回	討論会② 新渡戸稲造 『武士道』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第10回	日本美術とジャポニスム	浮世絵の移入、パリ万国博覧会 印象派への影響
第11回	ジャポニスムと音楽①	オペレッタ《ミカド》、または幕末流行歌《トコトンヤレ節》の大出世
第12回	ジャポニスムと音楽②	オペラ《蝶々夫人》の東洋的表象
第13回	討論会③ 岡倉天心『茶の本』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第14回	日本文学の再評価	フェノロサのノートからバウンド・イエイツの能へ ウェイリーが訳した能と『源氏物語』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第5・9・13回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。

第6回 参考書 pp. 10-17

第7回 参考書 pp. 18-23

第8回 参考書 pp. 64-69、70-77

第14回 参考書 pp. 104-111

その他の回 事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。

プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。

【参考書】

佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著 ギンチャロフからパンゲまで』（中央公論社、1987）中公文庫 832（ISBN4-12-100832-4）

その他、授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー（35%）、プレゼンテーションと議論への参加度（25%）、期末レポート（プレゼンテーションを文章化したもの、40%）。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

以前、各自のプレゼンテーションが長くなり、時間内に終わらなかったり、討論が十分でないことがあったりしたので、予め時間配分を決めることにしたいと思います。

【その他の重要事項】

担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために敢えて英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学科の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

【Outline (in English)】

Course Outline: This class deals with Japan and its relations with the other nations of the world, focussing on the 19th and early 20th century. Introductory lectures deal with the issues of global cultural spheres, and Japan's relations with China and Europe (Spain, Portugal and the Netherlands) in earlier centuries. We then examine accounts of 19th-century Japan written by such figures as Alcock, Aston, Satow, Chamberlain and Hearn. Each student participates in one of three presentations on books written in English by Japanese men of the time: Uchimura Kanzō's *Representative Men of Japan* (1908), Nitobe Inazō's *Bushido: The Soul of Japan* (1900), and Okakura Tenshin's *The Book of Tea* (1906), in an effort to determine what it was about Japan that these men wanted to present to the world. Other lectures deal with the influence of Japanese art and music on 19th-century and early 20th-century Europe, and Europe's discovery of Japanese classical literature. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.

Learning Objectives: Students will gain a comprehensive understanding of the image of 19th-century Japan recorded by foreign visitors to the country, the facets of Japanese culture that the Japanese of the time felt should be communicated to the West, and the process by which Japanese literature and arts came to be known to the world outside Japan's borders.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students must prepare their presentations, deliver them, and write them up as their final report. Sections of reference works are required reading for certain classes; other materials for required reading are distributed electronically prior to the class in which they are dealt with.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (submitted after each class) 35%; participation in presentation and discussion 25%; final written report 40%.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸研究特講（15）国際日本学B

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2704 | 曜日・時限：金2/Fri.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期は第二次世界大戦後間もなく、アメリカ合衆国の文化人類学者のルース・ベネディクトによって書かれた*The Chrysanthemum and the Sword*（菊と刀、1946）と、それが引き起こした議論を取り上げます。後年特に注目された「恩」「義理」「恥」に関する章を、学生グループのプレゼンテーションを交えながら詳しく検討します。その他、1960年代以降の日本人論・日本文化論や、それに対する批判をみていきます。また、日本文学の国際的な広がりについても考えます。

【到達目標】

・「文化の型」という見方で20世紀前半の日本を捉えた*The Chrysanthemum and the Sword*の中で、後年特に影響が大きかった要素を知る
・戦後、特に1960年代以降に激増した「日本論」「日本人論」「日本文化論」の内容を客観的・批判的に考えることができる
・戦後、日本の文学が世界的に評価されるようになったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心ですが、計3回の討論会（授業第5・9・12回）で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず1回参加するとともに、議論にも参加します。授業第1～3回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序説	授業履修の意味を確認 プレゼンテーション担当の調整
第2回	『菊と刀』①	ベネディクトの主張① プレゼンテーションの準備
第3回	『菊と刀』②	ベネディクトの主張② プレゼンテーションの準備
第4回	『菊と刀』③	青木保（『日本文化論』の変容）の捉え方を読む 『菊と刀』の「受容」
第5回	討論会①『菊と刀』の「恩」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第5章“Debtor to the Ages and the World”と第6章“Repaying One-Ten-Thousandth”
第6回	日本文学、世界文学へ	第二次世界大戦がきっかけとなって日本文学にかかわるようになったキーン、サイデンステッカー等の活躍
第7回	60～70年代の日本人論	中根千枝、土居健郎、山崎正和等、河合隼雄、角田忠信、ライシャワー等
第8回	日本人論の特徴	日本人、日本語、日本社会にかかわる言説のさまざま（極論も含めて）
第9回	討論会②『菊と刀』の「義理」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第7章“The Repayment Hardest to Bear”と第8章“Clearing One’s Name”
第10回	翻訳の可能性	古典文学の翻訳、能への関心、ロイヤル・タイラー
第11回	日本人論、日本文化論への批判①	李御寧（イ・オリョン）、ハルミ・ベフ、青木保、ピーター・デール、井上章一、古谷野敦
第12回	討論会③『菊と刀』の「恥」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第10章“The Dilemma of Virtue”と第12章“The Child Learns”
第13回	日本人論、日本文化論への批判②	デールの「恥の文化の恥」論
第14回	日本文化論の今後	東アジアの中の日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第5・9・12回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。

第2回 参考書① pp. 182-187

第4回 参考書② pp. 31-55

第6回 参考書① pp. 214-219、266-271

第7回 参考書① pp. 248-253

第11回 参考書① pp. 260-265

その他の回 事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。

プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。

【参考書】

①佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著 ギンチャロフからパンゲまで』（中央公論社、1987）中公文庫832（ISBN4-12-100832-4）

②青木保『『日本文化論』の変容 戦後日本の文化とアイデンティティ』（中央公論社、1990）中公文庫533、1999（ISBN4-12-203399-3）

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー（35%）、プレゼンテーションと議論への参加度（25%）、期末レポート（プレゼンテーションを文章化したもの、40%）。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

以前、各自のプレゼンテーションが長くなり、時間内に終わらなかったり、討論が十分できないことがあったりしたので、予め時間配分を決めることにしたいと思います。

【その他の重要事項】

担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために敢えて英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学科の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

【Outline (in English)】

Course Outline: This class deals with issues in the field of Japanology (Japanese studies) in the post-war era, especially in connection with Ruth Benedict’s *The Chrysanthemum and the Sword* (1946). After initial lectures on the content of Benedict’s book, students participate in one of three presentations on Benedict’s discussion and understanding of the Japanese concepts of *on* (Chapters 5 & 6), *giri* (Chapters 7 & 8), and *haji* (Chapter 10). Other topics of lectures given by the instructor include the Nihonjinron (studies of the Japanese) of the 1960s and 1970s, criticisms of these studies in succeeding decades, and trends in the translation of Japanese classical literature in the post-war era. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.

Learning Objectives: Students will gain a comprehensive understanding of the elements of Benedict’s book that had a particularly strong influence on the development of Nihonjinron and Japanese cultural studies within Japan in the second half of the 20th century, will learn how to view these objectively and critically, and will also gain an understanding of international reception of Japanese literature, focusing on its classical genres.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students must prepare their presentations, deliver them, and write them up as their final report. Sections of reference works are required reading for certain classes; other materials for required reading are distributed electronically prior to the class in which they are dealt with.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (submitted after each class) 35%; participation in presentation and discussion 25%; final written report 40%.

LIT200LA (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講 (16) 特域A

日原 傳

授業コード：A2705 | 曜日・時限：金4/Fri.4
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

初心者に漢詩の実作を指導する授業です。最初に漢詩の中でも最も厳格な規則に基づく「近体詩」の作り方について解説します。その上で漢詩(七言絶句)の実作に挑み、「近体詩」の規則についての理解を深めます。実作の参考になるように、実作と並行して四季の風物を詠じた漢詩(歳時詩)を季節に沿って鑑賞します。

【到達目標】

- ・漢詩の読解・創作に必要な基本的知識の習得を目指す。
- ・近体詩の規則を理解し、それに従って漢詩の実作をする。
- ・日本の古典文学の世界で大きな位置を占める「漢文学」の存在を再認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

開講時から五回ほどを使って、漢詩の歴史、さまざまな詩形、漢文のルール、近体詩の規則について説明する。その後は漢詩の実作指導を中心に据える。実作の参考になるように、一回ごとに異なるテーマを設け、毎回数首の漢詩を鑑賞する。日本人の作った漢詩もできるだけ紹介したい。日本の先人が中国に起源をもつ「漢詩」という定型詩と取り組み、各自の思いを表現していったことを知ってほしい。※第1回目から対面授業をする予定ですが、状況によってオンライン授業に移行する可能性もあります。授業方法を変更する場合は、学習支援システムでその都度提示します。※提出課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行ないます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし / No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	漢詩の詩形、古体詩と近体詩、歳時詩について、／梅の詩鑑賞	漢詩の歴史、さまざまな詩形、古体詩と近体詩の説明。「歳時詩」「二十四節気」の説明。／林逋「山園小梅」などを鑑賞。
第2回	近体詩の格律①／桜の詩鑑賞	正岡子規「閑子規」を例に作詩法を解説。平仄図式・押韻の説明。二四不同二六対の説明。／藤井竹外「芳野」などを鑑賞。
第3回	近体詩の格律②／春遊の詩鑑賞	反法・粘法の説明。いくつかの禁忌(下三連、孤平、冒韻、同字の重複)について。／杜牧「江南春」などを鑑賞。
第4回	漢文のルール①／晩春の詩鑑賞	和習を避ける。動詞・形容詞・副詞の用法／白居易「三月三十日題慈恩寺」、吳錫麒「送春」などを鑑賞。
第5回	漢文のルール②／ほととぎすの詩鑑賞	前置詞・助動詞の用法。「有」「無」の用法／杜甫「子規」、嵯崎波響「聞鶯」などを鑑賞。
第6回	牡丹・薔薇・石榴の詩鑑賞／実作指導	皮日休「牡丹」、石川丈山「白牡丹」、高駢「山亭夏日」、柏木如亭「石榴」などを鑑賞。／実作(七言一句を作る)

第7回	山行の詩鑑賞／実作指導	王安石「鍾山」、広瀬淡窓「彦山」などを鑑賞。／実作(七言二句を作る)
第8回	梅雨の詩鑑賞／実作指導	趙師秀「約客」、篠崎小竹「梅雨」などを鑑賞。／実作(七言絶句を作る)
第9回	蓮の花の詩鑑賞／実作指導	白居易「池上」、菅茶山「夏日雜詩」などを鑑賞。／実作
第10回	螢・蟬・蠅・蚊の詩鑑賞／実作指導	杜甫「螢火」、北條霞亭「観螢」、蘇軾「溪陰堂」、韓愈「雜詩」などを鑑賞。／実作
第11回	苦熱・避暑・昼寝の詩鑑賞／実作指導	柳宗元「夏昼偶作」、袁枚「銷夏」、野田笛浦「昌平橋納涼」などを鑑賞。／実作
第12回	夏の江村・舟行・滝の詩鑑賞／実作指導	杜甫「江村」、李白「望廬山瀑布」などを鑑賞。／実作
第13回	夕立の詩鑑賞／実作指導	蘇軾「六月二十七日、望湖樓醉書」、大窪詩仏「急雨」などを鑑賞。／実作
第14回	授業の総まとめと期末試験	筆記試験、まとめと解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

漢詩関連の書籍を読み、漢詩に親しむ。
 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

担当者作成の資料を配布する。

【参考書】

石川忠久『漢詩を作る』(大修館書店)
 石川忠久『漢詩の稽古』(大修館書店)
 石川忠久監修『漢詩創作のための詩語集』(大修館書店)
 鷲野正明『初めての漢詩創作』(白帝社)
 鈴木健一編『漢文のルール』(笠間書院)
 小川環樹『唐詩概説』(岩波文庫)
 前野直彬『唐詩選』全三冊(岩波文庫)
 村上哲見『三体詩』全四冊(朝日文庫)
 目加田誠『唐詩三百首』全三冊(平凡社)
 山田勝美『中国名詩鑑賞辞典』(角川書店)
 猪口篤志『日本漢詩鑑賞辞典』(角川書店)
 石川忠久『漢詩鑑賞事典』(講談社学術文庫)
 石川忠久『日本人の漢詩 風雅の過去へ』(大修館書店)
 石川忠久『漢詩をよむ 春の詩100選』
 同『漢詩をよむ 夏の詩100選』
 同『漢詩をよむ 秋の詩100選』
 同『漢詩をよむ 冬の詩100選』(以上、NHK出版)

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業中の取り組み姿勢・授業中に作って提出する漢詩の実作) 50 %
 期末試験またはそれに代わる最終レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

実作指導の時間を多くとれるように工夫する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to write Chinese poems. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
 Term-end examination (or Term-end report) : 50%, Short reports : 50%

LIT200LA（文学 / Literature 200）

日本文芸研究特講（16）特域B

日原 傳

授業コード：A2706 | 曜日・時限：金4/Fri.4
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸時代に日本で刊行された『唐詩選画本』をテキストとして唐詩を読む。『唐詩選画本』は絵と詩の本文、その書き下し文、日本語による解説文によって構成されている。はじめに『唐詩選画本』を含む唐詩のテキストについて概説する。以後は五言絶句から始めて徐々に長い詩に進むかたちで具体的な作品を鑑賞してゆく。「歳時詩」「迎塞詩」「閨怨詩」「唱酬詩」「詠物詩」「詠史詩」といった漢詩のテーマについても折をみて解説を加えるつもりである。なお、『唐詩選画本』の書き下し文、解説文は「変体仮名」で記されているので、変体仮名を読む訓練にもなるであろう。

【到達目標】

- ・中国古典文学の基盤をなす考え方を知るとともに漢詩の読解に必要な基本的知識の習得を目指す。
- ・変体仮名に慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式。第一回目の授業で、漢詩の歴史、さまざまな詩形、近体詩の規則について概説する。第二回目の授業では「変体仮名」について説明した上で、『唐詩選画本』の具体的な作品を鑑賞する。第三回目以降の授業は作品鑑賞が中心になる。日本の先人が中国に起源をもつ「漢詩」という定型詩をどのように読み解いていたかを具体的に知ってほしい。

※第1回目から対面授業をする予定ですが、状況によってオンライン授業に移行する可能性もあります。授業方法を変更する場合は、学習支援システムでその都度提示します。

※提出課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	漢詩の形式について。 唐詩のテキストについて	漢詩の形式の解説。『全唐詩』『三体詩』『唐詩選』『唐詩三百首』『唐詩選画本』等の説明。
第2回	鑑賞（五言絶句）	賀知章「題袁氏別業」
第3回	鑑賞（五言絶句）	駱賓王「易水送別」
第4回	鑑賞（五言絶句）	李白「静夜思」、王維「班婕妤」
第5回	鑑賞（七言絶句）	王勃「蜀中九日」
第6回	鑑賞（七言絶句）	王翰「涼州詞」
第7回	鑑賞（七言絶句）	李白「峨眉山月歌」、王昌齡「閨怨」
第8回	鑑賞（五言律詩）	杜甫「旅夜書懷」
第9回	鑑賞（五言律詩）	張謂「同王徵君洞庭有懷」
第10回	鑑賞（七言律詩）	崔顥「黃鶴樓」
第11回	鑑賞（五言古詩）	李白「子夜吳歌」
第12回	鑑賞（七言古詩）	杜甫「貧交行」
第13回	鑑賞（七言古詩）	劉廷芝「代悲白頭翁」
第14回	授業の総まとめと期末試験	筆記試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

漢詩関連の書籍を読み、漢詩に親しむ。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当者がプリントを用意する。

【参考書】

前野直彬注解『唐詩選』全三冊（岩波文庫）
村上哲見『三体詩』全四冊（朝日文庫）
目加田誠『唐詩三百首』全三冊（平凡社）
山田勝美『中国名詩鑑賞辞典』（角川書店）
猪口篤志『日本名詩鑑賞辞典』（角川書店）
石川忠久『漢詩鑑賞事典』（講談社学術文庫）
小川環樹『唐詩概説』（岩波文庫）
石川忠久『漢詩をよむ 春の詩100選』
同『漢詩をよむ 夏の詩100選』
同『漢詩をよむ 秋の詩100選』
同『漢詩をよむ 冬の詩100選』（以上、NHK出版）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の取り組み姿勢・リアクションペーパー）50%
期末試験またはそれに代わる最終レポート50%

【学生の意見等からの気づき】

変体仮名を読む訓練の時間を多くとれるように工夫する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to appreciate Chinese poems. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Term-end examination (or Term-end report) : 50%、Short reports : 50%

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸研究特講（16）特域C

安原 眞琴

夜間時間帯

授業コード：A2707 | 曜日・時限：木6/Thu.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：・本科目を「文化史1」として履修できるのは日本文学科生のみです。他学科公開科目の「文化史1」は哲学科主催のA2262「文化史1」です。

・本科目を履修済みの場合、A2581「文化史1」（夜間科目）は履修できません。

・日本文学科生が学芸員の資格を取得するにはA2581「文化史1」を履修する必要があります。特域Cでは学芸員科目になりませんのでご注意ください。

・日本文学科生でない文学部生が「文化史1（資格）」を履修する場合、哲学科主催のA3851「文化史1（資格）」を履修してください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文芸読解の前提としての江戸／東京を、古地図や浮世絵などを見ながら学ぶ。

【到達目標】

- ・現在我々がいる「場」への関心、理解を高めることができる。
- ・文学の舞台の重要性に気付くことができる。
- ・古地図や浮世絵の知識を身に付けることができる。
- ・資料の分析・解釈を行う上で必要となる情報を収集し、それらを咀嚼し発表するなど、活用することができる。
- ・現在と過去の町を比較することで、都市の成り立ちや町づくりのあり方などを考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回リアクションペーパーを提出し平常点を付加していく。

授業は講義形式だが、中間レポート以降、各自実際に町に出て調査してもらう予定である。

リアクションペーパーと中間レポートはMLS上で点数でフィードバックする。最終レポートはブラッシュアップ時に必要であればアドバイスするが、最終的な点数などの評価はフィードバックも公表しない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業の進め方などを説明する。 ・文学の舞台になってきた武蔵野／江戸／東京の土地の歴史を学ぶ。
第2回	東京の概要を知る	「東京」の成り立ちを学ぶ。
第3回	東京の概要を知る	23区の1区ごとの位置や特徴などを学ぶ。（国会図書館のサイト参照）
第4回	古地図の見方を知る	古地図の種類と見方を学ぶ。
第5回	「江戸城」を知る	町の中心「江戸城」について学ぶ。
第6回	城下町「江戸」を知る	町の構造「下町と山の手」について学ぶ。
第7回	日本橋を知る	具体的な町の歴史や特徴を学ぶ。（下町の中心）
第8回	上野を知る	具体的な町の歴史や特徴を学ぶ。（町の鬼門）
第9回	浅草を知る	具体的な町の歴史や特徴を学ぶ。（武蔵野以来の要衝地）
第10回	品川を知る	具体的な町の歴史や特徴を学ぶ。（繁華街・四宿）
第11回	両国を知る	具体的な町の歴史や特徴を学ぶ。（繁華街・火除地）

第12回	吉原を知る	具体的な町の歴史や特徴を学ぶ。（日本最大の繁華街）
第13回	吉原を知る	具体的な町の歴史や特徴を学ぶ。（日本最大の繁華街）
第14回	王子・飛鳥山を知る	具体的な町の歴史や特徴を学ぶ。（郊外・遊山・散歩）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：授業内容に関する事柄を事前に学習してくる（2時間）

復習：授業で学んだことを踏まえて、事前学習をブラッシュアップしてくる。（2時間）

宿題：担当する町について調べる。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、授業時に指示する。

【参考書】

錦絵で楽しむ江戸の名所（国会図書館のサイト：<https://www.ndl.go.jp/landmarks/index.html>）

安原眞琴『東京の老舗を食べる』（亜紀書房、2015）

安原眞琴『東京おいしい老舗散歩』（東海教育研究所、2017）

【成績評価の方法と基準】

・リアクションペーパーを毎回提出させ平常点として加算していきます。60%

・中間レポート（宿題）20%

・期末レポート20%

これらの総合判断により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎年、まじめな学生が多く、この先どんな分野に進むにせよ、ますますの成長を楽しみにさせてくれる。これから、何か少しでも自分のために学ぼうとし、且つ学んだことを自分のこやしにしていってほしい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使いたいと思っています。

【その他の重要事項】

授業終了時の教壇前での会話・相談をオフィスアワーとします。

ただし、重要な連絡がある場合は、次の安原眞琴公式ホームページのコンタクト欄を使用します。

<http://www.makotooffice.net/>

【Outline (in English)】

Course Outline: In this class, we learn about Edo/Tokyo as a premise for reading comprehension, while examining old maps and ukiyo-e woodblock prints.

Learning Objectives: The aims of the class are to become more conscious of where we are, and of the settings of works of literature, while gaining knowledge about old maps and ukiyo-e. Students learn to collect and digest relevant information, and report on it. Comparing urban areas of the past and present gives students insight into how they are formed and evolve.

Learning Activities Outside of the Classroom: 1 to 2 hours of preparation on the topic of each lecture, and a similar amount of time of review. This will occasionally be supplemented with short assignments.

Grading Criteria/Policy: Grading is based on the following: written reactions to each lecture (60%); mid-semester assignments (20%); and final report (20%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸研究特講（16）特域D

山口 恭子

夜間時間帯

授業コード：A2708 | 曜日・時限：木6/Thu.6

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：・本科目を「文化史2」として履修できるのは日文学科生のみです。他学科公開科目の「文化史2」は哲学科主催のA2263「文化史2」です。

・本科目を履修済みの場合、A2582「文化史2」（夜間科目）は履修できません。

・日文学科生が学芸員の資格を取得するにはA2582「文化史2」を履修する必要があります。特域Dでは学芸員科目になりませんのでご注意ください。

・日文学科生でない文学部生が「文化史2（資格）」を履修する場合、哲学科主催のA3852「文化史2（資格）」を履修してください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、中国、および日本の「書の歴史」を学びます。また、このことを通じ、広く文字の文化に関する知見を養います。

【到達目標】

中国、および日本の書芸術の流れと、それに関わる基本的な事項を習得することを目標とします。とくに、主要な書道史の事項、人物、作品、それらの書道史上の意義等について理解し、説明することができるよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

中国、および日本における書の史的展開について講義します。中国の書道史では漢字の起りから唐代までを、日本の書道史では飛鳥・奈良時代から江戸時代初期までを中心に取り上げます。

なお、授業の内容に関して毎時リアクションペーパーを提出していただきます。次回授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行ってゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 中国書道史1 (殷・周の書)	・書および書道史研究について ・古代の漢字 ・甲骨文と金文
第2回	中国書道史2 (秦・漢の書)	・始皇帝の文字統一 ・隸書の発展と後漢の石碑
第3回	中国書道史3 (三国の書)	・書体の発展
第4回	中国書道史4 (東晋の書)	・王羲之、王献之の書
第5回	中国書道史5 (南北朝の書)	・北朝の石刻について
第6回	中国書道史6 (唐の書)	・初唐の三大家と楷書
第7回	日本書道史1 (飛鳥・奈良の書)	・文字の受容 ・聖武天皇、ならびに光明皇后の書
第8回	日本書道史2 (平安前期の書)	・三筆の書
第9回	日本書道史3 (平安中期の書)	・三蹟の書 ・和様の成立
第10回	日本書道史4 (仮名の書のさまざま)	・仮名の書とその書美
第11回	日本書道史5 (平安後期の書)	・西本願寺本三十六人家集
第12回	日本書道史6 (中世の書)	・尊円親王の書 ・さまざまの書流
第13回	日本書道史7 (近世の書)	・寛永の三筆の書
第14回	まとめ	・中国書道史、日本書道史のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館で、『書道全集』（平凡社、1974年）、石川九楊『書の宇宙』（二玄社、1996年）といった全集、図版類を見たり、可能であれば博物館・美術館での展示に足を運ぶなどして、より多くの書にふれること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しません。パワーポイント資料や配布プリントをもとに進めます。

【参考書】

・書学書道史学会編『日本・中国・朝鮮 書道史年表事典』（萱原書房、2005年）
・角井博監修『中国書道史』（芸術新聞社、2009年）
・名晃耶明監修『日本書道史』（芸術新聞社、2009年）
そのほか、講義時に提示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）、課題（30%）、平常点（20%）により評価します。試験では、主要な書道史の事項、書家、書作品、それらの書道史上の意義について理解し、説明することができるかを評価基準とします。

【学生の意見等からの気づき】

書の歴史を講ずるだけでなく、作品の鑑賞や解釈などについてみなさんとともに考察する機会を設け、学習のモチベーションを高める工夫をしたいと考えています。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the history of Chinese and Japanese calligraphy.

Learning Objectives: This course aims to understand the fundamentals of the history of calligraphy, such as styles and schools of calligraphy, major calligraphers, and the significance of surviving examples of calligraphy.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours understanding the content of the course

Grading Criteria/Policy: The overall grade of the class will be determined based on: final exam (50%), assignments (30%), and regular class performance (20%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)		
編集理論 A		
武田 俊		
夜間時間帯		
授業コード：A2709 曜日・時限：木4/Thu.4		
春学期授業/Spring・2単位 配当年次：2～4年		
その他属性：〈実〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
メディアの特性を理解し、それを活かした「編集思考」を身につけることを目指します。		
各メディアについて、前半ではその歴史的な成り立ちと特性を理解し、後半では編集的思考を通じてその可能性を探ります。編集とは単なる技術ではなく、対話を設計し、文脈を創造し、表現を構造化する思考法です。歴史を振り返りながら、そこで培われた知恵や技術が現代にどうつながっているのかを考えます。		
春学期は主に従来型メディアを対象に、書物、雑誌、新聞、放送、音楽、映像といった各メディアの特性と編集技術について学びます。		
【到達目標】		
従来型メディアの歴史的展開と特性について理解を深め、そこで培われた「編集思考」の基礎を身につけることを目指します。各メディアの特性を踏まえた上で、対話を設計し、文脈を創造し、表現を構造化する考え方を理論的に学び、メディアを通じた新しい可能性について考察できるようになることを目標とします。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連		
【授業の進め方と方法】		
基本的にスライドを用いながら、お話しします。講義内でミニワークなども行うため、PCを活用（情報演習室の備品でも自前のものでも可）し、GoogleDriveやその他、様々なツールを使用します。		
協同的な学びを生むために、リアクションペーパー内の感想コメントは名前を伏せた上でシェアします。課題については、授業内の講評で具体的なフィードバックを行います。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり /Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
第1回	テーマ 「メディアとは何か」—情報と「対話」の歴史	内容 メディアの本質について考えることからはじめます。人類がどのような情報を記録し、共有し、対話を重ねてきたのか。その歴史を振り返りながら、「編集」という営みが果たしてきた役割について理解を深めます。
第2回	「編集思考」—文脈を創造する	「編集思考」とは何か、その基本的な概念について学びます。情報の取捨選択から、文脈の創造、対話の設計まで、編集という営みが持つ様々な側面について理解を深めます。メディアと編集の関係性、そして創造性と継続性の両立という課題についても考察します。
第3回	「書物という形式」—知の記録と継承	編集とは何か、その基本的な概念について学びます。情報の取捨選択から、文脈の創造、対話の設計まで、編集という営みが持つ様々な側面について理解を深めます。メディアと編集の関係性、そして創造性と継続性の両立という課題についても考察します。
第4回	「本を編む」—編んで集めて束ねて	雑誌というメディアの特性について学びます。定期刊行性がもたらす独自の価値、読者との継続的な関係性、グラフィックとテキストからなるエディトリアルデザイン。現代のデジタルメディアにも通じる「場」としての編集について考えます。
第5回	「雑誌の誕生」—グラフィック+テキストの地平面	雑誌というメディアの特性について学びます。定期刊行性がもたらす独自の価値、読者との継続的な関係性、グラフィックとテキストからなるエディトリアルデザイン。現代のデジタルメディアにも通じるその特性について考えます。
第6回	「雑誌を編集する」—持続的な対話の設計	雑誌づくりの現場で実践される編集技術について学びます。企画立案から、連載の構成、特集の組み方まで、雑誌ならではの編集手法を理解します。また、コミュニティの形成や、持続可能なメディアづくりについても考察します。
第7回	「新聞の時代」—情報伝達の革新	新聞の歴史的な発展を追いながら、速報性というメディア特性について考えます。活版印刷の革新から輪転機の発明、通信技術の発展まで、テクノロジーと報道の関係を学びます。また、新聞が果たしてきた社会的役割についても理解を深めます。
第8回	「新聞と現場」—届けるための情報網	その制作のしかたから流通まで、新聞ならではの特性について学びます。またデジタルメディアが速報性において優位に立つ現代に、各社がどんな工夫を行っているか、リサーチします。
第9回	「放送という体験」—同時性がつくる対話	ラジオとテレビという放送メディアの特性について学びます。電波による同時性がもたらした革新、視聴者との新しい関係性、そして放送文化の形成について理解を深めます。現代の動画配信サービスとの比較も交えながら、放送メディアの本質を考察します。
第10回	「放送を編成する」—時間の編集術	放送における「編成」という特殊な編集技術について学びます。時間軸に沿ったコンテンツの配置、視聴者の生活リズムとの関係、そして「編成権」という概念について理解を深めます。動画配信時代における編成の意味についても考えます。
第11回	「音楽とメディア」—体験の記録	音楽メディアの変遷を通じて、体験を記録し共有することの意味を考えます。レコード、カセット、CD、そして配信サービスまで、技術の発展が音楽体験をどのように変えてきたのか、理解を深めます。
第12回	「音楽を届ける」—体験の編集	音楽の制作から配信までのプロセスを通じて、音楽における編集について考えます。録音や選曲といった技術的な側面から、プレイリストの構成やプロモーションまで、音楽体験を設計する様々な方法について学びます。
第13回	「映像の世界」—総合芸術としての映像	映画からテレビ、そして現代の動画配信まで、映像メディアの発展を概観します。動く映像がもたらす臨場感や没入感、物語性など、映像表現の特性について理解を深めます。視聴環境の変化が映像体験にもたらす影響についても考察します。
第14回	「編集の現在地」—春学期のまとめ	春学期の学習を総括し、従来型メディアから学んだ編集思考の本質について整理します。各メディアの特性と、そこで培われた編集技術が、現代のデジタルメディアにどのようなつながっているのかを確認します。また、これからのメディアと編集の可能性について展望します。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
各回で扱うメディアについて、自分の経験や身近な事例を観察し、その特徴について考えてきてください。		
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】		
特に使用しません		
【参考書】		
授業内で参考となる書籍やURLなどを、随時紹介します。		
【成績評価の方法と基準】		
期末レポート（70%）：設定されたテーマをもとに「編集思考」を用いて執筆してもらいます		
出席・授業内でのワーク（30%）		
【学生の意見等からの気づき】		
受講生とのコミュニケーションを重視し、随時講義内容をアップデートしていきます。また最新の事例を紹介しながら講義することで、実際に社会で起きているメディアを取り巻く課題に実感を持てるよう工夫していきます。		
【学生が準備すべき機器他】		
PCの利用が必須となります。教室の備品を活用するか、自前のPCやタブレットを持ち込んでください。スマートフォンでの作業は推奨しません。また課題の提出、資料配付、出席確認について、Google Classroomを活用します。		

【その他の重要事項】

講師の武田俊は、本学の文学部日本文学科のOBで、起業経験を持つ現役の編集者です。その視点から、単純な座学ではなく最新事例をもとにした、ゼミのような双方向的な講義を目指します。春学期・秋学期それぞれで受講することが可能ですが、通年で受講することでより深く実践的な学びが得られます。また、本科目では「理論」を重視しますが、「情報メディア演習」では編集の仕事について、実践的に学ぶことができます。あわせて受講いただくと、より効果的なためおすすめします。

【Outline (in English)】

This course explores the historical development and characteristics of various media, focusing on editorial thinking as a method to design dialogue, create context, and structure expression. The spring semester covers traditional media (books, magazines, newspapers, broadcasting, etc.), while the fall semester examines digital media (web, social media, video platforms, etc.).

Classes will consist of lectures and discussions, examining both historical examples and contemporary cases. Students will be expected to engage in critical thinking about media and editorial practices.

Please come with your own experiences and observations of familiar examples of the media to be covered in each session, and think about their characteristics. 1 hour should be sufficient.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Assignments in lectures: 70%
- Attendance & reaction paper: 30%

LIT200BC（文学 / Literature 200）		
編集理論 B		
武田 俊		
夜間時間帯		
授業コード：A2710 曜日・時限：木4/Thu.4		
秋学期授業/Fall・2単位 配当年次：2～4年		
その他属性：〈実〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
本講義では、メディアの特性を理解し、それを活かした編集的思考を身につけることを目指します。		
各メディアについて、前半ではその歴史的な成り立ちと特性を理解し、後半では編集的思考を通じてその可能性を探ります。編集とは単なる技術ではなく、対話を設計し、文脈を創造し、表現を構造化する思考法です。歴史を振り返りながら、そこで培われた知恵や技術が現代にどうつながっているのかを考えます。		
秋学期は主にデジタルメディアを対象に、Web、SNS、動画配信、ゲームなど、新しいメディアの可能性と課題について考察します。		
それぞれの学期は独立して受講できますが、両方の受講を通じて、メディアと編集についてより深い理解が得られるよう設計されています。		
【到達目標】		
デジタルメディアの特性と可能性について理解を深め、各メディアの特性を踏まえた上で、対話を設計し、文脈を創造し、表現を構造化する考え方を理論的に学び、メディアを通じた新しい可能性について考察できるようになることを目標とします。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連		
【授業の進め方と方法】		
基本的にスライドを用いながら、お話しします。講義内でミニワークなども行うため、PCを活用（情報演習室の備品でも自前のものでも可）し、GoogleDriveやその他、様々なツールを使用します。		
協同的な学びを生むために、リアクションペーパー内の感想コメントは名前を伏せた上でシェアします。課題については、授業内の講評で具体的なフィードバックを行います。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	「デジタルという場」―新しい対話の基盤	デジタル技術がもたらした変化の本質について考えます。情報のデジタル化は、単なる技術的な変革ではなく、私たちの表現や対話の可能性を大きく広げました。その特性と可能性について、具体的な事例を通じて理解を深めます。
第2回	「デジタルの作法」―創造性の再定義	デジタル環境における新しい表現の在り方について考えます。コピー&ペースト、リミックス、引用といった手法が、どのように新しい創造性を生み出しているのか。デジタル時代の作法と倫理について学びます。
第3回	「Webという空間」―リンクが織りなす世界	Webという巨大な情報空間の特性について考えます。リンクによって互いに結びつき、常に更新され続ける情報の在り方が、どのように新しい表現や対話を可能にしているのか。その仕組みと思想について理解を深めます。
第4回	「Webを編集する」―文脈の設計	Webサイトという場をどのように設計するのか、その考え方を学びます。ユーザー体験、ナビゲーション、アクセシビリティなど、デジタル空間における対話の設計について考えます。
第5回	「プラットフォームという思想」―場をつくる編集	プラットフォームという概念とその影響力について考えます。人々の活動の場を設計し、対話を方向づけるプラットフォームの特性について学び、その可能性と課題を探ります。
第6回	「参加型文化」―集合的な創造性	ユーザー生成コンテンツ（UGC）がもたらした創造性の民主化について学びます。誰もが表現者となり、対話に参加できる環境で、編集がどのような役割を果たすのか。その可能性と課題について考えます。
第7回	「動画という文化」―映像による新しい対話	動画プラットフォームがもたらした表現革新について考えます。YouTubeやTikTokなどが生み出した新しい映像文化と、そこでの対話の特性について学びます。従来の映像メディアとの違いにも注目します。
第8回	「動画を展開する」―関係性の構築	動画コンテンツを通じた対話の設計について考えます。チャンネルの運営、視聴者とのコミュニケーション、コミュニティの形成など、持続的な関係性を構築するための考え方を学びます。
第9回	「インタラクティブ性」―対話的な表現	インタラクティブ性がもたらす新しい表現について考えます。ゲームやインタラクティブアートなど、受け手の参加を前提とした表現の可能性について学びます。
第10回	体験を設計する」―参加型の物語	インタラクティブな体験をどのように設計するのか、その考え方を学びます。参加者の行動や感情を考慮した設計、フィードバックの活用、新しい物語の可能性について理解を深めます。
第11回	「AIとの共創」―編集の新しい形	人工知能が創造性にもたらす影響について考えます。AIによる創作支援と人間の編集思考の関係、新しい表現の可能性について学びます。
第12回	「実験的表現」―メディアを超えて	デジタル環境における実験的な表現について学びます。メディアアートやインターネットカルチャーにおける創造的な実践、ミームやパロディの文化的意味について考えます。
第13回	「クロスメディア」―領域を横断する	メディアの境界を超えた表現について考えます。トランスメディアストーリーテリング、プラットフォームを横断する展開など、新しい物語体験の可能性について学びます。
第14回	「編集はどこから来てどこへ行くのか」―秋学期のまとめ	秋学期の学習を総括し、デジタルメディアにおける編集思考の可能性について整理します。新しい技術がもたらす表現の地平と、それを活かすための編集思考について確認し、これからのメディアと表現の可能性について展望します。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
各回で扱うメディアについて、自分の経験や身近な事例を観察し、その特徴について考えてください。		
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】		
特に使用しません		
【参考書】		
授業内で参考となる書籍やURLなどを、随時紹介します。		
【成績評価の方法と基準】		
期末レポート（70%）：設定されたテーマをもとに「編集思考」を用いて執筆してもらいます		
出席・授業内でのワーク（30%）		
【学生の意見等からの気づき】		
受講生とのコミュニケーションを重視し、随時講義内容をアップデートしていきます。また最新の事例を紹介しながら講義することで、実際に社会で起きているメディアを取り巻く課題に実感を持てるよう工夫していきます。		
【学生が準備すべき機器他】		
PCの利用が必須となります。教室の備品を活用するか、自前のPCやタブレットを持ち込んでください。スマートフォンでの作業は推奨しません。また課題の提出、資料配付、出席確認について、Google Classroomを活用します。		
【その他の重要事項】		
講師の武田俊は、本学の文学部日本文学科のOBで、起業経験を持つ現役の編集者です。その視点から、単純な座学ではなく最新事例をもとにした、ゼミのような双方向的な講義を目指します。春学期・秋学期それぞれで受講することが可能ですが、通年で受講することでより深く実践的な学びが得られます。また、本科目では「理論」を重視しますが、「情報メディア演習」では編集の仕事について、実践的に学ぶことができます。あわせて受講いただくと、より効果的なためおすすめします。		
【Outline (in English)】		
This course explores the historical development and characteristics of various media, focusing on editorial thinking as a method to design dialogue, create context, and structure expression. The spring semester covers traditional media (books, magazines, newspapers, broadcasting, etc.), while the fall semester examines digital media (web, social media, video platforms, etc.). Classes will consist of lectures and discussions, examining both historical examples and contemporary cases. Students will be expected to engage in critical thinking about media and editorial practices.		

Please come with your own experiences and observations of familiar examples of the media to be covered in each session, and think about their characteristics. 1 hour should be sufficient.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Assignments in lectures: 70%
- Attendance & reaction paper: 30%

LIT300LA (文学 / Literature 300)

教養ゼミ I (文芸創作の実践 A)

藤村 耕治

授業コード：A2713 | 曜日・時限：金3/Fri.3
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年度：2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。安直な技法論に頼ることなく、自ら書き、それを他者に批評してもらい、同時に同世代の作品を読むという経験を通して、おのれの個性を生かしつつ、独りよがりではない表現、人に伝わる表現とはどのようなものかを、実感を通して理解し、よりよい作品に練り上げていくことが目的です。

【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのように形にするか、さまざまな認識や思いを表現し、定着させて読み手に伝えるにはどのような技術や工夫が必要かという、創作的文章表現 (クリエイティブ・ライティング) における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

受講者の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部 (デテール) 表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一コマにつき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そののち全体で討議するという形をとることもあります。討議や教員からの講評を通して、自分の作品を客観的に見直し、書く力を高めていってほしい。

今セメスターで書いた作品は、秋セメスターで冊子化するので、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために①	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えて臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	文芸創作のために②	受講者各自の読書歴・関心・モチーフなどについての発表してもらい、創作意識を高めあう。
第三回	過去の学生創作作品の読解と分析①	過去の受講者の作品をテキストに、読解や分析の方法論を学ぶ。
第四回	過去の学生創作作品の読解と分析②	引き続き、過去の受講者の作品を読みながら、その優れた点や問題点などについて考える。
第五回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。

第六回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き、受講生による作品について班別または全体で討議する。
第七回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第九回	受講者の作品 (第二作目) の読解と分析①	第二作目として受講生が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第十回	受講者の作品 (第二作目) の読解と分析②	引き続き、受講生の作品について班別または全体で討議する。
第十一回	受講者の作品 (第二作目) の読解と分析③	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十二回	受講者の作品 (第二作目) の読解と分析④	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十三回	総括①	今セメスターにおける自身の創作作品について振り返り、より完成度の高い作品にするための方法を考える。
第十四回	総括②	今セメスターにおける他者の創作作品を振り返り、評価される作品とはどのような作品かを考える。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

作品は授業時間外に制作してもらいます。

創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものですから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。体験から多くのものを得て創作に生かしてください。

また、授業に向けて他の多くの受講生の書いた作品を毎回2作ほど熟読し、検討して討議に参加してもらいますが、創作も分析も何時間で出来るという枠に当てはめることは出来ませんので、授業時間外の学習時間は、各自の力に応じて、1週間にもなれば2週間にもなります。

【テキスト (教科書)】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】

作品の提出50%、授業内討議への積極的な参加30%、期末に課す課題 (自分の作品のブラッシュアップ) 20%。

【学生の意見等からの気づき】

高い満足度を得られているようなので、引き続き丁寧な指導を心がけたい。

【Outline (in English)】

Couse outline/Leaning Objectives

Through practical writing of poetry, essays and novels, student acquire the ability to express there own world view and imagination.

By reading and commenting each other's works, it is important to train "writing skills" and "reading skills".

Through mutual criticism, please understand what expressions are transmitted to people.

Learning activities outside of classroom

All the time to plan write the work is preparatory learning. You also need to read Other student's works carefully in advance. Therefore, overtime learning can be 2hours or a week depending on the person.

Grading Criteria/Policy

50% submission of the work, 30% active participation in the discussion, 20% of the semester-end assignment.

LIT300LA (文学 / Literature 300)

教養ゼミⅡ (文芸創作の実践B)

藤村 耕治

授業コード：A2714 | 曜日・時限：金3/Fri.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。

また、作品を一冊の冊子にまとめますが、それに必要な推敲・校正の方法のほか、編集に関する基礎的な方法論を身につけます。

【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのようにして形にするか、さまざまな思いや認識を表現し、定着させて他者に伝えるにはどのような工夫や技術が必要かという、創作における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評し、評価する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

受講者の作品を一冊の作品集にまとめる過程で、校正・編集などにかかわる基礎的な方法を学ぶこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

受講生の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部 (デティール) 表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一回につき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そののち全体で討議するという形をとることもあります。討議や教員からの講評を通して、自分の作品を客観的に見直し、書く力を高めていってほしい。

今semesterでは、受講者の書いた作品を冊子化します。その過程で、校正や編集の基本的な方法についても適宜講義します。そのため、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えで臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	作品読解・分析の方法①	学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第三回	作品読解・分析の方法②	引き続き、学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第四回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第五回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き受講者の作品についての班別または全体で討議を行う。
第六回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第七回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き受講者の作品についての討議を行う。

第八回	受講者の作品の読解と分析⑤	受講者の作品についての討議を行い、作品集に掲載する作品を決定する。
第九回	校正の方法①	作品の推敲や構成についての基本的な知識と方法を学ぶ。
第十回	校正の方法②	作品集に掲載する作品について、自身で校正する。
第十一回	作品集の編集①	本文レイアウト、誌名、表紙などを決定する。
第十二回	作品集の編集②	自分の作品および他の受講者の作品を校正する。
第十三回	作品集の編集③	念校し、校了とする。
第十四回	作品集の編集④	納品された作品集を確認し、すぐれた作品についての批評文を書く。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

作品は授業時間外に制作してもらいます。

創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものですから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。

また、授業に向けて他の多くの受講生の書いた作品を毎回2作ほど熟読し、検討して討議に参加してもらいますが、創作も分析も何時間で出来るという枠に当てはめることは出来ませんので、授業時間外の学習時間は各自の力に応じて、1週間にもなれば2時間にもなります。

編集委員長および編集委員になる受講者には、時間外に編集作業に従事してもらうこともあります。

【テキスト (教科書)】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】

作品の提出 35 %、授業内討議および編集作業への積極的な参加 35 %、期末に課すレポート (自分以外の受講者の作品 [三作以上] への批評文) 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

高い満足度を得られているようなので、引き続き丁寧な指導を心がけたい。

【Outline (in English)】

Couse outline/Leaning Objectives

Through practical writing of poetry, essays and novels, student acquire the ability to express there own world view and imagination.

By reading and commenting each other's works, it is important to train "writing skills" and "reading skills".

Through mutual criticism, please understand what expressions are transmitted to people.

Students also learn to edit their work books.

Learning activities outside of classroom

All the time to plan write the work is preparatory learning. You also need to read Other student's works carefully in advance. Therefore, overtime learning can be 2hours or a week depending on the person.

Grading Criteria/Policy

35% submission of the work, 35% cooperation in participation in discussions and editing work, 30% of semester-end assignment.

PR1100BC (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報リテラシー実習A

谷村 順一

授業コード：A2715 | 曜日・時限：月5/Mon.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年
備考（履修条件等）：他学科生の配当年次は2～4年です
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な情報メディアの特性と活用をテーマに、インターネットや各種電子メディアなど日々進展を続ける情報通信環境のもとで、従来の伝統的メディアである図書や雑誌等を取扱う技術だけでなく、21世紀という情報化社会を生きる我々に求められる情報収集手段および著作権を含む情報を扱う知識とスキルの修得について解説する。

【到達目標】

インターネットや各種電子情報通信機器、また従来の紙媒体といったアナログコンテンツを含め、高度情報通信社会において必要となる「情報の取り扱い」に関する広範囲な知識と能力の取得を目的とする。

The objective of this course is to provide students with a broad range of knowledge and skills related to the “handling of information” required in the advanced information and communication society, including the Internet, various electronic information and communication devices, and analog contents such as conventional paper media.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

インターネットや各種電子情報通信機器の仕組みや扱い方、情報化社会で求められる著作権などの知識の取得とともに、電子文書作成に使われることの多い「Microsoft Word」をメインに使用して、実際に文書を作成し、アプリケーションの操作方法を学び、読みやすい文書とは何かについて考える。なお「Microsoft Excel」、「Microsoft PowerPoint」をあつかう「情報リテラシー実習B」とあわせて受講することが望ましい。

※課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。In addition to acquiring knowledge of the structure and handling of the Internet and various types of electronic information and communication devices, as well as the copyrights required in the information society, students will learn how to operate applications by actually creating documents, mainly using Microsoft Word, which is often used to create electronic documents. We will learn how to operate the applications and think about what makes a document easy to read. It is recommended to take this course in conjunction with “Information Literacy Practice B” which covers Microsoft Excel and Microsoft PowerPoint. Submission of assignments and feedback will be done through the Learning Support System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	情報メディアの歴史	メディアの発達と変化
第3回	情報メディアの技術的背景	高度情報化社会と人間との関わり
第4回	情報リテラシーの実際	ネットリテラシーについて
第5回	アナログ情報メディアと視聴覚メディア	電子メディアの特性と活用方法
第6回	インターネットによる情報検索と発信方法	各種データベース（OPAC等）と情報検索方法
第7回	情報メディアと著作物利用に関する諸問題①	知的財産制度について
第8回	情報メディアと著作物利用に関する諸問題②	法規範や情報倫理について
第9回	情報メディアと著作物利用に関する諸問題③	創造活動や知的財産権、情報倫理について
第10回	Microsoft Wordの基本操作	文字入力と変換、書式設定
第11回	Microsoft Wordで案内状を作成する	インデント設定など
第12回	Microsoft Wordで暑中見舞いを作成する	Wordでの画像の扱い方について
第13回	Microsoft Wordでメニューを作成する	段組の設定
第14回	Microsoft Wordで表の入った文書を作成する	Wordでの表の作成方法について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内にて指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

I will give instructions in class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

参考文献は授業時に適宜紹介します。また必要な資料等は授業時に配布します。References will be introduced as appropriate during class. In addition, necessary materials will be distributed at the time of the class.

【参考書】

参考文献は授業時に適宜紹介します。また必要な資料等は授業時に配布します。References will be introduced as appropriate during class. In addition, necessary materials will be distributed at the time of the class.

【成績評価の方法と基準】

平常点30%+課題70%

課題については、課題毎にいくつかのポイントを設定し、そのポイントをクリアすることによって点数を加算します。

Performance in class 30% + assignments 70%.

For assignments, students gain points as they clear each of a set of specified goals.

【学生の意見等からの気づき】

特になし

nothing special

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

We will use the Learning Support System to distribute materials and submit assignments.

【その他の重要事項】

※コンピュータの数に限りがあるため、30名限定とします。受講希望者が多い場合は1回目の授業時に選抜を行います。

Due to the limited number of computers, we will limit the class to 30 people. If there are many applicants, selection will be made at the time of the first class.

【Outline (in English)】

Under the theme of the characteristics and utilization of various information media, this course will explain how to acquire knowledge and skills to handle information, including the means to collect information as well as the issue of copyright, which are required for us to live in the information society of the 21st century. It will also explain how to acquire the skills necessary for dealing with the traditional media, such as books and magazines, within an information and communication environment that continues to develop day by day, on the Internet and various electronic media.

The objective of this course is to provide students with a broad range of knowledge and skills related to the “handling of information” required in the advanced information and communication society, including the Internet, various electronic information and communication devices, and analog contents such as conventional paper media.

I will give instructions in class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Performance in class 30% + assignments 70%.

For assignments, students gain points as they clear each of a set of specified goals.

PR1100BC (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報リテラシー実習B

谷村 順一

授業コード：A2716 | 曜日・時限：月5/Mon.5
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年
備考（履修条件等）：他学科生の配当年次は2～4年です
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な情報メディアの特性と活用をテーマに、インターネットや各種電子メディアなど日々進展を続ける情報通信環境のもとで、従来の伝統的メディアである図書や雑誌等を取扱う技術だけではなく、21世紀という情報化社会を生きる我々に求められる情報収集手段および著作権を含む情報を扱う知識とスキルの修得について解説する。

【到達目標】

インターネットや各種電子情報通信機器、また従来の紙媒体といったアナログコンテンツを含め、高度情報通信社会において必要となる「情報の取り扱い」に関する広範囲な知識と能力の取得を目的とする。

The objective of this course is to provide students with a broad range of knowledge and skills related to the “handling of information” required in the advanced information and communication society, including the Internet, various electronic information and communication devices, and analog contents such as conventional paper media.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

様な情報メディアの特性と活用をテーマに、インターネットや各種電子メディアなど日々進展を続ける情報通信環境のもとで、従来の伝統的メディアである図書や雑誌等を取扱う技術だけではなく、21世紀という情報化社会を生きる我々に求められる情報収集手段および著作権を含む情報を扱う知識とスキルの修得について解説する。「情報リテラシー実習B」では主にMicrosoft Excelを用いた表作成、PowerPointで作成したスライドを用いた効果的なプレゼン方法の実践について学ぶため、文書作成で使用するWordを主にあつかう「情報リテラシー実習A」とあわせて受講することが望ましい。

※課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。
Under the theme of the characteristics and utilization of various information media, this course will explain how to acquire knowledge and skills to handle information, including the means to collect information as well as the issue of copyright, which are required for us to live in the information society of the 21st century. It will also explain how to acquire the skills necessary for dealing with the traditional media, such as books and magazines, within an information and communication environment that continues to develop day by day, on the Internet and various electronic media. In "Information Literacy Practice B," students will learn how to create tables using Microsoft Excel and how to make effective presentations using PowerPoint slides, so it is recommended that students take this course in conjunction with "Information Literacy Practice A," which focuses on Word for document creation. Submission of assignments and feedback will be done through the Learning Support System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	Microsoft Excel ① 基本操作	Excelの基本操作について
第3回	Microsoft Excel ② セル、行、列について	表作成に必要なセル、行、列について
第4回	Microsoft Excel ③ ワークシート	ワークシートを用いた効率的な表の管理について
第5回	Microsoft Excel ④ 数データ入力方法	数値、連続するデータなどの入力方法について
第6回	Microsoft Excel ⑤ 表の作成の実際	罫線などの設定方法について
第7回	Microsoft Excel ⑥ 表計算	数式と関数を用いて表計算を行う方法について
第8回	Microsoft PowerPoint の基本操作	PowerPointの基本操作について
第9回	Microsoft PowerPoint での入力と書式① 書体のあつかい	スライドの読みやすさの基本となる書体の選択方法などについて
第10回	Microsoft PowerPoint での入力と書式② 見やすいスライドとは	行間、インデント等、スライドの見やすさに直接つながる項目の設定方法について

第11回	Microsoft PowerPoint でのデザインとレイアウト① スライドのテーマ	共通テーマを設定することでスライドに統一イメージを持たせる方法について
第12回	Microsoft PowerPoint でのデザインとレイアウト② スライドのデザイン	スライドのデザインをより印象的なものとするための背景と配色について
第13回	Microsoft PowerPoint でのスライドの切り替え方法	アニメーションとトランジションの設定
第14回	総合課題	総合課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内にて指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

I will give instructions in class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

参考文献は授業時に適宜紹介します。また必要な資料等は授業時に配布します。References will be introduced as appropriate during class. In addition, necessary materials will be distributed at the time of the class.

【参考書】

参考文献は授業時に適宜紹介します。また必要な資料等は授業時に配布します。References will be introduced as appropriate during class. In addition, necessary materials will be distributed at the time of the class.

【成績評価の方法と基準】

平常点30%＋課題70%
課題については、課題毎にいくつかのポイントを設定し、そのポイントをクリアすることによって点数を加算します。
Performance in class 30% + assignments 70%.
For assignments, students gain points as they clear each of a set of specified goals.

【学生の意見等からの気づき】

特になし
Nothing in particular.

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。
We will use the Learning Support System to distribute materials and submit assignments.

【その他の重要事項】

※コンピュータの数に限りがあるため、30名限定とします。受講希望者が多い場合は1回目の授業時に選抜を行います。
Due to the limited number of computers, we will limit the class to 30 people. If there are many applicants, selection will be made at the time of the first class.

【Outline (in English)】

Under the theme of the characteristics and utilization of various information media, this course will explain how to acquire knowledge and skills to handle information, including the means to collect information as well as the issue of copyright, which are required for us to live in the information society of the 21st century. It will also explain how to acquire the skills necessary for dealing with the traditional media, such as books and magazines, within an information and communication environment that continues to develop day by day, on the Internet and various electronic media.

The objective of this course is to provide students with a broad range of knowledge and skills related to the “handling of information” required in the advanced information and communication society, including the Internet, various electronic information and communication devices, and analog contents such as conventional paper media.

I will give instructions in class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Performance in class 30% + assignments 70%.
For assignments, students gain points as they clear each of a set of specified goals.

PRI100BC（情報学基礎 / Principles of informatics 100）		第14回	講評	企画書課題の講評を行い、春学期の内容を振り返ります。
情報メディア演習A		【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
武田 俊		ワークショップやプレゼンなどの課題があります。講義の中で作業時間を設けますが、進捗状況に応じて講義外で作業をしてもらう可能性があります。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。		
夜間時間帯		【テキスト（教科書）】		
授業コード：A2717 曜日・時限：木5/Thu.5		明確な教科書はありません。適宜資料やURLを紹介します。		
春学期授業/Spring・2単位 配当年次：1～4年		【参考書】		
その他属性：〈実〉		適宜資料やURLを紹介します。		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		【成績評価の方法と基準】		
メディアとは何か、編集とは何か。この2つの問いをベースに、人類とメディアの関係から、現代のメディアビジネスのあり方までを実践的に学ぶことができます。演習形式のため、様々なツールを使い受講生一人ひとりに考えるだけではなく、実践してもらいます。また、現役編集者という立場から近年のメディアトピックについて、具体的例も随時取り上げます。情報化社会を生きる上で避けて通れない「情報」の扱い方について、それぞれの問いを見つけ出すことを目的とします。		講義内での課題70%、リアクションペーパーの提出率と内容評価で30%。加えて講義への参加意識などを加味し、総合的に評価します。		
【到達目標】		【学生の意見等からの気づき】		
座学と実践的なワークショップを組み合わせたプログラムを通して、メディアや編集の持つ特性を理解し、クリエイティブな意図を持って扱う技術を身につけること。		受講生とのコミュニケーションを重視し、随時講義内容をアップデートしていきます。また最新の事例を紹介しながら講義することで、実際に社会で起っているメディアを取り巻く課題に実感を持てるよう工夫していきます。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		【学生が準備すべき機器他】		
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連		PCの使用が必須となるため、情報実習室の備品を活用ください。あるいは、自前のPCやタブレットを持ち込む形でも結構です。スマートフォンでの作業は推奨しません。また課題の提出、資料配付、出席確認について、Google Classroomを活用します。		
【授業の進め方と方法】		【その他の重要事項】		
講義ではスライドを用いた座学だけでなく、グループワークなど実際に手を動かすワークショップの時間を重要視しています。講義ではPCを活用（情報演習室の備品でも自前のものでも可）し、GoogleDriveやその他、様々なツールを使用します。また数回、外部のクリエイターを招いたゲスト回も予定しています。		講師の武田俊は、本学の文学部日本文学科のOBで、起業経験を持つ現役の編集者です。その視点から、単純な座学ではなく最新事例をもとにした、ゼミのような双方向的な講義を目指します。春学期・秋学期それぞれで受講することが可能ですが、通年で受講することでより深く実践的な学びが得られます。また、本科目では実践を重視しますが、「編集理論」では編集の仕事について、理論的に学ぶことができます。あわせて受講いただくと、より効果的なためおすすめします。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		【Outline (in English)】		
あり /Yes		This course introduces modern media and how to edit it to students taking this course.It is supposed not only to lecture but also to actually use some media and practice.		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		There will be workshops, presentations, and other assignments. Work time will be allotted during lectures, but students may be asked to work outside of lectures depending on their progress.		
あり /Yes		Your overall grade in the class will be decided based on the following Assignments in lectures 70%、Attendance&reaction paper : 30%		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face				
回	テーマ	内容		
第1回	イントロダクション：メディアとはなにか	カリキュラム説明、講師のプロフィール紹介ののち、ミニワークを通してメディアとはなにかという問いと向き合います。		
第2回	人類とメディア	人類とメディアの関わりについて、その歴史を旅するように眺めます。		
第3回	現代のメディアビジネス	新聞、雑誌、書籍、Web…現代の主要メディアの特性とビジネスモデルについて学び、考え、実際に触れてみます。		
第4回	記事制作ワークショップ1：メディアにはどのような記事があるか	実在するメディアを参照し、記事のタイプや特徴などをグループに分かれリサーチします。		
第5回	記事制作ワークショップ2：企画会議	いい企画とはなにか。いいアイデアはどう生み出せるのか。企画会議を通して学びます。		
第6回	記事制作ワークショップ3：取材のしかた	いい回答を引き出すための、いい取材とはなにか。インタビューを通して学びます。		
第7回	記事制作ワークショップ4：構成・校正	読み応えのある記事はどうつくれるのか。構成と校正を通して学びます。		
第8回	講評	出来上がった記事について、プレゼンと講評を行います		
第9回	現代の編集者	編集は書籍や雑誌に限った仕事ではありません。メディアを横断した編集者の仕事について、講師の経験と事例をもとにお話しします。		
第10回	編集者とクリエイター1	編集者が仕事をともにする、クリエイターをゲストに招き、受講生とともにインタビューを行います。		
第11回	編集者とクリエイター2	編集者が仕事をともにする、クリエイターをゲストに招き、受講生とともにインタビューを行います。		
第12回	企画制作ワークショップ1	企画はどのようにうまれるのか。よい企画と悪い企画では、何が異なるのか、事例をもとに学びます。		
第13回	企画制作ワークショップ2	アイディアを実現させるために、企画書には何を盛り込むべきなのか。実際に企画書を制作します。		

PR1100BC（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報メディア演習B

武田 俊

夜間時間帯

授業コード：A2718 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアとは何か、編集とは何か。この2つの問いをベースに、人類とメディアの関係から、現代のメディアビジネスのあり方までを実践的に学ぶことができます。演習形式のため、様々なツールを使い受講生一人ひとりに考えるだけではなく、実践してもらいます。また、現役編集者という立場から近年のメディアトピックについて、具体的例も随時取り上げます。情報化社会を生きる上で避けて通れない「情報」の扱い方について、それぞれの問いを見つけて出すことを目的とします。

【到達目標】

座学と実践的なワークショップを組み合わせたプログラムを通して、メディアや編集の持つ特性を理解し、クリエイティブな意図を持って扱う技術を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ではスライドを用いた座学だけでなく、グループワークなど実際に手を動かすワークショップの時間を重要視しています。講義ではPCを活用（情報演習室の備品でも自前のものでも可）し、GoogleDriveやその他、様々なツールを使用します。また数回、外部のクリエイターを招いたゲスト回も予定しています。

協同的な学びを生むために、リアクションペーパー内の感想コメントは名前を伏せた上でシェアします。課題については、授業内の講評で具体的なフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	メディアと編集	この授業のねらいとカリキュラムについての説明のほか、メディアと編集の基礎を理解するためのミニ講義を行います。
第2回	デジタルメディアの誕生と変遷	インターネット誕生以降のデジタルメディアの歴史を紐解きます。
第3回	デジタルメディアワークショップ1：リサーチ	グループに分かれ、デジタルメディアの特徴やマネタイズモデルをリサーチしてもらいます。
第4回	デジタルメディアワークショップ2：プレゼン	リサーチ結果のプレゼンを行います
第5回	デジタルメディアワークショップ3：ヒアリングとアイディアメイク	与えられたお題に対し、ヒアリングを実施。それをもとにデジタルメディアを活用した企画のアイディアを生み出してもらいます。
第6回	デジタルメディアワークショップ4：企画化	生まれたアイディアを元に、具体的に企画書を制作してもらいます。
第7回	デジタルメディアワークショップ5：プレゼン	グループごとに企画書をプレゼンしてもらい、講評します。
第8回	デジタルメディアの編集感覚	多種多様化するデジタルメディアにおいて、編集者はどのような存在として仕事をしているのか。講師の経験と事例をもとにお話しします。
第9回	AIとの協働	生成AIが一般化した現在、デジタルメディアは大きな変化の渦中にあります。どのように協働・活用ができるのか、講師の事例をもとにお話しします。
第10回	編集者とクリエイター1	編集者が仕事をともにする、クリエイターをゲストに招き、受講生とともにインタビューを行います。
第11回	編集者とクリエイター2	編集者が仕事をともにする、クリエイターをゲストに招き、受講生とともにインタビューを行います。
第12回	レビューワークショップ1：レビューとはなにか	レビューとはなにか。批評とどう違うのか。事例をもとにリサーチします。
第13回	レビューワークショップ2：レビューの実践	お題に対して、レビューを執筆してもらいます。

第14回 講評／まとめ

課題の講評を行い、秋学期の内容を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ワークショップやプレゼンなどの課題があります。講義の中で作業時間を設けますが、進捗状況に応じて講義外で作業をしてもらう可能性があります。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

明確な教科書はありません。適宜資料やURLを紹介します。

【参考書】

講義の際に、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

講義内での課題70%、リアクションペーパーの提出率と内容評価で30%。加えて講義への参加意識などを加味し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生とのコミュニケーションを重視し、随時講義内容をアップデートしていきます。また最新の事例を紹介しながら講義することで、実際に社会で起っているメディアを取り巻く課題に実感を持てるよう工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

PCの使用が必須となるため、情報実習室の備品を活用ください。あるいは、自前のPCやタブレットを持ち込む形でも結構です。スマートフォンでの作業は推奨しません。また課題の提出、資料配付、出席確認について、Google Classroomを活用します。

【その他の重要事項】

講師の武田俊は、本学の文学部日本文学科のOBで、起業経験を持つ現役の編集者です。その視点から、単純な座学ではなく最新事例をもとにした、ゼミのような双方向的な講義を目指します。春学期・秋学期それぞれで受講することが可能ですが、通年で受講することでより深く実践的な学びが得られます。また、本科目では実践を重視しますが、「編集理論」では編集の仕事について、理論的に学ぶことができます。あわせて受講いただくと、より効果的なためおすすめします。

【Outline (in English)】

This course introduces modern media and how to edit it to students taking this course.It is supposed not only to lecture but also to actually use some media and practice.

There will be workshops, presentations, and other assignments. Work time will be allotted during lectures, but students may be asked to work outside of lectures depending on their progress.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Assignments in lectures 70%, Attendance&reaction paper : 30%

LIT300BC (文学 / Literature 300)

書道A(書写を中心とする)

橋本 匡朗

授業コード：A2719 | 曜日・時限：金4/Fri.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

【到達目標】

良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところ」に従って、規矩を離えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法等をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。

What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。各課題における添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス①	構え・執筆方法・文房四宝
第2回	ガイダンス②	書体の変遷・書の特徴・いろいろな書
第3回	楷書①基本点画	「上下大小日同」（大筆）「上下大」を中心に習い全体をまとめる。
第4回	楷書①基本点画	「上下大小日同」（大筆）「小日同」を中心に習い全体をまとめる。
第5回	楷書②基本点画	「人近力字心式」（大筆）「人近力」を中心に習い全体をまとめる。
第6回	楷書②基本点画	「人近力字心式」（大筆）「字心式」を中心に習い全体をまとめる。
第7回	楷書③筆使い	「登山雲海」（大筆）「登山」を中心に習い全体をまとめる。
第8回	楷書③筆使い	「登山雲海」（大筆）「雲海」を中心に習い全体をまとめる。
第9回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」（大筆）背勢の原理で書く。
第10回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」（大筆）向勢の原理で書く。
第11回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」（大筆）「談笑無」を中心に習い全体をまとめる。
第12回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」（大筆）「還期」を中心に習い氏名の書き方も工夫する。
第13回	楷書⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」（小筆）前半6文字を中心に学び全体をまとめる。
第14回	楷書⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」（小筆）後半6文字を中心に学び全体をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された展覧会の鑑賞とレポート提出。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

- ①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻（講談社）
- ②プリント配布

【参考書】

プリント配布

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。（80％）

適時レポート（20％）

Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施。

【学生が準備すべき機器他】

用具・用材

大筆・小筆（最低各一本）/硯一面/墨一丁（墨汁の使用可ただし墨も必要）/文鎮/水滴（スポイドも可）/半紙（毎回最低20枚ぐらい用意）/雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷（書道用フェルト）/その他必要な道具は事前に連絡

【その他の重要事項】

書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

【Outline (in English)】

Course Outline: From the viewpoint that “calligraphy is expression through writing,” the class will take the form of practical exercises to enhance the students' expressive power of calligraphy, but will also take care to cultivate their basic appreciation of and love for calligraphy. This is a course on the basics of calligraphy.

Learning Objectives: What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.

Learning Activities Outside of the Classroom: Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

書道B(書写を中心とする)

橋本 匡朗

授業コード：A2720 | 曜日・時限：金4/Fri.4
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

【到達目標】

良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところに従って、規矩を離えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。

What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。各課題における添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「清泉」（大筆）
第2回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「東越青丘」（大筆）
第3回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「以文徳懷遠人」（大筆）
第4回	行書①	行書の特徴・各書体（篆書・隸書・楷書・行書・草書）の歴史
第5回	行書②筆使い	「我忘吾」（大筆）「我忘」を中心に習い全体をまとめる。
第6回	行書②筆使い	「我忘吾」（大筆）「吾」と氏名の書き方を工夫し全体をまとめる。
第7回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」（大筆）「徳不孤」を中心に習い全体をまとめる。
第8回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」（大筆）「必有隣」を中心に習い全体をまとめる。
第9回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天風」（大筆）
第10回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗気清」（大筆）
第11回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「恵風和暢」（大筆）
第12回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「仰観宇宙之大」（大筆）
第13回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗気清恵風和暢仰観宇宙之大」（小筆）
第14回	かなの筆使い	書写における平がなの書き方「いろは歌」（大筆）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された展覧会の鑑賞とレポート提出。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

- ①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻（講談社）
- ②プリント配布

【参考書】

プリント配布

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。（80％）
適時レポート（20％）

Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施。

【学生が準備すべき機器他】

用具・用材

大筆・小筆（最低各一本）/硯一面/墨一丁（墨汁の使用可ただし墨も必要）/文鎮/水滴（スポイドも可）/半紙（毎回最低20枚ぐらい用意）/雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷（書道用フェルト）/その他必要な道具は事前に連絡

【その他の重要事項】

書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

【Outline (in English)】

Course Outline: From the viewpoint that “calligraphy is expression through writing,” the class will take the form of practical exercises to enhance the students’ expressive power of calligraphy, but will also take care to cultivate their basic appreciation of and love for calligraphy. This is a course on the basics of calligraphy.

Learning Objectives: What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart’s desire but does not ignore the rules.

Learning Activities Outside of the Classroom: Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

書道A(書写を中心とする)

橋本 匡朗

夜間時間帯

授業コード：A2721 | 曜日・時限：金5/Fri.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

【到達目標】

良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところに従って、規矩を踏えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法等をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。

What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。各課題における添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス①	構え・執筆方法・文房四宝
第2回	ガイダンス②	書体の変遷・書の特徴・いろいろな書
第3回	楷書①基本点画	「上下大小日同」（大筆）「上下大」を中心に習い全体をまとめる。
第4回	楷書①基本点画	「上下大小日同」（大筆）「小日同」を中心に習い全体をまとめる。
第5回	楷書②基本点画	「人近力字心式」（大筆）「人近力」を中心に習い全体をまとめる。
第6回	楷書②基本点画	「人近力字心式」（大筆）「字心式」を中心に習い全体をまとめる。
第7回	楷書③筆使い	「登山雲海」（大筆）「登山」を中心に習い全体をまとめる。
第8回	楷書③筆使い	「登山雲海」（大筆）「雲海」を中心に習い全体をまとめる。
第9回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」（大筆）背勢の原理で書く。
第10回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」（大筆）向勢の原理で書く。
第11回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」（大筆）「談笑無」を中心に習い全体をまとめる。
第12回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」（大筆）「還期」を中心に習い氏名の書き方も工夫する。
第13回	楷書⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」（小筆）前半6文字を中心に学び全体をまとめる。
第14回	楷書⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」（小筆）後半6文字を中心に学び全体をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された展覧会の鑑賞とレポート提出本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

- ①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻（講談社）
- ②プリント配布

【参考書】

プリント配布

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。（80％）
適時レポート（20％）

Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施。

【学生が準備すべき機器他】

用具・用材

大筆・小筆（最低各一本）/硯一面/墨一丁（墨汁の使用可ただし墨も必要）/文鎮/水滴（スポイドも可）/半紙（毎回最低20枚ぐらい用意）/雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷（書道用フェルト）/その他必要な道具は事前に連絡

【その他の重要事項】

書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

【Outline (in English)】

Course Outline: From the viewpoint that “calligraphy is expression through writing,” the class will take the form of practical exercises to enhance the students' expressive power of calligraphy, but will also take care to cultivate their basic appreciation of and love for calligraphy. This is a course on the basics of calligraphy.

Learning Objectives: What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.

Learning Activities Outside of the Classroom: Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

書道B(書写を中心とする)

橋本 匡朗

夜間時間帯

授業コード：A2722 | 曜日・時限：金5/Fri.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

【到達目標】

良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところに従って、規矩を踏えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法等をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。

What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。各課題における添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「清泉」（大筆）
第2回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「東越青丘」（大筆）
第3回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「以文徳懷遠人」（大筆）
第4回	行書①	行書の特徴・各書体（篆書・隸書・楷書・行書・草書）の歴史
第5回	行書②筆使い	「我忘吾」（大筆）「我忘」を中心に習い全体をまとめる。
第6回	行書②筆使い	「我忘吾」（大筆）「吾」と氏名の書き方を工夫し全体をまとめる。
第7回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」（大筆）「徳不孤」を中心に習い全体をまとめる。
第8回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」（大筆）「必有隣」を中心に習い全体をまとめる。
第9回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天風」（大筆）
第10回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗氣清」（大筆）
第11回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「惠風和暢」（大筆）
第12回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「仰觀宇宙之大」（大筆）
第13回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗氣清惠風和暢仰觀宇宙之大」（小筆）
第14回	かなの筆使い	書写における平がなの書き方「いろは歌」（大筆）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された展覧会の鑑賞とレポート提出本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

- ①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻（講談社）
②プリント配布

【参考書】

プリント配布

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。（80％）
適時レポート（20％）

Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施。

【学生が準備すべき機器他】

用具・用材

大筆・小筆（最低各一本）/硯一面/墨一丁（墨汁の使用可ただし墨も必要）/文鎮/水滴（スポイドも可）/半紙（毎回最低20枚ぐらい用意）/雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷（書道用フェルト）/その他必要な道具は事前に連絡

【その他の重要事項】

書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

【Outline (in English)】

Course Outline: From the viewpoint that “calligraphy is expression through writing,” the class will take the form of practical exercises to enhance the students' expressive power of calligraphy, but will also take care to cultivate their basic appreciation of and love for calligraphy. This is a course on the basics of calligraphy.

Learning Objectives: What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.

Learning Activities Outside of the Classroom: Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

EDU200BC（教育学 / Education 200）

国語科教育法(1)

今藤 晃裕

授業コード：A2724 | 曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国語科の歴史と課題を踏まえて、学習指導要領に示された国語科の目標や内容、全体構造、指導上の留意点などを取り上げる。こうしたことを前提にして、教材研究の方法、学習評価のあり方、発展的な学習内容の学習指導への位置づけなどについて取り上げる。

【到達目標】

学習指導要領に示された中学校、高等学校の国語科の目標や内容、全体構造、指導上の留意点、学習評価の考え方を把握することができる。3つの資質・能力（知識・技能 思考力・判断力・表現力等 学びに向かう力・人間性等）を育成するために、国語科を支える国語学、国文学、教育学などの成果を踏まえて教材研究をし、その上で、発展的な学習内容を学習指導に位置づけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は講義を中心とするが、適宜グループディスカッションやディベート、授業内での発表を取り入れる。毎回授業の終わりにリアクションペーパーを提出してもらい、次回授業の冒頭でコメントする。後半は学生発表（教材研究）を中心とし、発表後、全体で討議・評価する。授業内容は受講者の人数で変更があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	国語科の授業の目的や学習指導内容の全体像を確認する。
第2回	国語科の歴史	日本の教科書制度の歴史や学習指導要領の変遷過程を学ぶ。
第3回	国語科の課題	今日的な国語科の課題を学ぶ。
第4回	学習指導要領（1）	中学の「話すこと・聞くこと」の学習課題を確認し、その指導方法を学ぶ。
第5回	学習指導要領（2）	中学の「書くこと」の学習課題を確認し、その指導方法を学ぶ。
第6回	学習指導要領（3）	説明文や論説文など、中学の「読むこと」の学習課題を確認し、その指導方法を学ぶ。
第7回	学習指導要領（4）	詩・詩歌・小説・古典など、中学の文学教材の学習課題を確認し、その指導方法を学ぶ。
第8回	国語科の授業設計	中学国語の実際の教材を例に、学習指導案の作成方法を学ぶ。
第9回	国語教科書（1）	個別教材の分析方法を学ぶ。
第10回	国語教科書（2）	個別教材の分析を踏まえ、授業計画への有効な活かし方を学ぶ。
第11回	教材研究（1）	中学の小説教材で学習指導案を書き、学生が発表する。発表後、全体で討議・評価する。
第12回	教材研究（2）	中学の詩歌教材で学習指導案を書き、学生が発表する。発表後、全体で討議・評価する。
第13回	教材研究（3）	中学の古文教材で学習指導案を書き、学生が発表する。発表後、全体で討議・評価する。
第14回	教材研究（4）	中学の漢文教材で学習指導案を書き、学生が発表する。発表後、全体で討議・評価する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、1回の授業に対して計4時間を標準とします。（復習）配布資料に目を通し、自分の意見をまとめておくこと。また、わからないことは質問できるようにしておくこと。（準備）発表準備やレポートの作成に向けて、授業内に出された課題に取り組むこと。特に授業で使用する教材は必ず読んでから参加すること。

【テキスト（教科書）】

「『国語編』中学校学習指導要領（平成29年告示）解説」（文部科学省）
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_002.pdf（印刷、もしくはweb版をその都度確認できるよう準備する）

【参考書】

中学校国語教科書『国語1』『国語2』『国語3』（光村図書出版）
『中学校 板書で見る全単元の授業のすべて 国語板書シリーズ』（東洋館出版社）
『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校国語』（東洋館出版社）

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題やリアクションペーパーの充実度（50％）、発表（教材研究）の充実度（30％）、期末レポートの充実度（20％）

【学生の意見等からの気づき】

受講者より「指導案や模擬授業などを通して、将来の教師像を確認することができた」等のコメントを頂いています。現在の学習指導要領のポイントから、暗黙知的な教師の教室における振舞い方まで、受講者が実際の教室をイメージしやすいような授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

講義内容の記録、講義資料の保管に役立つものを準備すること。

【その他の重要事項】

自分が教員採用を目指している地域、及び私学の情報については、個別にご相談ください。

【Outline (in English)】

The course of Teaching Method of Japanese (Kokugo-ka Kyoiku-ho) is consisted of the four classes, Teaching Method (1), (2), (3) and (4). The objective of Teaching Method (1) is to understand and learn the goals, contents, curriculum structure and points to note for instruction on Subject of Japanese Language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following reaction papers in class:50%, presentations:30%, reports:20%

EDU200BC（教育学 / Education 200）

国語科教育法(2)

今藤 晃裕

授業コード：A2725 | 曜日・時限：金2/Fri.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学生・高校生の認識や思考、学力などの実態や実践研究の動向を視野に入れて、授業設計の重要性を理解し、国語科の特性に応じた情報機器及び機材の効果的な活用を組み込んだ学習指導案の作成に取り組む。模擬授業の実施とその振り返りを通して、国語科における実践研究の動向を知り、授業をよりよく改善していくことに取り組む。

【到達目標】

国語科教育法（1）の授業のテーマ及び到達目標を前提にして、国語科における基礎的な学習指導理論を学び、具体的な授業場面を想定して学習指導案を作成することができる。模擬授業に取り組むことによって、授業を改善することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は講義を中心とするが、適宜グループディスカッションや授業内での発表を取り入れる。毎回授業の終わりにリアクションペーパーを提出してもらい、次回授業の冒頭でコメントする。後半は学生発表（模擬授業）を中心とする。発表者は模擬授業を行い、それ以外の学生は生徒役になり、他者の模擬授業を観察・評価する。授業内容は受講者の人数で変更があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	学習指導案（1）	高校国語の学習指導案の基本的書式について学ぶ。
第2回	学習指導案（2）	「言語文化」「読むこと」のうち、小説教材の学習課題を確認し、その指導方法を学ぶ。
第3回	学習指導案（3）	「言語文化」「読むこと」のうち、韻文教材の学習課題を確認し、その指導方法を学ぶ。
第4回	学習指導案（4）	「現代の国語」「読むこと」のうち、評論文教材の学習課題を確認し、その指導方法を学ぶ。
第5回	学習指導案（5）	「現代の国語」「書くこと」のうち、実用的な文章の学習課題を確認し、その指導方法を学ぶ。
第6回	模擬授業（1）	高校の小説教材で学生が模擬授業を行い、発表後、全体で討議・評価する。
第7回	模擬授業（2）	高校の小説教材で学生が模擬授業を行い、発表後、全体で討議・評価する。
第8回	模擬授業（3）	高校の評論文教材で学生が模擬授業を行い、発表後、全体で討議・評価する。
第9回	模擬授業（4）	高校の現代詩教材で学生が模擬授業を行い、発表後、全体で討議・評価する。
第10回	模擬授業（5）	高校の詩歌教材で学生が模擬授業を行い、発表後、全体で討議・評価する。
第11回	模擬授業（6）	高校の古文教材で学生が模擬授業を行い、発表後、全体で討議・評価する。
第12回	模擬授業（7）	高校の漢文教材で学生が模擬授業を行い、発表後、全体で討議・評価する。
第13回	学力の形成と教育課程（1）	年間指導計画の作成方法を学ぶ。
第14回	学力の形成と教育課程（2）	年間指導計画の作成方法を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、1回の授業に対して計4時間を標準とします。（復習）配布資料に目を通し、自分の意見をまとめておくこと。また、わからないことは質問できるようにしておくこと。

（準備）発表準備やレポートの作成に向けて、授業内に出された課題に取り組むこと。特に授業で使用する教材は必ず読んでから参加すること。

【テキスト（教科書）】

「【国語編】高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説」（文部科学省）https://www.mext.go.jp/content/20210909-mxt_kyoiku01-100002620_02.pdf（印刷、もしくはweb版をその都度確認できるよう準備する）

【参考書】

高等学校国語教科書『探求 現代の国語』『探求 言語文化』（桐原書店）
高等学校国語教科書『現代の国語』『言語文化』（筑摩書房）
古屋明子『有名古典の言語活動：「言語文化」「古典探究」における実践例』（明治書院、2022年）
『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校国語』（東洋館出版社、2021年）

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題やリアクションペーパーの充実度（50％）、模擬授業の充実度（30％）、期末レポート（学習指導案）の充実度（20％）

【学生の意見等からの気づき】

受講者より「模擬授業課題に取り組むことによって自分の考えや授業の見方が変わった」、「現場の生の声、問題点や留意点などを学ぶことができた」等のコメントを頂いています。受講を通じて、受講者自身が実際に教壇に立つイメージをもてるような授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

講義内容の記録、講義資料の保管に役立つもの。

【その他の重要事項】

自分が教員採用を目指している地域、及び私学の情報については、個別にご相談ください。

【Outline (in English)】

On the basis of Teaching Method (1), the objective of Teaching Method (2) is for students to learn basic theories of Japanese language instruction and to master how to plan, do and check the lessons through trying to practice them for themselves. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following reaction papers in class:50%, presentations:30%, reports:20%

EDU200BC（教育学 / Education 200）

国語科教育法(3)

小清水 裕子

授業コード：A2727 ｜ 曜日・時限：火5/Tue.5
春学期授業/Spring・2単位 ｜ 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育学と現代言語学・文学の理論をベースに、中学校や高等学校の国語科で扱うテキストの教材化のための分析解釈を行い、さまざまな教室環境の中で、実際に授業を展開するためのスキルを身につけ、授業実習演習を行う。具体的には、『羅生門』（芥川龍之介）などの定番作品を既成の読みから解放する自ら考え、「疑問を作り出す」読解の授業実践力を培う。

【到達目標】

言語による思考力、判断力、表現力等を問う読解力や記述式問題、知識技能を活用する問題の解法のスキルや知識教養を学ぶ。また、時代の流れの中で、学校環境の中で起こる様々な問題を想定しながら、さまざまな背景や思想を持つ他者への想像力を培い、客観的に状況を分析する力と、生きる力につながる指導力を育てる。最終的には魅力ある国語の授業のための学習指導案作成の力と授業の実践を行う力を付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文学概論及び言語学概論を確認して、国語科教材の分析及び授業法を学ぶ。模擬授業を行うことによって実践力や、授業スキルを身につける。講義力、及び教室空間をデザインして、アクティブラーニング、グループ演習を実践する方法を学ぶ。授業の「振り返りシート」等における良いコメントは授業内で紹介し、更なる議論に活用する。

本科目は、4月8日（火）から授業を開始する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「学習指導要領解説」国語編の学習	国語の授業とは何かについて 「現代文学理論」文学表現とは、言語とはなにかについて
第2回	高等学校定番小説教材の分析及び実践例①	『羅生門』はなぜ小説教材の導入に用いられる教材価値があるのか。
第3回	小説『羅生門』の教材分析と授業実践の展開	メタファー、語りの構造、人物像を 探る 模擬授業実践
第4回	小説の読み方概論	小説『羅生門』の様々な作品分析の 紹介と主題文の作成演習
第5回	現代文学理論概要	現代文学理論による教材分析の方法 と国語教材の傾向と選定の方法
第6回	中学校定番小説教材の分析及び実践例②	教材例としての、小説『高瀬舟』の 教材分析と授業実践の展開
第7回	小説『高瀬舟』の教材分析と授業実践の展開 模擬授業演習①	模擬授業実践演習の在り方の指導
第8回	小説『高瀬舟』の教材分析と模擬授業演習②	小説『高瀬舟』を語りの構造から読み 解き、模擬授業実践演習に取り入 れる
第9回	小説教材の授業計画法と評価法	模擬授業実践演習の指導助言と小説 教材の学習指導案作成。テスト問題 の作成法の指導
第10回	詩歌句の読解と指導	詩歌句の指導法とテスト問題の作成 の指導
第11回	授業教材例として詩歌句の模擬授業演習	「中村草田男」「与謝野晶子」「正岡子 規」などの作品の授業実践方法
第12回	古典教材の教材分析と授業法	古典教材の価値と授業で扱う意義な どを学ぶ
第13回	古文教材での授業法実践と模擬授業演習	教材例として「伊勢物語」「枕草子」 など古典教材の授業実践と模擬授業 実践演習
第14回	漢文教材での授業法	第14回：漢文教材の指導法と授業 実践（教材例として司馬遷「史記」 または漢詩文など）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料検索、読書、レポート作成、授業見学、ディスカッションなど。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領 最新版 文部科学省』、『高等学校学習指導要領解説 国語編』（最新版 文部科学省）、『教育実習の手引き』（法政大学教職課程委員会）、『実践国語科教育法』（学文社）、『あたらしい国語科教育法』（学文社）、『相手依存の自己規定』（鈴木孝夫）、『安楽への全体主義』（藤田省三）、『少年の日の思い出』（ヘッセ）、『山月記』（中島敦）、『鞆』（安部公房）、『掟の門』（カフカ）、など（いずれも国語検定教科書より）

【参考書】

参考書・参考資料等『実践国語教育法』（学文社）、『現代文学理論』（新曜社）、『文学は教育を変えられるか』（コールサック社）、『読むことの教育』（山吹書店）、『文学理論』（ひつじ書房）、『教師の条件』（学文社）、『持続可能な未来のための教職論』（学文社）、『小説作品論集』（クレス出版）、他

【成績評価の方法と基準】

学生に対する評価

レポート（30％）、学習指導案（20％）、模擬授業実践演習（20％）、質問シートの作成（10％）、授業への貢献度（20％）など

【学生の意見等からの気づき】

国語科教員として必要な読書にかかわる事項についても適宜紹介したい。

【Outline (in English)】

Course Outline: The purpose of this course is to help future Japanese language teachers understand how to think about creating classes and to learn various methods of teaching.

Learning Objectives: The objectives of Teaching Method II, on the basis of Teaching Method I, are for students to learn both the theories on modern language and literature and the skills to cultivate the learner's abilities of thinking, judging and expressing, to analyze the contents of teaching and learning materials for Japanese language, and to try to practice the lessons for themselves.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Study time will be more than two hours for a class.

Grading Criteria/Policy: Final grades will be calculated according to the following process: class reflection report (30%), teaching plans (20%), mock class (20%), class preparation report(10%),and in-class contribution (20%).

EDU200BC（教育学 / Education 200）

国語科教育法(4)

小清水 裕子

授業コード：A2728 | 曜日・時限：火5/Tue.5
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座の目的は、将来国語科教師になるための授業づくりに対する考え方を理解し、多様な授業の方法を習得することであり、学習者の資質能力論を含む学習指導に関する教育学、それに加えて文学や言語学を理解し、具体的な授業場面に即して授業実践をおこなう力を身につける。

【到達目標】

言語による思考力、判断力、表現力等を問う記述式問題や知識技能を活用する問題の解法のスキルや知識教養を学ぶ。また、時代の流れの中で、学校環境の中で起こるさまざまな問題を想定しながら、多様な背景や思想を持つ他者への想像力を培い、客観的に状況を分析する力と、生徒の生きる力を養う指導力を育てる。最終的には魅力ある国語の授業のための学習指導案作成の力と授業の実践を行う力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文学概論及び言語学概論を確認して、国語科教材の分析及び授業法を学ぶ。模擬授業を行うことによって、実践力や授業スキルを身につける。講義力、及び教室空間をデザインして、アクティブラーニング、グループ演習を実践する方法を学ぶ。
授業の「振り返りシート」等における良いコメントは授業内で紹介し、更なる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	評論文の教材分析と授業実践	評論『知識社会という幻想』（西垣通）を教材として、評論文の読解方法や教材としての評論文の扱い方について考える。
第2回	評論文教材分析と授業実践と模擬授業実践演習	評論『知識社会という幻想』（西垣通）を教材にして、指導案作成と模擬授業を行う。
第3回	評論文教材の模擬授業の振り返り	評論文の授業実践をそれぞれ個人で振り返った後、グループディスカッションを行い、評論文教材の授業について考えを深める。
第4回	学生の選んだ評論文での模擬授業演習①	前回の授業理論を踏まえて、評論教材の授業実践を行う。その後、授業に関する質疑応答やディスカッションを行う。
第5回	学生の選んだ評論文での模擬授業演習②	評論文教材を用いてのアクティブラーニング、グループ学習の方法について実際に体験した上で、意見交換を行う。
第6回	翻訳文学の授業方法	翻訳文学教材として『少年の日の思い出』（ヘルマン・ヘッセ）を用いて、教材分析と指導案作成を行う。
第7回	翻訳文学の授業実践	翻訳文学教材として『少年の日の思い出』（ヘルマン・ヘッセ）を用いて、模擬授業実践演習を行う。
第8回	現代文学作品の授業法①と教育観	「鮑」や「赤い蘭」（安部公房）など、メタファーの強い小説の教材分析と授業実践方法について考える。
第9回	現代文学の授業法②と模擬授業演習	小説教材『鮑』（阿部公房）の指導案作成と模擬授業実践を行い、現代文学の授業についてディスカッションを行う。
第10回	国語科の授業における「ICT機器」の活用法と「ICT機器」を活用した授業実践	「ICT機器」を活用することで授業時間の効率を高めたり、映像教材を用いて作品の背景理解に役立てたりする方法を考え実践する。
第11回	小説の教材の分析と授業実践について	小説教材『山月記』を用いて、教材分析と授業実践例を踏まえた指導案作成と模擬授業実践演習を行う。
第12回	教材例として小説『山月記』の教材分析と授業実践	これまでの授業実践を踏まえて、「トリガークエスト」（生徒の興味・関心を引き出す質問）の作り方について考えをまとめる。

第13回	小説教材の模擬授業実践	小説『山月記』の教材分析と模擬授業実践演習（グループ学習の方法）
第14回	小説教材の指導案と教育実習に向けての心得	小説『山月記』を教材にして、それぞれが学習指導案を完成させるとともに、教育実習に関する質疑応答を行い、教育実習の心得について具体的に考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

振り返りシート、次の授業課題、学習指導案作成など。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「中学校学習指導要領解説 国語編」（文部科学省）、「高等学校学習指導要領解説 国語編」（文部科学省）、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（東洋館出版社）

【参考書】

参考書・参考資料等『実践国語教育法』（学文社）、「現代文学理論」（新曜社）、「文学は教育を変えられるか」（コールサック社）、「読むことの教育」（山吹書店）、「持続可能な未来のための教職論」（学文社）他

【成績評価の方法と基準】

学生に対する評価
レポート・学習指導案（40％）、模擬授業実践演習（20％）、振り返りシート（20％）、授業への貢献度（20％）

【学生の意見等からの気づき】

「魅力ある国語の授業を実践する」ために自身に必要なことに「気づき」、自己研鑽するきっかけを得られるようにする。

【Outline (in English)】

Course Outline: The purpose of this course is to help future Japanese language teachers understand how to think about creating classes and to learn various methods of teaching.

Learning Objectives: Based on the Teaching Method of Japanese Language (3), students will be required to understand both the pedagogy of teaching, including learners' competencies, and studies on literature and language. They will also practice their mock classes in real-life settings.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Study time will be more than two hours for a class.

Grading Criteria/Policy: Final grades will be calculated according to the following process: report/teaching plans (40%), mock class(20%), class reflection report(20%), and in-class contribution (20%).

LIN300BC (言語学 / Linguistics 300)

ゼミナール22A

王 安

授業コード：A2735 | 曜日・時限：火4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミナール22では、主に日、中、英の三言語を中心に、言語学的観点から三言語における主な共通点・相違点や中国語の特徴について学びます。具体的には、語彙、文法、言語行動など様々な側面から日中、または日英の対照を行いながら、それぞれの「らしさ」とメカニズムを相対的に捉えます。

【到達目標】

- (1) 中国語に関する基礎的な知識を習得する。
- (2) 言語学的観点から日本語、中国語と英語における主たる相違点を把握する。
- (3) テキストの内容を的確に解説し、発表・議論を通して、まとめる力とプレゼンテーション力を身に付ける。
- (4) 自ら問題点を発見し、情報・資料を収集、調査する力を身に付け、最終的に卒業論文の作成に役立つスキルを身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

最初の数回の授業では、講師が対照言語学及び日中対照研究について全体像を説明します。それから解説、プレゼン、ディスカッションを併用して授業を進めていきます。また、授業のフィードバックは随時授業内で行う。また、初回の授業では、発表担当などを決める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	ゼミの方針、授業内容、進め方に関して説明を行い、発表分担やグループ分けを決める。
第2回	講義	対照研究の方法、卒論執筆の注意点（その1）
第3回	講義	対照研究の方法、卒論執筆の注意点（その2）
第4回	論文精読及び解説、討論（その1）	メタファーについて（その1）
第5回	論文精読及び解説、討論（その2）	メタファーについて（その2）
第6回	論文精読及び解説、討論（その3）	日中擬音語擬態語
第7回	論文精読及び解説、討論（その4）	多義分析
第8回	論文精読及び解説、討論（その5）	感動詞について
第9回	論文精読及び解説、討論（その6）	日中同形語について
第10回	論文精読及び解説、討論（その7）	四字熟語
第11回	論文精読及び解説、討論（その8）	翻訳について
第12回	論文精読及び解説、討論（その9）	慣用句、イディオムについて
第13回	論文精読及び解説、討論（その10）	日中英構文について
第14回	討論とまとめ	三年生ミニ発表、総合まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. テキストに出てくる基本用語・重要概念については事前に参考書を使用して十分に理解し、授業で説明できるようにしておく。
2. 各グループでは各自の分担を決め、発表レジュメを用意しますが、グループ全員が担当部分全体の内容について把握しておく必要がある。
3. 本授業の準備学習・復習時間は、各10時間を標準とします。
4. 発表者以外の学生は毎回必ず質問やコメントをしてください。

【テキスト（教科書）】

授業で配布する。(hoppiiを確認してください)

【参考書】

○王占華他(2004)『中国語学概論』駿河台出版社
○相原茂他(1996)『中国語の文法書』同学社
杉村博文(1994)『中国語文法教室』大修館書店
井上優(2002)『対照研究と日本語教育』
『日本語と外国語との対照研究X』国立国語研究所
石綿敏雄 高田誠(1990)『対照言語学』桜楓社

生越直樹(2002)『シリーズ言語科学4対照言語学』東京大学出版会
大河内康内編(1997)『日本語と中国語の対照研究論文集』くろしお出版
寺村秀夫(1982)『言語の対照的分析と記述の方法』『講座日本語学10 外国語との対照』明治書院
松岡栄志・古川裕 監訳(2004)『現代中国語総説』三省堂

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション30%(レジュメ+発表)+討論・課題30%(下記の②の評点)+期末レポート40%

*発表レジュメは授業前日(月曜日17:00)までにlineで全員あてに送ってください。

重要事項：

- ①ゼミは学生が主体で運営するものです。各自で責任を持って自分の研究とゼミ学習に取り組んでください。
- ②論文購読に当たり、発表担当者もそれ以外の受講者も、必ず各自論文をしっかり読み、自分なりの考え、感想、コメント、質問などをまとめた小レポートを作成し、毎回学習支援システムから提出してもらいます。
- ③半期で3回欠席した者は即刻単位不認定、遅刻2回で欠席一回とする。
- ④毎年夏季にゼミの中間発表会、夏か冬季に合宿もしくはゼミイベントを行います。合宿も授業の一環ですので、参加を原則とします。

【学生の意見等からの気づき】

今後は学生同士の交流やコミュニケーションの機会を増やし、授業中のディスカッションがより活発にできるように工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

1. 参考書のうち、特に“○”がついている最初の二冊は頻繁に使うため、購入するかまたは図書館から借りておいてください。
2. 新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、対面授業およびzoom形式を併用して授業を行う可能性があります。詳細は、hoppiiにて連絡いたします。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>

対照言語学、現代中国語文法、認知言語学

<研究テーマ>

形容詞の意味と機能、感情の概念化と言語の多様性、感情表現の構文パターンにおける類型論的研究

<主要研究業績>

「中国語の＜主観性＞の再考察―使役表出文を例として―」『認知言語学研究の広がり』大橋浩・川瀬義清・古賀恵介・長加奈子・村尾治彦編。pp.35-50. 2018. 開拓社

「感情の普遍性とその言語化―感情表現の類型論的研究に向けて―」『ことばのパスベクティヴ』（中村芳久教授退職記念論文集刊行会編。pp.71-84. 2018. 開拓社

第8章「主体化」『認知言語学 基礎から最前線へ』森雄一・高橋英光編 2013. くろしお出版

「感情表現における日中対照研究―感情の語り方と人称制限の普遍性に着目して―」『言語研究の諸相』pp.35-45. 2010. 北海道大学出版

【Outline (in English)】

Course Outline: In this seminar, we will observe and analyze the main similarities and differences between Japanese, Chinese, and English as well as the characteristics of the Chinese language from a linguistic point of view.

Learning Objectives:

1. To master the basic concepts and knowledge of Chinese linguistics.
2. To grasp the main differences between Japanese, Chinese, and English.
3. To improve presentation skills through presentation and discussion.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class, students will be expected to spend 10 hours reviewing the course content.

Grading Criteria/Policy: The overall grade in the class will be decided based on the following elements:

- presentation: 30%
- discussion: 30%
- term-end report: 40%

LIN300BC (言語学 / Linguistics 300)

ゼミナール 2 2 B

王 安

授業コード：A2736 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期では引き続き日中対照研究、日英対照研究に関する重要なトピックを中心に、重要文献・論文を精読し、日中両言語、日英両言語の類似性及び相違点への理解を深める。また、授業で学んだ研究方法を自分の研究に生かして、ミニ研究発表を数回行う。

【到達目標】

1. 言語学的観点から日本語と中国語、英語における主たる相違点を把握する。
2. 批判的に論文を読む力を身に付け、言語現象における問題発見力を養う。
3. 対照研究の研究方法を理論的かつ体系的に学び、その方法を用いて自分の興味ある言語現象を説明できるように研究力を向上させる。
4. 情報・資料を収集、調査する力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に演習形式で行う。初回の授業で読む論文、発表担当を決め、レジュメの作り方や授業のやり方について説明を行う。それ以後一週間または二週間に論文1本のペースで講読していく。

具体的には、参加者全員が各自論文を読み、分からない用語や概念があれば事前に調べておく。発表担当者は論文の要点を要約しレジュメ(A4サイズ3～4枚)を用意する。発表担当者以外の学生は授業でコメント・質問ができるように準備をしておく(質問リストを作成し、提出してもらう)。

また、毎月ミニ研究発表会を行う。

なお、授業のフィードバックは随時授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業内容、進め方に関して説明を行い、読む論文・発表担当を決める。
第2回	研究発表1	二年生のミニ研究発表（研究テーマと研究方法などについて）
第3回	研究発表2	三年生の研究発表（研究進捗、データの収集と分析）
第4回	論文精読、解説、討論1	類型論からみた中国語・日本語・英語（中川1997）
第5回	論文精読、解説、討論2	日中諺対照（陸）
第6回	論文精読、解説、討論3	日中擬音語擬態語
第7回	論文精読、解説、討論4	日英表現の比較
第8回	研究発表3	三年生のミニ発表（データ整理、分析）
第9回	論文精読、解説、討論5	翻訳について
第10回	論文精読、解説、討論6	メタファーについて
第11回	論文精読、解説、討論7	日中同形語について

第12回 論文精読、解説、討論8 日中熟語について

第13回 研究発表4 二年生の研究発表（研究テーマ、目的、方法など）

第14回 研究発表5 三年生の研究発表、総合まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. テキストに出てくる基本用語・重要概念については事前に参考書を使用して十分に理解し、授業で説明できるようにしておく。
2. 各グループでは各自の発表分担を決め、発表レジュメを用意しますが、グループ全員が担当部分全体の内容について把握しておく必要がある。
3. 本授業の準備学習・復習時間は、各10時間を標準とします。
4. 発表者以外の学生は毎回必ず質問やコメントをしてください。
5. 課題を課す場合があるので、しっかり調べて準備すること。

【テキスト（教科書）】

授業で配布する。

【参考書】

○王占華他(2004)『中国語学概論』駿河台出版社

○相原茂他(1996)『中国語の文法書』同学社

杉村博文(1994)『中国語文法教室』大修館書店

井上優(2002)『対照研究と日本語教育』

『日本語と外国語との対照研究X』国立国語研究所

石綿敏雄 高田誠(1990)『対照言語学』桜楓社

生越直樹(2002)『シリーズ言語科学4 対照言語学』東京大学出版会
大河内康内編(1997)『日本語と中国語の対照研究論文集』くろしお出版

寺村秀夫(1982)『言語の対照的分析と記述の方法』講座日本語学10 外国語との対照 明治書院

松岡栄志・古川裕 監訳(2004)『現代中国語総説』三省堂

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション30%(レジュメ+発表)+討論・課題30%(以下の②の評価点)+期末レポート40%

*発表レジュメは授業前日(月曜日17:00)までにメールで全員あてに送ってください。

重要事項：

- ①ゼミは学生が主体で運営するものです。各自で責任を持って自分の研究とゼミ学習に取り組んでください。
- ②論文購読に当たり、発表担当者もそれ以外の受講者も、必ず各自論文をしっかりと読み、自分なりの考え、感想、コメント、質問などをまとめた小レポートを作成し、毎回学習支援システムから提出してもらいます。
- ③半期で3回欠席した者は即刻単位不認定、遅刻2回で欠席一回とする。
- ④毎年夏季にゼミの中間発表会、夏か冬季に合宿もしくはゼミイベントを行います。合宿も授業の一環ですので、参加を原則とします。

【学生の意見等からの気づき】

今後は学生同士の交流やコミュニケーションの機会を増やし、授業中のディスカッションがより活発にできるように工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

1. 参考書のうち、特に“○”がついている最初の二冊はよく使うため、購入するかまたは図書館から借りておいてください。

2. 新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、対面授業およびzoom形式を併用して授業を行う可能性があります。詳細は、hoppiiにて連絡いたします。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>

対照言語学、現代中国語文法、認知言語学

<研究テーマ>

形容詞の意味と機能、感情の概念化と言語の多様性、感情表現の構文パターンにおける類型論的研究

<主要研究業績>

「中国語の＜主観性＞の再考察—使役表出文を例として—」『認知言語学研究の広がり』大橋浩・川瀬義清・古賀恵介・長加奈子・村尾治彦編. pp.35-50. 2018. 開拓社

「感情の普遍性とその言語化—感情表現の類型論的研究に向けて—」
『ことばのパーспекティヴ』（中村芳久教授退職記念論文集刊行会
編. pp.71-84. 2018. 開拓社
第8章「主体化」『認知言語学 基礎から最前線へ』森雄一・高橋英光
編 2013. くろしお出版

「感情表現における日中対照研究—感情の語り方と人称制限の普遍性
に着目して—」『言語研究の諸相』 pp.35-45. 2010. 北海道大学出版

[Outline (in English)]

Course Outline: In this seminar, we will observe and analyze the main similarities and differences between Japanese, Chinese and English as well as the characteristics of the Chinese language from a linguistic point of view.

Learning Objectives:

1. To master the basic concepts and knowledge of Chinese linguistics.
2. To grasp the main differences between Japanese and Chinese.
3. To improve presentation skills through presentation and discussion.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class, students will be expected to spend 10 hours reviewing the course content.

Grading Criteria/Policy: The overall grade in the class will be decided based on the following elements:

- presentation: 30%
- discussion: 30%
- term-end report: 40%

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（8）言語C

王 安

授業コード：A2737 | 曜日・時限：木5/Thu.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は対照言語学・対照研究を中心内容とする講義である。対照言語学 (Contrastive Linguistics) とは、二つ、また時には三つ以上の言語について、言語体系および言語行動の類似点と相違点を明らかにしようとする学問である。この授業では、主に日本語・中国語・英語を中心に、三言語の文字・語彙・文法、または言語行動などの側面における類似点と相違点を分析し、言語学的観点から三言語それぞれの個性や特徴に対する理解を深めていく。また、現代中国語における基礎概念及び重要文法項目を紹介し、日中対照研究に関する典型事例を把握する。

【到達目標】

具体的な到達目標は以下の通りである。

- (1) 対照言語学・対照研究の基本理念および概念を理解する。
- (2) 日中英三言語における主な類似点と相違点を把握する。
- (3) 言語学的な観点から日本語と日本語以外の言語の構造を知り、異なる言語を客観視する視点を養う。

Specific goals are as follows.

- (1) To understand the basic principles and concepts of contrastive linguistics and contrastive research.
- (2) To grasp the major similarities and differences between Japanese, Chinese, and English.
- (3) To learn the structures of Japanese and other languages from a linguistic perspective.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で進めるが、内容と必要に応じて、調査課題を与え、発表をしてもらったり、皆でディスカッションをしたりしながら授業を進める。また、授業の理解度を確認するために、二、三回の授業に一度りアクションペーパーを書いてもらう。フィードバックは随時授業内で行う。なお、授業形態は対面で行う予定ですが、変更があった場合は学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業に関する説明、対照言語学と対照研究に関する一般知識（その1）
第2回	対照言語学の基本概念	対照言語学と対照研究に関する一般知識（その2）
第3回	中国語に関する基本知識（その1）	現代中国語とはどのような言語－日本語と対照しながら（その1）
第4回	中国語に関する基本知識（その2）	現代中国語とはどのような言語－日本語と対照しながら（その2）
第5回	日中両言語の品詞と基本構文	中国語の品詞と基本構文－日本語と対照しながら
第6回	対照言語学的観点から見る名詞	日中英三言語の名詞について
第7回	対照言語学的観点から見る動詞	日中英三言語の動詞について
第8回	対照言語学的観点から見る形容詞	日中英三言語の形容詞について（その1）
第9回	対照言語学的観点から見る形容詞	日中英三言語の形容詞について（その2）
第10回	議論	フォローアップ（その1）
第11回	対照研究の事例分析（1）	感情表現の多様性（その1）
第12回	対照研究の事例分析（2）	感情表現の多様性（その2）
第13回	対照研究の事例分析（3）	日中擬音語・擬態語の比較
第14回	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1. 授業のあと、当日授業で学んだ内容、概念などを必ず整理し、復習を行ってください（3時間）
- 2. 課題がある場合、しっかり参考書などを調べ、課題を行ってください（3時間）

【テキスト（教科書）】

なし。授業で資料を配布する。

【参考書】

(1) 日英対照関連の参考書

安藤貞夫 (1986) 『英語の論理・日本語の論理』大修館書店
井上和子 (1978) 『日英対照 日本語の文法規則』大修館書店
大江三郎 (1975) 『日英語の比較研究－主観性をめぐって』南雲堂
影山太郎 (1980) 『日英比較 語彙の構造』松柏社
国広哲弥 (1967) 『構造的意味論－日英両語対照研究』三省堂
窪岡晴夫ほか (1996) 『日英語対照による英語学概論』くろしお出版
柴谷方良ほか (編) (1992) 『日英語対照研究シリーズ1 (～5)』くろしお出版
水谷信子 (1985) 『日英比較 話しことばの文法』くろしお出版

(2) 日中対照関連、中国語学関連の参考書

相原茂他 (1996) 『中国語の文法書』同学社
荒川清秀 (2018) 『日中漢語の生成と交流・受容』白帝社
石綿敏雄 高田誠 (1990) 『対照言語学』桜楓社
井上優 (2002) 『対照研究と日本語教育』
大河内康内編 (1997) 『日本語と中国語の対照研究論文集』くろしお出版
大河内康内 (1997) 『中国語の諸相』白帝社
生越直樹 (2002) 『シリーズ言語科学4 対照言語学』東京大学出版会
木村英樹 (2012) 『中国語文法の意味とカタチ』白帝社
木村英樹 (2017) 『中国語ははじめの一步』ちくま学芸文庫
杉村博文 (1994) 『中国語文法教室』大修館書店
野瀬昌彦 編集 (2011) 『日本語と外国語との対照研究X』三恵社
寺村秀夫 (1982) 『言語の対照的分析と記述の方法』『講座日本語学 10 外国語との対照』明治書院
松岡栄志・古川裕 監訳 (2004) 『現代中国語総説』三省堂
北京大学中文系現代漢語教研室編 (2018) 『現代漢語』商務印書館
王占華他 (2004) 『中国語学概論』駿河台出版社

【成績評価の方法と基準】

期末テスト(筆記) 60% + リアクションペーパー 28% + 授業への積極的な貢献度 12% = 100%

【学生の意見等からの気づき】

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業に関する知らせがあった場合は、学習支援システムに掲載するので、必ず確認してください。

【Outline (in English)】

This course focuses on contrastive linguistics and contrastive research. Contrastive Linguistics is the study of the similarities and differences between linguistic systems and linguistic behavior in two or more languages.

In this course, with a focus on Japanese, Chinese, and English, we will analyze the similarities and differences in letters, vocabulary, grammar, and linguistic behavior of the three languages, and deepen our understanding of the individuality and characteristics of each of the three languages from a linguistic perspective. In addition, basic concepts and important grammatical items in modern Chinese are introduced, and typical cases of contrastive studies between Japan and China are presented.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class, students will be expected to spend 6 hours reviewing the course content.

Grading Criteria/Policy: The overall grade in the class will be decided based on the following elements:

- Final test 60%
- reaction paper 28%
- active contribution to class 12%

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講 (8) 言語D

王 安

授業コード：A2738 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

引き続き日本語・中国語・英語を中心に、三言語の文字・語彙・文法、または言語行動などの側面における類似点と相違点を分析し、言語学的観点から三言語それぞれの個性や特徴に対する理解を深めていく。また、現代中国語における基礎概念及び重要文法項目を紹介し、日中対照研究に関する典型事例を把握する。

【到達目標】

具体的な到達目標は以下の通りである。

- (1) 対照言語学・対照研究の基本理念および概念を理解する。
- (2) 日中英三言語における主な類似点と相違点を把握する。
- (3) 言語学的な観点から日本語と日本語以外の言語の構造を知り、異なる言語を客観視する視点を養う。

Specific goals are as follows.

- (1) To understand the basic principles and concepts of contrastive linguistics and contrastive research.
- (2) To grasp the major similarities and differences between Japanese, Chinese, and English.
- (3) To learn the structures of Japanese and other languages from a linguistic perspective.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で進めるが、内容と必要に応じて、調査課題を与え、発表をしてもらったり、皆でディスカッションをしたりしながら授業を進める。また、授業の理解度を確認するために、二、三回の授業に一度リアクションペーパーを書いてもらう。フィードバックは随時授業内で行う。

なお、授業形態は対面で行う予定ですが、変更があった場合は学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業に関する説明、春学期内容の復習
第2回	対照事例分析 (その1)	中国語の介詞と日本語の後置詞
第3回	対照事例分析 (その2)	中国語の様態補語と対応する日本語表現
第4回	対照事例分析 (その3)	中国語の動補構造と日本語の複合動詞
第5回	対照事例分析 (その4)	中国語の方向補語と対応する日本語表現 (その1)
第6回	対照事例分析 (その5)	中国語の方向補語と対応する日本語表現 (その2)
第7回	対照事例分析 (その6)	日中構文対照 (受動文)
第8回	対照事例分析 (その7)	日中構文対照 (使役文)
第9回	議論	フォローアップ (その1)
第10回	対照事例分析 (その8)	文法化・主体化(その1)
第11回	日中英対照 (その9)	文法化・主体化 (その2)
第12回	議論	フォローアップ (その2)

第13回 対照事例分析 (その10) 言語行動の比較対照

第14回 秋学期まとめ 総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 授業のあと、当日授業で学んだ内容、概念などを必ず整理し、復習を行ってください (3時間)
2. 課題がある場合、しっかり参考書などを調べ、課題を行ってください (3時間)

【テキスト (教科書)】

なし。授業で資料を配布する。

【参考書】

(1) 日英対照関連の参考書

安藤貞夫 (1986)『英語の論理・日本語の論理』大修館書店
井上和子 (1978)『日英対照 日本語の文法規則』大修館書店
大江三郎 (1975)『日英語の比較研究―主観性をめぐって』南雲堂
影山太郎 (1980)『日英比較 語彙の構造』松柏社
国広哲弥 (1967)『構造的意味論―日英両語対照研究』三省堂
窪蘭晴夫ほか (1996)『日英語対照による英語学概論』くろしお出版
柴谷方良ほか (編) (1992)『日英語対照研究シリーズ1 (～5)』くろしお出版

水谷信子 (1985)『日英比較 話しことばの文法』くろしお出版

(2) 日中対照関連、中国語学関連の参考書

相原茂他 (1996)『中国語の文法書』同学社
荒川清秀 (2018)『日中漢語の生成と交流・受容』白帝社
石綿敏雄 高田誠 (1990)『対照言語学』桜楓社
井上優 (2002)『対照研究と日本語教育』
大河内康内編 (1997)『日本語と中国語の対照研究論文集』くろしお出版

大河内康内 (1997)『中国語の諸相』白帝社

生越直樹 (2002)『シリーズ言語科学4 対照言語学』東京大学出版会

木村英樹 (2012)『中国語文法の意味とかたち』白帝社

木村英樹 (2017)『中国語ははじめの一步』ちくま学芸文庫

杉村博文 (1994)『中国語文法教室』大修館書店

野瀬昌彦 編集 (2011)『日本語と外国語との対照研究X』三恵社
寺村秀夫 (1982)『言語の対照的分析と記述の方法』講座日本語学 10 外国語との対照 明治書院

松岡栄志・古川裕 監訳 (2004)『現代中国語総説』三省堂

北京大学中文系現代漢語教研室編 (2018)『現代漢語』商務印書館

王占華他 (2004)『中国語学概論』駿河台出版社

【成績評価の方法と基準】

期末テスト (筆記) 60% + リアクションペーパー 28% + 授業への積極的な貢献度 12% = 100%

【学生の意見等からの気づき】

新設科目であるため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

1. 授業に関する知らせがあった場合は、学習支援システムに掲示するので、必ず確認してください。
2. 春学期の授業履修が望ましい。

【Outline (in English)】

This course focuses on contrastive linguistics and contrastive research. Contrastive Linguistics is the study of the similarities and differences between linguistic systems and linguistic behavior in two or more languages.

In this course, with a focus on Japanese, Chinese, and English, we will analyze the similarities and differences in letters, vocabulary, grammar, and linguistic behavior of the three languages, and deepen our understanding of the individuality and characteristics of each of the three languages from a linguistic perspective. In addition, basic concepts and important grammatical items in modern Chinese are introduced, and typical cases of contrastive studies between Japan and China are presented.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class, students will be expected to spend 6 hours reviewing the course content.

Grading Criteria/Policy: The overall grade in the class will be decided based on the following elements:

- Final test 60%
- reaction paper 28%
- active contribution to class 12%

LIT200LA (文学 / Literature 200)

くずし字入門A

中司 由起子

授業コード：A2739 | 曜日・時限：火5/Tue.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

かつて日本では「変体仮名・くずし字」という文字が使われていました。本講義では変体仮名・くずし字を正確に読み取る力を習得することを目的とします。変体仮名・くずし字は日本文学や文化を深く理解するうえで欠かせないものです。変体仮名・くずし字がわかると、古典文学のみならず近代の作家たちの手書き原稿や手紙を読んだり、史料・古文書を解読でき、作品が成立した時代や楽しまれた時代へ直接アクセスできます。初めて学ぶ学生が多いと思われるのですが、基礎から丁寧に解説していきます。

【到達目標】

- ① 変体仮名・くずし字を正確に読むことができる。
- ② 変体仮名・くずし字で書かれた内容を解釈できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回の講義では、講師による解説の後に問題を解き、答え合わせをします。これを繰り返すことで、変体仮名・くずし字を覚えていきます。毎回、宿題に取り組み、次の講義時に答え合わせをしてフィードバックをおこないます。
教材にする作品は、できるだけ皆さんが知っているようなものを取りあげます。
小テスト・中間テスト・期末テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	変体仮名・くずし字を学ぶ意義や、変体仮名と字母の関係など、基本的な解説を学びます。
2	百人一首①	有名な和歌を教材に変体仮名を読みます。
3	百人一首②	有名な和歌を教材に変体仮名を読みます。
4	小学校唱歌	明治時代の教科書を教材に変体仮名を読みます。
5	小テスト・江戸時代の作品	小テストをします。江戸時代に出版された作品を教材に変体仮名を読みます。
6	御伽草子①	『浦島太郎』を読みます。
7	御伽草子②	『一寸法師』を読みます。
8	仮名草子	『伊曾保物語』を読みます。
9	『平家物語』	『平家物語』の有名な場面を読みます。
10	中間テスト・江戸時代の作品	中間テストをします。江戸時代に出版された作品を教材に変体仮名を読みます。
11	『枕草子』	『枕草子』の有名な章段を読みます。
12	『徒然草』	『徒然草』の有名な章段を読みます。
13	『源氏物語』	『源氏物語』の有名な場面を読みます。
14	まとめ・期末テスト	これまでの内容をまとめ、習得度をはかる期末テストをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【準備】 次回講義で扱う問題を解きます。

【復習】 毎回の講義内で示される宿題を解きます。

展覧会などに足を運び、くずし字で書かれた展示品や史料などを鑑賞し、読み解いてみてください。

【テキスト（教科書）】

伊地知鐵男編『増補改訂 仮名変体集』新典社、385円。このテキストは変体仮名を解読するための手引きとなります。必ず用意してください。

教材は講義時に資料を配布します。

【参考書】

児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』近藤出版社、1981年（図書館の参考図書にあります）
そのほか、講義時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題への取り組み 10%

小テスト 10%

中間テスト 30%

期末テスト 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度はできるだけシラバスに沿う予定ですが、受講者の習得度に合わせて教材にとりあげる作品を変更する場合があります。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with Hentaigana(anomalous cursive syllabary), Kuzushi-ji(character written in a cursive style). It enhances the development of students' skill in reading of Hentaigana and Kuzushi-ji.

【Learning Objectives】

The goals of this course is to reading Hentaigana, Kuzushi-ji accurately.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Preparation: Solve the problems to be covered in the next lecture.

Review: Students will solve the problems given in each lecture.

【Grading Criteria /Policy】

Work on assignments 10%.

Short test 10%.

Midterm test 30%.

Final test 50%.

くずし字入門B

中司 由起子

授業コード：A2740 | 曜日・時限：火5/Tue.5
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

かつて日本では「変体仮名・くずし字」という文字が使われていました。本講義では変体仮名・くずし字を正確に読み取る力を習得することを目的とします。変体仮名・くずし字は日本文学や文化を深く理解するうえで欠かせないものです。変体仮名・くずし字がわかると、古典文学のみならず近代の作家たちの手書き原稿や手紙を読んだり、史料・古文書を解読でき、作品が成立した時代や楽しまれた時代へ直接アクセスできます。初めて学ぶ学生が多いと思われるが、基礎から丁寧に解説していきます。

【到達目標】

- ① 変体仮名・くずし字を正確に読むことができる。
- ② 変体仮名・くずし字で書かれた内容を解釈できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回の講義では、講師による解説の後に問題を解き、答え合わせをします。これを繰り返すことで、変体仮名・くずし字を覚えていきます。毎回、宿題に取り組み、次の講義時に答え合わせをしてフィードバックをおこないます。
教材にする作品は、できるだけ皆さんが知っているようなものを取りあげます。
小テスト・中間テスト・期末テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	変体仮名・くずし字を学ぶ意義や、変体仮名と字母の関係など基本的な事項を学びます。
2	百人一首①	有名な和歌を教材にして変体仮名を読みます。
3	百人一首②	和歌とその解説を教材にして変体仮名を読みます。
4	小学校唱歌	明治時代の教科書を教材に変体仮名を読みます。
5	小テスト・江戸時代の作品	小テストをします。江戸時代に出版された作品を教材に変体仮名を読みます。
6	御伽草子①	『浦島太郎』を読みます。
7	御伽草子②	『一寸法師』を読みます。
8	仮名草子	『伊曾保物語』を読みます。
9	『平家物語』	『平家物語』の有名な場面を読みます。
10	中間テスト・江戸時代の作品	中間テストをします。江戸時代に出版された作品を教材に変体仮名を読みます。
11	『枕草子』	『枕草子』の有名な章段を読みます。
12	『徒然草』	『徒然草』の有名な章段を読みます。
13	『源氏物語』	『源氏物語』の有名な場面を読みます。

14 まとめ・期末テスト これまでの内容を振り返り、習得度をはかる期末テストをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【準備】 次回講義で扱う問題を解きます。

【復習】 毎回の講義内で示される宿題を解きます。

展覧会などに足を運び、くずし字で書かれた展示品や史料などを鑑賞し、読み解いてみてください。

【テキスト（教科書）】

伊地知鐵男編『増補改訂 仮名変体集』新典社、385円。本テキストは、変体仮名を解読するための手引きとなります。必ず用意してください。

問題は、講義時に紙の資料を配布します。

【参考書】

児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』近藤出版社、1981年（図書館の参考図書にあります）
そのほか、講義時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題への取り組み 10パーセント

小テスト 10パーセント

中間テスト 30パーセント

期末テスト 50パーセント

【学生の意見等からの気づき】

本年度はできるだけシラバスに沿う予定ですが、受講者の習得度に合わせて取り上げる作品を変更する場合があります。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with Hentaigana(anomalous cursive syllabary), Kuzushi-ji(character written in a cursive style). It enhances the development of students' skill in reading of Hentaigana and Kuzushi-ji.

【Learning Objectives】

The goals of this course is to reading Hentaigana, Kuzushi-ji accurately.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Preparation: Solve the problems to be covered in the next lecture.

Review: Students will solve the problems given in each lecture.

【Grading Criteria /Policy】

Work on assignments 10%.

Short test 10%.

Midterm test 30%.

Final test 50%.

LIN100BD（言語学 / Linguistics 100）

英語学概論 A

推名 美智

授業コード：A2804 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年
備考（履修条件等）：他学科生の配当年次は2～4年です
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語学の研究領域の全体を、2セメスターをかけて概観します。春学期は、世界の英語、形態論、意味論、語用論、文体論、英語教育を中心に、英語学研究の全体像が把握できるように広い視野を持って学習します。今後の英語学研究の基礎となる科目ですので、なるべく1年次に、春・秋と連続して履修することが望ましいです。

【到達目標】

英語学研究の諸分野の内容、アプローチと研究の現状を学び、自分の興味のある分野の研究を概観し、さらに今後の自分の研究テーマの位置づけができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業開始は4月7日です。テキストはそれまでに自分で生協にて買ってください。課題、読んではしい箇所などの情報はHoppii「学習支援システム」でお知らせします。ハンドアウト、パワーポイント、課題、指示、いろんなメディアを使って、授業のエッセンスをお伝えします。基本的には対面授業の予定ですが、場合によっては、オンデマンドやオンラインになることもあるかもしれませんが、そうした情報も含め、全て前日までにはHoppiiでお知らせします。なお、Hoppiiから皆さんへは、メールでお知らせがいくようになります。

「言語」といっても、書き言葉、話し言葉、文法の知識、頭のなかの言語知識など、研究者によって捉え方は異なります。こうした捉え方のちがいは、そのまま研究アプローチに反映されます。言語学には、理論的な側面から研究を進める分野もあれば、具体的な言語現象に注目する分野もあります。できるだけ多くの分野を、講義形式で紹介していきます。テキスト、ハンドアウト、パワーポイントを使います。次々と新しい分野へ移動していくので、テキストの該当する部分の予習と復習が必要です。英語で書かれたテキストなので、予習、復習、エキササイズなどは、各自、自分で読み進めていく必要があります。

リアクションペーパーは毎時間、提出していただきます。授業の初めに、前回の授業に提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	英語学研究の概説と春学期の授業の毎週、授業日の前日に、進め方や履修条件について説明します。
第2回	世界の英語(1)	世界語としての英語について
第3回	世界の英語(2)	英語が話されている国と地域、英語のバリエーションについて
第4回	形態論(1)	形態論の概説、単語ができるしくみ
第5回	形態論(2)	形態論と形態素
第6回	中間の振り返り	これまでの内容のまとめと復習と演習
第7回	意味論(1)	意味論の概説
第8回	意味論(2)	意味の拡張としてのメタファー、メトニミー
第9回	語用論(1)	語用論の概説、言葉の意味について
第10回	語用論(2)	語用論の演習、コミュニケーション論の概説
第11回	文体論(1)	文体論の概説
第12回	文体論(2)	テキスト分析の方法、言語の規則性
第13回	英語教育	英語教育の現状と問題点
第14回	社会言語学、言葉と社会、およびコンサルテーション	社会言語学の概説、および春学期の講義内容についてのまとめ、コンサルテーション、課題に対する解説など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生は、事前にテキストの該当部分を読んでから授業に出席する必要があります。また、Hoppiiにアップロードされた授業の資料は必ずしも、すべてを授業でとりあげるわけではないので、自分で読んで復習をする必要があります。準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

影山太郎他、『First Steps in English Linguistics:英語学の第一歩』くろしお出版

【参考書】

内容ごとに参考文献や資料を紹介し、Hoppiiにアップロードします。

【成績評価の方法と基準】

通常の授業では、学期末試験70%、レポート20%、平常点10%で、評価します。変更しなければならない状況になったら、Hoppiiにて連絡をします。

【学生の意見等からの気づき】

初めてのことばかりなので、授業を聞いているだけでは難しいかもしれませんが、授業の前後に予習と復習をきちんとすると、だんだん理解できるようになります。

【学生が準備すべき機器他】

課題は、基本的に学習支援システムから、添付ファイルの形で提出してもらいます。

【その他の重要事項】

・パワーポイントの資料は、必要な場合には、授業後にHoppiiにアップします。
・オフィスアワーは木曜4限です。事前にメールで予約をしてください。詳細は授業で説明します。授業後にも時間があればコンサルテーションを受け付けます。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an overview of the English linguistics. The course will focus on important issues in the fields such as World Englishes, Morphology, Semantics, Pragmatics, Sociolinguistics, Stylistics and English teaching.

The leaning object of this class is to have an overview of the English linguistics and also become able to locate one's own research interest in the field.

Students need to read the chapter before attending the class and also to review what they have learned in the class after the class.

The grade includes the term end exam (70%), academic essays (20%), and attendance (10%). Any change will be announced in the class or by Hoppii.

LIN100BD（言語学 / Linguistics 100）

英語学概論 B

福元 広二

授業コード：A2805 | 曜日・時限：金2/Fri.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年
備考（履修条件等）：他学科生の配当年次は2～4年です
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期（A）では、世界の英語、形態論、意味論、語用論などについて学びました。ひきつづき、秋学期（B）では、英語の歴史、音声学・音韻論、統語論、言語習得などについて学びます。英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、言語習得や、伝統的文法から最新の生成文法に至るまでの基本的な知識を習得します。言語学研究の諸分野のアプローチと研究の現状を学びます。自分の今後の英語学研究の基礎となるような内容が身につきます。

【到達目標】

この授業を受講することで、英語を専攻する学生として必須である、英語の母音や子音の発音の実際の仕組みを知り、実践できるようになります。英語を組み立てている構造についての知識が獲得できるようになります。特に日本語と英語とは何が異なり、何が共通なのかを知ることで第2言語としての英語の習得が容易になります。また、多用される英語的な構文について表面的ではない深い分析を加える方法で理解することができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、言語習得や、学校文法から最新の生成文法についての基礎的概念や用語、理論の変遷などは基本的に講義形式で行います。音の仕組みに関しては、インターネットに接続して発音の仕組みの動画を使用しながら、英語母語話者の発音を聞き、実際に発音してみます。リアクション・ペーパーも提出してもらいます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方や教科書、参考文献、履修条件について
第2回	英語学とは	英語学の基本を解説する
第3回	音声・音韻論(1)	音声学・音韻論の概説：調音器官の説明、母音の仕組み 音韻論の演習:母音の発音の実践
第4回	音声・音韻論(2)	音声学の概説:子音の仕組み
第5回	音声・音韻論(3)	音声学の演習：子音の発音の実践
第6回	音声・音韻論(4)	英語と日本語の違い：音節とモーラ
第7回	統語論の基礎	統語論の概説：言語の構造について
第8回	統語構造	統語論の理論について：生成文法による構造分析
第9回	言語構造の解析	言語の構造について：主要部、補語、付加部とは何か
第10回	英語の歴史(1)	英語史の概説
第11回	英語の歴史(2)	英語の音韻・統語・形態・意味の変化
第12回	言語習得(1)	言語習得の基礎的概念
第13回	言語習得(2)	言語習得を説明する主な理論
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当する箇所は必ず事前に読んでおきます。自分で辞書を引ながらとりあえずは読んでみて、授業時間に学ぶことが復習となるように心がけること。また、授業のあとで必ずもう一度復習しておくことで、知識が確実に脳内に残ります。授業でやった内容を利用した課題を解くことでしっかり記憶ができます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【First Steps in English Linguistics 英語言語学の第一歩】

影山太郎、日比谷潤子、ブレント デ・シェン 著
くろしお出版

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に示した、その分野の基礎的知識が十分に理解できているかで評価します。

期末試験 60%
平常点 40%

【学生の意見等からの気づき】

教科書の解説も丁寧に行うようにします。

【その他の重要事項】

できれば、1年次に春学期「英語学概論A」と合わせて履修することを勧めます。英語学の基本的知識は、「英語学概論A」と「英語学概論B」を両方履修してはじめて得られます。授業の構成や順序に関しては、学生の理解度に応じて微修正する場合があります。出席は毎回とります。
4回以上欠席した場合はD評価となります。

【Outline (in English)】

This course introduces students to basic terminology and concepts in the study of the English language. Students get a general introduction to English linguistics, including phonetics and phonology (the study of speech sounds), syntax (the structure of sentences), and language acquisition (how children acquire their native language) and the history of the English language.

The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand English linguistics.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (60%), and in-class contribution (40%)

LIN100BD（言語学 / Linguistics 100）

言語学概論 A

石川 潔

授業コード：A2806 | 曜日・時限：水2/Wed.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

知識ゼロの人向けの言語科学の案内です。知識を得るというより、取り上げるそれぞれの分野の「ノリ」を実感していただくことを目指します。どの分野を自分が楽しめそうか、楽しめなさそうかの判断の材料としてお使いください。

【到達目標】

- 「言語」についての世間にあふれた誤解を解く。
- それぞれの分野への自分の向き・不向きの判断の材料を得る（あくまで「材料」に過ぎませんが）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的な謎の解明を通して、言語科学の様々な分野を紹介します。基本的には講義です。リアクションペーパーを募りますが、特に重要なものには口頭でのフィードバックを行う予定です。学生の理解度や要望などに応じて、スケジュールは柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入、および「音素」その1（音声学・音韻論）	この授業の紹介、および、 <i>party</i> はカタカナで何と言うべき？
第2回	「音素」その2（音声学・音韻論）	英語には日本語流の「長母音・短母音」は存在しない、その他
第3回	「音節」その1（音声学・音韻論）	アメリカ人いわく、「英単語のカタカナ発音をするのは、つらい」……なぜ？
第4回	「音節」その2（音声学・音韻論）	英語にも存在する母音挿入
第5回	日本語動詞（形態論）	日本語における「規則動詞」と「不規則動詞」
第6回	今日の文法理論その1（統語論）	統語論「研究」実体験：日本語を例として
第7回	今日の文法理論その2（統語論）	「5文型」の不適切さ、X-bar Theory
第8回	今日の文法理論その3（統語論）	英語の「動詞句」って何だろう？ そんなもの、本当に native speaker の頭の中にあるの？
第9回	今日の文法理論その4（意味論・語用論）	英語の進行形の基本的意味
第10回	今日の文法理論その5（意味論・語用論）	なぜ進行形で丁寧さが出せるか
第11回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）	<i>Without her contributions failed to come in.</i> ってどういう意味？ …… 「文の曖昧さ」およびそれへの対処
第12回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）	実験方法、そして人間の文処理の方式の理由
第13回	言語習得（心理言語学）	言語生得説、そして U-curve development
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リアクションペーパー。また、授業で学んだ方法論を、自分の身近な問題に應用して考えてみましょう。なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて教材を配布します。

【参考書】

参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

期末試験、100%。
公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粋加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、一昨年からの改善を志したものの、却って失敗した面があったと自分では思っています。その割には授業改善アンケートでは好意的な反応の方が圧倒的に多く、ありがたかったのですが、特に「文法」関係はもっと丁寧に説明したいと思います。また、実習的な面をもっと増やしたいと思っています。

【その他の重要事項】

この授業は『言語学概論B』とは独立していますが、両方とも合わせて受講することをお勧めします。

【Outline (in English)】

(Course outline) An introduction to linguistic sciences for novice. (Learning Objectives) To clear up common misconceptions concerning language, and to get a feel of how research in each of the fields is typically conducted. (Learning activities outside of classroom) Reaction papers (Grading Criteria /Policy) Final (100%)

言語学概論 B

石井 創

授業コード：A2807 | 曜日・時限：水3/Wed.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の内容は、「『経験科学』としての言語学入門」です。いわゆる人文系の学生は、「科学」と聞くと一般に苦い顔をするものですが、それはおそらく「科学」に対する誤った認識によるものです。そのような誤解を解きつつ、統語論・形態論・意味論・音声学・音韻論といった言語学で基本となる諸分野を紹介し、各分野にどのような言語の謎があるのかを見ていきます。その紹介を通じて、受講者に言語研究における分野ごとの雰囲気や基礎知識に触れてもらうこと、そしてその中から自分の肌に合う分野を探してもらうことが授業の目的となります。

【到達目標】

1. 言語学の各分野における基礎知識を理解できる
2. 身近で話されている言語の事実に敏感に気付ける、また気付いた事実に対し初歩的な考察・分析ができる
3. 科学研究の方法論に対し、正しい認識をもっている

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 形態

教室での「対面授業」を毎回実施する予定ですが、諸事情により部分的に「オンライン授業」を実施する場合があります。

2. 進め方

教員による講義形式が基本となりますが、内容理解を助けるために、受講者が授業内や宿題で練習問題を解く機会も適宜設けていきます。教員は具体的な言語現象とそれに関わる謎を提示しながら、その謎に対する答えを出すのに必要な基礎的な知識を説明していきます。しかし、教員が教える答えはいずれも「仮説」であり、「正解」ではありません。受講者は教えられた答えを鵜呑みにせず、そのもともたらしさを自分で疑う姿勢を大切にし、その姿勢によって得られた疑問点や不明点を授業内の質疑応答もしくはリアクションペーパーで積極的に発信することが望まれます。また、リアクションペーパー等で得られた面白い質問やコメントは、時間の許す限りその後の授業内で紹介して教員がそれに答えることで、授業における話題や議論を広げるのに役立てていきます。なお、受講者の理解度などに応じ、説明にかかる授業の回数等は柔軟に調整します。よって、以下の授業計画は参考例となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要説明、「言語学って何を学ぶの?」、「語学と違うの?」、「言語学が科学?」
第2回	理論言語学とは?	下位分野とそれぞれで扱われる謎の種類
第3回	言語理論と言語観の変遷1	Saussure ～アメリカ構造主義言語学
第4回	言語理論と言語観の変遷2	Chomsky ～認知言語学
第5回	形態論1	語の内部構造と形態素
第6回	形態論2	語形成（派生と屈折）
第7回	音声学1	音声産出と子音・母音の体系
第8回	音声学2	異なる子音・母音の聞き分けとその手がかり
第9回	言語学と科学方法論	言語研究における問い・仮説・予測・データの関係
第10回	統語論1	句構造と X-bar Theory
第11回	統語論2	句構造から文構造へ（生成文法における「移動」）
第12回	意味論1	意味の記述と語彙分解
第13回	意味論2	述語のアスペクト
第14回	音韻論	音節とモーラ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業1回あたりの標準の準備・復習時間は、各2時間とします。

1. 準備

事前配布されるその授業日のハンドアウトにあらかじめ目を通しておくと、その日の授業内容の理解の助けになるでしょう。また、前回の授業内容を理解していることを前提にその日の授業は行われます。よって、例えば統語論の回なら、それ以前の統語論の授業内容を見直す、というように、授業前にそれ以前の関連内容を思い返す作業を必ず行ってください。

2. 復習（宿題、その他応用学習も含む）

その日の授業内容をハンドアウトやノートを用いて整理し、さらに宿題が課されている場合はそれに取り組んでください。そして、これらの過程で疑問点・不明点が出てきたら、ハンドアウトの引用文献に当たるなど、まずは自分で答えを出す努力をしてみてください。その成果をリアクションペーパーや授業後の質問のような形で教員に示してもらえれば、こちらもそれに対してさらなるリアクションをいたします。また、授業で出てきた言語現象と似たものを日々の生活の中で見つけたら、授業で学んだ方法でその現象について考えてみる習慣を身に付けていただきたいと思います。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、代わりに適宜ハンドアウトを配布します。紙のハンドアウトは教室で配布せず、授業日の前にその日に使用するハンドアウトの電子データを学習支援システムにアップロードします。受講者は各自でハンドアウトのデータを事前にダウンロードし、手元に用意した状態で授業に臨んでください（授業中にハンドアウトに直接書き込みをしたい人は、紙に印刷するか、もしくはデータに直接書き込みができるタッチペン等のデバイスを用意してください）。

【参考書】

参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 期末試験：100%

シラバス執筆時点では、(A) 教室内試験、(B) 学習支援システムの「教材」機能を用いたオンライン試験、のどちらになるか未定です。(A) の場合は、最終授業後の定期試験期間に実施します。

2. プラスアルファの加点

上記の通り、本科目の成績は期末試験による一発勝負での評価となりますが、それに加え、下記の項目を満たした受講生には成績にプラスアルファで少々の加点をいたします。

(a) リアクションペーパー（RP）や質疑応答などで、授業内容に対し良い質問やコメントを行った者（但し、以下の*の場合には減点の可能性あり）

(b) 授業外で学内教員の実施する実験に参加した者（不参加の者が減点されることはない）

*本授業では出席は取りません。また RP は出席票ではなく、授業の内容や方法に対して受講者が意見や質問、希望を記すためのものであり、「出さないと減点される」という類のものではありません。よって、出席票を出すノリでいい加減な RP (e.g., 氏名を記入しただけのもの、「面白かった」「興味深かった」等)の一言感想だけのものを提出した者は、逆に成績から減点します。

【学生の意見等からの気づき】

1. 昨年度は「専門用語が多く、その用語があらわす内容を理解できないまま授業が進んでしまった」という旨の意見が複数見られ（一方で「分かりやすい授業だった」という意見もあり）、その点に対して「用語説明をもっと充実させてほしい」、「既習用語の振り返り確認を授業中にもっと行ってほしい」という要望があった。これらを踏まえ、本年度は「『学生にとっての分かりやすさ』をより意識して説明の仕方を工夫する」、「時間の許す限り、以前の授業内容の振り返りを増やす」、等の改善を行ってきたい。

2. 受講生が授業中にスマホや PC から送信したコメントが教室内スクリーン上に匿名で流れるアプリを一昨年度より導入しているが、一昨年度と異なり、昨年度は毎回の授業で受講生からの意見・質問コメントを得られ、またそれに対して「匿名かつ気軽に質問や要望を送れ、それに対応してもらえてありがたかった」という好意的な意見をいただいた。本年度も引き続き本環境を活用し、より積極的にコメントをいただけるように工夫しながら、受講生の自由な意見発信や授業理解度の把握に役立てていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

「オンライン授業」が実施される場合、受講生は以下の機器・環境を準備する必要があります。

(a) 双方向通信アプリの Zoom を使用できるデバイス

(b) Zoom によるリアルタイム配信授業の視聴が可能なインターネット回線

【その他の重要事項】

本授業では学習支援システムが頻繁に利用される見込みです。よって、授業に関するお知らせをきちんと受け取れるように、法政大学から学生用に配布される Gmail アドレスを支援システムに登録したうえで、普段は別のメールアドレスを使用するつもりで学生は、法政 Gmail から自分が使いたいアドレスへメールが自動転送されるように、法政 Gmail 上で設定を行っておいてください。

【Outline (in English)】

1. Course outline

This is an introductory course on linguistics as an empirical science. It covers main areas of linguistics (e.g., syntax, morphology, semantics, phonetics, and phonology) and gives basic knowledge and illustrates specific research topics in these areas. This course aims to help students understand a scientific method of theoretical linguistics and find a research area that suits their interests.

2. Learning objectives

In this course, students are expected:

(a) to acquire the ability to understand basic knowledge in each field of linguistics.

(b) to become sensitive to, and to acquire the ability to give a rudimentary analysis to, facts about languages that are spoken around them.

(c) to gain a correct understanding of a scientific research methodology.

3. Learning activities outside of classroom

Preparatory study and review time for this course are 2 hours each.

(a) Preparation

Before each class meeting, take a look at the handout to be delivered beforehand. In addition, you should also recall the contents of the previous class meeting that are related to the upcoming meeting.

(b) Review

You should reflect on what you have learned in the classroom, and work on the assignment if any. If you encounter a problem, you should first tackle it yourself, and let me know the results, however imperfect they are; I will then give a feedback to your attempt. Furthermore, employ the analysis methods you have learned to solve the problem you encounter in your daily life that is similar to the phenomenon taken up in the class.

4. Grading Criteria /Policy

Term-end examination: 100%

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

英語・言語学講義 A

椎名 美智

授業コード：A2808 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業形態は基本的には対面ですが、変更するときはHoppiiで連絡します。互いに日本語で話をしているのに、なにを言いたいのかわからない時があります。外国語だとおそろそうです。原因の多くは「意味論の意味」と「語用論の意味」のズレ、つまり言葉の辞書的な意味と伝えたいメッセージが一致していないことにあります。本講義では、そうした「意味」をめぐる人間のコミュニケーションの一面を探ります。講義のテーマは、「語用論」の中でも特に注目されている「ポライトネス」です。理論的枠組みを学び、知識としてだけでなく、実際のコミュニケーションの技術を身につけ、人間関係を見つめなおす切り口を探ることです。「語用論」を学ぶことによって、「意味」をめぐる人間のコミュニケーションの一面を探ります。

【到達目標】

授業の最終目標は、コミュニケーション力を向上させていく感性を身につけることです。語用論やポライトネス理論を学ぶと、日常生活でのコミュニケーションギャップの理由が理解できるようになります。よって、「コミュニケーション力」アップを目指す学生への履修をお勧めします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書、ハンドアウト、PPTを使った講義形式です。日本語のテキストなので、授業前に予習をしてください。実際に人々のコミュニケーションを観察するフィールドワークやロールプレイも行います。基本的には対面授業の予定ですが、状況に応じて、授業の形式は変わりますので、毎週、授業の前日までにはHoppiiを見てください。毎時間リアクションペーパーを提出してもらいます。授業の初めに、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	学問領域の概説と、各自の課題設定
第2回	語用論とは何か	語用論とポライトネスについて概説
第3回	第1章：ポライトネスの背景（1）	人間関係に関わる普遍的なルール
第4回	第1章：ポライトネスの背景（2）	ポライトネスについて
第5回	第2章：ブラウン＆レビンソンのポライトネス理論（1）	効率と配慮について
第6回	第2章：ブラウン＆レビンソンのポライトネス理論（2）	ポライトネスと言語文化について
第7回	第3章：敬語とポライトネス（1）	会話の場で人間関係を切り分けることについて
第8回	第3章：敬語とポライトネス（2）	敬語と距離感について
第9回	第4章：距離とポライトネス（1）	「人を呼ぶこと」と「ものを呼ぶこと」の語用論
第10回	第4章：距離とポライトネス（2）	呼称と指示語について
第11回	第5章：ポライトネスのコミュニケーション（1）	会話のスタイル・言語行為・文化差について
第12回	第5章：ポライトネスのコミュニケーション（2）	言語の形式と機能について
第13回	第6章：終助詞の意味とポライトネス	話者が直観的にしていることについて
第14回	歴史語用論概説	歴史語用論の射程の方法論について、これまでの授業のまとめに加え、レポート等、課題に対する講評や解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常生活における人々のコミュニケーションを観察するフィールド・ワークを実践します。自分の生活の中の会話の分析をします。レポートの課題については、ワークショップの形で考えていきたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書として、以下の本を使いますので、各自、購入しておいてください。滝浦真人（2008）『ポライトネス入門』（研究社）

【参考書】

椎名美智（2022）『「させていただく」の使い方—日本語と敬語のゆくえ—』（角川新書）
「ポライトネス」「語用論」「コミュニケーション論」といったタイトルのついた本は参考になります。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート80%、平常点（提出物/出席）20%で評価します。学期末のレポート以外に、学期中に教員が提案したテーマについて提出された課題レポートは加点の対象になります。

【学生の意見等からの気づき】

授業で使ったPPT資料は、希望があれば、授業後に学習支援システムにアップするので、それを参考にしてください。授業中はスクリーンの内容をノートにとることよりも、授業の内容に集中してください。講義中心の一方通行の授業になりがちなので、テーマにそって議論できるチャンスを毎回作ります。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは木曜日4限です。事前に予約メールをください。メールアドレスは初回の授業でお知らせします。
「社会言語学」も履修すると、さらに広い言語観を身につけることができるようになります。

【Outline (in English)】

This course deals with human communication with politeness on focus. Students are expected to find problems regarding their own everyday communication.

The goal of this class is to learn pragmatics and politeness theory and raise the consciousness on one's own communication.

Students need to review what they learn in the class.

The grading includes presentation (20%) and term paper (80%).

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

英語・言語学講義 B

石川 潔

授業コード：A2809 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

外国語学習に役立つであろう言語学的「雑学」的な知識を学びます。

【到達目標】

現代言語学から見れば間違っている「巷に溢れた嘘」や「誤解に基づく素人分析」から脱却すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的なネタを取り上げた講義、および訳や作文の実習。

訳や作文に授業時にコメントを加え、かつ、リアクションペーパーで重要なものにはコメントを返す予定です。

なお、授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性があります（し、あるべきだと考えます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	巷の日本語論の嘘（その1）	うなぎ文（その1）：翻訳とは何か、日本語の主語について
第2回	巷の日本語論の嘘（その2）	うなぎ文（その2）：奥津説、菅井説、そして……
第3回	「訳」についての誤解（その1）	代名詞と「役割語」
第4回	「訳」についての誤解（その2）	意味と文法的手段
第5回	文化と思考と言語	概念の切り取り方の文化／言語ごとの違い
第6回	ハとガ、英語の冠詞（その1）	情報の新旧説……英語の冠詞
第7回	ハとガ、英語の冠詞（その2）	情報の新旧説……日本語の助詞
第8回	「黒人」英語（その1）	必要な（統語論的）道具立ての整備
第9回	「黒人」英語（その2）	無意識の規則
第10回	「黒人」英語（その3）	必要な（意味論的）概念の整備
第11回	「黒人」英語（その4）	細かい意味的な区別
第12回	強形・弱形・再強勢形	do の3単現（その1）
第13回	音節量	do の3単現（その2）
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リアクションペーパー。また、訳や作文の実習の問題は、授業前に自分の答えを考えてきてください。

なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにてハンドアウトを配布します。

【参考書】

参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %。

公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。

但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粹加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでの理解度のスコアは、2022年度より2023年度は上がりましたが、2024年度は2022年度よりも下がってしまいました。理解度を2023年度のように上げるべく頑張りたいと思います。

【Outline (in English)】

(Course outline) Various "lessons" from linguistics presumably useful for foreign language learning.

(Learning Objectives) To clear up misconception concerning language.

(Learning activities outside of classroom) Translations and compositions; reaction papers.

(Grading Criteria /Policy) Participation (30%); Final (70%)

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

社会言語学

椎名 美智

授業コード：A2810 | 曜日・時限：木3/Thu.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会言語学は文字通り「社会と言語の関係についての学問」ですが、この授業では、幅広い視野から社会言語学を概観し、言語的側面から歴史、社会、政治、そして日常生活を見直す考え方を身につけることを目標にしています。

【到達目標】

世界中の様々な国に住む、様々な民族の言語状況に目を向け、その背後にある政治的・社会的・歴史的・民族的な要因を考える習慣を身につけてもらいたいと思います。それと同時に、自分の生活環境における言語の実情を自分で調べる「フィールド・ワーク」をする習慣を身につけてもらいたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

初回の授業は4月10日です。

国会では標準語で話しているのに、地元での選挙演説では方言を使う政治家がよくいます。また、電車の中でおしゃべりしている中高校生の語彙やイントネーションが、まるで外国語のように奇妙に聞こえることも、よくあることです。日常生活におけるこうした言語をめぐるおもしろい言語現象をきっかけに、「社会」と「人間」と「言語」の関わりを探っていきます。また、世界における言語状況を自分たちの身近な問題として考えていきます。テキストおよびハンドアウト、PPTを使った講義形式です。なお、各回の内容は、履修学生の興味によって変更する可能性があります。毎時間、リアクションペーパーに講義で学んだこと、考えたことなどを書いて、提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	社会言語学の学問領域の概説と各自の課題設定
第2回	社会言語学の定義	「社会」と「言語」の関係について
第3回	社会言語学の射程	扱う領域について
第4回	多言語社会	世界における民族と言語について
第5回	ダイグロッシア	二言語が使用されている社会について
第6回	ドメイン	言語が使い分けられる領域について
第7回	コードスイッチング	言語が切り替わる状況と要因について
第8回	言語の死	使われなくなっていく少数民族の言語について
第9回	ピジンとクレオール	複数の言語が出会う状況での言語状況について
第10回	方言	地域方言と社会方言
第11回	言語と文脈	言語が使用されるコンテキスト
第12回	敬語とボライトネス	日本語の敬語システムと敬語演習、およびボライトネスという概念
第13回	言語とジェンダー	ジェンダーの差違と言語使用
第14回	ケース・スタディー	『マイフェアレディ』における「方言」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の学習は2時間必要です。自分の言語環境を、社会言語学的な観点から見直す訓練をします。

【テキスト（教科書）】

田中晴美、田中幸子編著『社会言語学への招待—社会・文化・コミュニケーション』（1996）ミネルヴァ書房

【参考書】

内容ごとに参考文献を紹介し、資料を配布します。

【成績評価の方法と基準】

レポート8割（フィールド・ワーク重視）、平常点2割（課題も含む）で評価の参考にします。

【学生の意見等からの気づき】

例年、配付資料が数多く、授業内で扱いきれないので、厳選して資料を配付します。PPT資料は、授業後に授業支援システムにアップしますので、参考にしてください。授業中はノートをとることよりも、講義の内容に集中し、テーマにそって議論できるように、自ら考えるようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントはリクエストがあれば、授業支援システムにアップします。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to become aware of the use of language in society. By the end of the term, the students will have a fair linguistic sense towards languages in the world.

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

応用言語学

川崎 貴子

授業コード：A2811 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Applied Linguistics の分野の中でも Language Acquisition の理論、特に第二言語習得を中心に扱います。言語習得の分野で、どのような研究がなされてきたか、また、言語習得の過程はどのようにして明らかにしていくのかを、授業、及び実験への参加を通して学びます。

【到達目標】

こどもはどのように母語を獲得するのか、そして大人の第二言語習得と母語習得とはどのように異なるのか、そして習得理論はその違い、および類似点をどのように説明してきたのかを学び、言語習得理論の知識を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は半期のみなので、他の分野の紹介も織り交ぜ、言語習得理論のエッセンスの紹介をします。基本的には講義形式ですが、毎回、提示された問題について考える時間を設けます。また、授業外で、本学学部生、大学院生、教員の行う言語実験に被験者として参加し、実験がどのようにしてなされるのかを学ぶことも推奨します。授業後にオンラインでいただいたコメント・質問には次の授業冒頭で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の内容説明
第2回	言語知識	子供と大人の言語知識
第3回	第一言語習得1	子供の言語習得
第4回	第一言語習得2	入力の問題点・生得性
第5回	第一言語習得3	臨界期仮説
第6回	第一言語習得4	第一言語習得の研究
第7回	言語教育～言語習得	第二言語習得の歴史
第8回	第二言語習得1	第二言語習得における入力問題
第9回	第二言語習得2	L1とL2の相違点
第10回	第二言語習得3	言語差と難易度
第11回	SLA研究	実験方法の変遷
第12回	SLA理論1	パラメタと有標性
第13回	SLA理論2	パラメタの習得
第14回	SLA研究の教育への応用	理論と教育、第二言語教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に予習は必要ありませんが、授業の復習を行う必要があります。授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。宿題の回答を頭の中で考えるだけでなく、書いてまとめることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配布します。PDFファイルは、授業後に授業支援システムにアップロードします。

【参考書】

Lightbown, Patsy and Nina Spada 2011. How Languages Are Learned. Oxford University Press. [P. ライトバウン & N. スパダ『言語はどのように学ばれるか——外国語学習・教育に生かす第二言語習得論』白井恭弘&岡田雅子（訳）2014. 岩波書店]
その他、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最終試験を100%として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

第二言語習得のみならず、扱ったさまざまなことに興味を広げていただいたことがよかったと思います。

【Outline (in English)】

Outline: This course deals with Applied Linguistics, focusing on the theory of Language Acquisition, especially second language acquisition. Through classes and participation in experiments, students will learn what kind of research has been conducted in the field of language acquisition.

Goal: The purpose of this course is to provide students with knowledge about language acquisition and to enable them to think logically about issues related to language acquisition.

Learning activities outside of classroom: The required amount of study time is a minimum of four hours for each meeting of the class.

Grading Criteria:

Final exam: 100%

LIT200BD（文学 / Literature 200）

比較文学 A

柳橋 大輔

授業コード：A2824 | 曜日・時限：火5/Tue.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【〈感染〉イメージの変奏】

古来から繰り返し猛威を振る人々に襲いかかってきた伝染病は、歴史を通じて様々な文学作品や映画作品で主題化され続けてきました。広範囲の人々に襲いかかる〈感染〉のイメージはまた、多くの人々に犠牲を強いる戦争、ひいては文化の伝播や大衆現象などを表す比喩としても用いられてきました。この授業では、ドイツ・英米・日本など異なる文化圏で生み出された文学および映画のなかで様々な姿を変えて変奏されてきた〈感染〉というモチーフの系譜をたどります。

【到達目標】

文化的・メディアの越境およびモチーフの変奏について、具体例をもとに概略的に説明することができる。
文学・映画などの文化的事象のうちにひそむ歴史的・社会的コンテクストに対する鋭敏な感覚と、これまで自明視してきた文化的環境を相対化する柔軟な思考力を養う。
英米・ドイツ・日本の各文化圏における文学・映画などの文化やその歴史に関心を持ち、理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

論及の対象となる文学作品や映画作品の抜粋を紹介したあと、教員がその作品における文化的・メディアの越境とモチーフの変奏についてお話しします（講義形式）。なお、場合によってはその途中で受講生のみなさんに質問を投げかけ、必要があればさらに説明を行います（演習形式）。文学作品ないし映画作品について、また講義についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の講義で取り上げます（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容の概要と紹介／「比較文学」とは？
第2回	導入：〈感染〉とは何か	伝染病をめぐる医学史と〈感染〉イメージ
第3回	〈ペスト〉の意味論（1）	〈ペスト文学〉の系譜：ボッカチオ、デフォー、カミュ
第4回	〈ペスト〉の意味論（2）	共同体に下される神罰：ゲーテ、映画『フィレンツェのペスト』
第5回	〈ペスト〉の意味論（3）	戦争という不条理：カミュ『ペスト』
第6回	〈吸血鬼〉は何を〈感染〉させるのか？（1）	ストーカーから映画『吸血鬼ノスフェラートゥ』へ
第7回	〈吸血鬼〉は何を〈感染〉させるのか？（2）	〈吸血鬼〉の変容：映画『ドラキュラ』から『トワイライト』へ
第8回	〈ゾンビ〉の意味論（1）	映画『ナイト・オブ・ザ・リビングデッド』からマシスン、映画『アイ・アム・レジェンド』へ
第9回	〈ゾンビ〉の意味論（2）	ゾンビは〈内在化〉する？ 新しい〈ゾンビ小説〉・〈ゾンビ映画〉
第10回	〈洗脳〉——思考が〈感染〉する（1）	大衆社会、第一次世界大戦、催眠術
第11回	〈洗脳〉——思考が〈感染〉する（2）	〈私が見ているのは現実？〉：映画『カリガリ博士』と『シャッター アイランド』
第12回	メディアとプロパガンダ（1）	映像は思考をコントロールする？：初期映画と〈催眠〉言説
第13回	メディアとプロパガンダ（2）	映画がリアリティを動揺させる——〈マインド・ゲーム・フィルム〉
第14回	〈トランスカルチャー〉・〈トランスメディア〉（まとめにかえて）	時代・文化・メディアを超えて行なわれるイメージの変奏

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、それぞれ約2時間を標準とします。
授業であつかう文学作品の該当箇所を日本語（場合によっては英語）で配布する場合があるので、事前に目を通しておいてください。
授業中に映画作品の抜粋を視聴してもらいます。作品全体を観ることは原則的に難しいので、ぜひDVDレンタルや配信サービスなどを利用し、できるだけ自分で作品全体を観るようにしてください。

なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもらう可能性があります（詳細については授業で説明します）。その場合は授業ノートを読み返しながら自分の意見をまとめてください。

【テキスト（教科書）】

必要なテキスト等は授業前後にそのつど配布します。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど）：60％
学期末レポート：40％（提出しない場合は単位の認定ができません）
——なお、授業回数の3分の2以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に直接関係する感想や意見はリアクションペーパーで、それ以外のご連絡はメールでお寄せください。メールアドレスは授業開始後に学習支援システムでお知らせします。

【学生が準備すべき機器他】

初回授業はオンライン（Zoomをもちいたリアルタイム配信型）で行なう予定です。また、2回目以降は対面授業を想定しているものの、状況によってはオンライン授業に移行する必要があることもありえます。Zoomが使用できるよう、PCとネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期をとおした履修を推奨します。
授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。
オフィスアワーは火曜18:30～19:00としますが、事前にメールで連絡をしてください。メールアドレスは授業開始後に学習支援システムでお知らせします。

【Outline (in English)】

"Variations of the Imagery of 'Contagion'"

In this class, we will analyze the genealogy of the "infection" motif as it has been transformed in literature and film produced in the different cultures of Germany, Britain, the United States, and Japan.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 40%, in class contribution: 60%

LIT200BD（文学 / Literature 200）

比較文学 B

柳橋 大輔

授業コード：A2825 | 曜日・時限：火5/Tue.5
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【〈動物と（しての）人間〉をめぐる想像力の歴史】

近代的な人間中心主義が疑問に付されつつあります。テクノロジーの発展により従来の〈人間〉観が拡張されてきただけでなく、気候危機とともに、動物としての人間がその〈他者〉である自然環境に深く依存していることが明らかになっています。人間が動物と見做されうのように、動物にも人間のような権利（アニマル・ライツ）が認められるべき、という主張も高まっています。〈他者〉であり〈パートナー〉でもある動物というテーマは、〈ポストヒューマン〉が唱えられる以前から、さまざまなかたちで議論され、文学や映画、アニメなどのなかで描き出されてきました。本授業では、とりわけ英米圏やドイツ語圏、日本語圏に登場した〈動物〉と〈人間〉との関係性をめぐるイメージの系譜をたどります。

【到達目標】

文化的・メディアの越境およびモチーフの変奏について、具体例をもとに概略的に説明することができる。
文学・映画などの文化的事象のうちにひそむ歴史的・社会的コンテクストに対する鋭敏な感覚と、これまで自明視してきた文化的環境を相対化する柔軟な思考力を養う。
英米・ドイツ・日本の各文化圏における文学・映画などの文化やその歴史に関心をもち、理解を深める。
文化的なコンテンツを対象としたリサーチとプレゼンテーションのスキルを実地に学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

第10回までの授業で、教員が論及の対象となる文学作品を紹介し、映像作品の抜粋を視聴しながら、その作品が置かれた文化的文脈についてお話しします（講義形式）。

第11回以降は、〈動物と／しての人間〉モチーフをあつかった作品（映画、アニメ、漫画などポップカルチャーを含む）を受講生のみなさんに自由に選んでもらい、これについてグループ発表を行なってもらいます。その後、その他の参加者のみなさんと質疑応答の時間を設けます。（演習形式）。

講義内容や文学作品・映画作品について、また発表についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の授業で取り上げます（フィードバック）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の振り返り／今学期の講義内容の概要
第2回	導入：〈動物と人間〉、〈動物としての人間〉	西洋文学における〈動物〉モチーフの歴史概観
第3回	〈パートナーとしての動物〉	種の壁を乗り越える愛？：「蛙の王さま」、映画『プリンセスと魔法のキス』、『崖の上のポニョ』
第4回	〈他者としての動物〉	コミュニケーション不能の怪物？：メルヴィル、ヘミングウェイ、映画『鳥』、『ジョーズ』
第5回	〈動物化する人間〉 1	内なる野獣が露わになるとき：ステューヴンソン、ゾラから映画『動物界』まで
第6回	〈動物化する人間〉 2	〈人間園〉で家畜化される？：『家畜人ヤプー』、映画『マトリックス』、『動物化するポストモダン』
第7回	〈動物化する人間〉 3	本源的なるものへの回帰：裸体文化運動から映画『ファイト・クラブ』、『おおかみこどもの雨と雪』へ
第8回	〈動物化する人間〉 4	スーパーヒーローはパラサイト？：映画『スパイダーマン』、『ヴェノム』、漫画『寄生獣』
第9回	〈人間化する動物〉 1	動物もまた〈人間〉である？：ロンドン、カフカ、シートン
第10回	〈人間化する動物〉 2	人間の〈鏡〉としての動物：『動物農場』、映画『猿の惑星』、『ズートピア』
第11回	〈パートナー／他者としての動物〉 表象分析	受講生によるグループ発表と議論

第12回	〈動物化する人間〉 表象分析	受講生によるグループ発表と議論
第13回	〈人間化する動物〉 表象分析	受講生によるグループ発表と議論
第14回	カルチュラル・アニメ・スタディーズと比較文学（まとめにかえて）	発表の講評／レポート執筆に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、それぞれ約2時間を標準とします。
授業であつかう文学作品の該当箇所を日本語（場合によっては英語）で配布する場合があるので、事前に目を通してください。
授業中に映画作品の抜粋を視聴してもらいます。作品全体を観ることは原則的に難しいので、ぜひDVDレンタルや配信サービスなどを利用し、できるだけ自分で作品全体を観るようにしてください。
なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもらう可能性があります（詳細については授業で説明します）。その場合には授業ノートを読み返ししながら自分の意見をまとめてください。

【テキスト（教科書）】

必要なテキスト等は授業前後にそのつど配布します。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（グループ発表やディスカッションなど授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど）：60％
学期末レポート：40％（提出しない場合は単位の認定ができません）
——なお、授業回数の3分の2以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に直接関係する感想や意見はリアクションペーパーで、それ以外のご連絡はメールでお寄せください。メールアドレスは授業開始後に学習支援システムでお知らせします。

【学生が準備すべき機器他】

初回授業はオンライン（Zoomをもちいたリアルタイム配信型）で行なう予定です。また、2回目以降は対面授業を想定しているものの、状況によってはオンライン授業に移行する必要があることもありえます。Zoomが使用できるよう、PCとネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期をとおした履修を推奨します。
授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。
オフィスアワーは火曜18:30～19:00としますが、事前にメールで連絡をしてください。メールアドレスは授業開始後に学習支援システムでお知らせします。

【Outline (in English)】

"Histories of Imagination about Humans and/as Animals"
In this course we will reflect on the images of the relationship between 'animals' and 'humans' as they have been transformed in literature and film produced in the different cultures of Britain, the United States, Germany, and Japan.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end report: 40%, in class contribution: 60%

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

英語表現演習 (Writing)(1) A

[2年L組]

高村 遼

授業コード：A2826 | 曜日・時限：金1/Fri.1
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の生成AIの進歩と精度はめざましく、わざわざ自分で書く必要があるのかともあります。私たちがこの時代に求められているライティングとは何かを考えるきっかけを作りたいと考えています。前期は、頭の準備体操として日本語モードの翻訳から英語モードのライティングができるように訓練します。具体的には、日本語のアニメやドラマにオリジナルの英語字幕を作ります。後期は、パラグラフの構成を初歩から学びます。単調にならないようにグループワークやディスカッションの機会も設けたいと思っています。

【到達目標】

学期の終わりには、文法的な正しさだけではなく、日本語を状況に適した英語を作文することができるようになる。また、ライティングという行為を通して、日本語・文化および目標言語である英語との類似や相違について理解を深めることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は演習を中心に進めます。授業外での準備がかなり重要になります。フィードバックは毎回の授業のなかでいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の方針についての説明をします。
2	日本語と英語のちがいを 知る。	翻訳する作品と場面についての発表 をしていただきます。
3	分担を決める。セリフの 書き起こし（日本語）①	中間発表のスケジュール極めを行います。 その後、選んだ箇所の日本語 を書き起こします。
4	セリフの書き起こし（日 本語）の続き②	書き起こしの続きを行います。自分 で書き起こすことを通して、日本語 と英語のちがいに気づきましょう。
5	セリフの英語訳①	書き起こした日本語を次に英語に翻 訳します。主に文法を意識した活動。
6	セリフの英語訳②	前回の授業で訳した英語をさらに状 況に適しているか検討し、日本語 モードからの脱却を目指します。
7	中間報告①	興味深い3点に絞り、1人10分程度 の発表をパワポを使って行います。 各発表後にディスカッションを行い、 みんなで英語訳を検討します。
8	中間報告②	興味深い3点に絞り、1人10分程度 の発表をパワポを使って行います。 各発表後にディスカッションを行い、 みんなで英語訳を検討します。
9	中間報告③	興味深い3点に絞り、1人10分程度 の発表をパワポを使って行います。 各発表後にディスカッションを行い、 みんなで英語訳を検討します。
10	セリフの英語表現が日 本語と同じ意味になる ように検討する	フィードバックを受けて、自分の英 語訳が日本語が意味することを表せ ているか検討します。
11	最終発表①	学期レポートを意識した発表を行いま す。今までのコメントをもとに、 どのように改善したのかについて発 表していただきます。
12	最終発表②	学期レポートを意識した発表を行いま す。今までのコメントをもとに、 どのように改善したのかについて発 表していただきます。
13	最終発表③	学期レポートを意識した発表を行いま す。今までのコメントをもとに、 どのように改善したのかについて発 表していただきます。

14 レポート提出 5分間の日本語とその英語訳。興味
深い3点の説明。感想。の3点を
WORDで作成し、提出していただき
ます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。具体的には、文字起こし、発表資料の作成、フィードバックをもとに原稿の修正です。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
英語教育2022年8月号にこの授業について特集されています。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献30%、期末レポート（口頭発表を含む）70%

【学生の意見等からの気づき】
今年はじめて持つ授業なので特にありません。気づいたことがあればいつでも相談してください。

【学生が準備すべき機器他】
PCやタブレットなどであると便利です。

【その他の重要事項】
《重要》
「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。
※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。
※ 2年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to develop students' writing skills through various activities. In the spring semester, students will create original subtitles for Japanese anime, while in the fall semester, they will focus on learning paragraph writing. Through these activities, students will enhance both their grammar and communicative comprehension skills essential for English writing. Students are expected to dedicate at least four hours per week to preparation and review outside the classroom. The grading criteria are as follows: 30% for active participation and 70% for performance (e.g., term reports and presentations).

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

英語表現演習 (Writing)(1)B

[2年L組]

高村 遼

授業コード：A2827 | 曜日・時限：金1/Fri.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の生成AIの進歩と精度はめざましく、わざわざ自分で書く必要があるのかと思うこともあります。私たちがこの時代に求められているライティングとは何かを考えるきっかけを作りたいと考えています。前期は、頭の準備体操として日本語モードの翻訳から英語モードのライティングができるように訓練します。具体的には、日本語のアニメやドラマにオリジナルの英語字幕を作ります。後期は、パラグラフの構成を初歩から学びます。単調にならないようにグループワークやディスカッションの機会も設けたいと思っています。

【到達目標】

学期の終わりには、文法的な正しさだけでなく、日本語を状況に適した英語を作文することができるようになる。また、ライティングという行為を通して、日本語・文化および目標言語である英語との類似や相違について理解を深めることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

演習を基本にミニ講義も挟んでいきます。フィードバックは、授業の中と提出していただいたエッセイにコメントをつけて翌週以降の授業でお返しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	夏休みの思い出を英作文として提出していただきます。
2	Step 1 トピックに関する名詞をできるだけ多く並べる	使えそうなアイデアを集め、方向性をイメージする。
3	Step 2 トピックに関する名詞を3つに絞る	項目を厳選し、各パラグラフの構成要素を決定する。
4	Step 3 4スクエアを日本語の短文で埋める	主題をサポートする3つの理由を日本語で書いてみる。
5	Step 4 4スクエアの短文を英語で表現する	主題をサポートする3つの理由を英語で表現する。
6	Step 5 3スクエアを説明・具体例で膨らませる	3つ理由に説明や具体例を加えて、説得力を与える。
7	Step 6 文やスクエア同士を transition words でつなげる	つなぎ言葉で内容が伝わりやすい英文に整える。
8	Step 7 3スクエアを Body にまとめる	本論にあたる3つのパラグラフを完成させる。
9	Step 8 Introduction と Conclusion を書く	序論と結論を書き、首尾一貫した英文に仕上げる。
10	Step 9 Intro-Body-Conclusion の5つのパラグラフを校正する	細かいミスを修正し、完成度を上げる。
11	演習問題①	TOEFLのライティング問題を行います。
12	演習問題②	IELTSのライティング問題を行います。
13	演習問題③	英検1級のライティング問題を行います。
14	エッセイ提出	今まで扱ったトピックから1つ選び、エッセイを書く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。具体的には、エッセイの作成、フィードバックに基づく修正です。

【テキスト（教科書）】

リーパーすみ子・横川綾子、2014. アメリカ人なら小学校で学ぶ：英文ライティング入門. アルク.

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献30%とエッセイ70%

【学生の意見等からの気づき】

今年はじめて持つ授業なので特にありません。気づいたことがあればいつでも相談してください。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具は持ってくる。

【その他の重要事項】

大文字と小文字のルールがわかっていない人がいます。よく復習してください。《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to develop students' writing skills through various activities. In the spring semester, students will create original subtitles for Japanese anime, while in the fall semester, they will focus on learning paragraph writing. Through these activities, students will enhance both their grammar and communicative comprehension skills essential for English writing. Students are expected to dedicate at least four hours per week to preparation and review outside the classroom. The grading criteria are as follows: 30% for active participation and 70% for performance (e.g., term reports and presentations).

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

英語表現演習 (Writing)(2) A

[2年M組]

畑 和樹

授業コード：A2828 | 曜日・時限：月4/Mon.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は段階的に英文を構成する実践を通じて、履修者の英語ライティング力を養う。使用教材に基づく活動に取り組むことで、パラグラフ・ライティングの基本を学ぶとともに、内容を正確に伝えるための文法に意識を向けていく。パラグラフの書き方や文形式の違いからくるニュアンスの違いを理解し、それを自らのライティングに応用することで、より意味の通った英文をパラグラフの基本構成に沿って出力できるようになる。

【到達目標】

本科目は履修者に対し、英文ライティングにおける以下の目標を設定する。
a) くだけた表現を避けて形式的な文章を書くことができる。
b) 授業で扱う文法を駆使し、ある程度正確な文を出力することができる。
c) 一貫性のあるパラグラフを構成することができる。
d) パラグラフの中で主張や背景がはっきりすることができる。
e) 指定された形式を保ちながらワードドキュメントを作成することができる。
f) Oxford 2000 で示される程度の単語を、適宜適切に使うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

本科目は対話型の演習を多く取り入れる。教科書の活動は、原則としてペア・グループワークにおいて主体的に解決することが求められる。如何なる問いに対しても、担当教員が一方的に答えを示すことはせず、まず履修者による自主的な回答や問題解決を促す。そのため、本科目は履修者の主体的な参加を求める。また、効果的な活動実践のためには予習・復習が必須となる。各課題におけるフィードバックは適宜、授業内、オンラインシステムおよびメールにて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	科目説明／パラグラフの基本解説
2	Be 形式	パラグラフにおける Be 動詞文の機能
3	時制①	現在形を用いた事実の記述
4	時制②	時制の違いにみられる異なる用法とニュアンス
5	進行形	進行形を活用して言及できること
6	未来表現	未来に関する「度合い」の示し方
7	前置詞	各前置詞が持つ異なるニュアンスと文構成への応用
8	助動詞	助動詞（特に can, may, will, should）のニュアンスと活用
9	形容詞と副詞	単文における情報の補強と強調
10	複文	文を接続するための異なる形式とニュアンス
11	冠詞	冠詞が持つニュアンスとよく見られる誤用
12	ワークショップ①	単文構成の実践演習
13	ワークショップ②	複文構成の実践演習
14	まとめ	これまでの総括と最終課題に関する説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：履修者は事前に示された箇所を授業前に終わらせること。特に「文法事項」の多くは予習課題として課される。
復習：既習内容をもう一度見直すこと。また、各週において出された執筆課題を授業内演習の時間だけで完成させることは難しい。定期的にエッセイの加筆・修正を行うこと。
※ 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

K. S. Folse. (2016). *Grammar for great writing (Level-A)*. CENGAGE Learning. ISBN: 9781337115834 (必ず初回授業までに購入しておくこと)

【参考書】

ハンドアウトを適宜配布する。

【成績評価の方法と基準】

授業課題：50%
パラグラフ・ライティング：40%

授業貢献度：10%

※授業貢献度は課題への積極的な取り組み、および教員による問いかけへの応答から評価されます

【学生の意見等からの気づき】

授業形式（対面・遠隔）が変更される可能性を考慮し、説明時の教材の提示方法や評価基準など、前年度より一部の内容を変更している。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンもしくはタブレット（Microsoft Word 必須）
※スマートフォンは不可

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【None】

None

【Outline (in English)】

This course aims to enhance students' ability to write English sentences through step-by-step writing activities. In this module, students will have opportunities to acquire (and apply) a solid understanding of English grammar and the nuances in different linguistic formations. Over 14 weeks, they will engage in a series of activities and exercises that reinforce fundamental skills of constructing paragraphs, enabling them to produce coherent writing on given topics. The final grade for this module will be based on the evaluation of all assignments and active participation.

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 200）			【テキスト（教科書）】 K. S. Folse. (2016). <i>Grammar for great writing (Level-B)</i> . CENGAGE Learning. ISBN: 9781337118606（必ず初回授業までに購入しておくこと）		
英語表現演習 (Writing)(2)B			【参考書】 ハンドアウトを適宜配布する。		
[2年M組]			【成績評価の方法と基準】 授業課題：50％ パラグラフ・ライティング：40％ 授業貢献度：10％ ※授業貢献度は課題への積極的な取り組み、および教員による問いかけへの応答から評価されます		
畑 和樹			【学生の意見等からの気づき】 授業形式（対面・遠隔）が変更される可能性を考慮し、説明時の教材の提示方法や評価基準など、前年度より一部の内容を変更している。		
授業コード：A2829 曜日・時限：月4/Mon.4 秋学期授業/Fall・2単位 配当年次：2年			【学生が準備すべき機器他】 ノートパソコンもしくはタブレット（Microsoft Word 必須） ※スマートフォンは不可		
その他属性：			【その他の重要事項】 《重要》 「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。事前抽選結果発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 本科目は先行する英語表現演習 (Writing)(2)A の内容を踏まえながら、複雑な構成をもつパラグラフの執筆に取り組む。履修者はパラグラフ単体の構成を復習しながら、より正確で、一貫性のあるパラグラフを構成するライティング力を養う。既習文法を再確認しながら、特に日本人英語学習者が難しく感じやすい項目の理解を深め、構成するパラグラフの質を高めていく。指定教材の設問に答えるのみならず、与えられた文章例を精査し議論する授業内活動を通じて、異なる文法形式がニュアンスに与える影響を理解するとともに文章校正の幅を広げていく。授業後半部に提供される即時的なライティング活動の中でフィードバックを受け、自らが抱える課題を主体的に解決していく。			【None】 None		
【到達目標】 本科目は履修者に対し、英文ライティングにおける以下の目標を設定する。 a) くだけた表現や話し言葉の言い回しを避け、形式的な文章を書くことができる。 b) 授業で扱う文法を駆使し、伝えたい内容に沿った文を正確に出力することができる。 c) 主題、背景、説明、例示、結論を伴った一貫性のあるパラグラフを構成することができる。 d) 指定された形式を保ちながらワードドキュメントを作成することができる。 e) Oxford 2000 で示される程度の単語を、適宜適切に使うことができる。			【Outline (in English)】 This course builds upon the content of the preceding course (2)A and focuses on paragraph writing with more complex grammar structures. Students will review paragraph composition while developing the ability to construct a more accurate and coherent paragraph. Students will deepen their understanding of areas that Japanese English learners often find challenging, thereby enhancing the quality of their written work. In addition to do textbook tasks, students will engage in in-class activities that involve analysing given text examples and gain insights into how different grammatical structures affect nuances and expand writing skills. In the latter half of the course, students will participate in immediate writing exercises, receiving feedback to identify and proactively address their own issues in paragraph writing.		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連			【None】 None		
【授業の進め方と方法】 本科目は対話型の演習を多く取り入れる。教科書の活動は、原則としてペア・グループワークにおいて主体的に解決することが求められる。如何なる問いに対しても、担当教員が一方的に答えを示すことはせず、まず履修者による自主的な回答や問題解決を促す。そのため、本科目は履修者の主体的な参加を求める。また、効果的な活動実践のためには予習・復習が必須となる。各課題におけるフィードバックは適宜、授業内、オンラインシステムおよびメールにて返却する。			【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり /Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし /No			【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face			【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容	回	テーマ	内容
1	導入	科目説明／パラグラフ構成の復習	1	導入	科目説明／パラグラフ構成の復習
2	時制	現在形と過去形の適切性	2	時制	現在形と過去形の適切性
3	完了形	現在完了・過去完了形の効果的な使い方	3	完了形	現在完了・過去完了形の効果的な使い方
4	前置詞	各前置詞を用いた文章構成	4	前置詞	各前置詞を用いた文章構成
5	助動詞	助動詞を用いた文章構成	5	助動詞	助動詞を用いた文章構成
6	冠詞	冠詞を適切に用いる演習と文章校正	6	冠詞	冠詞を適切に用いる演習と文章校正
7	能動態・受動態	焦点によって異なる語順の選択	7	能動態・受動態	焦点によって異なる語順の選択
8	不定詞・動名詞	不定詞と動名詞の本質の違いの理解と実践演習	8	不定詞・動名詞	不定詞と動名詞の本質の違いの理解と実践演習
9	接続詞	句や節を接続すべき／すべきでない状況の判断	9	接続詞	句や節を接続すべき／すべきでない状況の判断
10	ワークショップ①	即時ライティングの演習とピアレビュー（トピック1）	10	ワークショップ①	即時ライティングの演習とピアレビュー（トピック1）
11	ワークショップ②	即時ライティングの演習とピアレビュー（トピック2）	11	ワークショップ②	即時ライティングの演習とピアレビュー（トピック2）
12	ワークショップ③	即時ライティングの演習とピアレビュー（トピック3）	12	ワークショップ③	即時ライティングの演習とピアレビュー（トピック3）
13	ワークショップ④	即時ライティングの演習とピアレビュー（トピック4）	13	ワークショップ④	即時ライティングの演習とピアレビュー（トピック4）
14	まとめ	これまでの総括と最終課題に関する説明	14	まとめ	これまでの総括と最終課題に関する説明
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 予習：履修者は事前に示された箇所を授業前に終わらせること。特に「文法事項」の多くは予習課題として課される。 復習：既習内容をもう一度見直すこと。また、各週において出された執筆課題を授業内演習の時間だけで完成させることは難しい。定期的にエッセイの加筆・修正を行うこと。 ※ 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。			【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 予習：履修者は事前に示された箇所を授業前に終わらせること。特に「文法事項」の多くは予習課題として課される。 復習：既習内容をもう一度見直すこと。また、各週において出された執筆課題を授業内演習の時間だけで完成させることは難しい。定期的にエッセイの加筆・修正を行うこと。 ※ 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。		

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

英語表現演習 (Writing)(3) A

[2年N組]

JAMES O ESSEX

授業コード：A2830 | 曜日・時限：月4/Mon.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは、英語の短編小説を題材にした課題を出します。毎週、学科のライティング・ハンドブックと並行して、異なる英語短編小説を取り上げます。英語のパラグラフやエッセイをより上手に書けるようになるための指導を行います。

【到達目標】

The primary goal of this course is for students to become better writers of English academic writing (paragraphs and essays). The second aim is for students to gain a better understanding of and appreciation for, English short stories. Such short stories will provide the stimuli about which students' paragraphs and essays will be composed.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

This class will be a mix of lecture and group discussion. Although the language of the lectures is English, the professor will explain clearly and concisely to ensure students' maximum understanding. The professor will also use Powerpoint slides. Feedback on assignments/performance etc will be provided either in written or verbal form in the classroom, or through Hoppii.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 of 14	Orientation The Writer's Handbook	- Course explanation and overview - Explanation of key terms: plot, character, setting, theme and style. - Introduction to reading strategies for English short stories. - Brief introduction to the history of the short story. Homework in preparation for next class: Read "The Gift of the Magi" by O. Henry.
2 of 14	Plot and Structure: Understand plot and narrative techniques. The Writer's Handbook	- Discuss "The Gift of the Magi". Explanation of plot elements: exposition, rising action, climax, falling action, resolution. - Group activity: Create a plot diagram for "The Gift of the Magi". Homework in preparation for next class: Read "A Good Man is Hard to Find" by Flannery O'Connor.
3 of 14	Character and Characterisation: Analyse characters and methods of characterisation. The Writer's Handbook	- Discuss "A Good Man is Hard to Find". - Explanation of character types: protagonist, antagonist, flat, round, dynamic, static. - Group activity: Character analysis of the main characters. Homework in preparation for next class: Read "Harrison Bergeron" by Kurt Vonnegut.
4 of 14	Setting and atmosphere: Explore the importance of setting and atmosphere in a short story. The Writer's Handbook	- Discuss "Harrison Bergeron". - Explanation of setting, time, place, social environment. - Group activity: Analyse the setting and atmosphere of Harrison Bergeron". Homework in preparation for next class: Read "The Lottery" by Shirley Jackson.

5 of 14	Theme and symbolism: Identify and interpret themes and symbols. The Writer's Handbook	- Discuss "The Lottery". - Explanation of theme and symbolism. Group activity: Identify themes and symbols in "The Lottery". Homework in preparation for next class: Read "The Yellow Wallpaper" by Charlotte Perkins Gilman.
6 of 14	Point of View and Narration: Understand different points of view and their effects. The Writer's Handbook	- Discuss "The Yellow Wallpaper". - Explanation of narrative perspectives: first person, third person (limited, omniscient). - Group activity: Analyse the narrative perspective of "The Yellow Wallpaper". Homework in preparation for next class: Read "Cathedral" by Raymond Carver.
7 of 14	Style and Tone: Analyse the author's style and tone. The Writer's Handbook	- Discuss "Cathedral". - Explanation of style and tone. - Group activity: Examine style and tone in "Cathedral". Homework in preparation for next class: Read "Everyday Use" by Alice Walker
8 of 14	Literary Analysis Techniques: Apply literary analysis techniques to short stories. The Writer's Handbook	- Discuss "Everyday Use". - Explanation of literary analysis techniques. - Group activity: Conduct a literary analysis of "Everyday Use". Homework in preparation for next class: Read "A Very Old Man with Enormous Wings" by Gabriel Garcia Marquez.
9 of 14	Historical and Cultural Contexts: Understand the influence of historical and cultural contexts on short stories, The Writer's Handbook	- Discuss how historical and cultural contexts shape short stories. - Case study: "A Very Old Man with Enormous Wings" Homework in preparation for next class: Read "The Tell-Tale Heart" by Edgar Allan Poe.
10 of 14	Psychological and Social Themes: Analyse psychological and social themes. The Writer's Handbook	- Discuss "The Tell-Tale Heart". - Exploration of psychological and social themes. - Group activity: Analyse the psychological themes in "The Tell-Tale Heart". Homework in preparation for next class: Review your lecture notes
11 of 14	Review, consolidation and wrap-up. The Writer's Handbook	Students will be given the opportunity to review the week's lectures, and their corresponding class notes in preparation for the final report.
12 of 14	Essay topic selection and type (compare/contrast, definition, narrative etc)	Students will be guided in deciding a theme for their essay (in response to one of the short stories read this semester), and its type
13 of 14	Work on essays.	Students will be given time to work on their essays.
14 of 14	Final submission	The purpose of the final report, like most courses, is the student's chance to demonstrate their knowledge and understanding. Please note students may be expected to apply their knowledge and understanding to stories not previously covered in this course. The aim of the course is not to understand the selected stories inside out, but to gain a deeper understanding and appreciation of short stories in general.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will be assigned every week, and students are expected to spend a minimum of four hours/week on this. This homework will both help to prepare students for the subsequent lesson and help them to consolidate their knowledge and understanding of the previous lesson. In addition, students are expected to review their class notes each week.

【テキスト（教科書）】

No textbook is required: materials will be provided either through Hoppii or distributed in the classroom.

【参考書】

No reference books are required.

【成績評価の方法と基準】

Participation 50%

Essay 50%

Please note 4% will be deducted for every class you are unable to participate in. Please note also that medical receipts/doctors' letters etc. do not excuse absences, they merely explain them. Students will be unable to pass the class if they are absent 4+ times (for any reason).

A rubric will be used to ensure objective grading.

【学生の意見等からの気づき】

Following student comments and feedback from previous summer intensive courses and personal reflections, I have overhauled my syllabus and made improvements.

【学生が準備すべき機器他】

Students need to prepare:

- a notebook specifically for this class
- a pen or pencil
- a dictionary (preferably not a smartphone app)

【その他の重要事項】

Students are discouraged from using AI tools for understanding the stories in this class, and for completing homework assignments.

Many students automatically sit at the back of the room. I plan on using the projector intensively. Please sit where you can see the screen easily (and I can see you!).

Above all, I hope you enjoy my course, and that you can take something away from it that will benefit you long after you complete it.

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【None】

No pre-requisite.

【Outline (in English)】

The written assignments you complete in this class will be in response to English short stories. Each week, students will look at a different English short story, alongside the department's writing handbook. Instruction will be provided that enables students to become better writers of English paragraphs and essays. Participation 50%, Essay 50%.

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)		3 of 14	Character Development Writing handbook	- Read "Thank You, Ma'am" by Langston Hughes - Group discussion: Analyze character traits and motivations - Create a character profile for the main character of your short story
英語表現演習 (Writing)(3)B		4 of 14	Setting and Atmosphere Writing handbook	- Read A Worn Path by Eudora Welty - Discussion: How does the setting influence the story's atmosphere and character decisions? - Workshop: Write a descriptive paragraph of the setting for your story.
[2年N組]		5 of 14	Theme and Message Writing handbook	- Read The Lottery Ticket by Anton Chekhov - Discussion: Identifying the theme and its relevance to society - Group activity: Brainstorm themes for your short stories
JAMES O ESSEX		6 of 14	Point of View Writing handbook	- Read Girl by Jamaica Kincaid AND Hills Like White Elephants by Ernest Hemingway - Discussion: How does the point of view influence the reader's perception? - Workshop: Write the opening paragraph of their story using a chosen point of view.
授業コード：A2831 曜日・時限：月4/Mon.4 秋学期授業/Fall・2単位 配当年次：2年 その他属性：		7 of 14	Dialogue Writing handbook	- Read A Temporary Matter by Jhumpa Lahiri - Analyze how dialogue reveals character and subtext - Workshop: Write a dialogue exchange between two characters in your short story
【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】 このコースは、前学期で学んだスキルの上に成り立っています。このクラスでは、英語の短編小説（前学期で使用したものと異なります）を題材にした課題文を提出します。毎週、異なる英語の短編小説を取り上げます。前セメスターでは、生徒たちは取り上げた短編小説の一つをもとにエッセイを完成させました。今学期は、(i)自分の短編小説を書くこと、(ii)その短編小説の解説／分析をすること、といった、より創造的な基準が課される。		8 of 14	Conflict and Tension Writing handbook	- Read The Rocking Horse Winner by D.H. Lawrence - Discussion: Types of conflict (internal vs. external) - Outline the central conflict of your story - Peer review: Exchange and critique first drafts - Group discussion: Giving constructive feedback - Revise the draft based on feedback
【到達目標】 The primary goal of this course is for students to become better writers of English (creative writing by way of a short story and academic writing by way of an accompanying commentary). The second aim is for students to gain a better understanding of and appreciation for, English short stories. Such short stories will provide the stimuli about which students' paragraphs and essays will be composed.		9 of 14	Revising the First Draft	- Read The Garden Party by Katherine Mansfield - Analyze the use of symbols and imagery - Add symbolic elements to your short stories - Read The Storm by Kate Chopin - Discussion: How tone and style shape the reader's experience - Workshop: Experiment with tone in a key scene
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】 ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連		10 of 14	Symbolism and Imagery Writing handbook	
【授業の進め方と方法】 This class will be a mix of lecture and group discussion. Although the language of the lectures is English, the professor will explain clearly and concisely to ensure students' maximum understanding. The professor will also use Powerpoint slides. Feedback on assignments will be given orally in the classroom or in written form through Hoppii.		11 of 14	Tone and Style Writing handbook	
【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】 あり /Yes				
【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】 なし /No				
【授業計画】 授業形態：対面/face to face				
回	テーマ	内容		
1 of 14	Introduction to Short Stories Writing handbook	- Icebreaker: Share favourite stories in small groups. - Lecture: Key elements of short stories (plot, character, setting, theme, point of view). - Reading: The Necklace by Guy de Maupassant (focus on plot structure). - Review and discuss summaries of The Necklace. - Read and discuss A Sound of Thunder by Ray Bradbury (focus on plot twists and resolution). - Small group activity: Map the plot structure		
2 of 14	Plot and Structure Writing handbook			

12 of 14	Title and Opening Writing handbook	- Read memorable opening lines from short stories - Workshop: Revise the opening paragraph and create a title for your short story
13 of 14	Endings and Closure Writing handbook	- Read The Shawl by Cynthia Ozick - Discussion: What makes a strong ending? - Workshop: Develop the ending for the your short story
14 of 14	Submission of short story and commentary/analysis/self-reflection	Students are to submit their short story and accompanying commentary/analysis/self-reflection by the end of the lesson

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will be assigned every week, and students are expected to spend a minimum of four hours/week on this. This homework will both help to prepare students for the subsequent lesson and help them to consolidate their knowledge and understanding of the previous lesson. In addition, students are expected to review their class notes each week.

【テキスト（教科書）】

No textbook. Materials will be provided.

【参考書】

No additional references.

【成績評価の方法と基準】

Participation: 20%

Short Story: 30%

Commentary: 50%

Please note 4% will be deducted for every class you are unable to participate in. Please note also that medical receipts/doctors' letters etc. do not excuse absences, they merely explain them. Students will be unable to pass the class if they are absent 4+ times (for any reason).

Rubrics will be used to ensure objective grading.

【学生の意見等からの気づき】

Following student comments and feedback from previous summer intensive courses and personal reflections, I have overhauled my syllabus and made improvements.

【学生が準備すべき機器他】

Students need to prepare:

- a notebook specifically for this class
- a pen or pencil
- a dictionary (preferably not a smartphone app)

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Prerequisite】

None

【Outline (in English)】

This course builds on the skills learnt in the previous semester. The written assignments you complete in this class will be in response to English short stories (which are different to those used in the previous semester). Each week, students will look at a different English short story. In the previous semester, students completed an essay based on one of the short stories they were exposed to. This semester, the criteria is somewhat more creative: students will be required to (i) write their own short story and (ii) a commentary/analysis of their short story. Participation: 20%; Short Story: 30%; Commentary: 50%.

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

英語表現演習 (Writing)(5) A

杉 亜希子

授業コード：A2834 | 曜日・時限：月3/Mon.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Familiarizing yourself with English paragraph/essay structure and mechanics and putting language knowledge and writing experience to work more effectively.

論理的な文章の展開を理解し、書きたいことを読み手にわかりやすく伝えるためのパラグラフ構成を学び、その後エッセイへと発展させます。

注）英語表現演習 (Writing)(5)B と併せて受講することが望ましい。

【到達目標】

Through understanding each model paragraph/essay, you will

- ・ Be able to recognize and identify key structures
- ・ Learn how to gather ideas and organize them into groups (outlining)
- ・ Get used to editing and improving your writing
- ・ Apply the structures to your own writing and produce formal/academic writing

論文の基本構成要素とその論理性を理解し、レポート作成の基礎となる Paragraph や Essay の構造とスタイルをマスターします。授業の中で段階を踏みながら各自で選択したトピックに基づくライティングをし、その後のグループワークで自分では気づけなかった内容の不足箇所を指摘・提案しあうことで、互いを高めあうことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Acquiring the idea of what an English paragraph should be like, you will improve skills to write your own work.

1) In each unit you will first internalize the essential writing process following the guidance (such as a reading about the topic; vocabulary building exercise) given in the text.

2) You will then gather ideas, organize an outline, draft, revise, edit and submit the final draft.

- ・ Preparation for each class will be a must
- ・ Active and cooperative performance in every class from each student is fully expected
- ・ Late submission of the assessed work will NOT be accepted

論文の基本構成とその論理的展開を理解し、レポート作成の基礎となる paragraph のスタイルをマスターし、その後 essay へと発展させていく。英語で書かれている教科書を使い、予習していることを前提に授業をすすめる。フィードバックは、課題提出後に授業内又は「授業支援システム」やメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Guidance	General briefing
第2回	Unit 1: Paragraphs (1)	Understanding paragraphs and topic sentences
第3回	Unit 1: Paragraphs (2)	Understanding paragraph structure (Supporting sentences)
第4回	Unit 1: Paragraphs (3)	Understanding paragraph structure (Concluding sentences) and features of a well-written paragraph
第5回	Unit 1: Paragraphs (4)	Writing a paragraph; peer-editing and revising your paragraph
第6回	Unit 2: Features of Good Writing (1)	Understanding purpose, audience, and clarity
第7回	Unit 2: Features of Good Writing (2)	Understanding clarity, unity and coherence
第8回	Unit 2: Features of Good Writing (3)	Writing a paragraph; proofreading
第9回	Unit 2: Features of Good Writing (4)	Peer-editing and revising your paragraph
第10回	Unit 4: Classification Essays: Moving from Paragraph to Essay (1)	Understanding the essay structure (Introductory paragraph)

第11回	Unit 4: Classification Essays (2)	Understanding classification essays; use of subject adjective clauses
第12回	Unit 4: Classification Essays (3)	Understanding the writing process
第13回	Unit 4: Classification Essays (4)	Brainstorming and outlining for your essay; writing your essay
第14回	Unit 4: Classification Essays (5)	Proofreading; peer-editing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

At each class, you are expected to have read and completed the exercises of the relevant section from the text. Your required study time is at least four hours for a class.

模範となるパラグラフやエッセイは、内容を理解し問題を解くだけでなくとどまらず、その構成スタイルを把握し自分のライティングに役立てます。フィードバックされた提出物も再度見直すことが重要です。

本授業の準備・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Keith S. Folse, et al., *Great Writing, Level 3 - From Great Paragraphs to Great Essays* (National Geographic Learning, a Cengage Learning company, 2020, ¥3,640+税)

【参考書】

Use of an English-English dictionary is strongly recommended.

英英辞書の積極的な利用を推奨します

Useful websites:

<http://dictionary.cambridge.org/>

<http://www.merriam-webster.com/>

Thesaurus: <http://thesaurus.com/>

Britannica: www.britannica.com

【成績評価の方法と基準】

① 70% by Assessed Work submitted at the end of each unit

② 30% by active participation in each class

注1）出席が7割未満の場合は原則として単位修得の資格を失います

注2）Unit ごとに提出する Assessed Work と、授業中の参加意欲や学びへの積極性と努力による総合評価。各センテンスの意味が通じているかだけでなく、各ユニットで学ぶポイントが反映されているか、そして各 paragraph/essay の構成がロジックに沿ったものかを評価します

【学生の意見等からの気づき】

Writing には絶対的な「答え」はありません。自分の主張したいこと、言いたいことは何か、そしてそれを如何に読者に伝えられるか、ここが評価の軸となります。

受講者が「英語で長い文章を書くのが億劫でしたが書き方を学んだことで前向きになった」と感じた様に、まず英語の「文章の構成」を理解することから始めます。その後テーマに沿ってドラフトの骨格となるアウトラインをしっかり考えてからドラフト作成に入ります。

基本的に書く作業は一人で行いますが、ドラフトを誰かと読みあい評価するペアまたはグループ・ワークでは、活発に意見を出しあうことでお互いを高められる利点があります。受講者は「自分では気づかない矛盾やあいまいな表現」を指摘され「自分の意図しない文」を避けることでよりわかりやすいエッセイを心がけ、「自分の主張をある程度の説得力と論理性を持って説明することが出来るようになった」と成長を実感しています。

「基本に始まり少しずつ書き方が分かっていくのが楽しかった」「最初は一つのパラグラフを作ることにも苦勞していたのに最終的にはいくつかのパラグラフをつなげてエッセイを作ることができ成長を感じられた」「つまらない文章だったのが、最後には読んで面白い文章に変わった」と皆さんも言えるように頑張ってみませんか。

【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書は必須。パソコンの使用に関しては授業内で指示します

【その他の重要事項】

- 生成AIや翻訳機能の許可のない使用は認められず、評価にも影響します
- 欠席や遅延をメールで連絡する場合（akiko.sugi4i@hosei.ac.jp）には、理由説明と「その根拠となる書類・証拠」の提出が必須です。「体調不良」という説明だけでは考慮の対象なりません

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

Familiarizing yourself with English paragraph/essay structure and mechanics and putting language knowledge and writing experience to work more effectively.

< Learning Objectives >

Through understanding each model paragraph/essay,

- ・ You will be able to recognize and identify key structures
- ・ You will learn how to gather ideas and organize them into groups (outlining)
- ・ You will get used to editing and improving your writing
- ・ You will be able to apply the structures to your own writing and produce formal/academic writing

< Learning activities outside of classroom >

At each class, you are expected to have read and completed the exercises of the relevant section from the text. Your required study time is at least four hours for a class.

< Grading Criteria /Policy>

- ① 70% by Assessed Work submitted at the end of each unit
- ② 30% by active participation in each class

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

英語表現演習 (Writing)(5)B

杉 亜希子

授業コード：A2835 | 曜日・時限：月3/Mon.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Familiarizing yourself with English essay structure and mechanics and putting language knowledge and writing experience to work more effectively

春学期に学んだパラグラフから発展し、論理的な文章の展開を理解し、書きたいことを読み手にわかりやすく伝えるための English essay の手法や構成を学び、それを自分の文章の中に落とし込んで様々なタイプのエッセイを書きます。

注）英語表現演習 (Writing)(5)A と併せて受講することが望ましい。

【到達目標】

Through understanding each model essay, you will

- ・ be able to recognize and identify key structures
- ・ learn how to gather ideas and organize them into groups (=outlining)
- ・ get used to editing and improving your writing
- ・ apply the structures to your own essay writing and produce formal/academic writing

論文が持つ基本構成要素とその論理性を理解し、大学や社会に出た時に必要となる英文エッセイのスタイルをマスターします。自分で選択したトピックでドラフトを作成し、グループワークで自分では気づかなかった内容的な不足箇所を指摘・提案しあうことで互いを高めあうことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

In each unit you will gather ideas, organize an outline, draft, revise, edit and submit the final draft.

- ・ Preparation for each class will be a must
- ・ Active and cooperative performance in every class activity from each student is fully expected
- ・ Late submission of the assessed work will NOT be accepted

前期にマスターしたパラグラフから発展し英文エッセイの書き方を学んでいく。

* Topics are subject to change

フィードバックは、課題提出後に授業内または授業支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Reviewing	General briefing; reviewing essay structures
第2回	Unit 5: Cause-Effect Essays	Understand cause-effect essays; brainstorm
第3回	Unit 5: Cause-Effect Essays	Develop an outline
第4回	Unit 5: Cause-Effect Essays	Write your draft
第5回	Unit 5: Cause-Effect Essays	Peer-edit and finish the final draft
第6回	Unit 7: Comparison Essay	Understand comparison essays; brainstorm
第7回	Unit 7: Comparison Essay	Develop an outline
第8回	Unit 7: Comparison Essay	Write your draft
第9回	Unit 7: Comparison Essay	Peer-edit and finish the final draft
第10回	Unit 8: Problem-Solution Essays	Understand problem-solution essays; brainstorm
第11回	Unit 8: Problem-Solution Essays	Develop an outline
第12回	Unit 8: Problem-Solution Essays	Write your draft
第13回	Unit 8: Problem-Solution Essays	Peer-edit and finish the final draft

第14回 Final Timed Writing Timed writing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

At each class, you are expected to have read and completed the exercises of the relevant section from the text. Your required study time is at least four hours for a class.

模範となるパラグラフやエッセイは、内容を理解し問題を解くだけにとどまらず、その構成スタイルを把握し自分のライティングに役立てます。フィードバックされた提出物も再度見直すことが重要です。

本授業の準備・復習時間は4時間を標準とします。

本授業の準備・復習時間は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

春学期と同様：Keith S. Folse, et al., *Great Writing, Level 3 - From Great Paragraphs to Great Essays* (National Geographic Learning, a Cengage Learning company, 2020, ¥3,640+税)

【参考書】

Use of an English-English dictionary is strongly recommended.

英英辞書の積極的な利用を推奨します

Useful websites:

<http://dictionary.cambridge.org/>

<http://www.merriam-webster.com/>

Thesaurus: <http://thesaurus.com/>

Britannica: www.britannica.com

【成績評価の方法と基準】

① 70% by Assessed Work submitted at the end of each unit

② 30% by active participation in each class

注1）出席が7割未満の場合は原則として単位修得の資格を失います

注2）Unit ごとに提出する Assessed Work と、授業中の参加意欲や学びへの積極性と努力による総合評価。各センテンスの意味が通じているかだけでなく、各ユニットで学ぶポイントが反映されているか、そして各 paragraph/essay の構成がロジックに沿ったものかを評価します

【学生の意見等からの気づき】

Writing には絶対的な「答え」はありません。自分の主張したいこと、言いたいことは何か、そしてそれを如何に読者に伝えられるか、ここが評価の軸となります。

受講者が「英語で長い文章を書くのが億劫でしたが書き方を学んだことで前向きになった」と感じた様に、まず英語の「文章の構成」を理解することから始めます。その後テーマに沿ってドラフトの骨格となるアウトラインをしっかり考えてからドラフト作成に入ります。

基本的に書く作業は一人で行いますが、ドラフトを誰かと読みあい評価するペアまたはグループ・ワークでは、活発に意見を出しあうことでお互いを高められる利点があります。受講者は「自分では気づかない矛盾やあいまいな表現」を指摘され「自分の意図しない文」を避けることでよりわかりやすいエッセイを心がけ、「自分の主張をある程度の説得力と論理性を持って説明することが出来るようになった」と成長を実感しています。

「基本に始まり少しずつ書き方が分かっていくのが楽しかった」「最初是一个のパラグラフを作ることに苦勞していたのに最終的にはいくつかのパラグラフをつなげてエッセイを作ることができ成長を感じられた」「つまらない文章だったのが、最後には読んで面白い文章に変わった」と皆さんも言えるように頑張ってみませんか。

【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書は必須。パソコンの使用に関しては授業内で指示します。

【その他の重要事項】

- 生成 AI や翻訳機能の許可のない使用は認められず、評価にも影響します
- 欠席や遅延をメールで連絡する場合（akiko.sugi4i@hosei.ac.jp）には、理由説明と「その根拠となる書類・証拠」の提出が必須です。「体調不良」という説明だけでは考慮の対象なりません

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

Familiarizing yourself with English paragraph/essay structure and mechanics and putting language knowledge and writing experience to work more effectively.

< Learning Objectives >

Through understanding each model paragraph/essay,

- ・ You will be able to recognize and identify key structures
 - ・ You will learn how to gather ideas and organize them into groups (outlining)
 - ・ You will get used to editing and improving your writing
 - ・ You will be able to apply the structures to your own writing and produce formal/academic writing
- < Learning activities outside of classroom >

At each class, you are expected to have read and completed the exercises of the relevant section from the text. Your required study time is at least four hours for a class.

< Grading Criteria /Policy>

- ① 70% by Assessed Work submitted at the end of each unit
- ② 30% by active participation in each class

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

英語表現演習 (Writing)(6)A

畑 和樹

授業コード：A2836 | 曜日・時限：月3/Mon.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文ライティングのスキルを向上させるには、文章を一から構成する力に加え、状況に応じて既存の表現を適切に「書き換える」能力が求められる。本科目では、"rephrasing" および "paraphrasing" の技術を体系的に学び、英語表現の柔軟性を高めることを目的とする。授業では同義語や異なる文法構造を活用しながら、原文の意味を損なわずに表現を変える方法を習得する。はじめに語彙の置き換えを中心に行い、文構造の変換や、異なる視点からの書き換えを段階的に練習していく。授業活動の際はペアワークやグループディスカッションを取り入れ、表現についての意見交換を行うことで、ニュアンスや文脈に応じた書き換えの判断力を養うとともに、フィードバックを通じて自らの書き換えの精度を向上させる。

【到達目標】

本科目は履修者に対して、与えられた文章を書き換えるうえで (a) 類義語を適宜活用すること、(b) 文法形式を適切に変更すること、(c) 原文の意味を最大限保つこと、(d) 全く異なる文章として認識できるものを出力することを課す。これら4つを本科目の到達目標に設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

本科目は対話型の演習を多く取り入れる。教科書の活動は、原則としてペア・グループワークにおいて主体的に解決することが求められる。如何なる問いに対しても、担当教員が一方的に答えを示すことはせず、まず履修者による自主的な回答や問題解決を促す。そのため、本科目は履修者の主体的な参加を求める。また、効果的な活動実践のためには予習・復習が必須となる。各課題におけるフィードバックは適宜、授業内、オンラインシステムおよびメールにて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	科目説明（rephrasing/ paraphrasingの重要性）
2	類義語①	似た意味を持つ単語を用いる方法、異なる単語が持つ微妙なニュアンスの違い
3	類義語②	文脈に応じた類義語の選択、形式的な表現
4	品詞①	動詞－名詞および形容詞－副詞の変換、語形変化の活用
5	品詞②	品詞をコントロールしながら単文を書き換える演習
6	文形式①	語順を変える書き換え、基本構文及び能動態・受動態の復習
7	文形式②	There構文や関係詞の活用、肯定文と否定分の書き換え
8	文形式③	複文の統合および単文の分割
9	接続詞	接続詞を駆使した書き換え、論理関係の調整
10	表現の主観性と客観性	形式を変えることによる焦点の調整、That節の（非）活用
11	ワークショップ①	単文の書き換え演習
12	ワークショップ②	複文の書き換え演習
13	ワークショップ③	これまでの内容を包括した実践演習
14	最終課題	最終試験の実施、科目内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。予習と復習の内容についての詳細は授業内で言及する。

【テキスト（教科書）】

不要（適宜配布）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

授業課題：50%

最終試験：40%

授業貢献度：10%

※授業貢献度は課題への積極的な取り組み、および教員による問いかけへの応答から評価されます

【学生の意見等からの気づき】

昨年度から担当者変更のため省略

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンもしくはタブレット（Microsoft Word 必須）

※スマートフォンは不可

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期日内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

English writing involves not only constructing sentences from scratch but also rephrasing and paraphrasing existing expressions appropriately. This course systematically covers the techniques of rephrasing and paraphrasing with the goal of enhancing students' flexibility in English expression. Students will learn how to modify expressions without changing the original meaning by utilising synonyms and applying different but appropriate grammatical structures. In-class activities include pair work and group discussions, allowing students to exchange ideas about various expressions. Through these activities, they will develop the ability to adjust wording appropriately based on nuances and context. By receiving feedback, they will refine their rephrasing and paraphrasing skills for greater accuracy. The final grade for the course will be based on scores from all assignments, including the final exam, and active participation in class activities. Details of coursework will be announced in the first class.

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

英語表現演習 (Writing)(6)B

畑 和樹

授業コード：A2837 | 曜日・時限：月3/Mon.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文ライティングスキルを構成するものは、文章を一から構成する力だけではなく、既存の表現を状況に即して書き換えることで伝える内容を精査・調整する能力、および複雑な内容を簡潔にまとめる能力が含まれる。履修者は本科目において "paraphrasing" の技術を学び、内容を正確に伝えながら文章の独自性を高める力を養う。授業では語彙や文法を調整した書き換えを行う活動に加え、複文やパラグラフの要約を試みることで、より幅広く、洗練された英語表現を身につける。授業では表現についての意見交換をペア・グループで行うことで、ニュアンスや文脈に応じた書き換えの判断力を養うとともに、フィードバックを通じて書き換えの精度を向上させる。また、アカデミック・ライティングにおける適切な引用の基本を踏まえ、他者のアイデアを適切に引用できるようにする。

【到達目標】

本科目は履修者に対して、与えられた文章を書き換えるうえで (a) 類義語を適宜活用すること、(b) 文法形式を適切に変更すること、(c) 原文の意味を最大限保つこと、(d) 全く異なる文章として認識できるものを出力することに加え、(e) 複文やパラグラフを正確に要約できること、および (f) 他者の英文を適切に引用することができること、の6つを本科目の到達目標に設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

本科目は対話型の演習を多く取り入れる。教科書の活動は、原則としてペア・グループワークにおいて主体的に解決することが求められる。如何なる問いに対しても、担当教員が一方的に答えを示すことはせず、まず履修者による自主的な回答や問題解決を促す。そのため、本科目は履修者の主体的な参加を求める。また、効果的な活動実践のためには予習・復習が必須となる。各課題におけるフィードバックは適宜、授業内、オンラインシステムおよびメールにて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	科目説明（rephrasing/ paraphrasing の重要性、それらと要約の根本的違い）
2	表現の具体化①	類義語を活用した抽象や曖昧さの最小化
3	表現の具体化②	文脈と形式を意識した類義語の活用
4	複文の単文化①	文における重要な要素と補足的要素の判別、冗長な部分の削除
5	複文の単文化②	形容詞・副詞の活用、挿入句による説明の付与、可読性の確保
6	段落の要約①	段落内の文同士がもつ機能と関連性、重要な要素と補足的要素の判別
7	段落の要約②	複文を用いた要約から単文での要約へ
8	引用①	引用ルールの基本（APA第7版に準拠）、剽窃に対する注意点、直接引用の手法と引用符外の主語・動詞の選択
9	引用②	他者による文章を書き換える重要性和その手法
10	ワークショップ①	単文・複文の書き換え演習
11	ワークショップ②	複文の要約演習
12	ワークショップ③	段落の要約演習
13	ワークショップ④	これまでの内容を包括した実践演習
14	最終課題	最終試験の実施、科目内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。予習と復習の内容についての詳細は授業内で言及する。

【テキスト（教科書）】

不要（適宜配布）

【参考書】

https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/apa_style/apa_formatting_and_style_guide/index.html

【成績評価の方法と基準】

授業課題：50%

最終試験：40%

授業貢献度：10%

※授業貢献度は課題への積極的な取り組み、および教員による問いかけへの応答から評価されます

【学生の意見等からの気づき】

昨年度から担当者変更のため省略

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンもしくはタブレット（Microsoft Word 必須）

※スマートフォンは不可

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

Improvement of English writing requires better skills to appropriately rephrase and paraphrase existing expressions. This course offers fundamental opportunities for students to learn the techniques of paraphrasing to enhance the originality of their writing while accurately conveying the content. Students will practice adjusting vocabulary and grammar for rewriting as well as summarizing complex sentences and paragraphs, thereby acquiring a broader range of refined English expressions. Through pair and group discussions about expressions, students will develop judgment skills in paraphrasing based on nuances and context, while improving the accuracy of their rewrites through feedback. Additionally, by learning the fundamentals of proper citation in academic writing, students will become capable of appropriately citing others' ideas to strengthen their own works. The final grade for the course will be based on scores from all assignments, including the final exam, and active participation in class activities. Details of coursework will be announced in the first class.

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 200）

英語表現演習 (Writing)(7) A

PAUL K KALLENDER

授業コード：A2838 | 曜日・時限：火4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a pre-intermediate/intermediate course focused on writing skills but also containing reading, aimed at using a CLIL approach toward building key basic writing skills, including the ability to write paragraphs and articles on topics using correct grammar and logical narrative structure. There will also be some chance to discuss the topics written about in the class.

【到達目標】

Students are expected to advance both their writing skills and also their reading skills, particularly however extra emphasis will be placed on writing skills.

Students are expected to

1. Improve their basic grammar
2. Develop the ability to write increasingly complex sentences
3. Understand and improve their ability to write paragraphs
4. Understand how to combine paragraphs to form coherent narratives
5. Improve not only their vocabulary but also cultural knowledge

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Each week students will read a topic, answer vocabulary questions on it, write sentences on the topic, study several grammar points, practice those grammar points, and write short paragraphs on the topic. There will also be chances to talk about teach week's topic.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Course Introduction and Topic: Your Personality	READING 1 Right Brain, Left Brain SKILLS The Paragraph Capitalization Rules The Title PRACTICE Writing about yourself
第2回	Your Personality 2	READING 2 Let's Face It WRITING 2 SKILLS Joining Compound Sentences with and, but, or or PRACTICE Writing about another person
第3回	Food 1	READING 1 Live a Little: Eat Potatoes! WRITING 1 SKILLS The Topic Sentence PRACTICE Writing about food or drink
第4回	Food 2	READING 2 Bugs, Rats, and Other Tasty Dishes WRITING 2 SKILLS Supporting Sentences Concluding Sentences PRACTICE Writing about a special food
第5回	Celebrations and Special Days 1	READING 1 Tihar: Festival of Lights WRITING 1 SKILLS Describing a Process Punctuation: Comma (,) with Items in a Series PRACTICE Writing about a special event

第6回 Celebrations and Special Days 2

第7回 Amazing People 1

第8回 Amazing People 2 Writing Test 1

第9回 Nature Attacks! 1

第10回 Nature Attacks! 2

第11回 Inventions 1

第12回 Inventions 2

第13回 Customs and Traditions 1

第14回 Customs and Traditions 2 Writing Test 2

READING 2
Celebrating a Fifteenth Birthday
WRITING 2
SKILLS Main and Dependent Clauses |
Writing a Dependent Clause with before or after
PRACTICE Writing about a celebration
READING 1
Barrington Irving's Dream to Fly
WRITING 1
SKILLS Unity | Irrelevant Sentences
PRACTICE Writing about the qualities of a person or a pet
READING 2
The Fearless Fiennes
WRITING 2
SKILLS Introducing Examples
PRACTICE Writing about a person
Lightning
WRITING 1
SKILLS Writing a Narrative Paragraph
with Time Words | The Comma (,) with Time and Place Expressions
PRACTICE Writing about a frightening experience
READING 2
Chasing Storms
WRITING 2
SKILLS Introducing Reasons with because
PRACTICE Writing about dangerous weather
READING 1
The GoPro Camera
WRITING 1
SKILLS Introducing Effects with so and therefore
PRACTICE Writing about an invention
READING 2
What's in a Name?
WRITING 2
SKILLS Writing Business Letters
PRACTICE Writing a business letter
READING 1
Flowers, Dishes, and Dresses
WRITING 1
SKILLS Comparing and Contrasting |
Showing Contrast with however | Showing Similarity with similarly and likewise
PRACTICE Writing about wedding customs
READING 2
What's in a Name?
WRITING 2
SKILLS Writing Business Letters
PRACTICE Writing a business letter

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
The standard preparatory study/review time for this class is four hours in total. Each class has a pre-reading assignment for homework and students are expected to discuss their answers in the following class. Students should make a note of unknown words or expressions in a B-5 notebook.

【テキスト（教科書）】
Milada Broukal, Weaving It Together 2, 4th Edition, センゲージ ラーニング株式会社
ISBN: 978-1-305-25165-6

【参考書】
Will be supplied by the instructor

【成績評価の方法と基準】
Mid-Semester Exam: 25%

This will be a timed writing exercise submitted to Manaba

Final Exam: 25%

This will be a timed writing exercise submitted to Manaba

In-Class Performance: 50%

This will be a textbook completion check and review

***Students please note: No more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

No changes have been made since last year.

【学生が準備すべき機器他】

Each student should bring a B5 notebook, sharp pencil, and eraser, and have an electronic dictionary ready. The instructor will explain vocabulary upon request if another student does not know the answer. The use of smartphones is strictly prohibited.

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期日内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

Building on the English language skills acquired in prior required courses, students will work on developing the type of language skills they will need to begin to write steadily more advanced, grammatically correct sentences and small (5 paragraph, 700-word) articles.

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

英語表現演習 (Writing)(7) B

PAUL K KALLENDER

授業コード：A2839 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Following on from Writing 7A, this is an intermediate course focused on writing skills but also containing reading, aimed at using a CLIL approach toward building key basic writing skills, including the ability to write paragraphs and articles on topics using correct grammar and logical narrative structure. There will also be some chance to discuss the topics written about in the class.

【到達目標】

Students are expected to advance both their writing skills and also their reading skills, particularly however extra emphasis will be placed on writing skills.

Students are expected to

1. Improve their basic grammar
2. Develop the ability to write increasingly complex sentences
3. Understand and improve their ability to write paragraphs
4. Understand how to combine paragraphs to form coherent narratives
5. Improve both their vocabulary and cultural knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Each week students will read a topic, answer vocabulary questions on it, write sentences on the topic, study several grammar points, practice those grammar points, and write short paragraphs on the topic. There will also be chances to talk about teach week's topic. The instructor will provide in-class feedback, checking the writing of each student, and advising on and correcting grammar, on an ongoing basis.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Course Introduction Symbols 1	READING 1 Color Me Pink WRITING 1 SKILLS Paragraph Structure PRACTICE Writing a paragraph about colors
第2回	Symbols 2	READING 2 And the Lucky Number Is . . . WRITING 2 SKILLS The Parts of an Essay The Thesis Statement PRACTICE Writing two body paragraphs about superstition
第3回	Customs 1	READING 1 Thanksgiving—Hawaiian Style WRITING 1 SKILLS The Introduction PRACTICE Writing an introduction about preparing for an event
第4回	Customs 2	READING 2 Hop to It! WRITING 2 SKILLS The Conclusion PRACTICE Writing an introduction and a conclusion about a custom
第5回	Mind and Body 1	READING 1 Personality Revealed WRITING 1 SKILLS The Example Essay PRACTICE Writing an example essay about character traits

第6回 Mind and Body 2

第7回 People Making a Difference 1

第8回 People Making a Difference 2
Mid-Term Writing Test

第9回 Food 1

第10回 Food 2

第11回 Language 1

第12回 Language 2

第13回 Environment 1

第14回 Environment 2
End-of-Term Writing Test

READING 2
Pets to the Rescue
WRITING 2
SKILLS Using such as
PRACTICE Writing an example essay about keeping healthy
READING 1
Saving Africa's Largest Animals
WRITING 1
SKILLS The Descriptive Essay
PRACTICE Writing a description essay about people
READING 2
Educating Kenya's Girls
WRITING 2
SKILLS The Narrative Essay
PRACTICE Writing a narrative essay
READING 1
Sushi Crosses the Pacific
WRITING 1
SKILLS The Comparison-and-Contrast Essay—Part I | Comparison and Contrast Words and Phrases | Using while and whereas
PRACTICE Writing an essay comparing food preparation and eating
READING 2
What's for Breakfast?
WRITING 2
SKILLS The Comparison-and-Contrast Essay—Part II | Using although, even though, and though
PRACTICE Writing an essay comparing eating customs
Keeping It Secret
WRITING 1
SKILLS Writing about Reasons | Introducing Reasons with because and as
PRACTICE Writing an essay that gives reasons for certain behaviors
READING 2
English Around the World
WRITING 2
SKILLS The Cause-and-Effect Essay | Words That Signal Cause and Effect | Using therefore and consequently
PRACTICE Writing an essay about the effects of the English language
READING 1
Behind Bars at the Zoo
WRITING 1
SKILLS The Argument Essay | Relevant Support
PRACTICE Writing an argument essay about human uses for animals
READING 2
Crops, Codes, and Controversy
WRITING 2
SKILLS Using Factual Details to Support Your Opinion
PRACTICE Writing an argument essay about agricultural practices

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparatory study/review time for this class is four hours in total. Each class has a pre-reading assignment for homework and students are expected to discuss their answers in the following class. Students should make a note of unknown words or expressions in a B-5 notebook.

【テキスト（教科書）】

Milada Broukal, Weaving It Together 3, 4th Edition,

センゲージ ラーニング株式会社
ISBN: 978-1-305-25166-3

【参考書】

In addition to the work in the textbook, the instructor will provide supplementary materials, references, etc.

【成績評価の方法と基準】

Mid-Semester Exam: 25%

This will be a timed writing exercise submitted to Hoppii

Final Exam: 25%

This will be a timed writing exercise submitted to Hoppii

In-Class Performance: 50%

This will be a textbook completion check and review

In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

【学生の意見等からの気づき】

No changes have been made since last year.

【学生が準備すべき機器他】

1. Each student should bring a B5 notebook, sharp pencil, and eraser, and have an electronic dictionary ready.
2. The instructor will explain vocabulary upon request if another student does not know the answer.
3. The use of smartphones for social media, etc. not related to the academic work in the class is strictly prohibited.

【その他の重要事項】

Students may contact me at paulkallender@gmail.com

When contacting the instructor:

1. Please address me as Mr. Kallender
2. Please always state your first name, family name, class name, and period name.

For Example:

Dear Mr. Kallender,

My name is Taro Suzuki.

I am a student in (Writing)(7) B

I could not attend today /cannot attend tomorrow (etc.) because of a fever.

I will bring a medical certificate next week.

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期日内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

Building on the English language skills acquired in prior required courses, specifically Writing 7A, students will work on developing the type of language skills they will need to begin to write steadily more advanced, grammatically correct sentences and small (5 paragraph, 700-word) articles.

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

英語表現演習 (Writing)(8) A

田中 邦佳

授業コード：A2840 | 曜日・時限：木1/Thu.1
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語でのアカデミック・ライティングやエッセイの書き方をテーマにした教科書を用いて文章の組み立て方を学び、単なる短文の英訳ではなく1つの文章としての英作文が出来るようになることを目的にします。グループワークを通じて他の履修者と意見交換をしながら外からの新たな発想を得ることを目的とします。また英作文に役立てられるように英語の文法の復習を行います。

【到達目標】

- (1) 文章の構成を意識した英文を執筆する（グループ・個人）
- (2) 他者にわかりやすい表現ができるようになる
- (3) 文法を意識して英文の執筆をする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

最終的に各自が英文エッセイを執筆し発表することを意識しながら教科書の課題を行います。課題の内容および英語での書き方について履修者同士で議論します。英語の文法についての復習は講義形式で行います。適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業の進め方、評価についての説明
2	Key Features of Academic Essay(1)	教科書の課題の確認、ディスカッション
3	Key Features of Academic Essay(2)	教科書の課題の確認、文法項目の復習
4	Title of Your Essay(1)	教科書の課題の確認、ディスカッション
5	Title of Your Essay(2)	教科書の課題の確認、文法項目の復習
6	Introduction of Your Essay(1)	教科書の課題の確認、ディスカッション
7	Introduction of Your Essay(2)	教科書の課題の確認、文法項目の復習
8	Body of Your Essay(1)	教科書の課題の確認、ディスカッション
9	Body of Your Essay(2)	教科書の課題の確認、文法項目の復習
10	Conclusion of Your Essay(1)	教科書の課題の確認、ディスカッション
11	Conclusion of Your Essay(2)	教科書の課題の確認、文法項目の復習
12	Feedback from Others(1)	教科書の課題の確認、ディスカッション
13	Feedback from Others(2)	教科書の課題の確認、文法項目の復習
14	Submitting Your Final Draft	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業のための予習時間は、1時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として教科書の内容を読み、課題を行う必要があります。エッセイの執筆のために少しずつ作業を進める必要があります。

【テキスト（教科書）】

3-Point Academic Writing: Organization, Content, Language

3つの要素で学ぶアカデミック・ライティングの基本, 深山晶子/辛重美津子/尾鍋智子/村尾純子 /Ashley Moore 著, 金星堂。（¥2,100円＋税）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

授業内外の課題(60%)

文法確認のテスト(20%)

授業への参加度（20%）

欠席回数が通算4回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。

授業に積極的に参加する意志がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

同一の授業の前年度の担当がなかったためありません。

【学生が準備すべき機器他】

PC、タブレットなどの端末と辞書

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4月初頭）にそちらに申請してください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

Students will learn how to construct sentences using a textbook on academic writing and essay writing in English, with the aim of becoming able to write English compositions as a single piece of writing, rather than simply translating short sentences into English. Through group work, students will be able to exchange opinions with other students and gain new ideas. Students will also review English grammar.

Grading Criteria /Policy: Class Assignment 60%, Examination 20%, Class performance 20%

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

英語表現演習 (Writing)(8)B

田中 邦佳

授業コード：A2841 | 曜日・時限：木1/Thu.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語でのアカデミック・ライティングやエッセイの書き方をテーマにした教科書を用いて文章の組み立て方を学び、単なる短文の英訳ではなく1つの文章としての英作文が出来るようになることを目的にします。グループワークを通じて他の履修者と意見交換をしながら外からの新たな発想を得ることを目的とします。また英作文に役立てられるように英語の文法の復習を行います。

【到達目標】

- (1) 文章の構成を意識した英文を執筆する（グループ・個人）
- (2) 他者にわかりやすい表現ができるようになる
- (3) 文法を意識して英文の執筆をする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

最終的に各自が英文エッセイを執筆し発表することを意識しながら教科書の課題を行います。課題の内容および英語での書き方について履修者同士で議論します。英語の文法についての復習は講義形式で行います。適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業の進め方、評価についての説明
2	Structure of a Research Paper(1)	教科書の課題の確認、ディスカッション
3	Structure of a Research Paper(2)	教科書の課題の確認、文法項目の復習
4	Key Concepts of an Abstract(1)	教科書の課題の確認、ディスカッション
5	Key Concepts of an Abstract(2)	教科書の課題の確認、文法項目の復習
6	First Draft of Your Abstract(1)	教科書の課題の確認、ディスカッション
7	First Draft of Your Abstract(2)	教科書の課題の確認、文法項目の復習
8	Rewriting Your Abstract(1)	教科書の課題の確認、ディスカッション
9	Rewriting Your Abstract(2)	教科書の課題の確認、文法項目の復習
10	Key Concepts of Presentations(1)	教科書の課題の確認、ディスカッション
11	Key Concepts of Presentations(2)	教科書の課題の確認、文法項目の復習
12	Preparing Visual Aids(1)	教科書の課題の確認、ディスカッション
13	Preparing Visual Aids(2)	教科書の課題の確認、文法項目の復習
14	Submitting Your Final Report	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業のための予習時間は、1時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として教科書の内容を読み、課題を行う必要があります。エッセイの執筆のために少しずつ作業を進める必要があります。

【テキスト（教科書）】

3-Point Academic Writing: Organization, Content, Language

3つの要素で学ぶアカデミック・ライティングの基本, 深山晶子/辛重美津子/尾鍋智子/村尾純子 /Ashley Moore 著, 金星堂. (¥2,100円＋税)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

授業内外の課題(60%)

文法確認のテスト(20%)

授業への参加度 (20%)

欠席回数が通算4回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。

授業に積極的に参加する意志がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

同一の授業の前年度の担当がなかったためありません。

【学生が準備すべき機器他】

PC、タブレットなどの端末と辞書

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

Students will learn how to construct sentences using a textbook on academic writing and essay writing in English, with the aim of becoming able to write English compositions as a single piece of writing, rather than simply translating short sentences into English. Through group work, students will be able to exchange opinions with other students and gain new ideas. Students will also review English grammar.

Grading Criteria /Policy: Class Assignment 60%, Examination 20%, Class performance 20%

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

英語表現演習(翻訳) (1) A

吉川 純子

授業コード：A2844 | 曜日・時限：木3/Thu.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の小説を、文法的に正しいだけでなく、自然な日本語に移し替えるにはどうしたらよいのか、演習を通じてそのコツを学びます。

【到達目標】

英語の小説を、文法的に正しいだけでなく、原文のニュアンスを生かした自然な日本語に翻訳できる。日本語の文法や語彙のニュアンスに敏感になり、適切な表現ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、対面で行います。1回の授業を前半と後半に分け、前半はテキストに沿って英文フィクションの和訳のコツを学びます。後半は、Oscar Wildeの"The Happy Prince"を実際に訳してみます。毎回、授業のはじめの5分程度で日本語の語彙クイズも行います。翻訳テキストの問題の解答や、英文テキストの訳を発表してもらう形で授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	オリエンテーション
第2回	辞書について Wilde(1)	こまめな辞書引き
第3回	代名詞 Wilde(2)	代名詞の省略
第4回	形容詞 Wilde(3)	落とし穴が多い
第5回	補充訳 Wilde(4)	時には必要
第6回	訳す順番 Wilde(5)	原文の頭から
第7回	国語力 Wilde(6)	磨こう
第8回	動詞 Wilde(7)	ふくみを見落とさず
第9回	名詞 Wilde(8)	誤訳はごまかせない
第10回	助動詞 Wilde(9)	甘く見てはいけない
第11回	態 Wilde(10)	能動態、受動態の転換
第12回	品詞転換訳 Wilde(11)	その技法
第13回	訳語がない場合 Wilde(12)	自分で作ろう
第14回	まとめ	到達度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習、復習。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

金子光茂『英文翻訳上達の秘訣』南雲堂、2009年。1760円
Wildeのテキストおよび翻訳は、ウェブにアップします。

【参考書】

文法の参考書は、『FOREST』桐原書店1,500円（税別）を薦めます。
英和・和英大辞典および英英辞典の利用を薦めます。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度（参加、予習など）30%、試験70%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「受験の英文解釈とは違う翻訳のコツがわかってきた」「言葉に対して意識的になった」などの感想をいただき、受講者の作る訳文が飛躍的にレベルアップしたので、大変満足しています。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書

【その他の重要事項】

出席が悪いと授業についていけなくなるので、注意してください。予習も必須です。

春学期・秋学期合わせての履修を必須とします。

《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

We are going to acquire the skills of translating English fiction into not only grammatically correct but also natural Japanese. Our goal is to acquire the skills of translating English fiction into not only grammatically correct but also natural Japanese, paying attention to the nuances of the original text. Also, we are going to acquire the skills in the art of expression in Japanese, paying more attention to grammar and nuances of words. Grading criteria consist of contribution to the class, such as attendance and preparation(30%), and examination(70%). Preparation and review of each class require 2 hours.

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

英語表現演習(翻訳)(1)B

吉川 純子

授業コード：A2845 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の小説を、文法的に正しいだけでなく、自然な日本語に移し替えるにはどうしたらよいのか、演習を通じてそのコツを学びます。

【到達目標】

英語の小説を、文法的に正しいだけでなく、原文のニュアンスを生かした自然な日本語に翻訳できる。日本語の文法や語彙のニュアンスに敏感になり、適切な表現ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、対面で行います。1回の授業を前半と後半に分け、前半はテキストに沿って英文フィクションの和訳のコツを学びます。後半は、Hemingwayの短編"A Day's Wait" "The Sea Change"を実際に訳してみます。毎回、授業のはじめの5分程度で日本語の語彙力クイズも行います。翻訳テキストの問題の解答や、英文テキストの訳を発表してもらう形で授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	オリエンテーション
第2回	英文和訳について	何を日本語に移し換えるのか？
第3回	Hemingway（1） 英文和訳について	どこまで訳してよいか？
第4回	Hemingway（2） 代名詞	代名詞の省略(前期の内容復習を含む)
第5回	Hemingway（3） 所有格	所有格の省略
第6回	Hemingway（4） 形容詞	働きに注意
第7回	Hemingway（5） 不定詞	訳の工夫
第8回	Hemingway（6） 動名詞	訳し方
第9回	Hemingway（7） 分詞	訳し方
第10回	Hemingway（8） 名詞	動名詞のように訳す
第11回	Hemingway（9） 態	能動態、受動態の転換
第12回	Hemingway（10） 前置詞	(前期の内容復習を含む) どう捉えるのか？
第13回	Hemingway（11） 訳語がない場合	自分で作ろう
第14回	Hemingway（12） まとめ	(前期の内容復習を含む) 到達度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習、復習。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

矢作三蔵 *Deep Reading*『読みから訳への要領』開文社、1997年。1600円＋税
Hemingwayのテキストおよび翻訳は、ウェブで配布します。

【参考書】

文法の参考書は、『FOREST』桐原書店1,500円（税別）を薦めます。
英和・和英大辞典および英英辞典の利用を薦めます。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度（参加、予習など）30%、到達度確認70%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「受験の英文解釈とは違う翻訳のコツがわかってきた」「言葉に対して意識的になった」などの感想をいただき、受講者の作る訳文が飛躍的にレベルアップしたので、大変満足しています。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書

【その他の重要事項】

出席が悪いと授業についていけなくなるので、注意してください。
春学期・秋学期合わせての履修を必須とします。後期のみの受講はできませんので、注意してください。

《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

We are going to acquire the skills of translating English fiction into not only grammatically correct but also natural Japanese. Our goal is to acquire the skills of translating English fiction into not only grammatically correct but also natural Japanese, paying attention to the nuances of the original text. Also, we are going to acquire the skills in the art of expression in Japanese, paying more attention to grammar and nuances of words. Grading criteria consist of contribution to the class, such as attendance and preparation(30%), and examination(70%). Preparation and review of each class require 2 hours.

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

英語表現演習 (Speaking)(1) A

[2年L組]

杉 亜希子

授業コード：A2846 | 曜日・時限：月2/Mon.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to provide opportunities to express yourselves in English and engage in an English speaking environment. Our goal is help you build confidence in sharing your stories (Introducing yourself for the first semester) with a logical structure and effectively communicating with others.

このクラスは、インプットで基礎的な表現力を増し、英語の文章構成力を磨きなど、コミュニケーション能力を高め、ミニスピーチで自分について英語で表現すること最終目標とします。

【到達目標】

- Through pre-activity and input, you will be able to
- Improve and expand your vocabulary and useful expressions
- Through output activities (practicing new expressions, writing out your speech and giving a mini-speech), you will be able to
- Activate and develop existing English language skills
- Acquire a habit of thinking logically
- Get used to speaking in front of others in English
- Develop communicative competence and fluency in English

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

- Pre-activity: Practice useful phrases in everyday conversations
 - Input: Listening to a model case; understanding the context; practicing useful expressions
 - Output: Making your own short speech; practicing and memorizing; giving presentations
 - A purpose of learning language must be to communicate with other people, so active, positive and cooperative performance in all class activities from each student is fully expected
 - Instructions will be given primarily in English
- Note: Topics are subject to change.

模範となる事例を学び、発音と重要な表現のインプットを徹底して行います。アウトプットでは、学んだ形式や表現を利用し自分の mini speech を発表することで、英語で「自分を表現し人に説明する力」をつけていきます。フィードバックは、課題提出後に授業内又は「学習支援システム」やメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Guidance	General briefing
第2回	Greetings	Learning expressions for greetings; getting to know your partners; introducing your partners to others
第3回	My Personality (1)	Learning the model cases
第4回	My Personality (2)	Reviewing the model cases Describing yourself to others (Preparation)
第5回	Mini-speech	Describing yourself to others
第6回	My Strong Points (1)	Learning the model cases
第7回	My Strong Points (2)	Reviewing the model cases;
	My Weak Points (1)	Learning the model cases
第8回	My Weak Points (2)	Reviewing the model cases; Describing your strong and weak points to others (Preparation)
第9回	Mini-speech	Describing your strong and weak points to others
第10回	Talk about Hobbies	Learning the model cases Reviewing the model cases; Describing your hobbies (Preparation)
第11回	Final Presentation	Making an outline and writing out your speech
第12回	Final Presentation (Preparation 2)	Editing your draft

第13回	Final Presentation (Preparation 3)	Final editing; practicing
第14回	Final Presentation	Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected to review the relevant section from the input exercises. Your required study time is at least four hours for a class. Model casesやpre-activityで習った表現は、声に出して徹底した復唱を心がけ、小テストなどを通して英語表現を自分のものにしていきましょう。スピーチの流れを明確にするためにアウトラインを考え、Draftを作成します。校正にもしっかりと時間をかけ完成させましょう。本授業の準備・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Handouts will be given. プリントを配布します。

【参考書】

Use of an English-English dictionary is strongly recommended. 英英辞書を使用して使われ方を再確認する癖をつけましょう。
<http://dictionary.cambridge.org/>
<http://www.merriam-webster.com/>
Thesaurus: <http://thesaurus.com/>
Britannica: www.britannica.com

【成績評価の方法と基準】

発表50％、平常点50％（小テストの結果、授業中の積極性、特にスピーチ作成の過程におけるプロセスを重視し、総合的に評価）
注意1：出席が7割未満の場合は原則として単位修得の資格を失います。
注意2：このクラスで特に重要視するのは英語習得に対する「積極性」です。学んだ表現がすぐに使えないこともありますが、新しい表現をInputで確実に自分のものにして、vocabularyを豊富にしておく必要があります。またスピーチ作りでは、ただ与えられた長さの語が出来れば良いのではなく、一度書き出してみたスピーチが本当にロジカルで人に伝わるものなのか再検証して練り上げていく作業の努力を惜しまないことが「成長」する鍵となり、ここが評価のポイントでもあります。

【学生の意見等からの気づき】

このクラスは、互いに刺激しあい、自分たちで成長を実感することが出来ます。インプットでは多くの実用的な表現を学び、「フレーズを意識して」徹底的に「声に出して」練習しました。最初は「正直面倒に思った」ようですが、1年を通して英語を「声に出すことに慣れた」だけでなく、「一つのことを様々な表現で言い換える力がついた」「自分の表現を広げ」「厚みが増した」など各自自信をつけていきました。アウトプットの際には、それまでの「ただ何となく話す」姿勢から、自分の言いたいことを「より相手にわかりやすく伝える」よう意識し「話の流れや構成を明確に」スピーチを作成することができるようになったと実感しているように、自分なりの「気付きを意識しながら取り組む」という学習姿勢を身につけることができます。また「他の人が考えていることが知れて面白かった」「グループワークで楽しかった」と感じると同時に、他人の発表から学んだことを「次に活かす」など受講者同士が刺激しあうことで、自分の考えを「自信をもって」「堂々と」披露しプレゼンテーションすることができるようになる良い機会でもあります。この授業時間をいかに有効に活用し、成功体験を重ねるかは受講生の一人一人のやる気と姿勢にかかっています。

【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書
携帯電話やスマホの辞書アプリの使用や必要に応じた検索機能の使用を認めています

【その他の重要事項】

- 生成AIや翻訳機能の許可しない使用は認められず、評価にも影響します
 - 欠席や遅延をメールで連絡する場合（akiko.sugi4i@hosei.ac.jp）には、理由説明と「根拠となる書類・証拠」の提示が必須です。「体調不良」という説明だけでは考慮対象になりません
 - 適切な理由と証拠の提出が認められた場合には代替措置を要求できるので相談してください
- 《重要》
「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期日内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。これらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

This course is designed to provide opportunities to express yourselves in English and engage in an English speaking environment. Our goal is help you build confidence in sharing your stories (Introducing yourself for the first semester) with a logical structure and effectively communicating with others.
< Learning Objectives >
Through pre-activity and input, you will be able to
-Improve and expand your vocabulary and useful expressions

Through output activities (practicing new expressions, writing out your

speech and giving a mini-speech), you will be able to

-Activate and develop existing English language skills

-Acquire a habit of thinking logically

-Get used to speaking in front of others in English

-Develop communicative competence and fluency in English

< Learning activities outside of classroom >

You are expected to review out loud the relevant section from the input exercises. Your required study time is at least four hours for a class.

< Grading Criteria /Policy >

Mini-speech 50%; active class participation 50%

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

英語表現演習 (Speaking)(1)B

[2年L組]

杉 亜希子

授業コード：A2847 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to provide opportunities to express yourselves in English and engage in an English speaking environment. Our goal is help you build confidence in sharing your stories (Introducing yourself for the first semester) with a logical structure and effectively communicating with others.

このクラスは、インプットで基礎的な表現力を増し、英語の文章構成力を磨きなど、コミュニケーション能力を高め、ミニスピーチで自分について英語で表現すること最終目標とします。

【到達目標】

Through pre-activity and input, you will be able to
-Improve and expand your vocabulary and useful expressions
Through output activities (practicing new expressions, writing out your speech and giving a mini-speech), you will be able to
-Activate and develop existing English language skills
-Acquire a habit of thinking logically
-Get used to speaking in front of others in English
-Develop communicative competence and fluency in English

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

-Pre-activity: Practice useful phrases in everyday conversations
-Input: Listening to a model case; understanding the context; practicing useful expressions
-Output: Making your own short speech; practicing and memorizing; giving presentations
-A purpose of learning language must be to communicate with other people, so active, positive and cooperative performance in all class activities from each student is fully expected
-Instructions will be given primarily in English
Note: Topics are subject to change.

模範となる事例を学び、発音と重要な表現のインプットを徹底して行います。アウトプットでは、学んだ形式や表現を利用し自分の mini speech を発表することで、英語で「自分を表現し人に説明する力」をつけていきます。フィードバックは、課題提出後に授業内又は「学習支援システム」やメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Guidance	General briefing
第2回	Summer Holiday	Talking about your holiday
第3回	Vacations in Tokyo (1)	Learning the model cases
第4回	Vacations in Tokyo (2)	Reviewing; Choosing your topic and making an outline
第5回	Mini-speech (Preparation 1)	Writing out your speech and editing
第6回	Mini-speech (Preparation 2)	Editing; practicing
第7回	Mini-speech	Describing a place of your choice
第8回	My Opinion on Japanese Education (1)	Learning the model cases
第9回	My Opinion on Japanese Education (2)	Reviewing
第10回	Final Presentation (Preparation 1)	Choosing your own topic and outlining
第11回	Final Presentation (Preparation 2)	Writing out your speech
第12回	Final Presentation (Preparation 3)	Editing your draft; practicing
第13回	Final Presentation (1)	Presentation (1st group)
第14回	Final Presentation (2)	Presentation (2nd group)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected to review the relevant section from the input exercises. Your required study time is at least four hours for a class. Model casesやpre-activityで習った表現は、声に出して徹底した復唱を心がけ、小テストなどを通して英語表現を自分のものにしていきましょう。スピーチの話の流れを明確にするためにアウトラインを考え、Draftを作成します。校正にもしっかりと時間をかけ完成させましょう。本授業の準備・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Handouts will be given. プリントを配布します。
Note: Topics are subject to change.

【参考書】

Use of an English-English dictionary is strongly recommended.
<http://dictionary.cambridge.org/>
<http://www.merriam-webster.com/>
Thesaurus: <http://thesaurus.com/>
Britannica: www.britannica.com

【成績評価の方法と基準】

発表50％、平常点50％（提出物、小テスト、授業中の積極性、特にスピーチ作成の過程におけるプロセスを重視し、総合的に評価）
注意1：出席が7割未満の場合は原則として単位修得の資格を失います。
注意2：このクラスで特に重要視するのは英語習得に対する「積極性」です。学んだ表現がすぐに使えないこともありますが、新しい表現をInputで確実に自分のものにして、vocabularyを豊富にしておく必要があります。またスピーチ作りでは、ただ与えられた長さの話が出来れば良いのではなく、一度書き出してみたスピーチが本当にロジカルで人に伝わるものなのか再検証して練り上げていく作業の努力を惜しまないことが「成長」する鍵となり、これが評価のポイントでもあります。

【学生の意見等からの気づき】

このクラスは、互いに刺激しあい、自分たちで成長を実感することが出来ます。インプットでは多くの実用的な表現を学び、「フレーズを意識して」徹底的に「声に出して」練習しました。最初は「正直面倒に思った」ようですが、1年を通して英語を「声に出すことに慣れた」だけではなく、「一つのことを様々な表現で言い換える力がついた」「自分の表現を広げ」「厚みが増した」など各自自信をつけていきました。アウトプットの際には、それまでの「ただ何となく話す」姿勢から、自分の言いたいことを「より相手にわかりやすく伝える」よう意識し「話の流れや構成を明確に」スピーチを作成することができるようになったと実感しているように、自分なりの「気付きを意識しながら取り組む」という学習姿勢を身につけることができます。

また「他の人が考えていることが知れて面白かった」「グループワークで楽しかった」と感じると同時に、他人の発表から学んだことを「次に活かす」など受講者同士が刺激しあうことで、自分の考えを「自信をもって」「堂々と」披露しプレゼンテーションすることができるようになる良い機会でもあります。この授業時間をいかに有効に活用し、成功体験を重ねるかは受講生の一人一人のやる気と姿勢にかかっています。

【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書
携帯電話やスマホの辞書アプリの使用、必要に応じた検索機能の使用を認めています
発表ではPowerPointを使ってスライドを見せるなどプレゼンの工夫を推奨しています

【その他の重要事項】

- 生成AIや翻訳機能の許可しない使用は認められず、評価にも影響します
- 欠席や遅延をメールで連絡する場合（akiko.sugi4i@hosei.ac.jp）には、理由説明と「根拠となる書類・証拠」の提示が必須です。「体調不良」という説明だけでは考慮対象になりません
- 適切な理由と証拠の提出が認められた場合には代替措置を要求できるので相談してください
《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。
※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。
※ 2年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

This course is designed to provide opportunities to express yourselves in English and engage in an English speaking environment. Our goal is help you build confidence in sharing your stories (Introducing yourself for the first semester) with a logical structure and effectively communicating with others.
< Learning Objectives >
Through pre-activity and input, you will be able to
-Improve and expand your vocabulary and useful expressions
Through output activities (practicing new expressions, writing out your speech and giving a mini-speech), you will be able to

- Activate and develop existing English language skills
- Acquire a habit of thinking logically
- Get used to speaking in front of others in English
- Develop communicative competence and fluency in English
- < Learning activities outside of classroom >

You are expected to review out loud the relevant section from the input exercises. Your required study time is at least four hours for a class.

< Grading Criteria /Policy >

Mini-speech 50%; active class participation 50%

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

英語表現演習 (Speaking)(2) A

[2年M組]

PAUL K KALLENDER

授業コード：A2848 | 曜日・時限：火5/Tue.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a pre-intermediate/intermediate course in oral English communication, aimed at building oral fluency, vocabulary, and the ability to discuss global topical issues in English in a logical and coherent way. Instructors will teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills, however extra emphasis will be placed on speaking and debating skills. Each topic will contain contextualized vocabulary acquisition, listening and discussion, with the focus being on conducting guided discussion and debate.

【到達目標】

This class is designed to introduce students to reading about and discussing a series of topics. Classroom activities will focus primarily on speaking and debating on topics working in groups of three or four students.

In each class, you will be asked to read a passage and answer questions on it interactively. Then you will be asked to give your opinion to three or four questions on that topic. You will be expected to explain one, two, or three reasons for your opinion. You will then discuss your opinion in the group.

The instructor will supplement the contents of each unit with videos and other study materials.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

This class is designed to introduce students to reading about and discussing a series of topics. Classroom activities will focus primarily on speaking and debating on topics working in groups of three or four students.

In each class, Students will

- (1) be asked to give and share their opinions to 4-6 simple questions on a topic
- (2) check vocabulary for words and phrases in context
- (3) listen and fill in answers to questions based on a short listening passage
- (4) engage in a small discussion on 4-6 points raised in topic
- (5) interview each other with simple questions
- (5) discuss with class their overall ideas, etc.

Since the focus of the class is to increase fluency, the instructor will not correct grammar intrusively, but, when necessary will help the students stop making basic mistakes, or help them develop ways to improve their communication skills.

The standard preparatory study/review time for this class is four hours in total. Each class has a pre-reading assignment for homework and students are expected to discuss their answers in the following class. Students should make a note of unknown words or expressions in a B-5 notebook.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Waste and Recycling	Sustainable approaches to garbage management
Class 2	Sustainable Cities	Urban transport, sustainable energy sources, food supply and housing
Class 3	Energy	Various sources of energy and their pros and cons, issues with nuclear power and waste
Class 4	Climate Change	Causes and consequences of global warming
Class 5	Endangered Species	Endangered species, why, causes and efforts to protect them

Class 6	Tropical Rainforests	The importance of tropical forests, the main threats to them and four ways to save them
Class 7	Tourism	Ecotourism, overtourism, responsible tourism and community
Class 8	Developing Countries	Metrics, typical issues facing developing countries, causes of issues and possible resolution, fair trade
Class 9	Peace and Conflict	The Nobel Peace Prize, people and organizations, ways to resolve disputes peacefully
Class 10	Refugees and Migrants	Migrants, refugees and displaced persons, true stories, climate refugees
Class 11	The United Nations	The UN past and present, the UNSC, five UN agencies, contrasting opinions about the UN
Class 12	Human Rights	The Universal Declaration of Human Rights, the history of human rights, violations and campaigners
Class 13	Gender Issues	The gender gap and why it exists, ways to close the gap, women who have helped make the world a better place
Class 14	Health and Longevity	Life expectancy, the Blue Zones, ideas toward tackling Japan's aging society

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparatory study/review time for this class is four hours in total. Each class has a pre-reading assignment for homework and students are expected to discuss their answers in the following class. Students should make a note of unknown words or expressions in a B-5 notebook.

【テキスト（教科書）】

Title: You, Me and the World 3rd Edition Featuring the SDGs
Author: David Peaty
Publisher: Kinseido Publishing Co., Ltd
ISBN 978-4-7647-4205-5
¥2,500 tax included ¥2,750)

【参考書】

Students can log into the various media provided during class. Information will be provided in the first class, and class-by-class.

【成績評価の方法と基準】

Class Participation: 70%

Students will be monitored extensively about completing the conversation and communication tasks. The instructor will be constantly and actively monitoring pairs and groups of students and conducting one-on-one practice conversations.

Mini-tests: 30%

Unexplained absences will be penalized. The instructor assumes students will attend all 14 classes as a matter of principle.

***Students please note: No more than 3 absences per term are allowed. Any unexplained absence will disbar the students from the highest S grade.

Unexplained lateness (arriving more than 5 minutes late after class begins) will be noted.

Persistent unexplained lateness will result in grade penalization.

【学生の意見等からの気づき】

This is the first year I have taught this course, so there are no changes from previous years.

【学生が準備すべき機器他】

Each student should bring a B5 notebook, sharp pencil, and eraser, and have an electronic dictionary ready. The instructor will explain vocabulary upon request if another student does not know the answer. The use of smartphones is strictly prohibited.

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

Building on the English language skills acquired in prior required courses, students will work on developing the type of language skills they will need to begin to ask, express, and debate their opinions on a series of general and social topics, in this case, related to important contemporary issues surrounding SDGS.

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

英語表現演習 (Speaking)(2)B

[2年M組]

PAUL K KALLENDER

授業コード：A2849 | 曜日・時限：火5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a pre-intermediate/intermediate course in oral English communication, aimed at building oral fluency, vocabulary, and the ability to discuss global topical issues in English in a logical and coherent way. Instructors will teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills, however extra emphasis will be placed on speaking and debating skills.

【到達目標】

This class is designed to introduce students to reading about and discussing a series of topics. Classroom activities will focus primarily on speaking and debating on topics working in groups of three or four students.

In each class, you will be asked to read a passage and answer questions on it interactively. Then you will be asked to give your opinion to three or four questions on that topic. You will be expected to explain one, two, or three reasons for your opinion. You will then discuss your opinion in the group.

The instructor will supplement the contents of each unit with videos and other study materials.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

This class is designed to introduce students to reading about and discussing a series of topics. Classroom activities will focus primarily on speaking and debating on topics working in groups of three or four students.

In each class, you will be asked to read a passage and answer questions on it interactively. Then you will be asked to give your opinion to three or four questions on that topic. You will be expected to explain one, two, or three reasons for your opinion. You will then discuss your opinion in the group.

Various discourse themes related to life and study in the English-speaking world will be explored in depth. Students will be expected to not only participate in classroom activities but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to speaking skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Study Abroad	Critical Skills: Discussing values
Class 2	Nuclear Power	Critical Skills: Discussing Facts vs. Opinions
Class 3	Immigration	Discussing Beliefs & Prejudices
Class 4	The Social Safety Net	Critical Skills: Discussing Reasons & Support for Evidence
Class 5	Global Warming	Critical Skills: Discussing Criteria for Evaluation
Class 6	Women in the Workplace	Critical Skills: Discussing Relevant & Irrelevant Facts & Details
Class 7	School on Saturdays	Critical Skills: Critiquing an Argument
Class 8	Food Labeling	Critical Skills: Identifying Generalizations and Assumptions
Class 9	Etiquette in the Digital Age	Critical Skills: Understanding & Using Analogies
Class 10	Merit-based Pay	Critical Skills: Drawing Inferences
Class 11	American Military Bases in Japan	Critical Skills: Introduction to Logical Fallacies

Class 12 Taxes

Critical Skills: Identifying the Slippery Slope Fallacy

Class 13 Animal Rights

Critical Skills: Identifying Ad Hominem Attacks & Straw Man Arguments

Class 14 Hosting the Olympics

Critical Skills: Identifying Red Herring Arguments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparatory study/review time for this class is four hours in total. Each class has a pre-reading assignment for homework and students are expected to discuss their answers in the following class. Students should make a note of unknown words or expressions in a B-5 notebook.

【テキスト（教科書）】

Required Textbook:

Michael Hood, Think Smart Critical Thinking in Critical Times, 株式会社 金星堂

ISBN: 978-4-7647-4043-3

<https://www.kinsei-do.co.jp/books/4043/>

【参考書】

The instructor will provide these each-and-every time.

【成績評価の方法と基準】

Student evaluation will be based 100% on in-class performance in discussions.

If students do not try to actively debate in this class, they cannot hope to succeed in getting a good grade.

Students who miss more than several classes cannot expect to get a higher grade.

Students who miss more than four classes cannot expect to get a grade.

The instructor assumes students will attend all 14 classes as a matter of principle.

***Students please note: No more than 3 absences per term are allowed.

Any unexplained absence will disbar the students from an A grade.

Unexplained lateness (arriving more than 5 minutes late after class begins) will be noted.

Persistent unexplained lateness will result in grade penalization.

【学生の意見等からの気づき】

No changes so far

【学生が準備すべき機器他】

1. Each student should bring a B5 notebook, sharp pencil, and eraser, and have an electronic dictionary ready.

2. The instructor will explain vocabulary upon request if another student does not know the answer.

3. The use of smartphones for social media, etc. not related to the academic work in the class is strictly prohibited.

【その他の重要事項】

Addressing and Contacting the Instructor

1. Please address the instructor as Mr. Kallender

2. Please always state your first name, family name, class name, and period name.

For Example:

Dear Mr. Kallender,

My name is Taro Suzuki.

I am a student in (Speaking)(7) B

I could not attend today /cannot attend tomorrow (etc.) because of a fever.

I will bring a medical certificate next week.

《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

Building on the English language skills acquired in prior required courses, students will work on developing the type of language skills they will need to begin to ask, express, and debate their opinions on a series of general and social topics.

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

英語表現演習 (Speaking)(3)A

[2年N組]

リチャード ストーン

授業コード：A2850 | 曜日・時限：火5/Tue.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

In this class, our primary goal will be to improve our English speaking skills thus that we can discuss complex, academic issues with our peers. Over the course of pursuing this primary goal, we shall additionally practice communicating our own thoughts to others in a clear and logical manner while speaking English. At the end of the semester, students will make brief oral presentations on the topic of their choosing. Students will be expected to study 4 hours outside of class per each session. Now, grades for this class will be decided on the following scale:
-Active Participation (25%)
-In-class activities and assignments (25%)
-Final Presentation (50%)

【到達目標】

-Become able to discuss complex, academic topics in English
-Become able to clearly and logically explain one's own thoughts in English
-Become able to respectfully ask critical questions in English
-Become able to give brief oral presentations in English

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

This class will utilize various discussion topics and other active learning methods to practice skills needed to discuss difficult academic issues in English. In a typical class period, the lecture will first provide a discussion topic and several useful strategies for academic discussion in English. Students will then be given time to practice these strategies while discussing these issues for themselves, before finally reporting their findings to the rest of the class. Students will receive feedback regularly from the lecturer after class activities and more extensively after the final presentation.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Outline/Class Orientation	Introduce basic goals and policies for class
2	Getting Warmed Up [A]: Why is Global Warming Important?	Practice basic strategies for making statements about difficult or complex academic topics through simple discussions of global warming.
3	Getting Warmed Up [B]: What should we do about Global Warming?	Practice basic strategies for making normative claims in English about academic topics.
4	[4] Academic Topics and Questions [A]: Shouldn't we give up meat-eating?	Understand how to phrase and rephrase research questions in English by taking the ethics of meat-eating as an example.
5	[5] Academic Topics and Questions [B]: Why shouldn't we give up meat-eating	Continue learning about research questions by discussing "leading" and "misleading" phrasing.
6	[6] Making Arguments [A]: Is it ever ethical to lie to someone? Why or why not?	In this class, we will outline the basics of making clear arguments in spoken English by answering the question, "is it every ethical to lie?"
7	[7] Making Arguments [B]: Defending the argument that it is never ethically permissible to lie.	Continue practicing spoken arguments by trying to defend the claim that it is never ethically permissible to lie.

8	[8] Asking Questions and Being Critical [A]: Do you think euthanasia ought to be legal? Why or why not?	In this class, we will practice asking critical questions in a respectful manner while using the ethics of euthanasia as an example.
9	[9] Asking Questions and Being Critical [B]: What could someone say to convince you that we should have owls as pets?	We will continue practicing answering and asking questions by responding to doubts about the legality of rare birds as pets.
10	[10] Final Presentation Practice [A]: Picking a Topic and Asking a Question	Information will be revealed about the final project and students will be given time to search for their preferred topic for oral presentation.
11	[11] Final Presentation Practice [B]: Explaining our Topic to our Peers	In this session, students will take turns explaining in English the core question they wish to discuss and why it is interesting.
12	[12] Final Presentation Practice [C]: Putting an Argument into Slides	In this session, students will implement some tips and tricks for using slides while speaking in English.
13	[13] Final Presentation Practice [D]: Pronunciation, Body-language, and Rehearsal	In this session, students will practice tips and tricks needed to speak engagingly and keep audience-attention while presenting in English.
14	[14] Final Presentations	Students will make their final presentations.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students will be expected to study 4 hours outside of class for each session. They will be especially encouraged to practice their final oral presentation outside of class and rehearse until they feel comfortable presenting in English.

【テキスト (教科書)】

There will be no set textbook for this class.

【参考書】

Reference resources and websites will be provided for students at the beginning of the first class.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be determined according to the following scale:

-Active Participation (25%)
-In-class activities and assignments (25%)
-Final Presentation (50%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

Students are encouraged to bring a Note PC or Tablet to class.

【その他の重要事項】

-Depending on circumstances, the final presentation may be done in groups.

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内 (4月初頭) にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

In this class, our primary goal will be to improve our English speaking skills thus that we can discuss complex, academic issues with our peers. Over the course of pursuing this primary goal, we shall additionally practice communicating our own thoughts to others in a clear and logical manner while speaking English. At the end of the semester, students will make brief oral presentations on the topic of their choosing. Students will be expected to study 4 hours outside of class per each session. Now, grades for this class will be decided on the following scale:
-Active Participation (25%)
-In-class activities and assignments (25%)
-Final Presentation (50%)

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

英語表現演習 (Speaking)(3)B

[2年N組]

リチャード ストーン

授業コード：A2851 | 曜日・時限：火5/Tue.5
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this class, our primary goal will be to improve our English speaking skills thus that we can discuss complex, academic issues with our peers. Over the course of pursuing this primary goal, we shall additionally practice communicating our own thoughts to others in a clear and logical manner while speaking English. At the end of the semester, students will engage in a debate contest about a particular academic issue. Students will be expected to study 4 hours outside of class per each session. Now, grades for this class will be decided on the following scale:

- Active Participation (25%)
- In-class activities and assignments (25%)
- Final Presentation (50%)

【到達目標】

- Become able to discuss complex, academic topics in English
- Become able to clearly and logically explain one's own thoughts in English
- Become able to respectfully ask critical questions in English
- Become able to give and assess reasons in English Debates

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

This class will utilize various discussion topics and other active learning methods to practice skills needed to discuss difficult academic issues in English. In a typical class period, the lecture will first provide a discussion topic and several useful strategies for academic discussion in English. Students will then be given time to practice these strategies while discussing these issues for themselves, before finally reporting their findings to the rest of the class. Students will regularly be given feedback from the lecturer after class activities and more extensively after the final presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Explanation of what students will do over the course of this semester.
2	Debating Respectfully: Making an argument vs. "Just arguing"	Students will discuss amongst themselves how one can express their thoughts on academic matters without ignoring others' ideas.
3	Giving Reasons [A]: Why should teachers have to grade everyone fairly?	Students will practice listing up and clearly articulating reasons in English.
4	Giving Reasons [B]: Why should we make a barrier free society?	Students will continue practice listing up and phrasing reasons while thinking about the importance of a "barrier-free" society.
5	Analyzing Reasons [A]: Why shouldn't we decrease minimum wage?	Students will practice responding to other arguments respectfully by critically questioning the idea that minimum wage in Tokyo should be decreased.
6	Analyzing Reasons [B]: Why shouldn't we make university examinations harder.	Students will continue practicing responding to others' arguments by arguing against the claim that university examinations should be made more difficult.
7	Mock Debate	Students will get a grasp of how debates work by trying a mock-debate for the first time.

8	Reflection on Mock Debate and Preparation for Final Debate	Students will discuss what was difficult, what can be practiced, and learn the topic for the final debate topic.
9	Note-taking and Summarizing Others Arguments [A]: What did the news broadcast say?	Students will practice summarizing what others have said by taking notes and paraphrasing various news broadcasts
10	Note-taking and Summarizing Others Arguments [B]: What does your partner think about...	Students will discuss several topics about their preferences and take notes while doing so.
11	Phrasing and Objectivity [A]: What is the difference between an opinion and a factual statement?	Students will practice for their final debate by learning how to make simple, factual statements in English
12	Phrasing and Objectivity [B]: Keeping things short and simple	Students will practice for their final debate by making their claims as concise as possible.
13	Debate Preparation: Putting together an argument and preparing to respond	Students will be given in time to put together their core argument for the final debate session
14	Debate session	Students will engage in debate for the final class.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to study 4 hours outside of class per each class session. Students are especially encouraged to practice the opening statement of their final oral debate outside of class and rehearse until they feel comfortable presenting it in English.

【テキスト（教科書）】

There will be no set textbook for this course.

【参考書】

Reference resources and websites will be provided for students at the beginning of the first class.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be determined according to the following scale:

- Active Participation (25%)
- In-class activities and assignments (25%)
- Final Debate (50%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

Students are encouraged to bring a Note PC or Tablet to class.

【その他の重要事項】

-Depending on circumstances, the final debate may be done in groups or individually.

《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。※ 2年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

In this class, our primary goal will be to improve our English speaking skills thus that we can discuss complex, academic issues with our peers. Over the course of pursuing this primary goal, we shall additionally practice communicating our own thoughts to others in a clear and logical manner while speaking English. At the end of the semester, students will engage in a debate contest about a particular academic issue. Students will be expected to study 4 hours outside of class per each session. Now, grades for this class will be decided on the following scale:

- Active Participation (25%)
- In-class activities and assignments (25%)
- Final Presentation (50%)

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

英語表現演習 (Speaking)(5) A

Niall Murtagh

授業コード：A2854 | 曜日・時限：火3/Tue.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective is to improve speaking skills in English.

【到達目標】

Students will be given opportunities to gain confidence in expressing themselves in English, based on articles from the text book. While the emphasis is on speaking, some writing will also be required in order to organize ideas before expressing them orally.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Text book articles will be read in class followed by analysis and discussion. Homework will consist of preparing comments on a prescribed topic. Interaction among students will be emphasized and students will be encouraged to introduce topics of their own. Twice each semester, students will be asked to give a presentation. Individual feedback will be given after each presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Course outline
第2回	Introduction to conversation strategies	Basic ideas
第3回	Development of conversation strategies	Further ideas
第4回	General topics	Conversational styles
第5回	Academic topics (1)	Application to literary themes
第6回	Academic topics (2)	Application to lifestyle
第7回	Modern themes	Use of Internet search
第8回	News items	Japan-based issues
第9回	Society	International issues
第10回	Political themes	Controversial issues
第11回	Work-place scenarios	Career-based themes
第12回	Work-place presentations	Role playing
第13回	Themes for evaluation	Various topics
第14回	Speeches by students	Topics selected by students

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Reading of text and preparation of short reports or presentations to be made in class. The basic requirement is 4 hours per week.

【テキスト（教科書）】

English through the News Media, 2025 Edition 高橋優身, 伊藤典子, Richard Powell 朝日出版社 ISBN: 978-4-255-15728-3, ￥1980円
(This will be used for both Spring and Fall semesters)

【参考書】

Internet dictionary: <https://eow.alc.co.jp/>

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on participation in class, including reading and discussions (30%), and presentations (70%). Course credits will not be given where students are absent three or more times in a semester without submitting a reason.

【学生の意見等からの気づき】

Students will be encouraged to comment and express their ideas as much as possible.

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

Students will gain skills and confidence in expressing their opinions. The topics covered will be diverse, covering news and current events. Evaluation and grading will be based on communication abilities, emphasising the spoken word.

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 200）

英語表現演習(Speaking)(5)B

Niall Murtagh

授業コード：A2855 | 曜日・時限：火3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective is to improve speaking skills in English.

【到達目標】

Students will be given opportunities to gain confidence in expressing themselves in English, based on articles from the text book. While the emphasis is on speaking, some writing will also be required in order to organize ideas before expressing them orally.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Text book articles will be read in class followed by analysis and discussion. Homework will consist of preparing comments on a prescribed topic. Interaction among students will be emphasized and students will be encouraged to introduce topics of their own.

Twice each semester, students will be asked to give a presentation. Individual feedback will be given after each presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction to semester content	Outline of topics
第2回	Current affairs	Reference to Internet news sites
第3回	Japan-oriented topics	Reference to Internet news sites
第4回	International topics	Reference to Internet news sites
第5回	Topics in literature	Reference to Internet news sites
第6回	Topics in sport	Reference to Internet news sites
第7回	Speech editing	Use of Internet for grammar issues
第8回	Speech motivational strategies	Examples from Internet
第9回	Questioning the speaker	Purposes and results
第10回	How to improve speeches	Reaction to comments and corrections
第11回	Selection of speech topics (1)	Writing of speeches
第12回	Selection of speech topics (2)	Purpose of speeches
第13回	Evaluation methods	Examples based on speeches
第14回	Conclusion	Summary of course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Reading of text and preparation of short reports or presentations to be made in class. The basic requirement is 4 hours per week.

【テキスト（教科書）】

English through the News Media, 2025 Edition 高橋優身, 伊藤典子, Richard Powell 朝日出版社 ISBN: 978-4-255-15728-3, ￥1980円
(This will be used for both Spring and Fall semesters)

【参考書】

Internet dictionary: <https://eow.alc.co.jp/>

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on participation in class, including reading and discussions (30%), and presentations (70%). Course credits will not be given where students are absent three or more times in a semester without submitting a reason.

【学生の意見等からの気づき】

Students will be encouraged to comment and express their ideas as much as possible.

【Outline (in English)】

Students will gain skills and confidence in expressing their opinions. The topics covered will be diverse, covering news and current events. Evaluation and grading will be based on communication abilities, emphasising the spoken word.

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 200)			5 of 14	Theme and symbolism: Identify and interpret themes and symbols.	- Discuss "The Lottery". - Explanation of theme and symbolism. Group activity: Identify themes and symbols in "The Lottery". Homework in preparation for next class: Read "The Yellow Wallpaper" by Charlotte Perkins Gilman.
英語表現演習 (Speaking)(6) A					
JAMES O ESSEX					
授業コード：A2856 曜日・時限：月 5/Mon.5 春学期授業/Spring・2単位 配当年次：2～4年			6 of 14	Point of View and Narration: Understand different points of view and their effects. The Writer's Handbook	- Discuss "The Yellow Wallpaper". - Explanation of narrative perspectives: first person, third person (limited, omniscient). - Group activity: Analyse the narrative perspective of "The Yellow Wallpaper". Homework in preparation for next class: Read "Cathedral" by Raymond Carver.
その他属性：			7 of 14	Style and Tone: Analyse the author's style and tone.	- Discuss "Cathedral" - Explanation of style and tone. - Group activity: Examine style and tone in "Cathedral". Homework in preparation for next class: Read "Everyday Use" by Alice Walker
【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】 この授業では、英語の短編小説を題材に、スピーキングとディスカッションを行います。毎週、異なる英語の短編小説を取り上げます。授業の目的は、自分の考えや意見をうまく表現できるようになることです。			8 of 14	Literary Analysis Techniques: Apply literary analysis techniques to short stories.	- Discuss "Everyday Use". - Explanation of literary analysis techniques. - Group activity: Conduct a literary analysis of "Everyday Use". Homework in preparation for next class: Read "A Very Old Man with Enormous Wings" by Gabriel Garcia Marquez.
【到達目標】 The primary goal of this course is for students to become better at expressing their thoughts and opinions. The second aim is for students to gain a better understanding of and appreciation for, English short stories. Such short stories will provide the stimuli about which students' paragraphs and essays will be composed.			9 of 14	Historical and Cultural Contexts: Understand the influence of historical and cultural contexts on short stories, The Writer's Handbook	- Discuss how historical and cultural contexts shape short stories. - Case study: "A Very Old Man with Enormous Wings" Homework in preparation for next class: Read "The Tell-Tale Heart" by Edgar Allan Poe.
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】 ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連			10 of 14	Psychological and Social Themes: Analyse psychological and social themes.	- Discuss "The Tell-Tale Heart". - Exploration of psychological and social themes. - Group activity: Analyse the psychological themes in "The Tell-Tale Heart". Homework in preparation for next class: Review your lecture notes
【授業の進め方と方法】 This class will be a mix of lecture and group discussion. Although the language of the lectures is English, the professor will explain clearly and concisely to ensure students' maximum understanding. The professor will also use Powerpoint slides. Feedback on assignments/performance etc will be provided either in written or verbal form in the classroom, or through Hoppii.			11 of 14	Review, consolidation and wrap-up.	Students will be given the opportunity to review the week's lectures, and their corresponding class notes in preparation for the final report.
【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】 あり /Yes			12 of 14	Essay topic selection and type (compare/contrast, definition, narrative etc)	Students will be guided in deciding a theme for their essay (in response to one of the short stories read this semester), and its type
【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】 なし /No			13 of 14	Work on essays.	Students will be given time to work on their essays.
【授業計画】 授業形態：対面/face to face			14 of 14	Final submission	The purpose of the final report, like most courses, is the student's chance to demonstrate their knowledge and understanding. Please note students may be expected to apply their knowledge and understanding to stories not previously covered in this course. The aim of the course is not to understand the selected stories inside out, but to gain a deeper understanding and appreciation of short stories in general.
回	テーマ	内容	【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】 Homework will be assigned every week, and students are expected to spend a minimum of four hours/week on this. This homework will both help to prepare students for the subsequent lesson and help them to consolidate their knowledge and understanding of the previous lesson. In addition, students are expected to review their class notes each week.		
1 of 14	Orientation	- Course explanation and overview - Explanation of key terms: plot, character, setting, theme and style. - Introduction to reading strategies for English short stories. - Brief introduction to the history of the short story. Homework in preparation for next class: Read "The Gift of the Magi" by O. Henry.	【テキスト (教科書)】 No textbook is required: materials will be provided either through Hoppii or distributed in the classroom.		
2 of 14	Plot and Structure: Understand plot and narrative techniques.	- Discuss "The Gift of the Magi". Explanation of plot elements: exposition, rising action, climax, falling action, resolution. - Group activity: Create a plot diagram for "The Gift of the Magi". Homework in preparation for next class: Read "A Good Man is Hard to Find" by Flannery O'Connor.			
3 of 14	Character and Characterisation: Analyse characters and methods of characterisation.	- Discuss "A Good Man is Hard to Find". - Explanation of character types: protagonist, antagonist, flat, round, dynamic, static. - Group activity: Character analysis of the main characters. Homework in preparation for next class: Read "Harrison Bergeron" by Kurt Vonnegut.			
4 of 14	Setting and atmosphere: Explore the importance of setting and atmosphere in a short story.	- Discuss "Harrison Bergeron". - Explanation of setting, time, place, social environment. - Group activity: Analyse the setting and atmosphere of Harrison Bergeron". Homework in preparation for next class: Read "The Lottery" by Shirley Jackson.			

【参考書】

No reference books are required.

【成績評価の方法と基準】

Weekly discussion (book club/book circle format)" 50%

Final discussion test 50%

Please note 4% will be deducted for every class you are unable to participate in. Please note also that medical receipts/doctors' letters etc do not excuse absences, they merely explain them. Students will be unable to pass the class if they are absent 4+ times (for any reason).

" The book club/book circle format will be explained and demonstrated in the first lesson.

To ensure objective grading, rubrics will be used for both the weekly discussions and the final discussion test.

【学生の意見等からの気づき】

Following student comments and feedback from previous summer intensive courses and personal reflections, I have overhauled my syllabus and made improvements.

【学生が準備すべき機器他】

Students need to prepare:

- a notebook specifically for this class
- a pen or pencil
- a dictionary (preferably not a smartphone app)

【その他の重要事項】

Students are discouraged from using AI tools for understanding the stories in this class, and for completing homework assignments.

Many students automatically sit at the back of the room. I plan on using the projector intensively. Please sit where you can see the screen easily (and I can see you!).

Above all, I hope you enjoy my course, and that you can take something away from it that will benefit you long after you complete it.

【None】

No pre-requisite.

【Outline (in English)】

All of the speaking and discussion you undertake in this class will be in response to English short stories. Each week, students will look at a different English short story. The objective of the class is to become better at expressing your thoughts and opinions.

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）		6 of 14	Point of View Writing handbook	- Read Girl by Jamaica Kincaid AND Hills Like White Elephants by Ernest Hemingway - Discussion: How does the point of view influence the reader's perception? - Workshop: Write the opening paragraph of their story using a chosen point of view.
英語表現演習 (Speaking)(6)B		7 of 14	Dialogue	- Read A Temporary Matter by Jhumpa Lahiri - Analyze how dialogue reveals character and subtext - Workshop: Write a dialogue exchange between two characters in your short story
JAMES O ESSEX		8 of 14	Conflict and Tension	- Read The Rocking Horse Winner by D.H. Lawrence - Discussion: Types of conflict (internal vs. external) - Outline the central conflict of your story - Peer review: Exchange and critique first drafts - Group discussion: Giving constructive feedback - Revise the draft based on feedback
授業コード：A2857 曜日・時限：月 5/Mon.5 秋学期授業/Fall・2単位 配当年次：2～4年		9 of 14	Revising the First Draft	- Read The Garden Party by Katherine Mansfield - Analyze the use of symbols and imagery - Add symbolic elements to your short stories
その他属性：		10 of 14	Symbolism and Imagery	- Read The Storm by Kate Chopin - Discussion: How tone and style shape the reader's experience - Workshop: Experiment with tone in a key scene
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 このコースは、前学期で学んだスキルの上に成り立っています。このクラス では、英語の短編小説（前学期で使用したものと異なります）を題材にし た課題文を提出します。毎週、異なる英語の短編小説を取り上げます。前セ メスターでは、生徒たちは取り上げた短編小説の一つをもとにエッセイを完 成させました。今学期は、(i)自分の短編小説を書くこと、(ii)その短編小説の 解説／分析をすること、といった、より創造的な基準が課される。		11 of 14	Tone and Style	- Read memorable opening lines from short stories - Workshop: Revise the opening paragraph and create a title for your short story
【到達目標】 The primary goal of this course is for students to become better speakers of English by responding to short stories. The second aim is for students to gain a better understanding of and appreciation for, English short stories. Such short stories will provide the stimuli about which students' discussions are based. Please note, while this is a speaking course, some writing will be necessary.		12 of 14	Title and Opening	- Read The Shawl by Cynthia Ozick - Discussion: What makes a strong ending? - Workshop: Develop the ending for the your short story
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力 を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習 成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連		13 of 14	Endings and Closure	Students are to submit their short story and accompanying commentary/analysis/ self-reflection by the end of the lesson
【授業の進め方と方法】 This class will be a mix of lecture and group discussion. Although the language of the lectures is English, the professor will explain clearly and concisely to ensure students' maximum understanding. The professor will also use Powerpoint slides. Feedback on assignments will be given orally in the classroom or in written form through Hoppii.		14 of 14	Submission of short story and commentary /discussion	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 Homework will be assigned every week, and students are expected to spend a minimum of four hours/week on this. This homework will both help to prepare students for the subsequent lesson and help them to consolidate their knowledge and understanding of the previous lesson. In addition, students are expected to review their class notes each week.
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり /Yes				【テキスト（教科書）】 No textbook. Materials will be provided.
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし /No				【参考書】 No additional references.
【授業計画】 授業形態：対面/face to face				【成績評価の方法と基準】 Participation: 20% Short Story: 30% Commentary: 50% Please note 4% will be deducted for every class you are unable to participate in. Please note also that medical receipts/doctors' letters etc do not excuse absences, they merely explain them. Students will be unable to pass the class if they are absent 4+ times (for any reason). Rubrics will be used to ensure objective grading.
回	テーマ	内容		【学生の意見等からの気づき】 Following student comments and feedback from previous summer intensive courses and personal reflections, I have overhauled my syllabus and made improvements.
1 of 14	Introduction to Short Stories	- Icebreaker: Share favourite stories in small groups. - Lecture: Key elements of short stories (plot, character, setting, theme, point of view). - Reading: The Necklace by Guy de Maupassant (focus on plot structure).		【学生が準備すべき機器他】 Students need to prepare: - a notebook specifically for this class - a pen or pencil - a dictionary (preferably not a smartphone app)
2 of 14	Plot and Structure	- Review and discuss summaries of The Necklace. - Read and discuss A Sound of Thunder by Ray Bradbury (focus on plot twists and resolution). - Small group activity: Map the plot structure		【Prerequisite】 None
3 of 14	Character Development	- Read "Thank You, Ma'am" by Langston Hughes - Group discussion: Analyze character traits and motivations - Create a character profile for the main character of your short story		
4 of 14	Setting and Atmosphere	- Read A Worn Path by Eudora Welty - Discussion: How does the setting influence the story's atmosphere and character decisions? - Workshop: Write a descriptive paragraph of the setting for your story.		
5 of 14	Theme and Message	- Read The Lottery Ticket by Anton Chekhov - Discussion: Identifying the theme and its relevance to society - Group activity: Brainstorm themes for your short stories stories		

【Outline (in English)】

This course builds on the skills learnt in the previous semester. The speaking assignments you complete in this class will be in response to English short stories (which are different to those used in the previous semester). Each week, students will look at a different English short story. In the previous semester, students completed speaking assignments based on one of the short stories they were exposed to. This semester, the criteria is somewhat more creative: students will be required to (i) write their on short story and (ii) a commentary/analysis of their short story

BSP200BD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

英語表現演習 (Speaking) (7) A

Niall Murtagh

授業コード：A2858 | 曜日・時限：火2/Tue.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The objective is to improve speaking skills in English.

【到達目標】

Students will gain skills and confidence in expressing their opinions. The topics covered will be diverse, covering news and current events.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Each week, we will read an article from the Internet. Homework will consist of preparing responses to what we have read or discussed the previous week. Interaction among students will be emphasized and students will be encouraged to introduce topics of their own.

Twice each semester, students will be asked to give a short presentation. Individual feedback will be given after each presentation.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction to semester content	Course outline
第2回	Foundations for communication	Vocabulary improvement
第3回	Foundations for comprehension	Common grammatical issues
第4回	Basic expressions	Application of strategies
第5回	Development	Conversational examples
第6回	Everyday expressions	Detailed descriptions
第7回	Formal expressions	Detailed descriptions
第8回	Examples of everyday topics	Descriptive phrases
第9回	Examples of unusual topics	Descriptive phrases
第10回	Applications of topics	Expressing opinions
第11回	Usage of topics	Expressing regret
第12回	Further development	Expressing disagreement
第13回	Conclusions	Summary
第14回	Speeches	Topics chosen by students

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Preparation of short presentations and speeches to be made in class. The basic requirement is 4 hours per week.

【テキスト (教科書)】

We will use websites for text, audio and speaking practice, such as:

<https://storycorps.org/>
<https://learningenglish.voanews.com/>
<https://japantoday.com/>
<https://www.bbc.com/worklife>

【参考書】

Internet dictionary, such as:

<https://eow.alc.co.jp/>

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on participation in class, including reading and discussions (30%), and presentations (70%). Course credits will not be given where a student is absent three or more times in a semester without submitting a reason.

【学生の意見等からの気づき】

Students will be encouraged to comment and express their own ideas as much as possible.

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内 (4月初頭) にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

The class will enable students to communicate in an English-speaking environment. Emphasis will be placed on spoken fluency, but listening, reading and some writing will also form part of the course.

Short presentations and speeches will be made in class.

Evaluation and grading will be based on communication abilities, emphasising the spoken word.

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

英語表現演習 (Speaking)(7) B

Niall Murtagh

授業コード：A2859 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective is to improve speaking skills in English.

【到達目標】

Students will gain skills and confidence in expressing their opinions. The topics covered will be diverse, covering news and current events.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Each week, we will read an article from the Internet. Homework will consist of preparing responses to what we have read or discussed the previous week. Interaction among students will be emphasized and students will be encouraged to introduce topics of their own.

Twice each semester, students will be asked to give a short presentation. Individual feedback will be given after each presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction to semester content	Outline of topics
第2回	Communication skills	Vocabulary for speaking
第3回	Communication skills	Vocabulary for writing
第4回	Basic expressions	Composition strategies
第5回	Development	Conversational examples
第6回	Everyday expressions	Applied examples
第7回	Formal expressions	Applied examples
第8回	Lifestyle topics	Descriptive phrases
第9回	Academic topics	Descriptive phrases
第10回	Grammar and syntax issues	Expressing opinions
第11回	Grammar and syntax issues	Expressing regret
第12回	Further issues	Expressing disagreement
第13回	Conclusions	Summary
第14回	Speeches	Topics chosen by students

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation of short presentations and speeches to be made in class. The basic requirement is 4 hours per week.

【テキスト（教科書）】

We will use websites for text, audio and speaking practice, such as:

<https://storycorps.org/>

<https://learningenglish.voanews.com/>

<https://japantoday.com/>

<https://www.bbc.com/worklife>

【参考書】

Internet dictionary, such as:

<https://eow.alc.co.jp/>

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on participation in class, including reading and discussions (30%), and presentations (70%). Course credits will not be given where a student is absent three or more times in a semester without submitting a reason.

【学生の意見等からの気づき】

Students will be encouraged to comment and express their own ideas as much as possible.

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期日内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

The class will enable students to communicate in an English-speaking environment. Emphasis will be placed on spoken fluency, but listening, reading and some writing will also form part of the course.

Short presentations and speeches will be made in class.

Evaluation and grading will be based on communication abilities, emphasising the spoken word.

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

英語表現演習 (Speaking)(8) A

高村 遼

授業コード：A2860 | 曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、まず社会的な話題に関しての知識のほか語彙や表現を身につけ、テキストを読んだ後にディスカッションやグループワークを行います。また、単調にならないようにプレゼンテーションの機会も入れていきます。

【到達目標】

この学期の終わりには、広く社会的な話題に関して、自分の意見を英語で発信できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に、学生主体の演習型の授業です。授業内での発表が求められます。課題は、授業内でフィードバックいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Introduction to the course and selection
第2回	Presentation	Group A students will use a PPT to give a self-introduction.
第3回	Presentation	Group B students will use a PPT to give a self-introduction.
第4回	The Cashless Society	Learn how to discuss opinion
第5回	Fast Fashion	Learn how to ask questions if you didn't hear or understand
第6回	Plastic Packaging	Learn how to agree and disagree
第7回	Cell Phone Etiquette	Learn how to give yourself time to think
第8回	Vegetarianism	Learn how to support reasons with examples
第9回	Social Media	Learn how to continue a discussion
第10回	The Soda Tax	Learn how to expand your answer
第11回	Final Presentation	Group A students will give a presentation of a topic that they've learned.
第12回	Final Presentation	Group B students will give a presentation of a topic that they've learned.
第13回	Final Presentation	Group C students will give a presentation of a topic that they've learned.
第14回	Wrap up	Summary of the course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の予習・復習にそれぞれ2時間を標準とします。授業に来る前にきちんとわからない単語は調べ、自分の考えを毎回持ってきてください。

【テキスト（教科書）】

Garry Pearson et. al. An Introduction to Discussion Skills: Global Issues（身近な世界を英語で発信）. Seibido.

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業に対する貢献：30%

プレゼンテーション：70%

【学生の意見等からの気づき】

なるべく楽しく授業を進めたいと思います。

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

In this class, we will first acquire not only knowledge about social topics but also vocabulary and expressions. After reading the text, we will engage in discussions and group work. At the beginning and end of the semester, students will give a presentation.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end presentation: 70%, in class contribution: 30%

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 200）

英語表現演習 (Speaking)(8) B

高村 遼

授業コード：A2861 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、まず社会的な話題についての知識のほか語彙や表現を身につけ、テキストを読んだ後にディスカッションやグループワークを行います。また、単調にならないようにプレゼンテーションの機会も入れていきます。

【到達目標】

この学期の終わりには、広く社会的な話題に関して、自分の意見を英語で発信できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に、学生主体の演習型の授業です。授業内での発表が求められます。課題は、授業内でフィードバックいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Summer break reports
2	Presentation	Group A students use a PPT to give a presentation of their summer break
3	Presentation	Group B students use a PPT to give a presentation of their summer break
4	Overtourism	Learn how to ask for, make, and respond suggestions
5	Improving Education	Learn how to support your opinion with multiple reasons
6	Voting Age	Learn how to check your understanding
7	Rethinking Zoo	Learn how to lead a discussion
8	Alternative Energy	Learn how to discuss the pros and cons of something
9	Equal Pay in Sports	Learn how to discuss both sides of an argument
10	Gaming Addiction	Learn how to interrupt politely and deal with interruptions
11	Final Presentation	Group A students will give a presentation of a topic that they've learned.
12	Final Presentation	Group B students will give a presentation of a topic that they've learned.
13	Final Presentation	Group C students will give a presentation of a topic that they've learned.
14	Wrap up	Summary of the course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の予習・復習にそれぞれ2時間を標準とします。授業に来る前にきちんとわからない単語は調べ、自分の考えを毎回持ってきてください。

【テキスト（教科書）】

Garry Pearson et. al. An Introduction to Discussion Skills: Global Issues（身近な世界を英語で発信）. Seibido.

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業に対する貢献：30%

プレゼンテーション：70%

【学生の意見等からの気づき】

なるべく楽しく行いたいと思います。

【Outline (in English)】

In this class, we will first acquire not only knowledge about social topics but also vocabulary and expressions. After reading the text, we will engage in discussions and group work. At the beginning and end of the semester, students will give a presentation.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end presentation: 70%, in class contribution: 30%

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

英語史 A

福元 広二

授業コード：A2901 | 曜日・時限：火4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ヨーロッパ大陸の北海沿岸に住んでいた人々が、ブリテン島に渡ってからの約1500年間で英語が辿ってきた歴史的・社会的・文化的背景とその間に起こった音韻・形態・統語・意味・語彙などの言語変化について概観する。そして、英語がどのようにして世界中で使用されるようになり、世界共通語となってきたかを解説する。また、英語の歴史を学ぶことで、現代の英語に対してさらに理解を深めることを主な目的としている。

【到達目標】

英語史における各時代の発音・綴り・文法・語彙などの言語的特徴を簡潔に説明することができる。
現代英語における興味深い文法現象を、英語史的な視点から考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行います。教科書だけでなくパワーポイントの資料を使って、授業内容をわかりやすく解説します。また、適宜、講義資料も配布し、テキスト以外の箇所に関しても説明します。DVDなどの映像教材も使用して理解を深めます。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容の紹介
第2回	世界の英語	世界中に広がる英語について
第3回	英語外面史	英語外面史の概説
第4回	インド・ヨーロッパ祖語	インド・ヨーロッパ祖語とゲルマン語族
第5回	古英語の時代背景	古英語期における社会的・文化的時代背景
第6回	古英語の名詞	古英語における名詞の性・数・格
第7回	古英語の代名詞	古英語における代名詞の語形変化
第8回	古英語の形容詞・副詞	古英語における形容詞と副詞の特徴
第9回	古英語の動詞	古英語の強変化動詞と弱変化動詞の活用
第10回	古英語の語順・否定	古英語における語順、否定、その他
第11回	古英語の作品講読	古英語の代表的な作品を講読する
第12回	中英語の時代背景	中英語期における社会的・文化的時代背景
第13回	中英語の名詞・形容詞	中英語における名詞と形容詞の語形変化
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ内容を振り返り、教科書やハンドアウトなどで復習を行ってください。テキストを事前に読んでおき、授業で学ぶことを予習してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

宗宮喜代子 (2024)『歴史をたどれば英語がわかる』開拓社

【参考書】

寺澤盾 『英語の歴史』（中公新書）
中尾俊夫『英語の歴史』（講談社現代新書）
岸田 緑溪ほか 『英語の謎 歴史でわかるコトバの疑問』（角川ソフィア文庫）
朝尾幸次郎 『英語の歴史から考える一英文法の「なぜ」』（大修館）

【成績評価の方法と基準】

評価については、期末試験と平常点を総合して評価します。
期末試験60%、平常点40%

【学生の意見等からの気づき】

クラスでのディスカッションを増やしていきたいと思います。

【その他の重要事項】

この科目は、時代に沿ってそれぞれの時代の特徴を見ていくので、秋学期に開講される「英語史B」と合わせて履修することをお勧めします。
4回以上欠席した場合はD評価となります。

【Outline (in English)】

This course aims to provide an overview of the history of the English language from Old English to Present-day English. This course also helps students understand the linguistic change in English as well as its social and cultural change by introducing literature and multimedia.

The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand the history of the English language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (60%), and in-class contribution (40%).

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

英語史 B

福元 広二

授業コード：A2902 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ヨーロッパ大陸の北海沿岸に住んでいた人々が、ブリテン島に渡ってからの約 1500 年間で英語が辿ってきた歴史的・社会的・文化的背景とその間に起こった音韻・形態・統語・意味・語彙などの言語変化について概観する。そして、英語がどのようにして世界中で使用されるようになり、世界共通語となってきたかを解説する。また、英語の歴史を学ぶことで、現代の英語に対してさらに理解を深めることを主な目的としている。

【到達目標】

- ・英語史における各時代の発音・綴り・文法・語彙などの言語的特徴を簡潔に説明することができる。
- ・現代英語における興味深い文法現象を、英語史的な視点から考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行います。教科書だけでなくパワーポイントの資料を使って、授業内容をわかりやすく解説します。また、適宜、講義資料も配布し、テキスト以外の箇所に関しても説明します。DVD などの映像教材も使用して理解を深めます。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	春学期の復習と秋学期で扱うテーマの紹介
第 2 回	中英語の発音・代名詞	中英語における発音と代名詞の語形変化
第 3 回	中英語の動詞	中英語における強変化動詞と弱変化動詞
第 4 回	中英語の借用語	中英語期における借用語
第 5 回	中英語の作品講読	中英語の代表的な作家である Chaucer の作品講読
第 6 回	初期近代英語の時代背景	初期近代英語期における社会的・文化的時代背景
第 7 回	初期近代英語の文法	初期近代英語期に特徴的な文法
第 8 回	Shakespeare の英語	Shakespeare の英語の特徴を概説する
第 9 回	初期近代英語の作品講読	初期近代英語の代表的な作家である Shakespeare の作品講読
第 10 回	後期近代英語の時代背景	後期近代英語期における社会的・文化的時代背景と英文法書・辞書の発達
第 11 回	後期近代英語の文法と作品講読	後期近代英語期に特徴的な文法と文学作品を講読する
第 12 回	アメリカ英語の成立	アメリカ英語の成立と語彙の特徴
第 13 回	現代英語の変化	現在進行中である英語の文法的变化
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ内容を振り返り、教科書やハンドアウトなどで復習を行ってください。テキストを事前に読んでおき、授業で学ぶことを予習してください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

宗宮喜代子 (2024)『歴史をたどれば英語がわかる』開拓社

【参考書】

寺澤盾 『英語の歴史』（中公新書）
中尾俊夫『英語の歴史』（講談社現代新書）
岸田 緑溪ほか 『英語の謎 歴史でわかるコトバの疑問』（角川ソフィア文庫）
朝尾幸次郎 『英語の歴史から考える一英文法の「なぜ」』（大修館）

【成績評価の方法と基準】

評価については、期末試験と平常点を総合して評価します。
期末試験 6 0 %、平常点 4 0 %

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をなるべく多くとるように心がけたいと思います。

【その他の重要事項】

この科目は、時代に沿ってそれぞれの時代の特徴を見ていくので、春学期に開講される「英語史 A」と合わせて履修することをお勧めします。
4 回以上欠席した場合は D 評価となります。

【Outline (in English)】

This course aims to provide an overview of the history of the English language from Old English to Present-day English. This course also helps students understand the linguistic change in English as well as its social and cultural change by introducing literature and multimedia.

The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand the history of the English language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (60%), and in-class contribution (40%).

LIT200BD（文学 / Literature 200）

英文学史 A

田中 裕希

授業コード：A2903 | 曜日・時限：木2/Thu.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古英語の時代（中世前期）から20世紀中期までのイギリス詩の歴史をたどりつつ、英詩において「私」がどのように表現されているかについて学ぶ。個人の内面を表現する抒情詩に対する理解を、国家の成立など大きなテーマを扱う叙事詩との比較を通じて深めていく。

【到達目標】

イギリス詩の流れを、歴史の大きな動向と関連づけながら概観する。そのことをとおして、イギリスにおける抒情詩の伝統がどのように形成されてきたのかを学ぶ。文学作品の解釈の方法を身につけるとともに、作品の一部を英語で講読することをとおして、英語読解能力の向上もめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などをおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。対面授業とオンライン授業を併用する。その授業形式にあわせて、授業内容の順序を変えることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、中世前期	叙事詩と抒情詩
第2回	中世後期	Chaucer
第3回	ルネサンス（1）	近世の恋愛詩
第4回	ルネサンス（2）	Shakespeareの英語
第5回	ルネサンス（3）	Shakespeareの登場人物
第6回	17世紀（1）	形而上詩人
第7回	17世紀（2）	Miltonと叙事詩
第8回	18世紀	ロマン派と抒情詩
第9回	19世紀（1）	ロマン派第二世代
第10回	19世紀（2）	dramatic monologueを読む
第11回	20世紀（1）	モダニズムとは
第12回	20世紀（2）	第一次世界大戦と詩
第13回	20世紀（3）	第二次世界大戦と詩
第14回	期末試験とまとめ	学期全体をとおして学習したことを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むこと、授業内で指示された課題を提出すること。

【テキスト（教科書）】

『新編 イギリス名詩選』（岩波文庫 赤273-2）川本 皓嗣（編集）

【参考書】

N/A

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30 %

期末テスト 70 %

原則、未提出のリアクションペーパーが4つ以上で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

大人数の授業だが、学生が意見を言える機会をもっと増やしていきたい。

【Outline (in English)】

Outline and objectives: This class will cover the history of British poetry from the era of the Old English (the early Medieval period) to the mid 20th century.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend a total of four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Final grade will be calculated according to the following process: reaction papers (30%), final exam (70%).

LIT200BD（文学 / Literature 200）

英文学史 B

小澤 央

授業コード：A2904 | 曜日・時限：木2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリス文学の歴史を、散文を中心に学ぶ。近代小説以前の散文から、18世紀の（反）リアリズム小説、ヴィクトリア朝の社会小説、歴史小説、家庭小説、教養小説、20世紀のモダニズム小説、ポストコロニアル小説、さらに多様化する今日の小説まで、名作の抜粋を読みながら英文学史を辿る。政治的・文化的文脈を踏まえ、作品を原作とする映画を確認しながら、授業を進める。

英文学史の知識や文学解釈の基本を身につけ、英文読解力を伸ばすことが目的である。

【到達目標】

この授業を履修することで、学生は
 ・歴史的文脈において英文学の散文の名作を位置づけられる
 ・文学を解釈するとはどういうことかを把握し実践できる
 ・辞書や和訳を参照しながらも、英文学の抜粋を原文で読める英語力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で進める。映像資料も適宜取り入れる。リアクション・ペーパーなどを提出してもらい、授業の冒頭で講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	散文の歴史概観、近代小説以前
第2回	18世紀(1)	政治的・文化的背景
第3回	18世紀(2)	Defoe, <i>Robinson Crusoe</i> など
第4回	18世紀(3)	Swift, <i>Gulliver's Travels</i> など
第5回	19世紀(1)	政治的・文化的背景
第6回	前半の講義のまとめ	総括と補足
第7回	19世紀(2)	Austen, <i>Pride and Prejudice</i> など
第8回	19世紀(3)	Dickens, <i>A Christmas Carol</i> など
第9回	20世紀前半(1)	政治的・文化的背景
第10回	20世紀前半(2)	Woolf, <i>Mrs Dalloway</i> など
第11回	20世紀後半以降(1)	政治的・文化的背景
第12回	20世紀後半以降(2)	Ishiguro, <i>The Remains of the Day</i> など
第13回	後半の講義のまとめ	総括と補足
第14回	期末試験と今学期のまとめ	今後の研究についての示唆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回予め指示された資料（レジュメなど）を読むこと、リアクション・ペーパーなどを提出することが求められる。さらに、和訳でも構わないので、授業で扱う作品をできるだけ多く自身で読み通すことが望ましい。

予習・復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業のレジュメ

【参考書】

・授業で扱う文学作品
 ・浦野郁、奥村沙矢香編、『よくわかるイギリス文学史』、ミネルヴァ書房、2020年
 ・白井義昭著、『読んで愉しむイギリス文学史入門』、春風社、2013年
 ・石塚久郎ほか編、『イギリス文学入門』、三修社、2014年

【成績評価の方法と基準】

・リアクション・ペーパーなどの課題、授業に取り組む姿勢、議論への貢献度：30%
 ・期末試験：70%

【学生の意見等からの気づき】

授業中の正当な理由なき入退室や私語は、ほかの学生の迷惑となるので、厳しく対処していきたい。

【Outline (in English)】

In this course, students are expected to learn the history of English literature, particularly British fiction, from the 16th to the 21st century, by reading extracts from the text in English and considering the historical background. This course also deals with films based on British fiction. The goals of this course are to position masterpieces of British fiction in historical contexts, learn the basics of interpretation of literature and improve English reading comprehension. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. The final grade will be calculated according to the following process: performance in class activities (30%) and term-end examination (70%).

LIT200BD（文学 / Literature 200）

米文学史 A

宮川 雅

授業コード：A2905 | 曜日・時限：水3/Wed.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学の「アメリカンネス」とは何かを考えながら、アメリカ文学史を概観する。

春学期Aは、植民地時代の文学から19世紀中葉の南北戦争前までのアメリカ文学の歴史を、ピューリタニズムという宗教問題、黒人やネイティブ・アメリカンであらわになる人種問題、産業革命と近代的自我の不安の問題、人間中心主義問題などとアメリカ作家・文学との関連を考えながら、たどる。

目的は、

(1) アメリカ文学の流れをたどり、その特質を考えることと、

(2) 積極的に作品を読み文学テキストに触れること、

により、アメリカ文学の歴史的なパースペクティブを得ることである。

【到達目標】

(1) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。

(2) アメリカ文学を構成する主要な作家と脇役の顔ぶれを知る。

(3) アメリカ文学作品の背景的知識を得ている。

(4) 文学作品の鑑賞方法を身につける。

(5) アメリカ文学作品で描かれている、国・地域の歴史と文化について理解している。

(6) アメリカ文学について人に語れる。

(7) 好きな作家・作品から将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アメリカ文学とはどんな文学なのか、歴史的に概説する。どんな作家がいてどんな作品があるのか、どのような背景があるのか、どんなふう読み取れるのか、どんなふうにつかしかいのか、おもしろいのか、などを解説していきたい。背景の知識についても触れる。参加者は自分から積極的に作品を読むことが求められる。

前期のAでは17世紀初頭の植民地時代から南北戦争のころまでを扱う予定。講義。ほぼ毎回ハンドアウト（プリント）を配布する。可能な限り「講義」の原稿をこしらえてそれも資料とする。学習支援システムの「教材」に資料を入れる。

今年度は、昨年度と同様、（1）なんでもいいから米文学史の本を各自1冊読むこと（ただしボルヘスの注釈付きアメリカ文学史を参考文献として「教材」にいます）、（2）レポートは3作品、3本とします。

提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり /Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	移民の国アメリカ	イントロダクション：アメリカという国の性格について。米文学史読書案内ふ作家作品リストを配布し、レポート課題を説明する。
第2回	植民地時代の文学I	ピューリタニズム (Puritanism) とタイポロジー (typology) の想像力。
第3回	植民地時代の文学II	エレジー (elegy) と名前の重要性。
第4回	ベンジャミン・フランクリンの自伝	アメリカの宗教と理神論 (Deism) について。プロテスタンティズムと資本主義の精神。自伝とフィクション。ノヴェル対ロマンス。ゴシック・ロマンス (gothic romance)。
第5回	チャールズ・ブロックデーン・ブラウンとアメリカン・ゴシックの伝統	
第6回	ジェイムズ・フェニモア・クーパー	"Leather-Stocking Tales"とウェスタンのヒーロー像。フロンティア (frontier) と文学的想像力。
第7回	ワシントン・アーヴィング	ゴシックの変容とアメリカ的ユーモア (American humor)。アメリカの短篇小説の特徴。
第8回	エマソンとアメリカ超絶主義	アメリカ的ロマン主義 (American romanticism) と自己信頼。ソローとホイットマン。
第9回	エドガー・アラン・ポー	ロマン主義とゴシック。ゴシックの多様性。芸術至上主義と象徴主義。

第10回	ホーソンとロマンス	ホーソンの小説論。ノヴェル対ロマンス (2)。
第11回	メルヴィルの小説	小説の極限について。長篇・短篇・詩。
第12回	感傷小説の伝統	大衆小説、高級小説。プロット、ストーリー、キャラクター。女性読者・女性作家・男性作家。
第13回	ホイットマンとディキンソン	詩の独自性と現代詩へのつながり。アメリカ詩の伝統。
第14回	南北戦争その他	19世紀の文化と社会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート課題の作品を読んで考えること。積極的に他の作品も読むこと。なんでもいいのでアメリカ文学史の本を必ず一冊読むこと（試験において確認する）。レポート該当作品も含めて代表的作品リストを初回に配布する。予習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。研究書・論文・参考書等は折に触れて提示したりプリントを配ったりリストを示したりする。学習支援システムの「教材」にきほんは回ごとのフォルダーにしてさまざまな資料ファイルを放り込む。

【参考書】

現在日本人の書いた最も充実した米文学史の本は、渡辺利雄の『講義 アメリカ文学史【全4巻】』（研究社、2007、2010）であろう。文学的洞察として（興味）深いのは小説家でもある平石貴樹の『アメリカ文学史』（松柏社、2010）……絶版のようだが図書館等にある。英語で書かれたもので、（まだ「文学史」が成立していた頃の本として）すぐれたものは、だいぶ古いですが、英国の学者による（すなわち他者視点による）Marcus Cunliffe, *Literature of the United States* (1964; rpt. Pelican Books) だと思う。米国内の多文化主義的な文学史の見直しの流れを受けとめたうえで詳細なのは Emory Elliott の *The Columbia Literary History of the United States* (Columbia UP, 1988) 1263pp. である。おそらく最も短くて文学趣味的なのはアルゼンチンの作家ボルヘスの文学史講義をもとにした *Introduction to American Literature* (Schocken, 1974) 95pp. である（柴田元幸の翻訳が出ている）。

さまざまな主題からの文学史的な本は、授業で折に触れて紹介する。第二次大戦後の研究書の古典中の古典を2冊だけ前もってあげておくなら、正統キリスト教の視点から書かれた、ホーソン学者 Randall Stewart の *American Literature and Christian Doctrine* (1958)（邦訳『アメリカ文学とキリスト教』）、アメリカ小説をハイブリッドなロマンス＝ノヴェルとした Richard Chase の *The American Novel and Its Tradition* (1958)（邦訳『アメリカ小説とその伝統』）。

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業内小テストならびにリアクション・ペーパー（20％）、(2) 3作品を読んだレポート（40％）、(3) 期末試験（40％）、で総合的に評価する。レポートは、きちんと自分で読んでいれば合格点は付く。盗用（無断引用）があれば、失格ないし大幅な減点となる。

【学生の意見等からの気づき】

むづかしくなりすぎないようにやさしく語ること。やさしくなりすぎないように論理を構築すること。

【その他の重要事項】

後期（秋学期）の「米文学史B」との継続履修が望ましい。

【Outline (in English)】

[Outline and objectives:] This course presents a historical survey of American literature from the period of exploration and settlement to the present. Students will study works of fiction, poetry, drama, and prose in relation to their historical and cultural contexts. The course aims at considering "what is the Americanness of American literature."

[Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

[Grading Criteria/Policies:] Overall grade in the class will be decided based on the following:

1) Participation and discussion (reaction papers and occasional mini tests) (20%)

2) 3 papers ("reports" on reading American literary work) (40%)

2) End-of-term examination (40%)

LIT200BD（文学 / Literature 200）

米文学史 B

宮川 雅

授業コード：A2906 | 曜日・時限：水 3/Wed.3
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学の「アメリカンネス」（ナショナル・アイデンティティーとかかわるもの）とは何かを考えながら、アメリカ文学史を概観する。

秋学期 B は、南北戦争を契機にヨーロッパに遅れて起こるリアリズムの運動を、自然主義やフェミニズムや社会の変化と関連付けながら理解し、その後 20 世紀前半のモダニズムや後半のカウンターカルチャーを経て、あらためて 1960 年代以降から今日までの非リアリズム的な文学に至る大きな変化を考える。

【到達目標】

- (1) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
- (2) アメリカ文学を構成する主要な作家と脇役の顔ぶれを知る。
- (3) アメリカ文学作品の背景的知識を得ている。
- (4) 文学作品の鑑賞方法を身につける。
- (5) アメリカ文学作品で描かれている、国・地域の歴史と文化について理解している。
- (6) アメリカ文学について人に語れる。
- (7) 好きな作家・作品から将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アメリカ文学とはどんな文学なのか、講義形式で歴史的に概説する。どんな作家がいてどんな作品があるのか、どのような背景があるのか、どんなふう読み取れるのか、どんなふうにつまみ食いのか、おもしろいのか、などを解説していきたい。背景の知識についても触れる。参加者は自分から積極的に作品を読むことが求められる。

後期の B では南北戦争から現代までを扱う予定。
ほぼ毎回ハンドアウト（プリント）を配布する。可能な限り「講義」の原稿をこしらえてそれも資料とする。学習支援システムの「教材」に資料を入れる。

A と同様、本年度は、（1）なんでもいから米文学史の本を各自 1 冊読むこと（ただし、ホルヘ・ルイス・ボルヘスの文学史を電子化して英語原書＋注釈書として配布）、（2）レポートは 3 作品、3 本とすること、とします。

提出されたりアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	南北戦争とアメリカ文学のリアリズム	ジャーナリズムと文学の文体。
第2回	ルイーザ・メイ・オルコットの家小説と少女小説とスリラー	女性小説の伝統。
第3回	サミュエル・クレメンズ（マーク・トウェイン）と語りのスタイル	American vernacular について。
第4回	ヘンリー・ジェイムズと幽霊	視点（point of view）の問題。
第5回	フランク・ノリス、ステューヴン・クレイン、セオドア・ドライサー	アメリカの自然主義文学。
第6回	アメリカ文学の世紀末	エコロジー、神秘主義、神秘学。
第7回	アーネスト・ヘミングウェイ、スコット・フィッツジェラルド、ウィリアム・フォークナー	ロスト・ジェネレーションの文学。
第8回	S F と探偵小説	小説のジャンル、ジャンルの分化の問題。
第9回	T・S・エリオット、エズラ・パウンド、ガートルード・スタイン	アメリカの現代詩。
第10回	ジャック・ケルアック、アレン・ギンズバーグ、ゲアリー・スナイダー	ビート・ジェネレーションの文学。
第11回	カウンター・カルチャーとアメリカ文学	カルト的なものも含めてアメリカ文化・文学の特性をあらためて考える。

第12回	トマス・ピンチオンとジョン・バーズ	ポスト=モダンな意識とは何か。
第13回	アメリカン・ドラマ	演劇とミュージカル。
第14回	同時代作家たち	アメリカ文学の現在。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート課題の作品を読んで考えること。積極的に他の作品も読むこと。なんでもいのでアメリカ文学史の本を一冊読むこと。レポート該当作品も含めて代表的作品リストを初回に配布する。予習・復習時間はそれぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。研究書・論文・参考書等は折に触れて提示したりプリントを配ったりリストを配ったりする。学習支援システムの「教材」にきほんは回ごとのフォルダーにしてさまざまな資料ファイルを放り込む。

【参考書】

渡辺利雄『講義 アメリカ文学史【全 4 巻】』（研究社、2007、2010）
平石貴樹『アメリカ文学史』（松柏社、2010）
Marcus Cunliffe, *Literature of the United States* (1964; rpt. Pelican Books)
Emory Elliott, *The Columbia Literary History of the United States* (Columbia UP, 1988)
Jorge Luis Borges, *Introduction to American Literature* (Schocken, 1974)
亀井俊介『アメリカ文学史講義【全 3 巻】』（南雲堂、1997-2000）
竹内理矢・山本洋平編『深まりゆくアメリカ文学——源流と展開』（ミネルヴァ書房、2021）
諏訪部浩一編『アメリカ文学入門【新版】』（三修社、2023）

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業内小テストならびにリアクション・ペーパー（20％）、(2) 作品 3 冊を読んだレポート（40％）、(3) 期末試験（40％）、で総合的に評価する。レポートは、きちんと自分で読んでいれば合格点は付く。盗用（無断引用）があれば、失格ないし大幅な減点となる。

【学生の意見等からの気づき】

やさしさを心がける。

【その他の重要事項】

前期（春学期）の「米文学史 A」からの継続履修がかなり絶対的に近いくらい望ましい。

【Outline (in English)】

[Outline and objectives:] This course presents a historical survey of American literature from the period of exploration and settlement to the present. Students will study works of fiction, poetry, drama, and prose in relation to their historical and cultural contexts. The course aims at considering "what is the Americanness of American literature." [Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

[Grading Criteria/Policies:] Overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1) Participation and discussion (reaction papers and occasional mini tests) (20%)
- 2) 3 papers ("reports" on reading American literary work) (40%)
- 2) End-of-term examination (40%)

LIT200BD (文学 / Literature 200)

英米文学講義 I A

波戸岡 景太

授業コード：A2907 | 曜日・時限：金4/Fri.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

There will be small tests at the beginning of each class. Grading shall be as follows:

1. Quizzes in class: 50%.
2. Final exam: 50%.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代アメリカ文学についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説を行います。授業では、主に1960年代以降の文学作品ならびに批評書を具体的に分析することで、現代の国際社会におけるさまざまな課題について、文学とその批評がいかなる貢献を果たしうるかを学びます。

【到達目標】

- (1) 現代アメリカ文学作品に描かれる国の歴史と文化について概略を理解する。
- (2) ポストモダン文学ならびに文化についての知識を獲得する。
- (3) 英語圏文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で現代アメリカ文学の特性について考察するとともに、文学研究／批評の方法論に精通できるよう実践的な解説を行う。また、各回の最初に小テストを実施するため、前回授業で指定された課題文をよく読んでおくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	現代文学とカルチャー
第2回	第二次世界大戦の記憶	ホロコースト以後の文学
第3回	体制とカルチャー	1950年代の若者たち
第4回	超大国の挫折	1960-70年代のアメリカ（教科書 1-1）
第5回	スター・ウォーズの時代	「帝国」への抵抗（教科書 1-2）
第6回	経済成長の限界	ノスタルジア・ブーム（教科書 1-3）
第7回	「るつば」の先へ	移民とフェミニズム（教科書 1-4）
第8回	ファンタジーランド	陰謀論の台頭（教科書 1-5）
第9回	暴力の表象	ダークな想像力（教科書 1-6）
第10回	新しいファシズム	ナチス表象の再来
第11回	表象と倫理	ソントグの批評を読む
第12回	1980年代を考える	大統領と文学（教科書 2-1）
第13回	ノスタルジア再び	再男性化するヒーロー像（教科書 2-2）
第14回	まとめ／期末試験	ポストモダン文学の可能性／筆記試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布資料の予習・復習、および授業内で示される課題対応を実施してください。

【テキスト（教科書）】

丸山俊一他『世界サブカルチャー史 欲望の系譜 アメリカ70～90s「超大国」の憂鬱』（祥伝社、2022年）

【参考書】

Pynchon, Thomas. *Gravity's Rainbow*. Viking, 1973.
 -. *Slow Learner*. Brown, Little, 1984.
 Sontag, Susan. *Against Interpretation*. Picador, 2001.
 -. *Under the Sign of Saturn: Essays*. Farrar Straus & Giroux, 1980.
 -. *Illness as Metaphor and Aids and Its Metaphors*. Picador, 2001.
 Vonnegut, Kurt. *Slaughterhouse-Five*. Delacorte, 1969.

【成績評価の方法と基準】

授業内小テストの結果（50％）、最終回に実施する期末試験（50％）を合計し、60％以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文学が現代の諸問題にいかに向き合ってきたかを、本授業を通じて初めて知ったという声が多かったため、今年度はより具体的なケースを分析することで作品解説を行いたいと思います。

【Outline (in English)】

This course is designed to impart basic knowledge about American literature, especially in the era of Postmodern. By learning historical and geographical backgrounds of the literary and critical texts since 1960s, students will understand how literary imagination contributes to solving global matters.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

LIT200BD（文学 / Literature 200）

英米文学講義 I B

波戸岡 景太

授業コード：A2908 | 曜日・時限：金4/Fri.4
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、現代アメリカ文学についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説を行います。授業では、主に1960年代以降の文学作品ならびに批評書を具体的に分析することで、現代の国際社会におけるさまざまな課題について、文学とその批評がいかなる貢献を果たしているかを学びます。

【到達目標】

- (1) 現代アメリカ文学作品に描かれる国の歴史と文化について概略を理解する。
- (2) ポストモダン文学ならびに文化についての知識を獲得する。
- (3) 英語圏文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で現代アメリカ文学の特性について考察するとともに、文学研究／批評の方法論に精通できるよう実践的な解説を行う。また、各回の最初に小テストを実施するため、前回授業で指定された課題文をよく読んでおくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	嘘とフィクションの違い
第2回	文学における「若さ」	ビート世代からZ世代まで
第3回	1980年代のマイノリティ	文化の盗用について（教科書2-3）
第4回	ニュー・ロストジェネレーション	ハイパー資本主義（教科書2-4）
第5回	ポスト冷戦	新しいヒーロー像（教科書3-1）
第6回	ジェネレーションX	クープランド作品を読む（教科書3-2）
第7回	マトリックスの時代	情報化社会の文芸（教科書3-3）
第8回	大きな物語の終焉	パルプ・フィクションの新しさ（教科書3-4）
第9回	9・11と文学	フォアとピンチョン
第10回	デリーロの新しさ	ホワイト・ノイズ再読
第11回	ハルキの文学	日本とアメリカの「戦後」（教科書第4-1）
第12回	記憶と文学	ディックの予見（教科書4-2）
第13回	非暴力の力	ソローからバトラーへ
第14回	まとめ／期末試験	世界的課題と文学の役割について／筆記試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布資料の予習・復習、および授業内で示される課題対応を実施してください。

【テキスト（教科書）】

丸山俊一他『世界サブカルチャー史 欲望の系譜 アメリカ70～90s「超大国」の憂鬱』（祥伝社、2022年）

【参考書】

Butler, Judith. *The Force of Nonviolence: An Ethico-Political Bind*. Verso Books, 2020.
Davis, Lydia. *Almost No Memory*. Picador, 2001.
DeLillo, Don. *White Noise*. Viking, 1985.
-. *Point Omega*. Scribner, 2010.
Foer, Jonathan Safran. *Extremely Loud and Incredibly Close*. Penguin, 2006.
Haraway, Donna. *Simians, Cyborgs and Women: the Reinvention of Nature*. Routledge, 1991.
-. *Companion Species Manifesto: Dogs, People, and Significant Otherness*. Prickly Paradigm, 2003.
Kakutani, Michiko. *The Death of Truth: Notes on Falsehood in the Age of Trump*. William Collins, 2018.
Pynchon, Thomas. *Vineland*. Little, Brown, 1990.
-. *Bleeding Edge*. Penguin, 2013.
その他、授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テストの結果（50％）、最終回に実施する期末試験（50％）を合計し、60％以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文学が現代の諸問題にいかに関与してきたかを、本授業を通じて初めて知ったという声が多かったため、今年度はより具体的なケースを分析することで作品解説を行いたいと思います。

【Outline (in English)】

This course is designed to impart basic knowledge about American literature, especially in the era of Postmodern. By learning historical and geographical backgrounds of the literary and critical texts since 1960s, students will understand how literary imagination contributes to solving global matters.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

There will be small tests at the beginning of each class. Grading shall be as follows:

- 1. Quizzes in class: 50%.
- 2. Final exam: 50%.

LIT200BD (文学 / Literature 200)

英米文学講義Ⅱ A

小澤 央

授業コード：A2909 | 曜日・時限：木4/Thu.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米文学、特にイギリス文学を理解するうえで前提となるイギリス文化の基本的概念を紹介する。シェイクスピア、紅茶、湖水地方、探偵、階級、ユーモアなど、イギリス文化を特徴づけるキーワードに注目し、映像資料も交えながら解説する。

イギリス文化の入門的知識を身につけ、英文読解力を伸ばすことが目的である。

【到達目標】

・代表的なイギリス文化について自分の言葉で説明できる
・辞書や和訳を参照しながらも、イギリス文化を紹介する文章やイギリス文学の抜粋を原文で読める英語力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で進める。映像資料も適宜取り入れる。リアクション・ペーパーなどを提出してもらい、授業の冒頭で講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	イギリス（文化）とは何か
第2回	文学、劇場、シェイクスピア(1)	時代背景など
第3回	文学、劇場、シェイクスピア(2)	シェイクスピアの生涯
第4回	紅茶、砂糖、奴隷貿易(1)	時代背景など
第5回	紅茶、砂糖、奴隷貿易(2)	ウィリアム・ウィルバーフォースの生涯
第6回	前半の講義のまとめ	総括と補足
第7回	ナショナル・トラスト、湖水地方、女性の権利	ビアトリクス・ポターの生涯
第8回	探偵、スコットランド、植民地	コナン・ドイルとシャーロック・ホームズ
第9回	階級、王室、カントリー・ハウス(1)	時代背景など
第10回	階級、王室、カントリー・ハウス(2)	使用人の世界
第11回	ユーモア、風刺、戦争(1)	時代背景など
第12回	ユーモア、風刺、戦争(2)	チャールズ・チャップリン『独裁者』
第13回	後半の講義のまとめ	総括と補足
第14回	期末試験と今学期のまとめ	今後の研究についての示唆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回予め指示された資料（レジュメなど）を読むこと、リアクション・ペーパーなどを提出することが求められる。さらに、和訳でも構わないので、授業で扱う作品をできるだけ多く自身で読み通すことが望ましい。

予習・復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業のレジュメ

【参考書】

・レジュメで紹介する資料
・板倉徹一郎、スーザン・K・バートン、小野原教子著、『映画でわかるイギリス文化入門』、松柏社、2008年
・木下卓、窪田憲子、久守和子編著、『イギリス文化 55のキーワード』、ミネルヴァ書房、2009年

【成績評価の方法と基準】

・リアクション・ペーパーなどの課題、授業に取り組む姿勢、議論への貢献度：30%
・期末試験：70%

【学生の意見等からの気づき】

授業中の正当な理由なき入退室や私語は、ほかの学生の迷惑となるので、厳しく対処していきたい。

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of British culture, such as Shakespeare, tea, the Lake District, detectives, the class system and humour. The goals of this course are to survey the history of British culture and improve English reading comprehension. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. The final grade will be calculated according to the following process: performance in class activities (30%) and term-end examination (70%).

LIT200BD（文学 / Literature 200）

英米文学講義ⅡB

田中 裕希

授業コード：A2910 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語圏の詩を精読し、翻訳することで、英詩の特徴と伝統を概観する。また授業では学生の翻訳を合評する機会を設け、英詩を現代の日本語に訳す方法を模索する。人称やリズム、文化的背景など、翻訳されることで失われるニュアンスをどう伝えるか。

【到達目標】

英語圏の詩を精読し、英詩の特徴を学ぶ。また英詩を和訳することで、能動的に詩を理解し、総合的な英語力また日本語力を伸ばす。言葉の意味や音楽性に敏感になり、英語文学の読解力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ワークショップ形式を軸にした、ディスカッション中心の授業。授業内でのフィードバックをもとに訳文を練り直す。コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	英詩の特徴
第2回	英詩のリズム	韻律について
第3回	翻訳ワークショップ (1)	リズムをどう訳すか
第4回	"I"をどう訳すか	英語の"I"と日本語の「私」
第5回	翻訳ワークショップ (2)	人称代名詞をどう訳すか
第6回	英詩の形式	Form とは
第7回	翻訳ワークショップ (3)	詩型をどう訳すか
第8回	英詩の「声」	Voice とは
第9回	翻訳ワークショップ (4)	口調をどう訳すか
第10回	英詩の多様性	英詩の中の非英語
第11回	翻訳ワークショップ (5)	異文化をどう訳すか
第12回	英詩の読者	歴史的背景と詩
第13回	翻訳ワークショップ (6)	歴史をどう訳すか
第14回	期末試験とまとめ	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

詩を翻訳し、お互いの訳文を読み批評する。また配布されたプリントを読む。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムを通じて配布。

【参考書】

阿部公彦『英詩のわかり方』（研究社）

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度50%（リアクションペーパー、翻訳など）

期末レポート50%

原則、未提出の課題・リアクションペーパーが計4つ以上で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

In this course, we will read English-language poetry. The class revolves around students' presentations and discussions. There will be some lectures, but most of the class time will be devoted to students' active participation. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grades will be determined based on weekly responses and assignments (50%) and the final paper (50%).

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

英語学講義 A

福元 広二

授業コード：A2911 | 曜日・時限：火2/Tue.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代英語の文法についての基本的な知識を得ることをめざします。何故、英語はこのようなあり方をしているのか、何故、このような語順でないといけないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。通言語的な視点も紹介し日本語についても理解を深めてもらいます。

【到達目標】

英語の基本的な構造について、知識が持てるようになります。また、英語の分析法の代表的なものについてある程度の知識を持つことができるようになります。英語と日本語の違いと共通点が言語構造に基づくものであることを理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、パワーポイント使って講義形式で行います。教科書も適宜使用します。英語と真正面から取り組み、真剣に取り組んでください。また、リアクションペーパーも提出してもらいます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態についてはHoppiiで連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容や、進め方についての説明
第2回	英文法の問題	実際に英語の問題を解いてみよう
第3回	品詞	英語の品詞について
第4回	英語の文型	5文型の分析
第5回	自動詞と他動詞	他動性について
第6回	意味役割	意味役割とは何か
第7回	テンス（1）	現在時制
第8回	テンス（2）	過去時制と未来表現
第9回	アスペクト（1）	進行相
第10回	アスペクト（2）	完了相
第11回	モダリティ（1）	法助動詞
第12回	モダリティ（2）	準助動詞
第13回	態	受動態
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れる予定のテーマについては、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくようにという課題が出ているときは、教科書や使用していた参考書をもう一度読んでおくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

畠山雄二『大学で教える英文法』くろしお出版

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験と平常点で、総合的に判断します。
期末試験60%、平常点40%

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をなるべく多くとるように心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

【その他の重要事項】

授業の構成、内容や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、柔軟に対応させていきます。受講生の理解度に応じて、さらに必要と思われる内容を入れていくこともあります。
4回以上欠席した場合はD評価となります。

【Outline (in English)】

This course deals with the study of the characteristics of English grammar. Grammatical categories, phrases and sentences structures are discussed in relation to the forms and meanings. This course aims at enabling students to analyze a variety of English sentence structures.

The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand English grammar.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (60%), and in-class contribution (40%)

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

英語学講義 B

福元 広二

授業コード：A2912 | 曜日・時限：火2/Tue.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代英語の文法についての基本的な知識を得ることをめざします。何故、英語はこのようなあり方をしているのか、何故、このような語順でないといけないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。通言語的な視点を紹介し日本語についても理解を深めてもらいます。

【到達目標】

英語の基本的な構造について、知識が持てるようになります。英語学講義Bの授業では、認知言語学や英語の代表的な構文についての知識を持てるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、パワーポイントを用いて講義形式で行います。教科書も適宜使用します。英語と真正面から取り組み、真剣に取り組んでください。また、リアクションペーパーも提出してもらいます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態についてはHoppiiで連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容についての概説
第2回	日英語比較	事態把握
第3回	認知言語学（1）	メタファー
第4回	認知言語学（2）	メトニミーとシネクドキ
第5回	認知言語学（3）	文法化
第6回	談話標識	談話標識の分析
第7回	不定詞（1）	不定詞節
第8回	不定詞（2）	繰り上げ動詞とコントロール動詞
第9回	動名詞	名詞的動名詞と動詞的動名詞
第10回	不定詞と動名詞	不定詞と動名詞の意味
第11回	There構文	There構文の特徴
第12回	二重目的語構文	与格交替について
第13回	関係代名詞	関係代名詞の制約
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れる予定のテーマについては、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくようにという課題が出ているときは、教科書や使用していた参考書をもう一度読んでおくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

畠山雄二 『大学で教える英文法』くろしお出版

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験と平常点で、総合的に判断します。

期末試験60%、平常点40%

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をなるべく多くとるように心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業の構成や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、春学期の内容をどの程度理解できているかに応じて柔軟に対応させていただきます。
4回以上欠席した場合はD評価となります。

【Outline (in English)】

This course deals with the study of the characteristics of English grammar. Grammatical categories, phrases and sentences structures are discussed in relation to the forms and meanings. This course aims at enabling students to analyze a variety of English sentence structures. The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand English grammar.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (60%), and in-class contribution (40%)

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

言語学講義 I A

石川 潔

授業コード：A2913 | 曜日・時限：月3/Mon.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

（英語学習者または英語教師になる人のための）音声知覚、単語の聞き取りや文理解に関する心理言語学の入門

【到達目標】

（英語学習／教育にも役立つはずの）人間の言語情報処理に関する入門レベルの知識の習得

言語研究にも役立つけど、**社会人一般にも役立つ**、データ分析の基礎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義ですが、実習（やグループ・ディスカッション？）を行う回もある予定です。

リアクションペーパーには、オンライン配信または口頭で、フィードバックを行う予定です（フィードバック方法は内容／文量によります）。

学生の理解度や要望などに応じて、スケジュールは柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業全体の説明
第2回	<i>Olympic</i> を片仮名表記するとしたら、「オリンピック」と「オリムピック」の、どっちにすべき？	人間は、自分がやっていることを自覚できないもの、という教訓（その1）
第3回	<i>rice</i> と <i>rise</i> 、語尾に母音を入れないで発音できる？	人間は、自分がやっていることを自覚できないもの、という教訓（その2）
第4回	「しおり」は可愛い……のかな？ 比較対象は？	実験と統計分析の必要性：統制条件、仮説と予測
第5回	強形と弱形	syllable の概念が必要な理由、英語の stress の物理的実体
第6回	英語のリズム	知識を得た上で、聞き取り実習
第7回	英語のLとR、聞き分けられる？	フォルマント（遷移）の概念
第8回	英語その他での「有声・無声」の違い	VOT の概念
第9回	音響情報のままには聞き取れない場合	語彙効果など
第10回	「発音できたら聞き取れるようになる」って本当？	Motor Theory が解決してくれる／くれないこと
第11回	その単語、どういう意味？（その1）	意味ブライミング（その1）：単語検索
第12回	その単語、どういう意味？（その2）	意味ブライミング（その2）： ambiguity resolution
第13回	単語が聞き取れない!!	単語認識の諸モデル
第14回	全体のまとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ話に基づいて、テレビやネットの報道や広告を批判的に眺め直してみてください。

また、英語で歌う機会も設けてください（理由は授業を受ければわかる…はず）。

なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて資料配布。

【参考書】

適宜、指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30％、期末試験 70％。

公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】

2023年度に比べて2024年度の方が理解度の数値が上がりました。2024年度に心がけた構造化の効果が出たものと思います。それでも、まだ理解度の数値は充分ではないように思うので、まずは用語の説明をもっと丁寧にしたいと思います。

【その他の重要事項】

原則「言語学講義 I B」と連続履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) An introduction to psycholinguistic studies of speech perception, auditory word recognition and sentence processing (for English learners as well as prospective teachers of English).

(Learning Objectives) To grasp experimental methods on the one hand, and an introductory knowledge of human language processing on the other.

(Learning activities outside of classroom) Critically examine advertisements etc. encountered on the net etc. Furthermore, sing in English! (Why sing? Well, join the class to find out!)

(Grading Criteria/Policy) Participation (30%); Final (70%)

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

言語学講義 I B

石川 潔

授業コード：A2914 | 曜日・時限：月3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語と日本語を「文法」の面から比較します。

【到達目標】

- ・母語干渉につながる言語間の違いを認識すること。
- ・でも、言語間には共通性もあることを認識すること。
- ・論理的な分析能力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

主として講義の予定です。

リアクションペーパーには、オンラインまたは口頭でのフィードバックを行う予定です。

学生の理解度や要望などに応じて、計画は柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	英語の「助動詞」って何なのか、改めて考える	統語論的な規則性と意味的な「直感」とのズレ
第2回	英語の「主語」、日本語の「主語」	「主語」は、「行為をする人」という意味では、ないです。
第3回	英語の時制とアスペクト1	述語の2分類
第4回	英語の時制とアスペクト2	英語の進行形の基本
第5回	英語の時制とアスペクト3	英語の進行形の応用
第6回	英語の時制とアスペクト4	英語に「未来形」ってあるのか？
第7回	英語の時制とアスペクト5	英語の完了形の基本
第8回	英語の時制とアスペクト6	英語の完了形の応用
第9回	日本語の時制とアスペクト1	日本語に「現在形・過去形」はない？
第10回	日本語の時制とアスペクト2	telicity
第11回	日本語の時制とアスペクト3	主観 対 客観
第12回	日本語の時制とアスペクト4	絶対テンス 対 相対テンス
第13回	日本語の時制とアスペクト5	テイルの意味（基本編）
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日英語の文法比較のうち授業でカバーできるのは、ごく一部ですが、授業中でも、様々な謎を「答えなし」のまま残します。答えを考えてみてください。また、授業で紹介された分析への反例も、見つけてください（きっと見つかるはず）。もし学期中に見つかれば、教員に反論してくださいませ（有効な反論、特に教員が言い返せない反論をしてくれば、平常点に大幅加点となります）。

なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて教材配信。

【参考書】

教材に記載。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %。

公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】

2023年度に比べて2024年度の方が理解度の数値が下がってしまいました。内容をもっと整理して構造化の度合いを上げると同時に、各回の最後の「まとめ」をもっと充実したいと思います。

【その他の重要事項】

原則「言語学講義 I A」と連続履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) Comparisons of English and Japanese "grammars."
(Learning Objectives) To grasp differences and commonalities between English and Japanese; to acquire logical analysis skills.
(Learning activities outside of classroom) To seek for answers to those questions left unanswered in the classroom; to try to find counterexamples to the analyses presented in the classroom.
(Grading Criteria /Policy) Participation (30%); Final (70%)

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

言語学講義Ⅱ A

伊藤 達也

授業コード：A2915 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではさまざまな言語学の分野を眺めます。言語は身近すぎて、日ごろ深く考えることはあまりありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。春学期はとくに形態論、統語論、意味論、語用論、社会言語学を概観します。

【到達目標】

言語について考えることによって言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。まとめの回では、授業内で行った課題に対する講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	導入と授業のポリシーの説明
第2回	形態論(1)	形態素の種類
第3回	形態論(2)	派生と語の内部構造
第4回	形態論(3)	造語
第5回	統語論(1)	文の構成素分析
第6回	統語論(2)	句構造規則で文を作る
第7回	統語論(3)	変形規則で文を変える
第8回	意味論(1)	語、句、文の意味
第9回	意味論(2)	直喩、隠喩、換喩
第10回	語用論(1)	協調の原理と会話の公理
第11回	語用論(2)	発話行為、ポライトネス
第12回	社会言語学(1)	地域や人種による言語の変異
第13回	社会言語学(2)	ジェンダーと言語
第14回	春学期のまとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各2時間を標準とします。資料をあらかじめ配布しますので、準備としてそれを読んでください。復習として、授業中に解いた練習問題をもう一度やり直してください。

【テキスト（教科書）】
こちらでプリントを用意します。

【参考書】

『フロムキンの言語学』、ピー・エヌ・エヌ新社、2006
『ランゲージ・ファイルー英語学概論ー』、研究社、2000

【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)と平常点(30%)から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に作業をしてもらうときには、十分に時間を取るようになります。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to a wide range of linguistic data. The goal is to become able to think deeply about language. Students will be expected to read materials before class and be prepared to discuss the topics in class. Grading will be decided based on term-end examination (70%) and active participation (30%).

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

言語学講義Ⅱ B

伊藤 達也

授業コード：A2916 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではさまざまな言語学の分野を眺めます。言語は身近すぎて、日ごろ深く考えることはあまりありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。秋学期はとくに音声学、音韻論、歴史言語学、心理言語学を概観します。

【到達目標】

言語について考えることによって言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。まとめの回では、授業内で行った課題に対する講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	導入と授業のポリシーの説明
第2回	音声学(1)	母音、子音
第3回	音声学(2)	自然類
第4回	音韻論(1)	弁別素性
第5回	音韻論(2)	音素と異音
第6回	音韻論(3)	音韻規則
第7回	音韻論(4)	強勢
第8回	歴史言語学(1)	イギリス史、語彙変化
第9回	歴史言語学(2)	音声変化、統語変化、意味変化
第10回	歴史言語学(3)	言語の系統
第11回	心理言語学(1)	文の解析
第12回	心理言語学(2)	言語習得
第13回	機能主義	機能主義的な文法現象の説明
第14回	秋学期のまとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各2時間を標準とします。資料をあらかじめ配布しますので、準備としてそれを読んでください。復習として、授業中に解いた練習問題をもう一度やり直してください。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

『フロムキンの言語学』、ピー・エヌ・エヌ新社、2006
『ランゲージ・ファイルー英語学概論ー』、研究社、2000

【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)と平常点(30%)から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に作業をしてもらうときには、十分に時間を取るようにします。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to a wide range of linguistic data. The goal is to become able to think deeply about language. Students will be expected to read materials before class and be prepared to discuss the topics in class. Grading will be decided based on term-end examination (70%) and active participation (30%).

LIN100BD (言語学 / Linguistics 100)

英語音声学 A

川崎 貴子

授業コード：A2919 | 曜日・時限：木2/Thu.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語・英語の音声的な構造の比較を行いながら、音声学の基礎を学び、日本語・英語の基礎的な音声・音韻構造の知識を身につけることを目的とします。

【到達目標】

日本語と英語の母語話者の発話にどのような音声・音韻プロセスが見られるか、観察できるようになること。日本語母語話者が英語を学ぶ際、日本語と英語の音声・音韻の差異がどのように影響するかを理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

最初の数回の授業では、発声・構音器官や発音記号（IPA）などの、音声学の基本事項の説明を行います。その後、英語・日本語の音の並び方、制約について解説する予定です。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。

授業で提出されたりアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かせます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「音声学」とは？	調音・聴覚・音響音声学について
第2回	発声・調音 (1)	呼吸、発声・構音
第3回	発声・調音 (2)	調音器官
第4回	音とシンボル (1)	国際音声記号（子音）
第5回	音とシンボル (2)	国際音声記号（母音）
第6回	音声学の基本概念	音素と異音、相補分布
第7回	中間テスト 気音とVOT	中間テスト 音素、VOTと範疇知覚
第8回	日本語の音声変化 (1)	サ行・ハ行
第9回	日本語の音声変化 (2)	母音変化、英語習得への転移
第10回	音とまとまり (1)	聞こえ度・音節構造
第11回	音とまとまり (2)	英語の音節構造
第12回	音とまとまり (3)	音節構造の日英比較
第13回	音節構造と音声変化	英語の /l/
第14回	まとめ	基本概念、音節構造、音声変化の記述の復習、練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 予習は特に必要としませんが、積み重ねの授業ですので、各自で毎回、授業の復習を行うことが必要です。
- 授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
- 宿題の回答を頭の中で考えるだけでなく、書いてまとめることが求められます。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは学習支援システムにて配布します。

【参考書】

Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition*. Wiley-Blackwell.

【成績評価の方法と基準】

中間テスト・・・20％
学期末試験・・・80％

【学生の意見等からの気づき】

学生が理解を深められるよう、練習問題を時折、配布し、進めてまいります。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。配付資料閲覧のためにはPDFやWebサイト閲覧のための情報機器が必要です。

【その他の重要事項】

この授業は原則として「英語音声学B」と連続履修して下さい。

【Outline (in English)】

Course outline: This course provides students with a basic knowledge of English phonetics and phonology.

Learning Objectives: The goal of this course is to acquire basic knowledge of phonetic and phonology of Japanese and English, and understand how phonetic and phonological differences between Japanese and English affect the way native speakers of Japanese learn English.

Learning activities outside of classroom: It is necessary to review the class each time. Students are expected to study at least 4 hours a week outside of classroom.

Grading Criteria /Policy: Mid exam 20% Final exam 80%

LIN100BD（言語学 / Linguistics 100）

英語音声学 B

川崎 貴子

授業コード：A2920 | 曜日・時限：木2/Thu.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「英語音声学A」にて扱う音声学の基礎知識を前提として、英語、および日本語の音韻現象を学びます。主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するかを学びます。また、後半では英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。日本語と英語の音声学・音韻論の基礎知識を習得し、日本語と英語の音声学・音韻論の違いが日本語母語話者の英語学習にどのような影響を与えるかを理解することを目標とします。

【到達目標】

この授業では、「英語音声学A」で学んだ内容を発展させ、英語、および日本語の音声についてより発展的な内容を学び、英語・日本語の音韻変化、プロソディーについての知識を得ること。また、学んだ知識を応用し、日本語、および英語のデータを分析し、その中に規則性を見だし、記述できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するかを学びます。後半では、英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	音声学の基礎 (1)	日・英の子音・母音
第2回	音声学の基礎 (2)	音節構造・モーラなど
第3回	音声規則 (1)	音素・音声変化の記述
第4回	音声規則 (2)	英語の音声変化—気音化
第5回	音声規則 (3)	英語の音声変化—flapping
第6回	モーラと母音	Minimal word と英語の母音
第7回	中間テスト& 日本語のプロソディー	中間テスト& モーラとアクセント
第8回	英語のプロソディー (1)	英語の音節タイプとストレス
第9回	英語のプロソディー (2)	英語のストレスルール
第10回	借用語と音韻変化	借用過程における変化
第11回	日本語のアクセント	アクセントと意味変化
第12回	外来語とアクセント	外来語アクセント規則
第13回	ESL データ分析	日本語話者による英語発話エラー分析
第14回	まとめ	音声規則、モーラ、プロソディーに関する練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 授業内容の復習をすることがとても重要です。
- また、「英語音声学A」の知識を前提とした内容になりますので、必ず「英語音声学A」の内容を復習し、確認しつつ授業に臨んでください。
- 授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
- 宿題の回答を頭の中で考えるだけでなく、書いてまとめることが求められます。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは学習支援システムにて配布いたします。

【参考書】

Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition*. Wiley-Blackwell.

【成績評価の方法と基準】

中間テスト...20 %
学期末試験...80 %

【学生の意見等からの気づき】

英語音声学Aとの連続履修をするよう指示しているが、Aを履修せずに追いつかない学生もいるようです。途中で各自の理解を確かめられるよう、中間テストを行うように変更しました。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。配付資料閲覧のためにはPDFやWebサイト閲覧のための情報機器が必要です。

【その他の重要事項】

この授業の内容は「英語音声学A」で学ぶ内容を発展させたものとなります。「英語音声学A」（木曜日）と連続履修して下さい。

【Outline (in English)】

This course further explores English and Japanese phonetics and phonology.

Course outline: This course provides students with a basic knowledge of English phonetics and phonology.

Learning Objectives: The goal of this course is to acquire basic knowledge of phonetics and phonology of Japanese and English, and understand how phonetic and phonological differences between Japanese and English affect the way native speakers of Japanese learn English.

Learning activities outside of classroom: It is necessary to review the class each time. Students are required to study at least four hours outside of classroom.

Grading Criteria /Policy: Final exam 100%

LIT200BC (文学 / Literature 200)

英語・言語学特殊講義 A

塩田 雄大

授業コード：A2923 | 曜日・時限：水 1/Wed.1
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語を研究する観点として、「言語そのもの」の構造を明らかにしようとするものと、「現実の社会とのかかわりの中で、言語がどのように使われているか」に注目するものがある。当講義では、この前者と後者を行きつ戻りつしながら、日本語学そして言語学の一端を（広く薄く）概観しようとするものである。

この講義で取り扱うテーマは非常に多岐にわたり、音声言語（音声日本語）に限らず、視覚言語（日本手話）についても考察を進める。毎回の課題準備と、学生諸君からの意見の紹介・検討を通して、「いま・現在」のことばの使われ方を、各自が知恵を絞って考えてゆく。（履修者の状況に応じて、内容を適宜変更する場合がある）

【到達目標】

日本語学的・言語学的な「ものの見方・考え方」ができるようになる。履修前と履修後でことばをめぐる風景が異なっているように見え、最終的には自分で選んだテーマによるしっかりしたレポートを仕上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講師による説明・解説だけではなく、学生諸君から寄せられた成果・意見の紹介を積極的におこなう。また、各自のPC・タブレット等を用いたアンケートや意見収集を講義中または講義時間外に実施することがある。課題等の提出・フィードバックは、Google フォームおよび学習支援システムを通じておこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義全般、および取り上げる概要の説明
第2回	音声・音韻(1)	母音、子音、連濁 ほか
第3回	音声・音韻(2)	モーラ、アクセント ほか
第4回	手話言語(1)	手話は世界共通か、手話に「文法」はあるのか ほか
第5回	手話言語(2)	手話単語の音韻、非手指表現、バリエーション ほか
第6回	方言・社会言語学(1)	地域方言、社会方言 ほか
第7回	方言・社会言語学(2)	言語接触、スタイル、インターアクション ほか
第8回	認知言語学(1)	全称量化と存在量化 ほか
第9回	認知言語学(2)	きもちの文法、体験と知識 ほか
第10回	語用論(1)	ことばの意味と話し手の意味 ほか
第11回	語用論(2)	世間話の意味 ほか
第12回	日本語史	動詞の活用、です・ますの成立 ほか
第13回	心理言語学	語・文法・第二言語の獲得 ほか
第14回	ふりかえり	講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題の事前準備（テキスト該当箇所の要約および批判的検討）・提出を毎回求める予定である。事前準備等には毎回ある程度のまとまった時間（標準的には4時間以上）が必要であるはずなので、その旨承知されたい。

【テキスト（教科書）】

『よくわかる言語学』（窪田晴夫編、ミネルヴァ書房、2019年、2860円）

<https://www.minervashobo.co.jp/book/b472725.html>

※上記、履修者は必ず購入のうえ持参すること。テキストなしでの受講は不可。

【参考書】

一般論として、書籍はできるかぎり購入して自分のものにしておくこと。すぐに読めなくてもかまわない。そのなかに、いずれ役に立つものが出てくる。学生時代に三千円の投資をケチる人は、その後に三千円以上の損をすることになる。

関連する文献は講義内で適宜紹介するが、下記、例をいくつか掲げておく。

- （1）『ことばの力学 ―応用言語学への招待』（白井恭弘、岩波書店、2013年）
- （2）『子どもに学ぶ 言葉の認知科学』（広瀬友紀、筑摩書房、2022年）
- （3）『新世代の言語学 ―社会・文化・言語をつなぐもの』（飯野公一ほか 編著、くろしお出版、2003年）
- （4）『その一言が余計です。』（山田敏弘、筑摩書房、2013年）
- （5）『改訂新版 はじめての手話』（木村晴美・市田泰弘、生活書院、2014年）

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の事前準備課題 30 %
- ・最終レポート 70 %

課題および最終レポートに関しては、剽窃・無断引用が不可であるのはもちろん、テキストの内容のみや、講義内で講師が提示した内容のみを記したのも、不可となる。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、手話言語への理解を深める目的で、簡単な日本手話の練習を講義内でおこなったが、これがためになったという意見が寄せられた。今年度も、講義末尾等の時間で練習をおこなう予定である。

【学生が準備すべき機器他】

各自が使用するメールアドレスは原則として法政大学のアカウントとする。全員への連絡事項および資料配付は基本的に学習支援システムを用いておこなう予定である。紙資料は配付しないため、毎回の受講時には【PCまたはタブレット】を持参するのが望ましい（スマホのみだと配付資料が読みにくいはず）。

【その他の重要事項】

▼質問・相談は、講義終了後、あるいは学習支援システム上に随時受け付ける。

▼本講義の受講にあたっては英語の能力を前提としておらず、日本語の知識だけで十分である。

▼耳の聴こえて苦労している学生の履修も当然歓迎するので、ぜひ申し出られたい。

▼この講義は毎回の事前準備が必要であり、決して「楽な」講義ではない。知的好奇心の高い学生、なにかを真剣に知ろうとする学生が集まって知恵を寄せ合い、満足度の高い時間を共有することを目指したい。こうした考えに共感する学生の履修を、強く希望する。

【Outline (in English)】

＊ ＊ Course outline ＊ ＊

To study linguistics, there are two kinds of viewpoint, one is to clarify the structure of "the language itself", and the another one is to research "how the language is used in the real context of society". This lecture attempts to give an overview of some aspects of (Japanese) linguistics, moving back and forth between the former and the latter.

The topics covered in this lecture are very diverse, and are not limited to spoken language (spoken Japanese), but also include visual language (Japanese Sign Language).

＊ ＊ Learning Objectives ＊ ＊

The students are expected to be able to see and think about things in terms of (Japanese) linguistics.

＊ ＊ Learning activities outside of classroom ＊ ＊

Students will be expected to prepare and submit assignments in advance (summarizing and critically reviewing the relevant sections of the textbook). Please be aware that a certain amount of time (typically 4 hours or more) will be required for preparation each time.

＊ ＊ Grading Criteria /Policy ＊ ＊

Preparatory work for each class (30%), and final report (70%).

Plagiarism and unauthorized quotations are not

allowed in the assignments and final report, nor is writing only on the content of the textbook or the content presented by the instructor in the lecture.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

英語・言語学特殊講義 B

塩田 雄大

授業コード：A2924 | 曜日・時限：水 1/Wed.1
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語を研究する観点として、各言語のいわゆる「標準語」に焦点を当てて分析を進める姿勢が一つにある。しかし、当然のことだが、各言語は「標準語」だけから成り立つものではない。当講義では、日本語の「標準語」と「方言」の両方を射程に入れて、おもに音声面および文法面の特性の一端を概観しようとするものである。

この講義で取り扱うテーマは、音声および文法に関して多岐にわたる。毎回の課題準備と、学生諸君からの意見の紹介・検討を通して、「いま・現在」の標準語・方言の使われ方を、各自が知恵を絞って考えてゆく。(履修者の状況に応じて、内容を適宜変更する場合がある)

【到達目標】

標準語および方言を視野に入れた「ものの見方・考え方」ができるようになる。履修前と履修後でことばをめぐる風景が異なって見えるようになり、最終的には自分で選んだテーマによるしっかりしたレポートを仕上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講師による説明・解説だけではなく、学生諸君から寄せられた成果・意見の紹介を積極的におこなう。また、各自のPC・タブレット等を用いたアンケートや意見収集を講義中または講義時間外に実施することがある。課題等の提出・フィードバックは、Google フォームおよび学習支援システムを通じておこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義全般の説明、基本的な問題の提示
第2回	母音と子音	発音のしくみ ほか
第3回	五十音図と特殊拍	「ん」とは、「っ」とはどんな音か ほか
第4回	アクセント	「箸を持って橋の端を渡る」はどう発音するか ほか
第5回	形態素	「酒（さけ）」と「酒屋（さかや）」の形態論 ほか
第6回	語と句	「古い新聞」と「古新聞」は同じか ほか
第7回	格ととりたて	「屋根まで飛んだ」は何が飛んだのか ほか
第8回	複文	「ボタンを〔押せば／押すと／押したら〕ジュースが出てくる」 ほか
第9回	活用	「早く〔しゃべれ／しゃべろ〕」ほか
第10回	ヴォイス	「恋人にふられた」と「雨に降られた」 ほか
第11回	アスペクト、テンス	「このあと、授業あった？」は過去形なのか ほか
第12回	モダリティ	話し手の「気持ち」を表す言語要素 ほか
第13回	待遇表現	敬語の体系 ほか
第14回	ふりかえり	講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題の事前準備（テキスト該当箇所の課題回答と批判的検討）・提出を毎回求める予定である。事前準備等には毎回ある程度のまとまった時間（標準的には4時間以上）が必要であるはずなので、その旨承知されたい。

【テキスト（教科書）】

『ワークブック 方言で考える日本語学』（松丸真大ほか、くろしお出版、2023年、1650円）
https://www.9640.jp/book_view/?934
※履修者は必ず購入のうえ持参すること。テキストなしでの受講は不可。

【参考書】

一般論として、書籍はできかぎり購入して自分のものにしておくこと。すぐに読めなくてもかまわない。そのなかに、いずれ役に立つものが出てくる。学生時代に三千円の投資をケチる人は、その後に三千円以上の損をすることになる。
関連する文献は講義内で適宜紹介するが、下記、例をいくつか掲げておく。
(1)『方言学入門』（木部暢子ほか編著、三省堂、2013年）
(2)『はじめて学ぶ方言学』（井上史雄ほか編著、ミネルヴァ書房、2016年）

(3)『実践方言学講座 第1巻 社会の活性化と方言』（半沢康・新井小枝子編著、くろしお出版、2020年）
(4)『新・方言学を学ぶ人のために』（徳川宗賢ほか編、世界思想社、1991年）

【成績評価の方法と基準】

・毎回の事前準備課題 30 %
・最終レポート 70 %

課題および最終レポートに関しては、剽窃・無断引用が不可であるのはもちろん、テキストの内容のみや、講義内で講師が提示した内容のみを記したのも、不可となる。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、方言への理解を深める目的で、簡単な沖縄語（沖縄方言）の練習を講義内でおこなったが、これがためになったという意見が寄せられた。今年度も、講義末尾等の時間で練習をおこなう予定である。

【学生が準備すべき機器他】

各自が使用するメールアドレスは原則として法政大学のアカウントとする。全員への連絡事項および資料配付は基本的に学習支援システムを用いておこなう予定である。紙資料は配付しないため、毎回の受講時には【PCまたはタブレット】を持参するのが望ましい（スマホのみだと配付資料が読みにくいはず）。

【その他の重要事項】

▼質問・相談は、講義終了後、あるいは学習支援システム上に随時受け付ける。

▼本講義の受講にあたっては英語の能力を前提としておらず、日本語の知識だけで十分である。また、首都圏以外の地域の方言を持つ学生は特に積極的に履修してほしい。

▼耳の聴こえて苦勞している学生の履修も当然歓迎するので、ぜひ申し出られたい。

▼この講義は毎回の事前準備が必要であり、決して「楽な」講義ではない。知的好奇心の高い学生、なにかを真剣に知ろうとする学生が集まって知恵を寄せ合い、満足度の高い時間を共有することを目指したい。こうした考えに共感する学生の履修を、強く希望する。

【Outline (in English)】

＊ ＊ Course outline ＊ ＊

One perspective on studying languages is to focus on the so-called 'standard language' of each language. However, as a matter of course, each language does not consist only of a 'standard language'. This lecture attempts to give an overview of some of the main phonetic and grammatical characteristics of both the 'standard' and 'dialects' of the Japanese language.

＊ ＊ Learning Objectives ＊ ＊

The students are expected to be able to 'see and think things' with a view to standard and dialectal languages.

＊ ＊ Learning activities outside of classroom ＊ ＊

Students will be expected to prepare and submit assignments in advance (answering the assignments and critically reviewing the relevant sections of the textbook). Please be aware that a certain amount of time (typically

4 hours or more) will be required for preparation each time.

＊ ＊ Grading Criteria /Policy ＊ ＊

Preparatory work for each class (30%), and final report (70%).

Plagiarism and unauthorized quotations are not allowed in the assignments and final report, nor is writing only on the content of the textbook or the content presented by the instructor in the lecture.

LIN300BD（言語学 / Linguistics 300）

英語学演習(1) A

福元 広二

授業コード：A2935 | 曜日・時限：火5/Tue.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語学に関する教科書を読み、単なる「理解」から「研究」に発展させていくことをめざします。教科書や参考文献に述べられていることを正しいこととして、無前提に受け入れるのではなく、常に「本当にそうなのか？ 何故そうなのか？」と疑問を持ちながら学習し、研究ができるようになることを目標とします。

【到達目標】

この授業を受講することで、学生は既存の学説を受け入れるだけでなく批判的に学ぶことができるようになります。自らの『仮説』を立て、その正しさを証明していく手順を身につけることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書は担当者を決めて発表してもらいます。また、教科書の文章を学生が順番に、その内容について発表します。それに基づいてクラス全体でディスカッションします。

これとは別に受講生個々に、自分の研究テーマを探してもらいます。受講者各自がもっとも興味を持ったテーマに関して自由に調べて、タームペーパーを作成する準備をしてもらいます。トピックに関して、プレゼンテーションもしてもらいます。プレゼンテーションやタームペーパーの技法に関しても指導する予定です。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態についてはHoppiiで連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方について
第2回	卒論準備（1）	卒論テーマと先行研究について発表（1）
第3回	卒論準備（2）	卒論テーマと先行研究について発表（2）
第4回	教科書 プレゼンテーション(1)	第1章
第5回	教科書 プレゼンテーション(2)	第2章
第6回	教科書 プレゼンテーション(3)	第3章
第7回	教科書 プレゼンテーション(4)	第4章
第8回	教科書 プレゼンテーション(5)	第5章
第9回	教科書 プレゼンテーション(6)	第6章
第10回	教科書 プレゼンテーション(7)	第7章
第11回	教科書 プレゼンテーション(8)	第8章
第12回	プレゼンテーション(2)	3年生の研究発表（1）前半
第13回	プレゼンテーション(3)	3年生の研究発表（2）後半
第14回	春学期のまとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げる教科書や論文などに関しては、内容をきちんと把握して、授業にのぞむ必要があります。また、担当者でない場合も必ず予習してください。内容に関して、自分なりに批判的に読むという態度も養うように努めてください。

辞書を常に手元に置いて活用すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Crystal, David (2017) Making Sense: The Glamorous Story of English Grammar (Profile Books) ペーパーバック

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

発表、ディスカッションへの参加、プレゼンテーション、タームペーパーで、総合的に判断します。（タームペーパー40％、平常点60％）

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業は春学期・秋学期と別れた形式になっていますが、内容を見るとわかるように、当然ながら、春学期だけ履修したり、春学期を履修せず秋学期から履修しても意味がありません。留学などの事情で春学期だけを履修したり、秋学期から履修するという場合を除いて、原則としてA・Bと通年で履修してください。

また、4年生の卒業論文に関しての重要な連絡や全般的な注意事項の指導などは、この授業を通じて行います。各自留意してください。

初回の授業には必ず出席してください。やむを得ず欠席しなければならない場合には、欠席日と理由を必ず事前に連絡して下さい。

・授業に欠席する場合、教員に欠席する旨と欠席の理由をメールにて連絡して下さい。

4回以上欠席した場合はD評価となります。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to develop students' research skills. After successful completion of this course, students will be able to analyze different types of English sentences theoretically. This course also includes some tips for giving a good oral presentation in class and instructions for writing a good research paper.

The goal of this course is to give students the basic knowledge necessary to analyze English sentences.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grades will be calculated according to the following process:

Mid-term report (40%) and in-class contribution (60%)

LIN300BD（言語学 / Linguistics 300）

英語学演習(1) B

福元 広二

授業コード：A2936 | 曜日・時限：火5/Tue.5
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、初期近代英語期を代表する劇作家シェイクスピアの作品を読み解きながら、当時の英語（初期近代英語）の文法や言語的特徴を詳しく探ります。具体的には、音声、形態、統語、意味の4つの観点から分析を行い、現代英語との違いを学びます。これにより、英語の歴史的な発展とその背景について深い理解を深めることを目指します。

【到達目標】

この授業を受講することで、学生は初期近代英語の文法とその特徴を理解し、音声、形態、統語、意味の観点から分析するスキルを身につけることができます。また、初期近代英語と現代英語の違いを明らかにすることで、現代英語の成り立ちや構造を歴史的な視点から深く理解するとともに、英語の発展に関わる文化的・社会的背景についての知識を得ることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は担当者を決めて発表してもらいます。それに基づいてクラス全体でディスカッションします。

これとは別に受講生個々に、自分の研究テーマを探してもらいます。受講者各自がもっとも興味を持ったテーマに関して自由に調べて、タームペーパーを作成する準備をしてもらいます。トピックに関して、プレゼンテーションもしてもらいます。プレゼンテーションやタームペーパーの技法に関しても指導する予定です。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態についてはHOPPIIで連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方について
第2回	Shakespeareの英語についての概説	初期近代英語文法概説
第3回	作品講読（1）	1 幕（1）
第4回	作品講読（2）	1 幕（2）
第5回	作品講読（3）	1 幕（3）
第6回	作品講読（4）	1 幕（4）
第7回	作品講読（5）	2 幕（1）
第8回	作品講読（6）	2 幕（2）
第9回	作品講読（7）	2 幕（3）
第10回	作品講読（8）	2 幕（4）
第11回	作品講読（9）	8 章 pp. 166-172
第12回	プレゼンテーション（1）	3年生の研究発表(1)
第13回	プレゼンテーション（2）	3年生の研究発表(2) 卒論についての説明
第14回	秋学期のまとめ 4年 卒論発表会	授業の総まとめ 4年 卒論発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当者になった場合、割り当てられた箇所は精密に読んで、授業に臨むことが大事です。他のゼミ生からの質問に答えられるようにあらゆる角度から準備しておくことを心がけてください。

担当でない場合でも、必ず、事前に予習しておくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

喜志哲雄（編）『ヴェニスの商人』（大修館シェイクスピア双書）大修館 1996年

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

発表、ディスカッションへの参加、プレゼンテーション、タームペーパーで、総合的に判断します。（タームペーパー40%、平常点60%）

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業は春学期・秋学期と別れた形式になっていますが、内容を見るとわかるように、当然ながら、春学期だけ履修したり、春学期を履修せず秋学期から履修しても意味がありません。留学などの事情で春学期だけを履修したり、秋学期から履修するという場合を除いて、原則としてA・Bと通年で履修してください。

授業を通しての卒業論文に関しての連絡事項も増えていくので、授業は必ず出席すること。

初回の授業には必ず出席してください。やむを得ず欠席しなければならない場合には、欠席日と理由を必ず事前に連絡して下さい。

・授業に欠席する場合、教員に欠席する旨と欠席の理由をメールにて連絡して下さい。

・4回以上欠席した場合はD評価となります。

【Outline (in English)】

This course examines the works of Shakespeare, a representative playwright of the Early Modern English period, to explore the grammar and linguistic features of Early Modern English in detail. Specifically, students will analyze the language from the perspectives of phonology, morphology, syntax, and semantics, gaining insights into the differences between Early Modern English and Present-Day English. Through this, the course aims to foster a deeper understanding of the historical development of the English language and its cultural context.

The goal of this course is to give students the basic knowledge necessary to analyze English sentences.

Your study time will be more than four hours for a class.

Final grades will be calculated according to the following process:
term report (40%) and in-class contribution (60%)

LIN300BD（言語学 / Linguistics 300）

英語学演習(2) A

姓名 美智

授業コード：A2937 | 曜日・時限：木5/Thu.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、「語用論」の理論的枠組みを学び、様々な言語現象を分析する技術・能力・言語センスを身につける訓練をします。自分自身のコミュニケーションを見つめなおすヒントにもなるでしょう。

【到達目標】

この演習の目標は、まず「語用論」の理論的枠組みを実際のコミュニケーションの分析に応用した研究論文を批判的に読解できるようになることです。最終的な目標は、そうした言語分析の研究方法を自らの研究に応用し、研究論文が執筆できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は基本的には対面です。変更する場合は、Hoppiiで連絡します。担当を決めるので、履修する学生は必ず出席してください。まず（4年生には）復習と（3年生には）導入を兼ねて語用論の色々な理論を概観します。演習なので、基本的に、学生の発表と質疑応答で進んでいきます。毎時間、テキストの担当者を決めて、3人ずつ発表してもらいます。発表者は、担当箇所についてレジュメやパワーポイントを使って、みんなの前で15分～20分程度のプレゼンテーションをします。引き続き質疑応答とディスカッションをし、最後に教員が補足説明をしてまとめます。テキストの最初の方は重要なので、担当者に全文和訳をしてもらうことになると思います。初回に履修ガイダンスをしますので、必ず第一回目の授業に出席してください。オフィスアワーに、研究の仕方、レポートのコンサルテーションをします。リアクションペーパーは毎時間、提出していただきます。授業の初めに、前回の授業に提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究領域の概説と履修条件について
第2回	Chapter 1: Definition	語用論の理論の概説
第3回	Chapter 2: Deixis	学生による演習と議論
第4回	Chapter 2: Distance	学生による演習と議論
第5回	Chapter 3: Reference	学生による演習と議論
第6回	Chapter 3: Inference	学生による演習と議論
第7回	Chapter 4: Presupposition	学生による演習と議論
第8回	Chapter 4: Entailment	学生による演習と議論
第9回	Chapter 5: Cooperation	学生による演習と議論
第10回	Chapter 5: Implicature	学生による演習と議論
第11回	Chapter 6: Speech acts	学生による演習と議論
第12回	Chapter 6: Speech events	学生による演習と議論
第13回	Chapter 7: Politeness and interaction	学生による演習と議論
第14回	復習	春学期のまとめ、これまでの授業のまとめに加え、レポート等、課題に対する講評や解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、授業で扱う予定の箇所を必ず読んで、和訳できるように予習をして授業に臨む必要があります。準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

George Yule (1996)*Pragmatics*, (Oxford Introduction to Language Study). Oxford: Oxford University Press 各自、アマゾン等で入手してください。

【参考書】

語用論に関する文献を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席は毎回とり、3回以上欠席した学生は、それ以降の受講資格を失います。成績は、発表2割、レポート8割で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

レポートの執筆指導とフィードバックを丁寧に行い、卒論執筆にスムーズに進めるように指導します。オフィス・アワーは、今年度もひきつづき4年生の論文執筆のためのコンサルテーションのために主に使いますが、3年生の相談にも喜んでのりますので、遠慮をしないで研究室に来て下さい。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、ハンドアウト

【その他の重要事項】

単位取得のためには、必ず秋学期の英語学演習(2)Bを引き続き履修しなければなりません。

また椎名に卒論を指導してほしい4年生は、単位に関係なく必ず履修してください。この演習は卒論指導に関して学生と教員が連絡をとる場でもあります。卒論に関する重要な連絡はすべてこの授業の前後に行われるので、履修していないと、実質的に卒論指導が受けられません。よって、木曜6限も空けておいてください。積極的にゼミとゼミ関連の活動に参加する学生にだけ履修してほしいタイプのゼミです。

オフィスアワーは木曜4限です。事前に予約メールをください。授業で詳しく説明します。

3年生は「履修ゼミ」として履修してください。10人のみ履修を許可します。初回の授業で選抜をするので、履修したい学生は必ず初回の授業に出席してください。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire linguistic knowledge on pragmatics and discourse analysis. The students need two hours for preparation and review for the class. Presentation (20%) and term paper (80%) for grading.

LIN300BD（言語学 / Linguistics 300）

英語学演習(2) B

椎名 美智

授業コード：A2938 | 曜日・時限：木5/Thu.5
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、春学期に学習した「語用論」の理論的枠組みを基礎にして、ボライイトネスとインボライイトネスに焦点を向けて、様々な言語現象を分析する技術・能力・言語センスを身につける訓練をします。自分自身のコミュニケーションを見つめなおすヒントにもなるでしょう。

【到達目標】

この演習の目標は、まず「語用論」の理論的枠組みを実際のコミュニケーションの分析に応用した研究論文を批判的に読解できるようになることです。最終的な目標は、そうした言語分析の研究方法を自らの研究に応用し、研究論文が執筆できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は基本的に対面です。変更する場合はHoppiで連絡します。春学期に引き続き、学生の発表と質疑応答で進んでいきます。毎時間、テキストの担当者を決めて、3人ずつ発表してもらいます。担当の学生に全文を和訳してもらうことになると思います。発表者は、担当箇所についてレジュメやパワーポイントを使って、みんなの前で15分～20分程度のプレゼンテーションをします。引き続き質疑応答とディスカッションをし、最後に教員が補足説明をしてまとめます。

学生の要望があれば、ゲスト・スピーカーにコミュニケーションについてレクチャーをしてもらい、学生がプロジェクト発表をする機会を設けることもあります。

オフィスアワーに、勉強の仕方、発表の内容、レポートのコンサルテーションをします。

リアクションペーパーは毎時間、提出していただきます。授業の初めに、前回の授業に提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の復習
第2回	Chapter 8: Conversation	学生による演習と議論
第3回	ママ友の対立場面におけるイン／ボライイトネス分析	学生による演習と議論
第4回	バラエティ番組における毒舌トーク	学生による演習と議論
第5回	身体の政治・ジェンダーイン／ボライイトネス	学生による演習と議論
第6回	気配りから見るイン／ボライイトネス	学生による演習と議論
第7回	意地を張り合う人びと	学生による演習と議論
第8回	シェイクスピア時代のコメディを分析する	ここまでの内容の総括と復習
第9回	ボライイトネス理論と文学研究をつなぐ	学生による自主的プロジェクトの発表と、講演者のトーク
第10回	ゲストスピーカーによる講演	学生による自主的プロジェクトの発表と、講演者のトーク
第11回	学生によるプロジェクトとゲストスピーカーによる講演	学生による自主的プロジェクトの発表と、講演者のトーク
第12回	復習	プロジェクトの総括と復習
第13回	卒論発表会（1）	4年生による卒論発表とフィードバック
第14回	卒論発表会（2）	4年生による卒論発表とフィードバック、これまでの授業のまとめに加え、レポート等、課題に対する講評や解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う予定の箇所に目を通してきてください。準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

（春セメスターの続き）George Yule (1996) *Pragmatics* (Oxford Introductions to Language Study). Oxford: Oxford University Press.

秋セメスター：滝浦真人・椎名美智（共編）（2023）『イン／ボライイトネス：からまるぜんいと悪意』ひつじ書房
各自アマゾン等で入手してください。

【参考書】

滝浦真人（2008）『ボライイトネス入門』研究社

【成績評価の方法と基準】

出席は毎回とり、3回以上欠席した学生は、それ以降の受講資格を失います。発表2割、レポート8割で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

レポートの執筆指導とフィードバックを丁寧に行い、卒論執筆にスムーズに進めるように指導します。オフィス・アワーは、今年度もひきつづき4年生の論文執筆のためのコンサルテーションのために主に使いますが、3年生の相談にも喜んでのりますので、遠慮をしないで研究室に来て下さい。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、ハンドアウト

【その他の重要事項】

- ・できれば秋セメスター、木曜3限の「英語・言語学講義A」を履修してください。
- ・単位取得のためには、必ず春学期の英語学演習(2)Aを前もって履修しておかなければなりません。秋学期のみの単独の履修はできません。
- ・椎名に卒論指導を希望する4年生は、単位に関係なく必ず履修してください。卒論に関する重要な連絡はすべてこの授業の前後に行われるので、履修していないと、実質的に卒論指導が受けられません。また最終の二回の授業は4年生による卒論発表会です。全員からもらうフィードバックは論文を仕上げるための重要なヒントになります。ゼミの懇親会の参加は重要です。
- ・オフィスアワーは木曜3限です、事前に予約メールをください。授業で詳しく説明します。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire linguistic knowledge on pragmatics and discourse analysis. Especially we will focus on politeness and impoliteness in our everyday conversation. The students need two hours for preparation and review for the class. Presentation (20%) and term paper (80%) for grading.

LIN300BD (言語学 / Linguistics 300)

言語学演習(1) A

石川 潔

授業コード：A2939 | 曜日・時限：月4/Mon.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各自の興味ある研究テーマをどのように追及・発展できるかを考えます。そのために、認知科学での研究の実例を眺め、また、紙ベースでの実験研究の練習をしてみます。

【到達目標】

興味あるテーマでの研究の具体化
実験実施方法のごく入門レベルの知識の獲得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各自の研究テーマなどの発表、グループで選んだ論文の発表（解説）、実験法の実習を行います（一部、講義あり）。

授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性がありますし、あるべきだと考えますが、いずれにせよ、学生の発表・実習がメインです。

それぞれの発表にはコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の説明、自己紹介
第2回	言語学文献研究1	ビブリオ・バトル1
第3回	図書館ガイダンス（日程変更の可能性、大）	文献検索の仕方など
第4回	言語学文献研究2	ビブリオ・バトル2
第5回	4年生の卒論テーマ発表1	問い+研究方法の発表1
第6回	4年生の卒論テーマ発表2	問い+研究方法の発表2
第7回	4年生以外の「疑問」の発表1	問いへのコメント、そして研究方法についてのヘルプを求める1
第8回	4年生以外の「疑問」の発表2	問いへのコメント、そして研究方法についてのヘルプを求める2
第9回	実験設計の基本1	統制条件、順序効果、ラテン方格法
第10回	実験設計の基本2	課題と従属変数の種類、刺激作成
第11回	論文の発表1	チームごとに選んだ論文の解説1
第12回	論文の発表2	チームごとに選んだ論文の解説2
第13回	実験結果の分析	持ち寄った実験結果のパソコンでの分析
第14回	まとめ	学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表準備、他の人の発表にコメントできるような予習、そして復習。

また、授業外での紙ベースでの実験実施。

なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて配布予定。

【参考書】

授業内で適宜ご紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %

発表点 40 %

take-home exam 20%

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の関心を大切にすると同時に、なるべくたくさん、皆と一緒に作業・議論したいと思っています。

【その他の重要事項】

授業に欠席する場合、教員に理由と欠席の旨をメールにて連絡して下さい。事前に連絡なく3回を超えて欠席した場合には、D評価となります。

原則として「言語学演習(1) B」と連続履修してください。

また、大学院修士科目「言語科学方法論A」の並行履修を、強く強く推奨します。

【Outline (in English)】

(Course outline) We will examine how our rather abstract research interests can be converted to specific, workable research projects, through discussions of each student's interests, browsing "published" papers, and a practice in paper-based controlled experimentation.

(Learning Objectives) To develop specific research project, and to acquire very introductory skills for designing and conducting controlled (paper-based) experiments.

(Learning activities outside of classroom) To prepare for presentations and participation in the classroom discussion, and to conduct a paper-based experiment (to be built in the classroom).

(Grading Criteria/Policy) Participation (40%); presentations (40%); take-home exam (20%)

LIN300BD（言語学 / Linguistics 300）

言語学演習(1) B

石川 潔

授業コード：A2940 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

説得力のある主張をするための情報収集や論理構成の練習をします。
また、グループに分かれての研究プロジェクトの実践練習をします。
また、紙ベースでなくオンラインでの実験実施の実習をします。

【到達目標】

説得術およびオンライン実験法の習得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各自の卒論計画の発表、グループでの研究プロジェクトの実施、「説得」術の実習、そしてオンライン実験の実習を行います。

授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性がありますし、あるべきだと考えますが、いずれにせよ、学生の発表・実習がメインです。

それぞれの発表にはコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	春学期の復習、および秋学期の全体の準備
第2回	卒論中間発表／テーマ発表1	4年生による発表1
第3回	卒論中間発表／テーマ発表2	4年生による発表2
第4回	グループ・プロジェクト中間発表1	グループでの研究計画の発表1
第5回	グループ・プロジェクト中間発表2	グループでの研究計画の発表2
第6回	オンライン実験の導入	様々なツールの紹介、および実習のための先行研究紹介
第7回	オンライン実験実習	画面のデザイン、フローとループの制御
第8回	「説得」演習1	チームに分かれての「説得」実習1
第9回	「説得」演習2	チームに分かれての「説得」実習2
第10回	グループ・プロジェクトの結果1	グループでの研究の結果の報告1
第11回	グループ・プロジェクトの結果2	グループでの研究の結果の報告2
第12回	4年生の卒論のための時間	卒論のデータ分析
第13回	言語学文献研究	ビブリオ・バトル
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表準備、グループでの研究プロジェクトの実施。
なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教室にて配布します。

【参考書】

授業内で適宜ご紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %

発表・実習参加点 50 %

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の関心を大切にすると同時に、なるべくたくさん、皆と一緒に作業・議論したいと思っています。

【その他の重要事項】

授業に欠席する場合、教員に理由と欠席の旨をメールにて連絡して下さい。
事前に連絡なく3回を超えて欠席した場合には、D評価となります。

原則として「言語学演習(1) A」と連続履修してください。欠席するときは理由を明記の上、事前に教員に連絡してください。

【Outline (in English)】

(Course outline) Students will be engaged in collaborative pilot research projects on the one hand, and will be trained in persuasion skills as well as online experimentation techniques on the other.

(Learning Objectives) To acquire persuasion skills and online experimentation skills.

(Learning activities outside of classroom) To execute collaborative research projects; to prepare for "persuasion" presentations.

(Grading Criteria /Policy) Participation (50%); presentations (50%)

LIT300BD（文学 / Literature 300）

言語学演習(2) A

川崎 貴子

授業コード：A2941 | 曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が知らず知らずのうちにやっている言語処理や言語習得を、身近な事例を通して学びます。言語学・言語習得に関する論文を読み、発表することにより、言語学・言語習得の分野の研究手法を学ぶことを目的とします。

【到達目標】

音声学・音韻論・心理言語学の基礎的な知識を身につけることにより、身の回りの言語現象を分析できる力を身につけることを目標とします。自らの研究・調査内容を、十分に理解し、他者に分かりやすく提示する力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教員、およびテーマによってはゼミ学生がその日のテーマに関する発表・講義を行いながら授業を進めます。
授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かせます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の説明・自己紹介
第2回	テーマ紹介	自己紹介プレゼン・研究テーマ紹介
第3回	音声による言語処理 (1)	音声・音韻論についての基本講義
第4回	音声による言語処理 (2)	音声・音韻論と言語処理についてー論文発表(1)
第5回	音声による言語処理 (3)	音声・音韻論と言語処理についてー論文発表(2)
第6回	第二言語と音声コミュニケーション(1)	学生による発表(L2と音声コミュニケーション)(1)
第7回	第二言語と音声コミュニケーション(2)	学生による発表(L2と音声コミュニケーション)(2)
第8回	第二言語と音声コミュニケーション(3)	学生による発表(L2と音声コミュニケーション)(3)
第9回	言語学文献研究1	ビブリオバトル1
第10回	言語学文献研究2	ビブリオバトル2
第11回	グループ発表準備	選択した論文のポスター発表準備
第12回	グループごとのポスター発表	選択した論文のポスター発表準備
第13回	卒論テーマ発表1	4年生による卒論テーマ発表
第14回	卒論テーマ発表2	4年生による卒論テーマ発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ー発表準備、授業の予習、復習が必要です。各自2度の発表回数があります。（自己紹介を除く。）

ー授業で指示される文献を読んできていただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

読むべき論文は授業内で指示します。

【参考書】

授業内で適宜ご紹介致します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加による貢献・・・30%

授業内発表・・・40%

課題・・・30%

発表資料などは授業課題とします。期限内に必ず提出してください。

●遅刻・欠席は必ずメールにてご連絡ください。

●事前に連絡なく3回を超えて欠席した場合には、D評価となります。

【学生の意見等からの気づき】

グループ発表でより良い研究手法を話し合うことが卒論にも生きてきたのではないかと思います。引き続きより効果的な議論の方法を考えていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。また、状況によっては、Zoomで授業を行うことがあります。

【その他の重要事項】

・初回の授業には出席してください。やむを得ず欠席しなければならない場合には、欠席日と理由を必ず事前にご連絡下さい。

・ゼミ生（演習受講生）は授業に欠席する場合、教員に理由と欠席の旨をメールにて連絡して下さい。

・原則として、所属生のみ履修可です。

・言語学演習（2）Bと連続して履修して下さい。

【Outline (in English)】

The goal of this course is to provide an introduction to research methods and practices in linguistics.

Learning Objectives:

By acquiring basic knowledge of phonetics and psycholinguistics, students will acquire the ability to analyze linguistic phenomena and to present the content of their own research to others.

Students are required to spend at least four hours studying outside the classroom.

Grading Criteria:

In-class participation: 30%

Presentation: 40%

Assignments:30%

LIT300BD（文学 / Literature 300）

言語学演習(2) B

川崎 貴子

授業コード：A2942 | 曜日・時限：金2/Fri.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第二言語音韻習得・言語心理学を学びます。また、日常の言語現象を取り上げ、理論的に考えていきます。

【到達目標】

日常の様々な言語データを分析的に見る力を養い、卒業論文につながるテーマを見つけることを目標とします。目的・方法・結果・分析・結論という、論文の構成を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期に引き続き、日常の言語現象を分析することを通じて、第二言語習得・音韻論・言語処理の基礎を学び、研究テーマを見つけていただこうと考えております。学生の発表、グループディスカッションを通して、それぞれの履修者が新たな問いを発見してくれればと思います。

授業で提出されたりアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の説明・グループ分け・導入説明
第2回	学生による研究論文の発表	グループでの研究論文の発表
第3回	グループ研究	グループ研究の計画
第4回	データ分析1	データ分析演習1
第5回	データ分析2	データ分析演習2
第6回	聴覚・視覚・記憶（1）	3年生による発表1
第7回	聴覚・視覚・記憶（2）	3年生による発表2
第8回	聴覚・視覚・記憶（3）	3年生による発表3
第9回	卒論発表1	4年生による研究発表（1週目）
第10回	卒論発表2	4年生による研究発表（2週目）
第11回	教員の研究発表	担当教員による研究発表
第12回	グループ研究の発表（1）	グループ研究のリハーサル・フィードバック
第13回	グループ研究の発表（2）	グループ研究
第14回	第二言語習得	音韻のL2習得・教育への応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

－発表準備、授業の予習、復習が必要です。各自2度の発表回数があります。担当者は発表の資料を作成する必要があります。

－毎回、授業で指示される文献を読んできて、議論に参加していただきたいと思います。

－本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で使用する論文などは、学習支援システムにアップロードする予定です。

【参考書】

授業内で適宜ご紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加による貢献・・・30%

授業内発表・・・30%

授業内課題・・・40%

といたします。

発表資料も授業課題とします。期限内に必ず提出してください。

遅刻・欠席の連絡は必ずお願いします。

事前に連絡無く3回を超えて欠席があった場合にはD評価といたします。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークを引き続き多く行ってまいります。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。また、状況によっては、Zoomで授業を行うことがあります。

【その他の重要事項】

原則として、春学期の言語学演習（2）Aと継続して履修して下さい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to provide an introduction to research methods and practices in linguistics.

Learning Objectives:

By acquiring basic knowledge of phonetics and psycholinguistics, students will acquire the ability to analyze linguistic phenomena and present the contents of their own research to others.

Students are required to study at least four hours outside of classroom.

Grading Criteria:

In-class participation: 30%

Presentation: 30%

Assignments・・・40%

LIT300BD（文学 / Literature 300）

英米文学演習(1) A

波戸岡 景太

授業コード：A2943 | 曜日・時限：火4/Tue.4
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代アメリカの文学作品やポップカルチャーについての文章を読みながら、作品の鑑賞方法と批評の書き方を学びます。扱うコンテンツは、小説、映画、漫画、ミュージカル、アニメーション、歌詞、ゲーム……と多岐にわたりますが、そのいずれもが「現代アメリカ文学」の重要な一部であることを理解し、新世代の創作原理を学びます。

【到達目標】

- ・自分の感想を大切にしながらも、客観的な作品評価ができるようになる。
- ・個々の作品の成立過程を、文学史や文化史を参照して調べられるようになる。
- ・アメリカ社会における「文学的なもの」の役割を理解できるようになる。
- ・現代における「芸術作品が持つ大衆性」を見抜けるようになる。
- ・現代における「大衆文化に潜む芸術性」を見抜けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の進行は、教員による「課題文の概説」、受講者が主体となった「課題解決型学習」、教員の指導に従って受講者が実施する「批評文の執筆」の3回を1セットとし、1学期に合計4セットを行います。提出された批評文については、まずは授業内で学生同士のフィードバックを行ない、最後に担当教員から総評を伝えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	自己紹介と自己分析
第2回	（概説）ヒップホップという文化を概観する	アメリカにおけるヒップホップの歴史を概観する
第3回	（学習）ヒップホップの作品から課題を採る	ヒップホップのリリック、パフォーマンス、アートのもつ物語性を検証する
第4回	（執筆）ヒップホップの作品について批評文を書く	概説の内容と学習で得た発見をもとに、400字程度の批評文を執筆する
第5回	（概説）アダプテーションの歴史を概観する	アメリカにおける文学と映画の影響関係を歴史的に概観する
第6回	（学習） <i>Ready Player One</i> から課題を採る	<i>Ready Player One</i> の小説と映画の比較からアダプテーション論の可能性を採る
第7回	（執筆） <i>Ready Player One</i> の批評文を書く	概説の内容と学習で得た発見をもとに、400字程度の批評文を執筆する
第8回	（概説）キャッチコピーと写真の歴史を概観する	文学／文化研究の立場から、資本主義社会のテキスト事情を概観する
第9回	（学習）20世紀アメリカの広告史を分析する	ジョン・ワナメーカーからターセムまでの広告史を分析する
第10回	（執筆）具体的な広告／CMについての批評文を書く	概説の内容と学習で得た発見をもとに、400字程度の批評文を執筆する
第11回	（概説）環境文学史を概観する	環境文学批評（エコクリティシズム）の観点からアメリカの文学史を概観する
第12回	（学習）マルチ・スピーシーズ物語を分析する	Ursula Heiseの研究書を読解する
第13回	（執筆）マルチ・スピーシーズ物語の批評文を書く	概説の内容と学習で得た発見をもとに、各自で400字程度の批評文を執筆する
第14回	まとめ／期末試験	各セットで執筆した批評文4本の中から1本を清書し、小論文を執筆する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で使用する教材データは事前にオンラインで配付しますので、「課題文の概説」の回には課題文（英語）の語彙調べを行い、「課題解決型学習」の回には参考資料の確認をし、そして「批評文の執筆」の回にはあらかじめ授業で執筆する内容を箇条書きにしておいてください（これらの作業を十全に実施するためには、2時間ほどが必要です）。また、各授業の後には、授業内容の復習（1時間）と、映像資料の視聴（1時間）を行ってください。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を各授業のはじめに配布します。

【参考書】

Cline, Ernest. *Ready Player One: A Novel*. Random House. 2012.
 Heise, Ursula K. *Imagining Extinction: The Cultural Meanings of Endangered Species*. U of Chicago P, 2016.
 大和田俊之『アメリカ音楽史：ミンストレル・ショウ、ブルースからヒップホップまで』（講談社、2011）
 杉野健太郎他『アメリカ文学と映画』（三修社、2019）

【成績評価の方法と基準】

学習状況にもとづく平常点（20％）、各セットで執筆した批評文4本の評価（30％）、最終回に作成した期末レポート（50％）を合計し、60％以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

昨今の文学研究が対象とする「テキスト」という概念の幅広さについて、本授業を通じて初めて気がついたという声が多かったため、今年度も一般に文学とみなされにくいテキストを多角的に分析することで、研究／批評のおもしろさをともに学びたいと思います。

【Outline (in English)】

This is an interdisciplinary course, incorporating analysis of short stories, films, lyrics, musicals, video games, and graphic novels in 20th and 21st century America.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

Grading shall be as follows:

- 1) Participation and discussion (20%)
- 2) Short critical essays (30%)
- 2) Term paper (50%)

LIT300BD（文学 / Literature 300）

英米文学演習(1) B

波戸岡 景太

授業コード：A2944 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、現代アメリカの文学作品やポップカルチャーについての文章を読みながら、作品の鑑賞方法と批評の書き方を学びます。扱うコンテンツは、小説、映画、漫画、ミュージカル、アニメーション、歌詞、ゲーム…と多岐にわたりますが、そのいずれもが「現代アメリカ文学」の重要な一部であることを理解し、新世代の創作原理を学びます。

【到達目標】

- ・自分の感想を大切にしながらも、客観的な作品評価ができるようになる。
- ・個々の作品の成立過程を、文学史や文化史を参照して調べられるようになる。
- ・アメリカ社会における「文学的なもの」の役割を理解できるようになる。
- ・現代における「芸術作品が持つ大衆性」を見抜けるようになる。
- ・現代における「大衆文化に潜む芸術性」を見抜けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の進行は、教員による「課題文の概説」、受講者が主体となった「課題解決型学習」、教員の指導に従って受講者が実施する「批評文の執筆」を1セットとして、1学期に合計2セットを行います。また、それぞれの受講者の個人研究についても、発表の時間を設けます。提出された批評文については、まずは授業内で学生同士のフィードバックを行ない、最後に担当教員から総評を伝えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	自己紹介と自己分析
第2回	(研究) 研究対象としての「アメリカ」を考える	ポピュラーカルチャーを中心とした卒業論文の進捗状況についての報告
第3回	(研究) 物語のなかの「アメリカ」を考える	小説・映画を中心とした卒業論文の進捗状況についての報告
第4回	(概説) カーヴァー作品の世界を知る	短編"What We Talk About When We Talk About Love"を読む
第5回	(学習) 映画『バードマン』から課題を採る	カーヴァー作品とイニャリトゥ作品を比較する
第6回	(学習) 映画の一部としてアダプテーションされた小説を分析する	小説、演劇、映画、マッシュアップなどの手法を概観する
第7回	(執筆) 映画『バードマン』の批評文を書く	概説の内容と学習で得た発見をもとに、400字程度の批評文を執筆する
第8回	(概説) ディズニー・プリンセスとアンチ・ヒロインの表象を概観する	ボグラー理論から物語のパターンを学ぶ
第9回	(学習) グラフィックノベル『ニモナ』のヒロインを分析する	文学としてのグラフィックノベルを考える
第10回	(学習) 映画版『ニモナ』を分析する	アニメ化というアダプテーションの特徴を分析する
第11回	(執筆) グラフィックノベル『ニモナ』の批評文を書く	概説の内容と学習で得た発見をもとに、400字程度の批評文を執筆する。
第12回	(研究) 世界と「アメリカ」の関係を探る	グローバルな視点から、卒業論文の対象となりうるコンテンツを探す（3年生）
第13回	(研究) 「アメリカ」と地方の関係を探る	ローカルな観点から、卒業論文の対象となりうるコンテンツを探す（3年生）
第14回	まとめ／期末試験	課題とされたアダプテーション論を読み、小論文を執筆する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で使用する教材データは事前にオンラインで配付しますので、「課題文の概説」の回には課題文（英語）の語彙調べを行い、「課題解決型学習」の回には参考資料の確認をし、そして「批評文の執筆」の回にはあらかじめ授業で執筆する内容を箇条書きにしておいてください（これらの作業を十全に実施するためには、2時間ほどが必要です）。また、各授業の後には、授業内容の復習（1時間）と、映像資料の視聴（1時間）を行ってください。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を各授業のはじめに配布します。

【参考書】

Carver, Raymond. *What We Talk About When We Talk About Love*. Vintage Classics, 2009.
Stevenson, ND. *Nimona*. Quill Tree, 2015.
波戸岡景太『映画原作派のためのアダプテーション入門：フィッツジェラルドからピンチオンまで』（彩流社、2017年）
ボグラー、クリストファー『作家の旅：神話の法則で読み解く物語の構造』（府川由美恵訳、フィルアート社、2022年）

【成績評価の方法と基準】

学習状況にもとづく平常点（20％）、各セットで執筆した批評文2本の評価（30％）、最終回に作成した期末レポート（50％）を合計し、60％以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

昨今の文学研究が対象とする「テキスト」という概念の幅広さについて、本授業を通じて初めて気がついたという声が多かったため、今年度も一般に文学とみなされにくいテキストを多角的に分析することで、研究／批評のおもしろさをともに学びたいと思います。

【Outline (in English)】

This is an interdisciplinary course, incorporating analysis of short stories, films, lyrics, musicals, video games, and graphic novels in 20th and 21st century America.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

Grading shall be as follows:

- 1) Participation and discussion (20%)
- 2) Short critical essays (30%)
- 2) Term paper (50%)

LIT300BD（文学 / Literature 300）

英米文学演習 (5) A

日野原 慶

授業コード：A2951 ｜ 曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位 ｜ 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英語で書かれた長編小説を読み、細部にわたって正しく英語を読む力を養いつつ、英語を通して文学を味わい、解釈し、そこから自分自身の考えを紡ぎ出す訓練も行います。具体的には、**Kawai Strong Washburn** というハワイ島出身、アメリカ在住の小説家によって**2021**年に出版された **_Sharks in the Time of Saviors_** という小説を春学期、秋学期を通して、読み解きたいと思います。観光と帝国主義、英語とクレオール、中心と周縁などが、植民地主義と脱植民地化などが主要なテーマですが、それ以外にも様々なトピックを、作品の中に見つけられるはずです。受講するみなさんが重要だと感じるトピックを作品から取り上げ、どのような点で重要なのかを、作品自体、あるいはそれ以外の資料を根拠にしつつ、説明をする。それを起点に作品の様々な角度から読み直す／解釈し直す、という作業が、授業の核になります。

【到達目標】

これまでの英語教育によって身に着けてきたであろう基本的な英語の知識を総動員して、意味をできる限り取り違えないように小説を読みつつ、時に味わい、時に解釈をし、時に議論をできるようにすること。また、小説の読解を通して紡ぎ出した自身の意見を、説得力豊かに、分かりやすく、他者に伝えることができるようになること。また、他者が発表した内容を批評的、批判的に検討し、質問、応答、反論など、学術的に豊かな結論へとつなげられるような反応ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式です。授業の中心は、学生の発表、議論、質疑などです。授業内でのプレゼンテーションや、ディスカッションへのフィードバックは授業中に口頭で行います。また補足が必要な時には、印刷資料や動画などで行うこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	・作品の概要の紹介 ・背景の概要の紹介 ・ハワイという場所について、我々がどういうイメージを抱いているかという点を話し合いつつ、そこで生みだされる文学作品や文学批評がどのような役割を持ちうるのかを議論します。
第二回	Haunani Key Trask, From a Native Daughter を読む	・ハワイの文化的、政治的状況について知る ・トラスクのエッセイについてのプレゼンテーションを行ってもらいます。それをもとに議論をします。そして、ハワイを政治的な闘争の場としてとらえなおします。
第三回	Sharks チャプター1, 2を読む	・作品の精読と、そこに描かれている文化的、社会的、政治的背景の発見 ・あらすじとキャラクターに焦点を当て、作品内容をまとめたプレゼンテーションを行ってもらいます。それをもとに議論をします。さらに、作品を現実のハワイの状況に関連づけて、深く分析していきます。
第四回	Sharks チャプター3, 4を読む	・作品の精読と、そこに描かれている文化的、社会的、政治的背景の発見 ・あらすじとキャラクターに焦点を当て、作品内容をまとめたプレゼンテーションを行ってもらいます。それをもとに議論をします。さらに、作品を現実のハワイの状況に関連づけて、深く分析していきます。

第五回	Sharks チャプター5, 6を読む	・作品の精読と、そこに描かれている文化的、社会的、政治的背景の発見 ・あらすじとキャラクターに焦点を当て、作品内容をまとめたプレゼンテーションを行ってもらいます。それをもとに議論をします。さらに、作品を現実のハワイの状況に関連づけて、深く分析していきます。
第六回	Sharks チャプター7, 8を読む	・作品の精読と、そこに描かれている文化的、社会的、政治的背景の発見 ・あらすじとキャラクターに焦点を当て、作品内容をまとめたプレゼンテーションを行ってもらいます。それをもとに議論をします。さらに、作品を現実のハワイの状況に関連づけて、深く分析していきます。
第七回	映像作品 Noho Hewa 前半を分析する	・ハワイの主権運動を扱った映像作品の分析 ・映像作品の重要箇所 に焦点を当てたプレゼンテーションを行ってもらいます。それをもとに議論をします。また、 Sharks との関連についても話し合います。
第八回	映像作品 Noho Hewa 後半を分析する	・ハワイの主権運動を扱った映像作品の分析 ・映像作品の重要箇所 に焦点を当てたプレゼンテーションを行ってもらいます。それをもとに議論をします。また、 Sharks との関連についても話し合います。
第九回	Sharks チャプター9, 10を読む	・作品の精読と、そこに描かれている文化的、社会的、政治的背景の発見 ・あらすじとキャラクターに焦点を当て、作品内容をまとめたプレゼンテーションを行ってもらいます。それをもとに議論をします。さらに、作品を現実のハワイの状況に関連づけて、深く分析していきます。
第十回	Sharks チャプター11, 12を読む	・作品の精読と、そこに描かれている文化的、社会的、政治的背景の発見 ・あらすじとキャラクターに焦点を当て、作品内容をまとめたプレゼンテーションを行ってもらいます。それをもとに議論をします。さらに、作品を現実のハワイの状況に関連づけて、深く分析していきます。
第十一回	Sharks チャプター13, 14を読む	・作品の精読と、そこに描かれている文化的、社会的、政治的背景の発見 ・あらすじとキャラクターに焦点を当て、作品内容をまとめたプレゼンテーションを行ってもらいます。それをもとに議論をします。さらに、作品を現実のハワイの状況に関連づけて、深く分析していきます。
第十二回	Sharks チャプター15, 16を読む	・作品の精読と、そこに描かれている文化的、社会的、政治的背景の発見 ・あらすじとキャラクターに焦点を当て、作品内容をまとめたプレゼンテーションを行ってもらいます。それをもとに議論をします。さらに、作品を現実のハワイの状況に関連づけて、深く分析していきます。
第十三回	Sharks チャプター17, 18を読む	・作品の精読と、そこに描かれている文化的、社会的、政治的背景の発見 ・あらすじとキャラクターに焦点を当て、作品内容をまとめたプレゼンテーションを行ってもらいます。それをもとに議論をします。さらに、作品を現実のハワイの状況に関連づけて、深く分析していきます。
第十四回	Sharks 前半のまとめ	小説の前半を大きなまとまりとしてとらえ、主題、背景、疑問点などについてプレゼンテーションを行ってもらいます。それをもとに議論し、作品前半に対する理解を深めます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

扱う作品の指定された範囲を、各自精読しておくこと。原文と翻訳の両方を用いて準備をして構いませんが、授業中のディスカッションには、すべて原文を参照して行えるよう、準備しておくこと。（4時間以上）

【テキスト（教科書）】

Sharks in the Time of Saviors、**Kawai Strong Washburn**、**Picador**、二〇二一年
『サメと救世主』カワイ・ストロング・ウォッシュバーン著、日野原慶訳、書肆俵々房、二〇二四年

【参考書】

Haunani-Kay Trask 著 From a Native Daughter: Colonialism and Sovereignty in Hawai'i (Revised edition) ハワイ大学出版局、一九九九年 (ハウナニ・ケイ・トラスク『大地にしがみつけ: ハワイ先住民女性の訴え』松原好次訳、春風社、二〇〇二年)
 Candace Fujikane, Jonathan Y. Okamura編 Asian Settler Colonialism: From Local Governance to the Habits of Everyday Life in Hawai'i ハワイ大学出版局、二〇〇八年
 Dean Itsuji Saranillio 著 Unsustainable Empire: Alternative Histories of Hawai'i Statehood デューク大学出版局、二〇一八年
 Candace Fujikane 著 Mapping Abundance for a Planetary Future: Kanaka Maoli and Critical Settler Cartographies in Hawai'i デューク大学出版局、二〇二一年

【成績評価の方法と基準】

担当箇所のプレゼンテーション、コメントイーターとしての応答（４０パーセント）
 平常点／授業中のディスカッションへの貢献（２０パーセント）
 期末レポート（４０パーセント）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

英米文学演習(5)Bも履修するのが望ましい。

【Outline (in English)】

In this course, we will read Kawai Strong Washburns' *Sharks in the Time of the saivors* (2021) throughout Spring and Fall semesters. The novel will introduce you to a lot of important political, social, and cultural topics of the world today, including imperialism, colonialism, post-colonialism, decolonization, English and its creolization, etc... More precisely and most importantly, the readers of the book will learn about Hawaiian sovereignty movement, which enables us to see Hawai'i not as a paradise but as a politically contested place. We will try to analyze the book in connection with those contexts so that we can be an active and creative reader of literary works.

In this course, we will read Kawai Strong Washburns' *Sharks in the Time of the saivors* (2021) throughout Spring and Fall semesters. The novel will introduce you to a lot of important political, social, and cultural topics of the world today, including imperialism, colonialism, post-colonialism, decolonization, English and its creolization, etc... More precisely and most importantly, the readers of the book will learn about Hawaiian sovereignty movement, which enables us to see Hawai'i not as a paradise but as a politically contested place. We will try to analyze the book in connection with those contexts so that we can be an active and creative reader of literary works.

Before each class meeting, you will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

In-class presentation:40% Term-end essay:40% In-class contribution:20%

LIT300BD（文学 / Literature 300）		
英米文学演習 (5) B		
日野原 慶		
授業コード：A2952 ｜ 曜日・時限：金2/Fri.2		
秋学期授業/Fall・2単位 ｜ 配当年次：2～4年		
その他属性：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 この授業では、英語で書かれた長編小説を読み、細部にわたって正しく英語を読む力を養いつつ、英語を通して文学を味わい、解釈し、そこから自分自身の考えを紡ぎ出す訓練も行います。具体的には、 Kawai Strong Washburn というハワイ島出身、アメリカ在住の小説家によって 2021 年に出版された _Sharks in the Time of Saviors_ という小説を春学期、秋学期を通して、読み解きたいと思います。観光と帝国主義、英語とクレオール、中心と周縁などが、植民地主義と脱植民地化などが主要なテーマですが、それ以外にも様々なトピックを、作品の中に見つけられるはずです。受講するみなさんが重要だと感じるトピックを作品から取り上げ、どのような点で重要なのかを、作品自体、あるいはそれ以外の資料を根拠にしつつ、説明をする。それを起点に作品の様々な角度から読み直す／解釈し直す、という作業が、授業の核になります。		
【到達目標】 これまでの英語教育によって身に着けてきたであろう基本的な英語の知識を総動員して、意味をできる限り取り違えないように小説を読みつつ、時に味わい、時に解釈をし、時に議論をできるようにすること。また、小説の読解を通して紡ぎ出した自身の意見を、説得力豊かに、分かりやすく、他者に伝えることができるようになること。また、他者が発表した内容を批評的、批判的に検討し、質問、応答、反論など、学術的に豊かな結論へとつなげられるような反応ができるようになること。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連		
【授業の進め方と方法】 演習形式です。授業の中心は、学生の発表、議論、質疑などです。授業内でのプレゼンテーションや、ディスカッションへのフィードバックは授業中に口頭で行います。また補足が必要な時には、印刷資料や動画などで行うこともあります。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり /Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第一回	後期イントロダクション	・日本におけるハワイのイメージを探る ・広告、旅行会社のパンフレット、youtube 動画などに提示されるハワイのイメージを分析します。それを前回の扱った作品たちとの比較で、批判的に捉えてみます。
第二回	Sharks チャプター 1 9、2 0を読む	・作品の精読と、そこに描かれている文化的、社会的、政治的背景の発見 ・あらすじとキャラクターに焦点を当て、作品内容をまとめたプレゼンテーションを行ってもらいます。それをもとに議論をします。さらに、作品を現実のハワイの状況に関連づけて、深く分析していきます。
第三回	Sharks チャプター 2 1、2 2を読む	・作品の精読と、そこに描かれている文化的、社会的、政治的背景の発見 ・あらすじとキャラクターに焦点を当て、作品内容をまとめたプレゼンテーションを行ってもらいます。それをもとに議論をします。さらに、作品を現実のハワイの状況に関連づけて、深く分析していきます。
第四回	Sharks チャプター 2 3、2 4を読む	・作品の精読と、そこに描かれている文化的、社会的、政治的背景の発見 ・あらすじとキャラクターに焦点を当て、作品内容をまとめたプレゼンテーションを行ってもらいます。それをもとに議論をします。さらに、作品を現実のハワイの状況に関連づけて、深く分析していきます。
第五回	Sharks チャプター 2 5、2 6を読む	・作品の精読と、そこに描かれている文化的、社会的、政治的背景の発見 ・あらすじとキャラクターに焦点を当て、作品内容をまとめたプレゼンテーションを行ってもらいます。それをもとに議論をします。さらに、作品を現実のハワイの状況に関連づけて、深く分析していきます。
第六回	Sharks チャプター 2 7、2 8を読む	・作品の精読と、そこに描かれている文化的、社会的、政治的背景の発見 ・あらすじとキャラクターに焦点を当て、作品内容をまとめたプレゼンテーションを行ってもらいます。それをもとに議論をします。さらに、作品を現実のハワイの状況に関連づけて、深く分析していきます。
第七回	Sharks チャプター 2 9、3 0を読む	・作品の精読と、そこに描かれている文化的、社会的、政治的背景の発見 ・あらすじとキャラクターに焦点を当て、作品内容をまとめたプレゼンテーションを行ってもらいます。それをもとに議論をします。さらに、作品を現実のハワイの状況に関連づけて、深く分析していきます。
第八回	Sharks チャプター 3 1、3 2を読む	・作品の精読と、そこに描かれている文化的、社会的、政治的背景の発見 ・あらすじとキャラクターに焦点を当て、作品内容をまとめたプレゼンテーションを行ってもらいます。それをもとに議論をします。さらに、作品を現実のハワイの状況に関連づけて、深く分析していきます。
第九回	Sharks チャプター 3 3、3 4を読む	・作品の精読と、そこに描かれている文化的、社会的、政治的背景の発見 ・あらすじとキャラクターに焦点を当て、作品内容をまとめたプレゼンテーションを行ってもらいます。それをもとに議論をします。さらに、作品を現実のハワイの状況に関連づけて、深く分析していきます。
第十回	Sharks チャプター 3 5、3 6を読む	・作品の精読と、そこに描かれている文化的、社会的、政治的背景の発見 ・あらすじとキャラクターに焦点を当て、作品内容をまとめたプレゼンテーションを行ってもらいます。それをもとに議論をします。さらに、作品を現実のハワイの状況に関連づけて、深く分析していきます。
第十一回	Sharks チャプター 3 7、3 8を読む	・作品の精読と、そこに描かれている文化的、社会的、政治的背景の発見 ・あらすじとキャラクターに焦点を当て、作品内容をまとめたプレゼンテーションを行ってもらいます。それをもとに議論をします。さらに、作品を現実のハワイの状況に関連づけて、深く分析していきます。
第十二回	Sharks チャプター 3 9を読む	・作品の精読と、そこに描かれている文化的、社会的、政治的背景の発見 ・あらすじとキャラクターに焦点を当て、作品内容をまとめたプレゼンテーションを行ってもらいます。それをもとに議論をします。さらに、作品を現実のハワイの状況に関連づけて、深く分析していきます。
第十三回	作品全体を読み直す	・作品の精読と、そこに描かれている文化的、社会的、政治的背景の発見 ・あらすじとキャラクターに焦点を当て、作品内容をまとめたプレゼンテーションを行ってもらいます。それをもとに議論をします。さらに、作品を現実のハワイの状況に関連づけて、深く分析していきます。
第十四回	原著と翻訳を並べて比較する	・作品の精読と、そこに描かれている文化的、社会的、政治的背景の発見 ・あらすじとキャラクターに焦点を当て、作品内容をまとめたプレゼンテーションを行ってもらいます。それをもとに議論をします。さらに、作品を現実のハワイの状況に関連づけて、深く分析していきます。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 扱う作品の指定された範囲を、各自精読しておくこと。原文と翻訳の両方を用いて準備をして構いませんが、授業中のディスカッションには、すべて原文を参照して行えるよう、準備しておくこと。 （4 時間以上）		

【テキスト（教科書）】

Sharks in the Time of Saviors、Kawai Strong Washburn、Picador、二〇二一年
『サメと救世主』 カワイ・ストロング・ウォッシュバーン著、日野原慶訳、書肆侃々房、二〇二四年

【参考書】

Haunani-Kay Trask 著 From a Native Daughter: Colonialism and Sovereignty in Hawai'i (Revised edition) ハワイ大学出版局、一九九九年（ハウナニ・ケイ・トラスク『大地にしがみつけ：ハワイ先住民女性の訴え』松原好次訳、春風社、二〇〇二年）

Candace Fujikane, Jonathan Y. Okamura編 Asian Settler Colonialism: From Local Governance to the Habits of Everyday Life in Hawai'i ハワイ大学出版局、二〇〇八年

Dean Itsuji Saranillio 著 Unsustainable Empire: Alternative Histories of Hawai'i Statehood デューク大学出版局、二〇一八年

Candace Fujikane 著 Mapping Abundance for a Planetary Future: Kanaka Maoli and Critical Settler Cartographies in Hawai'i デューク大学出版局、二〇二一年

【成績評価の方法と基準】

担当箇所のプレゼンテーション、コメンテーターとしての応答（４０パーセント）

平常点／授業中のディスカッションへの貢献（２０パーセント）

期末レポート（４０パーセント）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

英米文学演習(5)Aも履修するのが望ましい。

【Outline (in English)】

In this course, we will read Kawai Strong Washburn's _Sharks in the Time of the saivors_ (2021) throughout Spring and Fall semesters. The novel will introduce you to a lot of important political, social, and cultural topics of the world today, including imperialism, colonialism, post-colonialism, decolonization, English and its creolization, etc... More precisely and most importantly, the readers of the book will learn about Hawaiian sovereignty movement, which enables us to see Hawai'i not as a paradise but as a politically contested place. We will try to analyze the book in connection with those contexts so that we can be an active and creative reader of literary works.

Before each class meeting, you will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

In-class presentation:40% Term-end essay:40% In-class contribution:20%

LIT300BD（文学 / Literature 300）

英米文学演習(6) A

小澤 央

授業コード：A2953 | 曜日・時限：木3/Thu.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、E. M. Forsterの*A Passage to India* (1924)を精読し、書かれている内容や扱われているテーマや問題についてみなで議論する。映画や先行研究も参考にする。

文学を解釈するための基本的姿勢を身につけ、自分なりの解釈を試みることが目的である。

【到達目標】

- ・ *A Passage to India* を読了し、その背景事情を含めて理解できる
- ・ 文学を解釈するとはどういうことかを把握し実践してみる
- ・ 他人の意見を尊重しつつ、自分の意見をわかりやすく表現できる
- ・ 辞書や和訳を参照しながらも、長編小説を読み通せるだけの英語力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

原則的に毎回レジュメ担当者を決め、その発表に基づいてみなで議論する。学期末にはレポートを書く。

発表に対してはその場で、レポートに対しては返却時にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の確認、作品の背景の説明
第2回	<i>A Passage to India</i> の映画 (1)	前半の鑑賞と議論
第3回	<i>A Passage to India</i> の映画 (2)	後半の鑑賞と議論
第4回	<i>A Passage to India</i> (1)	作品を9等分した場合の第1部の発表と議論
第5回	<i>A Passage to India</i> (2)	第2部の発表と議論
第6回	<i>A Passage to India</i> (3)	第3部の発表と議論
第7回	<i>A Passage to India</i> (4)	第4部の発表と議論
第8回	<i>A Passage to India</i> (5)	第5部の発表と議論
第9回	<i>A Passage to India</i> (6)	第6部の発表と議論
第10回	<i>A Passage to India</i> (7)	第7部の発表と議論
第11回	<i>A Passage to India</i> (8)	第8部の発表と議論
第12回	<i>A Passage to India</i> (9)	第9部の発表と議論
第13回	先行研究のレビュー	<i>A Passage to India</i> の批評に関する発表と議論
第14回	まとめ	作品と批評の総括、期末レポートのテーマについての話し合い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表者はレジュメを必ず用意すること。レジュメには、要約のみならず論点や意見などの提示が必要である。発表にあたっていなくても、テキストをしっかりと読み、自身の考えをまとめてゼミに参加すること。

予習・復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

E. M. Forster, *A Passage to India*, Penguin Classics, 2021.

【参考書】

E・M・フォースター著、『インドへの道』、小野寺健訳、河出文庫、2022年

【成績評価の方法と基準】

- ・ 議論への貢献度：30%
- ・ 発表：30%
- ・ 期末レポート：40%

【学生の意見等からの気づき】

学生のレジュメをもとにした議論をさらに充実させる。

【その他の重要事項】

基本的に全回に出席することが望ましい。単位認定には学期中に3分の2以上の出席が必要である。この場合の「出席」とは、該当範囲を予習してきて、積極的にゼミに参加することを意味する（20分以上の遅刻は欠席と見なす）。

【Outline (in English)】

In this course, students are expected to carefully read E. M. Forster's *A Passage to India* (1924) and discuss the text and its relevant themes and issues. The course also deals with films and studies on the author and his work. The goals of this course are to learn the basics of interpretation of literature and attempt a new interpretation. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. The final grade will be calculated according to the following process: participation in discussion (30%), presentation (30%) and term-end essay (40%).

LIT300BD（文学 / Literature 300）

英米文学演習 (6) B

小澤 央

授業コード：A2954 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、Lewis Carrollの*Alice's Adventures in Wonderland* (1865)を精読し、書かれている内容や扱われているテーマや問題についてみなで議論する。先行研究も参考にする。

文学を解釈するための基本的姿勢を身につけ、自分なりの解釈を試みることが目的である。

【到達目標】

- ・ *Alice's Adventures in Wonderland* を読了し、その背景事情を含めて理解できる
- ・ 文学を解釈するとはどういうことかを把握し実践してみる
- ・ 他人の意見を尊重しつつ、自分の意見をわかりやすく表現できる
- ・ 辞書や和訳を参照しながらも、長編小説を読み通せるだけの英語力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

原則的に毎回レジュメ担当者を決め、その発表に基づいてみなで議論する。学期末にはレポートを書く。

発表に対してはその場で、レポートに対しては返却時にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の確認、作品の背景の説明
第2回	<i>Alice's Adventures in Wonderland</i> の映画 (1)	前半の鑑賞と議論
第3回	<i>Alice's Adventures in Wonderland</i> の映画 (2)	後半の鑑賞と議論
第4回	<i>Alice's Adventures in Wonderland</i> (1)	作品を9等分した場合の第1部の発表と議論
第5回	<i>Alice's Adventures in Wonderland</i> (2)	第2部の発表と議論
第6回	<i>Alice's Adventures in Wonderland</i> (3)	第3部の発表と議論
第7回	<i>Alice's Adventures in Wonderland</i> (4)	第4部の発表と議論
第8回	<i>Alice's Adventures in Wonderland</i> (5)	第5部の発表と議論
第9回	<i>Alice's Adventures in Wonderland</i> (6)	第6部の発表と議論
第10回	<i>Alice's Adventures in Wonderland</i> (7)	第7部の発表と議論
第11回	<i>Alice's Adventures in Wonderland</i> (8)	第8部の発表と議論
第12回	<i>Alice's Adventures in Wonderland</i> (9)	第9部の発表と議論
第13回	先行研究のレビュー	<i>Alice's Adventures in Wonderland</i> の批評に関する発表と議論
第14回	まとめ	作品と批評の総括、期末レポートのテーマについての話し合い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表者はレジュメを必ず用意すること。レジュメには、要約のみならず論点や意見などの提示が必要である。発表にあたっていなくても、テキストをしっかりと読み、自身の考えをまとめてゼミに参加すること。

予習・復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Lewis Carroll, *Alice's Adventures in Wonderland and Through the Looking-Glass*, Oxford World's Classics, 2009.

【参考書】

- ・ルイス・キャロル著、『不思議の国のアリス』、河合祥一郎訳、角川文庫、2010年
- ・ルイス・キャロル著、『対訳・注解 不思議の国のアリス』、安井泉訳、研究社、2017年

【成績評価の方法と基準】

- ・議論への貢献度：30%
- ・発表：30%

・期末レポート：40%

【学生の意見等からの気づき】

学生のレジュメをもとにした議論をさらに充実させる。

【その他の重要事項】

基本的に全回に出席することが望ましい。単位認定には学期中に3分の2以上の出席が必要である。この場合の「出席」とは、該当範囲を予習してきて、積極的にゼミに参加することを意味する（20分以上の遅刻は欠席と見なす）。

【Outline (in English)】

In this course, students are expected to carefully read Lewis Carroll's *Alice's Adventures in Wonderland* (1865) and discuss the text and its relevant themes and issues. The course also deals with films and studies on the author and his work. The goals of this course are to learn the basics of interpretation of literature and attempt a new interpretation. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. The final grade will be calculated according to the following process: participation in discussion (30%), presentation (30%) and term-end essay (40%).

LIT300BD（文学 / Literature 300）

英米文学演習 (8) A

山崎 暁子

授業コード：A2957 | 曜日・時限：金3/Fri.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英語で書かれた様々な小説を原語で読み、小説の一部分を日本語に翻訳してみることにより、文学作品の英語表現について学ぶ。また、小説のテーマや表現についてのディスカッションを通して、英語圏の国・地域の文化に関する知識を身につけ、多様な視点を獲得することを目指す。

【到達目標】

英語を正確に読む技術を向上させる。自分の常識だけで解釈するのではなく、コンテクストに沿った解釈ができるようになる。ひとつのテキストのなかに現れる、口調の違いや別のテキストへの言及への感度を高める。ディスカッションでは自らの考えを表現するとともに、様々な考え方を理解し、思索を深める。期末レポートにおいては、授業で扱った小説について自分なりの問題提起をして論じること、考察を深め、論理的に文章を組み立てられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

“doors”をキーワードとして、様々な小説を読む。イギリスの児童文学を中心に、英語圏の複数の国、異なるジャンルの短編（または抜粋）を読むことで、文化と文学の多様性に触れる。この学期は、Lewis Carroll, A. A. Milne, Alison Uttley, Lucy Maud Montgomery, Agatha Christieの作品を扱う。授業では1～2回にわたって1つの作品を扱う。毎回担当者を決めて、問題提起とディスカッションを中心に進める。ディスカッションの司会も学生が交代で担当する。

期末レポートはコメントをつけて返却する。

学習支援システムから授業にかんする指示を連絡する。所属ゼミ生および受講希望者は第1回授業の前々日までに仮登録すること。

対面授業を基本とするが、必要に応じてオンライン授業の回を設ける可能性もある。授業形態を変更する場合は事前に学習支援システムから通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方を説明し、受講者の知識・興味を確認する
第2回	ブレインストーミング	キーワード“doors”についてディスカッション
第3回	イングランドの昔話 — 昔話の英語と物語の特徴	"Mr Fox"のディスカッション
第4回	イギリスの児童文学作家① — ナンセンス	Lewis Carroll, <i>Alice's Adventures in Wonderland</i> 抜粋のディスカッション
第5回	イギリスの児童文学作家②（1） — キャラクター	A. A. Milne, <i>The House at Pooh Corner</i> 抜粋前半のディスカッション
第6回	イギリスの児童文学作家②（2） — 韻文と散文	A. A. Milne, <i>The House at Pooh Corner</i> 抜粋後半のディスカッション
第7回	翻訳（1） — 第3～6回のテキストの一部を翻訳・検討	翻訳のディスカッション
第8回	イギリスの児童文学作家③（1） — 都会と田舎	Alison Uttley, <i>A Traveller in Time</i> 抜粋前半のディスカッション
第9回	イギリスの児童文学作家③（2） — 時と場所	Alison Uttley, <i>A Traveller in Time</i> 抜粋後半のディスカッション
第10回	カナダの作家（1） — 20世紀初頭のカナダ	Lucy Maud Montgomery, "The Quarantine at Alexander Abraham's"前半のディスカッション
第11回	カナダの作家（2） — キリスト教的価値観	Lucy Maud Montgomery, "The Quarantine at Alexander Abraham's"後半のディスカッション
第12回	イギリスの推理小説作家（2） — 伏線的作用	Agatha Christie, "In a Glass Darkly"のディスカッション
第13回	翻訳（2） — 第8～12回のテキストの一部を翻訳・検討	翻訳のディスカッション
第14回	まとめ	春学期に読んだテキストを振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲を熟読し、できる限りの下調べをする。調べてわかったことと、残っている疑問点をノートにまとめたうえで、掲示板上のディスカッションに参加する。

本授業の準備学習・復習時間は、4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。テキストは学習支援システムで配布する。

【参考書】

辞書は必ず持参すること。

石塚久郎編『イギリス文学入門 [新版]』三修社 2023年

諏訪部浩一編『アメリカ文学入門 [新版]』三修社 2023年

ハウエルズ、コーラル・アン他編『ケンブリッジ版カナダ文学史』彩流社 2016年

Williams, Mark. *A History of New Zealand Literature*. Cambridge UP, 2016.

桂有子他編『はじめて学ぶ英米児童文学史』ミネルヴァ書房 2007年

【成績評価の方法と基準】

授業への参加と貢献30%、問題提起または司会30%、期末レポート40%の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内掲示板と対面のディスカッションの両方を継続し、自由に意見を言い合える雰囲気づくりに努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを、連絡、資料の配布、意見交換、課題提出等に使用する。

【その他の重要事項】

毎週の連絡事項を学習支援システムから通知するので、第1回授業の前々日までに仮登録すること。

学習支援システムに掲載する情報は、大学から付与されたメールアドレスに届く。必要に応じて個別に連絡することもあるので、メールは随時チェックすること。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course helps students to learn about the diverse culture and literature of English-speaking countries through presentations and discussions about literary text. We will read various short stories (or chapters) in English that can be related to "doors" and translate some passages into Japanese.

[Learning objectives]

At the end of the course, participants should have acquired the knowledge and skills needed to analyse English literary text and will be able to discuss stories logically from their own viewpoint.

[Learning activities outside of classroom]

Before each class meeting, students will be expected to have read the text closely and prepared for the discussion. The required study time is at least four hours for each class meeting.

[Grading criteria /Policy]

Grading will be decided based on in-class contribution (30%), presentation or chairing (30%) and final essay (40%).

LIT300BD（文学 / Literature 300）

英米文学演習 (8) B

山崎 暁子

授業コード：A2958 | 曜日・時限：金3/Fri.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英語で書かれた様々な小説を原語で読み、小説の一部分を日本語に翻訳して見ることにより、文学作品の英語表現を学ぶ。また、小説のテーマや表現についてのディスカッションを通して、英語圏の国・地域の文化に関する知識を身につけ、多様な視点を獲得することを目指す。

【到達目標】

英語を正確に読む技術を向上させる。自分の常識だけで解釈するのではなく、コンテキストに沿った解釈ができるようになる。ひとつのテキストのなかに現れる、口調の違いや別のテキストへの言及への感度を高める。ディスカッションでは自らの考えを表現するとともに、様々な考え方を理解し、思索を深める。期末レポートにおいては、授業で扱った小説について自分なりの問題提起をして論じることで、考察を深め、論理的に文章を組み立てられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

"doors" をキーワードとして、様々な小説を読む。イギリスの児童文学を中心に、英語圏の複数の国、異なるジャンルの短編（または抜粋）を読むことで、文化と文学の多様性に触れる。この学期は、Mary Norton, Philippa Pearce, Ursula K. Le Guin, Ian McEwan, Margaret Mahy の作品を扱う。授業では1～2回にわたって1つの作品を扱う。毎回担当者を決めて、問題提起とディスカッションを中心に進める。ディスカッションの司会も学生が交代で担当する。

期末レポートにはコメントをつけて返却する。

学習支援システムから授業にかんする指示を連絡する。受講者は第1回授業の前々日までには仮登録すること。

対面授業を基本とするが、必要に応じてオンライン授業の回を設ける可能性もある。授業形態を変更する場合は事前に学習支援システムから通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	夏休み課題報告（3年生）、卒論中間報告（4年生）、秋学期に扱う作品の紹介
第2回	イギリスの児童文学作家④ — 第二次世界大戦後の子供像	Mary Norton, <i>The Borrowers</i> 抜粋のディスカッション
第3回	イギリスの児童文学作家⑤ — リアリズム	Philippa Pearce, "The Fir Cone"前半のディスカッション
第4回	イギリスの児童文学作家⑤ — 20世紀後半のイギリス	Philippa Pearce, "The Fir Cone"後半のディスカッション
第5回	翻訳（1） — 第2～4回のテキストの一部を翻訳・検討	翻訳のディスカッション
第6回	アメリカの作家（1） — 20世紀後半の世界	Ursula K. Le Guin, "Unlocking the Air"の準備的ディスカッション
第7回	アメリカの作家（2） — SF	Ursula K. Le Guin, "Unlocking the Air"前半のディスカッション
第8回	アメリカの作家（3） — メタファー	Ursula K. Le Guin, "Unlocking the Air"後半のディスカッション
第9回	翻訳（2） — 第6～8回のテキストの一部を翻訳・検討	翻訳のディスカッション
第10回	イギリスの代表的作家（1） — ストーリーテリング	Ian McEwan, <i>The Daydreamer</i> 抜粋前半のディスカッション
第11回	イギリスの代表的作家（2） — 20世紀後半の子供像	Ian McEwan, <i>The Daydreamer</i> 抜粋後半のディスカッション
第12回	ニュージーランドの児童文学作家 — ファンタジー	Margaret Mahy, "The Door in the Air"のディスカッション
第13回	翻訳（3） — 第10～12回のテキストの一部を翻訳・検討	翻訳のディスカッション

第14回 まとめ

秋学期に読んだテキストを振り返る
卒論紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲を熟読し、できる限りの下調べをする。調べてわかったことと、残っている疑問点をノートにまとめたうえで、掲示板上のディスカッションに参加する。

本授業の準備学習・復習時間は、4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。テキストは学習支援システムで配布する。

【参考書】

辞書は必ず持参すること。

石塚久郎編『イギリス文学入門 [新版]』三修社 2024年

諏訪部浩一編『アメリカ文学入門 [新版]』三修社 2023年

ハウエルズ、コーラル・アン他編『ケンブリッジ版カナダ文学史』彩流社

2016年

Williams, Mark. *A History of New Zealand Literature*. Cambridge UP, 2016.

桂有子他編『はじめて学ぶ英米児童文学史』ミネルヴァ書房 2007年

【成績評価の方法と基準】

授業への参加と貢献の度合 30 %、問題提起または司会 30 %、期末レポート 40 % の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業掲示板と対面のディスカッションの両方を継続し、自由に意見を言い合える雰囲気づくりに努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを、連絡、資料の配布、意見交換、課題提出等に使用する。

【その他の重要事項】

毎週の連絡事項を学習支援システムから通知するので、第1回授業の前々日までには仮登録すること。

学習支援システムに掲載する情報は、大学から付与されたメールアドレスに届く。必要に応じて個別に連絡することもあるので、メールは随時チェックすること。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course helps students to learn about the diverse culture and literature of English-speaking countries through presentations and discussions about literary text. We will read various short stories (or chapters) in English that can be related to "doors" and translate some passages into Japanese.

[Learning objectives]

At the end of the course, participants should have acquired the knowledge and skills needed to analyse English literary text and will be able to discuss stories logically from their own viewpoint.

[Learning activities outside of classroom]

Before each class meeting, students will be expected to have read the text closely and prepared for the discussion. The required study time is at least four hours for each class meeting.

[Grading criteria /Policy]

Grading will be decided based on in-class contribution (30%), presentation or chairing (30%) and final essay (40%).

ARS300BD

英米文学演習 (9) A

利根川 真紀

授業コード：A2959 | 曜日・時限：火3/Tue.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

短編小説を読みながら、毎年異なる角度からアメリカ文学や文化への理解を深めるゼミです。今年度のテーマは「アメリカ文学と家族」です。家族は誰でも経験したことのあるテーマといえますが、家族のイメージは、人によってだけでなく時代や地域によっても変化していく側面を持っています。家族を通してしか表現できないものとは何か、それを執筆した作家たちが生きた時代背景や作家の個人的事情とは何だったのかなどについて、具体的に作品を読みながら全員で考えていきます。

【到達目標】

- 扱う作家・作品について理解を深める
- 感想や意見や疑問を、効果的に表現・プレゼンテーションすることができるようになる
- ゼミの仲間の意見に耳を傾け、建設的にレスポンスすることができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

アーネスト・ヘミングウェイ（1899-1961）、レイモンド・カーヴァー（1939-1988）、ボビー・アン・メイスン（1940-）、ケイト・ショパン（1851-1904）、J.D.サリンジャー（1919-2010）の作品に具体的に触れ、作品が提示する世界や諸問題に理解を深めていきます。いずれもよく知られたアメリカを代表する作家です。担当箇所を決め、学生による発表、グループディスカッション、教員による補足説明という形で進めていきます。学期の後半には、春学期と秋学期に扱う各作家の他作品を各自が読んで考察する、各5分程度のプレゼンテーションも予定しています。授業の最初に、前回提出されたりアクションペーパーから代表的な意見や独創的な意見を紹介します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	イントロダクション	授業の内容と進め方の説明
2回目	ヘミングウェイ “Indian Camp”	自然の中の息子と父
3回目	カーヴァー “Boxes”（前半）	ミニマリズム文学の流行と家族
4回目	“Boxes”（後半）	母の引越しの謎
5回目	メイスン “Shiloh”（前半）	1970年代の女性解放運動と母娘
6回目	“Shiloh”（後半）	南北戦争の古戦場を訪問する夫婦
7回目	ショパン “Désirée’s Baby”	子はいかすがい？
8回目	ペーパーの書き方	短い引用・長い引用・要約の練習、パラグラフ・ライティング
9回目	サリンジャー “Down at the Dingy”（前半）	家政婦さんたち
10回目	“Down at the Dingy”（後半）	少年のプチ家出
11回目	ブックトーク（ヘミングウェイ、カーヴァー、メイスン）	授業で扱う作品以外から各自が選んで紹介する
12回目	ブックトーク（ショパン、サリンジャー、フォークナー）	授業で扱う作品以外から各自が選んで紹介する
13回目	ブックトーク（ヤマモト、オコナー、ウォーカー）	授業で扱う作品以外から各自が選んで紹介する
14回目	IDクイズと2作品比較	春学期まとめ、夏休みのペーパー課題の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

発表担当者はハンドアウトを作成し、事前に「学習支援システム」に提出します。ハンドアウトの作成方法は、初回の授業時に詳しく説明します。発表担当者でない場合にも、授業で扱う短編小説の該当箇所をかならず読み、指摘すべき箇所に下線を引いてコメントを準備し、授業での発言やグループディスカッションに備えます。授業後にはその日の振り返りを「学習支援システム」に提出します。その他、復習を確認するための課題に、授業時間外で取り組みむこともあります。

【テキスト（教科書）】

初回の授業時に指示します。短編小説は英語で読みますが、どの作品も翻訳が出ていますので、積極的に比較・参照してみてください。

【参考書】

『アメリカ文学入門（新版）』諏訪部浩一編 三修社 2023年

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）、発表（35％）、IDクイズと2作品比較（35％）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

演習ですので、ゼミ生による毎回の討論の積み重ねが大事です。仲間のために遅刻や欠席をしないように心がけましょう。ゼミ履修以前には小説をあまり読んでことがなかった人でも、ゼミの討論に参加する中で小説の読み方を身につけられたという声がありましたので、心配せずに受講してください。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to understand American literature by focusing on different aspects of its culture every year. This year we will read American short stories by paying special attention to the depictions of families and their members. The seminar also enhances students' skills in close reading of texts and in effective oral presentations. Before /after each class meeting, students' required study time is at least four hours. Grading will be based on in-class contribution (30%), presentations (35%), ID quizzes and short essays (35%).

ARS300BD

英米文学演習 (9) B

利根川 真紀

授業コード：A2960 | 曜日・時限：火3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

短編小説を読みながら、毎年異なる角度からアメリカ文学や文化への理解を深めるゼミです。今年度のテーマは「アメリカ文学と家族」です。家族は誰でも経験したことのあるテーマといえますが、家族のイメージは、人によってだけでなく時代や地域によっても変化していく側面を持っています。家族を通してしか表現できないものとは何か、それを執筆した作家たちが生きた時代背景や作家の個人的事情とは何だったのかなどについて、具体的に作品を読みながら全員で考えていきます。

【到達目標】

- 扱う作家・作品について理解を深める
- 感想や意見や疑問を、効果的に表現・プレゼンテーションすることができるようになる
- ゼミの仲間の意見に耳を傾け、建設的にレスポンスすることができるようになる
- 文献検索の方法を身につけ、テーマを設定してペーパーを書けるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

ウィリアム・フォークナー（1897-1962）、ヒサエ・ヤマモト（1921-2011）、フラナリー・オコナー（1925-1964）、アリス・ウォーカー（1944-）の作品に具体的に触れ、理解を深めていきます。いずれもよく知られたアメリカを代表する作家たちです。また、夏休みに3冊の長編作品の中から1冊を選んで短いペーパーを書き、秋学期後半のグループ発表に繋げます。ゼミ仲間や教員からのフィードバックを参考にしつつ、ペーパーをリヴァイズする作業にも取り組みます。高校を退学処分になった少年がニューヨークの街を放浪する『キャッチャー・イン・ザ・ライ』（1951）、フェミニズムにより再評価された『目覚め』（1899）、南部の白人家庭で働く黒人家政婦たちを描いてベストセラーとなり映画化もされた『ヘルプ』（2009）の3冊を予定しています。授業では、担当箇所を決め、学生による発表、グループディスカッション、教員による補足説明という形で進めていきます。授業の最初に、前回提出されたリアクションペーパーから代表的な意見や独創的な意見を紹介します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	短いペーパー提出、文献検索方法	図書館データベースの使い方を学ぶ
2回目	文献検索フォローアップ、グループ分け	文献検索結果について各自が発表、要約の仕方を学ぶ
3回目	フォークナー “Barn Burning”（前半）	絨毯の上の足跡
4回目	“Barn Burning”（後半）	少年の苦悩と家出
5回目	ヤマモト “Seventeen Syllables”（前半）	日系移民にとっての俳句とアメリカ大衆文化
6回目	“Seventeen Syllables”（後半）	思春期
7回目	オコナー “Everything That Rises Must Converge”	減量教室へのバスでの送迎
8回目	研究論文の読み方	ゼミで扱った作品について書かれた論文を読む
9回目	卒論を書くプロセス、卒論途中経過報告	テーマの設定と全体の構成
10回目	ウォーカー “Everyday Use”	キルトの文化が伝えるもの
11回目	サリンジャー 『キャッチャー・イン・ザ・ライ』	グループ発表（夏休みのペーパーごとにテーマ設定）
12回目	ショパン 『目覚め』	グループ発表（夏休みのペーパーごとにテーマ設定）
13回目	ストケット 『ヘルプ』	グループ発表（夏休みのペーパーごとにテーマ設定）
14回目	秋学期のまとめ、書き直した長めのペーパーの提出	小説における「家族」の扱われ方、ゼミ活動の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

発表担当者はハンドアウトを作成し、事前に「学習支援システム」に提出します。発表担当者でない場合にも、授業で扱う短編小説の該当箇所をかならず読み、指摘すべき箇所に下線を引いてコメントを準備し、授業での発言やグループディスカッションに備えます。また、図書館データベースを利用しての文献検索、雑誌論文の要約作成、ゼミ仲間のペーパーへのフィードバックの作成など、論文執筆に必要なスキルを身につけるための課題を予定していますので、授業時間外に取り組み、提出締切を厳守するようにします。授業時間外で、グループ発表のための準備も進めていきます。

【テキスト（教科書）】

初回の授業時に指示します。短編小説は英語で読みますが、どの作品も翻訳が出ていますので、積極的に比較・参照してみてください。

【参考書】

『アメリカ文学入門〔新版〕』諏訪部浩一編 三修社 2023年

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）、発表（35％）、ペーパー関連（35％）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

演習ですので、ゼミ生による毎回の討論の積み重ねが大事です。仲間のために遅刻や欠席をしないように心がけましょう。ゼミ履修以前には小説をあまり読んでいたことがなかった人でも、ゼミの討論に参加する中で小説の読み方を身につけられたという声がありましたので、心配せずに受講してください。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to understand American literature by focusing on different aspects of its culture every year. This year we will read American short stories by paying special attention to the depictions of families and their members. The seminar also enhances students' skills in close reading of texts and in effective oral presentations. Before /after each class meeting, students' required study time is at least four hours. Grading will be based on in-class contribution (30%), presentations (35%), and papers (35%).

LIN300BD (言語学 / Linguistics 300)

英語教育学演習 A

ブライアン ウィスナー

授業コード：A2961 | 曜日・時限：金3/Fri.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course examines the process of second language (L2) acquisition from theoretical and practical viewpoints. Students examine and classify theories of L2 learning and apply the findings to the development of principled approaches to L2 pedagogy.

【到達目標】

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

- (1) Explain the L2 acquisition process
- (2) Examine the relationships among input, output, feedback, and instruction

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

This course examines key concepts in L2 acquisition theory, research, and pedagogy. Students then apply this knowledge by conducting research, presenting findings, and participating in group discussions. Most classes will consist of group discussions, presentations, and lectures on topics in L2 acquisition and pedagogy. Feedback will be given after each presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction to the course	Presentation of key concepts in second language acquisition and teaching
第2回	Input	What is the role of input in L2 learning?
第3回	Output	What is the role of output in L2 learning?
第4回	Age and L2 acquisition	How does age affect L2 acquisition?
第5回	Interaction in L2 classrooms	Does interaction lead to L2 acquisition?
第6回	Feedback	What is the purpose of feedback in L2 learning?
第7回	Implicit negative feedback	What is the role of implicit negative feedback in L2 learning?
第8回	Prompts and recasts	What are the effects of prompts and recasts in L2 instruction?
第9回	Interactional feedback	Effects of the instructional environment and feedback
第10回	Implicit and explicit feedback	Effects of feedback on learning L2 grammar
第11回	Focused and unfocused feedback	Effects of focused and unfocused feedback on L2 learning
第12回	Oral and written feedback	Effects of oral and written feedback on L2 learning
第13回	Research presentations	Research project presentations
第14回	Feedback on research presentations and final exam	Discussion of and feedback on students' research projects and final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class—this entails meeting and coordinating with your group members.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course.

【参考書】

Shawn Loewen. (2015). *Introduction to instructed second language acquisition*. Routledge.
Lourdes Ortega. (2009). *Understanding second language acquisition*. Hodder Education.

Rod Ellis. (2008). *The study of second language acquisition* (2nd edition). Oxford University Press.

H. Douglas Brown. (2007). *Teaching by principles: An interactive approach to language pedagogy* (3rd edition). Longman.

H. Douglas Brown. (2006). *Principles of language learning and teaching* (5th edition). Longman.

【成績評価の方法と基準】

In-class presentations: 50%

Written report: 25%

Final Exam: 25%

Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a writing assignment and final exam. Highly evaluated presentations and reports demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation and writing conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for missing an assignment (i.e., presentation, report, or test) or for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】

Students commented that they benefited from conducting research and preparing presentations on the course content. I plan to allot more time for students to reflect on the course content and to conduct research for their presentations.

【Outline (in English)】

This course examines the process of second language (L2) acquisition from theoretical and practical viewpoints. Students examine and classify theories of L2 learning and apply the findings to the development of principled approaches to L2 pedagogy.

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

- (1) Explain the L2 acquisition process
- (2) Examine the relationships among input, output, feedback, and instruction

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class—this entails meeting and coordinating with your group members.

Grading Criteria:

In-class presentations: 50%

Written report: 25%

Final Exam: 25%

LIN300BD（言語学 / Linguistics 300）

英語教育学演習 B

ブライアン ウィスナー

授業コード：A2962 | 曜日・時限：金3/Fri.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course examines connections between second language (L2) acquisition and pedagogy. Students examine principled approaches to L2 pedagogy and consider how to develop their own teaching philosophy.

【到達目標】

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

- (1) Examine the connection between second language research and second language pedagogy
- (2) Identify and explain effective approaches to instructed second language learning

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

This course examines key concepts in L2 acquisition theory, research, and pedagogy. Students then apply this knowledge by conducting research, presenting findings, and participating in group discussions. Most classes will consist of group discussions, presentations, and lectures on topics in L2 acquisition and pedagogy. Feedback will be given after each presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction to the course	Presentation of key concepts in second language acquisition and teaching
第2回	From SLA to language pedagogy	Connections between second language acquisition and second language pedagogy
第3回	History of second language teaching methods	Traditional approaches to second language teaching
第4回	Identifying components of a language course	Key parts of a language course
第5回	Second language tasks	The use of tasks in second language teaching
第6回	Beginning to listen and speak	Teaching listening and speaking to beginning learners
第7回	Teaching listening	Approaches and research in teaching listening
第8回	Teaching speaking	Approaches and research in teaching speaking
第9回	Teaching reading	Approaches and research in teaching reading
第10回	Teaching writing	Approaches and research in teaching writing
第11回	Developing fluency	Approaches to and research on fluency development
第12回	Designing language tests	Types and purposes of language tests
第13回	Analyzing language tests	Methods of analyzing language tests
第14回	Research presentations and final exam	Discussion of and feedback on students' presentations and final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class—this entails meeting and coordinating with your group members.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course.

【参考書】

Shawn Loewen. (2015). *Introduction to instructed second language acquisition*. Routledge.

Lourdes Ortega. (2009). *Understanding second language acquisition*. Hodder Education.
Rod Ellis. (2008). *The study of second language acquisition* (2nd edition). Oxford University Press.
H. Douglas Brown. (2007). *Teaching by principles: An interactive approach to language pedagogy* (3rd edition). Longman.
H. Douglas Brown. (2006). *Principles of language learning and teaching* (5th edition). Longman.

【成績評価の方法と基準】

In-class presentations: 50%
Written report: 25%
Final exam: 25%

Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a writing assignment and final exam. Highly evaluated presentations and reports demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation and writing conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for missing an assignment (i.e., presentation or report) or for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】

Students commented that they benefited from conducting research and preparing presentations on the course content. I plan to allot more time for students to reflect on the course content and to conduct research for their presentations.

【Outline (in English)】

This course examines connections between second language (L2) acquisition and pedagogy.
Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:
(1) Examine the connection between second language research and second language pedagogy
(2) Identify and explain effective approaches to instructed second language learning
Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class—this entails meeting and coordinating with your group members.
Final grades will be calculated based on the following: In-class presentations: 50%; Written report: 25%; Final exam: 25%.

LIT200BD (文学 / Literature 200)

文学研究方法論 A

波戸岡 景太

授業コード：A2969 | 曜日・時限：水2/Wed.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は英米文学・文化研究への入門授業である。

- ①文学を学ぶことは何がどうおもしろいのか
 - ②文学を学ぶことは将来何の役に立つのか
 - ③文学を学ぶことは英語力の向上にどう繋がるのか
 - ④文学を研究する方法にはどのようなものがあり、具体的にどのようなプロセスで進めていくものなのか
- という4つの問いを念頭に置いて、文学研究の意義と方法を、解釈の実践を通じて体験的に学ぶ。

題材は、小説と映画を中心に、演劇、漫画、テレビアニメ、グラフィック・ノベル、音楽、などを用いる。英語に触れる機会を増やすため、また教員の専門分野の関係から、主にアメリカ文学・文化に関わる作品を扱うが、理解促進のため日本のコンテンツも比較対象として使用する。

【到達目標】

- ①「授業の概要と目的」に掲げた4つの問いに対する回答を、実感とともに獲得する。
- ②能動的な読書や作品鑑賞（とそれを通じた英語学習）のための意欲と技法と知識を得る。
- ③いくつかの批評理論の概要について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

O・ヘンリーの短編「賢者の贈り物」とレイモンド・カーヴァーの短編「風呂」を主なテキストとして、タイトル、プロット、キャラクター、テーマ……といった物語の基本的な要素を講義形式で分析する。各回の最後にはリアクションペーパーの提出が必須となるが、回によっては試作した物語の提出が求められることもある。また、授業の始まりには、前回授業にて提出されたリアクションペーパーならびに課題に対する、教員からの総合的なフィードバックを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	物語の「おもしろさ」を言語化するための方法について
第2回	物語を分解する(1)	O・ヘンリーの短編「賢者の贈り物」の「おもしろさ」を図式化する
第3回	物語を分解する(2)	レイモンド・カーヴァーの短編「風呂」の「おもしろさ」を図式化する
第4回	物語の内と外をはっきりさせる(1)	「賢者の贈り物」の「語る側」と「語られる側」の関係を意識する
第5回	物語の内と外をはっきりさせる(2)	「風呂」の「語る側」と「語られる側」の関係を意識する
第6回	作者を知る(1)	O・ヘンリーの生涯を知る
第7回	作者を知る(2)	レイモンド・カーヴァーの生涯を知る
第8回	英語と日本語を比較する(1)	「賢者の贈り物」の原文と訳文を比較する
第9回	英語と日本語を比較する(2)	「風呂」の原文と訳文を比較する
第10回	ジャンルをまたいで比較する	「賢者の贈り物」と新海誠監督作品『君の名は。』を比較する
第11回	編集の功罪を考える	「風呂」とディズニー作品『アナと雪の女王』を比較する
第12回	物語を試作する(1)	「賢者の贈り物」のパターンを使って短編小説を試作する
第13回	物語を試作する(2)	「風呂」のパターンを使って短編小説を試作する
第14回	まとめ／期末試験	「おもしろさ」の発見を文学研究につなげるための方法論／筆記試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業で学んだ内容を、これまでに自分が読んだ小説や漫画、観た映画やアニメとどのように関連づけることができるかを考えてみる。友人と話し合う。(2時間)
- ・授業で学んだ作家の他の作品や、教員・受講生が紹介する参考文献や映画に積極的に触れ、自分の興味の幅を広げる。(2時間)

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を毎回の授業時に配布する。

【参考書】

石原千秋『読者はどこにいるのか：読者論入門』（河出文庫、2021年）
カーヴァー、レイモンド『愛について語るときに我々の語ること』（村上春樹訳、中央公論新社、2017年）
クロン、リサ『脳が読みたくなるストーリーの書き方』（府川由美恵訳、フィロムアート社、2016年）
ヘンリー、O『O・ヘンリー ニューヨーク小説集 街の夢』（青山南他訳、ちくま文庫、2022年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーおよびワークシートの記述課題における授業の理解度と積極的参加の度合い）：50％
期末試験（授業内容を踏まえた論述問題が中心）：50％

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

This course is designed to be an introduction to literary studies and literary criticism. Through the survey of various approaches to literary and visual texts, students will get a better sense of cultural and social relevance of literary studies in the world we live in.

Classes consist of lectures and in-class writing assignments (the worksheets). Students' writings will be picked and shared to the class next week through the "feedback sheets" provided by the instructor.

Grades will be determined based on the following:

- 1) Participation and in-class assignments (50%)
- 2) Final exam (50%)

LIT200BD（文学 / Literature 200）

文学研究方法論B

波戸岡 景太

授業コード：A2970 | 曜日・時限：水2/Wed.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は英米文学・文化研究への入門授業である。

- ①文学を学ぶことは何がおもしろいのか
 - ②文学を学ぶことは将来何の役に立つのか
 - ③文学を学ぶことは英語力の向上にどう繋がるのか
 - ④文学を研究する方法にはどのようなものがあり、具体的にどのようなプロセスで進めていくものなのか
- という4つの問いを念頭に置いて、文学研究の意義と方法を、解釈の実践を通じて体験的に学ぶ。

題材は、小説と映画を中心に、演劇、漫画、テレビアニメ、グラフィック・ノベル、音楽、などを用いる。英語に触れる機会を増やすため、また教員の専門分野の関係から、主にアメリカ文学・文化に関わる作品を扱うが、理解促進のため日本のコンテンツも比較対象として使用する。

【到達目標】

- ①「授業の概要と目的」に掲げた4つの問いに対する回答を、実感とともに獲得する。
- ②能動的な読書や作品鑑賞（とそれを通じた英語学習）のための意欲と技法と知識を得る。
- ③いくつかの批評理論の概要について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

O・ヘンリーの短編「最後の一夜」とレイモンド・カーヴァーの短編「ダンスしないか？」を主なテキストとして、タイトル、プロット、キャラクター、テーマ……といった物語の基本的な要素を講義形式で分析する。各回の最後にはリアクションペーパーの提出が必須となるが、回によっては試作した物語の提出が求められることもある。また、第2回以降の授業では、前回授業にて提出されたリアクションペーパーならびに課題に対する、教員からの総合的なフィードバックを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	物語の「語られていない部分」を言語化するための方法について
第2回	プロットを明らかにする(1)	「最後の一夜」の語られて【いる】部分を図式化する
第3回	物語を分解する(1)	「最後の一夜」の語られて【いない】部分を浮き彫りにする
第4回	プロットを明らかにする(2)	「ダンスしないか？」の語られて【いる】部分を図式化する
第5回	物語を分解する(2)	「ダンスしないか？」の語られて【いない】部分を浮き彫りにする
第6回	物語の内と外をはっきりさせる(1)	「最後の一夜」の「語る側」と「語られる側」の関係を意識する
第7回	物語の内と外をはっきりさせる(2)	「ダンスしないか？」の「語る側」と「語られる側」の関係を意識する
第8回	英語と日本語を比較する(1)	「最後の一夜」の原文と訳文を比較する
第9回	英語と日本語を比較する(2)	「ダンスしないか？」の原文と訳文を比較する
第10回	ジャンルをまたいで比較する(1)	「最後の一夜」とピクサー作品『トイ・ストーリー』を比較する
第11回	ジャンルをまたいで比較する(2)	「ダンスしないか？」とジブリ作品『となりのトトロ』を比較する
第12回	物語を試作する(1)	「最後の一夜」のパターンを使って短編小説を試作する
第13回	物語を試作する(2)	「ダンスしないか？」のパターンを使って短編小説を試作する
第14回	まとめ／期末試験	「語られていない部分」の発見を文学研究につなげるための方法論／筆記試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業で学んだ内容を、これまでに自分が読んだ小説や漫画、観た映画やアニメとどのように関連づけることができるかを考えてみる。友人と話し合う。(2時間)
- ・授業で学んだ作家の他の作品や、教員・受講生が紹介する参考文献や映画に積極的に触れ、自分の興味の幅を広げる。(2時間)

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を毎回の授業時に配布する。

【参考書】

石原千秋『読者はどこにいるのか：読者論入門』（河出文庫、2021年）
カーヴァー、レイモンド『愛について語るときに我々の語ること』（村上春樹訳、中央公論新社、2017年）
クロン、リサ『脳が読みたくなるストーリーの書き方』（府川由美恵訳、フィルムアート社、2016年）
ヘンリー、O『O・ヘンリー ニューヨーク小説集 街の夢』（青山南他訳、ちくま文庫、2022年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーおよびワークシートの記述課題における授業の理解度と積極的参加の度合い）：50％
期末試験（授業内容を踏まえた論述問題が中心）：50％

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

This course is designed to be an introduction to literary studies and literary criticism. Through the survey of various approaches to literary and visual texts, students will get a better sense of cultural and social relevance of literary studies in the world we live in. Classes consist of lectures and in-class writing assignments (the worksheets). Students' writings will be picked and shared to the class next week through the "feedback sheets" provided by the instructor. Grades will be determined based on the following:
1) Participation and in-class assignments (50%)
2) Final exam (50%)

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）		
2 年次演習（1）		
波戸岡 景太		
授業コード：A2971 曜日・時限：水 1/Wed.1 春学期授業/Spring・2 単位 配当年次：2 年		
その他属性：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 現代アメリカ文学にみられるアジア系アメリカ文化の多様な表象について学びます。教材は、現代小説、グラフィックノベル、ディズニー映画など。さまざまなテクストの読解を通じて浮かび上がるアジア系アメリカ文化の特徴を精査し、最終的に自らの言葉でアジア系アメリカ文化／文学に関する批評文が書けるように指導します。		
【到達目標】 ・自分の感想を大切にしながらも、客観的な作品評価ができるようになる。 ・個々の作品の成立過程を、文学史や文化史を参照して調べられるようになる。 ・アメリカ社会における「文学的なもの」の役割を理解できるようになる。 ・現代における「芸術作品が持つ大衆性」を見抜くことができるようになる。 ・アジア系アメリカ文化の歴史を深く理解することができるようになる。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連		
【授業の進め方と方法】 授業の進行は、教員による「課題文の概説」、受講者が主体となった「課題解決型学習」、教員の指導に従って受講者が取り組む「批評文の執筆」の3回を1セットとし、1学期に合計4セットを行います。 提出された批評文については、まずは授業内で学生同士のフィードバックを行ない、最後に担当教員から総評を伝えます。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり /Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：現代英語圏文学における「アジア」について	受講者の自己紹介、使用する教材の説明、授業の進行方法の確認など。
第2回	（概説）Michelle Zaunerのノンフィクション <i>Crying in H Mart</i> を分析する	現代アメリカにおける韓国系アメリカ人作家やアーティストの仕事を紹介しながら、本作を精読する。
第3回	（学習） <i>Crying in H Mart</i> から課題を探索	アメリカにおける BTS や <i>Squid Game</i> といった "Korean Wave" との比較を通じて、Zauner の独自性を明らかにし、グループごとに発表する。
第4回	（執筆） <i>Crying in H Mart</i> の批評文を書く	概説の内容と学習で得た発見をもとに、各自で400字程度の批評文を執筆する。
第5回	（概説）Gene Luen Yangのグラフィックノベル <i>American Born Chinese</i> を分析する	現代アメリカにおける中国系アメリカ人作家やアーティストの仕事を紹介しながら、本作を精読する。
第6回	（学習） <i>American Born Chinese</i> から課題を探索	同名タイトルのテレビドラマと比較することで、本作の独自性を明らかにし、グループごとに発表する。
第7回	（執筆） <i>American Born Chinese</i> の批評文を書く	概説の内容と学習で得た発見をもとに、各自で400字程度の批評文を執筆する。
第8回	（概説）ディズニー映画 <i>Mulan</i> （実写版）を分析する	同作についてのレビューを読み解きながら、アメリカ映画におけるアジア表象の現在を分析する。
第9回	（学習） <i>Mulan</i> から課題を探索	実写版をめぐる国際的な議論を整理し、かつまた、アニメーション版やノベライズとの差異を明らかにすることで、本作の独自性を明らかにし、グループごとに発表する。
第10回	（執筆） <i>Mulan</i> の批評文を書く	概説の内容と学習で得た発見をもとに、各自で400字程度の批評文を執筆する。
第11回	（概説）Ted Chiangの短編小説 "The Great Silence" を分析する	作品を精読したあとに、本作についての批評文を読解する。
第12回	（学習） "The Great Silence" から課題を探索	絶滅のナラティブの歴史を概観しつつ本作の独自性を明らかにし、グループごとに発表する。
第13回	（執筆） "The Great Silence" の批評文を書く	概説の内容と学習で得た発見をもとに、各自で400字程度の批評文を執筆する。
第14回	まとめ	各セットで執筆した批評文4本の中から1本を清書し、期末レポートを作成する。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 授業内で使用する教材データは事前にオンラインで配付しますので、「課題文の概説」の回には課題文（英語）の語彙調べを行い、「課題解決型学習」の回には参考資料の確認をし、そして「批評文の執筆」の回にはあらかじめ授業で執筆する内容を箇条書きにしておいてください（これらの作業を十全に実施するためには、2時間ほどが必要です）。また、各授業の後には、授業内容の復習（1時間）と、映像資料の視聴（1時間）を行ってください。		
【テキスト（教科書）】 担当教員が作成した印刷物をオンラインで配布しますので、授業準備の段階で各自ダウンロード／プリントアウトをして下さい。		
【参考書】 1) ジーン・ルエン・ヤン著『アメリカン・ボーン・チャイニーズ：アメリカ生まれの中国人』（椎名ゆかり訳、花伝社、2022年） 2) テッド・チャン『息吹』（大森望訳、ハヤカワ文庫、2023年） 3) ミシェル・ザウナー著『H マートで泣きながら』（南海弘美訳、集英社、2022年）		
【成績評価の方法と基準】 グループワークや学習状況にもとづく平常点（10％）、各セットで執筆した批評文4本の評価（40％）、最終回に作成した期末レポート（50％）を合計し、60％以上を合格とする。		
【学生の意見等からの気づき】 本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。		
【Outline (in English)】 This is an interdisciplinary course that includes analysis of short stories, films, memoirs, and graphic novels in 20th and 21st century America. The goal of this course is to understand and write a critical essay about the diversity of representations of Asian American culture in American literature. In order to do this, you will need to examine media content and texts closely and read critical essays about them with the guidance of the instructor and through discussions with your classmates. Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content. Grading shall be as follows: 1) Participation and discussion (10%) 2) Short critical essays (40%) 2) Term paper (50%)		

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

2 年次演習（2）

山崎 暁子

授業コード：A2972 | 曜日・時限：水 1/Wed.1
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

C. S. Lewis の「ナルニア」シリーズの 1 巻である *The Magician's Nephew* を英語で精読し、このシリーズについての批評も読んで、小説を解釈し論じる方法を学習する。ディスカッションを通して多様な見方に触れることで作品への理解を深め、自分なりの解釈を論として文章で表現する。

【到達目標】

- ・英語を読む能力を向上させる。構文を正しく理解することに加え、社会的・文化的背景も考慮して読むことができるようになる。
- ・テキストを分析し、自分なりの解釈を、その妥当性を論証しながら、説得力をもって提示することができるようになる。
- ・プレゼンテーションやディスカッションを通じて、口頭でのコミュニケーション力を向上させる。
- ・文学批評の方法論の基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

The Magician's Nephew を英語で精読する。授業は基本的に演習形式で進め、担当者が英語の解釈および内容について問題提起をおこなった後、グループでディスカッションし、結果を報告する。授業後にはリアクションペーパーを提出する。

学期の最後には、期末レポートの準備として、研究論文の読解をおこなうとともに、調査・収集方法についても学ぶ。

発表や質問に対して口頭や書面によるレスポンスをおこなうほか、レポートはフィードバックのコメントをつけたファイルを返却する。

対面授業を基本とするが、必要に応じてオンライン授業の回を設ける可能性がある。授業形態を変更する場合は、事前に学習支援システムから通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方を説明し、全員が自己紹介する。
第2回	<i>The Magician's Nephew</i> 第1章の読解とディスカッション	教員が問題提起を担当し、ディスカッションをおこなう。第4回～第13回の担当を決める。
第3回	<i>The Magician's Nephew</i> 第2章の読解とディスカッション	教員が問題提起を担当し、ディスカッションをおこなう。
第4回	<i>The Magician's Nephew</i> 第3章～第4章の読解とディスカッション	担当者が問題提起してディスカッションをおこなう。
第5回	<i>The Magician's Nephew</i> 第4章～第5章の読解とディスカッション	担当者が問題提起してディスカッションをおこなう。
第6回	<i>The Magician's Nephew</i> 第5章～第6章の読解とディスカッション	担当者が問題提起してディスカッションをおこなう。
第7回	<i>The Magician's Nephew</i> 第7章の読解とディスカッション	担当者が問題提起してディスカッションをおこなう。
第8回	<i>The Magician's Nephew</i> 第8章の読解とディスカッション	担当者が問題提起してディスカッションをおこなう。
第9回	<i>The Magician's Nephew</i> 第9章の読解とディスカッション	担当者が問題提起してディスカッションをおこなう。
第10回	<i>The Magician's Nephew</i> 第10章の読解とディスカッション	担当者が問題提起してディスカッションをおこなう。
第11回	<i>The Magician's Nephew</i> 第11章の読解とディスカッション	担当者が問題提起してディスカッションをおこなう。

第12回	<i>The Magician's Nephew</i> 第12章の読解とディスカッション	担当者が問題提起してディスカッションをおこなう。
第13回	<i>The Magician's Nephew</i> 第13章～第14章の読解とディスカッション	担当者が問題提起してディスカッションをおこなう。
第14回	研究論文の読解	「ナルニア」シリーズについて書かれた論文を読む。論文の調査・収集法についても学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、毎週、指定範囲を読み、疑問点があれば下調べし、ディスカッションの準備をして授業に参加する。下調べした内容や、読んでいて気になった点、興味を持った点をメモしておき、ディスカッションで共有できるようにしておく。授業後には学習支援システムからリアクションペーパーを提出する。

本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

C. S. Lewis, *The Magician's Nephew*

全員が同じ版を使う必要があるため、必ず指定のテキストを生協で購入すること。出版社等の詳細は学習支援システムから連絡する。

【参考書】

安藤聡『ナルニア国物語読解—C. S. ルイスが創造した世界』（彩流社、2006 年）他、必要に応じて授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %
問題提起 30 %
期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

グループワークがおおむねうまく機能したようなので、今年度もグループワークを軸として授業をおこなう。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムと Google Document を、連絡、資料の配布、課題提出等に使用する。

【その他の重要事項】

授業についての情報を事前に学習支援システムから通知するので、第1回授業の前々日までに仮登録すること。

学習支援システムからの通知や個別の連絡が法政 Gmail に届くので、随時チェックすること。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This seminar is an introduction to literary studies. Students will learn how to discuss literary texts in a critical way through a close reading of *The Magician's Nephew*.

[Learning objectives]

At the end of the course, participants should have acquired the knowledge and skills needed to analyze literary texts and will be able to discuss them logically from their own viewpoint.

[Learning activities outside of classroom]

Before each class meeting, students will be expected to have read the text closely and prepared for the discussion. The required study time is at least four hours for each class meeting.

[Grading criteria /Policy]

Grading will be decided based on in-class contribution (30%), discussion questions (30%) and final essay (40%).

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

2 年次演習（3）

田中 裕希

授業コード：A2973 | 曜日・時限：水 1/Wed.1
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米文学を代表する短編小説・詩・映画を鑑賞し、分析の仕方を学ぶ。テーマは「自己」「私」がどう文学や映画で表現されているかを考える。受け身の読み手から能動的な読み手になるために、作品を構成する一つ一つの要素（語り、文体、登場人物など）を分析し、言葉の細部を主題に結びつける訓練をする。

【到達目標】

精読能力を高め、作品の主題を論じる力を身につける。毎週プレゼンテーションを担当する学生を決め、気づいたことなどを発表し、クラス全体でディスカッションする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

学生のプレゼンテーションとディスカッションを中心とする。授業またオフィスアワーで課題に対するフィードバックをする。状況によってオンライン授業も併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「私」とは
第2回	Raymond Carver, "Cathedral"	自己と他者
第3回	"Cathedral"	人物描写の変化
第4回	Katherine Mansfield, "The Garden Party"	自己とジェンダー
第5回	"The Garden Party"	成長物語とは
第6回	Brooklyn	移民としての私
第7回	Frank O'Hara, <i>Lunch Poems</i>	都市に生きる私
第8回	Li-Young Lee, "Persimmon"	異文化と私
第9回	英詩の創作	ワークショップ
第10回	Ernest Hemingway, "Big Two-Hearted River (Part 1)"	戦争体験とトラウマ
第11回	"Big Two-Hearted River (Part 2)"	物語の構造
第12回	<i>Taxi Driver</i>	Self-made man とは
第13回	Solmaz Sharif, <i>Look</i>	9.11 以後の私
第14回	結び	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週配布されるテキストを予習し、ディスカッションの準備をする。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントを配布する。

【参考書】

阿部公彦『英詩のわかり方』（研究社）
デイヴィッド ロッジ、柴田元幸訳、斎藤兆史訳『小説の技巧』（白水社）

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度 30%
プレゼンテーション 30%
期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

引き続きアクティブにディスカッションする

【その他の重要事項】

4 回以上の欠席で単位を失う。

【Outline (in English)】

In this class, we will study the art of literature by reading major works of fiction and poetry as well as film in English. We will learn to become more active readers by focusing on what constitutes a literary text (narrative, style, characters etc).

There will be some lectures, but most of the class time will be devoted to students' active participation. Students will receive feedback on their work in class, via Hoppil, and during office hours. The format of this class in a given week could change, depending on the Covid situation. Grades will be determined based on presentations (30%), participation (30%), and the final paper (40%). 2 hours per week for study /review.

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

2 年次演習（4）

ブライアン ウィスナー

授業コード：A2974 | 曜日・時限：水 1/Wed.1
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces students to the key concepts in second language (L2) acquisition theory, research, and pedagogy. Students examine and classify theories of L2 learning and apply the findings to the development of principled approaches to L2 pedagogy.

【到達目標】

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

1. Explain the core issues in L2 acquisition research
2. Examine the connection between L2 research and pedagogy
3. Reflect on their own L2 learning experience

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

This course introduces key concepts in L2 acquisition theory, research, and pedagogy. Students then apply this knowledge by examining research, presenting research findings, and participating in group discussions. Most classes will consist of group discussions, presentations, and lectures on topics in L2 acquisition and pedagogy. Feedback will be given after each presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction to the course	Presentation of key concepts in second language acquisition and teaching
第2回	First language acquisition	How do people learn an L1?
第3回	Second language acquisition	How do adults learn an L2?
第4回	Age and L2 acquisition	How does age affect L2 acquisition?
第5回	L2 Fluency	How is L2 fluency developed?
第6回	Contexts of instructed L2 acquisition	In what ways does the linguistic environment influence L2 acquisition?
第7回	Teaching reading	Approaches to and issues in reading instruction
第8回	Speaking and pronunciation	Issues in incorporating pronunciation instruction in L2 classes
第9回	Classroom-based assessment	How can L2 performance be assessed?
第10回	Communication and fluency	Issues in incorporating communication and fluency practice in L2 classes
第11回	Teaching listening	Intensive and extensive approaches to listening instruction
第12回	Individual differences	What other variables play a role in L2 learning?
第13回	Research presentations	Research project presentations
第14回	Feedback on research presentations and final exam	Discussion of and feedback on students' presentations and final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class—this entails meeting and coordinating with your group members.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course.

【参考書】

Shawn Loewen. (2015). *Introduction to instructed second language acquisition*. Routledge.
Lourdes Ortega. (2009). *Understanding second language acquisition*. Hodder Education.
Rod Ellis. (2008). *The study of second language acquisition* (2nd edition). Oxford University Press.
H. Douglas Brown. (2007). *Teaching by principles: An interactive approach to language pedagogy* (3rd edition). Longman.
H. Douglas Brown. (2006). *Principles of language learning and teaching* (5th edition). Longman.

【成績評価の方法と基準】

In-class presentations: 50%

Written report: 25%

Final exam: 25%

Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a writing assignment and final exam. Highly evaluated presentations and reports demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation and writing conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for missing an assignment (i.e., presentation, report, or test) or for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】

Students commented that they benefited from conducting research and preparing presentations on the course content.

【Outline (in English)】

This course introduces students to the key concepts in second language (L2) acquisition theory, research, and pedagogy.

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

1. Explain the core issues in L2 acquisition research
2. Examine the connection between L2 research and pedagogy
3. Reflect on their own L2 learning experience

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class—this entails meeting and coordinating with your group members.

Final grades will be calculated based on the following: In-class presentations: 50%; Written report: 25%; Final exam: 25%.

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

2年次演習（5）

福元 広二

授業コード：A2975 | 曜日・時限：水1/Wed.1
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

語用論の基礎的な知識と語用論的な視点から調査・研究する方法を学びます。特に、言語コミュニケーションの観点から論文を書く方法について理解を深めていきます。

【到達目標】

語用論の基礎的な知識を身につけることにより、日常のコミュニケーションの意味を、言語学的に分析できる力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書は担当者を決めて発表してもらいます。また、語用論に関して書かれた文章を学生が順番に、その内容について発表します。それに基づいてクラス全体でディスカッションします。

これとは別に受講生個々に、自分の研究テーマを探してもらいます。受講者各自がもっとも興味を持ったテーマに関して自由に調べて、タームペーパーを作成する準備をしてもらいます。トピックに関して、プレゼンテーションもしてもらいます。プレゼンテーションやタームペーパーの技法に関しても指導する予定です。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態についてはHoppiiで連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明と自己紹介
第2回	語用論の基礎の講義	語用論の基礎的な事柄についての説明
第3回	Chapter 1	教科書 pp. 1-8
第4回	Chapter 2	教科書 pp. 9-14
第5回	Chapter 3	教科書 pp. 15-23
第6回	Chapter 4	教科書 pp. 23-30
第7回	Chapter 5	教科書 pp. 31-38
第8回	Chapter 6	教科書 pp. 39-46
第9回	Chapter 7	教科書 pp. 47-54
第10回	Chapter 8	教科書 pp. 55-63
第11回	Chapter 9	教科書 pp. 64-71
第12回	Chapter 10	教科書 pp. 72-79
第13回	個人調査課題発表会	学生による発表
第14回	まとめと今後の課題	研究の進め方についてのまとめと今後の課題、レポート等、課題に対する講評や解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げる教科書に関しては、内容をきちんと把握して、授業にのぞむことが必要です。また、担当者でない場合も必ず予習してきてください。内容に関して、自分なりに批判的に読むという態度も養うように努めてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中典子(2006)『プラグマティクス・ワークショップ』（春風社）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

発表、ディスカッションへの参加、プレゼンテーション、タームペーパーで、総合的に判断します。(タームペーパー40%、平常点60%)

【学生の意見等からの気づき】

学生の発表のために、ワークショップやグループワークの時間を多くしたいと思います。

【その他の重要事項】

- ・初回の授業には必ず出席してください。やむを得ず欠席しなければならない場合には、欠席日と理由を必ず事前に連絡して下さい。
- ・授業に欠席する場合、教員に欠席する旨と欠席の理由をメールにて連絡して下さい。
- ・4回以上欠席した場合はD評価となります。

【Outline (in English)】

This course introduces students to basic concepts in Pragmatics.

The goal of this course is to give students the basic knowledge necessary to conduct research in Pragmatics.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process:

Mid-term report (40%) and in-class contribution (60%)

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

2 年次演習（6）

川崎 貴子

授業コード：A2976 | 曜日・時限：水 1/Wed.1
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2 年

その他属性：

The required amount of study time is a minimum of four hours for each meeting of the class.
【Grading Criteria】
Presentation files, Reviews of in-class presentations, etc. … 30%
In-class participation … 30%
Presentations … 40%

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人の言語コミュニケーションの中でも、特に音声に関することについて学びます。日本語と英語の音声学・音韻論の基礎知識を習得し、日本語と英語の音声学・音韻論の違いが日本語母語話者の英語学習にどのような影響を与えるかを理解することを目標とします。

【到達目標】

音声学・心理言語学の基礎的な知識を身につけることにより、身の回りの言語現象を分析できる力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教員、およびテーマによっては学生がその日のテーマに関する発表・講義を行いながら授業を進めます。
授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の説明・自己紹介
第2回	プレゼンテーション実践1	自己紹介プレゼンテーション
第3回	プレゼンテーション実践2	プレゼンテーションの相互フィードバック
第4回	音声学基礎	音声学の基礎を復習
第5回	音韻論	音の配列と文法
第6回	論文発表1	学生による論文発表（メタファー）
第7回	論文発表2	学生による論文発表（研究方法）
第8回	論文発表3	学生による論文発表（研究結果）
第9回	グループ研究（1）	グループごとに研究計画の作成
第10回	グループ研究（2）	グループ研究の話し合い
第11回	グループ研究（3）	計画したグループ研究の実施
第12回	言語学文献研究1	ビブリオバトル1
第13回	言語学文献研究2	ビブリオバトル2ー発表公評
第14回	調査発表	グループ調査の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ー発表準備、授業の予習、復習が必要です。各自2度の発表回数があります。（自己紹介除く。）
ー毎回、授業で指示される文献を読んでくる必要があります。
ー発表が聞き手にとってわかりやすいものになるよう、工夫しましょう。
ー本授業の準備・復習時間は計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

授業内で適宜ご紹介致します。

【成績評価の方法と基準】

発表スライド、発表のレビューなどの提出物…30%
授業内参加…30%
授業内発表…40%

【学生の意見等からの気づき】

学生による発表とグループでの調査課題が好評だったので、引き続き発表機会をできるだけ多く設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・初回の授業には出席してください。やむを得ず欠席しなければならない場合には、欠席日と理由を必ず事前にご連絡下さい。
・授業に欠席する場合、教員に理由と欠席の旨をメールにて連絡して下さい。事前に連絡なく3回を超えて欠席した場合には、D評価となります。

【Outline (in English)】

This course deals with human speech communication. Students are expected to find small problems regarding speech sounds and conduct a small experiment.

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

英語の文法力 I

椎名 美智

授業コード：A2977 | 曜日・時限：月3/Mon.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大學生に必要な英語力を身につけるために、reading, listening, speaking, writingの4技能をバランスよく勉強します。その基礎となるのが、英文法の基礎知識と応用力ですので、本授業は、高校までの英文法の知識を復習しつつ、これまで学んできた事柄を項目横断的に総括することによって、実際の英語でのコミュニケーション力、プレゼンテーション力をアップさせることを目的にしています。

【到達目標】

英語を話すときに必要な構文やフレーズが、実際のコミュニケーションで自然に使えるようになります。役にたつ英語の構文を理解し、必要なフレーズを暗記し、応用することによって、自然に自分の言いたいことが、適切な構文と語彙を使って言えるように、書けるようになります。また、PPTを使って、英語でプレゼンテーションができるようになる勉強もします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業開始日は4月27日です。しばらくは「教材」に入れた資料を見て学習してください。できればテキストを手に入れてください。テキストを中心に、予習、復習、課題など、演習方式で授業を進めていきます。学生によるプレゼンテーションも行います。少人数での演習タイプの授業を行う予定なので、履修希望者が多い場合は、小テストによる選抜を行います。よって、履修希望者は必ず初回の授業に出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究領域の概説と春学期の授業の進め方や履修条件について説明します。
第2回	Unit 1: 動詞の基礎と文型 (1)	学生のプレゼンテーション、動詞の基礎と文型についての復習と総括
第3回	Unit 1: 動詞の基礎と文型 (2)	学生のプレゼンテーション、動詞の基礎と文型についての演習、小テスト
第4回	Unit 2: 動詞 2 (1)	学生のプレゼンテーション、動詞についての復習と総括
第5回	Unit 2: 動詞 2 (2)	学生のプレゼンテーション、動詞の用法と演習、小テスト
第6回	Unit 3: 時制 (1)	学生のプレゼンテーション、時制についての復習と総括
第7回	Unit 3: 時制 (2)	学生のプレゼンテーション、時制についての演習、小テスト
第8回	中間のまとめと復習	学生のプレゼンテーション、これまでの復習と演習、小テスト
第9回	Unit 4: 助動詞 (1)	学生のプレゼンテーション、助動詞についての復習と総括、小テスト
第10回	Unit 4: 助動詞 (2)	学生のプレゼンテーション、助動詞についての演習、小テスト
第11回	Unit 5: 名詞・冠詞・代名詞 (1)	学生のプレゼンテーション、名詞・冠詞・代名詞についての復習と総括、小テスト
第12回	Unit 5: 名詞・冠詞・代名詞 (2)	学生のプレゼンテーション、名詞・冠詞・代名詞についての演習、小テスト
第13回	Unit 6: 形容詞と副詞 (1)	学生のプレゼンテーション、形容詞と副詞についての復習と総括、小テスト
第14回	Unit 6: 形容詞と副詞 (2)、試験とまとめ	学生のプレゼンテーション、形容詞と副詞についての演習、春semesterで学んだことについての試験と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生は、授業前にテキストの該当部分を予習し、問題をやった上で、授業に出席する必要があります。また、復習をきちんと行い、宿題で指定された構文を暗記して、小テストに備える必要があります。準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

町田健・豊島克己（2014）『大学生のための英文法再入門』研究社

【参考書】

必要な場合は、項目、内容ごとに参考文献や資料、課題などを配布します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験80%、プレゼンテーション20%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業の後に質疑応答の時間を設けて、理解度をチェックしながら、進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

課題はハードコピーで提出してもらいます。

【その他の重要事項】

・今後の英語力向上の基礎となるよう、できれば春・秋学期と、連続して履修してください。
・オフィスアワーについては、授業で詳しく説明します。時間がある場合は、授業前後にもコンサルテーションに応じます。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire grammatical competence in English. The course will consist of lecture and discussion. Reading and writing tasks are required.

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

英語の文法力Ⅱ

椎名 美智

授業コード：A2978 | 曜日・時限：月3/Mon.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生に必要な英語力を身につけるために、reading, listening, speaking, writingの4技能をバランスよく勉強します。その基礎となるのが、英文法の基礎知識と応用力ですので、本授業では、高校までの英文法の知識を復習しつつ、これまで学んできた事柄を項目横断的に総括することによって、実際の英語でのコミュニケーション力、プレゼンテーション力をアップさせる勉強をします。

【到達目標】

英文法を総復習し、反復的な演習を行うことによって、英語を話すときに必要な構文やフレーズが、実際のコミュニケーションで自然に使えるように練習します。役にたつ英語の構文を理解し、必要なフレーズを暗記し、応用することによって、自然に自分の言いたいことが、適切な構文と語彙を使って言えるように、書けるように勉強します。また、パワーポイントを使って英語でプレゼンテーションができるようになる練習をします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストを中心に、予習、復習、課題など、演習方式で授業を進めていきます。学生はプレゼンテーションを行います。少人数による演習タイプの授業を行う予定です。履修希望者が多い場合は、初回の授業で、小テストによる選抜を行いますので、履修希望者は必ず初回授業に出席してください。秋セメスターは基本的にリモート授業ですが、コロナの感染状況により大学の基準が変更した場合は、授業形式も変更します。その場合は、HOPPIIでお伝えします。大学のHPも定期的にみてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	扱う領域の概説と秋学期の授業の進め方や履修条件について説明します。
第2回	Unit 7: 態 (1)	学生によるプレゼンテーション、態についての復習と総括
第3回	Unit 7: 態 (2)	学生によるプレゼンテーション、態についての演習、小テスト
第4回	Unit 8: 否定・疑問 (1)	学生によるプレゼンテーション、否定・疑問についての復習と総括、小テスト
第5回	Unit 8: 否定・疑問 (2)	学生によるプレゼンテーション、否定・疑問についての演習、小テスト
第6回	Unit 9: 準動詞 (1)	学生によるプレゼンテーション、準動詞についての復習と総括、小テスト
第7回	Unit 9: 準動詞 (2)	学生によるプレゼンテーション、準動詞についての演習、小テスト
第8回	中間のまとめと復習	学生によるプレゼンテーション、これまでの復習と演習、エッセイライティング
第9回	Unit 10: 準動詞2・接続詞 (1)	学生によるプレゼンテーション、準動詞2・接続詞についての復習と総括、小テスト
第10回	Unit 10: 形容詞と副詞 (2)	学生によるプレゼンテーション、準動詞2・接続詞についての演習、小テスト
第11回	Unit 11: 関係詞 (1)	学生によるプレゼンテーション、関係詞についての復習と総括、小テスト
第12回	Unit 11: 関係詞 (2)	学生によるプレゼンテーション、関係詞についての演習、小テスト
第13回	Unit 12: 形容詞的修飾語句と副詞的修飾語句 (1)	学生によるプレゼンテーション、形容詞的修飾語句と副詞的修飾語句についての復習と総括、小テスト
第14回	Unit 12: 形容詞的修飾語句と副詞的修飾語句 (2)、テストと振り返り	学生によるプレゼンテーション、形容詞的修飾語句と副詞的修飾語句について演習、秋セメスター全体のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生は、授業前にテキストの該当部分を予習し、問題をやった上で、授業に出席する必要があります。また、復習をきちんと行い、宿題で指定された構文を暗記して、小テストに備える必要があります。準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

町田健・豊島克己（2014）『大学生のための英文法再入門』研究社

【参考書】

必要場合は、項目、内容ごとに参考文献や資料、課題などを配布します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験80%、プレゼンテーション20%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業の後に質疑応答の時間を設けて、理解度をチェックしながら、進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

課題やレポートはハードコピーで提出してもらいます。

【その他の重要事項】

・今後の英語力向上の基礎となるよう、できれば春・秋学期と、続けて履修してください。
・オフィスアワーについては、授業で詳しく説明します。時間がある場合は、授業前後にもコンサルテーションに応じます。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire grammatical competence in English. The course will consist of lecture and discussion. Reading and writing tasks are required.

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

メディア・リテラシー I

田中 邦佳

授業コード：A2979 | 曜日・時限：火4/Tue.4
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新聞、雑誌、テレビなどのメディアやインターネット上には多種多様なデータがグラフなどの形で可視化され掲載されています。データを目に見える形にする方法には様々な手法があり、読み取りが困難であったり、そのまとも方に何らかの意図が込められている場合もあります。

本授業は、これまでデータ分析にあまり馴染みのない参加者を対象にします。授業では、データを受け取る側として各種のグラフの読み取り方や、読み取りの注意点を学び、データを発信する側として、データの種類によってどのような手法を用いるのが適切か、また、データ化や可視化における注意点を学びます。

授業の参加者各自が何らかのテーマを設定し、データを可視化して誰にもわかりやすいレポートを完成することを最終目的とします。

【到達目標】

- (1) 各種のグラフの読み取りができるようになる。
- (2) 具体的な場合に応じたデータのグラフ化ができるようになる。
- (3) データを客観的に文で報告できるようになる。
- (4) 上記の3つの項目を踏まえて、何らかのデータを適切に発信できるように1枚のポスターにしてまとめられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式でメディア上で見られる、各種のデータ・グラフを紹介しします。参加者は、それらのデータから読み取れることを考えたり、作図する演習を行い、レポート執筆の準備を行います。データの解釈やまとめ方についてグループディスカッションを行うこともあります。

授業の最終目標のレポートの完成に向け、各自が考えたデータ分析のテーマや可視化の手法について教員からコメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方の説明
第2回	様々なグラフ	グラフの種類の紹介
第3回	棒グラフ	棒グラフを学ぶ
第4回	ヒストグラム	ヒストグラムを学ぶ
第5回	折れ線グラフ	折れ線グラフを学ぶ
第6回	2つの手法が組み合わされたグラフ	2つの手法が組み合わされたグラフを学ぶ
第7回	散布図	散布図を学ぶ
第8回	円グラフ	円グラフを学ぶ
第9回	適しているグラフ、 適していないグラフ	データのまとめ方に合わせたグラフの選び方を学ぶ
第10回	データを表にする	データを表にする方法を学ぶ
第11回	データの数値化	データを数値としてまとめる時の注意点を学ぶ
第12回	平均値と中央値	平均値と中央値を学ぶ
第13回	標準偏差	標準偏差を学ぶ
第14回	ことばで報告する	データを文で説明する場合の注意点を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加者は、各種データを読み取って文にまとめたり、数値データをまとめてグラフなどの形に作図し準備しておく必要があります。最終レポートに向け、データ分析の計画を立て、途中経過を報告する必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

特にありません。

個別の項目に対し、参考になりそうな情報は授業中にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

20%: 期末課題（ポスター）

80%: 授業内外の課題

以下のいずれかに該当する場合は評価の対象としません。

- ・ 授業での課題の未提出が4回に達した場合
- ・ 期末の課題が提出されなかった場合

【学生の意見等からの気づき】

実現可能なレポートのテーマの設定や、データの構築、分析に時間を要することが伝わっていないように感じました。その点についてより実感を持って理解できるように促すことができたと思います。

【学生が準備すべき機器他】

課題の提出のために学習支援システムを使用する予定です。

【その他の重要事項】

作図の演習では、データの入力など初歩的な項目から実際のデータ分析においてミスをしてしまいがちなポイントや、困難点になりそうな点を紹介します。

本授業では、卒業論文などのために調査や実験の結果の可視化の具体的な手法を学びたい、今後のためにデータの可視化の手法を学びたいという参加者を対象にします。授業では記述統計の手法を扱いますが、推測統計は扱わないことに留意してください。

【Outline (in English)】

Course outline: In the class, (1) as a receiver of data, students will learn how to read various types of graphs and what to pay attention to when reading them. (2) As an analyzer of data, each student will learn what methods of visualizations are appropriate for different types of data.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to be able to do the followings:

- (1) Read various types of graphs.
- (2) Make graph data according to specific cases.
- (3) Report data objectively in writing.
- (4) Summarize some data in a poster.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, each student are expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy: Final report (poster) 20%, Class Assignment 80%

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

メディア・リテラシーⅡ

吉川 純子

授業コード：A2980 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、今日的なさまざまなトピックについて自分で調べ、何が正しいのか比較検討して選択をする訓練を通して、主体的に情報の取捨選択ができる力、すなわちメディア・リテラシーを身につけます。

【到達目標】

学校で教わったことやマスコミで流される情報を鵜呑みにしている人のことを、ネットの世界では「情報弱者（情弱）」と呼びます。だまされて操られる「カモ」にされかねない「情弱」を脱却し、一つのトピックについて異なる立場や意見があることを調べて理解できるようになり、考えて議論することができるように、主体的に情報を取捨選択できる「情報強者（情強）」になることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、対面の演習形式で行います。初回の授業で、各トピックについてのリーディングリストを受講者全員に配布します。ただし、それはあくまで考えるきっかけであって、そこに書いてあることを鵜呑みにしてほしいわけではありません。発表担当者はそのトピックについて調べ、わかったことや考えたことを発表します。その際、自分がこれまで知っていたこと、思っていたことと何が違うのかをはっきりさせてください。そして、どのような意見の違いがあるのかを紹介し、自分の考えを述べます。他の受講者は、同じトピックについて自分でも調べて考えてきてください。授業では担当者の発表の後、議論をしますが、結論を出すことが目的ではなく、立場の違いが明確になればよしとします。一人最低一回は発表をしなければなりません、発表後に教員のコメントを述べる形でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
イントロダクション	「情弱」と「情強」	授業の進め方など
第一回	過労死しないために	過労死を防ぐにはどうしたらいいの
第二回	健康格差	経済と健康のリンク
第三回	日本の人口減少	人口の減少によって何が起るのか
第四回	棄民世代	ロスジェネ世代はなぜ貧困に陥る可能性が高いのか
第五回	健康保険	健康保険の仕組み
第六回	介護保険	介護保険の仕組み
第七回	消費税	消費税の仕組み
第八回	コロナ禍とワクチン	コロナ禍とワクチンをめぐる論争
第九回	食糧問題	食品添加物、農業、遺伝子組み換え食品など
第十回	グレート・リセット	デジタル化と監視社会
第十一回	ショック・ドクトリンと新自由主義	惨事便乗資本主義とは何か？
第十二回	戦後の日米関係と日米安全保障条約	なぜ重要なのか？
第十三回	今期学んだことのまとめ	今期学んだことを振り返り、議論する。レポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は、担当のトピックについて調べて論点を整理します。他の受講者も、同じトピックについて調べて考えます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回にリーディングリストを配布します。

【参考書】

初回に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表30%、授業への貢献度30%、期末レポート40%

【学生の意見等からの気づき】

「情報強者への一步を踏み出した」「マスコミの情報を鵜呑みにしてはいけないということがわかった」という感想をいただいて、とても心強く思いました。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

取りあげるトピックは、知って楽しいものはないかもしれませんが、皆さんがこれから社会に出て大人として生きていくにあたって重要なもののばかりです。社会の厳しい現実を直視し、「情報強者」として生き延びていくための重要な武器の一つはメディア・リテラシーです。「知的サバイバー」を目指して、ぜひこの授業に主体的に参加してください。

【Outline (in English)】

We are going to acquire media literacy by making research and giving presentations, and having discussions on several important topics.

We are going to grow out of "the information-illiterate", who never doubt what they have learned at school or from the mass-media, and become "the information-literate", that is, those who have media literacy, can make research on, think about, and discuss various important topics, and choose appropriate information on the mass-media.

Presenters need to make research on the assigned topic, and prepare for their presentations. The other students also need to make research on the same topic, and think about it. Preparation and the review of each class takes 4 hours.

Grading criteria of this course consist of presentation(30%), contribution to the class(30%), and a report at the end of the semester(40%).

ARS200BD

比較文化論（1）

波戸岡 景太

授業コード：A2981 | 曜日・時限：水1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界中からの多種多様な移民によって形成された移民国家アメリカの文化は、異文化交流の歴史と課題の縮図である。本科目では、アメリカ合衆国の暮らしのなかでも、特に「食」に注目し、日本の食文化と比較しながら学ぶ。教員による講義と学生間の交流を通して、文化の多様性を学ぶとともに、広いコンテキストから現在の社会を問い直す視座を探る。

【到達目標】

- 1）英語圏の国々の代表的な伝統文化について比較しながら説明できる。
- 2）アメリカ合衆国の文化が、他国からの移民の多様な異文化を吸収・改変・保持しながら発展してきた過程を具体的に説明できる。
- 3）英語圏の国々の現代文化が、伝統文化をどのように生かしつつも変容させているかを具体的な事例を通して説明できる。
- 4）多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的な理解を得る。
- 5）以上の知識と体験に基づいて、文化の多様性および異文化コミュニケーションの現状と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アメリカ合衆国との比較を念頭に置きながら、「食」を中心とした様々な文化的事象を学ぶ。また、授業全体を通して、近現代日本の話題も随時取り上げる。授業では、英語圏の国々の最新の動向を伝える文化や社会に関するニュース記事や映像・音声資料を題材に、留学生を含めた多様な背景、異なる価値観を持つ学生同士で議論・交流を行うことで、学生参加型の体験的な理解を促進する。実施されたプレゼンテーションについては、授業参加者全体でフィードバックを行い、最後に担当教員から総評を伝える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションおよび授業の導入	履修者の自己紹介、日米の食文化史を学ぶ上での見取り図を提示する
第2回	ワークショップ①「身近な食文化の発見」	比較文化を学ぶ前提として、自分たちのこれまでの食生活と食文化を振り返る
第3回	留学生を迎えてのアクティブ・ラーニング①	第2回の授業内容を英語のプレゼンテーション資料にまとめ、アクティビティを実施しながら発表を行う
第4回	アメリカの「食」における非西洋の伝統	アメリカの国民食ができるまでの歴史を概観する
第5回	「食」の土着化と独立革命の影響	アメリカ食文化における地域的多様性を学ぶ
第6回	産業社会への移行と食の変革	移民の流入とファストフードの文化を考察する
第7回	ワークショップ②「食文化のローカルとインターナショナルを考える」	ガラパゴス化する日本の食文化を分析する
第8回	留学生を迎えてのアクティブ・ラーニング②	第7回の授業内容を英語のプレゼンテーション資料にまとめ、アクティビティを実施しながら発表を行う
第9回	有機農業と自然食品	カウンターカルチャーが食文化にもたらした影響を考察する
第10回	食文化革命の到達点	エスニックフード、スローフード、ビーガン料理など「食」の現在を概観する
第11回	日米における「食」の生産・流通・消費	食文化をビジネスとツーリズムの側面から考察する
第12回	ワークショップ③「未来の食文化を考える」	オーガニック食材、ハラールフード、コシヤフードを知る
第13回	留学生を迎えてのアクティブ・ラーニング③	第12回の授業内容を英語のプレゼンテーション資料にまとめ、アクティビティを実施しながら発表を行う
第14回	まとめと期末試験	食文化の教授法を考える／授業内で期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業で紹介した参考文献を読み、動画や映画を積極的に視聴する。（2時間）
・自分の日常生活の中から「異文化理解」に関係する事象を探し出し、授業と関連づけて考えたり、友人や家族と話し合ったりする。（1時間）

・プレゼンテーションおよび期末試験の準備を計画的に進める。（1時間）

【テキスト（教科書）】

教員が作成したプリントを授業開始時に配付します。

【参考書】

ジョナサン・サフラン・フォア『イーティング・アニマル：アメリカ工場式畜産の難題』（黒川由美訳、東洋書林、2011年）
鈴木透『食の実験場アメリカ：ファーストフード帝国のゆくえ』（中央公論社、2019年）

【成績評価の方法と基準】

授業内ワークショップ・プレゼンテーション：50％

授業内期末試験：50％

【学生の意見等からの気づき】

ゲーム・エクササイズをとりいれた留学生とのアクティブ・ラーニングが好評だったため、今学期も参加型の授業を実施します。

【その他の重要事項】

定員を30名とし、それを超える場合は選抜をおこなう（文学部生の教職科目履修者を優先とする）。
履修希望者は必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】

This course examines everyday forms of culture that exist in people's lives. Focusing primarily on American food culture, students will learn cultural diversity and ways of discussing cultural issues in a critical and comparative perspective.

Classes will consist of lectures, in-class tasks, and group discussions. In particular, students participate in many group discussions on various topics introduced in the lectures. Students will also give a group presentation toward the end of the semester.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

Grades will be determined based on the following:

- 1) Participation and in-class assignments (50%)
- 2) Final exam (50%)

ARS200BD

英米文化概論A

田中 裕希

授業コード：A2982 | 曜日・時限：木3/Thu.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「帝国」をテーマに、19世紀末から20世紀にかけてのイギリス文学・映画を読み解く。イギリス帝国主義の根底にある進歩主義や異文化への偏見が作品でどう描かれ、二つの世界大戦を経てどう変化していくのか。授業の後半では、イギリス統治下のアイルランドと南アフリカについても学ぶ。

【到達目標】

歴史的文脈・文化的文脈の中で作品を読む力をつける。文学・映画批評を通して、イギリス文化・社会について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使った講義を中心に授業を進める。毎回リアクションペーパーを書く。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	帝国主義とは
第2回	Joseph Conrad, <i>Heart of Darkness</i>	啓蒙思想と帝国
第3回	<i>Heart of Darkness</i>	語りの構造
第4回	<i>Heart of Darkness</i>	『闇の奥』批判
第5回	戦争詩人	第一次世界大戦
第6回	<i>The King's Speech</i>	第二次世界大戦
第7回	<i>The King's Speech</i>	人間としての王
第8回	W. B. Yeats, "The Song of Wandering Aengus"	アイルランド文芸復興運動
第9回	James Joyce, "Araby"	アイルランドの夢と現実
第10回	Yeats, "Easter, 1916"	イースター蜂起
第11回	Nadine Gordimer, "Once Upon a Time"	南アフリカにおける植民地政策
第12回	<i>My Beautiful Laundrette</i>	ポストコロニアリズムとは
第13回	<i>My Beautiful Laundrette</i>	現代イギリスと移民
第14回	期末テスト	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習復習をする。中間・期末テストのためにもこまめに歴史背景・文化背景を調べる。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『闇の奥』（光文社古典新訳文庫） ジョゼフ コンラッド（著）、黒原 敏行（翻訳）

必要に応じて、授業支援サイトを通じ資料を配布する。

【参考書】

D・ボードウェル、K・トンブソン『フィルム・アート—映画芸術入門—』（名古屋大学出版会）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30%

期末テスト 70%

原則、未提出のリアクションペーパーが4つ以上で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

大人数の授業だが、学生が意見を言える機会をもっと増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を使用する。

【Outline (in English)】

This class focuses on the representation of the British Empire in literature and films. We will analyze the foundational values of British imperialism and how they changed and were critiqued over the course of the twentieth century. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. Grades will be determined based on weekly responses (30%) and the final exam (70%).

ARS200BD

英米文化概論B

田中 裕希

授業コード：A2983 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学・映画を通じてアメリカン・ドリームとはなにかを考える。建国の時代から根強くなるアメリカン・ドリームという概念は、アメリカ独自の価値観に強く関わってくる。自治の精神、民主主義、機会平等の理念、などアメリカの「夢」にまつわる主題を考えながら、作品を読み解く。また、西部劇のようになぜ特定のジャンル映画がアメリカン・ドリームを表現するに至ったかも考える。

【到達目標】

歴史的な文脈・文化的な文脈の中で作品を読む力をつける。文学・映画を通して、アメリカ文化・社会について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使った講義を中心に授業を進める。毎回リアクションペーパーを書く。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	アメリカン・ドリームの歴史
第2回	Walt Whitman, <i>Song of Myself</i>	建国の理念と叙事詩
第3回	<i>Red River</i>	民主主義の夢
第4回	<i>Red River</i>	西部劇と民主主義
第5回	F. Scott Fitzgerald, <i>The Great Gatsby</i>	語りの構造
第6回	<i>The Great Gatsby</i>	情景描写と文明批判
第7回	<i>The Great Gatsby</i>	幻想としてのアメリカンドリーム
第8回	Langston Hughes	人種と夢
第9回	Sylvia Plath	ジェンダーと夢
第10回	<i>Easy Rider</i>	60年代のアメリカ
第11回	<i>Easy Rider</i>	New Hollywoodとは
第12回	<i>Moonlight</i>	マイノリティーの夢
第13回	<i>Moonlight</i>	成長物語
第14回	期末テスト	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習復習をする。中間・期末テストのためにもこまめに歴史背景・文化背景を調べる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『グレート・ギャツビー』（新潮文庫）フィッツジェラルド（著）、野崎 孝（翻訳）
必要に応じて、授業支援システムを通じて資料を配布する。

【参考書】

D・ボードウェル, K・トンプソン『フィルム・アート—映画芸術入門—』（名古屋大学出版会）

Jim Cullen, *The American Dream: A Short History of an Idea That Shaped a Nation* (Oxford University Press)

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30 %

期末テスト 70 %

原則、未提出のリアクションペーパーが4つ以上で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

大規模の授業だが、学生が意見を言える機会をもっと増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を使用する。

【Outline (in English)】

In this class, we will analyze the representation of the American Dream in literature and films. The idea of the American Dream has been present since the founding of the nation. We will consider some of the reasons why it has exercised such fascination in American society. By tracing the motif of dream in American cinema, we will discuss the role of self-governance, democracy, equal opportunity, and the frontier in the U.S. history. We will also discuss why particular genres such as the Western came to embody the spirit of the American Dream more than any other genres. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. Grades will be determined based on weekly responses (30%) and the final exam (70%).

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

AcademicWritingA

神藤 理恵

授業コード：A2984 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・説得力があり読者の心を掴む英文がかけられるようになる
- ・TOEFLやIELTSなどのエッセイを楽しみながら書けるようになる
- ・英語で論文を書く基礎を身に付ける
- ・持続可能な発達目標（SDG s）の課題に対して理解を深め、社会に貢献するための当事者意識を高める

【到達目標】

- ・Academic Writing Strategiesを身に付け、Coherence や Cohesion を構築し読みやすく説得力のある英文が書けるようになる。
- ・「自分の意見を述べる」「比較対照を行う」「問題を解決する」というIELTS、TOEFLの3つの出題形式のエッセイが書けるようになる
- ・英語論文執筆の基礎を学ぶ
- ・SDG s の課題を認識する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

- 初回の授業はオンデマンドでの実施を予定しています。必ず学習支援システムを確認してください。また、初回授業の4月7日までにhoppiiにて仮登録を行なってください。
- ・アカデミックライティングの演習を行う
 - ・英語で積極的にSDG sの課題をディスカッションする
 - ・テーマによってリアクションペーパーや課題を提出し、参加者同士や全体でもフィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Flow of Sentences 1	Healthy food 1 SDG 3 Good health and well-being for people
第2回	Flow of Sentences 2	Healthy food 2 End focus strategy End weight strategy
第3回	Basic Paragraph 1	Food issues 1 SDG 12: Responsible consumption and production
第4回	Basic Paragraph 2	Food issues 2 Creating Unity, Topic sentence, Supporting sentence, Example
第5回	Developing Coherence 1	Mobile broadband network 1
第6回	Developing Coherence 2	Mobile broadband network 2
第7回	Guiding Readers 1	AI and Singularity 1
第8回	Guiding Readers 2	AI and Singularity 2
第9回	Hedges and Boosters 1	Ecotourism 1
第10回	Hedges and Boosters 2	Ecotourism 2
第11回	Generating Ideas 1	Convenient for who? 1
第12回	Generating Ideas 2	Convenient for who? 2
第13回	How to attract your readers 1	Starting your essay more attractively 1
第14回	How to attract your readers 2	Starting your essay more attractively 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前にテキストを最低2時間予習する。
授業の復習を最低2時間必ず行うこと。
特に重要語彙やイディオムは毎回習得するよう努める。

【テキスト（教科書）】

Academic Writing Strategies: Focus on Global Issues for SDGs 金星堂 Nakatani. Y.
『大学生のためのアカデミック英文ライティング』大修館書店 中谷安男

【参考書】

『オックスフォード世界最強のリーダーシップ教室』中谷安男 中央経済社

【成績評価の方法と基準】

クラス平常点（40％）、小テスト（10％）、レポート（50％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】

出席を特に重視するので毎回出席のこと。

《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

We can learn how to develop persuasive essays by focusing on a reader-centered approach.

We can learn significant issues about SDGs.

You need to prepare and review for each lesson for 2 hours.

Your grade is evaluated by class contribution (40%), quizzes (10%), and report (50%).

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

AcademicWritingB

神藤 理恵

授業コード：A2985 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・読者を効果的に誘導し説得力のある英文が書けるようになる
・長い英文エッセイが書けるようになる
・卒業論文や論文を書くトレーニングを行う
・持続可能な発達目標（SDG s）の課題理解を通して将来社会に貢献するための問題意識を深める

【到達目標】

・論文構成のIMRDの構築方法を身に着ける。
・英語論文執筆の効果的なWriting Strategiesを学ぶ
・SDG sの課題を認識する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

・英語のライティングの演習を行う
・英語論文の構成を学ぶ
・テーマによってリアクションペーパーや課題を提出し、参加者同士や全体でもフィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Supporting Your Ideas 1	Developing supporting sentences 1
2	Supporting Your Ideas 2	Developing supporting sentences 2
3	Concluding Paragraphs 1	City and Environment 1
4	Concluding Paragraphs 2	City and Environment 2
5	Comparison and Contrast Paragraphs 1	Education for future 1
6	Comparison and Contrast Paragraphs 2	Education for future 2
7	Essay Structure 1	Decent Job 1
8	Essay Structure 2	Decent Job 2
9	Problem Solving Essay 1	Eco-friendly 1
10	Problem Solving Essay 2	Eco-friendly 2
11	The First Step for Academic Papers 1	Solutions and informing benefits 1
12	The First Step for Academic Papers 2	Solutions and informing benefits 2
13	Writing Introduction 1	IMRD
14	Writing Introduction 2	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習を必ず行うこと。特に重要語彙やイディオムは毎回習得するよう努める。本授業の準備学習・復習時間は、それぞれ2時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Academic Writing Strategies: Focus on Global Issues for SDGs 金星堂 Nakatani. Y.
『大学生のためのアカデミック英文ライティング』大修館書店中谷安男

【参考書】

『オックスフォー最強のリーダーシップ教室』中谷安男 中央経済社

【成績評価の方法と基準】

クラス平常点（40％）、小テスト（10％）、レポート（50％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】

積極的な授業出席

《重要》
「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。
「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。
※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。
※ 2年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】
We can learn how to develop persuasive essays by focusing on a reader-centered approach.
We can learn how to write effective academic papers.
We can learn significant issues about SDGs.
You need to prepare and review for each lesson for 2 hours individually.
Your grade is evaluated by class contribution (40 %), quizzes (10 %), report (50 %).

ARS300BD

Seminar in Cross-cultural Studies A

田中 裕希

授業コード：A2986 | 曜日・時限：金4/Fri.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「自己」をテーマに、主に英語圏の文学作品と映画を分析する。子供時代、思春期、成人期といった自己形成のプロセスが作品でどのように描かれているか。文化や歴史は「私」にどのような影響を与えるのか。非英語圏の作品とも比較しながら考える。

【到達目標】

Students will develop the ability to read texts closely, with an eye to their cross-cultural contexts.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

The class revolves around students' presentations and discussions. There will be some lectures, but most of the class time will be devoted to students' active participation. Students will receive feedback on their work in class, via Hoppii, and during office hours.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Nature vs. nurture
第2回	Dylan Thomas, "Fern Hill"	Childhood and self
第3回	Katherine Mansfield, "Garden Party"	Coming of age
第4回	"Garden Party"	Gender and self
第5回	Boyhood	Time and self
第6回	Ernest Hemingway, "Big Two-Hearted River"	War and trauma
第7回	"Big Two-Hearted River"	Continued
第8回	James Baldwin, "Notes of a Native Son"	Racial identity
第9回	"Notes of a Native Son"	Family and self
第10回	Pariah	Race and sexuality
第11回	Sylvia Plath	Confessional poetry
第12回	Soseki Natsume, Kokoro	Confession as a genre
第13回	Kokoro	Japanese self?
第14回	Conclusion	Final discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each week, students will read a novel, a short story, or a poem or two. They are expected to spend at least four hours preparing for each class.

【テキスト（教科書）】

『こころ』（新潮社）夏目漱石（著）

Handouts will be distributed in class.

【参考書】

To be announced in class.

【成績評価の方法と基準】

Participation, Homework: 30%

Presentation: 30%

Final Paper: 40%

More than three absences will result in an "E."

【学生の意見等からの気づき】

引き続き活発なディスカッションを心がける。

【Outline (in English)】

In this class, we will analyze literary texts and films that focus on the making of self. How do characters and speakers evolve over the course of the text? How do cultural and historical contexts inform this process?

ARS300BD

Seminar in Cross-cultural Studies B

田中 裕希

授業コード：A2987 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「都市」をテーマに、ニューヨークにまつわる文学と映画を見ていく。ニューヨークの文化や歴史的背景をふまえつつ、都市に生きるとはどういうことなのか、また都市特有の文学とは何かを考える。授業後半では東京を舞台にした作品を通じて、都市文学への理解を深める。

【到達目標】

Students will develop the ability to read texts closely, with an eye to their cross-cultural contexts.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

The class revolves around students' presentations and discussions. There will be some lectures, but most of the class time will be devoted to students' active participation. Students will receive feedback on their work in class, via Hoppii, and during office hours.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	The city in literature and film
第2回	<i>Age of Innocence</i>	NYC in the 1870s
第3回	<i>Age of Innocence</i>	Freedom and tradition
第4回	New York School (1)	Art in New York
第5回	New York School (2)	Walking in the city
第6回	Elizabeth Bishop, "The Man-Moth"	The city and solitude
第7回	<i>The Apartment</i>	Working in the city
第8回	<i>The Apartment</i>	Continued
第9回	Langston Hughes, "The Weary Blues"	Race and the city
第10回	Poetry Workshop	Writing about the city
第11回	<i>Lost in Translation</i>	Life in Tokyo
第12回	<i>Lost in Translation</i>	Continued
第13回	Presentations	Graduate theses
第14回	Presentations	Final discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each week, students will read a novel, a short story, or a poem. They are expected to spend at least four hours preparing for each class meeting.

【テキスト（教科書）】

Handouts will be distributed in class.

【参考書】

To be announced in class.

【成績評価の方法と基準】

Participation, Homework: 30%

Presentation: 30%

Final Paper: 40%

More than three absences will result in an "E."

【学生の意見等からの気づき】

引き続き活発なディスカッションを心がける。

【Outline (in English)】

In this class, we will explore the theme of the city by analyzing literary texts and films set in New York City. What are some of the characteristics of city life and how are they represented in these texts?

ARS200BD

ComparativeCulture(2)

田中 裕希

授業コード：A2988 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：定員30名を超えた場合は文学部所属学生を優先して選抜する。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this writing-intensive class, we will learn how to read and write poems with close attention to the properties of English that are often overlooked in traditional language classes, such as rhythm and figurative language. By the end of the semester, students will come away with a broader understanding of English, not just as a tool for communication but as a means of self-expression.

【到達目標】

By the end of the semester, students will develop a deeper awareness of rhythm, sound, and figurative language in English. They will learn to craft poems with attention to diction, syntax, and tone, gaining a broader appreciation of language as a tool for creativity and self-expression.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will read poems, and then write their own poems based on prompts suggested by the assigned poems. Each writing assignment is followed by a workshop, where students will comment on each other's work.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Workshop guidelines
第2回	Imagery	Against cliché
第3回	Rhythm	English vs. Japanese
第4回	Workshop 1	Discussion
第5回	Persona	Writing as though you were someone else
第6回	Workshop 2	Discussion
第7回	Ekphrasis	Writing based on an artwork
第8回	Workshop 3	Discussion
第9回	Object	Writing as though you were non-human
第10回	Workshop 4	Discussion
第11回	Associative Poem	Writing as digression
第12回	Workshop 5	Discussion
第13回	Poetry reading	Recitation
第14回	Conclusion	Final discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Reading assigned texts, writing poems, and preparing for in-class discussions (4 hours)

【テキスト（教科書）】

Handouts will be distributed.

【参考書】

N/A

【成績評価の方法と基準】

Final paper (40%)

Workshop poems/assignments(30%)

Class participation(30%)

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【その他の重要事項】

定員を30名とし、それを超える場合は選抜をおこないます（文学部生を優先とする）。

履修希望者は、辞書（電子辞書可・携帯電話不可）を持参の上、必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】

N/A

LIN200BD (言語学 / Linguistics 200)

PublicSpeaking

椎名 美智

授業コード：A2991 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：定員20名を超える場合は抽選にて選抜する

その他属性：〈グ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The course will focus on developing and improving students' public speaking skills in English by introducing basic technics of public speaking and also by assigning tasks of giving English speeches in the class. Students will deepen their understanding of the linguistic behaviours of public speaking in English by giving speeches themselves and observing their classmates' speeches.

【到達目標】

The goal of this course is to acquire enough linguistic knowledge and skills to make speech in English themselves in the class, and also critical attitude to evaluate other people's speeches.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

The style of the class will be announced by HOPPII. So please check HOPPII every week.

The course consists of lectures and presentations. Reading tasks and preparing a few speeches are required. Since this course mainly consists of students' presentations, the number of the students should be limited to 20 at maximum. Those who would like to take this class should attend the first class as there may be a selection.

You are required to submit a reaction paper every week and I will deal with some of them in the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Introduction of the instructor, handing out the syllabi, explanation of grading and attendance policies. Assignment of introductory speeches.
第2回	Basic Principles of Speech	Focus class discussion on selected exercises. Explanation of introductory speeches.
第3回	Communication	Students give introductory speeches and evaluate other students' speeches.
第4回	Introductory Speeches I	Students give introductory speeches and evaluate other students' speeches.
第5回	Introductory Speeches II	Students give introductory speeches and evaluate other students' speeches.
第6回	Speaking to Inform	Assignment of informative speeches: guidelines for informative speaking
第7回	Choosing Topics and Purposes	Focus class discussion and lecture on topics and purposes of speeches
第8回	Organizing the Body of the Speech	Focus class discussion and lecture on organization of the body of the speech
第9回	Introductions and Conclusions	Focus class discussion and lecture on introductions and conclusions
第10回	Outlining the Speech	Focus class discussion and lecture on outlining the speech
第11回	Delivering the Speech	Focus class discussion and lecture on delivering the speech
第12回	Using Visual Aids	Focus class discussion and lecture on using visual aids
第13回	Informative Speeches I	Presentations by the students, the audience have to evaluate the speeches
第14回	Informative Speeches II	Presentations by the students, the audience have to evaluate the speeches
第15回	Informative Speeches III	Presentations by the students, the audience have to evaluate the speeches, we will also review the previous classes

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are responsible for doing required reading and tasks before and/or after each class. Preparation for the speech and presentations will be required for credit. You need two hours each for preparation and review.

【テキスト（教科書）】

All the materials will be uploaded at HOPPII. Students need to download and print them as needed.

【参考書】

Any English textbooks related to public speaking will be useful for you.

【成績評価の方法と基準】

50%: Classroom participation

50%: Presentation

【学生の意見等からの気づき】

I would like to spend more time for students' presentations.

【その他の重要事項】

The order of the classes above mentioned can be changed in order to accommodate the students' needs.

Office Hour: Thursday 4th period, please send an email for an appointment.

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire linguistic competence in English so that students can make speeches or presentations in public situations confidently when they start working.

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

英語表現演習(総合)

ブライアン ウィスナー

授業コード：A2993 | 曜日・時限：木2/Thu.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course focuses on improving students' communicative ability in English. Students interact with a variety of English texts through listening, reading, writing, and speaking. Emphasis is placed on the second language skills students need in order to become junior high or high school English teachers.

【到達目標】

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

- 1. Summarize texts and discuss various viewpoints of the texts
- 2. Create effective visual aids for presentations
- 3. Demonstrate effective presentation skills

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will discuss and react to articles that they read. They will also write and present their opinions. Most classes will consist of pair work, group discussions, and individual writing and presentations. Feedback will be given after each presentation and writing assignment.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction to the course	What is important for improving second language skills?
第2回	Presentation basics	Characteristics of effective presentations
第3回	Presentation structure	How to structure a presentation and organize ideas
第4回	Presentations: Visual aids	Creating and explaining visual aids
第5回	Individual presentations	Present a persuasive speech that includes interactive elements
第6回	Technology and society	How has technology changed or influenced society?
第7回	Education systems	Present opinions and research on various aspects of education systems
第8回	English as a global language	Present and discuss opinions on the role of English as an international language
第9回	Digital education	Read about technological advancements and discuss opinions
第10回	Sustainable tourism	Summarize and discuss the effects of tourism
第11回	Media and society	Read and discuss about the effects of media on society and summarize various viewpoints
第12回	Intercultural communication	Read and discuss about aspects of intercultural communication and write a summary
第13回	AI, work, and education	How has AI affected people's jobs and education?
第14回	Review of the course content and final essay	Review the core concepts covered in the course and write a final essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course.

【参考書】

The Japan Times

The New York Times

【成績評価の方法と基準】

In-class presentations: 50%

Final exam (essay): 50%

Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a final exam. Highly evaluated presentations demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】

Students commented that they enjoyed and benefited from the numerous opportunities to communicate with the instructor and their classmates.

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習（総合）」の4コマに関しては、「事前登録」が4月頭（初回授業日より前）に実施されるので、受講希望者は必ず期限内に申請し、「事前登録結果」を確認してください。

「事前登録結果」発表時に掲示される、定員に空きのあるコマを追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。

【Outline (in English)】

This course focuses on improving students' communicative ability in English.

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

- 1. Summarize texts and discuss various viewpoints of the texts
- 2. Create effective visual aids for presentations
- 3. Demonstrate effective presentation skills

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class.

Final grades will be calculated based on the following: In-class presentations: 50%; Final exam (essay): 50%.

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

英語表現演習(総合)

ブライアン ウィスナー

授業コード：A2994 | 曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course focuses on improving students' communicative ability in English. Students interact with a variety of English texts through listening, reading, writing, and speaking. Emphasis is placed on the second language skills students need in order to become junior high or high school English teachers.

【到達目標】

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

1. Summarize texts and discuss various viewpoints of the texts
2. Create effective visual aids for presentations
3. Demonstrate effective presentation skills

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will discuss and react to articles that they read. They will also write and present their opinions. Most classes will consist of pair work, group discussions, and individual writing and presentations. Feedback will be given after each presentation and writing assignment.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction to the course	What is important for improving second language skills?
第2回	Presentation basics	Characteristics of effective presentations
第3回	Presentation structure	How to structure a presentation and organize ideas
第4回	Presentations: Visual aids	Creating and explaining visual aids
第5回	Individual presentations	Present a persuasive speech that includes interactive elements
第6回	Technology and society	How has technology changed or influenced society?
第7回	Education systems	Present opinions and research on various aspects of education systems
第8回	English as a global language	Present and discuss opinions on the role of English as an international language
第9回	Digital education	Read about technological advancements and discuss opinions
第10回	Sustainable tourism	Summarize and discuss the effects of tourism
第11回	Media and society	Read and discuss about the effects of media on society and summarize various viewpoints
第12回	Intercultural communication	Read and discuss about aspects of intercultural communication and write a summary
第13回	AI, work, and education	How has AI affected people's jobs and education?
第14回	Review of the course content and final essay	Review the core concepts covered in the course and write a final essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course.

【参考書】

The Japan Times

The New York Times

【成績評価の方法と基準】

In-class presentations: 50%

Final exam (essay): 50%

Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a final exam. Highly evaluated presentations demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】

Students commented that they enjoyed and benefited from the numerous opportunities to communicate with the instructor and their classmates.

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習（総合）」の4コマに関しては、「事前登録」が4月頭（初回授業日より前）に実施されるので、受講希望者は必ず期限内に申請し、「事前登録結果」を確認してください。

「事前登録結果」発表時に掲示される、定員に空きのあるコマを追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。

【Outline (in English)】

This course focuses on improving students' communicative ability in English.

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

1. Summarize texts and discuss various viewpoints of the texts
2. Create effective visual aids for presentations
3. Demonstrate effective presentation skills

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class.

Final grades will be calculated based on the following: In-class presentations: 50%; Final exam (essay): 50%.

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

英語表現演習(総合)

ブライアン ウィスナー

授業コード：A2995 | 曜日・時限：木2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course focuses on improving students' communicative ability in English. Students interact with a variety of English texts through listening, reading, writing, and speaking. Emphasis is placed on the second language skills students need in order to become junior high or high school English teachers.

【到達目標】

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

- 1. Summarize texts and discuss various viewpoints of the texts
- 2. Create effective visual aids for presentations
- 3. Demonstrate effective presentation skills

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will discuss and react to articles that they read. They will also write and present their opinions. Most classes will consist of pair work, group discussions, and individual writing and presentations. Feedback will be given after each presentation and writing assignment.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction to the course	What is important for improving second language skills?
第2回	Presentation basics	Characteristics of effective presentations
第3回	Presentation structure	How to structure a presentation and organize ideas
第4回	Presentations: Visual aids	Creating and explaining visual aids
第5回	Individual presentations	Present a persuasive speech that includes interactive elements
第6回	Technology and society	How has technology changed or influenced society?
第7回	Education systems	Present opinions and research on various aspects of education systems
第8回	English as a global language	Present and discuss opinions on the role of English as an international language
第9回	Digital education	Read about technological advancements and discuss opinions
第10回	Sustainable tourism	Summarize and discuss the effects of tourism
第11回	Media and society	Read and discuss about the effects of media on society and summarize various viewpoints
第12回	Intercultural communication	Read and discuss about aspects of intercultural communication and write a summary
第13回	AI, work, and education	How has AI affected people's jobs and education?
第14回	Review of the course content and final essay	Review the core concepts covered in the course and write a final essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course.

【参考書】

The Japan Times

The New York Times

【成績評価の方法と基準】

In-class presentations: 50%

Final exam (essay): 50%

Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a final exam. Highly evaluated presentations demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】

Students commented that they enjoyed and benefited from the numerous opportunities to communicate with the instructor and their classmates.

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習（総合）」の4コマに関しては、「事前登録」が4月頭（初授業日より前）に実施されるので、受講希望者は必ず期限内に申請し、「事前登録結果」を確認してください。

「事前登録結果」発表時に掲示される、定員に空きのあるコマを追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。

【Outline (in English)】

This course focuses on improving students' communicative ability in English.

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

- 1. Summarize texts and discuss various viewpoints of the texts
- 2. Create effective visual aids for presentations
- 3. Demonstrate effective presentation skills

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class.

Final grades will be calculated based on the following: In-class presentations: 50%; Final exam (essay): 50%.

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

英語表現演習（総合）

ブライアン ウィスナー

授業コード：A2996 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course focuses on improving students' communicative ability in English. Students interact with a variety of English texts through listening, reading, writing, and speaking. Emphasis is placed on the second language skills students need in order to become junior high or high school English teachers.

【到達目標】

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

1. Summarize texts and discuss various viewpoints of the texts
2. Create effective visual aids for presentations
3. Demonstrate effective presentation skills

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will discuss and react to articles that they read. They will also write and present their opinions. Most classes will consist of pair work, group discussions, and individual writing and presentations. Feedback will be given after each presentation and writing assignment.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction to the course	What is important for improving second language skills?
第2回	Presentation basics	Characteristics of effective presentations
第3回	Presentation structure	How to structure a presentation and organize ideas
第4回	Presentations: Visual aids	Creating and explaining visual aids
第5回	Individual presentations	Present a persuasive speech that includes interactive elements
第6回	Technology and society	How has technology changed or influenced society?
第7回	Education systems	Present opinions and research on various aspects of education systems
第8回	English as a global language	Present and discuss opinions on the role of English as an international language
第9回	Digital education	Read about technological advancements and discuss opinions
第10回	Sustainable tourism	Summarize and discuss the effects of tourism
第11回	Media and society	Read and discuss about the effects of media on society and summarize various viewpoints
第12回	Intercultural communication	Read and discuss about aspects of intercultural communication and write a summary
第13回	AI, work, and education	How has AI affected people's jobs and education?
第14回	Review of the course content and final essay	Review the core concepts covered in the course and write a final essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course.

【参考書】

The Japan Times

The New York Times

【成績評価の方法と基準】

In-class presentations: 50%

Final exam (essay): 50%

Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a final exam. Highly evaluated presentations demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】

Students commented that they enjoyed and benefited from the numerous opportunities to communicate with the instructor and their classmates.

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習（総合）」の4コマに関しては、「事前登録」が4月頭（初回授業日より前）に実施されるので、受講希望者は必ず期限内に申請し、「事前登録結果」を確認してください。

「事前登録結果」発表時に掲示される、定員に空きのあるコマを追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。

【Outline (in English)】

This course focuses on improving students' communicative ability in English.

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

1. Summarize texts and discuss various viewpoints of the texts
2. Create effective visual aids for presentations
3. Demonstrate effective presentation skills

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class.

Final grades will be calculated based on the following: In-class presentations: 50%; Final exam (essay): 50%.

LIN300BD（言語学 / Linguistics 300）

言語習得論演習A

近藤 隆子

授業コード：A3001 | 曜日・時限：木3/Thu.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第二言語習得のメカニズム、すなわち、学習者が第二言語をどのように習得するのかを、母語獲得のメカニズムと比較しながら学ぶ。具体的には、第二言語習得のさまざまな研究事例をみながら、母語の影響、インプットの役割、普遍文法の利用可能性、学習者要因、そして、指導と第二言語習得の関わりについて考える。各自またはグループで担当箇所について文献を読み、まとめ、授業の中で発表する。

【到達目標】

- 1. 第二言語習得の基礎的知識を身につけることができる。
- 2. 第二言語習得の具体的な研究事例について批判的に読むことができる。
- 3. 第二言語習得研究の成果を英語教育へ応用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態：演習

基本的に、担当者が教科書・論文のまとめを発表し、グループもしくはクラス全体で議論をしていきます。発表は、パワーポイントを用いて解説すること。担当者以外の学生は、授業で扱う文献を事前に読み込み、疑問点等をまとめておくこと。リアクションペーパー等におけるコメント・質問からいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の説明・自己紹介
第2回	テーマ紹介	研究テーマ紹介、発表回決定
第3回	論文の執筆に際して	卒論の書き方、論文の執筆上の注意点など
第4回	母語獲得とは、言語音の知覚と語の獲得	研究の対象、何を調べるのか、どのように調べるのか、母語獲得研究の目的 言語音の知覚、音素の獲得、語の発達過程、語に関する意味獲得の問題、名詞の獲得、制約の適用条件、制約は必要なのか、統語カテゴリー、動詞の獲得
第5回	文の獲得	文産出研究、文理解研究、格助詞、格と語順、文脈と語順、動詞の屈折語尾、動詞の自他、受動態、受動態と視点の移動、使役
第6回	インプットの役割	模倣や類推による学習、マザリーズ、カルリ族の事例、マザリーズの役割、肯定証拠と否定証拠、否定証拠の利用可能性、インプットの効果、インプットによる学習
第7回	言語獲得理論	領域固有性と生得性、原理とパラメータのアプローチ、刺激の貧困、普遍文法、生得的な言語知識、子どもの構造依存性、成熟説、用法基盤モデル、意図の読み取り、パターン発見、項目依存構文と動詞の島仮説、英語の語順獲得、過剰一般化をおさえるための学習、2つの理論の比較
第8回	第二言語習得とは	第二言語習得研究の意義、何を調べるのか、研究の対象、どのように調べるのか

第9回 中間言語

第二言語習得を妨げる要因、学習を促進させる要因：正の転移、行動主義理論と対照分析仮説、対照分析仮説の問題点、誤り分析、誤り分析の問題点、誤りを分類する必要性、中間言語、普遍的な習得順序・発達段階の発見、第二言語における文法形態素の習得順序、第二言語の子どもを対象にした文法形態素習得順序研究、文法形態素習得順序研究の集大成、日本語母語話者による文法形態素習得順序研究、創造的構築仮説、創造的構築仮説の問題点と意義、2方向への分化

第10回 第二言語習得のメカニズム

母語獲得との相違点：一般認知能力、フォーリナー・トークによる第二言語インプット、第二言語インプットの特性、第二言語習得におけるUGの関与、再帰代名詞の解釈に関する研究例、UGはどの程度関与するのか、Wh移動制約に関する研究例、第二言語はどのような状態から始まるのか、第二言語はどこまで到達できるのか
学習者要因、動機づけ、日本で英語を学習する中学生の動機づけ調査、高い動機づけが貢献しうること、個性、知能/知性、言語適性、学習スタイル、学習開始年齢、第二言語習得環境での到達度研究

第11回 学習者要因

教室における第二言語習得研究の変遷、フォーカス・オン・フォーム、反応的/事前対策的フォーカス・オン・フォーム、暗示的/明示的フォーカス・オン・フォーム、フォーカス・オン・フォームの実証的研究、フォーカス・オン・フォーム研究の問題点、インタラクション仮説、インタラクション仮説の問題点、アウトプット仮説、アウトプットの役割、アウトプット重視の指導効果研究、明示的学習と暗示的学習、明示的学習・暗示的学習に関する指導効果の研究、明示的・暗示的学習に関する指導効果研究の問題点

第13回 卒論中間発表(1)

第14回 卒論中間発表(2)

4年生による卒論中間発表(1)

4年生による卒論中間発表(2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全員：授業で扱う文献を事前に読み込み、授業中のディスカッションに積極的に参加できるよう疑問点等をまとめておくこと
発表担当者：発表の資料（パワーポイントなど）を作成し、発表2日前までに教員へ送ること
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鈴木孝明, 白畑知彦. (2012). 『ことばの習得 母語獲得と第二言語習得』. 東京：くろしお出版.

【参考書】

白畑知彦, 富田祐一, 村野井仁, 若林茂則. (2019). 『英語教育用語辞典 第3版』. 東京：大修館書店.
その他、授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート、確認問題などの提出物（40％）、授業への積極的な参加（担当箇所の口頭発表、ディスカッション、他の人の発表への質問・コメントなど）（60％）による総合評価。
・遅刻・欠席は必ずメールにて授業前に連絡をしてください
・特別な理由なく演習を3回欠席した場合、D評価となります

【学生の意見等からの気づき】

ベア・グループワークが少なかったために、学生同士の議論があまり活発にできなかった。今年度は、ベア・グループワークをうまく活用し、学生がより主体的に授業に参加し、より深い学びに繋がるように工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業中、資料にアクセスしたり、他の人の発表への質問・コメントなどをする際、パソコンもしくはタブレットを使用します。また、資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

- ・特別な理由がない限り、初回の授業には必ず出席してください
- ・ゼミ生は授業に欠席する場合、教員に必ず理由をメールにて連絡して下さい
- ・言語習得論演習Bと連続して履修して下さい
- ・卒論指導を希望する4年生は、必ず履修して下さい
- ・原則として、所属生のみ履修可です

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students learn about the mechanism of second language acquisition, that is, how a learner acquires a second language.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand the theory of second language acquisition and its application to English language education.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignments. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on homework assignments (40%) and in-class contribution (60%).

LIN300BD（言語学 / Linguistics 300）

言語習得論演習B

近藤 隆子

授業コード：A3002 | 曜日・時限：木3/Thu.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第二言語習得のメカニズム、すなわち、学習者が第二言語をどのように習得するかを、母語獲得のメカニズムと比較しながら学ぶ。具体的には、第二言語習得のプロセス、インプットの役割、アウトプットの役割、動機づけ、学習方略、学習スタイルについて考える。各自またはグループで担当箇所について文献を読み、まとめ、授業の中で発表する。

【到達目標】

- 1. 第二言語習得の基礎的知識を身につけることができる。
- 2. 第二言語習得の具体的な研究事例について批判的に読むことができる。
- 3. 第二言語習得研究の成果を英語教育へ応用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態：演習

基本的に、担当者が教科書・論文のまとめを発表し、グループもしくはクラス全体で議論をしていきます。発表は、パワーポイントを用いて解説すること。担当者以外の学生は、授業で扱う文献を事前に読み込み、疑問点等をまとめておくこと。
リアクションペーパー等におけるコメント・質問からいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方について、今後の予定について、論文の進め方について
第2回	秋学期に扱う論文について	秋学期に扱う論文の紹介＋発表担当グループの決定
第3回	論文の執筆に際して	卒論の書き方、論文の執筆上の注意点など
第4回	論文精読 プレゼンテーション(1)	第二言語学習者による動詞の習得に関する先行研究(1)
第5回	論文精読 プレゼンテーション(2)	第二言語学習者による動詞の習得に関する先行研究(2)
第6回	論文精読 プレゼンテーション(3)	第二言語学習者による名詞の習得に関する先行研究(1)
第7回	論文精読 プレゼンテーション(4)	第二言語学習者による名詞の習得に関する先行研究(2)
第8回	論文精読 プレゼンテーション(5)	第二言語習得と英語教育への応用(1)
第9回	論文精読 プレゼンテーション(6)	第二言語習得と英語教育への応用(2)
第10回	卒論発表(1)	4年生による卒論研究発表(1週目)
第11回	卒論発表(2)	4年生による卒論研究発表(2週目)
第12回	3年生の卒論テーマ発表(1)	3年生の卒論テーマ、アウトライン、先行研究の紹介(1)
第13回	3年生の卒論テーマ発表(2)	3年生の卒論テーマ、アウトライン、先行研究の紹介(2)
第14回	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全員：授業で扱う文献を事前に読み込み、授業中のディスカッションに積極的に参加できるよう疑問点等をまとめておくこと
発表担当者：発表の資料（パワーポイントなど）を作成し、二日前までに教員へ送ること
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

読むべき論文は授業内で指示します。

【参考書】

白畑知彦, 富田祐一, 村野井仁, 若林茂則. (2019). 『英語教育用語辞典 第3版』. 東京：大修館書店.
その他、授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート、確認問題などの提出物（40％）、授業への積極的な参加（担当箇所の口頭発表、ディスカッション、他の人の発表への質問・コメントなど）（60％）による総合評価。

・遅刻・欠席は必ずメールにて授業前に連絡をしてください

・特別な理由なく演習を3回欠席した場合、D評価となります

【学生の意見等からの気づき】

ペア・グループワークが少なかったために、学生同士の議論があまり活発にできなかった。今年度は、ペア・グループワークをうまく活用し、学生がより主体的に授業に参加し、より深い学びに繋がるように工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業中、資料にアクセスしたり、他の人の発表への質問・コメントなどをする際、パソコンもしくはタブレットを使用します。また、資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

- ・特別な理由がない限り、初回の授業には必ず出席してください
- ・ゼミ生は授業に欠席する場合、教員に必ず理由をメールにて連絡して下さい
- ・原則として、春学期の言語習得論演習Aと継続して履修して下さい
- ・卒論指導を希望する4年生は、必ず履修して下さい

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students learn about the mechanism of second language acquisition, that is, how a learner acquires a second language.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand the theory of second language acquisition and its application to English language education. Furthermore, students will be able to read previous studies critically and design their own research experiment.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant paper and completed the required assignments. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on homework assignments (40%) and in-class contribution (60%).

LIT200BD (文学 / Literature 200)

世界文学講義Ⅲ

小澤 央

授業コード：A3003 | 曜日・時限：金2/Fri.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文学をはじめとする世界文学の重要なテーマのひとつ、ユートピア（ディストピアを含む）と関連の深い有名な20世紀前半までの文学作品を、政治的・文化的文脈に位置づけながら解釈する。人文主義、植民地主義、官僚主義、全体主義といった、今日でも重要な意義を持つ諸問題との関係で分析する。ユートピアというテーマの持つ可能性や限界についても議論する。

ユートピア文学の知識や文学解釈の基本を身につけ、英文読解力を伸ばすことが目的である。

【到達目標】

- ・ユートピアというテーマとの関係で文学史を概観できる
- ・作品と関連する政治的・文化的問題について基本的知識を習得する
- ・辞書や和訳を参照しながらも、ユートピア文学の抜粋を原文で読める英語力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で進める。映像資料も適宜取り入れる。リアクション・ペーパーなどを提出してもらい、授業の冒頭で講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ユートピアとは何か、20世紀前半までのユートピア文学史の概観
第2回	人文主義とユートピア	More, <i>Utopia</i> 前半
第3回	人文主義とユートピア (1)	More, <i>Utopia</i> 後半
第4回	植民地主義と新世界 (1)	Shakespeare, <i>The Tempest</i> 前半
第5回	植民地主義と新世界 (2)	Shakespeare, <i>The Tempest</i> 後半
第6回	前半の講義のまとめ	総括と補足
第7回	産業革命と機械文明 (1)	Dickens, <i>Hard Times</i> 前半
第8回	産業革命と機械文明 (2)	Dickens, <i>Hard Times</i> 後半
第9回	官僚主義と不条理 (1)	Kafka, <i>Der Process</i> 前半
第10回	官僚主義と不条理 (2)	Kafka, <i>Der Process</i> 後半
第11回	全体主義と人間性 (1)	Orwell, <i>Nineteen Eighty-Four</i> 前半
第12回	全体主義と人間性 (2)	Orwell, <i>Nineteen Eighty-Four</i> 後半
第13回	後半の講義のまとめ	総括と補足
第14回	期末試験と今学期のまとめ	今後の研究についての示唆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回予め指示された資料（レジュメなど）を読むこと、リアクション・ペーパーなどを提出することが求められる。さらに、和訳でも構わないので、授業で扱う作品をできるだけ多く自身で読み通すことが望ましい。

予習・復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業のレジュメ

【参考書】

- ・授業で扱う文学作品
- ・グレゴリー・クレイズ著、『ユートピアの歴史』、巽孝之監訳、小畑拓也訳、東洋書林、2013年
- ・川端香男里著、『ユートピアの幻想』、講談社学術文庫、1993年
- ・John Carey, ed., *The Faber Book of Utopias*, Faber and Faber, 1999.
- ・Gregory Claeys, ed., *The Cambridge Companion to Utopian Literature*, Cambridge UP, 2010.

【成績評価の方法と基準】

- ・リアクション・ペーパーなどの課題、授業に取り組む姿勢、議論への貢献度：30%
- ・期末試験：70%

【学生の意見等からの気づき】

映像資料を活かした授業運営をより充実させていく。

【Outline (in English)】

In this course, students are expected to interpret utopian literature in relation to political and cultural contexts, such as humanism, colonialism, bureaucratism and totalitarianism. The goals of this course are to survey the history of utopian literature, learn the basics of interpretation of literature and improve English reading comprehension. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. The final grade will be calculated according to the following process: performance in class activities (30%) and term-end examination (70%).

LIT200BD (文学 / Literature 200)

世界文学講義Ⅳ

小澤 央

授業コード：A3004 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文学をはじめとする世界文学の重要なテーマのひとつ、ユートピア（ディストピアを含む）と関連の深い有名な20世紀後半以降の文学作品を、政治的・文化的文脈に位置づけながら解釈する。帝国主義、実存主義、フェミニズム、ポストヒューマニズムといった、今日でも重要な意義を持つ諸問題との関係で分析する。ユートピアというテーマの持つ可能性や限界についても議論する。

ユートピア文学の知識や文学解釈の基本を身につけ、英文読解力を伸ばすことが目的である。

【到達目標】

- ・ユートピアというテーマとの関係で文学史を概観できる
- ・作品と関連する政治的・文化的問題について基本的知識を習得する
- ・辞書や和訳を参照しながらも、ユートピア文学の抜粋を原文で読める英語力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で進める。映像資料も適宜取り入れる。リアクション・ペーパーなどを提出してもらい、授業の冒頭で講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ユートピアとは何か、20世紀後半以降のユートピア文学史の概観
第2回	監視社会と大衆文化(1)	Bradbury, <i>Fahrenheit 451</i> 前半
第3回	監視社会と大衆文化(2)	Bradbury, <i>Fahrenheit 451</i> 後半
第4回	帝国主義と無人島(1)	Golding, <i>Lord of the Flies</i> 前半
第5回	帝国主義と無人島(2)	Golding, <i>Lord of the Flies</i> 後半
第6回	前半の講義のまとめ	総括と補足
第7回	実存主義と自由(1)	安部公房『砂の女』前半
第8回	実存主義と自由(2)	安部公房『砂の女』後半
第9回	フェミニズムと生殖(1)	Atwood, <i>The Handmaid's Tale</i> 前半
第10回	フェミニズムと生殖(2)	Atwood, <i>The Handmaid's Tale</i> 後半
第11回	ポストヒューマニズムとAI(1)	Ishiguro, <i>Klara and the Sun</i> 前半
第12回	ポストヒューマニズムとAI(2)	Ishiguro, <i>Klara and the Sun</i> 後半
第13回	後半の講義のまとめ	総括と補足
第14回	期末試験と今学期のまとめ	今後の研究についての示唆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回予め指示された資料（レジュメなど）を読むこと、リアクション・ペーパーなどを提出することが求められる。さらに、和訳でも構わないので、授業で扱う作品をできるだけ多く自身で読み通すことが望ましい。

予習・復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業のレジュメ

【参考書】

- ・授業で扱う文学作品
- ・グレゴリー・クレイズ著、『ユートピアの歴史』、巽孝之監訳、小畑拓也訳、東洋書林、2013年
- ・川端香男里著、『ユートピアの幻想』、講談社学術文庫、1993年
- ・John Carey, ed., *The Faber Book of Utopias*, Faber and Faber, 1999.
- ・Gregory Claeys, ed., *The Cambridge Companion to Utopian Literature*, Cambridge UP, 2010.

【成績評価の方法と基準】

- ・リアクション・ペーパーなどの課題、授業に取り組む姿勢、議論への貢献度：30%
- ・期末試験：70%

【学生の意見等からの気づき】

映像資料を活かした授業運営をより充実させていく。

【Outline (in English)】

In this course, students are expected to interpret utopian literature in relation to political and cultural contexts, such as imperialism, existentialism, feminism and posthumanism. The goals of this course are to survey the history of utopian literature, learn the basics of interpretation of literature and improve English reading comprehension. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. The final grade will be calculated according to the following process: performance in class activities (30%) and term-end examination (70%).

LIT300LA (文学 / Literature 300)

世界文学講義 I

林 志津江

授業コード：A3005 | 曜日・時限：金4/Fri.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【大人と子ども・学校とわたし】

20世紀初頭のドイツやフランスの人文科学に理論的源流を持ち、20世紀後半の英国で広がりを見せた「カルチュラル・スタディーズ」（文化学）は、日常生活に偏在する支配関係に注目することで、新たな表象分析の道を切り拓きました。この授業で注目するのは「ふつうの人々」の日常にひそむ権力関係、特に「子どもの目から見た大人の世界」です。20世紀前半～現代のドイツに生きた／生きる子どもたちの眼差しを通して、現代を生きる私たちの「文化」と「日常」の諸問題に迫ります。

【到達目標】

1) 読解能力と反省的思考能力の獲得
言語テキストを読み、語と文の意味を理解しながら、「自分が何かを考えている」という意識を持てているでしょうか。
2) 自分の思考を、他人に伝わるレベルで言語化する能力の獲得
意図を損なわず、言語で情報伝達できる能力は、グローバル化した社会のニーズであるばかりでなく、あなたが社会の不正や自己疎外と向かい合う手立てにもなってくれます。
3) 社会に対する批判的な眼差し、遠く離れた場所の出来事を理解しようとする知性の獲得
近現代のドイツ語圏の物語が、現代の日本に生きる自分の日常とどうつながっているのかを考えようとする態度は、あなたに異文化との衝突（＝「苦手」と感じる状況）を生き抜く豊かな知恵を授けてくれるはずです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

近現代ドイツ語圏文学のうち、児童文学・ジュヴナイル小説として知られる作品3点を、時系列に沿って扱います。
・毎回、担当者が講義形式で作品や作家の概要の説明を行ったあと、テキストの抜粋を読みます。その後は参加者同士でお互いの理解を確認する作業です。文学作品のアダプテーション（映画）を扱う際は、映像の抜粋も確認します。
・授業後、次回授業までに、所定の研究課題（study question）として日本語の小レポートを執筆し提出します。
・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入・オリエンテーション（1）	ドイツ語圏？ カルチュラル・スタディーズ（文化学）？
2	導入・オリエンテーション（2）	「記号論」「受容理論」「メディア論」の基礎
3	「自然」と「文明／教育」の交差	ヨハンナ・シュピリ『ハイジ』（1880-1881）その1
4	「自然の中でのびのび生き生きと育つ子ども」？	ヨハンナ・シュピリ『ハイジ』（1880-1881）その2
5	子どもの成長・共同体との和解	ヨハンナ・シュピリ『ハイジ』（1880-1881）その3

6	信仰の力、あるいは善良に生きる価値？	ヨハンナ・シュピリ『ハイジ』（1880-1881、スイス）その4／TVアニメーションシリーズ『アルプスの少女ハイジ』（1974、ズイヨーエンタープライズ／日本）より
7	地下鉄の走る街・映画の時代	エーリヒ・ケストナー『エーミールと探偵たち』（1929年）その1／映画『エーミールと探偵たち』（1931年/2000年、ドイツ） エーリヒ・ケストナー『エーミールと探偵たち』（1929年）その2／映画『エーミールと探偵たち』（1931年/2000年、ドイツ）
8	お母さんに心配をかけたくない	エーリヒ・ケストナー『エーミールと探偵たち』（1929年）その3
9	子どもこそ聡明な存在	エーリヒ・ケストナー『エーミールと探偵たち』（1929年）その4
10	「大人顔負けの子どもたち」という国家批判の言説	ヴォルフガング・ヘルンドルフ『14歳、ぼくらの疾走』（2010年）その1
11	自分も親も初恋も全部イケてない	ヴォルフガング・ヘルンドルフ『14歳、ぼくらの疾走』（2010年）その2
12	ちっぽけな自分と世界の大きさを知る	ヴォルフガング・ヘルンドルフ『14歳、ぼくらの疾走』（2010年）その3
13	自分と世界を直視する勇氣	ヴォルフガング・ヘルンドルフ『14歳、ぼくらの疾走』（2010年）その4／映画『50年後のボクたちは』（2016年、ドイツ）
14	忘れられない日々の物語	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
・授業資料に再度目を通すこと。
・あらゆる活字に触れる作業は全て、この授業にとって意味のある予習・復習です。
・新聞（日刊紙）を読む習慣があればなお良いです。

【テキスト（教科書）】

・授業ごと担当者から資料を配布します。
・『ハイジ』と『エーミールと探偵たち』（日本語訳）の2点を各自ご用意ください。図書館で借りるのでも構いません。
『ハイジ（全2冊）』（岩波書店、2003年）／『ハイジ（全2冊）』（福音館書店、1974年）／『アルプスの少女ハイジ』（角川書店、2021年）など
『エーミールと探偵たち』（岩波書店、2000年）

【参考書】

・手塚富雄・神品芳夫（著）『（増補）ドイツ文学案内』（岩波書店、1993年）
・柴田翔『はじめて学ぶドイツ文学史』（ミネルヴァ書房、2003年）
・石田勇次編著『図説ドイツの歴史（ふくろうの本）』（河出書房新社）2007年
・宮田眞治ほか編著『ドイツ文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房、2015年）
・D. ランゲヴィーシェ（飯田芳弘訳）『統一国家なき国民ー もう一つのドイツ史』（みすず書房）2023年
・小倉孝誠（編）『批評理論を学ぶ人のために』（世界思想社）2023年
その他は講義内資料を通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業への積極的な参加と議論への貢献）（50%）
・授業後の提出課題（50%）
以上の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

・学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

・筆記用具（紙媒体で利用可のもの）を必ず用意してください。

【その他の重要事項】

- ・ドイツ語の知識は必須ではありません。
- ・扱う作品・内容や順序は変更される場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Cultural Studies, which had its theoretical origins in the German and French humanities of the early 20th century and spread in the UK in the latter half of the 20th century, has paved the way for alternatives of representation analysis by focusing on the ruler and ruled relationships that are ubiquitous in everyday life. In this class, we will focus on the power relations hidden in the daily lives of “ordinary people,” especially “the adult world as seen through the eyes of children,” and through the eyes of children who lived in Germany from the early 20th century to the present, we will explore various issues of “culture” and “everyday life” in our modern age.

【Learning Objectives】

To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society.

To be able to express their own opinions and to write texts of a certain length about themes above.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each. There are prescribed review tasks.

【Grading criteria】

The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class) and 50% of submitted assignments as prescribed review tasks.

LIT300LA (文学 / Literature 300)

世界文学講義Ⅱ

林 志津江

授業コード：A3006 | 曜日・時限：金4/Fri.4
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【「モダンガール」の系譜・多様化するフェミニズム】

この授業で着目するのは、大都市に生きる女性とジェンダー規範に関わる文学・文化現象です。20世紀以降のフェミニズム／ジェンダー批評は、あらゆる美的言説の中に、社会が約束事として作り上げた「男らしさ」「女らしさ」がひそむ現実を暴露することで、アイデンティティや主体性の問題を前傾化させてきました。この授業では、ドイツの首都ベルリンを舞台にした19～20世紀ドイツ語圏文学を例に、都市の匿名性や経済格差がいかに固定的性差と結びつけられ理解されてきたか、言語化されたジェンダー規範がどのように現実生活と通底しているか、考察を深めていきます。

【到達目標】

- 1) 読解能力と反省的思考能力の獲得
言語テキストを読み、語と文の意味を理解しながら、「自分が何かを考えている」という意識を持てているでしょうか。
- 2) 自分の思考を、他人に伝わるレベルで言語化する能力の獲得
意図を損なわず、言語で情報伝達できる能力は、グローバル化した社会のニーズであるばかりでなく、社会の不正や自己疎外と向かい合う手立てにもなってくれます。
- 3) 社会に対する批判的な眼差し、遠く離れた場所の出来事を理解しようとする知性の獲得

19～21世紀のドイツ語圏の話が、現代の日本に生きる自分の日常とどうつながっているのかを考えようとする態度は、あなたに異文化との衝突（＝「苦手」と感じる状況）を生き抜く豊かな知恵を授けてくれるはずです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

19世紀～20世紀のドイツ語圏で書かれたドイツ語による文学作品（日本語訳）を、時系列に沿って扱います。
 ・毎回、担当者が講義形式で作品や作家の概要の説明を行ったあと、テキストの抜粋を読みます。その後は参加者同士でお互いの理解を確認する作業です。映画を扱う際はその抜粋も確認します。
 ・授業後、次回授業までに、所定の研究課題（study question）として日本語の小レポートを執筆し提出します。
 ・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入・オリエンテーション	ドイツ語圏？ カルチュラル・スタディーズ？？ ジェンダー批評？？？
2	身分違いの恋ってわかってるけど…	テオドーア・フォンターネ『迷誤あれば』（1888年）その1
3	オワコン下級貴族の本音？	テオドーア・フォンターネ『迷誤あれば』（1888年）その2
4	「秩序」と人間、私的な人間関係	テオドーア・フォンターネ『迷誤あれば』（1888年）その3
5	「オリエンタリズム」への逆襲？	森鴎外『舞姫』（1890年）その1
6	都市の相貌・心の迷い	森鴎外『舞姫』（1890年）その2

7	都会の「キラメキ」に憧れて	イルムガルト・コイン『人工シルクの女の子』（1932年、ドイツ）その1
8	大都会の真実、男と女の真実	イルムガルト・コイン『人工シルクの女の子』（1932年、ドイツ）その2／映画『狂乱のモンテカルロ』（1931年、ドイツ）
9	「とてつもなく、幸せになりたいの」	イルムガルト・コイン『人工シルクの女の子』（1932年、ドイツ）その3／映画『会議は踊る』（1931年、ドイツ）
10	現実の、未完成の私を好きになってほしい	イルムガルト・コイン『人工シルクの女の子』（1932年、ドイツ）その4
11	「それぞれの人生模様」？	ヴィッキ・バウム『ホテルの人々』（1929年）／映画『グラント・ホテル』（1932年、米国）
12	忌まわしいはずの記憶が美化される条件	トーマス・ブルスィヒ『太陽通り（ゾネンアレーの短い方の端で）』（1999年）その1
13	「世界で一番可愛い女の子」と「肝っ玉母さん」	トーマス・ブルスィヒ『太陽通り（ゾネンアレーの短い方の端で）』（1999年）その2
14	「ちょっと抜けてる男たち」？	トーマス・ブルスィヒ『太陽通り（ゾネンアレーの短い方の端で）』（1999年）その3／映画『ゾネンアレー』（1999年、ドイツ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
 ・授業資料に再度目を通すこと。
 ・あらゆる活字に触れる作業は全て、この授業にとって意味のある予習・復習です。
 ・新聞（日刊紙）を読む習慣があればなお良いです。

【テキスト（教科書）】

・授業ごと担当者から資料を配布します。
 ・授業第5、6回目は、各自で『舞姫』（森鴎外著）をご用意ください。どの版でも、図書館で借りるので問題ありません。

【参考書】

・手塚富雄・神品芳夫（著）『（増補）ドイツ文学案内』（岩波書店、1993年）
 ・柴田翔『はじめて学ぶドイツ文学史』（ミネルヴァ書房、2003年）
 ・E. ショウォールター編（青山誠子訳）『新フェミニズム批評 女性・文学・理論』（岩波書店）1999年
 ・石田勇次編著『図説 ドイツの歴史（ふくろうの本）』（河出書房新社）2007年
 ・宮田眞治ほか編著『ドイツ文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房、2015年）
 ・弓削尚子『はじめての西洋ジェンダー史 家庭史からグローバルヒストリーまで』（山川出版社）2021年
 ・田中東子『ガールズ・メディア・スタディーズ』（北樹出版）2021年
 ・林香里・田中東子『ジェンダーで学ぶメディア論』（世界思想社）2023年
 ・D. ランゲヴィーシュ（飯田芳弘訳）『統一国家なき国民 — もう一つのドイツ史』（みすず書房）2023年
 ・小倉孝誠（編）『批評理論を学ぶ人のために』（世界思想社）2023年
 その他は講義内資料を通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業への積極的な参加と議論への貢献）（50%）
 ・授業後の提出課題（50%）

以上の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

・学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

・筆記用具（紙媒体で利用可のもの）を必ず用意してください。

【その他の重要事項】

・ドイツ語の知識は必須ではありません。

・扱う作品・内容や順序は変更される場合があります。

【Outline (in English)】

This class focus on women in the metropolis and the literary and cultural phenomena related to gender norms. Feminism and gender critique since the 20th century have brought forward issues of identity and subjectivity by exposing the reality of “masculinity” and “femininity” that society has created as promises in all aesthetic discourses. In this class, we will deal with literary works from 19th and 20th century Germany as examples to examine how urban anonymity and economic disparity have been linked to and understood as fixed gender inequality, and how verbalized gender norms are connected to real life. The lecture will use examples from 19th- and 20th-century German literary works to deepen the discussion.

【Learning Objectives】

To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society.

To be able to express their own opinions and to write texts of a certain length about themes above.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each. There are prescribed review tasks.

【Grading criteria】

The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class) and 50% of submitted assignments as prescribed review tasks.

LIT300BD (文学 / Literature 300)

英語圏文学研究A

小澤 央

授業コード：A3007 | 曜日・時限：木2/Thu.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、学部3・4年生が大学院生と一緒に受講し、発展的な内容にチャレンジする。学部生が院生と垣根を越えて議論し、ときには院生にリードしてもらいながら英語圏の文学を共に学ぶ。

今年度春学期は、Mary Shelleyの*Frankenstein* (1818, rev. 1831)を精読し、書かれている内容や扱われているテーマや問題についてみなで議論する。映画や先行研究も参考にする。

文学を解釈するための基本的姿勢を身につけ、自分なりの解釈を試みることが目的である。

【到達目標】

- ・*Frankenstein*を読了し、その背景事情を含めて理解できる
- ・先行研究や批評をある程度踏まえて、自分の解釈を展開できる
- ・作品が扱う今日のテーマについて議論できる
- ・他人の意見を尊重しつつ、自分の意見をわかりやすく表現できる
- ・辞書や和訳を参照しながらも、長編小説を読み通せるだけの英語力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則的に毎回レジュメ担当を決め、その発表に基づいてみなで議論する。学期末にはレポートを書く。

発表に対してはその場で、レポートに対しては返却時にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の確認、作品の背景の説明
第2回	Shelleyの生涯についての映画(1)	前半の鑑賞と議論
第3回	Shelleyの生涯についての映画(2)	後半の鑑賞と議論
第4回	<i>Frankenstein</i> (1)	作品を9等分した場合の第1部の発表と議論
第5回	<i>Frankenstein</i> (2)	第2部の発表と議論
第6回	<i>Frankenstein</i> (3)	第3部の発表と議論
第7回	<i>Frankenstein</i> (4)	第4部の発表と議論
第8回	<i>Frankenstein</i> (5)	第5部の発表と議論
第9回	<i>Frankenstein</i> (6)	第6部の発表と議論
第10回	<i>Frankenstein</i> (7)	第7部の発表と議論
第11回	<i>Frankenstein</i> (8)	第8部の発表と議論
第12回	<i>Frankenstein</i> (9)	第9部の発表と議論
第13回	先行研究のレビュー	<i>Frankenstein</i> の批評に関する発表と議論
第14回	まとめ	作品と批評の総括、期末レポートのテーマについての話し合い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表者はレジュメを必ず用意すること。レジュメには、要約のみならず論点や意見などの提示が必要である。発表にあたっていなくても、テキストをしっかりと読み、自身の考えをまとめてゼミに参加すること。

予習・復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Mary Shelley, *Frankenstein*, ed. Maurice Hindle, Penguin Classics, 2003.

【参考書】

・シェリー著、『フランケンシュタイン』、小林章夫訳、光文社新訳文庫、2010年
・廣野由美子著、『批評理論入門——『フランケンシュタイン』解剖講義』、中公新書、2005年

【成績評価の方法と基準】

- ・議論への貢献度：30%
- ・発表：30%
- ・期末レポート：40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【その他の重要事項】

基本的に全回に出席することが望ましい。単位認定には学期中に3分の2以上の出席が必要である。この場合の「出席」とは、該当範囲を予習してきて、積極的にゼミに参加することを意味する（20分以上の遅刻は欠席と見なす）。

【Outline (in English)】

This class is a seminar open to both undergraduate (third- and fourth-year) and graduate (MA) students. In this course, students are expected to carefully read Mary Shelley's *Frankenstein* (1818, rev. 1831) and discuss the text and its relevant themes and issues. The course also deals with films and studies on the author and her work. The goals of this course are to learn the basics of interpretation of literature and attempt a new interpretation. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. The final grade will be calculated according to the following process: participation in discussion (30%), presentation (30%) and term-end essay (40%).

LIT300BD（文学 / Literature 300）

英語圏文学研究B

小澤 央

授業コード：A3008 | 曜日・時限：木4/Thu.4
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、学部3・4年生が大学院生と一緒に受講し、発展的な内容にチャレンジする。学部生が院生と垣根を越えて議論し、ときには院生にリードしてもらいながら英語圏の文学を共に学ぶ。

今年度秋学期は、William Goldingの*Lord of the Flies* (1954)を精読し、書かれている内容や扱われているテーマや問題についてみなで議論する。映画や先行研究も参考にする。

文学を解釈するための基本的姿勢を身につけ、自分なりの解釈を試みることが目的である。

【到達目標】

- ・*Lord of the Flies*を読了し、その背景事情を含めて理解できる
- ・先行研究や批評がある程度踏まえて、自分の解釈を展開できる
- ・作品が扱う今日のテーマについて議論できる
- ・他人の意見を尊重しつつ、自分の意見をわかりやすく表現できる
- ・辞書や和訳を参照しながらも、長編小説を読み通せるだけの英語力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則的に毎回レジュメ担当を決め、その発表に基づいてみなで議論する。学期末にはレポートを書く。

発表に対してはその場で、レポートに対しては返却時にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の確認、作品の背景の説明
第2回	<i>Lord of the Flies</i> (1)	第1, 2章の発表と議論
第3回	<i>Lord of the Flies</i> (2)	第3, 4章の発表と議論
第4回	<i>Lord of the Flies</i> (3)	第5, 6章の発表と議論
第5回	<i>Lord of the Flies</i> (4)	第7, 8章の発表と議論
第6回	<i>Lord of the Flies</i> (5)	第9, 10章の発表と議論
第7回	<i>Lord of the Flies</i> (6)	第11, 12章の発表と議論
第8回	<i>Lord of the Flies</i> の翻案映画(1)	前半の鑑賞と議論
第9回	<i>Lord of the Flies</i> の翻案映画(2)	後半の鑑賞と議論
第10回	先行研究のレビュー(1)	<i>Lord of the Flies</i> の批評（日本語）に関する発表と議論
第11回	先行研究のレビュー(2)	<i>Lord of the Flies</i> の批評（英語）に関する発表と議論
第12回	先行研究のレビュー(3)	Goldingの批評に関する発表と議論
第13回	まとめ	作品と批評の総括、期末レポートのテーマについての話し合い
第14回	今年度のまとめ	通年の総括、今後の研究についての示唆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表者はレジュメを必ず用意すること。レジュメには、要約のみならず論点や意見などの提示が必要である。発表にあたっていなくても、テキストをしっかりと読み、自身の考えをまとめてゼミに参加すること。

予習・復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

William Golding, *Lord of the Flies*, Penguin Classics, 2006.

【参考書】

- ・ゴールディング著、『蠅の王 [新訳版]』、黒原敏行訳、ハヤカワ epi 文庫、2017年
- ・吉田徹夫、宮原一成編、『ウィリアム・ゴールディングの視線——その作品世界』、開文社出版、1998年

【成績評価の方法と基準】

- ・議論への貢献度：30%
- ・発表：30%
- ・期末レポート：40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【その他の重要事項】

基本的に全回に出席することが望ましい。単位認定には学期中に3分の2以上の出席が必要である。この場合の「出席」とは、該当範囲を予習してきて、積極的にゼミに参加することを意味する（20分以上の遅刻は欠席と見なす）。

【Outline (in English)】

This class is a seminar open to both undergraduate (third- and fourth-year) and graduate (MA) students. In this course, students are expected to carefully read William Golding's *Lord of the Flies* (1954) and discuss the text and its relevant themes and issues. The course also deals with films and studies on the author and his work. The goals of this course are to learn the basics of interpretation of literature and attempt a new interpretation. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. The final grade will be calculated according to the following process: participation in discussion (30%), presentation (30%) and term-end essay (40%).

LIT300BD (文学 / Literature 300)

英語圏文学演習A

田中 裕希

授業コード：A3009 | 曜日・時限：木4/Thu.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、シェイクスピアのソネットを精読し、その詩的技法やテーマを探究する。シェイクスピアの詩がどのように恋愛、時間、美、死、詩そのものの永続性を描き出しているのかを考察し、また我々自身も英語でソネットを書き、批評的視点と創作の両面からアプローチする。また、シェイクスピア後のソネットも読むことで、なぜソネットが現代詩人にとっても重要な形式なのか考える。

<講義題目>

英詩、英詩創作

【到達目標】

シェイクスピアのソネットの基本的な構造（14行詩、押韻構成、iambic pentameter）を理解する。

主要なテーマ（愛、時間、美、詩の不滅性など）を批評的に考察する。

自身の詩作にシェイクスピアの技法を取り入れる。

クラス内でのディスカッションを通じて批評的思考とスピーキング能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業で1〜2編のソネットを取り上げ、背景知識を交えつつ分析・議論する。

創作のワークショップを通じて、シェイクスピアの技法を活かした詩の実践を行う。

プレゼンテーションやディスカッションを積極的に取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	シェイクスピアのソネットとは？	ソネットの形式、歴史的背景、エリザベス朝の詩
第2回	美と不死性	ソネット18「お前を夏の日にたどえようか」
第3回	時間と衰退	ソネット55, 60（詩と時間の戦い）
第4回	恋愛と欲望	ソネット116, 129（愛の理想と激情）
第5回	ダークレディ・ソネット	ソネット127, 130（伝統的な美の否定）
第6回	友情と詩人の不安	ソネット29, 87（友情と喪失）
第7回	ワークショップ	ソネットの創作と発表
第8回	言葉の力と詩の不滅性	ソネット15, 19（詩による永遠性の探求）
第9回	メタポエティクス	ソネット73（詩と老い）
第10回	シェイクスピア以降のソネット	ミルトン、ワーズワース、シェリー、キーツ
第11回	20世紀のソネット	ロバート・フロスト、ロバート・ローウェル、リタ・ダヴなど
第12回	21世紀のソネット	テラン・ヘイズ、ダイアン・スース
第13回	日本のソネットとの比較	立原道造、マチネ・ポエティク
第14回	まとめと朗読会	学期の総括、発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週配布されるテキストを予習し、ディスカッションの準備をする。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントを配布する。

【参考書】

阿部公彦『英詩のわかり方』（研究社）

Helen Vendler, *The Art of Shakespeare's Sonnets* (Harvard University Press)

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度 30%

プレゼンテーション 30%

期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

引き続き活発なディスカッションを心がける。

【Outline (in English)】

In this class, we will read Shakespeare's sonnets closely, exploring his poetic techniques and themes. We will examine how he captures love, time, beauty, death, and the lasting power of poetry, approaching the texts both critically and creatively. We will also read sonnets written after Shakespeare to understand why this form remains vital for contemporary poets.

There will be some lectures, but most of the class time will be devoted to students' active participation. Students will receive feedback on their work in class, via Hoppii, and during office hours. The format of this class in a given week could change, depending on the Covid situation. Grades will be determined based on assignments, presentations, and participation (60%) and the final paper (40%).

LIT300BD（文学 / Literature 300）

英語圏文学演習B

田中 裕希

授業コード：A3010 | 曜日・時限：金3/Fri.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英語詩の連作（poetic sequence）を中心に学ぶ。連作詩は、個々の詩が独立しながらも、テーマやモチーフ、語りの流れによって結びつく。テニソンの『イン・メモリアム』や T. S. エリオットの『荒地』、また現代アメリカ詩における詩の連続性を考察するとともに、日本の短歌連作との比較も行う。学生は、批評的な分析を行うだけでなく、自身の詩の連作を制作する。＜講義題目＞
英詩、英詩創作

【到達目標】

詩の連作（poetic sequence）の概念を理解し、多様な形式を分析する。作品のテーマや構造の変遷を考察し、批評的な視点を養う。詩の創作を通じて、連作としての詩の展開を探る。日本の短歌連作と英詩の poetic sequence の比較を行い、異文化間の詩的手法の違いを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

主要な poetic sequence のテキストを精読し、ディスカッションを行う。各学生が独自の詩の連作を制作し、ワークショップ形式で発表・講評を行う。短歌の連作との比較を通じて、英詩と日本詩の表現の違いを探る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Poetic Sequence とは？	連作詩の基本概念、形式と構造
第2回	挽歌	Tennyson, <i>In Memoriam</i>
第3回	断片化された語り	T. S. エリオット『荒地』1, "The Burial of the Dead"
第4回	『荒地』2	"A Game of Chess"
第5回	『荒地』3	"The Fire Sermon"
第6回	『荒地』4, 5	"Death by Water" and "What the Thunder Said"
第7回	ソネットの残滓	John Berryman, <i>77 Dream Songs</i> 前半
第8回	ペルソナと連作	<i>77 Dream Songs</i> 後半
第9回	神話と連作	Louise Glück, <i>Meadowlands</i> 前半
第10回	語りの構造	<i>Meadowlands</i> 後半
第11回	アイデンティティーと連作	Jos Charles, <i>Feeld</i>
第12回	ワークショップ	英詩創作、ディスカッション
第13回	日本の短歌連作との比較	塚本邦雄、大森静佳などの作品と英詩の比較
第14回	まとめと朗読会	学期の総括、発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週配布されるテキストを予習し、ディスカッションの準備をする。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業時に配布する。

【参考書】

亀井俊介、川本 皓嗣 (編集)『アメリカ名詩選』(岩波文庫)
平井正穂 (編集)『イギリス名詩選』(岩波文庫)
阿部公彦『英詩のわかり方』(研究社)

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度 30%
プレゼンテーション 30%
期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

引き続き活発なディスカッションを心がける。

【Outline (in English)】

In this course, we will focus on poetic sequences in English-language poetry. Students will not only analyze texts critically but also engage with them creatively by writing their own poetic sequences.

ART100ZA (芸術学 / Art studies 100)

Introduction to Film Studies

KUKHEE CHOO

授業コード：A3011 | 曜日・時限：火3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We live in a world where cinema dominates our everyday lives, whether we know it or not. Some skeptics view cinema as a dying medium, however, to the contrary, we are witnessing a new Renaissance of cinema with the rise of streaming platforms where media has become a ubiquitous part of our daily lives. This course introduces students to the terms and theories they need to know in order to analyze films in a more structural and critical manner. Lectures, in-class discussions, and assignments are designed to help students understand issues raised within film studies, and make sense of the films they encounter in their everyday lives.

【到達目標】

- 1.Students will develop analytical skills in reading cinematic texts.
- 2.Students will learn key theories, terms, and arguments of film studies.
- 3.Students will develop discussion skills to exchange ideas with others.
- 4.Students will become familiar with important films in the history of cinema.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Each week will focus upon a different concept within film studies and instruct students on how to apply that topic to individual texts. Along the way, students will familiarize themselves with landmark films, filmmakers, filmic technologies, and filmmaking traditions by studying cinema from various eras, genres, and industries. Classes combine lectures, film clips, discussions, analytical exercises, and student presentations. In addition, students will conduct research projects. As the history of cinema covers approximately 120 years and involves many regions, the list of the films examined in this course is eclectic. Some examples are as follows: A Trip to the Moon (1902), The Battleship Potemkin (1925), Citizen Kane (1941), Bambi (1942), Singing in the Rain (1952), Tokyo Story (1953), Psycho (1960), and Nobody Knows (2004).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Overview
2	Early films and theories	Readings on cinema theories
3	Film Topics 1	Mise-en-scène
4	Film Topics 2	Cinematography
5	Film Topics 3	Editing
6	Film Topics 4	Sound
7	Midterm review	Student presentations
8	Film Topics 5	Narrative
9	Film Topics 6	Genre
10	Film Topics 7	Animation films
11	Film Topics 8	Auteur
12	Film Topics 9	National cinema and film festivals
13	Final review	Student presentations
14	Final review	Student presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will view films, take viewing notes, and read essays in preparation for class sessions. Students will conduct research, deliver a midterm and final presentation. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【テキスト（教科書）】

Corrigan, Timothy and Patricia White. *The Film Experience: An Introduction*. Sixth edition. Boston: Bedford/St. Martin's, 2021.

【参考書】

Students must purchase the textbook and read each assigned chapter before class. Additional reading material will be uploaded to HOPPII.

【成績評価の方法と基準】

Class participation (10%)

Film viewing assignments (20%)

Asking questions, speaking up during class discussions, and class behavior (20%)

Midterm presentation (20%)

Final presentation (30%)

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

Pen and paper notebook. Students are not allowed to use computers, tablets or smartphones in this class so students must take notes by hand in class. They are also responsible for bringing hard copies of the required readings to class.

【その他の重要事項】

Do not miss the first class as a selection process may occur. The content of this syllabus may be subject to change.

【Prerequisite】

None.

LIN200ZA (言語学 / Linguistics 200)

Sociolinguistics

渡辺 有泰

授業コード：A3087 | 曜日・時限：火3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course covers the approaches to security studies, a sub-discipline of International Relations (IR). Security studies mainly examines the causes of interstate and intrastate war; the conditions for international peace; State strategies to guarantee their survival and security, the ways of managing and resolving international and domestic armed conflicts; and the impact of new technologies, weapons and ideas on the ways states engage in war.

【到達目標】

The course objectives are: (1) to enable students to develop a broader understanding of the key theories and concepts in security studies; (2) to examine major security challenges in the international arena through the lens of relevant theories and concepts; (3) to acquire the ability to form their own answers to enduring and contemporary questions inherent in international security studies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

This course has two segments: First, presenting major theories and concepts in security studies, necessary for understanding contemporary security policies and issues.

Second, examining contemporary security challenges related to armed conflicts, arms trade and military competition, nuclear proliferation, genocide and mass killings, and terrorism.

Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction
2	Military Security	Exploring the concepts of military security
3	Regime Security	Exploring the concepts of regime security
4	Societal Security	Exploring the concepts of societal security
5	Human Security	Exploring the concepts of human security
6	Environmental Security	Exploring the concepts of environmental security
7	Review and Mid-term exam	Review and Written test
8	The Evolution of Modern Warfare	Examining changes in warfare
9	The Arms Trade	Examining the key aspects of the contemporary arms trade
10	Nuclear Proliferation	Examining the important aspects of nuclear proliferation
11	Humanitarian Intervention	Providing an overview of the heated debate in terms of the validity of humanitarian intervention
12	Terrorism	Analyzing the threat that terrorism poses to countries and the world
13	Review and Preparation for the final exam	Review of major topics covered by week 9-13
14	Review and Final Exam	Review and Written test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to have read the relevant chapters for the books listed in both the textbook and reference sections before attending the lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Allan Collins (ed). *Contemporary Security Studies*, Sixth edition. Oxford University Press, 2022.

【参考書】

Paul D Williams and Matt McDonald, ed. *Security Studies: An Introduction*. Fourth edition. Routledge, 2023.

John Baylis, James J. Wirtz and Colin S. Gray *Strategy in the Contemporary World*. Seventh Edition. Oxford University Press, 2022.

【成績評価の方法と基準】

Contribution to discussion (10%), mid-term examination (45%), final examination (45%)

【学生の意見等からの気づき】

Handouts to be provided in a timely manner.

【学生が準備すべき機器他】

Some course materials will be delivered via the Hoppii.

【その他の重要事項】

Non-GIS students wishing to take part in this course should have adequate English skills to complete the course work and assignments.

【Prerequisite】

none.

LIN200ZA (言語学 / Linguistics 200)

Sociolinguistics

渡辺 有泰

授業コード：A3092 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course offers an overview over the main issues that inform Japan's contemporary diplomatic relations. After reviewing theories of international relations and critically discussing their value for analysing international relations in East Asia, a brief historic overview will introduce the main topics of Japan's modern foreign relations. After this, the course proceeds by looking into several case studies of Japan's foreign policy, focussing on bilateral and multilateral relations. Topics discussed include Japan's territorial disputes with its neighbours, Japan's efforts to manage the rise of China, aspects of Japan's efforts in the field of international cooperation, Japanese proposals for fostering regionalization in Asia, and its efforts to tackle the growing global climate crisis.

【到達目標】

Students who have completed this course should be able to:

- ・ understand the main issues that inform Japan's international position and develop individual research interests
- ・ understand the variables that shape Japan's present foreign relations
- ・ critically assess the various interests of the major regional powers in Asia, including Japan
- ・ gain an understanding of the most prominent theories of international relations, and be able to relate them to contemporary issues

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Students are required to read mandatory assignments each week. Lectures will be used to introduce each topic; afterwards, a critical discussion will take place where students are strongly encouraged to voice their own opinions. In the second half of the semester, depending on the number of participants, students will have the opportunity to give individual or group presentations on a topic of their interest. Students are required to hand in discussion points for the reading before each class, which will be the basis for the in-class discussion. Teacher feedback will be given during the discussions and after the optional presentations; comments on the results of the two examinations will be given in written form in a timely manner.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Topics in Japan's Foreign Relations	Topics in Japan's Foreign Relations
2	International Relations Theory, East Asia, and Japan	Understanding "International Relations" and Japan's policies theoretically
3	Main Issues of Japan's Post War Diplomacy	Turning points and continuous characteristics of Japan's foreign policy after 1952
4	Recent Strategic Shifts	Assessing the recent strategic changes in Japan's Foreign Policy orientation since the 2000s
5	Japan and Regionalism in East Asia	Japan's efforts to influence the emerging regional political and economic order in East Asia
6	Japan and the United States	The shifting alliance between Japan and the United States
7	Mid-Term Exam	Exam and summary of the course content so far
8	Japan and China	Japan's relations with China
9	Japan and the Korean Peninsula	Japan's relations with North and South Korea
10	Japan and Russia	Japan's relations with the Russian Federation
11	Japan and ASEAN	Japan's relations with Southeast Asia
12	Japan and International Cooperation	Japan's policies in international organizations

13	Japan and Climate Security	Japan's policies in tackling different dimensions of climate change
14	Conclusion and Final Exam	Wrap-up of course content and final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Students are expected to closely read the assigned texts before class and to be ready to engage in discussion each week. Students are also required to prepare questions and discussion ideas based on interesting and/or problematic points of the assigned texts.

【テキスト（教科書）】

There is no need to buy a textbook.

【参考書】

A list of assigned readings and further materials for reference will be distributed at the beginning of the semester. All required texts will be uploaded to the online course management system.

The readings for this course will largely rely on the following textbooks:

- Brown, James D. J. and Kingston, Jeff (eds.) 2017: Japan's Foreign Relations in Asia, New York: Routledge.
 - McCarthy, Mary M. (ed.) 2018: Routledge Handbook of Japanese Foreign Policy, London and New York: Routledge
 - Pekkanen, Robert J. and Pekkanen, Saadia M. (eds.) 2022: The Oxford Handbook of Japanese Politics, Oxford: Oxford University Press.
- The relevant chapters will be uploaded to the course website.

【成績評価の方法と基準】

Participation and discussion: 20%

Mid-term exam: 40%

Final exam: 40%

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【その他の重要事項】

For GIS students who entered in 2012 - 2019:

This course is regarded as 100-level Introductory Courses.

【Prerequisite】

None.

LANd300LA (ドイツ語 / German language education 300)

教養ゼミ I

上田 知夫

授業コード：A3093 | 曜日・時限：金4/Fri.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

皆さんが大学で出会う教員は皆、仕事として学問をしています。学問を単なる勉強でなく、仕事とすることとはどういうことなのか不思議に思ったことはありませんか、そしてそもそも仕事とは何だろうと思ったことはありませんか。この授業ではこの問題について、ヴェーバーの「仕事としての学問」を翻訳でゆっくりと読みながら議論することを目的とします。
さらに社会学や哲学の基本文献であるヴェーバーの議論に触れることになります。とつきにくいように思われる本でも読み方さえマスターできれば読めるということを理解します。
この授業ではドイツ語の知識は一切前提しません。ドイツ語の文献も扱いません。

【到達目標】

講義で言及されたりして、聞いたことはあるけれど、どこから取り掛かっていいかわからない気がする文献へのとっかかりを手に入れることができます。
レジュメの書き方、他の人の意見への適切な質問の仕方などを学ぶことができます。
大学の「ゼミ」ってどういう雰囲気なのだろうかということを味わうことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ごく短いテキスト範囲（長くて2ページ程度）について、毎回レポーターを決めて、その人の作成した資料（レジュメでもパワーポイントスライドでも形式は自由）をもとにみんなで意見を話し合います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	扱う文献やヴェーバーについてのイントロダクションと担当決め
第2回	「仕事としての学問」 精読	レポーターのまとめを聞いて議論する
第3回	「仕事としての学問」 精読（第2回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第4回	「仕事としての学問」 精読（第3回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第5回	「仕事としての学問」 精読（第4回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第6回	「仕事としての学問」 精読（第5回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第7回	「仕事としての学問」 精読（第6回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第8回	「仕事としての学問」 精読（第7回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する

第9回	「仕事としての学問」 精読（第8回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第10回	「仕事としての学問」 精読（第9回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第11回	「仕事としての学問」 精読（第10回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第12回	「仕事としての学問」 精読（第11回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第13回	「仕事としての学問」 精読（第12回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第14回	まとめ	学期の議論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の後に質問を2つ考えてリアクションペーパーとして提出してください。
次回の範囲を読んでください。担当者は、レジュメを切ります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

マックス・ウェーバー、野口雅弘（訳）、『仕事としての学問 仕事としての政治』（講談社学術文庫、2018年）

【参考書】

野口雅弘、『マックス・ウェーバー：近代と格闘した思想家』（中公新書、2020年）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（レポーターとしての貢献度および授業への参加度）：100%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】

In this course, we read a seminal work of Weber "Wissenschaft als Beruf" (on request, English translation or German original will be provided).

This course aims that students learn how to (intensively) work on a classic work for social sciences and/or philosophy.

【Learning activities outside of classroom】

You are expected to prepare the text in advance and to submit two questions from the discussions from the last session.

【Grading Criteria /Policy】

Participation: 100%

LANd300LA (ドイツ語 / German language education 300)

教養ゼミⅡ

上田 知夫

授業コード：A3094 | 曜日・時限：金4/Fri.4
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代では政治家の多くが、職業政治家です。しかし政治を仕事とすることとはどういうことなのか不思議に思ったことはありませんか。そしてそもそも仕事とは何だろうと思ったことはありませんか。この授業ではこの問題について、ヴェーバーの「仕事としての政治」を翻訳でゆっくりと読みながら議論することを目的とします。さらに社会学や哲学の基本文献であるヴェーバーの議論に触れることになります。とっつきにくいように思われる本でも読み方さえマスターできれば読めるということを理解します。この授業ではドイツ語の知識は一切前提しません。ドイツ語の文献も扱いません。

【到達目標】

講義で言及されたりして、聞いたことはあるけれど、どこから取り掛かっていいかわからない気がする文献へのとっかかりを手に入れることができます。
 レジュメの書き方、他の人の意見への適切な質問の仕方などを学ぶことができます。
 大学の「ゼミ」ってどういう雰囲気なのだろうかということを味わうことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ごく短いテキスト範囲（長くて2ページ程度）について、毎回レポーターを決めて、その人の作成した資料（レジュメでもパワーポイントスライドでも形式は自由）をもとにみんなで意見を話し合います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	文献の紹介と担当決め
第2回	「仕事としての政治」 精読	レポーターのまとめを聞いて議論する
第3回	「仕事としての政治」 精読（第2回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第4回	「仕事としての政治」 精読（第3回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第5回	「仕事としての政治」 精読（第4回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第6回	「仕事としての政治」 精読（第5回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第7回	「仕事としての政治」 精読（第6回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第8回	「仕事としての政治」 精読（第7回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第9回	「仕事としての政治」 精読（第8回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する

第10回	「仕事としての政治」 精読（第9回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第11回	「仕事としての政治」 精読（第10回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第12回	「仕事としての政治」 精読（第11回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第13回	「仕事としての政治」 精読（第12回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第14回	まとめ	今学期の議論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の後に質問を2つ考えてリアクションペーパーとして提出してください。

次回の範囲を読んでください。担当者は、レジュメを切ります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

マックス・ウェーバー、野口雅弘（訳）、『仕事としての学問 仕事としての政治』（講談社学術文庫、2018年）
 * 春学期と同じ書籍です。

【参考書】

野口雅弘、『マックス・ウェーバー：近代と格闘した思想家』（中公新書、2020年）。

【成績評価の方法と基準】

毎回質問を2つリアクションペーパーにまとめてもらいます。それを匿名化して、次の授業の最初に議論したいと思います。平常点（レポーターとしての貢献度、授業への参加度およびリアクションペーパーでの質問の提出）：100%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】

In this course, we read a seminal work of Weber "Politik als Beruf" (on request, English translation or German original will be provided).

This course aims that students learn how to (intensively) work on a classic work for social sciences and/or philosophy.

【Learning activities outside of classroom】

You are expected to prepare the text in advance and to submit two questions from the discussions from the last session.

【Grading Criteria /Policy】

Participation: 100%

LIN200ZA (言語学 / Linguistics 200)

Psycholinguistics

石田 真子

授業コード：A3095 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will cover the basic notions of psycholinguistics – how languages are acquired, learnt, used, and understood in daily situations. It primarily focuses on human speech communication – how auditory and visual information is processed and integrated in the human brain. We will explore research findings in linguistics, acoustics, psychology, and neuroscience.

【到達目標】

There are three main goals:

- (1) Students understand the basic structures of language.
- (2) Students understand communication strategies including auditory and optical illusion.
- (3) Students understand the basic brain structure and functions for human speech communication.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

This course consists of lectures, discussions, pop-quizzes, and midterm/final reviews. Handouts and worksheets are provided in class. Students are expected to actively participate in class: take notes, be responsive to questions, and work in pairs and groups. Feedback for course contents and assignments will be provided in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction
2	Language Acquisition	How did we acquire a first language?
3	Speech Communication 1	The basic components of language 1
4	Speech Communication 2	The basic components of language 2
5	Speech Communication 3	The basic components of language 3
6	Speech Communication 4	The basic components of language 4
7	Checkpoint	Review and midterm exam
8	Speech Chain 1	Speech Production
9	Speech Chain 2	Physical and Psychological Properties
10	Speech Chain 3	Speech Perception
11	Neuroscience 1	Basic brain anatomy and function
12	Neuroscience 2	Auditory Illusions
13	Neuroscience 3	Optical illusions
14	Checkpoint	Review and final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review what was covered in class every week. If you miss a class, please be sure to contact your classmates or the course instructor about lecture notes and assignments. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

No textbook will be used. Handouts and worksheets are provided in class.

【参考書】

Berninger, V.W., & Richards, T.L. (2002). Brain literacy for educators and psychologists. San Diego, CA: Academic Press.
 Carroll, D.W. (2008). Psychology of language (5th edition). Belmont, CA: Cengage Learning/Wadsworth.
 O'Grady, W., Dobrovolsky, M., & Katamba, F. (1996). Contemporary linguistics: An introduction. Essex: Pearson Education.

【成績評価の方法と基準】

Attitude and participation (20%), Pop quizzes (20%), Midterm exam (30%), Final exam (30%).

Please be sure to attend every class. Absence three times without prior and reasonable notice will result in the failure of this course. A delay can be counted as an absence. Pop quizzes are “open-notes” (not “open-book”), and they are intended to assess your comprehension of materials.

【学生の意見等からの気づき】

No particular change.

【学生が準備すべき機器他】

Not applicable.

【その他の重要事項】

Students who are interested in human speech communication are welcome.

【Prerequisite】

None.

BSP100BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミ I（文・英文）

福元 広二

授業コード：A3096 | 曜日・時限：金3/Fri.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年

備考（履修条件等）：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「基礎ゼミ」は、大学における1年次の導入科目です。高校までの学習と大学での学習の違いを理解してもらい、ノートの取り方、プレゼンテーションの仕方、レポート（essay）の書き方、資料の集め方などを教授することで、法政大学において、皆さんが効率よく学ぶ手助けをするのがこの授業の目的です。これらの基礎的な知識や技術を早く身につけられるように、多岐にわたるテーマを春学期の1セメスターで完結させるように工夫がなされています。

【到達目標】

この授業を履修することで、学生は
・高校までの受け身学習ではなく、大学生として能動的に学ぶことの重要性を認識し、学生生活の基盤を築くことができる。
・大学での学習に必要な基本的技術——ノートをとる技術、質問する技術、資料を読解する技術、資料を要約する技術、レポートを書く技術、プレゼンテーションする技術など——を習得することができる。
・社会人になる前に、どのような能力を身につけておくべきか、そしてそのためにどのような学習が必要なのかを学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

1年次の学生全員を4クラスに編成します。演習科目（ゼミナール）ですので、教員の講義に加えて学生による授業参加やプレゼンテーションも組み合わせた授業を行います。制度上、必修単位には組み込まれていませんが、これから大学で様々な授業を受ける際の前提となる内容ですので、英文学科1年生は全員履修してください。

4クラスに分け、各クラスを金曜の1限、2限、3限のいずれかに配置します。クラス分けについては、新入生オリエンテーション時に発表し、その後、Web掲示板に名簿を掲示します。クラスによって時限・教室・授業コードが異なるので、必ず履修登録前に自分の所属クラスを確認してください。各回の授業後に受講生からの質問を受け付け、主要なものについて次回授業の最初にフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Study at Hosei and Introduction	ガイダンス：法政大学での学びの方法
第2回	Note Taking	講義ノートの取り方
第3回	Library Tour	図書館の使い方
第4回	Text Reading	文献の読み方と文献調査体験
第5回	Academic Writing 1	レポートの書き方 - 学術的文章を書くこと
第6回	Academic Writing 2	アウトラインの作成 - グループ・ワークの試み
第7回	Academic Writing 3	注と文献表の作成 - 他人の文章を引用するルール
第8回	Critical Thinking 1	テーマを立てるということ
第9回	Critical Thinking 2	問題設定の仕方と論旨の展開
第10回	Summarizing	要約の仕方とグループ発表の準備
第11回	Presentations 1	プレゼンテーションの仕方
第12回	Presentations 2: Group Presentations, 第1回目	グループによる調査・発表1
第13回	Presentations 3: Group Presentations, 第2回目	グループによる調査・発表2
第14回	Presentations 4: Group Presentations, 第3回目	グループによる調査・発表3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業ごとに、その日に学んだ授業内容の復習をします。各回に出される課題は必ず提出する。グループ発表への参加と期末レポートの提出は必須。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援パンフレットや配布プリントや図書館パンフレット等の資料を使用します。

【参考書】

必要に応じて、そのつど教員が指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、レポート、授業内発表、小テスト）から到達目標欄に記載した3点を総合的に評価します〔授業参加状況 30%、授業内提出物・発表 70%〕。

【学生の意見等からの気づき】

学生の能動的学習の要素をより充実させていくようにします。

【その他の重要事項】

*英文学科1年生は必ず履修してください。

*コロナの状況によっては授業形態が変更になる可能性があります。

【Outline (in English)】

"Basic seminar" introduces first year students to college education at Hosei University. The course is designed to help students transition from high school to college, from passive learning to active learning. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. They are also required to participate in group presentations and submit final papers. Grades will be determined based on participation (30%) and in-class assignments / presentations (70%).

BSP100BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミ I（文・英文）

小澤 央

授業コード：A3097 | 曜日・時限：金3/Fri.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年

備考（履修条件等）：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「基礎ゼミ」は、大学における1年次の導入科目です。高校までの学習と大学での学習の違いを理解してもらい、ノートの取り方、プレゼンテーションの仕方、レポート（essay）の書き方、資料の集め方などを教授することで、法政大学において、皆さんが効率よく学ぶ手助けをするのがこの授業の目的です。これらの基礎的な知識や技術を早く身につけられるように、多岐にわたるテーマを春学期の1セメスターで完結させるように工夫がなされています。

【到達目標】

この授業を履修することで、学生は
・高校までの受け身学習ではなく、大学生として能動的に学ぶことの重要性を認識し、学生生活の基盤を築くことができる。
・大学での学習に必要な基本的技術——ノートをとる技術、質問する技術、資料を読解する技術、資料を要約する技術、レポートを書く技術、プレゼンテーションする技術など——を習得することができる。
・社会人になる前に、どのような能力を身につけておくべきか、そしてそのためにどのような学習が必要なのかを学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

1年次の学生全員を4クラスに編成します。演習科目（ゼミナール）ですので、教員の講義に加えて学生による授業参加やプレゼンテーションも組み合わせた授業を行います。制度上、必修単位には組み込まれていませんが、これから大学で様々な授業を受ける際の前提となる内容ですので、英文学科1年生は全員履修してください。

4クラスに分け、各クラスを金曜の1限、2限、3限のいずれかに配置します。クラス分けについては、新入生オリエンテーション時に発表し、その後、Web掲示板に名簿を掲示します。クラスによって時限・教室・授業コードが異なるので、必ず履修登録前に自分の所属クラスを確認してください。

各回の授業後に受講生からの質問を受け付け、主要なものについて次回授業の最初にフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Study at Hosei and Introduction	ガイダンス：法政大学での学びの方法
第2回	Note Taking	講義ノートの取り方
第3回	Library Tour	図書館の使い方
第4回	Text Reading	文献の読み方と文献調査体験
第5回	Academic Writing 1	レポートの書き方 - 学術的文章を書くこと
第6回	Academic Writing 2	アウトラインの作成 - グループ・ワークの試み
第7回	Academic Writing 3	注と文献表の作成 - 他人の文章を引用するルール
第8回	Critical Thinking 1	テーマを立てるということ
第9回	Critical Thinking 2	問題設定の仕方と論旨の展開
第10回	Summarizing	要約の仕方とグループ発表の準備
第11回	Presentations 1	プレゼンテーションの仕方
第12回	Presentations 2: Group Presentations, 第1回目	グループによる調査・発表1
第13回	Presentations 3: Group Presentations, 第2回目	グループによる調査・発表2
第14回	Presentations 4: Group Presentations, 第3回目	グループによる調査・発表3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業ごとに、その日に学んだ授業内容の復習をします。各回に出される課題は必ず提出する。グループ発表への参加と期末レポートの提出は必須。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援パンフレットや配布プリントや図書館パンフレット等の資料を使用します。

【参考書】

必要に応じて、そのつど教員が指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、レポート、授業内発表、小テスト）から到達目標欄に記載した3点を総合的に評価します【授業参加状況 30%、授業内提出物・発表 70%】。

【学生の意見等からの気づき】

学生の能動的学習の要素をより充実させていく。

【その他の重要事項】

*英文学科1年生は必ず履修してください。

*コロナの状況によっては授業形態が変更になる可能性があります。

【Outline (in English)】

"Basic seminar" introduces first year students to college education at Hosei University. The course is designed to help students transition from high school to college, from passive learning to active learning. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. They are also required to participate in group presentations and submit final papers. Grades will be determined based on participation (30%) and in-class assignments / presentations (70%).

BSP100BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミ I（文・英文）

波戸岡 景太

授業コード：A3098 | 曜日・時限：金2/Fri.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年

備考（履修条件等）：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「基礎ゼミ」は、大学における1年次の導入科目です。高校までの学習と大学での学習の違いを理解してもらい、ノートの取り方、プレゼンテーションの仕方、レポート（essay）の書き方、資料の集め方などを教授することで、法政大学において、皆さんが効率よく学ぶ手助けをするのがこの授業の目的です。これらの基礎的な知識や技術を早く身につけられるように、多岐にわたるテーマを春学期の1セメスターで完結させるように工夫がなされています。

【到達目標】

この授業を履修することで、学生は
・高校までの受け身学習ではなく、大学生として能動的に学ぶことの重要性を認識し、学生生活の基盤を築くことができる。
・大学での学習に必要な基本的技術——ノートをとる技術、質問する技術、資料を読解する技術、資料を要約する技術、レポートを書く技術、プレゼンテーションする技術など——を習得することができる。
・社会人になる前に、どのような能力を身につけておくべきか、そしてそのためにどのような学習が必要なのかを学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

1年次の学生全員を4クラスに編成します。演習科目（ゼミナール）ですので、教員の講義に加えて学生による授業参加やプレゼンテーションも組み合わせた授業を行います。制度上、必修単位には組み込まれていませんが、これから大学で様々な授業を受ける際の前提となる内容ですので、英文学科1年生は全員履修してください。

4クラスに分け、各クラスを金曜の1限、2限、3限のいずれかに配置します。クラス分けについては、新入生オリエンテーション時に発表し、その後、Web掲示板に名簿を掲示します。クラスによって時限・教室・授業コードが異なるので、必ず履修登録前に自分の所属クラスを確認してください。各回の授業後に受講生からの質問を受け付け、主要なものについて次回授業の最初にフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Study at Hosei and Introduction	ガイダンス：法政大学での学びの方法
第2回	Note Taking	講義ノートの取り方
第3回	Library Tour	図書館の使い方（他クラスとの関係により実施回が前後します）
第4回	Text Reading	文献の読み方と文献調査体験
第5回	Academic Writing 1	レポートの書き方 - 学術的文章を書くこと
第6回	Academic Writing 2	アウトラインの作成 - グループワークの試み
第7回	Academic Writing 3	注と文献表の作成 - 他人の文章を引用するルール
第8回	Critical Thinking 1	テーマを立てるということ
第9回	Critical Thinking 2	問題設定の仕方と論旨の展開
第10回	Summarizing	要約の仕方とグループ発表の準備
第11回	Presentations 1	プレゼンテーションの仕方
第12回	Presentations 2: Group Presentations, 第1回目	グループによる調査・発表1
第13回	Presentations 3: Group Presentations, 第2回目	グループによる調査・発表2
第14回	Presentations 4: Group Presentations, 第3回目	グループによる調査・発表3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業ごとに、その日に学んだ授業内容の復習をします。指定された課題は必ず提出してください。グループ発表への参加と期末レポートの提出は必須です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援パンフレットや配布プリントや図書館パンフレット等の資料を使用します。

【参考書】

必要に応じて、そのつど教員が指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、レポート、授業内発表、小テスト）から到達目標欄に記載した3点を総合的に評価します〔授業参加状況 30%、授業内提出物・発表 70%〕。

【学生の意見等からの気づき】

学生の能動的学習の要素をより充実させていく。

【その他の重要事項】

*英文学科1年生は必ず履修してください。

*コロナの状況によっては授業形態が変更になる可能性があります。

【Outline (in English)】

"Basic seminar" introduces first year students to college education at Hosei University. The course is designed to help students transition from high school to college, from passive learning to active learning. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. They are also required to participate in group presentations and submit final papers. Grades will be determined based on participation (30%) and in-class assignments / presentations (70%).

BSP100BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミ I（文・英文）

田中 裕希

授業コード：A3099 | 曜日・時限：金3/Fri.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年

備考（履修条件等）：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「基礎ゼミ」は、大学における1年次の導入科目です。高校までの学習と大学での学習の違いを理解してもらい、ノートの取り方、プレゼンテーションの仕方、レポート（essay）の書き方、資料の集め方などを教授することで、法政大学において、皆さんが効率よく学ぶ手助けをするのがこの授業の目的です。これらの基礎的な知識や技術を早く身につけられるように、多岐にわたるテーマを春学期の1セメスターで完結させるように工夫がなされています。

【到達目標】

到達目標

この授業を履修することで、学生は

- ・高校までの受け身学習ではなく、大学生として能動的に学ぶことの重要性を認識し、学生生活の基盤を築くことができる。
- ・大学での学習に必要な基本的技術——ノートをとる技術、質問する技術、資料を読解する技術、資料を要約する技術、レポートを書く技術、プレゼンテーションする技術など——を習得することができる。
- ・社会人になる前に、どのような能力を身につけておくべきか、そしてそのためにどのような学習が必要なのかを学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

1年次の学生全員を4クラスに編成します。演習科目（ゼミナール）ですので、教員の講義に加えて学生による授業参加やプレゼンテーションも組み合わせた授業を行います。制度上、必修単位には組み込まれていませんが、これから大学で様々な授業を受ける際の前提となる内容ですので、英文学科1年生は全員履修してください。

4クラスに分け、各クラスを金曜の1限、2限、3限のいずれかに配置します。クラス分けについては、新入生オリエンテーション時に発表し、その後、Web掲示板に名簿を掲示します。クラスによって時限・教室・授業コードが異なるので、必ず履修登録前に自分の所属クラスを確認してください。各回の授業後に受講生からの質問を受け付け、主要なものについて次回授業の最初にフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Study at Hosei and Introduction	ガイダンス：法政大学での学びの方法
第2回	Note Taking	講義ノートの取り方
第3回	Library Tour	図書館の使い方
第4回	Text Reading	文献の読み方と文献調査体験
第5回	Academic Writing 1	レポートの書き方 - 学術的文章を書くこと
第6回	Academic Writing 2	アウトラインの作成 - グループワークの試み
第7回	Academic Writing 3	注と文献表の作成 - 他人の文章を引用するルール
第8回	Critical Thinking 1	テーマを立てるということ
第9回	Critical Thinking 2	問題設定の仕方と論旨の展開
第10回	Summarizing	要約の仕方とグループ発表の準備
第11回	Presentations 1	プレゼンテーションの仕方
第12回	Presentations 2: Group Presentations, 第1回目	グループによる調査・発表1
第13回	Presentations 3: Group Presentations, 第2回目	グループによる調査・発表2
第14回	Presentations 4: Group Presentations, 第3回目	グループによる調査・発表3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業ごとに、その日に学んだ授業内容の復習をします。各回に出される課題は必ず提出する。グループ発表への参加と期末レポートの提出は必須。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援パンフレットや配布プリントや図書館パンフレット等の資料を使用します。

【参考書】

必要に応じて、そのつど教員が指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、レポート、授業内発表、小テスト）から到達目標欄に記載した3点を総合的に評価します [授業参加状況 30%, 授業内提出物・発表 70%]。

【学生の意見等からの気づき】

学生の能動的学習の要素をより充実させていく。

【その他の重要事項】

*英文学科1年生は必ず履修してください。

*コロナの状況によっては授業形態が変更になる可能性があります。

【Outline (in English)】

"Basic seminar" introduces first year students to college education at Hosei University. The course is designed to help students transition from high school to college, from passive learning to active learning. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. They are also required to participate in group presentations and submit final papers. Grades will be determined based on participation (30%) and in-class assignments / presentations (70%).

HIS100BE（史学 / History 100）

日本史概説Ⅰ

小倉 淳一

授業コード：A3101 | 曜日・時限：水1/Wed.1
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

旧石器時代から古墳時代までの概要を学ぶ。
日本史の基盤となる原始・古代の人間集団の動向を掴み、自己の研究基盤形成の基礎とすることを目標とする。
歴史学・考古学の研究を行う上で、歴史的事実とその解釈について理解する。

【到達目標】

考古学的な成果に基づき、各時代における文化的な特色を説明することができる。
各時代の人々の自然環境・社会環境への対応について検討することができる。
旧石器時代から古墳時代までの人間集団のありかたについて説明することができるとともに、それらを比較検討することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

日本列島において人類が活動を開始した旧石器時代から、狩猟・採集経済に生活の基礎がおかれた縄文時代、大陸型の水稲耕作が広く行われる弥生時代、前方後円墳が営まれ政治権力が広範囲に発達してゆく古墳時代までの展開について、考古学資料を中心として学ぶ。列島の原始・古代像を考えるための基礎となる授業と位置づけたい。
授業方法は講義形式による。受講者は必ず自分のノートを作成すること。プリントも併用する。
質問やリアクションペーパーへのフィードバックについては授業内を行うかオフィス・アワー（月曜5限）で対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概要説明	授業の概要と方法・評価基準
第2回	旧石器時代の姿	人類の進化と旧石器文化の概要
第3回	日本の旧石器文化	日本列島における旧石器文化の概要
第4回	旧石器時代から縄文時代へ	旧石器時代後期の石器から土器の登場まで
第5回	縄文時代の生業	採集・狩猟文化の概要
第6回	縄文時代の社会	集落や墓からみる縄文時代の社会構造
第7回	縄文時代から弥生時代へ	縄文時代の終焉と新文化の形成
第8回	稲作の開始	稲作農耕技術の姿と主体者
第9回	弥生農村の姿	環濠集落と集団関係
第10回	金属器の普及とその意義	青銅器を中心とする儀器・祭器のありかた
第11回	弥生墓制と社会の特質	地域的な墓制の展開と地方間の関係
第12回	前方後円墳の成立と波及	弥生墳丘墓から古墳への変化と社会
第13回	古墳時代中期の政治と外交	中期古墳の特徴とヤマト王権の変質
第14回	古墳時代の終焉	後期古墳の特徴および古墳の消滅

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献を読み、旧石器時代から古墳時代にかけての理解を深めておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。ただし、参考書として掲げたもののうち、新書等は非常に読みやすいので、十分に活用すること。

【参考書】

日本列島を中心とした旧石器時代から古墳時代にかけての概説書を読んでおくこと。通史のシリーズなどに触れ、各時代の特色を理解すべきである。このほかの文献については授業内で紹介する。
吉田晶（1998）『新日本新書 490 倭王権の時代』新日本出版社
今村啓爾（1999）『歴史文化ライブラリー 76 縄文の実像を求めて』吉川弘文館
白石太郎編（2002）『日本の時代史 1 倭国誕生』吉川弘文館
鈴木靖民編（2002）『日本の時代史 2 倭国と東アジア』吉川弘文館
石川日出志（2010）『農耕社会の成立 シリーズ日本古代史1』岩波新書
吉村武彦（2010）『ヤマト王権 シリーズ日本古代史2』岩波新書
佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ

【成績評価の方法と基準】

期末に論述式の筆記試験を行う（参照不可）。授業内にも小テストを実施することがある。試験は成績評価の70%とする。平常点は成績評価の30%とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業外に取り組む学習が成績に結びつくことを理解してほしい。参考書類を事前に読んで授業に臨むことで理解度も高まり、試験にも余裕を持って臨むことが可能となる。
高校までの授業形態を意識した講義形式で授業を進めるので、聴く力、まとめる力を十分に発揮し、考える力を伸ばしてほしい。

【その他の重要事項】

※担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく歴史展開を中心に講義する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn about Japan from the Paleolithic Age to the Kofun period.
Students will be able to describe the cultural characteristics of each period based on archaeological materials.
Students will be able to examine how people in each period responded to their natural and social environments.
Students will be able to explain and compare the characteristics of human groups from the Paleolithic to the Kofun period.
The standard preparation and review time by students is 2 hours each.
The final grade will be calculated based on the final exam (70%) and normal score (30%).

HIS100BE（史学 / History 100）

日本史概説Ⅱ

大塚 紀弘

授業コード：A3102 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際的な視点から日本中世前期の社会や国家に対する理解を深めるため、地理感覚や中国との貿易による経済的な関係を題材に学ぶ。武家などの政治権力の関与もふまえつつ、貿易に伴う社会の変化に力点を置いて説明する。あわせて、史料を読解して史実を追跡し、歴史像を描くという、歴史学の方法に親しむことを目的とする。

【到達目標】

平安時代後期から鎌倉時代の地理感覚や中国との経済的関係の実態について総体的に把握することができる。また、中国との経済的関係が日本中世社会の形成・展開に及ぼした影響について理解することができる。中世史料の日本漢文を正しく読解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

7章構成とし、講義形式で進める。配布プリントとパワーポイントを併用して解説する。配布プリントとパワーポイントの文面は、事前に章ごとに「学習支援システム」にアップロードする（印刷プリントは配布しない）。章ごとに計7回の小テストを実施する。小テストは、「学習支援システム」から授業日の翌日までに提出すること。小テストに記入された疑問点については、次の授業で回答する（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	東アジアの中の日本 中世史（1）	履修のガイダンス
第2回	東アジアの中の日本 中世史（2）	日本中世史の特質
第3回	東アジアの中の日本 中世史（3）	日本中世史の特質（小テスト1）
第4回	中世の国土観と境界 地域（1）	西南・東北の境界地域と鎌倉幕府
第5回	中世の国土観と境界 地域（2）	西南・東北の境界地域と鎌倉幕府（小テスト2）
第6回	唐船の往来と博多綱 首（1）	貿易船の形態と博多の貿易集団
第7回	唐船の往来と博多綱 首（2）	貿易船の形態と博多の貿易集団（小テスト3）
第8回	唐船貿易の構造（1）	京都貴族の唐物嗜好と日宋貿易の構造
第9回	唐船貿易の構造（2）	京都貴族の唐物嗜好と日宋貿易の構造（小テスト4）
第10回	平氏政権と唐船貿易 （1）	平清盛の外交・貿易政策
第11回	平氏政権と唐船貿易 （2）	平清盛の外交・貿易政策（小テスト5）
第12回	銅銭の輸入と流通 （1）	渡来銭の流通と社会の変化
第13回	銅銭の輸入と流通 （2）	渡来銭の流通と社会の変化（小テスト6）
第14回	鎌倉幕府と唐船貿易	モンゴル襲来以前の貿易形態

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「学習支援システム」の「教材」にアップロードされた配布プリントとパワーポイントの文面を基に予習する。授業時間内に提出できなかった小テストに取り組む。プリント、ノート等を用いて復習し、授業時に紹介する参考文献を可能な限り読む。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。章ごとにプリント（PDFファイル）を配布する。

【参考書】

村井章介『増補中世日本の内と外』（筑摩書房、2013年、初版1999年）
榎本渉『僧侶と海商たちの東アジア』（講談社、2010年）
石井正敏『NHKさかのぼり日本史外交篇8鎌倉 「武家外交」の誕生』（NHK出版、2013年）
山内晋次『NHKさかのぼり日本史外交篇9平安・奈良 外交から貿易への大転換』（NHK出版、2013年）
大塚紀弘『日宋貿易と仏教文化』（吉川弘文館、2017年）
村井章介・荒野泰典編『新体系日本史5 対外交流史』（山川出版社、2021年）
その他は、授業の際、各章ごとに指示する。

【成績評価の方法と基準】

小テストの合計点数100%で評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

小テストの問題と採点を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」を利用し、事前に「教材」から配布プリントをダウンロードすること。また、「学習支援システム」から期限内に小テストを提出すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students learn historical research methods of reading historical materials. The goals of this course are to pursue historical facts, and drawing historical images. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Short reports : 100%.

HIS100BE（史学 / History 100）

日本史概説Ⅲ

中山 学

授業コード：A3103 | 曜日・時限：水2/Wed.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目では、近世日本の特徴を考えさせる基本史料の解説を通じて、16世紀末から19世紀半ばにかかる約260年間の日本における国家と社会の様相、及び変容の過程について知識を共有する。

【到達目標】

日本近世の国家及び社会の様相とその変容について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義である。

毎回学習内容を整理したノート（学習ノート）の提出を求め、翌週授業のはじめに理解不足の点を共有し、解決につなげる。

なお、学習ノートの提出方法は履修ガイダンスで案内する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	履修ガイダンス	授業のすすめ方、成績評価の方法等
第2回	中・近世移行期の国家と社会	公儀権力の形成
第3回	17世紀の国家と社会1	兵農分離
第4回	17世紀の国家と社会2	自力救済への希求とその行方
第5回	17世紀の国家と社会3	境界管理と集中
第6回	17世紀の国家と社会4	全国市場の形成
第7回	18世紀の国家と社会1	享保改革
第8回	18世紀の国家と社会2	文字による支配
第9回	18世紀の国家と社会3	田沼意次と松平定信
第10回	19世紀の国家と社会1	蝦夷地への進出
第11回	19世紀の国家と社会2	天保改革
第12回	19世紀の国家と社会3	黒船と虎列刺
第13回	19世紀の国家と社会4	体制転換
第14回	学習成果の確認	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・学習支援システムを介して配布する教材（史料）の事前通読（2時間）

・受講後の復習（2時間）

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。毎回、教材となる史料を配布する。

【参考書】

藤井譲治ほか『シリーズ日本近世史』1～5（岩波新書）

その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学習ノートの提出ほか（50％）、期末試験（論述式、50％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用するので、パソコンを必要とする。

【Outline (in English)】

In this course, we will share knowledge about the state and society in Japan over the approximately 260 years from the end of the 16th century to the mid-19th century, and the process of transformation, through explanations of basic historical materials that will make you think about the characteristics of early modern Japan.

HIS100BE（史学 / History 100）

日本史概説Ⅳ

内藤 一成

授業コード：A3104 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

明治維新から昭和の終わりまで、日本近現代史を概観する。政治、経済、外交をめぐる主要な出来事だけでなく、庶民の暮らしや、都市や農村の文化など、さまざまな側面に注目しながら多面的かつ重層的に論じることで、歴史に対する理解を深めていく。

【到達目標】

①日本史についての基本的な流れを理解する。②歴史を暗記中心でなく、各時代を生きた人々の哀歓に思いを寄せながら思考できるようになる。③歴史的な視点をもつ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式をとり、板書とパワーポイントを併用する。適宜、史料等を配布し、参照する。授業の理解度を確認するため、小テストやレポートを課す場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義に関する全体の説明、注意点など
第2回	幕末	幕末の政治と社会について
第3回	明治（1） 復古と革新	明治維新と新政府の近代化政策について
第4回	明治（2） 近代化と世相	近代国家の建設をめぐる地域や人びとについて
第5回	明治（3） 立憲国家の創設	憲法制定をめぐる政府や民間の葛藤について
第6回	明治（4） 日清・日露戦争	明治国家が経験した二つの対外戦争について
第7回	明治（5） 「一等国」の栄光と不安	日露戦争後の政治と社会について
第8回	大正（1） 大正「デモクラシー」	第一次世界大戦後の政治と社会について
第9回	大正（2） 政党政治の光と影	大正後半から昭和前期にかけて展開された政党政治について
第10回	昭和（1） 世界大恐慌と激動する国際関係	恐慌と満州事変をめぐる国際関係の変化について
第11回	昭和（2） 戦争と人びと	盧溝橋事件から第二次世界大戦の終結まで
第12回	昭和（3） 戦後復興から高度成長へ	戦後政治のあゆみと経済復興について
第13回	昭和（4） 時代としての「戦後」	戦後日本社会の形成と展開について
第14回	まとめ 総括と質疑応答	講義全体のまとめ、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布するプリントには必ず目を通しておく、授業後には内容をよく確認し、指示のあった文献や資料に目を通しておく。本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。参照が必要なテキストがある場合には、適宜指示する。

【参考書】

『日本政治史』（有斐閣）、『シリーズ 日本近現代史』全10巻（岩波新書）、『現代日本政治史』全5巻（吉川弘文館）※高校時代に使用した日本史の教科書を折に触れ読み返し、予習復習に役立ててもらいたい。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）、期末試験（60％）をもとに総合的に評価する。期末試験はノート持ち込み可。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合、あるいは期末試験を受けない場合には不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

クエスチョンタイムに相当する時間を適宜設けるなどして、授業理解が得られるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムが利用できる IT 機器

【その他の重要事項】

・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。
・授業に関連する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」サイトや、「授業内掲示板」サイトを利用して行うので、見落とさないようにすること。
・担当教員への直接連絡にはメールを利用すること。担当教員のメールアドレスは、学習支援システムに掲示する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course gives an overview of modern Japanese history from the Meiji Restoration to the end of the Showa era. I will focus not only on the main issues related to politics, economy, and diplomacy, but also on various aspects such as the lives of ordinary people and the culture of cities and rural areas. The purpose of this course is to deepen the understanding of history.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to understand the historical transition of Japan.

(Learning activities outside of classroom)

Students should read the text distributed in advance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

HIS100BE（史学 / History 100）

東洋史概説Ⅰ

塩沢 裕仁

授業コード：A3105 | 曜日・時限：金3/Fri.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在の東アジア地域は経済や文化など多方面で飛躍的な発展を遂げ、今後世界の中で非常に重要な存在となっていくのは確実です。それ故に、アジアを如何に認識するかは我々にとって重要かつ急務な問題といえますが、実際のところアジアという地域の歴史、地理、民族などに対する知識が十分であるとはいえません。

当授業では東アジアにおける文明の発生から前漢の崩壊までの王朝の歴史や地域空間の変化を講じます。初めて東洋史を学ぶ学生にも、東洋史を学ぶことの意義を理解してもらいたいと思います。

【到達目標】

文献史料や近年増大する考古学の成果などを踏まえ、時間的・空間的に地域相をとらえながら、東アジア世界に対する研究の現状と問題点への理解を深めることができます。また、東アジアという地域に対して、これまでとは違ったものの見方、考え方、接し方、ひいては新たな歴史認識ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

遺蹟の残存・保護状況ならびに研究調査の状況、様々な文物に対する見方などを交えながら、東アジアで今後問題となりうる民族と地域を基軸とし“覚える歴史”ではなく“考える歴史”を講じていきたいと考えています。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	東洋史の意義	現在の東アジア状況
第2回	東アジアの空間構成	東アジアの地域区分
第3回	文明とは	一元論と多元論
第4回	新石器時代の意義	新石器の集落展開
第5回	草創期の国家とは	王朝の誕生
第6回	邑制国家論	殷王朝の意義
第7回	封建国家とは	周と封建制度
第8回	地域観の成立	春秋時代の諸問題
第9回	分裂期の意義	戦国時代の諸問題
第10回	領域国家とは	都市国家と秦統一前史
第11回	統一国家とは	秦の統一と諸改革
第12回	漢帝国成立の意義	漢の登場とその性格
第13回	漢帝国拡大の影響	漢帝国の拡大と変容
第14回	秦漢代の社会	秦漢代の社会と民衆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

東洋史を勉強するのがはじめてという学生が大多数です。それゆえに、歴史事項だけでなく地理情報も講義を理解する上で不可欠な内容となります。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。事前に示したキーワードの理解ができていることを前提に講義をします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。適宜教材としてプリントを配布します。

【参考書】

参考文献については逐次紹介しますが、基本的なものとして『中国の歴史 上（古代－中世）・下（近代－近現代）』（愛宕元・富谷至、昭和堂、2009年改訂版）、『東アジア史入門』（布目潮風・山田信夫著、法律文化社、1995年版）、『ビジュアル版世界の歴史5、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史8、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985年）などに目を通していただきたいと思います。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%。

あらかじめ授業内で課題を提示しますので、自らの考えを示せるよう、平素より講義内容を整理しておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

継続的な学習が原則ですので、欠席した場合には当該授業の内容について友人などを通じて情報を得て整理しておくようにしてください。整理の中で生じた質問には応じます。

【その他の重要事項】

質問は当該授業の内容にかぎって授業終了後に受け付けます。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 On studying Chinese History and Customs change with the times from the beginning of civilization to the collapse of West Han-Dynasty, we will be able to understand importance of study on Oriental History.

【Learning activities outside of classroom】 Need two hours in a day.

【Grading Criteria /Policy】 Based on written test 100 percent.

HIS100BE（史学 / History 100）

東洋史概説Ⅱ

塩沢 裕仁

授業コード：A3106 | 曜日・時限：金3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在の東アジア地域は経済や文化など多方面で飛躍的な発展を遂げ、今後世界の中で非常に重要な存在となっていくのは確実です。それ故に、アジアを如何に認識するかは我々にとって重要かつ急務な問題といえますが、実際のところアジアという地域の歴史、地理、民族などに対する知識が十分であるとはいえません。

当授業では春学期（東洋史概説Ⅰ）の内容を踏まえ、後漢より三国、魏晋南北朝、隋の成立までの東アジア地域の歴史を講じます。東アジア地域の農耕・遊牧民族の性格や仏教文化などを再認識する場にしたいと考えています。

【到達目標】

文献史料や近年増大する考古学の成果などを踏まえ、時間的・空間的に地域相をとらえながら、東アジア世界に対する研究の現状と問題点への理解を深めることができます。また、東アジアという地域に対して、これまでとは違ったものの見方、考え方、接し方、ひいては新たな歴史認識ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

遺蹟の残存・保護状況ならびに研究調査の状況、様々な文物に対する見方などを交えながら、東アジアで今後問題となりうる民族と地域を基軸とし”覚える歴史”ではなく“考える歴史”を講じていきたいと考えています。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	後漢王朝の性格	豪族社会と太学
第2回	曹操が構築したもの	曹操政権の性格
第3回	新時代の支配層とは	三国志の興亡と遊牧民族の登場
第4回	遊牧民族国家の意義	五胡十六国の興亡
第5回	鮮卑勃興と千年帝国論	北魏帝国の成立と変容
第6回	仏教の興隆	雲崗と龍門
第7回	隋唐時代への流れⅠ	北魏の分裂
第8回	隋唐時代への流れⅡ	隋の成立
第9回	江南王朝の意義	南朝諸王朝の興亡
第10回	貴族制の限界	南朝貴族制の変容
第11回	稀代の都建康	江南文化の熟成
第12回	隋の煬帝	大運河経済
第13回	唐の成立	唐王朝の性格
第14回	唐王朝の変容	則天武后から玄宗へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

東洋史を勉強するのがはじめてという学生が大多数です。それゆえに、歴史事項だけでなく地理情報も講義を理解する上に不可欠な内容となります。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。事前に示したキーワードの理解ができていることを前提に講義をします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。適宜教材としてプリントを配布します。

【参考書】

参考文献については逐次紹介しますが、基本的なものとして『中国の歴史 上（古代・中世）・下（近代・近現代）』（愛宕元・富谷至、昭和堂、2009年改訂版）、『東アジア史入門』（布目潮渾・山田信夫著、法律文化社、1995年版）、『ビジュアル版世界の歴史5、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史8、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985年）などに目を通していただきたいと思います。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

あらかじめ授業内で課題を提示しますので、自らの考えを示せるよう、平素より講義内容を整理しておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

継続的な学習が原則ですので、欠席した場合には当該授業の内容について友人などを通じて情報を得て整理しておくようにしてください。整理の中で生じた質問には応じます。

【その他の重要事項】

質問は当該授業の内容にかぎって授業終了後に受け付けます。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 On studying the Chinese History and the Customs change with the times from East Han-Dynasty to the birth of Sui-Dynasty, we will be able to understand the difference between Agricultural and Nomadic cultures and realize the Buddhist culture.

【Learning activities outside of classroom】 Need two hours in a day.

【Grading Criteria /Policy】 Based on written test 100 percent.

HIS100BE（史学 / History 100）

東洋史概説Ⅲ

高井 康行

授業コード：A3107 | 曜日・時限：木5/Thu.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

豊富な歴史資料を有する中国を基軸として東アジア世界の形成の歴史過程を学習し、日本の制度や文化と深い関係をもつ東アジア諸国家に対する認識を深めていく。特に、日本と中国の交流史を通して、中国および世界の人々への関心を深め、国際社会の一員としての自覚と資質を培っていく。唐後半期から金・南宋初期までの中国の歴史を国家の興亡と国際関係をテーマに見ていく。唐が築いた体制がどのように後世に継承あるいは変化していったのかについて、政治・財政・法制・軍政・農業・文化・対外関係などの視点から変遷過程を学んでいく。同時に日中関係史も学び、中国史から現在の日本社会を再考していく。

【到達目標】

中国史の流れをつかみ、史実を生み出した要因と背景、それによる影響と発展、さらには周辺国との相互影響と国際関係について理解する。また具体的事例を通して、文献史料だけでなく文物・遺構・古地図などを併用した研究の方法、分析および考察について実践的テクニックを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。

授業ではパワーポイントで概要を説明するので、各自ノートに必要事項を記入し、説明を記録する。文献・地図・写真・絵・表などの資料を多用し、その活用の仕方を学ぶ。質問に関しては授業中随時受け付け、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義の概要	授業の進め方、歴史研究の意義
第2回	唐と周辺地域 1	高句麗・新羅・日本・突厥との関係
第3回	唐朝の危機と再建	安史の乱から徳宗の治世へ
第4回	唐の衰亡	牛李党争から黄巢の乱へ
第5回	唐と周辺諸地域 2	鞏固支配、節度使、ウイグル・吐蕃との関係
第6回	唐宋変革の過渡期	五代中原王朝と十国の興亡
第7回	宋による中国再統一	節度使体制の解体と北宋の政治
第8回	契丹〔遼〕の建国	所謂「征服王朝」の統治の特徴
第9回	澶淵体制	澶淵の盟を画期とした新たな国際秩序
第10回	党派の争い	王安石と司馬光
第11回	科举社会の成立	北宋における科举制度の整備
第12回	宋の経済と海外貿易	南海・日宋貿易
第13回	金の建国	契丹〔遼〕・北宋の滅亡と金の勃興
第14回	試験とまとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に資料・論文等を配布もしくは指示するので、それを読んでおく。授業内で質疑応答により確認をし、理解度を高める。授業後は、各自参考書等により補足する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。プリントを配布する。

【参考書】

富谷至・森田憲司『概説 中国史（上）』昭和堂、2016年
富谷至・森田憲司『概説 中国史（下）』昭和堂、2016年
愛宕元・富谷至編『中国の歴史 上・下』昭和堂、2009年改訂版
『中国の歴史（全集叢書）』6～8巻、講談社、2005年
その他、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(30%)と筆記試験（70%、事前に問題を知らせる）

【学生の意見等からの気づき】

学生にわかりやすい授業を心掛けるが、書き写すだけでなく、考えていく姿勢を求める。また、授業内での教師の質問にも積極的に答えてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

色鉛筆、マーカーなど。

【その他の重要事項】

履修希望者は第1回目の授業に出席し、ガイダンスを理解した上で履修すること。

【Outline (in English)】

This course introduces an understanding of Chinese history (from Late Tang to Early Jin and Southern Song Periods) in respect to international relations with other countries. The aim of this course is to help students acquire historical changes in politics, economy, organization, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand the flow of Chinese history, the factors and backgrounds that created the historical facts, their influence and development, and the mutual influence and international relations with the surrounding areas.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each class meeting (30%) and term-end Examination (70%)

HIS100BE（史学 / History 100）

東洋史概説Ⅳ

高井 康行

授業コード：A3108 | 曜日・時限：木5/Thu.5
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

豊富な歴史資料を有する中国を基軸として東アジア世界の形成の歴史過程を学習し、日本の制度や文化と深い関係をもつ東アジア諸国家に対する認識を深めていく。特に、日本と中国の交流史を通して、中国および世界の人々への関心を深め、国際社会の一員としての自覚と資質を培っていく。金・南宋から清までの中国の歴史を国家の興亡と国際関係をテーマに見ていく。征服王朝と漢族の関係を軸に体制がどのように後世に継承されあるいは影響を与えたか、政治・財政・法制・軍政・農業・文化・対外関係などの視点から変遷過程を学んでいく。同時に欧米及び日本との関係史も学び、中国史から現在の日本社会を再考していく。

【到達目標】

中国史の流れをつかみ、史実を生み出した要因と背景、それによる影響と発展、さらには周辺国との相互影響と国際関係について理解する。また具体的事例を通して、文献史料だけでなく文物・遺構・古地図などを併用した研究の方法、分析および考察について実践的テクニックを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。

授業ではパワーポイントで概要を説明するので、各自ノートに必要事項を記入し、説明を記録する。文献・地図・写真・絵・表などの資料を多用し、その活用の仕方を学ぶ。学生からの質問に関しては授業中随時受け付け、学習内容に対するフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義の概要	授業の進め方 歴史と日常生活
第2回	金と南宋	華北と華南の社会・文化
第3回	金・南宋の学術と文化	発明と国外への伝播
第4回	南宋の滅亡とモンゴルの統一	金・モンゴルとの関係
第5回	元の繁栄と衰亡	多民族国家の政治と文化
第6回	明の成立と安定	皇帝独裁政治と靖難の変
第7回	アジアの中の明帝国	海禁から永楽帝の中華世界
第8回	北虜南倭の時代	長城と南海貿易
第9回	明の斜陽	中央政権の弱体化と北京落城
第10回	満洲族の中国統一	満洲国の樹立から北京遷都へ
第11回	清の全盛と華夷思想	康熙帝から乾隆帝へ
第12回	ヨーロッパの進出と戦乱	アヘン戦争から義和団事件へ
第13回	清の文化	中国の伝統とヨーロッパの科学
第14回	試験とまとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に資料・論文等を配布もしくは指示するので、それを読んでおく。授業内で質疑応答により確認をし、理解度を高める。授業後は、各自参考書等により補足する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。レジュメを事前に配布するので各自印刷しておくこと。

【参考書】

富谷至・森田憲司『概説 中国史（上）』昭和堂、2016年
富谷至・森田憲司『概説 中国史（下）』昭和堂、2016年
愛宕元・富谷至編『中国の歴史 上・下』昭和堂、2009年改訂版
『中国の歴史（全集叢書）』7～10巻、講談社、2005年
その他、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(30%)と試験 (70%、事前に問題を知らせる)

【学生の意見等からの気づき】

学生にわかりやすい授業を心掛けるが、書き写すだけでなく、考えていく姿勢を求める。また、授業内での教師の質問にも積極的に答えてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

色鉛筆、マーカーなど。

【その他の重要事項】

履修希望者は第1回目の授業に出席し、ガイダンスを理解した上で履修すること。

【Outline (in English)】

This course introduces an understanding of Chinese history (from Jin and Southern Song to Qing Periods) in respect to international relations with other countries. The aim of this course is to help students acquire historical changes in politics, economy, organization, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand the flow of Chinese history, the factors and backgrounds that created the historical facts, their influence and development, and the mutual influence and international relations with the surrounding areas.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each class meeting (30%) and term-end examination(70%).

HIS100BE（史学 / History 100）

西洋史概説Ⅰ

内田 康太

授業コード：A3109 | 曜日・時限：金4/Fri.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メソポタミア文明とエジプト文明の誕生からローマによる統一に至るまでの地中海を取り巻く世界の歴史を概説し、古代地中海世界という歴史世界が形成されていく過程を学ぶ。

【到達目標】

到達目標は以下のとおり。

- ・古代オリエント世界、古代ギリシア世界、ヘレニズム世界それぞれの歴史に関する基礎的知識を習得する。
- ・それぞれの世界が相互に関連して古代地中海世界を作り上げていく経緯を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行うが、授業時間内に質疑応答の機会を設ける。さらに、授業終了後に毎回リアクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の理解度、関心事項、疑問点等を確認しながら授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	西洋古代史研究の方法と射程
第2回	古代オリエント世界（1）	メソポタミア文明の誕生と盛衰
第3回	古代オリエント世界（2）	エジプト文明の誕生と盛衰
第4回	古代オリエント世界（3）	二大文明の狭間で
第5回	古代オリエント世界（4）	アケメネス朝ペルシアの興亡
第6回	古代ギリシア世界（1）	エーゲ文明の誕生・繁栄・崩壊
第7回	古代ギリシア世界（2）	ポリス社会の成立と発展
第8回	古代ギリシア世界（3）	ペルシア戦争とポリス社会の隆盛
第9回	古代ギリシア世界（4）	ペロポネソス戦争とポリス社会の変質
第10回	ヘレニズム世界（1）	マケドニア王国の興隆
第11回	ヘレニズム世界（2）	アレクサンドロス大王の東方遠征
第12回	ヘレニズム世界（3）	ヘレニズム諸王国の成立と繁栄
第13回	ヘレニズム世界（4）	ローマの到来とヘレニズム世界の終焉
第14回	試験・まとめと解説	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。参考書として挙げた書籍などを用いて、自主的に学習することが求められる。

【テキスト（教科書）】

特になし。担当教員が作成したレジュメ・資料を配布する。

【参考書】

服部良久／南川高志／山辺規子『大学で学ぶ西洋史〔古代・中世〕』、ミネルヴァ書房、2006年。

本村凌二／中村るい『古代地中海世界の歴史』、ちくま学芸文庫、2012年。

【成績評価の方法と基準】

期末の筆記試験（80％）

リアクションペーパーや質問等、授業への積極的参加度（20％）

【学生の意見等からの気づき】

受講生の理解度を向上させるために、引き続き図表や図像資料などを積極的に活用する。また、リアクションペーパーによる質疑応答を活用することで、可能な限り受講生の関心に沿ったかたちで授業を進める。

【Outline (in English)】

Course outline: This course outlines the history of the ancient mediterranean world from the birth of Mesopotamia and Egypt to the establishment of Roman hegemony. It also helps students learn how this world was formed throughout its history.

Learning Objectives: The followings are the goals of this course.

- Students are able to acquire fundamental knowledge concerning the history of the ancient Orient, ancient Greece and the Hellenistic world.

- Students are able to explain how the ancient mediterranean world was formed by these three affecting each other.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. They are required to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves.

Grading Criteria: Grading will be decided based on term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

HIS100BE（史学 / History 100）

西洋史概説Ⅱ

内田 康太

授業コード：A3110 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代ローマ世界の誕生から終焉に至るまでの歴史をヨーロッパ中世世界への接続も射程に入れて学ぶ。

【到達目標】

到達目標は以下のとおり。

- ・古代ローマの歴史に関する基礎的知識を習得する。
- ・古代ローマにおける社会構造の変質や転換を「断絶」だけでなく「連続」という観点からも説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行うが、授業時間内に質疑応答の機会を設ける。さらに、授業終了後に毎回リアクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の理解度、関心事項、疑問点等を確認しながら授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	古代ローマのはじまり
第2回	共和政（1）	王政の崩壊と共和政の誕生
第3回	共和政（2）	地中海世界の覇権をめぐって
第4回	共和政（3）	「内乱の1世紀」
第5回	共和政（4）	ユリウス・カエサルと共和政の終焉
第6回	元首政（1）	アウグストゥスと共和政の存続、あるいは、帝政の樹立
第7回	元首政（2）	ユリウス・クラウディウス朝からフラウィウス朝へ
第8回	元首政（3）	五賢帝の治世と「ローマの平和」
第9回	元首政（4）	軍人皇帝時代／3世紀の危機
第10回	専制君主政（1）	ディオクレティアヌス以後の帝国再編成
第11回	専制君主政（2）	キリスト教の迫害と保護
第12回	専制君主政（3）	ゲルマン人の進出と西ローマ帝国の滅亡
第13回	専制君主政（4）	古代ローマ世界の終焉とヨーロッパ中世世界の成立
第14回	試験・まとめと解説	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。参考書として挙げた書籍などを用いて、自主的に学習することが求められる。

【テキスト（教科書）】

特になし。担当教員が作成したレジュメ・資料を配布する。

【参考書】

服部良久／南川高志／山辺規子『大学で学ぶ西洋史 [古代・中世]』、ミネルヴァ書房、2006年。

本村凌二／中村るい『古代地中海世界の歴史』、ちくま学芸文庫、2012年。

【成績評価の方法と基準】

期末の筆記試験（80％）

リアクションペーパーや質問等、授業への積極的参加度（20％）

【学生の意見等からの気づき】

図表や図像資料などを充実させることで、受講生の理解度向上に努める。また、リアクションペーパーによる質疑応答を引き続き活用することで、できる限り受講生の関心に沿ったかたちで授業を進める。

【Outline (in English)】

Course outline: This course outlines the history of ancient Rome from its birth to the end with an eye on the connection to the Medieval Europe.

Learning Objectives: The followings are the goals of this course.

- Students are able to acquire fundamental knowledge concerning the history of ancient Rome.
- Students are able to explain the structural changes in the Roman society, not only from the aspect of 'separation', but also from the aspect of 'continuity'.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. They are required to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves.

Grading Criteria: Grading will be decided based on term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

HIS100BE（史学 / History 100）

西洋史概説Ⅲ

皆川 卓

授業コード：A3111 | 曜日・時限：月5/Mon.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨーロッパの伝統社会の形成を、15世紀から18世紀のいわゆる「初期近代」の発展を辿りながら論じ、その上に形成される近代社会の特徴を考察します。この作業によって、受講者は近代そのものの意義とその問題、そしてそのグラデーションの上に生じる国家の多元性を学びます。

【到達目標】

ヨーロッパにおける伝統社会から近代社会への移行期を、①個人、②国家、③コミュニケーションの三つの面から学び、その上に成立したヨーロッパの秩序のあり方に対する認識を深め、そのレガシーと課題を理解することによって、他の文化圏、とりわけ日本社会を相対化し、自由で合理的、かつ異なる立場にも共感できる強靱な歴史的分析力と構成力を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドとプリントによる系統的なスタイルでの講義形式を中心に行います。数度に一度の単元の終了毎（原則として対面ですが、オンライン回にせざるを得ない場合はその都度）に、オンライン掲示による小テストを実施し、到達度を測ります。対面による質問は随時受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	近世・近代ヨーロッパ史を学ぶ意義について	日本人にとって遠く離れたヨーロッパの過去を学ぶ意義はどこにあるのか、日本におけるヨーロッパ史の研究の足跡をたどりながら解説します。
第2回	宗教改革と個人の誕生（1）	日本と西洋の相違の根底にあるキリスト教がヨーロッパを精神的に支配した時代を、中世カトリック教会に遡って説明します。
第3回	宗教改革と個人の誕生（2）	中世カトリック教会が宗教改革によって分裂し、西洋社会が多元的な価値受容の方法を発見するまでの苦悩を紹介します。
第4回	宗教改革と個人の誕生（3）	宗教改革がもたらした宗派対立の結果、個人が自分自身の価値認識を持たなければならなくなり、自立した個人（自我ある個人）が成立する過程を紹介します。
第5回	平和なき近世（1）	世界史的に見て、ヨーロッパの諸国がなぜ多くの戦争を行うようになったのかを、中世から近世のヨーロッパにおける「国」の相互関係から説明します。
第6回	平和なき近世（2）	中世と動機が変わらない多くの戦争の中から、世界史上始めてヨーロッパで、いわゆる「近代主権国家」が徐々に形を現してくる過程とそのポイントを論じます。
第7回	平和なき近世（3）	成立途中の「近代主権国家」が、実は伝統的な認識や価値判断を大いに含んでいたことを紹介し、その中に抱え込まれ、今に続く問題を論じます。
第8回	ヴェルサイユの世紀（1）	ヨーロッパ人同士のコミュニケーションにおいて、暴力が消えたのは東アジア諸国よりも遅れて17世紀のことでした。それはなぜか、克服のためにどのような条件が必要だったのかを考えます。
第9回	ヴェルサイユの世紀（2）	ヨーロッパ諸国の統一を達成した絶対君主が、人々のどのような価値観や期待によって権力を手に入れたのか、その権力は果たして「絶対」だったのかを論じます。

第10回	ヴェルサイユの世紀（3）	宮廷の中で生み出された対人コミュニケーション方法やマナーが、近代ヨーロッパ人の深層心理にいかにか沈積し、美意識や行動にどう影響を与えているのかをその後の歴史から紹介します。
第11回	メディアと科学と「市民的公共圏」（1）	15世紀の活版印刷術の登場や私手紙の普及によって「公共圏」と「私的コミュニケーション空間」が登場し、情報の個人「主権」が誕生する過程を紹介します。
第12回	メディアと科学と「市民的公共圏」（2）	中世キリスト教が自然や集団、個人に関心に向けた理由を論じ、天文学・力学を巡る激しい論争の背景を確認したのち、その方法が聖書から経験に基づく矛盾なき説明へ移行する過程をたどります。
第13回	メディアと科学と「市民的公共圏」（3）	「公共圏」の広がりの中、教会を越えた「真実」論争が、自然のみならず集団や個人にも向けられ、経験に基づく矛盾なき説明＝理性が宗教や政治にも向けられていく過程を論じます。
第14回	まとめ－伝統社会と合理主義の連続と断絶について	近代ヨーロッパの合理主義が、伝統を破棄することではなく、むしろ伝統を深める中で生み出され、その深みとバイアスを共に抱え込んでいることを、ここまでの学習を振り返りながら確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布されるプリントは必ず授業前に読み、大まかな内容は頭に入れておきます（毎回1時間）。
- ・授業前に参考書やネットを通じて、始めて知る言葉、名前しか知らない言葉について一通り調べ、プリントにメモをします（毎回1時間）。
- ・授業終了後、授業中に分からなかった点について、自分で調べたり教員に質問します（毎回1時間）。
- ・授業を聞いて考えた点をメモを取り、期末レポートの作成に備えておきます（毎回1時間）

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。（配布プリントがその機能を担います）

【参考書】

- ・金澤周作監修・藤井崇他編『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房 2020
- ・永田諒一『宗教改革の真実』講談社 2004
- ・高澤紀恵『主権国家体制の成立』山川出版社 1992
- ・近藤和彦『近世ヨーロッパ』山川出版社 2018
- ・山本文彦『神聖ローマ帝国「弱体なる大国」の実像』中央公論新社 2024
- ・千葉治男『ルイ14世－フランス絶対王政の虚実』清水書院 2018
- ・ジョン・ヘンリー（東慎一郎訳）『一七世紀科学革命』岩波書店 2005
- ・ウルリヒ・イム・ホーフ（成瀬治訳）『啓蒙のヨーロッパ』1998

【成績評価の方法と基準】

- ・評価は平常点（20%）、単元毎の小テスト（30%）、期末レポート（50%）を総合して評価します。
- ・ヨーロッパにおける伝統社会から近代社会への移行期を、個人・国家・コミュニケーションの各側面から理解することができ【第1評価プロセス：単元毎の小テスト30%に照応】、ヨーロッパ的な秩序の特徴を自分の力で考察し、現在の我々にとってどのような意味を持つのかを自分なりの言葉で表現できること【第2評価プロセス：期末レポート50%に対応】が基準となります。

【学生の意見等からの気づき】

- ・他の地域や時代、現代社会との比較を交え、高校まで西洋史を履修しなかった学生にもイメージできるよう努める一方、専門的な知識を求める出席者もいることから、両方のバランスに配慮する。
- ・AI使用を前提とし、自ら問いを立てる能力を計測できるよう、小テストや期末レポートの内容を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

秋科目の「西洋史概論Ⅳ」と合わせて受講することが望ましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will discuss the formation of traditional European society by tracing the development of the so-called "early modern" period from the 15th to the 18th centuries, and will consider the characteristics of the modern society that was formed on that basis. Through this course, students will learn the meaning of modernity itself, its problems, and the pluralism of nations that arise on that gradation. 【Learning Objective】 This course will study the transition from traditional to modern society in Europe from three perspectives: 1) the individual, 2) the nation, and 3) communication. It will also deepen students' understanding of the European order that was established on that basis, and by understanding its legacy and challenges, students will be able to put other cultures, particularly Japanese society, into perspective, and acquire robust historical analytical and compositional skills that are free, rational, and able to empathize with different positions.

【Learning activities outside of classroom】

- ・ Always read the handouts distributed in advance before class and memorize the general content (1 hour each time).
- ・ Before class, use textbooks and the internet to research all the words you've never heard before or that you only know the name of, and take notes on the handouts (1 hour each time).
- ・ After class, research or ask the teacher about any points you didn't understand during class (1 hour each time).
- ・ Take notes of the points you thought about after listening to the lectures, in preparation for writing your final paper (1 hour each time)

【Grading Criteria/Policy】

- ・ Evaluation will be based on a combination of class marks (20%), unit quizzes (30%), and a final report (50%).
- ・ The criteria will be the ability to understand the transition from traditional to modern society in Europe from the perspectives of the individual, the nation, and communication [first evaluation process: corresponding to 30% of the unit quizzes], and the ability to independently consider the characteristics of the European order and express in your own words what they mean to us today [second evaluation process: corresponding to 50% of the final report].

HIS100BE（史学 / History 100）

西洋史概説Ⅳ

皆川 卓

授業コード：A3112 | 曜日・時限：月5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世の終焉からヨーロッパ連合までのヨーロッパ国際関係史を、主権国家間の権力闘争とは異なる共存、協力と法秩序の側面から見直します。それによって、なぜヨーロッパ諸国は衝突と戦争の歴史をたどりながらも、関係を強め、統合に向かっていけるのかを、歴史的な視点から学びます。

【到達目標】

ヨーロッパの国の枠を越え、北西ユーラシア世界の自然的、社会的、経済的、宗教的、知的条件から、そこに生まれた政治的共同体同士の関係を観察し、それが制度化する過程を学ぶ。それによって、「知識」の量をを増やすだけで、力関係の繰り返しという表面的な理解に留まりがちなヨーロッパ諸国関係の認識をリニューアルし、多角的な政治的共同体を理解し、その理解を活かすことのできる歴史構成力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

前期の西洋史概説Ⅲと同様、スライドとプリントによる系統的なスタイルでの講義形式を中心に行います。単元の終了毎（原則として対面ですが、オンライン回にせざるを得ない場合はその都度）に、オンライン掲示による小テストを実施し、到達度を測ります。対面による質問は随時受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	キリスト教ヨーロッパの解体と国境の成立	中世に教会の権威のもとで、地域を政治的に束ねた君主や都市が、それぞれ自立した政治的共同体を作り上げ、その間に排他的な境界「国境」を形成するプロセスを説明します。
第2回	近世のスイスとオランダ	国境に区切られた君主国の間の山地や低地に、日本の都道府県程度の領域を束ねた都市や農村が同盟して共通の会議や防衛制度をつくり、自治に基づく国家連合に成長する過程を紹介しします。
第3回	神聖ローマ帝国とハプスブルク帝国	キリスト教を掲げた君主のもと、多種多様なヨーロッパ中央部を束ねた二つの帝国が、そのために頼った正反対の方法と、その結果から現代の私たちが何を学べるかを考えます。
第4回	諸国間の対等化（1）	ヨーロッパ各地が様々な国に統合され、自立する中、激しい武力衝突が起こり、その解決のために条件を交渉する「外交」と、平和を文書にして拘束し合う「条約」が生まれる過程を論じます。
第5回	諸国間の対等化（2）	各国が自分の権利を盾に条約を破って戦争を続ける中、複数の国が条約に相乗りしてそれを守らせようと試み、その中で「国際会議」が生まれ、相互に対等な国家として認め合う過程を紹介しします。
第6回	ヨーロッパ公法と海洋法の世界（1）	各国の利害の上に結ばれる「条約」では制限できない各国の平和破壊の危険に対し、キリスト教の神学や商業上の慣習から、それを原理的に規制しようとする発想が生まれる過程を紹介しします。
第7回	ヨーロッパ公法と海洋法の世界（2）	平和破壊の危険を原理的に規制しようとして生まれた「ヨーロッパ公法」と「海洋法」が、キリスト教や自力救済のバイアスを徐々に脱ぎ去り、近代国際法に近づいていく過程を分析します。

第8回	人間のための多国間条約（1）	宗教に代わり経験を重視する世界観が生まれ、生来人間が持つ権利「自然権」の思想が広まるにつれ、国が守れない自然権を、国を超えたルールで守ろうという議論が起こる過程を論じます。
第9回	人間のための多国間条約（2）	ヨーロッパに中産階級が誕生し、「人権」と呼ばれるようになった自然権を戦争や貧困から守る活動が発生し、各国がその活動の支援を「条約」として義務付けるようになる状況を説明します。
第10回	権力外交の破綻（1）	18世紀末以降の「国民国家」の登場によって、各国が国益の大義名分のもと、利益を奪い合う権力外交をヒートアップさせていく状況を分析します。
第11回	権力外交の破綻（2）	人権条約をはるかに上回るスピードで国益追求の権力外交が進む中、各国がブロックを組み自国の安全を守る「勢力均衡」が社会や技術の発展によって「総力戦」に発展し、破綻する過程を論じます。
第12回	国際平和機構への道（1）	権力外交が破綻するはるか以前の18世紀から、各国が共通の会議や裁判所を持ち、国益の主張が武力衝突に通じるのを防ぐ構想が生まれ、発展する過程を、代表的な思想ごとに紹介しします。
第13回	国際平和機構への道（2）	世界大戦で破綻した権力外交を制限し、対立のエスカレートを防ぐための「国際平和機構」が現実には立ち上げられ、活動する過程とその限界、そしてその背景にある歴史的な問題に注目します。
第14回	ヨーロッパ統合とその課題	第二次世界大戦後、「石炭鉄鋼共同体」から始まって現在の欧州連合に発展したヨーロッパ統合の歩みと、それが抱えている問題を、これまで学んだ歴史で積み残した課題から分析します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・事前に配布されるプリントは必ず授業前に読み、大まかな内容は頭に入れておきます（毎回1時間）。
・授業前に参考書やネットを通じて、始めて知る言葉、名前しか知らない言葉について一通り調べ、プリントにメモをします（毎回1時間）。
・授業終了後、授業中に分からなかった点について、自分で調べたり教員に質問します（毎回1時間）。
・授業を聞いて考えた点をメモを取り、期末レポートの作成に備えておきます（毎回1時間）

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。（配布プリントがその機能を担います）

【参考書】

・E.カントローヴィッチ（基野尚志訳）『祖国のために死ぬこと』みすず書房 2006
・森田安一『スイス・ベネルクス史』山川出版社 1998
・森田安一『物語 スイスの歴史』中央公論新社 2000
・桜田美津夫『物語 オランダの歴史』中央公論新社 2018
・ピーター・H・ウィルソン（山本文彦訳）『神聖ローマ帝国 1495-1806』岩波書店 2005
・山本文彦『神聖ローマ帝国－「弱体なる大国」の実像』中央公論新社 2024
・岩崎周一『ハプスブルク帝国』講談社 2017
・山内進『掠奪の法観念史—中近世ヨーロッパの人・戦争・法』東京大学出版会 1993
・明石欽司『ウェストファリア条約—その神話と実像』慶應大学出版会 2007
・山内進『グロティウス「戦争と平和の法」の思想』ミネルヴァ書房 2021
・R・タック（荻原能久訳）『戦争と平和の権利—政治思想と国際秩序:グロティウスからカントまで』風行社 2015
・明石欽司『不可視の国際法—ホッブズ・ライプニッツ・ルソーの可能性』慶應大学出版会 2018
・サン・ピエール（本田裕志訳）『永久平和論Ⅰ・Ⅱ』京都大学学術出版会 2013
・E・カント（宇都宮芳明訳）『永遠平和のために』岩波書店 1985
・井上忠男『戦争と救済の文明史—赤十字と国際人道法の成り立ち』PHP研究所 2003
・木村靖二『第一次世界大戦』筑摩書房 2014
・篠原初枝『国際連盟—世界平和の夢と挫折』中央公論新社 2014
・最上敏樹『国際機構論』東京大学出版会 1996
・庄司克宏『欧州連合—統治の論理とゆくえ』岩波書店 2007

【成績評価の方法と基準】

・評価は平常点（20%）、単元毎の小テスト（30%）、期末レポート（50%）を総合して評価します。
・ヨーロッパから世界に広まった近代国際関係の歴史的成立条件を歴史的に理解し【第1評価プロセス：単元毎の小テスト30%に照応】、その意義と課題を自分の力で考察し、現在の我々がどのように現在に続く近代国際社会に関わっていくべきかを、歴史的な視点から表現できること【第2評価プロセス：期末レポート50%に対応】が基準となります。

【学生の意見等からの気づき】

・西洋史近代史の知識に関して受講生間でばらつきがあるため、数回を高校の既習事項に沿った別内容に置き換えることがある。
・理解のために現代社会や他の時代・地域の歴史と比較しながら論じるのが良いようである。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】 : We learn the history of European international relations from the end of the Middle Ages to the European Union from the perspective of coexistence, cooperation and legal order, which is different from the power struggle between sovereign states. By doing so, we will learn from a historical perspective why European countries are able to strengthen their relations and move toward integration while tracing the history of conflicts and wars.

【到達目標 (Learning Objectives)】 : Transcending the boundaries of European countries, we observe the relationships between political communities that have arisen from the natural, social, economic, religious, and intellectual conditions of the northwestern Eurasian world, and learn the process by which they are institutionalized. By simply increasing the amount of "knowledge," we will be able to renew our understanding of the relationship between European countries, which tends to be limited to a superficial understanding of the repetition of power relations, and acquire the ability to understand and construct history that will enable us to understand and make use of this understanding of the pluralistic political community.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】 : ・ Be sure to read the handouts distributed in advance before class and keep the general contents in mind (1 hour each time).

・ Before class, you will look up all the words you know for the first time or words you only know by name through reference books and the Internet, and make notes on printouts (1 hour each time).

・ After the class, you will do your own research or ask questions to the instructor about points that you did not understand during the class (1 hour each time).

・ Take notes on what you thought after listening to the class and prepare for writing a final report (1 hour each time)

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 : ・ The evaluation will be based on a combination of normal scores (20%), quizzes for each unit (30%), and final reports (50%).

・ The criterion is to have a historical understanding of the historical establishment conditions of modern international relations that spread from Europe to the world [1st Evaluation Process: Corresponding to the 30% quiz for each unit], to consider the significance and issues of this process on your own, and to be able to express from a historical perspective how we should be involved in the modern international community that continues to the present (2nd Evaluation Process: Corresponding to 50% of the final report).

HIS200BE（史学 / History 200）

日本考古学

高橋 健

授業コード：A3113 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3856）で履修する。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本列島の旧石器時代から古墳時代にかけての歴史展開において、物質文化にもとづいて講義する。社会を支える食料の獲得・生産の方法が時代によってどのように変化したのかを学ぶ。

【到達目標】

日本列島の環境に適応したそれぞれの時代の生業とその特徴について説明することができる。また、考古資料から生業にアプローチする方法とその有効性について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

人間の生活のもっとも基礎となる食料の獲得・生産・加工の方法がどのように変化したのかを、考古資料にもとづいて探る。各回の授業でトピックを設定して行う予定である。

授業方法は講義形式による。授業はパワーポイントを使用するが、プリントも併用する。質問やリアクションペーパーへのフィードバックについては授業時間内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概要説明	授業の方法・評価基準 この授業で扱う時代の概説
第2回	旧石器時代の環境	遊動的な生活
第3回	旧石器時代の生活	洞穴遺跡の生業
第4回	縄文時代の環境	時期と地域による環境の変化
第5回	縄文時代の生業①	貝塚と動物質食料
第6回	縄文時代の生業②	植物質食料を採る
第7回	縄文時代の生業③	理化学的分析など
第8回	縄文時代の調理	土器を使った料理
第9回	弥生時代の生業①	穀物栽培の開始
第10回	弥生時代の生業②	農耕民による狩猟と漁労
第11回	弥生・古墳時代の調理	コメ調理方法の変化
第12回	北方地域の生業①	稲作を行わなかった文化：続縄文文化・擦文文化
第13回	北方地域の生業②	外来の文化：オホーツク文化
第14回	総括	考古学からみた生業の変遷

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書等をよく読み、時代ごとの特徴を理解するとともに、環境と生業についての知見を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

西本豊弘・新美倫子編2010『事典人と動物の考古学』吉川弘文館
工藤雄一郎他編2013『ここまでわかった! 縄文人の植物利用』新泉社
横浜市歴史博物館編2019『おにぎりの文化史』河出書房新社
その他の参考書は、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績の70%は物質文化を扱うレポート評価とする。平常点は30%とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

※担当者は博物館学芸員として実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく歴史展開を中心に講義する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This class will cover the historical development of Japan from the Paleolithic to the Kofun period, based on material culture.

(Learning Objectives)

Students learn how the methods of acquiring and producing food have changed over time.

(Learning activities outside of classroom)

The standard time for preparation and review for this class is two hours each. Students should read references to understand the characteristics of each eras and deepen their knowledge of the environment and subsistence.

(Grading Criteria / Policy)

Submit a reaction paper for each class. Your overall grade in the class will be decided based on term-end report (70%) and in class contribution (30%).

HIS200BE（史学 / History 200）

日本古代史

春名 宏昭

授業コード：A3114 | 曜日・時限：水5/Wed.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「平安時代と貴族社会」と題して講義します。平安前期の改革の時代の国家・政治のあり方、貴族たちのあり方を理解するようつとめます。

【到達目標】

平安時代の貴族社会のあり方の把握を目指します。基礎的な知識を得て、その上でそれぞれの事象に興味を持ってアプローチし、国家・政治の本質を理解できる能力を身につけましょう。平安時代の官僚のあり方は現代の日本にも通じるオンタイムの問題ですから、現代の政治が抱える問題点も理解できるようになるでしょう。そのような視点から課題レポートにも取り組んで下さい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

平安前期の改革によって国家・政治のあり方がどのように変わっていったのか、この変化が平安中期の王朝貴族の時代に帰結していったのかを検証していきます。この授業では、一般啓蒙書に書かれることのない天皇や貴族たちのあり方を見ていきます。講義ですが、聴いているだけでは話が耳を通り抜けていきますから、問題意識をもって授業に取り組む必要があります。授業を聴いて問題意識をもった後、参考書等をあらためて読み直すと新しい理解が見えてきます。就職活動や教育実習等あるでしょうが、十分な聴講（もちろん遅刻は含まず）が最低限の必須条件です。心して下さい。質問がある場合は、授業後に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容の説明
第2回	〈時代〉の変化	ワンランク上の国家を目指して
第3回	官人たちの変化	良吏政治のスタート＝大同元年勅
第4回	天皇の性格変化	桓武天皇と平城天皇
第5回	良吏政治の展開	嵯峨朝への政策継承
第6回	良吏政治の実践	弘仁三年勅から天長元年官符へ
第7回	承和の変の前奏（1）	嵯峨朝の政治状況
第8回	承和の変の前奏（2）	淳和朝の政治状況
第9回	承和の変の前奏（3）	仁明朝の政治状況
第10回	承和の変	母橘嘉智子と娘正子内親王
第11回	貴族の時代へ	文徳朝・清和朝の様相
第12回	応天門の変	安定の時代、摂関政治へ
第13回	藤原基経の国政運営	清和天皇の悲嘆と陽成天皇の廃位
第14回	平安前期という時代	平安時代史概観

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

平安時代に関して問題意識を持つには、その前提として平安前期・中期の知識が必要ですし、奈良時代から平安時代への推移についても概括的な理解は必要です。それらを得るために、どれでも参考書（該当巻）を読んでみて下さい。ただし、著者の理解・興味関心によって内容はずいぶん違います。この講義では、通説的理解がいかにも不十分（言葉足らず）かということを述べます。それを確認するためにも参考書（該当巻）を読んでおいて下さい。また、平城天皇の事績をより詳しく知るには私の『平城天皇』（吉川弘文館人物叢書）を、延喜年間以降については『岩波講座日本歴史』第5巻の「摂関時代と政治構造」を読んで下さい。この講義の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業に必要な史料はプリントして配布します。

【参考書】

春名宏昭『〈謀反〉の古代史 平安朝の政治改革』（吉川弘文館）
中央公論社（文庫）・小学館（文庫）・集英社・講談社（文庫）から出版された『日本の歴史』や、吉川弘文館の『日本の時代史』・『日本古代の歴史』、東京大学出版会の『日本史講座』、岩波書店の『シリーズ日本の古代史』（新書）、『岩波講座日本歴史』の該当巻。

【成績評価の方法と基準】

平常点とレポートで評価します。基準は平常点30%、レポート70%です。レポートで取り上げる範囲は平安時代に限りますが、テーマは学生各人で選んでよいことにしています。ただ、どのようなテーマを選んでも、授業の理解の度合いはおのずとレポートの内容にあらわれます。

【学生の意見等からの気づき】

板書は教師の書いたものをただ写すだけでは身につけません。人物名・事象名・年号や学術用語などのキーワードを書きますから、それらも含めて、自分で工夫して自分なりのノートを作ってください。

【Outline (in English)】

This lecture is attended under the heading of “The Heian period and the aristocracy”. This course introduces how should be the nation and aristocrats in the former term of the Heian period to students taking this course. By the end of the course, students should be able to understand the essence of the nation and politics. Before/after each class meetings, students will be expected to spend four hours to read the textbook and one of reference books introduced. Grading will be decided based on term-end report(70%) and usual contribution(30%).

HIS200BE（史学 / History 200）

日本中世史

及川 亘

授業コード：A3115 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本における16～17世紀は中世から近世へと社会が変容する時期であり、日本における城郭もその時期に確立する。「普請」という言葉をキーワードとして、主に徳川家康による城郭建設の事例の検討を通じて、中世城郭から近世城郭への進化の過程を政治史的に跡付け、併せて当該期の日本の政治・社会の在り方を考える。

【到達目標】

16～17世紀の城郭建設を通じて政治・経済・社会の変容を学び、併せて当該期史料の読解の基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は対面で講義形式で行うが、前もって城郭建設に関連する史料のプリントを配布し、参加者には史料の音読と解釈をしてもらう。それに対して訂正・補足説明（フィードバック）して、さらにその内容を参考史料を提示しながら解説する。併せてそれぞれの史料が持つ城郭史における意義を政治・社会の状況と関連付けて検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業テーマ・進め方について説明する。
第2回	中世の「普請」	「普請」という言葉の原義などについて解説する。
第3回	戦国大名の城郭建設と「普請役」①	戦国大名武田氏の普請役について解説する。
第4回	戦国大名の城郭建設と「普請役」②	戦国大名後北条氏の普請役について解説する。
第5回	織田信長と豊臣秀吉の城郭建設と「普請役」	織田信長と豊臣秀吉の城郭建設について解説する。
第6回	豊臣秀吉の朝鮮出兵と城郭建設	朝鮮半島南岸に建設された倭城について解説する。
第7回	徳川家康の天下統一	豊臣政権から徳川政権への移行を解説する。
第8回	江戸城の巡見	江戸城の堀・石垣を実地見学する。
第9回	徳川家康の城郭建設 江戸城①	慶長八年（1605）・慶長十一年（1608）の江戸城の建設について解説する。
第10回	徳川家康の城郭建設 江戸城②	慶長十九年（1614）の江戸城の建設について解説する。
第11回	徳川家康の城郭建設 駿府城	駿府城の建設について解説する。
第12回	徳川家康の城郭建設 名古屋城	名古屋城の建設について解説する。
第13回	大坂の陣後の城郭建設	江戸幕府による大坂城再築などについて解説する。
第14回	まとめ	中世城郭から近世城郭への過程をおさらいする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

史料読解の予習・復習が必要である。（合計4時間程度）

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、史料プリントを配布する。

【参考書】

及川亘「名古屋御城石垣絵図を読む」（名古屋城調査研究センター編『史料が語る 名古屋城石垣普請の現場』名古屋城調査研究報告3 史料調査研究報告書1、2022年）
同「「公儀御普請」一現場監督する大名」（『城郭史研究』41号、2022年）
北原糸子『江戸城外堀物語』ちくま新書、1999年
斎藤慎一・向井一雄『日本城郭史』吉川弘文館、2016年
白峰旬『日本近世城郭史の研究』校倉書房、1998年
同『豊臣の城・徳川の城』校倉書房、2003年
『日本名城集成 江戸城』小学館、1986年
『日本名城集成 名古屋城』小学館、1985年
『日本名城集成 大坂城』小学館、1985年
『大御所徳川家康の城と町』（駿府城関連史料調査報告書）静岡市教育委員会、1999年

など

【成績評価の方法と基準】

平常点40％、期末試験（またはレポート）60％で評価する。
積極的な授業参加を期待する。

【学生の意見等からの気づき】

歴史学では必ずしも一つの答えが見つかるわけではないが、史料読解や論理展開にいくつかの可能性がある場合も、参考史料なども提示しながらそれらなるべく分かりやすく整理して解説したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

The 16th and 17th centuries in Japan was a period of social transformation from the Middle Ages to the modern age, and castles in Japan were also established during this period. Mainly through the examination of cases of castle construction by Tokugawa Ieyasu, We trace the process of evolution from medieval castles to modern castles in political history, and consider the state of Japanese politics and society during that period

【Learning Objective】

Through the construction of castles in the 16th and 17th centuries, learn about the transformation of politics, economy, and society, and at the same time learn the basics of reading historical materials of the period.

【Learning activities outside of classroom】

A total of 4 hours of preparation and review of reading comprehension of historical materials is required.

【Grading Criteria/Policy】

Evaluation is based on 50% of the average score and 50% of the final exam (or report).

Expect active class participation.

HIS200BE（史学 / History 200）

日本近世史

大橋 幸泰

授業コード：A3116 | 曜日・時限：木2/Thu.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、日本列島に生活した過去の人々の営為のうち、おもに近世人(江戸時代に生きた人々)の生活を材料に、歴史を学ぶことの意味を考えようとするものである。近世は前近代的な要素と近代的な要素の両方の性格が混在していた時代である。この時代を通じて、前近代の秩序が変化し、近代の秩序が準備されたと言い換えることもできる。しかし、近世が、前近代から近代への単なる過渡期だったとはいえない。近世にはその時代固有の常識や価値観が存在したことも事実であるからだ。この講義では、近世日本の政治・経済・文化の諸相から、近代・現代の秩序とは異なる近世独自の秩序を見だし、その特徴について考えるための材料を提供しよう。

【到達目標】

歴史学は過去の人々の営為を時系列的に理解し、人々を取り巻く秩序がどのように変化してきたかを考える学問である。私たち現代人が常識だと思い込んでいることは、実は過去の人々にとっても常識であったとは限らない。過去の人々は現代人とは異なる常識や価値観のなかで生きていた。私たちが目にする現代の諸問題には、現代人が自分の常識や価値観を疑わないために生じていることも少なくない。私たちの常識や価値観は歴史的産物であることを知って初めて私たちはそれらを相対化することができ、そこに内在する問題に向き合うことが可能となる。本講義で扱う近世日本の政治・経済・文化の諸相は、そのための材料である。したがって、この講義の到達目標は、近世日本の秩序が近代・現代の秩序とはどのように異なっているかを理解し、現代人の常識や価値観のどこにどのような問題が内在しているかを知ることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義を基本とするが、受講生には毎回200～400字程度で、講義を要約した講義記録を提出することを求める。第7回と第13回では、講義内容をめぐってディスカッションする時間を設ける。また、講義の予習として、教科書として指定した牧原成征編『日本史の現在4 近世』の該当箇所を熟読してくることを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／歴史的存在としての私たち 日常生活のサイクル	本講義の目的と概要について説明するとともに、前近代と近現代との差異について、日常生活のサイクルを材料に講義する。
2	幕藩体制の成立と幕府政治	「1天下人による列島統合」「5泰平の世の幕府政治」について扱う。
3	17世紀の朝廷と幕府	「2近世前期の朝廷と文化」「3近世前期の政治と外交」について扱う。
4	身分とジェンダー	「4身分社会の見方」「18近世社会におけるジェンダー」について扱う。
5	藩世界の秩序	「6藩から江戸時代を見直す」「11大名屋敷と江戸の都市社会」について扱う。

6	民衆の生活と政治意識	「7環境と生業」「8民衆思想と民衆運動」について扱う。
7	中間小活	近世秩序の成立と展開について議論する。
8	琉球と蝦夷地	「9近世日本と清・琉球」「16列島北方の社会と交流」について扱う。
9	商業活動と出版文化	「10商人の活動と交通」「13知と書物の広がり」について扱う。
10	災害と病	「12近世の大火・水害・地震」「17医療をめぐる社会と文化」について扱う。
11	地域社会と民衆文化	「14土豪・豪農と地域社会」「15歌舞伎・浄瑠璃にみる民衆文化」について扱う。
12	19世紀の政治と対外関係	「19大御所時代」「20世界の中の幕末日本」について扱う。
13	総括	近世秩序の変容と崩壊について議論する。
14	総復習	試験を含む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の予習として、教科書として指定した牧原成征編『日本史の現在4 近世』の該当箇所(各回内容の番号は同書の章番号)を熟読してくることを求める。授業後は、講義中に紹介した参考文献の他、関連する研究文献を自分で探して知見を広げてほしい。事前・事後の学習はそれぞれ2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

牧原成征編『日本史の現在4 近世』(山川出版社、2024年)【要購入】

【参考書】

深谷克己著『日本の歴史6 江戸時代』(岩波ジュニア新書、2000年)その他、適宜必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験60％／日本近世史の基本的な概念が理解できているかが試される。
レポート30％／学期末までに、講義に関する文献を論評するレポートを求める。
平常点評価10％／毎回、200～400字程度で、講義を要約した講義記録を提出することを求める。
その他／レポートを提出した者が試験の受験資格を有する。平常点が0点である場合、単位の取得は困難であることを付記する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックなし。

【Outline (in English)】

This lecture aims to consider the meaning of studying history by examining the activities of people who lived in the Japanese archipelago in the past, primarily those who lived in the early modern period (those who lived during the Edo period). The early modern period was a time when both pre-modern and modern elements coexisted. It can also be said that throughout this period, the pre-modern order changed and the modern order was prepared. However, the early modern period cannot be said to have been a simple transitional period from pre-modern to modern. This is because it is also true that the early modern period contained common sense and values unique to that time. In this lecture, we will look at various aspects of early modern Japan's politics, economy, and culture to discover the unique order of the early modern period, which differed from modern and contemporary orders, and provide material for thinking about its characteristics. Grades will be assessed based on 60% exams, 30% short reports, and 10% daily class performance.

HIS200BE（史学 / History 200）

日本近代史

内藤 一成

授業コード：A3117 | 曜日・時限：月2/Mon.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近代史を、政治史を中心に天皇の観点から読み解く。その際、明治・大正・昭和、三代の天皇についての人間像や歴史的な役割を重視する。近年、天皇個人に関する歴史的解明が進んだことから、君主制の各国比較など議論が活発である。授業を通じて、実証研究の蓄積が学問領域に新たな地平を開くことを明らかにしていく。

【到達目標】

①日本近代史と立憲君主制について歴史的に理解する。②制度と人間、双方に注目しながら歴史を再考する。③歴史の連続性について考える手がかりを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式とし、板書とパワーポイントを併用させる。適宜史料のコピー等を配布し、史料を音読したり、内容を検討することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義に関する全体の説明、注意点など
第2回	近世の朝廷と幕府	近世の天皇・朝廷と幕府について最新の研究動向をもとに論じる
第3回	明治天皇1 明治維新と天皇	幕末維新の政治を孝明天皇・明治天皇の観点から再考する
第4回	明治天皇2 天皇と日本の近代化	明治日本の近代化について天皇の観点から見直す
第5回	明治天皇3 天皇と立憲政治	憲法制定と立憲政治の歩みを天皇の観点から見直す
第6回	明治天皇4 天皇と戦争	西南戦争・日清戦争・日露戦争、明治国家が経験した大きな戦争を天皇との関わりから論じる
第7回	明治天皇5 天皇のまなざしと支配	近代天皇の支配原理とは何か。「臨・覧・聴」という天皇の行為から読み解く
第8回	大正天皇1 大帝の相続者	明治の終焉と大正新政、大日本帝国はいかに引き継がれたのかを大正天皇の観点から見直す
第9回	大正天皇2 デモクラシーと天皇（1）	第一次大戦後の世界的なデモクラシーの潮流のなか、日本の政党政治はいかに成立したのか。天皇の観点から見直す
第10回	昭和天皇1 デモクラシーと天皇（2）	昭和初期、政党政治と天皇はどう向き合ったのかをみていく
第11回	昭和天皇2 デモクラシーと天皇（3）	政党政治の危機と終焉に、天皇はどう向き合ったのかをみていく
第12回	昭和天皇3 天皇と軍事	昭和期の軍部の台頭に、天皇はどう向き合ったのかをみていく
第13回	昭和天皇4 昭和の大戦と天皇	天皇は対米開戦をいかにして受け入れ、終戦を決断したのか、最新の研究動向をもとにみていく
第14回	まとめ 総括と質疑応答	講義全体のまとめ、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布する資料には必ず目を通しておく。授業後には内容をよく確認し、指示のあった文献や資料に目を通しておく。平素より参考文献を読んでおくことが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。参照が必要な文献等がある場合には、講義の際、指示する。

【参考書】

『明治天皇紀』全13巻、『大正天皇実録 補訂版』全6巻、『昭和天皇実録』全19巻、伊藤之雄『明治天皇』（ミネルヴァ書房）、同『昭和天皇伝』（文芸春秋）、古川隆久『大正天皇』（吉川弘文館）、同『昭和天皇』（中公新書）、『天皇の歴史』全10巻（講談社学術文庫）、吉田孝『歴史のなかの天皇』（岩波新書）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）、期末試験（60％）をもとに総合的に評価する。期末試験はノート持ち込み可。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合、あるいは期末試験を受けない場合には不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

現時点ではないが、クエスチョンタイムに相当する時間を適宜設けるなどして、授業理解が得られるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が可能なIT機器

【その他の重要事項】

- ・「日本近代史科学」（秋学期）との継続履修を推奨する。
- ・大学院における学部合同科目（『日本近代史研究』Ⅰ）である。
- ・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。
- ・授業に関連する連絡は、学習支援システムのお知らせ機能や、授業内掲示板機能を利用して行うので、見落とさないようにすること。
- ・担当教員への直接連絡にはメールを利用すること。担当教員のメールアドレスは、学習支援システムに掲示する。

【Outline (in English)】 （Course outline）

This course examines the modern era of Japan, focusing on political history. I will explain while paying attention to the personalities and historical roles of the three emperors, namely Emperor Meiji(1852-1912), Emperor Taisho(1879-1926), and Emperor Showa(1901-1989). A particular emphasis in this course is a correct and historical understanding of modern Japanese history and the constitutional monarchy.

（Learning Objectives）

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- － A. Historical understanding of modern Japan and constitutional monarchy.
- － B. Rethinking history while paying attention to both institutions and humans.
- － C. Get clues to think about the continuity of history.

（Learning activities outside of classroom）

Students should read the materials distributed in advance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

（Grading Criteria / Policy）

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

HIS200BE（史学 / History 200）

日本現代史

劉 傑

授業コード：A3118 | 曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

昭和期の日本は、戦争と戦後復興を経て、世界の経済大国になった。激動する日本が歩んだ道を振り返り、世界のなかの日本、アジアのなかの日本という視点から、昭和期日本の内政と外交に対する理解を深め、「昭和」は日本にとってどのような時代だったのかを考えていきたい。多様な近代史史料の利用法も学んでいく。

昭和戦前期日本の内政と外交は、戦争と密接な関係にあった。議会や軍部はもちろん、経済界、メディアなども外交政策の策定や外交交渉の遂行に影響を与えた。複雑な力が働くなかで、外務省はどのように行動したのか。とりわけ外交官の対外認識と外交手法が日本の対外関係に何をもたらしたのか。「事件」や「事変」、戦争が絶えなかった時代における外交の可能性について、考えていきたい。

【到達目標】

内政と外交に関する多様な記録を教員と共に選択し、解読することによって、現代日本が進んできた道筋に対する理解を深めることができる。また、外交の特徴や、内政と外交の関係、及び外交政策に影響する諸要素を討論形式で考え、客観的、多面的な歴史理解をめざす。講義や討論を通じて、日本と世界の国々とのかわりかたを理解し、「日本」を対外発信する能力も身に付けていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と討論を併用する形式で授業を行う。講義内容に合わせて、関係史料を読む。必要に応じて、映像資料なども用いる。講義後の討論のなかで、歴史を理解するための問題点を発見し、歴史を読み解く方法を学んでいく。授業中の質問に対しては討論の中で答えることとし、提出課題に対しては、授業中に解説を加えるなど、フィードバックを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「昭和」という時代（1）	日本近代史の中の昭和時代について考える。
第2回	「昭和」という時代（2）	昭和初期の世相を多様な資料を通じて理解する。
第3回	「昭和」という時代（3）	メディアと政治について討論する。
第4回	外務省と軍部	外務省の歴史を概観し、日本外交の特質を理解する。
第5回	外務省とメディア	世論の形成と外交官の世論への影響を考える。
第6回	昭和初期の外務省と外交官（1）	外務省内の中国通はどのように形成したのか、その役割について討論する。
第7回	昭和初期の外務省と外交官（2）	外務省の外交政策論を諸外国と比較しながら考える。
第8回	山東出兵と日本外交（1）	山東出兵の経緯と中国の対応を事例として、日本外交に対する理解を深める。
第9回	山東出兵と日本外交（2）	田中外交と幣原外交、蔣介石の対日認識と政策について討論する。
第10回	満洲事変と日本外交（1）	日本にとって、満洲はなんだったのかを理解する。
第11回	満洲事変と日本外交（2）	満洲事変への各方面の対応を検討する。
第12回	満洲事変と日本外交（3）	満洲国の成立、満洲国が目指したもの、満洲国の評価について討論する。
第13回	日中戦争前の国交調整	陸軍の華北進出と日本の中国政策について考える。
第14回	試験・まとめと解説：昭和戦前期の日本外交	日中戦争までの日本外交について総合討論を行い、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された参考書を授業の前後に読むこと。
配布史料を授業終了後に熟読すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義にあたって、関連史料を配布する。

【参考書】

参考図書などは、講義の進行に応じて紹介するが、手元に以下の数冊を用意しておくとうり便利であろう。
策原俊洋・奈良岡聡智『ハンドブック近代日本外交史：黒船来航から占領期まで』（ミネルヴァ書房（2016年））
増田弘・佐藤晋『新版日本外交史ハンドブック——解説と資料——』（有信堂、2007年）
井上寿一『日本外交史講義』（岩波書店、2003年）
川島真・服部龍二『東アジア国際政治史』（名古屋大学出版会、2007年）
劉傑・三谷博・楊大慶『国境を越える歴史認識』（東京大学出版会、2006年）
劉傑・川島真『1945年の歴史認識』（東京大学出版会、2009年）
劉傑・川島真『対立と共存の歴史認識』（東京大学出版会、2013年）
波多野澄雄・中村元哉『日中戦争はなぜ起きたのか』（中央公論新社、2018年）
川島真・岩谷将『日中戦争研究の現在』（東京大学出版会、2022年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に試験を実施する。普段のレポートや討論への参加も成績評価の対象になる。試験7割、平常点3割。

【学生の意見等からの気づき】

講義に関する詳細な内容を板書するか、パワーポイントなどを利用する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなどの通信機器を用意してほしい。
教材や課題の指示は、学習支援システムを利用する。見落とさないように注意し、指示にしたがって講義に臨んでください。

【Outline (in English)】

This lecture covers the domestic affairs and diplomacy of Japan in the Showa period.

Congress and the military as well as the economic circle and the media influenced the formulation of foreign policy and diplomatic negotiations. How did the Ministry of Foreign Affairs act before the Sino-Japanese War? How did diplomats' recognition and techniques influence Japanese diplomacy? We will think about the possibility of diplomacy in the era of war.

The goals of this course are to learn how to read the archives on domestic and foreign policy and understand the path that modern Japan has taken. Students will also understand the characteristics of diplomacy, the relationship between domestic and foreign policy, and the various factors that influence foreign policy.

Students will be expected to read the assigned reference books before and after class meetings. It is important to review the distributed historical materials. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following :
Term-end examination: 70%. Short reports and regular assessments:30%.

HIS300BE（史学 / History 300）

日本考古資料学 I

小倉 淳一

授業コード：A3119 | 曜日・時限：木4/Thu.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

考古学資料である遺物の観察視点・方法を学びとることを目的とする。遺跡発掘調査報告書や考古学の論文などに示される内容が、どのような手続きを経て成り立っているかを意識し、その記録方法等を学ぶ。本科目においては土器を中心とする。

【到達目標】

発掘調査報告書や考古学の論文に示される実測図等が何を意味しているかわかるようになる。

考古学資料の観察と記録ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

土器や石器など考古学の基礎資料となる実際の遺物を観察してそれらの情報を読みとり、実測図や拓影図、写真などによって表現し、それをもとに観察所見を記録する。原始社会に生きた人々の行為によって残された考古学資料から情報を引き出すことで、人々がそれらをどのように製作・使用したのかを理解し、学術的な記録を行うことを目指す。これらは物質資料を用いてレポートを作成することはもちろん、卒業論文や遺跡の発掘調査報告を執筆するために必須の技術と作業になる。

室内での作業を基本とし、遺物を観察する能力を涵養する。授業のテーマにもとづいた解説を行い、数回の授業時間をかけて観察・実践・作図等を通じて技術を習得していく。このため出席は必須である。

実習形式の授業のため、質問は基本的にその場か授業前後に受けるが、オフィス・アワー（月曜5限）でも対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業計画・土器研究方法
第2回	動作研究とは	縄のより方
第3回	縄文原体作成 1	1・2段の縄
第4回	縄文原体作成 2	3段の縄、撚り戻し
第5回	縄文原体作成 3	合わせ撚り
第6回	縄文原体作成 4	結束・結節の縄
第7回	縄文原体作成 5	撚り糸文、組紐
第8回	土器の文様復元	縄圧痕の確認
第9回	土器の理解と表現 1	土器の観察と実測 1
第10回	土器の理解と表現 2	土器の観察と実測 2
第11回	土器の理解と表現 3	土器の観察と実測 3
第12回	土器の理解と表現 4	土器の観察と実測 4
第13回	土器片の理解と表現 1	土器の拓本 1
第14回	土器片の理解と表現 2	土器の拓本 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館等で考古学資料を観察すること。発掘調査報告書を参照して考古学資料がどのような方法で情報化されているかを検討すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業内で資料を配付する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加（30％）、授業内での実践による成果物、成果物について記したレポートの内容（成果物とレポートを合わせて70％）で評価する。授業各回の作業量は多く、授業は積み上げ式であるため、欠席すると次の作業に取り組みなくなり、成果物とレポートの提出に到達できなくなるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし（2025年度より授業担当者変更）。

【その他の重要事項】

土器や石器は実物資料であるため、実習室外への持ち出しを厳禁とする。資料は壊れやすいため、取り扱いには注意を要する。実測用具等は実習室で準備しておくが、鉛筆等は各自で用意すること。用具の中には高価な器材が含まれるため、取り扱いには十分注意すること。

※担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料からの情報の引き出し方、それをもとにした研究の方法についても実践的に解説・指導する。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to learn how to record archaeological materials, particularly pottery.

Students will be able to understand the observational perspective expressed in measured drawings of archaeological materials.

Students will gain the ability to observe and record archaeological materials.

The standard preparation and review time by students is 2 hours each.

The final grade will be calculated based on the report (70%) and normal score (30%).

HIS300BE（史学 / History 300）

日本考古資料学Ⅱ

小倉 淳一

授業コード：A3120 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

考古学資料である遺物の観察視点・方法を学びとることを目的とする。遺跡発掘調査報告書や考古学の論文などに示される内容が、どのような手続きを経て成り立っているかを意識し、その記録方法等を学ぶ。本科目においては石器を中心とする。

また、実測図のトレースや写真撮影といった、発掘調査報告書作成の基礎技術も学ぶ。

【到達目標】

発掘調査報告書や考古学の論文に示される実測図等の見方がわかるようになる。考古学資料の観察と記録ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

土器や石器など考古学の基礎資料となる実際の遺物を観察してそれらの情報を読みとり、実測図や拓影図、写真などによって表現し、それをもとに観察所見を記録する。原始社会に生きた人々の行為によって残された考古学資料から情報を引き出すことで、人々がそれらをどのように製作・使用したのかを理解し、学術的な記録を行うことを目指す。これらは物質資料を用いてレポートを作成することはもちろん、卒業論文や遺跡の発掘調査報告を執筆するために必須の技術と作業になる。

室内での作業を基本とし、遺物を観察する能力を涵養する。授業のテーマにもとづいた解説を行い、数回の授業時間をかけて観察・実践・作図等を通じて技術を習得していく。このため出席は必須である。

実習形式の授業のため、質問は基本的にその場か授業前後に受けるが、オフィス・アワー（月曜5限）でも対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業計画・石器研究方法
第2回	石器製作実験	原石の打ち割り
第3回	石器使用実験	剥片で切断作業
第4回	原石への復元	実験石器接合作業1
第5回	剥離順序の把握	実験石器接合作業2
第6回	剥片石器の理解1	打製石器の実測1
第7回	剥片石器の理解2	打製石器の実測2
第8回	剥片石器の理解3	打製石器の実測3
第9回	磨製石器の理解1	磨製石器の実測1
第10回	磨製石器の理解2	磨製石器の実測2
第11回	磨製石器の理解3	磨製石器の実測3
第12回	図版作成1	原図トレース
第13回	写真図版作成1	石器写真撮影1
第14回	写真図版作成2	石器写真撮影2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館等で考古学資料を観察すること。発掘調査報告書を参照して考古学資料がどのような方法で情報化されているかを検討すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業内で資料を配付する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加（30％）、授業内での実践による成果物、成果物について記したレポートの内容（成果物とレポートを合わせて70％）で評価する。授業各回の作業量は多く、授業は積み上げ式であるため、欠席すると次の作業に取り組みなくなり、成果物とレポートの提出に到達できなくなるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし（2025年度より授業担当者変更）。

【その他の重要事項】

土器や石器は実物資料であるため、実習室外への持ち出しを厳禁とする。資料は壊れやすいため、取り扱いには注意を要する。実測用具等は実習室で準備しておくが、鉛筆等は各自で用意すること。用具の中には高価な器材が含まれるため、取り扱いには十分注意すること。

※担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料からの情報の引き出し方、それをもとにした研究の方法についても実践的に解説・指導する。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to learn how to record archaeological materials, particularly stone tools.

Students will be able to understand the observational perspective expressed in measured drawings of archaeological materials.

Students will gain the ability to observe and record archaeological materials.

The standard preparation and review time by students is 2 hours each.

The final grade will be calculated based on the report (70%) and normal score (30%).

HIS300BE（史学 / History 300）

日本古代史科学Ⅰ

春名 宏昭

授業コード：A3121 | 曜日・時限：水5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『続日本紀の史料学』と題して講義を行います。八世紀の日本は、当時先進の文化を誇った中国のような国家建設を目標に掲げて邁進していました。『続日本紀』を題材に史料への取り組み方を学び、日本古代史における歴史の流れ、あり方の把握を目指します。

【到達目標】

続日本紀の記事を数点取り上げ、史料へのアプローチの仕方を習得することができます。この授業を通して、奈良時代の基礎的な理解を身につけ、他の史料に対してもつねに興味を持って臨めるようになり、それを論理的に解析し正しい理解に到達できる技能を身につけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

取り上げた記事を糸口に、その背後にある問題点を探り出し検証していきます。講義ですが、聴いているだけでは話が耳を通り抜けていきますから、問題意識をもって授業に取り組むことが必要です。授業を聴いて問題意識をもった後、参考書等をあらためて読み直すと新しい理解が見えてきます。就職活動や教育実習等あるでしょうが、十分な聴講（もちろん遅刻は含まず）が最低限の必須条件です。心して下さい。質問がある場合は、授業後に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（1）	続日本紀とはどのような史料か？
第2回	ガイダンス（2）	続日本紀のテキスト
第3回	オオキミへの疑念（1）	続日本紀の宣命と稲荷山古墳鉄剣銘
第4回	オオキミへの疑念（2）	天皇と親王・諸王
第5回	天平二年の太政官奏（1）	天平二年六月甲寅朔条の紹介
第6回	天平二年の太政官奏（2）	続日本紀の3つのテキスト
第7回	天平二年の太政官奏（3）	わずか31文字の史料の“奥行”
第8回	慶雲元年の公廩銀（1）	慶雲元年七月庚子条の紹介
第9回	慶雲元年の公廩銀（2）	公廩銀から見えてくるもの
第10回	左右京尹の設置（1）	天平宝字五年二月丙辰朔条の紹介
第11回	左右京尹の設置（2）	左右京尹に対する理解
第12回	左右京尹の設置（3）	左右京尹の新たな性格分析
第13回	税司主鑑（1）	大宝二年二月乙丑条の紹介
第14回	税司主鑑（2）	大宝令施行直後の地方政治

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げた記事が含む意味を理解するためには、それぞれの記事に現れた事象の時代背景を知る必要があります。そのためには、どれでもいいですから参考書（奈良時代該当巻）を読んでみて下さい。著者の理解・興味関心によって内容はずいぶん違います。

この講義では、現在の通説的理解がいかに不十分（言葉足らず）かということを書いていきます。それを確認するためにも参考書（該当巻）を読んでおいて下さい。

この講義の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。授業に必要な史料はプリントして配布します。

【参考書】

岩波書店・新日本古典文学大系『続日本紀』が基本です。他に平凡社『続日本紀』、現代思潮社『続日本紀』があります。一般啓蒙書として、中央公論社(文庫)・小学館(文庫)・集英社・講談社(文庫)から出版された『日本の歴史』や、吉川弘文館の『日本の時代史』・『日本古代の歴史』、東京大学出版会の『日本史講座』、岩波新書『シリーズ日本の古代史』、『岩波講座日本歴史』の該当巻があります。

【成績評価の方法と基準】

平常点とレポートで評価します。基準は平常点30%、レポート70%です。レポートで取り上げるテーマは学生各人で選んでよいことにしていますが、どのようなテーマを選んでも授業の理解の度合いはおのずとレポートの内容にあらわれます。

【学生の意見等からの気づき】

板書は教師の書いたものをただ写すだけでは身につけません。人物名・事象名・年号や学術用語などのキーワードを書きますから、それらも含めて、自分で工夫して自分なりのノートを作ってください。 ”自分で考える”がキーワードです。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉日本古代政治史

〈研究テーマ〉日本古代の皇権と官制

〈主要研究業績〉

『律令国家官制の研究』（吉川弘文館）

『平城天皇』（吉川弘文館）

『皇位継承 歴史をふりかえり変化を見定める』（共著、山川出版社）

『〈謀反〉の古代史 平安朝の政治改革』（吉川弘文館）

【Outline (in English)】

This lecture is offered under the title of “The world of Shokunihongi”. It deals with key aspects of ancient Japanese history, particularly referring to “shokunihongi”. By the end of the course, students will be able to understand how to make a new approach to historical sources. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end examination (70%) and usual contribution (30%).

HIS300BE（史学 / History 300）

日本近世史科学 I

清水 詩織

授業コード：A3124 | 曜日・時限：火2/Tue.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近世社会では、日常のあらゆる場面で様々な文書がやりとりされ、膨大な量の文書が作成されました。近世史研究を行う際は、これらの近世史料を研究テーマに則して調査・収集し、集めた史料を一言一句丁寧に読解する作業が必要となります。しかし、近世史料はいわゆる候文と呼ばれる文体の上、くずし字で書かれているので、近世史料の読解には専門的な訓練が必要となります。そこで、本講義ではまず活字化された近世史料を使用し、近世史料の基本的な解釈方法や語句等の調べ方・読み方を訓練します。その後、くずし字の読解にも挑戦します。

【到達目標】

近世史料の基礎的な扱い方と読解方法を学び、基本的な読解力を身につけることができるようになることが目標です。基本的な読解力とは、近世史料を正確に読み、その言葉の意味を調べて文章を理解し、史料批判をしつつ論理的に説明することができることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を併用します。授業内で翌週までの課題を提示するので、まずは自力で取り組みます。翌週、授業時に学生は割り当てられた範囲を報告し、教員は該当部分の解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業に関するガイダンスを行います。
第2回	史料研究の方法	辞書類の使用方をレクチャーします。
第3回	近世社会の文書	近世文書の種類について整理します。
第4回	古文書の形式	やや長文の文章に挑戦します。
第5回	幕府の史料を読むー『徳川実紀』ー	江戸幕府の基本資料である、『徳川実紀』の読解に挑戦します。
第6回	幕府の史料を読むー『御触書集成』ー	江戸幕府が発行した法令を読解します。
第7回	藩の史料を読むー幕府令の伝達ー	藩に伝達された幕府の法令を読みま
第8回	藩の史料を読むー藩士の職務規則ー	藩士の勤務規則についての史料を読みます。
第9回	くずし字を読むー実物を見る・触れるー	本物の古文書を使用して崩し字に挑戦します。
第10回	くずし字を読むー塩谷宕陰上書・基礎事項ー	昌平黉儒者塩谷宕陰の上書を読みま
第11回	くずし字を読むー塩谷宕陰上書・字体ー	塩谷宕陰は、能書家としても著名で
第12回	くずし字を読むー塩谷宕陰上書・長州戦争記事ー	した。字形にも注目します。長州戦争記事を読みます。
第13回	くずし字を読むー塩谷宕陰上書・横浜鎖港記事ー	横浜鎖港問題について読みます。
第14回	くずし字を読むー塩谷宕陰上書・最幕末の幕臣たちー	史料読解を通して、前期のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で配布する史料について、毎回予習・復習を行ってください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を想定しています。

【テキスト（教科書）】

くずし字の辞書を一冊用意してください。（授業内でも紹介する予定なので、それを聞いてからどれにするか選んでもいいです。）児玉幸多編『くずし字用例辞典』（東京堂出版、1981年）、林英夫監修『増訂 近世古文書 解読辞典』（柏書房、1972年）、林英夫監修『音訓引き古文書字典』（柏書房、2004年）など。

【参考書】

参考書は授業中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：50 %
平常点：50 % 授業内での取り組みを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

本授業担当者は、学芸員の実務経験を有しており、実際の古文書の扱い方についても情報を交えながら授業を行います。

【Outline (in English)】

Students will learn basic methods of interpreting early modern historical documents.

Students will be trained how to look up and read words and phrases.

Students will also be challenged to decipher kuzushiji characters.

The goal is to acquire basic reading comprehension skills of early modern historical documents.

Preparation and review will take 4 hours each.

Evaluation will be based on 50% of the examination score and 50% of the normal score.

HIS300BE（史学 / History 300）

日本近世史科学Ⅱ

清水 詩織

授業コード：A3125 | 曜日・時限：火3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世史料の中でも、各地域で作成された名主家文書を始めとする史料は地方文書と呼ばれます。地方文書は一般的に読解の難易度が高い上、まだ未翻刻の史料も膨大な数量に及びます。地方文書を扱う場合には、くずし字で書かれた史料を扱う可能性が高いといえます。本授業では、前期の授業で身につけた方法を使用し、地方文書に挑戦します。くずし字史料は前期よりもやや難易度の高いものを扱います。

【到達目標】

近世史料の読解力を身につけることが目標です。授業では、自力で研究活動が出来るよう、近世史料の扱い方と読解方法を学び、高度な読解力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を併用します。授業内で翌週までの課題を提示するので、まずは自力で取り組みます。翌週、授業時に学生は割り当てられた範囲を報告し、教員は該当部分の解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業に関するガイダンスを行います。
第2回	村の史料を読む	御用留について紹介します。
第3回	村の史料を読む	台風被害の報告の史料を読みます。
第4回	江戸の史料を読む	『藤岡屋日記』に挑戦します。
第5回	史料調査とアーカイブズ	史料調査の方法について紹介します。
第6回	くずし字を読む―「漂流記」に挑戦①	江戸時代海難事故を扱います。
第7回	くずし字を読む―「漂流記」に挑戦②	明和年間の漂流記を読みます。
第8回	くずし字を読む―「漂流記」に挑戦③	安南漂流記事を読みます。
第9回	くずし字を読む―「漂流記」に挑戦④	漂流記のまとめを行います。
第10回	くずし字を読む「はつか艸」に挑戦①	江戸市中の記事を読みます。
第11回	くずし字を読む「はつか艸」に挑戦②	辻六郎左衛門の記事を読みます。
第12回	くずし字を読む「はつか艸」に挑戦③	町奉行の記事を読みます。
第13回	くずし字を読む「はつか艸」に挑戦④	御成の記事を読みます。
第14回	試験とまとめ	期末試験とまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習にはそれぞれ2時間かかります。

【テキスト（教科書）】

くずし字の辞書を一冊用意してください。児玉幸多編『くずし字用例辞典』（東京堂出版、1981年）、林英夫監修『増訂 近世古文書 解読辞典』（柏書房、1972年）、林英夫監修『音訓引き古文書字典』（柏書房、2004年）など。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）

期末試験（50％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

本授業担当者は学芸員の実務経験を有しており、経験をふまえて古文書の扱い方などの情報も織り交ぜて授業を行います。

【Outline (in English)】

Students will learn how to highly interpret early modern historical documents.

Students will train how to look up and read words and phrases.

Students will be challenged with difficult crudities.

The goal is to develop advanced reading skills of early modern historical documents.

Preparation and review will take 4 hours each.

Evaluation will be based on 50% of the exam score and 50% of the normal score.

HIS300BE（史学 / History 300）

日本近代史料学

内藤 一成

授業コード：A3126 | 曜日・時限：月2/Mon.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近代史研究では、数多くの、かつさまざまな史（資）料を駆使して議論を組み立てることが珍しくない。本授業では各種の史（資）料を取り上げ、それぞれの特色や限界を明らかにしていく。さらに自ら史料発掘やオーラルヒストリーに取り組むときの手順についても学ぶことで、実践的なスキルを磨く。これらの内容を通じて、日本の歴史史（資）料の特色の一端を窺うことができるようになる。

【到達目標】

①一次・二次史料の違いとそれぞれの特色を理解する。②公文書・私文書の違いとそれぞれの特色を理解する。③文字・非文字資料の違いと、それぞれの特色を理解する。①～③を総合し、近代史（資）料について基礎的な理解をはかる。また独自に史（資）料調査を行う際に必要となる知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式をとる。板書とパワーポイントを併用する。授業で使用する史（資）料は、学習支援システムを利用して配布する。史（資）料は授業時に音読したり、内容の検証を行う。状況が許せば学外で行う講義もある。また講義時には、質疑応答の時間を設けるほか、学習支援システムに課題の回答を掲示するなどフィードバックに関しても適宜対応していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義に関する全体の説明、注意点など
第2回	書簡研究（1）	近代の書簡の形態・書式等について
第3回	書簡研究（2）	近代の書簡の内容について（政治家の書簡を読む）
第4回	書簡研究（3）	近代の書簡の内容について（文化人の書簡を読む）
第5回	日記研究（1）	近代の日記の形態・書式等について
第6回	日記研究（2）	近代の日記の内容について（政治家の日記を読む）
第7回	日記研究（3）	近代の日記の内容について（文化人の日記を読む）
第8回	公文書研究	さまざまな公文書の特色について
第9回	新聞、雑誌、書籍の世界	新聞、雑誌や各種書籍といった活字資料の特色と歴史研究での活用法について学ぶ
第10回	史料調査の世界	史料調査の手順や注意点について学ぶ
第11回	オーラルヒストリーの世界	オーラルヒストリーとは何か、調査の手順、注意点について学ぶ
第12回	金石文の世界	金石文の特色について、フィールドワークとともに学ぶ
第13回	編纂史料の世界	翻刻された史料や伝記などの編纂物の特色について
第14回	まとめ 総括と質疑応答	講義全体のまとめ、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布する史（資）料には必ず目を通しておく。その際、読みや意味のわからない文字を調べ、さらに記された内容や、作成した人物についても予習しておく。授業後には内容を再確認することで、知識の定着をはかる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストに使用する史（資）料は、学習支援システムにより事前に配布する。

【参考書】

五味文彦・杉森哲也編『日本史史料論』（放送大学教育振興会）、中村隆英・伊藤隆隆編『近代日本研究入門 [増補版]』（東京大学出版会）、佐々木隆「近代文書と政治史研究」（『日本の時代史30 歴史と素材』吉川弘文館）、御厨貴編著『近現代日本を史料で読む』（中公新書）、『日記に読む近代日本』全5巻（吉川弘文館）、御厨貴編『オーラル・ヒストリーに何ができるか』（岩波書店）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）、期末試験（60％）をもとに総合的に評価する。期末試験はノート持ち込み可。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合、あるいは期末試験を受けない場合には不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

クエスチョンタイムに相当する時間を適宜設けるなどして、授業理解が得られるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が可能なIT機器

【その他の重要事項】

- ・「日本近代史」（春学期）との継続履修を推奨する。
- ・大学院における学部合同科目（『日本近代史研究』Ⅱ）である。
- ・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。
- ・授業に関連する連絡は、学習支援システムのお知らせ機能や、授業内掲示板機能を利用して行うので、見落とさないようにすること。
- ・担当教員への直接連絡にはメールを利用すること。担当教員のメールアドレスは、学習支援システムに掲示する。

【Outline (in English)】
（Course outline）

In this course, I will explain the characteristics and limitations of each of the various modern Japanese historical materials while analyzing them in detail. I will also teach you the steps to discover historical sources and conduct oral history research yourself. Through the lessons, you will gain basic knowledge and understanding of historical materials. (Learning Objectives)

The goal of this course is to recognize the characteristics of various historical materials and to acquire the professional abilities necessary for documentary research.

(Learning activities outside of classroom)

Students should read the materials distributed in advance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria / Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

HIS300BE（史学 / History 300）

日本現代史料学

劉 傑

授業コード：A3127 | 曜日・時限：金2/Fri.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代史料の探し方、読み方を学び、史料のなかの日本外交を考える。
具体的には、外交記録、日記、手紙、報告書、回想録など多様な史料の調査法、利用法などを習得する。

昭和12年、日本と中国は全面戦争に突入する。戦争の拡大と平行して展開された外交は、戦争そのものだけでなく、戦後日本のあり方にも大きな影響を与えた。外交官の対外認識と外交手法が日本の対外関係に何をもたらしたのか。戦争の時代における外交の可能性について考える。

また、戦後の日本外交は対米関係を基軸に展開され、日本は直接戦争に巻き込まれることなく今日の繁栄を築きあげた。戦後日本の政治家と外交官の外交理念を辿りながら、平和な国際環境を創出するための日本外交の戦後史を学ぶ。

【到達目標】

近現代の日本外交に関連する記録を解説し、近現代日本外交の特徴や、外交政策に影響する諸要素を史料のなかから読み解く方法を身に付けることができる。

史料の探し方、史料批判の方法、史料利用の方法などについて検討し、多様な史料を手がかりに、日本とアジア、世界とのかかわりかたを理解する。

また、討論を通じて、世界の中の日本を理解し、「日本」を対外発信する能力も身に付けていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と討論を併用する形式で授業を行う。講義内容に合わせて、関係史料を読む。必要に応じて、映像資料なども用いる。講義後の討論のなかで、歴史を理解するための問題点を発見し、歴史を「解説」する方法を学んでいく。授業中の質問に対しては、討論の中で答えることとし、提出課題に対しては、授業中に解説を加えるなど、フィードバックを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	昭和史研究と史料	昭和期史料の特徴を概観する。
第2回	史料で学ぶ日中戦争と外交(1)	史料を読み、日中戦争中の「和平工作」を考える。
第3回	史料で学ぶ日中戦争と外交(2)	「近衛声明」の意味とその影響について討論する。
第4回	史料で学ぶ外交官と戦争(1)	外交官の日記を読み、その史料価値を考える。
第5回	史料で学ぶ外交官と戦争(2)	外交官の報告を読み、その影響について分析する。
第6回	史料で学ぶ太平洋戦争下の外交(1)	開戦をめぐる諸問題を外交官の報告で考える。
第7回	史料で学ぶ太平洋戦争下の外交(2)	対中外交を軍人の報告書で読む。
第8回	史料で学ぶ太平洋戦争下の外交(3)	占領地政権問題を日記で考える。
第9回	史料で学ぶ終戦外交(1)	陸軍の終戦構想を記録で検証する。
第10回	史料で学ぶ終戦外交(2)	外交記録で終戦を読む。
第11回	史料で学ぶ冷戦下の日本外交(1)	メディアのあり方と冷戦について討論する。
第12回	史料で学ぶ冷戦下の日本外交(2)	中国、台湾の公的文書をよみ、日本のアジア外交を考える。
第13回	史料で学ぶ日中国交回復とアジア外交の新展開	日中両国の史料を読み、日中関係の特質について討論する。
第14回	試験・まとめと解説：近代日本のアジア外交	日中の新聞記事を分析し、日本のアジア外交を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された参考書を授業の前後に読むこと。
配布史料を授業後に熟読すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義にあたって、関連史料を配布する。

【参考書】

参考図書などは、講義の進行に応じて紹介するが、手元に以下の数冊を用意しておくとう便利であろう。

箕原俊洋・奈良岡聡智『ハンドブック近代日本外交史：黒船来航から占領期まで』（ミネルヴァ書房（2016年）

増田弘・佐藤晋『新版日本外交史ハンドブック——解説と資料——』（有信堂、2007年）

井上寿一『日本外交史講義』（岩波書店、2003年）

川島真・服部龍二『東アジア国際政治史』（名古屋大学出版会、2007年）

劉傑・三谷博・楊大慶『国境を越える歴史認識』（東京大学出版会、2006年）

劉傑・川島真『1945年の歴史認識』（東京大学出版会、2009年）

劉傑・川島真『対立と共存の歴史認識』（東京大学出版会、2013年）

波多野澄雄・中村元哉『日中戦争はなぜ起きたのか』（中央公論新社、2018年）

川島真・岩谷将『日中戦争研究の現在』（東京大学出版会、2022年）

【成績評価の方法と基準】

毎回授業時間内に討論か、小レポート課題を完成していただく。学期末にこれを参考にし（50％）、試験（50％）とともに成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義の詳細な内容を板書するか、パワーポイントなどを利用するなど、履修者によりよく内容を理解してもらうように努める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなどの通信機器を用意してほしい。

教材や課題の指示は、学習支援システムを利用する。見落とさないように注意し、指示にしたがって講義に臨んでください。

【Outline (in English)】

In this lesson, we will learn how to research and read historical materials of the modern history of Japan. Also, think about Japanese diplomacy in historical materials.

Specifically, we will learn how to find and analyze documents such as diplomatic records, diaries, letters, reports, memoirs.

In 1937, Japan and China started a general war. The diplomatic negotiations between Japan and China had a great influence not only on the war itself but also on the way of Japan after the war. We will discuss how did diplomats' perceptions and diplomatic approaches influence China-Japan relations? And think about the possibility of diplomacy in the era of war.

The goals of this course are to learn how to read the archives on domestic and foreign policy and understand the path that modern Japan has taken. Students will also understand the characteristics of diplomacy, the relationship between domestic and foreign policy, and the various factors that influence foreign policy.

Students will be expected to read the assigned reference books before and after class meetings. It is important to review the distributed historical materials. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following :
Term-end examination: 50%, Short reports :30%, in class contribution: 20%.

HIS300BE（史学 / History 300）

日本考古学演習

小倉 淳一

授業コード：A3128 | 曜日・時限：月4/Mon.4
年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本考古学に関する研究を自立的に進めていくための演習形式の授業とする。考古学の実践研究例を研究論文によって検討し、考古学資料から歴史を再構成し考察を加えてゆくための方法や基礎力をつける。

【到達目標】

2年生：考古学の専門論文を読み解く力がつき、その成果を他者に説明し、討論に参加することができる。また、考古学の扱う範囲や研究方法について実践的に理解することができる。

3年生以上：考古学の専門論文を解説し、自らの着眼点や問題意識をもとにして検討を加え、討論を主導していくことができる。また、卒業論文を執筆するためのテーマと実践方法を獲得し、研究構想に関する発表を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

考古学の研究論文を読解し、その論理構成、資料の扱い方などを批判的に検討する。その結果をもとに自己の研究レポートや論文の制作につなげる。卒業論文を書くための準備作業に相当する。そのほかに考古学方法論に関する文献講読や、リポートの研究発表も実施する。
毎回の授業は演習形式とする。司会進行役を設け、各回の発表者が資料を作成した上で論文を解題し、論旨や方法について集団で検討する。課題が残れば調査の上で追加発表する。基本的には演習参加者の討論が基礎となるので、事前に資料を読み込んでおくことが必要である。受講者は各回とも必ず出席し、討論に参加して自己の見解を表明すること。なお、ゼミの際に事前準備をしていない者は退室してもらうことがある。
レポート等のフィードバックについては授業内に行うかオフィス・アワー（月曜5限）で対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概要説明	授業の概要と方法・授業進行の打ち合わせ
第2回	論文講読発表（1）	文献解題と討論（1）
第3回	論文講読発表（2）	文献解題と討論（2）
第4回	論文講読発表（3）	文献解題と討論（3）
第5回	論文講読発表（4）	文献解題と討論（4）
第6回	論文講読発表（5）	文献解題と討論（5）
第7回	研究発表（1）	卒業論文に関連する研究発表（1）
第8回	研究発表（2）	卒業論文に関連する研究発表（2）
第9回	研究発表（3）	卒業論文に関連する研究発表（3）
第10回	論文講読発表（6）	文献解題と討論（6）
第11回	論文講読発表（7）	文献解題と討論（7）
第12回	論文講読発表（8）	文献解題と討論（8）
第13回	論文講読発表（9）	文献解題と討論（9）
第14回	春学期のまとめ	春学期講評・レポート課題提示
第15回	概要説明・レポート提出	授業の概要と方法・授業進行の打ち合わせ・春学期レポートの提出
第16回	論文講読発表（10）	文献解題と討論（10）
第17回	論文講読発表（11）	文献解題と討論（11）
第18回	論文講読発表（12）	文献解題と討論（12）
第19回	論文講読発表（13）	文献解題と討論（13）
第20回	論文講読発表（14）	文献解題と討論（14）
第21回	研究発表（4）	卒業論文に関連する研究発表（4）
第22回	研究発表（5）	卒業論文に関連する研究発表（5）
第23回	研究発表（6）	卒業論文に関連する研究発表（6）
第24回	論文講読発表（15）	文献解題と討論（15）
第25回	論文講読発表（16）	文献解題と討論（16）
第26回	論文講読発表（17）	文献解題と討論（17）
第27回	論文講読発表（18）	文献解題と討論（18）
第28回	秋学期のまとめ・レポート提出	秋学期の講評と課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は扱う文献にもとづいて発表資料を作成し、解説と検討ができるよう準備すること。参加者はあらかじめ当該文献を批判的に読み、討論に備えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

考古学の研究雑誌は多く出ており、研究室や図書館で検索することができる。演習の素材にふさわしい研究論文を各自で探すことを求める。情報収集能力を涵養することも大切である。

【参考書】

佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、勅使河原彰（1995）『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』（全9巻）、コリン・レンフルー、ポール・バーン／池田裕ほか訳（2007）『考古学 理論・方法・実践』東洋書林

【成績評価の方法と基準】

春学期・秋学期それぞれレポートを提出すること（必須・評価割合は30％）。発表時の内容（テーマの選択・論理構成・説明・討論など）および通常の参加態度（司会・質問・討論など）も含め（授業時の評価は発表と参加態度をあわせて70％）、総合的に成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2年生から4年生までのゼミ生が一堂に会して行う学生主体の授業です。論文講読やゼミ合宿等も含めた自主的な取り組みが大切です。共に学び合い、実力を涵養しましょう。

【その他の重要事項】

※担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料からの情報の引き出し方、それをもとにした研究の方法についても実践的に解説・指導する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students deepen the discussion through reporting articles of their own choice on Japanese archaeology.

The new students will be able to read and understand archaeological papers, explain their findings to others, and participate in discussions. They will also be able to understand the scope of archaeology and its research methods.

Advanced students will be able to explain technical papers on archaeology, examine them based on their own points of view and awareness of the issues, and lead discussions. In addition, students will be able to acquire themes and practical methods for writing graduation theses, and to give presentations on their research concepts.

The standard preparation and review time by students is 2 hours each.

The final grade will be calculated based on the mid-term report and final report (30%), and the presentation and questions (70%).

HIS300BE（史学 / History 300）

日本古代史演習

小口 雅史

授業コード：A3129 | 曜日・時限：木2/Thu.2

年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本古代国家の骨格が形成された8世紀の律令時代について、国家によって編纂された正史である『続日本紀』と、世界史の奇跡といわれる「正倉院文書」という二大史料群をもとに、それら文献史料から具体的に古代社会の実態を自力で具体的に読み取れるようになることを目標とします。『続日本紀』については北方史関係史料を、「正倉院文書」については土地経営関係史料を主たるテーマにして実施します。

【到達目標】

二つの史料群を素材に、文献史料から具体的に古代社会の実態を自力で具体的に読み取れるようになることを目標とします。正史の場合には、中央政府内の編纂者による色眼鏡がかかっていますから、それをいかに取り除いて実態に迫れるかについて訓練します。また古文書の場合には、当事者同士で自明なことは史料上に書かないという特徴があります。その時代の人間になりきって、いかにその古文書を読み解いて、当時の社会を再構成できるかが勝負です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に1回ごとに参加者1人が報告し、それをもとに参加者全員で議論を行います。個別の担当史料を律令法典や同時代の文学作品をも参考にしながら、その正確な読みから日本古代社会の実態を復原する方法を取得できるよう工夫してもらいます。正史の場合には、中央政府内の編纂者による色眼鏡がかかっていることもありえるのでそれをいかに取り除くかについて訓練します。また古文書の場合には、当事者同士で自明なことは書かないという特徴がありますから、いかにその時代の人間になりきって古文書を読めるようになるかが重要な論点となるはずです。

発表へのフィードバックについては、次の授業の初めに、前回の授業で提出資料からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミの運営方針、担当配分など
第2回	『続日本紀』解題	『続日本紀』の特徴について
第3回	史料392を読解する	藤原小黒麻呂、持節征東大使任命をめぐって
第4回	史料393を読解する1	征東使の叱責について
第5回	史料393を読解する2	多賀城防衛措置
第6回	史料393を読解する3	玉作柵とは
第7回	史料394を読解する	出羽国大室塞の意味
第8回	史料395を読解する	白河郡の官社について
第9回	史料396を読解する	雄勝郡の状況
第10回	史料397を読解する	鎮守府の弩師について
第11回	史料371を読解する	古代の飛騨について
第12回	史料398を読解する	伊治咎麻呂の戦後処理
第13回	史料399を読解する	参議藤原小黒麻呂、陸奥按察使兼任をめぐって
第14回	まとめ	古代北方史の特質について
第15回	演習内容を理解する	正倉院文書の性格、担当割当確認
第16回	正倉院文書解題	正倉院文書の特徴について
第17回	史料集成14を読む	秦広人の特性について
第18回	史料集成15を読む	越前国司による取引について
第19回	史料集成18を読む	生江息嶋の経営について
第20回	史料集成20を読む	道守徳太理の経営について
第21回	史料集成21を読む	生江国立の役割について
第22回	史料集成22を読む	足羽郡書生の役割について
第23回	史料集成25を読む	古代の運送業者について
第24回	史料集成26を読む	画師池守の行動について
第25回	史料集成27を読む	道守徳太理の特性について
第26回	史料集成47を読む	古代の売券の特徴について
第27回	他田日奉部神護書簡を読む	古代の人事申請文書について
第28回	天平の社会改革の総括	古文書を通じてわかったこと、すなわち天平時代とはどのような時代であったのか、その特徴をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストはかなり難解なので、発表者は言うまでもないが、他の参加者も事前に必ず担当テキストを熟読しておくこと。司会担当者、コメンテーターは、進行の仕方を事前に検討し、また発表内容についての疑問点をあらかじめリストアップしておくこと。本授業の準備・復習時間は標準的には各2時間を必要とします。

【テキスト（教科書）】

『青森県史』資料編古代Ⅰ・『青森県史資料編古代Ⅰ補遺』（いずれもコピーで可）『デジタル古文書集日本古代土地経営関係史料集成 東大寺領・北陸編（大学テキスト版）』（同成社）

【参考書】

『続日本紀（前篇）』新訂増補国史大系（吉川弘文館）・新日本古典文学大系『続日本紀』（岩波書店）／『令義解』新訂増補国史大系（吉川弘文館）／『律令』日本思想大系・新装版（岩波書店）

【成績評価の方法と基準】

平常のゼミ内での活動から判断する。発表内容では古典籍・古文書写真からの文字の解読・判定についての、パソコンを用いての正確な翻刻実習の成果も判定の対象とする。担当の史料を正確に読めるかどうかをもっとも重要なポイントとなる。それに加えて夏休みにはプレ卒論として、レポート作成に取り組んでもらう。ゼミでの発表内容が75%、ゼミ内での質疑応答が25%の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

日本古文書学の知識が予想以上に欠けているので、その点について配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

事前に授業支援システムにアップされたレジュメを画面に投影しながらゼミをすすめます。パソコンで古代史料を適切に組み上げる能力を鍛えてください。

【その他の重要事項】

このゼミは卒論を執筆するための準備の場です。全ての作業が卒論に直結しています。夏休みにはミニ卒論も書いてもらいます。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008年、『エミシ・エブ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007年、『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMakerによるDatabaseのWeb公開の一例として』『漢字文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】

Course outline : On the 8th century of Japan, based on the two major historical materials named "Shoku-nihongi" and "Shosoin documents", we will study.

Learning Objectives : For the "Shoku-Nihongi", we extract and analyze Northern History in ancient Japan. Regarding "Shosoin documents", we will carry out with the main theme of land management. We will aim to become readable.

Learning activities outside of classroom : Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting . Your study time will be more than five hours for a class.

Grading Criteria/Policies : Grading will be decided based on lab reports (85 %), and the quality of the students' experimental performance in the lab (15 %).

HIS300BE（史学 / History 300）

日本中世史演習

大塚 紀弘

授業コード：A3130 | 曜日・時限：木4/Thu.4
年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期は、鎌倉幕府の歴史書である『吾妻鏡』の講読を中心とし、担当者の読解・考察についての報告を基に全員で議論する。秋学期は、日本中世史に関する自由発表を中心とし、担当者の研究または論文批評の報告を基に全員で議論する。中世史料の日本漢文を読解する基礎的な力を養成し、中世の国家・社会・文化等について批判的に研究する方法を習得することを目的とする。

【到達目標】

日本漢文で書かれた中世の史料を正しく訓読した上で、語句を調べ、内容を正確に理解し、現代語訳することができる。所定の事項を満たしたレジュメを作成し、発表することができる。関連史料や先行研究を収集・読解して内容を整理し、自分なりの論点を提示することができる。鎌倉幕府や朝廷、鎌倉や京都の都市社会を中心に、日本中世史に関する事柄について、自身の見解を提示あるいは発言することができる。所定の条件を満たしたレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式で進める。担当者が発表レジュメに基づいて発表した後、発表内容に基づいて、司会者の進行のもと、全員で議論する。また、日本中世史に関係する史料や博物館を見学する機会を設ける。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」または「メール」を通じて行なう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	『吾妻鏡』とは（1）	履修のガイダンス
第2回	『吾妻鏡』とは（2）	史料の性格と調べ方の解説
第3回	『吾妻鏡』講読（1）	読解・考察の報告と議論
第4回	『吾妻鏡』講読（2）	読解・考察の報告と議論
第5回	『吾妻鏡』講読（3）	読解・考察の報告と議論
第6回	『吾妻鏡』講読（4）	読解・考察の報告と議論
第7回	『吾妻鏡』講読（5）	読解・考察の報告と議論
第8回	『吾妻鏡』講読（6）	読解・考察の報告と議論
第9回	『吾妻鏡』講読（7）	読解・考察の報告と議論
第10回	『吾妻鏡』講読（8）	読解・考察の報告と議論
第11回	『吾妻鏡』講読（9）	読解・考察の報告と議論
第12回	『吾妻鏡』講読（10）	読解・考察の報告と議論
第13回	『吾妻鏡』講読（11）	読解・考察の報告と議論
第14回	鎌倉幕府と都市鎌倉	講読・議論内容の総括
第15回	自由発表（1）	研究または論文批評の報告と議論
第16回	自由発表（2）	研究または論文批評の報告と議論
第17回	自由発表（3）	研究または論文批評の報告と議論
第18回	自由発表（4）	研究または論文批評の報告と議論
第19回	自由発表（5）	研究または論文批評の報告と議論
第20回	自由発表（6）	研究または論文批評の報告と議論

第21回	自由発表（7）	研究または論文批評の報告と議論
第22回	自由発表（8）	研究または論文批評の報告と議論
第23回	自由発表（9）	研究または論文批評の報告と議論
第24回	自由発表（10）	研究または論文批評の報告と議論
第25回	自由発表（11）	研究または論文批評の報告と議論
第26回	自由発表（12）	研究または論文批評の報告と議論
第27回	自由発表（13）	研究または論文批評の報告と議論
第28回	日本中世史研究の課題	報告・議論内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

『吾妻鏡』講読では、全員が事前に講読する部分の訓読文を作成する。担当者は担当部分を読解し、関係する論文や史料を収集・読解・整理し、発表レジュメを用意する。自由発表では、全員が事前に発表に関係する論文を読み、批評文を作成する。担当者は、発表1週間前までに論文をコピーおよびスキャン（またはダウンロード）し、「学習支援システム」の掲示板機能を通じて全員に配布する。また、関連する論文や史料を収集・読解・整理し、発表レジュメを用意し、「学習支援システム」の掲示板機能を通じて全員に配布する。発表後、レジュメを修正し、「学習支援システム」の掲示板機能を通じて全員に配布する。春学期末、秋学期末の2度、所定の課題についてのレポートを執筆し、期限内に「学習支援システム」から提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『吾妻鏡』講読では、「学習支援システム」の「教材」から、講読する部分のコピー（PDFファイル）を配布する。自由発表では、担当者が「学習支援システム」の掲示板機能を通じて、対象論文（原則としてPDFファイル）を配布する。

【参考書】

授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点56％（宿題提出28％、発言28％）、発表点22％（春学期11％、秋学期11％）、学期末レポート点22％（春学期11％、秋学期11％）の合計で評価する。春学期・秋学期それぞれ5回以上、正当な理由なく欠席した場合は、D評価とする。担当の発表、レポートを正当な理由なく1度でも怠った場合は、D評価とする。正当な理由によって欠席した場合は、自作の「欠席理由書」を提出すれば考慮する。評価基準の詳細は、初回に指示する。

【学生の意見等からの気づき】

議論が活発になるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」を利用し、事前に「教材」から配布プリントをダウンロードすること。また、「学習支援システム」から期限内に小テストを提出すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students read the medieval Chinese texts. The goals of this course are to train the ability to understand the contents deeply. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Short reports : 22%, in class contribution: 78%.

HIS300BE（史学 / History 300）

日本近世史演習

野本 禎司

授業コード：A3131 | 曜日・時限：月5/Mon.5

年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒論執筆に向けて、史料の読解力を高め、先行する研究を批判的に理解し、自ら課題を見つけ出し、実証的手法を用いて自身の見解を発表し、適切な文章を用いて表現する能力を身につけることを目的とする。春学期は、史料講読、論文講読を積み重ねることで基礎学力を身につけ、秋学期は個人の研究発表をおこなう。学生個々の研究テーマは様々であるから、お互いの発表内容の理解に努めることは、多様な近世史理解に結びつく。学生諸君による活発な議論を期待する。夏季休暇中には地域の文化遺産の探訪および博物館の見学や史料調査等をおこなう合宿を、春休みには受講生全員の卒論報告会を実施する合宿を予定している。

【到達目標】

- ①史料を正確に音読し、現代語訳することができる。
- ②史料上の用語について調べ、それを説明できる。
- ③史料の内容を理解し、それを時代背景のなかに位置づけることができる。
- ④史料の解釈について討議できる。
- ⑤研究論文を正確に読解し、著者の意図を理解できる。
- ⑥研究論文を批判的に読むことができる。
- ⑦先行研究と史料から自らの課題を立ち上げ、これを論理的に解決できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

学生の報告および討議が中心である。春学期は、史料講読、論文講読が中心となる。秋学期は、それぞれのテーマで研究報告をおこなう。発表の際に教師は課題に対してフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミの説明、ゼミ夏合宿の説明
第2回	近世史研究入門	研究テーマの見つけ方、レジュメの作成
第3回	図書館データベースの使い方	論文・専門書の探し方
第4回	ゼミ合宿に向けて（1）	調査研究先の決定と今後の準備
第5回	論文講読（1）	政治史研究
第6回	史料講読（1）	江戸町触集成
第7回	論文講読（2）	社会史研究
第8回	論文講読（3）	地域社会史研究
第9回	史料講読（2）	江戸町触集成
第10回	論文講読（4）	村落史研究
第11回	史料講読（3）	江戸町触集成
第12回	3年生研究発表（1）	研究テーマの適切性
第13回	3年生研究発表（2）	先行研究の取り扱い
第14回	2年生研究発表（1）	研究テーマの適切性
第15回	ゼミ合宿のまとめ（1）	各班調査研究発表の準備
第16回	ゼミ合宿のまとめ（2）	各班調査研究発表
第17回	4年生研究発表（1）	卒業論文の課題設定
第18回	4年生研究発表（2）	卒業論文の論理構成
第19回	4年生研究発表（3）	卒業論文の論理展開
第20回	3年生研究発表（3）	史料引用の仕方
第21回	3年生研究発表（4）	論理展開の方法
第22回	3年生研究発表（5）	研究テーマの位置づけ
第23回	2年生研究発表（2）	先行研究の取り扱い
第24回	2年生研究発表（3）	史料批判の方法
第25回	2年生研究発表（4）	史料引用の仕方
第26回	2年生研究発表（5）	論理展開の方法
第27回	2年生研究発表（6）	研究テーマの位置づけ
第28回	2年生研究発表（7）	研究テーマのひろがり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

史料講読においては、報告担当者以外も事前学習として史料の書き下しと現代語訳に取り組み、語句などを調べてくること。論文講読においては、報告担当者以外も論文を読み込み、疑問点をリストアップすること。授業後には、史料の意味確認や授業時に紹介された参考文献などを読み、理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

『日本国語大辞典』（第2版、小学館）、『国史大辞典』（吉川弘文館）、大石学編『江戸幕府大事典』（吉川弘文館）ほか。

【成績評価の方法と基準】

- 1 報告（40％）。担当者はレジュメを作成し、出席者に配布する。
- 2 レポート（40％）。
- 3 質疑応答（20％）。グループ割りをするので、第1回および第2回の授業への欠席は原則認められない。

【学生の意見等からの気づき】

卒論を書ける力を養成していきます。

【Outline (in English)】

This course deals with the early modern history of Japan. It also enhances the development of student's skill in making oral presentation. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following presentation:40%, report:40%, and in class contribution:20%.

HIS300BE（史学 / History 300）

日本現代史演習

柏木 一郎

授業コード：A3134 | 曜日・時限：水3/Wed.3
年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近現代史に関する史料と論文を読解し、日本近現代史の理解を深め、歴史の研究方法を学ぶ。

【到達目標】

- ＊史料の読解力と先行研究をまとめ整理する力を身につける。
- ＊図書館、博物館、文書館等が所蔵する史料・文献をリサーチする方法を身につける。
- ＊レジュメ、レポート、論文を作成するスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は演習方式でおこなう。

【春学期】グループ発表：最新の日本近現代史に関する学術論文を講読する。「史学雑誌」第133編第5号 2023年度「回顧と展望」で紹介された第一次世界大戦から昭和時代の終わりまでの政治、外交、経済、社会、文化、帝国、植民地、思想、宗教、美術に関する論文を対象とする

①各班で担当するテーマ（「政治」「外交」「経済」「社会・文化」「帝国・植民地」「思想」「宗教」「美術」）を選択する。②班で選択したテーマの論文のリストを作成する（項目、執筆者、論文題名、掲載雑誌の名称、番号、発行年、書籍掲載の場合は、書籍の名称、発行年、発行所を記載。掲載雑誌・書籍の所蔵機関、請求番号を記載する）③班員各自選択した論文（1本）の書評をおこなう。④担当班と他班による質疑・討論

【秋学期】受講生自らテーマを設定し研究、発表をおこなう。

受講生の報告に対する講評、改善方法などの指摘、助言をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 【春学期】	自己紹介、年間スケジュール、役割分担の確認 班分け 報告の順番決定
第2回	授業の概要 卒業論文執筆構想報告（4年生）	授業の進め方、論文執筆に際しての諸注意
第3回	第1回 学術論文講読	班別報告①「四 政治二」論文の紹介、書評、質疑応答
第4回	第2回 学術論文講読	班別報告②「七 外交二」論文の紹介、書評、質疑応答
第5回	第3回 学術論文講読	班別報告③「一〇 経済二」論文の紹介、書評、質疑応答
第6回	第4回 学術論文講読	班別報告④「一三 社会・文化二」論文の紹介、書評、質疑応答
第7回	第5回 学術論文講読	班別報告⑤「一六 帝国・植民地」論文の紹介、書評、質疑応答
第8回	第6回 学術論文講読	班別報告⑥「一七 思想」論文の紹介、書評、質疑応答
第9回	第7回 学術論文講読	班別報告⑦「五 政治三」論文の紹介、書評、質疑応答
第10回	第8回 学術論文講読	班別報告⑧「八 外交三」論文の紹介、書評、質疑応答
第11回	第9回 学術論文講読	班別報告⑨「一一 経済三」論文の紹介、書評、質疑応答
第12回	第10回 学術論文講読	班別報告⑩「一四 社会・文化三」論文の紹介、書評、質疑応答
第13回	第11回 学術論文講読	班別報告⑪「一八 宗教」論文の紹介、書評、質疑応答
第14回	第12回 学術論文講読	班別報告⑫「一九 美術」論文の紹介、書評、質疑応答
第15回	ガイダンス 【秋学期】	秋学期スケジュール確認、報告順番決定
第16回	卒業論文執筆状況報告（4年生）卒業論文執筆構想発表（3年生）	卒業論文執筆の作法、文献、史料の探し方について
第17回	個別報告	第1回 報告と質疑・討論
第18回	個別報告	第2回 報告と質疑・討論
第19回	個別報告	第3回 報告と質疑・討論
第20回	個別報告	第4回 報告と質疑・討論
第21回	個別報告	第5回 報告と質疑・討論

第22回	個別報告	第6回	報告と質疑・討論
第23回	個別報告	第7回	報告と質疑・討論
第24回	個別報告	第8回	報告と質疑・討論
第25回	個別報告	第9回	報告と質疑・討論
第26回	個別報告	第10回	報告と質疑・討論
第27回	個別報告	第11回	報告と質疑・討論
第28回	個別報告	第12回	報告と質疑・討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ＊受講生は、質疑・討論に参加する準備を整え授業にのぞむこと。
- ＊本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

論文を講読するため教科書は使用しない。

【参考書】

鳥海靖他編 『日本近現代史研究事典』東京堂出版、1999年
藤井譲治他編 『日本の歴史 近世：近現代編』ミネルヴァ書房 2010年
伊藤隆他編 『近代日本研究入門（増補版）』東京大学出版会、2012年
筒井清忠編 『昭和史講義』筑摩書房、2015年
小風秀雅編 『大学の日本史4 近代』山川出版社、2016年
古川隆久 『昭和史』筑摩書房、2016年
筒井清忠編 『昭和史講義2』筑摩書房、2016年
村上紀夫 『歴史学で卒業論文を書くために』創元社 2019年
松沢裕作他編 『日本近・現代史研究入門』岩波書店 2022年
その他、授業内で適宜、紹介。

【成績評価の方法と基準】

授業態度（意欲・授業にのぞむ姿勢・積極性）30％

担当した報告の内容30％

平常点（予習復習、質疑応答、討論への参加）40％

【学生の意見等からの気づき】

卒業論文の指導は、個別指導の他、ゼミの時間内に団体指導として適宜おこないます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、タブレット、スマートフォンなどの情報機器

【その他の重要事項】

必要に応じて学習支援システムを適宜利用する。

【Outline (in English)】

We will read papers on modern Japanese history, deepen understanding of it and learn how to study history.

Acquire the ability to read historical materials and group and organize previous research.

Acquire the ability to research historical materials and literature in libraries and museums.

Acquire the skills to creat resumes, reports and papers.

Students should prepare to participate in the class,such as reading the elective thesis carefully and organizing the issues.

Basically,the time for class preparation and review is 2hours each.

Class attitude “Motivation,attitude for class,Aggression”30%

Contents of the report which you are charged in.30%

Normal points “preparation and review for class,Q and A,participation in discussions.”40%

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋古代史

飯尾 秀幸

授業コード：A3135 | 曜日・時限：月2/Mon.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「家族」は、人類の誕生とともに居住単位・婚姻単位・経済単位として存在するが、歴史の各段階においてそれは変遷する。この授業においては、文化人類学・考古学の成果に学びつつ、婚姻単位としての家族が如何なる構造をもつものであったのかを中国古代史を対象として考える。

【到達目標】

家族とは、いかなるものかを19世紀～20世紀における文化人類学の展開から理解し、説明できる。
また、集落・家屋といった考古学的研究の成果をどのように歴史学に取り入れるかを習得することができる。
史料の扱い方（漢籍と甲骨文字・青銅器銘文など）に精通することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式

文化人類学の調査などを参考に、歴史学において家族をどう捉えたらよいかを考え、中国の新石器時代における家族を、とくに婚姻単位としての家族という観点から位置づける。
現代の家族問題と比較して、受講生自身の問題意識を高め議論を深めていきたい。

なおリアクションペーパー・質問や課題について、その代表的なものを紹介し機会を設けて更なる説明を加えることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	歴史学における空間（地域）を考える。	n地域論を理解し、具体的に地域間の諸関係を考える。
第2回	歴史学における時間（時代区分論）を考える。	時代区分論を理解し、具体的に時代の画期を提示し、その変化の意味を考える。
第3回	核家族のイメージの再考	モン族（中国南部）、モン族（ヴェトナム北部）の集落構造・婚姻制度から歴史的家族を考える。
第4回	婚姻単位としての家族を考える。	文化人類学における家族の方法論から家族論を検討する。
第5回	経済単位としての家族を考える	社会経済史の議論から家族論を考える
第6回	歴史学が考える家族の成立と社会・国家との関係を検討する。	婚姻単位・経済単位としての家族が居住単位としての家族に合一することを家族の成立と定義する意味を考える。
第7回	国家と社会・家族の理論的展開を概観する。	社会と家族が国家支配と如何なる関係にあるのかを検討する。
第8回	中国考古学の成果を検討する。	中国文明の地域的多様性を考える。
第9回	姜寨遺跡の紹介	発掘された紀元前4500年ころの一つの集落の構造を考える。
第10回	ボロロ族の集落構造	レヴィ・ストロースの調査に基づいて、ブラジルのボロロ族の集落構造・婚姻制度を紹介する。
第11回	姜寨遺跡からみた集落構造の意味	ボロロ族を参考に、仰韶文化期の集落構造を考える。
第12回	半坡遺跡、その他の仰韶文化期の遺跡の紹介	仰韶文化期のその他の遺跡から集落構造、婚姻制度を考える。
第13回	竜山文化期以降の集落遺跡の紹介と「家族」成立前史	新石器時代後半の集落と家屋の状況を考える。
第14回	春学期のまとめ・解説	歴史学、文化人類学での家族の扱い方をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国古代史をテーマとした概説書を読むことを予習として、知識を得てください。また授業中で歴史学、文化人類学などの研究書を紹介いたしますので、参照してください。とくに興味を引くテーマには積極的に検索して書物のありかを確認して調べていただきたい。

予習・復習は、講義1回につき4時間を標準とします。

また絶えず、現在の家族について考えることを望みます。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

飯尾秀幸『中国史のなかの家族』（山川出版社、2008）

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムで提出された各回の授業内容についての200字程度のレポート、および学期末に提出を課すレポート（600字程度）で評価する。前者を40％・後者を60％とする。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすく説明することに心がけます。

【その他の重要事項】

質問は、授業中に原則として受けます。また学習支援システムにEメールアドレスを提示しますので、いつでもメールで質問してください。

【Outline (in English)】

This course introduces about the formation of the family in ancient China.

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the family history, family styles and the establishment of family in Chinese ancient times.

The goals of this course are to learning about the formation of the family in ancient China and understanding how to handle historical materials. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (40%), term-end report (60%), and in-class contribution.

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋中世史

塩沢 裕仁

授業コード：A3136 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人の生活に不可欠な水を通して、中国が水問題に対してどのように対処したのか、水をどのように有効利用したのかをみていきます。これにより、近年頻発する日本の水害についても考えていきます。

【到達目標】

水に関する中国人の活動に対し、それを生み出した要因と背景、それによる影響と発展について理解します。また具体的事例を通して、文献史料だけでなく文物、遺構、古地図などを併用した研究の方法、分析および考察について実践的テクニックを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行い、パワーポイントと板書で説明しますので、ノートに必要事項を記入し、説明を記録します。また、文献、地図、写真、絵、表などの資料の使い方も学習し、与えられた資料を使って、分析する方法を学びます。学生からの質問に関しては授業終了後に受け付け、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	水問題	水問題と学習の意義
第2回	河川史 1	黄河
第3回	河川史 2	長江
第4回	河川史 3	渭水
第5回	河川史 4	洛水
第6回	運河史 1	運河の構造
第7回	運河史 2	運河の発展
第8回	穀倉	穀物の運搬と保管
第9回	水戦史 1	三国志の水戦
第10回	水戦史 2	淝水の戦い
第11回	水戦史 3	襄陽をめぐる戦い
第12回	庭園	庭園の種類と発展
第13回	水害	災害と防災
第14回	試験とまとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で資料、論文等を配布もしくは指示しますので、それを読んでおいてください。また、質疑応答により確認をし、理解度を高め、授業後は各自参考書等により補足します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書はありません。

資料については配布しますが、レジュメは配布しません。

【参考書】

愛宕元・富谷至編『中国の歴史 上・下』昭和堂、2009年改訂版
 富谷至・森田憲司編『中国の歴史 上・下』昭和堂、2016年改訂版
 『中国の歴史（全集叢書）』講談社、2005年
 その他、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(30%)と筆記試験(70%)

【学生の意見等からの気づき】

この授業では自分で書くことにより、「自分のノート」を作ってもらいたいのので、写真撮影を禁じます。

【学生が準備すべき機器他】

色鉛筆：作業をしてもらいます。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

This course introduces an understanding of Chinese history in respect to various issues on water. The aim of this course is to help students acquire an importance of water in life, city, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand the flow of Chinese history, the factors and backgrounds that created the historical facts, their influence and development, and the mutual influence and international relations with the surrounding areas.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each class meeting (30%) and term-end examination(70%).

HIS300BE（史学 / History 300）

東洋史外書講読 I

山元 貴尚

授業コード：A3139 | 曜日・時限：水2/Wed.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古来、日本では中国より伝来した文章を日本の言葉に書き下して翻訳し、理解してきました。漢文を書き下し、講読することは日本語能力を高めることにもつながります。本授業では、漢文の基礎から正史と呼ばれる中国の歴史を記した史料や比較的平易な漢文史料を講読し、卒業論文作成に必須な漢文講読能力を高め、関連資料を捜す手段や工具書の用法を学習します。

【到達目標】

本授業では漢文を「白文」と呼ばれる句読点が付されていない原文を用い、訓読点や送り仮名を付して訓読する能力を高め、現代語に翻訳することで、東洋史で卒業論文を書くために必須となる漢文を自分で講読できる能力を養う。漢文講読を通じて日本語の奥深さを理解し、現代日本語の文章作成能力や外国語翻訳能力、論理的思考力等に活用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は演習形式で行います。毎回担当者を決めて、担当者は訓読と現代語訳とを用意して報告してもらう。担当者の訓読や解釈について、全員で議論する形式で演習を進めてゆく。担当者や学生からの質問に関しては授業前後・授業中に随時受付、学習内容に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	史料の紹介、授業の進め方の説明、調べ方の説明
第2回	故事成語を読む(1)	漢文講読の基礎(1) 担当者の報告と参加者全員による議論
第3回	故事成語を読む(2)	漢文講読の基礎(2) 担当者の報告と参加者全員による議論
第4回	正史講読(1)	担当者の報告と参加者全員による議論
第5回	正史講読(2)	担当者の報告と参加者全員による議論
第6回	正史講読(3)	担当者の報告と参加者全員による議論
第7回	正史講読(4)	担当者の報告と参加者全員による議論
第8回	地理史料『水経注』講読(1)	担当者の報告と参加者全員による議論
第9回	地理史料『水経注』講読(2)	担当者の報告と参加者全員による議論
第10回	地理史料『水経注』講読(3)	担当者の報告と参加者全員による議論
第11回	地理史料『水経注』講読(4)	担当者の報告と参加者全員による議論
第12回	地理史料『水経注』講読(5)	担当者の報告と参加者全員による議論
第13回	地理史料『水経注』講読(6)	担当者の報告と参加者全員による議論
第14回	総括と期末試験	担当者の報告と参加者全員による議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回で担当者を決め、担当者には漢文の訓読や現代語訳を予習してもらう。また、担当者以外にも質問、回答を求めるので、全員予習が必須となります。また、授業後に授業内容をまとめ、復習するようにしておく。漢文知識に自信がない学生は事前に基礎的知識を自宅で学習しておいてください。本授業の準備や復習時間はそれぞれ2時間程度とする。

【テキスト（教科書）】

随時配布いたします。

【参考書】

加地伸行著『漢文法基礎—本当にわかる漢文入門—』（講談社学術文庫、2010年10月）
そのほか授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の積極的な参加と事前学習の状況を基準とした平常点(50%)及び期末試験(50%)で評価する。

事前学習をせずに出席すると授業中に行う議論に参加できませんので、欠席扱いになります。事前学習を必須事項といたします。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業を心がける。

授業内で学習した漢文法のポイントや内容については各自ノートにまとめておく。

【学生が準備すべき機器他】

参加する学生は各自「漢和辞典」(出版社は問いません)を用意してください。期末試験の時にも、辞書の持ち込みを可とします。授業時は電子辞書でも構いませんが、期末試験に電子辞書は持ち込めません。

【その他の重要事項】

講義内容をスマートフォン等で撮影・録音することは禁止とする。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course involves translating classical Chinese texts into Japanese to enhance language skills and understanding. Students will read and interpret "Zhengshi(正史)" (official histories) to prepare for writing graduation theses and learn to find and use reference materials.

【Learning Objectives】

In this course, students will learn to read and translate classical Chinese texts into modern Japanese, improving their skills for writing graduation theses and enhancing their overall language abilities.

【Learning activities outside of classroom】

Each session will have a designated person to prepare translations of classical Chinese texts. All students must review the material, prepare questions, and summarize the lesson. Those less confident in classical Chinese should study at home. Preparation and review time is about two hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Evaluation will be based on regular participation and preparation (50%) and the final exam (50%). Attending without preparation will result in being marked absent, as you will not be able to participate in discussions. Therefore, prior study is mandatory.

HIS300BE（史学 / History 300）

東洋史外書講読Ⅱ

宇佐美 久美子

授業コード：A3140 | 曜日・時限：金5/Fri.5
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド洋西海域における移民史研究に関する英語文献を輪読していく。
さらに移民史研究について、その方法論や研究史を含めた概略を学ぶ。

【到達目標】

英語で書かれた論文を読むスキルを身につける。
単に英語を日本語に置き換えるのではなく、論理の展開に注目して適切な訳語・訳文を選択できるようにする。
特に、研究史をふまえて「定訳」を確認する習慣を身に付ける。
移民史研究についての基礎知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業形式で、インド洋西海域における移民史に関する英語文献（研究論文または史料）を講読する。
毎回、発表担当者が提出した訳文をもとに質疑応答を行い、全受講生の提案をふまえて訳文を推敲する。
さらに、リアクションペーパー等のコメントを次回授業内で紹介し全受講生へのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テキスト紹介	テキスト配布など
第2回	英文論文読解の基本事項の説明	テキスト講読
第3回	インド洋西海域史研究の概略	テキスト講読
第4回	移民史研究の概略	テキスト講読
第5回	インド洋の自然環境と航海技術	テキスト講読
第6回	14世紀までのインド洋西海域の移民史	テキスト講読
第7回	15～16世紀のインド洋西海域の移民史	テキスト講読
第8回	17～18世紀のインド洋西海域の移民史	テキスト講読
第9回	19世紀のインド洋西海域の移民史(1)	テキスト講読
第10回	19世紀のインド洋西海域の移民史(2)	テキスト講読
第11回	19世紀のインド洋西海域の移民史(3)	テキスト講読
第12回	20世紀のインド洋西海域の移民史(1)	テキスト講読
第13回	20世紀のインド洋西海域の移民史(2)	テキスト講読
第14回	20世紀のインド洋西海域の移民史(3)／小テスト	テキスト講読／小テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。
進度に合わせ、毎回予習として担当箇所以外も英文テキストを読む。
固有名詞、歴史用語などについて不明点があれば調べておく。
和訳担当者は担当箇所の訳文を授業時に配布し、他の受講者が検討できるようにする。
復習時には頻出用語の定訳をリストアップするとともに、キーセンテンスを辿って著者の論考の流れを確認しておく。

【テキスト（教科書）】

教科書は第1回の授業で決定し配布する。

【参考書】

家島彦一『海域から見た歴史—インド洋と地中海を結ぶ交流史』名古屋大学出版会2006年
古賀正則・内藤雅雄・浜口恒夫編『インド人移民社会の研究』東大出版会2000年

【成績評価の方法と基準】

平常点(80%)と最終講義における小テスト(20%)を総合して成績を決定する。

平常点については、テキストを読み取る上での重要な論点を提起し、その背景を詳しく調べるなど、論議を深めようという意欲を高く評価する。
小テストでは、授業での論議や検討をふまえ、論理の展開に注目して適切な訳語を選択する力、段落のキーセンテンスの正確な解釈力を評価する。
単に英語の能力だけで評価するわけではない点を十分に留意してもらいたい。

【学生の意見等からの気づき】

「英語の論文を初めて読んだので難しかったが、勉強になった。」という意見を参考に、さらに丁寧に授業を進めていきたい。

【その他の重要事項】

第1回の授業でテキストを配布し、輪読の分担を決めるため、必ず出席すること。
難易度や進度について要望がある者は、必ずその場で意見を述べてもらいたい。
教員との連絡用メールアドレスは下記のとおり。
kumiko.usami.c4@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

The students are required to read an English thesis dealing the historical development of community networks and the maritime trade activities in the western part of the Indian Ocean.
They are provided the opportunity to speculate historiography, especially on the historical studies of the immigrant communities or 'slavery/slave trade' in various areas.
At the end of the course, students are expected to read the English thesis from the perspective of historians, examining its context carefully.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant paragraphs from the text. Your study time will be about four hours for a class.
Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination(20%) and in-class contribution(80%).

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋古代史

内田 康太

授業コード：A3143 | 曜日・時限：金3/Fri.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代ローマ史に関する諸問題のうち、「共和政期（前6世紀～前1世紀）における公職選挙」を取り上げる。共和政ローマの運営を支えた公職選挙のしくみを制度と実態の両面から分析することで、その支配構造の特質について学ぶ。

【到達目標】

到達目標は以下のとおり。

- ・共和政ローマにおける公職選挙について基礎的知識を習得する。
- ・一次資料の扱い方を習得し、公職者の選出に対する民衆の影響力について自ら考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行うが、第12回・第13回は受講生によるディスカッションを組み入れる。講義形式の授業については、授業時間内の質疑応答に加えて、授業後に毎回アクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の理解度、関心事項、疑問点等を確認しながら授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ローマ共和政と公職選挙
第2回	公職のしくみ	諸公職の機能と公職階梯（クルスス・ホノルム）
第3回	公職選挙のしくみ（1）	トリブス民会／平民会
第4回	公職選挙のしくみ（2）	ケントゥリア民会
第5回	クリエンテラ	庇護する者（パトロヌス）と庇護される者（クリエンス）
第6回	選挙運動（1）	固定票の保持をめぐる
第7回	選挙運動（2）	浮動票の獲得をめぐる
第8回	選挙不正	賄賂の分配とその効果
第9回	秘密投票	導入の経緯とその効果
第10回	対立候補	共和政末期（前1世紀）における競争の激化と票の分散
第11回	優先投票	優先投票ケントゥリア（ケントゥリア・ブラエロガティウア）の役割
第12回	投票者（1）	だれが投票したのか
第13回	投票者（2）	どのように投票したのか
第14回	試験・まとめと解説	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。参考書として挙げた書籍などを用いて、自主的に学習することが求められる。

【テキスト（教科書）】

特になし。担当教員が作成したレジュメ・資料を配布する。

【参考書】

エルンスト・マイヤー『ローマ人の国家と国家思想』（鈴木一州訳、岩波書店、1978年）
島田誠『世界史リブレット3 古代ローマの市民社会』、山川出版社、1997年。
長谷川岳男／樋脇博敏『古代ローマを知る事典』、東京堂出版、2004年。

【成績評価の方法と基準】

期末の筆記試験（80％）
リアクションペーパーや質問等、授業への積極的参加度（20％）

【学生の意見等からの気づき】

一次資料（日本語訳）の読解に興味をもつ受講生が多かったことから、史料分析を取り込んだかたちでの講義を継続する。また、受講生の関心を把握し、それに沿った授業を進めるために、引き続きリアクションペーパーを通じた質疑応答を活用する。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with the issue of elections in the Roman Republic (6-1 century B.C.). Analyzing it from both institutional and practical aspects, it helps students learn the characteristics of governance in this ancient polity.

Learning Objectives: The followings are the goals of this course.

- Students are able to acquire fundamental knowledge concerning elections in the Roman Republic.

- Using primary sources properly, students are able to estimate the influence of the people over the outcome of elections.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. They are required to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves.

Grading Criteria: Grading will be decided based on term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

HIS200BE (史学/History 200)

西洋中世史

内川 勇太

授業コード：A3144 | 曜日・時限：水2/Wed.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アングロ＝サクソン期イングランドの歴史を、写本や文書などの文字資料・貨幣・考古学資料等の画像を積極的に活用しながら概観する。前半において政治史を中心に歴史的展開を整理したのち、後半においてテーマ別にアングロ＝サクソン期イングランドの諸側面を考察する。

【到達目標】

アングロ＝サクソン期イングランド（450年頃から1066年）の歴史的展開を、政治・宗教・社会・文化等の諸側面から説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎回終了後にリアクションペーパーを提出してもらい、全体に共有すべき質問等は次の授業冒頭において取り上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	アングロ＝サクソン期イングランドの概要
第2回	イングランドの政治的統合過程①	アングロ＝サクソン人の移住と諸王国の成立
第3回	イングランドの政治的統合過程②	キリスト教への改宗と教会組織の整備
第4回	七王国（ヘブターキー）概念とブリテンの覇者（ブレトワルダ）概念	歴史学用語としての七王国（ヘブターキー）とブリテンの覇者（ブレトワルダ）の成立とその是非
第5回	イングランドの政治的統合過程③	マーシア王国の覇権
第6回	イングランドの政治的統合過程④	ヴァイキングの侵入
第7回	イングランドの政治的統合過程⑤	ウェセックス王国によるイングランド地域の政治的統合
第8回	イングランドの政治的統合過程⑥	デーン人とノルマン人による2度の征服とアングロ＝サクソン期イングランドの終焉
第9回	物質文化	アングロ＝サクソン期の考古学的遺物と写本
第10回	ラテン語と古英語	アングロ＝サクソン期イングランドのラテン語・古英語併用状況
第11回	集会を通じた統治と文書利用	アングロ＝サクソン期イングランドの集会における文書利用を通じた統治
第12回	貨幣	アングロ＝サクソン期イングランドの貨幣の発掘、貨幣の種類、貨幣制度の発展
第13回	『アングロ＝サクソン年代記』の2つの「十字」と天文・大気光学現象	『アングロ＝サクソン年代記』の2つの「十字」が指す天文・大気光学現象とその科学史上の意義
第14回	まとめ	授業の復習とレポートの解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の予習、授業内容の復習、参考書等の学修を合わせて各回4時間以上の予習・復習を行う。

【テキスト（教科書）】

講義で使用する資料は全てpdfあるいはパワーポイント形式で配布する。

【参考書】

1. 近藤和彦編『イギリス史研究入門』山川出版社 2010
2. 青山吉信編『世界歴史体系イギリス史1：先史・中世』山川出版社 1991
3. トマス・チャールズ・エドワーズ編・常見信代監訳『オックスフォードブリテン諸島の歴史2：ポスト・ローマ』慶應義塾大学出版会 2010
4. ウェンディ・デイヴィス編・鶴島博和監訳『オックスフォードブリテン諸島の歴史3：ヴァイキングからノルマン人へ』慶應義塾大学出版会 2015
5. 川北稔編『新版世界万国史11 イギリス史』山川出版社 1998

【成績評価の方法と基準】

期末レポート(70%)、毎回のリアクションペーパー(30%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

参考資料を参照可能な機器（パソコン、タブレット、スマートフォン等）。

【Outline (in English)】

Course outline: An overview of the history of Anglo-Saxon England will be presented by using written sources, coin finds and archaeological finds. The first part concerns with the political development of the period while the second part considers its various aspects.

Learning Objectives: This course aims to outline the history of Anglo-Saxon England (c. 450-1066) from political, religious, social and cultural perspectives.

Learning activities outside of classroom: reading of the text before and after each class, reading of references

Grading Criteria/Policy: Report(70%), Reaction Papers(30%)

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋近代史

中嶋 毅

授業コード：A3145 | 曜日・時限：金3/Fri.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代ロシアの政治社会を多面的に考察する。本講義では、ロシア帝国の形成から第一次世界大戦に至るまでのロシア近代史を概観し、ヨーロッパの政治発展の一類型としてのロシア世界を考察する。

【到達目標】

近代ロシア帝国の歩みを、主に政治社会史の観点から検討し、近代国家の特徴を比較考察する視角を習得する。また、ロシア近代史の経験を近代世界の中に位置づける作業を通じて、歴史的思考を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。授業の最後に小課題を提示し、Hoppiiで提出してもらう。その際、授業および課題作成にあたっての質問を随時記載してもらい、次回授業時までに回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	授業の概要と授業の進め方
第2回	ロシア帝国の形成（1）	ビョートル1世と帝国の形成
第3回	ロシア帝国の形成（2）	ビョートルからエカチェリーナへ
第4回	ロシア帝国の形成（3）	エカチェリーナ2世とロシア帝国の発展
第5回	19世紀前半のロシア帝国（1）	ナポレオンを破った大国ロシア
第6回	19世紀前半のロシア帝国（2）	ニコライ1世と帝国の安定化
第7回	ロシア帝国の近代化（1）	アレクサンドル2世の「大改革」
第8回	ロシア帝国の近代化（2）	近代化の苦悩
第9回	近代ロシアの成熟	19世紀末のロシア帝国
第10回	近代ロシアの危機	ニコライ2世のロシア帝国
第11回	第一次世界大戦とロシア帝国	総力戦への対応
第12回	二月革命	ロシア帝国から共和制ロシアへ
第13回	十月革命とボリシェヴィキ政権	社会主義ロシアへの転換
第14回	全体のまとめ	近代ロシアの特徴

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

近代ロシア史の概説書を読み、歴史の大まかな流れを理解する。また、授業の際に提示する課題に取り組み、復習や準備学習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。配布資料を用いて授業を進める。

【参考書】

和田春樹編『ロシア史』上・下（山川セクション）山川出版社、2023年。田中陽児・倉持俊一・和田春樹編『世界歴史大系・ロシア史』全3巻（山川出版社、1994-97年）。

【成績評価の方法と基準】

授業中に課する課題の提出（50％）と学期末レポート（50％）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course will introduce students to the modern history of Russia from the formation of the Russian empire to the First World War. The Russian world as a type of European political development will be considered.

Students will acquire knowledge about various aspects of the Russian Empire. In doing so they will acquire a perspective to compare and consider the characteristics of modern nations.

Students are expected to read the materials as instructed and prepare for class participation. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Assignments (50 %), term paper (50 %)

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋現代史

古川 高子

授業コード：A3146 | 曜日・時限：月3/Mon.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史的考察力を養い、現代世界で生じている様々な事件や事柄を理解するために、国民国家、国民、民族、地域という視点から歴史を学ぶ。

【到達目標】

西洋近現代史において扱われる国民国家、国民、民族、地域といった概念で示される事象が具体的にどのようなものだったのか、またどのような意味を持っていたのかを理解する。そして、国民国家の形成とその変遷や地球全体にまたがる人の移動等の歴史の変容過程を学ぶことで、現在の新自由主義時代に生じている諸問題の端緒を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

・国民、国民国家、自由主義、国民主義、帝国主義、ファシズム等の諸概念に関する歴史学上の議論を紹介するとともに、西洋諸国が支配した地域における問題も含めた近現代史の諸事象を国民や民族、地域といった視点で考察する。授業は講義を中心に進める。
・講義のレジュメは、前日までに学習支援システムを通じて配布するので、各自プリントアウトして、授業にそれを利用すること。
・講義において疑問に感じたことについては授業の最後の時間に質問時間を設けるのでそこで行うこと。時間不足で解答できなかった質問については学習支援システムを通して全員に回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	試験等の受け方、書評の行い方、註の付け方等の説明
第2回	国民国家の諸問題	ネイション概念、国民国家、ネイション・ナショナリズム研究の紹介、地域概念等の解説
第3回	フランス革命と国民	フランス革命の意味、フランス革命と植民地支配、女性についてのフランス革命
第4回	自由主義と国民主義	事例研究：ハプスブルク帝国の19世紀後半における国民社会形成、多言語使用地域
第5回	産業革命・社会問題	資本と労働、階級形成、社会問題、社会主義の思想、1848年革命、ウィーンの労働者街区
第6回	帝国主義の時代	帝国主義、米西戦争、南アフリカ戦争他
第7回	世界をマクロとミクロに把握する	近代化論、従属論、世界システム論、エトノスという把握の仕方
第8回	人の移動と世界	大都市の成立、新大陸、移民の世紀
第9回	ヴェルサイユ体制と国民国家の制度化	第一次世界大戦前のネイションとナショナリティ、ウィルソンの14箇条、マイノリティ保護
第10回	ファシズム時代の国民主義と国民的抵抗	世界各地のファシズム、世界恐慌、反ファシズム
第11回	アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国	冷戦、アジア諸国の独立、アラブ地域の動向と中東戦争、アフリカ諸国の独立、ラテンアメリカの動向
第12回	冷戦の時代	ヨーロッパにおける冷戦、国民国家体制の普遍化、冷戦国家
第13回	新自由主義の時代	新自由主義の成立、グローバル・サウス、新自由主義のヘゲモニー
第14回	試験、まとめ	授業内筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指示する参考書をできるだけ読み、国民、国民国家、民族あるいは地域といった概念や事例の理解を深めること。本授業の予習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に用いない。

【参考書】

参考書は授業中に適宜指示する。但し、以下の参考書は本講義において重要なので可能な限り読んでおくこと。

・小沢弘明「東欧における地域とエトノス」歴史学研究会編『現代歴史学の成果と課題 II 1980-2000年 国家像・社会像の変貌』（青木書店、2003）pp. 223-237。
・木畑洋一『二〇世紀の歴史』（岩波書店、2014）。

【成績評価の方法と基準】

・レポート（書評論文）を含む平常点（40％）および筆記試験（60％）による総合評価を行う。

【レポート（書評論文）】は、講義で示す参考書から各自の選好に従って、2冊選んで読み、相互に結びつけながら書評を行った上で、評者=学生の意見まで入れたものとする。それを学習支援システムを通じて提出（提出時期は講義開始時に指示）。書評「論文」であることに注意せよ。

【筆記試験】は、ノート・レジュメのみ、持ち込み可の論述試験。授業で学んだ事柄について、多くの参考書を読んで理解を深め、論点を抜き出してノートにまとめておき、それをもとに筆記・レポート試験に臨むこと。試験当日に参考文献を読んでも間に合わない知識と思考力および論理力を試す試験を行うので、必ず参考書を読んでおくこと。試験は暗記したものを記すものではないので、文章を正しく、論理的に書く練習をしておくこと。

【注意】レポート（書評論文）において、参考文献を利用した場合は、かならず、出典（頁も含む）および引用註を付けること。剽窃が判明した場合は、全体の評価をしないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Goals of the course】

Studying history from the perspective of nation-states, nations, ethnic groups and areas. And enhancing the thinking ability and understanding the meanings and roles of various events in the world history of 19. and 20. century.

【Learning objectives and methods】

Introducing ideas and discussions about nations, nation-states, and ethnic groups. Including some case studies, examining events in world history from the viewpoint of nations, nation-states, and ethnic groups. Basically lectures, including answering questions.

【Learning activities outside of classroom】

Reading suggested books in the class to learn and understand historical concepts and events.

【Grading criteria/policy】

40 % from contributing through positive attitude in class and book reviews, 60% from a writing test with notes, reports and summary.

HIS300BE (史学 / History 300)

西洋史外書講読 I

内田 康太

授業コード：A3147 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた西洋史関係の学術文献を精読することにより、読解に必要な様々な基礎的技術・知識を学ぶ。

【到達目標】

- この授業の到達目標は以下のとおり。
- ・英文の意味を正確に理解できること。
- ・学術文献の構造や論理展開を正確に理解できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、アテナイ民主政の成り立ちについて現代の民主主義との連関も視野に入れて論じる英語文献を精読する。各受講生は、自身の担当として割り当てられたテキストの指定箇所について事前に日本語訳を作成・提出する。訳読担当以外の受講生は、提出された日本語訳を検討したうえで授業に臨み、訳語・訳文の正確性や文献の内容、あるいは、他の疑問点等に関して質問・コメントする。そのため、訳読担当者だけでなく受講者全員が毎回、訳読予定の範囲について十分に予習しておくことが必要となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要説明と訳読担当箇所の決定
第2回	民主政とは何か	民主政という言葉の意味
第3回	イデオロギー	アテナイ民主政を支える理念
第4回	国制（1）	アテナイにおける市民
第5回	国制（2）	民会のしくみ
第6回	国制（3）	裁判所のしくみ
第7回	国制（4）	役人のしくみ
第8回	国制（5）	アテナイ市民の政治参加
第9回	政体の変遷（1）	クレイステネスの改革～前5世紀における変革
第10回	政体の変遷（2）	民主政の喪失と復活
第11回	政体の変遷（3）	前4世紀の民主政とその特質
第12回	民主政のその後（1）	民主政の不在
第13回	民主政のその後（2）	民主政の再発見と現代の民主主義
第14回	まとめ	到達度の確認とレポート課題の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の授業外学習時間は4時間以上となる。授業に臨むにあたっては英語文献の所定箇所について訳文を準備し、授業後には自身の訳文を再検討することが求められる。

【テキスト（教科書）】

M. H. Hansen, 'The Nature of Athenian Democracy', in D. Piovani and G. Giorgini (eds.), *Brill's Companion to the Reception of Athenian Democracy. From the Late Middle Ages to the Contemporary Era*, Leiden/Boston, 2021, pp. 27-53.

【参考書】

橋場弦『古代ギリシアの民主政』、岩波新書、2022年。

M・I・フィンリー『民主主義——古代と現代』（柴田平三郎訳）、講談社学術文庫、2007年。

【成績評価の方法と基準】

- 授業に対する予習度（30％）
- 英語文献読解の精度（30％）
- 期末レポート（20％）
- 質問やコメント等、授業への積極的参加度（20％）

【学生の意見等からの気づき】

訳読担当者以外の授業参加を更に向上させるために、授業内ディスカッションや質疑応答の機会を増やす。

【Outline (in English)】

Course outline: This course helps students acquire the basic skills and knowledge to read academic texts on western history written in English, by reading them closely.

Learning Objectives: The followings are the goals of this course.

- Students are able to understand accurately the meaning of English sentences.

- Students are able to understand accurately the structure and argument of academic texts.

Learning activities outside of classroom: Students' study time will be at least four hours for a class. They are expected to make a translation of the assigned English text before each class meeting, and after the class to review their own translation.

Grading Criteria: Grading will be decided based on the preparation for each class meeting (30%), the reading comprehension of English texts (30%), term-end paper (20%), and in-class contribution (20%).

HIS300BE (史学 / History 300)

西洋史外書講読Ⅱ

皆川 卓

授業コード：A3148 | 曜日・時限：木3/Thu.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キリスト教の多宗派化と国家間の権力闘争が進んだ17世紀のヨーロッパにおいて、新たに構想されたヨーロッパ諸国間の「信用」(trust)をゼミの検討対象とする。学期を通じてテーマに関わる英語文献を講読し、地縁・血縁・宗教といった伝統的紐帯によらない国家間関係の基礎概念が、どのような条件下でどのように生まれてきたのかを学ぶ。

【到達目標】

西洋近世・近代史に関する外国語文献に慣れ、最終的には「逐語訳」に依存せずにおおよその内容と文脈を理解し、当該のジャンルで卒業論文を書くのに必要な外国語知識を独力で収集・分析できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

当該テキストの流れに従い、順に上から読み下し、理解を確認・共有していく。テキストの解説担当者の順番を決めたのち、受講者はそれぞれ前もってその箇所を講読しておく（AI翻訳も可。ただしAIは構文分析力及びテキスト構成力が低いので、意味が通らない箇所は、自分で原文に目を通し、直しておく）。各回の担当者は担当箇所の内容と文脈を記したA4で1～2枚程度のレジュメを作成し、他の受講者はそれを共有しながら疑問点や意見を示していく。教員は必要に応じてヒントを示し、検討のちにコメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テキストの時代背景	テキストの時代背景である17世紀のヨーロッパについて基礎知識を共有します。座学による本科目唯一の回です。
第2回	近代国際法思想の起こり①	Chapter 1, "Alberico Gentili(1552-1608):New Ways of Posing the Problem of War and Interstate Relations" 1節を分析・検討します。
第3回	近代国際法思想の起こり②	Chapter 1, "Alberico Gentili(1552-1608):New Ways of Posing the Problem of War and Interstate Relations" 2節を分析・検討します。
第4回	近代国際法思想の起こり③	Chapter 1, "Alberico Gentili(1552-1608):New Ways of Posing the Problem of War and Interstate Relations" 3節を分析・検討します。
第5回	国際平和思想の起こり①	Chapter 2, "Plans For Universal Peace in Europe - The Limits of a Balance of Power"1節を分析・検討します。
第6回	国際平和思想の起こり②	Chapter 2, "Plans For Universal Peace in Europe - The Limits of a Balance of Power"2節を分析・検討します。
第7回	自然法と国際法①：グロティウス	Chapter 3, "Jus Naturae et Gentium - The Limits of a Juridical Order"1節を分析・検討します。
第8回	自然法と国際法②：ホッブズ	Chapter 3, "Jus Naturae et Gentium - The Limits of a Juridical Order"2節を分析・検討します。
第9回	自然法と国際法③：プーフENDORF	Chapter 3, "Jus Naturae et Gentium - The Limits of a Juridical Order"3節を分析・検討します。
第10回	権力政治の現実①：ライプニッツ	Chapter 4, "The Struggle for Hegemony and the Erosion of Trust"1節を分析・検討します。

第11回	権力政治の現実②：宗教戦争	Chapter 4, "The Struggle for Hegemony and the Erosion of Trust"2節を分析・検討します。
第12回	権力政治の現実③：サン・ピエール	Chapter 4, "The Struggle for Hegemony and the Erosion of Trust"3節を分析・検討します。
第13回	通商という視点	Chapter 5, "The Doux Commerce and Interstate Relations: Trust and Mistrust in the Emerging Economic Discourse" を分析・検討します。
第14回	結論と総括	結論部分を確認すると共に、全体を総括します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講読箇所を読んできます。最初は著者の意図がつかめないことも多いので、前回の授業で取ったメモを参照しながら読みます（2時間）。割り当て回は内容をレジュメにまとめ、それを受講者で共有します。その場合は3～4時間の予習を要します。また毎回の振り返りに1時間ほどの復習が望まれます。

【テキスト（教科書）】

Peter Schroeder, Trust in Early Modern International Political Thought, 1598 - 1713 (Ideas in Context, Series Number 116) , Cambridge University Press, 2019（テキストは章ごとにコピーで事前配布します）

【参考書】

- ・山内進『グロティウス「戦争と平和の法」の思想史的研究－自然権と理性を行使する者たちの社会』ミネルヴァ書房 2021
- ・山内進『掠奪の法観念史－中・近世ヨーロッパの人・戦争・法』（増補新装版）東京大学出版会 2024
- ・L.クリーガー（倉島隆訳）『プーフENDORFの政治思想』時潮社 1984
- ・前田俊文『プーフENDORFの政治思想－比較思想史的研究』成文堂 2004
- ・S. プーフENDORF（前田俊文訳）『自然法に基づく人間と市民の義務』京都大学学術出版会 2016
- ・M.C.I. アベ・サン・ピエール（本田裕志訳）『永久平和論』（1）（2）京都大学学術出版会 2013
- ・E.J. エイトン（渡辺正雄訳）『ライプニッツの普遍計画』工作社 1990
- ・周園『「スベイン擁護論」からみるジェンティエリの『海洋領有論』』『東洋法学』60(2016), pp.73-98

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（受講姿勢、内容理解と背景知識の事前調べ、分析の独自性）：50%
- ・説明担当回の発表・資料内容・背景理解及び独自見解の提示：50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません（テキストは章ごとにコピーで事前配布します）。担当回のレジュメは前日までに教員にメール等で送れば印刷する。当日の場合は自分で人数分印刷して用意すること。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】 In Europe in the 17th century, when Christianity became multid denominational and power struggles between nations progressed, the newly conceived concept of "trust" between European countries will be examined in the seminar. Throughout the semester, we read English-language literature related to the theme, and learn how and under what conditions the basic concepts of interstate relations that are not based on traditional ties such as geographical ties, blood ties, and religions were born.

【到達目標（Learning Objectives）】 Become familiar with foreign language literature on Western early modern and modern history, ultimately understanding the general content and context without relying on "literal translations," and being able to independently gather and analyze the foreign language knowledge necessary to write a thesis in that genre.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】 Participants need to read the subscription section in advance. At first, it is often difficult to grasp the author's intentions, so I read it while referring to the notes I took in the previous class (2 hours). The assignment is a resume that summarizes the content and shares it with the students. In that case, it will take 3-4 hours of preparation. In addition, it is desirable to review for about one hour for each review.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

- ・Regular points (attitude towards the course, prior research on content understanding and background knowledge, originality of analysis): 50%
- ・Presentation and materials for the explanation session, understanding of background, and presentation of original insights: 50%

HIS300BE（史学 / History 300）

西洋現代史演習

大澤 広晃

授業コード：A3149 | 曜日・時限：木4/Thu.4
年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2025年度は、「冷戦」を演習のテーマとする。春学期は、関連する日本語文献と英語史資料を読み、テーマの多角的理解につとめる。秋学期は、卒業研究や自主研究にかんする発表の機会を設け、受講生が関心をもつテーマについてみんで議論する。

【到達目標】

- ・西洋現代史の主要なトピックを多角的に検討し、対象を総体としてみる姿勢を身につける。
- ・歴史学の研究に必要な基礎的スキルを習得する。
- ・研究成果を学術的作法に即して正確かつ明快に発表する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は演習形式で行う。文献講読も研究発表も受講生が主体なので、積極的な授業参加が求められる。授業内容や課題に対するフィードバックおよびコメントは、授業時間内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	春学期の授業計画の確認と役割分担の決定。
第2回	日本語文献・史資料講読①	『人びとのなかの冷戦世界』（以下、日本語文献）序章、および関連する英語史資料を読む。
第3回	日本語文献・史資料講読②	日本語文献第1章、および関連する英語史資料を読む。
第4回	日本語文献・史資料講読③	日本語文献第2章、および関連する英語史資料を読む。
第5回	日本語文献・史資料講読④	日本語文献第3章、および関連する英語史資料を読む。
第6回	日本語文献・史資料講読⑤	日本語文献第4章、および関連する英語史資料を読む。
第7回	日本語文献・史資料講読⑥	日本語文献第5章、および関連する英語史資料を読む。
第8回	日本語文献・史資料講読⑦	日本語文献第6章、および関連する英語史資料を読む。
第9回	日本語文献・史資料講読⑧	日本語文献第7章、および関連する英語史資料を読む。
第10回	日本語文献・史資料講読⑨	日本語文献第8～9章、および関連する英語史資料を読む。
第11回	日本語文献・史資料講読⑩	日本語文献第10～終章、および関連する英語史資料を読む。
第12回	自主研究の発表①	受講生による自主研究の発表と質疑・討論。
第13回	自主研究の発表②	受講生による自主研究の発表と質疑・討論。
第14回	自主研究の発表③	受講生による自主研究の発表と質疑・討論。
第15回	イントロダクション	秋学期の授業計画の確認と役割分担の決定
第16回	卒論構想案の発表①	受講生による卒論構想案の発表と質疑・討論。
第17回	卒論構想案の発表②	受講生による卒論構想案の発表と質疑・討論。
第18回	卒論構想案の発表③	受講生による卒論構想案の発表と質疑・討論。
第19回	卒論構想案の発表④	受講生による卒論構想案の発表と質疑・討論。
第20回	卒論構想案の発表⑤	受講生による卒論構想案の発表と質疑・討論。
第21回	卒論構想案の発表⑥	受講生による卒論構想案の発表と質疑・討論。
第22回	卒論構想案の発表⑦	受講生による卒論構想案の発表と質疑・討論。
第23回	自主研究の発表①	受講生による自主研究の発表と質疑・討論。

第24回	自主研究の発表②	受講生による自主研究の発表と質疑・討論。
第25回	自主研究の発表③	受講生による自主研究の発表と質疑・討論。
第26回	自主研究の発表④	受講生による自主研究の発表と質疑・討論。
第27回	自主研究の発表⑤	受講生による自主研究の発表と質疑・討論。
第28回	自主研究の発表⑥	受講生による自主研究の発表と質疑・討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献講読については、課題文を精読し、あらかじめ問いや質問を準備して授業に臨む。研究発表については、図書館やデータベースを活用して自主的に準備を進める。レジュメは事前に提出する。なお、文献講読・研究発表ともに、質疑応答で回答できなかった点については、追加の調査をして、翌週の授業で改めてフィードバックをする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

益田肇『人びとのなかの冷戦世界：想像が現実となるとき』岩波書店、2021年

【参考書】

O・A・ウェスタッド（佐々木雄太監訳）『グローバル冷戦史：第三世界への介入と現代世界の形成』名古屋大学出版会、2010年
O・A・ウェスタッド（益田実監訳）『冷戦：ワールド・ヒストリー』（上下）岩波書店、2020年
木畑洋一・中野聡『冷戦と脱植民地化I』（岩波講座世界歴史第22巻）、および同『冷戦と脱植民地化II』（岩波講座世界歴史第23巻）岩波書店、2023年
藤永康政・松原宏之編『「いま」を考えるアメリカ史』ミネルヴァ書房、2022年
平野千果子編『新しく学ぶフランス史』ミネルヴァ書房、2019年
木畑洋一・秋田茂編『近代イギリスの歴史—16世紀から現代まで』ミネルヴァ書房、2011年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業への取り組み、発表や質疑応答の質などを評価）：60％
- ・期末課題：40％

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores major themes in contemporary western history. For academic year 2025, we will focus on the Cold War. Students read relevant literature/sources written in Japanese and English, examining varied aspects of the theme. Meanwhile, students are required to give presentation about their graduation research and/or independent research projects.

< Learning objectives >

- 1) Students are able to understand key issues of contemporary western history through analysing them from various perspectives.
- 2) Students are able to acquire basic skills of historical research.
- 3) Students are able to present their research outcome in precise and articulate manners.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. In preparation, students are required to take on every assignment seriously. After the class, they have to review what they have learned in the class and, when necessary, prepare feedbacks to questions/comments they were not able to give proper answer in the class.

< Grading policy >

Class participation, assignments, oral presentation 60%, Final essay 40%

HIS300BE（史学 / History 300）

西洋前近代史演習

内田 康太

授業コード：A3150 | 曜日・時限：木4/Thu.4
年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋前近代史の卒業論文執筆に必要な基礎的技術・知識を習得する。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下のとおり。

- ・各自の関心に沿った学術文献の収集ができること。
- ・日本語・英語で書かれた学術文献を正確かつ批判的に読解できること。
- ・自身の研究を進展させるとともに、研究について論理的かつ説得的な報告ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は、古代ローマの女性をテーマとした英語文献を精読する。授業は受講生がテキストを日本語に訳出するかたちで進め、これを教員と受講生全員で検討することにより、西洋前近代史関係の英語文献を読み解くために必要となる様々な技術を学ぶ。あらかじめ訳読の担当者を決めることはしないため、受講生全員が十分な予習を毎回してくることが求められる。秋学期は、受講生による研究報告とそれに対する質疑応答・討論のかたちで授業を進める。3年生は、自らの研究テーマに関する先行研究・研究史と問題の所在を明らかにしたうえで、どのような方法でその問題を解決する見通しであるかについて報告する。2年生は、自らの研究テーマを絞り込み、関連する研究文献を収集するとともに、その中から少なくとも一点を精読したうえで、自由研究発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期のイントロダクション	研究テーマの探し方・研究文献の探し方
第2回	英語文献講読（1）	ローマ社会に生きる女性
第3回	英語文献講読（2）	史料のなかの女性
第4回	英語文献講読（3）	男性の領分・女性の領分
第5回	英語文献講読（4）	女性に付されたイメージと実態
第6回	英語文献講読（5）	女性と財産
第7回	英語文献講読（6）	女性と政治
第8回	英語文献講読（7）	女性らしさ
第9回	英語文献講読（8）	男性らしさ
第10回	英語文献講読（9）	女性の道徳性
第11回	英語文献講読（10）	男性らしさをもつ女性
第12回	英語文献講読（11）	女性らしさと男性らしさの折り合い
第13回	英語文献講読（12）	ローマ社会における女性の重要性
第14回	春学期のまとめ	到達度の確認と秋学期までの課題の発表
第15回	秋学期のイントロダクション	自由研究発表・卒業論文報告の概要説明とスケジュール確認
第16回	発表・報告の準備	口頭発表の方法・レジュメの作成方法
第17回	卒業論文報告（1）	3年生による卒業論文中間報告と質疑応答・討議
第18回	卒業論文報告（2）	3年生による卒業論文中間報告と質疑応答・討議
第19回	卒業論文報告（3）	3年生による卒業論文中間報告と質疑応答・討議
第20回	卒業論文報告（4）	3年生による卒業論文中間報告と質疑応答・討議
第21回	卒業論文報告（5）	3年生による卒業論文中間報告と質疑応答・討議
第22回	卒業論文の完成にむけて	3年生による卒業論文中間報告の総括
第23回	自由研究発表（1）	2年生による自由研究発表と質疑応答・討議
第24回	自由研究発表（2）	2年生による自由研究発表と質疑応答・討議
第25回	自由研究発表（3）	2年生による自由研究発表と質疑応答・討議
第26回	自由研究発表（4）	2年生による自由研究発表と質疑応答・討議
第27回	卒業論文報告にむけて	2年生による自由研究発表の総括
第28回	秋学期のまとめ	到達度の確認と次年度春学期までの課題の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の授業外学習時間は4時間以上となる。

春学期は、授業に臨むにあたっては英語文献の所定箇所について訳文を準備し、授業後には自身の訳文を再検討することが求められる。秋学期は、自身の研究を進めるとともに、自らの研究についての報告準備を行うことが求められる。

【テキスト（教科書）】

K. Milnor, 'Women in Roman Society', in M. Peachin (ed.), *The Oxford Handbook of Social Relations in the Roman World*, Oxford, 2011, pp. 609-622.

【参考書】

G・アシャー『古代ローマの女性たち』（西村昌洋訳）、白水社、2016年。
E. Fantham et al. (eds.), *Women in the Classical World: Image and Text*, Oxford, 1995.

【成績評価の方法と基準】

授業に対する予習度（40％）
英語文献読解の精度（40％）
質問やコメント等、授業への積極的参加度（20％）

【学生の意見等からの気づき】

春学期の英語論文精読に関しては、専門的な学術論文の読解方法を指導するだけでなく、文法の確認や文構造の把握など基礎的な英文の読解力を向上させることにも力を入れる。秋学期の個別報告については引き続き、受講生それぞれの関心に沿った研究指導を行う。

【Outline (in English)】

Course outline: This course helps students acquire the basic skills and knowledge to write their graduation thesis on pre-modern western history.

Learning Objectives: The followings are the goals of this course.

- Students are able to gather academic texts necessary for their research.
- Students are able to read accurately and critically academic texts written in Japanese or English.
- Students are able to progress their research and to make a logical and convincing presentation on it.

Learning activities outside of classroom: Students' study time is at least four hours for a class.

(Spring term) They are expected to make a translation of the assigned English text before each class meeting, and after the class to review their own translation.

(Autumn term) They are expected to progress their own research and prepare to make a presentation on it.

Grading Criteria: Grading will be decided based on the preparation for each class meeting (40%), the reading comprehension of English texts (40%), and in-class contribution (20%).

HIS300BE (史学 / History 300)

西洋近代史演習

皆川 卓

授業コード：A3151 | 曜日・時限：木4/Thu.4
年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミシェル・フーコーの『狂気の歴史』（1961）を精読し、そこで展開された超歴史的観念としての「理性」に対する実証的批判を通じて、歴史の社会学的分析方法を学びます。

【到達目標】

当該テキストは、近代社会において無意識的に受け入れられてきた「狂気」「理性」という区分が、実は歴史的發展の所産であり、現在の私たちにも思考のバイアスを及ぼしていることを、鮮やかに分析して見せた名著です。しかしそれと同時に、この研究もまた1960年代という時代の課題を反映した課題設定をしています。このテキストを精読することで、歴史分析のメタ認知批判の能力を養い、自分の歴史研究の立ち位置を常に把握できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

当該テキストは歴史社会学の古典ですが、本授業は西洋史の授業として本テキストを分析します。すなわち著者の哲学的・社会学的なスタンスに配慮しつつも、そこに登場する歴史的現象の背景を受講生に調べてもらい、一言一句丁寧に読みます。調べる事柄については、毎回授業の際に順番に割り当てます。一定程度進むと著者の構想が見えてくるので、半分を目処に「反転学習」（授業外での学習を前提として、授業ではそれを確認し、内容を検討する）に切り替えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	啓蒙の歴史観と社会的歴史学の課題	ガイダンスを行います。本授業唯一の座学で、著者フーコーの生涯と彼の時代に起きた啓蒙それ自体の「科学的分析」について、講師から概略を説明します
第2回	第1部①「阿呆船」（1）	テキストを精読し、中世社会の「狂気」の宗教的理解を把握します。
第3回	第1部①「阿呆船」（2）	テキストを精読し、中世社会の「狂気」の宗教的評価を検討します。
第4回	第1部②「大いなる封じこめ」（1）	テキストを精読し、中世の「狂気」の対処方法を把握します。
第5回	第1部②「大いなる封じこめ」（2）	テキストを精読し、中世の「狂気」の対処方法を検討します。
第6回	第1部③「感化院の世界」（1）	テキストを精読し、ルネサンス期の「狂気」の神秘性を把握します。
第7回	第1部③「感化院の世界」（2）	テキストを精読し、ルネサンス期の「狂気」の神秘性を検討します。
第8回	第1部④「狂気の諸経験」（1）	テキストを精読し、「狂気」の認知の変化を把握します。
第9回	第1部④「狂気の諸経験」（2）	テキストを精読し、中近世移行期の「狂気」の認知の変化を検討します。
第10回	第1部⑤「気違いたち」（1）	テキストを精読し、中近世移行期の未知性の理解を把握します。
第11回	第1部⑤「気違いたち」（2）	テキストを精読し、中近世の未知性の理解を検討します。
第12回	第2部①「主の園における狂人」（1）	テキストを精読し、中近世移行期の「狂人」への対応を把握します。
第13回	第2部①「主の園における狂人」（2）	テキストを精読し、中近世移行期の人々の「狂人」への対応を検討します。
第14回	まとめ	これまでの分析を振り返り、「狂気」概念の変化とその社会的背景について議論を行います。
第15回	第2部②「妄想の超越性」（1）	テキストを精読し、経験知的「理性」以前の知性の理解を把握します。
第16回	第2部②「妄想の超越性」（2）	テキストを精読し、経験知的「理性」以前の知性の理解を検討します。
第17回	第2部③「狂気的形象」（1）	テキストを精読し、「狂気」が経験知的に分析される変化を理解します。
第18回	第2部③「狂気的形象」（2）	テキストを精読し、「狂気」が経験知的に分析される変化を検討します。

第19回	第2部④「医師と病者」（1）	テキストを精読し、17世紀における「理性」の質的变化を把握します。
第20回	第2部④「医師と病者」（2）	テキストを精読し、17世紀における「理性」の質的变化を検討します。
第21回	第3部①「大いなる恐怖」（1）	テキストを精読し、17世紀における「管理」の発想の登場とその社会的背景を把握します。
第22回	第3部①「大いなる恐怖」（2）	テキストを精読し、17世紀における「管理」の発想の登場とその社会的背景を検討します。
第23回	第3部②「新しい分割」（1）	テキストを精読し、「啓蒙」的方法の18世紀的特徴を把握します。
第24回	第3部②「新しい分割」（2）	テキストを精読し、「啓蒙」的方法の18世紀的特徴を検討します。
第25回	第3部③「自由の正しい使途について」（1）	テキストを精読し、19世紀的な「科学」の隠された目的を理解します。
第26回	第3部③「自由の正しい使途について」（2）	テキストを精読し、19世紀的な「科学」の隠された目的を検討します。
第27回	第3部④「狂人保護院の誕生」	テキストを精読し、近代「科学」の支配性とその社会的背景を検討します。
第28回	第3部⑤「人間論上の円環」	テキストを精読し、近代科学の根底にある差別感の問題を検討します。最後に振り返りのディスカッションを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（前半）

・事前に講読箇所を読めます。最初は著者の意図がつかめないことも多いので、前回の授業で取ったメモを参照しながら読みます。予習として2時間以上・復習に2時間を要します。

（後半）

・反転学習を課しますので、割り当てに応じて内容をレジュメにまとめ、それを受講者で共有します。担当する場合は3～4時間の予習を要します。また毎回の振り返りに3時間ほどの復習が望まれます。

【テキスト（教科書）】

ミシェル・フーコー（田村仮訳）『狂気の歴史－古典主義時代における』新潮社 2020（テキストは数回分毎に用意します）

【参考書】

ミシェル・フーコー（田村仮訳）『監獄の誕生－監視と処罰』新潮社 2020
ミシェル・フーコー（慎改康之訳）『知の考古学』河出書房新社 2012
エルンスト・カッシーラー（宮田光雄訳）『国家の神話』講談社 2018
ロイ・ポーター（見市雅俊訳）『啓蒙主義（ヨーロッパ史入門）』岩波書店 2004
その他教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は以下に行います。

・音読と解釈の提示、ディスカッションへの参加（毎回チェックします）：50%
・反転授業でのレジュメ作成と解説：50%

【学生の意見等からの気づき】

・受講者数を考慮し、少し早めに「反転授業」を開始して自己学習パターンを早期に確立します。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】： We learn how to analyze the sociology of history through a close reading of Michel Foucault's The History of Madness (1961) and an empirical critique of "reason" as a suprahistorical idea developed there.

【到達目標（Learning Objectives）】： This text is a masterpiece that vividly analyzes the fact that the divisions between "madness" and "reason," which have been unconsciously accepted in modern society, are actually the product of historical development, and that they have a bias in our thinking today. At the same time, however, this research also reflects the challenges of the 1960s. By reading this text carefully, we aim to cultivate the ability to criticize metacognition in historical analysis and to always grasp the position of one's own historical research.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
（First half）

We read the subscription part in advance. At first, it is often difficult to grasp the author's intentions, so I read it while referring to the notes I took in the previous class (2 hours).

（Second half）

Since flipped learning is imposed, the contents will be summarized in a resume according to the assignment and shared with the students. If you are in charge, you will need 3 4 hours of preparation. In addition, it is desirable to review for about one hour for each review.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria / Policy）】

Grading is carried out as follows.

・Reading aloud and presenting interpretations, participating in discussions (check every time): 50%
・Resume creation and commentary in the flipped classroom: 50%

HIS200BE（史学 / History 200）

考古学概論

高橋 健

授業コード：A3152 | 曜日・時限：月2/Mon.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3855）で履修する。
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

旧石器時代から古墳時代までの概要を学ぶ。
日本史の基盤となる原始・古代の人間集団の動向を理解し、歴史学・考古学の研究を行う上で不可欠な歴史的事実の解釈方法を身につけることを目標とする。

【到達目標】

考古学的な成果に基づいて、各時代における文化的な特色、人々の自然環境・社会環境への対応、人間集団のありかたについて説明することができるとともに、それらを比較検討することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

日本列島において人類が活動を開始した旧石器時代から、狩猟・採集経済に生活の基礎がおかれた縄文時代、大陸型の水稲耕作が広がった弥生時代、前方後円墳が営まれ政治権力が発達した古墳時代までの展開について、考古資料を中心として学ぶ。また稲作導入後に異なる歴史をたどった北海道島についても扱う。
授業方法は講義形式による。授業はパワーポイントを使用するが、プリントも併用する。質問やリアクションペーパーへのフィードバックについては授業時間内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の概要と方法・評価基準
第2回	旧石器時代の姿	人類の進化と旧石器文化
第3回	日本の旧石器文化	日本列島における旧石器文化の展開
第4回	縄文時代の概要	地域的・時期的な多様性と共通性
第5回	縄文時代の生業	狩猟・漁労と採集・栽培
第6回	縄文時代の社会	集落と墓からみる社会構造
第7回	縄文から弥生へ	稲作の伝来と社会の変化
第8回	弥生のムラの姿	環濠集落と集団関係
第9回	青銅器と貝製品	遠くに運ばれる儀礼の道具
第10回	弥生墓制と社会の特質	地域的な墓制の展開と地方間の関係
第11回	続縄文文化	稲作を行わなかった地域
第12回	前方後円墳の成立と波及	古墳の成立と社会
第13回	古墳文化の変容と終焉	技術革新と古代国家への道
第14回	埴文文化とオホーツク文化	アイヌ文化の祖先

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献を読み、旧石器時代から古墳時代にかけての理解を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

日本列島を中心とした旧石器時代から古墳時代にかけての概説書を読んでおくこと。このほかの文献については授業内で紹介する。
佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ
佐藤宏之（2019）『旧石器時代 日本文化のはじまり』敬文舎
今村啓爾（2017）『縄文文化 考古調査ハンドブック17』ニューサイエンス社
石川日出志（2010）『農耕社会の成立 シリーズ日本古代史1』岩波新書
白石太郎（2001）『古墳とその時代 日本史リブレット4』山川出版

【成績評価の方法と基準】

期末に論述式の筆記試験を行う（ノート持ち込み可）。試験は成績評価の70％とする。平常点は成績評価の30％とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

※担当者は博物館学芸員として実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく歴史展開を中心に講義する。

【Outline (in English)】
(Course outline)

Students will learn an overview of the Japanese archipelago from the Paleolithic period to the Kofun period.
(Learning Objectives)

The purpose of this course is to understand the trends of primitive and ancient human groups, which form the basis of Japanese history, and to learn how to interpret historical facts, which are essential for conducting historical and archeological research.

(Learning activities outside of classroom)
Students should read related literature and deepen their understanding of the period from the Paleolithic period to the Kofun period. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)
Submit a reaction paper for each class.
Grading will be decided based on (%)(%), term end examination (70%) and in class contribution (30%).

HIS200BE（史学 / History 200）

史学概論

齋藤 勝

授業コード：A3153 | 曜日・時限：木1/Thu.1
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学という学問の特性について認識を深める。
自らの歴史研究のあり方や位置づけを省みるために、歴史学という学問の
つ特性を多角的に学ぶ。

【到達目標】

歴史学という学問の性質、方法、潮流、他の学問との関係等についての理解
を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行っていきます。質問等は原則として授業の前後に行って下さい。
課題等に対するフィードバックは、学習支援システムを通じて行います。
なお、授業の進捗等により授業計画が変更される場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文学部史学科の位置づけ	伝統的な学問の分類と文学部史学科
第2回	歴史学の流れと現在	史学概論の扱う課題
第3回	史学概論と歴史学①	史学概論の位置づけ・目的と歴史学 の特性
第4回	史学概論と歴史学②	歴史学の可能性と限界、約束ごと
第5回	歴史学の目的①	学問の効用・意義と目的
第6回	歴史学の目的②	歴史学の目的の主要な三分
第7回	歴史学の目的③	三つの歴史学の相互関係
第8回	歴史学の目的④	歴史学の効用
第9回	歴史学の対象①	歴史学の対象の設定
第10回	歴史学の対象②	事実についての問題
第11回	歴史学の対象③	事実の種類
第12回	歴史学の対象④	史料による事実の確認と復元
第13回	歴史学の対象⑤	事実の認識
第14回	まとめ	歴史学の特性と研究の関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
予習・復習として指定された関連文献を読むことが求められます。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験もしくはレポート100%。
試験かレポートかは授業の進展に応じて決めていきます。
講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象とする予定です。
決定や変更については、試験実施もしくはレポート提出期限の二週間前まで
に告知します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with characteristics of the study of
history.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to
consider characteristics, methods and history of the study of history and
relations with other academic fields.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class
meeting, students will be expected to spend four hours to understand
the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report or examination(100%)

HIS200BE（史学 / History 200）

日本史特講Ⅰ

大橋 幸泰

授業コード：A3154 | 曜日・時限：木2/Thu.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近世（いわゆる江戸時代）は、平和な時代であったとイメージされがちである。確かに、江戸時代が対外・対内を問わず戦争のない時代であったことは確かであるが、その一方で、徳川幕府が軍事政権であったことも事実である。軍事体制のもとで、なぜ200年以上にわたって「惣無事」という戦争のない時代が継続したのか。その条件を考えることは、今後、平穏な世界を実現するために、現代人である私たちに何が求められているのかを考えることにつながる。こうした課題意識により、本講義では近世日本の宗教・身分・民衆運動を主な材料として、この時代の「惣無事」の条件について検討しようと思う。それは同時に、近世人の秩序認識を理解することにもなる。以上のような本講義の考察にあたって主軸にすえるのが、民衆史研究と属性論という方法である。

【到達目標】

いつの時代でも人々は何かによって拘束されている。人々が何ものにも拘束されない時代など存在しない。ただし、人々が何によって拘束されているのかは、それぞれの時代によって異なる。過去の人々を取り巻く秩序と人々の秩序認識について正確に知るには、その時代固有の条件にそくして考えることが求められる。現代人である私たちの常識を基準に近世人の思考や行動を理解することはできない。現代とは異なる近世の秩序を知ることは、現代人の秩序認識のどこにどんな問題があるかを知ることにつながる。本講義の到達目標は、近世の人々の秩序認識を理解し、それを比較の対象として現代に生きる私たちの秩序認識を相対化できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義を基本とするが、受講生には毎回200～400字程度で、講義を要約した講義記録を提出することを求める。第7回と第13回では、講義内容をめぐってディスカッションする時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス—民衆史研究と属性論の射程	本講義の目的と概要について説明するとともに、民衆史研究と属性論の射程を講義する。
2	近世人の常識(1)—仁政という支配イデオロギー	近世人の常識である仁政という支配イデオロギーについて講義する。
3	近世人の常識(2)—所有観念	近世人の所有観念について講義する。
4	近世人の常識(3)—身分と属性	近世人の身分と属性について講義する。
5	島原天草一揆と近世秩序(1)—経済闘争か宗教戦争か	島原天草一揆の性格について講義する。
6	島原天草一揆と近世秩序(2)—近世人の一揆認識	近世人の一揆認識について講義する。

7	中間小活—近世人の常識と東アジアの政治文化／近世政治文化をめぐる議論の時間	中間小活として、近世の政治文化について議論する。
8	異端的宗教活動と近世秩序(1)—宗門改と類族改	宗門改と類族改について講義する。
9	異端的宗教活動と近世秩序(2)—潜伏キリシタン存続の外在的条件	潜伏キリシタン存続の外在的条件について講義する。
10	異端的宗教活動と近世秩序(3)—潜伏キリシタン存続の内在的条件	潜伏キリシタン存続の内在的条件について講義する。
11	近代移行期の秩序認識(1)—潜伏キリシタンの明治維新	潜伏キリシタンの明治維新について講義する。
12	近代移行期の秩序認識(2)—民衆宗教の登場と「信教の自由」	民衆宗教の登場と「信教の自由」について講義する。
13	総括—「日本人は無宗教」か？／近世宗教をめぐる議論の時間	総括として、近世宗教について議論する。
14	総復習	試験を含む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義と並行して、教科書として指定した大橋幸泰著『潜伏キリシタン 江戸時代の禁教政策と民衆』（講談社学術文庫、2019年）を読み進めるとともに、講義の予習として同書の該当箇所を熟読してくることを求める。授業後は、講義中に紹介した参考文献の他、関連する研究文献を自分で探して知見を広げてほしい。事前・事後の学習はそれぞれ2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大橋幸泰著『潜伏キリシタン 江戸時代の禁教政策と民衆』（講談社学術文庫、2019年）【要購入】

【参考書】

大橋幸泰・深谷克己編『〈江戸〉の人と身分6 身分論をひろげる』（吉川弘文館、2011年）
大橋幸泰著『検証 島原天草一揆』（吉川弘文館、2008年）
大橋幸泰著『近世日本邪正論 江戸時代の秩序維持と隠れ／隠し念仏』（勉誠社、2024年）
そのほか、適宜、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験60％／近世日本の宗教・身分・民衆運動の基本的な概念を理解できているかが試される。
レポート30％／学期末までに、講義に関する文献を論評するレポートを求める。
平常点評価10％／毎回、200～400字程度で、講義を要約した講義記録を提出することを求める。
その他／レポートを提出した者が試験の受験資格を有する。平常点が0点である場合、単位の取得は困難であることを付記する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックなし。

【Outline (in English)】

The early modern period in Japan (the so-called Edo period) is often thought of as a time of peace. It is true that the Edo period was a time without war, both internally and externally, but it is also true that the Tokugawa Shogunate was a military government. Why did the war-free period of "all peace" continue for over 200 years under a military system? Thinking about the conditions for this leads to thinking about what is required of us, the modern people, to realize a peaceful world in the future. With this in mind, in this lecture I would like to examine the conditions for "all peace" in this period, using religion, social status, and popular movements in early modern Japan as the main materials. At the same time, this will also help us understand the perception of order among people in the early modern period. The main axis of the above-mentioned considerations in this lecture is the study of popular history and the method of attribute theory. Grades will be assessed based on 60% exams, 30% short reports, and 10% daily class performance.

HIS200BE（史学/History 200）

日本史特講Ⅱ

大塚 紀弘

授業コード：A3155 | 曜日・時限：金4/Fri.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鎌倉時代を中心とする中世社会の特質について理解するため、都市（宿、港町のような町場を含む）と仏教を題材として取り上げる。そして、都市および交通路の実態と仏教の役割、それぞれの関わりについて、最近の研究動向をふまえ、具体的な事例を基に考察する。合わせて、史料を読解して史実を追究し、歴史像を描くという、歴史学の研究方法を習得する。

【到達目標】

都市、交通路、仏教という側面から、中世社会の特質について理解し、自分なりに説明することができる。中世史料の日本漢文を正しく読解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

7章構成とし、講義形式で進める。配布プリントとパワーポイントを併用して解説する。配布プリントとパワーポイントの文面は、事前に章ごとに「学習支援システム」にアップロードする（印刷プリントは配布しない）。章ごとに計7回の小テストを実施する。小テストは、「学習支援システム」から授業日の翌日までに提出すること。小テストに記入された疑問点については、次の授業で回答する（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本中世の都市と仏教（1）	履修のガイダンスと概説
第2回	日本中世の都市と仏教（2）	履修のガイダンスと概説（小テスト1）
第3回	鎌倉の交通路と都市民（1）	都市鎌倉の道路・海路と都市民の居住形態
第4回	鎌倉の交通路と都市民（2）	都市鎌倉の道路・海路と都市民の居住形態（小テスト2）
第5回	東アジアの中の日本中世仏教（1）	先行研究の問題点と新たな枠組みの提示
第6回	東アジアの中の日本中世仏教（2）	先行研究の問題点と新たな枠組みの提示（小テスト3）
第7回	鎌倉の都市民と仏教信仰（1）	都市鎌倉の武士・町人と仏教の関わり
第8回	鎌倉の都市民と仏教信仰（2）	都市鎌倉の武士・町人と仏教の関わり（小テスト4）
第9回	京都・鎌倉の寺院と異文化受容（1）	中世都市を特徴づける中国文化の受容
第10回	京都・鎌倉の寺院と異文化受容（2）	中世都市を特徴づける中国文化の受容（小テスト5）
第11回	西大寺流の全国展開と交通路（1）	西大寺流律家の教化活動と交通路との関わり
第12回	西大寺流の全国展開と交通路（2）	西大寺流律家の教化活動と交通路との関わり（小テスト6）
第13回	一遍時衆の遊行と宿・港町（1）	一遍時衆の教化活動と町場・都市との関わり
第14回	一遍時衆の遊行と宿・港町（2）	一遍時衆の教化活動と町場・都市との関わり（小テスト7）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「学習支援システム」の「教材」にアップロードされた配布プリントとパワーポイントの文面を基に予習する。授業時間内に提出できなかった小テストに取り組む。ノート等を見直して復習し、授業時に紹介する参考文献を可能な限り読む。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。章ごとにプリント（PDFファイル）を配布する。

【参考書】

新城常三『鎌倉時代の交通』（吉川弘文館、1967年）
佐藤信・吉田伸之編『新体系日本史6 都市社会史』（山川出版社、2001年）
藤原良章『中世のみちと都市』（山川出版社、2005年）
榎原雅治『中世の東海道をゆく』（中央公論社、2008年）
『週刊朝日百科 週刊新発見！日本の歴史21 鎌倉時代4 鎌倉仏教の主役は誰か』（朝日新聞出版、2013年）
その他は、授業時に章ごとに指示する。

【成績評価の方法と基準】

小テストの合計点数100%で評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

小テストの問題と採点を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」を利用し、事前に「教材」から配布プリントをダウンロードすること。また、「学習支援システム」から期限内に小テストを提出すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students learn historical research methods of reading historical materials. The goals of this course are to pursue historical facts, and drawing historical images. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Short reports : 100%.

HIS200BE（史学 / History 200）

日本史特講Ⅲ

稲田 奈津子

授業コード：A3156 | 曜日・時限：金1/Fri.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

平安時代の貴族といえば、藤原道長がすぐに思い浮かぶであろう。望月の歌で知られるように、道長の時代は摂関政治の絶頂期を迎えたのであるが、その前提として、父・兼家の存在を忘れることはできない。恵まれた条件のもとで成功を取めた子・道長が、鷹揚な性格として肯定的に語られることが多いのに対して、度重なる挫折を味わいながらも虎視眈々と権力の座を狙い続けた父・兼家は、一般的に粗暴・傲慢不遜といった否定的なイメージが持たれている。だが一方で、逆境を乗り越える不屈で逞しい姿は、魅力的にも映るのである。本講義では、兼家に関する史料群の読解を中心に、彼の生きた平安貴族社会の様相を、様々な角度から垣間見ていくことにしたい。

【到達目標】

1. 歴史書・日記・文学作品といった様々な歴史資料に触れ、その特質を理解するとともに、それらを読み解く力を身につける。
2. 教科書的な知識から一歩すすみ、具体的な史料読解を通して、平安時代像をより鮮明に捉え直すことができる。
3. 史料批判を通じて批判的精神を養い、問題を発見し解決するための論理的な思考過程を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・講義スタイルで進めます。
- ・講義中には、指名によって史料を音読してもらうことがあります。ただし流暢さではなく取り組み方を重視するので、古文の苦手な人や留学生も臆さず参加してください。
- ・講義中には、画像も提示する予定ですが、提示した画像をすべてレジュメとして配布するわけではありません。毎回の出席が肝要となります。
- ・毎回授業の冒頭で、前回授業に関する小テストを実施します（10分程度、第1回を除く）。期末試験・期末レポートは予定していません。
- ・やむを得ず休講とする際には、レポートを課す場合があります。また授業進度をみた上で、授業スケジュールに一部変更を加える場合があります。
- ・質疑応答は授業内や授業前後に口頭で、または授業後に提出してもらったりアクションペーパーで受け付けます。受講者全員の参考になるような質問・意見は、次回授業の冒頭に紹介・回答します。リアクションペーパーでクイズに回答してもらう場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、出自と官歴
第2回	内裏焼亡	若き日々
第3回	安和の変	969年
第4回	兄・兼通との確執（1）	972年
第5回	兄・兼通との確執（2）	977年
第6回	兼家をめぐる女性たち（1）	正妻と妾
第7回	兼家をめぐる女性たち（2）	蜻蛉日記
第8回	兼家をめぐる女性たち（3）	娘の入内
第9回	花山天皇の出家	その裏幕
第10回	栄華の絶頂	摂政就任
第11回	六十算賀	儀式の風景
第12回	死と喪葬	死と葬儀の作法
第13回	金峯山参詣	遺物からよみとく信仰
第14回	こどもたち	詮子、道隆、道長

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前学習 次回講義に関するレジュメを配布するので、事前に目を通しておいてください。（2時間程度）
- ・事後学習 レジュメを読みなおし疑問を残さないようにして、小テストに備えてください。（2時間程度）

【テキスト（教科書）】

レジュメを配布します。Hoppiiにアップするので、各自印刷して手元に用意してください。教室での紙媒体による配布はいたしません。

【参考書】

古瀬奈津子『シリーズ日本古代史⑥ 摂関政治』（岩波新書、2011年）

【成績評価の方法と基準】

- ・小テスト・レポート（100％）…小テストは授業時間の冒頭に実施します。レポートの提出は授業支援システムを利用します。
- ・授業の積極性（加点要素）…授業内での音読・発言、リアクションペーパーによる有意義な質問・意見など。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テスト実施による評価方法が、日常的な復習の機会となっており、また期末に集中する負担の軽減になると好評であったので、今年度も継続する予定である。

【Outline (in English)】

In this class, we will study about Fujiwara-no-Kaneie, a famous politician of Heian period. The aim of the class is for students to become familiar with ancient records, and to be able to read it at a basic level. In addition, through reading comprehension, the course aims to develop students' interest in the politics, society, and culture of the Heian period and enable them to investigate and consider matters with a sense of the issues that arise.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content and prepare for the quizzes.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Quizzes and Short reports : 100%, and in-class contribution

HIS200BE（史学 / History 200）

日本史特講Ⅳ

中山 学

授業コード：A3157 | 曜日・時限：水3/Wed.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目では、江戸幕府第8代の将軍、徳川吉宗の活動に注目します。この人物は、次期将軍に内定してから間もない正徳6年（1716）6月3日における「御代々の御書物目録」の閲覧を手始めとして、在職中は一貫して徳川将軍家伝世の諸書物の校合、校勘に注力しました。具体的には、自らも武家方や堂上方の儀礼の成り立ちに関して示唆的な書物の「御見合」、「御引合」を行いつつ、御書物奉行や幕府内外の諸学者にも命じて諸書物のテキストを点検、精査させました。当科目では、その事業過程における吉宗本人の活動を復元的に考察するところから、こうした作業がいったい何のために実施されたものか検討します。歴史的なテキストそれ自体に権威を付与、温存させてゆく中心化のあり方にも注意を払いながら、現代を生きる私たちとの連関についても考えたいと思っています。

【到達目標】

史料に基づき、徳川吉宗が実施した伝世書物の「御見合」の目的とその歴史的意義を論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

史料を読み解きながら講義を実施します。また、学習内容の整理と理解確認のために授業実施期間中にリポート作成を2回課し、それへのフィードバックによって理解を助けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに（ガイダンス）	当科目の目的、進め方、成績評価の方法等
第2回	吉宗と書物(1)	正史中の逸話
第3回	吉宗と書物(2)	逸話が示す吉宗の視界
第4回	吉宗と将軍家「御文庫」(1)	「御文庫」の機能、性格
第5回	吉宗と将軍家「御文庫」(2)	先行研究にみる吉宗の実績、目録への関心
第6回	将軍襲職内定後の初動(1)	書物目録の請求
第7回	将軍襲職内定後の初動(2)	初の請求書物、その後の継続閲覧
第8回	旧家伝書への関心(1)	幕臣小笠原常春、小笠原持廣との接触
第9回	旧家伝書への関心(2)	幕臣伊勢貞益との接触
第10回	旧家伝書への関心(3)	「犬迫物類聚」、「流鏑馬類聚」の成立
第11回	書物「御見合」とその意義(1)	『寛政重修諸家譜』所載の小笠原持廣の経歴にみる吉宗の活動
第12回	書物「御見合」とその意義(2)	『略譜』所載の小笠原持廣の経歴にみる吉宗の活動
第13回	書物「御見合」とその意義(3)	『寛政重修諸家譜』の作為
第14回	おわりに	歴史的テキスト、権力、伝統の創出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①本授業の準備学習・復習：各2時間
- ②授業実施期間中のリポート作成2回：各4時間程度
- ③フィールドワーク（史料保存機関の見学及び史料の原本実見）：教員引率1時間程度（ただし授業時間外で実施、参加任意）

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。史料を配付します。

【参考書】

辻 達也『徳川吉宗公伝』東照宮（1962年）
福井 保『江戸幕府の参考図書館 紅葉山文庫』郷学舎（1980年）
辻 達也『徳川吉宗』吉川弘文館（1985年）
吉岡 孝「吉宗政権における古式復興と儀礼」『国史学』第200号所収（2010年）
小川剛生『日本史リブレット78 中世の書物と学問』山川出版社（2013年3刷）

【成績評価の方法と基準】

授業実施期間中リポート2回（50％）、期末リポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

講義編制を見直し、学生が史料の読解、内容消化の時間を確保できるように工夫しました。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（リポート提出等に学習支援システムを使用するため）
ノート1冊（講義メモ用）
ファイルまたはフォルダ（配布史料の保管と毎回授業への持参のため）

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, we will focus on the activities of Tokugawa Yoshimune, the eighth shogun of the Edo shogunate. During his time as a shogun, this person focused on proofreading books collected by successive shoguns since Tokugawa Ieyasu. He himself proofread the texts of historical books originating from ancient or medieval times that teach the origins of the rituals of court nobles and samurai families, while also ordering book magistrates and scholars to inspect and scrutinize the texts of books in various fields.

In this course, we will examine Tokugawa Yoshimune's own activities in the course of his business from a reconstructive perspective. Then, consider why such work was carried out. While paying attention to the centralization that gives and preserves authority to historical texts themselves, I would also like to think about how they relate to us.

As a side note, the lecture will proceed while reading early modern Japanese historical materials related to this theme.

(Learning activities outside of classroom)

1. Preparatory study/review: 2 hours each

2. Report creation 2 times during the course: approximately 4 hours each

3. In addition, tours of historical materials preservation facilities and viewing of original historical materials: Approximately 2 to 3 hours led by a teacher (separate guidance will be provided during the class period) (Grading Criteria /Policy)

Several reports submitted during the course: 50%

Course-end report: 50%

HIS200BE（史学 / History 200）

日本史特講Ⅴ

清水 詩織

授業コード：A3158 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、日本近世史を題材に、受験科目としての日本史ではなく、歴史学の手法や方法を通して歴史を学ぶ意味を考えようとするものです。高校までの日本史は、政治史や国家史的な事件を中心に歴史的な人物の名前や功績などを暗記する科目であるという印象が強いでしょう。しかし、各時代に日本列島に生活していた無数の人びともまた、その背景には確かに存在していました。彼らの日々の生活とその変化もまた、歴史を動かす原動力でした。これらの過去の人びとが何を考え、何に価値を置いて生きていたのかを明らかにすることは、歴史学における大きな課題の一つです。そして、歴史学は現代社会を生きる私達が何者であるのか、どこへ向かうべきなのかの一つの指標にもなり得ます。現代社会の私達のあり方もまた、歴史的に成立してきたものであることは、歴史学を学ぶことでより鮮明になるでしょう。本講義では、主に近世に生きた人びとの活動を通して、歴史を学ぶ意味を考えます。

【到達目標】

本講義では近世日本を事例に、歴史学の基本的な方法や各テーマの研究を解説します。まずは、歴史学に関連する知識を深めること、必要に応じて文献を自力で探し、その解釈が出来ることを目指します。その上で、歴史を学ぶ意味を自分の中で明確にすることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式ですすめますが、毎回授業後にリアクションペーパーを提出してもらいます。翌週の授業開始時に、リアクションペーパーのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業に関するガイダンスを行います。
第2回	近世史研究の方法	近世史研究を行う上で必要な参考文献を紹介しします。
第3回	国家と民衆	国家史とは異なる、民衆史について解説します。
第4回	日本史の歴史	日本史研究の歴史について解説します。
第5回	自力救済の世界	自力救済から惣無事への転換を解説します。
第6回	明清交代期と東アジア	17世紀の世界変動と近世社会について概括します。
第7回	仁政と百姓一揆	近世社会の社会構造について解説します。
第8回	対外秩序と海外知識	18世紀の対外秩序と海外知識について解説します。
第9回	北方への注目と地図	地図・地誌の作成について解説します。
第10回	二つの海防令	異国船打払令・薪水給与令について解説します。
第11回	海防と地域社会	海防に関わる地域社会の活動について考察します。
第12回	ペリー来航	ペリー来航がもたらした近世社会への影響を考察します。
第13回	幕末維新期とは何か	幕末維新期研究の現在を解説します。
第14回	試験	教場試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習・復習を行ってください。目安時間は各2時間程です。授業内で紹介した参考文献を読み、理解を深めてください。

【テキスト（教科書）】

特ありません。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %

平常点 50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更につきフィードバックできません。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will explain the basic methods of historiography and research trends, using the history of early modern Japan as a case study. Students will consider the meaning of studying history through the activities of people who lived in the early modern period.

The goal is to deepen students' knowledge of historiography and to enable them to conduct research on their own. And to clarify the meaning of studying history in one's own mind.

Preparation and review time is about two hour each.

Evaluation will be based on 50% regular marks and 50% examinations.

HIS200BE（史学 / History 200）

日本史特講Ⅵ

米崎 清実

授業コード：A3159 | 曜日・時限：金3/Fri.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本各地には文化遺産ともいえる近世の地方文書が伝来しています。近世の国家や社会を理解するために、地方文書の分析を通じた地域社会からアプローチする方法があります。授業では、地方文書の解読、分析方法を学ぶとともに、それらを通じた近世地域社会の成立、維持運営、展開について理解します。

【到達目標】

- ・地域史研究の意義を理解します。
- ・さまざまな近世の地方文書が作成され、伝来してきた意義を理解します。
- ・地方文書を解読し、分析できる力を修得します。
- ・地方文書の分析を通じて、近世の国家や社会を理解します。
- ・今日の街づくりや地域文化について考える視野を培います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

主に関東の地方文書の解読、分析を通じて近世の地域社会の成立から近代移行期までを項目ごとに解説します。受講生自らが史料を解読し、主体的に考え、意見を述べてもらう双方向の授業運営を図ります。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の内容と評価の方法、課題の説明、文化遺産としての地方文書、近世地域史研究の意義
第2回	近世の支配体制と地方文書	近世の支配体制、地方文書の成立、地方文書の種類
第3回	近世村落の成立と検地	検地帳の記載内容、検地帳の分析、検地の意義、郷から村
第4回	百姓の家	宗門人別帳の記載内容、宗門人別帳の分析、家の特徴、村内の家格
第5回	村の法・財政と村落運営	村議定、村入用、村役人の家、村役人制
第6回	村組と地域格差	村の中のムラ、村組の役割、村の中心、村役人をめぐる村組の対立
第7回	支配のしくみと地域社会	幕領支配のしくみ、中間支配機構の成立と役割、非領国地域の特質
第8回	百姓の年貢諸役	年貢諸役、年貢諸役を負担するしくみと意識
第9回	地域社会の身分集団	地域社会の身分集団、村を訪れる人々、村人と身分集団
第10回	村人の信仰と文化活動	村社会と寺院、村人の信仰、旅と参詣、村人の文化活動
第11回	村の祭りと若者仲間	村の社会組織・祭祀組織、祭礼の秩序とその変容、若者仲間と地域意識
第12回	村社会の生業と百姓意識	村人の生業、商品生産の展開、救済と百姓成り立ち
第13回	村社会と家の秩序	村落生活の変化と家族、家族への眼差し、家と村の存続
第14回	まとめ	近世から近代へ、異文化としての近世の地域社会、現代まで続く近世の地域社会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配付する史料（活字にした近世の地方文書）を理解できるように、わからない文言などを辞書で調べて、授業に出席してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。史料を配付します。

【参考書】

木村礎『近世の村』（1980年、教育社）、水林彪『封建制の再編と日本の社会の確立』（1987年、山川出版社）、大石学編『多摩と江戸』（2000年、けやき出版）、大藤修『近世村人のライフサイクル』（2003年、山川出版社）、水本邦彦『村—百姓たちの近世—』（2015年、岩波新書）その他授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80％）、平常点（20％）。
全授業回数の2／3以上の出席を期末試験受験の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】

史料（活字にした近世の地方文書）を用いて具体的に近世の地域社会について解説します。また、学生との意思疎通を図る双方向の授業運営を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

事前の史料の配付、課題の提出は学習支援システムを利用します。

【担当教員の専門分野等】

日本近世・近代史。博物館学。文化政策学。

【Outline (in English)】

Local documents of Edo period, which can be regarded as cultural heritage exist in all part of Japan. In order to understand the nation and society of Edo period, there is a method to approach from local community through analysis of regional documents. In this course students learn the method of deciphering and analyzing the documents. And through the process, students comprehend formation, operation and maintenance of local communities of Edo period.

The goals to be achieved in this course are the following five points.

- ・ Understand the significance of regional history research.
- ・ Understand the significance of the creation and transmission of various modern local documents.
- ・ Acquire the ability to decipher and analyze local documents.
- ・ Apprehend modern nations and societies through analysis of local documents.
- ・ Cultivate a perspective to think about today's community development and local culture.

Assignment:

Before the class, please check the words you do not understand in the dictionary to be able to understand handouts. The standard preparation & review time for this course is 2 hours each.

Grade evaluation: Final exam (80%), usual performance score (20%)

HIS200BE（史学 / History 200）

日本史特講Ⅶ

山田 康弘

授業コード：A3160 ｜ 曜日・時限：金1/Fri.1
春学期授業/Spring・2単位 ｜ 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、戦国時代を素材に「戦争はなぜ起きるのか」、「どうすれば戦争を回避し、協調しあえるのか」を考えていく。

戦国時代は、他の時代にくらべ戦争が多かった。それは、列島各地に割拠した戦国大名たちが戦いあっていたからである。ただし、大名たちはいつも戦争をしていたわけではなかった。戦争は、リスクもコストも高い。それゆえ、大名たちはできるだけ「戦いを回避しよう」ともしていたのだ。では、大名たちはそのために、いかなる方策をとっていたのだろうか。また、そもそもなぜ大名間で戦争が起きていたのだろうか。すなわち、大名間において協調生成を阻害していた要因とは、いったい何だったのか。

本講義ではこうした問題を、受講生の諸君と一緒に考えていく。人類は有史以来、戦いをくり返してきた。人類の歴史は「戦争の歴史」といっても過言ではない。したがって「戦争はなぜ起き、これを回避するにはどうしたらよいのか」という問題は、私たち人類が考えるべき最重要テーマである。そこで、本講義ではこのテーマを、歴史学、さらに国際政治学や社会心理学といった隣接諸科学の知見も援用しながら、皆で考えていく予定である。

【到達目標】

歴史学の存在意義を認識しうるとともに、論理整合性と事実立脚性という歴史学の決まりごとを理解することができる。また、データ（史料）の正しい取りあつかい方や、問題設定から歴史像の構築にいたるまでの手法を把握することができる。さらに、歴史学研究の「社会的使命」をきちんと理解したうえ、歴史学の隣接諸科学におけるさまざまな理論の使い方などを身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

3部構成とし、講義形式で進める。すなわち、第1・2・4回において「歴史学とは何を目的とする学問なのか」、「研究の「型」はどのようなものか」を解説していく。次いで第3・5・6回では「戦国期における日本列島の全体像」を「おおづかみに」示していく。そして残りの7～13回において「なぜ戦国大名間で戦争が起きていたのか」「大名たちは戦いを避けるためにいかなる工夫をしていたのか」という問題を、国際政治学や社会心理学の知見を取りいれながら解説し、受講生たちと議論していく。

また、毎回講義の最後に、その日の講義内容を確認する、簡単な小テストを実施する（6問程度。4問以上正解で合格）。なお、講義では配布プリントを使って解説していく。出席カードやリアクションペーパーに記入された疑問点については、次回の授業で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	何百年も昔のことを知る「意味」とは何か——歴史学の存在意義。	過去を知ったら、教訓をえたり、未来を予測したりすることが可能なのか？。ここでは、歴史学が現代において「何の役に立つのか」を議論していく。
第2回	問題をどう見つけるのか——まず「比較する」ことからはじめよ。	自分で「問い」を立てるには、どうしたらよいのか？。ここでは、問いを立てることから歴史像の構築まで、歴史学研究の基礎的な「やり方」を示していく。
第3回	なぜ「強力な共通の上位権力」不在になったのか——戦国時代のはじまり。	足利将軍が次第に弱体化していったのはなぜか？。ここでは、戦国時代がどのようにして始まっていったのか、その経緯について考えていこう。
第4回	「京兆専制」論にどう反論したのか——反証の仕方を具体的に学ぶ。	既存の学説にどう挑戦していけばよいのか？。ここでは、戦国時代研究の定説とされてきた学説を素材に、問いを立て、史料を集め、検証する、その具体的な仕方を示していく。
第5回	足利将軍は戦国時代に何をしていたのか——国際機関との比較から考える。	戦国期の将軍たちは無力だったのか？。ここでは、将軍がなかなか滅亡しなかった理由を、現代における国際機関の役割などと対比しながら考えていこう。

第6回	戦国期日本列島の全体像はいかなるものか——二つの次元、三つの側面。	戦国期列島を「おおづかみに」とらえると、どうなるのか？。ここでは、この時代における列島のもつ主要な特徴を選びだし、列島の全体像についての「モデル」を描きだしていく。
第7回	戦争はなぜ起きてしまうのか——多湖淳『戦争とは何か』を読む。	国家はなぜ「協調したほうが得だ」とわかっていても戦争をしてしまうのか？。ここでは、近年刊行された国際政治学の著書から、国家間における戦争の原因を学んでいく。
第8回	協調を生み出す有効な方策は何か——大坪庸介『仲直りの理』を読む。	「他者と仲直りする」ためのベターな戦略とは何か？。ここでは、社会心理学の著書から「協調戦略」を学ぶことで、戦国大名同士の関係を考えるヒントを探っていこう。
第9回	戦国大名たちはなぜ対立しあったのか——薩摩島津氏のケースから考える。	大名間で戦争が起きていた原因は何か？。ここでは、戦国末期の南九州における島津氏と近隣大名との「外交」関係から、戦争を引き起こす「二つの問題」を考えていく。
第10回	戦国大名たちはどう「うまくつきあった」のか——大坂本願寺のケースから考える。	大名たちは戦争をどうやって避けていたのか？。ここでは、浄土真宗の本山・大坂本願寺を事例にとりあげ、近隣大名と協調関係を保つ「技術」を探っていこう。
第11回	信長包囲網が形成された理由は何か——「予防戦争」という考え方。	多くの大名たちはなぜ、織田信長を封じこめようとしたのか？。ここでは「パワーシフト」「予防戦争」をキーワードに、大名たちが信長包囲網形成にいたった事情を整理し、議論していく。
第12回	信長包囲網は、なぜうまくいかなかったのか——共通の敵はいつも団結を生むのか。	「合従策」の弱点とは何か？。ここでは、「鹿狩りの寓話」などを紹介しながら、現代の国家間関係の理解にも役立つ「対等な者同士が協調しあうことの困難さ」を考えていこう。
第13回	まとめ——歴史学は「過去だけでなく、今を知るためにある」。	歴史学とは何をする学問であり、何のためにあるのか？。ここでは、歴史学の「歴史」という言葉は過去と同義ではないこと、歴史学以外の学問の知見も学ぶべきこと、などをあらためて示そう。
第14回	試験。	論述問題（1～2問）を予定している。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリント、ノートを見直して復習する。また、毎日、必ず新聞を読むこと。歴史学は「現代（現在）をより深く知る」ことを目的のひとつとしている。それゆえ、「現代に無関心」というのでは歴史学は学べない。現代に関心をもつためには、毎日、新聞を読むことが最適である。それゆえ、受講生には新聞を読むことを求める（全国紙ならどれでもよい。なお、読み方は授業時に指示する）。

本授業のために、準備学習・復習時間は、合計2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

以下の三冊は必読文献であり、①は第5回、②は第7回、③は第8回までに必ず読んでおくこと。
①山田康弘『足利将軍たちの戦国乱世』（中公新書、2023年）。
②多湖淳『戦争とは何か』（中公新書、2020年）。
③大坪庸介『仲直りの理』（ちとせプレス、2021年）。

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験の点数50％、小テスト20％、レポート20％、平常点10％の合計で評価する予定である。正当な理由による欠席の場合、自作の「欠席理由書」を提出すれば考慮する。

【学生の意見等からの気づき】

出席カードやリアクションペーパーなどで授業に関する疑問点などを書いてもらえれば、次回授業の際に取り上げていく。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

毎回講義の最後に、その日の講義内容を確認する、簡単な小テストを実施する（6問程度。4問以上正解で合格）。また、必読文献はかならず読んでおくこと。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This course introduces “What is war?”, and “Historical research methods” to students taking this course.

【到達目標（Learning Objectives）】

The goals of this course are to know and understand what History is and how we study it.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than 2 hours for a class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、Mini exams: 20%、Short reports: 20%、in
class contribution: 10%

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋史特講 I

飯尾 秀幸

授業コード：A3162 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「家族」は、居住単位・婚姻単位・経済単位として存在したが、歴史のある段階で、その三者が合一する。そのことをこの授業においては、家族の成立と考え、その家族の成立過程において、婚姻単位と経済単位とが居住単位としての家族と如何なる関係を持ち、それらの関係がどう変容し、どのように三者が合一していったのかを、中国古代史を対象にして考える。

【到達目標】

考古学資料を歴史学として扱う方法を身に付ける。

甲骨文字・青銅器銘文（金文）をどう扱うかを習得する。

文字史料を読み込む力をつける。

家族を歴史的に把握する方法を得ることで、現代の家族の問題を考える視点を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式

殷代における居住単位・婚姻単位・経済単位としての「家族」の変遷を、考古学の成果、甲骨文字、殷代青銅器銘文などを概観しつつ、中国の最古の「王朝」と呼ばれる時代の家族の形態を中心に、家族の在り方について考える。現代の家族問題と比較して、受講生の問題意識を高め議論を深めていきたい。なおアクションペーパー・質問や課題について、その代表的なものを紹介し機会を設けて更なる説明を加えることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	家族とは何か	中国新石器時代の姜寨集落遺跡とブラジルのボロロ族集落を比較する（確認）
第2回	中国考古学の成果—青銅器時代	二里頭文化の前期・後期の概要を紹介し、夏と殷について考える。
第3回	殷墟文化とその社会	殷代の祭祀区と墓葬区（小屯と侯家莊遺跡）を紹介し、殷代社会構造を考える。
第4回	甲骨文字の出土と甲骨文字の性格	甲骨文字の性格（祭祀と占いと政治）を考える。
第5回	殷代の政治と社会の構造	甲骨文字から見える殷代の政治方法と社会構造を考える。
第6回	殷代の「家族」に関する諸学説の紹介	王位の継承についての二学説（王家存在説と王家不存在説）を紹介し、問題点を考える。
第7回	王家不存在説からみた王族グループの存在	王家不存在説から王族の構造を考える。王名・王妣名と太陽神話（10個の太陽）との関連を紹介する。
第8回	王家不存在説からみた王位継承法	王位継承の仮説から、王族グループの構造について考える。姜寨集落遺跡との比較（連続性）
第9回	王家不存在説への批判とそれへの反論としての殷代青銅器銘文の性格	親族称問題を紹介する。殷代青銅器銘文の分類から親族称問題を考える。
第10回	殷代青銅器銘文分類のうちの寶貝賜与金文の構造	寶貝賜与金文から青銅器作器者問題を考え、それが親族称問題と密接につながることが理解する。
第11回	殷代青銅器の種類と青銅器鑄造方法、青銅器鑄造集団の存在。	外范分割法の紹介。銘文と文様の鑄込み方を紹介する。
第12回	殷代青銅器作器者問題を考える事例紹介	賁・鬲の比較から青銅器作器者問題を考える。
第13回	親族称問題と青銅器作器者問題のまとめ	王家不存在説という仮説が成立していることを確認し、家族構造が連続していることの意味を考える。
第14回	秋学期の解説	各授業での質疑を含め、秋学期のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国古代史をテーマとする概説書を読んで知識を得てください。また興味を引いたテーマについては図書館などで研究書のありかを検索し、積極的な学びを実践していただきたい。

予習・復習は、講義1回につき4時間を標準とします。

絶えず、現在の家族について考えることを望みます。

【テキスト（教科書）】

授業内で資料・図版を配布する。

【参考書】

飯尾秀幸『中国史のなかの家族』（山川出版社、2008）

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムで提出された各回の授業内容についての200字程度のレポート、および学期末に提出を課すレポート（600字程度）で評価する。前者を40％・後者を60％とする。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすく説明することを心掛けたい。

現代の問題と関連づけて授業を進めることとしたい。

【その他の重要事項】

質問は授業内で原則受け付けます。また学習支援システムにEメールアドレスを提示するので、質問などはメールにていつでも送信してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the family history, family styles and the establishment of family in Chinese ancient times.

The goals of this course are to learning about the formation of the family in ancient China and understanding how to handle historical materials. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (40%), term-end report (60%), and in-class contribution.

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋史特講Ⅱ

澁谷 由紀

授業コード：A3163 | 曜日・時限：水5/Wed.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、19世紀はじめから現代までのベトナム社会の形成過程をたどることで、ベトナム近現代史の基本的な流れを理解することを目指します。授業を通じてベトナム史の主な特徴を理解し、それを基盤として現代のベトナムに関する様々な問題について自ら探求する力を養うことを目的とします。

【到達目標】

- ・ベトナムの地理と歴史にかかわる基本的な事項を知ること
- ・ベトナム近現代史の特徴を理解すること
- ・ベトナムの諸問題に関して自らの見解を述べる力をつけること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義中心に進めます。提出された課題は、①担当教員のコメントを付し（匿名化のうえ）クラス内で共有し議論する、または②担当教員のコメントを付し個別に返却するという形でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ベトナムの地理
第2回	歴史圏の成立	阮朝期まで
第3回	植民地期(1)	植民地の形成
第4回	植民地期(2)	経済開発と社会変動
第5回	植民地期(3)	民族運動の世紀
第6回	中間まとめ	まとめと課題に対するコメント
第7回	植民地期(4)	第二次世界大戦
第8回	植民地期(5)	第一次インドシナ戦争
第9回	戦場から市場へ(1)	戦間期のインドシナ
第10回	戦場から市場へ(2)	第二次インドシナ戦争
第11回	戦場から市場へ(3)	17度線の南をめぐる
第12回	現代(1)	社会主義の建設とドイモイ
第13回	現代(2)	現代における近現代史
第14回	まとめ	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で示される課題（主として文献講読）に取り組み、原則として次回授業開始時まで提出してください。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

- ・石井米雄・桜井由躬雄編. 1999.『東南アジア史Ⅰ 大陸部』（新版世界各国史5）山川出版社。（うち、「Ⅱ 世界のなかの東南アジア」の第1章と第5章、「Ⅲ 現代の東南アジア」の第1章）
- ・古田元夫. 2017.『ベトナムの基礎知識』めこん.

【成績評価の方法と基準】

- ・課題（40%）・期末テスト（60%）

【学生の意見等からの気づき】

課題作成の際には、法政大学図書館のウェブサイトの「お役立ちサポート：レポート・論文を書くには」(<https://www.hosei.ac.jp/library/kensaku/support/report/>)を参考にしてください。

【その他の重要事項】

2024年度東洋史特講Ⅱと別内容です。

【Outline (in English)】

This course explores modern Vitenamse history. By the end of this course, students will understand the basic trajectory of modern Vietnamese history, tracing the formation of Vietnamese society from the early 19th century to the present day. Students are required to make a thorough review, mainly by completing assignments. Evaluations will be based on their submitted assignments (40%) and term-end examination (60%).

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋史特講Ⅲ

芦沢 知絵

授業コード：A3164 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「近現代の中国経済史」をテーマとする。

中国の経済発展は今や目覚ましい。一方、中国がなぜこれほど急速な発展を遂げたのか、また中国経済の実態や構造はどのようなものなのか、疑問を持つ人も多いであろう。そもそも歴史を振り返ってみれば、近代以前の中国は、政治的にも経済的にもアジアの中心であった。しかし、近代以降は列強の進出や戦争の影響により、中国経済は「停滞」したとされる。もっとも、近年の研究では、上海などの沿海都市部における、近代産業の発展的側面も明らかにされつつある。

本授業では、こうした最新の研究成果や諸資料をもとに、中国がどのような過程を経て今日の経済発展に至ったのか概観する。その上で、現在にも通じる中国経済の特質・問題点とは何か、歴史的な視点から共に考えていきたい。

【到達目標】

近現代における中国経済の変遷をたどり、中国近現代史及び中国経済史に関する知識や理解を深めるとともに、歴史的視点からみた中国経済の特質・問題点について、主体的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業を実施する。基本的に講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。提出されたリアクションペーパーは、次回授業時に一部を公開・回答し、フィードバックを行う。また、本授業ではやや専門的な内容を扱うため、中国近現代史の概略については、各自である程度の予習が必要となる場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中国経済史入門	中国経済史を学ぶ意義・方法
第2回	前近代の中国経済	伝統的商業秩序の形成
第3回	清末の近代化①	開港と外国資本
第4回	清末の近代化②	洋務運動と殖産興業
第5回	民国期の産業勃興①	新興資本家の出現
第6回	民国期の産業勃興②	軍閥と地方財政
第7回	国民政府の経済政策①	中央集権化と幣制改革
第8回	国民政府の経済政策②	戦時下の動員・統制
第9回	戦後の香港・台湾経済	冷戦期の華人資本
第10回	社会主義計画経済①	集団化と国有化
第11回	社会主義計画経済②	政治運動と混乱・停滞
第12回	改革開放と経済成長①	市場経済への移行
第13回	改革開放と経済成長②	WTO加盟とグローバル化
第14回	現在の中国経済	発展と社会矛盾

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。また、授業内で紹介した参考文献や配布資料をもとに知識と理解を深めるほか、中国経済に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。

岡本隆司編『中国経済史』名古屋大学出版会、2013年。（第4・5章）
 久保亨・加島潤・木越義則『統計でみる中国近現代経済史』東京大学出版会、2016年。
 丸川知雄『現代中国経済 新版』有斐閣、2021年。

【成績評価の方法と基準】

① 平常点 30%

主に毎回授業後に提出するリアクションペーパーを評価対象とする。

② 期末レポート 70%

授業内容に関するテーマをもとにレポートを執筆し提出する。

【学生の意見等からの気づき】

初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。また、毎回リアクションペーパーへのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業連絡・資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

中国経済の動向に合わせて、授業計画を一部変更する場合がある（授業内で通知）。

【Outline (in English)】

This course introduces the history of the modern Chinese economy. The goal of this course is to understand the historical process and problems of China's economic growth.

After each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on term-end report (70%) and in-class contribution (30%).

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋史特講Ⅳ

塩沢 裕仁

授業コード：A3165 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題の理解を目指します。
近年増大する考古学の成果などを用い、ビジュアルな面から時間的・空間的に地域相をとらえることで、東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題などが理解できるようになります。

【到達目標】

高度な技術を生み出してきた東アジアの物質文化に対して、これまでとは違った見方、考え方、接し方、ひいては新たな認識をもつことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文化財の保護を主題とし、洛陽、西安、北京、南京、開封の都市文化を軸に講じていきます。

中国三千年王朝史の9割にもおよぶ期間が置かれてきた洛陽、西安、北京は、まさしく東アジアの文化の中心であり、そこに営まれた歴史、文化を理解することで、日本文化の淵源を理解することもできます。また、古代の都城が抱えた生活環境問題などを考えることで、今日の都市問題への問題提起を考えることができます。

青銅器や陶磁器といった工芸資料にとどまらず石窟芸術や宮殿・陵墓建築などの考古・美術的な価値についても考えてみたいと思います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	長安の都市と陵墓	長安の都市圏と皇帝陵墓
第2回	洛陽の都市と陵墓	洛陽が有する都市空間
第3回	漢の諸文化	馬王堆漢墓
第4回	後漢三国・北朝の都城	許昌と鄴都
第5回	六朝の都城	六朝の都城建康と貴族文化
第6回	遊牧都市文化	フフホト・盛楽・大同・洛陽の遺構と出土遺物
第7回	仏教文化1	西域・敦煌・麦積山石窟
第8回	仏教文化2	雲崗・龍門石窟
第9回	隋唐の長安	隋唐の都城長安と隋唐陵墓
第10回	隋唐の洛陽	煬帝・武則天の都城洛陽
第11回	法門寺出土遺物	唐代の金属工芸技術
第12回	青磁と曜変天目	越窯・汝窯・鈞窯・建窯
第13回	白磁	定窯と景德鎮窯
第14回	漆器	茶文化と漆器

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほとんどの学生が当授業の内容に対しては初心者であると思います。講義の内容をよりよく理解するため、歴史事項だけでなく地理情報などの理解も必要です。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。

また、東京国立博物館東洋館、根津美術館、出光美術館などを自主的に参観し、東アジアの考古・美術に関する知識を増大させてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

授業の進行に合わせ適宜紹介しますが、写真や図版が多用されておりますので『ビジュアル版世界の歴史5、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史8、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史11、東アジアの変貌』（小山正明、講談社、1985年）には目を通していただきたいと思います。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%。

あらかじめ授業内で課題を提示します。問題意識を如何に持つかを重視しますので、自らの考えを自分の言葉で表現できるよう、平素より講義内容をまとめておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

当授業の内容を将来に生かすため、百貨店や骨董店など身近なところで東アジアの物質文化に触れる機会を増やしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 On grasping the time and space area characteristic in visual aspect with increased archaeological data in China, we will be able to understand the study situation and issues on the Chinese Archaeology, Art and Architecture.

【Learning activities outside of classroom】 Need two hours in a day.

【Grading Criteria /Policy】 Based on written test 100 percent.

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋史特講Ⅴ

宇佐美 久美子

授業コード：A3166 | 曜日・時限：金5/Fri.5
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド洋西海域における地域交流史を東アフリカのスワヒリ地域を中心に学ぶ。

ダウ船による遠距離海上交易が、どのようにアラブ、ペルシア、インド、東アフリカなどの各地域を結び付けたのかを具体的に紹介する。さらに、ポルトガル、イギリスなどヨーロッパ勢力のインド洋進出がもたらした影響を考察する。

学生各自が専門とする地域・時代における地域交流史と比較考察する機会を得ることによって史学研究について知見を深める。

【到達目標】

海洋史研究の方法論を習得する。

遠距離海上交易が結び付けたアラブ、ペルシア、インド、東アフリカなど各地域の関係を理解する。

環インド洋地域の諸社会とヨーロッパ勢力の海洋支配の捉え方を比較して説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教材プリントを使う対面授業での講義形式をとる。授業内での受講生からの積極的な質問を歓迎するとともに、リアクションペーパー等のコメントを次回授業内で紹介し全受講生へのフィードバックを行う。DVDやVHSなどの視覚教材も活用する予定。課題として史料を配布し、受講生の分析結果を後日まとめて紹介するなど双方向型の取り組みも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	海洋史入門	海上交流の捉え方 ヒト・モノの移動について
第2回	インド洋交流史の枠組（その1）	自然条件など
第3回	インド洋交流史の枠組（その2）	ダウ船について
第4回	インド洋交流史の枠組（その3）	時代区分・特産品など
第5回	スワヒリ社会の成立	スワヒリ社会の成立
第6回	スワヒリ地域とインド洋（その1）	スワヒリ地域とアラビア半島・ペルシャ湾岸地域との交流
第7回	スワヒリ地域とインド洋（その2）	『キルワ年代記』
第8回	ポルトガルの進出（その1）	スワヒリ地域の事例
第9回	ポルトガルの進出（その2）	インド洋西海域の事例
第10回	スワヒリ地域とオマーン（その1）	ザンジバルへの進出
第11回	スワヒリ地域とオマーン（その2）	インド洋奴隷貿易
第12回	インド人移民（その1）	18世紀まで
第13回	インド人移民（その2）	19世紀
第14回	インド人移民（その3）	20世紀 授業総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、合計4時間を標準とする。
 準備学習としては、地図や年表を活用し、事前に対象地域の概略を押さえる。
 復習としては、必修項目を確認し身に付けるとともに課題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

家島彦一『海域から見た歴史—インド洋と地中海を結ぶ交流史』名古屋大学出版会 2006年
 富永智津子『スワヒリ都市の盛衰』（世界史リブレット）山川出版社 2008年
 この他にも講義において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

不定期に実施する小テストなどの平常点(40%)と期末レポート(60%)の評価を総合して成績を決定する。

小テストは、講義内容の理解度を確認するために実施する。

期末レポートは、講義で取り上げたインド洋地域交流史の内容をふまえ、それをさらに深く考察してオリジナルな論議を展開できるかどうかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生にとって、スワヒリ地域というアフリカの一地域の歴史的展開を学ぶ機会を得たことが最も印象的であったようだ。アフリカやイスラームに関心を抱ききっかけを提供するためにも、さらに詳しく論じたい。

また、「東洋とは?」「東洋史とは?」という問いを考察する機会も提供したいと考えている。

【その他の重要事項】

授業終了後に教室において質問を受け付ける。

もしくは下記メールアドレスに連絡する。

kumiko.usami.c4@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

This lecture deals with the historical development of maritime activities in the western part of the Indian Ocean.

It introduces how the long-distance maritime trade using dhows contributed to develop the vibrant interregional connections in the Indian Ocean World, from the Red Sea, the Arabian Peninsula, the Persian Gulf, to the west coast of the Indian Sub-Continent and to the east coast of Africa also known as Swahili coast.

Focuses are set on the historical development of East African coastal communities.

It also deals with the various effects of arrival of European Powers, Portuguese and British and others in the Indian Ocean World.

The students will be provided the opportunity to speculate historiography further comparing their majoring subjects with the history of Indian Ocean World.

At the end of this lecture, students are expected to learn the methodology of historical studies of oceans, and to explain the historical development of interregional movements and connections in the Indian Ocean World.

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(60%) and in-class contribution(40%).

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋史特講 I

内田 康太

授業コード：A3168 | 曜日・時限：金3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代ローマ史に関する諸問題のうち、「共和政期（前6世紀～前1世紀）における立法」を取り上げる。共和政ローマの運営を支えた立法のしくみを制度と実態の両面から分析することで、その支配構造の特質について学ぶ。

【到達目標】

到達目標は以下のとおり。

- ・共和政ローマにおける立法について基礎的知識を習得する。
- ・一次資料の扱い方を習得し、法律の制定に対する民衆の影響力について自ら考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行うが、第12回・第13回は受講生によるディスカッションを組み入れる。講義形式の授業については、授業時間内の質疑応答に加えて、授業後に毎回アクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の理解度、関心事項、疑問点等を確認しながら授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ローマ共和政と立法
第2回	立法のしくみ	法案の起草から民会での票決まで
第3回	元老院	立法における元老院の役割とその時代的変遷
第4回	政治集会（コンティオ）（1）	開催・運営の制度と特質
第5回	政治集会（コンティオ）（2）	参加者の構成
第6回	政治集会（コンティオ）（3）	議論の内容
第7回	情報の公開	「ローマ民主政論」
第8回	票決のゆがみ	法案の可決、法案の否決と撤回
第9回	立法プロセスの再検討（1）	法案の起草から公示まで
第10回	立法プロセスの再検討（2）	政治集会（コンティオ）における議論をめぐって
第11回	立法プロセスの再検討（3）	法案の公示から民会での票決まで
第12回	投票者（1）	だれが投票したのか
第13回	投票者（2）	どのように投票したのか
第14回	試験・まとめと解説	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。参考書として挙げた書籍などを用いて、自主的に学習することが求められる。

【テキスト（教科書）】

特になし。担当教員が作成したレジュメ・資料を配布する。

【参考書】

エルンスト・マイヤー『ローマ人の国家と国家思想』（鈴木一州訳）、岩波書店、1978年。
 島田誠『世界史リブレット3 古代ローマの市民社会』、山川出版社、1997年。
 長谷川岳男／樋脇博敏『古代ローマを知る事典』、東京堂出版、2004年。

【成績評価の方法と基準】

期末の筆記試験（80％）

リアクションペーパーや質問等、授業への積極的参加度（20％）

【学生の意見等からの気づき】

一次資料（日本語訳）の読解に興味をもつ受講生が多かったことから、史料の分析を取り込んだかたちでの講義を継続する。また、受講生の関心にも配慮した授業を進めるために、引き続きリアクションペーパーを通じた質疑応答を活用する。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with the issue of legislation in the Roman Republic (6-1 century B.C.). Analyzing it from both institutional and practical aspects, it helps students learn the characteristics of governance in this ancient polity.

Learning Objectives: The followings are the goals of this course.

- Students are able to acquire fundamental knowledge concerning legislation in the Roman Republic.

- Using primary sources properly, students are able to estimate the influence of the people over the outcome of lawmaking.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. They are required to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves.

Grading Criteria: Grading will be decided based on term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋史特講Ⅱ

伊丹 聡一郎

授業コード：A3169 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、9-16世紀にかけてのルーシ地域と周辺諸地域との相互関係について概観した上で、そこから現在のロシア国家へと繋がるモスクワ政治権力が分かれ出てきた歴史的経緯について論じる。

【到達目標】

1. 「ルーシ」から「ロシア」へと至る歴史的経緯を包括的に理解できる。
2. 北欧、ビザンツ、モンゴルがルーシの歴史に与えた影響を理解できる。
3. 14世紀ルーシにおける政治秩序の再編とその歴史的意義を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は講義形式で実施する。授業で配布したプリントをその都度見返し、さらに参考文献を読むことで、授業内容についての理解を定着させること。なお、毎回リアクションペーパーを配布・回収し、翌週の講義冒頭でフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講義の目的と概要、授業の進め方について
第2回	ロシア中世史学概論	歴史学研究において「ルーシ」はどのように見られてきたのか
第3回	ヴァイキングとルーシ①	ヴァイキングの登場と東方進出について
第4回	ヴァイキングとルーシ②	キエフ大公国の成立と発展にヴァイキングが果たした役割について
第5回	ビザンツとルーシ①	ビザンツ帝国を中心とする東方正教世界の特徴について
第6回	ビザンツとルーシ②	ルーシのキリスト教化にビザンツ帝国が果たした役割について
第7回	モンゴルとルーシ①	モンゴル帝国によるルーシ支配の展開について
第8回	モンゴルとルーシ②	モスクワ大公国の台頭とその後の対モンゴル関係について
第9回	14世紀ルーシにおける政治秩序の再編①	ガーリチ・ヴォルィーニ大公国とノヴゴロド共和国について
第10回	14世紀ルーシにおける政治秩序の再編②	ヴォルガの河川賊ウシクイニクの活動について
第11回	14世紀ルーシにおける政治秩序の再編③	全ルーシ府主教座の政治的役割及び修道院運動の展開について
第12回	14世紀ルーシにおける政治秩序の再編④	ペルミの宣教師ステファンの活動について
第13回	「ルーシ」から「ロシア」へ	15世紀以降のモスクワによる河川ネットワークを通じた辺境進出について
第14回	試験・まとめと解説	本講義の総括及び授業内レポート試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：事前に参考書の関連箇所を読み、授業内容の背景を理解しておく。

復習：配布資料を用いて授業内容を振り返る。

本授業の準備学習・復習時間は1回あたり4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、授業でプリントを配布する。

【参考書】

田中陽児・倉持俊一・和田春樹共編『世界歴史体系 ロシア史1：9～17世紀』山川出版社、1995年。

宮野裕『世界史リテラシー「ロシア」はいかにして生まれたのか：タタールのくびき』NHK出版、2023年。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（80%）

リアクションペーパーを用いた平常点（20%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This lecture will provide an overview of the interrelationships between the Rus' and the surrounding areas from the 9th to the 16th centuries, and then discuss the historical process through which Muscovite political power emerged from the Rus', eventually leading to the present Russian state.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand medieval Russian history, understand the influence of neighboring powers on the Rus', and understand the restructuring of the political system in 14th century Rus' and its historical significance.

(Learning activities outside of classroom)

Students should consolidate their understanding of the course content by reviewing the handouts and reading the bibliography.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end examination: 80%, in class contribution: 20%

HIS300LA（史学 / History 300）

西洋史特講Ⅲ

辻 英史

授業コード：A3170 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ナチズムを中心に20世紀のドイツ語圏の歴史を扱う。ナチスとその支配をドイツ＝ヨーロッパ史の文脈のなかに位置づけ、その特質を理解することを目的とする。

【到達目標】

20世紀の前半のドイツを中心とするヨーロッパの状況について学ぶ。とくに、歴史上例のない破壊と犯罪行為をおこなったナチ政権の成立に至る過程とその支配のイデオロギーや構造、およびナチ政権の下での「普通の人びと」の日常生活について理解する。ナチスの引き起こした第二次世界大戦とユダヤ人迫害（ホロコースト）を、そのヨーロッパワイドな広がりという文脈において理解する。さらに、大戦後から現代に至るまでのナチスをめぐる歴史認識についても考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は以下の3つのパートからなる。

- ①概説：政治・経済を中心に、時代の流れを説明する。
 - ②論点：経済・社会・文化を中心に、その時代の重要な特徴をいくつか抜き出し、解説する。
 - ③演習：それまでに得た知見を踏まえ、同時代史料（文書、画像、映像、芸術作品など）を読解し、解釈する。史料は日本語のものを用意する。
- 参加者は毎回課題（リアクションペーパー）を提出する。提出課題はフィードバックのうえ返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	ドイツの近現代史における特殊性と他地域との共通性について知る。
第2回	近現代ドイツ史の歩みとナショナリズム	ナポレオン戦争からドイツ帝国創建にいたるドイツのナショナリズムの発展を概観する。
第3回	第一次世界大戦とその帰結	ヴェルサイユ体制と敗戦国ドイツの処遇について学ぶ。
第4回	ヴァイマル共和国の誕生	ドイツ革命、ヴァイマル共和国の成立から1920年代半ばの相対的安定期までを扱う。
第5回	ヴァイマル共和国の崩壊	世界大恐慌から、ナチ党の台頭過程を経てその権力掌握に至るまでを明らかにする。
第6回	ナチ独裁支配の確立	全権委任法や「グライヒシャルトUNK」と呼ばれる国内支配体制の足固め、「経済の奇跡」を達成するまでを概観する。
第7回	ナチ体制への国民統合	ドイツ国民の「民族共同体」への統合と、「共同体異分子」と呼ばれた人びとの排除について扱う。
第8回	ナチ・ドイツと国際社会	ヨーロッパ・グローバルな視点から1930年代の国際情勢を明らかにする。

第9回	「電撃戦」から「総力戦」へ	第二次世界大戦の開戦の経緯とドイツの戦争遂行体制の内実について知る。
第10回	ヨーロッパ・ユダヤ人の「絶滅計画」	大量虐殺に至るユダヤ人迫害の累進的急進化のプロセスについて学ぶ。
第11回	支配と協力のあいだで	ナチ支配体制に対するヨーロッパ各国の協働と抵抗について知る。
第12回	第二次世界大戦後のドイツ（1）	「崩壊社会」と呼ばれた敗戦後の混乱から、東西ドイツの建国にいたる時期を扱う。
第13回	第二次世界大戦後のドイツ（2）	戦後の東西ドイツにおける「過去の克服」の状況、とくに戦争犯罪人の訴追の問題を扱う。
第14回	再統一後のドイツと「記憶の文化」	統一ドイツにおけるナチズムの過去に関する「記憶の文化」の形成について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回課題（リアクションペーパー）を提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

石田勇治編著『図説ドイツの歴史』河出書房新社、2007年。
芝健介『ホロコースト—ナチスによるユダヤ人大量殺戮の全貌』中公新書、2008年。
石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』講談社現代新書、2015年。
芝健介『ヒトラー—虚像の独裁者』岩波新書、2021年。
ウルリヒ・ヘルベルト(小野寺拓也訳)『第三帝国—ある独裁の歴史』角川新書、2021年。
小野寺拓也／田野大輔『検証ナチスは「良いこと」もしたのか?』岩波ブックレット、2023年。
原田昌博『ナチズム前夜』集英社新書、2024年。
ほか、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加(10%)、リアクションペーパー(30%)、レポート(60%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

This course covers the history of the German-speaking world in the 20th century, with a focus on National Socialism. The aim is to place the Nazis and their rule in the context of German-European history and to understand its particularities. Students will pay close attention to the process led to the establishment of the Nazi regime, which committed destruction and criminality unprecedented in history, the ideology and structure of its rule, and the daily lives of "ordinary people" under the Nazi regime. The course will also provide students with an understanding of the role of the Nazi regime in the Second World War and the persecution of the Jews (the Holocaust) in the context of its Europe-wide spread. The course will also examine historical perceptions of the Nazis from the end of the war to the present day. Students are required to submit a reaction paper each time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Class participation (10%), reaction papers (30%), reports (60%)

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋史特講Ⅳ

皆川 卓

授業コード：A3171 | 曜日・時限：月4/Mon.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世から近代までの歴史を通してヨーロッパの「国家的アイデンティティ」(national identity) を学びます。最初に近代の「ナショナリズム」の構造を紹介し、近代人の中にも無限に多様な「ナショナリズム」があること、しかしそれにも拘わらず何らかの歴史的事情によって一定の地域毎に統合されていることを確認します。そののちそれぞれタイプの異なるフランス、ブリテン（イギリス）およびドイツ（旧神聖ローマ帝国）の状況を概観し、何がそれぞれをまとめるのかを学びます。

【到達目標】

「ナショナリズム」が近代主権国家の諸条件のもとで成立すること、その方向性が各国の近世の歴史的発展に依拠することを学ぶとともに、そこで創られたさまざまなコンセプトが、どのようなメカニズムのもとで国への感情的執着に発展するのかを、それぞれタイプの違う近世史を抱えるヨーロッパ3か国の例から理解し、歴史的観点から合理的・客観的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドとプリントによる系統的なスタイルでの講義形式を中心に行います。単元の終了毎（原則として対面ですが、オンライン回にせざるを得ない場合はその都度）に、オンライン掲示による小テストを実施し、到達度を測ります。対面による質問は随時受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「国家的アイデンティティ」(national identity) とは何か	受講者が日々触れる現代生活における文化と情念の関係を分析しながら、社会秩序や社会的価値への愛情が成立・発展する心的条件を論じます。
第2回	ナショナリズムの光と影	ナショナリズムの出発点となる情念が社会価値化するメカニズムを解析し、ナショナリズムの多義性と多様性を各国近世・近代史の特徴的な出来事から明らかにします。
第3回	近代以前に国民主義は存在するか（1）	ナショナリズム現象とされる活動を歴史の諸例から取り上げ、ゲルナー、ホブズボーム、アンダーソン、スミスなど近年の諸説に照らしながら、その類型を提示します。
第4回	近代以前に国民主義は存在するか（2）	前近代史の中に、近代になって初めてナショナリズムの神話形成に用いられるトピックが多数あることを確認します。
第5回	歴史の中のエスニシティとその分析方法（1）	現代ヨーロッパにおける遺伝子ビッグデータの成果などから、「民族」が文化的集団であることを確認し、その基準であるエスニシティとは何かを、機能的な側面から分析します。
第6回	歴史の中のエスニシティとその分析方法（2）	エスニシティを分析するには、その歴史的文脈、特に集団同士の関係に注目することがポイントであることを実証的に紹介します。
第7回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「王国」のフランス（1）	君主の身体と血統の中にエスニシティを見る伝統を発展させたフランス王国の例を紹介し、他のエスニック要素も展望しながらそのメカニズムを解き明かします。
第8回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「王国」のフランス（2）	君主の血統の中にエスニシティを見る伝統を発展させたフランス王国の例を紹介し、他のエスニック要素も展望しながら、普遍的な性格を持つ新しいエスニシティを発見する過程を分析します。
第9回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「帝国」のブリテン（1）	「議会の中の王」「幸いなる島国」「反カトリシズム」「商業国家」など多様なエスニック要素を組み合わせて小国を束ね、大国化したブリテン（イギリスの）例を紹介します。

第10回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「帝国」のブリテン（2）	ブリテンに束ねられたスコットランド、アイルランドなどの小国の視点とそれらのリアクション形成、そしてそこから生じる垂直的・水平的なアイデンティティの多元性を論じます。
第11回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「民族」のドイツ（1）	統一的な主権国家とは異なり、新旧の要素が同居する多元的な秩序を生み出した神聖ローマ帝国の特徴と、それをサポートするものとして生み出された「ドイツ」の観念の起こりを紹介します。
第12回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「民族」のドイツ（2）	神聖ローマ帝国の国家連合化によるアイデンティティの空白を埋める目的で「ドイツ」が文化的共同体に発展する過程を論じます。
第13回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「民族」のドイツ（3）	「ドイツ」アイデンティティが他国との関係に対する優越的価値「民族」となり、秩序も個人もそれに支配されていく過程を分析します。
第14回	総合評価とまとめー「愛国」のカルテ	近世ヨーロッパ各国の国家的アイデンティティを構成する要素とその組み合わせのタイプを振り返り、それらとの比較から歴史的な「愛国」とは何かを、「少数民族」の観点も展望しながら相対化し、批判的にまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・事前に配布されるプリントは必ず授業前に読み、大まかな内容は頭に入れておきます（毎回1時間）。

・授業前に参考書やネットを通じて、始めて知る言葉、名前しか知らない言葉について一通り調べ、プリントにメモをします（毎回1時間）。

・授業終了後、授業中に分からなかった点について、自分で調べたり教員に質問します（毎回1時間）。

・授業を聞いて考えた点をメモを取り、期末レポートの作成に備えておきます（毎回1時間）

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。（配布プリントがその機能を担います）

【参考書】

E.ホブズボーム／T.レンジャー『創られた伝統』紀伊国屋書店 1992

E.ゲルナー『民族とナショナリズム』岩波書店 2000

B.アンダーソン『想像の共同体』NTT出版 1997

A.D.スミス『ネイションとエスニシティー歴史社会的考察』名古屋大学出版会 1999

F.フローデル『フランスのアイデンティティ』（第1篇・第2編）論創社 2015

H.トーマス『中世の「ドイツ」ーカール大帝からルターまで』創文社 2005

松本彰・立石博高『国民国家と帝国』山川出版社 2005

谷川稔『国民国家とナショナリズム』山川出版社 1999

指昭博編『王はいかに受け入れられたかー政治文化のイギリス史』刀水書房 2008

岩井淳・指昭博編『イギリス史の新潮流ー修正主義の近世史』彩流社 2000

その他教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

・評価は平常点（20%）、単元毎の小テスト（30%）、期末レポート（50%）を総合して評価します。

・ナショナリズムを含む国家的アイデンティティの歴史の変遷を知識として正確に把握できているか【第1評価プロセス：単元毎の小テスト30%に照応】、各時代の国家的アイデンティティを歴史学の方法に従って経験科学的・論理的に分析し、説明できるか【第2評価プロセス：期末レポート50%に対応】、が基準となります。

【学生の意見等からの気づき】

・欠席者がついて行けなくなる事態を防ぐため、最初に15～20分程度、前回の内容の復習時間を取ることにします。

・小テストの回答はある程度時間を取っていますが（2週間程度）、事情により遅れても提出できるようにします（ただしやむを得ない事情以外、期日を守っている受講生との公平性を考慮し、一定の減点をします）。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】： We learn about Europe's "national identity" throughout history, from the Middle Ages to modern times. First, I will introduce the structure of modern "nationalism" and confirm that there is an infinite variety of "nationalism" among modern people, but that it is nevertheless integrated in a certain region due to some historical circumstances. You will then get an overview of the different types of France, Britain (Great Britain) and Germany (formerly the Holy Roman Empire) and learn what brings them together.

【到達目標（Learning Objectives）】： We come to understand that "nationalism" is established under the conditions of modern sovereign states and that its direction depends on the historical development of each country in the early modern period, and that the various concepts created there will develop into emotional attachment to their countries by understanding the mechanisms by which they develop into emotional attachment to their countries from the examples of three European countries with different types of early modern histories, and to explain rationally and objectively from a historical perspective.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

- ・ Be sure to read the handouts distributed in advance before class and keep the general contents in mind (1 hour each time).
- ・ Before class, you will look up all the words you know for the first time or words you only know by name through reference books and the Internet, and make notes on printouts (1 hour each time).
- ・ After the class, you will do your own research or ask questions to the instructor about points that you did not understand during the class (1 hour each time).
- ・ Take notes on what you thought after listening to the class and prepare for writing a final report (1 hour each time)

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】：・ The evaluation will be based on a combination of normal scores (20%), quizzes for each unit (30%), and final reports (50%).

・ The criteria are whether the student has an accurate grasp of the historical transition of national identity, including nationalism as knowledge [1st evaluation process: in light of 30% of the quiz for each unit], and whether the national identity of each era can be analyzed and explained empirically and logically according to the method of historiography [2nd evaluation process: corresponding to 50% of the final report].

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋史特講Ⅴ

皆川 卓

授業コード：A3172 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世ヨーロッパにおける社会的流動性（social mobility：地位、身分、職業や職場、信仰、居住地などの変更）が、人や人の集団同士の生活やアイデンティティ、仕組みに与えた影響について、近年の研究成果を紹介します。受講者はそこから、社会的流動性が歴史の発展に深くかかわっていることを学ぶとともに、さまざまな成長期の社会に生きる人々が、いかにして社会に前向きに関われるかを省察します。

【到達目標】

近世ヨーロッパの人々は、現代から見れば経済成長率が極端に低い中であっても、自ら身分や地位、職業や活動地域の変更を求め、異なる環境の衝撃に耐えて自らを活かす可能性を拓くばかりでなく、自分の求めた自己を実現する社会的枠組みをも形成していった。この近世ヨーロッパ「社会」の動的側面の実相と、それが近代の形成に果たした役割を多角的に学び、社会的流動性を持つ可能性を客観的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドとプリントによる系統的なスタイルでの講義形式を中心に行います。単元の終了毎（原則として対面ですが、オンライン回にせざるを得ない場合はその都度）に、オンライン掲示による小テストを実施し、到達度を測ります。対面による質問は随時受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会的流動性とは何か（1）	社会的流動性（社会移動）は人間生活の活力を左右する基礎的条件ですが、それが分析の対象となることは多くありません。身近な生活を例に、社会的流動性とは何かを簡単に紹介します。
第2回	社会的流動性とは何か（2）	社会的流動性を歴史的に見ると、どのようなことが分かってくるかを、高校までの既習知識の中にある事例から指摘し、それが過去の社会の分析に有効であることを論じます。
第3回	中世ヨーロッパの社会的流動性（1）	中世ヨーロッパの厳格な身分が、権力者に強制された制度ではなく、むしろ職業教育の未発達やコミュニケーションの未熟な中、人々自身から作られたものであることを論じます。
第4回	中世ヨーロッパの社会的流動性（2）	中世後期に徐々に活発化する社会的流動性が、人々の認識の変化を促し、それが社会の集団意識に逆反射して、仕組みや制度をも徐々に変えていく実態を紹介します。
第5回	社会的流動性の舞台【教会と信仰】（1）	近世ヨーロッパの人々に自分の生活環境を変えるチャンスとなった様々な場の中で、キリスト教の教会組織と信仰によるネットワークが大きな影響を及ぼしたことを論じます。
第6回	社会的流動性の舞台【教会と信仰】（2）	教会組織や信仰のネットワークにおける社会的流動性が、次第に既存の組織の持つバイアスを変化させ、教会の改革や信仰の自由に導いていく展開を説明します。
第7回	社会的流動性の舞台【宮廷と軍隊】（1）	近世の厳格な身分の壁を超える場の一つに、権力者が営む宮廷と軍隊がありました。そのうち宮廷に注目し、どのような人材がそれを利用して流動性の波に乗れたのかを詳しく論じます。
第8回	社会的流動性の舞台【宮廷と軍隊】（2）	前回に続いて軍隊に注目し、そこでどのような能力が評価されたのか、またそこにはどのような限界があり、結果として軍隊の流動性はどのようなものになったのかを分析します。

第9回	社会的流動性の舞台【都市とビジネス】（1）	近世ヨーロッパの都市は、ビジネスを通じてそれまで閉じ込められていた境遇から自分を解放し、流動性の波に乗る重要な場でした。そこではどのような可能性があったのかを概観します。
第10回	社会的流動性の舞台【都市とビジネス】（2）	都市とビジネスの流動性は、そこで動く人々の内面をも変化させました。それがどのようなものであり、彼らはより望ましい場の実現を求めてどのような社会を促したのかを論じます。
第11回	社会的流動性の舞台【教育機関・文化とメディア】（1）	近世ヨーロッパでは、様々な教育の場が、本来の目的であった宗教や職業を超えて生活に広く役立てられました。そこから生まれた流動性の特徴を、いくつかの事例に即して検討します。
第12回	社会的流動性の舞台【教育機関・文化とメディア】（2）	近世ヨーロッパの流動性の特徴として、メディアによる流動性があります。直接地位や居住地を変えなくても、認識を共有した集団の中から生み出されたコミュニケーションと価値に注目します。
第13回	社会的流動性の変質と「社会」の誕生	近世ヨーロッパの流動性は、身分や資産の上下に留まらず、好み（ハビトゥス）や人生観、知性など精神面の発展も促しました。それが自由な個人の支える社会という発想を生み出すまでを論じます。
第14回	総合評価とまとめ	近世ヨーロッパの流動性が、単なる地位や富の上下を超え、多様性を承認する「市民」という新たな秩序の枠組みを創造しえたのはなぜなのか、これまでの授業を振り返りながらまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・事前に配布されるプリントは必ず授業前に読み、大まかな内容は頭に入れておきます（毎回1時間）。
・授業前に参考書やネットを通じて、始めて知る言葉、名前しか知らない言葉について一通り調べ、プリントにメモをします（毎回1時間）。
・授業終了後、授業中に分からなかった点について、自分で調べたり教員に質問します（毎回1時間）。
・授業を聞いて考えた点をメモを取り、期末レポートの作成に備えておきます（毎回1時間）

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。（レジュメがテキストの機能を担います）

【参考書】

清水廣一郎『中世イタリアの都市と商人』講談社 2021
成瀬治『近代ヨーロッパへの道』講談社 2011
高澤紀恵／G・カレ『「身分」を交差させる一日本とフランスの近世』東京大学出版会 2023
L・ストーン（佐田玄治訳）『エリートの攻防—イギリス教育革命史』お茶の水書房 1985
角山栄他『生活の世界歴史(10)産業革命と民衆』河出書房新社 1992
Ch・ハルツィヒ他（大井由紀訳）『移民の歴史』筑摩書房 2023

【成績評価の方法と基準】

・評価は平常点（20%）、単元毎の小テスト（30%）、期末レポート（50%）を総合して評価します。
・ヨーロッパ近世史の中に展開される社会的流動性の概要を理解することができ【第1評価プロセス：単元毎の小テスト30%に照応】、そこから歴史のマクロ的な動きを読み取り、受講者の活きる現代社会と比較・相対化することで、歴史を客観的に論じるための俯瞰的な視点をどれだけ達成しているか【第2評価プロセス：期末レポート50%に対応】をみます。

【学生の意見等からの気づき】

・様々な研究対象を持つ受講生の理解のために、現代社会や他の時代・地域との比較を交えながら論じます。
・受講生が欠席のため授業内容について行けなくなる事態を抑制するため、授業の最初に15～20分の復習を行います。そのため進度は多少変動します。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】：The lecturer introduces the results of recent research on the impact of social mobility (changes in status, status, occupation, workplace, religion, place of residence, etc.) in early modern Europe on the lives, identities, and structures of people and groups of people. From there, students will learn that social mobility is deeply involved in the development of history, and reflect on how people living in various growing societies can be positively involved in society.

【到達目標 (Learning Objectives)】： Even in the midst of extremely low economic growth rates from the perspective of modern times, the people of early modern Europe sought to change their status, status, occupation, and area of activity, and not only opened up the possibility of making the most of themselves by withstanding the impact of different environments, but also formed a social framework to realize the self they wanted. we learn from various perspectives the reality of the dynamic aspects of early modern European "society" and the role it played in the formation of modernity, and objectively understand the potential of social mobility.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

- ・ Be sure to read the handouts distributed in advance before class and keep the general contents in mind (1 hour each time).
- ・ Before class, you will look up all the words you know for the first time or words you only know by name through reference books and the Internet, and make notes on printouts (1 hour each time).
- ・ After the class, you will do your own research or ask questions to the instructor about points that you did not understand during the class (1 hour each time).
- ・ Take notes on what you thought after listening to the class and prepare for writing a final report (1 hour each time)

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】： ・ The evaluation will be based on a combination of normal scores (20%), quizzes for each unit (30%), and final reports (50%).

- Students will be able to understand the outline of social mobility that unfolds in the history of early modern Europe [1st Evaluation Process: Corresponding to 30% of the quiz for each unit], and from there, by reading the macro movements of history and comparing and relativizing it with the current society in which the participants are active, they will be able to see how well they have achieved a bird's-eye view for objectively discussing history [2nd Evaluation Process: Corresponding to 50% of the final report].

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋史特講Ⅵ

遠藤 泰生

授業コード：A3173 | 曜日・時限：火2/Tue.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第47代大統領ドナルド・トランプが就任したアメリカ合衆国では、「社会の分断」が際立つという。いったい何が「分断」しているというのだろうか。アメリカ合衆国における保守とリベラルの分断線をなす理念とはいったいどのようなものなのだろうか。国の成立時に立ち返ってその起源を省みることが今ほど求められている時はない。

本授業では、理念に基づく人工国家とすら呼ばれるアメリカ合衆国が、国民国家としての体裁を整えるまでの近代史を概観する。時代的には17世紀初頭から19世紀末までを中心に振り返り、ヨーロッパ人の入植活動、独立革命を経ての共和主義政体の確立、南北戦争の終戦処理などを主要な論点に、人種・ジェンダー・エスニシティ他の要素を横断的に統合する理念の共和国が成立した歴史を学ぶ。

政治文書にとどまらず、文学、絵画、映画など多様なメディアに刻まれた時代の相貌に触れることで、立体的な歴史理解の獲得を目指す。諸外国における人種規範、ジェンダー規範などを比較の対象におくことで、アメリカの歴史の特徴を相対化させることにも心掛ける。

【到達目標】

アメリカ合衆国の近代史に関する基礎知識を体系的に習得する。そのうえで、現代アメリカ社会に潜在する諸問題の歴史的淵源を理解することの一つの目標をおく。その意味で、本授業では外国理解に歴史的知見を動員する姿勢を学生に身に付けさせる。

政治文書、文学、絵画、建造物など、異なるメディアの史料読解を通し、さまざまな歴史主体の声に学生は耳を傾けられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を主体に進めるが、演習形式の授業も途中で混ぜる。とくに、史料読解の訓練に際しては、担当学生をあらかじめ決め、授業冒頭に簡潔な導入報告をしてもらうことがある。課題読書レポートにはコメントを付して返却する。そのほか、歴史地図の作図提出を学期中に数回求める。これらの作業を通して、確かな基礎知識に基づく議論を学生は行うことができるようになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入：今なぜアメリカの歴史と文化を学ぶのか	アメリカ社会を規定する歴史観として「有用なる過去」の考えを紹介する。
第2回	先住インディアンのアメリカ	先住民インディアンの文化とその多様性を学ぶ。
第3回	北米ニューイングランド植民地	アメリカ例外主義の淵源の一つとして、ピューリタニズムに潜在する選民意識の歴史を学ぶ。
第4回	ロードアイランド植民地の経験	アメリカにおける思想信条の自由を制度化した政教分離の歴史を学ぶ。
第5回	中部大西洋沿岸植民地	18世紀大西洋文化圏におけるアメリカン・モダニティの萌芽を学ぶ。

第6回	南部大西洋沿岸植民地	黒人奴隷制がアメリカに定着した歴史を世界における奴隷制の歴史を文脈に学ぶ。
第7回	アメリカ独立宣言	アメリカ独立革命において人民主権の概念が果たした役割を学ぶ。
第8回	アメリカ共和国の成立	共和主義を成文化した文書として合衆国憲法を捉え、その成立過程を学ぶ。
第9回	アメリカ女権運動の黎明	「共和国の母」とも呼ばれた建国期のアメリカ女性が展開した女権運動の歴史を学ぶ。
第10回	自由への逃走	逃亡奴隷フレデリック・ダグラスの著した『自伝』（1845）を読む。歴史を学ぶのに文学をどのように用いるか、史料としての文学の可能性を合わせて検討する。
第11回	西への衝動	絵画に描かれた西部のヴィジョンをアメリカ人の心的原風景の一つと捉え、国土西漸運動の歴史を学ぶ。史料としての絵画の可能性を検討する。
第12回	南北戦争の勃発と総力戦の展開	自由労働と奴隷労働の二つの労働理念をめぐる南北の確執を学ぶ。
第13回	戦争の終わらせ方	国家の分断と融和をもたらしたリンカン大統領の言葉の政治を学ぶ。
第14回	春学期の学習の振り返りとまとめ	春学期の講義の振り返りを行いつつ、南北戦争以後の歴史を見通す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定する教科書の該当する章をあらかじめ読み、疑問点を整理しておくことが望ましい。予習の該当箇所については、第一回の授業時に一覧にして知らせる。

フレデリック・ダグラス著『自伝』の読書レポートを第11回授業開始時を締め切り提出してもらう。Webを通して提出。長さは2400字以上。

準備・復習・課題作成に必要な時間は、平均4時間を予定している。

【テキスト（教科書）】

- 遠藤泰生・小田悠生共編『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』（ミネルヴァ書房、2023）、3500円。
- フレデリック・ダグラス著 樋口映美監修『アメリカの奴隷制を生きたーフレデリック・ダグラス自伝（増補改訂）』（彩流社、2025）、1900円。
- その他の必要な史料は適宜コピーして授業で配付する。

なお、教科書に指定した『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』は、テキスト内に挙げた図版、絵画、地図、写真等の原典URLをQRコード化し、選択的ではあるが、巻末にまとめて掲載している。すべてオープンアクセスの史料ばかりなので、携帯の画面を通してカラー刷りの原典に親しみ、各時代の息吹に触れて欲しい。

【参考書】

アメリカ学会編『アメリカ文化事典』（丸善出版、2018）

【成績評価の方法と基準】

期末試験：60%

課題読書レポート：20%

歴史地図提出：10%

通常点：10%

【学生の意見等からの気づき】

毎回授業時には質疑応答の時間を設け、学生の疑問や授業への希望を聞くほか、授業方法への希望も聞き、講義の改善に役立てる。

【その他の重要事項】

英語が得意でなくとも史料の読解ができるように指導する。

【Outline (in English)】

This class surveys the history of the United States in the 18th and 19th centuries. This year, history of racial, gender, and ethnic norms, which has exerted a significant influence on the division of contemporary American political landscape, will be examined with special attention. This examination will be indispensable for those who want to delve into Trampism and its impact for years to come in the United States. Students are expected to cultivate balanced sensibilities to differences of racial, gender, and ethnic identities in our diversified age and society.

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋史特講Ⅶ

遠藤 泰生

授業コード：A3174 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大西洋と太平洋の二つの海洋に挟まれたアメリカ合衆国の近代史は、大陸の歴史として人々の記憶に永らく記憶されてきた。奴隷制プランテーションの深南部への展開や大陸西漸運動の歴史にアメリカ近代史家が多大な関心を払ってきたのがその何よりの証左である。その歴史解釈の狭隘を是正するために、本授業では、19世紀半ばに未曾有の内戦を経て連邦国家を再建したアメリカ合衆国が、太平洋国家へと変貌を遂げる過程に注目して歴史を学ぶ。この間の社会の変容を奴隷国家から移民国家への変容と唱える観方に新たに海の歴史の視点を加え、太平洋アジアとの邂逅が国民規範の再編を同国に余儀なくさせたという仮説のもと、20世紀初頭に現代アメリカが成立する過程を検証する。グローバルな「海の歴史」が提唱する空間論的展開と通例の国民統合の歴史とを架橋することで、20世紀のアメリカ合衆国史を見通す新しい視野を切り開くことを目指す。日本近世史の研究成果も動員し、太平洋を跨ぐグローバルな19世紀史の展開を心掛ける。

【到達目標】

南北戦争後のアメリカ合衆国の歴史を紐解きつつ、グローバルな海洋国家に変貌を遂げた大陸国家アメリカが、空間論的展開を経る中で国民統合規範の再編を余儀なくされた過程を学生は理解する。

植民地時代以来アメリカが継承する大西洋国家の相貌と新たに生まれ出た太平洋国家の相貌の両方に着目し、さまざまな歴史史料の読解を通してその接触と融合の過程を理解する。その作業を通し、よりグローバルなアメリカ合衆国の歴史理解を学生は獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を主体に進めるが、演習形式の授業も途中で混ざる。とくに、史料読解の訓練に際しては、担当学生をあらかじめ決め、授業冒頭で簡潔な導入報告を求めることがある。課題図書読書のレポートにはコメントを付して返却する。このほか、歴史地図の作図提出を数回求める。これらの作業を通して、確かな基礎知識に基づく議論を学生は出来るようになる。

なお、2回程度、状況に応じてオンラインによる遠隔授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入：大陸史観と海洋史観	近年の歴史研究における陸の歴史の視点と海の歴史の視点の架橋の問題を紹介する。
第2回	南北戦争を生きたさまざまな歴史主体	アフリカ系アメリカ人、女性、アイルランド系移民、それぞれの視点から見た南北戦争の意義を学ぶ。
第3回	記憶の彫琢と漂白	戦争の記憶と彫琢と漂白を通して白人至上主義が制度化された歴史を学ぶ。
第4回	工業化と都市化	南北戦争後の「金びか」時代を帝国主義への前奏として学ぶ。
第5回	「分離すれども平等」の確立	ジムクロウが合衆国南部に定着した歴史を学ぶ。

第6回	「二重意識」の民：「問題」として生きること	W・E・B・デュボイス『黒人のたましい』（1903）を読む。
第7回	19世紀アメリカの太平洋進出	貿易商、捕鯨船員、科学将校の捉えた太平洋世界像を学ぶ。
第8回	漂流民と異文化接触	中浜万次郎とアメリカ彦蔵のアメリカ異文化体験を検証する。
第9回	ペリー艦隊のアジア遠征とその衝撃	異なる太平洋像を抱いていた日米の邂逅が、その後の東アジアの世界秩序形成に与えた影響を学ぶ。
第10回	合衆国海軍天文台の歴史	帝国主義の時代を前に空と海の空間把握が列強の知的課題に浮上した歴史を学ぶ。
第11回	もう一つの岸辺から来た人々	清朝末期の中国と明治初期の日本からアメリカ合衆国に渡った移民の歴史を学ぶ。
第12回	「徳の政治」とアメリカ	19世紀前半の北米で始まった太平洋世界へのキリスト教伝道活動の歴史を「徳の政治」の干渉という視点から学ぶ。
第13回	太平洋国家アメリカの出現	ハワイ・フィリピン・プエルトリコを領有したアメリカ合衆国の国民規範の再編を、人種主義による国民の階層化の過程と捉え学ぶ。
第14回	秋学期の学びの振り返りとまとめ	秋学期の学びの振り返りとその先への問題提起。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業に臨む前に読むべき史料や教科書の該当箇所を第一回授業時に一覧にして説明する。やや一般的ではないテーマに沿った歴史の授業なので、複数の著作から論文などを拾い上げ、予習の資料とする。

W・E・B・デュボイス著『黒人のたましい』（1903）の読書課題レポートを第7回授業時開始を締め切りに提出する。Webで提出する。著作自体は大著なので、読むべき章はあらためて指示する。長さは2400字以上。このほか、歴史地図の作図提出を数回求める。

各回の予習・復習・課題提出に必要な時間は、平均約4時間になる。なお、2回程度、状況に応じてオンラインによる遠隔授業を行う。

【テキスト（教科書）】

1. 遠藤泰生・小田悠生共編『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』（ミネルヴァ書房、2023）、3500円。
2. W・E・B・デュボイス『黒人のたましい』（1903）（岩波文庫、1992）
3. その他、必要な史料は適宜コピーして教室で配付する。

なお、教科書に指定した『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』は、テキストに挙げた図像・地図・絵画・写真等の原典URLを、選択的ではあるが、まとめて巻末に掲載している。すべてオープンアクセスの史料ばかりなので、携帯の画面を通してカラー刷りの原典に親しみ、各時代の息吹に触れて欲しい。

【参考書】

1. 金澤周作編著『海のイギリス史』（昭和堂、2013）
2. 兼子歩・貴堂貴之編『ヘイトに抗するアメリカ史——マジョリティを問い直す』（彩流社、2020）
3. 田中きく代・遠藤泰生・金澤周作他編『海のグローバルサーキュレーション』（関西学院大学出版会、2023）
4. アメリカ学会編『アメリカ文化辞典』（丸善出版、2018）

【成績評価の方法と基準】

1. 期末試験：60%
2. 課題図書読書レポート：20%
3. 歴史地図提出：10%
4. 通常点：10%

【学生の意見等からの気づき】

授業時には毎回、質疑応答の時間を設け、学生の疑問や授業に対する希望を聞き、改善に努める。そのほかにも、教授形式への希望を常時受け付け、講義の改善に役立てる。

【その他の重要事項】

英語が得意でなくとも史料の読解ができるように指導する。逆に日本近世史の史料に馴染が無い学生には、史料読解の新たな機会を提供することになろう。

【Outline (in English)】

The history of the United States has long been remembered as a continental history. To correct the narrow scope of this traditional historical interpretation, this course examines the transformation of the United States from a continental federation, rebuilt after an unprecedented civil war in the mid-19th century, into a Pacific nation. Incorporating a maritime historical perspective into prevailing interpretations that describe this transformation as mainly a shift from a slave state to an immigrant nation, the course explores how encounters with Pacific Asia compelled a radical reconfiguration of civic norms of the United States. Additionally, drawing on research from early modern Japanese history, the course seeks to illuminate the global dimensions of 19th-century American history across the Pacific.

HIS200BE (史学 / History 200)

美術史 (日本) A

稲本 万里子

授業コード：A3176 | 曜日・時限：水5/Wed.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年
備考 (履修条件等)：文学部以外の学生は資格科目として履修する (A3857)
その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

平安時代後期に制作された絵巻を取りあげ、基礎知識を説明する。さらに、どのような技法と表現法が使われているのか解説し、制作年代や注文主などの諸問題を検討する。

視覚表象 (ヴィジュアル・イメージ) をさまざまな角度から分析する手法を知るために、絵巻を鑑賞し、技法と表現法を理解し、美術史研究の現況を把握する。

【到達目標】

授業で取りあげた絵巻の基礎知識を習得し、技法と表現法について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこなう。はじめに、美術史と絵巻についての概説をおこなう。次に、平安時代後期に制作された「源氏物語絵巻」「信貴山縁起絵巻」「伴大納言絵巻」を取りあげ、基本的な事柄を説明する。毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写しながら、どのような技法が用いられ、どのような表現がなされているか説明するので、映写時はノートをとることよりも、スライドをじっくり見てもらいたい。そのうえで、制作年代や注文主などの諸問題を検討する。その際、ジェンダーやクラスの視点から注文主の権力や幻想、欲望を読み解く新しい美術史学 (ニュー・アート・ヒストリー) の方法を紹介する。授業で紹介する手法を用いて、現代の我々を取り巻く視覚表象の問題についても考えてもらいたい。質問はリアクションペーパーで受けつける。翌週の授業開始時に答え、皆でシェアする。筆記試験の結果と優秀レポートは、成績提出後に講評をおこなう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、展覧会の見方	授業内容の説明
第2回	美術史概説	美術史の研究方法・ジャンル・時代区分
第3回	絵巻概説、「源氏物語絵巻」Ⅰ	絵巻の形態、鑑賞法、「源氏物語絵巻」概説
第4回	「源氏物語絵巻」Ⅱ	「源氏物語絵巻」 柏木第一段～御法段
第5回	「源氏物語絵巻」Ⅲ	「源氏物語絵巻」 情景選択法、竹河第一段～橋姫段
第6回	「源氏物語絵巻」Ⅳ	「源氏物語絵巻」 早蕨段～東屋第二段、蓬生段・関屋段、若紫段
第7回	「源氏物語絵巻」Ⅴ	「源氏物語絵巻」 諸問題の検討
第8回	「信貴山縁起絵巻」Ⅰ	「信貴山縁起絵巻」 概説、飛倉巻
第9回	「信貴山縁起絵巻」Ⅱ	「信貴山縁起絵巻」 延喜加持巻、尼公巻
第10回	「信貴山縁起絵巻」Ⅲ	「信貴山縁起絵巻」 諸問題の検討、レポートの書き方
第11回	「伴大納言絵巻」Ⅰ	「伴大納言絵巻」 概説、上巻、中巻
第12回	「伴大納言絵巻」Ⅱ	「伴大納言絵巻」 下巻、諸問題の検討
第13回	授業のまとめⅠ	筆記試験の説明
第14回	授業のまとめⅡ	各作品の相違点

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備・復習時間は各2時間を標準とする。授業後、作品と作品名が一致するように参考図版を見ておくこと。ただし「源氏物語絵巻」については、『源氏物語』の内容を講義する時間がないので、あらかじめ物語のあらすじを把握しておくことが望ましい。参考書に記した『すぐわかる源氏物語の絵画』が便利。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。毎回スライドとプリントを使って進める。プリントは学修支援システムにアップするので、各自でダウンロードすること。

【参考書】

入門書として、田口榮一監修、稲本万里子・木村朗子・龍澤彩『すぐわかる源氏物語の絵画』(東京美術、2009)、稲本万里子『源氏の系譜—平安時代から現代まで』(森話社、2018)、佐野みどり『じっくり見たい『源氏物語絵巻』』(小学館、2000)、泉武夫『躍動する絵に舌を巻く 信貴山縁起絵巻』(小学館、2004)、黒田泰三『思っきり味わいつくす伴大納言絵巻』(小学館、2002)。

各作品についての参考図版、参考文献は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験80%、リアクションペーパー20%。
筆記試験は、基礎知識を習得しているか否かを判断する。ただし、筆記試験の点数の1/4をレポート点に代えることもできる。レポートの提出は任意。レポートの内容については授業中に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度とは授業内容が異なるので、確認のうえ受講すること。教室の設備にかんする苦情は受けつけない。

【学生が準備すべき機器他】

毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写する。対面授業の場合は、学生が準備すべき機器はない。オンライン授業のときは、PC推奨。

【その他の重要事項】

時間配分により、実際の授業では順序や内容が変わることがある。
本務校の都合により対面授業がオンライン授業に変更になる場合は、学修支援システムから連絡する。

【Outline (in English)】

Course outline

In this class, basic knowledge will be explained mainly on narrative scroll from the Late Heian period. Furthermore, I will explain what kind of techniques and expressions are used, and examine various issues such as the production date and the client.

Students will appreciate picture scrolls, understand techniques and expression, and grasp the current state of art history research in order to learn techniques for analyzing visual images from various angles.

Learning Objectives

Become able to explain the basic knowledge of narrative scrolls covered in class, and be able to explain techniques and expressions.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time is 2 hours each. After the lecture, look at the reference illustrations so that the work and the work name match.

Grading Criteria / Policy

Written exam 80% at the end of the semester, reaction paper 20%.

HIS200BE（史学 / History 200）

美術史（日本）B

稲本 万里子

授業コード：A3177 | 曜日・時限：水5/Wed.5
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年
備考（履修条件等）：文学部以外の学生は資格科目として履修する（A3858）
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、平安時代後期から鎌倉時代に制作された絵巻を取りあげ、基礎知識を説明するとともに、どのような技法と表現法が使われているのか解説し、制作年代や注文主などの諸問題を検討する。秋学期は、どのような社会がどのような視覚表象（ヴィジュアル・イメージ）を作り出したのかという問題に重点をおいて講義を進める。
この授業の目的は、視覚表象をさまざまな角度から分析する手法を知るために、絵巻を鑑賞し、技法と表現法を理解し、美術史研究の現況を把握することである。

【到達目標】

授業で取りあげた絵巻の基礎知識を習得し、技法と表現法について説明することができる。
どのような社会がどのような視覚表象を作り出したのか説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこなう。はじめに、美術史と絵巻についての概説をおこなう。次に、平安時代後期から鎌倉時代に制作された絵巻を取りあげ、基本的な事柄を説明する。毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写しながら、どのような技法が用いられ、どのような表現がなされているか説明するので、映写時はノートをとることよりも、スライドをじっくり見てもらいたい。そのうえで、制作年代や注文主など、視覚表象と社会をめぐる諸問題を検討する。その際、ジェンダーやクラスの視点から注文主の権力や幻想、欲望を読み解く新しい美術史学（ニュー・アート・ヒストリー）の方法を紹介する。授業で紹介する手法を用いて、現代の我々を取り巻く視覚表象の問題についても考えてもらいたい。質問はリアクションペーパーで受けつける。翌週の授業開始時に答え、皆でシェアする。筆記試験の結果と優秀レポートは、成績提出後に講評をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、展覧会の見方	授業内容の説明
第2回	美術史概説、絵巻概説	美術史の研究手法、ジャンル、時代区分、絵巻の形態、鑑賞法
第3回	「鳥獣人物戯画」	「鳥獣人物戯画」の鑑賞と検討
第4回	「病草紙」	「病草紙」の鑑賞と検討
第5回	似絵	似絵作品の鑑賞と検討
第6回	「華嚴宗祖師絵伝」	「華嚴宗祖師絵伝」の鑑賞と検討
第7回	「北野天神縁起絵巻」	「北野天神縁起絵巻」の鑑賞と検討
第8回	「平治物語絵巻」	「平治物語絵巻」の鑑賞と検討
第9回	「男衾三郎絵巻」	「男衾三郎絵巻」の鑑賞と検討、レポートの書き方
第10回	「一遍聖絵」	「一遍聖絵」の鑑賞と検討
第11回	「春日権現験記絵巻」	「春日権現験記絵巻」の鑑賞と検討
第12回	「伊勢物語絵巻」	「伊勢物語絵巻」の鑑賞と検討
第13回	授業のまとめⅠ	筆記試験の説明
第14回	授業のまとめⅡ	様式の展開と各作品の相違点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各2時間を標準とする。授業後、作品と作品名が一致するように参考図版を見ておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回スライドとプリントを使って進める。プリントは学修支援システムにアップするので、各自でダウンロードすること。

【参考書】

入門書として、若杉準治編『絵巻物の鑑賞基礎知識』（至文堂、1995）、榊原悟監修、佐伯英里子・内田啓一『すぐわかる絵巻の見かた』（東京美術、2004）。各作品についての参考図版、参考文献は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験80％、リアクションペーパー20％。

筆記試験は、基礎知識を習得しているか否かを判断する。ただし、筆記試験の点数の1/4をレポート点に代えることもできる。レポートの提出は任意。レポートの内容については授業中に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度とは授業内容が異なるので、確認のうえ受講すること。教室の設備にかんする苦情は受けつけない。

【学生が準備すべき機器他】

毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写する。対面授業のときは、学生が準備すべき機器はない。オンライン授業のときは、PC推奨。

【その他の重要事項】

時間配分により、実際の授業では順序や内容が変わることがある。
本務校の都合により対面授業がオンライン授業に変更になる場合は、学修支援システムから連絡する。

【Outline (in English)】

Course outline

In this class, basic knowledge will be explained mainly on narrative scroll from the Late Heian period to Kamakura period. Furthermore, I will explain what kind of techniques and expressions are used, and examine various issues such as the production date and the client. In the fall semester, lectures will focus on the question of what kind of society created what kind of visual image.

Students will appreciate picture scrolls, understand techniques and expression, and grasp the current state of art history research in order to learn techniques for analyzing visual images from various angles.

Learning Objectives

Become able to explain the basic knowledge of narrative scrolls covered in class, and be able to explain techniques and expressions.

Become able to explain what kind of society produced what kind of visual image.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time is 2 hours each. After the lecture, look at the reference illustrations so that the work and the work name match.

Grading Criteria / Policy

Written exam 80% at the end of the semester, reaction paper 20%.

HIS200BE（史学 / History 200）

日本史特講Ⅹ

内藤 一成

授業コード：A3201 | 曜日・時限：木3/Thu.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日露戦後の日本について、青年のまなざしと活動を通じて歴史的に考察する。具体的には、三島弥彦と石川啄木、立場も経歴もまったく異なる二人の青年の日記をもとに追体験する。時期的には、明治41年1～6月を取り上げる。授業を通じて、歴史を教科書や年表に記された事実の羅列ではなく、多面かつ重層的な世界であることが理解できるようになることをめざす。

【到達目標】

①歴史を単なる過去ではなく、実感を持ったものとして理解する。②史料の多彩な読み方を理解する。③近代日本の歩みを歴史的にとらえ、未来を展望する上での示唆を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式とし、板書とパワーポイントを併用させる。適宜史料のコピー等を配布し、史料を音読したり、内容を検討することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義に関する全体の説明、注意点など
第2回	明治41年1月の弥彦	西洋文化としてのスポーツの受容と定着など
第3回	明治41年1月の啄木	東京と地方など
第4回	明治41年2月の弥彦	近代の恋愛事情など
第5回	明治41年2月の啄木	近代スポーツと学校の役割など
第6回	明治41年3月の弥彦	明治の文学者など
第7回	明治41年3月の啄木	学歴エリートの世界など
第8回	明治41年4月の弥彦	健康、保養思想の受容と定着など
第9回	明治41年4月の啄木	近代スポーツの広がりなど
第10回	明治41年5月の弥彦	明治の大学生など
第11回	明治41年5月の啄木	日米野球と国際交流など
第12回	明治41年6月の弥彦	園遊会と社交文化など
第13回	明治41年6月の啄木	青年の日常など
第14回	まとめ 総括と質疑応答	講義全体のまとめ、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布する史料等には必ず目を通しておく。その際、読みや意味のわからない文字を調べ、さらに記された内容や、作成した人物についても予習しておく。授業後には内容を再確認することで、知識の定着をはかる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

内藤一成『弥彦と啄木 日露戦後の日本と二人の青年』芙蓉書房出版、2024年

【参考書】

『三島弥彦—伝記と史料』（芙蓉書房出版）、ドナルド・キーン『石川啄木』（新潮社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）、期末試験（60％）をもとに総合的に評価する。期末試験はノート持ち込み可。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合、あるいは期末試験を受けない場合には不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

現時点ではないが、クエスチョンタイムに相当する時間を適宜設けるなどして、授業理解が得られるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が可能なIT機器

【その他の重要事項】

・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。
・授業に関連する連絡は、学習支援システムのお知らせ機能や、授業内掲示板機能を利用して行うので、見落とさないようにすること。
・担当教員への直接連絡にはメールを利用すること。担当教員のメールアドレスは、学習支援システムに掲示する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, I will consider Japan after the Russo-Japanese War. Specifically, we will focus on Yahiko Mishima(1886-1954) and Takuboku Ishikawa(1886-1912), analyze their diaries from January to June 1908, and compare them. Through this lecture, I aim to be able to understand history as a multifaceted and multi-layered one.
(Learning Objectives)

The goal of this course is to recognize the characteristics of various historical materials and to acquire the professional abilities necessary for documentary research.

(Learning activities outside of classroom)

Students should read the materials distributed in advance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

HIS200BE（史学 / History 200）

日本史特講X

森田 貴子

授業コード：A3202 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、近代日本において都市がいかに形成されてきたのか、歴史的事実に基づき考察し、日本の近代を歴史的事実に基づき理解し、広い視野と現代社会を主体的に考察する視角を得ることを目的とする。

【到達目標】

本講義では、近代都市がいかにして形成されてきたのか、明治初年から第二次世界大戦までの日本の都市を取り上げ、都市計画、都市財政、都市行政、都市と社会問題、インフラストラクチャー等、多角的な観点から理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各回、テーマごとに講義を進めながら、近代日本の都市形成と諸制度について、考えていく。

毎回、リアクションペーパー（小レポート）を提出する。

授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパー（小レポート）から良い意見や多く出された意見を取り上げて紹介し、議論を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 近世から近代へ（1）	授業の目的・進め方。歴史学の方法。 現代社会について主体的に考察するための歴史学の持つ意義について。 都市人口（1）
第2回	近世から近代へ（2）	都市人口（2）
第3回	都市計画（1）	都市計画（1）
第4回	都市計画（2）	都市計画（2）
第5回	都市計画（3）	都市計画（3）
第6回	都市計画（4）	都市計画——事例
第7回	都市財政	都市財政
第8回	都市と交通	電車事業
第9回	都市と社会問題	都市と貧困
第10回	都市と災害	都市と災害
第11回	都市とインフラ（1）	都市とインフラ（1）
第12回	都市とインフラ（2）	武家地から住宅街へ
第13回	都市とインフラ（3）	武家地からビジネス街へ
第14回	試験、まとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・ニュースを、積極的に読むこと。

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は、特に指定しない。

適宜、資料レジュメを配布する。

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各回提出するリアクションペーパー（小レポート）（40％）と、学期末の試験1回（60％）による。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン回は、ディスカッションタイムを実施予定です。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続できるパソコン。

【その他の重要事項】

評価には、3分の2以上（9回以上）のリアクションペーパー（小レポート）の提出と、学期末試験を受けることを必須とします。

【Outline (in English)】

This course aims for students to study how modern cities have been formed from diverse perspectives. The goals of this course are to understand from multiple perspectives such as urban planning and social problems and infrastructure, etc. Students will be expected to have completed the required assignments before/after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%, Short reports: 40%.

HIS300BE（史学 / History 300）

日本近代史演習

内藤 一成

授業コード：A3203 | 曜日・時限：月5/Mon.5
年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近代史を研究する上では、史料（資料）や文献を博捜し、内容を深く読み込まなければならない。また先行研究を正しく「批判」し、自らの創造的な意見を打ち立てなければならない。本授業では、こうした能力の習得をめざす。

【到達目標】

日本近代史を研究するのに必要な能力の習得を目標とする。特に以下の4点を重視する。①一次史料の解読能力を身につける。②多様な史料（資料）の特徴を理解する。③学術論文を「批判的」に読み込む能力を身につける。④発表を通じてプレゼンテーションやディスカッションの能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式をとる。史料読解および、個人またはグループによる発表と議論を基本とする。春学期は柴五郎関係資料（予定）をテキストに、原文の解読と補注作成を中心に発表を行う。秋学期は引き続きテキストの解読に取り組むほか、学術論文の論評や卒論構想報告を行う。※なお、受講生の人数や授業の進捗状況等によって弾力的に授業内容を組み替えることがある。テキストとなる史料は教員より配布する。このほか、状況が許せば博物館等の見学や専門家からレクチャーを受ける機会を設けたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義に関する全体の説明、注意点など
第2回	ガイダンス	史料解読テキストの説明・発表の方法に関する説明
第3回	史料解読1	発表1 個人発表1
第4回	史料解読2	発表2 個人発表2
第5回	史料解読3	発表3 個人発表3
第6回	史料解読4	発表4 個人発表4
第7回	史料解読5	発表5 個人発表5
第8回	史料解読6	発表6 個人発表6
第9回	史料解読7	発表7 個人発表7
第10回	史料解読8	発表8 個人発表8
第11回	史料解読9	発表9 個人発表9
第12回	史料解読10	発表10 個人発表10
第13回	史料解読11	発表11 個人発表11
第14回	史料解読12	発表12 個人発表12
第15回	史料解読13	発表13 個人発表13 学術論文の論評1
第16回	史料解読14	発表14 個人発表14 卒論構想報告1
第17回	史料解読15	発表15 個人発表15 学術論文の論評2
第18回	史料解読16	発表16 個人発表16 卒論構想報告2
第19回	史料解読17	発表17 個人発表17 学術論文の論評3
第20回	史料解読18	発表18 個人発表18 卒論構想報告3
第21回	史料解読19	発表19 個人発表19 学術論文の論評4
第22回	史料解読20	発表20 個人発表20 卒論構想報告4
第23回	史料解読21	発表21 個人発表21 学術論文の論評5
第24回	史料解読22	発表22 個人発表22 卒論構想報告5
第25回	史料解読23	発表23 個人発表23 学術論文の論評6
第26回	史料解読24	発表24 個人発表24 卒論構想報告6
第27回	史料解読25	発表25 個人発表25
第28回	まとめ	全体総括と質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・復習は平素よりコンスタントに進めておく。発表では発表者以外の学生も積極的な議論が行えるようレジュメの内容を予習しておく。論文評も同様に、対象論文を事前に熟読しておく。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「柴五郎関係資料」（柴家所蔵）は、学習支援システムを通じて配布する。※授業の進度に応じて、新たな史料を追加する場合がある。本授業に限らず、古文書解読のため、児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』（東京堂書店）を準備しておくことが望ましい。

【参考書】

『シリーズ 日本近現代史』（岩波新書）全10冊、黒沢文貴・季武嘉也編『日記で読む近現代日本政治史』（ミネルヴァ書房）

【成績評価の方法と基準】

史料解読への取り組みや、発表内容、ディスカッションへの参加度などをともに総合化し、これを平常点（100％）として評価する。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合には不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

クエスチョンタイムに相当する時間を適宜設けるなどして、授業理解が得られるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が可能なIT機器

【その他の重要事項】

・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。
・授業に関連する連絡は、学習支援システムのお知らせ機能や、授業内掲示板機能を利用して行うので、見落とさないようにすること。
・担当教員への直接連絡にはメールを利用すること。担当教員のメールアドレスは、学習支援システムに掲載する。
・発表者は、事前に、配布レジュメ等を学習支援システムの「一般ディスカッション」サイトに添付ファイル形式で掲示しておく。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The purpose of this course is twofold. The first is to search for historical materials and scholarly books in modern Japan and read the contents deeply. The second is to properly criticize previous research and establish one's own creative opinion. Through this course, I aim for students to acquire such abilities.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to acquire the ability to decipher historical materials, read academic papers critically, and presentations and discussions.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Final grades are calculated according to the process of presentation, discussion and in-class contribution. Combine all elements to make 100%

HIS300BE（史学 / History 300）

日本古代史科学Ⅱ a

山口 英男

授業コード：A3204 | 曜日・時限：火5/Tue.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

正倉院文書と木簡を中心に、日本古代史料研究の課題、古代史料の特徴、歴史情報抽出の方法を学び考えます。史料のどこに注目したらよいかを知ることで、史料の背後の世界へと視野が広がります。日本古代史を研究するための材料となる史料は、他の時代に比べて数が限定されている印象が強く、新たな検討の余地は少ないように思われがちです。しかし、周知の史料でありながら十全な検討がなされていないものや、研究の進展に応じた再調査・再検討が必要となっている史料が意外に多くあります。何よりも、正倉院文書や木簡など、当時の実務の現場で用いられた書面が大量に残されていることが、日本古代史料の特質です。現代に引きつけていけば、お役所の内部書類が外部に流出したようなものです。まさに「宝の山」といってよい史料群であり、見つけ出されることを待っている情報がまだまだたくさんあります。そうした情報にどうやれば接近できるのか。記載内容（文字）を読み取るだけでなく、史料を「もの」として分析することで、古代史科学・古文書学の新たな知見が蓄積されて来ています。実務を進める中で、その書面がどのように使われたのか。それを明らかにしていくことがポイントになります。より多くの情報を史料から抽出することで、古代史研究の地平をさらに広げていくことが期待できます。本講義では、古代史料の「すがた・かたち」を検討しながら、史料の分類と分析の視角・手法を考え、古代史研究の新たな視野を展望します。

【到達目標】

古代史料研究の課題について理解する。
古代史料の特徴を知り、歴史情報に接近するための視角と方法をも身につける。
史料に対する目のつけどころ、問いかけ方を学ぶことで、史料の持つ豊かで多様な情報に近づくことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式（対面授業）で進めます。
配布した史料プリントを使いながら、史料の分析とはどういう作業であるのか、その結果何がわかるのか、具体的な例を挙げながら解説します。
3回程度の講義のまとめりとともに、小レポートを提出してもらうことで、理解と認識の深まりを確かめながら進めます。小レポートについては、下記も参照してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義のねらいと進め方
第2回	古代の実務文書の面白さ	正倉院文書と木簡
第3回	古代史科学の課題と視角①	古代史料の概要と「史料批判」
第4回	古代史科学の課題と視角②	古代史料の特徴と分析視角
第5回	古代史科学の課題と視角③	実務官司の仕事と書面

第6回	古代史料に見る情報の定着と移動①	情報の記録・伝達と「書類学」という考え方
第7回	古代史料に見る情報の定着と移動②	仕事に用いる文書とメモ
第8回	古代史料に見る情報の定着と移動③	仕事の進行とともに役割を変えていく書面
第9回	木簡と帳簿①	木簡と古代史科学の関係
第10回	木簡と帳簿②	紙の書面と木簡
第11回	木簡と帳簿③	「食口」という方法と木簡
第12回	口頭伝達と書面の関係①	書面の背後に見える口頭伝達
第13回	口頭伝達と書面の関係②	口頭伝達の記録
第14回	口頭伝達と書面の関係③	「口状」の発見からわかった業務の実態

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するテキストに目を通しておいください。また、講義の内容を、自分なりに文章に整理しておくことをすすめます。参考書や、講義中に紹介した研究文献にもできるだけ目を通してください。
本授業の準備・復習時間は、2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布するので、講義に必ず持参してください。教科書は使用しません。

【参考書】

柴原永遠『正倉院文書入門』（角川学芸出版、2011年）
市川理恵『正倉院写経所文書を読みとく』（同成社、2017年）
山口英男『日本古代の地域社会と行政機構』（吉川弘文館、2019年）
山口英男ほか『読み解き古代史料』（山川出版社、2024年）
山口英男「装潢小治田人公口状とその背景」（古瀬奈津子編『古代日本の政治と制度—律令制・儀式・史料—』同成社、2021年）
山口英男「正倉院文書に見える「口状」について」（佐藤信編『史料・史跡と古代社会』吉川弘文館、2018年）
山口英男「写経所の機構」（犬飼隆編『古代の文字文化』竹林舎、2017年）
山口英男「正倉院文書から見た「間食」の意味について」（『正倉院文書研究』13、2013年）
東京大学史料編纂所編『日本史の森を行く』（中公新書、2014年）
山口英男「正倉院文書に見える文字の世界」（国立歴史民俗博物館他編『古代日本と古代朝鮮の文字文化交流』大修館書店、2014年）
正倉院文書マルチ支援（多元的解析支援）データベース SHOMUS・奈良時代大日本古文書フルテキストデータベース（東京大学史料編纂所 SHIPS データベース <http://www.wap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/db.html>）
奈良文化財研究所 木簡庫 データベース <http://mokkanko.nabunken.go.jp/en/>

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期間中に提出してもらう複数の小レポートの内容によって行います。講義の進行に合わせて課題を出します。小レポートでは、講義の受講を前提に、講義内容の整理とその批判的論評を求めます。理解力（40%）、調査・考察力（30%）、文章力・独創性（30%）を基準に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

小レポートは、提出の翌週にコメントと評価を付して返却しますので、次のレポート作成の参考にしてください。これを繰り返すことで、文章のレベルや内容、説得力が確実にアップしますので、この機会を積極的に利用してください。

【その他の重要事項】

インターネット等から文章を「剽窃」したレポートに対しては、法政大学のルールにしたがい厳格な措置を取ります。他人の文章を盗み、あたかも自分の文章であるかのように人に欺く行為が許されないことを十分認識してください。
レポートは、講義内容の理解を前提に自分で調べたり考えたりした内容を求めますので、生成AIの利用は推奨しません。あえて利用する場合は、下記①～③の対応がすべてなされているものに限り、成績評価の対象とします。

- ①生成A I を利用したことをレポートに明記する。
 - ②生成A I との応答の記録をレポートに添付する。
 - ③生成A I から提供された情報のもととなった文献・論文等を探し出し、自身で読んだ上で、レポートの中でそれらの文献・論文等の指摘と同じ内容の部分には、どの文献・論文等に書かれていることがわかるように説明・注釈をつける。
- ※なお、生成A I が作成した文章を、その旨明記せずに引用した場合は「剽窃」と同様の扱いとなります。

【Outline (in English)】

Course outline

To acquire the ability to read and understand historical materials on the imperial court ritual of the Heian period.

Learning Objectives

Be able to read and understand documents related to government affairs and ceremonies during the Heian period.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Please read the historical materials to be covered in class in advance.

Grading Criteria /Policy

Grades will be determined based on active participation in class, presentation content, materials prepared, participation in discussions, and report content.

HIS300BE（史学 / History 300）

日本古文書学Ⅰ

大塚 紀弘

授業コード：A3206 | 曜日・時限：木5/Thu.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書を基に日本古文書学を体系的に学ぶとともに、古文書読解の基礎的な能力を身につける。日本古代（奈良時代から平安時代）に成立した代表的な古文書の様式・機能について理解し、日本漢文を読解する力を養成することを目的とする。

【到達目標】

律令に規定された公式様文書、公式様文書から派生した公家様文書の機能と様式について理解することができる。教科書に取り上げられた古文書や関連する古文書の日本漢文を正確に訓読し、内容の概要を読み取ることができる。また、簡単な崩し字を解説することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書の内容に沿いつつ、配布プリントを基に講義を進める。古文書について解説した後、参加者に日本漢文を訓読してもらう。また、古文書写真のプリントを配布し、参加者に翻刻してもらう機会を設ける。配布プリント（PDFファイル）は、事前に各章ごとに「学習支援システム」にアップロードする（印刷プリントは配布しない）。日本古代史または日本中世史で卒論を書く予定の学生を主な対象とする。漢文訓読の基礎知識を有することを前提に進める。引き続き秋学期に「日本古文書学Ⅱ」を履修することが望ましい。授業の初めに、前回の授業で訓読した古文書をいくつか取り上げ、フィードバックを行なう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	古文書学とは	履修のガイダンス
第2回	検非違使別当宣	古文書に親しむ
第3回	紛失状	古文書に親しむ
第4回	公式様文書 宣命・詔	様式・機能の解説と訓読
第5回	公式様文書 符（1）	様式・機能の解説と訓読
第6回	公式様文書 符（2）	様式・機能の解説と訓読
第7回	公式様文書 移	様式・機能の解説と訓読
第8回	公式様文書 牒	様式・機能の解説と訓読
第9回	公式様文書 解	様式・機能の解説と訓読
第10回	公式様文書 宣旨	様式・機能の解説と訓読
第11回	公家様文書 官宣旨	様式・機能の解説と訓読
第12回	公家様文書 院庁下文	様式・機能の解説と訓読
第13回	公家様文書 摂関家政所下文	様式・機能の解説と訓読
第14回	公式様文書と公家様文書	授業内容の総括（試験）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を用いて予習し、教科書、プリント等を用いて復習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐藤進一『新版 古文書学入門』（法政大学出版局、2003年）

【参考書】

日本歴史学会編『概説古文書学 古代・中世編』（吉川弘文館、1983年）
久留島典子・五味文彦編『史料を読み解く1 中世文書の流れ』（山川出版社、2006年）
苅米一志『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』（吉川弘文館、2015年）

【成績評価の方法と基準】

学期末試験の点数100%で評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

次回取り上げる文書を予告する。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」を利用し、事前に「教材」から配布プリントをダウンロードすること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students learn Japanese archaeological studies systematically. The goals of this course are to acquire the basic ability of reading old documents. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. term-end examination : 100%.

HIS300BE（史学 / History 300）

日本古文書学Ⅱ

大塚 紀弘

授業コード：A3207 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本古文書学Ⅰ」から継続し、教科書を基に日本古文書学を体系的に学ぶとともに、古文書読解の基礎的な能力を身につける。日本中世（平安時代から室町時代）に成立した代表的な古文書の様式・機能について理解し、日本漢文を読解する力を養成することを目的とする。

【到達目標】

公家様文書および公家様文書から派生した武家様文書の機能と様式について理解することができる。教科書に取り上げられた古文書や関連する古文書の日本漢文を正確に訓読し、内容の概要を読み取ることができる。また、簡単な崩し字を解読することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書の内容に沿って、配布プリントを基に講義を進める。古文書について解説した後、参加者に訓読してもらう。また、古文書写真のプリントを配布し、参加者に翻刻してもらう機会を設ける。配布プリント（PDFファイル）は、事前に各章ごとに「学習支援システム」にアップロードする（印刷プリントは配布しない）。日本古代史または日本中世史で卒論を書く予定の学生を主な対象とする。漢文訓読の基礎知識を有することを前提に進める。春学期に「日本古文書学Ⅰ」を履修することを必須とする。授業の初めに、前回の授業で訓読した古文書をいくつか取り上げ、フィードバックを行なう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	古文書学とは	履修のガイダンス
第2回	公家様文書 国司庁宣	様式・機能の解説と訓読
第3回	公家様文書 綸旨	様式・機能の解説と訓読
第4回	公家様文書 院宣	様式・機能の解説と訓読
第5回	公家様文書 御教書	様式・機能の解説と訓読
第6回	武家様文書 下文	様式・機能の解説と訓読
第7回	武家様文書 下文	様式・機能の解説と訓読
第8回	武家様文書 下知状	様式・機能の解説と訓読
第9回	武家様文書 下知状	様式・機能の解説と訓読
第10回	武家様文書 鎌倉幕府の御教書	様式・機能の解説と訓読
第11回	武家様文書 室町幕府の奉書	様式・機能の解説と訓読
第12回	武家様文書 室町幕府の直状	様式・機能の解説と訓読
第13回	起請文・売券・譲状	様式・機能の解説と訓読
第14回	公家様文書と武家様文書	授業内容の総括（試験）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を用いて予習し、教科書、プリント等を用いて復習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐藤進一『新版 古文書学入門』（法政大学出版局、2003年）

【参考書】

日本歴史学会編『概説古文書学 古代・中世編』（吉川弘文館、1983年）

久留島典子・五味文彦編『史料を読み解く1 中世文書の流れ』（山川出版社、2006年）

苅米一志『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』（吉川弘文館、2015年）

【成績評価の方法と基準】

学期末試験の点数100%で判定する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

次回取り上げる文書を予告する。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」を利用し、事前に「教材」から配布プリントをダウンロードすること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students learn Japanese archaeological studies systematically. The goals of this course are to acquire the basic ability of reading old documents. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. term-end examination : 100%.

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋近現代史

芦沢 知絵

授業コード：A3208 | 曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「党と国家からみる中国近現代史」をテーマとする。
清朝の崩壊後、中国の政治体制は帝制から共和制へと大きく転換した。しかし、広大な領域と多様な民族を統治するには、西洋近代的な議会政治は必ずしも適合しなかったといえる。中華民国の政権を担った中国国民党は、一党独裁に基づく「党国体制」によって、急速な「国民国家」建設を目指した。それは、長らく対立した中国共産党にも継承され、現在の中華人民共和国の政治・社会体制を規定する重要な要素となっている。こうした党と国家の関係は、なぜ・どのように形成されたのか？
本授業では、中国国民党と中国共産党という2つの党の成立から国家建設への過程を交差的にたどることで、中国近現代史の全体像を概観し、現代中国の政治・社会のあり方について共に考えていきたい。

【到達目標】

中国国民党と中国共産党の成立から国家建設への過程をたどり、中国近現代史に関する知識や理解を深めるとともに、現代中国の政治・社会体制にみられる特徴や問題点について、主体的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業を実施する。基本的に講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。提出されたリアクションペーパーは、次回授業時に一部を公開・回答し、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中国近現代史入門	中国近現代史を学ぶ意義・方法
第2回	帝制から共和制へ	清朝の崩壊と中華民国の成立
第3回	中国国民党の成立	孫文と革命運動
第4回	中国共産党の成立	『新青年』とコミンテルン
第5回	第1次国共合作	北伐と上海クーデター
第6回	中国国民党の国家建設	南京国民政府の訓政体制
第7回	農村の中国共産党	毛沢東の台頭と革命根拠地
第8回	第2次国共合作	日中戦争下の「一致抗日」
第9回	国共内戦	中華人民共和国の成立
第10回	中国共産党の国家建設	社会主義体制の確立と急進化
第11回	中国共産党の混乱と変革	文化大革命から改革開放へ
第12回	台湾の中国国民党	蔣介石の独裁と白色テロ
第13回	変わりゆく2つの党	大国化する中国の行方
第14回	現代中国の党と国家	政治・社会体制をめぐる諸問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。また、授業内で紹介した参考文献や配布資料をもとに知識と理解を深めるほか、現在の中国に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。
久保亨・土田哲夫・高田幸男・井上久士・中村元哉『現代中国の歴史——兩岸三地100年の歩み（第2版）』東京大学出版会、2019年。
吉澤誠一郎他『中国近現代史①～⑥』岩波書店（岩波新書）、2010～17年。
岩谷将『民主と独裁の相克——中国国民党の党治による民主化の蹉跌』千倉書房、2024年。
高橋伸夫『中国共産党の歴史』慶應義塾大学出版会、2021年。

【成績評価の方法と基準】

- ① 平常点 30 %
主に毎回授業後に提出するリアクションペーパーを評価対象とする。
② 期末試験 70 %
授業内容に関する論述問題を出題する。

【学生の意見等からの気づき】

初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。また、毎回リアクションペーパーへのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業連絡・資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces the history of modern China focusing on relationship between the state and the two parties: Chinese Nationalist Party (KMT) and Communist Party of China (CPC). The goal of this course is to understand the historical process and current political/social issues about modern China. After each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content. Final grade will be decided based on term-end examination (70%) and in-class contribution (30%).

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋考古・美術史

塩沢 裕仁

授業コード：A3209 | 曜日・時限：木3/Thu.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題の理解を目指します。
近年増大する考古学の成果などを用い、ビジュアルな面から時間的・空間的に地域相をとらえることで、東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題などが理解できるようになります。

【到達目標】

高度な技術を生み出してきた東アジアの物質文化に対して、これまでとは違った見方、考え方、接し方、ひいては新たな認識をもつことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文化財の保護を主題とし、洛陽、西安、北京、南京、開封の都市文化を軸に講じていきます。

中国三千年王朝史の9割にもおよぶ期間が置かれてきた洛陽、西安、北京は、まさしく東アジアの文化の中心であり、そこに営まれた歴史、文化を理解することで、日本文化の淵源を理解することもできます。また、古代の都城が抱えた生活環境問題などを考えることで、今日の都市問題への問題提起を考えることができます。

青銅器や陶磁器といった工芸資料にとどまらず石窟芸術や宮殿・陵墓建築などの考古・美術的な価値についても考えてみたいと思います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	中国考古学の現状
第2回	新石器時代の聚落遺跡と出土遺物1	仰韶文化と彩陶
第3回	新石器時代の聚落遺跡と出土遺物2	竜山文化と灰陶、黒陶
第4回	文明多元論	河母渡・大地湾・夏家店・良渚文化
第5回	中国王朝の曙	二里頭遺址と出土遺物
第6回	殷王朝の文化1	偃師商城・鄭州商城遺址と出土遺物
第7回	殷王朝の文化2	殷墟の甲骨と青銅器
第8回	周王朝の文化1	周原の遺跡と出土遺物
第9回	周王朝の文化2	東周洛陽の遺跡と出土遺物
第10回	春秋戦国の文化1	曾公乙墓と出土遺物
第11回	春秋戦国の文化2	曲阜孔廟と関連遺産
第12回	四川独自の文化	三星堆の遺構と出土遺物
第13回	秦初期の文化	天水・雍城の遺構と出土遺物
第14回	始皇帝の理想とその文化	始皇帝陵と兵马俑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほとんどの学生が当授業の内容に対しては初心者であると思います。講義の内容をよりよく理解するため、歴史事項だけでなく地理情報などの理解も必要です。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。

また、東京国立博物館東洋館、根津美術館、出光美術館などを自主的に参観し、東アジアの考古・美術に関する知識を増大させてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

授業の進行に合わせ適宜紹介しますが、写真や図版が多用されておりますので『ビジュアル版世界の歴史5、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史8、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史11、東アジアの変貌』（小山正明、講談社、1985年）などには目を通していただきたいと思います。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100％。

あらかじめ授業内で課題を提示します。問題意識を如何に持つかを重視しますので、自らの考えを自分の言葉で表現できるよう、平素より講義内容をまとめておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

当授業の内容を将来に生かすため、百貨店や骨董店など身近なところで東アジアの物質文化に触れる機会を増やしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 On grasping the time and space area characteristic in visual aspect with increased archaeological datas in China, we will be able to understand the study situation and issues on the Chinese Archaeology, Art and Architecture.

【Learning activities outside of classroom】 Need two hours in a day.

【Grading Criteria /Policy】 Based on written test 100 percent.

HIS300BE（史学 / History 300）

東洋史物質資料演習

塩沢 裕仁

授業コード：A3210 | 曜日・時限：火5/Tue.5
年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国古代物質資料に関する資料講読と研究資料の収集方法を学び、それを通して、東アジア前近代物質資料文化への認識を深め、新たな見識を見出ししていきます。

【到達目標】

中国考古・美術・建築に関するテキストの講読を通じて物質資料の性格を理解する手掛かりを見出すとともに、資料整理の方法を習得することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

『漢代物質文化資料図説』（中国国家博物館学術叢書）をテキストとして用い、その講読と内容発表を行います。各自が興味をもつテーマをテキストの中より選び、そのテーマを研究する上で必要な研究文献や研究資料の収集を行い、報告資料を作成の上、発表を行ってもらいます。物を見る力を養い、関連する資料を如何に見出し資料の性格を理論的に組み立てていくかという問題を互いに議論していく必要があります。

前半では、まずテキストを読み解き、特別な用語に慣れることに主眼をおきます。テキストは現代中国語ですので、読解に慣れた上級生と不慣れな下級生との組み合わせで担当するテーマについて、内容の要約と説明を行ってもらいます。後半では各自の研究計画テーマに沿ってテキストよりテーマを選択し発表してもらいますが、互いに論評し合うことによって各々がより良い研究への方向性を見出していくことを期待します。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入1	年間計画・テキストの説明と配布
第2回	導入2	基本書籍・工具書の紹介
第3回	図書館ガイダンス	物質文化関連書籍の閲覧と図書館利用法
第4回	テキストの講読1	『漢代物質文化資料図説』講読第1回
第5回	テキストの講読2	『漢代物質文化資料図説』講読第2回
第6回	テキストの講読3	『漢代物質文化資料図説』講読第3回
第7回	テキストの講読4	『漢代物質文化資料図説』講読第4回
第8回	テキストの講読5	『漢代物質文化資料図説』講読第5回
第9回	テキストの講読と発表1	『漢代物質文化資料図説』自由選択テーマ、第1回
第10回	テキストの講読と発表2	『漢代物質文化資料図説』自由選択テーマ、第2回
第11回	テキストの講読と発表3	『漢代物質文化資料図説』自由選択テーマ、第3回
第12回	博物館見学	東京国立博物館見学
第13回	研究発表1	4年生対象1
第14回	研究発表2	4年生対象2
第15回	テキストの講読と発表4	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第1回
第16回	テキストの講読と発表5	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第2回
第17回	専門図書館の見学	東洋文庫
第18回	テキストの講読と発表6	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第3回
第19回	テキストの講読と発表7	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第4回
第20回	テキストの講読と発表8	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第5回
第21回	テキストの講読と発表9	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第6回
第22回	テキストの講読と発表10	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第7回
第23回	テキストの講読と発表11	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第8回
第24回	テキストの講読と発表12	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第9回
第25回	研究計画発表1	3年生対象1
第26回	研究計画発表2	3年生対象2

第27回 研究計画発表3 2年生対象1
第28回 研究計画発表4 2年生対象2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習で見学する博物館や図書館だけでなく、都内各所で開催される展覧会などに積極的に出掛け、物を見る目を培ってもらいたいと思います。

研究室の図書を積極的に活用し、また上級生や同級生との議論を重ねながら自分が研究しようとするテーマを定めるようにしてください。

なお、提携先の世界文化遺産龍門石窟での課外学習を予定しています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『漢代物質文化資料図説』（中国国家博物館学術叢書）を用いますが、プリントして授業に配布します。

【参考書】

授業の進行に合わせ適宜紹介していきますが、研究室所蔵の資料を積極的に活用してください。

【成績評価の方法と基準】

平常点70％、レポート課題30％。

【学生の意見等からの気づき】

興味の対象は多岐にわたると思いますが、学習を進める中で自分のテーマが明確に見えてくると思います。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 On reading various Historical records and doing research about the Oriental Archaeology, Art and Architecture, we will aim to gain the method for doing research on the Oriental Material Culture.

【Learning activities outside of classroom】 Need two hours in a day.

【Grading Criteria /Policy】 Based on class performance 70 percent and term paper 30 percent.

HIS300BE（史学 / History 300）

東洋史文献史料演習

齋藤 勝

授業コード：A3211 | 曜日・時限：火4/Tue.4

年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東洋史研究のための基礎の習得と実践

自分の力で卒論を書くために必要な東洋史研究の手法を身につける。

【到達目標】

東洋史の研究に必要な文献史料（漢文）と先行研究（日本語・中国語・英語）の収集・読解に関わる技能・知識について、自力で研究を進め論文を執筆できるレベルまで習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「文献を読み込む」という作業について習熟することが最重要である。まずは出来るだけ多くの史料・研究を読み進め、全ての前提となる読解力を身につけたい。次に読んだ文献の性質を見極め、さらにそこから内容を吟味する力を身につけていくための訓練を行っていききたい。そしてその上で、卒論に向けた準備を進めていききたい。なお、課題に対するフィードバックは、文献を読み進めていくなかで行っていく。また、出席者の関心に基づいて授業内容を変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	演習の概要	進め方、テキストについて
第2回	先行研究及び史料	論文の見つけ方、漢籍の分類、辞書の使い方
第3回	史料講読	先秦儒家文献（1）『孟子』
第4回	史料講読	先秦儒家文献（2）『荀子』
第5回	史料講読	先秦諸子文献（1）『墨子』
第6回	史料講読	先秦諸子文献（2）『韓非子』
第7回	史料講読	正史（1）『史記』
第8回	史料講読	正史（2）『史記会注考証』
第9回	史料講読	正史（3）『漢書』
第10回	史料講読	正史（4）『漢書補注』
第11回	史料講読	正史（5）『三国志』
第12回	史料講読	正史（6）『三国志集解』
第13回	史料講読	編年史書『資治通鑑』
第14回	先行研究の整理	中国史
第15回	先行研究の整理	中国史以外
第16回	文献学の基礎	書誌学について
第17回	文献学の基礎	漢籍の成立と伝世について
第18回	史料講読と考証	考証学・顧炎武・『日知録』について
第19回	史料講読と考証	『日知録』の講読・考証
第20回	史料講読と考証	『塩鉄論』について
第21回	史料講読と考証	『塩鉄論校注』の講読・考証
第22回	史料講読と考証	『白居易集』について
第23回	史料講読と考証	『白居易集』諸本の比較
第24回	中文研究書の講読	陳寅恪の研究
第25回	中文研究書の講読	陳垣の研究
第26回	英文研究書の講読	近現代中国もしくは諸地域について
第27回	卒論準備	卒論の書き方について
第28回	卒論準備	卒論の準備状況の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講読にあたる部分は当番制をとらないので、参加者各自に毎回、史料を読んできてもらいます。考証にあたる部分は当番制をとりますが、夏休み中の準備が必要になります。また予備知識にあたる部分は、参考文献を提示し各自で予習してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

上記の授業計画に挙げた文献についてコピーして配布します。

扱う内容は受講者や授業の進展に応じて変更します。

【参考書】

授業内容に応じて適宜、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

平常点50％、レポート類50％

講読・発表をこなすことが平常点の最低条件になります。ただし甚だしく努力を怠る、理解が及んでいない等の場合は、成績として加算しません。レポート類は、各学期中に加え、長期休暇の際も宿題として課します。全て提出することが条件となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students acquire basic skills to study ancient Chinese history.

Learning objects: The goal of this course is to acquire skills to write a graduation thesis.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Your overall grade in the class will be decided based on term-end report(50%) and in-class contribution(50%).

HIS100BE（史学 / History 100）

東洋史序説

山元 貴尚

授業コード：A3214 | 曜日・時限：木4/Thu.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前近代の中国は東アジア世界の中心として周辺地域に多くの影響を及ぼしてきた。その影響は現在の東アジア各地の政治・社会・文化にも根強く残り、現代の複雑な東アジア情勢にも垣間見える。そこで、本講義では前近代の中国における政治・社会・文化の基礎的な部分を概観し、歴史的観点から現代の東アジア情勢に関する理解を深める。

【到達目標】

東アジア世界を歴史的に概観し、客観的な視点からその政治・社会・文化の多様性について理解を深める。また、単に歴史的な出来事の知識のみを知るのではなく、歴史的事実の原因と経過、そして結果や影響についてノートにまとめ、自らの意見を持つことができるようにする。さらに、歴史という過去のデータから、現代の東アジア世界にどう活用すべきかを考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業はPowerPointを用いて講義形式で行います
各回、一つの時代を取り上げて政治・社会・文化を学習する。学生からの質問については授業前後や授業中にも随時受け付け、学習内容についてフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業を受けるにあたって	注意事項等のガイダンス
第2回	甲骨文字の世界	殷王朝の歴史と甲骨文字
第3回	理想の国家とその統治	周王朝・春秋戦国時代
第4回	中国の「一統」と始皇帝の支配	秦王朝の天下一統とその統治
第5回	漢字文化圏の成立	漢帝国の成立とその歴史
第6回	儒教国家の成立	新・後漢王朝
第7回	魏・呉・蜀の興亡と中華世界の再統一	三国・晋時代の歴史
第8回	貴族制社会と南北交通	南北朝・隋王朝の統治
第9回	東アジア世界帝国の成立	唐帝国の歴史
第10回	農耕民族と遊牧民族との攻防	宋王朝と北方遊牧民族
第11回	モンゴル＝ウルス体制とユーラシア支配	モンゴル・元王朝の歴史
第12回	海禁と朝貢—東アジア世界の構造—	明王朝における海禁＝朝貢システム・南船北馬・北虜南倭
第13回	前近代最後の皇帝支配	清王朝の歴史
第14回	学習の総括	中国の歴史のまとめと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中ノートに取った内容を授業後に確認し、年表・地図・ポイント等をノートにまとめる。興味関心を抱いた内容はインターネットではなく図書館に足を運んで書籍から調べて知識を身に付ける。また、事前に学習する時代について調べておく。本授業の準備で2時間程度、授業後の復習時間2時間程度とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しませんが、随時資料を配布します。

【参考書】

岩波新書 シリーズ 中国の歴史①～⑤ 2019年11月～2020年7月
愛宕元・富谷至著『新版 中国の歴史』上下巻、昭和堂、2009年4月（同じく昭和堂の富谷至・森田憲司編『概説中国史』上下も可）
講談社学術文庫 中国の歴史 全12巻 2020年10月～2021年6月
その他必要と思われる参考書は講義で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点30％、期末試験70％の配分で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

幅広い知識を得るためにわかりやすい説明になるよう心掛けます。
多くの歴史的事象に興味関心を高め、その原因・結果について検討・考察できるようにしてほしい。また、講義内容をノートにまとめられるようになることを期待しています。

【学生が準備すべき機器他】

履修者はノートを用意して授業内容を取るようにしてください。ノートは期末試験に持ち込みができます。

【その他の重要事項】

ビデオ撮影・スマートフォンでの動画・写真の撮影および録音を禁止します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Pre-modern China had a significant influence on East Asia, shaping politics, society, and culture. This course explores the basics of pre-modern Chinese history to better understand contemporary East Asian affairs.

【Learning Objectives】

This course covers East Asian history to understand its political, social, and cultural diversity. Students will analyze historical events and their impacts to form their own opinions and apply these insights to contemporary East Asian issues.

【Learning activities outside of classroom】

Students will review and organize notes after class, use the library for research, and prepare for upcoming lessons. Preparation and review time is about two hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Evaluation will be based on regular participation (30%) and the final exam (70%).

HIS100BE（史学 / History 100）

西洋史序説

阿部 衛

授業コード：A3215 | 曜日・時限：火5/Tue.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界史のなかでも、とりわけ西洋史に焦点をあて、古代から現代に至るまでの重要な事象について通史的に講義する。授業では、適宜史料が提示され、その史料からいかなる解釈が引き出され、今日の歴史像の形成にいったんのかを考える。歴史的に重要な事象を単に記憶することではなく、その経緯や背景を理解することを重視している。

【到達目標】

この授業では以下の三点を到達目標に設定している。

- (1) 古代から現代までの西洋の歴史を体系的に理解できる
- (2) 史料の可能性と限界を理解できる。
- (3) 現代的価値観にとらわれず、相対的に事象を評価できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。

毎回事前に講義の資料を学習支援システムを通して配布するので、各自ダウンロードないしは印刷して授業に臨んでもらう。

毎回の授業の最後に400字程度のリアクションペーパーを提出してもらう。毎回の授業の冒頭で、前回の授業の復習とリアクションペーパーに対するフィードバックの時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方と目標について確認する。
第2回	古代1：古代ギリシア	古代ギリシア文明の誕生と発展、そして衰退について考える。
第3回	古代2：ローマ（王政～共和政）	ローマが都市国家からいかにして帝国へと発展していったのかを考える。
第4回	古代3：ローマ（帝政前期）	ローマ帝国はいかにして共和政から帝政へと移行したのか、そしてその後も共和政に戻ることはなく、帝政が維持されたのかを考える。
第5回	古代4：ローマ（帝政後期）	帝国を取り巻く環境にいかなる変化が生じたのか、そして帝国の人々はそれにどのように対応したのかを考える。
第6回	中世1：中世ヨーロッパ世界の成立	古代から中世へとヨーロッパがいかにして移行していったのかを考える。
第7回	中世2：中世ヨーロッパ世界の成熟	教皇と皇帝の関係性はいかにして変化していったのかを考える。
第8回	中世3：中世ヨーロッパ世界の変貌	黒死病や戦争そして飢饉をいかにしてヨーロッパ社会が超克し、その結果、何がもたらされたのかを考える。
第9回	近世：主権国家体制の成立	ヨーロッパにおける主権国家体制の成立について戦争との関係に注目しながら考える。
第10回	近代1：近代の幕開け	産業革命やフランス革命はいかなる社会的背景から生じることとなったのかを考える。
第11回	近代2：「国民国家」への歩みと帝国主義	「国民国家」がいかなる社会的状況で背景に形成され、その後の世界に何をもたらしたのかを考える。
第12回	現代1：二つの大戦	二つの世界大戦はいかなる社会的背景から勃発し、その後いかにして解決が図られたのかを考える。
第13回	現代2：東西冷戦とその後の世界	米ソの対立構造はいかにして形成され、世界にいかなる影響を与えたのかを考える。
第14回	まとめ	これまでの授業を振り返り、整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で配布されるプリントを参考に予習と復習をすること（各2時間）。適宜参考文献を読み、理解を深めること。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

【参考書】

1. 服部良久、南川高志、山辺規子編、『大学で学ぶ世界史〔古代・中世〕』、ミネルヴァ書房、2006年
2. 山川哲、上垣豊、山田史郎編、『大学で学ぶ世界史〔近現代〕』、ミネルヴァ書房、2011年
3. 中井義明ほか著、『教養のための西洋史入門』、ミネルヴァ書房、2007年

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパー）…60%

学期末の期末試験ないしレポート…40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布や課題提出に学習支援システムを用いるため、パソコンやタブレット端末などの持参を推奨する。

【その他の重要事項】

授業計画はあくまで目安であり、受講者の理解度に応じて適宜変更される。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Within world history, we will focus on Western history, giving comprehensive lectures on important events from ancient times to the present day. In class, historical materials are presented as appropriate, and students consider what interpretations can be derived from the materials that led to the formation of today's historical image. Rather than simply remembering historically important events, we place emphasis on understanding their history and background.

【Learning Objectives】

In this class, we have set the following three goals.

- (1) Be able to systematically understand Western history from ancient times to the present day
- (2) Be able to understand the possibilities and limitations of historical materials.
- (3) Be able to evaluate events relatively without being bound by modern values.

【Learning activities outside of classroom】

Prepare and review using the handouts distributed in each class (2 hours each). Read the references as appropriate to deepen your understanding.

【Grading Criteria /Policy】

Reaction paper …60%

Final exam or report at the end of the semester…40%

HIS200BE (史学 / History 200)

日本史特講XI

小倉 慈司

授業コード：A3216 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、日本古代の史書について、特に「六国史」と呼ばれた「正史」のうちの『続日本紀』を中心に、その基礎的な知識や調査・研究の方法を習得することを目的とする。古代の人々はどのようにして歴史を記録し、編纂したのか、そしてそのようにして完成した史書はどのように受け継がれて現在まで伝来してきたのか。史書に記された具体的な記事も読解しつつ、古代史研究の基礎を身につける。

【到達目標】

1 古代史史料に関する基礎知識を身につける。2 古代史の文献史料を読解する力を身につける。3 史料批判の能力を養い、論理的思考力を鍛える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式（対面授業）で進めます。実際に史料を読んでもらったり、アンケート・小テストを実施することもあります。主体的かつ問題意識をもって授業に取り組むことを望みます。アンケートや小テストの結果については、次回以降の授業のなかで紹介したり、授業内容に反映させていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「正史」の始まり	ガイダンス、古代中国における史書編纂
第2回	続日本紀の編纂	奈良時代の修史事業
第3回	続日本紀のテキスト・注釈	新訂増補国史大系、朝日新聞社本、新日本古典文学大系
第4回	平城京と聖武天皇の即位	長屋王の変と光明立后
第5回	風土記の編纂(1)	風土記の記事の特徴
第6回	風土記の編纂(2)	風土記の記事内容
第7回	東大寺大仏と光明皇后、孝謙天皇	8世紀半ばの政治情勢と続日本紀
第8回	続日本紀に見える祥瑞	祥瑞出現記事の検討
第9回	淳仁天皇と藤原仲麻呂の乱	淳仁朝の政治情勢と続日本紀
第10回	称徳天皇から光仁天皇へ	道鏡関係記事と続日本紀
第11回	桓武天皇の修史事業	皇位継承、早良親王事件
第12回	日本後紀の編纂	編纂過程について
第13回	日本後紀の散逸とその復元	日本紀略・類聚国史について
第14回	日本後紀の薨卒伝	官人の伝記と史書

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料は事前に読んでください。この講義の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業に必要な史料は配布します。必ず持参してください。

【参考書】

遠藤慶太『六国史』（中公新書、2016年）
新日本古典文学大系『続日本紀』1～5（岩波書店、1989～1998年）
早川庄八『続日本紀』（岩波書店、1993年）
ほか、授業中に紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業参加への積極性・小テスト・アンケートへの回答（20％）、レポート課題（80％）を総合しておこないます。

【学生の意見等からの気づき】

日本古代史を学ぶ上での基礎的な知識の確認を度々おこなっていくようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

This course aims to teach students basic knowledge and research methods about the Japanese classical history book, "Rikkokushi"(Six National Histories of Japan chronicling the history of Japan from the earliest times to 887). At the end of the course, students are expected to be able to read Japanese classical records and investigate them.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course contents.

The overall class grade will be determined by the following criteria: Quizzes and Reports: 80%, Contribution during class: 20%

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋史特講Ⅶ

徳留 大輔

授業コード：A3217 | 曜日・時限：月5/Mon.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】東アジア陶磁史——中国陶磁史を中心に
【目的・意義】東アジアの陶磁史は悠久の歴史を有する。その陶磁器の生産は素材である粘土の採取をはじめ、それぞれの地域・窯が所在する自然地理的環境に大きな影響を受ける。そのためそれぞれに独自の陶磁器文化を生み出してきた。その一方で、国・地域を超えて人々の交流が密になるなかで、陶磁器の造形や意匠、様式にも交流の結果による変化や新しい陶磁器文化を生み出した。本講義では考古学・美術史・歴史学的研究成果をもとに「人」「交流」をキーワードに東アジアの陶磁史を学ぶ。

【到達目標】

陶磁器を「考古学」「美術史」「歴史学」という様々な研究方法から学ぶことで、それぞれの研究のアプローチの方法を修得することができる。また国・地域を超えた相互の交流によって生み出される文化・芸術を学ぶことで、「国際性」を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心としながら、授業内での発表、リアクションペーパーの提出、2～3回程度課題を出し、それに対するフィードバックを行う。また少なくとも1回は博物館・美術館で陶磁関係の展覧会の見学を予定している（なお交通費は各自負担）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	第1回目は「陶磁器（やきもの）」とはいったいどのような物質なのか。やきものは何のために、なぜ生まれたのか？ まずは皆で考えてみるとともに、陶磁器を通してどのようなことが分かるのか、どのような魅力があるのか体験してみる。
第2回	土器を知る！	東アジアの中でも古くから様々な種類の土器を生み出した、中国新石器時代の土器、なかでも彩陶、黒陶を中心にその機能や社会的意味を考える。
第3回	陶磁器の分類・枠組	イントロダクションで触れた陶磁器の概要をもとに土器・陶器・炆器・磁器、白磁・青磁・青花・黒釉・五彩（色絵）など、陶磁器の分類・枠組を理解する
第4回	東西交流のはじまり	いまから2000年前。アジアの西と東で交流が密になる中で、工芸品の分野では青銅器、ガラス製品だけでなく、陶磁器が交流の表舞台に現れる。シルクロード、海の道を介して本格化する東西交流のはじまりと陶磁器を介して探る。
第5回	チャイナインパクトー世界に影響を与えた中国陶磁器①	8世紀後半から中国の陶磁器は貿易品として本格的に中国国外へ輸出される。晩唐・五代、宋時代における中国陶磁器の特徴を理解する。
第6回	チャイナインパクトー世界に影響を与えた中国陶磁器②	晩唐から宋時代における中国陶磁器の輸出先と貿易港をとりあげ、この時期の東西交流の様子を紐解く。
第7回	「青花」の誕生	14世紀前半、突如として流行する青花磁器。白磁の上にコバルトを用いて筆書きにより表された意匠は、西アジアの人々を魅了した中国陶磁であった。またあわせて中国国内、東南アジアでも広く受容された。その青花が誕生し、流行した背景について西アジアの工芸品も含めながら、考察していく。

第8回 明清陶磁の展開と官窯

第9回 大航海時代と陶磁器

第10回 唐物茶碗と茶の湯

第11回 日本における陶磁器鑑賞の歴史

第12回 日本における近現代陶芸の世界

第13回 博物館見学

第14回 まとめ

明清時代には景德鎮にて官窯が設置され、皇帝・官廷用の陶磁器と民間用の陶磁器生産体制ならびに様式・質にも大きな違い生まれる。とくに明時代に着目しながら、官窯製品の特徴、また時期により異なる官民の製品の影響関係について理解を深める。大航海時代には中国・日本の陶磁器が欧州をはじめ世界へ広がる。東アジアの陶磁器はなぜ世界を魅了したのか。明清時代の陶磁器、そして日本の古伊万里、柿右衛門を取り上げる。茶の湯で用いられる茶碗には多くの唐物（中国陶磁器など）がある。それらは時代により流行する陶磁器が異なる。それはなぜなのか。陶磁器の受容という視点からその背景を探る。日本では古くより寺社仏閣、茶の湯や華道など様々な分野で陶磁器を用いてきた。一方で、近代に入り欧州から新しい価値感をもとに陶磁器を使用するのではなく、鑑賞することにより主眼をおく見方が生まれる。それによりそれまで顧みられることがなかった、あるいは見過ごされてきた陶磁器が注目をうけることになる。その鑑賞の歴史を学ぶ。明治維新後、日本の陶芸の世界は新しい時代を迎える。それまでの窯や産地を中心する陶磁器だけでなく、個人作家が生まれる。ここでは近現代陶芸のパイオニアである板谷波山を中心に欧州の芸術様式の影響、中国や日本の古陶磁や工芸品が作家の作品づくりにどのような影響を与えたのか見ていく。実際に陶磁器作品を見て、立体造形の陶磁器の魅力を感じてもらう。本講義で学んだことの復習。陶磁器の魅力について感想を求めます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。講義の際にレジュメの配布ならびに内容にあわせて参考文献を紹介します。授業の前・後に読んで要点をまとめて授業に臨んでください。また授業では課題を出しますので、次の講義時に提出してください。

【テキスト（教科書）】

講義では教科書は使用しません。毎回レジュメを配布します。ただし、【参考書】に関してはぜひ一読してください。

【参考書】

葉結民原著、出川哲朗 監訳、徳留大輔／新井崇之 訳『中国陶磁史』科学出版社東京、国書刊行会、2019年
徳留大輔責任編集『茶の湯の茶碗 唐物茶碗』淡交社、2021年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート60％、各講義時に課す課題（宿題）20％、平常点20％

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

本講義の担当者は美術館に勤務する学芸員であり、陶芸を中心とする工芸分野を担当しています。可能な限り、実物作品の実見や資料などの観察の方法のレクチャーや資料にふれる機会を設けるようにします。

【教員の専門領域など】

＜専門領域＞考古学・東洋陶磁史
＜研究テーマ＞中国初期王朝形成過程の考古学的研究、中国陶磁史
＜主要研究業績＞

徳留大輔責任編集『茶の湯の茶碗 第一巻 唐物茶碗』淡交社、2021年
葉結民原著、出川哲朗 監訳、徳留大輔／新井崇之 訳『中国陶磁史』科学出版社東京、国書刊行会、2019年
徳留大輔編集『宋磁―神秘のやきもの』（展覧会・図録）、出光美術館、2018年

【Outline (in English)】

【Outline】The history of ceramics in East Asia focuses on the history of Chinese ceramics.

【Purpose and Significance】 The history of ceramics in East Asia has a long history. The production of ceramics is greatly influenced by the natural geographical environment of each region and kiln, including the extraction of clay, which is the raw material for ceramics. This is why each region and kiln has developed its own unique ceramic culture. On the other hand, as people interacted more closely with each other across countries and regions, the shapes, designs, and styles of ceramics also changed and new ceramic cultures emerged as a result of these interactions. In this lecture, we will study the history of ceramics in East Asia with the keywords "people" and "exchange" based on the results of archaeological, art historical, and historical studies.

[Learning activities outside of the classroom)]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination (report) : 60%、Short reports : 20%、in class contribution: 20%

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋史特講Ⅷ

松本 隆志

授業コード：A3218 | 曜日・時限：金3/Fri.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古代地中海世界から説き起こし、アラビア半島での預言者ムハンマドの出現、中東地域への発展と分裂を経て、現在の私たちが知るところの「イスラーム」が形成されていった最初期のプロセスを学んでいきます。本授業を通じて、受講生がイスラームの生成と展開についてその歴史背景も含めて自分の理解を形成すること、そして自身の理解を文章で他者へ提示することを学びます。

【到達目標】

この授業を通じて学生は、高校までの世界史教科書等では断片的な情報しか得られないイスラームの生成と発展について、古代地中海世界に固有の信仰伝統の文脈の中で理解を形成していくことになります。そうして形成された歴史理解を、学生各自が自分の言葉で語れるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は講師による講義と受講生による課題の作成・提出で構成されます。課題は毎回の授業内容に関する論述です。提出された課題については次の授業冒頭でフィードバックをおこなう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、テーマの説明と意義、授業の受け方について。
第2回	古代地中海世界の宗教伝統	古代地中海世界の信仰伝統としての一神教信仰について。
第3回	古代末期の地中海世界とアラビア半島	ビザンツ帝国とサーサーン朝の抗争と、その時代のアラビア半島の位置付けについて。
第4回	預言者ムハンマドと神の啓示	預言者ムハンマドの生涯とイスラームの誕生について。
第5回	預言者没後の指導者をめぐる試行錯誤の始まり	正統カリフ時代～第一次内乱に至る出来事について。
第6回	統一の崩壊と再生	第一次内乱の経緯とウマイヤ朝の成立について。
第7回	指導者の資格とは何か	第二次内乱前後の状況とウマイヤ朝の再興について。
第8回	ウマイヤ朝の限界	ウマイヤ朝最盛期の歴史的位置付けと問題点について。
第9回	ウマイヤ朝の衰退、アッバース朝の誕生	ウマイヤ朝末期の状況とハーシミーヤ運動について。
第10回	アッバース朝カリフ権力の確立	アッバース朝最初期の状況について。
第11回	革命をもう一度	アミンとマアムーンによるアッバース朝の内乱とその背景について。
第12回	イスラームの完成、帝国の限界	イスラームとアッバース朝カリフの関係について。
第13回	イスラーム世界の確立	諸王朝の乱立とイスラーム世界確立の関係について。
第14回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布する資料でその日の授業内容に関わる追加の参考文献を適宜紹介するとともに、次回内容に関わるキーワードを示していきます。追加文献に目を通したり、提出した課題を再検討することが復習になります。また、配布資料で示される次のキーワードについて調べることが予習になります。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。
毎回授業資料を配布します。

【参考書】

・概説書

小杉泰、『イスラーム帝国のジハード』（講談社学術文庫）、講談社、2016年。
菊地達也編著、『図説イスラム教の歴史』、河出書房新社、2017年。

・工具書

大塚和夫ほか編、『岩波イスラーム辞典』、岩波書店、2002年。

その他の参考文献は適宜配布資料に記載します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出の課題（50％）、期末レポート（50％）

課題については毎回素点をつけ、その累積を成績評価の50％に換算します。期末レポートについては、レポート作成要領を5月中に配布するので、それに基づいて計画的にレポート作成に取り組んでください。授業内容を踏まえて自分なりの見解・解釈を生み出すこと、それを論理的に文章で示すことを評価します。レポートの点数を成績評価の50％に換算します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容についての改善の指摘は特になかった。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業資料は学習支援システムから配布し、授業は配布資料をモニターに映しておこなう予定です。手元で授業資料を見ながら受講したい場合は、各自で配布資料を印刷して持ち込むか、あるいはPDFファイルを閲覧できるPCやスマホ等を用意してください。なお、配布資料はノート代わりに書き込めるよう、余白を多めに作成します。

【その他の重要事項】

上記の内容は状況の変化等によって変更される可能性があります。その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知します。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will study the initial process of the formation of "Islam" as we know it today. We will start from the ancient Mediterranean world, through the emergence of the Prophet Muhammad in the Arabian Peninsula, the development of the Middle East, and the division of the region, to the completion of "Islam".

【Learning Objectives】

At the end of this course, students are expected to form their own understanding of the creation and development of Islam, including its historical background, and to be able to present their understanding in writing to others.

【Learning activities outside of classroom】

Additional references will be introduced in the handouts distributed each class, and key words related to the contents of the next session will be indicated. Reading through the references and reviewing the submitted papers will serve as review. And researching the key words in the next lecture will serve as preparatory study.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policies】

Papers to be submitted each class (50%), final exam (50%)

The papers will be graded based on the cumulative score.

The final exam will be an essay exam. Both the papers and the exam will be about each student's views. Students will be graded on the basis of their own views and interpretations, and on their ability to present them logically in writing.

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋史特講Ⅹ

吉岡 潤

授業コード：A3219 | 曜日・時限：月4/Mon.4
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国境線を通して見た20世紀の国際関係史を、中・東欧諸国、特にポーランドの事例を中心に検討する。
現代は国民国家というあり方が世界中を覆い、ほぼすべての陸地が国境線で区切られ、ほぼすべての人間がどこか一つの国家に所属することになった時代である。戦争が繰り返され、国境線が引き直され、それに伴い難民や移民、強制移住やジェノサイドといった問題が深刻化した時代でもある。そしてこれらの問題が凝縮して現れた地域が中・東欧、とりわけ国家の消滅と復活を繰り返し、その度に国境線と住民構成を大きく変化させてきたポーランドである。本講義では、そのポーランドが歴史の節目節目でどのような国境線を持とうとし、そして実際に持つことになったのか（あるいは、持たされることになったのか）を概観する。今日のポーランドの国家的存在を基礎づけた第一次世界大戦後の独立に際しての国境線画定と、今日のポーランド国家の国境線を実質的に定めた第二次世界大戦後の国境線変更について検討し、中・東欧における地域秩序の形成およびその変動の国際関係史的意味を考察する。

【到達目標】

今ある国際関係の歴史的背景を知ること。
国際秩序や地域秩序の変動を歴史的に考察する手がかりを得ること。
現代の国際関係において国境線が持つ機能と意味を、現場の地域性と歴史性を踏まえて分析できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。授業回ごとにコメントシートを提出してもらい、そこで出された質問やコメントに対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	国境線を通して見る国際関係史、20世紀の国際秩序と国境線
第2回	前提	国境線を通して見るポーランド近現代史
第3回	第一次世界大戦と国境線（1）	第一次世界大戦とポーランド
第4回	第一次世界大戦と国境線（2）	第一次世界大戦の戦後処理
第5回	第一次世界大戦と国境線（3）	第一次世界大戦後のポーランドの国境画定
第6回	両大戦間期の国際関係と国境線（1）	中・東欧諸国の国境線と民族問題
第7回	両大戦間期の国際関係と国境線（2）	ナチ・ドイツと中・東欧諸国
第8回	第二次世界大戦と国境線（1）	独ソによる秩序変更
第9回	第二次世界大戦と国境線（2）	戦時国際関係とポーランド問題
第10回	第二次世界大戦と国境線（3）	第二次世界大戦の戦後処理
第11回	戦後国際秩序と国境線（1）	第二次世界大戦後のポーランドの国境画定
第12回	戦後国際秩序と国境線（2）	冷戦とポーランドの国境線
第13回	戦後国際秩序と国境線（3）	冷戦終結後の国際秩序と国境線
第14回	まとめ	国境線を通して見た20世紀国際関係史

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業中に紹介した参考文献を読むなど、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

コメントシートの提出など平常点と、期末課題とによる評価。評価における両者間の配分は、＜平常点のパーセンテージ：期末課題のパーセンテージ＞でおよそ40：60とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

This course deals with border issues in Central and Eastern Europe, especially in Poland, after World War I. Students are expected to learn about such topics as the problems of international relations in Central and Eastern Europe, the process of demarcation of Poland's borders after the First and Second World Wars, and shifting policies of the Great Powers towards Poland during the 20th century. Before and/or after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (60%) and in-class contribution (40%).

HIS300LA（史学 / History 300）

日本史特講ⅧA

岡野 浩二

授業コード：A3220 | 曜日・時限：金3/Fri.3
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本古代の国家や文明は、中国を祖型として形成されたといっても過言ではない。また古代の寺院は、仏教受容のみならず、国家や貴族・豪族の権威や、技術を象徴するものである。寺院を素材として、日本・中国の古代国家や社会のありかたを比較する。

【到達目標】

日本・中国の古代寺院の実相を理解する。また、日本の寺院が政治・社会とどのように関係していたのかを、中国から継承した要素と、日本独自の要素という観点から考える。その内容を自身の文章で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。対面授業を基本とし、必要があればオンライン授業を組み込む。その場合は、学習支援システムで提示する。2回目以降は、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、前回の復習とコメントを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題などの提出に「学習支援システム」を利用することも、視野に入れる。課題（試験やレポート等）に対して講評する。最終授業で、講義内容全体のまとめや復習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	仏教伝来	講義内容のガイダンス。尼・仏殿・法会の始まり
2	飛鳥寺	仏舍利・塔・仏像を備えた寺院の成立
3	法隆寺	推古朝の仏教政策、飛鳥と斑鳩の寺
4	大官大寺・薬師寺	天武・持統朝の仏教政策
5	平城京の寺院	大安寺・薬師寺・興福寺・東大寺・唐招提寺・西大寺
6	国分寺・国分尼寺	国分寺建立の詔とその前後の実情
7	奈良時代の地方寺院	地方豪族の仏教受容と寺院建立
8	平安京周辺寺院	桓武朝の仏教統制と官寺・私寺
9	北魏の寺院	永寧寺の九重塔、仏教の興隆と統制
10	隋・唐の各州の官寺	文帝の仏教政策、大雲寺・竜興寺・開元寺
11	長安の寺院	大興善寺と玄都観
12	中国の廃仏政策	三武一宗の法難、廃仏の実態と理由
13	日本と中国の寺院比較	日本の寺院、中国の寺院の共通点と相違点の考察
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントの史料・解説文を読んでくこと。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

岡野浩二『日本史特講（日本仏教史）』（法政大学通信教育部、2023年）
 末本文美士編『新アジア仏教史 11日本1 日本仏教の礎』（佼成出版社、2010年）
 佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』（勉誠出版、2018年）
 仏教史学会『仏教史研究ハンドブック』（法蔵館、2017年）
 藤善真澄『中国仏教史研究』（法蔵館、2013年）
 礪波護『唐代政治史研究』（同朋舎、1985年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（最終回に実施）50%、毎回の出席確認の小テスト50%をもとに評価する。出席確認の小テストは、提出されているか、内容が合格点に達しているかの2段階で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

(1)この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2)疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire comparative study of ancient nation and society between Japan and China through Buddhism temples.

(Learning Objectives)

By the end of course, students should be to understand the followings: How temples in Japanese ancient was related to politics, how that was related to China.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination :50 %, Short examination:50 %.

HIS300LA（史学 / History 300）

日本史特講ⅧB

岡野 浩二

授業コード：A3221 | 曜日・時限：金3/Fri.3
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代の日本は、中国から多くの文明・文物を移入した。その重要な役割を担ったのが入唐僧である。ここでは9世紀の円珍の関係史料を主な素材として、入唐僧の実情を探る。その前提として7・8世紀の入唐僧について概観する。9世紀には、円仁が『入唐求法巡礼行記』、円珍が『行歴抄』という旅行記を残しており、円珍関係の古文書も園城寺に現存する。それらの記事から、日本・唐の宗教・政治・社会を比較研究する。

【到達目標】

円珍の旅行記『行歴抄』、円珍の伝記『天台宗延暦寺座主円珍伝』、円珍関係の古文書『園城寺文書』の主要な記事を読解する。それらを素材として、日本・唐の宗教・政治・社会の相違点や特質を把握する。そして、その内容を自身の文章で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要を説明する
2	道昭・玄昉・鑑真	7・8世紀の入唐交流を概観する
3	最澄・空海・円仁	9世紀の入唐僧を概観する
4	円珍の入唐と身分証	僧侶・俗人の身分証について日唐を比較する
5	円珍の通行許可証	唐の交通路と許可証を考察する
6	円珍がみた天台山	会昌の廃仏とその影響を概観する
7	円珍と円載	入唐僧どうしの交流と確執を読み取る
8	円珍がみた長安・洛陽	唐の寺院・施設・人物を概観する
9	円珍がみた唐の文物	仏教行事や風俗を日唐で比較する
10	円珍の帰国	仏典の保管、天皇・貴族との交流を概観する
11	後続の入唐僧	宗叡・高丘親王らの入唐と円珍との関係を探る
12	円珍と唐の僧侶・商人	帰国後の円珍と天台山・長安の僧侶や貿易商との交流を概観する
13	日本と唐の関係・比較	入唐僧の活動から日本と唐の関係を考察する
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントの史料・解説文を読んでくること。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

佐伯有清『円珍』（吉川弘文館、1990年）
 佐伯有清『智証大師伝の研究』（吉川弘文館、1989年）
 小野勝年『入唐求法行歴の研究』上下（法蔵館、1982・83年）
 園城寺編『園城寺文書 第一巻』（講談社、1998年）
 佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』（勉誠出版、2018年）
 道端良秀『中国仏教史全集 第一巻 中国仏教通史』（書苑、1985年）
 鎌田茂雄『中国仏教史 第三巻 南北朝の仏教（上）』（東京大学出版会、1984年）
 鎌田茂雄『中国仏教史 第五巻 隋唐の仏教（上）』（東京大学出版会、1994年）
 山崎宏『隋唐仏教史の研究』（法蔵館、1967年）
 藤善真澄『中国仏教史研究』（法蔵館、2013年）
 礪波護『唐代政治史研究』（同朋舎、19865年）

【成績評価の方法と基準】

①最終回の試験（50％）、②途中で実施する確認試験（30％）、③予習事項の紙面での提出（20％）。以上の3者を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

(1) この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2) 疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。(3) ①探究心や向上心、②漢文読解の能力、③日本史・東洋史の基礎知識、④文章作成の能力。以上の4者が必要である。授業に出席するだけでなく、各自が積極的に取り組まなければならない。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire comparative study of ancient nation and society between Japan and China through Enchin's historical materials.

(Learning Objectives)

By the end of course, students should be to understand the followings: Through the travelogues written by monks who visited China from Japan, what is the religious, political, and social differences between ancient Japan and China.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination :50 %, Short examination:50 %.

HIS300LA（史学 / History 300）

東洋史特講ⅥA

齋藤 勝

授業コード：A3222 | 曜日・時限：月2/Mon.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。春学期には基本的な句法の説明と短い文章の読解を講義にて行っていくが、適宜、課題を課していき、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。

なお、秋学期の「中国の民族と文化B」は春学期の学習を前提に授業を進めていくので、秋学期の履修を考えている方は必ず春学期も履修してください。

あわせて、下記の「学生の意見等からの気づき」の欄も確認してください。とくに留学生の方は必ず読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中国の歴史と民族・文化	授業の概要と進め方について
第2回	漢文の基礎(1)	文型・置き字・返読文字・再読文字
第3回	漢文の基礎(2)	否定・可能
第4回	漢文の基礎(3)	使役・受身
第5回	漢文の基礎(4)	疑問・反語
第6回	漢文の基礎(5)	詠嘆・抑揚・限定・願望・仮定ほか
第7回	漢文史料から見る歴史(1)	『史記』の描く春秋時代
第8回	漢文史料から見る歴史(2)	『史記』の描く戦国時代
第9回	漢文史料から見る歴史(3)	『史記』の描く前漢時代
第10回	漢文史料から見る歴史(4)	『後漢書』の描く後漢時代
第11回	漢文史料から見る歴史(5)	『三国志』の描く魏
第12回	漢文史料から見る歴史(6)	『三国志』の描く呉
第13回	漢文史料から見る歴史(7)	『三国志』の描く蜀
第14回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。
扱う内容は受講者や授業の進展に応じて変更します。

【参考書】

原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008年）
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000年）
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999年）
円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008年）

【成績評価の方法と基準】

試験100%
試験は漢文の読解力のみで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will study ancient Chinese language and read ancient Chinese texts.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to understand the history and the culture of China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policies: Term-end examination(100%)

HIS300LA（史学 / History 300）

東洋史特講ⅥB**齋藤 勝**

授業コード：A3223 | 曜日・時限：月2/Mon.2
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。
 漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。秋学期には比較長い文章の読解を行っていくが、適宜、課題を課していき、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。

なお、春学期の「中国の民族と文化A」の履修を前提として授業を進めていくので、秋学期だけの履修は避けてください。あわせて、下記の「学生の意見等からの気づき」の欄も確認してください。とくに留学生の方は必ず読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	漢民族の思想(1)	『論語』と儒家
第2回	漢民族の思想(2)	『論語』と政治
第3回	漢民族の思想(3)	『孟子』と国家
第4回	漢民族の思想(4)	『孟子』と性善説
第5回	漢民族の思想(5)	『荀子』と性悪説
第6回	漢民族の思想(6)	『荀子』と学問
第7回	漢民族の思想(7)	『韓非子』と法家
第8回	漢民族の思想(8)	『韓非子』と秦
第9回	儒家思想と政治の展開(1)	唐の太宗と『貞観政要』
第10回	儒家思想と政治の展開(2)	王安石と宋学
第11回	儒家思想と民族・学問(1)	朱子学と歴史学
第12回	儒家思想と民族・学問(2)	顧炎武の人生と明清交替
第13回	儒家思想と民族・学問(3)	顧炎武の学問と国家観
第14回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
 適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。
 扱う内容は受講者や授業の進展に応じて変更します。

【参考書】

原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008年）
 佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000年）

天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999年）
 円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008年）

【成績評価の方法と基準】

試験100%

試験は漢文の読解力のみで評価します。

なお、試験は白文を読んでもらう予定です。入試漢文を前提とすると全くできないと思いますので、ご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will study ancient Chinese language and read ancient Chinese texts.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to understand the history and the culture of China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policies: Term-end examination(100%)

HIS300LA（史学 / History 300）

西洋史特講ⅧA

大澤 広晃

授業コード：A3224 | 曜日・時限：水1/Wed.1
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

18世紀から20世紀にかけてのイギリスは、巨大な帝国であった。イギリスの海外進出は、国内はもとより、世界各地にさまざまな影響を及ぼした。本授業では、18世紀末から20世紀初頭までのイギリス帝国の歴史を考えてみたい。

【到達目標】

・18世紀末から20世紀初頭までのイギリス帝国の歴史的特徴を理解する。
・帝国支配がイギリス国内と世界各地に与えた多様な影響を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として講義形式で行うが、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生と「対話」しながら進めることを心がける。また、資料に基づくディスカッションや、受講生の数に応じてプレゼンテーションをしてもらうことも考えている。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第2回	近世のイギリス帝国概観：アメリカ植民地の独立まで	18世紀末までのイギリス帝国の動向を概観する。
第3回	革命の時代の帝国	フランス革命の時代のイギリスと帝国について学ぶ。
第4回	奴隷制と奴隷貿易	19世紀初頭までの帝国を支えていた奴隷制と奴隷貿易について学ぶ。
第5回	奴隷貿易・奴隷制への反対運動	奴隷貿易と奴隷制への反対運動とその同時代的意義を学ぶ。
第6回	帝国の拡大と植民地自治	19世紀前半の帝国の拡大と植民地自治の発展について学ぶ。
第7回	インド	帝国の要であったインドとその支配について学ぶ。
第8回	非公式帝国	帝国を理解するうえで重要な非公式帝国という概念とその問題点を学ぶ。
第9回	帝国の支配者たち	帝国を支配した人々とその役割について学ぶ。
第10回	帝国の経済	帝国の経済構造について学ぶ。
第11回	支配の文化、文化の支配	帝国支配を文化の観点から学ぶ。
第12回	帝国とジェンダー	帝国支配をジェンダーの視点から学ぶ。
第13回	帝国主義の時代	帝国主義の時代におけるイギリスと帝国のありようを学び、授業内容を総括する。
第14回	授業内試験とまとめ	期末試験とまとめ及び解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料についての宿題を課す。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

川北稔・木畑洋一編著『イギリスの歴史—帝国=コモンウェルスのあるゆみ』有斐閣、2000年

木畑洋一ほか編著『イギリス帝国と20世紀』（全5巻）ミネルヴァ書房、2004～2009年

秋田茂『イギリス帝国の歴史』（中公新書）中央公論新社、2012年

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50％
・期末試験：50％

【学生の意見等からの気づき】

引き続き学生の知的関心を喚起するような授業を心がけていきます。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores the history of the British empire from the 18th century through to the early 20th century. It analyzes the empire's entanglement with British domestic affairs as well as its impact on other parts of the world.

< Learning objectives >

1) Students are able to acquire basic knowledge about early modern and modern British imperial history.

2) Students are able to assess varied impact that the empire had on Britain and wider world.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments 50%, Final examination 50%

HIS300LA（史学/History 300）

西洋史特講ⅧB

大澤 広晃

授業コード：A3225 | 曜日・時限：水 1/Wed.1
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近現代のイギリス帝国は、世界史の動向を大きく規定した。20世紀後半に帝国は崩壊したが、植民地支配の過去は現在の世界にも影響を及ぼし続けている。本授業では20世紀のイギリス帝国に焦点をあて、その歴史的意義を考えてみたい。

【到達目標】

- ・20世紀のイギリス帝国の特徴を理解する。
- ・現代世界が直面するさまざまな問題をイギリス帝国史の視座から批判的に考察する力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として講義形式で行うが、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生と「対話」しながら進めることを心がける。また、資料に基づくディスカッションや、受講生の数に応じてプレゼンテーションをしてもらうことも考えている。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。春学期に開講する「イギリスと帝国A」と内容面で連続性があるので、当該授業を履修したうえで登録することを強く勧める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第2回	世紀転換期までのイギリス帝国	19～20世紀転換期までのイギリスと帝国についての概要を学ぶ。
第3回	南アフリカ戦争の時代①：イギリス国内への影響	南アフリカ戦争がイギリス国内に与えたインパクトを学ぶ。
第4回	南アフリカ戦争の時代②：帝国・国際関係の視点から	南アフリカ戦争をイギリス帝国と国際関係の視点から学ぶ。
第5回	第一次世界大戦とイギリス帝国	第一次世界大戦への植民地のかかわりを学ぶ。
第6回	植民地ナショナリズム	植民地支配に抵抗するナショナリズムの諸特徴を学ぶ。
第7回	中東のイギリス帝国	戦間期中東地域におけるイギリスの支配について学ぶ。
第8回	イギリス帝国と日本	第二次世界大戦までのイギリス帝国と日本の関係について学ぶ。
第9回	コモンウェルスの形成	コモンウェルスの形成過程を学ぶ。
第10回	第二次世界大戦とイギリス帝国	第二次世界大戦期のイギリス帝国について学ぶ。
第11回	帝国＝コモンウェルス体制の変容と脱植民地化	脱植民地化とコモンウェルスの変容について学ぶ。
第12回	帝国のほころび	20世紀後半における帝国の崩壊について学ぶ。
第13回	帝国支配の過去と現在	帝国支配の過去が現在のイギリスと旧植民地にどのような影響を及ぼしているかを学び、授業内容を総括する。

第14回 授業内試験とまとめ 期末試験とまとめ及び解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料についての宿題を課す。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

川北稔・木畑洋一編著『イギリスの歴史—帝国＝コモンウェルスのあゆみ』有斐閣、2000年
木畑洋一ほか編著『イギリス帝国と20世紀』（全5巻）ミネルヴァ書房、2004～2009年
小川浩之『英連邦—王冠への忠誠と自由な連合』中央公論新社、2012年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50%
- ・期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

引き続き学生の知的関心を喚起するような授業を心がけていきます。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores the history of the British empire in the 20th century. It analyzes the empire's structures, decline, and continued impact on the contemporary world.

< Learning objectives >

- 1) Students are able to acquire basic knowledge about modern and contemporary British imperial history.
- 2) Students are able to acquire critical views of various global issues in reference to the history of the British empire.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments 50%, Final examination 50%

HIS100BE（史学 / History 100）		
日本史序説		
齋藤 智志		
授業コード：A3226 ｜ 曜日・時限：月3/Mon.3 春学期授業/Spring・2単位 ｜ 配当年次：1年 備考（履修条件等）：史学科の2022年度以前入学生は「日本史序説Ⅱ（A3213）」を履修する その他属性：〈他〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 この授業では、原始から現代までの日本の歴史を概括的に学びます。その際、文書や絵画などの史料、さまざまな文化遺産を取り上げて時代像をつかむとともに、各時代に対する社会的イメージがどのように形成・利用されてきたかという問題も考察します。これを通じて、日本の歴史に関する基本的な知識と多角的な見方を身につけることを目的とします。		
【到達目標】 日本の歴史の各時代の特徴と変遷を概括的に理解する。 史料をもとに歴史を考察する上での基本的な考え方や、歴史を多角的に捉える視点を身につける。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連		
【授業の進め方と方法】 各回の授業（第2回～第12回）は前半・後半に分かれています。前半は、講義形式でそれぞれの時代の概観を行います。後半は、①各時代がどのようにイメージされてきたか・いるかをその社会的背景とともに考える回と、②史料を読んで自ら時代像を捉える回とがあり、これらを通じて、歴史の多角的な見方を学んでいきます。 レジュメとスライドを用いた講義を中心とし、適宜授業内で提示する小課題（史料読解など）にも取り組んでももらいます。 毎回、リアクションペーパーに感想や意見、質問などを記入してもらい、次の授業や学習支援システムなどで共有する予定です。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと概論	・授業方針について ・歴史と史料／歴史を学ぶ意味
第2回	文化の黎明と国家形成	・時代の概観1 日本列島における文化の黎明 ・日本の黎明の描かれ方：神話的古代史像からサブカルチャーとしての縄文・古墳まで
第3回	古代の国家と社会	・時代の概観2 律令国家の成立と変容 ・古代遺跡の復元を考える：武蔵国府・国分寺付近を事例として
第4回	中世社会の成立	・時代の概観3 院政から武家政権へ ・絵巻物から見る中世社会：『一遍聖絵』を読む
第5回	中世社会の諸相	・時代の概観4 室町・戦国時代の動乱 ・戦乱の時代の英雄像と庶民像
第6回	幕藩体制の成立	・時代の概観5 江戸幕府の成立と国内外の秩序形成 ・「江戸ブーム」の歴史と現在
第7回	幕藩体制の動揺	・時代の概観6 社会の変動と幕政改革 ・村の生活と社会変動：『見聞集録』を読む
第8回	近代国家の形成	・時代の概観7 明治維新と立憲国家の成立 ・変遷する「明治」イメージ
第9回	近代国家の展開	・時代の概観8 デモクラシーと帝国主義 ・帝国を見せる：第五回内国勧業博覧会
第10回	近代の社会と文化	・時代の概観9 明治・大正期の文化変容と工業化 ・伝統文化の発見：文化財保護前史
第11回	第二次世界大戦と日本	・時代の概観10 軍部の台頭と総力戦 ・戦時下の雑誌を読む：『少年倶楽部』と『写真週報』
第12回	戦後日本の歩み	・時代の概観11 戦後改革と高度経済成長 ・昭和ノスタルジーを考える
第13回	歴史意識の歴史と現在	・授業全体のまとめ ・近現代の歴史学と歴史意識
第14回	授業内試験	試験・まとめと解説
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 次回の授業で用いるレジュメ等の資料は、原則として一週間前に学習支援システムで配布するので、事前に内容を確認してわからない単語等を調べ、参考書の関連箇所を読んで予習する。 授業終了後はレジュメ等の資料を読み返して復習し、内容の理解を深める。 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】 教科書は指定しません。配布資料を用いて授業を行います。		
【参考書】 佐々木潤之介・佐藤信・中島三千男・藤田覚・外園豊基・渡辺隆喜編『概論 日本歴史』吉川弘文館、2000年 『大学の日本史：教養から考える日本史へ』（全4巻）山川出版社、2016年 佐藤信・五味文彦・高埜利彦・鳥海靖編『詳説日本史研究』山川出版社、2017年		
【成績評価の方法と基準】 平常点40％（リアクションペーパーや授業内小課題への取り組みなどを含みます） 期末レポート30％ 期末試験30％ ※期末レポートの提出、期末試験の受験は、いずれも必須とします。		
【学生の意見等からの気づき】 授業内課題を通じて、他の学生の意見を知れるのが興味深かったという趣旨の意見が多く見られました。そうした課題を積極的に授業に取り入れていきたいと思います。		
【学生が準備すべき機器他】 授業中、学習支援システム（WebClass）の機能を用いることがあります。学習支援システムにログインできる機器（ノートPC、タブレット、スマートフォンなど。いずれか）を持参してください。なお、特にノートPCがタブレットの持参を推奨する回があるので、その都度お知らせします。		
【その他の重要事項】 毎回の授業前後の時間に質問を受け付けます。 また、授業期間中、学習支援システムおよびメールで常時質問を受け付けます。		
【Outline (in English)】 This course deals with a summary of Japanese history from the primitive period to the contemporary period. In doing so, we will take up historical materials (documents, paintings, etc.) and cultural heritage to understand the image of each period. In addition, we also consider how each period has been drawn. The aim of this course is to help students acquire basic knowledge and ideas on Japanese history. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 30%, Short reports: 30%, in class contribution: 40%		

HIS200BE（史学 / History 200）

歴史特講

柏木 一郎、塩沢 裕仁、内田 康太、皆川 卓、高井 康行

授業コード：A3227 | 曜日・時限：木2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の歴史学界では、対象とする地域により日本史、東洋史、西洋史の3分野に分かれ、それぞれの内部で独自の問題意識に基づき研究が行われてきた。その一方で、各分野に共通するテーマや複数の地域にまたがる問題もあり、それらをさまざまな角度から考察してみることで、新たな歴史の見方や描き方を学べるのではない。そのような機会を提供するのが、本授業の目的である。

今年度の主題は、「帝国」である。時代と地域を越えた帝国の在り方について、帝国の果たした役割と影響（たとえば交流による共通化、民族のナショナリズム形成）やその歴史的意義などを考える。授業では時代も地域もさまざまな帝国についてみていく。

【到達目標】

- ・諸地域に現れた帝国の特徴とその歴史的意義を理解する。
- ・複数の地域の事例を比較検討したり、それらの相互関係を把握したりすることを通じて、歴史を複眼的・総合的に考える力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、複数の教員が交代で授業を担当するオムニバス形式（講義）で行う。各回の授業は原則として講義だが、資料に基づくディスカッションの機会も設けたい。質問や課題については、授業内で回答・コメントをするか、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで次の授業にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要を説明する。 担当：塩沢
第2回	帝国について：概要と論点	帝国と世界の一体化について考える。 担当：塩沢
第3回	ローマ帝国1	ローマ帝国の概要について学ぶ 担当：内田
第4回	ローマ帝国2	ローマ帝国内の多様性と共通化について学ぶ 担当：内田
第5回	秦漢帝国	東アジア最初の帝国について学ぶ 担当：塩沢
第6回	隋唐帝国	隋唐帝国の国際性について学ぶ 担当：塩沢
第7回	神聖ローマ帝国1	神聖ローマ帝国の概要について学ぶ 担当：皆川
第8回	神聖ローマ帝国2	神聖ローマ帝国の世界性について学ぶ 担当：皆川
第9回	征服王朝1	征服王朝の概要について学ぶ 担当：高井
第10回	征服王朝2	征服王朝と東アジア世界について学ぶ 担当：高井
第11回	大日本帝国1	大日本帝国の概要について学ぶ 担当：柏木
第12回	大日本帝国2	大日本帝国内の多様性と共通化について学ぶ 担当：柏木
第13回	まとめ	授業の内容を総括する。 担当：塩沢
第14回	授業内試験	期末試験とまとめ 担当：塩沢

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。毎回の授業内容を復習するとともに、授業で示す参考文献を読み、自主的に理解を深めること。また、各講師の指示にしたがうこと。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でのプリント配付、あるいは学習支援システムからダウンロードする（各講師の指示にしたがうこと）。

【参考書】

山本有造編著『帝国の研究—原理・類型・関係』名古屋大学出版会、2003年

岡本隆司編著『宗主権の世界史—東西アジアの近代と翻訳概念』名古屋大学出版会、2014年

南塚信吾編著『国際関係史から世界史へ』ミネルヴァ書房、2020年

鈴木董編著『帝国の崩壊』（上下巻）山川出版社、2022年

その他、各講師が随時指示をする。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50%
- ・期末試験：50%

【重要】10分以上の遅刻は欠席とし、入室を認めない（遅延証明書持参のものは入室可）。授業中のPC使用を禁止する。写真撮影、録音、録画も禁止する。違反するものは退室させる。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業を心掛ける。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course aims to explore history of empires in comparative perspectives. < Learning objectives >

- 1) Students are able to acquire basic knowledge about empires in history.
- 2) Students are able to analyze history in comparative perspectives.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 50% Final examination: 50%

BSP100BE（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミ I（文・史）

小倉 淳一

授業コード：A3228 | 曜日・時限：木2/Thu.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年

備考（履修条件等）：ILAC100番台0群として履修

その他属性：〈実〉

However, students who are absent more than three times in a row or whose attendance rate is less than 70% will receive a grade of D.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校までの受け身の学習を脱し、大学生として必要な学習上の心構えと技術を身につける。大学での学習においてはレポート・論述試験・ゼミ発表など、自主的に学び、かつ自分の言葉で表現することが求められる。これらに主体的に向きあい、大学生としてふさわしい学習方法について検討・実践していく。

【到達目標】

大学生としての授業への参加方法を理解する。

論説文の読み方と要約方法が身につく。

資料の集め方、レポートの書式と執筆方法、発表資料の作成方法を習得する。ゼミ発表の方法を実践する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めていくが、授業中に出るさまざまな課題に取り組み、大学の授業への向き合い方を考える授業とする。各回のテーマにもとづく意見交換・討論・発表・レポートなどを通じて授業内容を共有することになる。レポート等のフィードバックについては授業内に行うかオフィス・アワー（月曜5限）で対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この授業の概要説明
第2回	ノートの作り方 1	学習計画と大学の授業形態
第3回	ノートの作り方 2	役立つノートとは何か
第4回	図書館の利用と情報検索	図書館実習
第5回	テキスト・論文の読み方 1	一般的な文章と論説文の違い
第6回	テキスト・論文の読み方 2	論説文を読み込む
第7回	要約の方法 1	要約とは何か
第8回	要約の方法 2	要約の実践
第9回	要約からの展開	自分の意見を述べる準備
第10回	レポートを書く 1	レポートの書式
第11回	レポートを書く 2	レポートの内容
第12回	レジュメの作り方 1	レジュメの書式
第13回	レジュメの作り方 2	レジュメの内容・ゼミ発表の心構え
第14回	成果提出と講評	レポート提出と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ともテキストを事前に読んでおくこと。レポート等の課題には必ず対応すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田哲也（編）2006『大学基礎講座 改増版』北大路書房（税込2,090円）

【参考書】

歴史学関係の文献等は授業中に紹介する。授業内ではプリント等も利用する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度）：30％ 授業内課題への取り組み：30％ 期末レポート：40％

ただし、3回以上の連続欠席者および出席率70％未満のものは自動的に単位を失う。

【学生の意見等からの気づき】

大学での学業を修めるためには授業内外における多様な課題に応えながら、自らを高めていく必要がある。この授業では多くの場面を通じて大学生として必要な姿勢と技術について伝えることにしたい。

【Outline (in English)】

The aim of this class is to develop the necessary learning attitudes and skills for college students.

Students will understand how to participate in class. Students will learn how to read and summarize an editorial.

Students will learn how to gather materials, write reports, and make presentations.

The standard preparation and review time by students is 2 hours each. The final grade will be determined by the normal score (30%), in-class assignments (30%), and the final report (40%).

BSP100BE（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミ I（文・史）

齋藤 勝

授業コード：A3229 | 曜日・時限：木2/Thu.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年

備考（履修条件等）：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習の仕方は各個人によって異なってきますので、画一的にこれが正しいというものはありません。ただ、自分に合ったやり方を自分なりに見つけていくということは、普遍的に大切なことだと思います。よって、本授業では、主体的に学び、考えることの出来る自分を構築することを目指していきます。

【到達目標】

自分と他者を見つめる目を養成し、その上で「主体的に学ぶとは如何なる行為か」、そして「授業とは何か」「自分がいかに授業に関わっていくか」について考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

課題を設定し授業内で発表を行ってもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	自分を知る	大学生活の出発点を考える
第2回	まとめる・書く(1)	情報のまとめ方の実践的トレーニング：1回目
第3回	まとめる・書く(2)	情報のまとめ方の実践的トレーニング：2回目
第4回	図書館ガイダンス	図書館の利用法を学ぶ
第5回	まとめる・書く(3)	情報のまとめ方の実践的トレーニング：3回目
第6回	読む・説明する(1)	読み方、まとめ方、報告の仕方の実践的トレーニング：1回目
第7回	キャリアセンターガイダンス	キャリアセンターによる授業
第8回	読む・説明する(2)	読み方、まとめ方、報告の仕方の実践的トレーニング：2回目
第9回	読む・説明する(3)	読み方、まとめ方、報告の仕方の実践的トレーニング：3回目
第10回	読む・説明する(4)	読み方、まとめ方、報告の仕方の実践的トレーニング：4回目
第11回	読む・説明する(5)	読み方、まとめ方、報告の仕方の実践的トレーニング：5回目
第12回	読む・説明する(6)	読み方、まとめ方、報告の仕方の実践的トレーニング：6回目
第13回	読む・説明する(7)	読み方、まとめ方、報告の仕方の実践的トレーニング：7回目
第14回	大学と社会	社会との関わりの中から大学生活を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
報告やレポートの準備をしてもらいます。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて配布します。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、レポート・発表50%
いずれも単にこなすだけでなく、主体的な取り組みが出来るようになってきたか否かで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

授業の予定は変わることがあります。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students improve skills to study and critical minds.

Learning objects: The goal of this course is to acquire skills to consider what studying independently is, what classes are and how you are involved in your classes.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Your overall grade in the class will be decided based on reports and presentations(50%) and in-class contribution(50%).

BSP100BE（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミ I（文・史）

大澤 広晃

授業コード：A3230 | 曜日・時限：木2/Thu.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年

備考（履修条件等）：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学びに必要な技法や思考法を学ぶ。情報のインプット、整理、アウトプットについての基本的なスキルとともに、学術的議論の仕方などを実践的に身につける。

【到達目標】

- ・講義、文献、オンライン資料などから必要な知識や情報を収集し、理解し、自分なりの言葉で表現することができる。
- ・口頭発表や論文の形式で自分の考えを論理的、説得的に発表できる。
- ・議論を通じて多様な意見や価値観を尊重する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式と演習形式を組み合わせる授業を行う。教員は授業テーマに関する基本事項の解説を行い、受講生はそれを実践することを通じて大学での学びに必要なスキルや思考法を身につける。受講生による発表や議論の機会を多く設けたい。加えて、図書館やデータベースの使い方についての講習や、キャリアガイダンスなども実施する。課題等についてのフィードバックは、授業時間内か次の授業において行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第2回	ノート・テイキング	講義の聞き方とノートの取り方を学ぶ。
第3回	読書（1）：情報の整理	読書から得られる情報を整理し記録する方法を学ぶ。
第4回	読書（2）：批判的に文章を読む	本や論文を批判的に読むことを学ぶ。
第5回	大学図書館の使い方	大学図書館の使い方や活用方法を学ぶ。
第6回	キャリアガイダンス	講義を聴きながら自身のキャリア形成について考える。
第7回	プレゼンテーション（1）：基本	プレゼンテーション（口頭発表）の基本ルールを学ぶ。
第8回	プレゼンテーション（2）：準備	発表に必要な資料（レジュメ、スライド）の作成方法を学ぶ。
第9回	プレゼンテーション（3）：実践①	テーマAを選んだ受講生がプレゼンテーションを行い、フィードバックを受ける。
第10回	プレゼンテーション（4）：実践②	テーマBを選んだ受講生がプレゼンテーションを行い、フィードバックを受ける。
第11回	プレゼンテーション（5）：実践③	テーマCを選んだ受講生がプレゼンテーションを行い、フィードバックを受ける。
第12回	論文・レポートを書く（1）：準備	論文やレポートを書くときの基本的姿勢とルールを学ぶ。
第13回	論文・レポートを書く（2）：ピア・レビュー	レポートの草稿を受講生どうしで批評したり議論したりすることで課題と改善点を学ぶ。
第14回	まとめ	授業の内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業テーマに関する宿題、プレゼンテーションの準備、レポートの執筆など、授業外での自主学習に多くの時間を割く必要がある。よって、本授業の準備学習・復習には、各2時間は必要である。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントや資料を配付する。

【参考書】

佐藤望編著、湯川武ほか著『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』（第3版）慶應義塾大学出版会、2020年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：30%
- ・プレゼンテーション：30%

・期末レポート：40%

【学生の意見等からの気づき】

学生の主体的参加を促すような授業の運営を目指す。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course aims to offer basic academic skills required for university students.

< Learning objectives >

- 1) Students are able to gather effectively key knowledge and information from lectures, academic literature and online sources, and organise it in constructive ways.
- 2) Students are able to present their ideas logically and convincingly in oral and written forms.
- 3) Students are able to respect diversity of opinions through discussion with fellow students.

< Learning activities outside of classroom >

Students are required to work on various assignments outside of classroom, which include preparation for oral presentation and writing academic essays. Consequently they have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively.

< Grading policy >

Class participation and assignments 30%, Oral presentation 30%, Final essay 40%

BSP100BE（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミ I（文・史）**大塚 紀弘**

授業コード：A3231 | 曜日・時限：木2/Thu.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年

備考（履修条件等）：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学の授業には、講義形式と演習形式がある。前者では、専門的な話を整理して理解する能力が必要となる。後者では、自ら調べ、考察し、その内容を伝える能力が求められる。この授業では、このような能力をいかに身につけ、向上させたいのか、一緒に考えていきたい。

【到達目標】

(1)専門的な話を整理して理解する能力、(2)自ら調べ考察する能力、(3)調べた内容を伝える能力など、大学で学ぶための基礎的な能力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

9章構成とし、講義形式を基本として進める。配布プリントとパワーポイントを併用して解説する。配布プリントとパワーポイントの文面は、事前に章ごとに「学習支援システム」にアップロードする（印刷プリントは配布しない）。講義の内容をふまえて、履修者に課題を実践してもらい、意見交換をする。研究発表、図書館実習、キャリアガイダンスの機会も設ける。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	基礎ゼミで学ぶこと	履修のガイダンス
	(1)	
第2回	基礎ゼミで学ぶこと	大学で学ぶ意味
	(2)	
第3回	ノートの取り方	大学の授業スタイルとノート
第4回	研究論文の読み方	研究論文の作法
第5回	図書館の利用と情報検索	図書館実習
第6回	卒業後の進路を考える	キャリアガイダンス
第7回	論文要約の仕方	論文要約の作法
第8回	レポートの書き方	レポートの作法
第9回	レジュメの作り方	レジュメの作法
第10回	研究発表の仕方	研究発表の作法
第11回	研究発表（1）	研究発表の実践（第1グループ）
第12回	研究発表（2）	研究発表の実践（第2グループ）
第13回	研究発表（3）	研究発表の実践（第3グループ）
第14回	レポート提出	授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「学習支援システム」の「教材」にアップロードされた配布プリントとパワーポイントの文面を基に予習する。プリント、ノート等を用いて復習する。また、事前に参考書を読んでおくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

藤田哲也編『大学基礎講座 改増版』（北大路書房、2006年）

【成績評価の方法と基準】

「到達目標」欄記載の3点を評価基準として、その到達度を総合的に評価する。平常点60%、研究発表点20%、レポート点20%の合計で評価する予定である。正当な理由なく5回以上欠席した場合は、D評価とする。担当の研究発表、レポートを正当な理由なく怠った場合は、D評価とする。正当な理由によって欠席した場合は、自作の「欠席理由書」を提出すれば考慮する。評価基準の詳細は、初回に指示する。

【学生の意見等からの気づき】

各章の論点を最初に明示する。

【Outline (in English)】

There are lecture forms and exercise forms in the university classes. In the former, the ability to organize and understand professional stories is necessary. In the latter, the ability to examine, consider, and communicate its contents is required. In this lesson, I would like to think about how to acquire and improve such abilities. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Short reports: 20%, in class contribution: 80%.

HIS200LA（史学/History 200）

東洋史特講Ⅹ

水上 香織

授業コード：A3232 | 曜日・時限：水2/Wed.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、南アジア近代史について、前近代からの社会変化という側面に重点を置きながら学びます。したがって、授業では18世紀から20世紀半ばまでを特に詳しく扱いますが、歴史的な背景を理解するために先史時代～17世紀の南アジア社会についても議論します。長期的な視野において南アジア地域の社会変動について理解できるようにすることを目的とします。

【到達目標】

- ・20世紀半ばまでの南アジア史に関する基礎知識を獲得する。
- ・歴史を学ぶことを通じて、社会の変化を多角的に考察することの重要性を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式の対面授業を行います。授業ごとに提出していただいた感想や質問に対して、授業内で随時フィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	インド亜大陸の地理的特徴/インダス文明～仏教の興隆	先史時代～3世紀
第2回	ヒンドゥー教の興隆とカースト社会の形成	4～13世紀
第3回	南アジアとイスラーム、そしてムガル帝国の時代	11～17世紀
第4回	ムガル帝国の衰退と地方諸勢力の台頭	18世紀
第5回	イギリス東インド会社のインド進出と植民地支配のはじまり	18～19世紀
第6回	植民地経済とインド人中間層の出現	19世紀前半
第7回	宗教・社会改革運動～人々の不満の噴出	19世紀前半～後半
第8回	植民地支配体制の再編～インド経済の変容	19世紀後半
第9回	19世紀末の社会不安とインド人中間層の変容	19世紀末～20世紀初頭
第10回	インド独立運動の展開	20世紀初頭～1930年代
第11回	インド・パキスタン分離独立への道	1930年代～1947年
第12回	ヒマラヤ周縁社会の歴史	ネパール、ブータン、シッキム、カシュミール、アフガニスタンの歴史
第13回	インド洋島嶼社会の歴史	モルディヴ、セイロン（スリランカ）の歴史
第14回	まとめ+試験	授業内容の振り返りと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。特に授業後には、授業資料やノートを読み直して復習しましょう。また、疑問点や興味を持った点について、授業中に紹介する参考文献などを活用して調べるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

辛島昇（編）『南アジア史』山川出版社、2011年。
辛島昇ほか（監修）『南アジアを知る事典』平凡社、2012年。
佐藤正哲・中里成章・水島司『ムガル帝国から英領インドへ』中央公論社、1998年。
内藤雅雄・中村平治（編）『南アジアの歴史——複合的社会の歴史と文化』有斐閣、2006年。
長崎暢子（編）『南アジア史4 近代・現代』山川出版社、2019年。
その他、授業中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業における質問や感想の提出：30％
期末試験：70％

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業では、画像や映像を多く見せたり、授業中に適宜休憩時間をとったりしたことが好評だったので、それらについては今年度も継続したいと思います。他方で、授業への感想・質問の受付締め切りをもう少し長くしてほしいという要望があったため、見直しを検討します。

【学生が準備すべき機器他】

感想・質問の提出は学習支援システムを通じて行う予定です。インターネットに接続できる機器（スマートフォン、タブレット、パソコンなど）を各自準備してください。

【Outline (in English)】

- ・ This course examines modern South Asian history, focusing on social change from pre-modern times. While the primary emphasis will be on the period from the 18th to the mid-20th century, discussions will also extend to societies from prehistoric times to the 17th century, offering a broader historical context.
- ・ By the end of the course, students are expected to understand social change in the South Asian region from a long-term perspective.
- ・ Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. In particular, students are encouraged to re-read and review their notes and distributed handouts after each class. Students are also encouraged to use the references provided in class to research any questions or points of interest.
- ・ The overall class grade is determined on the basis of the following items: Term-end examination 70%, in-class contribution 30%.

HIS200LA（史学 / History 200）

東洋史特講Ⅹ

水上 香織

授業コード：A3233 | 曜日・時限：水2/Wed.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、南アジア現代史について、今日の南アジア社会に至る歴史的背景という側面に重点を置きながら学びます。したがって、授業では20世紀半ばから現在までを特に詳しく扱いますが、それ以前の社会の動向についても議論します。現在の南アジア社会が直面している様々な問題について、歴史的な背景を踏まえたうえで理解できるようにすることを目的とします。

【到達目標】

- ・20世紀半ばから現在に至るまでの南アジア史について、基礎知識を獲得する。
- ・現代南アジアの諸問題について、歴史的背景を踏まえたうえで理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式の対面授業を行います。授業ごとに提出していただいた感想や質問に対して、授業内で随時フィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イギリスによる植民地化とインド人中間層	18世紀～20世紀初頭
第2回	ムスリムの自治をめぐる議論～インド・パキスタン分離独立	20世紀初頭～1947年
第3回	ネルー時代の成果と残された課題	1947年～1960年代のインド
第4回	インディラ・ガンディー政権の光と影	1970年代～1980年代のインド
第5回	コミュニザリズムの高まり	1990年代～現在のインド
第6回	映画から見えてくる南アジア社会	インド映画を題材に、現代南アジア社会について考える
第7回	東西パキスタンの決裂	1947年～1970年代のパキスタン
第8回	国内治安の悪化	1980年代～現在のパキスタン
第9回	機能不全の議会	1971年～現在のバングラデシュ
第10回	ヒマラヤ周縁社会の現代史	現代ネパール、ブータン、アフガニスタンの動向
第11回	インド洋島嶼社会の現代史	現代モルディブ、スリランカの動向
第12回	カーストとトライブをめぐる歴史的状況と現在	カースト差別への異議申し立ての歴史
第13回	女性の地位向上をめぐる歴史的状況と現在	女性の地位をめぐる議論と南アジアのフェミニズム運動の歴史
第14回	まとめ+試験	授業内容の振り返りと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。特に授業後には、授業資料やノートを読み直して復習しましょう。また、疑問点や興味を持った点について、授業中に紹介する参考文献などを活用して調べるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

辛島昇（編）『南アジア史』山川出版社、2011年。
辛島昇ほか（監修）『南アジアを知る事典』平凡社、2012年。
大橋正明、村山真弓（編著）『バングラデシュを知るための60章』、明石書店、2009年。
黒崎卓、子島進、山根聡『現代パキスタン分析——民族・国民・国家』岩波書店、2004年。
内藤雅雄・中村平治（編）『南アジアの歴史——複合的社会の歴史と文化』有斐閣、2006年。
長崎暢子（編）『南アジア史4 近代・現代』山川出版社、2019年。
その他、授業中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業における感想や質問の提出：30％
期末試験：70％

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業では授業内容に関連する映画を鑑賞したことが好評だったので、今年度も何か映画を選んで鑑賞したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

感想・質問の提出は学習支援システムを通じて行う予定です。インターネットに接続できる機器（スマートフォン、タブレット、パソコンなど）を各自準備してください。

【Outline (in English)】

- ・ This course examines contemporary South Asian history, focusing on the historical factors that have shaped present-day societies. While the focus will be on the period from the mid-20th century to the present, discussions will also consider earlier developments to provide deeper context.
- ・ By the end of the course, students are expected to understand present-day South Asian issues within the broader framework of historical context.
- ・ Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. In particular, students are encouraged to re-read and review their notes and distributed handouts after each class. Students are also encouraged to use the references provided in class to research any questions or points of interest.
- ・ The overall class grade is determined on the basis of the following items: Term-end examination 70%, in-class contribution 30%.

HIS200LA（史学 / History 200）

東洋史特講Ⅱ

長谷部 圭彦

授業コード：A3234 | 曜日・時限：木2/Thu.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、イスラームが誕生した7世紀から、オスマン帝国がビザンツ帝国を滅ぼす15世紀までの「中東・イスラーム地域」の歴史を概観する。また、イスラームの教義や戒律などについても解説する。受講者が、当該地域への理解を深めつつ、他の地域との比較や連関ができるようになることを目的とする。

【到達目標】

本科目の目標は、受講者が、15世紀までの「中東・イスラーム地域」の歴史と、イスラームの教義に関する基礎的な知識を習得し、それを論理的に表現できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎週質問用紙を配布するので、質問や意見を記入してほしい。それには翌週、可能な限り回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要	講義の目的、成績評価方法等を確認する。
第2回	預言者ムハンマド	ムハンマドの生涯を概観する。
第3回	六信五行	イスラームの信仰箇条と行為義務を概観する。
第4回	聖典『クルアーン』	イスラームの聖典を概観する。
第5回	スンナ派とシーア派	イスラームの宗派を概観する。
第6回	ウマイヤ朝とアッバース朝	7世紀から8世紀までのイスラーム地域を概観する。
第7回	シャリーアとフィクフ	イスラームの法と法学を概観する。
第8回	ウラマーとマドラサ	イスラームの法の担い手とその養成方法を概観する。
第9回	マムルークとイクター制	9世紀から11世紀までのイスラーム地域を概観する。
第10回	スーフィーと聖者	イスラームの神秘主義と聖者を概観する。
第11回	スンナ派の時代	12世紀のイスラーム地域を概観する。
第12回	モンゴルの時代	13世紀のイスラーム地域を概観する。
第13回	オスマン朝とティムール朝	14世紀から15世紀までのイスラーム地域を概観する。
第14回	総括	本講義を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
準備学習：レジュメに記載されている参考文献を読むこと。
復習：講義内容を、自身の専門と比較したり関連付けたりすること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。レジュメおよび資料を配付する。

【参考書】

大塚和夫他編『岩波イスラーム辞典』岩波書店、2002年。
東長靖『イスラームのとらえ方』山川出版社、1996年。
屋形禎亮・佐藤次高『西アジア』上巻、朝日新聞社、1993年。

【成績評価の方法と基準】

70%: 期末試験
30%: 平常点

【学生の意見等からの気づき】

2024年度の受講生アンケートの結果は以下のとおり（抜粋）。
・高校世界史で深く理解できず、単語をとにかく暗記しただけの範囲だったのですが、とてもよく分かりました。ストーリーや宗教のリアル、家系図などを理解しやすいように噛み砕いて説明してくださったので、イスラームの範囲の苦手意識が少なくなりました。履修して良かったです。
・イスラームという身近に体験することができない内容だったが、時折現代の言葉を交えて解説されており、非常に分かりやすく、かつ楽しみながら聞くことができた。レジュメの内容に加えて、家系図や概念図など自ら手を動かして考えることができたのも良かったと思う。
以上を踏まえ、これまでの授業方法を維持することとする。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される「東洋史LD（イスラーム史2）」も受講することが望ましい。

【Outline (in English)】

We survey a history of Islamic area from 7th to 15th century and review the Islamic technical terms. We aim to understand the area and to compare and connect it with another. Before /after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 70%; reaction paper: 30%.

HIS200LA（史学 / History 200）

東洋史特講Ⅱ

長谷部 圭彦

授業コード：A3235 | 曜日・時限：木2/Thu.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、オスマン・サファヴィー・ムガルの三王朝が並び立った16世紀から現代までの「中東・イスラーム地域」の歴史を概観する。とくに、この地域の大部分を支配したオスマン帝国（1300頃～1922）に焦点をあてる。受講者が、オスマン帝国への理解を深めつつ、他の政治体との比較や連関ができるようになることを目的とする。

【到達目標】

本科目の目標は、受講者が、オスマン帝国の歴史に関する基礎的な知識を習得し、それを論理的に表現できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎週質問用紙を配布するので、質問や意見を記入してほしい。それには翌週、可能な限り回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要	講義の目的、成績評価方法等を確認する。
第2回	オスマン史の全体像	オスマン史の時代区分（形成、拡張、変容、刷新、崩壊）を紹介する。
第3回	形成の時代1—戦士集団から君侯国へ	13世紀から15世紀中葉までのオスマン史を概観する。
第4回	形成の時代2—コンスタンティノープルの征服	コンスタンティノープルの征服を概観する。
第5回	拡張の時代1—世界帝国への道	15世紀中葉から16世紀前半までのオスマン史を概観する。
第6回	拡張の時代2—スレイマンの時代	16世紀中葉のオスマン史を概観する。
第7回	拡張の時代3—支配組織の確立	16世紀の支配組織を概観する。
第8回	変容の時代1—兵制と税制の変容	16世紀後半から17世紀前半までのオスマン史を概観する。
第9回	変容の時代2—対外関係の変容	17世紀後半から18世紀までのオスマン史を概観する。
第10回	刷新の時代1—改革の序章	19世紀前半のオスマン史を概観する。
第11回	刷新の時代2—二つのナショナリズム	オスマン帝国のナショナリズムを概観する。
第12回	刷新の時代3—社会秩序の変容	19世紀中葉のオスマン史を概観する。
第13回	崩壊の時代1—専制と革命	19世紀後半から20世紀初頭までのオスマン史を概観する。
第14回	崩壊の時代2—帝国の終焉	20世紀前半のオスマン史を概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
準備学習：レジュメに記載されている参考文献を読むこと。
復習：講義内容を、自身の専門と比較したり関連付けたりすること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。レジュメおよび資料を配布する。

【参考書】

新井政美『トルコ近現代史』みすず書房、2001年。
大塚和夫他編『岩波イスラーム辞典』岩波書店、2002年。
小笠原弘幸『オスマン帝国』中央公論新社、2018年。
鈴木董『オスマン帝国』講談社、1992年。
鈴木董『オスマン帝国の解体』筑摩書房、2000年。
永田雄三編『トルコ史』山川出版社、2023年。
永田雄三・羽田正『成熟のイスラーム社会』中央公論社、1998年。
林佳世子『オスマン帝国の時代』山川出版社、1997年。
林佳世子『オスマン帝国500年の平和』講談社、2008年。

【成績評価の方法と基準】

70%: 期末試験
30%: 平常点

【学生の意見等からの気づき】

2024年度の受講生アンケートの結果は以下のとおり（抜粋）。
・高校時代に世界史を選択していた人でも、日本史を選択していた人でも内容をわかるようにしていた点がとても良いと思いました。私は世界史選択でしたが、高校時代には踏み込まなかった知識や内容まで知ることが出来て大変興味深かったです。
・講義のスピードが早く情報に押し流されそうになる時もありましたが、先生の話し方が整然としており全体的に分かりやすかったです。レジュメも講義の理解に大変役立ちました。毎回しっかりと質問に答えてくださる時間があつたことも有り難かったです。手を動かして国際関係や支配組織の図を書くことで頭が整理されるため、今後このような授業形態を続けていただきたいと思います。
以上を踏まえ、これまでの授業方法を維持することとする。

【その他の重要事項】

春学期に開講される「東洋史LC（イスラーム史1）」も受講することが望ましい。

【Outline (in English)】

We survey a history of the Ottoman Empire. We aim to understand it and to compare and connect it with another political body. Before /after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 70%; reaction paper: 30%.

HIS300BE（史学 / History 300）

西洋史外書講読Ⅲ

大澤 広晃

授業コード：A3236 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋史に関係する英語文献を講読する。英語文献の構造についての知識とともに、文章を正確に理解するためのスキルを身につけ、西洋史の分野で自主的な研究を実践するための基本技能を養う。

【到達目標】

- ・英語で書かれた歴史学の文献を正確に読むことができる。
- ・課題文献のテーマを「英語で」学ぶことで、当該分野の研究動向や基礎知識を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義と演習を織り交ぜた形式で行う。受講生は毎回、割り当てられた範囲を精読し、試読と質問を準備して授業に臨む。授業では、教員と受講生が対話しながら訳文を検討し、みなで正確に文献を理解することを目指す。受講生の間で議論をする時間も設けるので、主体的に授業に参加することが求められる。課題に対するフィードバックは授業中に行うが、個別の質問には授業の最後か授業後に回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要についての説明。
第2回	イギリス帝国史へのアプローチ（1）	Simon J. Potter, <i>British Imperial History</i> （以下、課題文献） pp.1-2 の精読。
第3回	イギリス帝国史へのアプローチ（2）	課題文献 pp.2-5 の精読。
第4回	帝国の定義と概念	課題文献 pp.5-8 の精読。
第5回	帝国の形成（1）	課題文献 pp.8-11 の精読。
第6回	帝国の形成（2）	課題文献 pp.11-13 の精読。
第7回	帝国拡大の要因	課題文献 pp.14-16 の精読。
第8回	経済的要因（1）	課題文献 pp.16-18 の精読。
第9回	経済的要因（2）	課題文献 pp.18-21 の精読。
第10回	公式帝国と非公式帝国（1）	課題文献 pp.21-23 の精読。
第11回	公式帝国と非公式帝国（2）	課題文献 pp.23-26 の精読。
第12回	サブ・インペリアルイズム	課題文献 pp.26-29 の精読。
第13回	脱植民地化	課題文献 pp.29-31 の精読。
第14回	まとめ	授業の総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の授業外学習時間は各回4時間を標準とする。毎回の講読箇所を綿密に予習して授業に臨むとともに、授業後も英文を読み直して復習し、文献を深く理解する。

【テキスト（教科書）】

Simon J. Potter, *British Imperial History*, Basingstoke: Palgrave Macmillan, 2015.

【参考書】

川北稔・木畑洋一編著『イギリスの歴史—帝国—コモンウェルスへのあゆみ』有斐閣、2000年
木畑洋一『イギリス帝国と帝国主義：比較と関係の視座』有志舎、2008年
秋田茂『イギリス帝国の歴史』（中公新書）中央公論新社、2012年
フィリップ・レヴァイン（並河葉子・森本真美・水谷智訳）『イギリス帝国史—移民・ジェンダー・植民地へのまなざしから』昭和堂、2021年

【成績評価の方法と基準】

- ・授業参加度 40%
- ・中間レポート 30%
- ・期末レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is designed to help students acquire basic skills in reading academic literature written in English.

< Learning objectives >

1) Students will be able to read academic literature with precision.

2) Through learning a specific topic in English, students will be able to comprehend historiography and basic knowledge of the theme.

< Learning activities outside of classroom >

Students must read the reading assignment in advance every week, coming to the classroom well prepared for the lesson. They should also review each lesson afterwards so as to deepen their understanding of the text that has been read. At least four hours must be spent on preparing for and reviewing each lesson.

< Grading policy >

Class participation (40%), Mid-term essay (30%), final essay (30%)

HIS200LA（史学 / History 200）

西洋史特講Ⅹ

渡辺 知

授業コード：A3237 | 曜日・時限：木3/Thu.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

18世紀後半から20世紀にかけてのイギリスの歴史を講じます。近年のイギリス史研究では帝国の存在がイギリスの歴史を強く規定してきたことを強調する傾向にあります。また、イギリス帝国への関心はその経済的側面に留まらず、文化や社会のあり方にまで広がっています。この授業では、こうしたイギリス帝国の多様なあり方を見ていくこととします。

【到達目標】

ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在のイギリスの社会といかに関係するのか、あるいは、イギリスの動向が世界のその他の地域の動向といかに関接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義を行います。リアクションペーパー等でのコメント、質問は随時授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業内容の紹介	18世紀から20世紀にかけてのイギリスの歴史の流れを概観します。
第2回	二重革命の時代 1	産業革命の特徴とそれがイギリスの政治、経済、社会に与えた影響を検討します。
第3回	二重革命の時代 2	フランス革命がイギリスにどのような影響を与えたか検討します。
第4回	帝国の再編 1	二重革命の時代は、イギリスの帝国が第一帝国から第二帝国へと再編された時期でもありました。その再編の過程を奴隷貿易の廃止問題を中心に説明します。
第5回	帝国の再編 2	二重革命の時代は、イギリスの帝国が第一帝国から第二帝国へと再編された時期でもありました。その再編の過程をインドの植民地化を中心に説明します。
第6回	ミドル・クラス	二重革命の影響で、イギリスではミドル・クラスが台頭してきます。このミドル・クラスの特徴を「リスベクタビリティ」という言葉をキーワードに検討します。
第7回	ミドル・クラスのジェントルマン化	台頭してきたミドル・クラス層が従来の支配者層であるジェントルマンと融合していく過程を検討します。

第8回	労働者階級	ジェントルマンとミドル・クラスが19世紀のイギリスの繁栄の恩恵を受けたのに対し、労働者階級の大多数はその恩恵から排除されていました。労働者階級を取り巻く状況を説明します。
第9回	アイルランド移民	労働者階級の中でも最下層を形成したのがアイルランドからの移民でした。アイルランド移民を切り口にアイルランド、スコットランド、イングランドの地域の問題を検討します。
第10回	「怠惰な女性」と「善良な女性」 1	19世紀のイギリスにおいて女性たちがどのようなことを求められていたのか「怠惰な女性」と「善良な女性」をキーワードに検討します。
第11回	「怠惰な女性」と「善良な女性」 2	19世紀のイギリスにおいて女性たちがどのようなことを求められていたのか「怠惰な女性」と「善良な女性」をキーワードに、引き続き、検討します。
第12回	帝国主義の時代	1870年代以降のイギリスの経済、社会について概観します。
第13回	社会帝国主義	イギリスの国内問題の解決の場として帝国の果たす役割がこの時期大きくなったことを検討します。
第14回	試験・まとめと解説	18世紀から20世紀にかけてのイギリスの歴史がどのような特徴を持ち、イギリス帝国の諸地域に対してどのような影響を与えたのか、また、帝国の諸地域からどのような影響を受けたのか総括します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前に前回のノートを読み返して下さい。
また、紹介する参考文献を積極的に読むようにして下さい。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の区切りにリアクションペーパー等を書いて頂き、この提出をもって平常点とします。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点20％、学期末の試験80％）。

【学生の意見等からの気づき】

視覚教材を積極的に活用したいと思います。

【Outline (in English)】

< Course outline >

British History from the 18th century to the 20th century
In this lecture, the formation of the British Empire and the influence of the empire on Britain and her dependencies will be discussed.

< Learning objectives >

- 1) Students are able to acquire basic knowledge about modern and contemporary British history
- 2) Students are able to understand British history in view of its interaction with the rest of the world.
- 3) Students are able to learn diverse perspectives in history.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books and learn by themselves.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 20% Final examination: 80%

HIS200LA（史学 / History 200）

西洋史特講Ⅱ

内川 勇海

授業コード：A3238 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代アテナイ（紀元前5～4世紀）で実践された民主政治について、主に制度面に注目しながら、その成立と発展を概観する。歴史的なものの見方、考え方に留意しながらアテナイ民主政の具体的な仕組みを学ぶ。

【到達目標】

アテナイ民主政の具体的な仕組みを理解できる。
歴史的な知識を深めるだけでなく、常に現代の民主主義国家との比較の視点を持って過去を理解する姿勢を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、リアクションペーパーを積極的に活用するなど、受講生の主体的な参加を求める。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の内容と目標について説明する。
第2回	古代ギリシアの歴史概観	古代アテナイに焦点を合わせる前に、古代ギリシアの通史について、高校世界史の復習も兼ねて概観する。
第3回	史料について	歴史学で用いる史料について概説する。
第4回	アテナイ民主政概観	アテナイの民主政が、どのような組織や機関からなるのか、その概要を説明する。
第5回	500人評議会（1）	アテナイ民主政の主要機関であり、主に行政的機能を担った500人評議会について説明する。
第6回	500人評議会（2）	前回に引き続き500人評議会について説明する。
第7回	民会（1）	主要機関の一つであり、アテナイ市民団の意思決定機関である民会について説明する。
第8回	民会（2）	前回に引き続き民会について説明する。
第9回	公職者（役人）	公職者（役人）の組織や役割について説明する。
第10回	民衆法廷（1）	アテナイの主要法廷であり、司法だけでなく政治的機能も担った民衆法廷について説明する。
第11回	民衆法廷（2）	引き続き民衆法廷について説明する。
第12回	その他の機関（アレオパゴス評議会・立法委員会など）	アテナイ民主政を支えたそれ以外の機関について説明する。
第13回	殺人法廷	アテナイにおいて特殊な位置を占めた殺人法および殺人訴訟について説明する。

第14回 全体のまとめ

半年間の講義内容をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。必要に応じて講義資料を学習支援システムで共有する。
印刷するかパソコンなど資料を表示できる機器を持参すること。

【参考書】

伊藤貞夫『古代ギリシアの歴史』（講談社学術文庫、2004年）
橋場弦『民主主義の源流』（講談社学術文庫、2016年）
橋場弦『古代ギリシアの民主政』（岩波新書、2022年）
橋場弦、國方栄二訳『アテナイ人の国制；著作断片集』（岩波書店、2014年）
長谷川岳夫[編著]『はじめて学ぶ西洋古代史』（ミネルヴァ書房、2022年）
その他講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：50％
＊出席管理は厳格に行う。
・期末レポート：50％

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

特にないが、講義中のパソコンやタブレットなどの使用は可能。

【Outline (in English)】

< Course outline > This course explores ancient Athenian history, particularly focusing on the development of democracy in the 5th and 4th century BC.

< Learning objectives > 1) Students are able to acquire basic knowledge about ancient Athenian history . 2) Students are able to acquire a wider perspective on democratic nations.

< Learning activities outside of classroom > Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy > Class participation and assignments: 50%, essay: 50%

HIS200LA（史学 / History 200）

西洋史特講Ⅱ

竹下 和亮

授業コード：A3239 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ローマ帝国の崩壊からマクロン政権までのフランス史の基本的な流れを解説する。

【到達目標】

フランス史の基礎的な知識を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

年表と王家の系図を詳細にみながら、フランスの歴史を講義します。質問は、授業終了後及びコメントシートで受け付けます。課題等のフィードバックは授業内で行います。また適宜、ディスカッションを行います。授業の日程は、受講生の関心等により多少変更されることもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	フランスの諸地域Ⅰ	イール・ド・フランスからブルゴーニュまで
第2回	フランスの諸地域Ⅱ	プロヴァンスからノルマンディーまで
第3回	時代区分	西洋史の時代区分の特質と問題点
第4回	「フランス」史のはじまり	ローマ帝国の崩壊とフランク王国
第5回	中世社会とカペー王国	カペー朝フランス王国の形成
第6回	中世後期の危機と王権	フランス王朝国家の拡大と百年戦争
第7回	近代国家の成立	「国家」概念の成立と国王行政の凝集化
第8回	フランス絶対王政の統治構造	封建制から社团的編成へ
第9回	フランス革命と第一帝政Ⅰ	テュルゴアの改革からジャコバン独裁まで
第10回	フランス革命と第一帝政Ⅱ	テルミドールの反動からナポレオン体制の崩壊まで
第11回	革命と名望家の時代	七月革命と二月革命
第12回	共和主義による国民統合	国民国家と植民地帝国の形成
第13回	危機の時代と変貌する現代のフランス	世界大戦後の世界
第14回	試験及びまとめ	試験及びまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。文献が配布されたときは、事前に読んでおいてください。

【テキスト（教科書）】

レジュメと資料を配布します。

【参考書】

柴田三千雄、樺山紘一、福井憲彦編『世界歴史大系 フランス史1・2・3』山川出版社、1995年
井上幸治編『世界各国史2』山川出版社、1968年
福井憲彦編『新版 世界各国史12』山川出版社、2001年

J・H・エリオット（立石博高、竹下和亮訳）『歴史ができるまで』岩波書店、2017年
クリシャン・クマー（立石博高、竹下和亮訳）『帝国』岩波書店、2024年
『二宮宏之著作集』（全5巻）岩波書店、2011年

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）、試験（70％）
毎回の授業への出席は単位修得の前提条件です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【Outline (in English)】

< Course Outline >

This course provides an overview of the fundamental flow of French history, from the fall of the Roman Empire to the Macron administration.

< Learning Objectives >

Students will acquire fundamental knowledge of French history.

< Leaning Activities outside of Classroom >

Students are expected to spend approximately two hours on both preparation and review for each class.If reading materials are distributed, students must read them in advance.

< Grading Policy >

Class participation and assignments: 30%

Final examination: 70%

Regular attendance is a prerequisite for earning course credit.

HIS200LA（史学/History 200）

西洋史特講ⅩⅢ

内川 勇太

授業コード：A3240 | 曜日・時限：木2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世ヨーロッパにまつわる主要なフィクションをとりあげ、それらが流布した原因および実際に起きたことについて、1次史料に基づいて考察する。

【到達目標】

中世ヨーロッパ史に関するフィクションが訂正される過程を体験することで、史料批判に基づく歴史学の研究手法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎回終了後にリアクションペーパーを提出してもらい、全体に共有すべき質問等は次回の授業冒頭において取り上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	まえがき・イントロダクション・訳者あとがき
第2回	第1章 中世は暗黒時代だった	中世ヨーロッパに対する全般的なイメージ
第3回	第2章 中世の人々は地球は平らだと思っていた	中世ヨーロッパにおける世界認識
第4回	第3章 農民は風呂に入ることがなく、腐った肉を食べていた	中世ヨーロッパの衛生
第5回	第4章 人々は紀元千年を恐れていた	中世ヨーロッパにおけるキリスト教の終末思想
第6回	第5章 中世の戦争は馬に乗った騎士が戦っていた	中世ヨーロッパの戦争・戦闘技術
第7回	第6章 中世の教会は科学を抑圧していた	中世ヨーロッパにおける信仰と科学の関係
第8回	第7章 一二二二年、何千人もの子どもたちが十字軍遠征に出立し、そして死んだ	中世ヨーロッパの教皇権と子ども十字軍
第9回	第8章 ヨハンナという名の女教皇がいた	中世ヨーロッパの女性と教皇権
第10回	第9章 中世の医学は迷信にすぎなかった	中世ヨーロッパの医学と迷信
第11回	第10章 中世の人々は魔女を信じ、火あぶりにした	中世ヨーロッパの魔女
第12回	第11章 ベスト医師のマスクと「バラのまわりを輪になって」は黒死病から生まれた	中世ヨーロッパにおける疫病

第13回 番外編 アングロ＝サクソン期イングランドでは七王国の王がブリテンの覇者になろうと互いに争っていた

七王国概念とブリテンの覇者概念に基づくアングロ＝サクソン期イングランド理解

第14回 まとめ

授業の復習とレポートの解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習、授業内容の復習を合わせて毎回4時間以上の予習・復習を行う。

【テキスト（教科書）】

ウィンストン・ブラック 著/大貫 俊夫 監訳『中世ヨーロッパ：ファクトとフィクション』平凡社 2021

【参考書】

適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート(70%)、毎回のリアクションペーパー(30%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

Course outline:Featuring popular fictions or myths on Medieval Europe, this course aims to outline the reason and the way of their development, and present the historical facts based on primary sources.

Learning Objectives:By experiencing the process of fictions on Medieval Europe being corrected, students will learn the method of History based on source criticism.

Learning activities outside of classroom:reading of the textbook before and after each class

Grading Criteria/Policy:Report(70%), Reaction Papers(30%)

地理学概論（1）

前 杵 英明

授業コード：A3401 | 曜日・時限：木1/Thu.1
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は「『地理』から『地理学』へ」と移行するための基礎的知識を学ぶことを目的とする。この講義を受講すれば、1. 高校の地歴科地理で学習する地理的知識を再確認でき、2. 高校の教科である「地理」と学問の一分野である「地理学」との違いを理解でき、3. 自然地理学の導入部分を学ぶことができる。科目名を自然地理学概論と読み替えてもよい。

【到達目標】

高校の地歴科「地理」で学習する地理の知識を再確認し、高校の教科としての地理と学問の一分野である地理学の違いを理解する。また、自然地理学を構成する地形、気候、陸水・海洋、植生などの自然環境や自然災害に関する基礎的な知識を身に付け、今後の学年進修に伴う専門教育を受けるための基礎を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎週プレゼンファイルを使い、それを解説する形式である。プリントを配布するとともに、予習・復習に必要なプレゼンファイルの圧縮版および解説文を学習支援システムに上げる。課題（質問事項）等を課した場合は学習支援システムにて回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地理学と自然地理学	地理学と自然地理学について説明する。本学期のシラバスについて確認する。地球惑星科学の一分野としての自然地理学や自然史について説明する。
第2回	気候①＜大気大循環と気候要素・因子＞	地球の熱収支、大気大循環、気候要素、気候因子について講義する
第3回	気候②＜世界の気候区分と日本の気候区分＞	ケッペンをはじめとした様々な気候区分、日本の気候の特色や気候区分、局地風や都市気候などについて講義する。
第4回	気候③＜最終氷期以降の気候変動＞	最終氷期以降の気候変動、自然環境の変化について講義する。
第5回	地形①＜世界と日本の大地形＞	大地形、地帯構造、プレートテクトニクスなどについて講義する。
第6回	地形②＜平野と海岸の地形＞	平野と海岸、台地と扇状地、沖積低地の微地形について講義する。
第7回	地形③＜変動地形＞	内作用に起因する変動地形や火山地形について講義する。
第8回	地形④＜第四紀と氷期＞	第四紀、気候変動と地形、氷河・周氷河地形等について講義する。
第9回	水文①＜水循環と流域、陸水＞	水循環と水収支、流域の水循環と物質循環、水文学のベースである地下水学の基礎と陸水学の起源である湖沼学の基礎について講義する。
第10回	水文②水循環と流域、海洋＞	水循環と水収支、海洋循環と気候変動などについて講義する。
第11回	土壌と植生＜土壌の基礎・植生景観・文化＞	土壌学の基礎を植生景観や文化景観と関連させながら講義する。
第12回	自然災害	さまざまな自然災害について、自然地理学との関連で講義する。
第13回	環境問題	地球環境史のふり返りとこれからの地球環境について講義する。
第14回	本学期の講義内容の振り返り	本学期の講義内容の振り返りとして確認試験などを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高校で使用した地図帳があれば、授業理解に役立つ。プレゼンファイルの圧縮版を学習支援システムに上げておくので、予習・復習に役立てて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。プリントもしくはスライドのPDFを配布する。

【参考書】

高橋日出男・小泉武栄（2008）：地理学基礎シリーズ2「自然地理学概論」、朝倉書店。

小野映介・吉田圭一郎（2021）：みわたす・つなげる自然地理学、古今書院。

【成績評価の方法と基準】

試験90%、平常点10%で総合的に評価する。平常点は出席状況や積極的な質問等で判断する。全回出席を原則とする。公欠等でやむを得ず休む場合でも開講回数の2/3以上出席していないと評価しない。初回からカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

初回授業で、本科目の主旨と講義の概要を説明するので、必ず出席すること。また、毎年の本講義の授業評価結果を踏まえて講義の改善に努める。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、Power Point、および理解に有効な映像を適宜、用いて受講生の理解の一助に努めながら講義を構成する。資料は、学習支援システムでダウンロードした上で、予習・復習をする必要がある。

【その他の重要事項】

地理学科の必修科目である。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

自然地理学、（変動）地形学、第四紀学

＜研究テーマ＞

プレート沈み込み帯における地震性地殻変動に関する地形・地質学的研究、新生代氷床変動に関する地形・地質学的研究、環境変化と人間社会に関する自然地理学的研究

＜主要研究業績＞

前杵英明ほか（2005）：沈み込み帯沿岸の地殻変動を記録する古潮位計としての完新世暖温帯石灰岩に関する予察的研究。地理科学, vol.60-3, pp.136-142. Maemoku, H. et.al. (1997) : Stratigraphy of the Late Quaternary raised beach deposits in the northern part of Langhovde, Lutzow-Holm Bay, East Antarctica. The Proceedings of NIPR Symposium Antarctic Geoscience, 10, 178-186.

Maemoku, H. et.al. (2012) Geomorphological constraints on the Ghaggar River regime during the Mature Harappan period, in Climates, Landscapes, and Civilizations, Geophys. Monogr. Ser., vol. 198, edited by L. Giosan et al., 97– 106, AGU, Washington, D. C.

【Outline (in English)】

The theme of this lecture is to confirm the foundation for shifting from "chiri" to "geography". The goal of this lecture is: 1. Reaffirming or reviewing geographical knowledge learned through the high school subject, 2. Understanding the differences Geography as a high school subject from Geography as a scientific discipline, 3. And learning the introductory part of Physical geography.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A.getting knowledge on natural environments and natural hazards
- B.getting ability to step up to the special education in the following grade.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (90%), and in-class contribution(10%).

GEO100BF（地理学 / Geography 100）

地理学概論（2）

伊藤 達也

授業コード：A3402 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学でも特に人文地理学分野のテーマを中心にした全体的な概要把握が授業概要と目的です。

【到達目標】

授業で行う一つ一つのテーマ、内容が人文地理学細分野の入門となっており、今後、学生が地理学を学んでいく上での基礎となることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義方式で進めていきます。授業に関する意見や質問は授業の最後に行うリアクションペーパーで提出します。対応すべき内容があった場合、次の授業の開始時に返答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人文地理学とは何か	人文地理学とは何かについて、系統地理と地誌の関係、細分野の詳細などを中心に説明します。
第2回	多様な国家	古典国家、現代国家の違い、現代国家の役割などについて説明します。
第3回	国境を超える政治経済	経済のグローバル化、政治のブロック化の中での社会変容について説明します。
第4回	アジアの経済発展（1）	アジアの特徴、多様性について説明します。
第5回	アジアの経済発展（2）	アジアの経済発展について説明します。
第6回	地域経済の論理（1）	地域を構成する3要素について説明します。
第7回	地域経済の論理（2）	地域経済の発展について説明します。
第8回	都市とは何か	都市の歴史と制度的特徴について説明します。
第9回	山村の過疎化と地域振興（1）	熊本県五木村のダム問題について説明します。
第10回	山村の過疎化と地域振興（2）	山村の地域振興策について説明します。
第11回	カッパの地理学（1）	カッパの特徴と地域分布について説明します。
第12回	カッパの地理学（2）	カッパを使った地域振興について説明します。
第13回	人文地理学の可能性	人文地理学の課題について説明します。
第14回	まとめ	講義全体のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の内容を授業にとどめず、実際の暮らしの中の出来事と結び付けてください。地域をよく観察してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ありません。

【参考書】

伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編著（2020）『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房

山崎 朗ほか（2022）『地域政策（第二版）』中央経済社

藤井 正・神谷浩夫編（2014）『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房

浮田典良（2010）『地理学入門改訂版－マルチ・スケール・ジオグラフィー』原書房

R.J. ジョンストン著／立岡裕士訳（1997、1999）『現代地理学の潮流（上・下）』地人書房

【成績評価の方法と基準】

定期試験100%。授業への出席は単位修得の前提です。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容が自らに関係するものであることを気づいてもらえるよう努力します。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline (in English)】

(Course outline) The outline and purpose of the course is to grasp the overall outline centered on the theme of human geography.(Learning Objectives) Each theme and content of the class is an introduction to the subfield of human geography, and the goal is to serve as a foundation for students to study geography. (Learning activities outside of classroom) Connect content of the class to the events in real life. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. (Grading Criteria /Policy) Regular Exam 100%

GEO100BF（地理学 / Geography 100）

地理実習（1）

前 杵 英明

授業コード：A3403 | 曜日・時限：木2/Thu.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年
備考（履修条件等）：クラス分けあり。学習支援システム上の「学科からのお知らせ」に掲載予定。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地理学の最も基本的な分析ツールである地図について、一般図である地形図の利用方法と自然地理学的な主題図の作成方法を学んでいく。

【到達目標】
地形図の基本を理解して活用できる。目的に応じた主題図を作成できる。簡単な道具で簡易地形測量ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回の授業において、地形図やさまざまな主題図の概要を説明した上で、学生自らが課題に取り組んでいく。距離・面積などの計測や地形断面図の作成などの作業を行ってもらう。次の授業開始時に前回提出された課題に対する解説を行う。
※現状では対面形式を想定しているが、場合によってはオンライン形式（学習支援システムによる教材提示型またはZoomを用いたリアルタイム型）で実施する可能性もある。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要・計画・評価方法等の説明をする。
第2回	地形図の基本	地形図の基本的情報・図式・注記を理解する。
第3回	地形図と地形計測	地形計測（距離・面積・高さ）を行う。
第4回	地性線の描き方	地性線図を作成する。
第5回	地形図と地形断面図	地形断面図を作成する。
第6回	等値線の描き方1	等値線図を作成する。
第7回	等値線の描き方2	等値線図を作成する。
第8回	接峰面図の作成（1）	接峰面図（方眼法）を作成する。
第9回	接峰面図の作成（2）	接峰面図（方眼法）を作成する。
第10回	接峰面図の作成（3）	接峰面図（方眼法）を作成する。
第11回	地表の簡易計測（1）	ハンドレベルと歩測で高さ・距離を測る基礎を学ぶとともに、空中写真の活用方法についても触れる。
第12回	地表の簡易計測（2）	ハンドレベルと歩測で高さ・距離を測る基礎を学ぶとともに、空中写真の活用方法についても触れる。
第13回	地表の簡易計測（3）	ハンドレベルと歩測で高さ・距離を測る基礎を学ぶとともに、空中写真の活用方法についても触れる。
第14回	空中写真を判読する	空中写真の理論と簡単な地形判読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常生活でみられる地図に関心を持ち、各自で情報収集する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。学習支援システムにもその都度資料をアップロードする。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の課題（90％）、平常点（10％）に基づいて評価する。全回出席を原則とする。公欠等でやむを得ず休む場合でも開講回数数の2/3以上出席していないと評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
学生の受講環境に応じて、柔軟に対応できるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】
定規や色鉛筆、色ペンがあるとよい。（大学でも用意する）

【Outline (in English)】
This course deals with using topographic maps and developing thematic maps on physical geography.

At the end of the course, students are expected to utilize topomap and to make thematic map according to its objective.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading will be decided based on lab reports (90%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (10%).

GEO100BF（地理学 / Geography 100）

地理実習（1）

前査 英明

授業コード：A3404 | 曜日・時限：木2/Thu.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年
備考（履修条件等）：クラス分けあり。学習支援システム上の「学科からのお知らせ」に掲載予定。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学の最も基本的な分析ツールである地図について、一般図である地形図の利用方法と自然地理学的な主題図の作成方法を学んでいく。

【到達目標】

地形図の基本を理解して活用できる。目的に応じた主題図を作成できる。簡単な道具で簡易地形測量ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回の授業において、地形図やさまざまな主題図の概要を説明した上で、学生自らが課題に取り組んでいく。距離・面積などの計測や地形断面図の作成などの作業を行ってもらう。次の授業開始時に前回提出された課題に対する解説を行う。

※現状では対面形式を想定しているが、場合によってはオンライン形式（学習支援システムによる教材提示型またはZoomを用いたリアルタイム型）で実施する可能性もある。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要・計画・評価方法等の説明をする。
第2回	地形図の基本	地形図の基本的情報・図式・注記を理解する。
第3回	地形図と地形計測	地形計測（距離・面積・高さ）を行う。
第4回	地性線の描き方	地性線図を作成する。
第5回	地形図と地形断面図	地形断面図を作成する。
第6回	等値線の描き方1	等値線図を作成する。
第7回	等値線の描き方2	等値線図を作成する。
第8回	接峰面図の作成（1）	接峰面図（方眼法）を作成する。
第9回	接峰面図の作成（2）	接峰面図（方眼法）を作成する。
第10回	接峰面図の作成（3）	接峰面図（方眼法）を作成する。
第11回	地表の簡易計測（1）	ハンドレベルと歩測で高さ・距離を測る基礎を学ぶとともに、空中写真の活用方法についても触れる。
第12回	地表の簡易計測（2）	ハンドレベルと歩測で高さ・距離を測る基礎を学ぶとともに、空中写真の活用方法についても触れる。
第13回	地表の簡易計測（3）	ハンドレベルと歩測で高さ・距離を測る基礎を学ぶとともに、空中写真の活用方法についても触れる。
第14回	空中写真を判読する	空中写真の理論と簡単な地形判読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常生活でみられる地図に関心を持ち、各自で情報収集する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。学習支援システムにもその都度資料をアップロードする。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題（90％）、平常点（10％）に基づいて評価する。全回出席を原則とする。公欠等でやむを得ず休む場合でも開講回数数の2/3以上出席していないと評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

学生の受講環境に応じて、柔軟に対応できるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

定規や色鉛筆、色ペンがあるとよい。（大学でも用意する）

【Outline (in English)】

This course deals with using topographic maps and developing thematic maps on physical geography.

At the end of the course, students are expected to utilize topomap and to make thematic map according to its objective.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on lab reports (90%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (10%).

GEO100BF（地理学 / Geography 100）

地理実習（2）

小原 文明

授業コード：A3405 | 曜日・時限：木2/Thu.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年
備考（履修条件等）：クラス分けあり。学習支援システム上の「学科からのお知らせ」に掲載予定。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、地理学科において地理学を4年間学んでいくために必要な知識・技能を修得するための授業です。具体的には、人文地理学の研究を行う上で必要となる調査方法や分析方法について、資料・データの収集や図表の作成といった作業を通じて学んでいきます。

【到達目標】

本授業を通じて、人文地理学という学問の性質を理解できるようになり、また、人文地理学の卒業論文を作成するために必要不可欠な知識・技能を修得できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

まずは、人文地理学の研究を行う上で必要となる基礎的な知識や方法を学びます。そして、さまざまな作業を通じて、それら知識や方法を修得できるようにします。したがって、授業の半分は講義形式で行い、残り半分は実習形式（作業）で行います。

課題等のフィードバックは次回以降の授業にて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人文地理学における研究の基礎	研究とは何か？ 調査とは何か？ 分析とは何か？
第2回	調査・論文作成の基礎的作業①	文献の種類・探し方
第3回	調査・論文作成の基礎的作業②	論文を読む（読書ノートの作成）
第4回	データ・資料・地図の種類	統計データ、地図、各種資料について
第5回	データの加工・図表の作成①	表の作成
第6回	データの加工・図表の作成②	グラフの作成
第7回	データの加工・図表の作成③	地図表現を考える
第8回	データの加工・図表の作成④	主題図の作成①：点表現の定量図
第9回	データの加工・図表の作成⑤	主題図の作成②：面表現の定性図
第10回	データの加工・図表の作成⑥	主題図の作成③：点表現の定量図と面表現の定性図
第11回	フィールドワークの手法①	フィールドワークの意味、準備作業
第12回	フィールドワークの手法②	アンケート調査
第13回	フィールドワークの手法③	ヒアリング調査
第14回	講評・総括	全体の講評、人文地理学における研究方法についてのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の性格上、授業外の時間に取り組んでもらう課題が出されますので、それらにしっかりと取り組んでください。また、本授業で学ぶ資料や図表については、日常生活でも目にする機会が多々ありますので、日頃から意識するようにしてください。本授業における授業外課題の時間（準備・復習時間）は各回4時間程度となります。

【テキスト（教科書）】

●野間晴雄・香川貴志・土平博・山田周二・河角龍典・小原文明編著（2017）：『ジオ・パルNEO—地理学・地域調査便利帖—（第2版）』海青社、2,500円（税抜）。
●その他に、担当者でレジュメ・配布プリントを用意します。

【参考書】

参考文献は授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席、受講態度など）：30％、各種課題：70％で評価します。平常点については、出席することは当然として、積極的に取り組む姿勢を重視します。また、課題については、提出状況や正確性、丁寧などを重視し、きちんと取り組まれた課題と不十分な形で取り組まれた課題とでは、差がつく形で評価を行います。各課題および平常点については、それぞれ点数化して評価し、それらを合算した点において成績を付けることになります。

したがって、毎回の授業に出席したとしても、また、すべての課題を提出したとしても、それぞれの課題の内容が不十分であり、受講態度が不適切であれば、合算した点数が少ないことになり、単位取得に至らない成績となることになるので、心して受講することが求められます。

【学生の意見等からの気づき】

受講生による作業進度の違いに対応できるよう留意します。

【Outline (in English)】

This course introduces various fundamental knowledge, skills and way of thinking which were needed in learning geography to students taking this course. So the goal of this course are to obtain fundamental knowledge of geography, to obtain methods and skills of geographical research, and to acquire ways of geographical thinking. Before /after each class meeting, students will be expected to spend each 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: short reports (70 %) and in-class contribution (30 %).

GEO100BF（地理学 / Geography 100）

地理実習（2）

小原 文明

授業コード：A3406 | 曜日・時限：木2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

備考（履修条件等）：クラス分けあり。学習支援システム上の「学科からのお知らせ」に掲載予定。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、地理学科において地理学を4年間学んでいくために必要な知識・技能を修得するための授業です。具体的には、人文地理学の研究を行う上で必要となる調査方法や分析方法について、資料・データの収集や図表の作成といった作業を通じて学んでいきます。

【到達目標】

本授業を通じて、人文地理学という学問の性質を理解できるようになり、また、人文地理学の卒業論文を作成するために必要不可欠な知識・技能を修得できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

まずは、人文地理学の研究を行う上で必要となる基礎的な知識や方法を学びます。そして、さまざまな作業を通じて、それら知識や方法を修得できるようにします。したがって、授業の半分は講義形式で行い、残り半分は実習形式（作業）で行います。

課題等のフィードバックは次回以降の授業にて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人文地理学における研究の基礎	研究とは何か？ 調査とは何か？ 分析とは何か？
第2回	調査・論文作成の基礎的作業①	文献の種類・探し方
第3回	調査・論文作成の基礎的作業②	論文を読む（読書ノートの作成）
第4回	データ・資料・地図の種類	統計データ、地図、各種資料について
第5回	データの加工・図表の作成①	表の作成
第6回	データの加工・図表の作成②	グラフの作成
第7回	データの加工・図表の作成③	地図表現を考える
第8回	データの加工・図表の作成④	主題図の作成①：点表現の定量図
第9回	データの加工・図表の作成⑤	主題図の作成②：面表現の定性図
第10回	データの加工・図表の作成⑥	主題図の作成③：点表現の定量図と面表現の定性図
第11回	フィールドワークの手法①	フィールドワークの意味、準備作業
第12回	フィールドワークの手法②	アンケート調査
第13回	フィールドワークの手法③	ヒアリング調査
第14回	講評・総括	全体の講評、人文地理学における研究方法についてのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の性格上、授業外の時間に取り組んでもらう課題が出されますので、それらにしっかりと取り組んでください。また、本授業で学ぶ資料や図表については、日常生活でも目にする機会が多々ありますので、日頃から意識するようにしてください。本授業における授業外課題の時間（準備・復習時間）は各回4時間程度となります。

【テキスト（教科書）】

●野間晴雄・香川貴志・土平博・山田周二・河角龍典・小原文明編著（2017）：『ジオ・バルNEO—地理学・地域調査便利帖—（第2版）』海青社、2,500円（税抜）。
●その他に、担当者でレジュメ・配布プリントを用意します。

【参考書】

参考文献は授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席、受講態度など）：30％、各種課題：70％で評価します。平常点については、出席することは当然として、積極的に取り組む姿勢を重視します。また、課題については、提出状況や正確性、丁寧などを重視し、きちんと取り組まれた課題と不十分な形で取り組まれた課題とでは、差がつく形で評価を行います。各課題および平常点については、それぞれ点数化して評価し、それらを合算した点において成績を付けることになります。

したがって、毎回の授業に出席したとしても、また、すべての課題を提出したとしても、それぞれの課題の内容が不十分であり、受講態度が不適切であれば、合算した点数が少ないことになり、単位取得に至らない成績となることになるので、心して受講することが求められます。

【学生の意見等からの気づき】

受講生による作業進度の違いに対応できるよう留意します。

【Outline (in English)】

This course introduces various fundamental knowledge, skills and way of thinking which were needed in learning geography to students taking this course. So the goal of this course are to obtain fundamental knowledge of geography, to obtain methods and skills of geographical research, and to acquire ways of geographical thinking.

Before /after each class meeting, students will be expected to spend each 4 hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: short reports (70 %) and in-class contribution (30 %).

GEO200BF（地理学 / Geography 200）

現地研究

地理学科専任教員

授業コード：A3407 | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
年間授業/Yearly・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「現地研究」は、他の学科にはない地理学科特有の科目です。いわゆる「野外調査(フィールドワーク)実習」を、法政大学の地理学科ではこう呼んでいます。地理学は、「地域」と密接に関係した学問です。地理学の研究に当たっては、ふだん教室で学んだことがらを、直接、「地域」の現地（＝現場）におもむいて確認・検証することが必要です。また現地で種々の手法を用いてデータを収集することも大切です、そうした過程で現地ならではの新しい発見も得られることになります。さらに、4年生になると、必修科目としての卒業論文の作成が課されますが、卒業論文の執筆に際しては、一般に現地調査を必要とする場合が多くあります。そのための調査技術の訓練をおこない、各自が主体的に現地調査ができるようになることが、この科目の目標です。

【到達目標】

教室で学んだことがらを「地域」の現地（＝現場）で確認・検証し、さらにはデータを収集する方法を併せて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各専任教員が、それぞれ年1～2回、いろいろな地域において「現地研究」を実施します。テーマとしては、自然地理学的な「現地研究」では地形調査、土壌調査、植生調査、気候調査、水文調査等が、人文地理学的な「現地研究」では農牧業、水産業、あるいは工業、交通などの経済活動、村落、都市などの社会生活、地域文化などについての調査が主となります。それらのテーマにしたがって、観察・観測・測定、聞き取り調査や質問票調査などが実施されます。したがって、休日以外に実施されることが多くあります（欠席せざるをえなかった授業の担当教員宛に、地理学科では、「現地研究参加証明書」を発行していますが、その取り扱いはいち担当教員に任されています）。

各「現地研究」の実施案内と参加者募集の要領は、その都度掲示を通じて学生諸君にはお知らせしますので、掲示板確認を怠らないようにした上で、掲示の指示通りに参加手続きをとってください。卒業論文作成に生かすためにも、なるべく早い学年のうちに、「現地研究」を履修することを勧めます。現地研究は必修科目です。従って単位不足で卒業できないという事態にならないようにして下さい。

各「現地研究」の前には、事前に「説明会」が必ず実施されます。「説明会」では、参加希望者と教員相互で、フィールドワークの企画を行います。それは、準備し、仮説を立て、詳細な地域設定、調査の実施、まとめに至るという過程を確認、実行するためのものです。フィールドワークの実施のためには、事前に文献・地図・地形図、史資料の収集整理が必要ですが、それについては教員が概略を説明し、参加者は企画に基づいてさらに詳細な文献・地図・史資料を収集整理していきます。参加者はそれらを読みこなしした上で、調査項目の検討を行います。得たそれら資料を予め地図化しておくことも必要です。実施日程やおおよその実施地域は教員が決定する場合がありますが、それから先の詳細は参加者が主体的に企画に参加、実行していくことになります。したがって参加者募集は現地研究実施の数ヶ月前に行い、参加者が主体的に企画それ自体から積極的に参加できるように、「説明会」も複数回実施される場合が出てきます。説明会に出席しなければ、「現地研究」への参加は当然、認められません。

それらの上に「現地研究」本番、つまりフィールドワークの実施に臨むことになります。具体的には、それぞれの企画に従って観察・測定・面接等を行います。しかし、いくら参加者の主体性が重視されるとはいっても、機器を使った測定、観測等においては、教員が適切な機器使用方法を一から指導していかねばならないこともあります。

「現地研究」終了後には、フィールドワークのまとめとして、指示に従ってレポートを作成、提出します。そのためには事前に収集整理した文献・地図・史資料等を使って、その上にフィールドワークで得た結果を図表化・分析・仮説検証することが必要になります。当然、報告会などに出席する必要があります。これらをすべてクリアして初めて、単位の認定が受けられることになります。この報告会などで、フィードバックが行われる予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	参加者の募集	募集通知は掲示を通じて行なう。これを見て、各自が参加を申し込む。宿泊施設や交通手段の関係などから定員が設けられるのが通常であるから、確実に参加するためには日ごろから掲示板によく注意していることが大切である。
第2回	事前説明会	各「現地研究」のおおまかな内容、実施時期、注意点などについて説明し、同時に「現地研究」実施のための企画を行う。これに欠席すると、当該「現地研究」への参加は認められない。
第3回	現地研究本番	集合（現地集合となることが多い）から解散まで、各教員の指導のもとに観測・観察、計測、聞き取り調査などを行ない、それらの結果を現地でとりまとめて議論する。
第4回	レポート作成・報告会	帰学後、現地研究の成果についてのレポートを作成し提出する。その上で報告会も実施する。以上のような過程をすべて経たうえで、単位認定がなされることになる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記の授業の概要と方法を参照して下さい。通常の授業では予習、復習時間、各2時間を標準としますが、この現地研究においては、上記のように準備、本番、リポート作成・報告会等をそれぞれ行っていきますので、通常授業の予習復習各2時間ではなく、各現地研究ごとに、各段階でその数倍の時間を費やすことが求められます。

【テキスト（教科書）】

各「現地研究」ごとに指示します。

【参考書】

各「現地研究」ごとに指示します。

【成績評価の方法と基準】

参加申し込み、説明会への参加、「現地研究」本番への参加、事後のレポート提出および報告会等への参加が、それぞれの現地研究の単位認定の必須条件であり、それらを総合して成績評価します。また、「現地研究」の単位は、4年次にまとめて認定されます。履修登録は4年次に必ず行って下さい。2～4年次の間に合計2回以上、履修して、総合した成績が合格基準に達していることを条件として、必修2単位が認定されます。各自の認定された参加回数は1年に2回、地理学科掲示板に掲示されますので、各自必ず確認して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

各現地研究ごとに指示します。

【その他の重要事項】

現地研究は、2年生以上が参加可能です。各現地研究ごとに参加条件等が異なる場合もありますので、掲示に注意して下さい。参加申し込みは、BT12階の地理学科事務室で各学期、受け付けます。参加申し込みは、必ず本人が行って下さい。現地研究への参加は、各学期、1回を原則とします。申込時に「参加予約金」を徴収する場合があります。なお、参加費用は全て自己負担です。

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course(field work, excursion) is to enable each student to conduct field survey independently by training in survey technics.

Learning Objectives

You will learn how to check and verify what you have learned in the classroom at the "region" (= site), and also how to collect data.

Learning activities outside of classroom

Please refer to the lesson outline and method. In regular lessons, preparation, review time, and 2 hours each are standard, but in this field study, preparation, production, report preparation, debriefing, etc. will be conducted as described above, so preparation for regular lessons. It is required to spend several times as much time at each stage for each field study, instead of 2 hours for each review.

Grading Criteria / Policy

Participation application, participation in briefing sessions, participation in "field research" production, post-report submission, participation in debriefing sessions, etc. are essential conditions for credit recognition of each field research, and the overall results Evaluate. In addition, the credits for "field research" are collectively accredited in the 4th year. Please be sure to register for the course in the 4th year. Two compulsory credits will be accredited on condition that you have taken a total of two or more courses between the 2nd and 4th years and your overall grades have reached the passing criteria. The number of certified participations will be posted on the Geography Bulletin Board twice a year, so please be sure to check each one.

GEO200BF (地理学 / Geography 200)

地誌学概論 (1)

小寺 浩二

授業コード：A3408 | 曜日・時限：火3/Tue.3
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
 備考（履修条件等）：2023年度以降入学生は受講不可。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地誌学に関する基礎知識の習得と具体的な「自然誌」作成能力の育成。地誌学の概論を講義するとともに、日本の自然誌についてのサンプルを示し、自分誌や自然誌を具体的に記述することで、自分で地誌を作成する力を育成する。GISの活用など、技術的なものも身に着ける。

【到達目標】

「地理学」において、「系統地理学」と並んで重要な分野である「地誌学」の歴史や方法論などについての基礎知識を習得する。あわせて、具体的な地域を取り上げた「自然誌」を作成し、「地誌」作成の基礎能力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業全体を通して、「地理学」および「地理学的概念」、「地理学的研究手法」において重要な役割を果たす「地誌学」の歴史、理論、手法などについての基礎知識が習得できるように構成している。

また、授業の流れに沿って指示される2つの「自然誌」作成と、その講評・課題提示によって、基本的な「自然誌」作成能力の育成を目指す。さらに、データ処理や結果の図化、主題図の作成方法などについても講義し、レポート執筆能力の向上、論文作成技術の基礎を習得する。

毎回、独自の授業記録簿を提出し、その結果をもとに、次の授業で、記述された質問や意見を踏まえた授業を行う。数回、提出を求める課題についても、全て次回までに採点し、個別に添削を行って、正しいレポート作成の仕方を習熟させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義内容概略	授業計画と課題説明
第2回	地理学と地誌学	地理学の中での地誌学の位置づけ
第3回	地誌学の歴史	地誌学の発展の歴史と主要文献紹介
第4回	地誌学の学派・方法論	フランス・ドイツ・アメリカなどの学派と地誌の方法論
第5回	広域地誌	広域地誌の定義と事例
第6回	国家地誌	国家地誌の定義と事例
第7回	総合的地誌	総合的地誌の定義と事例
第8回	動態地誌	動態地誌の定義と事例
第9回	景觀論	景觀論とそれに基づいた地誌
第10回	行政界と自然界	地誌における地域界について
第11回	自然誌	総合自然誌と主題自然誌
第12回	自分誌	自分誌の定義と事例
第13回	歩く自然誌	実際の経験によって組み立てる地誌
第14回	画像・映像による地誌	様々な画像や映像を用いた地誌

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞記事をもとに、様々な地域の地誌をまとめる。

自分の成長と共に変化した空間認識の違いについて「自分誌」としてまとめる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・杉谷隆・平井幸弘・松本淳（2005）：『風景の中の自然地理「改訂版」』、古今書院
 ・配布プリント資料

【参考書】

・長谷川典夫(1994)：『地誌学研究－地誌学作成法とその実例』、大明堂

・山本正三・田中真吾・太田 勇（1973）：『世界の自然環境』、大明堂
 ・藤岡謙二郎ほか（1982）：『世界地誌』-改訂増補版-、大明堂
 その他、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト）課題、試験による総合評価。
 平常点3割、課題3割、試験4割とする。
 試験は、最終時限に授業内試験として実施する予定。

【学生の意見等からの気づき】

今までの学生からの意見などをもとに、教材を新たに作成し直した。毎回の講義の結果からも修正していくつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

原則として、毎回、PowerPointや映像資料を活用してわかりやすく説明する。様々な分布図の作成のためのGIS活用法についてもコンピュータを用いて示す。

【その他の重要事項】

本科目は、「地理学」を理解する上で欠かすことのできない「地誌学」を基礎から学ぶ科目であると同時に、卒論に至る重要なステップであるという位置づけのもとに授業内容を構成している。資料の検索・収集法からデータ整理・解析法の基礎、レポート・論文執筆のノウハウも伝授する。こうした知識・技術の習得如何で卒論の質が大きく異なってくるので、前向きな学習への取り組みを期待する。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞自然地理学・水文学・陸水学

＜研究テーマ＞

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GISを用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline (in English)】

Basic knowledge is acquired about the history of "topography science" and the methodology which are the important field as well as "systematic geography" in "geography". The "natural topography" I disqualified for an area in detail all together is made and the basis ability of the "topography" making is acquired.

In "Geography", acquire basic knowledge about the history and methodology of "Regional geography", which is an important field along with "Systematic geography". At the same time, create a "natural magazine" that covers specific areas, and acquire the basic ability to create a "geographical magazine".

Throughout the course, you will be able to acquire basic knowledge about the history, theory, and methods of "geography," which plays an important role in "geography," "geographical concepts," and "geographical research methods." is doing.

In addition, we aim to develop basic "natural magazine" creation ability by creating two "natural magazines" that are instructed along the flow of the lesson and presenting their comments and assignments.

In addition, lectures will be given on data processing, result plotting, thematic map creation, etc., to improve report writing ability and learn the basics of dissertation writing technology. Based on newspaper articles, we will summarize the geographies of various regions.

Summarize the differences in spatial perception that changed with your growth as a "self-magazine". The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Normal score (quick test) assignments, comprehensive evaluation by exams.

Normal points are 30%, tasks are 30%, and exams are 40%.

GEO200BF (地理学 / Geography 200)

地球科学概論 I

糸倉 正展

授業コード：A3412 | 曜日・時限：火3/Tue.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年
備考（履修条件等）：「地球科学概論Ⅰ」の受講者は原則として秋学期授業/Fallの「地球科学概論Ⅱ」も連続して受講し、1年を通じて受講すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球は生きていると言われるが、日本列島に住む我々は特に、地震や火山噴火といった現象を目の当たりにしてそれを実感していることだろう。本講義では「地球」がどのように誕生し、どのような歴史を辿ってきたのか、またどのような理（ことわり）で活動しているのか、そのダイナミクスを固体地球科学の観点から解説する。また地震や津波の予測について説明し、地球科学が社会に貢献できる可能性とその限界についても理解してもらう。

【到達目標】

我々が住む地球がどのように生まれ、我々の祖先となる生物がどのように進化したのか、また潮汐や磁場のような地球規模の現象、プレートテクトニクス理論による地震のメカニズムなど、地球にまつわる様々な事象を理解することを目指す。また普段から地球科学に関するニュースに接し、教科書の範囲を超えた科学の最新事情を知る姿勢を身につける。毎回の授業においてリアクションペーパーや課題レポートを提出することで、授業内容の理解度が評価される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義の形式を取るが、グループワークも行う予定である。グループワークでは与えられたテーマについてディスカッションを行い、その結果をグループごとに発表してもらう。毎回の授業においてリアクションペーパー（講義やグループワークの感想や質問）を提出してもらう。また授業内容に応じた課題の提出を求めることもある。提出されたリアクションペーパーや課題レポートに対する回答は次の授業の冒頭で行い、フィードバックする。また課題に対する補講として14回の授業以外に校外学習（日帰りの現地見学等）も予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義のテーマの説明と評価法などについて説明する。
第2回	宇宙の中の地球	宇宙論の変遷、太陽系の成因論、地球のでき方について説明する。
第3回	地球の構造	地球の形と大きさ、内部の構造などについて、どのように測るか説明する。
第4回	地球に働く力	地球の磁場と潮汐について、そのしくみや地層に残された記録について説明する。
第5回	プレートテクトニクス1	プレートテクトニクスの概念とメカニズムについて説明する。
第6回	プレートテクトニクス2	プレートテクトニクスの研究の歴史について、日本における受容と拒絶を中心に説明する。
第7回	地球誕生からの歴史	地球誕生46億年の歴史を生命の進化とともに説明する。
第8回	地震の基礎1	地震の種類、震度とマグニチュードの違いなどを説明する。
第9回	地震の基礎2	地震のメカニズム、予測に関する様々な観測などを説明する。
第10回	地震の基礎3	地震予知情報に関する説明を行う。
第11回	グループワーク（地震）	地震予測をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。
第12回	津波1	津波発生のしくみ、津波の高さの定義について説明する。
第13回	津波2	過去の津波災害や津波堆積物について説明する。
第14回	グループワーク（津波）	津波災害をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段から宇宙や地球、地震、火山に関する最近の話題を新聞、雑誌、インターネットなど媒体を問わず各自で情報収集し、レポート作成に役立てる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に定めない。関連する書籍や論文の重要なものは適宜紹介する。

【参考書】

西本昌司「改訂新版 地球のはじまりからダイジェスト-地球のしくみと生命進化の46億年」合同出版
http://www.godo-shuppan.co.jp/products/detail.php?product_id=487
泊次郎「プレートテクトニクスの拒絶と受容 戦後日本の地球科学史」東京大学出版会
<http://www.utp.or.jp/bd/978-4-13-060307-2.html>
糸倉正展「巨大地震をほり起こす」少年写真新聞社
<http://www.schoolpress.co.jp/s-293/>
大木聖子「地球の声に耳をすませて」くもん出版
<http://kumonshuppan.com/ehon/ehon-syousai/?code=34518>

【成績評価の方法と基準】

1・毎回提出してもらうリアクションペーパーや課題レポートの内容（90%）。
2・教員への積極的な質問等、授業に取り組む姿勢（10%）。
全14回（予定）の授業のうち2/3以上の出席およびレポート提出をした者のみを評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークでは積極的に参加する者とそうでない者の差があり、前者の負担が大きくなるという意見があった。そこでなるべく少人数でそれぞれの顔が見える形にすることや、ディスカッションテーマもなるべく広く関心が持てる内容を設定することを目指している。

【学生が準備すべき機器他】

授業中にアンケート（クリッカー）を行うので、ノートPCやタブレット端末、スマートフォンなど学習支援システムに接続できる機器を持参すること。

【その他の重要事項】

この授業はグループワークの班分けの都合から受講定員は80名程度とし、第1回の授業において80名以上の受講希望者がいる場合は選抜を行う。選抜方法は学習支援システムを通じたレポートの提出により採点を行い、可否は第2回授業までに教員より連絡する。また地球科学概論Ⅰの受講者は原則として秋学期の地球科学概論Ⅱも連続して受講し、1年を通じて受講すること。本講義の教員は地球科学専門の国立研究機関に所属し、地震や津波の調査業務、地質図の作成業務などに携わっている。また政府機関や自治体等において地震防災に関する行政施策にも関わっている。これらの実務経験を踏まえ、単なる学術的な知識だけではなく、それを活かした地球科学の社会貢献に関わる議論まで行う。教員は毎週火曜日のみ学内におり、授業時以外でコンタクトを取りたい場合はメールにて受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】
The ground motion of earthquakes and volcanic eruptions in the Japan Islands are giving a real sense of the living earth. This course explains how the earth has appeared and evolution, and how the earth's actions work from the point of view of solid earth science. Also, this course explains the forecast of earthquakes and tsunamis and ask them to understand the possibilities and limitations of earth science to contribute to society.

【Learning Objective】

The goal of this course is to understand how the Earth we live on was created, how our ancestors evolved, global phenomena such as tides and magnetic fields, earthquakes and volcanic eruptions based on the theory of plate tectonics, and various other events related to the Earth. In addition, students will be exposed to news related to earth science regularly, and acquire an attitude of knowing the latest situation in science beyond the scope of the textbook. Students will be evaluated on their understanding of the class content by submitting reaction papers and assignment reports every week.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to collect information on recent topics related to space, earth, earthquakes, and volcanoes, regardless of media such as newspapers, magazines, and the Internet, and use this information to prepare reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policies】

1. Content of reaction papers and assignment reports being submitted each time (90%).
2. Attitude toward the class, including active questioning of the instructor (10%).
Only those who attend and submit a report more than 2/3 of the 14 classes (scheduled) will be evaluated.

GEO200BF（地理学 / Geography 200）

地球科学概論Ⅱ

穴倉 正展

授業コード：A3413 | 曜日・時限：火3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

備考（履修条件等）：この授業は原則として春学期授業/Springの「地球科学概論Ⅰ」から連続して受講するもの以外は受講を認めない。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球表層の気圏、水圏・地圏それぞれで生じる現象は、我々人類に様々な影響を与えている。地殻変動や火山活動とそれが生み出す資源、また地球規模の気候変動やそれに伴うローカルな侵食・堆積などは、我々に災害をもたらすとともに、様々な恵みをもたらしている。本講義では地球科学概論Ⅰにおいて学んだ知識を基礎として、これらの自然現象のメカニズムを説明するとともに、そこから生じる災害とそれに対する課題について議論をしていく。

【到達目標】

我々が目にする山や川、海岸の景色は、地球内部と外部の両面からの作用や人為的な作用によって形づくられていることを理解し、地球のシステムを知って自然を見る目を養うことで、地学現象と自然災害との関係を理解することを目標とする。また普段から自然災害や防災対策に関するニュースに接してもらい、地球科学と社会との関係を考える姿勢を身につける。毎回の授業において出される課題に答え、また感想・質問を書いて提出することで、授業内容の理解度が評価され、論理的な思考能力と表現能力が評価される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義の形式を取るが、グループワークも行う予定である。グループワークでは与えられたテーマについてディスカッションを行い、その結果をグループごとに発表してもらう。毎回の授業においてリアクションペーパー（講義やグループワークの感想や質問）を提出してもらう。また授業内容に応じた課題の提出を求めることもある。

提出されたリアクションペーパーや課題レポートに対する回答は次の授業の冒頭で行い、フィードバックする。また課題に対する補講として14回の授業以外に校外学習（日帰りの現地見学等）も予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地殻の様々な動き 1	最初に秋学期の講義全体の内容について説明。 後半は観測でわかる緩急様々な様式の地殻変動を紹介する。
第2回	地殻の様々な動き 2	地形や生物に記録された過去の地殻変動を紹介する。
第3回	火山 1	火山の種類や噴火メカニズムなどについて説明する。
第4回	火山 2	破滅的巨大大噴火や火山災害に関する説明を行う。
第5回	グループワーク（火山）	火山災害をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。
第6回	大気と海洋	大気と海洋の構造、表層や深層の循環などについて説明する。
第7回	気候変動 1	10万年スケールで繰り返してきた氷期と間氷期の歴史とそのメカニズムについて説明する。
第8回	気候変動 2	歴史的な気候変動や現在の地球温暖化について考える。
第9回	グループワーク（気候変動）	気候変動をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。
第10回	侵食と堆積 1（山・斜面）	地球表層で生じる外的作用としておもに山の侵食を司る斜面移動について説明。
第11回	侵食と堆積 2（河川）	地球表層で生じる外的作用としておもに川の侵食と堆積および水害について説明。
第12回	侵食と堆積 3（海岸・海底）	地球表層で生じる外的作用として海岸の侵食・堆積について説明。
第13回	グループワーク（気象災害）	気象災害をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。

第14回 地球科学と防災教育

地球科学の防災教育上の意義と社会的貢献について説明。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

津波、地殻変動、気候変動、水害・土砂災害、資源などに関する最近の話題を新聞、雑誌、インターネットなど媒体を問わず各自で情報収集し、そこから課題を抽出して自身の考えをまとめるクセをつけること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に定めない。関連する重要な書籍や論文は講義中に紹介する。

【参考書】

杉村 新「大地の動きを探る」岩波書店

<https://www.iwanami.co.jp/BOOKS/11/7/1151980.html>

穴倉正展「巨大地震をほり起こす」少年写真新聞社

<http://www.schoolpress.co.jp/s-293/>

矢守克也「巨大大災害のリスク・コミュニケーション 災害情報の新しいかたち」ミネルヴァ書房

<http://www.minervashobo.co.jp/book/b120801.html>

【成績評価の方法と基準】

1・毎回提出してもらうリアクションペーパーや課題レポートの内容（90%）。
2・教員への積極的な質問等、授業に取り組む姿勢（10%）。
全14回（予定）の授業のうち2/3以上の出席とレポート提出をした者のみを評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の私語が気になるという意見があった。注意喚起を徹底したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業中にアンケート（クリッカー）を行うので、ノートPCやタブレット端末、スマートフォンなど学習支援システムに接続できる機器を持参すること。

【その他の重要事項】

この授業は原則として春学期の地球科学概論Ⅰから連続して受講するもの以外は受講を認めない。

本講義の教員は地球科学専門の国立研究機関に所属し、地震や津波の調査業務、地質図の作成業務などに携わっている。また政府機関や自治体等において地震防災に関する行政施策にも関わっている。これらの実務経験を踏まえ、単なる学術的な知識だけではなく、それを活かした地球科学の社会貢献に関わる議論まで行う。

教員は毎週火曜日のみ学内におり、授業時以外でコンタクトを取りたい場合はメールにて受け付ける。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Phenomena occurring in the atmosphere, hydrosphere, and geosphere of the earth surface give human various influences. Crustal deformation, volcanic activity and related resources, global climate change, and the accompanying local erosion and sedimentation bring us not only disasters but also various blessings. Based on the knowledge of the lecture in the spring semester, this lecture explains the mechanism of such phenomena and also discusses associated disasters and their issues.

[Learning Objective]

The goal of this course is to help students understand that the mountains, rivers, and coastal landscapes we see are shaped by both internal and external forces, as well as by human actions, and to help them understand the relationship between geological phenomena and natural disasters by developing an understanding of the Earth's systems and an eye for nature. In addition, students will be exposed to news about natural disasters and disaster prevention measures regularly and will learn to think about the relationship between earth science and society. Students will be required to answer the questions and write down their impressions and questions in each class to evaluate their understanding of the class content, as well as their ability to think logically and express themselves.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to collect information on recent topics related to volcanic eruptions, crustal movement, climate change, floods, and landslides, regardless of media such as newspapers, magazines, and the Internet. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policies]

1. Content of reaction papers and assignment reports being submitted each time (90%).
2. Attitude toward the class, including active questioning of the instructor (10%).

Only those who attend and submit a report more than 2/3 of the 14 classes (scheduled) will be evaluated.

GEO300BF（地理学 / Geography 300）

地質・岩石学及び実験

福與 直人

授業コード：A3416 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球表層を構成する岩石の成因や特徴、およびそれらの堆積環境との関連について、標本を直接観察しながら学び、理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

- 1）地球科学の基礎を岩石学や堆積学と関連づけて理解し、自分の言葉で説明することができる
- 2）代表的な岩石の成因や分類を理解し、標本観察を通じて主要な岩石を識別できる
- 3）堆積学の基礎を理解し、堆積構造からおおよその堆積環境を推定することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めつつ、授業内で標本観察やスケッチ等の簡単な実習を授業内課題として行います。課題へのフィードバックは次回の授業で行います。毎回の授業の最後にコメントシート（感想、質問など）を提出してもらいます。次回の授業開始時に、前回提出されたコメントシートからいくつか取り上げ、コメントに対するフォローを行います。コメントシートや時事などに応じて、各テーマから若干異なる内容を授業内で展開する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要と注意事項の説明。地質学・岩石学の基礎について説明する。
2	地球の構成	地球の層構造、地球内部を調べる方法、地殻の化学組成などについて概説する。
3	岩石の成因と区分、造岩鉱物の基礎	火成岩・堆積岩・変成岩の区分と特徴、造岩鉱物について概説する。
4	火成岩（1）	火成岩の種類や成因について概説する。
5	火成岩（2）	火成岩の種類や成因について、標本を用いて観察する。
6	堆積岩（1）	堆積岩の種類や成因について概説する。
7	堆積岩（2）	堆積岩の種類や成因について、標本を用いて観察する。
8	変成岩（1）	変成岩の種類や成因について概説する。
9	変成岩（2）	変成岩の種類や成因について、標本を用いて観察する。
10	堆積学の基礎	堆積構造の基礎について概説する。
11	堆積構造（1）	碎屑性粒子によって構成される堆積物について概説する。
12	堆積構造（2）	生物（化学）的作用で形成される堆積物について概説する。
13	地層観察実習	大学近隣の地層観察あるいは剥ぎ取り標本の観察を行う予定。
14	最終試験とまとめ	最終試験を行い、授業の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

岩石学や地質学を中心とした地質学や地球科学をめぐる動向や社会的な応用に日々関心を持ち、新聞や雑誌など様々な媒体からの情報収集に努めてください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

以下の項目に従い、評価を行います。

平常点：10 %

リフレクションペーパーによる評価：40 %

期末試験：50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

標本観察やスケッチ等を行う際、色鉛筆等の持参を求める場合があります。

【Outline (in English)】

Course Outline

This course aims to develop a deeper understanding of the geological and petrological characteristics of the Earth's crust by directly handling rock and mineral specimens.

Learning Objectives

By the end of this course, students will be able to:

Comprehend the basic principles of Earth sciences and explain them in relation to petrology and sedimentology.

Understand the formation mechanisms and classification of major rock types, and identify representative rock specimens.

Apply fundamental sedimentological concepts to interpret depositional structures and infer past depositional environments.

Learning activities outside of classroom

Students are encouraged to stay informed about trends in geology and Earth sciences, particularly in petrology and geological applications in society. In addition to the textbook, students should actively gather information from newspapers, magazines, and other relevant sources.

The standard time for preparation and review for this course is two hours per session.

Grading Criteria

Evaluation will be based on the following criteria:

Class participation: 10%

Reflection papers submitted after each session: 40%

Final exam: 50%

GEO200BF（地理学 / Geography 200）

自然環境論

福與 直人

授業コード：A3417 | 曜日・時限：月4/Mon.4
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模および地域的な環境変動に焦点を当て、自然環境に関する基礎的な知識を学ぶことを目的とします。過去の環境変動から現代の環境問題までを縛らずに抽出し、持続可能な未来に向けた課題を考察します。これにより、現代社会における環境問題を多角的に理解する能力を養います。

【到達目標】

過去の地球環境変動についての基礎知識を理解できる。
 現代の環境問題とその背景を説明できる。
 持続可能な社会に向けた課題について論述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進め、毎回スライドを投影します。毎回の授業の最後にコメントシート（感想、質問など）を提出してもらいます。次回の授業開始時に、前回提出されたコメントシートからいくつか取り上げ、コメントに対するフォローを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、計画、評価方法等を説明する。
2	地球環境変動の基礎	地球環境の変動要因とその影響について概説する。
3	地球の物質循環	地球環境における物質循環について概説する。
4	過去の環境変動の復元方法	過去の地球環境をどのように復元するのか学ぶ。
5	世界の環境変動(1)	陸域を中心とした過去の地球環境の変動について学ぶ。
6	世界の環境変動(2)	海域を中心とした過去の地球環境の変動について学ぶ。
7	日本列島の環境変動	日本列島における過去の環境変動について学ぶ。
8	環境変動と人類社会(1)	環境変動と人類社会との関わりについて、世界史的な観点から学ぶ。
9	環境変動と人類社会(2)	環境変動と人類社会との関わりについて、日本的な観点から学ぶ。
10	人的要因による環境変動	近代以降の事例を中心に、人為的に引き起こされた環境変動について学ぶ。
11	現代の環境変動	現在も進行している環境変動について学ぶ。
12	地球環境の将来予測と対策	地球温暖化を中心に、環境変動の将来予測とその対策について学ぶ。
13	人新世とはなにか	「人新世」と呼ばれる時代区分について概観する。
14	最終試験とまとめ	最終試験を行い、授業の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの授業内容を復習し、授業で習った内容に関連することを自ら図書館やインターネットで自分なりに調べて、理解を深める努力が必要です。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

以下の項目に従い、評価を行います。

平常点：10%

毎回のリフレクションペーパーによる評価：40%

期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

文系理系問わず、また高校時代に地理や地学を履修していない学生も歓迎します。

【Outline (in English)】

Course Outline

This course focuses on global and regional environmental changes, providing students with foundational knowledge about the natural environment. By examining past environmental changes and modern environmental issues, students will develop a multifaceted understanding of current environmental challenges and explore pathways toward a sustainable future.

Learning Objectives

By the end of this course, students should be able to:

Understand the fundamental knowledge of past global environmental changes.

Explain the background and causes of current environmental problems.

Critically analyze and discuss challenges for achieving a sustainable society.

Learning Activities Outside of Classroom

Before and after each class, students are expected to review the course materials and independently research topics related to the lecture content using library resources or the internet. Students should dedicate at least 2 hours of preparation and review for each class.

Grading Criteria/Policy

The final grade will be calculated as follows:

Class participation: 10%

Reflection papers: 40%

Final examination: 50%

GEO200BF（地理学 / Geography 200）

地形学及び実験 I

前 杳 英明

授業コード：A3418 | 曜日・時限：火2/Tue.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学に関連する諸分野のうち、地形学に関する基本的な知識、考え方、研究成果等について、体系的に解説する。地形形成過程について理解することにより、土砂災害や地震災害などについてその本質を理解することができ、地域防災のリーダー的役割を担えるようになる。

【到達目標】

いつも漫然と見ていたなんでもない地形が、本授業を受講することにより、ダイナミックな地形形成過程を、風景の背後に想像できるようになること、また地形の発達、変化を地質学的タイムスケールで考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

地形とは何かについて地球規模で確認することからはじめ、地形を形成する作用ごとに、地形形成の実例を紹介していく。授業の過程で地図や空中写真を用いた小作業を課すことがある。本授業では主に「外作用」とよばれる太陽の放射エネルギーを源とした地形形成作用について取り上げる。受講希望学生は第1回授業開始前から学習支援システムを使える状態にしておく必要がある。その理由は毎回授業の数日前までに授業用のプレゼンを教材としてあげるの、それを利用して予習復習を行ってもらいたい。課題（質問事項）等を課した場合は学習支援システムにて回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地形と生活（導入）	本授業全体の概要。地形と我々の暮らし。日本の地形・地質学の特徴、地形学と自然地理学の関係。
第2回	地形形成に関する序説	地球の構造、地球規模での地形の意味、地形のスケール、地形の発達、地形を変化させるエネルギー
第3回	風化作用	風化作用と地形形成における意味
第4回	マス・ムーブメントと斜面	さまざまな集塊移動のメカニズムについて。斜面の基本分類。
第5回	河川による作用	河川の形成、侵食・運搬・堆積作用の基本
第6回	河川地形	侵食作用、堆積作用によって形成される地形
第7回	海岸における作用	波の種類。波の作用、沿岸流など海岸で地形を変化させる作用
第8回	海岸地形	海岸でのさまざまな堆積地形、侵食地形について
第9回	風がつくる地形	風の作用と地形、乾燥地形
第10回	周氷河作用と周氷河地形	周氷河作用によるさまざまなスケールの地形
第11回	氷河作用と氷河地形	氷河の形成と流動。氷河が地形を変化させるメカニズムや地形、および第四紀の環境変動
第12回	カルスト地形	石灰岩特有のカルスト地形の特徴と形成メカニズム
第13回	人間の活動と地形変化	人間の活動による地形変化について、地形災害という観点からも解説する
第14回	春学期授業の振り返り	春学期授業の振り返りとして、確認のための試験などを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本や世界の独特な地形、美しい地形に興味を持ち、参考書、写真集、DVD教材等を見ることが、自ら授業への動機付けを行うこと。質問等は学習支援システムを通して行う。学習支援システムには毎回授業で使用した資料PDFをアップする。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】

『地形学入門』A.L.ブルーム、榎根 勇訳、1970年
『写真と図で見る地形学』（復刻版）太田陽子ほか、東京大学出版会、2007年
『発達史地形学』貝塚爽平、東京大学出版会、1998年
『日本列島の地形学』太田陽子ほか、東京大学出版会、2010年
『東京の自然史』貝塚爽平、講談社学術文庫、2011年

『日本の地形』貝塚爽平、岩波新書、1977年
『建設技術者のための地形図読図入門1～4巻』鈴木隆介、古今書院、1997～
『対話で学ぶ江戸東京・横浜の地形』松田磐余、之潮、2013
『地形学』松倉公憲、朝倉書店、2021

【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)+小テスト(30%)で判断する。全回出席を原則とする。公欠等で欠席するばあいでも開講回数2/3以上の出席しないと評価の対象としない。14回授業ならば10回以上の出席が必須。第1回授業からカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進度を調整し、シラバス通り消化できるようにする。

【担当教員の専門分野】

＜専門領域＞
自然地理学、(変動)地形学、第四紀学
＜研究テーマ＞
プレート沈み込み帯における地震性地殻変動に関する地形・地質学的研究、新生代氷床変動に関する地形・地質学的研究、環境変化と人間社会に関する自然地理学的研究
＜主要研究業績＞
前杳英明ほか（2005）：沈み込み帯沿岸の地殻変動を記録する古潮位計としての完新世暖温帯石灰岩に関する予察的研究。地理科学, vol.60-3, pp.136-142.
Maemoku, H. et.al. (1997) : Stratigraphy of the Late Quaternary raised beach deposits in the northern part of Langhovde, Lutzow-Holm Bay, East Antarctica. The Proceedings of NIPR Symposium Antarctic Geoscience, 10, 178-186.
Maemoku, H. et.al. (2012) Geomorphological constraints on the Ghaggar River regime during the Mature Harappan period, in Climates, Landscapes, and Civilizations, Geophys. Monogr. Ser., vol. 198, edited by L. Giosan et al., 97- 106, AGU,

【Outline (in English)】

The aim of this course is to get fundamental knowledge of geomorphology. The goals of this course are to understand landform processes and to recognize geological time scale. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (30%) and term-end examination (70%).

GEO200BF（地理学 / Geography 200）

地形学及び実験Ⅱ

前 杳 英明

授業コード：A3419 | 曜日・時限：火2/Tue.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学に関連する諸分野のうち、地形学に関する基本的な知識や考え方、研究成果等について、体系的に解説する。

【到達目標】

いつも漠然と見ていたなんでもない地形が、本授業を受講することにより、ダイナミックな地形形成過程をその背後に想像できるようになること、また地形と災害（特に内作用による）の関係を理解し、地形・地質学的タイムスケールで考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

最近の地球科学の成果をまず最初に概説し、そこから地球内部の構造が地球表面の形態とどのような関係にあるのかを考えていく。授業の過程で地図や空中写真を用いた小作業を課すことがある。本授業では主に「内作用」とよばれる地球内部の熱エネルギーを源とした地形形成作用と、地球環境変動による地形変化への影響について取り上げる。受講希望学生は第1回授業開始前から学習支援システムを使える状態にしておく必要がある。その理由は毎回授業の数日前までに授業用のプレゼンを教材としてあげるの、それを利用して予習復習を行ってもらいたい。課題（質問事項）等を課した場合は学習支援システムにて回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プレートテクトニクスと大地形（1）	プレートテクトニクスと大陸の配置、プレリウムテクトニクスの研究を紹介する。地形のスケールと発達。
第2回	プレートテクトニクスと大地形（2）	内作用の種類、変動地形と変動帯の研究を紹介する。曲隆、曲降運動と山地の地形などを紹介する。日本の地形と地質の特徴についてふれる。
第3回	プレートテクトニクスと大地形（3）	大地形とプレートテクトニクス、資源との関係などについて
第4回	断層変位地形	断層、褶曲、撓曲などによる変動地形の研究を紹介する
第5回	活断層と地震	地震の発生と断層運動の研究を紹介する
第6回	津波の原理と過去の津波	津波の原理と堆積物の研究を紹介する。古津波研究の紹介も行う。
第7回	火山の原理と火山地形	火山地形の形成過程と噴火様式、マグマの関係。地形と自然災害。
第8回	気候変動と氷河性海水準変動	氷河性海水準変動の理論の研究を紹介する。第四紀の環境変動。
第9回	氷河性海水準変動と海成段丘	氷河性海水準変動と海成段丘の形成過程について
第10回	最後の海進と沖積平野	沖積平野の地下構造と後氷期海進の関係について
第11回	地震性地殻変動と過去の巨大地震	海成段丘の変形と広域的地殻変動や地震性地殻変動の研究を紹介する。地形と地震災害。
第12回	アイソスタシーによる海岸地形の変動	氷河性アイソスタシーによる隆起海岸地形と大陸氷床変動の研究を紹介する
第13回	火山灰・年代測定と地形研究	地形研究に大きな進歩をもたらしたテフラ研究や年代測定法の概説の概要
第14回	秋学期授業の振り返り	秋学期授業の振り返りとして、目的到達の確認として試験等を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムに授業で使ったプレゼンや解説をアップするので、予習・復習に利用してほしい。日本や世界の独特な地形、美しい地形に興味を持ち、参考書、写真集、DVD教材等を見ることによって、自ら授業への動機付けを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントもしくはスライドPDFを配布する。

【参考書】

『変動地形を探るⅠ・Ⅱ』太田陽子、古今書院、1999年

『環太平洋の自然史』米倉伸之、古今書院、2000年
『地震と断層』島崎邦彦/松田時彦、東大出版会、1994年
『写真でみる火山の自然史』町田洋/白尾元理、東大出版会、1998年
『プレート収束帯のテクトニクス学』木村学、東大出版会、2002年

【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)+小テスト(30%)で判断する。判断する。全回出席を原則とする。公欠等で欠やむを得ず欠席するばあいでも開講回数の2/3以上の出席しないと評価の対象としない。14回授業ならば10回以上の出席が必須。第1回授業からカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス通りの授業内容を完遂できるよう時間配分を熟慮する。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

自然地理学、（変動）地形学、第四紀学

＜研究テーマ＞

プレート沈み込み帯における地震性地殻変動に関する地形・地質学的研究、新生代氷床変動に関する地形・地質学的研究、環境変化と人間社会に関する自然地理学的研究

＜主要研究業績＞

前杳英明ほか（2005）：沈み込み帯沿岸の地殻変動を記録する古潮位計としての完新世暖温帯石灰岩に関する予察的研究。地理科学, vol.60-3, pp.136-142.
Maemoku, H. et.al. (1997) : Stratigraphy of the Late Quaternary raised beach deposits in the northern part of Langhovde, Lutzow-Holm Bay, East Antarctica. The Proceedings of NIPR Symposium Antarctic Geoscience, 10, 178-186.

Maemoku, H. et.al. (2012) Geomorphological constraints on the Ghaggar River regime during the Mature Harappan period, in Climates, Landscapes, and Civilizations, Geophys. Monogr. Ser., vol. 198, edited by L. Giosan et al., 97-106, AGU, Washington, D. C.

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge on fundamental geomorphology II.

At the end of the course, students are expected to imagine dynamic landform processes and to recognize geological timescale.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process. Mid-term report (30%) and term-end examination (70%)..

GEO200BF（地理学 / Geography 200）

生物・土壌地理学及び実験 I

小川 滋之

授業コード：A3420 | 曜日・時限：金 1/Fri.1
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アジア、ヨーロッパ、オセアニアの寒帯から熱帯、乾燥帯など様々な地域の動植物を取り上げ、その分布や生態を気候や地質、地形、人間生活などとの関係から考える。
世界中には植物が見られない地域はほとんどなく、どの地域でも何かしらの植物が景観の一部に含まれる。ただ見ていれば“植物”で終わるが、それぞれ地域ごとに特徴が異なる。こうしたことから、たとえば旅行でどこかの地域を訪れた時に、どんな植物が分布するのか、なぜ、そこに分布しているのかを少しでも考えられるようになれば観光地など地域への理解も深まる。このように植物から地域を理解する考え方を学ぶのがこの授業の目的である。

【到達目標】

- (1) 世界には様々な動植物が分布することを理解すること。
- (2) その地域の気候、地質、地形などから動植物の分布を考えられるようになること、あるいはその分布から気候、地質、地形などが考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義のみではなく、映像視聴や観察、実習を含む内容である。必要に応じて受講者から意見を集め、ディスカッションも交えて進行する。毎回の授業は、①前回復習と②質問や感想の紹介から始め、③今日の内容、最後に④次回予告と⑤小レポートという流れで行う。②質問や感想の紹介は、前回の授業に関する質問や感想を時間が許す限り答える。⑤小レポートは、授業内容に関連したものを出題し、授業終了までに解答する方法で行う。野外実習は、講義で紹介した植生分布を実際に観察し、現地での成因についてディスカッションをしてもらう。
授業は対面での実施を基本とするが、その時の状況に応じて対面とオンラインの併用、オンラインのみに変更する。オンライン授業は、ミーティングアプリ Zoom を用い、実験実習の方法も変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	動植物の地理学とはどのような分野なのか。
第2回	動植物の分布と生態	動植物の分布に影響を及ぼす要因について解説する。
第3回	アジアの植生① 極東ロシアと北海道との関係	北海道の植生の成り立ちから北東アジアの植生分布について解説する。
第4回	アジアの植生② 朝鮮半島と本州との関係	本州にみられる冷温帯林の特徴、世界的にも珍しいブナの純林が生まれた背景を解説する。
第5回	野外実習（変更あり）	東京近郊において植生分布を左右する要因を観察する。
第6回	アジアの植生③ 屋久島	縄文杉がみられる森林の成り立ちを気候と花崗岩による地質から解説する。
第7回	アジアの植生④ 沖縄島、台湾、香港	暖温帯と亜熱帯の常緑広葉樹林の違いと島嶼における植生分布の特徴を解説する。
第8回	アジアの植生⑤ 東南アジア	熱帯林の種類と特徴、フタバガキ科植物を中心に構成される森林の特徴を解説する。
第9回	ヨーロッパの植生① 北欧フィンランドとスコットランド	北欧の亜寒帯針葉樹林を事例のもとに、北東アジアの植生分布との関係を解説する。
第10回	ヨーロッパの植生② 自然植生とガーデン文化との関係	イングリッシュガーデンを事例に、ガーデン文化が生まれた背景と構造的な特徴を解説する。
第11回	ヨーロッパの植生③ 南フランス	地中海沿岸地域の植生分布と観光地の景観を解説する。
第12回	ヨーロッパの植生④ スペイン領カナリア諸島	大西洋のガラパゴスといわれる島を事例に、海洋島と乾燥地域の植生分布について解説する。
第13回	オセアニアの植生 ニュージーランド	脊梁山脈によって異なる植生景観と外来種問題。温帯多雨林と乾性低木林の特徴を解説する。
第14回	まとめ	重要ポイントを再確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の最後に次回内容の予告をする。次回、どのような地域を扱うのか事前に調べておくこと。準備学習・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用せず。毎回の授業で必要な資料を配布する。

【参考書】

地図帳があると役立つ。参考文献や資料は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100点満点 + α （小レポートなど、50点満点）で評価する。
小レポートは、授業中にその回の内容に関わるテーマを出題して学習支援システムから提出するという方法で行う。

【学生の意見等からの気づき】

小レポートの課題については次の授業で解説する。質問や要望については可能な限り対応する。

【学生が準備すべき機器他】

必要があれば授業中に指示する。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：毎回の授業終了後の教室やメールでも随時対応する。
野外実習は4月下旬に行う（変更あり）。

【Outline (in English)】

This class introduces basic thinking of vegetation geography. Objectives are to understand the following. (1) Factors affecting the distribution pattern of vegetation in polar, continental, temperate, tropical and dry climates of Asia, Europe and Oceania. (2) Relationship between vegetation, animal, human life and culture.

Learning activities outside of classroom, before each class meeting, students will be expected to have research the relevant region from the text and map book. Your required study time is at least four hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policy, your overall grade in the class will be decided based on the following. only of Term-end examination or total of Term-end examination and in class contribution.

GEO200BF（地理学 / Geography 200）

生物・土壌地理学及び実験Ⅱ

小川 滋之

授業コード：A3421 | 曜日・時限：金 1/Fri.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は土壌地理学に関わる内容を扱う。前半は土壌の性質や構造、生成という土壌の基礎を学び、世界中にみられる土壌の分布と成因について考える。後半は、野菜種子との関係、有機農業、アジアの伝統農業など、比較的身近な農業分野における土壌の特徴を事例に学ぶ。土壌は、その地域の気候や地質、地形、植生などの影響を強く受けて成立したものであり、人間の生活や文化にも密接に関係しているといえる。しかし普段生活する中ではあまりなじみのない分野でもある。授業を通して、人間が生活する上で欠かせないものだとすることを理解してもらうのが目的である。

【到達目標】

- (1) 土壌の必要性について考えられるようになる
- (2) 土壌はすべて同じではなく様々な種類があることを理解する
- (3) 何気なく食する野菜が生まれた背景を土壌との関係から理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義のみではなく、映像視聴や観察、実験実習を含む内容である。必要に応じて受講者から意見を集め、ディスカッションも交えて進行する。毎回の授業は、①前回復習と②質問や感想の紹介から始め、③今日の内容、最後に④次回予告と⑤小レポートという流れで行う。②質問や感想の紹介は、前回の授業に関する質問や感想を時間が許す限り答える。⑤小レポートは、授業内容に関連したものを課題とし、授業終了までに解答する方法で行う。実験実習は、講義で紹介した土壌を実際に観察し、その成因や環境についてディスカッションをしてもらう。

授業は対面での実施を基本とするが、その時の状況に応じて対面とオンラインの併用、オンラインのみに変更する。対面での授業が難しい場合は、ミーティングアプリ Zoom によるオンラインでの講義を行い、実験実習の方法も変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	土壌地理学とはどのような分野なのか、講義の内容と目標を紹介。
第2回	土壌とは何か①	土壌の性質と構造。
第3回	土壌とは何か②	土壌の生成。土壌はどのように生まれるのか。
第4回	土壌とは何か③（実験実習1）	室内で土壌鉱物を観察。
第5回	土壌の分布①	世界にみられる土壌分布とその分類方法とは。
第6回	土壌の分布②	日本列島の高山帯から温帯地域にみられる土壌分布。
第7回	土壌の分布③	日本列島の亜熱帯地域にみられる土壌分布。
第8回	土壌と農業①	農地の土壌環境、土壌の状態を診断する方法とは。
第9回	土壌と農業②	土壌と野菜種子との関係。
第10回	土壌と農業③	土壌にやさしい有機農業とは。
第11回	土壌と農業④（実験実習2）	様々な環境下の土壌を診断。
第12回	野菜の地理学①	アジアの伝統農業とは。東南アジア山岳少数民族の事例から解説。
第13回	野菜の地理学②	野菜は、どのように生まれて、どこから来たのか。野菜の伝播について解説。
第14回	まとめ	重要ポイントを再確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の最後に次回の内容について予告を行う。事前に授業テーマに関連する項目や対象地域について調べておくこと。準備学習・復習時間は、4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。毎回の授業で必要な資料を配布する。

【参考書】

適宜、授業中に参考文献や資料を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100点満点 + a （小レポート等、50点満点）で評価する。小レポートは、毎回の内容に関わるテーマを講義中に学習支援システムで提出するという方法で行う。

【学生の意見等からの気づき】

小レポートの課題については次の授業で解説する。質問や要望については可能な限り対応する。

【学生が準備すべき機器他】

必要があれば授業内で指示する。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：毎回の授業終了後の教室やメールでも随時対応する。実験実習：10月と11月に地理学実験室あるいは野外で行うことを予定している。

【Outline (in English)】

This class introduces basic thinking of soil geography.

Objectives are to understand the following. (1) Soil basics. (2) Soil distribution and factors influencing the soil pattern. (3) Relationship between agricultural soils and crops.

Learning activities outside of classroom, before each class meeting, students will be expected to have research the relevant word and region from the text and map book. Your required study time is at least four hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policy, your overall grade in the class will be decided based on the following. only of Term-end examination or total of Term-end examination and in class contribution.

GEO200BF（地理学 / Geography 200）

気候・気象学及び実験 I

山口 隆子

授業コード：A3422 | 曜日・時限：金2/Fri.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候学・気象学の基礎知識と日本の気候について学びます。

【到達目標】

気候・気象の基礎的な仕組みを学ぶとともに、日本の身近な気候を中心に学ぶことにより、気候学的な観点から大気現象をとらえることが出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

簡単な実験や実習などを適宜交えて講義を進行させます。リアクションペーパーや中間レポートについては、コメントを付けて返却します。対面での講義が実施できない場合、ZOOMによるオンライン授業になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	気候学とは？	気候の定義と時空間スケール（大気候・中気候・小気候）
第2回	気候の表現方法	気候要素と気候因子について
第3回	気温	気温の日変化と地面の熱収支
第4回	気圧	気圧とは何か
第5回	風	風が吹く仕組み
第6回	雲と降水	雨が降る仕組み
第7回	日本の気候の特徴	4つの気団と気圧配置（総観気候学）、 気温、降水量、日照時間分布
第8回	日本の気候区分と気候誌	経験的気候区分と成因的気候区分
第9回	沿岸の気候	沿岸と内陸、海陸風
第10回	都市気候	ヒートアイランド現象
第11回	盆地の気候	盆地の気温と風
第12回	山岳の気候	山岳の気温と斜面温暖帯
第13回	局地風と気候景観	気象災害を引き起こす強風とフェーン現象
第14回	まとめ	春学期のまとめと筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

仁科淳司（2019）：『やさしい気候学 第4版』。古今書院、144p。¥2,600＋税
 今井明子（2022）：『面白いほどスッキリわかる！世界の気候と天気のおもしろい』。産業編集センター、208p。¥1,600＋税
 稲津 将（2022）：『気象学の教科書』。成山堂書店、203p。¥2,200＋税

【成績評価の方法と基準】

小テスト・筆記試験：70％、課題：30％

【学生の意見等からの気づき】

講義資料は学習支援システムに掲載する。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料を学習支援システムで配布するため、PCもしくはタブレットを用意することが望ましい。

【その他の重要事項】

「自然地理学演習A（Ⅰ）（Ⅱ）」、「地学実験（2）」を受講希望する学生は、本講義を2年次で履修することが望ましい。なお、本科目「Ⅱ」の受講にはその内容理解の点から、この「Ⅰ」の履修を望む。なお、実験等があるため履修上限人数は48名とし、初回授業で選抜します。地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、気候変動等の取組について講義していきます。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic knowledge of climatology and meteorology, and climate of Japan to students taking this course. The goals of this course are to understand atmospheric phenomena from a climatological perspective.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. In addition to daily weather forecasts, please consciously seek out information about climate and weather, including seasonal phenomena. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report(30%), and term-end examination(70%).

GEO200BF（地理学 / Geography 200）

気候・気象学及び実験Ⅱ

山口 隆子

授業コード：A3423 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候学・気象学の基礎知識と世界の気候について学びます。

【到達目標】

気候・気象の基礎的な仕組みを学ぶとともに、大気大循環をはじめとした世界の気候を中心に学ぶことにより、地球温暖化などの今日的課題を理解出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

簡単な実験や実習などを適宜交えて講義を進行させます。リアクションペーパーや中間レポートは、コメントを付けて返却します。対面での講義が実施できない場合、ZOOMによるオンライン授業になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	気候を身近にとらえる（導入）	本授業全体の概要。気候に関する博物館、科学館。
第2回	大気大循環	大気大循環とは何か
第3回	世界の気圧分布、地上風系、海流	気圧分布、季節風、風成循環、熱塩循環
第4回	世界の気温分布	地球の放射収支から考える
第5回	世界の降水量分布	世界の水収支
第6回	世界の気候区分	様々な気候区分
第7回	世界の気候景観	気候帯ごとの気候景観
第8回	異常気象	エルニーニョとラニーニャを事例として
第9回	地球温暖化（1）	地球温暖化の現状と今後
第10回	地球温暖化（2）	地球温暖化による影響
第11回	酸性雨	大気汚染
第12回	砂漠化	砂漠化の実態
第13回	気候変動・古気候	第四紀の気候変化と歴史時代以降の気候変化
第14回	気候学を学び続ける 秋学期のまとめ（筆記試験）	どのように研究へと発展させていくか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

仁科淳司（2019）：『やさしい気候学 第4版』。古今書院、144p。 ¥2,600＋税
 今井明子（2022）：『面白いほどスッキリわかる！世界の気候と天気のおしくみ』。産業編集センター、208p。 ¥1,600＋税
 稲津 将（2022）：『気象学の教科書』。成山堂書店、203p。 ¥2,200＋税

【成績評価の方法と基準】

小テスト・筆記試験：70％、課題：30％

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料を授業支援システムで配布するため、PCもしくはタブレットを用意することが望ましい。

【その他の重要事項】

「自然地理学演習A（Ⅰ）（Ⅱ）」、「地学実験（2）」を受講希望する学生は、本講義を2年次で履修することが望ましい。本科目「Ⅰ」を履修していることが望ましい。履修選抜は本科目「Ⅰ」の初回授業（4月1回目）で実施する。地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、気候変動等の取組について講義していきます。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic knowledge of climatology and meteorology, and climate of the world to students taking this course. The goals of this course are to understand today's issues such as global warming.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. In addition to daily weather forecasts, please consciously seek out information about climate and weather, including seasonal phenomena. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report(30%), and term-end examination(70%).

GEO200BF（地理学 / Geography 200）

海洋・陸水学及び実験Ⅰ

飯泉 佳子

授業コード：A3424 | 曜日・時限：月3/Mon.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学を学ぶ上で重要な一分野である「海洋・陸水学」について、系統的な基礎知識と調査・解析方法を学習する。

【到達目標】

海洋・陸水学、水文地理学、水文学の基礎知識を身につけると同時に、水環境情報の検索・整理・解析の基礎的な手法を修得する。また、水試料の分析や結果を主題図として表現する方法を学び、具体的な水問題に取り組む基本的なスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

水圏、大気圏、岩石圏の複合領域においてさまざまな形で存在する地球上の水を対象に、水量、水質、水循環・水収支について概説する。視覚教材を利用し、簡単な実験や実習などを適宜交えて講義する。復習課題やレポート等については、授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	海洋・陸水学の基礎	概要と授業計画 降水、浸透、流出、蒸発散
第2回	海洋の循環	地球の熱収支、海洋・大気の循環、 海水の水質
第3回	河川の水収支	土地利用、流域環境
第4回	降雨－流出過程	ハイドログラフ、水害
第5回	水系の規則性と河川水 温・水質	ホートンの法則、雪水、人間活動
第6回	湖沼の特徴と成因	湖・沼の定義、形態
第7回	湖沼の水収支	水位変動
第8回	湖沼の水温構造	躍層、温帯湖・熱帯湖
第9回	地下水のあり方	帯水層、不圧・被圧地下水、地下水 流動、湧水、宙水
第10回	地下水の流れ	地下水面図、ダルシー則、透水係数、 間隙率
第11回	地下水と地表水の交流	失水河川、得水河川
第12回	調査計画の立て方	水質調査、流量調査
第13回	調査結果の整理と解析	ヘキサダイアグラム、トリリニアダ イアグラム
第14回	総括	春学期授業のまとめと筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムに講義資料をアップするので、予習・復習に活用してほしい。インターネットや新聞を利用した水に関する情報の収集、水に関連する研究会やシンポジウムへの参加を奨励する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない（プリントまたはスライドのPDFファイルを配布する）。

【参考書】

・地学団体研究会編（1995）：新版地学教育講座⑩『地球の水圏－海洋と陸水』、東海大学出版会。
・新井 正（1994）：『水環境調査の基礎』、古今書院。
・森和紀・佐藤芳徳（2015）『図説 日本の湖 第1版』、朝倉書店。
・日本地下水学会・井田徹治（2009）：『見えない巨大水脈－地下水の科学－（BLUE BACKS） 第1版』、講談社。
・林健太郎ほか編（2021）：『図説 窒素と環境の科学』朝倉書店。
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験：70％、課題・レポート：30％

【学生の意見等からの気づき】

資料は学習支援システムに掲載する。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料を学習支援システムで配布する。情報機器（パソコン）を使用する場合がある。

【その他の重要事項】

「水圏」に関する内容を系統的に扱う科目である。環境問題などを扱う上での系統的な専門知識の修得に寄与する。あわせて海洋・陸水学および実験Ⅱ、自然地理学演習（2）、地学実験、地理情報システム（GIS）などを履修することが望ましい。なお、使用教室と希望者数の関係により初回授業で選抜することがあります。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>水文学・陸水学・自然地理学

<研究テーマ>

- 1）水循環と物質循環
- 2）人間活動に伴う水環境の変化と保全
- 3）GISを用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline (in English)】

When learning physical geography, I aim at acquisition of systematical basic knowledge about the ocean and inland water science" which is the important one field. Acquire basic knowledge of ocean /limnology, hydrography, and hydrology, and at the same time acquire basic abilities for searching, organizing, and analyzing water environment information. In addition, you will learn how to sampling to analysis of water, analyze the results, and then express it as a thematic figure, and acquire the basic ability to tackle specific water environment problems. Collect and organize information on the overall water environment. We also encourage attendance at related study groups, symposiums, and academic societies. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Comprehensively evaluate attendance, assignments, and test results. In principle, the points will be assigned 70% for examination, 30% for assignments and reports.

GEO200BF（地理学 / Geography 200）

海洋・陸水学及び実験Ⅱ

飯泉 佳子

授業コード：A3425 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学を学ぶ上で重要な一分野である「海洋・陸水学」について、国内外の具体的な課題を学習し系統的な知識と応用力を習得する。

【到達目標】

海洋・陸水学、水文地理学、水文学の基礎知識の習得と、具体的な課題に取り組む上での応用力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

水圏、大気圏、岩石圏の複合領域においてさまざまな形で存在する地球上の水の循環過程における河川、湖沼、地下水などのあり方を、人間活動との関係を中心に、水収支、水循環の理論と応用から解釈する方法について紹介し、具体的な課題に取り組みながら考察を深める。
視覚教材を利用し、簡単な実験や実習などを適宜交えて講義する。復習課題やレポート等については、授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	海洋・陸水学の理論と応用	概要と授業計画
第2回	土壌環境と水	グローバルな水循環、世界の水資源
第3回	古陸水学	土壌の種類、鉱物の風化
第4回	火山地域の地下水	古環境の復元、堆積速度の指標
第5回	地下水の年齢と流動	温泉、地下水資源
第6回	地下水の塩水化と地下水開発	滞留時間、涵養年代、トレーサー
第7回	地下水汚染と地盤沈下	地下ダム、淡水レンズ
第8回	越境大気汚染と水環境	人間活動、土壌汚染
第9回	気候変動と自然災害	酸性雨
第10回	生態系サービス	災害、防災・減災
第11回	化学物質による汚染	生物多様性、グリーンインフラ
第12回	陸水の調査法	マイクロプラスチック
第13回	調査データの表現と解析法	水環境調査
第14回	総括	GISによる分布図、解析と考察 秋学期授業のまとめと筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムに講義資料をアップするので、予習・復習に活用してほしい。インターネットや新聞を利用した水に関する情報の収集、水に関連する研究会やシンポジウムへの参加を奨励する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない（プリントまたはスライドのPDFファイルを配布する）。

【参考書】

・地学団体研究会編（1995）：新版地学教育講座⑩『地球の水圏―海洋と陸水』、東海大学出版会。
・新井 正（1994）：『水環境調査の基礎』、古今書院。
・森和紀・佐藤芳徳（2015）『図説 日本の湖 第1版』、朝倉書店。
・日本地下水学会・井田徹治（2009）：『見えない巨大水脈―地下水の科学―（BLUE BACKS） 第1版』、講談社。
・林健太郎ほか編（2021）：『図説 窒素と環境の科学』朝倉書店。
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験：70％、課題・レポート：30％

【学生の意見等からの気づき】

資料は学習支援システムに掲載する。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料を学習支援システムで配布する。情報機器（パソコン）を使用する場合がある。

【その他の重要事項】

「水圏」に関する内容を系統的に扱う科目である。環境問題などを扱う上での系統的な専門知識の修得に寄与する。あわせて海洋・陸水学および実験Ⅰ、自然地理学演習（2）、地学実験、地理情報システム（GIS）などを履修することが望ましい。なお、使用教室と希望者数の関係により初回授業で選抜することがあります。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞水文学・陸水学・自然地理学

＜研究テーマ＞

- 1）水循環と物質循環
- 2）人間活動に伴う水環境の変化と保全
- 3）GISを用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline (in English)】

When learning physical geography, I aim at acquisition of systematical basic and widely knowledge about the ocean and inland water science" which is the important one field. Acquire basic and widely knowledge of ocean /limnology, hydrography, and hydrology, and at the same time acquire basic and widely abilities for searching, organizing, and analyzing water environment information. In addition, you will learn how to sampling to analysis of water, analyze the results, and then express it as a thematic figure, and acquire the basic and widely ability to tackle specific water environment problems. Collect and organize information on the overall water environment. We also encourage attendance at related study groups, symposiums, and academic societies. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Comprehensively evaluate attendance, assignments, and test results. In principle, the points will be assigned 70% for examination, 30% for assignments and reports.

GEO200BF（地理学 / Geography 200）

世界地誌（1）

倉光 ミナ子

授業コード：A3443 | 曜日・時限：木2/Thu.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オセアニアの中でも、とくにあまり知られていない島嶼地域を取り上げて、豊かな自然環境を含めた地域の成り立ち、その歴史的な変容、そして、現代における地域の特徴を学ぶ。それらを通して、日本に隣接しながらあまり知られていない広大なオセアニア地域への関心を養うことを目的とする。また、授業を通して、最終的にはオセアニアに関わらず、世界地誌の基盤となるであろう海外地域研究に携わるために必要な基礎的な知識を身につけること目指していく。

【到達目標】

講義を通して、具体的には1）オセアニアの土着社会・文化にはどのような特徴があるのか、2）オセアニアの土着社会・文化は西洋との出会いにより、どのように変容したのか、そして、3）現代のオセアニア地域の特徴や課題にはどのようなものがあるのかという3点について理解することを目指す。それらを通して、最終的には海外地域研究に携わるときに必要な視点を身につけることも目指していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業ではパワーポイントを利用して、講義形式で進める。授業単位認定に回によっては、映像を使用した学習も行う。また、全体通して、3回はどグループワークを行う。なお、リアクションペーパーなどはその内容やタイミングに応じて、授業中あるいは学習支援システムのいずれかで収集し、そのフィードバックも状況に応じて授業中あるいは学習支援システムのいずれかを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業の内容と授業評価の説明 ・地誌学と地域研究の関係
第2回	オセアニアの自然環境	オセアニア全体の自然環境の特徴を概観する。
第3回	オセアニアの成り立ち	ミクロネシア、メラネシア、ポリネシアの地域区分の成り立ちを概観する。
第4回	土着の世界観	ポリネシアを事例に、西洋との接触前の島々の世界観を学ぶ。
第5回	土着の社会システム	島嶼社会のもともとの社会システムの特徴を学ぶ。
第6回	西洋人の来訪	何を目的として、西洋人がオセアニアにやってきたのか。そして、それがどのような影響をあ耐えたのか概観する。
第7回	ハワイ諸島の変貌①	西洋との接触の影響をハワイ諸島を事例に学ぶ
第8回	ハワイ諸島の変貌②	ハワイ諸島における日本人の移民の歴史からオセアニアと日本の関係を学ぶ
第9回	南洋群島①	ミクロネシアにおける歴史的な変貌を学ぶ。
第10回	南洋群島②	日本による南洋統治とその第二次世界大戦中の経験を映像から学ぶ。
第11回	現代のオセアニアへ	グループワークを通して、現代のオセアニアの島嶼社会が抱える問題を考える。
第12回	環境問題	オセアニアにおける環境問題を取り上げる。
第13回	国際移動のある生活	サモア諸島を事例に、日常生活にある国際移動を考える
第14回	試験とまとめ	期末試験（60分） 総括（40分）を予定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【事前学習】

授業前に授業のアウトラインと示したワードファイルや参考文献を学習支援システム（Hoppii）に掲載します。ワードファイルを概観し、授業の流れを予習しておいてください。参考文献が掲載されたときは必ず読んできてください。

【事後学習】

授業後には授業で使ったパワーポイントをPDFにして学習支援システムに掲載します。PDFを見ながら復習し、その回のリアクションペーパーを作成し、期日までに提出してください。
※本授業の準備・復習時間は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。

【参考書】

・石森大知・黒崎岳大（2023）『ようこそオセアニア世界へ（シリーズ地域研究のすすめ 4）』昭和堂。
・山本真鳥（2023）『オセアニアの今—伝統文化とグローバル化』明石書店。
・熊谷圭知・片山一道（2010）『オセアニア（朝倉世界地理講座15）』朝倉書店。

【成績評価の方法と基準】

1）平常点（グループワークへの参加、リアクションペーパーなどの提出率と内容）60％
2）期末試験40％
1）と2）に基づき総合的に評価する。

なお、平常点のみで単位認定に必要な最低得点に達する可能性もあるが、期末試験の受験は単位認定上の必須条件とする（未受験の場合は単位を認定しない）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用します。授業前に配布する簡易ワードファイルは、必要な人はダウンロードしてパソコンに入れて持ってくるか、印刷して持ってきてください。
授業中にパソコンが必要な場合は事前の授業で連絡します。

【その他の重要事項】

受講者の人数により、内容と授業方法に変更がある場合があります。変更がある場合は初回の授業で説明しますので、履修を考えている人は必ず初回の授業に参加してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】We will focus on island regions in Oceania and learn about the origins of these regions, including their rich natural environments, their historical transformations, and the characteristics of these regions in the modern era. Through this, we aim to foster an interest in the Oceania region, which is adjacent to Japan but not well known. In addition, through the course, we will ultimately aim to acquire the basic knowledge necessary to engage in overseas area studies, regardless of whether it is in Oceania or elsewhere.

【Grading Criteria】

1) Regular points (participation in group work, submission rate and content of reaction papers, etc.) 60%
2) Final exam 40%
The final grade will be based on a comprehensive evaluation of 1) and 2).

It is possible to reach the minimum score required for credit based on regular points alone, but taking the final exam is a necessary condition for credit (if you do not take the exam, you will not be awarded credit).

GEO200BF（地理学 / Geography 200）

世界地誌（2）

小原 文明

授業コード：A3444 | 曜日・時限：金3/Fri.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地誌学とは、特定の地域の様々な事象について、有機的な繋がりを持って体系的かつ総合的に考え、理解する学問です。本科目では北米各国・各地域の歴史・文化や産業、都市の発展に焦点を当てて授業を行っていきます。とりわけ、国境を越えて展開される産業（アグリビジネス、製造業など）について学びます。

【到達目標】

本科目を通じて、世界における北米地域の位置づけや同地域の産業の展開を理解することができるようになります。また、本科目では、北米地域の地誌についての知識を修得するだけでなく、それら諸事象について体系的・総合的に考察する力を身に付けることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、北米地域全体の自然環境や人口分布、世界における位置づけ、アメリカ合衆国・カナダ・メキシコの関係性などについて学びます。それらを踏まえて、各国の歴史・文化や産業などについて考えます。そして最後に、都市ならびにエスニックマイノリティ（日本人）に焦点を当て、都市・都市圏構造や都市開発、エスニックビジネスなどについて考えていきます。

なお、小レポート課題等のフィードバックは次回以降の授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／北米の概略①	授業の進め方／自然環境
第2回	北米の概略②	人口分布／アメリカ合衆国・カナダ・メキシコの関係性
第3回	アメリカ合衆国の地誌①	歴史・文化／人口
第4回	アメリカ合衆国の地誌②	産業①：農業の展開
第5回	アメリカ合衆国の地誌③	産業②：工業の展開
第6回	カナダの地誌①	歴史・文化／人口
第7回	カナダの地誌②	産業①：農業の展開
第8回	カナダの地誌③	産業②：工業の展開
第9回	メキシコの地誌①	歴史・文化／人口
第10回	メキシコの地誌②	産業：農業の展開
第11回	メキシコの地誌③	産業：工業の展開
第12回	北米における都市発展	都市・都市圏／都市システム／都市開発
第13回	北米における日本人	エスニックタウン／エスニックビジネス
第14回	総括	まとめ／補足／質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内外でレポート課題（授業外課題・小レポート課題等）に取り組んでもらいます。また、授業で紹介する参考文献については、自主的に読むことを求めます。

なお、本科目の授業外学習（レポート・準備・復習時間）は各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、授業レジュメや資料はこちらで作成・準備し、配布します。

【参考書】

・飯野正子・竹中 豊編著（2010）：『現代カナダを知るための57章』明石書店。
・飯野正子・竹中 豊編著（2012）：『カナダを旅する37章』明石書店。
・小塩和人・岸上伸啓編（2006）：『朝倉世界地理講座―大地と人間の物語―13 アメリカ・カナダ』朝倉書店。
・国本伊代編著（2011）：『現代メキシコを知るための60章』明石書店。
・坂井正人・鈴木 紀・松本栄次編（2007）：『朝倉世界地理講座14 ラテンアメリカ』朝倉書店。
・田辺 裕監修（1997）：『図説大百科世界の地理1・2 アメリカ合衆国Ⅰ・Ⅱ』朝倉書店。
・田辺 裕監修（1999）：『図説大百科世界の地理4 中部アメリカ』朝倉書店。
・田辺 裕・竹内信夫監訳（2008）：『アメリカ ベラン世界地理体系17』朝倉書店。
・日本カナダ学会編（2009）：『はじめて出会うカナダ』有斐閣。

・モンテス、クリスティアンほか（2018）：『地図で見るアメリカハンドブック』原書房。
・矢ヶ崎典隆編（2011）：『世界地誌シリーズ4 アメリカ』朝倉書店。
・矢ヶ崎典隆（2010）：『食と農のアメリカ地誌』東京学芸大学出版会。
・矢ヶ崎典隆ほか編著（2003）：『アメリカ大平原―食糧基地の形成と持続性―』古今書院。
・吉田栄人編著（2005）：『メキシコを知るための60章』明石書店。
・その他の参考文献については、授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業外課題・小レポート課題等）：30％、期末試験：70％。それぞれの事象の背景や要因、結果について総合的かつ論理的に考える力を重視します。なお、期末試験は論述形式の筆記試験を行います。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業であるため担当者からの話題提供が中心となりますが、多くの資料・データを提示することで、受講生自身が考察を行った上で、講義内容を理解できる授業となるよう心掛けます。

【Outline (in English)】

This course introduces the regional geography of the north American counties to students taking this course. The goals of this course are to be able to understand the basic geographical concepts and points of view, to analyze the causes, processes, influences and interrelationships of various phenomena of the area, and to acquire the ability to generally consider geographical phenomena.

Before /after each class meeting, students will be expected to spend each 4 hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (70 %) and short reports (30 %).

GEO200BF (地理学 / Geography 200)

世界地誌 (3)

小寺 浩二

授業コード：A3445 | 曜日・時限：火3/Tue.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地理学において、系統地理学と並び重要な「地誌学」の基礎を理解し、中でも世界地誌・広域地誌の対象地域としてのアジアの具体的な地誌を学び、様々な地域特性とその地誌としての記述方法について学習する。まず、世界の中のアジアを理解し、つぎに、アジアの個々の地域について概観する。講義を踏まえて、具体的な地域を選定して自然誌を作成し、地誌を記述する上での技術についても学ぶ。

【到達目標】

わが国と地理的にもっとも近いアジアの自然と、そこに暮らす人々の生活を理解する。気候・地形・植生・水環境など様々な自然環境の特徴を中心とした「自然誌」の理解を前提に、文化・社会的な特徴についても理解し、地誌の記述方法についても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

アジア全体の概観から各諸地域、個別の国の地誌を講義する。古くからの資料を活用しながらも、最新の研究成果なども紹介し、古くて新しいアジアの現況を示す。
また、具体的なデータなどから、自ら理解する工夫などを行い、「地誌の記述」についての理解も深めるよう指導する。
毎回の授業では、出席簿に授業の要約や質問等を記述して提出させ、次回授業でその内容についてコメントする。
また、小レポートと最終レポートを提出させ、それぞれ評価した上で、模範解答を基に、理想的なレポートについて解説する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要・ガイダンス	講義の概要と授業の進め方について説明。
第2回	アジア総論 (1) 世界の中のアジア概観	アジアの特殊性についての概要。
第3回	アジア総論 (2) 位置・地質・地形	アジアの地理的位置・地質構造・大地形。
第4回	アジア総論 (3) 河川・湖沼・気候	アジアの代表的な河川・湖沼と気候の特徴。
第5回	アジア総論 (4) 植生・地域区分	アジアの植生の特徴と、地域区分を理解。
第6回	東アジア (1) 中国と台湾	隣国である中国と台湾について。
第7回	東アジア (2) モンゴル・韓国・北朝鮮・極東ロシア	中国と台湾以外の東アジアについて。
第8回	東南アジア (1) インドシナ半島	インドシナ半島の自然環境と諸国について。
第9回	東南アジア (2) 東南アジアの島嶼国	東南アジアの島嶼国について。
第10回	南アジア (1) 南アジア全域・インド	南アジア全域とインドの概要。
第11回	南アジア (2) インド以外の南アジア	スリランカ・パキスタン・バングラディッシュ・ネパールなど。
第12回	中央アジア (1) 中央アジア全域とウズベキスタン・カザフスタン	中央アジア全域とウズベキスタン・カザフスタンの概要。
第13回	中央アジア (2) その他の中央アジア	キルギスタン・タジキスタン・トルクメニスタンなど。
第14回	西アジアの概要	イラン・イラク・サウジアラビア・トルコなど。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

普段からアジア全体の動きに注目し、テレビのニュースや新聞の記事には、つねに問題意識を持つようにしてほしい。特に復習に力を注いで頂きたい。
毎回の講義に対して、予習・復習をそれぞれ2時間、小レポートに関しては3時間程度、最終レポートに関しては、数時間以上は時間を確保して取り組むことが望ましい。

【テキスト (教科書)】

多田文男(1972)：『世界地誌 I (アジア)』,法政大学通信教育部,291p.
古い教科書であるため、新しい情報は、講義の度にプリントなどで紹介する。

【参考書】

小寺浩二 (2020)：『自然地理学概論 (1)』,法政大学通信教育部,294pp.
河野通博編(1991)：世界地誌ゼミナール I『新訂 東アジア』,大明堂, 242p.
岩田慶治編(1972)：世界地誌ゼミナール II『南アジア』,大明堂,212p. など。
講義の度に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み・課題・試験による総合評価。取り組み3割、課題3割、試験4割を原則とするが、その他小テストなどを行う場合もある。

【学生の意見等からの気づき】

課題についての説明を、わかりやすく詳しく行い、積み上げ型の学習の価値を理解し効果的に取り組めるようにする。
情報を、できるだけ、最新のものに更新し、時事的な内容についても触れるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学・水文学・陸水学・GISを用いた地域解析
<研究テーマ>

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GISを用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline (in English)】

Even during understanding an important basis of "topography science" as well as systematic geography in a geography, an Asian topography in detail as a target area of the world topography and a wide area topography is learned and it's learned about a description method as various regional characteristics and the topography. First Asia in the world is understood and it next is surveyed about each Asian area. Understand the nature of Asia, which is geographically closest to Japan, and the lives of the people who live there. Based on the understanding of "natural magazines" focusing on the characteristics of various natural environments such as climate, topography, vegetation, and water environment, we will also understand cultural and social characteristics and learn how to write geographies. Lectures on regional geography of each region and individual country from an overview of Asia as a whole. While utilizing old materials, it also introduces the latest research results and shows the current state of old and new Asia. In addition, we will also devise ways to understand ourselves from specific data, etc., and instruct them to deepen their understanding of the "description of the geography". In each lesson, write a summary of the lesson, questions, etc. in the attendance book and submit it, and comment on the contents in the next lesson. In addition, we will ask you to submit a small report and a final report, evaluate each, and explain the ideal report based on the model answer. I would like you to keep an eye on movements throughout Asia and always be aware of problems in TV news and newspaper articles. Please pay particular attention to the review. For each lecture, it is desirable to secure 2 hours for preparation and review, 3 hours for small reports, and several hours or more for the final report. Comprehensive evaluation based on class initiatives, assignments, and exams. In principle, 30% of efforts, 30% of tasks, and 40% of tests are conducted, but other quizzes may be conducted.

GEO300BF（地理学 / Geography 300）

地理学読図演習（1）

山口 隆子

授業コード：A3449 | 曜日・時限：月2/Mon.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地形図や地質図、植生図、気候図から、環境に関する情報を読み取るとともに作図方法を学ぶ。

【到達目標】

地形図や気候図から環境に関する情報を正確に読み取ることが出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、各種のテーマに沿った資料を配布し、その作図過程の理解や図上での作業を行ない、提出する。提出された課題は、すべてコメントをつけて返却する。

11～14回については、7月上旬の週末（1日）に高尾山を訪問する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方を説明する。
第2回	気候・気象データ	気候・気象データを統計解析し、作図する。
第3回	アイソプレス	アイソプレス図を作成し、考察する。
第4回	器差補正	移動観測結果を作図し、考察する。
第5回	1:25,000地形図における起伏の把握	等高線を読み取り、尾根と谷を把握し、地形断面図を作成する。
第6回	ハザードマップの作成	等高線の読み取りの応用として、ハザードマップを作成する。
第7回	1:25,000地形図における水文環境の把握（1）	水系図を作成する。
第8回	1:25,000地形図における水文環境の把握（2）	水文環境の応用として、ダム集水マップを作成する。
第9回	植生図	植生図の読図方法について学ぶ。
第10回	地質図	東京の立体地質図を作成し、考察する。
第11回	現地踏査（1）	地形図を確認しながら現地踏査。
第12回	現地踏査（2）	植生図を確認しながら現地踏査。
第13回	現地踏査（3）	地質図を確認しながら現地踏査。
第14回	現地踏査（4）	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常生活でみられる地図に関心を持ち、各自で情報収集する。

授業時間内にできなかった課題は宿題とする。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業内で適宜プリントを配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、課題（50%）により評価する。原則3分の2以上の出席がない場合は評価対象としない。また、現地踏査に参加していない場合は、原則として評価対象としない（正当な理由により参加できない場合は、別途レポートを課すなどの対応を行うので相談すること）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

色鉛筆（12色以上）、定規、はさみ、スティックのりを必要に応じて持参する。前週に翌週の持ち物を指示するので忘れずに持参してください。

※対面形式でできない場合に備え、各自PC（※Word等インストール済み）を用意する、PDFファイルをプリントアウトできるか、プリントをスキャンできるかを確認する（自宅にプリンターやスキャナーがなくても、コンビニエンスストアやスーパーマーケットにはそれらに対応したコピー機が設置されている）など、オンライン形式でも受講できる環境を整えておく。

【その他の重要事項】

現地踏査（授業計画の※）は、土曜日または日曜日を利用して日帰りで実施する。第1回目に日程調整を行う。なお、現地踏査や実習が中心であるため履修上限人数は48名とし、初回授業で選抜する。

【Outline (in English)】

Learn how to read and draw information about the environment from topographic, geological, vegetation, and climatic maps. The goals of this course are to read the environment from topographic and climatic maps. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Assignments that cannot be completed during class time will be assigned as homework. Final grade will be calculated according to the following process work effort(50%), and submission of assignments(50%).

GEO300BF（地理学 / Geography 300）

地理学読図演習（2）

福興 直人

授業コード：A3450 | 曜日・時限：月2/Mon.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、地形図や地質図などのさまざまな地図から環境に関する情報を読み取る技術を習得することを目的とします。

【到達目標】

- 1）地形図や地質図、空中写真等から自然環境に関する情報を正確に得られるようになる
- 2）土地利用図や用途地域マップ等から都市・街に関する情報を正確に得られるようになる
- 3）複数の地図を用いて、ある地域について複合的に捉え、地理的な特徴を述べるができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

実習形式（地図作業、現地踏査）と演習形式（発表）の組み合わせで実施します。資料を配布し、内容を説明した上で地図作業を行い、地図からさまざまな情報を読み取ってもらいます。その後、読み取れた情報に関する発表を行ってもらいます。課題に対してその都度フィードバックを行います。
第9～12回については、11月下旬もしくは12月上旬の週末に現地踏査（日帰り）を行います。行先は授業内で決定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、グループ分け等を行う。
2	地形図読図の基本	地形図読図に関する基本的事項を確認する。
3	地質図、空中写真等を用いた読図	地質図、空中写真等を用いた読図を行う。
4	植生図、土壤図等を用いた読図	植生図、土壤図等を用いた読図を行う。
5	土地利用図、用途地域マップ等を用いた読図	土地利用図、用途地域マップ等を用いた読図を行う。
6	グループワーク（1）	希望する現地踏査の候補地をグループごとに検討し、地図を準備する。
7	グループワーク（2）	準備した地図を判読し、候補地の地理的な特徴をまとめる。
8	グループワーク（3）	グループ別に候補地を紹介し、現地踏査の行先を決定する。
9	現地踏査（1）	読図結果を現地で確認する。
10	現地踏査（2）	読図結果を現地で確認する。
11	現地踏査（3）	読図結果を現地で確認する。
12	現地踏査（4）	読図結果を現地で確認する。
13	現地踏査の振り返り（1）	現地踏査でわかったことをグループごとにまとめる。
14	現地踏査の振り返り（2）	グループ発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業時間内にできなかった課題は宿題とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・出席率が2/3に達しない者は評価の対象としません。
- ・現地踏査に参加していない場合は評価の対象としません。
- （正当な理由により参加できない場合は、別途レポートを課すなどの対応を行うので自主的に相談すること）
- ・授業内課題（50％）とレポート（50％）の合計得点により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

色鉛筆（12色以上）、30 cm程度の直定規、鉛筆（またはシャープペンシル）、電卓などの読図作業に必要なとされる文具を各自持参してください。
なお、作業する教材などはその都度、配布します。

【その他の重要事項】

現地踏査（1）～（4）は、土曜日または日曜日を利用して日帰りで実施します。日程は授業内で調整します。なお、現地踏査や実習が中心であるため履修上限人数は48名とし、初回授業で選抜します。

【Outline (in English)】

Course outline

To acquire the ability to obtain information about the environment from various maps, such as topographic and geological maps.

Learning Objectives

- (1) To accurately obtain information about the natural environment from topographical maps, geological maps, aerial photographs, etc.
- (2) Obtain accurate information about cities and towns from land use maps, zoning maps, etc.
- (3) Understand an area from multiple maps and describe its geographical features.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Assignments not completed within the class time will be assigned as homework.

Grading Criteria

Those with less than 2/3 attendance will not be graded.

If you are unable to attend the field trip for a valid reason, a separate report will be assigned, so please consult with the instructor in advance. Grading will be based on the combined grade of in-class assignments (50%) and reports (50%).

GEO300BF（地理学 / Geography 300）

自然地理学特講（3）

丸本 美紀

授業コード：A3453 | 曜日・時限：金4/Fri.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、気候変動の歴史と気象災害について扱います。近年、地球温暖化により増加している日本の気象災害を取り上げ、これらの現状と要因について、地理学の観点から学んでいきます。また、これらを通して、地理学における気候学の研究方法や役割についても考えていきます。

【到達目標】

1. 気候変動と気象災害の関連とそのメカニズムについて理解することができる。
2. 地球温暖化に対して、どのような気象災害が起こるのかを予測し、行動することができる。
3. 地理学、気候学の理解に繋げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

各回、パワーポイントで講義を行い、ミニレポートを授業内に提出してもらいます。提出してもらったミニレポートは翌授業以降にフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要紹介
第2回	気候学の研究方法①	地理学における気候学の役割
第3回	気候学の研究方法②	量的研究（観測と気象データなど） 質的研究（気候地名、古気候など）
第4回	気候変動の歴史	気圧配置ごよみ 過去の気候変動と気候復元方法
第5回	中世気候異常期①	中世気候異常期の気候と気象災害
第6回	中世気候異常期②	平安時代の気象災害 貞観時代の自然災害
第7回	地球温暖化の現状	地球温暖化の現状と要因
第8回	地球温暖化と異常気象	異常気象、気象情報 気象災害の構造
第9回	地球温暖化と気象災害①	地球温暖化と猛暑
第10回	地球温暖化と気象災害②	地球温暖化と集中豪雨
第11回	地球温暖化と気象災害③	地球温暖化と台風
第12回	地球温暖化とその他への影響①	地球温暖化と雪、海氷など
第13回	地球温暖化とその他への影響②	地球温暖化と生物、農業への影響
第14回	まとめ 試験	授業のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
天気予報やインターネット、テレビ、新聞等、身近な気象・気候の情報に関心を持ってください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。毎回、資料を配布します。

【参考書】

各回の講義内で紹介します

【成績評価の方法と基準】

期末試験70%、授業内ミニレポート（平常点）+レポート30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

防災士の資格を生かして、防災の観点も取り入れて授業を行いたいと思います。

【Outline (in English)】

This course deals with climate change and climatic disasters in Japan. And we will consider the significance of climatology in geography. At the end of the course, students are expected to understand histories of climate change and climatic disasters in Japan. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (60%), and short reports in each class(40%).

HUG300BF (人文地理学 / Human geography 300)

人文地理学特講（1）

小田 宏信

授業コード：A3455 | 曜日・時限：月5/Mon.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業立地論と産業集積論をベースにした経済地理学の主要な関心事について、基本的な考え方と研究事例を紹介します。これを通じて、地理的見方、考え方を培い、地理学の立場から現代の経済社会をみつめる一助とします。

【到達目標】

1. 経済地理学の視点から、地域の発展と変容のメカニズムを理解できる。
2. 産業立地論や産業集積論の基本を理解できる
3. 産業立地と経済発展の関わりについて理解できる。
4. 地理学の観点から現代社会を見つめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

オーソドックスな講義形式の授業です。

学習支援システムを通じた小課題の提出をお願いする予定です。フィードバックは授業時に口頭で、もしくは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	産業立地論の基本概念——距離と拡がり	産業活動にとつての距離と拡がりについて考えます。 →テキスト：序章、第1章1節
第2回	産業立地論の古典(1)——チューネンの農業立地論	チューネン理論の意義について考えます。 →テキスト：第1章2節(1)
第3回	産業立地論の古典(2)——ウェーバーの工業立地論	ウェーバーの工業立地論について輸送費指向論を中心に紹介します。 →テキスト：第1章2節(2)
第4回	産業立地論の古典(3)——クリスタラーの中心地理論	中心地論の基本的な考え方を学びます。 →テキスト：第1章2節(3)
第5回	集積と外部経済の理論	ウェーバー、マーシャルやヴァーノンの古典的理解を中心に、産業集積論の基本的な考え方を学びます。 →テキスト：第1章3節、第10章1節
第6回	グローバル化のなかでのローカリゼーション——ICTおよびコンテンツ産業を中心に	グローバル化の中で、ローカルなものもつ役割について考えます。 →テキスト：第5章2節(1)、第7章2節(3)、第10章2節(1)、第13章
第7回	工業分散と企業内地域間分業——前グローバル化期までの日本を事例に	工業立地の分散と企業内地域間分業について、事例を通じて考えます。 →テキスト：第1章3節(2)、第5章1節
第8回	グローバル生産ネットワークの形成——対外直接投資と多国籍企業の事業展開	直接投資の理論を紹介するとともに、日本の自動車メーカーを事例に、海外展開の実際を紹介します。 →テキスト：第5章2節3節、第11章
第9回	グローバルな商品流動と商品連鎖	グローバルな商品連鎖が途上国の発展の道筋に与える影響を考えます。 →テキスト：第6章
第10回	新興国の工業化と大都市問題	東南アジアを事例に工業化のプロセスを追い、それに伴う諸問題を考えます。 →テキスト：第11章
第11回	国民経済の地域間不均衡と都市群システム	地域格差の形成のメカニズムについて考えます。 →テキスト：第2章2節および第9章2節
第12回	大都市の衰退と再生、そして世界都市化	大都市圏のダイナミズムと世界都市化に伴う諸問題を考えます。 →テキスト：第8章および第9章1節

第13回	大都市のものづくり産業	東京を中心に大都市におけるものづくり産業集積の現代的意義を考えます。 →テキスト：第7章2節(4)および第10章
第14回	まとめ	全体を振り返り、到達度を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを用いて毎回の予習・復習を着実に心がけてください。復習用の課題が出た場合には、それに取り組んで下さい。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房、2020年。

このテキストの、序章、第1章、第2章、第5章、第6章、第7章、第8章、第9章、第10章、第11章、第13章の部分を扱います。

【参考書】

経済地理学会編『キーワードで読む経済地理学』原書房、2018年。

小田宏信『現代日本の機械工業集積』古今書院、2005年。

竹内淳彦・小田宏信編『日本経済地理読本（第9版）』東洋経済新報社、2014年。

貝沼恵美・小田宏信・森島清『変動するフィリピン』二宮書店、2009年。

杉浦芳夫編『空間の経済地理』朝倉書店、2004年。

青山裕子ほか（小田宏信ほか訳）『経済地理学キーコンセプト』古今書院、2014年。

菊地俊夫・小田宏信編『東南アジア・オセアニア』朝倉書店、2014年。

加賀美雅弘編『ヨーロッパ』朝倉書店、2019年。

矢ヶ崎典隆ほか編『グローバリゼーション』朝倉書店、2018年。

サクセニアン、A.（山形浩生・柏木亮二訳）『現代の二都物語』日経BP、2009年。

サクセニアン、A.（酒井泰介訳）『最新・経済地理学』日経BP、2008年。

フロリダ、R.（井口典夫訳）『クリエイティブ都市論』ダイヤモンド社、2009年。

【成績評価の方法と基準】

平常時の小課題（60％）と最終の到達度確認テスト（40％）より評価します。

【学生の意見等からの気づき】

最初の方は抽象的でイメージしにくい部分もあるかも知れませんが、徐々に具体的な話になってきますので、しばらくご辛抱ください。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

配布プリントは毎回、A4で4ページないし8ページ分をお渡しします。ファインリングすると、小冊子となりますので、整理を心がけてください。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to economic and industrial geography. Topic areas include economic globalization, spatial distribution of industrial sectors, multinational corporations, regional economic development, and illegal economic activities.

The goals of this course are to understand the impacts and effects of industrial location on regional economic growth and decline.

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

Final grade will be calculated according to the following process in-class report (60%) and term-end examination (40%).

HUG300BF (人文地理学 / Human geography 300)

人文地理学特講 (3)

松井 圭介

授業コード：A3457 | 曜日・時限：月1/Mon.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地理学とは、人間の営む生活文化の諸特性について、とくに環境との相互作用から考える学問である。なかでも文化地理学は、人間と場所との関わりに強い関心を有してきた。人間は所与の環境条件の制約のもと、場所を資源として利用してきた。その結果、人間生活には多様な地域性が生み出されてきたといえる。本講義において受講生は、ある場所が特別な意味をもち、価値づけがなされ、商品化されていくプロセスに関する講義を通して、人間による場所に働く力へのダイナミズムを理解することを学ぶ。なかでも文化の商品化をめぐる現状と課題について、講義と事前事後学習を通して、理解を深めていくことが期待される。なお講義で取り上げるトピックスについては、履修者の関心にも留意したうえで決定する。

【到達目標】

本講義では次の3段階の達成目標を設定する。

第1段階：受講生はまず初めに、文化地理学・人文地理学の学説史の流れを理解することが求められる。古典理論(20世紀初頭)から現代の潮流(21世紀)を学ぶことを通して、履修者は文化地理学的なモノの見方・考え方の基礎を修得する。

第2段階：複数の具体的なトピックスに関して、文化地理学研究の具体的な内容紹介を通して、受講生は場所の政治学にかかわる文化地理学的な知の営みの一端を理解することが期待される。

第3段階：以上を通じて受講生は、文化地理学に関わる批判的・創造的思考力、文化的現象の分析力、文化的課題への対応力などに関わる知識や思考様式を身につけることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では、対面講義を主に必要に応じて、オンデマンド教材(講義)を活用しながら進める。対面講義については、教員による説明が主となるが、オンデマンド教材を活用した講義においては、テーマに沿った文献調査やリアクションペーパー作成が求められる。提出されたリアクションペーパー等のフィードバックを対面講義で行いながら、講義内容の理解を深化させていく。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに・Introduction	オリエンテーション(本講義の目的と概要)を説明、文化地理学の枠組み(地理学の見方・考え方)
第2回	文化地理学の展開(1)	文化地理学の古典理論(文化生態・文化伝播・文化景観など)
第3回	文化地理学の展開(2)	現代地理学への道(計量主義・新しい文化地理学の勃興)
第4回	景観と環境から読み解く地域社会(1)	ケーススタディ：五箇山・白川郷の集落景観と地域生態①
第5回	景観と環境から読み解く地域社会(2)	ケーススタディ：五箇山・白川郷の集落景観と地域生態②
第6回	文化景観をめぐるポリティクス(1)	文化遺産をめぐる場所のポリティクス
第7回	文化景観をめぐるポリティクス(2)	都市景観にみる権力と政治性①
第8回	文化景観をめぐるポリティクス(3)	都市景観にみる権力と政治性②
第9回	世界遺産と宗教ツーリズム①	インバウンドツーリストは熊野古道に何を求めるのか？
第10回	世界遺産と宗教ツーリズム②	なぜキリシタンが観光資源化されるのか？ 長崎におけるカトリック
第11回	世界遺産と宗教ツーリズム③	なぜキリシタンが観光資源化されるのか？ ホスト地域の観光動態と戦略
第12回	世界遺産と宗教ツーリズム④	キリシタンの資源化はいかになされたのか？ 世界遺産への動き 教会を訪れる人びと
第13回	世界遺産と宗教ツーリズム⑤	キリシタンの資源化はいかになされたのか？ 創造される聖地巡礼
第14回	世界遺産と宗教ツーリズム⑥	場所の商品化は何をもたらすのか？ 信仰か観光か 持続可能なツーリズムとは

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

受講生は準備学習として、関連文献の探索・精読や地域情報の収集を行う。各授業回ではリアクションペーパー・小課題の提出が求められるので、授業内容の復習とともに宿題作成を授業時間外に行う。本授業の準備・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

教科書は使用しない。

【参考書】

松井圭介(2017)：『観光戦略としての宗教-長崎の教会群と場所の商品化』筑波大学出版会。

山中 弘編(2013)：『宗教とツーリズム』世界思想社。

竹中克行ほか(2009)：『人文地理学』ミネルヴァ書房。

森 正人・中川 正(2022)：『文化地理学ガイダンス(改訂版)』ナカニシヤ。講義の中で必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポートもしくは筆記試験(50%)および講義終了後に提出させるリアクションペーパー・小課題(50%)の比率で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目(授業担当者変更)のため、アンケート未実施。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

シラバス作成時点では、全授業を対面講義で実施する予定であるが、感染症の状況や教員の都合などにより、オンライン(オンデマンド)講義になる場合がある。その時には、講義中に周知する。

【Outline (in English)】

Geography is the study of the characteristics of human life and culture, especially in terms of their interaction with the environment. Cultural geography, in particular, has been strongly interested in the relationship between humans and places. Human beings have used places as resources under the constraints of given environmental conditions. As a result, we can say that a variety of local characteristics have been produced in human life. In this course, students will learn to understand the dynamism of human power over places through lectures on the processes by which places take on special meaning, are given value, and are commodified. In particular, students are expected to deepen their understanding of the current situation and issues surrounding the commodification of culture through the lectures and pre and post-lecture studies. The topics to be covered in the lectures will be determined based on the interests of the students.

Students are expected to search for and read relevant literature and collect information on the region as preparatory study. Students are required to submit a reaction paper and a small issue in each class session, so they should review the contents of the class and prepare homework assignments.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

The evaluation will be based on the ratio of the end-of-term report or written exam (50%) and the reaction paper or small issue (50%) to be submitted after the lecture.

GEO200BF（地理学 / Geography 200）

地図学 I

若林 芳樹

授業コード：A3459 | 曜日・時限：金4/Fri.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デジタル化の進展により、いつでも、どこでも、誰もが自由に地図を使ったり作成に参加したりすることが容易になっている。しかし、適切に地図を作成・利用するためには、地図学の知識と技術をふまえた一定のリテラシーが必要になる。この授業では、地図学の基礎的事項を学ぶことで、身の回りの地図の善し悪しを評価し、自ら地図を作成するための方法を身につけることをねらいとする。

【到達目標】

地図の基礎的事項を理解した上で、地図表現の善し悪しを評価したり適正に利用したりできるようになる。自分で地図を作成するための知識や技術を習得する。また、デジタル地図を作成・利活用するためのGISの基礎を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

前半では、地図の歴史を踏まえて現代の地図の特徴と基礎的事項を学習する。後半では、地図の利用と表現のためのさまざまな概念や方法を学んだ上で、身の回りの地図を収集し、目的に合った表現や内容になっているかどうかを評価する。最後に、この授業で学習した地図学の知識と技術をふまえて、自分自身で主題図を作成し、討論する。
課題等の提出は、基本的に「学習支援システム」を通じて行い、課題に対する解説や講評は授業内で行う。
なお、対面形式の実施を想定しているが、状況によってオンライン形式での実施に切り替える場合もある。その際は、事前に通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	地図の概念、授業計画
第2回	地図の歴史と空間情報伝達の変化	地図の歴史、メディアと伝達様式の変化
第3回	地図の図式と記号	図式と地図記号、地図デザイン
第4回	地図の分類と基本要素	基本図、主題図、地図投影法と座標系
第5回	地図の利用	地形図の読図、図上計測、地図分析
第6回	空間スケールと地図	スケールの意味、メッシュコードの体系、総描
第7回	さまざまな主題図	土地利用図、統計地図、道案内図、ハザードマップ
第8回	地図の記号化とデザイン	視覚変数、地図記号のデザイン
第9回	地図で嘘をつく方法	地図表現のレトリック
第10回	デジタルマップの時代	地形表現、時間表現、マルチメディア、参加型
第11回	地図の収集と評価	既存の地図を収集し、グループで討論する
第12回	バーチャル地図とメンタルマップ	人間の空間認知と地図
第13回	地図とGIS	空間データの構造、空間データの視覚化
第14回	地図と社会	地図の政治性、地図と文化、地図の力

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

身の回りの地図を収集し、授業で学んだことをふまえて内容・表現・用途を吟味する。自ら情報を集めて主題図を作成する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】

『図の記号学』（ベルタン著、森田喬訳、平凡社、1983年）、『地図学の基礎』（ロビンソン他著、永井信夫訳、帝国書院、1984年）、『神の眼 鳥の眼 蟻の眼』（森田喬著、毎日新聞社、1999年）、『地図の進化論』（若林芳樹著、創元社、2018年）、『地図リテラシー入門』（羽田康祐著、ベレ出版、2021年）、『デジタル社会の地図の読み方作り方』（若林芳樹著、筑摩書房、2022年）

【成績評価の方法と基準】

授業時の課題・小テスト60％、レポート40％で総合評価

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】

授業資料は学習支援システムから授業前にダウンロードすること。

【Outline (in English)】

Since the end of the 20th century, the widespread availability of information technology has led to the increasing use of digital maps based on geospatial information. This trend has drastically changed the form and function of maps. The aim of this class is to acquire contemporary map literacy by learning the way of making and using a variety of maps. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (80%) and term-end examination (20%). Students are expected to complete the required assignments after each class. Your study time will be more than two hours for a class.

GEO200BF（地理学 / Geography 200）

地図学Ⅱ

福與 直人

授業コード：A3460 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地図学や地理学との関わりの中で地理情報科学や地理情報システム（GIS）をめぐる基本的事項と適用事例を講義する。これにより、地理情報科学と地図学・地理学との関連、地理情報科学の歩み、GISの概念と構成要素、空間データの構造とその操作、空間データの視覚化、そして地図表現の持つ社会的意義と課題を学ぶ。

【到達目標】

- 1）地図学や地理学と関連づけて地理情報科学の基本を理解することができる。
- 2）地理空間情報の基本構造と作成法を理解し説明できる。
- 3）地理情報システムを活用した地図表現の社会的意義と課題を理解し説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式。一部作業を行いながら授業を進めます。授業内容に関連し、各自のノートPCやスマートフォン、タブレット端末等を使用してWebGISを活用する予定です。

毎回の授業の最後にコメントシート（感想、質問など）を提出してもらいます。次回の授業開始時に、前回提出されたコメントシートからいくつか取り上げ、コメントに対するフォローを行います。コメントシートや時事などに応じて、各テーマから若干異なる内容を授業内で展開する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と概要を説明し、地理情報科学と地図学・地理学との関連について学ぶ。
2	地理情報システム (1)	地図と GIS、地図学や地理学との関係、地図投影法について学ぶ。
3	地理情報システム (2)	GISの歴史やベクタ型とラスタ型の特徴を学ぶ。
4	地理空間情報 (1)	数値地図や国土数値情報の構造について学ぶ。
5	地理空間情報 (2)	基盤地図情報や電子国土基本図などの概要について学ぶ。
6	地理空間情報の取得と作成 (1)	全球測位衛星システム（GNSS）を中心にリモートセンシングの基本について学ぶ。
7	地理空間情報の取得と作成 (2)	レーザ計測やデジタル地形測量など、地理空間情報の取得方法について学ぶ。
8	地理空間データの視覚化	地図表現や地図レイアウトと出力の基本について学ぶ。
9	地理情報システムによる分析 (1)	空間検索、オーバーレイ、バッファリング、空間分割の基礎とその利用について学ぶ。
10	地理情報システムによる分析 (2)	ネットワーク分析、点パターンなどの基礎とその利用について学ぶ。
11	地図表現と社会 (1)	ハザードマップを主とした GIS の利用について学ぶ。
12	地図表現と社会 (2)	ビジネス分野、教育分野における GIS の利用について学ぶ。
13	地理情報社会と未来社会	グループワークを行う。
14	発表とまとめ	授業の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地図学と地理情報科学をめぐる動向や社会的な応用に日々関心を持ち、新聞や雑誌など様々な媒体からの情報収集に努めてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

『地理情報科学 GIS スタンダード』（古今書院、2015）

他の書籍は授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

以下の項目に従い、評価を行います。

リフレクションペーパーや授業内課題による評価：40%

レポート：60%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続でき、Web 地図を閲覧できる端末（ノート PC かタブレット）を持参するように指示することがあります。

【Outline (in English)】

Course Outline

This course provides an overview of fundamental concepts and practical applications of Geographic Information Science (GIScience) and Geographic Information Systems (GIS) within the context of cartography and geography. Students will learn about the interrelationships among GIScience, cartography, and geography, the historical development of GIScience, the concepts and components of GIS, the structure and operations of spatial data, methods of spatial data visualization, and the social significance and challenges associated with map representation.

Learning Objectives

Be able to understand the fundamentals of Geographic Information Science in relation to cartography and geography.

Be able to understand and explain the basic structure of geospatial information and how it is created.

Be able to understand and explain the social significance and challenges of map representations through the use of Geographic Information Systems (GIS).

Learning Activities Outside of Classroom

Students are expected to review the content covered in previous classes and to further investigate related topics on their own using library resources or the internet. This self-directed research will help deepen their understanding of the course material.

As a guideline, students should spend approximately two hours on preparation and two hours on review for each class session.

Grading Criteria

Evaluation will be based on the following components:

In-class assignments: 40%

Report: 60%

GEO300BF（地理学 / Geography 300）

測量学及び測量実習 I

菅 富美男

授業コード：A3461 | 曜日・時限：金3/Fri.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年
備考（履修条件等）：「測量学及び測量実習 I」を履修する場合は、
「測量学及び測量実習 II」も同時に履修すること。
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
空間に関する最も基本的な情報は位置に関する情報である。位置に関する情報を取得する手段として用いられるのが測量である。この授業では、測量に関する基礎理論を学ぶとともに、実習を行い、測量の基礎的技術の習得を目指す。特に、測量データの基礎的な取り扱い及び測地測量の一つの柱である高さを測る水準測量を中心に講義・実習を行う。

【到達目標】
測量に関する基礎的知識を習得する。測量に関する誤差を理解し誤差の計算ができるようになる。距離測量と水準測量の技術を習得し実施することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
測量法及び測量の資格と社会との関係、測量の基本となる事項やさまざまな測量についての講義。測量で得られたデータ処理の基礎である誤差学に関する講義・計算実習、測地測量の一つの柱である高さを測る水準測量の講義・実習・計算処理を行う。教室で行う講義と実際に測量機器を使った測量を組み合わせて学ぶ。測量結果に基づき計算を行い、最終成果として測量結果に基づき測量簿冊及び成果表を作成する。
課題等のフィードバックは「学習支援システム」及び講義中に適宜、講評・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	測量とは	写真測量や地図作成・編集を含む測量の概要と歴史について講義する
第2回	測量の法律と資格	測量に関する法律と測量の資格、法律に定められた作業規程について講義する
第3回	地球の大きさ・形状	地球の大きさ、形と測量の原理について講義する
第4回	誤差の種類	誤差の種類と対処方法について講義する
第5回	最確値の計算法	誤差を除去し最も確からしい値を計算する方法の計算実習を行う
第6回	各種測量とその原理	角測量、距離測量、GPS測量、トータルステーションを用いた測量、簡易測量の原理と方法について講義する
第7回	水準測量の原理	水準測量の原理、使用する機器について講義する
第8回	水準測量の機器の使用 方法	レベルの使用法を習得する
第9回	水準測量の観測方法	観測方法の習得と観測方法による誤差の除去方法を学ぶ
第10回	水準測量の往路観測	構内において水準測量の往路の観測実習を行う
第11回	水準測量の復路観測と 観測値の点検方法	構内において水準測量の復路の観測実習及び観測値の点検方法を習得する
第12回	水準測量の観測データの 整理法	観測データの整理方法について講義する
第13回	水準測量実習データを用いた データ整理	実習で行った観測データの整理する
第14回	標高の最確値の計算	観測結果を使用して新点の標高及び最確値等を計算する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題の宿題は、次の授業時までに必ず提出すること。
授業時間内に終了しなかったデータ整理はグループごとに協力して次に授業時までに終わらせておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
参考書：長谷川 昌弘・川端 良和『改訂第3版 基礎測量学』電気書院

【参考書】
書店では測量学に関するさまざまなテキスト、図解テキストが売られている。自分の興味やレベルに応じた本を参考とするとよい。
中堀義郎ほか著『絵で見る基準点測量 第2版』日本加除出版
斉藤博ほか著『新版 教程 基準点測量』山海堂

【成績評価の方法と基準】
平常点(20%)、授業中に行う計算・測量の成果（最終課題）(50%)、実習態度(30%)を総合して評価する。提出物の欠如者には単位は与えられない。
なお、測量学及び測量実習 I を履修する場合は、測量学及び測量実習 II も同時に履修すること。測量学及び測量実習 I だけの履修は認めない。また、受講を希望する者は第1回授業から出席すること。
また、使用する教室の関係から抽選によって履修者の決定を行う場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
講義・実習は基礎的なものに重点を置き、測量の基礎について修得を目指す。また、測量機器の操作方法等の実習内容について判りやすい説明を行う。

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓を必ず持参すること。

【その他の重要事項】
国土地理院職員として測地測量に従事した者が、高さを測る水準測量を中心に講義及び実習を指導する。
授業がオンライン実施に変更となった場合は、Zoom を使用してリアルタイムで実施する。なお、実習についてはサンプルデータを使用した測量計算の演習とする。

【Outline (in English)】
This course introduces land surveying, that is the method used to get geo-spatial information regarding position, especially focusing on levelling survey.
In this class, studies along with actual practice will be held for learning the basic theories concerning surveying, all with the aim of learning the basics of surveying.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end reports and the results of practices: 50%, in class contribution: 50%.

GEO300BF（地理学 / Geography 300）

測量学及び測量実習Ⅱ

菅 富美男

授業コード：A3462 | 曜日・時限：金4/Fri.4
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年
備考（履修条件等）：「測量学及び測量実習Ⅱ」を履修する場合は、
「測量学及び測量実習Ⅰ」も同
時に履修すること。
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「測量学及び測量実習Ⅰ」に引き続き、測地測量のもう一つの柱である水平位置を求める測量の理論を学ぶとともに実習を行い、測量に関する基礎的技術の習得を目指す。特に、トータルステーションを用いた基準点測量及び最新の測量であるGNSS測量を中心に講義・実習する。

【到達目標】

基準点測量の理論を理解しデータ処理ができるようになる。GNSS測量の原理、方法を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基準点測量の方法について学び、実習を行う。実習で得られたデータに基づいて誤差処理、計算を行う。また、GNSS測量などについても簡単な実習を行う。この授業では、教室で行う講義と実際に機材を使った実習を組み合わせる。課題等のフィードバックは「学習支援システム」及び授業を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	基準点測量の概要と使用機器	基準点測量の概要及び使用機器の原理について講義する
第2回	基準点測量の方法	基準点測量の方法について講義する
第3回	基準点測量の観測計画	トータルステーションを用いた基準点測量の観測計画（選点）の講義する
第4回	基準点測量の観測1	基準点測量の観測方法及び観測結果の許容範囲の見方について講義する
第5回	基準点測量の観測2	トータルステーションを用いて角観測及び距離観測の方法を実習する
第6回	基準点測量の実習1	構内においてトータルステーションを用いた観測点1の観測を実習する
第7回	基準点測量の実習2	構内においてトータルステーションを用いた観測点2の観測を実習する
第8回	基準点測量の実習3	構内においてトータルステーションを用いた観測点3の観測を実習する
第9回	基準点測量データの処理1	観測データ整理を行う
第10回	基準点測量データの処理2	距離補正計算を行う
第11回	基準点測量データの処理3	標高計算を行う
第12回	基準点測量データの処理4	座標計算を行う
第13回	GNSS測量1	GNSS測量の原理及び測量について講義する
第14回	GNSS測量2	GNSS受信機を用いてネットワーク型RTK測量を体験する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題の宿題は、次の授業時までには必ず提出すること。
授業時間内に終了しなかったデータ整理はグループごとに協力して次に授業時までには終わらせておくこと。また、授業時間内で終了しなかった計算は次に授業時までには各自終わらせておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

参考書：長谷川昌弘・川端良和『改訂第3版 基礎測量学』電気書院

【参考書】

書店では測量学に関するさまざまなテキスト、図解テキストが売られている。自分の興味やレベルに応じた本を参考とするとよい。
斉藤博ほか著『新版 教程 基準点測量』山海堂
飯村友三郎ほか著『公共測量教程 TS-GPSによる基準点測量 三訂版』東洋書店

【成績評価の方法と基準】

平常点(20%)、授業中に行う計算・測量の成果（最終課題）(50%)、実習態度(30%)を総合して評価する。提出物の欠如者には単位は与えられない。
なお、測量学及び測量実習Ⅱを履修する場合は、測量学及び測量実習Ⅰも同時に履修すること。測量学及び測量実習Ⅱだけの履修は認めない。また、受講を希望する者は第1回授業から出席すること。
また、使用教室の関係から抽選によって履修者の決定を行う場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

講義・実習は基礎的なものに重点を置き、測量の基礎について修得を目指す。また、測量機器の取り扱いを含め実習内容について判りやすく説明を行う。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓（度分秒単位の60進法の角度入力による三角関数の使用ができる機種を推奨。スマートフォンなどの標準の関数電卓にはない機能なので対応アプリを導入するなど注意）および直定規を必ず持参すること。三角関数を用いた計算を行う。

【その他の重要事項】

国土地理院職員として測地測量に従事した者が、水平位置を求める基準点測量について講義及び実習を指導する。

授業がオンライン実施に変更となった場合は、Zoomを使用してリアルタイムで実施する。なお、実習についてはサンプルデータを使用した測量計算の演習とする。

【Outline (in English)】

In succession of [surveying and survey training I], this course introduces land surveying, especially focusing on the theory of acquiring horizontal position. In particular, a course and practice will be held for control point surveying by total station and the latest GNSS surveying. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end reports and the results of practices: 50%, in class contribution: 50%.

GE0300BF（地理学 / Geography 300）

写真判読 I

八木 浩司

授業コード：A3463 | 曜日・時限：木5/Thu.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地殻変動や気候変動の重合現象として地表は形成されてきた。地表が3次元的に配列された形成年代の異なる地形面から成り立っていることを視覚的に認知することは、地表が隆起したり侵食された結果発達してきたことを考える第一歩となる。この講義では地形図の判読から始まり空中写真を用いた地表の3D判読を学び、実際の地形を空間的に連続する3次元現象であることを認識可能とする。

【到達目標】

地表の3D判読を通して、身近な場所はもちろん遠く離れた場所に関しても地表の3次元的な空間構成を理解し、それらの場所の成り立ちを掘り下げて考察されることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、自然地理学を学ぶ高い志をもつ学生のためのものである。実験室に備わった機材の数に限りがあるので、履修希望者が多い場合は、卒業研究を自然地理学、特に地形学で行いたいとする学生を優先する。ここでは講義形式で用語等の解説をした後、過去の河床・海岸平野として形成された地形面が高低差を持ちながら地表に配列されていることを空中写真判読で実際に認識・把握するためのトレーニングを行う。

授業で判読した地形面を実際に現地で確認するため、6月に土曜日を用いて集中講義形式で、東京駅を起点に都内中心部における地形面や段丘崖の分布を自分の足で確認するための野外学習を行う。受講者は必ず参加のこと。実施日については履修者と協議して決めたい。

自身の関心の深い地域について空中写真判読を行い、その結果を地形発達史的に理解するためのプレゼンテーションを行うとともに、それを取りまとめたレポートに対する評価を個々に行うことで理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地形景観を読む	環境の基層構造として地形を如何に認識するかを学ぶ。
第2回	地理院地図を使いこなす	身近に利用できる地図サイトに入り、その活用法を学ぶ。
第3回	地形面とは何か	景観の中に隠れた段差を読み取る。地形図に示された浸食面、段丘崖、段丘面を読み取る。 事例：東京、大阪、仙台西部
第4回	地形面を読み取る	地形図上に示された扇状地を読み取る。 事例：札幌、山形、松本、富山
第5回	空中写真判読による地表の3D認識1	空中写真判読の原理を理解し、実際に地表の凹凸を確認する。
第6回	空中写真判読による地表の3D認識2	東京首部の空中写真の実体判読によりそこに存在する段差を確認し、それを地形図上に正確にプロットする。
第7回	東京首部の地形を歩く1 東京駅-皇居東御苑-千鳥ヶ淵-憲政記念公園-日本水準原点	空中写真判読結果を参照しながら東京首部を歩き、普段何気なく登り降りしていた坂道が連続する段丘崖であることを確認する。
第8回	東京首部の地形を歩く2 日本水準原点-溜池山王-赤坂見附-市ヶ谷見附	空中写真判読結果を参照しながら東京首部を歩き、普段何気なく登り降りしていた坂道が連続する段丘崖であることを確認する。
第9回	東京首部の地形を歩く3 市ヶ谷見附-東池袋-飛鳥山-田端	空中写真判読結果を参照しながら東京首部を歩き、普段何気なく登り降りしていた坂道が連続する段丘崖であることを確認する。
第10回	地形図上で活断層を読み取る	扇状地や段丘面など数万年以降形成された平坦な地形面の変形を地形図で読み取る。 事例：京都、富山平野・呉羽山断層
第11回	空中写真で活断層を読み取る1	扇状地や段丘面など数万年以降形成された平坦な地形面の変形を空中写真で読み取る。 事例：福島盆地西縁、長野盆地北西縁

第12回	空中写真で活断層を読み取る2	扇状地や段丘面など数万年以降形成された平坦な地形面の変形を空中写真で読み取る。 事例：琵琶湖西岸、山崎断層
第13回	空中写真判読による地域の地形判読	自身の関心のある地域について空中写真判読を用いた段丘区分や活断層判読を行う。
第14回	地形判読結果のプレゼンテーション	前回行った空中写真判読結果をゼミ形式で発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に関連した課題を毎回与えられます。自宅でもインターネットに接続されたパソコンで地理院地図を開きながら課題に対処することが望まれる。GISソフトを日頃から使って、地図を身近なものとして親しんで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配付する。

テキストは指定しない。

【参考書】

貝塚ほか「写真と図で見る地形学」東大出版
貝塚泰平「東京の自然史」講談社学術文庫
岡田・八木「図説日本の活断層」朝倉書店
五百沢「新・歩いていよう東京」岩波ジュニア新書

【成績評価の方法と基準】

提出された各回の授業での課題の評価を素点として合計するとともに、最終回のプレゼンとそのレポートの評価を総合する。その比率はそれぞれ60%および40%とする。
総得点の60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

自宅での学習のためインターネットに接続されたパソコンが必要です。一部の授業ではマルチメディア室を使用します。

【Outline (in English)】

Topography is the most basal structure of environments. Topographic evolution has occurred according to global climatic change and regional tectonic movement since the middle Pleistocene. Outline of this class is to learn geomorphic evolution.

Objectives of this class is to realize the geo-surface is phenomena of 3D by topographic maps and interpretation of aerial photos.

Learning activities outside of the class room will be done in the downtown area of Tokyo on a specific Saturday, in May or June.

Presentation of a study report on a specific region where each student is interested in and chooses to deepen its understanding at the final stage of this class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading policy is according to understanding level of geomorphic evolution based on results of subjects given at each class including the field study report and the presentation. The weighting ratio of the grading is 60% for the reports and 40% for the presentation, respectively. More than 60% of the total score is required to pass in this class.

GE0300BF（地理学 / Geography 300）

写真判読Ⅱ

郭 栄珠

授業コード：A3464 ｜ 曜日・時限：水5/Wed.5
 秋学期授業/Fall・2単位 ｜ 配当年次：2～4年
 備考（履修条件等）：情報実習室での授業となるため受講人数に制限があります。受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ポストデジタル情報時代に求められる社会人を育成するため、写真判読の最先端技術を通してDX人材に求められるスキルについて紹介・説明する。具体的には、航空写真及び人工衛星データからどのような情報が読み取れるのか、目視判読から簡易な画像処理の応用まで実習する。特に、衛星リモートセンシング技術による地形判読から地域性・空間的異質性・歴史性を結びつけることが目的である。さらに、長期的な土地利用変化、効率的な災害状況把握など衛星画像データ分析・活用・応用例や実務スキルにも役に立つ画像データ判読のスキルを学ぶ。

【到達目標】

本講義で使用する高分解能光学衛星画像データは、航空写真と同様に目視判読による情報抽出が容易であり、より広い範囲の地形判読が可能になる。さらに、地形判読の重要性を単画像だけではなく複数画像を使うことにより地形変化の基礎的な知識と判読技術が習得できる。本講義では、航空写真や衛星画像等のさまざまなデジタルデータによるリモートセンシング技術の原理を深く理解し、地理情報システム(GIS)学をもとに簡便に計算できるデータ分析方法や判読力、応用スキルなどを身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
 ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本大学の授業実施方針に従い、対面授業を基本として行います。ただし、状況の変化によっては方針を変更する場合があります。講義の前半は、オンライン講座で地形判読において衛星画像の原理（理論）について学ぶこと、講義の後半は自主学習講座（対面型式）でGISソフトウェアとデジタル画像解析による地形判読の実習トレーニングを行う。実習トレーニングは、日本全国を対象に、各自で興味ある地域を選定し、デジタル空中写真や衛星画像等の実習データをダウンロードし、デジタル写真判読や画像判読が可能になるよう企画力及び分析力を身につけるアクティブラーニング手法である。実習結果は、授業内でのトレーニングファイルやレポート（課題）を提出しフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	衛星リモートセンシングとは？	航空写真と衛星画像との違いを理解する。
第2回	画像処理の基礎：電磁波	衛星画像の原理を理解及び把握する。
第3回	画像処理の基礎：投影法	衛星画像のマッピング原理（座標系）を理解及び理解する。
第4回	画像処理の基礎：幾何補正	統合型GIS上で衛星画像を重ね合わせる手法を理解する。
第5回	宇宙から撮った画像から地形判読（1）：地形分類	高地地形、低地地形、海岸地形
第6回	宇宙から撮った画像から地形判読（2）：可視化	地形の可視化（リニアメント）から断裂系の分布を判読する。
第7回	衛星データ準備：データダウンロード	JAXAのALOS衛星画像とNASAのLandsat, MODIS衛星画像の実習データをダウンロードする。
第8回	3次元地形判読：数値標高モデル(DEM)データ分析実習	地形判読に重要な数値標高モデルDEM (JAXA AW3D30, SRTM, ASTER)の理解およびその3次元分析できる技術を習得する。
第9回	衛星画像を用いた土地被覆分類	衛星画像を用いた地表面土地被覆分類の自動アルゴリズムを理解し、衛星画像の実習データを解析して簡易土地被覆分類の実習を行う。
第10回	水災害による地形判読：洪水氾濫	国内・国外の洪水氾濫事例から洪水地形の特徴を把握し、衛星画像の実習データから洪水範囲の氾濫水を抽出する手法を習得する。
第11回	土砂災害による地形判読：地すべり、土石流、斜面崩壊	国内・国外で発生した地すべり、土石流、斜面崩壊の地形特徴を把握し、衛星画像の実習データを用いて土砂災害事例からその崩壊の判読範囲を描く実習を行う。

第12回	植生指標による地形判読	衛星画像の実習データを分析し、正規化植生指標(NDVI)による植生分類図を試作する。
第13回	GIS データの変換	衛星画像から分類・抽出したデータを組み合わせて使うためGIS標準フォーマットのデータ変換手法を習得する。
第14回	各自の実習成果発表	実習で学んだ内容を基に応用力向上・評価のための各自1分スピーチ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
 ESRI ArcGIS ProやQ-GISのような地理情報関連ソフトウェアの基礎を十分にマスターし、日本の国土地理院やJAXAなどの最近技術動向に興味を持ちながら写真判読に関する情報を事前に学習する必要がある。本授業の準備・復習時間は、各2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。資料は各講義の前・実習中にPDF共有・配布

【参考書】

- 1）JAXAとNASAのHPウェブサイト
- 2）改訂版 図解リモートセンシング 日本リモートセンシング研究会編 （社）日本測量協会
- 3）Q-GIS <https://qgis.org/ja/site/>
- 4）ArcGIS Pro <https://www.esri.com/products/arcgis-desktop/>

【成績評価の方法と基準】

本大学の授業実施方針に従い、対面授業を基本とし、実習成果のスピーチ（60％）、レポート(20%)、出席・平常点（20％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

直近の授業改善アンケートに限らず、学生からの意見や要望などを踏まえた授業改善に取り組む。

【学生が準備すべき機器他】
 該当なし

【Outline (in English)】

This lecture introduces and explains the skills and training approaches required of DX personnel through the latest technology in photo interpretation in order to develop the working adults required in the post-digital information age. Specifically, what kind of information can be read from aerial photographs and satellite data will be practiced, from visual interpretation to the application of simple image processing. 【Goal】 The high-resolution optical satellite imagery used in this course, like aerial photographs, can be easily extracted by visual interpretation, enabling terrain interpretation over a wider area. In addition, the importance of terrain interpretation is emphasized through the use of multiple images, not just a single image, so that students can acquire basic knowledge of terrain change and interpretation techniques. This course aims to provide students with a deep understanding of the principles of remote sensing technology using various digital data such as aerial photographs and satellite images, and to acquire data analysis methods, interpretation skills, and application skills that can be easily computed based on geographic information system (GIS) studies.

【Learning activities outside of classroom】

With the fundamentals of geographic information-related software such as ESRI ArcGIS Pro and Q-GIS, It is necessary to research relevant information on photographic decipherment with interest in recent technological trends from Japan's GSI, JAXA, and other agencies. Standard preparation and review time for this class is approximately 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

This class will be evaluated by speeches (60%), reports (20%), and attendance/ordinary points (20%) resulting from the practical training.

GEO300BF（地理学 / Geography 300）

外書講読（1）

小寺 浩二

授業コード：A3469 | 曜日・時限：火5/Tue.5
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、自然地理学を構成する主要な柱とも言える気候、地形、水文などの各分野に関する外国語（主として英語）の文献をバランスよく読み、その内容を適正に理解することにある。また英語で書かれた論文をまとめ、レビューを行い、その内容を英語で発表することができるようになる。

授業の前半では、指定した範囲の日本語訳を提出し、講義中に発表する形式を取り、後半では、英語の論文レビューと英語での発表を行う。

【到達目標】

本授業を受講する学生のすべてが、英語で書かれた基本的な自然地理学分野の教科書を自ら読むことができ、英語で書かれた論文をレビューし、その内容を英語で発表できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は学習支援システムを利用して自習・課題提出型のオンデマンド形式で行う。地理学の基本である自然地理学の各分野に関連する基礎的な外国語の文献を、学習支援システム上に教材・課題として授業開始時間までに毎回アップロードし、受講者に配布する。受講者は指定された課題を期日までに学習支援システム上で提出する。また、英語で書かれた論文を検索し、リストを作成した上で、レビューし、英語で内容を発表できるようにする。提出された課題に関しては、毎回評価を示し、模範的な解答も示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	自然地理学分野の文献講読（1）	自然地理学分野の文献を読んで読解能力をつけるとともに、毎回のテーマに関する課題に英語で解答する。
第2回	自然地理学分野の文献講読（2）	第1回と同様
第3回	自然地理学分野の文献講読（3）	第2回と同様
第4回	自然地理学分野の文献講読（4）	第3回と同様
第5回	自然地理学分野の文献講読（5）	第4回と同様
第6回	自然地理学分野の文献講読（6）	第5回と同様
第7回	自然地理学分野の英語文献検索とリスト化	自然地理学分野の英語論文の検索方法を学び、一覧リストを作成する
第8回	自然地理学分野の英語文献のカード化	選択した英語論文のカード化を行う
第9回	自然地理学分野の英語文献のレビュー	選択した英語論文のレビューを行う
第10回	自然地理学分野の英語論文レビューの発表と質疑応答（1）	自然地理学分野の英語論文レビューの発表と質疑応答

第11回	自然地理学分野の英語論文レビューの発表と質疑応答（2）	第10回と同様
第12回	自然地理学分野の英語論文レビューの発表と質疑応答（3）	第11回と同様
第13回	自然地理学分野の英語論文レビューの発表と質疑応答（4）	第12回と同様
第14回	まとめ	授業を通じての課題と今後の学習についてまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムを通じて配布する文献を読み、和訳した上で課題として与えられた問題を解く。このためには関連する事柄について調べたり、質問事項をまとめておくことが望ましい。学習支援システムに課題提出締切後に解答例をアップするので、各自予習復習に利用して欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

アメリカの自然地理学の大学生レベルの教科書、およびワークブックを使用する。これを学習支援システムを通じてpdfで配布するので、受講者がテキストを購入する必要はない。

【参考書】

・Alan H.Strahler,Arthur N.Strahler (1991)：Modern Physical Geography
・John Farndon (2001)：Amazing Planet Earth,Introducing the planet

【成績評価の方法と基準】

本科目の性格上、課題を提出し、発表することを前提とする。14回の課題を1回10点満点で評価し、最終的に換算することで評価する。最低10回以上課題を提出しない場合は、評価せずEとする。提出課題を40%、講義内での発表を30%、最終発表を30%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書、パソコン、タブレット（学習支援システムを画面で見える場合）。ネットで検索しながら解く課題もある。

【担当教員の専門領域】

＜専門領域＞自然地理学・水文学・陸水学・GISを用いた地域解析
＜研究テーマ＞

- 1）水循環に伴う物質循環
- 2）人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3）GISを用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to read well-balanced foreign-language (mainly English) texts in fields such as climate, topography, and hydrology, which can be said to be the main pillars of physical geography, and to fully understand the content. In addition, students will be able to review papers written in English and present them in English.

All students taking this class will be able to read basic physical geography textbooks written in English, review academic papers written in English, and present their findings in English.

This class will use a learning support system, but will be conducted face-to-face. Basic foreign language materials related to each field of physical geography, which is the basis of geography, will be uploaded in advance to the learning support system as teaching materials and assignments and distributed to students. Students submit assigned assignments through the learning support system by the deadline. In class, the results will be announced, followed by a question and answer session, followed by model answers.

Each class requires at least 3 hours of preparation and review, and grades will be assessed as 40% for each assignment, 30% for class presentations, and 30% for final presentations.

GEO300BF（地理学 / Geography 300）

外書講読（2）

村田 陽平

授業コード：A3470 | 曜日・時限：金3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、人文地理学に関する英語文献の講読を行います。今年の授業では文化地理学の文献を扱います。英語文献を読むことで英語で書かれたアカデミックな文章に慣れるとともに、人文地理学に関する理論や概念、事象の内容を理解し、かつ、それらの理論や概念、事象が英語によってどのように表現・説明されるのか理解することを目的とします。

【到達目標】

本科目を通じて英語文献の読解力を養うとともに、人文地理学、特に文化地理学に関する基礎的な理論や事象についての知識を修得することを目標とします。また、人文地理学の理論や概念、事象に関しての英語での表現力を修得できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本科目ではテキストである英語文献について講読を行います。各回の担当者が担当箇所について翻訳・解釈を行ったうえで、その内容に関して受講生全員でディスカッションを行います。したがって、担当者以外の受講生も各回の該当部分の英語文献を読み、読解しておくことが求められます。

テキストの内容に関する質問に対しては、その授業内でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的・趣旨の説明／発表回・担当者の決定
第2回	文献の読解・検討（1）	担当者による読解・発表・解説とディスカッション
第3回	文献の読解・検討（2）	担当者による読解・発表・解説とディスカッション
第4回	文献の読解・検討（3）	担当者による読解・発表・解説とディスカッション
第5回	文献の読解・検討（4）	担当者による読解・発表・解説とディスカッション
第6回	文献の読解・検討（5）	担当者による読解・発表・解説とディスカッション
第7回	文献の読解・検討（6）	担当者による読解・発表・解説とディスカッション
第8回	解説・総合討論（1）	英文における人文地理学の理論・概念・事象の整理・確認
第9回	文献の読解・検討（7）	担当者による読解・発表・解説とディスカッション
第10回	文献の読解・検討（8）	担当者による読解・発表・解説とディスカッション
第11回	文献の読解・検討（9）	担当者による読解・発表・解説とディスカッション
第12回	文献の読解・検討（10）	担当者による読解・発表・解説とディスカッション
第13回	文献の読解・検討（11）	担当者による読解・発表・解説とディスカッション
第14回	解説・総合討論（2）	英文における人文地理学の理論・概念・事象の整理・確認／総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本科目は、各回のテーマに関連する英語文献を読み、それに基づいて討論を展開することになるので、各回の発表者だけでなく、受講者全員が文献を精読しておくことが求められます。なお、本科目の基本的な準備・復習時間は、各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

海外の主要な地理学誌に掲載された論文を読みます。

【参考書】

授業内にて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

担当時における発表内容：60％、討論内容（発言など）：40％で評価します。発表については十分な準備が大前提となり、英文の読解の程度ならびにプレゼンテーションの内容について評価します。

また、討論については、疑問点・問題点を整理しつつ、論拠を提示した上で自身の考えを表明する発言を高く評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度に初めて担当する科目であるので、これまでの経験からの気づきはありません。ただし、本科目では受講生によって理解度の差が生じることが想定されるので、それぞれの理解度に留意しながら、授業を進めていくようにします。

【その他の重要事項】

初回の授業にて、各回の発表担当者・担当部分を決めます。したがって、受講希望者はかならず初回授業に参加するようにしてください。

【Outline (in English)】

This course introduces various theories, concepts and matters about human geography, to students taking this course by reading the English literature. Especially, this course deals with the cultural geography in this year.

The goals of this course are to be able to consider the theories, concepts and matters of human geography, and to get higher reading comprehension of English literature.

Before /after each class meeting, students will be expected to spend each 2 hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: making a presentation (60%) and in-class contribution(40%).

GEO300BF（地理学 / Geography 300）

地理情報システム（GIS）Ⅰ

中山 大地

授業コード：A3471 | 曜日・時限：金1/Fri.1
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年
備考（履修条件等）：春学期の「地理情報システム（GIS）Ⅰ」を履修する場合は、春学期「地理情報システム（GIS）Ⅱ」も同時に履修すること。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デスクトップ型GISであるArcGIS Proを用いて、GISの基本的な操作方法を習得することを目標とする。本講義ではさまざまなGISデータを用いて、ベクタ型・ラスタ型データの基本的な分析方法を学ぶ。

【到達目標】

GISを用いてベースマップやコロプレスマップが作成できるようになることが本授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

20分程度の説明と80分程度の実習を行う。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス・GISの基本的な操作1	授業ガイダンス・GISの概念と構成、空間データの視覚化
第2回	GISの基本的な操作2	地図とGIS、空間データの構造、地図の投影法、地形表現
第3回	属性テーブル入門1	属性テーブルの概念、基本的な操作
第4回	属性テーブル入門2	属性検索
第5回	属性テーブル入門3	属性結合
第6回	ネット上のデータの利用1	センサスデータのダウンロードとコロプレスマップの作成
第7回	ネット上のデータの利用2	センサスデータのマージ
第8回	ネット上のデータの利用3	国土数値情報を用いた地図の作製、座標系の変換
第9回	数値地図の利用1	数値地図のインポート、座標系の変換
第10回	位置情報の取得と表示1	経緯度座標からのXYデータ作成
第11回	位置情報の取得と表示2	アドレスマッチングによるXYデータの作成
第12回	人口分布の推定1	センサスデータとジオプロセッシングを用いた面積按分による人口推定
第13回	人口分布の推定2	センサスデータとジオプロセッシングを用いた面積按分による人口推定
第14回	レポートの作成	レポートとしてGIS操作マニュアルを作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使わないが、参考書に挙げる文献が役立つ。

【参考書】

野上ほか(2001)『地理情報学入門』、古今書院。
佐土原ほか(2005)『図解!ArcGIS一身近な事例で学ぼう』、古今書院。
高橋ほか(2005)『事例で学ぶGISと地域分析—ArcGISを用いて』、古今書院。
村井ほか(2005)『GIS実習マニュアル ArcGIS版』、日本測量協会。
橋本雄一(2019)『五訂版 GISと地理空間情報: ArcGIS 10.7とArcGIS Pro 2.3の活用』、古今書院。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（80%）、平常点（20%）で成績を決める。講義は出席するのが前提であるため、出席率70%以下の学生に対しては成績をつけない。毎回の課題提出をもって平常点とする。レポートはGISの操作マニュアルの作成である。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

情報教室を使用する。作業用にUSBメモリ（16GB以上の空き容量推奨）を使用するため、必ず用意すること。

【その他の重要事項】

1. 時間割上は春学期金曜1限に「地理情報システム（GIS）Ⅰ」（授業コードA3471）、春学期金曜2限に「地理情報システム（GIS）Ⅱ」（授業コードA3472）となっているが、実際には4月・5月の金曜1限・2限に「地理情報システム（GIS）Ⅰ」（授業コードA3471）を実施し、6月・7月の金曜1限・2限に「地理情報システム（GIS）Ⅱ」（授業コードA3472）を実施する。
2. 本授業を履修する場合には、春学期開講の「地理情報システム（GIS）Ⅱ」（授業コードA3472）も同時に履修すること。本授業のみの履修は認めない。
3. 本授業を履修する場合は秋学期開講の「地理情報システム（GIS）Ⅰ」（授業コードA3903）および「地理情報システム（GIS）Ⅱ」（授業コードA3904）の履修は認めない。
4. 本授業の単位が取得できなかった場合は、本年度の春学期開講「地理情報システム（GIS）Ⅱ」（授業コードA3472）の単位も取得できない。
5. 受講を希望する学生は必ず初回の授業前日までにHoppiiに自己登録すること。期限までに自己登録をしない学生は受講を許可しないので注意すること。
6. 情報教室は使用可能台数が限られているため、受講希望者が多数の場合には秋学期の受講を指定することがある。
7. 遅刻はグループのメンバーに迷惑をかけ授業の進行に支障をきたすため厳禁である。10分以上の遅刻2回で欠席1回とするから注意すること。

【Outline (in English)】

【Outline】

The objective of this lecture is to learn the basic operation of GIS using ArcGIS Pro, which are desktop GIS. In this lecture, we learn basic analysis methods of vector and raster data using various GIS data.

【Work to be done outside of class】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Grades will be determined by the final report (80%) and normal scores (20%). Attendance is a prerequisite for lectures, so students with attendance rates below 70% will not receive a grade. Students are expected to attend the lectures. The report is to write a GIS operation manual.

【Others】

Students who wish to take this course must register on Hoppii by the day before the first class. Students who do not register by the deadline will not be allowed to take the course. The first class will be held online.

GEO300BF（地理学 / Geography 300）

地理情報システム（GIS）Ⅱ

中山 大地

授業コード：A3472 | 曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年
備考（履修条件等）：春学期の「地理情報システム（GIS）Ⅱ」を履修する場合は、春学期「地理情報システム（GIS）Ⅰ」も同時に履修すること。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
デスクトップ型GISであるArcGIS Proを用いて、GISの応用的な分析手法を学ぶ。

【到達目標】
GISを用いた分析能力を習得し、課題を解決するために自らデータを収集・作成し、分析し、結論を導き出せるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
PBL (Problem Based Learning)を行う。2名一組のグループごとに、ある地域の災害避難場所を仮定し、GISを用いてその避難所の設置プランを評価することが課題である。3回目の実習終了時に全体的な計画書を提出する。それ以降は必要なテクニックを教授しながら作業を行う。毎回の作業後には作業報告を作成し、レポートとして最終報告書を提出する。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	GISを用いた避難場所の評価手法の説明1	加重コスト距離を用いた空間分割と避難圏の分析
第2回	GISを用いた避難場所の評価手法の説明2	ジオプロセッシングを用いた避難圏の人口推定
第3回	計画書の作成	作業方針を決定
第4回	作業1	災害弱者の定義、避難所選定方針の決定
第5回	作業2	必要なデータの入手1（位置情報を取得することにより、避難所データを入手・作成する）
第6回	作業3	必要なデータの入手2（属性結合による人口データの作成）
第7回	作業4	加重コスト距離を用いた空間分割による避難圏の算出1（ベクトルデータからラスターデータへの変換、空間分割）
第8回	作業5	ジオプロセッシング・面積按分を用いた災害弱者数の推定
第9回	作業6	結果の検討1（避難所・避難圏の評価）
第10回	作業7	キャッチアップ
第11回	作業8	加重コスト距離を用いた空間分割による避難圏の算出2（別シナリオによる作業）
第12回	作業9	結果の検討2（避難所・避難圏の再評価）
第13回	作業10	レポート作成1（結果の地図化など）
第14回	作業11	レポート作成2（結果の考察など）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使わない。プリントを公開する。

【参考書】
プリントを公開する。

【成績評価の方法と基準】
レポート課題1回（最終報告書、100点満点）で成績を決める。講義は出席するのが前提であるため、出席率70%以下の学生に対しては成績をつけない。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【学生が準備すべき機器他】
情報教室を使用する。作業用にUSBメモリ（16GB以上の空き容量推奨）を使用するため、必ず用意すること。

【その他の重要事項】
1. 時間割上は春学期金曜1限に「地理情報システム（GIS）Ⅰ」（授業コードA3471）、春学期金曜2限に「地理情報システム（GIS）Ⅱ」（授業コードA3472）となっているが、実際には4月・5月の金曜1限・2限に「地理情報システム（GIS）Ⅰ」（授業コードA3471）を実施し、6月・7月の金曜1限・2限に「地理情報システム（GIS）Ⅱ」（授業コードA3472）を実施する。
2. 本授業を履修する場合には、春学期開講の「地理情報システム（GIS）Ⅰ」（授業コードA3471）も同時に履修すること。本授業のみの履修は認めない。
3. 本授業を履修する場合は秋学期開講の「地理情報システム（GIS）Ⅰ」（授業コードA3903）および「地理情報システム（GIS）Ⅱ」（授業コードA3904）の履修は認めない。
4. 本授業の単位が取得できなかった場合は、本年度の春学期開講「地理情報システム（GIS）Ⅰ」（授業コードA3471）の単位も取得できない。
5. 受講を希望する学生は必ず初回の授業前日までにHoppiiに自己登録すること。期限までに自己登録をしない学生は受講を許可しないので注意すること。
6. 情報教室は使用可能台数が限られているため、受講希望者が多数の場合には秋学期の受講を指定することがある。
7. 遅刻はグループのメンバーに迷惑をかけ授業の進行に支障をきたすため厳禁である。10分以上の遅刻2回で欠席1回とするから注意すること。

【Outline (in English)】
【Outline】
The aim of this course is to learn application of Geographic information Systems using active learning (PBL and group work) using ArcGIS Pro. In this exercise, students work in pairs to conduct Problem Based Learning (PBL).
The task is to evaluate the establishment plan of a disaster shelter in a certain area by using GIS. The students are required to submit an overall plan at the end of the third practical session. After that, the students work according to the plan. Students are required to submit a work report each time and a final report at the end of the semester. Submission of reports and feedback will be done through the learning support system (Hoppii).
【Work to be done outside of class】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading criteria】
Grades will be determined by the final report (80%) and normal scores (20%). Attendance is a prerequisite for lectures, so students with attendance rates below 70% will not receive a grade. The final report is to write a GIS operation manual.
【Others】
Students who wish to take this course must register on Hoppii by the day before the first class. Students who do not register by the deadline will not be allowed to take the course.
The first class will be held online.

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

文化地理学 (1)

吉野 裕

授業コード：A3482 | 曜日・時限：火1/Tue.1
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は地理学分野のひとつである「文化地理学」をテーマにしています。文化地理学の研究対象は、たとえば、都市や集落の景観、言語、宗教、衣食住、社会集団、世界観（人々の空間のとらえ方）など非常に多様です。この授業では文化地理学の学問上の位置づけや、これがどのようなテーマで研究されてきたか、研究史にもふれながら紹介していきます。その際に、文化地理学の研究がいかなる方法・資料を用いて行われてきたかについても具体的に説明します。みなさんはこの科目を履修することにより、文化地理学の研究上の視野が極めて広く、なおかつ、その研究手法が非常に多様であることを深く理解できるでしょう。

【到達目標】

- ①文化地理学の学問上の位置づけとその研究史について説明できる。
- ②文化地理学の視点でなされた研究の特徴、ならびに、その研究方法について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・授業形態：講義。
- ・毎回、リアクションペーパー（成績評価に使用します）に授業に関する質問・意見を記載し、これを提出していただきます。
※質問・意見に関するフィードバックを次の授業で行います。
- ・毎回、資料を配付します。インターネットを通じての配布・配信はいたしませんのでご注意ください（欠席された場合は、翌週、お声がけ下さい）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	受講上の注意事項と文化地理学の学問上の位置づけを確認しよう
第2回	文化地理学の歴史①	環境論とは何か？
第3回	文化地理学の歴史②	多様化する研究の視点
第4回	文化地理学の研究とその方法とは？	海外でのフィールドワークの紹介
第5回	「地域のとらえ方」について学ぼう①	等質地域と機能地域から地域構造を把握しよう
第6回	「地域のとらえ方」について学ぼう②	「農作物の世界的な旅」から分布が形成される仕組みを把握しよう
第7回	「地域のとらえ方」について学ぼう③	メンタルマップ・知覚と行動
第8回	「地域のとらえ方」について学ぼう④	好きな空間と嫌いな空間
第9回	文化地理学の研究の紹介①	言語
第10回	文化地理学の研究の紹介②	風土に根ざした生業・生活文化
第11回	文化地理学の研究の紹介③	宗教と人口
第12回	文化地理学の研究の紹介④	民俗
第13回	文化地理学の研究の紹介⑤	ジェンダー
第14回	試験・総括	試験の実施と授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①授業で学修した専門用語の定義を地理学の事典などで調べる。
- ②授業内容に関する図書などを採し、これらを読んで知識を獲得する。毎回、授業の前後に上記①・②の準備学習・復習を行って下さい（合計4時間を毎回の標準とします）。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

- ・森 正人・中川 正『文化地理学ガイダンス 改訂版』ナカニシヤ出版、2022年（第1版）。
- ・高橋伸夫・田林 明・小野寺 淳・中川 正『文化地理学入門』東洋書林、1995年（第1版）。
- ・千葉徳爾『文化地理入門』大明堂、1991年（第2版）。

【成績評価の方法と基準】

- ①授業内テスト:第14回の授業時に試験を実施します(70%)。
 - ②授業参画度:毎回、リアクションペーパーに授業に関する質問・意見などを記載して提出していただきます。その内容をもとに授業の理解度を評価します(30%)。
- 上記の①・②をもとに、成績を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーに記載いただいたご質問・ご意見をふまえて授業を進めて参ります。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

- ①非常勤講師につき、オフィスアワーの設定はありません。授業の前後に質問や書類へのサイン・受け取りなどに対応しますので、お声がけ下さい。
- ②やむを得ない事情で授業形式を変更したり、休講したりする場合、大学LMSの「文化地理学 (1)」のページを通じてお知らせいたします。重要な情報を見逃さないようにご確認ください。

【Outline (in English)】

- ・Course outline: The objective of this course is to understand the methods of study on cultural geography, and to obtain wide knowledge of it.
- ・Grading Criteria /Policy: By the end of this semester, students will be able to explain the methods of study on cultural geography, and regional characteristics originated in nature, culture, economy, population, and so on.
- ・Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant books and dictionaries. Your required study time is at least four hours for each class meeting.
- ・Grading Criteria /Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 70%, reaction papers: 30%

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

文化地理学 (2)

川添 航

授業コード：A3483 | 曜日・時限：金3/Fri.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

文化地理学の対象と手法をさまざまなトピックから学ぶ。受講生が文化地理学を身近なものに結び付けて考察できるようになることを目的とする。

【到達目標】

文化地理学のさまざまな知識や概念、方法を学び、文化地理学の深層を理解できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

文化地理学に関連する教科書をもとに、文化地理学のさまざまなトピックを学ぶ。授業末にコメントシートの作成を指示することがあるため、必要に応じて作成・提出すること (次回以降の授業時にフィードバックを行うことがある)。高等学校等で使用していた地図帳を持参することがのぞましい。あわせて、授業ノートを準備すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：地理学における「文化」	文化地理学とは？
第2回	文化地理学の展開①：環境と景観	環境決定論と環境可能論
第3回	文化地理学の展開②：自然環境の変化と人間活動	自然環境の変化と人間活動の影響
第4回	文化地理学の展開③：文化と地域	「地域」という考え方と人間活動
第5回	文化地理学の展開④：人間の知覚とメンタルマップ	メンタルマップが示すもの
第6回	文化地理学の展開⑤：文化と都市・農村関係	都市と農村における文化とその結びつき
第7回	文化地理学の展開⑥：文化の政治学 (ポリティクス)	政治と環境・地域・景観
第8回	文化地理学の展開⑦：文化地理学の調査手法	文化地理学に関連する地域調査の方法
第9回	都市の文化地理：都市構造の転換と祭礼	都市と環境・地域・景観
第10回	ものづくりの文化地理：伝統的工芸品の流通と消費	伝統工芸と環境・地域・景観
第11回	観光の文化地理①：観光と環境・地域・景観	観光と環境・地域・景観
第12回	観光の文化地理②：観光資源としての文化	観光資源の創出と環境・地域・景観
第13回	宗教の文化地理①：宗教と環境・地域・景観	宗教現象と環境・地域・景観
第14回	宗教の文化地理②：現代社会と宗教の変化	現代社会と宗教との結びつき

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストとともに各回授業では参考文献を提示するので、そこに示された著書や論文に目を通したうえで準備学習・復習等に臨んでほしい。また、受講時に作成したノートや授業動画を見直し、講義の内容について復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教科書は指定しない。参考文献については授業内で適宜指示する。

【参考書】

森 正人・中川 正(2022)：『文化地理学ガイダンス [改訂版]』(ナカニシヤ出版) ¥2,400
中俣均編(2011)：『空間の文化地理』(朝倉書店)¥4,180
竹中克行・大城直樹・梶田 真・山村亜希編(2009)：『人文地理学』(ミネルヴァ書房) ¥3,000
高橋伸夫・田林 明・小野寺 淳・中川 正(1995)：『文化地理学入門』(東洋書林) ¥2,500

【成績評価の方法と基準】

平常点 (コメントシートなどの内容、参加態度で評価) (20%)、期末レポート (80%) で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

可能な限り文化地理学 (1) を履修したうえで登録・履修してほしい。授業の進み具合や受講者数により授業計画を変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

This course deals with Cultural Geography. It also enhances the development of students' skill in Cultural Geography. The aims and the goals of this course is to help students acquire an understanding of the contemporary Cultural Geography. At the end of the course, students are expected to realize the contemporary Cultural Geography. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, which will need 2hours. Final grade will be decided based on the exam and class participations. Grading will be based on regular points (based on the contents of comment sheets, etc., and participation attitude) (20%), and the final report (80%).

GEO300BF（地理学 / Geography 300）

自然地理学特講（1）

藁谷 哲也

授業コード：A3500 | 曜日・時限：月4/Mon.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一般に、地形変化が生じる前に地形を構成する物質（地形物質）は、風化プロセスによる強度低下を起こす。強度低下によって、地形はより侵食されやすくなる。侵食プロセスが進むためには、風化による地形物質の強度低下（劣化）は不可欠である。このことから、風化プロセスは地形変化の準備段階として重要な意味を持っている。この講義で学生は、さまざまな風化プロセスとそれらのメカニズム、地形変化との関係性について学習し、地形変化に関する理解を深めることができる。

【到達目標】

学生は、地形変化の仕組みに風化作用がかかわっていることや身近に豊富な事例のあることが説明できる。地形の形成・変化と岩石の風化プロセスの関連性について、いくつかの事例をもとに説明することができる。また、講義を通じて得た経験や学修から得られた豊かな知識と教養を基に、自己の倫理観を倫理的な課題に適用することができる。入手した客観的な情報を基に、論理的・批判的な思考をすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進める。パワーポイントのスライドや配布教材をもとに説明し、グループワーク、レポート作成やテスト等も適宜実施する。授業に対する質疑応答、およびテスト・レポート等の課題に対するフィードバックは、いずれも教室あるいは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義のテーマや到達目標および講義の方法について説明する。 【事前学習】シラバスを事前に確認し、地形学の学習内容を確認する。(2時間) 【事後学習】学習支援システムの教材を復習し、不明箇所を参考資料から調べる。(2時間)
第2回	地形を構成する岩石の物性	地形構成物質の物理的・化学的性質を説明する。 【事前学習】地形学実験のテキストを確認する。(2時間) 【事後学習】岩石物性についてノートに整理する。(2時間)
第3回	熱風化プロセス	熱疲労と熱衝撃破砕について説明する。 【事前学習】乾燥地域の分布をノートにまとめる。(2時間) 【事後学習】岩石の熱破砕についてノートに整理する。(2時間)

第4回	乾湿風化プロセスと粘土鉱物	乾湿風化プロセスと粘土鉱物について説明する。 【事前学習】大谷石について調べておく。(2時間) 【事後学習】粘土鉱物の特徴をノートに整理する。(2時間)
第5回	塩類風化プロセスと微地形形成	塩類風化プロセスと微地形形成について説明する。 【事前学習】塩類について知識を得ておく。(1時間) 【事後学習】タフオニと塩類風化の関係をノートに整理し、関連文献をもとにレポートを作成する。(3時間)
第6回	凍結風化プロセスと周氷河地形	凍結風化プロセスと周氷河地形について説明する。 【事前学習】周氷河地形について調べる。(2時間) 【事後学習】凍結風化プロセスと地形変化についてノートに整理する。(2時間)
第7回	シーティングおよび生物の物理的風化プロセス	シーティングおよび生物活動由来の風化プロセスについて説明する。 【事前学習】インゼルベルクについて調べておく。(2時間) 【事後学習】生物風化の事例をノートに整理する。(2時間)
第8回	化学的風化プロセスおよび溶食地形	化学的風化プロセスおよび溶食地形について説明する。 【事前学習】カルスト地形について調べる。(2時間) 【事後学習】鉱物の科学的風化の順位を整理する。(2時間)
第9回	風化殻の形成と発達	風化殻の形成と発達について説明する。 【事前学習】土壌化のプロセスについて調べる。(2時間) 【事後学習】風化とマスマーブメントの関係を整理する。(2時間)
第10回	風化制約環境と運搬制約環境	気候と風化プロセスおよび風化制約環境と運搬制約環境について説明する。 【事前学習】気候区分図を地図帳で確認する。(2時間) 【事後学習】風化制約の地形変化を整理する。(2時間)
第11回	岩石の風化速度	岩石の風化速度について説明する。 【事前学習】石造文化財の劣化について調べる。(1時間) 【事後学習】風化速度の特徴を整理し、指定文献をもとにレポートを作成する。(3時間)
第12回	石造文化財の保存・修復に対する風化研究の貢献	カンボジア・アンコール遺跡に☒られる風化プロセスを例に風化研究の貢献を説明する。 【事前学習】アンコール遺跡についてインターネットで調べる。(2時間) 【事後学習】アンコール遺跡の風化の特徴を整理する。(2時間)
第13回	組織地形と岩石制約論	組織地形と岩石制約論について説明する。 【事前学習】地形変化と風化の関係をまとめる。(2時間) 【事後学習】風化プロセスについて整理する。(2時間)

第14回 試験・総括

期末試験を行うとともに、これまでの学修内容の解説を行い、授業の理解を深める。
【事前学習】第1回から第13回までの講義内容を復習する。(2時間)
【事後学習】試験内容を振り返り、学修課題を見つける。(2時間)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業計画の各回ごとに記載。事前に、授業計画に示した講義テーマに関する基礎知識を参考図書やインターネットなどから得ておくこと。また、講義後は質問や参考資料などで疑問点を解消し、講義内容をノートにまとめること。これら事前、事後の準備学習（予習、復習）には1回につき4時間以上かかると想定されます。

【テキスト（教科書）】

使用しない。講義資料を配布します。

【参考書】

松倉公憲 『地形変化の科学－風化と侵食－』 朝倉書店 2008年 第1版

松倉公憲 『地形学』 朝倉書店 2021年

上記を推薦します。その他、講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内テスト:授業内で実施し、評価します(50%)。

授業参画度:授業中の質問に対する取り組み、回答、レポート、およびグループワークの成果などから評価します(50%)。

成績評価は、これらをもとにした総合評価です。

【学生の意見等からの気づき】

隔年開講科目につき、前年度のアンケート結果はありません。一般に自己学習時間が短いようなので、課題を出題して図書館や参考図書の利用を積極的に促したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等では、学習支援システムを利用することがあります。

【その他の重要事項】

授業計画を参考にして、参考書やインターネットなどから授業の前に基礎知識を獲得して準備する。授業後は、講義内容を整理してノートにまとめる。講義内容に対する質問や意見をするようにしてください。

【Outline (in English)】

In this lecture, students will get an understanding of the different weathering processes, their mechanisms and their relationship to landform changes. Students can explain the involvement of weathering processes in the mechanisms of landform change and the abundance of familiar examples. Students can explain the link between the formation and change of landforms and the weathering process of rocks, based on some examples.

Students are also able to apply their own sense of ethics to ethical issues, based on the wealth of knowledge and education they have gained from their experience and studies through this lecture. They are able to think logically and critically on the basis of objective information obtained.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (40%), term-end examination (50%), and in-class contribution(10%).

GEO100BF（地理学 / Geography 100）

地学実験(1)（コンピュータ活用含む）

吉岡 美紀

授業コード：A3510 | 曜日・時限：火3/Tue.3
春学期授業/Spring・1単位 | 配当年次：2022年度以前入学生
1～4年、2023年度以降入学生2～4年年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地学のうち、主に地形学に関わる内容を、野外での簡易測量、実際の地形の観察、簡易地形模型の作製、3D判読などにより、総合的に学習する。これらの実習を通して各人が地形学の基礎を修得することを目標とする。

【到達目標】

地学、特に地形学に関わる内容を、この実習を通してより深く理解し、自分のものとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・この授業では、キャンパス周辺にでかける回と、室内作業を行なう回があります。
- ・毎回、作業結果(課題)とリアベの提出があります。
- ・提出された課題等は返却し、必要な場合は授業中に解説します。
- ・授業計画は天候等によって順番が前後することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と進め方の説明 /野外地形観察の準備
第2回	PCの地図	ネット地図の活用
第3回	野外地形観察 1	キャンパス周辺の地形観察、市ヶ谷周辺
第4回	地形実体視	アナグリフ(赤青メガネ)による地形実体視
第5回	野外地形観察 2	キャンパス周辺の地形観察、番町周辺
第6回	防災と地図 /地盤液状化実験	地図で防災情報を入手 /地盤液状化実験ボトル作製
第7回	地球の大きさを測る /野外地形観察 3	GPS計測 /キャンパス周辺の地形観察、九段坂付近
第8回	地質図入門	地層境界線を書き入れる
第9回	簡易測量	平面図作成のための簡易測量
第10回	計測データ整理、作図	計測したデータから作図する
第11回	天体望遠鏡	天体望遠鏡の使用方法和星空情報
第12回	鉱物観察	鉱物の洗い出しと実体顕微鏡による観察
第13回	地形模型	簡易地形模型の作製
第14回	展望と地図	高所からの展望で地理情報入手

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業実習で修得した方法を、日常の場面でも活用してみることに。
本授業の準備学習・復習時間はあわせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しませんが、必要な資料を配付します。

【参考書】

- ・フィールドに入る（100万人のフィールドワーカーシリーズ 1）、椎野若菜ほか編、古今書院
- ・フィールドワークの安全対策（100万人のフィールドワーカーシリーズ 9）、澤柿教伸ほか編、古今書院
- その他、必要に応じ提示します。

【成績評価の方法と基準】

実習授業なので、毎回の作業を重視します。
評価割合は、毎回の提出課題が70%、授業への積極的な関与が30%

【学生の意見等からの気づき】

外に出る回は時間が不足しがちなので、前の授業回のうちに一部説明をしておく。

【学生が準備すべき機器他】

野帳を1人1冊、持参してください(例えば「コクヨ、セ-Y3」等)。すでに他の授業で使用しているものがあればそれで可。

【その他の重要事項】

教員の実務経験の内容は、北極観測・研究の補助、中学校地学教員、日本語教員、測量会社での地図関連作業で、それらを授業に生かします。

【Outline (in English)】

This course focuses on the practical skills required to understand geomorphological nature of the earth. The goals of this course for each student are to acquire a basic understanding of geomorphology and make them their own.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Grading will be decided based on tasks, reports (70%) and class contribution (30%).

GEO100BF（地理学 / Geography 100）

地学実験(2)（コンピュータ活用含む）

山口 隆子

授業コード：A3511 | 曜日・時限：火3/Tue.3
秋学期授業/Fall・1単位 | 配当年次：2022年度以前入学生1～4年、2023年度以降入学生2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、気候・気象学を学習・理解するのに要求される基礎的な実験と実習を扱い、測定機材の使用手法やデータの処理方法の習得を目的とする。

【到達目標】

次の3つを到達目標とする。①気候学の分野の研究で利用される図を作成することにより、図から自然現象を理解する知識を身につけること。②気候学の研究で行う観測調査の結果を表現する技能を身につけること。③観測実習に取り組むときに必要な態度、例えば観測を成功させるために共同観測者と協調し、正確なデータを取る態度を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の初めに、前回の授業で提出された課題の解説、及び質問の回答など全体に対してフィードバックを行う。

授業内容の1例として、大学前の外濠周辺で小気候観測を行い、そのデータより気温・相対湿度分布図を作成するなど、いくつかの実験目的を持って授業を展開していく。

気象観測やそのデータの解析など授業ごとにテーマを決め、1～3回の授業時間をかけてそのテーマの報告書を作成し、提出する。そのためには、まず出席して作業の狙いとその内容を十分に理解することが求められるので、出席を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地学実験の履修方法について	半年間の授業の目的、内容について解説。
第2回	地上天気図の基礎と等圧線の書き方	天気図を作成するために基礎的な事項を説明し、等圧線を引く練習をする。
第3回	地上天気図の作成とその読み方	気象通報を聞き取り、天気図作成のためのデータを天気図用紙に記入する。更に、等圧線を引き、天気図を完成させ、分かることを読み取る。
第4回	温湿度計の使い方	アスман通風乾湿計を読む練習とともに、器差補正のデータを集める。また、自記録式温湿度計の使用手法を学ぶ。
第5回	外濠での小気候観測	大学周辺を観測フィールドとして気温・相対湿度の観測をする。
第6回	気温・相対湿度分布図の作成と時刻補正	前回の観測結果を公開・発表し、分布図を作成し、結果を考察する。また、時刻補正による分布図作成も実施する。
第7回	風の観測方法について	携帯用の風向・風速計などを使って、風の測定方法を学習する。
第8回	大学周辺の風の観測	大学周辺で風向・風速計を使って風の観測を行い、風の分布図作成のためのデータを集める。
第9回	風の分布図の作成	大学周辺の風の観測結果を公開・発表し、分布図の作成をする。また、その結果を考察する。
第10回	風配図の作成	アメダスの風のデータから風配図を作成し、考察する。
第11回	気圧の観測	ボアソナードタワーで気圧観測を行い、その変化を確認する。
第12回	アイソプレスの作成	2次元上での3変数の同時表現方法（アイソプレス）の習得とその見方を学習する。
第13回	気候学図の作成	降水量の平均値から日本列島の気候学図を作成し、考察する。
第14回	地学実験のまとめ	半年間の実験の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とする。

テキスト「地理調査法・自然編」の「第Ⅱ編 気候の調査」に各回で行う予定の内容が書かれているので、それを見て事前に内容を予習しておくことで、実習課題にスムーズに取り組める。また、授業中に実習課題が終わらなかった学生は、その課題は次の授業に提出すること。必ず期限内までに提出できるように課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

『観測・実験・モデルで伝える気象教育』榎原保志、成山堂書店、2023年、2,200円＋税

【参考書】

『身近な気象・気候調査の基礎』牛島素行編、古今書院、2000年、2,500円＋税（絶版のため、図書館で借りるか、中古本を探してください）

『卒論・修論のための自然地理学フィールド調査』泉岳樹・松山洋、古今書院、2017年、3,200円＋税

【成績評価の方法と基準】

実験という科目の性格上、各実習課題の報告物を提出し、その内容を重視して評価する。また、平常点として、実験、実習での参加態度も評価する。したがって、定期試験による評価は行わない。評価の配分は、各実習課題の報告物が70%、平常点が30%とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

実験・実習には、色鉛筆、定規（15～30cm程度）、電卓、PCなどを使用するので、各自で準備しておくことが望ましい。持参が必要ときは、前回授業時に指示する。

【その他の重要事項】

観測や作業は6人1組で行う場合があり、欠席するとお互いに不都合が生じる場合があるので、その点に配慮すること。また、作業結果の提出に関しては、その都度指示するので、それに従うこと。作業結果を評価して各自に返却する関係上、遅れての提出は原則として認めないので十分に注意すること。本実験の受講にはその内容理解の点から、「気候・気象学及び実験Ⅰ」を履修していることが望ましい。

なお、実験等があるため履修上限人数は48名とし、初回授業で選抜します。地方公務員（技術職）として、地方公共団体による気象観測の経験を活かし、気象観測方法について講義していきます。

【Outline (in English)】

The course focuses on fundamental experiments and practical training to learn and understand climatology / meteorology.

The aim of this course is to acquire skills for using measuring instruments and process data.

The following three goals are to be achieved.

To acquire the knowledge for understanding natural phenomenon by creating charts which are used in studies of climatology.

To acquire the skills to express the results of observational surveys conducted in climatological research.

To develop the required attitude to engage in observation practice, such as cooperating with co-observers to ensure successful observations and obtaining accurate data.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports : 70%, in Class Participation: 30%

GEO300BF（地理学 / Geography 300）

地理学史

杉山 和明

授業コード：A3513 | 曜日・時限：金5/Fri.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、現代地理学の枠組みを踏まえつつ、地理学史への理解を深めることを目的とする。学術誌の読解を通じて、時代と地域を縦横に行き来しながら、さまざまな地理思想を学んでいく。地理学史のなかでこれまで蓄積されてきた学説や知見を、自らの関心と関連づけて考察できるようになることを目指す。

【到達目標】

地理学史・地理思想の大枠を理解し、それらと受講生自身の地理学的な問題関心とのつながりを主体的に探求できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・まず、地理学史の概要を把握する。次に、一般社団法人 人文地理学会が発行する学術誌『人文地理』の「学界展望（「総説」「学史・方法論）」の読解を行い、さまざまな時代と地域のなかで、固有の地理思想が構築されてきた過程を学んでいく。

・優秀な「小レポート」については講義中に紹介し、さまざまな見解・意見を受講者のあいだで共有していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義の対象・課題、進め方、評価方法
第2回	地理学史の見取り図（1）	古代・中世の地理思想、近代地理学の成立、現代地理学の体系
第3回	地理学史の見取り図（2）	日本における地理学の成立と展開
第4回	学史（1）	『人文地理』62巻3号
第5回	学史（2）	『人文地理』63巻3号
第6回	学史（3）	『人文地理』64巻3号
第7回	学史（4）	『人文地理』65巻3号、66巻3号
第8回	学史（5）	『人文地理』67巻3号、68巻3号
第9回	学史（6）	『人文地理』69巻3号、70巻3号
第10回	学史（7）	『人文地理』71巻3号、72巻3号
第11回	学史（8）	『人文地理』73巻3号
第12回	学史（9）	『人文地理』74巻3号
第13回	学史（10）	『人文地理』75巻3号
第14回	まとめ	これからの地理学に向けて、重要事項の復習・確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

・提示された資料を事前に読んで内容を十分に理解しておくこと。未知の語句については自主的に調べておくこと。

・「小レポート」（200字以上）を毎回執筆し、講義後2日以内に学習支援システムを用いて提出すること。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。

【参考書】

・人文地理学会編 2013.『人文地理学事典』丸善出版。

・日本地理学会編 2023.『地理学事典』丸善出版。

・野間晴雄ほか 2022.『ジオ・パルNEO 地理学・地域調査便利帖』海青社。

・森 正人 2021.『文化地理学講義―〈地理〉の誕生からポスト人間中心主義へ―』新曜社。

・Couper, P. 2014. A Student's Introduction to Geographical Thought. SAGE Publications.

・Cresswell, T. 2013. Geographic Thought: A Critical Introduction. Wiley-Blackwell.

・Holt-Jensen, A. 2018. Geography: History and Concepts. SAGE Publications.

※その他、参考文献・資料は随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・毎回提出する「小レポート」を一つにまとめた「最終レポート」（95%）を中心に、「自己紹介レポート」（5%）の内容も踏まえうえて、総合的に判断する。

・「小レポート」は計9回以上の提出を必須とする。

・「最終レポート」は3,000字以上を必須とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回のフィードバックから得られた知見をもとに、次の授業を改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

・資料配布・課題提出のために学習支援システムなどを活用する。

・視認性・一覧性に優れた情報機器（ノート型PCなど）を必ず持参すること。

【その他の重要事項】

講義計画に従って進める予定だが、進行の具合、時事問題への言及などに応じて、順序や同一テーマの回数を変えることがある。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The purpose of this course is to deepen students' understanding of the history of geography, while keeping in mind the framework of contemporary geography. Through the reading of academic journals, students will learn about various geographical thoughts as they move vertically and horizontally between different ages and regions. The course aims to enable students to consider the theories and findings accumulated so far in the history of geography in relation to their own interests.

(Learning Objectives)

The aim is to understand the broad outlines of the history of geography and geographical thought, and to be able to actively explore the connections between these and the students' own geographical concerns.

(Learning activities outside of classroom)

・The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

・Please read the materials provided in advance and make sure you fully understand the content. If there are any unfamiliar words, please look them up on your own.

・Please write a "short report" (200 characters or more) each time and submit it using the learning support system within 2 days after the lecture.

(Grading Criteria /Policy)

・The final report (95%), which is a compilation of the short reports submitted each time, will be the main factor in the overall assessment, along with the content of the self-introduction report (5%).

・It is compulsory to submit a total of at least 9 short reports.

・The final report must be at least 3,000 characters long.

PHY900BF (物理学 / Physics 900)

物理学概論 I

石川 壮一

授業コード：A3514 | 曜日・時限：水3/Wed.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、物理学の基本分野のうち、力学、熱力学に関する内容を理解することを目的とする。

個々の分野を単に学ぶだけではなく、身の回りで起きている現象が、種々の物理法則と関係していることを再発見し、現象を解析的に見る方法を学ぶ。

【到達目標】

運動、熱等の身の回りの現象とその背後にある物理法則との関係を理解し、種々の応用ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・実際に問題を自分の手で解く演習を交えながら講義する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	物理学の世界	授業内容全般の説明
第2回	力学（1）力	力のつり合い・合成、ベクトルの考え方について学ぶ。
第3回	力学（2）運動の記述	運動の記述の基礎である速度、加速度について学ぶ。
第4回	力学（3）運動法則	力学の基本法則（原理）としてのニュートンの法則の内容を学ぶ。
第5回	力学（4）万有引力の法則	万有引力の法則についてその成立過程も含めて学ぶ。
第6回	力学（5）エネルギー	仕事の定義とエネルギーの概念を学ぶ。
第7回	力学（6）運動量	運動量の定義と運動量が保存されることの意味を学ぶ。
第8回	力学（7）円運動	例題を解きながら円運動について理解する。
第9回	力学（8）いろいろな運動	これまで学んできたことを基に自然界のいろいろな運動を理解する。
第10回	熱学（1）熱現象	温度、圧力など熱の諸現象の基礎的概念について学ぶ。
第11回	熱学（2）熱の正体	熱の移動や伝達、熱とエネルギーとの関係について学ぶ。
第12回	熱学（3）熱と仕事	熱を用いて仕事をする熱機関について学ぶ。
第13回	熱学（4）分子運動	熱に関する現象を、原子・分子の運動で微視的（ミクロ的）に理解することを学ぶ。
第14回	まとめ	力学と熱学のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・演習問題を解く。
- ・授業内容と関連する現象について調べる。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「グラフィック講義 物理学の基礎」 和田純夫著（サイエンス社、2013）

【参考書】

- ・「歴史で学ぶ物理学入門」 足利裕人著（ふくろう出版、2012）
- ・「社会人のための物理学I 古典物理学」 志村史夫著（牧野出版、2015）

【成績評価の方法と基準】

レポート試験（60%）、小テスト等の平常点（40%）

【学生の意見等からの気づき】

演習問題の解説を充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of Newtonian mechanics and thermal dynamics, which are fundamental fields in physics.

The goal of this course is to understand not only contents of each physics law, but also the relation between various phenomena and physics law.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end report (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY900BF (物理学 / Physics 900)

物理学概論Ⅱ

石川 壮一

授業コード：A3515 | 曜日・時限：水3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、物理学の基本分野のうち電磁気学、波動、光学、現代物理学に関する内容を理解することを目的とする。

個々の分野を単に学ぶだけではなく、身の回りで起きている現象が、種々の物理法則と関係していることを再発見し、現象を解析的に見る方法を学ぶ。

【到達目標】

電磁気、波動、光等の身の回りの現象とその背後にある物理法則との関係を理解し、種々の応用ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・実際に問題を自分の手で解く演習を交えながら講義する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	電磁気学（1）電荷と電流	電気やその流れである電流の基本的な事項について学ぶ。
第2回	電磁気学（2）回路	電気機器の基本である電源、配線、電気抵抗等から構成される回路の基礎について学ぶ。
第3回	電磁気学（3）電場と磁場	電磁気学の基本的な考え方となる電場・磁場について学ぶ。
第4回	電磁気学（4）電流と磁場	電磁石（電流の作る磁場）とモーター（磁場中の電流に力が働く）の原理について学ぶ。
第5回	電磁気学（5）電磁誘導と電磁波	電磁誘導（磁場が電流を作り出す）と電磁波の予言について学ぶ。
第6回	波動（1）波動の基本	波動現象の基礎について学ぶ。
第7回	波動（2）光の屈折	光が屈折するときの法則性と屈折が起こる理由、屈折が起こす現象について学ぶ。
第8回	波動（3）光の波動性	偏光・干渉といった光のもつ波の性質について学ぶ。
第9回	現代物理学（1）熱放射	物の色と温度との関係が表す光の粒子性について学ぶ。
第10回	現代物理学（2）光の粒子性	光電効果と原子スペクトルという現象が光の粒子性を示していることを学ぶ。
第11回	現代物理学（3）原子モデルと光の本質	原子モデルを説明するために明らかにされたミクロ世界の法則と光の正体について学ぶ。
第12回	物の色と光（1）いろいろな光	電磁波としての光、自然界の光と色の現象について学ぶ。
第13回	物の色と光（2）天体の光	天体の光からわかることについて学ぶ。
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・演習問題を解く。
- ・授業内容と関連する現象について調べる。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「グラフィック講義 物理学の基礎」 和田純夫著（サイエンス社、2013）

【参考書】

- ・「歴史で学ぶ物理学入門」 足利裕人著（ふくろう出版、2012）
- ・「社会人のための物理学Ⅰ 古典物理学」 志村史夫著（牧野出版、2015）

【成績評価の方法と基準】

レポート試験（60%）、小テスト等の平常点（40%）

【学生の意見等からの気づき】

演習問題の解説を充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of electromagnetism, waves, and light, which are fundamental fields in physics. Also, some selected topics in modern physics will be presented.

The goal of this course is understand not only contents of each physics law, but also the relation between various phenomena and physics law. Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end report (60%) and in class contribution including short reports (40%),

CHM900BF (その他の化学 / Chemistry 900)

化学概論 I

田中 雅人

授業コード：A3516 | 曜日・時限：木2/Thu.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校化学で学ぶ内容について、さらに背景や原理を理解するために、大学の基礎化学の内容に踏み込んで学習します。それによって、扱われている物質や現象を原子・分子レベルで理解できるようになることを目的とします。

【到達目標】

生徒に対して化学の物質や現象を自分のことばで説明できることを目標とします。本授業では、特に以下を到達目標とします。

- 1) 原子や分子の電子配置が物質の性質に関係していることを理解する。
- 2) 化学の量的な基準となるモルの概念を理解する。
- 3) 理想気体の状態方程式や濃度など基本的な計算ができるようになる。
- 4) 反応を原子、分子レベルで理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、資料をプロジェクターで投影し、板書を交えて講義形式で行います。また、高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。理解度の確認のための課題を出題します。課題内容については、次の講義で解説するなどフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要と受講方法について説明する
第2回	原子の構造1	原子の構造が解明される過程から原子構造の考え方を学ぶ
第3回	原子の構造2	原子量と同位体、モルの概念について学ぶ
第4回	元素の電子配置と周期表	電子軌道/電子配置と周期律表の関係を知り、化学的性質と電子の関係を学ぶ
第5回	分子の構造と化学結合	分子の構造と化学結合の種類について学ぶ
第6回	固体の構造	結晶の種類について学ぶ
第7回	物質の三態	固体、液体、気体の状態の変化を学ぶ
第8回	気体の性質1	気体の温度、圧力、体積の関係を学ぶ
第9回	気体の性質2	理想気体と実在気体の違いを学ぶ
第10回	溶液の濃度表示法	濃度の種類とそれらの違いを学ぶ
第11回	溶液の性質	溶液の振る舞いについて学ぶ
第12回	化学反応とエネルギー	化学反応に伴う熱の出入りの考え方を学ぶ
第13回	反応速度と化学平衡	平衡とは何か、反応の進む向きを決める因子について学ぶ
第14回	まとめ	本授業の内容を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

各授業ごとに理解度を確認する課題を出題します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

- ・下井 守、村田 滋 著「大学生のための基礎シリーズ3 化学入門 第2版」東京化学同人
- ・竹内 敬人 著「基礎の化学 化学入門コース1」岩波書店
- ・基礎化学教育研究会編「やさしく学べる基礎化学」森北出版
- ・辰巳 敬ほか著「化学基礎」「化学」数研出版

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムで、毎回授業の理解度を確認する課題を出題します。成績は、授業で出題する課題(30%)と期末試験(70%)により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・授業内で練習問題を出題し、理解度の確認をするようにします。
- ・資料や課題は速やかに学習支援システムにアップロードするようにします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続するためのPCやタブレットなどの端末機器が必要です。

【Outline (in English)】

This course introduces the basis of chemistry to students taking teacher-training course.

By learning established theory and historical background of chemistry, the students are expected to be able to describe chemical phenomena by obtained chemical perspectives. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, required assignments: 30%.

CHM900BF (その他の化学 / Chemistry 900)

化学概論Ⅱ

田中 雅人

授業コード：A3517 | 曜日・時限：木2/Thu.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校化学で学ぶ内容について、さらに背景や原理を理解するために、大学の基礎化学の内容に踏み込んで学習します。それによって、扱われている物質や現象を原子・分子レベルで理解できるようになることを目的とします。

【到達目標】

生徒に対して化学の物質や現象を自分のことばで説明できることを目標とします。

本授業では、特に以下を到達目標とします。

- 1) 酸塩基や酸化還元の原理について理解し、中和反応や酸化還元反応における等量計算ができるようになる。
- 2) 無機物質について、元素の特徴に由来する化合物の特性や機能などについて理解する。
- 3) 多様な有機化合物を分類を理解し、それぞれの化合物の特性や反応性について理解する。
- 4) 身近な高分子化合物について、物質を構成する分子構造や性質などを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、資料をプロジェクターで投影し、板書を交えて講義形式で行います。また、高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。理解度の確認のための課題を出題します。課題内容については、次の講義で解説するなどフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	酸と塩基 1	酸と塩基の種類と定義について学ぶ
第2回	酸と塩基 2	水素イオン濃度指数(pH)の概念を学ぶ
第3回	酸化還元 1	酸化還元反応の考え方を学ぶ
第4回	酸化還元 2	電池と電気分解について学ぶ
第5回	無機物質 1	金属元素の単体と化合物の性質を学ぶ
第6回	無機物質 2	非金属元素の単体と化合物の性質を学ぶ
第7回	有機化合物 1	有機化合物の構造の特徴と官能基による分類について学ぶ。また、脂肪族化合物の構造や特徴、異性体の考え方について学ぶ
第8回	有機化合物 2	酸素および窒素を含む化合物の特徴や反応性などについて学ぶ
第9回	有機化合物 3	芳香族化合物の特徴や反応性などについて学ぶ
第10回	高分子化合物 1	高分子化合物の分類および特徴を学ぶ。また、合成高分子化合物の種類と特徴について学ぶ
第11回	高分子化合物 2	糖質の構造と種類とその生体内での働きを学ぶ
第12回	高分子化合物 3	アミノ酸とタンパク質の生体内での働きを学ぶ

第13回 高分子化合物 4 核酸の構造と生体内での働きを学ぶ

第14回 まとめ 本授業の内容を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各授業ごとに理解度を確認する課題を出題します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

- ・下井 守、村田 滋 著「大学生のための基礎シリーズ3 化学入門 第2版」東京化学同人
- ・基礎化学教育研究会編「やさしく学べる基礎化学」森北出版
- ・竹内 敬人 著「基礎の化学 化学入門コース1」岩波書店
- ・辰巳 敬ほか著「化学」数研出版

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムで、毎回授業の理解度を確認する課題を出題します。成績は、授業で出題する課題(30%)と期末試験(70%)により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・授業内で練習問題を出題し、理解度の確認をするようにします。
- ・資料や課題は速やかに学習支援システムにアップロードするようにします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続するためのPCやタブレットなどの端末機器が必要です。

【Outline (in English)】

This course introduces the basis of chemistry to students taking teacher-training course.

By learning established theory and historical background of chemistry, the students are expected to be able to describe chemical phenomena by obtained chemical perspectives. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, required assignments: 30%.

BIO900BF（その他の総合生物・生物学 / Biology 900）					
生物学概論Ⅰ					
植木 紀子					
授業コード：A3518 曜日・時限：木5/Thu.5 春学期授業/Spring・2単位 配当年次：2～4年					
その他属性：					
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 春学期の「生物学概論Ⅰ」では、初めに生物学の基本概念を学びます。その後、遺伝、膜構造、細胞骨格など、主に細胞レベルの生命現象を取り上げます。生物が長い年月をかけて作り上げてきた巧妙で美しいしくみを、生物学全体における位置付けを確認しながら学んでいきましょう。			第7回	有性生殖と個体の遺伝	形質を親から子へと継承する遺伝という現象は、メンデルの法則の発見に始まり、モルガンの染色体説などを経て、現代の遺伝学へと発展を遂げました。この生命情報伝承の法則性と、そのプロセスについて解説します。
【到達目標】 生物学はさまざまな視点から生命を理解する学問であると言えます。分子、細胞、個体、個体群、生態系といったさまざまなレベルから、また、多様性と時間軸という観点から、幅広く生物学を俯瞰する能力を身につけることを目標とします。			第8回	バイオテクノロジー	生命現象に関わる新しい知見は新しい技術を生み出し、それによって更なる知見が得られるというサイクルがあります。画期的な進歩をもたらした技術を学ぶことで、現代に至る生命科学の発展の歴史を感じてみましょう。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連			第9回	生体膜と細胞の構造	生体膜は細胞と外界を隔て、細胞内にも多様な膜区画を作ります。また、物質の輸送やシグナル伝達などの重要な機能にも関わります。生体膜の構造とはたらきを理解し、原核生物と真核生物の違いについても学びます。生命活動に必要なエネルギーを生み出し、生体物質の合成や分解をする過程を代謝といいます。細胞内における基本的な代謝の流れを理解し、さらに、代謝の要になる解糖系、クエン酸回路、呼吸鎖について学びます。30億年ほど前にエネルギーを太陽光に求める生物が出現して以来、生物は無限のエネルギー源を手にするようになりました。ここでは、現在の地球の光環境を理解した上で、植物が行う光合成のプロセスを学びます。
【授業の進め方と方法】 教科書を用い、ゼミ対話形式で行います。対面授業を基本としますが、状況に応じてZoomを用いたりリアルタイムオンライン方式にする可能性もあります。具体的な授業参加方法については、学習支援システムをご覧ください。テーマによっては、動画、実際の生物、実験装置などを見ていただくこともあります。毎回、簡単な演習問題を提示しますので、次の回までに教科書を参照しながら解くようにしてください。授業内でその解説を行います。			第10回	代謝と生体エネルギー生産	細胞の中では、その構成成分が絶えず間なく取り込まれ、もしくは合成され、細胞内外の適所へと輸送され、そして分解されています。ここでは、細胞内で物質を「運ぶ」しくみと「壊す」しくみについて解説します。全ての真核細胞は、運動を発生する共通のメカニズムを持っています。細胞骨格と呼ばれるタンパク質繊維の上をモータータンパク質が滑走することで、筋肉の収縮や染色体の分配などが起こるしくみを学びます。
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり /Yes			第11回	光合成	多細胞生物が一つの個体として行動したり内部環境を一定に保つためには、細胞間で情報をやりとりすることが重要になります。ホルモンや神経伝達物質などを介した細胞間のコミュニケーションについて学びます。
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし /No			第12回	細胞内輸送と細胞内分解	
【授業計画】 授業形態：対面/face to face			第13回	細胞骨格と細胞運動	
第1回	生物の基本概念と基本構造	内容 生物学の学習のはじめにあたり、生物の二つの対立した特性、すなわち多様性と共通性について学びます。その後、生物学を学ぶ基本事項として、増殖、遺伝、代謝、恒常性と環境応答などについて概観します。	第14回	細胞間シグナル伝達系	
第2回	生物の増殖と恒常性	細胞生物も多細胞生物も、自分と同じ形をした生体物を生み出して数を増やしていきます。また、外部の環境に適切に応答して体の内部環境を一定に保っています。生物にとって重要なこれらのしくみの基礎を学びます。			
第3回	個体-環境相互作用	生物は環境から影響を受け、逆に生物も環境に影響を与えています。そして生物同士も相互に関わりあっています。自然選択・環境応答・光合成による生産や生態系について学び、生物と環境との関わりを理解します。タンパク質は生体有機化合物の中で最も量が多く、あらゆる生命活動で重要な役割を果たしています。また、酵素タンパク質は、生物のほぼ全ての化学反応を触媒します。タンパク質の構造と酵素が働くしくみを学びます。			
第4回	タンパク質と酵素	DNAには、親から子へ遺伝情報を伝える役割と、その情報を使って細胞を作り機能をもたらし役割があります。細胞増殖の際、DNAを正確に複製して分配しなくてはなりません。このDNAの構造と複製のしくみを学びます。			
第5回	核酸の構造とDNAの複製	遺伝情報がDNA、mRNA、タンパク質という流れで発現する概念をセントラルドグマと呼びます。この一連の流れに沿って、情報が写し取られる転写、その後の修飾、アミノ酸配列に変換される翻訳のしくみを学びます。			
第6回	遺伝子の発現				

BIO900BF（その他の総合生物・生物学 / Biology 900）

生物学概論Ⅱ

植木 紀子

授業コード：A3519 | 曜日・時限：木5/Thu.5
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期の「生物学概論Ⅱ」では、多細胞生物が成り立つ原理や、進化、生態、生物多様性といったマクロレベルの生命現象を学びます。また、創薬、微生物の利用、情報生命科学など、私たちの生活に関わる応用的な内容も取り上げていきます。

【到達目標】

生物学はさまざまな視点から生命を理解する学問であると言えます。分子、細胞、個体、個体群、生態系といったさまざまなレベルから、また、多様性と時間軸という観点から、幅広く生物学を俯瞰する能力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を用い、ゼミ対話形式で行います。対面授業を基本としますが、状況に応じてZoomを用いたりリアルタイムオンライン方式にする可能性もあります。具体的な授業参加方法については、学習支援システムをご覧ください。テーマによっては、動画、実際の生物、実験装置などを見ていただくこともあります。

毎回、簡単な演習問題を提示しますので、次の回までに教科書を参照しながら解くようにしてください。授業内でその解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	細胞内シグナル伝達系	細胞は、細胞表面の受容体と呼ばれるタンパク質でシグナル分子を受け取ります。それをきっかけにして細胞内のタンパク質がさまざまなに変化し、情報が伝えられます。ここではそのしくみを、ヒトの細胞を例に解説します。
第2回	神経系の機能と生体恒常性	ヒトの脳は約1,000億個の神経細胞からできています。神経細胞は、イオンの移動によって細胞膜の電位を変化させることで非常に速い情報伝達を行うことを可能にしています。その巧みな機構と恒常性への寄与を概説します。
第3回	細胞周期	太古の昔から、一個の親細胞が分裂して二個の娘細胞になるというサイクルが繰り返されて今の生物世界があります。このサイクルが進むしくみと、それが間違いなく正確に進むために何重にも制御されている機構を学びます。
第4回	動物の発生	動物の体は、たった一個の受精卵が分裂を繰り返し、細胞が特殊化し、正しい場所と形に配置されて機能するようになることで作り出されます。この複雑な構造と機能を持つ動物の体が自律的に作られるしくみを解説します。
第5回	植物の発生	植物は、太陽光という無限のエネルギー源を利用し、動物とはまったく異なる戦略をとって地球上に繁栄しています。種子植物の基本構造と形づくりを学び、個体として理に適った営みを実現していることを理解していきます。
第6回	遺伝子発現の制御	生物は、持っている多くの遺伝子全てを常に利用しているわけではなく、環境や時期に応じて適した遺伝子が発現したり、不向きな遺伝子の発現が抑制されたりしています。この調節を引き起こす分子メカニズムを概説します。

第7回	ゲノムと進化	生物の持つ遺伝情報全体の一セットをゲノムと言います。ゲノム情報の解読技術の向上は、分類学や進化学の分野に対し、大きなインパクトを与えてきました。ここではその歴史と方法を学び、生命科学の今後について考えます。
第8回	生物群集と生物多様性	生物はそれぞれ独立して生きているわけではなく、他の多くの生物と相互に関係しながら生きています。生物多様性とは具体的にどのようなものか、それが生態系の保全にとってどのように重要になるのかについて解説します。
第9回	感染と免疫	免疫学の発展の歴史はヒトと感染症との戦いの歴史でもあります。ここでは、ペニシリンの発見から始まる20世紀の医学生物学における重要な発見を紹介し、さらに、免疫とその応答の基本的なしくみについて解説します。
第10回	がん	近年、がんにおけるさまざまな異常が、遺伝子、タンパク質、細胞、個体レベルで明らかになっています。がんの原因や進展にいたる経緯、がん遺伝子とがん抑制遺伝子について学び、がん治療の発展についても見ていきます。
第11回	創薬と生命科学	人間は何千年も前から動植物の抽出物などを薬として利用してきました。一方、化学合成による薬の開発が始まったのは1890年代という比較的最近のことです。創薬の歴史を紹介し候補薬の選別や創出までの過程を解説します。
第12回	生活・環境と微生物	微生物には、人間の役に立つものや逆に害をなすもの、ほぼヒトとは関与しない微生物もあり、多様な生物世界を形成しています。微生物と人との関わり、微生物の多様性のとらえ方、微生物学の現状と課題について学びます。
第13回	生物の情報科学	膨大なデータが蓄積する現代の生命科学にとって、情報科学はその基盤とも言えます。DNA配列やタンパク質のアミノ酸配列がデータベース化された1980年代に始まる生物情報科学の進展と、その基本的な考え方を解説します。
第14回	脳	脳は環境から入力された情報を処理・統合し、出力するための情報処理装置とみなすことができます。一方、我々ヒトの「意識」と脳の関係は未だ深い謎に包まれています。これまでの知見と方法論、脳研究の現状を学びます。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
毎回、次週までの課題（演習問題）を提示します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】		
『理系総合のための生命科学 第5版～分子・細胞・個体から知る“生命”のしくみ』 東京大学生命科学教科書編集委員会／編 羊土社 定価3,800円＋税 第4版でも可。		
【参考書】		
参考書は必要に応じて授業内で提示します。		
【成績評価の方法と基準】		
平常点（100％）により評価します。 正当な理由なく3回以上欠席した場合、原則として単位を認めません。（やむを得ない事情があれば個別に相談に応じます）		
【学生の意見等からの気づき】		
参考動画やスライドを用いたりしたことがメリハリがあって良かったという意見をもらっていますので、このようなスタイルを続けていきます。		
【その他の重要事項】		
この科目は教職科目です。教職課程をとっていないと受講できませんのでご注意ください。		
【Outline (in English)】		
This course is designed to provide students with basic biological concepts of macro-level biological subject such as developmental biology, ecology, evolution, biodiversity, medical biology and bioinformatics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to in-class contribution (100%).		

PHY900BF (物理学 / Physics 900)

物理学実験 I (コンピュータ活用含)

吉田 智

授業コード：A3520 | 曜日・時限：月4/Mon.4
 春学期授業/Spring・1単位 | 配当年次：2～4年
 備考（履修条件等）：実験料は1科目2,500円（2018年度以降入学者）です。納金は5～6月を予定しています。該当者には個別にメールにてお知らせいたします。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、重力、波動、光などの広い範囲の物理現象に関連した実験を行う。実験装置は、身近なものから高度なものまで様々あり、簡単な実験技術や計算方法を身につけると共に、科学技術の進歩により装置が現在どのように工夫され、また改良されているのかということも学ぶ。

【到達目標】

実験実習を行うことにより、物理学の様々な分野についての理解を深め、中学・高校における理科・物理教育に必要となる知識を修得することにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

各実験テーマに講義の時間を設け、内容や実験方法等を解説した翌週から1回もしくは2回にわたって実験実習を行います。講義の際には適宜ビデオ教材・配布プリントを用います。実験後の講義の際にフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	身近な量の測定	身近な量を測定してみることに より、器具の使用方法を学ぶ。
第2回	誤差、近似	誤差や近似について理解を深める。
第3回	重力について	第4回に実施する落体実験に関連する重力について、理解を深める。
第4回	落体実験	落体実験を行う。
第5回	波動について	第6、7回に実施する実験に関連する波動について、理解を深める。
第6回	交流の周波数の測定	交流の周波数の測定実験を行う。
第7回	音さの振動数の測定	音さの振動数の測定実験を行う。
第8回	光の波動性について	第9回に実施する実験に関連する光の波動性について、理解を深める。
第9回	レンズの曲率半径の測定	レンズの曲率半径の測定実験を行う。
第10回	光の粒子性について（エネルギー量子）	第12、13回に実施する実験に関連する光の粒子性について、理解を深める。
第11回	光の粒子性について（光子量子仮説）	第10回に引き続き、光の粒子性について理解を深めると共に、光電効果について理解する。
第12回	光電流の測定	光電流の測定実験を行う。
第13回	プランク定数の測定	プランク定数測定実験を行う。
第14回	まとめ	第1回から第13回までに実施した実験について、まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布される資料によって、実験方法を予習しておくことが必要です。また、実験後はデータの整理とレポート作成が必要です。本授業の準備・復習時間は、1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、プリントを配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを使用した各回の課題(20%)と、実験レポート(80%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】

This course teaches general physics and experimental methods through making experiments on gravity, wave, light and so on. In this course, goals are to understand various fields in physics by experimental methods, and acquire knowledge for scientific education in junior high school and high school. Before each class, students will be expected to understand the content with the distributed text. And students need to prepare a report after each experiment. The required study time is at least one hour for each class. Grading will be decided based on reports (80%), and short examinations (20%).

PHY900BF (物理学 / Physics 900)

物理学実験Ⅱ (コンピュータ活用含)

吉田 智

授業コード：A3521 | 曜日・時限：月4/Mon.4
秋学期授業/Fall・1単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：実験料は1科目2,500円（2018年度以降入学者）です。納金は5～6月を予定しています。該当者には個別にメールにてお知らせいたします。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、熱、電気や光などの広い範囲の物理現象に関連した実験を行う。実験装置は、身近なものから高度なものまで様々あり、簡単な実験技術や計算方法を身につけると共に、科学技術の進歩により装置が現在どのように工夫され、また改良されているのかということも学ぶ。

【到達目標】

実験実習を行うことにより、物理学の様々な分野についての理解を深め、中学・高校における理科・物理教育に必要となる知識を修得することにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

各実験テーマに講義の時間を設け、内容や実験方法等を解説した翌週から1回もしくは2回にわたって実験実習を行います。また、講義の際には適宜ビデオ教材・配布プリントを用います。実験後の講義の際に、フィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	熱・エネルギーについて	第2、3回に実施する実験に関連する熱・エネルギーについて、理解を深める。
第2回	熱の仕事当量の測定	熱の仕事当量の測定実験を行う。
第3回	金属の比熱の測定	金属の比熱の測定実験を行う。
第4回	分子運動について	第5回に実施する実験に関連する分子運動について、理解を深める。
第5回	線膨張係数の測定	線膨張係数の測定実験を行う。
第6回	電気について	第7回に実施する実験に関連する電気回路について、理解を深める。
第7回	平行板コンデンサーの電気容量の測定	平行板コンデンサーの電気容量測定実験を行う。
第8回	原子の構造について	第9回に実施する実験に関連する原子の構造の理解を深める。
第9回	光のスペクトルの測定	各種の光源を使用した光のスペクトルを測定実験を行う。
第10回	光の干渉について	第11回に実施する実験に関連する干渉現象について、理解を深める。
第11回	光の干渉実験	光の干渉実験を行う。
第12回	原子・原子核について	第13回に実施する実験に関連する原子・原子核について、理解を深める。
第13回	電子の比電荷の測定	電子の比電荷の測定実験を行う。
第14回	まとめ	この授業で実施した実験について、まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布される資料によって、実験方法を予習しておくことが必要です。また、実験後はデータの整理とレポート作成が必要です。本授業の準備・復習時間は、1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、プリントを配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを使用した各回の課題(20%)と、実験レポート(80%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】

This course teaches general physics and experimental methods through making experiments on heat, electricity, light and so on. In this course, goals are to understand various fields in physics by experimental methods, and acquire knowledge for scientific education in junior high school and high school. Before each class, students will be expected to understand the content with the distributed text. And students need to prepare a report after each experiment. The required study time is at least one hour for each class. Grading will be decided based on reports (80%) and short examinations (20%).

CHM900BF (その他の化学 / Chemistry 900)

化学実験 I (コンピュータ活用含)

向井 知大

授業コード：A3522 | 曜日・時限：金2/Fri.2
 春学期授業/Spring・1単位 | 配当年次：2～4年
 備考（履修条件等）：実験料は1科目2,500円（2018年度以降入学
 者）です。納金は5～6月を予定しています。該当者には個別にメー
 ルにてお知らせいたします。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な化学実験について、自らが器具を整備し、溶液を調整し、実験手順を組み立てられるよう必要な基礎を実習を通じて学ぶ。

【到達目標】

実験器具や薬品の扱い方などの操作について習得するとともに、その実験の考え方や組み立て方など、その背景にある化学の基礎を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面形式で開講します。実験に関する基礎、並びに背景を講義した後、実験を行なうという形で進めていきます。コンピュータを用いた化学実験データの処理の方法などをもとにその活用法についても実習します。実験レポートのフィードバックは授業内に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容と予習内容についての説明。
第2回	炎色反応	炎色反応のための溶液の調製と炎色スペクトル観察。
第3回	酸化と還元	金属イオンと金属の反応について。
第4回	電池	ボルタ電池と燃料電池の実験。
第5回	溶液の濃度	様々な濃度の計算方法と、その換算方法について。
第6回	溶液の調製	中和滴定で使用する酸、塩基水溶液の調製。
第7回	酸と塩基	酸と塩基の定義の種類、pHについての講義。
第8回	中和滴定実験1	シュウ酸水溶液を用いて、各種塩基性水溶液の濃度を求める。
第9回	pH変化のシミュレーション	中和滴定におけるpH変化をExcelで計算する。
第10回	中和滴定実験2	pHメーターを用いた、滴下量とpH変化の関係。
第11回	金属イオンの沈殿生成	金属イオンと薬品の反応による色変化や沈殿生成。
第12回	金属イオンの系統分析1	金属イオンの分属と分離について。
第13回	金属イオンの系統分析2	未知試料に含まれる金属イオンの分析。
第14回	まとめ	これまで行った実験の原理、実験器具の使い方の復習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に関係する項目を高校の化学の教科書、参考書など事前に毎回読んでおく事。実験終了後は行なった実験について、高校や中学で生徒に行わせるとした場合の実験内容に吟味しなおし、注意点等を実験結果とともに考察すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実験にあたってはプリントを配布します。

【参考書】

随時、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いませんが、全ての実験でレポートを提出してもらいます。そのレポートの内容で評価します。成績評価: レポート 100%

【学生の意見等からの気づき】

高校において化学を未履修の学生には授業内容が難しく、ついてくるのは大変であるとの認識を持っています。できるだけ基礎的な部分からの解説を行ない、一人一人に確認しながら、説明を行なうようにしています。

【学生が準備すべき機器他】

pH変化のシミュレーションを行うときにPCを使います。

【その他の重要事項】

この授業は、第一部文学部地理学科に所属し、理科教職課程を受講していない学生は履修できません。

【Outline (in English)】

This course introduces chemical equipment, solution preparation and experimental procedure.

The goal of the course is to enhance the development of students' skill in carrying out a chemical experiment.

Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the test reports.(100%)

CHM900BF (その他の化学 / Chemistry 900)

化学実験Ⅱ (コンピュータ活用含)

向井 知大

授業コード：A3523 | 曜日・時限：金2/Fri.2
秋学期授業/Fall・1単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：実験料は1科目2,500円（2018年度以降入学者）です。納金は5～6月を予定しています。該当者には個別にメールにてお知らせいたします。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な化学実験について、自らが器具を整備し、溶液を調整し、実験手順を組み立てられるよう必要な基礎を実習を通じて学ぶ。

【到達目標】

対面授業で開講します。実験器具や薬品の扱い方などの操作について習得するとともに、その実験の考え方や組み立て方など、その背景にある化学の基礎を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面形式で開講します。実験に関する基礎、並びに背景を講義した後、実験を行なうという形で進めていきます。コンピュータを用いた化学実験データの処理の方法などをもとにその活用法についても実習します。実験レポートのフィードバックは授業内に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容と予習内容についての説明。
第2回	有機化合物と無機化合物	有機化学と無機化学の違いについて
第3回	化学構造式	有機化合物の略式表記と化学構造式 描画ソフトの使い方
第4回	分子模型1	有機化合物の立体構造と、構造異性体について。
第5回	分子模型2	共役二重結合を持つ分子の立体構造と物性について。
第6回	分子模型3	鏡像異性体について。分子の立体構造可視化ソフトの利用。
第7回	化学発光	ルミノールやシュウ酸エステルと過酸化水素の化学反応について。
第8回	アルコール発酵	糖の種類について。酵母を用いた糖の分解実験。
第9回	化学反応と収率	モル質量と物質質量の関係、理論収量と収率の求め方について。
第10回	エステルの合成	アルコールとカルボン酸の脱水縮合反応による果物の香り成分の合成。
第11回	アセトアニリドの合成	アニリンと無水酢酸の反応、反応生成物の精製。
第12回	アゾ染料の合成	ジアゾカップリング反応による様々な色素の合成。
第13回	ナイロンの合成	ナイロンの合成と、その染色および赤外線吸収スペクトルの測定。
第14回	まとめ	これまでの実験レポートの見直し。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に関係する項目を高校の化学の教科書、参考書など事前に毎回読んでおく事。実験終了後は行なった実験について、高校や中学で生徒に行わせるとした場合の実験内容に吟味しなおし、注意点等を実験結果とともに考察すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配布します。

【参考書】

随時、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いませんが、全ての実験でレポートを提出してもらいます。そのレポートの内容で評価します。成績評価: レポート 100%

【学生の意見等からの気づき】

高校において化学を未履修の学生には授業内容が難しく、ついてくるのは大変であるとの認識を持っています。できるだけ基礎的な部分からの解説を行ない、一人一人に確認しながら、説明を行なうようにしています。

【学生が準備すべき機器他】

化学構造式の描画や3D分子モデリングなどのソフトウェアを使った学習の際、PCを使います。

【その他の重要事項】

この授業は、第一部文学部地理学科に所属し、理科教職課程を受講していない学生は履修できません。

【Outline (in English)】

This course introduces chemical equipment, solution preparation and experimental procedure.

The goal of the course is to enhance the development of your skill in carrying out a chemical experiment.

Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the test reports.(100%)

BIO900BF（その他の総合生物・生物学 / Biology 900）

生物学実験 I (コンピュータ活用含)

島野 智之

授業コード：A3524 | 曜日・時限：月2/Mon.2
春学期授業/Spring・1単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：実験料は1科目2,500円（2018年度以降入学者）です。納金は5～6月を予定しています。該当者には個別にメールにてお知らせいたします。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学・生命科学のさまざまな問題について、可能な限り身近な素材を用いて観察や生物実験を行うことを通して、教育の現場で応用可能な実験構築能力を身につけると共に、自然に対する認識をより深く、物事を生物学的に探求する能力を高める。

【到達目標】

教育の現場で使える生物学実験を計画でき、かつ教えることができるようになる。使用可能な材料や器具等を活用した実験のアイデアを習得し、生活の周りの自然・生物に対する関心を身につけるきっかけを習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

生物学の基本は「観察」ですが、自然界には、肉眼で見える生物よりも見えないものの方が多い。たとえば、実際に自分たちで培養して実物に触れることから始める。主として高校の教科書で取り上げられている実験を中心に実験を行うが、授業中に行えない実験や最新のトピックスなどについては、ビデオを用いて紹介します。

メール添付などの方法を利用して、課題等についてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	顕微鏡の使用法（含マイクロミクロメーターの使用法）	顕微鏡の使用法の説明。顕微鏡の手入れと道具の作成
第2回	細胞・気孔の観察と顕微鏡での計測	植物細胞の観察。顕微鏡での計測方法。
第3回	原形質流動と原形質分離の観察	植物細胞の観察。顕微鏡での生細胞の観察。
第4回	細胞分裂と染色体の観察	細胞分裂の観察。染色体の観察。
第5回	昆虫の採集及び観察	野外にて節足動物を調査する。レポートの作成
第6回	無脊椎動物の解剖	無脊椎動物（大型節足動物）の生理を学び、体の仕組みを理解する。
第7回	プランクトンの採集と観察	野外に出てプランクトンを採集し、顕微鏡観察するテクニックを学び、同定する方法を理解する。レポートの作成
第8回	土壤動物の抽出法	野外での土壌の観察と土壤動物の採集方法を学ぶ。
第9回	土壤動物の採集・分類と観察（コンピュータを使用した統計処理）	土壤動物とはなにか、図鑑の使い方、調査方法概説
第10回	群集生態学的解析（コンピュータを使用した統計処理）	コンピューターの統計解析ソフトを使って、土壤動物の群集データを統計処理する方法を学ぶ。
第11回	細菌の観察（コンピュータを使用した統計処理）	細菌数を計測し、成長曲線をコンピュータソフトを使ってグラフに書く
第12回	真菌（不完全菌、接合菌、子の菌、担子菌）の観察	真菌を採集し同定する。レポートの作成
第13回	植物の葉の内部構造の観察	単子葉、双子葉の茎頂などを観察し、植物の生長点について学ぶ。
第14回	試験、まとめ（レポートの書き方）	試験、まとめ（レポートの書き方）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身の姿勢では、学問をしていることにはなりません。疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。次回の実験内容を毎回つたえるので、必要な知識などを事前に予習しておくこと（その方法なども伝えます）。また、実験の後は、必ずレポートを課すので、実験の目的および背景、方法、結果、考察の4点について、これをまとめて提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

生物学辞典など

【成績評価の方法と基準】

レポート（40%）と試験（30%）に加え、授業中の参加の度合、貢献度を考慮し（30%）、総合的に判断する。
※春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

言われたことだけを行ったのでは、一人前とは言えません。疑問点などについては、自分で調べることが大切です。
20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント画像やビデオ映像も用います。器具と時間の都合で、実験できない項目については、DVD映像を用いて行います。

【その他の重要事項】

授業の初めに、その日の実験に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意下さい。正当な理由のある遅刻を除き、10分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード2枚で1回欠席となります。

【Outline (in English)】

This course is designed to lead to a teaching license and can only be taken by students who have taken a course leading to a teaching license. In addition to acquiring the ability to construct experiments that can be applied in the education in school as a teacher, it will deepen the recognition of nature and enhance the ability to explore things biologically.

Observations and biological experiments are conducted on contemporary issues, topics, and problems in biology and the life sciences, using familiar materials whenever possible.

Students will acquire the ability to construct experiments that can be applied in educational settings, as well as deepen their awareness of nature and enhance their ability to explore things biologically.

Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class. Your study time will be more than four hours for a class.

The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.

Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

BIO900BF（その他の総合生物・生物学 / Biology 900）

生物学実験Ⅱ（コンピュータ活用含）

島野 智之

授業コード：A3525 | 曜日・時限：月2/Mon.2
秋学期授業/Fall・1単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：実験料は1科目2,500円（2018年度以降入学者）です。納金は5～6月を予定しています。該当者には個別にメールにてお知らせいたします。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学・生命科学のさまざまな問題について、可能な限り身近な素材を用いて観察や生物実験を行うことを通して、教育の現場で応用可能な実験構築能力を身につけると共に、自然に対する認識をより深め、物事を生物学的に探求する能力を高める。

【到達目標】

教育の現場で使える生物学実験を計画でき、かつ教えることができるようになる。使用可能な材料や器具等を活用した実験のアイデアを習得し、生活の周りの自然・生物に対する関心を身につけるきっかけを習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

生物学の基本は「観察」ですが、自然界には、肉眼で見える生物よりも見えないものの方が多い。たとえば、実際に自分たちで培養して実物に触れることから始める。主として高校の教科書で取り上げられている実験を中心に実験を行うが、授業中に行えない実験や最新のトピックスなどについては、ビデオを用いて紹介します。メール添付などの方法を用いて、課題等に対するフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	光学顕微鏡と電子顕微鏡の比較	光学顕微鏡と電子顕微鏡の仕組みを理解する。
第2回	植物組織と動物組織の観察	動物細胞（頬の粘膜細胞、その他、動物細胞）と、植物細胞の違いを学ぶ。
第3回	呼吸【酵母の無気呼吸（発酵）による二酸化炭素の測定】	呼吸【酵母の無気呼吸（発酵）による二酸化炭素の測定】
第4回	細胞運動【魚鱗色素胞の観察】	魚鱗色素胞の観察
第5回	プランクトンの観察	多細胞性のプランクトンの体の構造や、クマムシのクリプトビオシスについて観察し理解する
第6回	カタラーゼとアミラーゼ（酵素活性測定実験）	酵素活性の測定
第7回	図鑑の使い方：学名の仕組み	苦手にされやすい、学名の構造について理解し、図鑑の使い方を学ぶ。
第8回	図鑑を作る：大学周辺の動物（コンピュータを使用したデータベース作成）	大学周辺の動物の写真を撮影し同定後、データベースを作成する
第9回	図鑑を作る：大学周辺のコケ（コンピュータを使用したデータベース作成）	大学周辺のコケの写真を撮影し同定後、データベースを作成する。
第10回	図鑑を作る：大学周辺の維管束植物（コンピュータを使用したデータベース作成）	大学周辺の維管束植物を撮影し同定後、データベースを作成する。
第11回	無菌操作の習得	クリーンベンチを用いた無菌操作の習得
第12回	プラスミドDNAの調製	プラスミドDNAと遺伝子組換えについて学ぶ
第13回	アガロースゲル電気泳動	得られたプラスミドDNAとゲノムDNAについて、アガロースゲル電気泳動の方法を学ぶ。
第14回	試験、まとめ（レポートの書き方）	試験、まとめ（レポートの書き方）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身の姿勢では、学問をしていることにはなりません。疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。

今回の実験内容を毎回つたえるので、必要な知識などを事前に予習しておくこと（その方法なども伝えます）。また、実験の後は、必ずレポートを課すので、実験の目的および背景、方法、結果、考察の4点について、これをまとめて提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

生物学辞典など

【成績評価の方法と基準】

レポート（40%）と試験（30%）に加え、授業中の参加の度合、貢献度を考慮し（30%）、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

言われたことだけを行ったのでは、一人前とは言えません。疑問点などについては、自分で調べることが大切です。20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント画像やビデオ映像も用います。器具と時間の都合で、実験できない項目については、DVD映像を用いて行います。

【その他の重要事項】

授業の初めに、その日の実験に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード2枚で1回欠席となります。

【Outline (in English)】

This course is designed to lead to a teaching license and can only be taken by students who have taken a course leading to a teaching license. In addition to acquiring the ability to construct experiments that can be applied in the education in school as a teacher, it will deepen the recognition of nature and enhance the ability to explore things biologically.

Observations and biological experiments are conducted on contemporary issues, topics, and problems in biology and the life sciences, using familiar materials whenever possible.

Students will acquire the ability to construct experiments that can be applied in educational settings, as well as deepen their awareness of nature and enhance their ability to explore things biologically.

Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class. Your study time will be more than four hours for a class.

The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.

Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

EDU200BF（教育学 / Education 200）

理科教育法(1)

狩野 真規

授業コード：A3527 ｜ 曜日・時限：水 5/Wed.5
春学期授業/Spring・2単位 ｜ 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習指導要領の内容を踏まえつつ、学習指導案・教材の作成や、模擬授業の実践を通じて、理科の授業を成立させるために必要なことを学ぶことを基本とする。例えば、中学校の理科の授業を実践するにあたり、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うには、どのような方法や考え方が必要かという視点を養うための内容などが想定される。

また、今の日本の教育環境の変化の中で理科をどのように教えていくべきかを学生とともに考える場所となるような授業にすることも目指す。

【到達目標】

教科としての理科を指導できる能力を獲得することを最大の狙いとするが、到達目標としては、中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するとともに、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけることとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義冒頭に資料を配布し、それに基づいて進める。当然、受講者同士での議論してもらい、講義終盤で次回のための予習課題を提示するので、一週間の中で準備をして、次回に小テストに取り組んでもらうこともする。フィードバックについてはできるだけその時間内で模範解答を提示したり、コメントをつけて次の回に返却していく予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	理科教育とは何か	理科教育の目的や理科教員に求められる育成を目指すための資質や能力について理解する。
第2回	理科教育の目標	中学・高校の学習指導要領などを通じて、理科の教育目標を確認する。
第3回	学習指導要領について・その1	現行の中学学習指導要領の内容を確認するとともに学習内容ごとに指導上の留意点について確認する。
第4回	学習指導要領について・その2	現行の高校学習指導要領の内容を確認するとともに学習内容ごとに指導上の留意点について確認する。
第5回	日本の理科教育の変遷	明治以降の理科教育課程の変遷について追う。
第6回	国際学力調査とその結果の検討	ゆとり教育からの転換点となった国際学力調査について、その設題の実態や日本の結果とその推移から現状に対する課題を探る。
第7回	中学理科の科目研究・その1	現行の中学理科の教科書を通じて、教材研究のヒントを示していく。
第8回	中学理科の科目研究・その2	中学理科の学習に対する評価方法とその考え方について、テストや実験レポートなどの経験から探る。
第9回	中学理科の科目研究・その3	実験機器の効果的活用とその指導法について理解するとともに授業設計に活かせる考え方を身に付ける。また、ICT教育に関する内容について、文科省の動画などを通じて考えていく。
第10回	中学理科の科目研究・その4	実験実施に必要な安全管理と応急処置等について考える。
第11回	授業実践にむけて・中学理科の模擬授業の準備	学習指導案の作成について確認していく。
第12回	授業実践にむけて・中学理科の模擬授業の実践（第1回）	学習指導案を作成した上で、それに沿った形での模擬授業を実施してもらう。
第13回	授業実践にむけて・中学理科の模擬授業の実践（第2回）	学習指導案を作成した上で、それに沿った形での模擬授業を実施してもらう。特に前回での授業実践者の反省を踏まえたものとしてもらう。

第14回 授業実践にむけて・中学理科の模擬授業の実践（第3回）

学習指導案を作成した上で、それに沿った形での模擬授業を実施してもらう。特にこれまでの授業実践者の反省を踏まえたものとしてもらい、実践に立てるレベルに到達することをめざす。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けて時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領（文部科学省 最新版）

【参考書】

中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編（文部科学省 最新版）その他については講義内に適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業出席に伴う要素（議論への参加姿勢などで20%）、授業期間中に提示された課題に対するレポートや解答（15%）、模擬授業のために作成した学習指導案（25%）と模擬授業の内容（25%）、模擬授業についての他の受講者の評価（15%）も加える。これらの合計で評価を決める。したがって、定期試験による評価を行う予定はない。特に模擬授業の指導案とその指導案を使って行った模擬授業の内容は重視する予定なので、知識だけではなく、授業実践のために必要な視点や能力などの獲得は重要である。また、教壇で生徒に模範を示す手前上、出席は当然であり、無断欠席はありえないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業をするための教材研究、教材づくりに関しては貸し出す教科書の内容にとどまることが多いようなので、もっと広い視点で教科書を使った授業を構築する意味を考えられるような視点を養うことが必要と考える。

【学生が準備すべき機器他】

事態が変化すれば、オンラインに移行することがある。その時にはインターネットに常時接続できる環境の構築が必須となるので、大学の支援について各自で確認するなどの対応が望まれる。また、Hoppiiについては必ず利用できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

単なる学習指導要領の内容や教科教育の方法を講義するのみではなく、学生には指導案を作成して授業の組み立て方や教材研究のノウハウを獲得していくなど、教育実習でも役立つような実践的な内容も行いたいと考えている。担当者は複数の中学校・高等学校で地学などの科目を担当した経験を有するので、教育実習だけではなく、将来教壇に立った時にフィードバックできるような内容の授業とすることを目指す。また、情勢の変化によって、模擬授業の実施が困難な場合は代替措置を持って評価となることもあり得る。

【Outline (in English)】

The main aim is to acquire the ability to teach science as a subject, but the goal to be achieved is, in conjunction with grasping the overall purpose and contents of the science curriculum guidelines in junior high school and high school, to learn how to design lesson plans that presume various classroom situations.

By the end of the course, students should be able to do the following:

- An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
- To assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
- To making skill in the Classes using ICT and active learning.
- Apply theories or findings to real world situations.

Make it more developed content than (1) or (2).

Learning activities outside of classroom:In preparations learning, the review time for this class, I assume for each two hours a standard.

The teaching materials study is necessary for contents.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class attendance and attitude in class(20%)

Reports and tests (15%)

Teaching plan (25%)

Contents of the simulated class(25%)

Mutual evaluations between the student attending a lectures for the simulated class(15%)

理科教育法(2)

狩野 真規

授業コード：A3528 | 曜日・時限：水5/Wed.5
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習指導要領の内容を踏まえつつ、学習指導案・教材の作成や、模擬授業の実践を通じて、理科の授業を成立させるために必要なことを学ぶことを基本とする。例えば、高校の理科の授業を実践するにあたり、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うには、どのような方法や考え方が必要かという視点を養うための内容などが想定される。

また、高校理科の物化生地の四分野の内容に通じているだけではなく、生徒の状況を踏まえつつ、ICT教材の的確な利用や授業改善の視点や最新の理科教育の実践研究に触れながら、授業設計力ができる資質・能力の獲得ができるような内容も盛り込んでいく。

【到達目標】

中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するとともに、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけることとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には担当教員が話題提供する際には冒頭で資料を配布し、それに沿った講義形式である。その他にも課題実習や、模擬授業など、その実施形式は様々なものとなる予定である。課題に対するフィードバックについては、原則次回にしていくなかで予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	高校理科の学習内容の再確認	学習指導要領を通じて、高校理科の目標や全体の構成とその内容、指導上の留意点などを中学校理科と比較しながら改めて確認していく。
第2回	地学分野の発展的学習内容について（1）	高校地学における発展的学習内容に対する実践的にその内容を確認していく。この回では地質図についてみていく。
第3回	地学分野の発展的学習内容について（2）	前回に引き続き、高校地学の発展的内容として、高層天気図を見ていく。
第4回	地学分野の発展的学習内容について（3）	前回同様、高校地学の発展的内容として、HR図を中心に天文の話題をみていく。
第5回	地学分野の発展的学習内容について（4）	前回に引き続き、高校地学の天文分野についてみていく。特にケプラーの3法則について扱っていく。
第6回	アクティブラーニングについて	理科教育におけるアクティブラーニングについて考える。特に先人の指導実践記録から発展的内容を探る。
第7回	高校理科の科目研究・その1	物理学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第8回	高校理科の科目研究・その2	化学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第9回	高校理科の科目研究・その3	生物学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第10回	高校理科の科目研究・その4	地学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第11回	授業実践・高校理科の模擬授業（第1回）	先人による授業実践の動向を踏まえた授業設計への取り組みに主眼をおく。
第12回	授業実践・高校理科の模擬授業（第2回）	授業の実践・振り返りから授業改善の視点を養うことに主眼をおく。
第13回	授業実践・高校理科の模擬授業（第3回）	生徒の認識・思考・学力などの実態を考慮しつつ、発展的内容を盛り込んだ授業設計に主眼をおく。
第14回	授業実践・高校理科の模擬授業（第4回）	ICT機器などの効果的利用を考慮した授業設計に主眼をおく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究することである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けて時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領（文部科学省 最新版）

【参考書】

中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編（文部科学省 最新版）その他については講義内に適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業出席に伴う要素（議論への参加姿勢などで20%）、授業期間中に提示された課題に対するレポートや解答（15%）、模擬授業のために作成した学習指導案（25%）と模擬授業の内容（25%）、模擬授業についての他の受講者の評価（15%）も加える。これらの合計で評価を決める。したがって、定期試験による評価を行う予定はない。特に模擬授業の指導案とその指導案を使って行った模擬授業の内容は重視する予定なので、知識だけではなく、授業実践のために必要な視点や能力などの獲得は重要である。また、教壇で生徒に模範を示す手前上、出席は当然であり、無断欠席はありえないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

高校地学で行う実験などを実際に行い、教材化の視点を養うことや発展的内容までを担当できる知識の獲得を目指すことが必要であることを痛感させられているので、それらを意識した展開を目指したい。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiは必ず利用できるようにしておくこと。また、状況によってはオンライン講義に移行することもあるので、その際にはインターネットに常時接続できる環境が必要となる。大学からの支援などについて各自で確認し、対応すること。

【その他の重要事項】

単なる学習指導要領の内容や教科教育の方法を講義するのみではなく、学生には指導案を作成して模擬授業を行ったり、教材研究のノウハウを獲得していくなど、教育実習でも役立つような実践的な内容も行いたいと考えている。担当者は複数の中学校・高等学校で地学などの科目を担当した経験を有するので、教育実習だけではなく、将来教壇に立った時にフィードバックできるような内容の授業とすることを目指す。また、情勢の変化によっては模擬授業などが実施できなくなることもあり得るので、その際には代替措置に切り替える予定である。

【Outline (in English)】

The main aim is to acquire the ability to teach science as a subject, but the goal to be achieved is, in conjunction with grasping the overall purpose and contents of the science curriculum guidelines in junior high school and high school, to learn how to design lesson plans that presume various classroom situations.

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
2. To assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
4. Apply theories or findings to real world situations.

Make it more developed content than (1) or (2).

Learning activities outside of classroom:In preparations learning, the

review time for this class, I assume for each two hours a standard.

The teaching materials study is necessary for contents.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class attendance and attitude in class(20%)

Reports and tests (15%)

Teaching plan (25%)

Contents of the simulated class(25%)

Mutual evaluations between the student attending a lectures for the

simulated class(15%)

EDU200BF（教育学 / Education 200）

理科教育法(3)

狩野 真規

授業コード：A3530 | 曜日・時限：月4/Mon.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理科教育法(1)・(2)の内容から発展させたものとして位置付けている。具体的には学習指導案の内容理解を深めるとともに、より実態に即した中学理科の授業設計のための視点を養うことが出来る内容だけではなく、発展的内容の扱い方やICT機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための実践的な能力の獲得も出来るものを目指す。

【到達目標】

中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するだけではなく、現場で実践的に教科指導を行うにあたって必要な知識・能力を身につける。具体的には学習指導案および板書計画の作成やICT機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための教材研究を通じて、現場での理科の授業を実践するための指導方法を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、講義冒頭で資料を配布し、それに基づいて進めていく講義形式とするが、受講者同士での意見交換、課題実習（紙ベース）への取り組みとそのフィードバック（添削した上で次回返却）、受講者による模擬授業等、様々な形式のものも取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	理科教育とは何か	理科教育の目的や、理科教員に求められる生徒の育成に必要な資質や能力について改めて確認する。また、ICT教育の導入についても担当教員の実践例などを紹介しつつ、考えていく。
第2回	理科教育の現状	各種報道から伺える理科教育の現状について確認しつつ、理科の学習評価の考え方を考える。
第3回	学習指導要領について・その1	中学理科の旧課程と現行課程の比較をしつつ、改定により外された内容を知るとともに、現行課程の発展的内容の扱い方を探る。
第4回	学習指導要領について・その2	高校理科の旧課程と現行課程の比較をしつつ、改定により外された内容を知るとともに、現行課程の発展的内容の扱い方を探る。
第5回	中学入試から大学入試にみられる理科の位置づけ	進学指導と直結した現場での理科教育の現状を様々な角度から確認し、より現実的な指導内容について考える。
第6回	課題研究への取り組みとその指導法	クラブ等の課外活動を通じた課題研究について、先人の指導実践を辿るとともに、その指導の可能性について考える。
第7回	中学理科の発展的学習・その1	物理分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第8回	中学理科の発展的学習・その2	化学分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第9回	中学理科の発展的学習・その3	生物分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第10回	中学理科の発展的学習・その4	地学分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第11回	授業実践・中学理科の模擬授業(第1回)	教科書の発展的内容を盛り込んだ授業設計及び実践を目指す。
第12回	授業実践・中学理科の模擬授業(第2回)	生徒の実態(認識力・思考力・学力など)に応じた発展的内容を盛り込んだ授業設計及び実践を目指す。
第13回	授業実践・中学理科の模擬授業(第3回)	校外学習での指導実践を意識した授業設計及び実践を目指す。

第14回 授業実践・中学理科の模擬授業(第4回) 知的好奇心の開発を意識した授業設計及び実践を目指す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探る必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けて時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領（文部科学省 最新版）

【参考書】

中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編（文部科学省 最新版）その他については講義内に適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業期間中に提示された課題に対するレポートや解答(15%)、模擬授業のために作成した学習指導案(25%)、模擬授業の内容(25%)、授業内討論での発言等(20%)を評価の視点とする。また、模擬授業については他の受講者の評価(15%)も加える。これらの合計で評価を決める。したがって、定期試験による評価を行う予定はない。特に模擬授業の指導案とその指導案を使って行った模擬授業の内容は重視する。また、教壇で生徒に模範を示す手前上、出席は当然であり、無断欠席はありえないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

他の科目の履修の都合で(1)・(2)を履修せずにいきなり(3)から履修するケースへの対応が求められることがあるので、それについては状況を見て考えることとしたい。

【学生が準備すべき機器他】

緊急時の連絡を授業支援システムを通じて行うこともあるので、できるだけ本システムを利用できる状態にしておくこと。

【その他の重要事項】

担当教員は複数の中学校・高等学校で地学等の科目を担当した経験を有するので、特に実践的指導能力の獲得を狙った本科目については、その経験をフィードバックしていくことを考えている。なお、情勢の変化により予定通りシラバスの内容が実施できず、評価の手段も変更せざるを得ないことも可能性として否定できないので、その際には事前に相談させてもらうつもりでいる。また、上記の内容にも関連するが、本来ならば本科目は発展的内容を主とする科目であることから理科教育法(1)及び同(2)の履修を済ませている、ないしは履修中であることが望ましい科目であるので、同(1)～(4)の履修の順についてはよく考えた上で履修してもらいたい。

【Outline (in English)】

The students not only will understand the goals and contents of the guidelines of science curriculum in junior high school and high school but will also acquire the knowledge and abilities necessary for providing practical guidance of the subject in the educational settings. Specifically, the students will acquire teaching methods for science courses in the educational settings through the creation of learning guidance plans and plans for board writings, the use of ICT equipment, and by studying the teaching materials for lesson plans that incorporate active learning. By the end of the course, students should be able to do the following:

1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
2. To assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
4. Apply theories or findings to real world situations.

Make it more developed content than (1) or (2).

Learning activities outside of classroom:In preparations learning, the review time for this class, I assume for each two hours a standard. The teaching materials study is necessary for contents. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Class attendance and attitude in class(20%) Reports and tests (15%) Teaching plan (25%) Contents of the simulated class(25%) Mutual evaluations between the student attending a lectures for the simulated class(15%)

理科教育法(4)

狩野 真規

授業コード：A3531 | 曜日・時限：月4/Mon.4
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理科教育法(1)・(2)の内容から発展させたものとして位置付けている。具体的には学習指導案の内容理解を深めるとともに、より実態に即した高校理科の授業設計のための視点を養うことが出来る内容だけではなく、発展的内容の扱い方やICT機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための実践的な能力の獲得も出来るものを目指す。

【到達目標】

中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するだけでなく、現場で実践的に教科指導を行うにあたって必要な知識・能力を身につける。具体的には学習指導案や板書計画の作成やICT機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための教材研究を通じて、現場での理科の授業を実践するための指導方法を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、講義冒頭で資料を配布し、それに基づいて進めていく講義形式とするが、受講者同士での意見交換、課題実習（紙ベース）への取り組みとそのフィードバック（添削した上で次回返却）、受講者による模擬授業等、様々な形式のものも取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	高校理科の学習内容の再確認	学習指導要領を通じて、全体の構成とその内容、指導上の留意点などを再確認していく。
第2回	視聴覚及びICT教材の活用	視聴覚・ICT教材の効果的活用法について、現場での実態と報告を元に考えていく。
第3回	高校理科の学習評価	理科における定期テストやレポートの評価について、現場での実態を元に考えていく。
第4回	理科教育の安全管理	実験室利用に伴う安全対策と危機管理について、実態を元に現場での対応能力の獲得につながる事柄について検討していく。
第5回	アクティブラーニングについて	高校理科におけるアクティブラーニングについて、実際に使えそうな新しい指導法の構築を目指す。
第6回	SSHについて	文部科学省が指定するスーパーサイエンススクール(SSH)について、その取り組みから実態を探索。
第7回	高校理科の科目研究・その1	物理学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第8回	高校理科の科目研究・その2	化学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第9回	高校理科の科目研究・その3	生物学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第10回	高校理科の科目研究・その4	地学の授業法の検討をする。地球科学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第11回	授業実践・高校理科の模擬授業（第1回）	先人による授業実践の動向を踏まえた発展的内容の授業設計への取り組みについて考える。
第12回	授業実践・高校理科の模擬授業（第2回）	授業の実践・振り返りから授業改善の現実的対応法について考える。
第13回	授業実践・高校理科の模擬授業（第3回）	これまでの模擬授業の経験から授業改善を狙うとともに、生徒の実態を考慮しつつ、発展的内容を盛り込んだ授業設計の現実的対応法を考える。
第14回	授業実践・高校理科の模擬授業（第4回）	ICT機器の効果的利用を考慮した授業設計から、現状の問題点とその改善点を見出す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究することである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けて時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領（文部科学省 最新版）

【参考書】

中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編（文部科学省 最新版）その他については講義内に適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業期間中に提示された課題に対するレポートや解答(15%)、模擬授業のために作成した学習指導案(25%)、模擬授業の内容(25%)、授業内討論での発言等(20%)を評価の視点とする。また、模擬授業については他の受講者の評価(15%)も加える。これらの合計で評価を決める。したがって、定期試験による評価を行う予定はない。特に模擬授業の指導案とその指導案を使って行った模擬授業の内容は重視する。また、教壇で生徒に模範を示す手前上、出席は当然であり、無断欠席はありえないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

理科は場合により教材を自作することがあるが、実際に工作などをしてもらう際に明らかに工作の経験が少なく、講義時間内での完成に至らないケースが過去にあった。ただ、講義だけでそれらの経験不足はカバーできないはずなので、何かしら自らで対処する発想を持つようにしてもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

緊急時の連絡を授業支援システムを通じて行うこともあるので、できるだけ本システムを利用できる状態にしておくこと。

【その他の重要事項】

担当教員は複数の中学校・高等学校で地学等の科目を担当した経験を有するので、特に実践的指導能力の獲得を狙った本科目については、その経験をフィードバックしていくことを考えている。なお、情勢の変化により予定通りシラバスの内容が実施できず、評価の手段も変更せざるを得ないことも可能性として否定できないので、その際には事前に相談させてもらうつもりである。また本科目は発展的内容を主とする科目であることから理科教育法（1）及び同（2）の履修を済ませている、ないしは履修中であることが望ましい科目であるので、同（1）～（4）の履修の順についてはよく考えるように。

【Outline (in English)】

The students not only will understand the goals and contents of the guidelines of science curriculum in junior high school and high school but will also acquire the knowledge and abilities necessary for providing practical guidance of the subject in the educational settings. Specifically, the students will acquire teaching methods for science courses in the educational settings through the creation of learning guidance plans and plans for board writings, the use of ICT equipment, and by studying the teaching materials for lesson plans that incorporate active learning. By the end of the course, students should be able to do the following:

1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
2. To assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
4. Apply theories or findings to real world situations.

Make it more developed content than (1) or (2).
Learning activities outside of classroom:In preparations learning, the review time for this class, I assume for each two hours a standard.
The teaching materials study is necessary for contents.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class attendance and attitude in class(20%)

Reports and tests (15%)

Teaching plan (25%)

Contents of the simulated class(25%)

Mutual evaluations between the student attending a lectures for the simulated class(15%)

PSY100BG（心理学 / Psychology 100）

心理学概論

福田 由紀

授業コード：A3601 | 曜日・時限：火2/Tue.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の諸領域の基本的な理論や考え方に関する基礎知識を得ることが本授業の目的です。それにより、日常生活において心理学的な見方が身につくでしょう。また、法政心理で学べる心理学分野の概略が理解できます。さらに、実社会で望まれるスキルである「聞きながらメモを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

【到達目標】

- ①心理学の基礎知識が身につく。
- ②心理学的な見方ができる。
- ③聞きながらメモをとることができる。
- ④階層構造を意識したノートをとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

基本は講義形式です。教科書は毎時間「使用します!」ので持参してください。また、Hoppiiを通じて、授業の前に宿題の提出、授業後に小テストへの回答をしてください。なお、授業の初めに、提出された宿題の内容に関し、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、心理学的な見方	授業の進め方の説明、心理学的な見方とは
第2回	感覚・知覚	知覚の特性、視覚システムの特徴
第3回	行動の形成	遺伝－環境論争、人間の行動の特徴
第4回	学習理論とその応用	古典的条件づけ、道具的条件づけ、社会的学習
第5回	記憶とその変容	ワーキングメモリ、記憶の変容
第6回	読むことと書くこと	文章の理解と産出
第7回	思考	問題解決、人の思考のクセ
第8回	自他のこころの理解	自己意識の発達、心の理論
第9回	動機づけ	動機づけの機能と種類、ストレス
第10回	認知発達	ピアジェ・ヴィゴツキー・情報処理論的な考え方
第11回	集団の中の個人	集団の圧力、研究の倫理的な問題
第12回	帰属過程	帰属理論、帰属のバイアス
第13回	性格	性格の記述の考え方、性格測定法
第14回	期末テストとその解説、まとめ	期末テストの実施とその解説、授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

* 次週の授業内容にあわせて、短い宿題が出ます。授業前にHoppiiから提出して下さい。

- 第1回 錯視を体験する。
- 第2回 ヒトの行動の形成に影響する要因を考え、書く。
- 第3回 自動的に行っている日々の行動を省察する。
- 第4回 自分の記憶術を振り返る。
- 第5回 行間を理解することを体験する。
- 第6回 覆面算と水がめ問題を体験する。
- 第7回 中間テストの準備を行い、自己評価する。
- 第8回 日常のストレス状態を省察する。
- 第9回 保存課題を体験する。
- 第10回 一人きりで一日を過ごせないことを省察する。
- 第11回 他者の行動の帰属を推測する。
- 第12回 性格テストを体験する。
- 第13回 期末テストの準備を行い、自己評価する。

* 受講した授業の内容に関して、小テストをHoppiiを通じて行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「心理学要論-こころの世界を探る- 改訂版」福田由紀編 培風館 2010年

【参考書】

適宜授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点20%（宿題と小テスト）と期末テストの結果を80%として、総合点により決定されます。期末テストの追試は、履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容、自分で教科書を読んだ内容、そして応用問題が問われます。形式は多肢選択式です。

【学生の意見等からの気づき】

「工夫していた」8割超、「授業を受けてよかった」が約8割と回答してくれました。ありがとうございます！主に1年生が受講している授業です。法政大学では100分授業。高校までよりかなり長いですね。そのために、授業を2ないしは3分割して、そこまでのまとめを自分で書いてもらう活動を入れています。その活動に関する自由記述です。「まとめの時間が個人的には非常に有意義な学習時間だった。単純に講義を受けるだけでは、先生のわかりやすい説明を聞いてさもわかったかのような気分になって終わってしまうが、まとめを自分の言葉でまとめ、記述することで、自身の理解度を客観性を持って理解することができた。」このように、まとめの時間を入れることは学習効果がありそうなので、続けていきますね。

【その他の重要事項】

大学の授業では、高校までの授業とは異なり、科目担当者の専門性に反映した内容が取り上げられます。そのため、類似した科目名であっても重点が置かれている内容が異なります。例えば、ILAC科目には「心理学I/II（100番台）」、「心理学LA/LB（200番台）」、総合科目「人間行動学A/B（300番台）」、教養ゼミI/II「心理的ウェルビーイングを考えるA/B（300番台）」などがあります。それぞれの科目担当者の先生は、以下の通りです。

* 宇野カオリ先生担当：ポジティブ心理学

* 櫻井登世子先生担当：発達心理学（特に児童心理学）

* 浅川希洋志先生担当：フロー理論、臨床心理学、文化心理学

シラバスの内容をよく読んで、履修可能性年次も考慮しつつ、自分の興味にあった科目を選択して下さい。

また、本授業は、様々な分野を抱えている心理学全般に関する入門的内容になっています。そのため、授業の中で、心理学科に置かれている2年次以降に履修できる基礎科目や専門科目を紹介します。特定の授業回で興味を持った場合には、それらの科目を受講してください。

【教員の実務経験】

- ・小学校国語教科書編集委員（教育出版）1996年4月1日－2015年3月31日
- ・中央教育審議会初等中等教育分科会言語能力の向上に関する特別チーム 2014年10月21日－2017年2月14日
- ・文化審議会臨時委員（国語分科会）2016年3月20日－2023年3月31日

【実験や調査への参加】

授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【Outline (in English)】

Course outline : This course introduces psychology.

Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to do the following:

- A. deepen their understanding about psychology
- B. broaden their perspectives form psychology
- C. take memos while hearing
- D. take notes organized hierarchically

Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.

Grading Criteria : Your overall grade in the class will be determined based on the following: final examination: 80%, in-class contribution: 20%.

PSY100BG（心理学 / Psychology 100）

心理学史

矢口 幸康

授業コード：A3602 | 曜日・時限：火2/Tue.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では心理学の歴史を学びます。心理学が独立した学問として認められたのはまだ120年ほど前のことであり、それからさまざまな変遷がありました。現在の心理学を当たり前のものと考えずに、人々が人間のこころや行動について考えるとはどういうことかをさらに深く理解するために、心理学の歴史と前史を学びます。

【到達目標】

この心理学史を受講することで、心理学の流れを理解することができます。19世紀後半にまず欧米の大学で心理学を学ぶことが可能になりましたが、なぜその時代にならないと学べなかったのかを理解するために、まず19世紀までの前史を学びます。そのあとで心理学における20世紀の3大潮流を学び、「心理学の世紀」と呼ばれた20世紀の展開を学びます。これらの知識から、なぜ今の心理学が統計学や実験方法を使う一方で、個人の主観的な言説をデータとして利用しているのかについて理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを利用した講義が中心です。心理学史において有名な人物は必ずしも他の授業のなかで登場するわけではないので、そういう人々の生涯も含めて説明します。パワーポイントの資料はhoppiiに事前に掲載するので、授業を欠席した人も内容を事後に確認することができます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	心理学史を学ぶ意義と、心理学史の方法論について
第2回	心理学誕生前史	19世紀哲学・医学・生物学が心理学へ与えた影響について
第3回	近代心理学の始まり・展開	ドイツにおける心理学の誕生と展開について
第4回	アメリカにおける心理学の展開	アメリカにおける大学心理学の展開について
第5回	日本における心理学の展開	日本における大学心理学の展開について
第6回	社会における心理学の展開	20世紀初頭の社会において心理学が果たした役割について
第7回	20世紀の3大潮流(1)行動主義	行動主義の誕生と展開について
第8回	20世紀の3大潮流(2)精神分析	精神分析の誕生と展開について
第9回	20世紀の3大潮流(3)ゲシュタルト心理学	ゲシュタルト心理学の誕生と展開について
第10回	第3勢力の台頭(1)認知心理学	認知心理学の誕生と展開について
第11回	第3勢力の台頭(2)人間性心理学	人間性心理学の誕生と展開について
第12回	戦争が心理学に与えた影響	第一次・第二次世界大戦が心理学研究に与えた影響について
第13回	臨床心理学の展開	心理学研究成果の社会還元について
第14回	まとめと振り返り	授業内容の再確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は「心理学概論」の内容を理解していることを前提としています。それでも授業のなかで知らない概念が出てきた場合には、復習して理解してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使いません。各回資料PDFはHopiiで閲覧可能です。

【参考書】

サトウタツヤ・高砂美樹 2022 流れを読む心理学史【補訂版】 有斐閣アルマ
高砂美樹 2021 心理学史はじめての一步（改訂電子版） アルテ

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

【学生の意見等からの気づき】

1年生の受講科目だと思って油断していると、上級生でも単位を落とすことがあります。他学部の履修者にも心理学の基礎知識を要求しますので、それを理解したうえで受講してください。

【学生が準備すべき機器他】

使う予定の資料（PDF）はHoppiiにあげておきますので、適宜、事前に自分でダウンロードして教科書代わりに使用してください。

【Outline (in English)】

The lectures on the basic history of psychology, including Japanese one, are given. The students are supposed to understand the background and the transition of trends of psychology from the late 19th to the end of the 20th century after the whole lectures. The slides to be used in the lectures can be obtained through Hoppii to prepare for better understanding. The grading criteria: 80% final exam, 20% attendance with small tasks.

By taking this course in the history of psychology, you can understand the flow of psychology. It was not until the late 19th century that it became possible to study psychology at universities in the West, but in order to understand why it could not be studied until that era, we first learn the prehistory up to the 19th century. After that, we learn about the three major trends in psychology in the 20th century and the development of the 20th century, which was called the “century of psychology”. From this knowledge, you can understand why current psychology uses statistics and experimental methods, while also utilizing individual subjective discourse as data.

This course assumes that you understand the content of “Introduction to Psychology.” Even so, if unfamiliar concepts emerged during the course, please review and understand them. The standard time for the preparatory study and review for this course was 2 h each.

The grade of this subject was determined by the final examination (100%).

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

心理学測定法 I

[W組]

押尾 恵吾

授業コード：A3611 | 曜日・時限：月5/Mon.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の測定法の中でも一般的な、質問紙（アンケート）法を用いて、自分自身で研究を行うための基礎的な力を習得することが授業の目的です。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で、以下のことができるようになっていることが到達目標です。

1. 質問紙作成のための基礎的な知識を理解し、説明すること。
2. 既存の質問紙（心理尺度）を利用して、質問紙研究を計画・実施すること。
3. 得られたデータに対して、適切な分析および解釈をすること。
4. 発表の場で、的確で効果的なプレゼンテーションを行うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

心理学の中でもよく用いられる「質問紙法」について、基礎的な手続きを一通り経験してもらいます。研究倫理や質問紙作成上の注意、技術的な側面から始め、質問紙を配付し、データを回収する上での留意点を学びます。そして、既存の質問紙を利用して、実際にデータを採り、基本的な分析をするという課題解決型学習（PBL）に取り組めます。

2回目から5回目までの授業では、反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動（グループワーク）を行うという方法です。6回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で、授業時間内の班活動に臨みます。研究成果の発表（プレゼンテーション）を含め、班活動が中心になりますから、必ず責任持って出席することが受講の条件となります。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明、班構成、受講上の注意
第2回	質問紙作成の基礎	質問紙作成作業の流れと留意点
第3回	質問紙法の実施方法	配付及び回収の方法
第4回	心理尺度の作成	尺度とは、信頼性・妥当性
第5回	使用する心理尺度	一般的な質問紙調査の構成、具体的な心理尺度を知る
第6回	研究計画決定	研究計画申請書作成と質問紙の原稿作成
第7回	質問紙の印刷・製本と、結果の入力	データのコーディングと入力方法
第8回	質問紙の実施1	質問紙への回答
第9回	質問紙の実施2	質問紙への回答およびデータ入力
第10回	結果の分析と考察	分析方法の確認と発表すべき結果の吟味
第11回	発表準備1	結果の考察及び発表資料の作成
第12回	発表準備2	スライドの作成
第13回	発表1	研究成果の発表および発表に対するコメント
第14回	発表2 + 総括	研究成果の発表および発表に対するコメント + 発表内容の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に2回目から5回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組み必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要性があります。調査を行えるように質問紙を作成するなどの作業も必要です。研究成果の発表時には、練習を授業外で自主的に行うことが有効です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「心理学マニュアル 質問紙法」(鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤(編著),北大路書房,1998年)他に、適宜プリントを配布します。

【参考書】

レジュメの作り方や引用の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明しますので購入してください。
「大学基礎講座」(藤田哲也(編),北大路書房,2006年)。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）…平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出すること、授業内およびH'etudesの掲示板上でほかの班の発表に対してコメントすることも評価の対象に含まれます。

研究（40％）…実際に作成した質問紙の適切さ、発表資料（レジュメ）・発表内容・発表のしかたのそれぞれの正確さとしわかりやすさ、質疑応答の適切さが評価の対象です。

班活動（20％）…班ごとの研究に対する評価と、授業への参加回数を考慮して、班活動への貢献度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2024年度の授業改善アンケートに回答してくれた13名のうち「この授業を履修してよかった」で5が6名、4が4名、3が3名となりました。「理解度」は5と4が多く5が5名、4が3名、3が4名、1が1名で、ほぼ例年同様の傾向でした。内容の定着は一定水準に達していたのだと思います。自由記述欄には5名が書いてくれましたが、3名は肯定的な意見でした。「測定調査の方法や意味を理解することができるようになったと思う。」「一から発表までの過程を行うことができ、貴重な経験だった。」という意見をいただきました。引き続きこのやり方で進めていきます。

【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は、遅くとも初回授業日中にメールで直接連絡をください。メールアドレスはoshiodejikken[at]yahoo.co.jp です（[at]を@マークに置き換えてください）。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this class, students will acquire basic skills to conduct research using the questionnaire method which is common among psychological measurement methods.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.Students can understand and explain the fundamentals of questionnaire development.
- 2.Students can conduct a questionnaire study using existing questionnaires (psychological scales).
- 3.Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.
- 4.Students can communicate research results accurately and efficiently.

[Learning activities outside of classroom]

Before each class meeting, students are expected to watch and read the materials and then submit their preparatory tasks. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research 40% (research plan presentation 15%, main presentation 25%), group activities 20%.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

心理学測定法 I

[X組]

押尾 恵吾

授業コード：A3612 | 曜日・時限：月4/Mon.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の測定法の中でも一般的な、質問紙（アンケート）法を用いて、自分自身で研究を行うための基礎的な能力を習得することが授業の目的です。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で、以下のことができるようになっていることが到達目標です。

- 1. 質問紙作成のための基礎的な知識を理解し、説明すること。
- 2. 既存の質問紙（心理尺度）を利用して、質問紙研究を計画・実施すること。
- 3. 得られたデータに対して、適切な分析および解釈をすること。
- 4. 発表の場で、的確で効果的なプレゼンテーションを行うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

心理学の中でもよく用いられる「質問紙法」について、基礎的な手続きを一通り経験してもらいます。研究倫理や質問紙作成上の注意、技術的な側面から始め、質問紙を配付し、データを回収する上での留意点を学びます。そして、既存の質問紙を利用して、実際にデータを採り、基本的な分析をするという課題解決型学習（PBL）に取り組めます。

2回目から5回目までの授業では、反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動（グループワーク）を行うという方法です。6回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で、授業時間内の班活動に臨みます。研究成果の発表（プレゼンテーション）を含め、班活動が中心になりますから、必ず責任持って出席することが受講の条件となります。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明、 班構成、受講上の注意
第2回	質問紙作成の基礎	質問紙作成作業の流れと留意点
第3回	質問紙法の実施方法	配付及び回収の方法
第4回	心理尺度の作成	尺度とは、信頼性・妥当性
第5回	使用する心理尺度	一般的な質問紙調査の構成、具体的な心理尺度を知る
第6回	研究計画決定	研究計画申請書作成と質問紙の原稿作成
第7回	質問紙の印刷・製本と、結果の入力	データのコーディングと入力方法
第8回	質問紙の実施1	質問紙への回答
第9回	質問紙の実施2	質問紙への回答およびデータ入力
第10回	結果の分析と考察	分析方法の確認と発表すべき結果の吟味
第11回	発表準備1	結果の考察及び発表資料の作成
第12回	発表準備2	スライドの作成
第13回	発表1	研究成果の発表および発表に対するコメント
第14回	発表2＋総括	研究成果の発表および発表に対するコメント＋発表内容の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に2回目から5回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組み必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要性があります。調査を行えるように質問紙を作成するなどの作業も必要です。研究成果の発表時には、練習を授業外で自主的に行うことが有効です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「心理学マニュアル 質問紙法」(鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤(編著),北大路書房,1998年)他に、適宜プリントを配布します。

【参考書】

レジュメの作り方や引用の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明しますので購入してください。
「大学基礎講座」(藤田哲也(編),北大路書房,2006年)。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）…平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出すること、授業内およびH'etudesの掲示板上でほかの班の発表に対してコメントすることも評価の対象に含まれます。

研究（40％）…実際に作成した質問紙の適切さ、発表資料（レジュメ）・発表内容・発表のしかたのそれぞれの正確さとしわかりやすさ、質疑応答の適切さが評価の対象です。

班活動（20％）…班ごとの研究に対する評価と、授業への参加回数を考慮して、班活動への貢献度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2024年度の授業改善アンケートに回答してくれた13名のうち「この授業を履修してよかった」で5が6名、4が4名、3が3名となりました。「理解度」は5と4が多く5が5名、4が3名、3が4名、1が1名で、ほぼ例年同様の傾向でした。内容の定着は一定水準に達していたのだと思います。自由記述欄には5名が書いてくれましたが、3名は肯定的な意見でした。「測定調査の方法や意味を理解することができるようになったと思う。」「一から発表までの過程を行うことができ、貴重な経験だった。」という意見をいただきました。引き続きこのやり方で進めていきます。

【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は、遅くとも初回授業日中にメールで直接連絡をください。メールアドレスは oshiodejikken[at]yahoo.co.jp です（[at]を@マークに置き換えてください）。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this class, students will acquire basic skills to conduct research using the questionnaire method which is common among psychological measurement methods.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.Students can understand and explain the fundamentals of questionnaire development.
- 2.Students can conduct a questionnaire study using existing questionnaires (psychological scales).
- 3.Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.
- 4.Students can communicate research results accurately and efficiently.

[Learning activities outside of classroom]

Before each class meeting, students are expected to watch and read the materials and then submit their preparatory tasks. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research 40% (research plan presentation 15%, main presentation 25%), group activities 20%.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

心理学測定法Ⅱ

[W組]

押尾 恵吾

授業コード：A3613 | 曜日・時限：月5/Mon.5
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分たちの関心ある問題を設定し、適切な調査計画を立て、調査を実施し、結果を分析して考察します。調査による研究過程を一通り体験することで、心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。特に心理尺度の構成と基本的な統計分析を習得します。

【到達目標】

心理学測定法の理論と技法を実践的に身につけることを目指します。具体的には、半期の授業が終わる頃には、次のことができるようになることを目標とします。

- 1.心理尺度の構成を説明できる。
- 2.因子分析、相関分析、重回帰分析を行える。
- 3.適切な統計分析を実施できる。
- 4.研究結果について効果的にプレゼンテーションできる。
- 5.質問紙調査について、文献収集から調査実施、分析までの流れを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

心理学測定法の実践について基礎的な知識を習得し、受講者個人が自分で調査の企画を立て実施できる能力を身につけることを目的とした実践的な授業です。資料収集、問題設定、サンプリング、項目設定、調査の実施、分析、考察、結果報告など、心理学研究に関する調査実施の基本的な作業を網羅的に学びます。作業は、4～5人のグループ単位で行ってもらいます。また各グループの理解度や作業の進行具合を鑑みて、予告した内容を変更することもあります。毎授業の始めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期ガイダンス	秋学期の流れの確認、グループ分け
第2回	研究課題の設定と先行研究の概観 1	研究仮説の決定、論文検索法の学習・実践
第3回	研究課題の設定と先行研究の概観 2	研究仮説の決定、論文検索法の学習・実践
第4回	研究計画書・研究同意書の作成	問題と目的および仮説のまとめ、研究計画書・研究同意書の作成
第5回	質問項目の作成・選定 1	質問項目の候補の作成・選定
第6回	質問項目の作成・選定 2、質問紙作成 1	質問項目の候補の作成・選定、質問紙の作成
第7回	質問紙作成 2	質問紙の作成
第8回	質問紙調査の実施 1	作成した同意書・質問紙の配布、調査の実施、回収
第9回	質問紙調査の実施 2	作成した同意書・質問紙の配布、調査の実施、回収
第10回	データ分析・検討 1 データ分布、項目分析、探索的因子分析、信頼性分析	分析方法の学習、実際の調査のデータの分析
第11回	データ分析・検討 2 相関分析、確認的因子分析、重回帰分析	分析方法の学習、実際の調査のデータの分析
第12回	報告会レジュメ、スライドの作成	実際の調査のデータの分析、研究報告会の準備
第13回	報告会 1	研究成果の発表
第14回	報告会 2	研究成果の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループで作業を行ってもらいますので、話し合いや先行研究の検索、文献を読むことは授業外で積極的に行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを使用しますが、次のテキストを持っていることを前提に授業を行います。
「心理学マニュアル 質問紙法」(鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤(編著),北大路書房,1998年)

【参考書】

発表の行い方については、「心理学測定法Ⅰ」と同様に次のテキストを持っていることを前提に説明します。
「大学基礎講座」(藤田哲也(編),北大路書房, 2006年)
また、次のテキストも大いに参考になりますので、適宜参照してください。
「心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方」(浦上昌則・脇田貴文,東京図書, 2008年)

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%) …平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出すること、授業内および授業支援システムの掲示板上でほかの班の発表に対してコメントすることも評価の対象に含まれます。

研究 (40%) …実際に作成した質問紙の適切さ、発表資料 (レジュメ)・発表内容・発表のしかたのそれぞれの正確さとわかりやすさ、質疑応答の適切さが評価の対象です。

班活動 (20%) …班ごとの研究に対する評価と、授業への参加回数を考慮して、班活動への貢献度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2024年度の授業改善アンケートに回答してくれた14名のうち「この授業を履修してよかった」で5が8名、4が5名、3が1名となりました。「理解度」は5と4が多く5が4名、4が9名、3が1名で、ほぼ例年同様の傾向でした。内容の定着は一定水準に達していたのだと思います。自由記述欄には5名が書いてくれましたが、3名は肯定的な意見でした。「授業資料がとても見やすく、課題に取り組む際や復習をする際に有効活用することができました。先生のアドバイスも的確で分かりやすかったです。」「毎回配布される授業資料に、その回でやることや次回までにやるべきことが記載されており、迷子にならない授業の進め方で良かった。」という意見をいただきました。2名については否定的な意見で、班の間あるいは班内で作業量が異なることに不満があったとのことでした。毎年、進捗状況に合わせて、班内での作業量についての不満があれば教員に伝えるように学生に逐一伝えておりますので、引き続きやり方は変更せずに進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

JASPがインストールされたPC

【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は、遅くとも初回授業日中にメールで直接連絡をください。メールアドレスは oshiodejikken[at]yahoo.co.jp です ([at]を@マークに置き換えてください)。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Students will set up a problem of their own interest, plan an appropriate survey, conduct the survey, and analyze and discuss the results. The purpose of this course is to deepen students' understanding of research methods in psychology by experiencing the entire research process through surveys. In particular, students will learn the structure of psychological scales and basic statistical analysis.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.Students can understand structures of psychological scales.
- 2.Students can perform factor analysis, correlation analysis and multiple regression analysis.
- 3.Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.
- 4.Students can communicate research results accurately and efficiently.
- 5.Students can explain the flow of a questionnaire survey, from literature collection to survey implementation and analysis.

[Learning activities outside of classroom]

Since the students will be asked to work in groups, they are expected to actively engage in discussions, search for previous research, and read literature outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research 40%, group activities 20%.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

心理学測定法Ⅱ

[X組]

押尾 恵吾

授業コード：A3614 | 曜日・時限：月4/Mon.4
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分たちの関心ある問題を設定し、適切な調査計画を立て、調査を実施し、結果を分析して考察します。調査による研究過程を一通り体験することで、心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。特に心理尺度の構成と基本的な統計分析を習得します。

【到達目標】

心理学測定法の理論と技法を実践的に身につけることを目指します。具体的には、半期の授業が終わる頃には、次のことができるようになることを目標とします。

- 1.心理尺度の構成を説明できる。
- 2.因子分析、相関分析、重回帰分析を行える。
- 3.適切な統計分析を実施できる。
- 4.研究結果について効果的にプレゼンテーションできる。
- 5.質問紙調査について、文献収集から調査実施、分析までの流れを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

心理学測定法の実践について基礎的な知識を習得し、受講者個人が自分で調査の企画を立て実施できる能力を身につけることを目的とした実践的な授業です。資料収集、問題設定、サンプリング、項目設定、調査の実施、分析、考察、結果報告など、心理学研究に関する調査実施の基本的な作業を網羅的に学びます。作業は、4～5人のグループ単位で行ってもらいます。また各グループの理解度や作業の進行具合を鑑みて、予告した内容を変更することもあります。毎授業の始めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期ガイダンス	秋学期の流れの確認、グループ分け
第2回	研究課題の設定と先行研究の概観 1	研究仮説の決定、論文検索法の学習・実践
第3回	研究課題の設定と先行研究の概観 2	研究仮説の決定、論文検索法の学習・実践
第4回	研究計画書・研究同意書の作成	問題と目的および仮説のまとめ、研究計画書・研究同意書の作成
第5回	質問項目の作成・選定 1	質問項目の候補の作成・選定
第6回	質問項目の作成・選定 2、質問紙作成 1	質問項目の候補の作成・選定、質問紙の作成
第7回	質問紙作成 2	質問紙の作成
第8回	質問紙調査の実施 1	作成した同意書・質問紙の配布、調査の実施、回収
第9回	質問紙調査の実施 2	作成した同意書・質問紙の配布、調査の実施、回収
第10回	データ分析・検討 1 データ分布、項目分析、探索的因子分析、信頼性分析	分析方法の学習、実際の調査のデータの分析
第11回	データ分析・検討 2 相関分析、確認的因子分析、重回帰分析	分析方法の学習、実際の調査のデータの分析
第12回	報告会レジュメ、スライドの作成	実際の調査のデータの分析、研究報告会の準備
第13回	報告会 1	研究成果の発表
第14回	報告会 2	研究成果の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループで作業を行ってもらいますので、話し合いや先行研究の検索、文献を読むことは授業外で積極的に行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを使用しますが、次のテキストを持っていることを前提に授業を行います。
「心理学マニュアル 質問紙法」(鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤(編著),北大路書房,1998年)

【参考書】

発表の行い方については、「心理学測定法Ⅰ」と同様に次のテキストを持っていることを前提に説明します。
「大学基礎講座」(藤田哲也(編),北大路書房, 2006年)
また、次のテキストも大いに参考になりますので、適宜参照してください。
「心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方」(浦上昌則・脇田貴文,東京図書, 2008年)

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%) …平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出すること、授業内および授業支援システムの掲示板上でほかの班の発表に対してコメントすることも評価の対象に含まれます。

研究 (40%) …実際に作成した質問紙の適切さ、発表資料 (レジュメ)・発表内容・発表のしかたのそれぞれの正確さとわかりやすさ、質疑応答の適切さが評価の対象です。

班活動 (20%) …班ごとの研究に対する評価と、授業への参加回数を考慮して、班活動への貢献度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2024年度の授業改善アンケートに回答してくれた14名のうち「この授業を履修してよかった」で5が8名、4が5名、3が1名となりました。「理解度」は5と4が多く5が4名、4が9名、3が1名で、ほぼ例年同様の傾向でした。内容の定着は一定水準に達していたのだと思います。自由記述欄には5名が書いてくれましたが、3名は肯定的な意見でした。「授業資料がとても見やすく、課題に取り組む際や復習をする際に有効活用することができました。先生のアドバイスも的確で分かりやすかったです。」「毎回配布される授業資料に、その回でやることや次回までにやるべきことが記載されており、迷子にならない授業の進め方で良かった。」という意見をいただきました。2名については否定的な意見で、班の間あるいは班内で作業量が異なることに不満があったとのことでした。毎年、進捗状況に合わせて、班内での作業量についての不満があれば教員に伝えるように学生に逐一伝えておりますので、引き続きやり方は変更せずに進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

JASPがインストールされたPC

【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は、遅くとも初回授業日中にメールで直接連絡をください。メールアドレスは oshiodejikken[at]yahoo.co.jp です ([at]を@マークに置き換えてください)。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Students will set up a problem of their own interest, plan an appropriate survey, conduct the survey, and analyze and discuss the results. The purpose of this course is to deepen students' understanding of research methods in psychology by experiencing the entire research process through surveys. In particular, students will learn the structure of psychological scales and basic statistical analysis.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.Students can understand structures of psychological scales.
- 2.Students can perform factor analysis, correlation analysis and multiple regression analysis.
- 3.Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.
- 4.Students can communicate research results accurately and efficiently.
- 5.Students can explain the flow of a questionnaire survey, from literature collection to survey implementation and analysis.

[Learning activities outside of classroom]

Since the students will be asked to work in groups, they are expected to actively engage in discussions, search for previous research, and read literature outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research 40%, group activities 20%.

PSY300BG（心理学 / Psychology 300）

心理検査法 I

【W組】

宮田 昌明

授業コード：A3615 | 曜日・時限：水4/Wed.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理検査は他者の支援方略を立てたり自己理解を促進したりする際に良く用いられます。本授業では、正しい実施や解釈のための方法を身につけます。また、パーソナリティ検査を中心に引き上げ、実習を通して自己理解を深める機会とします。

【到達目標】

- ①心理検査に関する基礎知識を身につける。
- ②実施や解釈について、体験的に理解するとともに、自己理解を深め、自身の成長へと生かす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は、心理検査の実施と解釈および情報の伝達に関わる際に必要な基礎知識と基本姿勢の習得のために、講義形式を中心とします。後半は、体験的な理解を得るために、心理検査を実際に行う実習形式を中心とします。全体を通して、知識の習得に留まらず、能動的に考えを深め、思考の幅を広げるために、適宜ペアワークやグループワークを取り入れるほか、リアクションペーパーもしくは小レポートの提出を求めます。提出物については翌週以降に全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業概要、授業計画、評価等の説明
第2回	心理検査概要	心理検査の種類と理論
第3回	心理検査の歴史と現状	歴史的背景と近年の現状
第4回	心理検査実施の注意点	倫理的配慮や基本姿勢など
第5回	パーソナリティ検査について	パーソナリティ検査の概論
第6回	YG性格検査①	実施と採点
第7回	YG性格検査②	解釈と解説
第8回	NEO-FFI人格検査①	実施と採点
第9回	NEO-FFI人格検査②	解釈と解説
第10回	P-Fスタディ①	実施と採点
第11回	P-Fスタディ②	解釈と解説
第12回	SCT	実施と解釈
第13回	振り返り	試験
第14回	まとめ	復習と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の性質上、事前に心理検査の内容と解釈について予習する必要はありません。知識の定着のため、学習した内容は必ず復習し、授業全体のまとめを各自作成してください。復習の際は資料などを利用しながら、知識を広げ、理解を深めることを心がけてください。試験や課題については授業内で説明します。本授業の準備・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

沼初枝 (2020). 臨床心理アセスメントの基礎 [第2版] ナカニシヤ出版
願興寺礼子・吉住隆弘 編 (2011). 心理検査の実施の初歩 ナカニシヤ出版
津川律子・篠竹利和 (2010). シナリオで学ぶ医療現場の臨床心理検査 誠信書房
上里一郎 監修 (2001). 心理アセスメントハンドブック [第2版] 西村書店

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) と、試験 (50%) によって評価します。平常点には、授業や実習への取り組みのほか、授業内で示した小レポート等課題への評価が含まれます。4回以上欠席した場合は、成績が評価できません。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料やスライドの見やすさ向上を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

適宜授業内でアナウンスします。

【その他の重要事項】

受講希望者は初回ガイダンスに必ず出席してください。心理検査を通して自己と向き合うことになり、心理的負担を感じる場合があります。この点を考慮して授業に臨んでください。※新型コロナ等の状況に応じて、授業形態が変更になる可能性があります。また、授業形態がオンラインとなる際は、内容が多少変更になる可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 Students will be presented an overview of psychological tests and learn how to analyze results using personality tests.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to do the followings:

- (1) Acquire basic knowledge of psychological tests.
- (2) Understand the implementation and interpretation of psychological tests experientially, and to deepen their own self-understanding and apply it to their own growth.

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. In addition you will be expected to think, research, and learn deeply on your own.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (50%), and in-class contribution (50%). If you are absent four times, your grade will not be evaluated.

PSY300BG（心理学 / Psychology 300）

心理検査法 I

[X組]

宮田 昌明

授業コード：A3616 | 曜日・時限：水5/Wed.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理検査は他者の支援方略を立てたり自己理解を促進したりする際に良く用いられます。本授業では、正しい実施や解釈のための方法を身につけます。また、パーソナリティ検査を中心に上げ、実習を通して自己理解を深める機会とします。

【到達目標】

- ①心理検査に関する基礎知識を身につける。
- ②実施や解釈について、体験的に理解するとともに、自己理解を深め、自身の成長へと生かす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は、心理検査の実施と解釈および情報の伝達に関わる際に必要な基礎知識と基本姿勢の習得のために、講義形式を中心とします。後半は、体験的な理解を得るために、心理検査を実際に行う実習形式を中心とします。全体を通して、知識の習得に留まらず、能動的に考えを深め、思考の幅を広げるために、適宜ペアワークやグループワークを取り入れるほか、リアクションペーパーもしくは小レポートの提出を求めることがあります。提出物については翌週以降に全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業概要、授業計画、評価等の説明
第2回	心理検査概要	心理検査の種類と理論
第3回	心理検査の歴史と現状	歴史的背景と近年の現状
第4回	心理検査実施の注意点	倫理的配慮や基本姿勢など
第5回	パーソナリティ検査について	パーソナリティ検査の概論
第6回	YG性格検査①	実施と採点
第7回	YG性格検査②	解釈と解説
第8回	NEO-FFI人格検査①	実施と採点
第9回	NEO-FFI人格検査②	解釈と解説
第10回	P-Fスタディ①	実施と採点
第11回	P-Fスタディ②	解釈と解説
第12回	SCT	実施と解釈
第13回	振り返り	試験
第14回	まとめ	復習と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の性質上、事前に心理検査の内容と解釈について予習する必要はありません。知識の定着のため、学習した内容は必ず復習し、授業全体のまとめを各自作成してください。復習の際は資料などを利用しながら、知識を広げ、理解を深めることを心がけてください。試験や課題については授業内で説明します。本授業の準備・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

沼初枝 (2020). 臨床心理アセスメントの基礎 [第2版] ナカニシヤ出版
願興寺礼子・吉住隆弘 編 (2011). 心理検査の実施の初歩 ナカニシヤ出版
津川律子・篠竹利和 (2010). シナリオで学ぶ医療現場の臨床心理検査 誠信書房
上里一郎 監修 (2001). 心理アセスメントハンドブック [第2版] 西村書店

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) と、試験 (50%) によって評価します。平常点には、授業や実習への取り組みのほか、授業内で示した小レポート等課題への評価が含まれます。4回以上欠席した場合は、成績が評価できません。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料やスライドの見やすさ向上を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

適宜授業内でアナウンスします。

【その他の重要事項】

受講希望者は初回ガイダンスに必ず出席してください。心理検査を通して自己と向き合うことになり、心理的負担を感じる場合があります。この点を考慮して授業に臨んでください。※新型コロナ等の状況に応じて、授業形態が変更になる可能性があります。また、授業形態がオンラインとなる際は、内容が多少変更になる可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 Students will be presented an overview of psychological tests and learn how to analyze results using personality tests.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to do the followings:

- (1) Acquire basic knowledge of psychological tests.
- (2) Understand the implementation and interpretation of psychological tests experientially, and to deepen their own self-understanding and apply it to their own growth.

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. In addition you will be expected to think, research, and learn deeply on your own.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (50%), and in-class contribution (50%). If you are absent four times, your grade will not be evaluated.

PSY300BG（心理学 / Psychology 300）

心理検査法Ⅱ

【W組】

宮田 昌明

授業コード：A3617 | 曜日・時限：水4/Wed.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理検査は他者の支援方略を立てたり自己理解を促進したりする際に良く用いられます。本授業では、心理検査の特徴について学びます。また、知能検査と発達検査を中心に引き上げ、実習を通して理論と方法を学び、現実での課題と支援について理解を深めます。

【到達目標】

- ①心理検査の特徴を理解し、限界や課題を踏まえた活用について考えを深める。
- ②知能検査及び発達検査の実施方法と解釈についての基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と実習を混ぜつつ、授業を進めます。実習では、グループ内で役割を分担し、実際の検査状況を体験しつつ、採点や解釈について学びます。支援者や検査者となる場合、他者とのコミュニケーションは欠かせないため、全体を通して適宜ペアワークやグループワークを取り入れます。情報を取りまとめ、解釈を深める力を伸ばす必要があることから、リアクションペーパーもしくは小レポートの提出を求めることがあります。提出物については翌週以降に全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業概要、授業計画、評価等の説明
第2回	心理検査の特徴と支援	心理検査の活用と留意点
第3回	人間の発達と検査について	発達検査の種類と概要
第4回	描画法	実習と解説
第5回	新版K式発達検査2020①	概要説明と実習
第6回	新版K式発達検査2020②	結果の分析と解釈
第7回	WPPSI-Ⅲ①	概要説明と実習
第8回	WPPSI-Ⅲ②	結果の分析と解釈
第9回	WISC-V①	概要説明と実習
第10回	WISC-V②	結果の分析と解釈
第11回	WAIS-IV	概要説明と実習、結果の分析、解釈
第12回	生涯発達と心理検査	主に成人期以降の心理検査の種類と活用
第13回	振り返り	試験
第14回	まとめ	復習と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

知識の定着のため、学習した内容は必ず復習し、授業全体のまとめを各自作成してください。復習の際は、レジュメ、参考書、検査手引書、官公庁の資料などを利用しながら、知識を広げ、理解を深めることを心がけてください。試験や課題については授業内で説明します。本授業の準備・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

沼初枝 (2020). 臨床心理アセスメントの基礎 [第2版] ナカニシヤ出版
 願興寺礼子・吉住隆弘 編 (2011). 心理検査の実施の初歩 ナカニシヤ出版
 津川律子・篠竹利和 (2010). シナリオで学ぶ医療現場の臨床心理検査 誠信書房
 上里一郎 監修 (2001). 心理アセスメントハンドブック [第2版] 西村書店

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) と、試験 (50%) によって評価します。平常点には、授業や実習への取り組みのほか、授業内で示した小レポート等課題への評価が含まれます。4回以上欠席した場合は、成績が評価できません。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料やスライドの見やすさの向上を目指します。
 受講者が能動的に参加できる授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

適宜授業内でアナウンスします。

【その他の重要事項】

受講希望者は初回ガイダンスに必ず出席してください。受講者は「心理検査法Ⅰ」が履修済みであることが望ましいです。※新型コロナ等の状況に応じて、授業形態が変更になる可能性があります。また、授業形態がオンラインとなる際は、内容が多少変更になる可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 Students will be presented an overview of psychological tests and learn how to analyze results using intelligence tests and developmental tests.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to do the followings:

- (1) Understand the characteristics of psychological tests and to think about their limitations, issues, and applications.
- (2) Know the basics of how to conduct and interpret intelligence tests and developmental tests.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. In addition you will be expected to think, research, and learn deeply on your own.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (50%), and in-class contribution (50%). If you are absent four times, your grade will not be evaluated.

PSY300BG（心理学 / Psychology 300）

心理検査法Ⅱ

[X組]

宮田 昌明

授業コード：A3618 | 曜日・時限：水5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理検査は他者の支援方略を立てたり自己理解を促進したりする際に良く用いられます。本授業では、心理検査の特徴について学びます。また、知能検査と発達検査を中心に引き上げ、実習を通して理論と方法を学び、現実での課題と支援について理解を深めます。

【到達目標】

- ①心理検査の特徴を理解し、限界や課題を踏まえた活用について考えを深める。
- ②知能検査及び発達検査の実施方法と解釈についての基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と実習を混ぜつつ、授業を進めます。実習では、グループ内で役割を分担し、実際の検査状況を体験しつつ、採点や解釈について学びます。支援者や検査者となる場合、他者とのコミュニケーションは欠かせないため、全体を通して適宜ペアワークやグループワークを取り入れます。情報を取りまとめ、解釈を深める力を伸ばす必要があることから、リアクションペーパーもしくは小レポートの提出を求めることがあります。提出物については翌週以降に全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業概要、授業計画、評価等の説明
第2回	心理検査の特徴と支援	心理検査の活用と留意点
第3回	人間の発達と検査について	発達検査の種類と概要
第4回	描画法	実習と解説
第5回	新版K式発達検査2020①	概要説明と実習
第6回	新版K式発達検査2020②	結果の分析と解釈
第7回	WPPSI-Ⅲ①	概要説明と実習
第8回	WPPSI-Ⅲ②	結果の分析と解釈
第9回	WISC-V①	概要説明と実習
第10回	WISC-V②	結果の分析と解釈
第11回	WAIS-IV	概要説明と実習、結果の分析、解釈
第12回	生涯発達と心理検査	主に成人期以降の心理検査の種類と活用
第13回	振り返り	試験
第14回	まとめ	復習と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

知識の定着のため、学習した内容は必ず復習し、授業全体のまとめを各自作成してください。復習の際は、レジュメ、参考書、検査手引書、官公庁の資料などを利用しながら、知識を広げ、理解を深めることを心がけてください。試験や課題については授業内で説明します。本授業の準備・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

沼初枝 (2020). 臨床心理アセスメントの基礎 [第2版] ナカニシヤ出版
願興寺礼子・吉住隆弘 編 (2011). 心理検査の実施の初歩 ナカニシヤ出版
津川律子・篠竹利和 (2010). シナリオで学ぶ医療現場の臨床心理検査 誠信書房
上里一郎 監修 (2001). 心理アセスメントハンドブック [第2版] 西村書店

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) と、試験 (50%) によって評価します。平常点には、授業や実習への取り組みのほか、授業内で示した小レポート等課題への評価が含まれます。4回以上欠席した場合は、成績が評価できません。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料やスライドの見やすさの向上を目指します。
受講者が能動的に参加できる授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

適宜授業内でアナウンスします。

【その他の重要事項】

受講希望者は初回ガイダンスに必ず出席してください。受講者は「心理検査法Ⅰ」が履修済みであることが望ましいです。※新型コロナ等の状況に応じて、授業形態が変更になる可能性があります。また、授業形態がオンラインとなる際は、内容が多少変更になる可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 Students will be presented an overview of psychological tests and learn how to analyze results using intelligence tests and developmental tests.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to do the followings:

- (1) Understand the characteristics of psychological tests and to think about their limitations, issues, and applications.
- (2) Know the basics of how to conduct and interpret intelligence tests and developmental tests.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. In addition you will be expected to think, research, and learn deeply on your own.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (50%), and in-class contribution (50%). If you are absent four times, your grade will not be evaluated.

PSY100BG（心理学 / Psychology 100）

脳の科学

木村 健太

授業コード：A3619 | 曜日・時限：金3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学が扱うさまざまな心の働きについて、脳の科学という観点から基礎的な知見を学びます。脳の構造や機能について学ぶだけではなく、心理学の中でも脳の科学からのアプローチが盛んなトピックを取り上げて、具体的な研究成果の紹介を通して心の働きと脳の関係性について広く学びます。また、脳の科学が社会においてどのように役立てられているか、産業やサービス、健康分野等における応用例についても学びます。

【到達目標】

- ・心の働きに関わる脳神経基盤を明らかにするための認知神経科学的方法について、それぞれの方法の長所・短所とともに説明できるようになる。
- ・認知や感情などさまざまな心の働きに関わる脳神経基盤の概略について、具体的な研究知見を交えて説明できるようになる。
- ・脳の科学の実社会応用例について説明できるとともに、その制限・課題を理解することで適切な態度（科学リテラシー）を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基礎的な知識を学びます。講義はスライドや動画といった視覚教材を活用して実施します。授業中に出される課題への回答や授業に関する疑問・感想を記載したリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業で疑問や感想に対するフィードバックを含めた授業を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方や授業目標の確認、心理学で「脳の科学」を学ぶ意義、脳の研究史
第2回	心はどこから生まれるか	神経細胞や神経回路などの脳の仕組みと働き、脳以外の身体の仕組みと働き
第3回	脳を科学する方法	ニューロン活動記録、脳波、脳機能イメージングなどの認知神経科学的な研究方法
第4回	認知する脳	視覚や聴覚を中心とした知覚・認知を支える脳神経基盤
第5回	学び、覚える脳	学習、記憶を支える脳神経基盤
第6回	実行する脳	目標指向行動、実行機能、意思決定を支える脳神経基盤
第7回	感じる脳	恐れや怒りといった感情を生み出す脳神経基盤
第8回	せめぎ合う脳	感情の抑制や制御を支える脳神経基盤
第9回	共存する脳	他者との相互作用や集団行動など社会生活を支える脳神経基盤
第10回	発達する脳	心の発達や社会性の発達と脳の発達の関連性
第11回	脳だけでいいのか？	心の働きと内臓、内分泌、免疫系の生理活動の関連性
第12回	脳の個人差	精神疾患、パーソナリティなどの個人差と脳神経基盤の個人差の関連性
第13回	脳の科学の実社会応用	実社会でのモノづくりやサービスへの脳の科学の応用
第14回	まとめ	授業の復習、授業内容の理解度を確認するためのテスト実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間合計4時間を標準とします。
- ・次回の授業内容について参考図書等を読むなどの事前学習を行ってください。
- ・授業内で解説した脳の科学的知見を、日常の自分や他者の行動に当てはめて考えることが知識の定着のための復習になります。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した資料を配布します。

【参考書】

リタ・カーター（著）養老孟司（監修）（2022）ブレインブック（原書第3版）みえる脳 南江堂

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回授業に関係する10分程度の達成度テストを行います。また、期末に試験を行います。
- ・成績評価は達成度テストの実施提出・レポート課題を含む平常点（50％）と期末試験（50％）で行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

- ・授業の進め方や授業計画、授業目標の説明をしますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。
- ・オフィスアワー：春・秋学期ともに木曜日3限（BT1109研究室）。訪問希望者は、メール（k.kimura[at]hosei.ac.jp）等で前日までに連絡してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

We will learn basic findings from brain science including cognitive neuroscience research. In addition to the structure and function of the brain, we will learn about the relationship between the brain and the mind through the introduction of specific research results on topics in psychology that have been actively approached from the perspective of brain science. We will also learn how brain science is utilized in society and how it is applied in industry, services, health, and other fields.

(Learning Objectives)

1. To be able to explain the methodology of cognitive neuroscience for clarifying the neural basis of mental functions, along with the advantages and disadvantages of each method.
2. To be able to explain the neural basis of various mental functions, such as cognition and emotion, with specific research findings.
3. We will be able to explain examples of real-world applications of brain science and develop appropriate attitudes (scientific literacy) by understanding the limitations and challenges of these applications.

(Learning activities outside of classroom)

It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.

(Grading Criteria /Policy)

Final examination 50% in clear contribution 50% including achievement test.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

認知心理学

竹島 康博

授業コード：A3620 | 曜日・時限：木2/Thu.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学において人間の認知機能がどのように研究されてきたのかを解説します。この授業を通じて、実験を中心に進められてきた認知心理学という分野の特徴やその研究法について理解することを目的とします。

【到達目標】

人間の感覚情報処理について、主に高次な認知機能に関連した情報処理やその研究手法について理解を深める。人間の感覚情報処理が心理実験を中心に研究されてきた背景を学ぶことにより、物事を科学的に捉える思考力を身に付けることを目指す。期末試験においては、認知心理学における専門用語が理解できているか、基礎的な現象について適切に説明できるかを評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

高次な認知機能に関連した情報処理の内容を中心に講義を進めていく。講義はパワーポイントのスライドや動画といった視覚教材を活用して実施する。また、認知心理学の研究の中で用いられてきた実験手法を体験する機会を設け、学術的な問いに対してどのような手法で解決していくことができるのかについて学ぶことも重視した授業を実施する。各授業の最後に理解度の確認を兼ねてコメントペーパーを提出してもらう。コメントペーパーのフィードバックは毎回まとめて授業資料としてアップする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の進め方を説明、認知心理学の歴史についての解説
第2回	記憶の機能（1）	物事を記憶する一連の過程や仕組みについての解説
第3回	記憶の機能（2）	記憶したことの忘却や変容の過程についての解説
第4回	注意の機能（1）	情報処理における「注意」の機能についての解説
第5回	注意の機能（2）	視覚的な注意を中心とした注意の研究法についての解説
第6回	感情の機能（1）	感情の経験が生じる過程に関する諸理論についての解説
第7回	感情の機能（2）	感情と注意および記憶といった機能との関連を解説
第8回	感覚情報処理（1）	順応や恒常性といった感覚全般の持つ基本特性について解説
第9回	感覚情報処理（2）	知覚と呼ばれる主観的な経験を可視化する研究方法について解説
第10回	異種感覚間相互作用	異なる感覚情報を統合した知覚の処理についての解説
第11回	感性情報処理	美感を中心とした感性情報処理についての解説
第12回	心的イメージ	心的イメージの機能についての解説
第13回	問題解決と意思決定	問題解決および意思決定の過程についての解説
第14回	授業内試験と全体の総括	全体の総括として、授業内で試験を行ったうえで、その解説を行うことでまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業内で紹介した現象について、日常場面に当てはめて考えることを復習として行います。また、関連した内容を参考図書等で自主学習します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

御領謙・菊地正・江草浩幸・伊集院睦雄・服部雅史・井関龍太『最新 認知心理学への招待 [改訂版]——心の働きとしくみを探る——』2016 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパーによる授業の理解度の平常点を評価の40%とし、残り60%を学期末に行う授業内試験の成績とします。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度からコメントペーパーを利用して各回の授業の理解度を確認して、それを平常点の評価に使うようにしました。授業を聞きながらまとめられるスタイルにしたのが学習の補助になったようなので、今年度も同様のやり方で進めていきます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with human information processes, especially with higher-order cognitive processing.

【Learning objectives】

The goals of this course are to understand psychology of cognition.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on class contribution (40%) and term-end examination (60%).

PSY100BG（心理学 / Psychology 100）

認知科学入門

田嶋 圭一

授業コード：A3621 | 曜日・時限：火4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

見る、聞く、言葉を読む、覚える、考える、他者とのかかわるといった日常的に無意識に行われる知的活動を可能にする心の働きを、様々な学問的視点から追究する認知科学について学びます。

【到達目標】

認知科学の歴史と、視覚・聴覚・言語・記憶・推論・社会的認知といった各部門の概略について、各自の具体的な経験などを踏まえて他者に的確に説明できるようにすることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行いますが、適宜視聴覚教材・ミニ実験・動画などを盛り込む予定です。また、授業中に個別あるいはグループで課題に取り組んだり、授業活動結果をHoppiiに書き込んだりするなど、授業への能動的な参加が期待されます。課題やテストに関するフィードバックを授業中または学習支援システムを利用して返します。また、学生からの質問やコメントのいくつかを、次の授業スライドの末尾に回答と共に掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	シラバスの説明、「認知科学」とはどんな学問か、認知科学が対象とする「知的活動」とはどんな活動か
第2回	認知科学の歴史	心理学の略歴、認知科学の誕生、認知科学の諸分野
第3回	知覚	心への入口としての感覚と知覚、感覚の範囲、物理量と心理量の関係、感覚のしくみと種類
第4回	視知覚	感覚の一般的特性、形の知覚と知覚的体制化
第5回	視知覚と高次認知過程	奥行き知覚、高次知覚過程（パターン認識、トップダウン処理とボトムアップ処理、文脈効果）、顔の表情認知
第6回	聴知覚	音の正体、音の大きさ・高さ・音色の知覚、聴覚情景分析
第7回	中間テスト、視聴覚の統合	選択的注意、音声の知覚、視覚と聴覚の統合
第8回	言語	言語とはどんなものか、言語知識、言語獲得
第9回	記憶	記憶の流れと区分、短期記憶と長期記憶、日常生活と記憶、記憶の変容
第10回	知識	概念やスキーマとしての知識、心的表象（世界を脳内でどのように表現しているか）、命題や文の心的表象
第11回	思考	思考、推論、問題解決
第12回	情動	情動とは、情動と脳、情動を認知するためのメカニズム、情動の変化を定量的に捉える
第13回	社会的認知	社会的認知とは何か、社会的条件の影響、対人認知、認知科学の今後の展望
第14回	期末テスト、授業の総括	授業内容の理解度を確認するための授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにアップされた資料を読んだり、動画を視聴したり、授業後に課題に取り組んだり内容を振り返ったりすることで、毎回の授業の予習・復習を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。レジュメ等の資料を学習支援システム経由で配布します。

【参考書】

行場 次郎・箱田 祐司（編）（2014）『新・知性と感性の心理 ―認知心理学最前線―』福村出版。
北原 義典（2022）『イラストで学ぶ認知科学』講談社。
鈴木 宏昭（2016）『教養としての認知科学』東京大学出版会。

内村 直之・植田 一博・今井 むつみ・川合 伸幸・嶋田 総太郎・橋田 浩一（2016）『はじめての認知科学』新曜社。
大津 由紀雄・波多野 諄余夫（編著）（2004）『認知科学への招待 ―心の研究の面白さに迫る―』研究社。
都築 誉史（編）（2002）『認知科学パースペクティブ ―心理学からの10の視点―』信山社。
大島 尚（編）（1986）『ワードマップ：認知科学』新曜社。

【成績評価の方法と基準】

平常点・課題25%、中間テスト25%、期末テスト50%の割合で評価する予定です。原則として、正当な理由なく4回を超えて授業を欠席した場合、または期末テストを未受験の場合は単位が授与されないものとします。

【学生の意見等からの気づき】

回答者73名のうち、「履修してよかった」と回答してくれた人が64名（88%）、「理解できた」が61名（84%）、「工夫されていた」が65名（89%）でした。いずれも昨年度とはほぼ同じ割合でした。授業外学習時間については「30分～1時間」が48%で最も多く、次いで「1～2時間」が30%、「ほとんど行っていない」が11%でした。「ペアワークがあったことで、理解できていない部分をお互い補うことができたのでよかった」「教え合いの時間があったため自分で整理しながら相手の話も聞いて補完できた」といった肯定的なコメントをいただきましたが、教え合いに積極的に参加したくない人、一人でのワークを望んでいそうな人もいたようで、大講義だと全員にとって有意義な活動を行うのが難しいと感じています。テスト前の復習用に学習支援システムの課題に再び取り組めるように設定したのですが（ちょっと面倒でした笑）、一定数の人が有効活用してくれました。

【その他の重要事項】

授業の内容や運営方法の詳細について説明しますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces students to cognitive science, an interdisciplinary field that studies the inner workings of the mind, that is, the mental processes that enable people to engage in everyday activities such as seeing, hearing, using language, remembering, thinking, and interacting with others.

【Learning objectives】

Through this course, students should be able to understand and explain based on their own experiences the mechanisms underlying mental processes such as visual and auditory perception, language, memory, reasoning, and social cognition.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to study the assigned materials, work on homework assignments, and prepare for the next class. The standard study time required before and after each class is 4 hours total.

【Grading criteria/policy】

Your overall grade will be determined based on class participation and homework (25%), midterm test (25%), and final test (50%). As a rule, if you are absent for more than 4 classes or neglect to take the final test without a legitimate reason, course credit will not be granted.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

発達心理学

渡辺 弥生

授業コード：A3622 | 曜日・時限：火2/Tue.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：他学科生の配当年次は3・4年生です
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心はいつからどのように変化していくのか。受精から死を迎えるまでのライフスパンを視野にいれながらも、本授業では、胎児期から、乳児期、幼児期、児童期、青年期までを中心に、時間の経過とともに質的および量的に変化するさまざまな発達的特徴を理解する。発達心理学という学問大系を学ぶだけでなく、身近な子育て、教育、人としての生き方等を考える機会とし、社会的に還元できる知識や探索のしかたを学ぶ。

【到達目標】

心の発達について興味関心を高め、各時期における発達の特徴を説明できるようになることが望ましい。また、関心のある知見についてグループで討論したり、こうした知識をいかに生活の中で役立てていくかを考え、将来、実際に活かすことができるようになることを目標とする。
(1) 人間の発達についていくつかの理論を学ぶ。
(2) 人間の発達を明らかにしていくための研究にふれる。
(3) 生活のどのような部分に役立てられるかを意識し応用する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式であるが、人間の発達を実感できるように視聴覚教材を適宜用いていく。受講者には、各時間による積極的な発言や質問による参加を期待する。テキストを用いるので、事前に予習したり、復習することが必須である。授業の感想を毎回求める。☆例年、受講者数が多いので制限する可能性があることから、希望者は初回時には必ず出席すること。初回が終わり、受講者数が多いことから2回の仮登録までを履修者として、以降制限する。課題のフィードバックについては、学習支援システムで実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	発達ということ	発達理論の枠組みの理解 「発達」が意味することや、研究方法、さらには、主要な理論の存在について認識する。
第2回	胎児の発達	お腹の中の赤ちゃんについて：胎児期に起きている神秘ともいえる変化について理解する。
第3回	感覚・知覚の発達	見える世界、聞こえる世界の理解：感覚や知覚が年齢とともにどのように変化するのかを理解する。
第4回	感情の発達	泣くから悲しい？ 悲しいから泣く？：当たり前と考えていたことが、実は明確でないことや、感情のメカニズムについて知る。
第5回	認知の発達	考えることの発達：考えるということの意味や、認知と感情、行動の関係について学ぶ。
第6回	言語の発達	ことばを覚える、ことばを使う：言葉の獲得や言葉の使用など、言葉の発達の様々な側面を理解する。
第7回	親子関係の発達	「ひとりでも泣かないよ」 乳幼児期の親子関係を中心に、基本的な理論を習得する。
第8回	友人関係の発達	友人関係を築き維持すること：友人関係を築くこと、維持することなど、また、友人関係のトラブルへの対応などについて学ぶ。
第9回	知能の発達	頭が良いとはどういうこと？ 知能の概念や、それをどのように測定するかという点について理解する。
第10回	意欲・動機づけの発達	やる気メカニズム：勉強嫌いや、無気力になってしまう原因などを考え、意欲的に学習するためのメカニズムを知る。

第11回	自我の発達	一生涯続く「自分とは何か：自我のめざめや自己意識の問題は生涯発達の軸になるテーマであるが、多くの理論を学ぶ。 ジェンダーの獲得「男とは女とは」：生物学的な違いなのか後天的な違いなのか、 いくつかの研究から考えてみる。 善悪の判断はどのように育つ？：道徳的な人とそうでない人は、発達の違いがあるのか。善悪の判断や、向社会的な行動のメカニズムについて知る。 発達障害の理解と対応：近年、明らかにされてきた障害の特徴について知るとともに、どのように支援していけるかを考える。
第12回	性役割の発達	
第13回	道徳性の発達	
第14回	発達障害の理解	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前日までに毎回、テキストの課題となる章を読み、テーマを理解する。知らない用語などは、自分で調べておくことが望ましい。テキストの図表から読み取れることを考え、わからないところを明確にしておく。動画教材でポイントは理解し、関連の書籍や論文を読んで、理解を深めたい。わからないことは支援システムなどで質問するようにし、授業後は復習する。予習復習には、各2時間(合計4時間)をかけるようにする。

【テキスト（教科書）】

必ず使用する。
『ひと目でわかる発達心理学』、渡辺弥生・西野泰代 編著（福村出版）2020

【参考書】

『子どもの「10歳の壁」とは何か？ 一乗り越えるための発達心理学』渡辺弥生著（光文社）2020
『よくわかる発達心理学』渡辺弥生監修（ナツメ社）2021
『まんがでわかる発達心理学』渡辺弥生監修（講談社）2019

【成績評価の方法と基準】

1回目から必ず出席してください。ミニクイズ10回（正答かどうかによって配点が異なります。提出したから得点になるとは限りません）と課題2回の総合点で評価する。ミニクイズの評価は70%。課題の評価は30%。ただし、成績評価の対象は「ミニクイズを6回以上かつ課題を2つとも締め切り内に提出した人のみ」となります。それ以外の場合は成績を評価しません。また課題の提出ミスなどは考慮しませんが正確に提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の予習および復習をする上でより意欲的に取り組める課題を考える。

【学生が準備すべき機器他】

テキストを持参すること。学習支援システムに入ること。

【その他の重要事項】

学習支援システムに登録すること。初回は必ず出席。

【Outline (in English)】

・ The aims of this course are to understand the flow of research to date and research questions that have been previously clarified, from the viewpoint of lifelong development, including from infancy to elderly.
・ By the end of the course, students are expected to consider how to contribute to society by the researches in this area.
・ Students will be expected to have completed the required assignments before /after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
・ The grade will be based on the total score of 10 mini-quizzes (the points will vary depending on whether the answers are correct or not) and 2 assignments. The mini-quiz will be graded at 70%. The assignment will be graded at 30%. However, only those who submit at least 6 mini-quizzes and both assignments will be graded. Otherwise, no grade will be given.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

教育心理学

福田 由紀

授業コード：A3623 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育心理学とは、教育における人間の営みに関する心理学です。教育心理学は、発達心理学や学習心理学、言語心理学、脳科学などの知見を教育に応用する学問です。毎日、皆さんが通っている「学校」という場を心理学的な観点から紹介していきます。また、実社会で望まれるスキルである「聞きながらメモを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

【到達目標】

- ①教育心理学の基礎的な知識が身につく。
- ②学べる教える関係に関して、心理学的な観点から分析できる。
- ③聞きながらメモをとることができる。
- ④階層構造を意識したノートをとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本は講義形式です。教科書は毎時間「使用します！」ので持参してください。また、Hoppiiを通じて、授業の前に宿題の提出、授業後に小テストへの回答をしてください。なお、授業の初めに、提出された宿題の内容に関して、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション・教育心理学とは	授業の進め方の説明，教育心理学の目標・対象・研究法，教育心理学への3つのアプローチ
第2回	円滑なコミュニケーションの実現のために	言語力と心の理解の発達
第3回	教える人と教わる人の関係	友人関係の発達，道徳性の発達
第4回	学習理論・記憶理論とその応用	自己意識の発達，他者理解の発達，円滑なコミュニケーション
第5回	深い理解とは	適応的熟達者，知識のネットワーク
第6回	読み書きからの学習	文章による学習，読解力，書くことの学習
第7回	学校不応適とその予防	いじめのメカニズム，いじめ防止策
第8回	上手に教える1	授業過程，伝統的な教授法
第9回	上手に教える2	最近流行の教授法，素朴概念への挑戦
第10回	上手に学ぶ	メタ認知，学習方略
第11回	知能と認知スタイル	知能検査の結果や認知スタイルを教室に活かす
第12回	学力と評価	最適な評価とテストの組合せとは
第13回	学習障がいとその支援	学習障がい，ADHDなど
第14回	期末テストとその解説，まとめ	期末テストの実施とその解説，授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

＊次週の授業内容にあわせて短い宿題が出されます。Hoppiiから提出して下さい。

- 第1回 自分の心の理解の発達と他者の心の理解の発達はどちらの方が早いと思いますか？ それとも同じくらいですか？ その理由は？
- 第2回 一番好きだった先生は、いつのどの教科、あるいは部活の先生でしたか？
- 第3回 記憶の定着は休息すると良くなるのでしょうか？ それとも、睡眠を取ると良くなるのでしょうか？ ヒントはコラム3！
- 第4回 使える知識にするためには、学習者にはどのような工夫が必要ですか？
- 第5回 読書の効用を3つ挙げてください。
- 第6回 生徒同士のいざこざをいじめに発展させないために、どうしたらいいと思いますか？ 自分の意見を書いてください。
- 第7回 どのような形式の授業が一番好きでしたか？
- 第8回 小集団に分かれての授業形式の良い点を2つと悪い点を2つ挙げてください。
- 第9回 添付ファイルを読んでください。記事の中に下線が引かれた部分が2カ所あります。これらは、ある心理学的な概念を活用した具体的な例です。それぞれについて、その心理学的な概念は何でしょうか？
- 第10回 添付ファイルを開いて下さい。標準図形と全く同じ図形を選択図形AからFの中から1つ選んでください。

第11回 テスト以外に生徒・学生の思考力をどのように評価をしたいかと思いませんか？

第12回 模擬期末試験問題を基礎問題と応用問題の二つを作成して下さい。

第13回 期末レポートの準備を行い、自己評価する。

＊受講した授業の内容に関して、小テストを授業支援システムを通じて行います。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「教育心理学」 原田・福田・森山（編） 大学教育出版 印刷中

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点20%（宿題と小テスト）と期末テストの結果を80%として、総合点により決定されます。期末テストの追試は、履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容、自分で教科書を読んだ内容、そして応用問題が問われます。形式は多肢選択式です。

【学生の意見等からの気づき】

2023年度と2024年度のこの授業は他の先生が担当してくださいましたので、2022年度の授業改善アンケートの気づきを掲載します。

教育心理学の知識や考え方は、教室場面だけではなく、人生の様々なところで役立ちます～という観点から授業をしていました。そのような授業に対して、「心理学的な概念だけではなく、日常にどのように応用できるかという視点から学ぶことができた。過去に自分が受けてきた教育の意図が知れて楽しかった。」とのコメント。嬉しいですね。また、「教材が階層構造でまとまっていたり、様々なイラストを使っていたりして、とても工夫されていて復習しやすかったです。毎回宿題があったので、これも復習に活用できました。」といった授業資料ややり方についてもお褒めのコメント。次回も頑張ります。

【その他の重要事項】

授業のテーマにも記しましたが、教育心理学は応用心理学の一つです。そのために、心理学に対する基礎的な知識が必要です。具体的には、心理学概論といった授業を修得したレベルを考えています。また、授業では、時間の制約のために、基礎知識については扱いません。教科書の指定した箇所は、自分で読んでください。

【教員の実務経験】

- ・小学校国語教科書編集委員（教育出版）1996年4月1日～2015年3月31日
- ・中央教育審議会初等中等教育分科会言語能力の向上に関する特別チーム2014年10月21日～2017年2月14日
- ・文化審議会臨時委員（国語分科会）2016年3月20日～2023年3月31日

【実験や調査への参加】

授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【Outline (in English)】

Course outline : This course introduces educational psychology.

Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to do the following:

- A. deepen their understanding about educational psychology
- B. analyze educational activities in terms of educational psychological perspective
- C. take memos while hearing
- D. take notes organized hierarchically

Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.

Grading Criteria : Your overall grade in the class will be determined based on the following: final examination: 80%, in-class contribution: 20%.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

学習心理学

藤田 哲也

授業コード：A3624 | 曜日・時限：木2/Thu.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の活動に不可欠な「学習」という現象を、心理学的に幅広く捉え、理解することがこの授業の目的です。単に心理学の知識として授業内容を覚えるのではなく、実際に自分自身の日常生活に応用できるレベルで理解します。そうすることで、自分の生活をより有意義なものにしていくという考え方を身につけます。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で、以下のことができるようになっていることが到達目標です。
1. 学習に関する心理学的な現象や理論について、概要を適切に説明すること。
2. 自分自身の日常生活に、学習に関する心理学的な現象や理論をどのように応用可能なかを説明すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

条件づけという基礎的な学習理論から授業を始めますが、動物実験の結果は人間にも当てはまります。次に、主に教育場面における学習活動を客観的に捉え、動機づけや学習方略、メタ認知などについて学びます。また、知識の獲得過程として記憶のしくみの基礎を知り、自分自身の学習活動にも役立て下さい。講義形式の授業ですが、より深い理解を促すために、ペア・ワークなど用いて、受講生が積極的に参加する機会を設けます。同様に、授業内容に関連した簡単な実験や質問紙を通じて、自分自身の学習過程についても見つめる機会をできるだけ提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容と目標の確認
第2回	古典的条件づけ	〇〇恐怖症の原因
第3回	オペラント条件づけ	報酬と罰の使い分け
第4回	観察学習	暴力映像視聴の影響
第5回	動機づけの基礎	やる気のメカニズム
第6回	動機づけの応用	やる気のコントロール
第7回	記憶の分類	認知活動を支える記憶
第8回	作動記憶・手続記憶	短期記憶と長期記憶
第9回	記憶の理論を活かす	エピソード記憶獲得法
第10回	学習方略	自律的な学習のために
第11回	メタ認知と学習観	認知の認知を客観視
第12回	ここまでのまとめ	振り返りと理解度確認
第13回	レポート回収と解説	自己評価と動機づけ
第14回	授業の総括	到達目標自己評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、一回の授業で教科書の1章分進み、毎回の授業は、予習をしてあることを前提に行います。「ただ読むだけ」ではなく、内容を把握することを目的意識に持って、予習をしてきてください。深い理解を伴う予習を行うために、毎回「予習シート」を完成させ、授業の二日前までに学習支援システムに提出したうえで授業に臨んでください。また、毎回発行する「授業通信」を読んで、前の週の授業内容を振り返ることも求めます。半期に2回、それまでの授業内容に関する「振り返りシート」に取り組みます。従って、本授業の準備時間は3時間、復習時間は1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「絶対役立つ教育心理学[第2版] 実践の理論、理論の実践」藤田哲也(編)(2021) ミネルヴァ書房

【参考書】

毎回の授業内容に合わせて、随時紹介します。レポート作成が不安な人は次の本を参考にしてください。
「大学基礎講座」藤田哲也(編)(2006)北大路書房

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）…授業の二日前までに予習シートを学習支援システムに提出すること、授業へ出席し積極的にペアワークに参加すること、授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出することのすべてがそろっている場合に、その授業回分の平常点を付与します。
期末レポート（60％）…授業内容についての基本的な理解と、その授業内容を日常生活に応用できるレベルで理解できているかどうかの両者を主な評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

2024年度の授業改善アンケートから：毎年高い評価を得ているので、授業内容には大きな変更はしませんでした。「履修してよかった」は4.47で及第点といえるでしょう。「理解度」は昨年の4.58から少し下がり4.47でした。これは「授業外学習時間」の最頻値が「週1時間～2時間未満」で47.1%、「2-3時間」は29.4％、3時間を超える人がいなかったことを反映しているかもしれません。自由記述は5名のみでしたが、すべて肯定的な内容でした。予習課題をより実質化して授業内で活用している感覚を高めるためにも、ペアの組み方についても、しっかり効果的なものに促していこうと思います。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明をしますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。初回はオンラインで行いますが、2回目からは対面形式を予定しています。この授業の運営の仕方それ自体が、学習心理学の教材となっていますので、毎回、積極的に授業に参加することを求めます。ペア・ワークなどの授業内の活動にも心理学的な裏付けがありますし、解説もしていきますので、授業運営の仕方について十分に理解した上で受講するかどうかを決めてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students understand the phenomenon of "learning" necessary for human activities from a psychological point of view.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.Students can properly explain the outline of psychological phenomena and theories related to learning.
- 2.Students can explain how psychological phenomena and theories about learning can be applied to one's own daily life.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students are expected to read the textbook and then submit their preparatory sheets. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, report 60%.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

社会心理学

越智 啓太

授業コード：A3625 | 曜日・時限：火4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業概要：

人間の社会行動を科学的に解明する

社会心理学は、我々が、日々遭遇するさまざまな行動を心理学的な観点から分析していく学問です。この授業ではとくに、社会と個人の関係、個人と個人についての問題を取り上げていきます。「社会」などという難しい感じがしますが、例えば、どのようにすれば良い印象を与えることができるのか、なぜ転校生が来るのがいやなのか、勉強してきたくせになぜみんなテストの日に「私全然やってない」っていうのか、どうせ外れるのになぜ宝くじを買い続けるのか、なぜ本屋とCDショップはデパートの上の方の階にあるのか、性格と顔は恋愛においてどっちが重要なのか、恋愛が崩壊するのはなぜか、なぜ困っている人を助けられない人がいるのか、いらいらするといじわるしたくなるのはなぜか、などの問題がじつは社会心理学と関係しており、とても身近な学問です。

授業の目的・意義

社会心理学の基礎概念と方法論を科学的に理解し、我々が普段遭遇する社会的な事象について心理学的観点から分析できるようになる。

【到達目標】

- (1) 社会心理学の基本的な概念について、その定義やその概念に関連した基本的な研究が解説できるようになる。
- (2) それらの概念について自分の具体的な経験と結びつけて説明できるようになる。
- (3) 効果的なプレゼンテーションレポート作成を経験する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の進め方：我々の社会行動について順次取り上げて、その理論と根拠になった実験例、応用、問題点などについて順次紹介していく。半期の授業なので、広い社会心理学の分野をすべて取り上げることが出来ないが、みなに関心を持つようなテーマをいくつか選んで深く掘り下げてみたい。

授業方法：講義形式、記憶する必要のある用語のリストや印刷資料は授業支援システムからダウンロードできる。

フィードバック：毎回リアクションペーパーを提出する（授業支援システムに登録）。リアクションペーパーおよびレポート課題については次回の講義時の最初あるいは授業支援システム上で講評および追加解説を行う。また、レポート等については講評、個人指導など授業支援システム上で追加の解説を行う。授業について有用な質問やコメントについては期末評価に加点する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会心理学とは何か	授業の進め方、採点ポリシーの説明、社会心理学の概要、社会心理学の研究手法
第2回	外見の魅力（1）	美人、ハンサム等の外見的魅力を規定する要因について明らかにする。
第3回	外見の魅力（2）	社会的要因による外見の魅力が影響を受ける過程について明らかにする。
第4回	対人印象形成	対人印象形成における中心特性と初頭効果、ステレオタイプについて解説する。
第5回	恋愛行動（1）	恋愛における外見の魅力の効果、SVR理論について。
第6回	恋愛行動（2）	恋愛を科学的に測定する方法、恋愛の類型論、恋愛と情動、恋愛進展
第7回	恋愛行動（3）	恋愛における情動の錯誤帰属、恋愛の進展、ひとめぼれのメカニズム
第8回	恋愛行動（4）	恋愛の個人差、恋愛の崩壊、恋愛における再確認傾向、拒絶敏感性、結晶化、失恋のカウンセリング
第9回	セルフ（1）自己呈示、自己概念維持	自己概念、自己概念維持
第10回	セルフ（2）セルフハンディキャッピング	獲得的セルフハンディキャッピング、主張的セルフハンディキャッピング
第11回	攻撃行動（1）メディアバイオレンス	マスメディアと攻撃の促進、バイオレンスゲームと攻撃行動、暴力メディアの長期的影響

第12回	攻撃行動（2）	攻撃行動の個人差、攻撃行動とパーソナリティ、攻撃行動のメカニズム、サイコパス
第13回	援助行動（1）	援助行動の規定要因、援助行動の実験室研究
第14回	援助行動（2）	社会的インパクト理論と援助行動、経済的地位と援助行動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自受講に際しては、あらかじめ授業支援システムから該当する講義のプリントをダウンロードして読んでくること。ただし、予習よりは復習の部分に力を入れて欲しい。各チャプターごとに記憶すべき用語（キーワード）を提示するので、この用語を記憶し、使いこなせるようにしておくこと。指定した授業に関する動画視聴と事前、事後課題を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。講義に使用するパワーポイントは抄録版を授業支援システムで配布する（重要な部分は網羅してある）。補足資料や自習用資料、動画なども配信する。

【参考書】

越智啓太（編）私たちはなぜ傷つけ合いながら助け合うのか：心理学ビジュアル百科 社会心理学編 創元社（推奨）

越智啓太（著）美人の正体 実務教育出版

越智啓太（著）恋愛の科学 実務教育出版

中里・松井・中村（編）社会心理学の基礎と展開 八千代出版

を予復習用参考書に使用する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価のためには3/5以上の出席を前提とする。出席は基準を満たしているかどうかの判断にのみ使用する。

レポート（80%）+ 授業コメント（20%）

【学生の意見等からの気づき】

毎回、比較的良好な評価をいただいております。とくに知的好奇心が満たされた、などのポイントが高くなっています。昨年に比べ、ウェブを通じて配付する資料や動画資料をさらに充実させました。また、授業で取り上げる、具体的な事例等を最新のものに刷新しました。今年は例年よりもより面白くなるように努力します！

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は各自、授業支援システムからダウンロードする。

授業で取り上げられなかった部分は動画で補足する。

【その他の重要事項】

（1）「集団社会心理学」とペアで社会心理学全体を概観する。そのため、「集団社会心理学」も同時に履修することが望ましい。

（2）他の教員の授業に比べて、A+、Aは少ない。毎年、D評価のものが5%程度でているので、楽勝科目ではないと思う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, we will give an overview of social psychology. In particular, I will explain issues within and between individual social behaviors.

【Learning Objectives】

(1) To be able to explain the definition of the basic concept of social psychology and basic research related to the concept.

(2) You will be able to explain these concepts in connection with your own concrete experience.

(3) Experience effective presentation report creation.

【Learning activities outside of classroom】

Each lesson requires 2 hours of preparation and 2 hours of review.

【Grading Criteria / Policy】

Participation in classes of 3/5 or higher is a prerequisite for grade evaluation.

Class participation is used only to determine attendance criteria.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Report (80%) + comment & discussion (20%)

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

学校心理学

原田 恵理子

授業コード：A3626 | 曜日・時限：木1/Thu.1
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校におけるすべての児童生徒の成長・発達への援助を意図するのみならず学校コミュニティへの援助の理解を目指す学校心理学では、児童生徒（個人）への働きかけだけでなく、学級・学校環境や教師と生徒との関係調整、校内外の支援システムづくりなど（集団）、現代社会の特徴を踏まえた支援の工夫が求められています。したがって、本授業では、学校心理学の基本的概念を理解し、援助サービスの理論と技法を学びつつ、受講生自身の経験もふまえ、IoT社会における学校教育現場に対する支援の在り方の理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

「3つの心理教育的援助サービス」について説明できるようになり、学校教育が直面しているいじめ、不登校などの様々な課題について、学校心理学の観点からのアプローチを例示できるようになることを目標とします。また、発達障害などのハンディキャップについて説明でき、合理的配慮に基づいた児童生徒への支援や指導について考えることができるようになることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は対面形式、オンライン及び資料・動画等の配信型講義を組み合わせて実施します。

- ・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
- ・リアクションペーパーや準備学習レポート等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
- ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。その中で、課題やレポート等に対して講評します。
- ・アセスメント、カウンセリング、コンサルテーションなどの技法を体験し、不登校やいじめなど具体的な事例に即して、有用な視座や方法論について学びます。
- ・学校内で実施可能なさまざまな心理的支援について考えていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス/現代社会における学校心理学の意義と学校教育臨床の歴史	講義内容や評価方法など/学校教育臨床の歴史を説明しつつ学校心理学の意義を解説する
第2回	現在の学校教育と課題	IoT社会に向けたこれからの学校教育の動向について理解する（資料・動画等配信型授業）
第3回	3段階の心理的援助サービス	援助する対象と4つの援助/3段階の心理的援助サービスについて理解する
第4回	心理教育的アセスメント	子どもと子どもの環境を取り巻く心理教育的アセスメントについて理解する
第5回	学校心理学に基づく実践（1）カウンセリング	カウンセリングについて説明し、ロールプレイを通して理解する
第6回	学校心理学に基づく実践（2）コンサルテーション	学校教育におけるコンサルテーションについて説明し、ディスカッションを通して理解する
第7回	学校心理学に基づく実践（3）チームとしての学校	スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーについて理解し、チーム援助の在り方について考察する（資料配信・課題提出型授業）
第8回	心理教育的援助の実践（1）不登校	子どもをめぐる課題について説明し、不登校事例を通して支援の在り方やその工夫について話し合う
第9回	心理教育的援助の実践（2）いじめ	いじめの事例をもとに心理教育的援助を説明し、支援の在り方やその工夫について話し合う
第10回	心理教育的援助の実践（3）発達障がいの特徴と援助	発達障がいの特徴と援助について事例をもとに説明し、合理的配慮に基づく支援の在り方を話し合う
第11回	心理教育的援助の実践（4）家庭・地域社会	虐待など家庭をめぐる課題について説明し、事例から支援の在り方を話し合う
第12回	心理教育的援助の実践（5）学校・教師	教師をめぐる課題について説明し、話し合い活動を通して理解を深める

第13回	心理教育的援助の実践（6）予防的・開発的教育	予防的・開発的教育について説明し、実際に体験してみる
第14回	心理教育的援助の実践（7）援助の課題と展望	心理教育的援助およびチーム学校での効果的な援助の課題と今後の展望について説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習の課題に取り組むことで授業準備を行ってください。また、事後学習として課題に取り組み、理解をさらに深めて知識の定着をはかってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。レジュメ及び資料を配布します。

【参考書】

生徒指導提要改訂 文部科学省 https://www.mext.go.jp/content/20221206-mxt_jidou02-000024699-001.pdf
石隈利紀 学校心理学 誠心書房
渡辺弥生・西山久子編 生徒指導・教育相談 北樹出版
これ以外にも、必要に応じて参考書や図書、資料文献を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

準備学習・フィードバックのレポート（40%）、話し合いやロールプレイなどの参画度（30%）、課題レポート（30%）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例の紹介や体験が理論を学ぶ上で参考になったという学生アンケートの感想を踏まえ、各回ではテーマに即した事例の紹介、ロールプレイや話し合い等を積極的に取り入れた授業をします。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器、ネット環境を整えておいてください。ICTを活用した授業を行います。資料配布・課題提出などのために授業支援システム等を使用します。

【その他の重要事項】

個別的な配慮を希望する学生は授業者まで相談してください。また、対面形式の授業の実施においては、諸事情に応じた学習形態で対応します。諸連絡は、「学習支援システム」を通じて行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of school psychology.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to do the followings:

- － Be able to understand the main terms and concepts of school psychology.
- － Be able to explain the methods and theories of major support services.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments before/after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria / Policies】

Grading will be decided based on reports (40%), participation degree of (30%), and Issue report (30%).

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

演習 I（1）

木村 健太

授業コード：A3627 | 曜日・時限：木4/Thu.4
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2（～4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に、文献検索のしかた、論文の構成、専門用語の用い方、文献の書き方など基本的ルールを学びます。また、データに基づき論証するテクニックまで、優れた日本語論文および英語論文の文献を用いて具体的に学びます。さらに、理解した内容をレジュメにして、プレゼンテーションし討論する力も養います。

【到達目標】

具体的な目標として、
 (1) 研究に必要な論文を検索する力の獲得
 (2) 論文の構成や約束ごとを理解する。キーワードなどで専門的に検索するスキルを獲得
 (3) 論文の内容を理解し、論理的また批判的に読む態度を身につける。
 (4) 論文を書く際に論理的に留意する点や、書く上でのルールを理解する。
 (5) レジュメをもとに、発表し討論するスキルを獲得する。
 以上、一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら、研究に必要なこれらの技能の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

査読論文を全員が読み、論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます。図書館で検索のスキルを学び、自分の関心のある領域の論文を探したり、情報を得るスキルを獲得します。研究論文を書く上での論理的な規定や、書き方のルールについて理解します。日本語論文については、レジュメを用いて発表し、英語論文については、レジュメを書くことで内容を把握し、クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します。作成したレジュメは提出します。授業内に図書館利用ガイダンスを利用します。アクティブラーニングをできるだけ取入れます。授業の初めに、前回の授業で提出された振り返りレポートやリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	全体計画と進行の紹介
第2回	論文の種類の説明、論文の構成1	論文の構成についての説明（題名・キーワード・抄録、問題提起、方法、結果、考察の書き方など）
第3回	文献検索1	図書館を利用した検索（ただし、図書館のガイダンスがこの回になるか明確でない）。
第4回	文献検索2	教員による専門的検索の説明。教員側から、さらに、検索に関するスキルを説明する。
第5回	レジュメの作り方の説明	研究論文を読んだあとの、レジュメの作成のしかたとポイントを解説する。
第6回	日本語論文の個人発表1	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ。質問が活発になるよう、コメントシート、リアクションペーパー、パートナーやグループワークを入れてもよい（日本語論文においてはレジュメのみとする）。
第7回	日本語論文の個人発表2	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）。
第8回	日本語論文の個人発表3	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）。
第9回	日本語論文の個人発表4	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）。 * 英語論文の選択を次回迄に決めるよう求め、適切な英語論文を選択しているかを確認する。
第10回	フィードバックとパワーポイントスライドのつくりかた、発表の仕方	日本語論文の発表についてのフィードバックと英語論文の発表のために必要なことを説明。パワーポイントのスキルを教える。
第11回	英語論文1	発表（パワポによる発表）レジュメの提出
第12回	英語論文2	発表（パワポによる発表）レジュメの提出

第13回	英語論文3	発表（パワポによる発表）レジュメの提出
第14回	全体統括	文献検索、日本語論文・英語論文の発表を通し、全体の振り返り、反省を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が発表する論文だけではなく、他の人が発表する論文も読み、授業中に討論できるように準備しましょう（図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性があります）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間合計4時間を設定しています。

- 第1回 自己紹介とシラバスにレポート課題作成の準備
 第2回 論文の手引きによる復習と次回の検索のためのキーワードの用意
 PsycINFO IDの獲得
 第3回 検索の仕方をマスターし、専門のキーワードの準備
 第4回 PsycINFO による検索
 第5回 日本語論文のレジュメの作り方をマスターし、発表に備える。
 第6-9回 発表準備 英語論文選択を同時並行して行っておく。
 第10-13回 英語論文レジュメの選択とパワーポイントの原稿作成、レジュメ提出
 第14回 講義を通してのまとめや授業改善アンケート実施

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、資料を準備します。学習支援システムでダウンロード、あるいは心理実習室に閲覧できるようにしておきます。

【参考書】

授業内で参考図書・文献は適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

自分の担当論文を発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します。授業の評価は、単位認定は授業回数の3分の2以上（10回以上）の出席を前提とし、参加態度（意見や質問など）による平常点を40%、日本語論文の総合評価（レジュメによる発表・討論参加など）30%、英語論文の総合評価（パワーポイントによるプレゼンテーションとレジュメ・討論参加など）30%、の配分で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC、プロジェクターのカギをBT5階の教授室から借り出して準備すること（授業の早い時期にできるだけ用意する順番を決めるようにします）。

【その他の重要事項】

・授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは、図書館の日程調整が必要です。実施の順序については変更することがあるため、授業の中で案内しますので、注意してください。発表の後には、振り返りレポートの提出をしてもらいます。
 ・この演習Iを含め、卒業論文など他の教科も文献、図表などの書き方は、すべて日本心理学研究の投稿の手引きに準じて行います。2022年度改定がされていきますので、新しい手引きを入手しておいてください。

<https://psych.or.jp/manual/>

・オフィスアワー：春・秋学期ともに木曜日3限（BT1109研究室）。訪問希望者は、メール（[k.kimura\[at\]hosei.ac.jp](mailto:k.kimura[at]hosei.ac.jp)）等で前日までに連絡してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to learn some basic rules concerning how to conduct literature searches, the structure of research articles, and how to use technical terms, with the ultimate goal of being able to write research papers in the field of psychology.

【Learning Objectives】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Learning activities outside of classroom】

It is necessary for students to (1) present their own assigned papers, (2) to attend every class and (3) provide comments, opinions to the presenters.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be based on the assumption that students should attend at least two-thirds of the class sessions to receive credit, and 40% of the credit will be given to students for their participation (opinions, questions, etc.). The overall evaluation of the Japanese paper will be made up of 30% for the presentation of the resume and participation in the discussion, and 30% for the English paper (PowerPoint presentation, resume, and participation in the discussion).

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

演習 I（2）

渡辺 弥生

授業コード：A3628 | 曜日・時限：火3/Tue.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2（～4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に、文献検索のしかた、論文の構成、専門用語の使い方、文献の書き方など基本的ルールを学びます。また、データに基づき論証するテクニックまで、優れた和文および英文の文献を用いて具体的に学びます。さらには、理解した内容をレジュメにして、プレゼンテーションし討論する力も養います。

【到達目標】

具体的な目標として、
（１）研究に必要な論文を検索する力の獲得
（２）論文の構成や約束ごとを理解する。キーワードなどで専門的な検索スキルを獲得する。
（３）論文の内容を理解し、論理的また批判的に読む態度を身につける。
（４）論文を書く際に倫理的に留意する点や、書く上でのルールを理解する。
（５）レジュメをもとに、発表し討論するスキルを獲得する。
以上、一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら、研究に必要なこれらの技能の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

査読論文を全員が読み、論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます。図書館で検索のスキルを学び、自分の関心のある領域の論文を探したり、情報を得るスキルを獲得します。研究論文を書く上での倫理的な規定や、書き方のルールについて理解します。日本語論文については、レジュメを用いて発表し、英語論文については、レジュメを書くことで内容を把握し、クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します。作成したレジュメは提出します。授業内に図書館利用ガイダンスを利用します。アクティブラーニングをできるだけ取入れます。課題のフィードバックは、学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	全体計画と進行の紹介 ＊和文はあらかじめ教員側が選んでおいたものを配布しておく。この回で、和文や英文を発表する順番を決定しておく。
第2回	論文の種類の説明、論文の構成1	論文の構成についての説明（題名・キーワード・抄録、問題提起、方法、結果、考察の書き方など）
第3回	文献検索1	図書館を利用しての検索（ただし、図書館のガイダンスがこの回になるか明確でない。）
第4回	文献検索2	教員による専門的検索の説明 教員側から、さらに、検索に関するスキルを説明する。
第5回	レジュメの作り方の説明	研究論文を読んだあとの、レジュメの作成のしかたとポイントを解説する。
第6回	日本語論文の個人発表1	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ。質問が活発になるよう、コメントシート、リアクションペーパー、パートナーやグループワークを入れてもよい。（日本語論文においてはレジュメのみとする。）
第7回	日本語論文の個人発表2	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ。（レジュメのみ）
第8回	日本語論文の個人発表3	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）。
第9回	日本語論文の個人発表4	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ） ＊英語論文の選択を次回迄に決めるよう求め、適当な英文を選択しているかを確認する。
第10回	フィードバックとパワーポイントスライドのつくりかた、発表の仕方	日本語論文の発表についてのフィードバックと英語論文の発表のために必要なことを説明。パワーポイントのスキルを教える。

第11回	英語論文1	発表（パワポによる発表） レジュメの提出。
第12回	英語論文2	発表（パワポによる発表） レジュメの提出。
第13回	英語論文3	発表（パワポによる発表） レジュメの提出・
第14回	全体統括	文献検索、日本語論文・英語論文の発表を通し、全体の振り返り、反省を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が発表する論文だけではなく、他の人が発表する論文も読み、授業中に討論できるように準備しましょう（下記は、図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性あり）。

第1回 自己紹介とシラバスにレポート課題作成の準備
第2回 論文の手引きによる復習と次回の検索のためのキーワードの用意
PsycINFO IDの獲得
第3回 検索の仕方をマスターし、専門のキーワードの準備
第4回 PsycINFO による検索
予習復習には各2時間をかけることとする。
第5回 日本語論文のレジュメの作り方をマスターし、発表に備える。
第6-9回 発表準備 英語論文選択を同時並行して行っておく。
第10-13回 英語論文レジュメの選択とパワーポイントの原稿作成、レジュメ提出。
第14回講義を通してのまとめや改善点のアンケート実施。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、資料を準備しています。授業支援システムでダウンロード、あるいは、心理実習室に閲覧できるようにしておきます。

【参考書】

授業内で参考図書・文献は適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

自分の担当論文を発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します。授業の評価は、単位認定は授業回数3分の2以上の出席を前提とし、参加態度（意見や質問など）による平常点を40％、日本語論文の総合評価（レジュメによる発表・討論参加など）30％、英語論文の総合評価（パワーポイントによるプレゼンテーションとレジュメ・討論参加など）30％、の配分で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度は、授業外学習に能動的に取り組んでくれたようだし、和文も英文のプレゼンも積極的に参加してくれていました。専門の資料を理解することが楽しくなるように支援していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC、パワーポイント使用（最初の授業でできるだけ用意する順番を決めるようにします）。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：シラバスの教員紹介に記載してあります。授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは、図書館の日程調整が必要です。実施の順序については変更することがあるため、授業の中で案内しますので、注意してください。支援システムでの連絡事項に気をつけてください。

【Outline (in English)】

・ The aim of this course is to learn some basic rules concerning how to conduct literature searches, the structure of research articles, and how to use technical terms, with the ultimate goal of being able to write research papers in the field of psychology.
・ The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
・ It is necessary for students to (1)present their own assigned papers, (2) to attend every class and (3)provide comments, opinions to the presenters.
・ Grading will be based on the assumption that students should attend at least two-thirds of the class sessions to receive credit, and 40% of the credit will be given to students for their participation (opinions, questions, etc.). The overall evaluation of the Japanese paper will be made up of 30% for the presentation of the resume and participation in the discussion, and 30% for the English paper (PowerPoint presentation, resume, and participation in the discussion).

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

演習 I（3）

三浦 大志

授業コード：A3629 | 曜日・時限：木4/Thu.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2（～4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に、文献検索のしかた、論文の構成、専門用語の使い方、文献の書き方など基本的ルールを学びます。また、データに基づき論証するテクニックまで、優れた和文および英文の文献を用いて具体的に学びます。さらには、理解した内容をレジュメにして、プレゼンテーションし討論する力も養います。

【到達目標】

具体的な目標として、
 (1) 研究に必要な論文を検索する力の獲得
 (2) 論文の構成や約束ごとを理解する、キーワードなどで専門的に検索するスキルを獲得
 (3) 論文の内容を理解し、論理的また批判的に読む態度を身につける
 (4) 論文を書く際に論理的に留意する点や、書く上でのルールを理解する
 (5) レジュメをもとに、発表し討論するスキルを獲得する
 以上、一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら、研究に必要なこれらの技能の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

査読論文を全員が読み、論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます。図書館で検索のスキルを学び、自分の関心のある領域の論文を探したり、情報を得るスキルを獲得します。研究論文を書く上での論理的な規定や、書き方のルールについて理解します。和文論文については、レジュメを用いて発表し、英語論文については、レジュメを書くことで内容を把握し、クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します。作成したレジュメは提出します。授業内に図書館利用ガイダンスを利用します。アクティブラーニングをできるだけ取り入れます。発表に関しては、授業内およびメールでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	全体計画と進行の紹介
第2回	論文の種類、論文の構成	論文の構成についての説明（題名、キーワード、抄録、問題提起、方法、結果、考察の書き方など）
第3回	文献検索1	図書館を利用した検索（ただし、図書館のガイダンスがこの回になるか明確でない）
第4回	文献検索2	教員による専門的検索の説明 教員側から、さらに、検索に関するスキルを説明する
第5回	レジュメの作り方の説明	研究論文を読んだあとの、レジュメの作成の仕方とポイントを解説する
第6回	和文論文の個人発表1	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第7回	和文論文の個人発表2	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第8回	和文論文の個人発表3	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第9回	和文論文の個人発表4	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第10回	フィードバックとパワーポイントスライドの作り方、発表の仕方	和文の発表についてのフィードバックと英文の発表のために必要なことを説明。パワーポイントのスキルを教える
第11回	英語論文の個人発表1	発表（パワポによる発表）
第12回	英語論文の個人発表2	発表（パワポによる発表）
第13回	英語論文の個人発表3	発表（パワポによる発表）
第14回	英語論文の個人発表4	発表（パワポによる発表）
	全体統括	全体の振り返りも行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が発表する論文だけではなく、他の人が発表する論文も読み、授業中に討論できるように準備しましょう（下記は、図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性あり）。

第1回 自己紹介とシラバスに課題の準備

第2回 論文の手引きによる復習と次の検索のためのキーワードの用意

PsycINFO IDの獲得

第3回 検索の仕方をマスターし、専門のキーワードの準備

第4回 PsycINFO による検索

第5回 日本語論文のレジュメの作り方をマスターし、発表に備える

第6-9回 発表準備 英語論文選択を同時並行して行っておく

第10-14回 英語論文レジュメとパワーポイントの原稿作成、レジュメ提出

（講義を通してのまとめや改善点のアンケート）

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、資料を準備しています。授業支援システムでダウンロード、あるいは、心理実習室に閲覧できるようにしておきます。

【参考書】

授業内で参考図書・文献は適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

自分の担当論文を発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します。授業の評価は、単位認定は授業回数の3分の2以上の出席を前提とし、参加態度（意見や質問など）による平常点を40%、和文論文の総合評価（レジュメによる発表・討論参加など）30%、英語論文の総合評価（パワーポイントによるプレゼンテーションとレジュメ・討論参加など）30%、の配分で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、鋭い洞察に基づいた質問や議論が活発になされておりました。この授業は、ディスカッションの仕方を学べるのも1つの特徴なので、議論のしやすい雰囲気を作っていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC、パワーポイント使用（最初の授業でできるだけ用意する順番を決めるようにします）。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは、図書館の日程調整が必要です。実施の順序については変更することがあるため、授業の中で案内しますので、注意してください。この演習Iを含め、卒業論文など他の教科も文献、図表などの書き方は、すべて日本心理学研究の投稿の手引きに準じて行います。2022年度改定がされていますので、新しい手引きを入手しておいてください。

<https://psych.or.jp/manual/>

【Outline (in English)】

・ The aim of this course is to learn some basic rules concerning how to conduct literature searches, the structure of research articles, and how to use technical terms, with the ultimate goal of being able to write research papers in the field of psychology.

・ The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

・ It is necessary for students to (1) present their own assigned papers, (2) to attend every class and (3) provide comments, opinions to the presenters.

・ Grading will be based on the assumption that students should attend at least two-thirds of the class sessions to receive credit, and 40% of the credit will be given to students for their participation (opinions, questions, etc.). The overall evaluation of the Japanese paper will be made up of 30% for the presentation of the resume and participation in the discussion, and 30% for the English paper (PowerPoint presentation, resume, and participation in the discussion).

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

演習 I（4）

下山 晃司

授業コード：A3630 | 曜日・時限：木4/Thu.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2（～4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に、文献検索のしかた、論文の構成、専門用語の用い方、文献の書き方など基本的ルールを学びます。また、データに基づき論証するテクニックまで、優れた日本語論文および英語論文の文献を用いて具体的に学びます。さらに、理解した内容をレジュメにして、プレゼンテーションし討論する力も養います。

【到達目標】

具体的な目標として、
（１）研究に必要な論文を検索する力の獲得
（２）論文の構成や約束ごとを理解する。キーワードなどで専門的に検索するスキルを獲得
（３）論文の内容を理解し、論理的また批判的に読む態度を身につける。
（４）論文を書く際に論理的に留意する点や、書く上でのルールを理解する。
（５）レジュメをもとに、発表し討論するスキルを獲得する。
以上、一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら、研究に必要なこれらの技能の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

査読論文を全員が読み、論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます。図書館で検索のスキルを学び、自分の関心のある領域の論文を探したり、情報を得るスキルを獲得します。研究論文を書く上での倫理的な規定や、書き方のルールについて理解します。日本語論文については、レジュメを用いて発表し、英語論文については、レジュメを書くことで内容を把握し、クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します。作成したレジュメは提出します。授業内に図書館利用ガイダンスを利用します。アクティブラーニングをできるだけ取入れます。授業の初めに、前回の授業で提出された振り返りレポートやリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	全体計画と進行の紹介
第2回	論文の種類の説明、論文の構成1	論文の構成についての説明（題名・キーワード・抄録、問題提起、方法、結果、考察の書き方など）
第3回	文献検索1	図書館を利用した検索（ただし、図書館のガイダンスがこの回になるか明確でない）。
第4回	文献検索2	教員による専門的検索の説明。教員側から、さらに、検索に関するスキルを説明する。
第5回	レジュメの作り方の説明	研究論文を読んだあとの、レジュメの作成のしかたとポイントを解説する。
第6回	日本語論文の個人発表1	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ。質問が活発になるよう、コメントシート、リアクションペーパー、パートナーやグループワークを入れてもよい（日本語論文においてはレジュメのみとする）。
第7回	日本語論文の個人発表2	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）。
第8回	日本語論文の個人発表3	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）。
第9回	日本語論文の個人発表4	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）。 ＊英語論文の選択を次回迄に決めるよう求め、適切な英語論文を選択しているかを確認する。
第10回	フィードバックとパワーポイントスライドのつくりかた、発表の仕方	日本語論文の発表についてのフィードバックと英語論文の発表のために必要なことを説明。パワーポイントのスキルを教える。
第11回	英語論文1	発表（パワポによる発表）レジュメの提出
第12回	英語論文2	発表（パワポによる発表）レジュメの提出

第13回	英語論文3	発表（パワポによる発表）レジュメの提出
第14回	全体統括	文献検索、日本語論文・英語論文の発表を通し、全体の振り返り、反省を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が発表する論文だけではなく、他の人が発表する論文も読み、授業中に討論できるように準備しましょう（図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性があります）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間合計4時間を設定しています。

- 第1回 自己紹介とシラバスにレポート課題作成の準備
第2回 論文の手引きによる復習と次回の検索のためのキーワードの用意
PsycINFO IDの獲得
第3回 検索の仕方をマスターし、専門のキーワードの準備
第4回 PsycINFO による検索
第5回 日本語論文のレジュメの作り方をマスターし、発表に備える。
第6-9回 発表準備 英語論文選択を同時並行して行っておく。
第10-13回 英語論文レジュメの選択とパワーポイントの原稿作成、レジュメ提出
第14回 講義を通してのまとめや授業改善アンケート実施

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、資料を準備します。学習支援システムでダウンロード、あるいは心理実習室に閲覧できるようにしておきます。

【参考書】

授業内で参考図書・文献は適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

自分の担当論文を発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します。授業の評価は、単位認定は授業回数の3分の2以上（10回以上）の出席を前提とし、参加態度（意見や質問など）による平常点を40％、日本語論文の総合評価（レジュメによる発表・討論参加など）30％、英語論文の総合評価（パワーポイントによるプレゼンテーションとレジュメ・討論参加など）30％、の配分で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

12名中11名から回答がありました。Q1（授業の工夫）、Q3（授業理解）、Q4（履修してよかったか）については、それぞれ4名、7名、8名が「5」と回答し（大変工夫していた／大変理解できた／大変よかった）と回答し、各項目の最頻値でした。以上のことから、回答者の授業に対する満足度は高かったと考えられます。
自由記述には7名の回答がありました。
・どのように研究発表やレジュメ作成が行われるかが理解できた。
・様々な方の論文発表を聞くことができたので、自分の興味が無かった分野について理解をすることができるだけでなく、発表の仕方もとても参考になりました。
・雰囲気がかたかくて楽しく学びながら履修できた。
以上の結果から、本演習で卒論に必要な各種スキルを受講生が獲得できるよう、引き続き受講生のサポートに努めます。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC、プロジェクターのカギをBT5階の教授室から借り出して準備（最初の授業でできるだけ用意する順番を決めるようにします）

【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは、図書館の日程調整が必要です。実施の順序については変更することがあるため、授業の中で案内しますので、注意してください。発表の後には、振り返りレポートの提出をしてもらいます。

【オフィスアワー】 シラバスの教員紹介に記載してあります。

【文献、図表などの書き方】

この演習Iを含め、卒業論文など他の教科も文献、図表などの書き方は、すべて日本心理学会の投稿の手引きに準じて行います。2022年度改定がされていますので、新しい手引きを入手しておいてください。
<https://psych.or.jp/manual/>

【Outline (in English)】

・ The aim of this course is to learn some basic rules concerning how to conduct literature searches, the structure of research articles, and how to use technical terms, with the ultimate goal of being able to write research papers in the field of psychology. ・ The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. ・ It is necessary for students to (1)present their own assigned papers, (2) to attend every class and (3)provide comments, opinions to the presenters. ・ Grading will be based on the assumption that students should attend at least two-thirds of the class sessions to receive credit, and 40% of the credit will be given to students for their participation (opinions, questions, etc.). The overall evaluation of the Japanese paper will be made up of 30% for the presentation of the resume and participation in the discussion, and 30% for the English paper (PowerPoint presentation, resume, and participation in the discussion).

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

演習 I（5）

太田 碧

授業コード：A3631 | 曜日・時限：火3/Tue.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2（～4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に、文献検索のしかた、論文の構成、専門用語の用い方、文献の書き方など基本的ルールを学びます。また、データに基づき論証するテクニックまで、優れた日本語論文および英語論文の文献を用いて具体的に学びます。さらに、理解した内容をレジュメにして、プレゼンテーションし討論する力も養います。

【到達目標】

具体的な目標として、
（１）研究に必要な論文を検索する力の獲得
（２）論文の構成や約束ごとを理解する。キーワードなどで専門的に検索するスキルを獲得する。
（３）論文の内容を理解し、論理的また批判的に読む態度を身につける。
（４）論文を書く際に論理的に留意する点や、書く上でのルールを理解する。
（５）レジュメをもとに、発表し討論するスキルを獲得する。
以上、一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら、研究に必要なこれらの技能の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

査読論文を全員が読み、論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます。図書館で検索のスキルを学び、自分の関心のある領域の論文を探したり、情報を得るスキルを獲得します。研究論文を書く上での論理的な規定や、書き方のルールについて理解します。日本語論文については、レジュメを用いて発表し、英語論文については、レジュメを書くことで内容を把握し、クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します。作成したレジュメは提出します。授業内に図書館利用ガイダンスを利用します。アクティブラーニングをできるだけ取入れます。授業の初めに、前回の授業で提出された振り返りレポートやリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	全体計画と進行の紹介
第2回	論文の種類の説明、論文の構成	論文の構成についての説明（題名・キーワード・抄録、問題提起、方法、結果、考察の書き方など）
第3回	文献検索 1	図書館を利用した検索（ただし、図書館のガイダンスがこの回になるか明確でない）。
第4回	文献検索 2	教員による専門的検索の説明。教員側から、さらに、検索に関するスキルを説明する。
第5回	レジュメの作り方の説明	研究論文を読んだあとの、レジュメの作成のしかたとポイントを解説する。
第6回	日本語論文の個人発表 1	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ。質問が活発になるよう、コメントシート、リアクションペーパー、パートナーやグループワークを入れてもよい（日本語論文においてはレジュメのみとする）。
第7回	日本語論文の個人発表 2	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）。
第8回	日本語論文の個人発表 3	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）。
第9回	日本語論文の個人発表 4	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）。 ＊英語論文の選択を次回迄に決めるよう求め、適切な英語論文を選択しているかを確認する。
第10回	フィードバックとパワーポイントスライドのつくりかた、発表の仕方	日本語論文の発表についてのフィードバックと英語論文の発表のために必要なことを説明。パワーポイントのスキルを教える。
第11回	英語論文 1	発表（パワポによる発表）レジュメの提出
第12回	英語論文 2	発表（パワポによる発表）レジュメの提出

第13回	英語論文 3	発表（パワポによる発表）レジュメの提出
第14回	全体統括	文献検索、日本語論文・英語論文の発表を通して、全体の振り返り、反省を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が発表する論文だけではなく、他の人が発表する論文も読み、授業中に討論できるように準備しましょう（図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性があります）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間合計4時間を設定しています。

- 第1回 自己紹介とシラバスにレポート課題作成の準備
- 第2回 論文の手引きによる復習と次回の検索のためのキーワードの用意、PsycINFO IDの獲得
- 第3回 検索の仕方をマスターし、専門のキーワードの準備
- 第4回 PsycINFOによる検索
- 第5回 日本語論文のレジュメの作り方をマスターし、発表に備える。
- 第6-9回 発表準備 英語論文選択を同時並行して行っておく。
- 第10-13回 英語論文レジュメの選択とパワーポイントの原稿作成、レジュメ提出
- 第14回 講義を通してのまとめや授業改善アンケート実施

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、資料を準備します。学習支援システムでダウンロード、あるいは心理実習室に閲覧できるようにしておきます。

【参考書】

授業内で参考図書・文献は適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

自分の担当論文を発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します。授業の評価は、単位認定は授業回数の3分の2以上（10回以上）の出席を前提とし、参加態度（意見や質問など）による平常点を40％、日本語論文の総合評価（レジュメによる発表・討論参加など）30％、英語論文の総合評価（パワーポイントによるプレゼンテーションとレジュメ・討論参加など）30％、の配分で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは、論文の読み方を学べた・クラス内で発表に対してコメントしたり協力し合うことができた等の回答がありました。引き続き、読解・発表といった基礎的なスキルの獲得を支援していきます。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC、プロジェクターのカギを BT5 階の教室から借り出して準備すること（授業の早い時期にできるだけ用意する順番を決めるようにします）。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは、図書館の日程調整が必要です。実施の順序については変更することがあるため、授業の中で案内しますので、注意してください。発表の後には、振り返りレポートの提出をしてもらいます。

【文献、図表などの書き方】

この演習 I を含め、卒業論文などの教科も文献、図表などの書き方は、すべて日本心理学研究の投稿の手引きに準じて行います。2022 年度改定がされていますので、新しい手引きを入手しておいてください。

<https://psych.or.jp/manual/>

【Outline (in English)】

・ The aim of this course is to learn some basic rules concerning how to conduct literature searches, the structure of research articles, and how to use technical terms, with the ultimate goal of being able to write research papers in the field of psychology.
・ The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
・ It is necessary for students to (1)present their own assigned papers, (2) to attend every class and (3)provide comments, opinions to the presenters.
・ Grading will be based on the assumption that students should attend at least two-thirds of the class sessions to receive credit, and 40% of the credit will be given to students for their participation (opinions, questions, etc.). The overall evaluation of the Japanese paper will be made up of 30% for the presentation of the resume and participation in the discussion, and 30% for the English paper (PowerPoint presentation, resume, and participation in the discussion).

PSY300BG（心理学 / Psychology 300）

研究法 I （1）

木村 健太

授業コード：A3643 | 曜日・時限：水2/Wed.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4（※2011以前入学者は4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2年生までに学んできた心理学の知識を活かして、自身の関心にもとづいて心理学の研究テーマを設定し、研究を実践することで卒業論文としてまとめます。心理学研究の実践を通して、実証的な研究活動を行うための基礎的なスキルを身につけます。
4年生は、自身の研究テーマをもとに具体的な研究計画を策定し、倫理審査書類の作成と実験の準備をします。
3年生は、3年次のグループ実験の実施を通して、実証研究の一連のスキル（計画、実施、報告等）を身につけます。

【到達目標】

・自身の心理学的な関心をもとに、先行研究の調査などを通して実証科学的な研究課題として設定できる。
・研究課題に対して、倫理的かつ適切な研究計画の立案ができる。
・立案した研究計画にもとづき研究を実施できる。
・収集したデータを図表にまとめ、適切な統計的手法を用いて分析・解釈できる。
・研究成果を口頭発表および論文として効果的に発信できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

・3年生と4年生の合同授業になります。受講生による自分の研究の発表とそれにもとづく議論が中心となります。
・発表準備を通して自分の研究の進め方を整理するとともに、発表の際のコメントや意見を参考にしながら、客観的に自分の研究を進める姿勢を獲得してください。
・他の受講生の発表を注意深く聞き、他者の研究の論理的な展開やデータの分析方法、解釈について、積極的にコメントや質問をしてください。
・授業中に出される課題への回答や授業に関する疑問・感想を記載したリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業で疑問や感想に対するフィードバックを含めた授業を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、各学年の年間計画の確認 【4年生】 春期休暇中の進捗報告 【3年生】 関心のあるテーマ発表、3年次実験のグループ分け
第2回	研究計画策定（1）	【4年生】 実験計画の策定・計画書の作成 【3年生】 研究テーマの決定、先行研究の情報収集
第3回	研究計画策定（2）	【4年生】 実験計画の策定・計画書の推敲 【3年生】 3年次実験の計画策定
第4回	研究計画策定（3）	【4年生】 実験計画の策定・計画書の提出 【3年生】 3年次実験の準備：刺激、プログラム、測定機器
第5回	研究計画発表（1）	【4年生】 研究計画の発表、実験実施準備：刺激、プログラム、測定機器 【3年生】 3年次実験の準備：刺激、プログラム、測定機器
第6回	研究計画発表（2）	【4年生】 研究計画の発表、実験実施準備：刺激、プログラム、測定機器 【3年生】 3年次実験の準備：刺激、プログラム、測定機器
第7回	実験実施準備（1）	【4年生】 実験実施準備：刺激、プログラム、測定機器 【3年生】 3年次実験の準備：刺激、プログラム、測定機器
第8回	実験実施準備（2）	【4年生】 実験実施準備：刺激、プログラム、測定機器 【3年生】 3年次実験の準備：刺激、プログラム、測定機器

第9回	実験実施準備（3）	【4年生】 実験実施準備：刺激、プログラム、測定機器 【3年生】 3年次実験のデータ取得
第10回	研究発表（1）	【4年生】 実験の教示文の作成 【3年生】 3年次実験のデータ取得
第11回	研究発表（2）	【4年生】 実験の同意書の作成 【3年生】 3年次実験のデータ分析
第12回	研究発表（3）	【4年生】 実験の手順書の作成 【3年生】 3年次実験の分析結果の考察
第13回	3年生実験結果発表	【4年生】 倫理審査書類の提出 【3年生】 グループごとに3年次実験の成果発表
第14回	まとめ	春学期の授業の振り返り、夏季休暇中の作業の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
・授業時間内は、発表にもとづく議論や解説を中心に行うため、論文などの情報収集、実験準備、資料作成などの作業は授業時間外に行います。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

適宜必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（40％）と発表（60％）で評価します。
・他者とのディスカッションは研究を進める上でとても有益です。このため、授業内での他者の発表への積極的な関与を平常点として重視します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

・授業の進め方や授業計画、授業目標の説明をしますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。
・オフィスアワー：春・秋学期ともに木曜日3限（BT1109研究室）。訪問希望者は、メール（k.kimura[at]hosei.ac.jp）等で前日までに連絡してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We will study psychology research methods (raising questions, setting purpose/hypothesis, method, statistical analysis, display of results, way of thinking, etc.).

【Learning Objectives】

The goals of this course are to set research themes at an early stage through free and lively discussions between the teacher and students and to like them to the writing of dissertations.

【Learning activities outside of classroom】

It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.

【Grading Criteria /Policy】

The final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (40%) and presentations (60%).

PSY300BG（心理学 / Psychology 300）

研究法 I （2）

竹島 康博

授業コード：A3644 | 曜日・時限：火5/Tue.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4（※2011以前入学者は4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自身の興味関心に基づき、人間の感覚情報処理に関する研究テーマを見つけ、実証的研究として設計するために必要な心理学的知識とスキルを学びます。

【到達目標】

3年次生は、関心のある研究テーマに対してグループで実験計画の策定、実験の実施、報告資料の作成を通して実証的研究の計画を作り上げ、それを報告するスキルのトレーニングを行います。4年次生は、3年次までの学びを活かして実証的な研究の計画を策定することを目標にします。各自の進捗や実習状況については、授業内で適宜フィードバックしていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

3年次生と4年次生の合同で授業を行います。基本的には3年次生と4年次生で異なる実習を行います。必要に応じて合同で議論を行います。両学年ともに発表内容について積極的にコメントをすることを求めます。なお、受講者の人数や状況等によって授業内容を一部変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方の説明 学科のルールを確認 4年：春期休暇中の進捗を報告 3年：興味のあるテーマを発表、グループ分け
第2回	実験実施準備(1)	4年：実験計画の検討・計画書の作成 3年：テーマ決め、実験計画の策定
第3回	実験実施準備(2)	4年：実験計画の検討・計画書の作成 3年：実験計画の策定（実験計画の期限）
第4回	実験実施準備(3)	4年：実験計画の検討・計画書の作成（実験計画書の期限） 3年：実験プログラムや質問フォームの作成
第5回	実験実施準備(4)	4年：実験プログラムや質問フォームの作成 3年：実験プログラムや質問フォームの作成
第6回	実験実施準備(5)	4年：実験プログラムや質問フォームの作成 3年：実験プログラムや質問フォームの作成
第7回	実験実施準備(6)	4年：実験プログラムや質問フォームの作成 3年：実験プログラムや質問フォームの作成（テストラン）
第8回	実験実施準備(7)	4年：実験プログラムや質問フォームの作成（テストラン） 3年：実験手続きの文書作成（終了時に手続き文書を提出）
第9回	実験実施準備(8)	4年：実験の教示文の作成（教示文の期限） 3年：実験手続きの文書作成（実験準備の期限）
第10回	実践活動	3年次生はグループごとに実験を実施。4年次生は参加者の立場となり、自身の研究計画に瑕疵がないかを確認。
第11回	実験実施準備(9) 実験データのまとめ	4年：同意書の作成（実験プログラム・同意書の期限） 3年：実験データを分析（データの整理は事前にやっておく）
第12回	実験実施準備(10) 結果の解釈のトレーニング	4年：倫理申請書類の作成（倫理申請書類の期限） 3年：グループごとに実験の方法と結果を報告し、互いに考察し合う

第13回	アカデミックライティング (序論、方法、結果、考察、引用文献)	3・4年生合同で、実験レポートの書き方を中心にアカデミックライティングのポイントについて確認
第14回	まとめ	春学期の授業を振り返り、各人が夏期休暇中に行う作業について確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
文献の読み込み、実験の準備、その他資料の作成など、実際の作業は授業時間外に行います。授業内での議論を基に各学生が行う作業内容を決定し、毎回の達成目標を設定します。
4年生はスプレッドシートに毎週の作業内容を入力し、授業時にどの程度達成できたかを報告します。3年生はグループ内で次回授業までにやるべき作業を確認します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

各人の研究テーマや課題に応じて、適宜参考となる文献を授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

共通：他者の発表へのコミットメント 20%

4年次生：定められた期限までの進捗評価 80%

3年次生：定められた期限までの進捗評価 40%・レポート評価 40%

【学生の意見等からの気づき】

今年度も4年生は各ステップに締切を設けて、どの程度期限内に進められたかを成績評価の項目にすることで計画的に卒業論文を進められるようにします。3年生は今年度もグループによる実験を中心に進めますが、こちらからテーマの候補を提示してその中から選んでもらうことで、卒業研究の実験実施や分析の進め方を早いうちに学んでいただきます。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて自分のPCを持参してください。

【その他の重要事項】

この科目は3年次生と4年次生の合同授業です。重複履修を原則としていますので、3年次と4年次に同じ教員の研究法I・IIを受講してください。初回に授業の進め方の説明をしますので、必ず出席してください。
4年次生はオフィスアワーやDiscordを利用して指導教員に授業時間外でも相談しながら進めてください。3年次生はグループ活動となるので、メンバーに迷惑をかけないように各自が意識してください。
授業で募集する知覚心理学・認知心理学に関わる実験や調査などへの参加による学習についても評価に加味する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to acquire the necessary skills and knowledge to take on a psychological research having an interest.

【Learning objectives】

The goals of this course are to conduct of basic research in the field of psychology of perception and cognition.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on class contribution (40%), class discussion (20%), and class presentation (60%).

PSY300BG（心理学 / Psychology 300）

研究法 I （3）

渡辺 弥生

授業コード：A3645 | 曜日・時限：水2/Wed.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4（※2011以前入学者は4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業研究を対象とした専門演習です。2年次、3年次の演習の成果をふまえて、各自研究の計画を立案する。最新の論文を収集し、興味をもった研究の動向を明らかにする。先行研究の内容を理解した上で、課題や問題点を明確にし、改善するためにどのような研究が可能なのか、楽しんで考えてほしい。オリジナリティのある理論的展開や方法を考えつくように支援していく。また、研究にとどまらず、ゼミで交流することによって、社会人として与えられた課題をこなし、成果を広く発表し、伝えていくためのソーシャルスキルも学んでほしい。

【到達目標】

論文を書くことだけではなく、各自が社会にでて活かせるような力として、論理的思考、創造力、情報収集能力、計画遂行力をふくむソーシャルスキルを育むことを目標とする。

- (1) 専門の論文を検索できる。
- (2) 論文から研究の流れを理解する。
- (3) 先行研究の目的から考察迄の内容を理解できる。
- (4) 先行研究を批判し、オリジナリティを加えられる。
- (5) 具体的に自分の研究計画を立案する。

こうした、研究のスキルだけでなく、ゼミのネットワークを強める貢献をし、互いにペアやグループワークを活用し、相互に研究力だけでなく人間力を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

学習内容：自分の決めたテーマにかかわる文献を集め整理し、問題意識を明らかにする。そこから、仮説を立て研究計画を完成させていく。その際、発達や臨床にかかわる研究の難しさや倫理的な配慮、モラルについても学ぶ。毎回、全員が何かしら発言し、互いの考えを共有できるようアットホームなあたたか交流を目指したい。課題のフィードバックは、学習支援システムを通じて行う。授業方法：演習・実習方式

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の枠組みについて確認	スキーマの獲得:研究のイメージをつかむことができるようになることを目標とする。
第2回	研究計画1	テーマ決定：一口に心理学と言っても、かなりバリエーションがある。どのようなテーマがあるかを概観したうえで、興味あるテーマを決定する。
第3回	研究計画2	先行研究のリスト：興味あるテーマを絞ったとしても、その歴史は長く、研究の経緯がある。まずは、リストをつくる。
第4回	研究計画3	先行研究の理解：これまでの研究の流れを、理解→批判→問題提起という作業の枠組みを通して考える。
第5回	研究計画4	先行研究の理解：前の時間をさらに継続する。
第6回	先行研究の論点の整理	先行研究のマップ作り：ビジュアルに理解できるように、ノートを工夫してまとめる作業をする。
第7回	先行研究の論点の整理	先行研究のマップ作り：先の作業を完成させる。
第8回	問題提起の作成	論理的な構造作り：マッピングした流れを、文章に書いてみる。論文の書き方を体験する。
第9回	問題と目的を書く1	論理的な構造で書けているかをチェックする。
第10回	問題と目的を書く2	ライティングの完成
第11回	方法について検討	その目的を実行するためにどのような方法が必要かを考える。協力者へのお願いの手紙など、協力者を得るための手続きも確認する。
第12回	発表	プレゼンテーション
第13回	発表	プレゼンテーション

第14回 総括 全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、各授業内で消化できないことが出てくるので、授業時間外で予習復習に各2時間を補っておく。互いに、意見を交換したり、質問しあったり、活動レベルを高められるよう工夫します。研究論文を読みながら研究の流れを知ることと同時に、レビュー本を読んで研究論文で扱われている問題が、広い領域のなかのある一部だということを理解する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業開始時に適宜紹介する。

【参考書】

授業開始時に適宜紹介する。論文の書き方をタイトルとした本を一冊準備する。改訂新版 心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために 単行本－2010/7/13 松井 豊(著) などこの種の本を1冊読んでほしい。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題遂行(70%)とプレゼンテーション(30%)。

【学生の意見等からの気づき】

かなり勉強したと評価している人がいるので、このペースで。「判断力」「苦手克服」という点がのびるようにしてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントやDVDなど。

【その他の重要事項】

上記計画は、研究の進み具合によって、多少変更します。研究法をコアにした授業外のゼミ活動（ゼミ行事、合宿）で総合力を養ってほしい。授業支援システムに登録する。

【発達心理学】

<https://sites.google.com/site/emywata/Home>

【Outline (in English)】

The aim of this course is specifically designed to support graduation researches. From experiences obtained from training in the second year and third year, students are required to plan and propose their research plans. In this training, students are expected to collect the latest theses and formulate their interest in researching trends. From the knowledge obtained from the collected theses, students will have to determine currently existed issues. Furthermore, students will have to conduct studies regarding original methods and theories which are then used to solve the identified problems. In addition, not stopping at researches, this training will also provide the necessary social skills for students to correctly convey the outcomes of the study which they conducted, helping students to become more confident as a member of the society.

- ・ The goal of this course is not only to write papers, but also to develop social skills, including logical thinking, creativity, the ability to gather information, and the ability to carry out plans, as skills that can be utilized in society.
- ・ The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
- ・ Grading will be decided based on each class assignment (70%) and presentations (30%)

PSY300BG（心理学 / Psychology 300）

研究法 I（4）

福田 由紀

授業コード：A3646 | 曜日・時限：水2/Wed.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4（※2011以前入学者は4）年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、演習Ⅰと演習Ⅱで習得したことをふまえて、実際に実験・調査実施のための計画を立て、実施し、分析することが目標です。心理学は実証科学です。自分の興味をどのように実験や調査に持っていくのか？！そこが研究のポイントです。自分の興味にあったテーマについて研究の「いろは」を体験しましょう。

【到達目標】

＊3年生:実際に実験を行い、分析し考察し、発表を行う。この一連の過程により、研究における注意事項を確認できるようになる。また、様々な装置を用いてその使い方を知る。そして、4年生の発表に対して積極的に聴くことにより、自分の研究テーマを絞り込んでいく。
＊4年生：3年時に蓄積した先行研究の知見をさらに発展させる。そして、目的にあった研究を自分自身で計画し、実施し発表する。その結果、一人で問題を発見し、それを解決できるようになる。また、自分の研究を発表することにより、よりよいプレゼンテーションができ、わかりやすい文章を書くことができるようになる。
＊共通の目標：論文としての確かな文章を書ける。また、授業中、みんなの前で発表したり、それに対してクリティカルな意見を発言したり、他者が書いてきた文書をピアレビューしたりする。その結果、他者の仕事（発表・文書）に対して、建設的なアドバイスができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

3年生と4年生による協同学習を目指した合同授業です。両学年とも自分の研究を個別に発表したり、それぞれが書いた文書を推敲したりする方式が中心となります。その際、他の人の発表や抱えている問題点を自分自身の問題として受けとめる姿勢を持って下さい。具体的には、発表者が抱えている問題のうち自分にも当てはまることがないだろうかという態度で注意深く聞き、分からないことの質問や発表者の発表内容に対するコメントを積極的に行ってください。特に、研究計画書の書き方、発表の仕方、論文の書き方などは全員に共通する課題なので、お互いの発表・発言を生かしてよりよいものを作り上げる努力をしてください。

また、Hoppiiを通じて、授業の前に提出した事前課題に関しては、授業中に、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方とアジェンダの確認。 卒論の概要説明。
第2回	発表スキル1・文章力1アップ	PPTを使った自己紹介、文章力アップ1のピアレビュー。
第3回	分析力1・文章力アップ2	分析と結果を表現するための表計算ソフトの習得と確認、文章力アップ2のピアレビュー。
第4回	分析力2・文章力アップ3	分析ソフトの習得と確認、文章力アップ3のピアレビュー。
第5回	研究力1・発表スキル2アップ	3年生：眼球運動測定装置の講習。 4年生：研究の進捗状況の発表。
第6回	研究力2・文章力3アップ	3年生：種論文の発表1。 4年生：3年生へのアドバイス。 Touch & Go!
第7回	研究力3・発表スキル4アップ	3年生：種論文の発表2。 4年生：3年生へのアドバイス。 共通：コメントシートの修正のピアレビュー。
第8回	研究力4・文章力4アップ	実験・調査前後に作成する書類の書き方のコツの講習。 文章力アップ4のピアレビュー。
第9回	研究力5・発表スキル5アップ	3年生：研究の構想発表1。 4年生：3年生へのアドバイス
第10回	研究力6・文章力5アップ	倫理申請書類の書き方のピアレビュー1：研究計画申請書、同意書。
第11回	研究力7・文章力6アップ	倫理申請書類の書き方のピアレビュー2：デブリーフィング用紙、参加者募集のちらし。 文章力アップ5のピアレビュー。

第12回	文章力7アップ	やり取りのある文章の書き方講習会
第13回	文章力8アップ	段落とは何か？の講習会。 文章力アップ6のピアレビュー。 序論のピアレビュー。
第14回	研究力8・文章力9アップ	Touch & Go!

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、発表や作業があります。授業計画に沿って、事前の課題を行い、自分の発表の準備と他人の発表資料を予習し、コメントを考えてくる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

適宜、授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

自分が発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対してコメントすることも重視します。評価は発表40％とコメント20％、事前の課題提出40％によって決められます。発表は、わかりやすく的確に説明することが求められます。また、コメントは発表者に資するような建設的な意見を述べることを求められます。演習なので必ず出席してください。特に、自分の発表時に絶対に！欠席しないこと。やむを得ず欠席する場合には、事前に福田に連絡して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

「工夫していた」100％、「授業を受けてよかった」100％。ありがとうございます！！「週2時間以上3時間未満」が6割超。時間がすべてではありませんが、この授業はやればやるほど学習効果がありますよ。また、発表に関するコメントシートやフィードバックや、参考文献の書き方や効果的な話し方などの紹介がよかったようです。また、行程表が明示されていることも評価されました！続けていきますね。さらに、Tobiiの講習も好評でした。皆さんのブレ卒論・卒論がとても楽しみです。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。実験・調査の内容は福田の守備範囲である言語心理学や教育心理学関係だとより詳細な指導が受けられると思います。また、この科目は3年次生と4年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていますので、3年次と4年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。

【教員の実務経験】

・小学校国語教科教科書編集委員（教育出版）1996年4月1日－2015年3月31日
・中央教育審議会初等中等教育分科会言語能力の向上に関する特別チーム
2014年10月21日－2017年2月14日
・文化審議会臨時委員（国語分科会）2016年3月20日－2023年3月31日

【Outline (in English)】

Course outline：The purpose of this course is to learn how to conduct psychological research.

Learning Objectives：By the end of the course, students should be able to do the following:

- － A. make one's research plan
- － B. carry it out
- － C. analyze it appropriately

Learning activities outside of classroom：Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.

Grading Criteria：Your overall grade in the class will be determined based on the following: presentation: 40%, comment for the presentation of other people:20%, in-class contribution: 40%.

PSY300BG（心理学 / Psychology 300）

研究法 I（5）

田嶋 圭一

授業コード：A3647 | 曜日・時限：水2/Wed.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4（※2011以前入学者は4）年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで学んできた心理学の知識を活かし、高水準の心理学研究を行うために必要なノウハウを習得し、みずから設定したテーマに沿って研究を行い、成果としてまとめ発信していくことを目指します。春学期は研究計画の立案と研究実施の準備までを行います。

【到達目標】

1. 論文検索を適切に行うことができ、論文の内容を正確に読解し、批判的に読めるようになること。
2. 1の活動を踏まえて先行研究のレビューができ、心理学的研究に値する独自の問題点が提示できること。
- 3.（3年生）タネ論を基本とした「追試＋α」の研究計画を立案できるようになること。（4年生）複数の先行研究を基に独自の問題意識に基づく研究計画を立案できるようになること。
4. 研究計画を基に研究の実施に向けて素材・装置・倫理審査書類等が適切に準備できること。
5. 自分の研究成果を効果的に発表できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回何等かの課題を課します。次回までに課題に取り組み、授業にて発表・ディスカッション・相互フィードバックを行います。毎回休まずに出席する心積もりでいてください。自分自身の研究にだけ取り組むのではなく、他者の取り組みにも関心を寄せ、建設的なコメントを積極的に行うスキルを磨くことも重視します。したがって、個人発表だけでなくグループディスカッションや掲示板を利用した学生相互のピアレビュー、授業内および掲示板での教員からのフィードバックなど取り入れながら授業を進める予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	シラバスの説明、達成目標の設定
第2回	文献レビュー（1）、各自のテーマの決定	【4年生】卒論を見据えたテーマ設定と文献講読1・発表。【3年生】関心のあるテーマの選定と文献講読1、4年生へのコメント。
第3回	文献レビュー（2）	【4年生】文献講読2、3年生へのコメント。【3年生】文献講読2・発表。
第4回	文献レビュー、研究計画の立案（1）	【4年生】文献講読3、問題点の精査、発表。【3年生】文献講読3、問題点の精査、4年生へのコメント。
第5回	文献レビュー、研究計画の立案（2）	【4年生】文献講読4、問題点の精査、3年生へのコメント。【3年生】文献講読4、問題点の精査、発表。
第6回	研究計画発表（1）	【全員】研究計画書の作成。【4年生】発表。
第7回	研究計画発表（2）	【全員】研究計画書の作成。【3年生】発表。
第8回	研究計画の具体化	変数の整理、刺激・材料等の準備
第9回	問題の設定、研究倫理	問題意識と研究目的の設定、研究倫理について
第10回	4年生成果発表（1）	【4年生】成果発表。【3年生】成果発表準備、4年生へのコメント。
第11回	4年生成果発表（2）	【4年生】成果発表。【3年生】成果発表準備、4年生へのコメント。
第12回	3年生成果発表（1）	【4年生】倫理審査書類提出、3年生へのコメント。【3年生】成果発表。
第13回	3年生成果発表（2）	【4年生】倫理審査書類提出、3年生へのコメント。【3年生】成果発表。
第14回	まとめと展望	春学期の総括、秋学期に向けての準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究の流れ（テーマの設定、論文の講読、問題提起、実験・調査の計画など）に沿って、ほぼ毎回何らかの達成目標を設定し、次の回までに研究を進展させます。進捗状況を報告するための資料を事前に準備し、授業にて発表してください。ゼミ活動は授業時間だけでは時間が足りません。詳しいアドバイスなどが必要な場合はアポを取るかオフィスアワーなどを活用してください。学生間のコミュニケーションや共同学習を促すため、ピアレビュー（仲間同士が相互に建設的・批判的なコメントを出し合う活動）を取り入れます。また、研究の「お作法」に関する文献を読んだり練習問題を解いたりしてもらう予定です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。参考書などは適宜授業で紹介します。

【参考書】

南風原 朝和・市川 伸一・下山 晴彦（編）（2001）.『心理学研究法入門 一調査・実験から実践まで一』東京大学出版会。
高野 陽太郎・岡 隆（編）（2004）.『心理学研究法 一心を見つめる科学のまなざし一』有斐閣アルマ。
松井 豊（2006）.『心理学論文の書き方 一卒業論文や修士論文を書くために一』河出書房新社。

【成績評価の方法と基準】

平常点40%、発表60%の割合で評価します。原則として、正当な理由なく4回を超えて授業を欠席した場合は無断で発表を怠った場合は、単位が授与されないものとします。欠席する場合は必ず事前に理由を添えて教員に連絡してください。

【学生の意見等からの気づき】

回答者7名全員が「履修してよかった」「理解できた」「工夫されていた」と回答してくれました！ 授業外学習時間は「週3時間以上」が4名、「週2～3時間」が3名でした。「毎週の課題があったので、計画的に研究を進めることが出来た」「ほぼ毎週教授や院生さんなどから個別にフィードバックがもらえたことや、早い段階で卒論の基盤となるあれこれを学べたことがよかった」「文章力トレーニングで引用文献リストなどを書く練習ができたのはとても有効なアクティビティだった」といったコメントをいただきました。他にも「グループワークをあまりしなかったので学生間でコミュニケーションを取る時間がないように感じた」「課題が重い」という感想もありました。グループワークはもう少し取り入れられるように工夫してみたいと思います。課題が重いのはゼミだから仕方ありませんが、だからこそ自分が飽きずにコミットできるテーマを見つけれられるとよいと思います。

【その他の重要事項】

この科目は3年次生と4年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていしますので、3年次と4年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。

なお、授業計画や運営方針の説明などをしますので、受講者は初回授業に必ず出席してください。やむを得ず初回授業を欠席する場合は必ず事前に担当教員にメールで連絡してください。アドレスは、tajima[at]hosei.ac.jpです[at]を@マークで置き換えてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course will help students acquire the knowledge and skills necessary to plan and carry out psychological research, and effectively present their accomplishments. The spring semester focuses on research planning and preparation.

【Learning objectives】

Through this course, students should become able to:

1. Search and critically read research articles.
2. Provide a thorough literature review and devise original research questions.
3. Construct a detailed research plan based on the research questions.
4. Prepare research materials, equipment, and ethical review documents necessary to carry out the research plan.
5. Give an effective presentation of one's research goals and progress.

【Learning activities outside of classroom】

Students will set appropriate goals and strive to achieve those goals by the next class meeting. Presentation materials should be prepared as needed. Students are also expected to provide feedback to other students' work through peer-review activities. For each class, students will be expected to spend at least 4 hours outside of class to make progress in their research.

【Grading criteria/policy】

Your overall grade will be determined based on attendance and class participation (40%) and in-class presentations (60%). As a rule, if you are absent for more than 4 classes or fail to present in class without a legitimate reason, course credit will not be granted.

PSY300BG（心理学 / Psychology 300）

研究法 I（6）

藤田 哲也

授業コード：A3648 | 曜日・時限：水2/Wed.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4（※2011以前入学者は4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文に向けて、心理学の研究計画の立て方から論文の書き方で、実践的・体系的に学ぶことが授業の目的です。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で、以下のことができるようになっていることが到達目標です。
<4年生>

1. 自分で選んだテーマの論文の検索を適切に行えること。選んだ論文に記載されている、具体的な実験・調査の方法や、論文の構成、データ分析法について正確に読解すること。
2. 複数の先行研究をレビュー（概観）し、批判的な読み方をする。
3. 1, 2をふまえて、独自性のある研究計画を立てること。
4. 発表の場で、効果的なプレゼンテーションを行うこと。

<3年生>

1. 自分で選んだテーマの論文の検索を適切に行えること。選んだ論文に記載されている、具体的な実験・調査の方法や、論文の構成、データ分析法について正確に読解すること。
2. 1をふまえて、先行研究の追試を基本とした研究計画を立て、実施し、適切な方法で分析できること。
3. 発表の場で、効果的なプレゼンテーションを行うこと。
4. 研究成果を論文形式でまとめること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

3年生と4年生が合同で授業をします。研究方法を身につけるため、先行研究を参考にしながら実験・調査を行うことが、この授業の具体的な作業目標となります。まず、自分が解明したいと考える日常生活における疑問等を、心理学の研究分野（記憶、認知、動機づけ、自己など）に関連づけて整理しましょう。その上で、自分の興味に近い先行研究がないか、探してみましょう（必ず見つかるはずです）。見つけてきた先行研究の背景となる議論の理解から始め、実験・調査の実際の方法、得られたデータを適切に分析する方法まで、一通りの過程を、先行研究を参考にしながら自分自身でたどってみましょう。4年生は複数の先行研究を概観するレビュー発表と、そのレビューによって明確になった問題意識を発展させた卒論中間発表の2回の発表機会があります。3年生は一つの先行研究を熟読し、改善点などの自分なりのオリジナルな視点を加え、実際に研究を行った成果発表を行った上で、発表によって明らかになった改善点を踏まえ、ミニ論文として論文形式で研究成果をまとめてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明、卒論とは何かについての概説、受講上の注意、発表順の決定
第2回	それぞれの研究課題	4年：レビューの仕方、3年：研究テーマの決定と先行研究の選定
第3回	レビュー発表1	4年：発表、3年：発表へのコメント、実験材料・調査用紙の作成
第4回	レビュー発表2	4年：発表、3年：発表へのコメント、実験・調査の準備および実施開始
第5回	レビュー発表3	4年：発表、3年：発表へのコメント、自分の研究の実施と平行して分析法の確認、結果の分析
第6回	研究実施	4年と3年：3年生の調査実施
第7回	中間まとめ	4年：これまでのレビュー発表総括、3年：研究中間報告
第8回	卒論中間報告1	4年：発表、3年：発表へのコメント、自分の発表用資料の構成
第9回	卒論中間報告2	4年：発表、3年：発表へのコメント、自分の発表用資料の作成
第10回	卒論中間報告3	4年：発表、3年：発表へのコメント、自分の発表練習
第11回	3年生研究発表1	4年：発表へのコメント、3年：発表
第12回	3年生研究発表2	4年：発表へのコメント、3年：発表、論文の構成について

第13回	ミニ論文仮提出	4年と3年：受講生同士によるミニ論文の相互評価
第14回	総括とミニ論文本提出	授業の振り返り、到達状況の確認、フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の研究および発表のために準備を行うことはもちろんですが、他の受講生の発表に対して、学習支援システムの掲示板で質問やアドバイスなどのコメントを書き込んでください。また、発表者は自分の発表に対して書き込まれたコメントに対して返信を行ってください。以上のことから、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

テキストはありませんが、レジュメおよびミニ論文の書き方や引用の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明しますので購入してください。「大学基礎講座」（藤田哲也（編）、北大路書房、2006年）。

【成績評価の方法と基準】

4年生：

平常点（40％）…授業へ出席し終了時に感想用紙を提出することと、授業内および学習支援システム上でのほかの受講生に対するコメントを評価の対象にします。

研究発表（60％）…自分で選択したテーマに沿ったレビュー発表と、自分自身の研究の中間計画を発表してもらいます。それぞれの発表において、発表の内容と発表のしかた、発表資料（レジュメ）の正確さとわかりやすさ、質疑応答の適切さが評価の対象です。

3年生：

平常点（40％）…授業へ出席し終了時に感想用紙を提出することと、授業内および学習支援システム上でのほかの受講生に対するコメントを評価の対象にします。

研究発表（30%）…研究内容に加え、レジュメの体裁、プレゼンの仕方、質疑応答がそれぞれ評価対象となります。

ミニ論文（30%）…研究内容と論文の体裁が評価対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

2024年度の授業改善アンケートから：「履修してよかった」の評価は4.64、「理解度」も4.71で、悪くはないのですが、まだ改善の余地は感じる結果でした。授業外学習時間は「週3時間以上」が最頻値で50%でしたが、「週30分-1時間」の人もいて、個人の取り組み方にバラツキがあったという印象です。受講生数が多いため、発表のペースも早めでしたので、他者の発表に対する理解度についても個人差があったのかなと思います。自由記述では概ね「大変だったがやりがいがあった」と書いてくれています。3年生、4年生それぞれに秋学期の目標も改めて提示してあります。各自、授業で課せられた課題だけでなく、自主的に自分の研究を進めるための課題を見つけて進めてください。

【その他の重要事項】

研究法Ⅰ・Ⅱは、通年で同じ教員の授業を履修してください。その際、どの教員の研究法を履修するのは、原則として4年生は3年次に行った「卒業論文指導希望調査」、3年生は2年次に行った「研究法事前調査」の結果に従ってください。また、授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students will learn how to set up psychology research plans and how to write papers in a practical and systematic manner with the goal of approaching graduation theses.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

< 4th grade >

1.Students can properly search for articles on the theme of your choice. Accurately read the specific experimental /survey methods, paper structure, and data analysis methods described in the selected paper.

2.Students can review (overview) multiple previous studies and read them critically.

3.Students can make a unique research plan based on 1 and 2.

4.Students can make an effective presentation.

< 3rd grade >

1.Students can properly search for articles on the theme of your choice. Accurately read the specific experimental /survey methods, paper structure, and data analysis methods described in the selected paper.

2.Based on 1, students can formulate and implement a research plan based on the follow-up examination of previous research, and analyze it by an appropriate method.

3.Students can make an effective presentation.

4.Students can summarize research results in the form of a dissertation.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

< 4th grade >

In-class contribution 40%, research presentation 60%.

< 3rd grade >

In-class contribution 40%, research presentation 30%, mini-thesis 30%.

PSY300BG（心理学 / Psychology 300）

研究法Ⅰ（8）

越智 啓太

授業コード：A3650 | 曜日・時限：火5/Tue.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4（※2011以前入学者は4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

<授業概要>
これまで学んできた知識を総合して自ら心理学研究を行う！
本演習では、おもに社会と人間との関わり、人間と人間との関わり、さまざまな社会現象に関する現象を対象にして、心理学的に問題を分析していく。受講者は、自ら研究テーマを設定し、文献を調べ、実験や調査を行って、分析し、その結果を論文としてまとめるという具体的な作業を行っていく。また、その過程で、口頭発表やポスター発表を行ったり、質疑応答や討論などを行う（場合によっては学会発表や学会投稿論文の作成も行う）。扱うテーマは、「社会」の中の人間行動を対象とするものであれば、ひろく構わない。具体的には、説得的コミュニケーションや人間関係の進展、対人魅力、ノンバーバルコミュニケーション、うわさ、マーケティング、集団における意思決定やリーダーシップの問題、少年犯罪や犯罪捜査、DV（ドメスティックバイオレンス）や児童虐待の問題、テロの問題、少子化問題などである。

研究法Ⅰでは、まず、具体的なテーマをみつけ、それをもとに研究計画をたて、実験や調査を行う段階までを中心に作業を行う。研究法Ⅱでは、実験や調査の研究結果を統計的に分析し、そこから結論を導き、それを具体的に論文化したり、口頭で発表するという作業を行っていく。これらの作業は連続するものなので、研究法ⅠとⅡは同一教員の授業を取ることが必要である。また、原則として事前調査での希望通りに履修を行うこと。

<学習目標>

- ①自分の興味に従って研究テーマを具体化する
- ②研究テーマに関連する先行研究を読み理解する
- ③実験・調査計画を立て、それを実施する
- ④調査・実験結果を分析する
- ⑤分析結果から論理的に考察を行う
- ⑥結果を論文にする
- ⑦場合によっては学会発表を行ったり、その予行を行う
- また、人間としての成長を目指して
- ⑧各自の経験や知識の共有（発表）、ディスカッション、発表練習、そのテクニック練習なども行う。

【到達目標】

自分で心理学の研究を出来るようになる。具体的には以下の点である。
研究のテーマ選択
先行文献の検索と整理
実験計画の作成
実験結果の分析
レポート・論文の作成
オーラル（口頭）での発表
口頭試問（や就職面接試験等）ですばやく適切な説明が出来るようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、各自の研究報告とディスカッションを行うほか、研究室やスタディールームにおいて時間をとっての個別指導を行う。また、1～2回程度土曜日か日曜日に長時間の補講を行う。
コメントや意見、レポートに対してのフィードバックについては、講評および補足解説を行う。方法については、授業時間、授業後に個別、授業後にウェブを通してのいずれかの方法で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、研究ポリシー、研究倫理などについて詳しく説明する
第2回	研究発表1、文献収集指導1	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。文献収集についての個別指導
第3回	研究発表2、文献収集指導2	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。文献収集についての個別指導
第4回	研究発表3、文献収集指導3	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。文献収集についての個別指導

第5回	研究発表4、実験調査指導1	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。
第6回	研究発表5、実験調査指導2	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。
第7回	研究発表6、実験調査指導3	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。
第8回	研究中間発表会	自分の研究の現状について15分でプレゼンテーションする。
第9回	研究発表7、実験調査指導4	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。
第10回	研究発表8、実験調査指導4	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。
第11回	研究発表9、実験調査指導5	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。
第12回	研究発表10、実験調査指導6	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。
第13回	研究発表11、実験調査指導7	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。
第14回	研究発表12、実験調査指導8	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回必ず、自分の研究の進行状況について説明してもらいますので、説明用資料を作成してくること。

その前提として、毎週必ず、自分の研究を少しずつでも進展させること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準としますが、実際にはそれ以上の時間が必要ですよ。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

共通の参考書は指定しない。各自のテーマに従って個別に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

<成績評価の方法と基準>

授業時のディスカッションへの参加50%、レポート50%

【学生の意見等からの気づき】

例年、高く評価されています。本年度もさらに興味深くスキルの身につく演習になるようにがんばります。とくにプレゼンテーションの指導に力を入れます。

【その他の重要事項】

<楽しい授業にしたいと思います。そのため、各自が積極的に発言するなどの参加をお願いします。>

この授業は出席することが重要である。出席が規定日数に達しない場合には、就職が決まっても単位を与えないので注意すること。欠席が多い場合には、メールによって2回だけ警告を行う。就職試験などでやむを得ず、欠席する場合には、必ず事前に届けること。この場合には、授業のかわりに、上限4回まで個別指導を出席とすることもあるが例外的な措置であるのでそのつもりで。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, empirical experimental research on psychology and presentation training will be conducted. In particular, it focuses on research on social psychology and criminal psychology.

【Learning Objectives】

You will be able to study psychology yourself. Specifically, the following points.

Research theme selection

Searching and organizing prior literature

Design of experiments

Analysis of experimental results

Creating reports and dissertations

Oral and poster presentation

【Learning activities outside of classroom】

Each lesson requires 2 hours of preparation and 2 hours of review.

【Grading Criteria /Policy】

Participation in classes of 3/5 or higher is a prerequisite for grade evaluation.

Class participation is used only to determine attendance criteria.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Report (50%) + class contribution (50%)

PSY300BG（心理学 / Psychology 300）

研究法Ⅱ（１）

木村 健太

授業コード：A3651 | 曜日・時限：水2/Wed.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4（※2011以前入学者は4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自身の関心にもとづいて心理学の研究テーマを設定し、適切な研究を実践することで卒業論文としてまとめます。心理学研究の実践を通して、実証的な研究活動を行うための基礎的なスキルを身につけます。
4年生は、研究計画にもとづき研究を実施し、研究成果を論文としてまとめるとともに口頭で発表します。
3年生は、論文を中心とした情報収集を通して、自身の興味のある研究テーマを決定します。

【到達目標】

・自身の心理学的な関心をもとに、先行研究の調査などを通して実証科学的な研究課題として設定できる。
・研究課題に対して、倫理的かつ適切な研究計画の立案ができる。
・立案した研究計画にもとづき研究を実施できる。
・収集したデータを図表にまとめ、適切な統計的手法を用いて分析・解釈できる。
・研究成果を口頭発表および論文として効果的に発信できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

・3年生と4年生の合同授業になります。受講生による自分の研究の発表とそれにもとづく議論が中心となります。
・発表準備を通して自分の研究の進め方を整理するとともに、発表の際のコメントや意見を参考にしながら、客観的に自分の研究を進める姿勢を獲得してください。
・他の受講生の発表を注意深く聞き、他者の研究の論理的な展開やデータの分析方法、解釈について、積極的にコメントや質問をしてください。
・授業中に出される課題への回答や授業に関する疑問・感想を記載したリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業でリアクションペーパーへのフィードバックを含めた授業を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	夏季休暇中の進捗報告、授業の進め方と年間計画の確認
第2回	研究発表（１）	【4年生】データの取得、卒論の方法部分の執筆 【3年生】研究テーマ選定のための情報収集
第3回	研究発表（２）	【4年生】データの取得、卒論の方法部分の執筆 【3年生】研究テーマ選定のための情報収集
第4回	研究発表（３）	【4年生】データの分析、卒論の分析部分の執筆 【3年生】研究テーマ選定のための情報収集
第5回	卒論中間報告（１）	【4年生】卒論の結果を発表 【3年生】自身の研究テーマ決定に向けた報告と議論
第6回	卒論中間報告（２）	【4年生】卒論の結果を発表 【3年生】自身の研究テーマ決定に向けた報告と議論
第7回	研究テーマ選定（１）	【4年生】卒論の結果部分の執筆 【3年生】自身の研究テーマ決定に向けた報告と議論
第8回	研究テーマ選定（２）	【4年生】卒論の考察部分の執筆 【3年生】自身の研究テーマ決定に向けた報告と議論
第9回	3年生研究テーマ発表（１）	【4年生】卒論の考察部分の執筆 【3年生】自身の研究テーマの決定、発表
第10回	3年生研究テーマ発表（２）	【4年生】卒論の通読、体裁の確認 【3年生】自身の研究テーマの決定、発表

第11回	研究発表（４）	【4年生】卒論の初稿提出 【3年生】自身の研究テーマに深く関わる論文の精読
第12回	研究発表（５）	【4年生】卒論の推敲 【3年生】自身の研究テーマに深く関わる論文の精読
第13回	研究発表（６）	【4年生】卒論の推敲 【3年生】自身の研究テーマに深く関わる論文の精読
第14回	まとめ	【4年生】卒論の発表準備 【3年生】春期休暇中の作業の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
・授業時間内は、発表にもとづく議論や解説を中心に行うため、論文などの情報収集、実験準備、資料作成などの作業は授業時間外に行います。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

適宜必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（40％）と発表（60％）で評価します。
・他者とのディスカッションは研究を進める上でとても有益です。このため、授業内での他者の発表への積極的な関与を平常点として重視します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

・授業の進め方や授業計画、授業目標の説明をしますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。
・オフィスアワー：春・秋学期ともに木曜日3限（BT1109研究室）。訪問希望者は、メール（k.kimura[at]hosei.ac.jp）等で前日までに連絡してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We will study psychology research methods (raising questions, setting purpose/hypothesis, method, statistical analysis, display of results, way of thinking, etc.).

【Learning Objectives】

The goals of this course are to set research themes at an early stage through free and lively discussions between the teacher and students and to like them to the writing of dissertations.

【Learning activities outside of classroom】

It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.

【Grading Criteria /Policy】

The final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (40%) and presentations (60%).

PSY300BG（心理学 / Psychology 300）		
研究法Ⅱ（２）		
竹島 康博		
授業コード：A3652 曜日・時限：火5/Tue.5		
秋学期授業/Fall・2単位 配当年次：3・4（※2011以前入学者は4）年		
その他属性：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 人間の感情情報処理に関する実証的研究を、自身の力で設計・実施・考察するために必要な心理学的知識とスキルを学びます。		
【到達目標】 3年次生は、自身の関心ある研究テーマについて実証的な研究の計画を作り上げ、目標とします。4年次生は、自身が計画した実証的研究を実施、取得したデータを整理、分析、解釈して報告するための一連の能力を身につけることを目標とします。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連		
【授業の進め方と方法】 3年次生と4年次生の合同で授業を行います。3年次生は研究計画を策定するために文献の検索と講読、論文の内容をまとめることを行います。4年次生は、実施した研究について論文化および発表するための作業を段階的に行います。各自の進捗や実習状況については、授業内で適宜フィードバックしていきます。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方の説明 夏季休暇中の進捗の報告
第2回	研究テーマの検討(1) データの整理・論文の執筆(1)	3年：各自が読んできた論文の報告と議論 4年：データの取得を進めながら分析に適した形式に整理、方法を中心に執筆
第3回	研究テーマの検討(2) データの整理・論文の執筆(2)	3年：各自が読んできた論文の報告と議論 4年：データの取得を進めながら分析に適した形式に整理、方法を中心に執筆（データ取得の期限）
第4回	研究テーマの検討(3) データの解析・グラフを作成(1)	3年：各自が読んできた論文の報告と議論 4年：予定していたデータの分析を実施、結果のグラフを作成
第5回	研究テーマの検討(4) データの解析・グラフを作成(2)	3年：各自が読んできた論文の報告と議論 4年：当初の予定していなかった副次的な分析を実施、結果のグラフを作成（データ解析の期限）
第6回	研究テーマの検討(5) 結果の共有と考察(1)	3年：研究テーマに関連した論文を読んで報告 4年：互いに結果を報告して解釈し合う
第7回	研究テーマの検討(6) 結果の共有と考察(2)	3年：研究テーマに関連した論文を読んで報告 4年：互いに結果を報告して解釈し合う
第8回	研究テーマの検討(7) 論文の執筆(1)	3年：研究テーマに関連した論文を読んで報告 4年：結果を中心に執筆
第9回	研究テーマの検討(8) 論文の執筆(2)	3年：研究テーマに関連した論文を読んで報告 4年：グループ活動を活かして考察を執筆
第10回	研究テーマの検討(9) 論文の執筆(3)	3年：研究テーマに関連した論文を読んで報告（研究テーマを決定） 4年：全体を通して卒論の体裁を確認
第11回	ベース論文の検討(1) 論文の執筆(4)	3年：自身の研究のベースとなる論文を検討 4年：卒論を書き上げて仮提出
第12回	ベース論文の検討(2) 執筆内容のブラッシュアップ(1)	3年：自身の研究のベースとなる論文を検討 4年：論理が一貫していない部分や体裁が守られていない部分を修正
第13回	ベース論文の検討(3) 執筆内容のブラッシュアップ(2)	3年：自身の研究のベースとなる論文を検討（ベースとなる論文を決定） 4年：論理が一貫していない部分や体裁が守られていない部分を修正 発表スライドを作成する時の注意点を確認
第14回	発表資料の作成方法	
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。 文献の読み込み、発表資料の作成など、実際の作業は授業時間外に行います。授業時間内では、行った作業の成果の発表と議論を行います。また、授業内での議論を基に各学生が行う作業内容を決定し、毎回の達成目標を設定します。4年次生はスプレッドシートに毎週の作業内容を入力し、授業時にどの程度達成できたかを報告します。3年次生は毎週論文を1本読み、授業時に5分で発表できるようにスプレッドシートに内容をまとめます。		
【テキスト（教科書）】 教科書は使用しません。		
【参考書】 各人の研究テーマに応じて、適宜参考となる文献を授業内で紹介します。		
【成績評価の方法と基準】 4年次生：定められた期限までの進捗評価60%、卒論仮提出の内容の評価40% 3年次生：定められた期限までの進捗評価60%、講読論文のまとめ方の評価40%		
【学生の意見等からの気づき】 1コマの中で4年次生と3年生の両方を十分に指導するのは物理的に時間が足りなかったです。今年度はオフィスアワーを授業の前に移すので、特に4年次生はこちらも活用してほしいです。3年次生には先行研究のまとめをもっと体系的にできるように、スプレッドシートの構成の工夫を考えてみます。		
【学生が準備すべき機器他】 必要に応じて自分のPCを持参してください。		
【その他の重要事項】 この科目は3年次生と4年次生の合同授業です。重複履修を原則としていますので、3年次と4年次に同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。初回に授業の進め方の説明をしますので、必ず出席してください。 4年次生はオフィスアワーやDiscordを利用して指導教員に授業時間外でも相談しながら進めてください。3年次生は論文を読んで必ず5分で発表できるようにまとめてください。 授業で募集する知覚心理学・認知心理学に関わる実験や調査などへの参加による学習についても評価に加味する場合があります。		
【Outline (in English)】 [Course outline] The aim of this course is to acquire the necessary skills and knowledge to take on a psychological research having an interest. [Learning objectives] The goals of this course are to conduct of basic research in the field of psychology of perception and cognition. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. [Grading Criteria /Policy] Grading will be decided based on work progress (60%) and research output (40%).		

PSY300BG（心理学 / Psychology 300）

研究法Ⅱ（3）

渡辺 弥生

授業コード：A3653 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4（※2011以前入学者は4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業研究をめざした専門演習の最終ステップ。研究法Ⅰで完成させたプランを実行にうつす。問題と目的のもとにどのような方法を実行するかを決定していく。対象者、調査・観察・実験などの確定。実施する時期やデータの収集方法や手続きについて計画を練り、結果の分析方法および考察の進め方などについても学ぶ。研究の遂行とともに推敲ともに各自論文の作成を実行する。

【到達目標】

心理学研究の論文の書き方について習得し集大成できる力を獲得したい。同時に、プレゼンテーションなどについてのスキルや研究協力者を得たり、フィードバックできるソーシャルスキルをマスターする。論文を書くということが、課題をクリエイティブに考えだし、効果的な方法で探求し、結果を適切に分析し、なぜそのような結果が得られたのか深く考察するといったプロセスであると体得してほしい。総合力を身に付け、結果的にキャリア形成に必要なスキルを学ぶことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

一人一人の予習・復習がベースになり、授業では集団の良さを生かした演習方式をとる。他人の考えを聞き、自分の考えを述べるができるようにしたい。ペアワーク、グループワークなどをもとに、課題解決をしていく。互いに意見や質問を発言できるには他の人の伝えたいことに耳を傾けることだと思ふので、このようなことが実感できるようアクティヴラーニングを基本とする。課題のフィードバックは、学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究計画のまとめ	全体の確認 問題と目的のライティング
第2回	方法論について	方法の確認：方法をライティング
第3回	材料および手続きの決定	ライティング
第4回	分析方法の想定	問題と目的で書いた仮説を検討するためにどのような方法が望ましいか決定。
第5回	分析方法について1	分析を始める。データセットを確認してメインの分析をする。その結果を図表にしライティングする。
第6回	分析方法について2	前の授業の継続
第7回	結果1	結果についてライティングする。
第8回	結果2	前の時間の継続
第9回	考察	結果を考察し、ライティングする。 引用文献を入れて考察する。
第10回	研究発表1 4年生発表	プレゼンテーション
第11回	研究発表2 4年生発表	プレゼンテーション
第12回	研究発表3 3年生発表	プレゼンテーション
第13回	研究発表4 3年生発表	プレゼンテーション
第14回	シェアリング 予備	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、各時間に消化できなかったことを補います。個人差が生じると予想されるが、遅れている人は時間外に補うようにします。個人、ペア、グループなどを効果的に用いて、応用力を伸ばせるようにします。予習復習に各2時間をかけることとする。

【テキスト（教科書）】

適宜授業時に伝える。

【参考書】

研究Ⅰで紹介。論文を書くためのテキストで読みやすい本を一読しえおく。

【成績評価の方法と基準】

質問や意見をいうなど参加態度を含む平常点（50％）とプレゼンテーション（50％）

【学生の意見等からの気づき】

個人の進行の差があるが、個人及び全体の観点からも充実した内容にしたい。また、議論が積極的に行えるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVDなど。

【その他の重要事項】

上記の進行は多少状況によって変化します。授業外のゼミ活動、研究協力者へのフィードバックを重視します。

【発達心理学】

https://sites.google.com/site/emywata/Home

【Outline (in English)】

This subject is specifically designed to support graduation researches. From experiences obtained from training in the second year and third year, students are required to plan and propose their research plans. In this training, students will have to conduct studies regarding original methods and theories which are then used to solve the identified problems. In addition, this training will also provide the necessary writing skills for students to correctly organize, discuss, and write the outcomes of the study which they conducted.

The goal of this course is not only to write papers, but also to develop social skills, including logical thinking, creativity, the ability to gather information, and the ability to carry out plans, as skills that can be utilized in society.

・The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

・Grading will be decided based on Ordinary points (50%) and presentation (50%), including attitude toward participation such as asking questions and expressing opinions.

PSY300BG（心理学 / Psychology 300）

研究法Ⅱ（４）

福田 由紀

授業コード：A3654 | 曜日・時限：水2/Wed.2
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4（※2011以前入学者は4）年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、演習Ⅰ、演習Ⅱと研究法Ⅰで習得したことをふまえて、実際に実験・調査したことを学術論文の形にまとめて、効果的に発表することが目標です。自分の興味にあったテーマの研究を公開できる形にまとめていきましょう。

【到達目標】

※3年生:自分の関心ある研究テーマに対し、心理学研究の計画を作り上げる。これにより、自分自身で問題を発見し、それを解決できるようになる。そして、4年生の発表に対して積極的に聴くことにより、分析技能や考察する力が身につく。

※4年生:春学期で蓄えた知見や技能を用いて、適切な分析や考察を行い、発表する。これにより、高い分析技能や論理的に考察する力が身につく。また、ピアに発表することにより、自分の状態を客観的に評価するスキルも身につく。※共通の目標:論文としての確かな文章を書ける。また、授業中、みんなの前で発表したり、それに対してクリティカルな意見を発言したり、他者が書いてきた文書をピアレビューしたりする。その結果、他者の仕事（発表・文書）に対して、建設的なアドバイスができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

3年生と4年生による協同学習を目指した合同授業です。3年生は卒論を見据えた研究について発表を行います。4年生は個人の研究を個別に発表したり、それぞれが書いた文書を推敲したりする方式が中心となります。その際、他の人の発表や抱えている問題点を自分自身の問題として受けとめる姿勢を持って下さい。具体的には、発表者が抱えている問題のうち自分にも当てはまることかないだろうかという態度で注意深く聞き、分からないことの質問や発表者の発表内容に対するコメントを積極的に行ってください。特に、発表の仕方、論文の書き方などは全員に共通する課題なので、お互いの発表・発言を生かしてよりよいものを作り上げる努力をしてください。

また、Hoppiiを通じて、授業の前に提出した事前課題に関しては、授業中に、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション・文章力1アップ	授業の進め方とアジェンダの確認。各自の進捗状況の報告。
第2回	研究力1・文章力2アップ	方法のピアレビュー。文章力アップ7のピアレビュー。
第3回	発表スキル1アップ	3年生：4年生へアドバイス。4年生：結果・考察の発表1。
第4回	発表スキル2アップ	3年生：4年生へアドバイス。4年生：結果・考察の発表2。
第5回	研究力2・発表スキル3アップ	3年生：関連論文の発表1。4年生：3年生へのアドバイス。
第6回	研究力3・発表スキル4アップ	Touch & Go! 3年生：関連論文の発表1。4年生：3年生へのアドバイス。共通：文章力アップ8のピアレビュー
第7回	研究力4・発表スキル5アップ	3年生：プレ論文の結果・考察の発表1。4年生：3年生へのアドバイス。
第8回	研究力5・発表スキル6・文章力3アップ	Touch & Go! 3年生：プレ論文の結果・考察の発表2。4年生：3年生へのアドバイス。共通：結果のピアレビュー。
第9回	研究力6・文章力4アップ	修正された結果と考察のピアレビュー。
第10回	研究力7・文章力5アップ	Touch & Go! 引用文献・図表・要旨のピアレビュー。
第11回	文章力6・発表スキル7アップ	共通：論文の仮提出。文章力アップ9のピアレビュー。効果的な発表のコツの講習会

第12回	発表スキルアップ8	3年生：卒論構想発表1 4年生：発表予行練習1
第13回	発表スキルアップ9	3年生：卒論構想発表2 4年生：発表予行練習2
第14回	発表スキルアップ10とまとめ	3年生：卒論構想発表3 共通：Touch & Go! 授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、発表や作業があります。授業計画に沿って、事前の課題を行い、自分の発表の準備と他人の発表資料を予習し、コメントを考えてくる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

適宜、授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

自分が発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対してコメントすることも重視します。評価は発表40％とコメント20％、事前の課題提出40％によって決められます。発表は、わかりやすく的確に説明することが求められます。また、コメントは発表者に資するような建設的な意見を述べるのが求められます。演習なので必ず出席してください。特に、自分の発表時に絶対に！欠席しないこと。どうしても欠席する場合には、事前に福田に連絡して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

「大変工夫していた/工夫していた」100％。よかったです。「週1時間以上2時間未満」が5割。時間がすべてではありませんが、この授業はやればやるほど学習効果がありますよ。皆さんのプレ卒論・卒論がとても楽しみです。ただ、今回は回答率が低かったです。授業中の時間を割いてアンケートに回答してもらう方法に修正する予定です。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。実験・調査の内容は福田の守備範囲である言語心理学や教育心理学関係だとより詳細な指導が受けられると思います。また、この科目は本年度より3年次生と4年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていますので、3年次と4年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。

【教員の実務経験】

・小学校国語科教科書編集委員（教育出版）1996年4月1日－2015年3月31日
 ・中央教育審議会初等中等教育分科会言語能力の向上に関する特別チーム
 2014年10月21日－2017年2月14日
 ・文化審議会臨時委員（国語分科会）2016年3月20日－2023年3月31日

【Outline (in English)】

Course outline : The purpose of this course is to learn how to summarize psychological research.

Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to do the following:

- － A. make a paper of one's research
- － B. present it effectively

Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.

Grading Criteria : Your overall grade in the class will be determined based on the following: presentation: 40%, comment for the presentation of other people:20%, in-class contribution: 40%.

PSY300BG（心理学 / Psychology 300）

研究法Ⅱ（5）

田嶋 圭一

授業コード：A3655 | 曜日・時限：水2/Wed.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4（※2011以前入学者は4）年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで学んできた心理学の知識を活かし、高水準の心理学研究を行うために必要なノウハウを習得し、みずから設定したテーマに沿って研究を行い、成果としてまとめていくことがテーマです。秋学期は計画に沿って研究を実施し、研究成果を口頭発表および論文としてまとめます。

【到達目標】

- 1. 心理学的に意義があり倫理的に適切な研究計画を立案できること。
- 2. 自分が立案した研究計画に沿って研究を的確に遂行できること。
- 3. 収集したデータを図表にまとめ、適切な統計的手法を用いて分析・解釈できること。
- 4. 研究成果を口頭発表および論文として効果的に発信できること。4年生は卒業論文を、3年生はミニ論文を完成させることを最終的な到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回同等かの課題を課します。次回までに課題に取り組み、授業にて発表・ディスカッション・相互フィードバックを行います。毎回休まずに出席する心積もりでいてください。自分自身の研究にだけ取り組むのではなく、他者の取り組みにも関心を寄せ、建設的なコメントを積極的に行うスキルを磨くことも重視します。したがって、個人発表だけでなくグループディスカッションや掲示板を利用した学生相互のピアレビュー、授業内および掲示板での教員からのフィードバックなど取り入れながら授業を進める予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	シラバスの説明、研究計画の確認、発表順の決定
第2回	研究の準備	実験・調査の準備、倫理審査
第3回	研究の実施、論文執筆：目的、方法（1）	研究の実施、研究目的から方法までの書き方
第4回	研究の実施、論文執筆：目的、方法（2）	研究の実施、進捗状況報告
第5回	3年生中間発表（1）、研究の実施	【3年生】中間発表、論文前半提出。【全員】ピアレビュー。
第6回	3年生中間発表（2）、データの整理・加工	【3年生】中間発表、論文前半提出。【全員】ピアレビュー。
第7回	4年生中間発表（1）、記述統計量の計算	【4年生】中間発表、論文前半提出。【全員】ピアレビュー。
第8回	4年生中間発表（2）、推測統計の実施	【4年生】中間発表、論文前半提出。【全員】ピアレビュー。
第9回	結果の解釈、論文執筆：結果、考察	効果的な図表の作成、結果（事実）と考察（解釈）の書き方
第10回	論文執筆：導入から引用文献まで	問題と目的、引用文献などの書き方、論文全体の執筆・推敲
第11回	3年生成果発表（1）	【3年生】成果発表。【4年生】論文仮提出。【全員】ピアレビュー。
第12回	3年生成果発表（2）	【3年生】成果発表。【全員】ピアレビュー。
第13回	4年生成果発表（1）	【4年生】成果発表。【3年生】ミニ論文提出。【全員】ピアレビュー。
第14回	4年生成果発表（2）、総括	【4年生】成果発表。【全員】ピアレビュー。授業のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究の流れ（テーマの設定、論文の講読、問題提起、実験・調査の計画など）に沿って、ほぼ毎回何らかの達成目標を設定し、次の回までに研究を進展させます。進捗状況を報告するための資料を事前に準備し、授業にて適宜配布してください。ゼミ活動は授業時間だけでは時間が足りません。詳しいアドバイスなどが必要な場合はアポを取るかオフィスアワーなどを活用してください。学生間のコミュニケーションや共同学習を促すため、ピアレビュー（仲間同士が相互に建設的・批判的なコメントを出し合う活動）を取り入れます。また、研究の「お作法」に関する文献を読んだり練習問題を解いたりしてもらう予定です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。参考書などは適宜授業で紹介します。

【参考書】

南風原 朝和・市川 伸一・下山 晴彦（編）（2001）.『心理学研究法入門 一調査・実験から実践まで一』東京大学出版会。
高野 陽太郎・岡 隆（編）（2004）.『心理学研究法 一心を見つめる科学のまなざし一』有斐閣アルマ。
松井 豊（2006）.『心理学論文の書き方 一卒業論文や修士論文を書くために一』河出書房新社。

【成績評価の方法と基準】

平常点・課題40%、発表60%の割合で評価します。原則として、正当な理由なく4回を超えて授業を欠席した場合は無断で発表を怠った場合は、単位が授与されないものとします。欠席する場合は必ず事前に理由を添えて教員に連絡してください。

【学生の意見等からの気づき】

回答者9名のうち、8名が「工夫されていた」、全員が「理解できた」「履修してよかった」と回答してくれました。授業外学習時間は個人間のばらつきがやや大きく、「週3時間以上」が5名、「週2〜3時間」が2名、「週1〜2時間」が2名でした。授業計画を初回に提示してそれに沿って授業を進めたこと、毎回全員による進捗報告があったこと、ピアレビューを通して相互にフィードバックをやり取りできたこと、Slackで細かなコメントがもらえたこと、文章力やデータ分析力のトレーニングを通してスキルアップが図れたことなどが好評でした。一方で、効果的なスライドの作り方に関する説明や例がもっとほしい、データ分析トレーニングは分散分析の他にも回帰分析などもやってほしい、といった具体的な要望もいただきましたので、取り入れる方向で検討したいと思います。

【その他の重要事項】

この科目は3年次生と4年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていますので、3年次と4年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。なお、授業計画や運営方針の説明などをしますので、受講者は初回授業に必ず出席してください。やむを得ず初回授業を欠席する場合は必ず事前に担当教員にメールで連絡してください。アドレスは、tajima[at]hosei.ac.jpです（[at]を@マークで置き換えてください）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course will help students acquire the knowledge and skills necessary to plan and carry out psychological research, and effectively present their accomplishments. The fall semester focuses on carrying out the research according to the research plan and effectively presenting the research findings.

【Learning objectives】

Through this course, students should become able to:

- 1. Construct a detailed, meaningful, and ethically acceptable research plan.
- 2. Conduct the research according to the research plan.
- 3. Process and analyze data using appropriate visualization and statistical techniques.
- 4. Present research findings effectively through oral presentations and academic papers/theses.

【Learning activities outside of classroom】

Students will set appropriate goals and strive to achieve those goals by the next class meeting. Presentation materials should be prepared as needed. Students are also expected to provide feedback to other students' work through peer-review activities. For each class, students will be expected to spend at least 4 hours outside of class to make progress in their research.

【Grading criteria/policy】

Your overall grade will be determined based on class participation and homework (40%) and presentations (60%). As a rule, if you are absent for more than 4 classes or fail to present in class without a legitimate reason, course credit will not be granted.

PSY300BG (心理学 / Psychology 300)

研究法Ⅱ (6)

藤田 哲也

授業コード：A3656 | 曜日・時限：水2/Wed.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4 (※2011以前入学者は4) 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

卒業論文を視野に入れ、心理学の研究の実施方法を実践的に学ぶことが授業の目的です。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で、以下のことができるようになっていることが到達目標です。
<4年生>

1. 先行研究を踏まえ、妥当性の高い方法で実験や調査を行えるようになること。
2. 得たデータに適した正しい分析を行えること。
3. 客観的かつ正確な文章および的確な図表によって研究成果を表現できるようになること。
4. 研究成果について、わかりやすく魅力的なプレゼンテーションを行えること。

<3年生>

1. 自分で選んだテーマの論文の検索を適切に行えること。選んだ論文に記載されている、具体的な実験・調査の方法や、論文の構成、データ分析法について正確に読解すること。
2. 複数の先行研究をレビュー (概観) し、批判的な読み方をする。
3. 発表の場で、効果的なプレゼンテーションを行うこと。
4. 他者の発表に対して的確なコメントを行い、他者の書いた論文に対し有益な改善アドバイスをすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

3年生と4年生が合同で授業をします。4年生は、実際に研究を行うことでデータを収集し、分析をしながら、適切な解釈ができるように発表および討論を2回行います。研究法の時間は、実験や調査、分析を行うための時間ではなく、それらについての議論を行う時間だと理解してください。3年生は、次年度に行う研究に向けて、a. 論文紹介+批判的コメントの発表、b. 自分が選択したテーマに関するレビュー論文の紹介+自分の問題意識の発表を行います。全員、ほかの受講生の発表内容に対して、適切にコメントをしてください。また、首尾一貫した論文を書くためのポイントについてアドバイスします。研究論文は、作文やレポートとは質・量ともに別物です。第三者に的確に情報を伝えるために、十分に推敲するためのポイントを把握してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期のスケジュール	全員：シラバス記載事項の確認と補足説明、授業内容と目標の明確化
第2回	卒論中間発表1	4年：発表と研究準備、3年：発表へのコメントと先行研究の選定
第3回	卒論中間発表2	4年：発表と研究準備、3年：発表へのコメントと選定した論文の読解
第4回	3年生論文発表1	4年：発表へのコメントと研究実施、3年：発表と発表へのコメント
第5回	3年生論文発表2	4年：発表へのコメントと結果分析、3年：発表と発表へのコメント
第6回	卒論最終発表1	4年：発表と結果の分析、3年：発表へのコメントとレビュー論文の読解
第7回	卒論最終発表2	4年：発表と結果の考察、3年：発表へのコメントとレビュー論文の読解
第8回	卒論最終発表3	4年：発表と卒論の執筆、3年：発表へのコメントと自分の発表準備
第9回	3年生レビュー論文発表1	4年：発表へのコメントと卒論執筆、3年：発表と発表へのコメント
第10回	3年生レビュー論文発表2	4年：発表へのコメントと卒論推敲、3年：発表と発表へのコメント
第11回	卒論学生相互コメント	4年：卒論の推敲、3年：卒論に対するコメント
第12回	卒論仮提出	4年：卒論の改稿、3年：卒論に対するコメント
第13回	卒論要旨集原稿確認	4年：要旨集原稿の修正、3年：要旨集原稿へのコメント

第14回 総括と卒論発表会準備 全員：授業の振り返り、到達状況の確認、4年：プレゼンテーションの準備

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

自分の研究および発表のために準備を行うことはもちろんですが、他の受講生の発表に対して、学習支援システムの掲示板上で質問やアドバイスなどのコメントを書き込んでください。また、発表者は自分の発表に対して書き込まれたコメントに対して返信を行ってください。以上のことから、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

指定しません。

【参考書】

テキストはありませんが、レジュメおよび卒業論文の書き方や引用の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明しますので購入してください。「大学基礎講座」(藤田哲也(編), 北大路書房, 2006年)。

【成績評価の方法と基準】

4年生：

平常点 (40%)：授業へ出席し終了後に掲示板に書き込みを行うこと、授業内および学習支援システム上での他の受講生に対するコメントが評価対象)

卒論計画発表 (20%)：発表内容10%、レジュメ5%、発表の仕方・質疑応答5%)

卒論最終発表 (40%)：発表内容20%、レジュメ15%、発表の仕方・質疑応答5%)

各発表時におけるコメント (回数に応じてボーナスポイント扱い)

3年生：

平常点 (40%)：授業へ出席し終了後に掲示板に書き込みを行うことと、授業内および学習支援システム上での他の受講生に対するコメントが評価対象)

論文発表 (20%)：発表内容10%、レジュメ5%、発表の仕方・質疑応答5%)

レビュー論文発表 (40%)：発表内容20%、レジュメ15%、発表の仕方・質疑応答5%)

各発表時におけるコメント (回数に応じてボーナスポイント扱い)

【学生の意見等からの気づき】

2024年度の授業改善アンケートから：授業内に回答時間を確保できなかったせいか、若干回答率が低いことがまず改善点です。気をつけます。さて回答してくれた9名においては、「この授業を履修してよかった」では9名が5、1名が4の回答でした。大きな改善の必要性はないと受け止めました。「授業外学習時間」は5人が3時間超、2人が2時間以上と、十分に取り組んでいる人が多い一方で、2時間未満も2名いました。「理解度」は8名が5で、1名が4でしたので、自分の取り組んだ課題に対する理解度はまずまずだったと受け止めました。各学年とも、自分の発表だけでなく、同級生および他学年の受講生の発表にも積極的にコメントし、授業に参加した成果でしょう。同じ時間、教室にいても、アンテナを張っている状態かどうかで得るものが大きく異なると思います。どんな場面でも、能動的に活動性を高めて参加することを忘れずに。

【その他の重要事項】

研究法Ⅰ・Ⅱは、通年で同じ教員の授業を履修してください。その際、どの教員の研究法を履修するのかは、原則として4年生は3年次に行った「卒業論文指導希望調査」、3年生は2年次に行った「研究法事前調査」の結果に従ってください。また、授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this class, students practically learn how to prepare psychology research plans, analysis methods, how to write papers, etc. with the goal of approaching graduation thesis.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the following:

< 4th grade >

1.Students can conduct experiments and surveys using highly relevant methods based on previous research.

2.Students can perform correct analysis suitable for the obtained data.

3.Students can express research results with objective and accurate sentences and accurate charts.

4.Students can give an easy-to-understand and attractive presentation about research results.

< 3rd grade >

1.Students can properly search for articles on the theme of your choice. Accurately read the specific experimental /survey methods, paper structure, and data analysis methods described in the selected paper.

2.Students can review (overview) multiple previous studies and read them critically.

3.Students can make an effective presentation.

4.Students can make accurate comments on other student's presentations and give useful improvement advice to papers written by others.

[Learning activities outside of classroom]

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

The overall grade of the class is determined based on the following.

< 4th grade >

In-class contribution 40%, graduation thesis plan presentation 20%, graduation thesis final presentation 40%.

< 3rd grade >

In-class contribution 40%, presentations on papers 20%, presentations on review papers 40%.

PSY300BG（心理学 / Psychology 300）

研究法Ⅱ（8）

越智 啓太

授業コード：A3658 | 曜日・時限：火5/Tue.5
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4（※2011以前入学者は4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

<テーマ>

心理学研究を形にしていこう！

本演習では、おもに社会と人間との関わり、人間と人間との関わり、さまざまな社会現象に関する現象を対象にして、心理学的に問題を分析していく。受講者は、自ら研究テーマを設定し、文献を調べ、実験や調査を行って、分析し、その結果を論文としてまとめるという具体的な作業を行っていく。また、その過程で、口頭発表やポスター発表を行ったり、質疑応答や討論などを行う（場合によっては学会発表や学会投稿論文の作成も行う）。扱うテーマは、「社会」の中の人間行動を対象とするものであれば、ひろく構わない。具体的には、説得的コミュニケーションや人間関係の進展、対人魅力、ノンバーバルコミュニケーション、うわさ、マーケティング、集団における意思決定やリーダーシップの問題、少年犯罪や犯罪捜査、DV（ドメスティックバイオレンス）や児童虐待の問題、テロの問題、少子化問題などである。

研究法Ⅰでは、まず、具体的なテーマをみつけ、それをもとに研究計画をたて、実験や調査を行う段階までを中心に作業を行う。研究法Ⅱでは、実験や調査の研究結果を統計的に分析し、そこから結論を導き、それを具体的に論文化したり、口頭で発表するという作業を行っていく。これらの作業は連続するものなので、研究法ⅠとⅡは同一教員の授業を取ることが必要である。また、原則として事前調査での希望通りに履修を行うこと。

【到達目標】

- ①自分の興味に従って研究テーマを具体化する
- ②研究テーマに関連する先行研究を読み理解する
- ③実験・調査計画を立て、それを実施する
- ④調査・実験結果を分析する
- ⑤分析結果から論理的に考察を行う
- ⑥結果を論文にする
- ⑦場合によっては学会発表を行ったり、その予行を行う
- また、各自の人間の成長のために以下の練習を行う
- ⑧グループディスカッションとその運用について

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回各自の研究の進展状況をパワーポイントで発表し、ディスカッションを行う。実験や調査を授業外で行ってもらうほか、2～3回程度土曜か日曜に集中的な補講を行う。授業時におけるコメントや意見、レポートに対する回答、講評および補足解説、フィードバックについては、授業時間、授業後に個別、授業後にウェブを通してのいずれかの方法で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、採点ポリシーなどについて詳しく説明する
第2回	研究発表1、分析方法指導1	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。統計的な事象について個別に指導する。
第3回	研究発表2、分析方法指導2	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。統計的な事象について個別に指導する。
第4回	研究発表3、図表レイアウト指導1	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。研究論文執筆に当たってのグラフ、表の記法について個別に指導する
第5回	研究発表4、図表レイアウト指導2	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。研究論文執筆に当たってのグラフ、表の記法について個別に指導する
第6回	研究発表5、参考文献記法指導	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。参考文献リストの作成についての指導

第7回	研究発表6、論文の構成指導	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。論文作成に当たっての構成についての個別指導を行う。
第8回	研究中間発表	各自の研究を15分間で効果的にプレゼンテーションする。
第9回	研究発表7、論文指導1	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。研究論文について個別に内容を指導する。
第10回	研究発表8、論文指導2	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。研究論文について個別に内容を指導する。
第11回	研究発表9、論文指導3	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。研究論文について個別に内容を指導する。
第12回	研究発表10、論文指導4	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。研究論文について個別に内容を指導する。
第13回	プレゼンテーション演習1	各自の研究発表について個別に指導する
第14回	プレゼンテーション演習2	各自の研究発表について個別に指導する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回必ず、その週に行った研究活動について報告してもらいますので、その準備をしてくること。

その前提として、毎週、少しずつでも自分の研究を進展させること。

パワーポイントの使い方、オーラルでの発表について、毎回、練習してくること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準としますが実際にはそれ以上の時間が必要です。1～2回、土曜か日曜にまとまった長時間の補修を行います。また、年間数回、研究室かスタディールームで個別指導（1回約1時間）を行います。

【テキスト（教科書）】

使用しない。個別の研究テーマに従った文献を紹介する。

【参考書】

使用しない。各自の研究テーマに従った文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業時のディスカッションへの参加50％、レポート50％

【学生の意見等からの気づき】

例年、高い評価を得ています。本年度はさらに受講者に興味深く、スキルの修得が出来るような演習にするようにがんばります。とくに後半はプレゼンテーションに力を入れます。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用する。

各自、パワーポイントの仕様に習熟しておくこと。

分析にはJASPまたはRを使用するので、どちらかについて習熟しておくこと。

【その他の重要事項】

<大学4年間の総仕上げの授業なので、全力でがんばろう！>

この授業は出席をもっとも重視する。出席が規定日数に達しない場合には、就職が決まっても単位を与えないので注意すること。欠席が多い場合には、メールによって2回だけ警告を行う。就職試験などでやむを得ず、欠席する場合には、必ず事前に届けること。この場合には、授業のかわりに、上限4回まで個別指導を出席とすることもありますが例外的な措置であるのでそのつもりで。正規の授業時間以外に1～2回、土曜1～5限を使用した集中授業（研究のための集中作業日）を行う。1月には、同様に1日かけて、口述試験用のプレゼンテーション練習会を行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, empirical experimental research on psychology and presentation training will be conducted. In particular, it focuses on research on social psychology and criminal psychology.

【Learning Objectives】

You will be able to study psychology yourself. Specifically, the following points.

Research theme selection

Searching and organizing prior literature

Design of experiments

Analysis of experimental results

Creating reports and dissertations

Oral and poster presentation

【Learning activities outside of classroom】

Each lesson requires 2 hours of preparation and 2 hours of review.

【Grading Criteria / Policy】

Participation in classes of 3/5 or higher is a prerequisite for grade evaluation.

Class participation is used only to determine attendance criteria.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Report (50%) + class contribution (50%)

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

精神生理学特講

木村 健太

授業コード：A3659 | 曜日・時限：金3/Fri.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

感情と行動を主題にした生理心理学、神経科学の最新の研究知見を学びます。また、感情に関わる人工知能分野の動向を学ぶとともに、実社会の中で感情の評価技術がどのように活用されるかを事例を交えて紹介します。

【到達目標】

- (1) 感情の生物学的基盤について理解できるようになる。
- (2) 感情と生理活動との関係を説明できるようになる。
- (3) 感情研究の知見が実社会でどのように活用されるかを実例をあげて説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・感情と行動を主題にした心理学の内容を中心に学びます。
- ・感情についての基礎的な理論から近年の知見まで幅広いトピックを学ぶとともに、感情を生む脳と身体の関係、感情と意思決定の関わり、感情の評価に関わる人工知能技術を講義形式で紹介します。
- ・研究の知見を自身の日常経験や社会の課題と結びつけて考えるグループワークや意見交換を行うことで、研究知見を実社会の人間行動と結びつける考え方を身につけます。
- ・授業中に出される課題への回答や授業に関する疑問・感想を記載したリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業でリアクションペーパーへのフィードバックを含めた授業を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方と授業目標の確認
第2回	感情と脳・身体の基本	感情の理論、感情の神経科学・生理心理学的な研究方法
第3回	不快感情と生理活動	怒りや不安、恐怖などの不快感情
第4回	快感情と生理活動	喜びや感動などの快感情
第5回	感情制御の生理基盤	感情の抑制、認知的再評価などの感情制御
第6回	身体が感情へ及ぼす影響	末梢起源説、ソマティック・マー
第7回	内受容感覚と感情	カー仮説、内受容感覚
第8回	内分泌・免疫系と感情	内受容感覚の研究手法、生体活動の位相と認知・感情の関連性
第9回	感情と健康	内分泌・免疫系の活動が感情に及ぼす作用、疾病行動
第10回	感情の働きの適応的意義	うつ、不安などの不適応な感情と健康
第11回	感情と人工知能	進化生物学的な観点から見た感情の働き
第12回	アフェクティブコン	人工知能分野における感情の研究
第13回	ピューティング	機械学習などを用いた感情の評価技術、感情とロボット工学
第14回	感情研究の実社会応用	サービス開発における感情の評価技術の活用
第14回	まとめ	授業の復習、授業内容の理解度を確認するためのテスト実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間合計4時間を標準とします。
- ・次回の授業内容について参考図書等を読むなどの事前学習を行ってください。
- ・授業内で解説した感情研究の知見を、日常の自分や他者の行動に当てはめて考えることが知識の定着のための復習になります。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した資料を配布します。

【参考書】

日本感情心理学会（企画）『感情心理学ハンドブック』2019年 北大路書房

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題提出を含む平常点（50％）、期末試験（50％）で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

・授業の進め方や授業計画、授業目標の説明をしますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

・オフィスアワー：春・秋学期ともに木曜日3限（BT1109研究室）。訪問希望者は、メール（k.kimura[at]hosei.ac.jp）等で前日までに連絡してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

We will learn the latest research findings in psychophysiology and neuroscience on emotions and behavior. In addition, we will learn about trends in the field of artificial intelligence related to emotions and how affective computing technology can be utilized in the real world, with case examples.

(Learning Objectives)

1. We will be able to understand the biological basis of emotions.
2. To be able to explain the relationship between emotions and physiological activities.
3. To be able to explain how the findings of emotion research can be used in the real world, using actual examples.

(Learning activities outside of classroom)

It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (50%) and final examination (50%).

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

言語学特講 I

田嶋 圭一

授業コード：A3660 | 曜日・時限：火2/Tue.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは、ことばを無意識に、かつ流暢に使いこなします。しかしそこには大変複雑な知識が潜んでいます。本授業では、その言語に関わる知識の解明に迫る言語学について概観します。春学期では、言語学の中でも特に「単語」や「文」の構造を扱う形態論・統語論を中心に授業を進めます。身近な日本語や英語からたくさん例を挙げながら、言語学の基礎概念を初歩から学びます。

【到達目標】

単語の内部構造や新しい単語を作り出す仕組み（形態論）、単語から句や文を作り出す仕組み（統語論）について学び、その枠組みが日本語や英語などの諸言語にどのように当てはまるかを具体例を通して理解し、問題を解く能力を身に付けることを授業の目標とします。授業を通して、無意識に使っている言語の背後にある原理を意識化し、言語に対する観察力を磨くことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式ですが、個別あるいはグループで問題を解く作業なども交えて授業を進めます。課題やテストに関するフィードバックを授業中または学習支援システムを利用して返します。また、学生からの質問やコメントのいくつかを、次の授業スライドの末尾に回答とともに掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入、言語と言語学	シラバスの説明、言語とは、「真の言語」の特徴
第2回	言語知識	2種類の言語、言語に関する様々な知識、言語学の諸分野
第3回	形態論への導入	心内辞書と一般辞書、形態論と形態素、形態素の種類
第4回	語形成過程（1）：様々な語形成過程	語形成過程の種類、偶発的な語形成、少し規則的な語形成、規則性の高い語形成：複合
第5回	語形成過程（2）：複合、派生	複合語の意味、主要部の考え方、派生語
第6回	語形成過程（3）：派生、転換、屈折	複雑な派生語の構造、語の樹形図、転換、屈折・活用
第7回	中間テスト、形態素解析（1）、異形態	形態素解析の方法と練習問題、異形態とは
第8回	形態素解析（2）、語彙範疇、格	形態素解析の練習問題つづき、日英語の語彙範疇格とその種類
第9回	統語論（1）：導入	構成素、句構造、句の主要部
第10回	統語論（2）：カテゴリー、意味役割、マージ	言語の階層構造、文を作り上げるための材料：カテゴリー、項と意味役割、文を組み立てる仕組み：マージ、様々な種類の句
第11回	統語論（3）：文の組み立て	英語の文・日本語の文の組み立て、VPの組み立て、屈折辞と格、一般的な句の構造
第12回	統語論（4）：補文	VPの拡張、補部と指定部、文の中の文＝補文
第13回	統語論（5）：補文つづき、授業のまとめ	課題の復習、授業のまとめ
第14回	期末テスト、授業の振り返り	授業内容の理解度を確認するための授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにアップされた資料を読んだり、動画を視聴したり、授業後に課題に取り組んだり内容を振り返ったりすることで、毎回の授業の予習・復習を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。レジュメ等を授業支援システム経由で配布します。

【参考書】

参考書として以下を挙げておきます。
西光 義弘（編集）（1999）、『日英語対照による英語学概論：増補版』くろしお出版。
上山 あゆみ（1991）、『はじめての人の言語学 ―ことばの世界へ―』くろしお出版。

星 浩司（2006）、『言語学への扉』慶應義塾大学出版会。
大津 由紀雄・池内 正幸・今西 典子・水光 雅則（編）（2002）、『言語研究入門 ―生成文法を学ぶ人のために―』研究社。
Fromkin, V., Rodman, R., & Hyams, N. (2003). *An Introduction to Language*, 7th edition. Boston: Heinle.
Tserdanelis, G. & Wong, W. Y. P. (2004). *Language Files*, 9th edition. Ohio State University Press.

【成績評価の方法と基準】

平常点・課題 25%、中間テスト 25%、期末テスト 50%の割合で評価します。言語学は知識だけでなく問題を解く能力が要求されるので独学は困難です。また、積み重ねの要素が大きく、授業を休むとその後の内容が分からなくなります。毎回授業に参加し、授業外でも概念の習得や問題を解く作業に時間を掛ける心づもりでいてください。また、課題や中間テストを通して、内容の理解度チェックをこまめに行ってください。原則として、正当な理由なく4回を超えて授業を欠席した場合、または期末テストを未受験の場合は単位が授与されないものとします。

【学生の意見等からの気づき】

回答者11名のうち、全員が「履修してよかった」「工夫されていた」、9名（82%）が「理解できた」と回答してくれました。受講生数が例年より少なかったぶん受講生の理解度や反応などに合わせて進められたのがよかったのかもしれませんが。授業外学習時間については「1～2時間」が9名でした。「毎週の課題や授業内の練習問題で知識の確認をする機会があったので、テスト前に焦ることなく取り組むことが出来て良かった」「レジュメやプリントがあらかじめ公開されていたため、授業の準備がしやすかった」「スライドや講義動画など自分で復習する際の資料が豊富だった」などポジティブなコメントをたくさんいただきました。一方、「宿題の確認に時間をかけすぎて、授業本体が駆け足になってしまうこともあった」「スモールステップの積み重ねが重視されるあまり、全体像が掴みづらかった」といった改善点もご指摘いただきました。今後に役立てたいと思います。

【その他の重要事項】

授業の内容や運営方法の詳細について説明しますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces students to the field of linguistics, the scientific study of language. The spring semester focuses on examining the structure of words (morphology) and phrases and sentences (syntax).

【Learning objectives】

Through this course, students should be able to understand the basic principles of morphology and syntax, and develop problem-solving skills. They should be able to develop greater awareness of language-related phenomena and problems in their daily lives.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to study the assigned materials, work on homework assignments, and prepare for the next class. The standard study time required before and after each class is 4 hours total.

【Grading criteria/policy】

Your overall grade will be determined based on class participation and homework (25%), midterm test (25%), and final test (50%). As a rule, if you are absent for more than 4 classes or neglect to take the final test without a legitimate reason, course credit will not be granted.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

言語学特講Ⅱ

田嶋 圭一

授業コード：A3661 | 曜日・時限：火2/Tue.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは、ことばを無意識に、かつ流暢に使いこなします。しかしそこには大変複雑な知識が潜んでいます。本授業では、その言語に関わる知識の解明に迫る言語学について概観します。秋学期では、言語学の中でも特に言語の「音」を扱う音声学・音韻論を中心に授業を進めます。身近な日本語や英語からたくさん例を挙げながら、言語学の基礎概念を初歩から学びます。

【到達目標】

言語学の中でも特に言語の「音」を扱う音声学・音韻論の基礎的枠組みを学び、その枠組みが日本語や英語などの諸言語にどのように当てはまるかを具体例を通して理解し、問題を解く能力を身に付けることを授業の目標とします。授業を通して、無意識に使っている言語の背後にある原理を意識化し、言語に対する観察力を磨くことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式ですが、個別あるいはグループで問題を解く作業やコメントシートを作成する作業なども交えて授業を進めます。課題やテストに関するフィードバックを授業中または学習支援システムを利用して返します。また、学生からの質問やコメントのいくつかを、次の授業スライドの末尾に回答と共に掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入、音声学と音韻論	シラバスの説明、音声学と音韻論の違い
第2回	音声学への導入、発話のメカニズム	音声学とは、発話のメカニズム、音声器官、音声学的直観を磨く：母音
第3回	母音	母音の調音的記述・有標性、音声学的直感を磨く：子音
第4回	子音	子音の調音的記述・有標性、自然音類
第5回	言語音を書き起こす方法	日本語の音素表記と音声表記
第6回	日本語の発音	長音、促音、撥音、ガ行鼻音化、母音無声化など
第7回	中間テスト、音韻論への導入、音素	音と意味との関係、音素、ミニマルペア、音素設定の基準：重複分布・相補分布、音声的類似性、音素分析
第8回	日本語の音韻変化	撥音の同化、ハ行音の同化、母音の融合・交替、連濁など、音素分析の練習問題
第9回	音象徴	音象徴、オノマトペ、音素分析の練習問題つづき
第10回	言葉のリズム	日本語のリズム、モーラ、英語のリズム、音節
第11回	アクセント（1）	アクセントとは、東京方言のアクセント、アクセントの規則と表記法
第12回	アクセントとイントネーション	アクセントの方言差、イントネーションとは
第13回	アクセント（2）、まとめ	複合語のアクセント、授業のまとめ
第14回	期末テスト、総括	理解度評価のための試験、授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにアップされた資料を読んだり、動画を視聴したり、授業後に課題に取り組んだり内容を振り返ったりすることで、毎回の授業の予習・復習を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。レジュメ等を学習支援システムから配布します。

【参考書】

参考書として以下を挙げておきます。

西光 義弘（編集）（1999）.『日英語対照による英語学概論：増補版』くろしお出版.
上山 あゆみ（1991）.『はじめての人の言語学 ―ことばの世界へ―』くろしお出版.
星 浩司（2006）.『言語学への扉』慶應義塾大学出版会.
大津 由紀雄・池内 正幸・今西 典子・水光 雅則（編）（2002）.『言語研究入門 ―生成文法を学ぶ人のために―』研究社.

Fromkin, V., Rodman, R., & Hyams, N. (2003). *An Introduction to Language, 7th edition*. Boston: Heinle.
Tserdanielis, G. & Wong, W. Y. P. (2004). *Language Files, 9th edition*. Ohio State University Press.

【成績評価の方法と基準】

平常点・課題25%、中間テスト25%、期末テスト50%の割合で評価します。言語学は知識だけでなく問題を解く能力が要求されるので独学は困難です。また、積み重ねの要素が大きく、授業を休むとその後の内容が分からなくなります。毎回授業資料を利用して内容理解に努めてください。原則として、正当な理由なく4回を超えて課題が未提出の場合、または期末試験を未受験の場合は単位が授与されないものとします。

【学生の意見等からの気づき】

回答者8名のうち、全員が「工夫していた」「履修してよかった」、5名が「理解できた」と回答してくれました。例年に比べて理解度がやや低下したのが残念でしたが、今後は特にこの点に注意して授業を行いたいと思います。テスト/アンケートでの毎回の課題は提出後にすぐにフィードバックが返ってくるので理解度チェックに役立った、レジュメに加えて講義動画や授業スライドが公開されていたので授業が分からないまま終わっても自分で復習することができた、適宜グループワークや個別に問題を解く時間があつたので理解が促進された、といったコメントをいただきました。一方、専門用語が多くて覚えるのが大変だった、課題が少し難しかった、といった意見もありました。これらの点をどのように改善できるか、検討したいと思います。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course introduces students to the field of linguistics, the scientific study of language. The fall semester focuses on examining the sounds of language and how they are produced (phonetics) and organized (phonology).

[Learning objectives]

Through this course, students should be able to understand the basic principles of phonetics and phonology, and develop problem-solving skills. They should be able to develop greater awareness of language-related phenomena and problems in their daily lives.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to study the assigned materials, work on homework assignments, and prepare for the next class. The standard study time required before and after each class is 4 hours total.

[Grading criteria/policy]

Your overall grade will be determined based on class participation and homework (25%), midterm test (25%), and final test (50%). As a rule, if you are absent for more than 4 classes or neglect to take the final test without a legitimate reason, course credit will not be granted.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

認知科学特講

田嶋 圭一

授業コード：A3662 | 曜日・時限：木3/Thu.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語を「話す」または「聞く」能力を3-4歳までにある程度習得しますが、「読む」または「書く」能力はより時間と努力を要します。また、人間と同じ水準で流暢に会話ができるコンピュータは未だ完成していません。これはなぜでしょう？ 本授業ではこのような疑問を出発点に、人間にとって最も自然なコミュニケーション手段といえる音声言語の認知処理過程について学びます。具体的には、音声言語の発話と知覚の仕組み、音声の物理的な特徴、乳幼児による母国語の知覚能力の発達、成人による外国語音声の学習などについて、音声学、音響学、心理学といった分野の知見を学びます。

【到達目標】

話し言葉が話し手にどのように産出され、音としてどのような特徴を持ち、聞き手にどのように知覚されるのかについて、他者に的確に説明できるようになることが目標です。音声分析ソフトを使って話し言葉の特徴を分析できるようになることも目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行いますが、適宜視聴覚教材・ミニ実験・動画などを盛り込む予定です。また、授業中に個別あるいはグループで課題に取り組んだり、コメントシートを作成したりする時間も取り入れる予定です。さらに、音声分析ソフトPRAATを使った演習も実施する予定です。課題に関するフィードバックを授業中または学習支援システムを利用して返します。また、学生からの質問やコメントのいくつかを、次の授業スライドの末尾に回答と共に掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	シラバスの説明、コミュニケーションの手段、音声言語と文字言語、「言葉の鎖」
第2回	音声とは	音声の現実性と速さ、音声産出のメカニズム、母音と子音
第3回	音響音声学の基礎（1）	音の正体、音の種類、音を可視化する方法、音声のデジタル化
第4回	音声の音響分析	PRAATを使った音声の録音・可視化・編集・分析
第5回	音響音声学の基礎（2）	フィルタ、音声産出の音源フィルタ理論、基本周波数、フォルマント周波数
第6回	母音の知覚	分節音とプロソディー、聴覚器官、母音の特徴と知覚、母音の正規化
第7回	子音の知覚（1）	音響的不変性の欠如、ローカス理論、音声の符号化
第8回	音声の再合成	PRAATを使った音声の録音・分析・再合成
第9回	子音の知覚（2）、カテゴリー知覚	調音点の知覚、声の有無の知覚、カテゴリー知覚とは、同定と弁別
第10回	音声知覚の実験	PRAATを使った同定課題と弁別課題の演習
第11回	音声知覚の発達	生得と学習、乳児の音声知覚、満1歳までに起こる変化
第12回	外国語の音声知覚	成人でも外国語が聞き取れるようになるか、知覚と産出との関係、外国語音の知覚的同化
第13回	文脈の影響	トップダウン処理とボトムアップ処理、音声知覚と単語認知のモデル
第14回	音声と社会的認知、総括	話し方と対人認知の関係、授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を読んだり、課題に取り組んだりすることで、毎回の授業の復習や理解度チェックを行ってください。また、音声分析用フリーソフトPRAATを使った演習課題を学期中に数回行いますので、課題を行い成果を提出してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下の本を授業で参照したり、関係する章を宿題として読んでもらったりします。該当部分を学習支援システムにアップしますので、各自ダウンロードしてください。
ジャック・ライアルズ（著）、今富 摂子 他（訳）（2003）『音声知覚の基礎』海文堂。

【参考書】

音声学、言語心理学などの入門書として、以下を挙げておきます。
北原 真冬・田嶋 圭一・田中 邦佳（2017）『音声学を学ぶ人のためのPRAAT入門』ひつじ書房。
廣谷 定男（編著）（2017）『聞くと話すの脳科学』コロナ社。
重野 純（2003）『音の世界の心理学』ナカニシヤ出版。
針生 悦子（編）（2005）『朝倉心理学講座5 言語心理学』朝倉書房。
Denes, P. & Pinson, E. (1993). *The Speech Chain: The Physics and Biology of Spoken Language*, W H Freeman & Co.

【成績評価の方法と基準】

平常点・一般課題30%、PRAAT課題30%、期末レポート40%の割合で評価する予定です。原則として、授業を4回を超えて欠席した場合、期末レポートの提出がなかった場合、あるいはPRAAT課題の提出がなかった場合は、単位が授与されないものとします。

【学生の意見等からの気づき】

回答者8名のうち、全員が「工夫されていた」、5名が「理解できた」、7名が「履修してよかった」と回答してくれました。授業外学習時間については大半が「週1～2時間」と回答していました。「学生同士の教え合いによって理解の促進された」「定期的にミニ実験があったので楽しみながら講義を受けられた」「レジュメと動画をダウンロードして勉強できたのがとてもよかった」といったコメントをいただきました。一方、テキストがやや難解という意見もありました。また、「PRAATの課題の結果を匿名で共有しても面白いかなと思った」という提案があったので、その可能性を探って意味用と思います。

【その他の重要事項】

授業の内容や運営方法の詳細について説明しますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

People can learn to talk by the time they are 3-4 years old, but learning to read and write takes more time and effort. Meanwhile, building computers that can talk as fluently as people can has been a continuing challenge. Why is this so? Taking these questions as a starting point, this course introduces students to the fundamental principles and cognitive mechanisms that underlie the processing of spoken language. [Learning objectives]

Through this course, students should be able to describe the physical properties of spoken language and the mechanisms underlying how it is produced and perceived by humans. Students should also be able to analyze speech using appropriate software. [Learning activities outside of classroom]

Students are expected to study the assigned materials, work on homework assignments, and prepare for the next class. They should also gain hands-on experience with Praat, a speech analysis software, by individually doing assigned homework using this software. The standard study time required before and after each class is 4 hours total. [Grading criteria/policy]

Your overall grade will be determined based on class participation and regular homework (30%), homework using Praat (30%), and final take-home test (40%). As a rule, if you are absent for more than 4 classes or fail to submit the final test or the Praat homework without a legitimate reason, course credit will not be granted.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

認知心理学特講

竹島 康博

授業コード：A3663 | 曜日・時限：木2/Thu.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の知覚や関連する様々な認知機能に焦点を当て、その機能の重要性および心理学的な研究を行う意義について理解することを目的とします。

【到達目標】

人間の感覚情報処理について、初期の機能である知覚処理を中心に理解を深める。加えて、様々な知覚現象が日常生活のどのような場面で観察されるのかについて考えることで、単なる知識を学ぶだけでなく自身の体験として応用できる思考能力の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

知覚心理学の内容を中心に講義を進めていく。講義はパワーポイントのスライドや動画といった視覚教材を活用して実施する。また、授業の中で取り上げる様々な知覚現象が日常のどのような場面で体験されるのかについて考える機会を設け、学んだ内容を自身で活用することも重視して授業を実施する。各授業の最後に理解度の確認を兼ねてコメントペーパーを提出してもらう。コメントペーパーのフィードバックは毎回まとめて授業資料としてアップする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	感覚の種類や分類法、知覚理論の解説
第2回	感覚の測定法	心理物理学的測定を中心とした知覚経験を測定する方法についての解説
第3回	視覚の仕組み	眼の構造を含めた初期の視覚処理についての解説
第4回	色の知覚	色を感じる仕組みや人間の色覚の多様性についての解説
第5回	物体の認識	パターン認知を中心とした物体を認識する仕組みについての解説
第6回	運動の知覚	物体の動きを認識する仕組みについての解説
第7回	奥行きの知覚	外界を立体的に認識する仕組みについての解説
第8回	空間の認知	周囲の空間をどのように認識して理解する機能についての解説
第9回	聴覚の仕組み	耳の構造を含めた聴覚と触覚の処理についての解説
第10回	触覚・味覚・嗅覚の仕組み	皮膚感覚を中心とした触覚の処理、味覚や嗅覚の処理と香り環境や風味についての解説
第11回	多感覚による知覚(1)	複数の感覚の統合による現象とその背景メカニズムについての解説
第12回	多感覚による知覚(2)	感覚の統合におけるタイミングの知覚を中心とした解説
第13回	全体の総括とレポート課題の説明	講義全体の総括と期末レポートについての説明
第14回	知覚・認知に関する実証研究	人間の知覚や認知といった機能についてどのように研究するかについての講演

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業内で紹介した現象について、日常場面に当てはめて考えることを復習として行います。また、関連した内容を参考図書等で自主学習します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

行場次朗（編）『感覚・知覚心理学』2018 北大路書房

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパーによる授業の理解度を評価の40%とし、残り60%を学期末に課す期末レポートの成績とします。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度から各回の内容に関連した論文を1本紹介し、その研究の実験手続について解説するようにしました。卒業論文作成に役立つというコメントをいただきましたので、今年度も継続してこの内容を盛り込みます。なるべく新しい論文を紹介できるようにします。

【その他の重要事項】

授業で募集する知覚心理学・認知心理学に関わる実験や調査などへの参加による学習についても評価に加味する場合があります。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course deals with human information processes, especially with perceptual system.

[Learning objectives]

The goals of this course are to understand psychology of perception.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Grading will be decided based on class contribution (40%) and term-end report (60%).

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

スポーツ心理学特講

荒井 弘和

授業コード：A3664 | 曜日・時限：月3/Mon.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマは、スポーツ心理学の基本的なテーマ（スポーツ・運動・身体活動への心理学的アプローチ）を学習することです。

【到達目標】

運動やスポーツを含む身体活動は、私たちの「こころ」と深い関わりをもっています。スポーツ心理学の研究や知見を理解することによって、「こころの仕組み」に関する理解を深め、身体活動・運動・スポーツ場面において心理学的な支援を実践できるようになることを目標とします。また、スポーツを通じて現代社会のあり方を考え、スポーツを通じて広い視野を養い、良識ある市民となることを目指します。

なおこの授業は、文部科学省が育成を推進している「就業力」の構成要素である「情報収集・分析・発信力（主に、仮説構築力、信頼関係構築力、対象者確定力、情報伝達力）」と「状況判断・行動力（主に、環境変革力、共同行動力）」の育成に貢献することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、スポーツ心理学の研究や知見を通じて「こころの仕組み」を理解し、スポーツや運動の場面で心理学的な支援を実践する能力を養うことを目指します。具体的には、スポーツメンタルトレーニングの指導、チームビルディングの方法の提案、スポーツマンシップ（スポーツパーソンシップ）の育成、運動習慣の定着支援などを目的としたスキルを身につけます。授業ではアクティブラーニングを採用し、毎回グループワークを実施します。また、トップアスリートやコーチをゲストに招き、トップスポーツの最前線に触れる機会も提供します。これらを通じて、現代社会におけるスポーツ心理学の役割を深く理解し、心理学的支援を実践する力を養います。授業は、講義形式が中心となりますが、一方向的な講義ではなく、講義の内容に基づいて、実習を採用したり、グループワークにおいて意見交換を行ったり、プレゼンテーションを行ったりしながら、課題の解決を考え、実践します。なお、この授業は、スポーツに関心のない学生にも履修を勧めます。なぜなら、スポーツ心理学の知識・技法は、就職活動などにも適用できるからです。授業中の課題に対するフィードバックは、次の回の授業の序盤に、受講生全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	スポーツ心理学とは何か？を学ぶ	スポーツ心理学の全体像を理解し、説明できるようになる。
第2回	競技スポーツの心理学を学ぶ 1) スポーツメンタルトレーニングを学ぶ (1)	メンタルトレーニングのスキルを理解し、実践し、活用できるようになる。
第3回	競技スポーツの心理学を学ぶ 1) スポーツメンタルトレーニングを学ぶ (2)	メンタルトレーニングのスキルを理解し、実践し、活用できるようになる。
第4回	競技スポーツの心理学を学ぶ 1) スポーツメンタルトレーニングを学ぶ (3)	メンタルトレーニングのスキルを理解し、実践し、活用できるようになる。
第5回	競技スポーツの心理学を学ぶ 2) チームビルディングを学ぶ	チームビルディングの概要を理解する。ファシリテーションを用いたチームビルディングの方法を理解し、実践し、活用できるようになる。
第6回	競技スポーツの心理学を学ぶ 2) チームビルディングを学ぶ	チームビルディングの概要を理解する。ファシリテーションを用いたチームビルディングの方法を理解し、実践し、活用できるようになる。
第7回	競技スポーツの心理学を学ぶ 3) スポーツ選手の健康問題に対する心理学的アプローチを学ぶ (1)	スポーツ選手の健康問題を理解し、その問題に対する心理学的アプローチを提案できるようになる。

第8回	競技スポーツの心理学を学ぶ 3) スポーツ選手の健康問題に対する心理学的アプローチを学ぶ (2)	スポーツ選手の健康問題を理解し、その問題に対する心理学的アプローチを提案できるようになる。
第9回	健康スポーツの心理学を学ぶ 1) 身体活動と健康との関連を学ぶ	健康のために実施する身体活動の機能を説明できるようになる。
第10回	健康スポーツの心理学を学ぶ 1) 身体活動と健康との関連を学ぶ、2) 身体活動を促進する方法を学ぶ	健康のために実施する身体活動の機能と、身体活動を促進する方法を説明できるようになる。
第11回	健康スポーツの心理学を学ぶ 3) パラスポーツの心理を学ぶ	障がいのある人が行うスポーツ活動の特徴を理解し、心理的な支援を実践できるようになる。
第12回	スポーツの仕組みの心理学を学ぶ	スポーツの技術を身につけて、実践する際のメカニズムを学び、説明できるようになる。スポーツ場面で生じる現象のメカニズムを学び、説明できるようになる。
第13回	競技スポーツの心理学を学ぶ 4) アスリートを全人的な視点から考える	デュアルキャリアを理解し、実践できるようになる。
第14回	競技スポーツの心理学を学ぶ 4) アスリートを全人的な視点から考える	アスリートの価値について考え、自分の考えを表明できるようになる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を実践・活用できるようになることを目指して、毎回の授業中に提示されるレポート課題に取り組めるよう、情報を収集してから授業に参加してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは設定しません。必要に応じて、資料配付・文献紹介を行います。

【参考書】

荒井弘和（編著）「アスリートのメンタルは強いのか？ —スポーツ心理学の最先端から考える—」晶文社
日本スポーツ心理学会（編）「スポーツメンタルトレーニング教本 三訂版」大修館書店
平野裕一・土屋裕陸・荒井弘和（編）「グッドコーチになるためのココロエ」培風館

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業の到達目標と対応した期末レポートが60%、(2) 授業中に実施する課題、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換への参加状況が40%です。欠席・遅刻をした場合は評価が低下します。

【学生の意見等からの気づき】

「（特別講師として来てくれた）トップアスリートの話を聞いて刺激を受けた」や「グループワークを取り入れてくれてよかった」という意見がありました。今後も、スポーツ界の第一線で活躍するアスリートやコーチを招聘して授業を行います。また、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【その他の重要事項】

授業の概要を理解するために、また、授業の予定を立てるために、初回の授業には必ず出席してください。アクティブ・ラーニングに協力的な姿勢で、授業に参加してください。特別講師として、いずれかの回において、トップアスリートやコーチを招聘する可能性があります。授業中の呼称について、希望があれば担当教員に申し出てください。担当教員に申告しにくい事柄がある場合、学内の施設（学生相談室やDEIセンター等）を遠慮なく利用してください。

【Outline (in English)】
(Course outline)

The class's theme is to study the fundamental topics of sports psychology, focusing on psychological approaches to sports, exercise, and physical activity.

(Learning Objectives)

Physical activities, including exercise and sports, have a deep relationship with our "mind". By understanding the research and findings of sport psychology, we aim to deepen our understanding of the "mechanism of the mind" and to be able to provide psychological support in physical activities, exercise, and sports situations. We also aim to think about the state of modern society through sports, cultivate a broad perspective through sports, and become a sensible citizen.

(Learning activities outside of classroom)

In order to be able to practice and apply the lecture contents, please come to class after gathering information so that you can work on the report assignment presented during each class.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. (Grading Criteria /Policy)

(1) 60% will be based on the final report corresponding to the class objectives, and (2) 40% will be based on your participation in assignments, presentations, group work, and exchanges of opinions during the class. Absence or tardiness will result in a lower grade.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

生理心理学

木村 健太

授業コード：A3665 | 曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生理心理学は、ヒトの心の働きや行動を脳や身体などの生物学的な観点から理解する心理学のアプローチです。脳だけにとどまらず、自律神経系や内分泌系、免疫系などのヒトを構成するさまざまな生理活動に関する基礎的な知識を学びます。また、これらの生理活動が心理学の研究においてどのように測定され、活用されるのかを学ぶことで、心理学の研究において生理指標を活用するための知識を身につけます。

【到達目標】

- (1) 中枢・末梢神経系のしくみと機能を理解する。
- (2) 心理学において生体信号がどのように測定・解析されるかを理解する。
- (3) 感情・認知と生体信号とのかわり方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基礎的な知識を学ぶとともに、実際に測定される生体信号を観察することで理解を深めます。また、生理心理学に関連する心理学研究について学ぶことで知識を体系化します。授業中に出される課題への回答や授業に関する疑問・感想を記載したリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業ではそれへのコメントも含めて授業をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方や授業目標の確認、心理学における生理活動の測定意義
第2回	中枢神経系のしくみ	中枢神経系のしくみと働き
第3回	末梢系のしくみ	末梢神経系、内分泌系、免疫系のしくみと働き
第4回	心拍数・心拍変動	心電図の測定と分析の手法、心理学における活用
第5回	血圧・脈波	血圧や脈波の測定と分析の手法、心理学における活用
第6回	呼吸	呼吸器活動の測定と分析の手法、心理学における活用
第7回	汗腺活動	皮膚電気活動の測定と分析の手法、心理学における活用
第8回	瞬き・眼球運動・筋電	瞬き・眼球運動・筋電の測定と分析の手法、心理学における活用
第9回	脳波・事象関連脳電位	脳波や事象関連脳電位の測定と分析の手法、心理学における活用
第10回	脳機能イメージング	NIRSやfMRIの測定と分析の手法、心理学における活用
第11回	バイオマーカー	コルチゾールやサイトカインなどバイオマーカーの測定と分析の手法、心理学における活用
第12回	まとめ	第11回までの内容のまとめと復習
第13回	生理指標を用いた実験計画の立案	授業で学んだ生理心理学の知見を用いて、生理心理学実験を計画
第14回	実験計画の発表	計画した生理心理学実験の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間合計4時間を標準とします。
- ・次回の授業で取り扱う生理指標について参考図書等を読むなどの事前学習を行い、疑問点を明確にするようにしてください。
- ・授業内で解説した生理指標について、日常の自分や他者がどのような生理状態であるのかを当てはめて考えることが知識の定着のための復習になります。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した資料を配布します。

【参考書】

堀忠雄・尾崎久記（監修） 生理心理学と精神生理学 第Ⅰ・Ⅱ巻 2017年 北大路書房

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加（平常点40%）とレポートの内容（60%）から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業中にパソコンを利用することがあります。

【その他の重要事項】

- ・授業の進め方や授業計画、授業目標の説明をしますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。
- ・生理機器の個数の都合上、受講希望者が多数の場合は抽選となる場合があります。
- ・オフィスアワー：春・秋学期ともに木曜日3限（BT1109研究室）。訪問希望者は、メール（k.kimura[at]hosei.ac.jp）等で前日までに連絡してください。

【Outline (in English)】

This course provides an overview of the field of psychology that seeks to understand human behavior from a physiological standpoint. Building upon foundational knowledge of the structure and function of the nervous system, students will explore how important indicators of central and peripheral nervous system activity are and are utilized in psychological research. Emphasis will be also placed on gaining practical experience with using basic measurement techniques, allowing students to develop research plans and cultivate a perspective on leveraging physiological indicators in psychological inquiry. Students will be expected to have enough time (more than four hours per a class) for preparation and review.

Active engagement and participation in class discussions, activities, and exercises will contribute significantly to the overall assessment (40%). For the final assessment, students are required to submit a brief research proposal for a psychological study with physiological indicators (60%).

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

生理心理学実習

木村 健太

授業コード：A3666 | 曜日・時限：金2/Fri.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生理心理学は、ヒトの心の働きや行動を脳や身体などの生物学的な観点から理解する心理学のアプローチです。中枢や末梢の生理活動を反映する指標についての基礎的な知識をもとに、生理指標の活用方法を実際のデータの取得体験を通して実践的に学びます。また、生理指標を用いる研究計画の立案、データの取得から分析、考察、報告まで、生理心理学の研究の一連のプロセスを経験することで実践力を身につけます。

【到達目標】

- (1) 心理学研究でよく用いられる生理指標を正しく測定できるようになる
- (2) 心理状態と生理反応との関係を理解できるようになる
- (3) 心理状態を測るのに適切な実験手続き・生理指標を選択できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業はグループまたは個別での実習形式で行います。授業に関する疑問・感想を記載したリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業ではそれへのコメントも含めて授業をおこないます。授業内で提出を求めるレポートにはコメントをつけて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の実習の進め方、生理計測機器についての注意事項
第2回	心拍と呼吸を用いた実験：計画の立案	心拍と呼吸を用いた実験計画の立案、刺激や教示など実験に必要な資料の作成
第3回	心拍と呼吸を用いた実験：データ取得	心拍と呼吸を用いた実験計画にもとづく生理データの取得
第4回	心拍と呼吸を用いた実験：データ分析	取得した心拍と呼吸データの分析
第5回	心拍と呼吸を用いた実験：レポート作成	分析した心拍と呼吸データをもとにしたレポートの作成
第6回	皮膚電気活動を用いた実験：計画の立案	皮膚電気活動を用いた実験計画の立案、刺激や教示など実験に必要な資料の作成
第7回	皮膚電気活動を用いた実験：データ取得	実験計画にもとづく皮膚電気活動データの取得
第8回	皮膚電気活動を用いた実験：データ分析	取得した皮膚電気活動データの分析
第9回	皮膚電気活動を用いた実験：レポート作成	分析した皮膚電気活動データをもとにしたレポートの作成
第10回	脳波を用いた実験：計画の立案	脳波の実験計画の立案、刺激や教示など実験に必要な資料の作成
第11回	脳波を用いた実験：データ取得	実験計画にもとづく脳波データの取得
第12回	脳波を用いた実験：データ分析	取得した脳波データの分析
第13回	脳波を用いた実験：レポート作成	分析した脳波データをもとにしたレポートの作成
第14回	まとめ	実習内容の復習、生理データを論文により報告する際の注意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に測定対象とする生理指標の概要や測定方法などを予習しておくことが望ましいです。
- ・授業時間は主に実習と解説に使うため、データの分析やレポートの作成などは授業時間外に実施することがあります。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した資料を配布します。

【参考書】

生理心理学と精神生理学 第Ⅰ・Ⅱ巻 堀忠雄・尾崎久記（監修） 北大路書房

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加（平常点40%）とレポートの内容（60%）から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

実験で取得するデータの分析、レポートの作成などのため、授業中にパソコンを利用することがあります。

【その他の重要事項】

- ・授業の進め方や授業計画、授業目標の説明をしますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。
- ・春学期の生理心理学を受講して、基礎的な知識を学んでいることが望ましいです。
- ・演習という形式上、受講希望者が許容範囲を超える場合は制限を行うことがあります。
- ・オフィスアワー：春・秋学期ともに木曜日3限（BT1109研究室）。訪問希望者は、メール（k.kimura[at]hosei.ac.jp）等で前日までに連絡してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Based on fundamental knowledge of central and peripheral nervous system activity, this course will provide hands-on learning experiences in the application of psychophysiological indicators through the assessment of sleep.

【Learning Objectives】

Students will also develop practical skills by designing research plans, collecting actual data, and analyzing and summarizing the results.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have enough time (more than four hours per a class) for preparation and review.

【Grading criteria/Policy】

Active engagement and participation in class discussions, activities, and exercises will contribute significantly to the overall assessment (40%). For the final assessment, students are required to submit a brief report of the psychophysiological experiment that they performed (60%).

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

言語心理学

福田 由紀

授業コード：A3667 | 曜日・時限：月3/Mon.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒトが文章を読む時に、どのようなことが頭の中で起きているか、言語心理学・脳生理学・認知心理学・教育心理学の研究の成果の知識や見方を得ることが目的です。また、実社会で望まれるスキルである「聞きながらメモを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

【到達目標】

- ①言葉を読むときに何が起きているかに関する心理学的・脳科学的な知識が身につく。
- ②言葉の働きについて、心理学的な見方でできる。
- ③聞きながらメモをとることができる。
- ④階層構造を意識したノートをとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本は講義形式です。教科書は毎時間「使用します！」ので持参してください。適宜、様々な問題について作業をし、その内容を体験したり、グループで討論したりしてもらいます。

また、Hoppiiを通じて、授業の前に宿題の提出、授業後に小テストへの回答をしてください。なお、授業の初めに、提出された宿題の内容に関して、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、言語心理学の研究の対象とその目的	授業の進め方、心的表象の特徴と種類
第2回	言語力の発達	語彙の発達、読み書きの発達の概観
第3回	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション	言葉を使わないコミュニケーションの難しさの体験
第4回	単語認知に影響する要因	心的辞書、認知に影響する要因、材料を統制するとは？
第5回	処理過程からみた単語認知	ボトムアップ処理とトップダウン処理
第6回	文の理解：曖昧性の解消	ガーデンパス文、作業記憶量
第7回	文章の理解：対象と構成された知識	文章の何を理解するのか、読み手の推論の力
第8回	文章理解に影響する要因1：既有知識	物語文法、物語スキーマ
第9回	文章理解に影響する要因2：既有知識	スクリプト、視点
第10回	文章の理解モデル	状況モデル
第11回	状況モデルの新たな展開1：モデルの深まり	最近の状況モデル研究
第12回	状況モデルの新たな展開2：対象の広がり	メタ認知、自己概念、感情
第13回	状況モデルの新たな展開3：日常生活への応用	広告の作成や教育
第14回	期末テストとその解説、まとめ	期末テストの実施とその解説、授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

*次週の授業内容にあわせて短い宿題が出されます。授業前にHoppiiから提出して下さい。

- 第1回 モーラの概念を使えるようにする。
- 第2回 コミュニケーションにおける言葉とそれ以外の割合を考え、書く。
- 第3回 類似語を選定する。
- 第4回 規則語と例外語の例を書く。
- 第5回 ガーデンパス文を修正する。
- 第6回 Sacksの実験材料を読み、質問に答える。
- 第7回 桃太郎の物語の要約を書く。
- 第8回 行間を読むとは具体的にどのようなことを指すかを書く。
- 第9回 Morrow et al.の実験材料である地図を記憶する。
- 第10回 文庫本には行間が空いている箇所がある。その理由を書く。
- 第11回 小説を読んだときの体験を書く。
- 第12回 大学案内と車内広告作成におけるポイントを書く。
- 第13回 期末テストの準備を行い、自己評価する。

*受講した授業の内容に関して、小テストを授業支援システムを通じて行います。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「言語心理学入門－言語力を育てる－」福田由紀編 培風館 2012年

【参考書】

適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点20%（宿題と小テスト）と期末テストの結果を80%として、総合点により決定されます。期末テストの追試は、履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容、自分で教科書を読んだ内容、そして応用問題が問われます。形式は多肢選択式です。

【学生の意見等からの気づき】

「大変工夫していた/工夫していた」が90%越え。「大変理解できた/理解できた」が70%越えてした。様々な学科の人が受講している授業なので、これらの結果は嬉しいです。宿題のFBや小テストがあったために復習がしっかりできたといった声がありました。また、授業内でまとめの時間をとり、その場で自分でまとめたり、確認をする方法が高評価でした。これからも、続けますね。

【その他の重要事項】

【教員の実務経験】

- ・小学校国語教科書編集委員（教育出版）1996年4月1日－2015年3月31日
- ・中央教育審議会初等中等教育分科会言語能力の向上に関する特別チーム 2014年10月21日－2017年2月14日
- ・文化審議会臨時委員（国語分科会）2016年3月20日－2023年3月31日

【実験参加へのお願い】

授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【Outline (in English)】

Course outline：This course introduces various activities of language in terms of psychological perspective.

Learning Objectives：By the end of the course, students should be able to do the following:

- － A. deepen their understanding about psychology of language
- － B. analyze various activities of language in terms of psychological perspective
- － C. take memos while hearing
- － D. take notes organized hierarchically

Learning activities outside of classroom：Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.

Grading Criteria：Your overall grade in the class will be determined based on the following: final examination: 80%, in-class contribution: 20%.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

行動分析学

熊 仁美

授業コード：A3670 | 曜日・時限：木3/Thu.3
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行動分析学は、“行動の予測と制御”を目指す心理学です。これまで明らかにされてきた行動の法則を学ぶことで、多様な社会の課題や個々の困りごとの解決にも応用が可能です。

行動分析学は、社会や個人にとって重要な課題を行動としてとらえ、その原因を個体ではなく、環境との相互作用に求めていきます。この授業では、そういった行動分析学の基本的な考え方を、障害福祉領域の子どもの支援事例を主に取り上げながら学んでいただきます。

ビデオワークやロールプレイおよび事例研究サポートアプリAI-PAC - LAB.を通じ、行動分析学に基づく介入や記録、分析等の疑似体験を行うことで、理論と応用を往復しながら学びを深めることができます。

【到達目標】

○行動分析学における「こころ」や「行動」の考え方について説明ができる。

○基本的な行動原理（強化、弱化、消去、弁別など）や課題分析、ABC分析、AB分析について、概念や用語を説明できるようになる。

○標的行動を具体的に定義し、測定し、記録し、簡単な分析ができるようになる。

○応用的な支援事例について、行動分析学の概念を使って話し合い、討論できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義では、障害福祉領域における子ども支援を中心に、保護者や支援者のトレーニングなどを扱います。具体的には、自閉症の子どもへの早期介入、強度行動障害への対応、学齢期のソーシャルスキルトレーニング、ペアレントトレーニングなどです。

授業に関する連絡、課題へのフィードバックはGoogle Class roomで行います。クラスコードは、学習支援システムで共有します。

模擬事例研究の実施時に、AI-PAC LAB というWEBアプリを活用します。

AI-PAC LAB. https://ai-pac.adds.or.jp/report_users/sign_in

学習支援システム： <https://hoppii.hosei.ac.jp/portal>

Google Classroom (Google クラス)： <https://classroom.google.com/>

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業内容と方法、約束事を説明します。
第2回	こころと行動の区別	・こころと行動について行動分析の見方を学びます。
第3回	行動随伴性の基礎	・個人攻撃の罠について学びます。
第4回	行動随伴性の基礎	・生得性・習得性好みと嫌子の定義を学びます。
第5回	行動の形成	・基本的な行動随伴性の特に強化と弱化について学びます。
第6回	行動の形成	・課題分析の手法を学びます。
第7回	ABC分析#1	・新しい行動レパートリーを教えるシェイピングを学びます。
第8回	ABC分析#2	・行動の制御変数を見つける機能的分析、ABC分析の手法を学びます。
第9回	AB分析#1	・行動の制御変数を見つける機能的分析、ABC分析の手法を学びます。
第10回	AB分析#2	・オペラントとレスポナントの区別について学びます。情動の条件づけや消去、系統的脱感作法について学びます。
第11回	ABC分析#3	・オペラントとレスポナントの区別について学びます。情動の条件づけや消去、系統的脱感作法について学びます。
		・模擬事例をつかった仮想研究のデータや分析を行います。
		・ABC分析を用いて行動を制御している変数を見つけ、介入する方法について学びます。
		・模擬事例をつかった仮想研究のデータや分析を行います。

第12回	行動観察法	・インターバル記録法とタイムサンプリング記録法について学びます。
第13回	実験計画法	・模擬事例をつかった仮想研究のデータや分析を行います。
第14回	まとめ	・行動分析学の実験計画法について学びます。
		・模擬事例をつかった仮想研究について発表します。
		・行動分析学の考え方のまとめと確認を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げる内容に関連して、予習課題が出る場合があります。

最終回までに、模擬事例の研究レポートを作成し提出します。

本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

○『行動分析学入門（第2版）』杉山ら 2023年 産業図書

【参考書】

○『使える行動分析学—じぶん実験のすすめ—』島宗 理（著）2014年 ちくま書房

○『人は、なぜ約束の時間に遅れるのか—素朴な疑問から考える「行動の原因」—』島宗 理（著）2010年 光文社新書

○『パフォーマンス・マネジメント—問題解決のための行動分析学— 第2版』島宗 理（著）2022年 米田出版

*教科書は第2版を使います。ご注意ください○『行動の基礎—豊かな人間理解のために—』小野浩一（著）2016年（改訂版）培風館

○『行動分析学事典』一般社団法人日本行動分析学会（編）. 2019年 丸善出版

【成績評価の方法と基準】

○課題の遂行度（60%）およびテストの得点（40%）から成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムやGoogleクラスへのアクセスや課題の作成、提出などにPCやスマホ/タブレットを利用します。

【その他の重要事項】

○本授業では、応用行動分析学の専門家として障害福祉領域での当事者、家族支援、機関コンサルテーション等を提供している担当者が、その経験を活かした講義をします。

【Outline (in English)】

【Outline】

Behavior analysis views important social and individual issues in terms of behavior and seeks to understand their causes through interactions with the environment rather than within the individual. Through video exercises and role-playing, you will engage in simulated experiences of interventions, recording, and analysis based on behavior analysis. This hands-on approach will help deepen your understanding by connecting theory with practical application.

【Learning Objectives】

In this course, you will learn the fundamental concepts of behavior analysis by examining case studies of children receiving support in the field of disability welfare.

【Learning activities outside of classroom】

There may be homework assignments.

By the final round, participants will create and submit a research report on a mock case.

The average preparation and review time for this class is two hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade in this class will be decided based on the following: Class participation (40%) and task completion (60%).

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

対人認知論

太田 碧

授業コード：A3671 | 曜日・時限：火 1/Tue.1
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分と他者との関係において、判断や推論などを用いてどのように他者を認識し、印象を形成するかを理解することがこの授業の目的です。対人認知における心理学の各理論を学び、社会という集団での対人コミュニケーションを改めて心理学的に捉えなおすことで、実際の対人場面で活かせるような知識を身につけます。

【到達目標】

- 1. 対人認知における心理学の基礎的な知識を身につけ、説明できるようになる。
- 2. 社会や身近な対人関係についての現象を、学んだ知識を元に解釈し、説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

心理学実験による古典的な対人印象形成の基本的な枠組みからはじめ、さらに顔、魅力など身近な対象の認知について学びます。授業は講義形式で進めます。授業中には周囲の人と簡単なグループワークをする場合があります。授業前・授業後にそれぞれ予習課題と復習課題に学習支援システムで取り組みます。またレポート課題に取り組むことで、得た知識を整理しアウトプットする練習をします。リアクションペーパーやレポート課題のフィードバックは、翌週の授業内で学習支援システムでおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法と基準の説明、心理学における対人認知論の概要
第2回	印象形成の理論と研究（1）	中心特性や周辺特性など、対人認知の古典的研究
第3回	印象形成の理論と研究（2）	認知による印象形成、既有知識や個人差の影響
第4回	対人印象形成（1）	おもに第一印象の形成について、対人認知のモデルや正確さ
第5回	対人印象形成（2）	印象形成に関わる推論・原因帰属など
第6回	親密化過程	人同士が互いに親しくなる過程の段階理論
第7回	ステレオタイプ（1）	ステレオタイプはどのように形成されるか
第8回	ステレオタイプ（2）	形成されたステレオタイプはどのように維持・変容するか
第9回	態度・行動	態度の形成・変容・行動との関係
第10回	対人魅力	魅力を形成する要因
第11回	対人認知における顔（1）	顔の認知、顔から推測する性格特性など、印象を規定するさまざまな要因
第12回	対人認知における顔（2）	顔の魅力を規定するさまざまな要因
第13回	対人認知における装い	化粧・服装・髪などの効果
第14回	まとめ	紹介した理論をもとに対人認知についてあらためて概観する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにて予習課題を提示するので、期限内に取り組み、疑問点や事例を整理してから授業に臨んでください。毎回授業後には学習支援システムにて復習課題を提示するので期限内に取り組んでください。その他、適宜予習復習をおこなってください。中間・期末の2回レポート課題の提出があるので、作成し期限までに提出してください。授業内で学習した内容を複数提示するので、レポートの題材はその中から選択してください。本授業の準備・復習時間の標準は各2時間となります。参考文献にあたる、身近な事例について学んだ理論を用いて考察するなど、知識を深めることを推奨します。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。毎回資料を配布します。

【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習課題・復習課題・授業参加）40％、中間レポート課題20％、期末レポート課題40％。レポート課題2回の提出が成績評価の前提です。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは、フィードバックが多くてよかった・具体例があった・わかりやすかった等の回答がありました。引き続き、身近な例を心理学的視点から理解・説明できるような内容で授業を運営していきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布と課題提出は学習支援システムにておこないます。

【Outline (in English)】

Course outline:

This course introduces a theory of the interpersonal recognition using judgment and reasoning to students taking this course. This course deals with the psychological theories of interpersonal communication in the social group. It also enhances the development of students' knowledge that can be applied in real interpersonal situations.

Learning Objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1. Acquire and explain basic knowledge of psychology in interpersonal cognition.
- 2. Interpret and explain phenomena related to society and familiar interpersonal relationships based on the knowledge learned.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to prepare using the distributed materials and review them after the class. Your study time will be more than 2 hours for both before and after each class.

Grading Criteria /Policy:

In-class contribution 40％, reports 60％. Attend at least 2/3 of all class sessions.

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

科学哲学 I

木島 泰三

授業コード：A3672 | 曜日・時限：月2/Mon.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「近代科学と目的論」をテーマとする。よく知られているように、17世紀科学革命はアリストテレスの「目的論的自然観」を根底から掘り崩す自然観の変動、すなわち「機械論的自然観」の成立をもたらした。だが、自然に対する目的論的な見方は直ちに消滅したわけではなく、「デザイン神学」に基づく自然神学やさまざまな生気論的思想としてその後も生き延びた。ダーウィンの自然選択説はデザイン神学を凋落させ、生命現象の目的論的説明を不要にしたが、それは同時に「目的論の自然化」を可能にし、現代進化生物学における「適応主義」という研究プログラムを可能にした。そして現在、このような適応主義プログラムは人間の心における「真の意味での」目的論的思考活動の「自然化」を射程に入れ始めている。本講義では、このような目的論的自然観と近代科学との複雑な関係を歴史的な経過を追う中で概観し、考察していくことを目指すものである。

【到達目標】

到達目標は次の2点である：

- (1) 講義で取り上げた科学史の事項やそれと関連する哲学的諸問題について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、上記の事項および諸問題に関して、各種資料の裏付けに支えられた自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後学習支援システムを通じて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。学期末にはレポート提出を求める。レポートは最終の授業の後、受講後学習支援システムから受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講師の自己紹介、授業の進め方や成績評価などの説明、授業の概要など
第2回	神話から哲学への移行と心のモジュール構造/ソクラテス以前の自然哲学	「神話から哲学へ」と称される古代ギリシャにおける哲学的／科学的思考の誕生を、現代における認知宗教科学（CSR）の知見をベースに考察する。続いて古代ギリシャの初期自然哲学を概観する
第3回	デモクリトスとプラトン	イオニア自然哲学の一つの頂点としてのデモクリトスの原子論と、その後に登場したソクラテス・プラトンによるそれへの反動を見ていく
第4回	アリストテレスの目的論的自然観(1)	師プラトンの神話的自然学を科学的な目的論的自然観へと構築し直したアリストテレス自然学を見ていく
第5回	アリストテレスの目的論的自然観(1)／ストア派とエピクロス派	引き続きアリストテレス自然学を見ていき、その後、目的論的自然観について対照的な立場をとったストア派とエピクロス派の自然哲学を概観する
第6回	中世の思想と17世紀科学革命	中世思想のいくつかの重要なトピックを概観した上で、17世紀科学革命の概観を示す
第7回	デカルトによる機械論的自然観の哲学的基礎づけ	17世紀科学革命の成果を体系化し、機械論的自然観を哲学的に基礎づけたデカルトの形而上学を概観する
第8回	ライブニッツとニュートンの論争	デカルト主義的機械論をベースにしたつつ、なおも目的論的自然観の延命をはかる2つの路線としての「デザイン論」と「生気論」の初期の代表者としてのライブニッツとニュートンの論争を見ていく

第9回	ヒューム『自然宗教をめぐる対話』に見られるデザインの問題	ダーウィンに先立つ時代において自然目的論の問題を徹底して思索した哲学者ヒュームの『対話』を、当時の論争状況の批判的概観として読み解く
第10回	ダーウィンの自然選択説(1)	ダーウィン『種の起原』の前身とその核心に位置する自然選択説の内容を詳しく見ていく
第11回	ダーウィンの自然選択説(2)	引き続き、自然選択説について、それへのありがちな誤解の検討などを中心に見ていく
第12回	「ダーウィニズムの失墜」から総合説の成立、その背景となる生命観の変遷	ダーウィン以降に生じた「ダーウィニズムの失墜」と、その後の「総合説」の成立を、近代的生気論の歴史と共に見ていく
第13回	現代における「目的論の自然化」のさらなる動向	ダーウィンがもたらした「目的論の自然化」を補完する、分子生物学や「認知革命」などによる機械論的自然観の現代的勝利の経過を追う
第14回	社会生物学論争と進化論的人間観の哲学的考察	1980年代以降の「社会生物学論争」とそれ以降確立しつつある現代の進化論的人間観の歴史的な経過の学びとその哲学的考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講後学習支援システムを用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。

講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に進めてもよい）。

講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。特にレポート準備においてはこれら講義外での調査や学習も重要になる。

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間（計4時間）を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、主要な参考書として、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）、ピーター・J・ボウラー『進化思想の歴史（上・下）』（朝日選書）、ピーター・J・ボウラー『ダーウィン革命の神話』（朝日新聞出版）、ウリカ・セーゲルストローレ『社会生物学論争史——誰もが真理を擁護していた（1・2）』（みすず書房）、キース・E・スタノヴィッチ『the ROBOT'S REBELLION ロボットの反逆』（ダイヤモンド社）など（なお、挙げた本の中には新刊が品切れのものもある）。

【成績評価の方法と基準】

各講義の受講確認課題により、「到達目標」(1)の到達度の評価、および、平常の受講態度の評価を行う(30%)。加えて、期末レポートによる(2)の到達度の評価を行う(70%)。

【学生の意見等からの気づき】

板書をなるべく整理して書くこと、急がず落ち着いて語ることを心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

受講確認課題、および期末レポートの提出のため、受講後学習支援システムにアクセス可能な端末が必要となる。講義資料をPDFファイルで配布する場合があります、pdf閲覧できる環境が望ましいが、できない場合は相談に応じる。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline:

Our theme is "Modern science and teleology". As is well known, the scientific revolution of the 17th century brought about a change in the view of nature that undermined Aristotelian teleological view of nature and the establishment of a mechanistic view of nature. However, the teleological view of nature did not immediately disappear, but survived thereafter as natural theology based on "design argument" and various vitalistic theories. Darwin's theory of natural selection caused the fall of design theology, rendering teleological explanations unnecessary, but it also made possible the "naturalization of teleology" and the research program of "adaptationism" in modern evolutionary biology. And now, such an adaptationist program is beginning to include the naturalization of "truly" teleological activity in the human mind. This lecture aims to review and discuss the complex relationship between such an teleological view of nature and modern science over the course of history.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through internet and to understand the course content if you would feel uncompleted. You are also expected to read relevant literature especially for your term-end report. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (70%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(30%) .

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

科学哲学Ⅱ**中釜 浩一**

授業コード：A3673 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：自己と自己知。

「自己の正体と自己知の本性」の問題は、多くの哲学者を悩ませてきた難問の一つである。この問題に対するデカルト以降の代表的哲学者達の見解を現代的視点から検討することで、「自己」の問題への洞察を深める。

【到達目標】

「自己とは何か」に関する哲学者達の議論を理解し、「自己について知るとはどういうことか」を考える際の哲学的論点を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義とそれに対する学生からの疑問・質問、およびその解答によって議論を進める。

授業の冒頭で前回の小課題の解説、質問・疑問への解答をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	「自己」はなぜ哲学の問題となるのか
第2回	デカルトと自己（1）	「自己」と確実な知識
第3回	デカルトと自己（2）	実体としての「自己」
第4回	ロックと自己（1）	自己の同一性の問題
第5回	ロックと自己（2）	身体と記憶
第6回	バークリーと自己（1）	観念論と自己
第7回	バークリーと自己（2）	想像力と自己
第8回	ヒュームと自己（1）	「自己」の知覚不可能性
第9回	ヒュームと自己（2）	「自己」の非存在
第10回	現代哲学と自己（1）	ウィトゲンシュタインの議論（1）
第11回	現代哲学と自己（2）	ウィトゲンシュタインの議論（2）
第12回	現代哲学と自己（3）	パーフィットの議論
第13回	現代哲学と自己（4）	シュメールカーの議論
第14回	まとめ	自己について何が解けていないのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に課された小課題をHoppii上で提出する。

デカルト、ロック、バークリー、ヒューム、ウィトゲンシュタインらの著作から「自己」に関する議論を読んでおく。

本講義の準備復習時間は、毎回4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

デカルト「省察」、ロック「人間知性論」、バークリー「人知原理論」、ヒューム「人間本性論」、ウィトゲンシュタイン「哲学探究」など。

【成績評価の方法と基準】

毎回の小課題の提出70%、期末レポート30%

【学生の意見等からの気づき】

学生の疑問点には可能な限り答える。

【Outline (in English)】

Theme: Self and Self-knowledge

Problems of the Self and Self-knowledge is one of the most difficult philosophical problems which have puzzled many great philosophers over the centuries. We will discuss some of main positions since Descartes, and deepen our insight concerning our own Self.

Learning activities outside of classroom: After each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the content and to write the short paper on the topic of the day.

Grading Criteria: assignments 70% term-end test: 30%

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

人工知能

市瀬 龍太郎

授業コード：A3674 | 曜日・時限：火4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人工知能とは知能の仕組みを機械で実現する学問です。この授業では、人間の知能を機械で実現する方法を通して、人間の知能を考えていきます。

【到達目標】

人工知能を通して、人間や機械の知能の仕組み、考え方についての説明ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

人工知能の仕組みを紹介することによって、人間の知能と機械の知能（人工知能）の共通点、相違点についての理解を深め、知能について考えていきます。授業は、主に講義形式で行います。また、適宜、ビデオなどの視聴覚教材も使用します。授業の最後に小テストを行い、次の授業時に、その回答からいくつか取り上げ、全体にフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人工知能とは？	人工知能の概要
第2回	人工知能の研究分野	人工知能研究全体像の概観
第3回	知的エージェント	人間の知能がいかにして機械で実現可能かを議論
第4回	認知アーキテクチャ	知的動作を実現するための内部構造を解説
第5回	問題解決・探索	問題解決を行う方法を解説
第6回	ゲーム	知能の一つとしてゲームを取り上げ、機械の知能の実現方法を解説
第7回	中間まとめ	人工知能の授業についての中間まとめ
第8回	推論	論理を使った思考方法について解説
第9回	知識の表現	知識の表現方法について解説
第10回	機械学習	機械が学習する手法について解説
第11回	データマイニング	データからの知識発見手法について解説
第12回	自然言語処理	言語をどのように機械が理解するかについて解説
第13回	人工知能と社会	人工知能技術の応用と社会的影響について解説
第14回	まとめ	人工知能の授業についてのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の内容に応じて、文献調査、復習のためのレポート作成などの課題を行う。本授業の学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

人工知能 改訂2版、本位田監修、松本、宮原、永井、市瀬著、オーム社、2016
その他、授業の内容に則して、適宜、参考文献を紹介します。

【参考書】

エージェントアプローチ人工知能、第2版、Russellら著、古川監訳、共立出版、(2008)

【成績評価の方法と基準】

授業中の小テスト（30％）、レポート課題（30％）、期末試験またはレポート（40％）の合計により評価。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容・配布資料の改善、および、授業における復習の強化。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを閲覧できる環境、および、学習支援システムに投稿できる文書の作成環境

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of artificial intelligence. The goal of this course is for students to be able to explain the mechanisms and concepts of human and machine intelligence through artificial intelligence. Students will be required to do a literature survey or write a report according to the content of the class. Your study time will be more than four hours for a class. Evaluation will be based on the total of quizzes in class (30%), report assignments (30%), and final exam or report (40%).

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

情報処理技法 I

[W組]

山口 剛

授業コード：A3675 | 曜日・時限：水3/Wed.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目（情報処理技法I）は、心理学を専攻する学生がレポートや卒業論文をはじめ、様々な課題の遂行や実験・調査の実施にあたって必要な情報処理の技法を習得することを目的とする。具体的に、Microsoft Office Word, Excel, Power Point の操作方法について、必要な技法を習得しようとする。必要な技法とは、レポートや卒業論文の執筆時には日本心理学会が発行する『心理学研究の執筆・投稿の手引き』が求めるページ設定や作表・作図の方法である。この技法は調査や実験を行う際、あるいはその準備段階においても十分に役立てることができる。なお、受講生のPC環境や希望によっては、情報リテラシーなどにも触れる可能性がある。（上述のように習得を目指す技法は心理学の研究に特化します。そのため、基本的なMicrosoft Officeの各アプリケーションの多様な使用法を知りたい場合は、他の情報処理に関する科目を履修することをお勧めします。）

【到達目標】

心理学におけるレポートの作成および卒業論文の執筆や課題への取り組み、あるいは実験や調査の実施およびその準備に際して、Microsoft Officeの各アプリケーションを組み合わせることで適切に用いることができる。加えて、上記の作業中に起こりえるトラブルを適切に対処できる。詳細は以下の通りである。
＜Word＞
ページのレイアウトや詳細な設定を適切に行うことができる。また、ExcelやPowerPointで作成した図表を適切に添付することができる。
＜Excel＞
基本操作を身につけ、実験や調査の準備に用いることができる。そして、実験あるいは調査で得られたデータについて、適切な形成や処理を行うことができる。また、処理の結果を表や図で表現することができる。
＜PowerPoint＞
プレゼンテーションの基礎を理解し、自身のプレゼン内容を適切に表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

動画と対面の両方を活用して授業は展開される。受講者は該当授業前に、予習動画を通して、基本的な操作とその操作の根拠や理論的な背景を学習する。授業時間中には応用的な操作への取り組みや、基本操作の確認など、知識・技術の向上と定着が目的とした演習が行われる。各授業の課題は原則的に次の授業までに採点し、受講生が自分の採点結果を参照できるように準備される。また、授業後の感想や質問などは匿名にしてまとめられ、次の授業の冒頭でフィードバックされる。教室での授業時間では、受講生は以下のように準備してください。まず、授業開始時刻までにはPCの電源を立ち上げるようにしてください。100分のうち、少なくとも40分は演習の時間に充てたいと思います。その他の時間帯は、授業担当者による解説やデモンストレーション、あるいは共に手続きを確認します。授業時間内の演習の時間に出された課題が終えられなかった場合は、時間外に取り組み、定められた期限までに終えて提出するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業進行などの確認、初歩的な情報リテラシーの確認
第2回	Word 1: 論文とは何か、基本操作	Wordの基本操作の確認、論文とレポートについて
第3回	Word 2: 論文作成に用いる機能	ページレイアウト、スタイル、ページ番号など
第4回	Word 3: 論文作成に用いる機能の応用	図表の作成・挿入など
第5回	Word 4: 機能の確認	前3回分の機能の総括
第6回	Excel 1: 基本操作	数式の挿入、関数とは、オートフィルなど
第7回	Excel 2: 参照と関数	相対参照と絶対参照、複合参照、よく使う関数
第8回	Excel 3: 実験や調査に用いる関数	統計に関わる関数、擬似ランダムなど
第9回	Excel 4: データセットの形成と処理	データセットとは何か、フィルターなど
第10回	Excel 5: 作図と作表	論文に適切な図表の形、用いる機能の確認

第11回	Excel 6: Wordとの連携	先に学習したWordにExcelの機能を反映させる
第12回	Power Point 1: プレゼンテーション基礎	プレゼンテーションとは何か、基本操作と注意点
第13回	Power Point 2: Word, Excelとの連携	先に学習したアプリケーションとの連携確認
第14回	まとめ	半期の振り返りとレポートの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業内容や作業に必要なスキルの解説を動画で公開するため、該当する授業の前に動画による予習が必要である。また、「セメスター課題」もあるため（下記、成績評価の方法と基準、を参照のこと）、授業内課題に関する復習を求める。また、すでに他の科目で学習している内容を活用する機会もあるので、その際には予習として今一度履修した科目の内容を復習するように求めることもある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準としている。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

特に指定しない。必要な場合は随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・授業内課題（40%）：毎回の授業中、あるいは授業中に終えられなかった場合は指定の期間までに提出を求める。どのような課題かは、各授業で伝えられる。たとえ授業に出席していなくても、提出は認めることができる。なお、課題の提出の際に、感想も求められ、感想が付随していない課題は採点されない。
・セメスター課題（60%）：本科目「情報処理技法I」で学んだことを総合して用いる課題となる。提出期日の一ヶ月前までに詳細な内容が受講者に伝えられる。一部、対面時にしか取り上げない内容が含まれる。
注）4回分以上「授業内課題」を提出しなかった場合、「セメスター課題」を提出しなかった場合、これらのいずれかに当てはまった際には成績評価の対象外となります（つまりE判定です）。

【学生の意見等からの気づき】

教室のPC環境と受講生のPC環境が異なることが多かったため、動画を導入しました。また、授業の進め方が早いとの意見と、遅いとの意見が毎年みられます。得意不得意があると思うので、授業外でも授業のことを復習できるような資料を配付して対応するようにしています。

【学生が準備すべき機器他】

成果物としてファイルの提出があります。そのため、ファイルの管理が必要となります。Googleドライブなどについても知っておくと良いでしょう。

【その他の重要事項】

教室の関係で定員があります。万が一履修希望者が定員を超えた場合は、初回の授業に参加した方を優先します。それでも定員を超える場合は抽選を行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to acquire knowledge of information processing techniques for psychology reports and graduation theses. In the spring semester, students will learn how to use Microsoft (R) Office Word, Excel and Power Point. Techniques to be instructed are, for example, page setting, drawing and tabulation methods required by The JPA (Japanese Psychological Association) Publication Manual.

【Learning Objectives】

In this course, students are expected to be able to utilize Microsoft Office appropriately in writing reports and theses in psychology, and in conducting experiments and surveys. In addition, students should be able to deal with problems that may occur during these tasks.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to watch the video as a preliminary study and acquire basic knowledge and basic skills. Students are also expected to review the assignments they have worked on during class time. In addition, there will be opportunities to use content already learned in other courses, so students may be asked to review the content of the courses they have taken once again as preparation for those courses. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. 【Grading Criteria /Policy】

In-class assignments (40%): These are due during each class, or by the specified time if they cannot be completed during the class. The type of assignment will be announced in each class. Even if you do not attend the class, you will be allowed to submit your work. In addition, you will be asked to submit your comments on the "In-class activities" described above in the form of an attachment to this assignment. Final assignment (60%): The assignment will be to synthesize what you have learned in this course, "Information Processing Techniques I". Detailed information will be provided at least one month prior to submission.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）
情報処理技法 I
【X組】
山口 剛
授業コード：A3676 曜日・時限：水4/Wed.4 春学期授業/Spring・2単位 配当年次：2～4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目（情報処理技法I）は、心理学を専攻する学生がレポートや卒業論文をはじめ、様々な課題の遂行や実験・調査の実施にあたって必要な情報処理の技法を習得することを目的とする。具体的に、Microsoft Office Word, Excel, Power Point の操作方法について、必要な技法を習得しようとする。必要な技法とは、レポートや卒業論文の執筆時には日本心理学会が発行する『心理学研究の執筆・投稿の手引き』が求めるページ設定や作表・作図の方法である。この技法は調査や実験を行う際、あるいはその準備段階においても十分に役立てることができる。なお、受講生のPC環境や希望によっては、情報リテラシーなどにも触れる可能性がある。（上述のように習得を目指す技法は心理学の研究に特化します。そのため、基本的なMicrosoft Officeの各アプリケーションの多様な使用法を知りたい場合は、他の情報処理に関する科目を履修することをお勧めします。）

【到達目標】

心理学におけるレポートの作成および卒業論文の執筆や課題への取り組み、あるいは実験や調査の実施およびその準備に際して、Microsoft Officeの各アプリケーションを組み合わせ適切に用いることができる。加えて、上記の作業中に起こりえるトラブルを適切に対処できる。詳細は以下の通りである。
< Word >
ページのレイアウトや詳細な設定を適切に行うことができる。また、ExcelやPowerPointで作成した図表を適切に添付することができる。
< Excel >
基本操作を身につけ、実験や調査の準備に用いることができる。そして、実験あるいは調査で得られたデータについて、適切な形成や処理を行うことができる。また、処理の結果を表や図で表現することができる。
< PowerPoint >
プレゼンテーションの基礎を理解し、自身のプレゼン内容を適切に表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

動画と対面の両方を活用して授業は展開される。受講者は該当授業前に、予習動画を通して、基本的な操作とその操作の根拠や理論的な背景を学習する。授業時間中には応用的な操作への取り組みや、基本操作の確認など、知識・技術の向上と定着が目的とした演習が行われる。各授業の課題は原則的に次の授業までに採点し、受講生が自分の採点結果を参照できるように準備される。また、授業後の感想や質問などは匿名にしてまとめられ、次の授業の冒頭でフィードバックされる。教室での授業時間では、受講生は以下のように準備してください。まず、授業開始時刻までにはPCの電源を立ち上げるようにしてください。100分のうち、少なくとも40分は演習の時間に充てたいと思います。その他の時間帯は、授業担当者による解説やデモンストレーション、あるいは共に手続きを確認します。授業時間内の演習の時間に出された課題が終えられなかった場合は、時間外に組み、定められた期限までに終えて提出するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】	授業形態：対面/face to face	
回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業進行などの確認、初歩的な情報リテラシーの確認
第2回	Word 1: 論文とは何か、基本操作	Wordの基本操作の確認、論文とレポートについて
第3回	Word 2: 論文作成に用いる機能	ページレイアウト、スタイル、ページ番号など
第4回	Word 3: 論文作成に用いる機能の応用	図表の作成・挿入など
第5回	Word 4: 機能の確認	前3回分の機能の総括
第6回	Excel 1: 基本操作	数式の挿入、関数とは、オートフィルなど
第7回	Excel 2: 参照と関数	相対参照と絶対参照、複合参照、よく使う関数
第8回	Excel 3: 実験や調査に用いる関数	統計に関わる関数、擬似ランダムなど
第9回	Excel 4: データセットの形成と処理	データセットとは何か、フィルターなど
第10回	Excel 5: 作図と作表	論文に適切な図表の形、用いる機能の確認

第11回	Excel 6: Wordとの連携	先に学習したWordにExcelの機能を反映させる
第12回	Power Point 1: プレゼンテーション基礎	プレゼンテーションとは何か、基本操作と注意点
第13回	Power Point 2: Word, Excelとの連携	先に学習したアプリケーションとの連携確認
第14回	まとめ	半期の振り返りとレポートの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業内容や作業に必要なスキルの解説を動画で公開するため、該当する授業の前に動画による予習が必要である。また、「セメスター課題」もあるため（下記、成績評価の方法と基準、を参照のこと）、授業内課題に関する復習を求める。また、すでに他の科目で学習している内容を活用する機会もあるので、その際には予習として今一度履修した科目の内容を復習するように求めることもある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準としている。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

特に指定しない。必要な場合は随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・授業内課題（40%）：毎回の授業中、あるいは授業中に終えられなかった場合は指定の期間までに提出を求める。どのような課題かは、各授業で伝えられる。たとえ授業に出席していなくても、提出は認めることができる。なお、課題の提出の際に、感想も求められ、感想が付随していない課題は採点されない。
・セメスター課題（60%）：本科目「情報処理技法I」で学んだことを総合して用いる課題となる。提出期日の一ヶ月前までに詳細な内容が受講者に伝えられる。一部、対面時にしか取り上げない内容が含まれる。
注）4回分以上「授業内課題」を提出しなかった場合、「セメスター課題」を提出しなかった場合、これらのいずれかに当てはまった際には成績評価の対象外となります（つまりE判定です）。

【学生の意見等からの気づき】

教室のPC環境と受講生のPC環境が異なることが多かったため、動画を導入しました。また、授業の進め方が早いとの意見と、遅いとの意見が毎年みられます。得意不得意があると思うので、授業外でも授業のことを復習できるような資料を配付して対応するようにしています。

【学生が準備すべき機器他】

成果物としてファイルの提出があります。そのため、ファイルの管理が必要となります。Googleドライブなどについても知っておくと良いでしょう。

【その他の重要事項】

教室の関係で定員があります。万が一履修希望者が定員を超えた場合は、初回の授業に参加した方を優先します。それでも定員を超える場合は抽選を行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to acquire knowledge of information processing techniques for psychology reports and graduation theses. In the spring semester, students will learn how to use Microsoft (R) Office Word, Excel and Power Point. Techniques to be instructed are, for example, page setting, drawing and tabulation methods required by The JPA (Japanese Psychological Association) Publication Manual.

【Learning Objectives】

In this course, students are expected to be able to utilize Microsoft Office appropriately in writing reports and theses in psychology, and in conducting experiments and surveys. In addition, students should be able to deal with problems that may occur during these tasks.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to watch the video as a preliminary study and acquire basic knowledge and basic skills. Students are also expected to review the assignments they have worked on during class time. In addition, there will be opportunities to use content already learned in other courses, so students may be asked to review the content of the courses they have taken once again as preparation for those courses. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. 【Grading Criteria / Policy】

In-class assignments (40%): These are due during each class, or by the specified time if they cannot be completed during the class. The type of assignment will be announced in each class. Even if you do not attend the class, you will be allowed to submit your work. In addition, you will be asked to submit your comments on the "In-class activities" described above in the form of an attachment to this assignment. Final assignment (60%): The assignment will be to synthesize what you have learned in this course, "Information Processing Techniques I". Detailed information will be provided at least one month prior to submission.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

情報処理技法Ⅱ

【W組】

山口 剛

授業コード：A3677 | 曜日・時限：水3/Wed.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、心理学を専攻する学生がレポートや卒業論文をはじめ、様々な課題の遂行や実験・調査の実施にあたって必要な情報処理の技法を習得することを目的とする。具体的に、無料の心理学実験実施ソフトウェア（例えばlab.js, jsPsych など）、および無料の統計解析ソフトウェア（例えばJASP, R など）あるいはアプリケーションの操作に必要な技法を習得しようとする。また、実験に関して学ぶ内容は、調査においても用いることができる。なお、受講生のPC環境や希望によっては、情報リテラシーなどにも触れる可能性がある。（扱う内容は実験や調査、統計解析に関する科目を履修していなくても理解できるようにします。が、その他の科目を履修することで理解がより深まると予想されます。）

【到達目標】

心理学におけるレポートの作成および卒業論文の執筆や課題への取り組み、あるいは実験や調査の実施およびその準備に際して、各アプリケーションを適切に用いることができる。また、設定のミスなどに自らが気づくことができ、適切に対処することができる。詳細は以下の通りである。

＜実験作成・実施ソフトウェア（lab.js など）＞

適切な実験計画を立て、その計画をアプリケーション上に適切に反映することができる。

（lab.jsは視覚的に操作をして実験計画を組むことが可能な、比較的自由度の高いソフトウェアです。卒業論文のレベルで実施できるような技術の習得を目指します。）

＜統計解析ソフトウェア（JASP など）＞

研究目的やデータに適切な分析を実施することができる。また、その結果を適切な形式や表現で報告することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

動画と対面の両方を活用して授業は展開される。受講者は該当授業前に、予習動画を通して、基本的な操作とその操作の根拠や理論的な背景を学習する。授業時間中には応用的な操作への取り組みや、基本操作の確認など、知識・技術の向上と定着が目的とした演習が行われる。各授業の課題は原則的に次の授業までに採点し、受講生が自分の採点結果を参照できるように準備される。また、授業後の感想や質問などは匿名にしてまとめられ、次の授業の冒頭でフィードバックされる。

教室での授業時間では、受講生は以下のように準備してください。まず、授業開始時刻までにはPCの電源を立ち上げるようにしてください。100分のうち、少なくとも40分は演習の時間に充てたいと思います。その他の時間帯は、授業担当者による解説やデモンストレーション、あるいは共に手続きを確認します。授業時間内の演習の時間に出された課題が終えられなかった場合は、時間外に取り組み、次の授業までに終えて提出するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとソフトウェアの導入	授業進行とソフトウェアの導入などの確認
第2回	（実験）実験の技法と注意点	実験とは何か、その注意点、どのような機能があるか
第3回	（実験）刺激の作成	刺激の準備とその留意点、刺激ファイルの取り込み
第4回	（実験）実験に必要な「操作」	操作とは何か、その注意点、実験ファイルに操作を反映する
第5回	（実験）分岐の手続	反応によって実験の進行が分岐する手続を作成する
第6回	（統計）記述統計の出し方	統計量を把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する
第7回	（統計）相関分析と回帰分析	相関と回帰について把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する
第8回	（統計）平均値の比較と一般線形モデル	平均値の比較の方法について把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する。また、回帰分析との対応も確認する。
第9回	（統計）偏相関と重回帰分析	重回帰分析の方法について把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する

第10回	（統計）分散分析と主効果	分散分析とは何か、どのようなときに使うのかを把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する。また一般線形モデルについても再度確認する。
第11回	（統計）分散分析と交互作用効果	分散分析における交互作用効果を把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する
第12回	（統計）分散分析の応用	実験計画に沿う分散分析の応用について把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する
第13回	（統計）因子分析と構造方程式モデリング	探索的因子分析とは何か、測定方程式と構造方程式は何かを把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する
第14回	まとめ	半期の振り返りとレポートの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当該授業前に、基礎知識や基本的なスキルを解説した動画を視聴し、課題に取り組むことを求める。また、「セメスター課題」もあるため（下記、成績評価の方法と基準、を参照のこと）、授業内課題に関する復習も求める。すでに他の科目で学習している内容を活用する機会もあるので、その際には予習として今一度履修した科目の内容を復習するように求めることもある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準としている。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

特に指定しない。必要な場合は随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・授業内課題（40%）：毎回の授業中、あるいは授業中に終えられなかった場合は指定の期間までに提出を求める。どのような課題かは、各授業で伝えられる。たとえ授業に出席していなくても、提出は認めることができる。なお、課題の提出の際に、感想も求められる。

・セメスター課題（60%）：本科目「情報処理技法Ⅱ」で学んだことを総合して用いる課題となる。提出期日の一ヶ月前までに詳細な内容が受講者に伝えられる。対面時にのみ取り上げる内容が含まれる。

注）4回分以上「授業内課題」を提出しなかった場合、「セメスター課題」を提出しなかった場合、これらのいずれかに当てはまった際には成績評価の対象外となります（E判定となります）。

【学生の意見等からの気づき】

教室のPC環境と受講生のPC環境が異なることが多かったため、動画を導入しました。また、授業の進め方が早いとの意見と、遅いとの意見が毎年みられます。得意不得意があると思うので、授業外でも授業のことを復習できるような資料を配付して対応するようにしています。

【学生が準備すべき機器他】

成果物としてファイルの提出があります。そのため、ファイルの管理が必要となります。Googleドライブなどについても知っておくと良いでしょう。

【その他の重要事項】

教室の関係で定員があります。万が一履修希望者が定員を超えた場合は、初回の授業に参加した方を優先します。それでも定員を超える場合は抽選を行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to acquire knowledge of information processing techniques for psychology reports and graduation theses. In the fall semester, students will learn how to use lab.js which can visually construct experiments and JASP (or R) which can perform statistical analysis visually. Techniques to be instructed are, for example, control of stimulus (by lab.js), ANOVA, multiple regression analysis, and exploratory factor analysis (by JASP).

【Learning Objectives】

In this course, students are expected to be able to conduct experiments and surveys in psychology, and to analyze the data, using appropriate experimental and statistical applications. Students are also expected to be able to recognize errors in settings and to take appropriate action.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to watch the video as a preliminary study and acquire basic knowledge and basic skills. Students are also expected to review the assignments they have worked on during class time. In addition, there will be opportunities to use content already learned in other courses, so students may be asked to review the content of the courses they have taken once again as preparation for those courses. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

In-class assignments (40%): These are due during each class, or by the specified time if they cannot be completed during the class. The type of assignment will be announced in each class. Even if you do not attend the class, you will be allowed to submit your work. In addition, you will be asked to submit your comments on the "In-class activities" described above in the form of an attachment to this assignment.

Final assignment (60%): The assignment will be to synthesize what you have learned in this course, "Information Processing Techniques II". Detailed information will be provided at least one month prior to submission.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）		
情報処理技法Ⅱ		
【X組】		
山口 剛		
授業コード：A3678 曜日・時限：水4/Wed.4		
秋学期授業/Fall・2単位 配当年次：2～4年		
その他属性：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
本科目は、心理学を専攻する学生がレポートや卒業論文をはじめ、様々な課題の遂行や実験・調査の実施にあたって必要な情報処理の技法を習得することを目的とする。具体的に、無料の心理学実験実施ソフトウェア（例えばlab.js, jsPsych など）、および無料の統計解析ソフトウェア（例えばJASP, R など）あるいはアプリケーションの操作に必要な技法を習得しようとする。また、実験に関して学ぶ内容は、調査においても用いることができる。なお、受講生のPC環境や希望によっては、情報リテラシーなどにも触れる可能性がある。（扱う内容は実験や調査、統計解析に関する科目を履修していなくても理解できるようにします。が、その他の科目を履修することで理解がより深まると予想されます。）		
【到達目標】		
心理学におけるレポートの作成および卒業論文の執筆や課題への取り組み、あるいは実験や調査の実施およびその準備に際して、各アプリケーションを適切に用いることができる。また、設定のミスなどに自らが気づくことができ、適切に対処することができる。詳細は以下の通りである。 ＜実験作成・実施ソフトウェア（lab.jsなど）＞ 適切な実験計画を立て、その計画をアプリケーション上に適切に反映することができる。 （lab.jsは視覚的に操作をして実験計画を組むことが可能な、比較的自由度の高いソフトウェアです。卒業論文のレベルで実施できるような技術の習得を目指します。） ＜統計解析ソフトウェア（JASPなど）＞ 研究目的やデータに適切な分析を実施することができる。また、その結果を適切な形式や表現で報告することができる。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連		
【授業の進め方と方法】		
動画と対面の両方を活用して授業は展開される。受講者は該当授業前に、予習動画を通して、基本的な操作とその操作の根拠や理論的な背景を学習する。授業時間中には応用的な操作への取り組みや、基本操作の確認など、知識・技術の向上と定着が目的とした演習が行われる。各授業の課題は原則的に次の授業までに採点し、受講生が自分の採点結果を参照できるように準備される。また、授業後の感想や質問などは匿名にしてまとめられ、次の授業の冒頭でフィードバックされる。		
教室での授業時間では、受講生は以下のように準備してください。まず、授業開始時刻までにはPCの電源を立ち上げるようにしてください。100分のうち、少なくとも40分は演習の時間に充てたいと思います。その他の時間帯は、授業担当者による解説やデモンストレーション、あるいは共に手続きを確認します。授業時間内の演習の時間に出された課題が終えられなかった場合は、時間外に取り組み、次の授業までに終えて提出するようにしてください。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり /Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとソフトウェアの導入	授業進行とソフトウェアの導入などの確認
第2回	（実験）実験の技法と注意点	実験とは何か、その注意点、どのような機能があるか
第3回	（実験）刺激の作成	刺激の準備とその留意点、刺激ファイルの取り込み
第4回	（実験）実験に必要な「操作」	操作とは何か、その注意点、実験ファイルに操作を反映する
第5回	（実験）分岐の手続	反応によって実験の進行が分岐する手続を作成する
第6回	（統計）記述統計の出し方	統計量を把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する
第7回	（統計）相関分析と回帰分析	相関と回帰について把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する
第8回	（統計）平均値の比較と一般線形モデル	平均値の比較の方法について把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する。また、回帰分析との対応も確認する。
第9回	（統計）偏相関と重回帰分析	重回帰分析の方法について把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する
第10回	（統計）分散分析と主効果	分散分析とは何か、どのようなときに使うのかを把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する。また一般線形モデルについても再度確認する。
第11回	（統計）分散分析と交互作用効果	分散分析における交互作用効果を把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する
第12回	（統計）分散分析の応用	実験計画に沿う分散分析の応用について把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する
第13回	（統計）因子分析と構造方程式モデリング	探索的因子分析とは何か、測定方程式と構造方程式は何かを把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する
第14回	まとめ	半期の振り返りとレポートの確認
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
当該授業前に、基礎知識や基本的なスキルを解説した動画を視聴し、課題に取り組むことを求める。また、「セメスター課題」もあるため（下記、成績評価の方法と基準、を参照のこと）、授業内課題に関する復習も求める。すでに他の科目で学習している内容を活用する機会もあるので、その際には予習として今一度履修した科目の内容を復習するように求めることもある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準としている。		
【テキスト（教科書）】		
特に指定しない。		
【参考書】		
特に指定しない。必要な場合は随時紹介する。		
【成績評価の方法と基準】		
・授業内課題（40%）：毎回の授業中、あるいは授業中に終えられなかった場合は指定の期間までに提出を求める。どのような課題かは、各授業で伝えられる。たとえ授業に出席していなくても、提出は認めることができる。なお、課題の提出の際に、感想も求められる。 ・セメスター課題（60%）：本科目「情報処理技法Ⅱ」で学んだことを総合して用いる課題となる。提出期日の一ヶ月前までに詳細な内容が受講者に伝えられる。対面時にのみ取り上げる内容が含まれる。 注）4回分以上「授業内課題」を提出しなかった場合、「セメスター課題」を提出しなかった場合、これらのいずれかに当てはまった際には成績評価の対象外となります（E判定となります）。		
【学生の意見等からの気づき】		
教室のPC環境と受講生のPC環境が異なることが多かったため、動画を導入しました。また、授業の進め方が早いとの意見と、遅いとの意見が毎年みられます。得意不得意があると思うので、授業外でも授業のことを復習できるような資料を配付して対応するようにしています。		
【学生が準備すべき機器他】		
成果物としてファイルの提出があります。そのため、ファイルの管理が必要となります。Googleドライブなどについても知っておくと良いでしょう。		
【その他の重要事項】		
教室の関係で定員があります。万が一履修希望者が定員を超えた場合は、初回の授業に参加した方を優先します。それでも定員を超える場合は抽選を行います。		
【Outline (in English)】		
【Course outline】		
This course aims to acquire knowledge of information processing techniques for psychology reports and graduation theses. In the fall semester, students will learn how to use lab.js which can visually construct experiments and JASP (or R) which can perform statistical analysis visually. Techniques to be instructed are, for example, control of stimulus (by lab.js), ANOVA, multiple regression analysis, and exploratory factor analysis (by JASP).		
【Learning Objectives】		
In this course, students are expected to be able to conduct experiments and surveys in psychology, and to analyze the data, using appropriate experimental and statistical applications. Students are also expected to be able to recognize errors in settings and to take appropriate action.		
【Learning activities outside of classroom】		
Students are expected to watch the video as a preliminary study and acquire basic knowledge and basic skills. Students are also expected to review the assignments they have worked on during class time. In addition, there will be opportunities to use content already learned in other courses, so students may be asked to review the content of the courses they have taken once again as preparation for those courses. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.		
【Grading Criteria /Policy】		
In-class assignments (40%): These are due during each class, or by the specified time if they cannot be completed during the class. The type of assignment will be announced in each class. Even if you do not attend the class, you will be allowed to submit your work. In addition, you will be asked to submit your comments on the "In-class activities" described above in the form of an attachment to this assignment.		
Final assignment (60%): The assignment will be to synthesize what you have learned in this course, "Information Processing Techniques II". Detailed information will be provided at least one month prior to submission.		

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

発達心理学特講

渡辺 弥生

授業コード：A3680 | 曜日・時限：火2/Tue.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の発達過程のうちの幼児期から青年期に焦点を当て、子どもの社会性や道徳性の発達を中心に最新の発達心理学研究に触れていく。春学期の発達心理学より、実際の研究論文を読んだり、分析方法や結果考察のありかたなどを含め深く解説する。したがって、先に発達心理学を受講した方が望ましい。

【到達目標】

発達心理学研究の知識を身につけ、どのようなことを解明するためにどういった研究方法の工夫が必要かを考え、実際に自分が発達心理学の研究を行うのに必要な知識の獲得をめざす。いまだ解明されていないことも多く、問題提起しそれを研究する意欲を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式。人間の発達の奥深さを実感できるように、できるだけビデオやDVDなどの視聴覚教材を用いる。ペア・ワークやグループ・ワークなどアクションラーニングを盛り込みながら、発達心理学研究のテーマやさまざまな研究アプローチがあることを理解できるようにする。受講希望者は初回時には必ず出席する。課題などのフィードバックは、学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	発達心理学への誘い 「発達」と「成長」はどう違うのか。	今後の授業の方針と評価の仕方について説明。発達心理学とは何か、歴史的な展開、遺伝か環境か、発達の意味について学ぶ。
第2回	発達心理学の研究方法の特徴 人の心の発達をどのようにして科学的に理解しようとするのか。	横断研究と縦断研究。観察法、実験法、面接法、質問紙法など。また検査の用い方。関連領域と仕事との関係。
第3回	胎児・乳児の心理学 赤ちゃんってすごいな！親子関係の始まり。	乳幼児期の愛着、養育態度：親になるということはどういうことなのか、親子の愛情のきずなはどのように形成されるのかを理解する。
第4回	幼児期を育ちゆく子ども 「自分」という意識はどのように獲得していくのか。	自己意識をどのように獲得していくのか。自分の顔を鏡で見て理解できるのか。また幼児期の認識の発達を学ぶ。
第5回	幼児期に身につける力 言葉を獲得していくことによって、気持ちも表現できるようになる。	自分の気持ちを理解できるようになると、コントロールできるようになる。自分を抑制したり、主張したり、マネジメントできるようになることを学ぶ。遊びの大切さ。
第6回	児童期の誕生 「学校」にいくことで変化すること、求められることは何か。	児童期における認知発達のプロセスを学ぶ。自分の視点からのみ理解していたところ方、他人の視点を予測できるようになる、と言った視点取得について学ぶ。
第7回	児童期の対人関係の広がり：自己理解が進み、他者の気持ちを想像できるようになると、どんな世界が広がるのか。	友達関係を築き、維持するためには、社会性や道徳性などが必要になるが、どのように発達するかを学ぶ。生じるトラブルや問題についても考える。
第8回	中学生・高校生の心理学。 大人でもなく、「もう、子どもじゃない！」という気持ちが生じるこの時期の変化とは。	自己嫌悪感や嫉妬、など発達するからこそみえる思春期の特徴を学ぶ。
第9回	中学生・高校生の心理 中1ギャップって何？ 自尊感情はどうすれば高まるのか。	思春期の思いやりや規範意識の発達について学ぶ。いじめはなぜ起きるのか、どうすれば予防できるかについても学ぶ。
第10回	大学生・有職青年の心は。 進路と仕事についてどのように考えていくのか。	就職すること、人生について考えるようになるが、個性化と社会化について葛藤するプロセスを学ぶ。ポジティブに生きる力について学ぶ。

第11回	成人の心理学 中年期以降、人生をどのように俯瞰し、生きることになるのか。	年齢を重ねるからこそ、見出せる能力や幸福感について考える。時間軸、対人関係、社会や文化との関連について学ぶ。
第12回	時間的展望の発達 時間の概念を獲得し、過去を振り返り、現在を生き、未来を予測することができることは、何に影響を及ぼすか。	昨日も明日もわからなかった赤ちゃんが、30年ローンなどを考えるようになることが、生きることにどのような影響を及ぼすか。
第13回	対人関係が広がることで、自分だけではなく、多くの人のことを考えるようになることは、生き方にもどのような影響を及ぼすか。	人を助ける人もあれば傷つける人もいる。この違いは何かを考えてみる。対人関係の広がりがもたらすことについて考える。
第14回	総括の時間。人が自身を客観的に俯瞰し、悩む意味は何か。	発達心理学が生きることに役立つだけでなく、社会にどのように役立つか仕事を通して考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回ミニテストを実施し、各授業のポイントを押さえているかを確認する。試験や課題については、授業時に説明する。予習復習に各2時間をかけることとする。

【テキスト（教科書）】

『発達心理学 シリーズ 心理学と仕事』二宮克美・渡辺弥生編著 北大路書房

【参考書】

『子どもの10歳の壁とは何か？』渡辺弥生著（光文社新書）2020
『感情の正体－発達心理学で気持ちをマネジメントする』（ちくま新書）2020
『よくわかる発達心理学』渡辺弥生著（ナツメ社）2021

【成績評価の方法と基準】

授業への出席は単位修得の前提条件であり、リアクションペーパーで確認します。成績評価は、アクティブな参加（ミニ課題で正答を考えること）と、課題への能動的な取り組みとします。具体的には、毎回のミニクイズ（70%）と課題2つ（30%）の両方を評価します。ただしミニクイズは6回以上かつ課題2つを最低提出しないと成績の評価対象になりません。クイズは提出したかどうかではなく得点を出します。授業に出席しないと難しくクイズや課題の内容を考えています。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムからの質問や感想などから、テキストを踏まえた授業と、それを応用するミニクイズや課題などは楽しいとあったので、継続したい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに入ること。

【その他の重要事項】

学習支援システムやGoogle Classroomなどの活用
新型コロナウイルスの感染状況によって、授業形態が変更しうること。
シラバスの授業の内容の順番が変更することもありうること

【Outline (in English)】

The aims of this course are to understand a developmental perspective including the background, challenges, and methodology of related research, focusing on infancy, childhood, and adolescence, and to understand the diversity and variability of human development.
・By the end of the course, students will be expected to acquire knowledge of developmental psychology research, think about what kind of research methods need to be devised to elucidate what issues, and aim to acquire the knowledge necessary to actually conduct their own developmental psychology research.
・The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
・Both the mini-quiz (70%) and the two assignments (30%) will be evaluated. The mini-quizzes will be graded on both the mini-quiz (70%) and the two assignments (30%). The quizzes will be graded on correct answers.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

学習心理学特講

藤田 哲也

授業コード：A3682 | 曜日・時限：木2/Thu.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習の中でも中核をなす「記憶」について学ぶことを通じて、自分自身を客観的に見つめ直すことがこの授業の目的です。

【到達目標】

授業を通じて、以下の要素について理解を深め、自分自身の日常生活との関連をふまえて説明できるようになることが到達目標です。

1. 人間の記憶は、その種類や特徴によって多面的に捉えることが可能であること。
2. それぞれの記憶が、自分自身を含めた人間の認知活動において重要な役割を果たしていること。
3. そのような記憶を研究するためには、適切な実験法を用いることが有効であること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

「人間の記憶」についての心理学研究の歴史的流れをふまえながら、記憶の多様性について、具体的な実験データに基づいて説明します。人間の記憶には様々な特徴があり、果たしている機能の違いによって分類され、研究されているということを理解します。そのために、ほぼ毎回の授業で、簡単な記憶実験のデモンストレーションを行います。積極的に参加することで、それぞれのトピックおよび実験法についての理解を深めてください。実験のデモは行いますが、基本的には講義形式の授業です。授業内では理解深化のために学生同士のペアワークを行います。また授業終了時には振り返りを行った上で感想を記入し、提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容と目標の確認
第2回	短期記憶と作動記憶	両者の重要な違い
第3回	意味記憶	意味記憶ネットワーク
第4回	エピソード記憶	最も一般的な実験とは
第5回	目撃証言	記憶の歪み
第6回	偽りの記憶	記憶は簡単に作れる
第7回	展望的記憶	未来の行為も記憶
第8回	潜在記憶	無意識的な記憶
第9回	自動的 vs. 意図的記憶	潜在記憶の応用
第10回	メタ記憶	自分の記憶を把握する
第11回	自伝的記憶	記憶こそが人生の要
第12回	レポート回収と解説	レポート自己評価
第13回	脳と記憶	実際の事例による理解
第14回	レポート返却と総括	到達度の自己評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の授業外学習は、基本的には準備学習を兼ねた実験に取り組むのが1時間程度と、以前の授業内容との関連を考えながら復習をすることに3時間程度取り組んでもらいます。各回の授業後には、レポートに備えて、授業内容を自分自身の日常生活・認知活動と関連づけて考えておきましょう。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

毎回の授業内容に合わせて、随時紹介します。レポート作成が不安な人は次の本を参考にしてください。
「大学基礎講座」藤田哲也(編)(2006)北大路書房

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）…授業に出席し、実験に参加するだけでなく、「自分にとっての記憶」について考えを深めた結果を、毎回の授業終了時に学習支援システムの掲示板に書き込んでください。
期末レポート（60%）…授業内容について基本事項を理解しているかどうかと、その内容を自分自身の問題意識に適切に結びつけているかどうか、そして適切な先行研究を参照することで、授業で学んだ内容を、自分でさらに発展させることができているかどうかを主な評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

2024年度の授業改善アンケートから：「履修してよかったか」で2名が4でしたが、他は5をつけてくれました。理解度も8名が5で、十分に高い水準でしたし、次年度以降も同じ方針で授業を行うつもりでいます。ただし授業外学修時間が短いのが気になります（3時間以上の1名を除けば、ほとんど行っていないのが3名、最頻値は30分-1時間で5名、1-2時間4名）。期末レポートに取り組みやすくなるような、行って意義を感じてもらえる課題を考えてみます。自由記述には5名が記入してくれましたが、いずれも肯定的で、特に授業通信で毎回全員のコメントを取り上げたことがよかったという回答が複数ありました。受講生側も「よい感想、よい質問」をしていただければこちらも回答しやすいので、よい循環が生まれたのでしょうか。授業時間ないの質疑応答も例年に比べて活発で、授業をやっていて楽しかったです。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明をしますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。授業の前に行う実験自体が授業内容を理解するための教材となっていますので、毎回、積極的に事前の課題に取り組むことを求めます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students objectively reconsider themselves through learning about "memory" which is the core of learning.

【Learning Objectives】

The goal is to deepen the understanding of the following elements through the class and to be able to explain them based on their relationship with their own daily life.

1. Human memory can be grasped from multiple perspectives depending on its type and characteristics.
2. Each memory plays an important role in human cognitive activities, including ourselves.
3. It is effective to use appropriate experimental methods to study such memories.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students spend about an hour on an experiment that doubles as preparatory learning. After each class meeting, students are expected to spend about 3 hours understanding the content of the course.

【Grading Criteria /Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, report 60%.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

発達臨床心理学 I

桜井 美加

授業コード：A3683 | 曜日・時限：水 1/Wed.1
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、主に幼児期から児童期、および思春期・青年期に起こりやすい心の病の症状や対応について学ぶ。さらに家庭生活における家族間における暴力や、学校適応に関する困難な事例を取り上げ、履修者が自ら考え問題解決できるようにすることを目的とする。

【到達目標】

学生は、幼児期、児童期、思春期、青年期においてよく見られるメンタルヘルスの問題について、そしてそれらの対応方法について理解したり、自分で問題解決に向けて考えたり発言できるようになる。

Here are the objects for students to achieve in this class.

Students are able to find out to solve mental problems.

In addition to that, students are able to how to approach those problems, and express their own ideas and thoughts to others.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

子どもたちの発達に沿った課題を考え、学生に準備、発表することを求める。したがって、そのようなアクティブな学習スタイルを好む学生が履修すると良いと思います。

Students are asked to prepare for presentation in the class. Anyone who are willing to participate for active learning in the class are welcome.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回目	ガイダンス 子どもの発達と各ステージで見られる課題	本講義の目的、授業の進め方の確認、および発表の準備の仕方などを解説する。
第2回目	発達障害その1	注意欠如・多動性障害について学ぶ。
第3回目	発達障害その2	自閉スペクトラム障害について学ぶ。
第4回目	幼児期から児童期に起こりやすい心の病	愛着障害・分離不安・制緘黙、拔毛症について学ぶ。
第5回目	思春期・青年期に起こりやすい心の病その1	うつ病などの気分障害について学ぶ。
第6回目	思春期・青年期に起こりやすい心の病その2	摂食障害について学ぶ。
第7回目	中間テスト	第1回から第6回目までで学んだことの振り返り、理解を深める。
第8回目	不安障害	社交不安障害、適応障害、パニック障害について学ぶ。
第9章	強迫性障害	強迫性障害、過剰適応について学ぶ。
第10章	自傷行為	自傷行為について学ぶ。
第11章	児童虐待	児童虐待の種類、対応について学ぶ。
第12章	学校適応に関する課題その1 いじめの様相	学校におけるいじめの実態、対応について学ぶ。
第13章	学校適応に関する課題その2 不登校	学校における不登校の要因、実態、対応について学ぶ。
第14章	期末テスト、まとめ	第8回から第13回までで学んだ子どもたちのメンタルヘルスの諸問題について振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備は、授業のテーマに関する疑問点をまとめ、自力でできるところは調べておく。

復習は、学習したテーマに関する本もしくは学術論文を1本以上読み、得られた知識を深めておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

To participate for the class, students are required to read the textbook and write it down any questions they may have. After the class, students are required to read articles related area that they have learned in the class.

【テキスト（教科書）】

次良丸睦子編 2023 現代の子どもをめぐる発達心理学と臨床 福村出版

【参考書】

久留一郎・餅原尚子 2019 臨床心理学―「生きる意味」の確立と心理支援 八千代出版

【成績評価の方法と基準】

中間テスト1回＋期末テスト1回＝各50点満点ずつで評価する。また、発表およびグループにおけるディスカッションも行うため、発表の内容が一部成績に反映されることがある。

Students are evaluated based on the score from the middle term test and the final exam. In addition to that, the performance during the class may evaluate to some extent

【学生の意見等からの気づき】

来年度は、課題は出席者に限定して提出してもらうなど工夫することで、出席をまじめにしている学生さんにクレジットがいくように、公平感を担保いたします。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、タブレットなど、オンラインによる授業を実施する際に必要な場合があります。

【Outline (in English)】

In this class, students can learn what kind of mental problems children and adolescents may have, and find out how they can approach to those problems. In addition to that, students are encouraged to solve problems case studies of child abuse and/or school adjustment difficulties.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

発達臨床心理学Ⅱ

桜井 美加

授業コード：A3684 | 曜日・時限：水1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

幼少期から高齢者に至る発達過程において示される心理的諸問題、対人関係の問題や様々な精神障害に対する対応や臨床心理的アプローチについて、ケーススタディを用いながら基礎的知識と応用力を身に付ける。また、各理論をベースとした心理療法について学ぶ。

【到達目標】

生涯発達心理学の観点から、各ライフステージで見られる心理的葛藤および望ましい臨床心理的アプローチについて、理解できるようになり、文章で適切に表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は原則対面による授業である。指定されている教科書を購入し、内容についてはスライドを随時示す。履修生は、知識を習得しつつ、発表やグループディスカッションを通じて、各テーマについての理解を深める。また課題などのフィードバック方法は、オンラインのみの場合はGメールで、対面が含まれる場合は授業前後で、遠慮なく質問や相談に来てほしい。対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 心理療法の意義と学び	教科書第1部心理療法の定義、効果、構造について、また臨床心理学における、援助とはなにかについても併せて学ぶ。
第2回	クライエント中心療法	教科書第2部1章クライエント中心療法の理論と技法、効用と限界について学ぶ
第3回	分析心理学	教科書第3章分析心理学の理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第4回	行動療法	教科書第5章行動療法の歴史、理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第5回	認知行動療法	教科書第6章認知行動療法の歴史、理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第6回	ゲシュタルト療法	教科書第9章ゲシュタルトの理論と技法、効用と限界について学ぶ
第7回	ブリーフセラピー	教科書第15章ブリーフセラピーの理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第8回	中間テスト	第1回から第7回まで学んだことを振り返り、理解を深める。
第9回	ナラティブセラピー	教科書第16章ナラティブセラピーの理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第10回	家族療法	教科書第17章家族療法の理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第11回	遊戯療法	教科書第18章遊戯療法の理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第12回	芸術療法	教科書第19章芸術療法について学ぶ。
第13回	エンカウンター・グループ	教科書第21章エンカウンター・グループの理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第14回	総まとめ	発達臨床心理学について振り返り、重要なポイントを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備は、授業のテーマに関する疑問点をまとめ、自力でできるところは調べておく。

復習は、学習したテーマに関する本もしくは学術論文を1本以上読み、得られた知識を深めておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

矢澤美香子編 2018 基礎から学ぶ心理療法 ナカニシヤ出版

【参考書】

渡辺弥生・榎本淳子編 2012 発達と臨床の心理学 ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

中間テスト1回（50%）+ 期末テスト1回（50%）= 100%で評価する。また、発表およびグループにおけるディスカッションも行うため、発表の内容が一部成績に反映されることがある。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークなど対面ならではの授業展開を行います。スライドはできるだけ初学者にもわかりやすく作成し、授業に反映させます。ガイダンスで私のメールアドレスを示し、欠席したときに連絡しやすいようにいたします。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、タブレットほか、オンライン授業に必要とされる機器。

【Outline (in English)】

(Course outline) Goal to achieve is to understand psychological issues from childhood through adulthood including midlife crisis and aging. There are many theoretical backgrounds to utilize counseling skills to solve problems. (Learning Objectives) Participants should be able to enhance skills to solve problems such as bullying. They are able to learn acknowledgements, assessments and counseling skills to address those issues. (Learning activities outside of classroom) They are required to read the textbooks and write down questions, so that students are able to ask clarify problems. (Grading Criteria /Policy) Grading Criteria is 50% for the mid-term exam and 50% for the final exam.

Students need to take both the mid-term exam and the final exam.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

社会心理学特講

渡辺 弥生、福田 由紀、田嶋 圭一、竹島 康博、木村 健太

授業コード：A3687 | 曜日・時限：土3,4,5（隔週）/Sat.3,4,5（隔週）

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様化、高齢化が急速に進む現代社会においては、わが国の歴史や文化に対する理解を深めながら、広い視野を持ち、自分とは異なる価値観や考え方を持つ他者と共生していけること、すなわち、良識ある公民たることが求められます。

本授業では、現代社会が直面している様々な問題を取り上げ、これに対する心理学からのアプローチを紹介します。

【到達目標】

様々な社会的問題を、1) 先行研究や統計資料などのデータを活用して記述し、2) 多面的、客観的、主體的に考察し、3) 他者との議論を活かしながら、公正な判断を下せるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は変則的な隔週のオムニバス形式の授業として開講します。2～3回の授業時限を1単元とし、単元ごとに1つの社会的問題や課題を取り上げ、これに関連する心理学の研究や実践などについて担当教員が講義します。学生はこれをもとに、自らの考えをまとめ、授業内で討論します。さらに、自らの考えを他者に伝え、他者の考えを積極的に聞く練習をしながら、最終的に単元ごとにレポートを作成して提出します。

レポートの提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。
第01回（2025/10/04：対面）対人環境の心理学：講義（竹島） 3, 4, 5時限
第02回（2025/10/18：対面）社会への適応を支える心理・生物学的基盤：講義（木村） 3, 4時限

第03回（2025/11/08：対面）異文化・言語と心理学：講義（田嶋） 3, 4, 5時限

第04回（2025/11/22：対面）共生社会における相互理解と心理学：講義（福田） 3, 4, 5時限

第05回（2025/12/06：対面）危機予防の心理学：講義（渡辺） 3, 4, 5時限

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	現代社会が直面する問題について概観し、本授業の進め方やレポート課題、成績評価方法などについて説明する。
第2回	対人環境の心理学(1)	「自分の周囲に他者がいる」という対人環境が個人に与える様々な影響について、影響の受けやすさに関連する個人特性も含めて解説する。
第3回	対人環境の心理学(2)	自分の個人特性を理解し、対人環境からの影響の受けやすさを理解した上で、そのような環境下でどのように行動するかを受講生同士で議論する。他者とのインタラクションや集団内での行動の背後にある心や脳のメカニズムについて、研究のアプローチや最新の知見も含めて解説する。
第4回	社会への適応を支える心理・生物学的基盤 (1)	人の社会の中での活動を支える心理・生物学的な基盤を理解した上で、個々人の社会への適応のあり方を受講生同士のグループディスカッションを通して考える。
第5回	社会への適応を支える心理・生物学的基盤 (2)	言語はなぜ文字通りに伝わらないのか、しゃべっていないのになぜ伝わるのか、言語によって相手や自分にどのように気を配っているか、特に異文化間の違い注目しながら考える。
第6回	異文化・言語と心理学 (1)	異文化あるいは同一文化の相手と誤解なくかつ円滑に意思疎通を図るにはどのようにすればよいか、議論しながら考える。
第7回	異文化・言語と心理学 (2)	ここまでのテーマとレポートのアウトラインに基づき、図書館やオンライン資料などを調べ、論拠となるデータを入手し、レポートを作成する。
第8回	テーマ別調べ学習とレポート作成	

第9回	共生社会における相互理解と心理学(1)	既有知識がある場合と無い場合における相手とのコミュニケーションを体験して、共有された世界を構築するために何が必要なのかを考える。
第10回	共生社会における相互理解と心理学(2)	異文化あるいは同一文化の相手と誤解なくかつ円滑に意思疎通を図るにはどのようにすればよいか、チームで議論し、レポート作成の準備を行う。
第11回	テーマ別調べ学習とレポート作成	ここまでのテーマとレポートのアウトラインに基づき、図書館やオンライン資料などを調べ、論拠となるデータを入手し、レポートを作成する。
第12回	危機予防の心理学(1)	いじめ、不審者侵入などあらゆる種類の学校危機に対する予防のあり方をエビデンスをもとに解説する。
第13回	危機予防の心理学(2)	心理的な危機を予防するためにどのようなアプローチやプログラムが可能かを議論し、具体案を作成する。
第14回	テーマ別調べ学習とレポート作成	ここまでのテーマとレポートのアウトラインに基づき、図書館やオンライン資料などを調べ、論拠となるデータを入手し、レポートを作成する。必要に応じて講義担当教員へ質問し、最終的にレポートをまとめ、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間内にも調べ学習などの時間とっておりますが、単元ごとに提出するレポートの作成には図書館へ行ったり、文献を検索したり、レポートを書く時間を確保しておきましょう。各単元のレポートにかかる時間は各単元ごとの復習6時間とレポート作成6時間の計12時間を標準としています。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。

【参考書】

参考文献を紹介します（以下は一例です）。

- Chance, P., & Heward, W. L. (2010). Climate Change: Meeting the Challenge. The Behavior Analyst, 33, 197– 206.
- Abrahamse, W., Steg, L., Vlek, C., & Rothengatter, T. (2005). A review of intervention studies aimed at household energy conservation. Journal of Environmental Psychology, 25, 273-291.
- 山崎 勝幸・戸田 有一・渡辺 弥生 (2013). 世界の学校予防教育 金子書房
- Brock, S.E, & Jimerson, S. R. (Eds.) (2012). Best Practices in School Crisis Prevention and Intervention 2nd edition, National Association of School Psychologists.
- 石原 邦雄 (2008). 家族のストレスとサポート 放送大学教育振興会
- 井出 祥子・平賀 正子 (2005). 講座社会言語科学〈第1巻〉異文化とコミュニケーション ひつじ書房

【成績評価の方法と基準】

テーマ別レポート（全5題）をそれぞれ20点満点で採点し、合計得点が満点（100点）に占める割合で成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2024年度は未開講でした。

【その他の重要事項】

代表として竹島のオフィシアワーを掲載しておきます。他の教員のオフィシアワーについては各自が担当する授業シラバスを参照して下さい。
○ オフィシアワーは春学期、秋学期ともに火曜日の4限、場所は研究室（富士見坂校舎6階研究室3）です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In today's rapidly diversifying and aging society, we need to be sensible citizens, who understand our country's history and culture, have a broad perspective, and can coexist with others who have different values and ways of thinking from our own. The purpose of this course is to learn research-based psychological solutions to various social problems that modern society is facing such as energy consumption, family issues, risk management at schools, communication, and cross-cultural understanding.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to discuss, in their own words, the research-based psychological solutions to today's social issues covered in this class.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to 1) read the materials distributed in class, 2) search and read relevant papers and articles, and 3) write and submit reports. 2 hours of study per class is expected.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade in this class will be decided based on the total score of five reports (20% x 5 = 100%).

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

臨床心理学

杉山 崇

授業コード：A3690 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代臨床心理学の体系的な理解を通して、現代社会における心理学の応用にについて一つの視野を形成することを目指す。

【到達目標】

臨床心理学が扱う心の問題と心の正常な機能、および問題を軽減して正常化を図る方法としての心理療法の正しい知識を身につけることを通して、人間への深い理解を形成する。また、人間への深みのある理解を通して、自己理解、他者理解、人間社会の理解を自分の言葉で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理学は人間の十全な人生の展開を心理-社会的に支えるために発展した応用心理学である。臨床心理学の対象は非常に広く、医学的な診断名のあるうつ病、統合失調症、不安障害、パーソナリティ障害などの各種精神疾患から、不登校、NEET、家族不和、子育て、職場の人間関係、キャリア開発、各種福祉サービスなど実社会的問題まで扱う。

そのため社会心理学、認知心理学、神経-生理心理学、行動心理学などいわゆる心理科学から、精神医学、精神分析、分析心理学まで幅広く統合して今日の臨床心理学は構成されている。

ここでは講義を中心に体験的なワークも交えて、現代社会に比較的多い症状の理解、その心理的支援の理解、そして心理科学と臨床心理学アプローチを学ぶ。なお担当教員は臨床心理学の幅広いフィールドで心理的な支援の実践に関わっているが、この10数年の社会変動の中で臨床心理学とその実践が大きく変化するのを目の当たりにしてきた。実社会における心理学の応用・活用の諸問題について学生諸君とともに考えたい気持ちである。心理学の連続性について体系的な理解を目指す。

なお、課題として毎回、リアクションペーパーの提出（またはそれに代わるオンライン上での記入）を貸し、その内容については次回の授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	臨床心理学総論①	歴史とガイダンス
第2回	臨床心理学総論②	目的と対象
第3回	力動的アプローチ	精神分析とユング心理学
第4回	人間性と欲求	欲求とパーソナリティ
第5回	生物・心理・社会モデル	効果的なカウンセリングのためのアセスメント
第6回	関係構築と願望	カウンセリングの3stepsモデル
第7回	心を整える方法	認知再構成法とマインドフルネス
第8回	行動を整える方法	セリフモニタリングと活動記録
第9回	対人関係療法①	社会脳と対人関係
第10回	対人関係療法②	社会的感情と社会的欲求
第11回	対人関係療法③	人間関係の最適化
第12回	事例研究①	適正に悩む女性の事例
第13回	事例研究②	不安、強迫観念、抑うつ
第14回	事例研究③	うつ病からの復職支援

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：指定した専門用語について2時間ほど調べてくること。

復習：2時間程度の復習レポートを書き下ろす。

【テキスト（教科書）】

『事例でわかる、働く人へのカウンセリングと認知行動療法・対人関係療法』金子書房

【参考書】

『カウンセリングの援助と実際』北樹出版

臨床心理学の「現場」を実態を通して紹介した画期的な良書。事例を学ぶのに最適。

<http://www.hokuju.jp/books/view.cgi?cmd=dp&num=821&Tfile=Data>

『事例でわかる、基礎心理学のうまい活かし方』金剛出版

心理学がどのように心理療法に活かされているか、事例を通して学ぶ画期的な図書。

<https://7net.omni7.jp/detail/1106063973>

【成績評価の方法と基準】

平常点（復習課題＋授業態度）30%とレポート（到達目標の達成度）70%

【学生の意見等からの気づき】

学生諸君の忌憚のないご意見に基づきオンライン参加のサポート、プロジェクターの適正な起動など、学習環境の円滑な整備を試みたい。今年度もみなさんのご意見を楽しみにしています。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで資料配布し課題を出すためPC、インターネットを活用できる環境が必須。また、動画を配信する場合もあります。詳しくは授業支援システムで指示します。

【Outline (in English)】

Through systematic understanding of modern clinical psychology, we aim to form a viewpoint of application of psychology in contemporary society.

Goal : Ability to express self-understanding, understanding of others, and understanding of modern society based on clinical psychology in one's own words.

Work to be done outside of class (preparation, etc.) : Preparation: Look up the specified specialized terminology for about 2 hours.

Review: Write a review report for about 2 hours.

Grading Criteria /Policy : Normal score (review assignment + class attitude) 30% and report (achieving target) 70%

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

犯罪心理学

越智 啓太

授業コード：A3691 | 曜日・時限：火 1/Tue.1
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

犯罪心理学は、犯罪に関する人間行動を科学的に解明していく学問であるが、なぜ犯罪が起きるのかについて検討する「犯罪原因論」、犯罪捜査への心理学の応用について検討する「捜査心理学」、犯罪者や非行少年をいかに更正させていくかについて検討する「矯正心理学」などの分野がある。この授業では、このうち、「捜査心理学」を取り上げ、その基本的な原理から最先端の研究までを概観する。具体的には連続殺人、大量殺人、テロリズム、子どもに対する性犯罪、ストーキングなどを取り扱う。また、プロファイリングや犯罪者に対する処遇、精神疾患の犯罪者の責任能力、FBIの捜査システム、日本の警察における犯罪捜査の現状と問題点、などの問題に関しても時間が許す限り取り上げてみたい。なお、授業の中では実際の事件以外にも、映画や小説などもとりあげる。推理小説、刑事映画マニアの人の受講も歓迎する。

【到達目標】

- (1) 犯罪についての科学研究のアプローチ方法について説明できるようになる。
- (2) 各種犯罪についての基本的な用語、知識について説明できるようになる。
- (3) 各種犯罪についての学問的な成果を元に犯罪現象について心理学的な観点から論ずることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業方法は、講義形式。基本的にパワーポイントを使用する。授業についての質問、感想、意見などを毎回、授業支援システムにアップすること。これについて、次回の授業か、ウェブ上でフィードバックを行う。ほかに参考資料などを授業支援システムにアップするので、各自参考して学習を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	犯罪心理学の概要	犯罪原因論、捜査心理学、裁判心理学、矯正心理学の概要、犯罪心理学の方法論、犯罪精神医学と犯罪心理学の違い、犯罪捜査の問題点など
第2回	殺人	日本における殺人事件の状況、司法統計の見方、現実の殺人とメディアの殺人の違い。
第3回	連続殺人（1）	男性による連続殺人、タイポロジーと書くタイプの原因、動機、行動パターン、プロファイリング
第4回	連続殺人（2）	女性による連続殺人、タイポロジーと書くタイプの原因、動機、行動パターン、プロファイリング
第5回	大量殺人	大量殺人の定義とタイポロジー、典型的な事例、動機と典型的な行動パターン、防犯手法とその問題点、インセル大量殺人
第6回	テロリズム（1）	政治テロ（左翼テロと右翼テロ）、動機と行動パターン、プロファイリング
第7回	テロリズム（2）	宗教テロ、伝統宗教の原理主義テロ、新興宗教のテロ、事例と犯行の分析手法など
第8回	テロリズム（3）	ローンオフェンダー型テロリズム、エコテロリズム、ホームグロウンテロリズム
第9回	子どもに対する性犯罪（1）	子どもに対する性犯罪の加害者、被害者、犯行手口
第10回	子どもに対する性犯罪（2）	犯行の起こる場所、環境的防犯手法、防犯対策
第11回	ドメスティックバイオレンス（1）	DV防止、ストーカー防止のための法、DVの定義と具体例
第12回	ドメスティックバイオレンス（2）	加害者の動機、犯人に対する矯正手法、社会防衛手法、被害者心理
第13回	非行	非行の現状と問題点、非行に対する司法システムの概略と心理職の役割、非行の原因に関する諸理論
第14回	司法心理学	離婚、養育権、ハーグ条約、子どもの面会交流、子どもの奪い合い裁判

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ、テキストの指定する部分を読んでおく。また、あらかじめ、テキスト（プログレスのほう）の該当する章の予習問題をやっておく。復習としては、授業内で取り上げる各種事件について、インターネットなどを使用してより詳しく調査しておくとともに受講中に新聞やニュースをチェックし、関連する事件があった場合にはその内容をまとめておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

越智啓太 ケースで学ぶ犯罪心理学 北大路書房
越智啓太 progress and application 司法犯罪心理学 サイエンス社

【参考書】

法と心理学会（編） 入門司法犯罪心理学 有斐閣
越智啓太 ワードマップ 犯罪捜査の心理学 新曜社
越智啓太 桐生正幸（編著） テキストブック司法犯罪心理学 北大路書房

【成績評価の方法と基準】

レポート（80％）＋授業コメント（20％）

【学生の意見等からの気づき】

本授業は、毎年高い評価をいただいておりますが、要望に応え、本年は新しい事例をくわえました。また、動画、配付コンテンツなどを充実させ、これをhoppiiより利用できるようにしてあります。さらに新しく、さらに知的好奇心を満たすものにすべく努力します。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントを使用する。パワーポイントは、授業支援システムで配布する。

【その他の重要事項】

- (1) 本講義は、犯罪という不快な現象を取り扱い、不快な資料なども使用する可能性があるため、各自の進路や適性を十分考慮して受講するか否かを決定すること。
- (2) 例年、5％～10％がD評価になります。他の教員に比べてS,A+はつきにくいので楽勝科目ではない。
- (3) 講師は、警視庁科学捜査研究所での実務経験があるので、実際の犯罪捜査場面やケースなどに関連付けながら講義を行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, we will give an overview of criminal and forensic psychology. In particular, I will explain issues criminal behavior, For example, serial murderer, mass murderer, terrorist, domestic violence offender.

【Learning Objectives】

- (1) To be able to explain the definition of the basic concept of forensic psychology and basic research related to the concept.
- (2) To be able to explain these concepts in connection with real crimes.
- (3) To be able to discuss crime scientifically

【Learning activities outside of classroom】

Each lesson requires 2 hours of preparation and 2 hours of review.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Report (80%) + comment & discussion (20%)

PSY100BG（心理学 / Psychology 100）

心理統計法 I

三浦 大志

授業コード：A3701 | 曜日・時限：木3/Thu.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学をよく理解するために必要である、基本的な統計の手法を学ぶ。この授業では記述統計を主に扱うが、推測統計も一部取り扱う。

【到達目標】

この授業の目標は
・尺度水準や代表値、散布度や相関係数などの記述統計の概念を理解できる
・これらの値を算出できる
ことである。これらを通じて、心理学の文献を読むために必要な統計的知識の土台を築くことを目指す。また、統計を日常生活と結びつけることによって、統計的なものの考え方を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

心理学において、データや統計法は必要不可欠である。そのため、この授業では心理統計法の基礎的な事項について説明する。心理学研究の際に統計を効果的に利用出来るようになることが重要であるので、高度な数学的理解は求めない。難しい数式の理解や暗記も求めない。この授業は講義形式だが、演習（統計処理の作業）やコメントシートなどを随時取り入れる予定である。また、授業のはじめに前回の授業で提出されたコメントシートをいくつか紹介し、フィードバックを行う予定である。第1回の授業で授業方針を詳しく説明するので、受講を考えている学生は出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション・心理統計とは	授業内容・方針についてのガイダンス、心理統計について
第2回	記述統計とは・尺度水準	記述統計・尺度水準
第3回	分布と代表値	度数分布、代表値
第4回	分布と散布度	分散、標準偏差
第5回	標準化	標準得点
第6回	2つの変数の関係1	相関と散布図
第7回	ここまでの事項の確認	中間テストおよびその解説
第8回	2つの変数の関係2	共分散・相関係数
第9回	2つの変数の関係3	相関係数とその性質
第10回	2つの変数の関係4	連関
第11回	推測統計とは	母集団と標本
第12回	標本から母集団を推測する1	正規分布
第13回	標本から母集団を推測する2	点推定と区間推定
第14回	ここまでの事項の確認	期末テストおよびその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今回の授業範囲をテキストなどで示すので、目を通しておくこと。
統計は知識の積み重ねが必要不可欠なので、分からない部分を残したまま先に進むことのないように復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

山田剛史・村井潤一郎「よく分かる心理統計」ミネルヴァ書房

【参考書】

山内光哉「心理・教育のための統計法＜第3版＞」サイエンス社
吉田寿夫「本当にわかりやすいごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」北大路書房

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内容を毎回きちんと理解し、積み重ねていくこと
2. 授業の最後に提出するコメントシートに答えることなどで、日常生活に近づけて統計を理解すること
以上の2つが重要であるので、平常点を成績に加味する。中間テストと学期末試験の成績（70%）と平常点（30%）を総合して評定する。

【学生の意見等からの気づき】

後半になると難易度が増すというコメントが一定数ありました。高校の授業で統計を既習の学生にとっては前半部分は易しいかもしれませんが、それで油断して期末テストで失敗する人が散見されるので、油断せず授業・家庭学習に取り組んで下さい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで資料を配付するので、授業支援システムに登録しておいて下さい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic concepts and methods of statistics. This course mainly deals with descriptive statistics.

At the end of the course, students are expected to understand the concepts of descriptive statistics such as level of measurement, representative value, dispersion, and correlation coefficient and be able to calculate the values mentioned above. In addition, students are expected to acquire a statistical way of thinking by relating statistics to their daily life.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations (70%) and in-class contribution (30%).

PSY100BG（心理学 / Psychology 100）

心理統計法Ⅱ

三浦 大志

授業コード：A3702 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学をよく理解するために必要である、基本的な統計の手法を学ぶ。この授業では推測統計を主に扱う。

【到達目標】

この授業の目標は

- ・t検定や分散分析、カイ二乗検定などの統計的仮説検定を理解できる
- ・これらの検定を実行できる

ことである。これらを通じて、心理学の文献を読むために必要な統計的知識の土台を築くこと、自分が実験や調査を行う際に適切な統計手法を用いられるようになるための基礎を身につけることを目指す。また、統計を日常生活と結びつけることによって、統計的なものの考え方を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

心理学において、データや統計法は必要不可欠である。そのため、この授業では心理統計法の基礎的な事項について説明する。心理学研究の際に統計を効果的に利用出来るようになることが重要であるので、高度な数学的理解は求めない。難しい数式の理解や暗記も求めない。この授業は講義形式だが、演習（統計処理の作業）やコメントシートなどを随時取り入れる予定である。また、授業のはじめに前回の授業で提出されたコメントシートをいくつか紹介し、フィードバックを行う予定である。第1回の授業で授業方針を詳しく説明するので、受講を考えている学生は出席すること。なお、この授業は春学期の心理統計法Ⅰを受講したことを想定して授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容、方針についてのガイダンス
第2回	統計的仮説検定1	検定とは・二項検定
第3回	統計的仮説検定2	仮説、有意水準、2種類の誤り
第4回	統計的仮説検定3	適切な検定の選択
第5回	t検定1	独立した標本の検定
第6回	t検定2	対応のある標本の検定
第7回	ここまでの事項の確認	中間テストおよびその解説
第8回	分散分析1	対応のない1要因
第9回	分散分析2	対応のある1要因
第10回	分散分析3	交互作用
第11回	分散分析4	2要因
第12回	その他の検定1	相関係数の検定・回帰分析
第13回	その他の検定2	カイ二乗検定
第14回	ここまでの事項の確認	期末テストおよびその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今回の授業範囲をテキストなどで示すので、目を通しておくこと。
統計は知識の積み重ねが必要不可欠なので、分からない部分を残したまま先に進むことのないように復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

山田剛史・村井潤一郎「よく分かる心理統計」ミネルヴァ書房

【参考書】

山内光哉「心理・教育のための統計法＜第3版＞」サイエンス社
吉田寿夫「本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」北大路書房
森敏昭・吉田寿夫「心理学のためのデータ解析テクニカルブック」北大路書房

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内容を毎回きちんと理解し、積み重ねていくこと
 2. 授業の最後に提出するコメントシートに答えることなどで、日常生活に近づけて統計を理解すること
- 以上の2つが重要であるので、平常点を成績に加味する。中間テストと学期末試験の成績（70%）と平常点（30%）を総合して評定する。

【学生の意見等からの気づき】

「心理学における統計の必要性が分かった」「数字の見方が変わった」といったコメントをいくつかいただきました。推測統計は非常に利用頻度の高い重要なものなので、知的好奇心がかき立てられ、かつ最終的には理解できる授業になるよう努力したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで資料を配付するので、授業支援システムに登録しておいて下さい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic concepts and methods of statistics. This course mainly deals with inferential statistics.

At the end of the course, students are expected to understand statistical hypothesis tests such as the t-test, analysis of variance, and chi-square test and be able to perform such tests. In addition, students are expected to acquire a statistical way of thinking by relating statistics to their daily life.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations (70%) and in-class contribution (30%).

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

心理統計法実習 I

[W組]

伊藤 尚枝

授業コード：A3703 | 曜日・時限：水2/Wed.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学研究に必要な推測統計学の基礎知識を学び、統計的仮説検定の考え方を身につける。

- ・質的データの度数の差の検定方法を身につける。
- ・量的データの平均値の差の検定方法と、その結果の整理を学ぶ。
- ・統計ソフト JASP の基本操作法を習得する。

【到達目標】

到達目標は、以下の4点です。

- (1) 実験計画法にあった統計分析の方法を選定できる。
- (2) 選定した分析方法を、統計ソフト JASP で実行できる。
- (3) JASP の出力結果を、心理学研究の形式に準拠して記述できる。
- (4) 心理学論文に書かれている分析結果を読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、以下の①～③の流れで行います。ただし、進捗状況に応じて、順序を変更する場合があります。

- ①毎回1つの分析方法を取り上げて、その理法と技法を講義します。
 - ・統計量を手計算してもらうことがあります。
 - ・手計算をするときは、電卓、または、エクセルを使用する予定です。
 - ・講義内容を理解したかを確認するために、小テストを行うことがあります。
- ②①で学んだ分析方法を、統計ソフト JASP を用いて演習形式で学びます。
 - ・グループワークを取り入れて、JASP の基本操作への理解を深めます。
 - ・JASP の分析結果を心理学研究の形式で記述する方法を学びます。
- ③①で学習した内容に関する課題を出し、JASP で分析してもらいます。
 - ・②で学んだ操作内容を、実践してもらいます。
 - ・課題の分析結果を、心理学論文に記載する形式でレポートにまとめ、提出してもらいます。
- ④次回の授業で、提出された課題について、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	データの要約	JASP の基本操作、分布の特性を表す統計量
第2回	度数の集計	度数分布表（1変数）とクロス集計表（2変数）
第3回	度数のカイ二乗検定 1	適合度の検定（1変数）
第4回	度数のカイ二乗検定 2	独立性の検定（2変数）
第5回	ランダムサンプリングとデータ	母集団と標本、確率と正規分布
第6回	統計的仮説検定	統計的仮説と判定、片側検定と両側検定
第7回	対応のない t 検定 1	対応のない t 検定の考え方と手順、等分散性の検定
第8回	対応のない t 検定 2	結果の整理

第9回	対応のある t 検定 1	対応のある t 検定の考え方と手順
第10回	対応のある t 検定 2	結果の整理
第11回	一元配置の分散分析 1	対応のない一元配置分散分析の考え方と手順
第12回	一元配置の分散分析 2	対応のある一元配置分散分析の考え方と手順
第13回	単回帰分析	相関係数の算出、単回帰分析の考え方と手順
第14回	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で説明した統計用語や JASP の操作に関して、常に復習を行ってください（1時間）。

授業内で課題が終わらなかった場合は、次回授業までの宿題となります（2時間）。

【テキスト（教科書）】

伊藤尚枝 2014 Q & A で理解する統計学の基礎 北大路書房

【参考書】

授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出（40%）、最終テスト（40%）、授業への取り組み・小テスト（20%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・図を多く取り入れた資料が好評だったので、資料を積極的に取り入れた授業を行います。
- ・グループワークを実施することで、授業内容の理解を促進します。

【その他の重要事項】

- ・質問等は、授業中に教室にて受け付けます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces statistical analyses of psychological research needed for inferential statistics and the basics of hypothetical testing.

During this course, students will

- ・ learn how to test the difference in frequency of qualitative data,
- ・ learn how to test the difference between the average values of quantitative data and how to organize the results.
- ・ learn basic operation methods of the statistical software, JASP.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to:

- (1) choose a method of the statistical analysis suitable for the scale level of data,
- (2) execute the chosen method using the statistical software, JASP,
- (3) describe the output results of JASP according to the format of psychological research, and
- (4) read the analysis results written in psychology papers.

【Learning activities outside of classroom】

You will be expected to review statistical terms and JASP operations (1 hour per class). If you do not complete the assignment in class, you will have to do your homework until the next class (2 hours per class).

【Grading Criteria】

Grades are based on (1) a term paper (40%), (2) assignments (40%), and (3) class activities and quizzes (20%).

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

心理統計法実習 I

[X組]

伊藤 尚枝

授業コード：A3704 | 曜日・時限：水3/Wed.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学研究に必要な推測統計学の基礎知識を学び、統計的仮説検定の考え方を身につける。
・質的データの度数の差の検定方法を身につける。
・量的データの平均値の差の検定方法と、その結果の整理を学ぶ。
・統計ソフト JASP の基本操作法を習得する。

【到達目標】

到達目標は、以下の4点です。
(1) 実験計画法にあった統計分析の方法を選定できる。
(2) 選定した分析方法を、統計ソフト JASP で実行できる。
(3) JASP の出力結果を、心理学研究の形式に準拠して記述できる。
(4) 心理学論文に書かれている分析結果を読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、以下の①～③の流れで行います。ただし、進捗状況に応じて、順序を変更する場合があります。
①毎回1つの分析方法を取り上げて、その理法と技法を講義します。
・統計量を手計算してもらうことがあります。
・手計算をするときは、電卓、または、エクセルを使用する予定です。
・講義内容を理解したかを確認するために、小テストを行うことがあります。
②①で学んだ分析方法を、統計ソフト JASP を用いて演習形式で学びます。
・グループワークを取り入れて、JASP の基本操作への理解を深めます。
・JASP の分析結果を心理学研究の形式で記述する方法を学びます。
③①で学習した内容に関する課題を出し、JASP で分析してもらいます。
・②で学んだ操作内容を、実践してもらいます。
・課題の分析結果を、心理学論文に記載する形式でレポートにまとめ、提出してもらいます。
④次回の授業で、提出された課題について、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	データの要約	JASP の基本操作、分布の特性を表す統計量
第2回	度数の集計	度数分布表（1変数）とクロス集計表（2変数）
第3回	度数のカイ二乗検定 1	適合度の検定（1変数）
第4回	度数のカイ二乗検定 2	独立性の検定（2変数）
第5回	ランダムサンプリングとデータ	母集団と標本、確率と正規分布
第6回	統計的仮説検定	統計的仮説と判定、片側検定と両側検定
第7回	対応のない t 検定 1	対応のない t 検定の考え方と手順、等分散性の検定
第8回	対応のない t 検定 2	結果の整理
第9回	対応のある t 検定 1	対応のある t 検定の考え方と手順
第10回	対応のある t 検定 2	結果の整理
第11回	一元配置の分散分析 1	対応のない一元配置分散分析の考え方と手順
第12回	一元配置の分散分析 2	対応のある一元配置分散分析の考え方と手順
第13回	単回帰分析	相関係数の算出、単回帰分析の考え方と手順
第14回	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で説明した統計用語や JASP の操作に関して、常に復習を行ってください（1時間）。
授業内で課題が終わらなかった場合は、次回授業までの宿題となります（2時間）。

【テキスト（教科書）】

伊藤尚枝 2014 Q & A で理解する統計学の基礎 北大路書房

【参考書】

授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出（40%）、最終テスト（40%）、授業への取り組み・小テスト（20%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

・図を多く取り入れた資料が好評だったので、資料を積極的に取り入れた授業を行います。
・グループワークを実施することで、授業内容の理解を促進します。

【その他の重要事項】

・質問等は、授業中に教室にて受け付けます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces statistical analyses of psychological research needed for inferential statistics and the basics of hypothetical testing. During this course, students will
・ learn how to test the difference in frequency of qualitative data,
・ learn how to test the difference between the average values of quantitative data and how to organize the results.
・ learn basic operation methods of the statistical software, JASP.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to:
(1) choose a method of the statistical analysis suitable for the scale level of data,
(2) execute the chosen method using the statistical software, JASP,
(3) describe the output results of JASP according to the format of psychological research, and
(4) read the analysis results written in psychology papers.

【Learning activities outside of classroom】

You will be expected to review statistical terms and JASP operations (1 hour per class). If you do not complete the assignment in class, you will have to do your homework until the next class (2 hours per class).

【Grading Criteria】

Grades are based on (1) a term paper (40%), (2) assignments (40%), and (3) class activities and quizzes (20%).

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

心理統計法実習Ⅱ

【W組】

伊藤 尚枝

授業コード：A3705 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学研究でよく用いられる統計解析の理法と技法を習得する。
・二元配置の実験計画に準拠して収集された量的データの検定方法と、その結果の整理を学ぶ。
・多変数の量的データを分類・圧縮する諸技法（多変量解析）を学ぶ。

【到達目標】

到達目標は以下の4点です。
（1）実験計画法や研究目的に適った分析方法を選択できる。
（2）選定した分析方法を、統計ソフトJASPで実行できる。
（3）JASPで分析した結果を、心理学研究の形式に準拠して記述できる。
（4）心理学論文に書かれている分析結果を読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、以下の①～③の流れで行います。ただし、進捗状況に応じて、順序を変更する場合があります。
①毎回1つの分析方法を取り上げて、その理法と技法を講義します。
・講義内容を理解したかを確認するために、小テストを行うことがあります。
②①で学んだ分析方法を、統計ソフトJASPを用いて演習形式で学びます。
・グループワークを取り入れて、JASPの基本操作への理解を深めます。
・JASPの分析結果を心理学研究の形式で記述する方法を学びます。
③①で学習した内容に関する課題を出します。
・②で学んだ操作内容を、実践してもらいます。
・課題の分析結果を、心理学論文に記載する形式でレポートにまとめ、提出してもらいます。
・次回の授業内で、課題の解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	二元配置の分散分析 1	2要因とも対応がない場合
第2回	二元配置の分散分析 2	2要因とも対応がある場合
第3回	二元配置の分散分析 3	1要因に対応がなく、1要因に対応がある場合
第4回	二元配置の分散分析 4	まとめと解説
第5回	因子分析 1	探索的因子分析の考え方と手順
第6回	因子分析 2	結果の整理
第7回	因子分析 3	確認的因子分析の考え方と手順
第8回	因子分析 4	結果の整理
第9回	重回帰分析 1	重回帰分析の考え方と手順
第10回	重回帰分析 2	変数の選択・多重共線性の問題と対策
第11回	重回帰分析 3	結果の整理
第12回	重回帰分析 4	階層的重回帰分析の考え方と手順
第13回	構造方程式モデリング	構造方程式モデリングの考え方と手順
第14回	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で説明した統計用語やJASPの操作に関して、常に復習を行ってください（1時間）。
授業内で課題が終わらなかった場合は、次回授業までの宿題となります（2時間）。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。
授業中に、適宜プリントを配布します。

【参考書】

伊藤尚枝 2014 Q & Aで理解する統計学の基礎 北大路書房
その他の参考書については、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出（40%）、最終テスト（40%）、授業への取り組み・小テスト（20%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

・図を多く取り入れた資料が好評だったので、資料を積極的に取り入れた授業を行います。
・グループワークを実施することで、授業内容の理解を促進します。

【その他の重要事項】

・心理統計法実習Ⅰの内容を含めて授業を進めていきますので、心理統計法実習Ⅰをあらかじめ履修しておいてください。
・質問等については、授業中に受け付けます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is designed to help students acquire the principles and techniques of statistical analysis often used in psychological research. During this course, students will

・ learn how to test the quantitative data collected according to the dual-placement experimental plan and how to organize the results and
・ learn various techniques (multivariate analysis) for classifying and compressing quantitative data of multiple variables.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to:

(1) choose analysis methods suitable for experimental designs and research purposes,
(2) execute the chosen method using the statistical software, JASP,
(3) describe the output results of JASP according to the format of psychological research, and
(4) read the analysis results written in psychology papers.

【Learning activities outside of classroom】

You will be expected to review statistical terms and JASP operations (1 hour per class). If you do not complete the assignment in class, you will have to do your homework until the next class (2 hours per class).

【Grading Criteria】

Grades are based on (1) a term paper (40%), (2) assignments (40%), and (3) class activities and quizzes (20%).

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

心理統計法実習Ⅱ

[X組]

伊藤 尚枝

授業コード：A3706 | 曜日・時限：水3/Wed.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学研究でよく用いられる統計解析の理法と技法を習得する。
・二元配置の実験計画に準拠して収集された量的データの検定方法と、その結果の整理を学ぶ。
・多変数の量的データを分類・圧縮する諸技法（多変量解析）を学ぶ。

【到達目標】

到達目標は以下の4点です。
（1）実験計画法や研究目的に適った分析方法を選択できる。
（2）選定した分析方法を、統計ソフトJASPで実行できる。
（3）JASPで分析した結果を、心理学研究の形式に準拠して記述できる。
（4）心理学論文に書かれている分析結果を読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、以下の①～③の流れで行います。ただし、進捗状況に応じて、順序を変更する場合があります。
①毎回1つの分析方法を取り上げて、その理法と技法を講義します。
・講義内容を理解したかを確認するために、小テストを行うことがあります。
②①で学んだ分析方法を、統計ソフトJASPを用いて演習形式で学びます。
・グループワークを取り入れて、JASPの基本操作への理解を深めます。
・JASPの分析結果を心理学研究の形式で記述する方法を学びます。
③①で学習した内容に関する課題を出します。
・②で学んだ操作内容を、実践してもらいます。
・課題の分析結果を、心理学論文に記載する形式でレポートにまとめ、提出してもらいます。
・次回の授業内で、課題の解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	二元配置の分散分析 1	2要因とも対応がない場合
第2回	二元配置の分散分析 2	2要因とも対応がある場合
第3回	二元配置の分散分析 3	1要因に対応がなく、1要因に対応がある場合
第4回	二元配置の分散分析 4	まとめと解説
第5回	因子分析 1	探索的因子分析の考え方と手順
第6回	因子分析 2	結果の整理
第7回	因子分析 3	確認的因子分析の考え方と手順
第8回	因子分析 4	結果の整理
第9回	重回帰分析 1	重回帰分析の考え方と手順
第10回	重回帰分析 2	変数の選択・多重共線性の問題と対策
第11回	重回帰分析 3	結果の整理
第12回	重回帰分析 4	階層的重回帰分析の考え方と手順
第13回	構造方程式モデリング	構造方程式モデリングの考え方と手順
第14回	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で説明した統計用語やJASPの操作に関して、常に復習を行ってください（1時間）。
授業内で課題が終わらなかった場合は、次回授業までの宿題となります（2時間）。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。
授業中に、適宜プリントを配布します。

【参考書】

伊藤尚枝 2014 Q&Aで理解する統計学の基礎 北大路書房
その他の参考書については、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出（40%）、最終テスト（40%）、授業への取り組み・小テスト（20%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

・図を多く取り入れた資料が好評だったので、資料を積極的に取り入れた授業を行います。
・グループワークを実施することで、授業内容の理解を促進します。

【その他の重要事項】

・心理統計法実習Ⅰの内容を含めて授業を進めていきますので、心理統計法実習Ⅰをあらかじめ履修しておいてください。
・質問等については、授業中に受け付けます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is designed to help students acquire the principles and techniques of statistical analysis often used in psychological research. During this course, students will
・learn how to test the quantitative data collected according to the dual-placement experimental plan and how to organize the results and
・learn various techniques (multivariate analysis) for classifying and compressing quantitative data of multiple variables.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to:
(1) choose analysis methods suitable for experimental designs and research purposes,
(2) execute the chosen method using the statistical software, JASP,
(3) describe the output results of JASP according to the format of psychological research, and
(4) read the analysis results written in psychology papers.

【Learning activities outside of classroom】

You will be expected to review statistical terms and JASP operations (1 hour per class). If you do not complete the assignment in class, you will have to do your homework until the next class (2 hours per class).

【Grading Criteria】

Grades are based on (1) a term paper (40%), (2) assignments (40%), and (3) class activities and quizzes (20%).

PSY100BG（心理学 / Psychology 100）		
心理学基礎実験Ⅰ		
【W組】		
太田 碧		
授業コード：A3707 曜日・時限：月2/Mon.2 春学期授業/Spring・2単位 配当年次：1～4年		
その他属性：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 「心と行動を科学的にとらえる実験マインドを養おう!」をテーマに心理学の実験を体験し、人間の認知や行動を科学的に捉える実験マインドを養います。人間の心や行動の働きについて「なぜだろう?」と疑問を持つこと、そしてその疑問を実験的に検討するための基礎的な考え方を学ぶことが目標です。目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートの書き方やプレゼンテーション技法を身につけることも重視します。		
【到達目標】 ○心理学の実験を行いながら、行動を記録・測定し、データを分析して、仮説を検証したり、制御変数を探索したりすることができるようになる。 ○チームでデータの分析方法や結果の解釈について生産的に話し合うことができるようになる。 ○データをグラフとして作成したり、科学的なレポートとして執筆できるようになる。 ○実験結果を発表することができるようになる。また、他のチームの発表を聞き、質疑応答のやりとりができるようになる。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」「DP6」に関連		
【授業の進め方と方法】 知覚や認知、記憶や学習に関わる基礎的な心理学実験をチームに分かれて実習します。チームで話し合い、協力しながら、仮説と実験計画を立案し、準備を進め、実験を実施し、データを集計し、結果をプレゼンテーションします。また、各自レポートをまとめ、提出します。 レポートの形式は、目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートとし、書式については、日本心理学会の『執筆・投稿の手びき』に従って作成することを学びます。 授業に関する連絡、課題の配布、課題へのフィードバックにはGoogleクラスとSlackを使います。Googleクラスの授業コードは学期開始時に学習支援システムで案内します。 Hoppii（ポータルサイト）：https://hoppii2025.hosei.ac.jp/ Google Classroom（Googleクラス）：https://classroom.google.com/		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の内容と方法、約束事について説明し、チームを編成します。
第2回	実験1	記憶に関する実験をし、データを集計し、グラフを作成します。
第3回	実験1	記憶に関する実験のデータについて考察します。
第4回	実験1	記憶に関する実験のレポートを作成します。
第5回	実験2	知覚に関する実験をし、データを集計し、グラフを作成します。
第6回	実験2	知覚に関する実験をし、データを集計し、グラフを作成します。
第7回	実験2	知覚に関する実験のレポートを作成します。
第8回	実験3	実験1-2から自分たちで再現する実験を選び、実施します。
第9回	実験3	自分たちの実験の準備をして実施します。
第10回	実験3	自分たちの実験のデータを集計し、グラフを作成します。
第11回	実験3	自分たちの実験のレポートを作成します。
第12回	研究発表	自分たちの実験について発表する準備をします。
第13回	研究発表	自分たちの実験について発表する準備をします。
第14回	研究発表	自分たちの実験について発表し、質疑応答します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 実験実習は授業時間内に行いますが、データの集計や分析、レポートの作成などは、授業時間外に行うことになります。具体的には毎回授業終了時に指示します（例：「データをExcelにまとめる」「チームで実験結果について考察する」「レポートを作成し、提出する」）。 また、この授業では実験の「実習」が主な目的なので、各実験に関する詳しい解説は行いません。興味を持った人は各自積極的に参考書などを読んで勉強しましょう。 授業では Word、Excel、PowerPoint を多用します。これらのソフトウェアに慣れていない人は、情報処理の授業を履修したり、ピアが開催する講習会に参加したり、あるいは自習することで、自分から進んで補習して下さい。本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均3時間を標準とします。
【テキスト（教科書）】 テキストはありません。
【参考書】 ○2015年改訂版 執筆・投稿の手びき 日本心理学会（2015） ○心理学実験ノート 心理学実験ノート編集委員会（2001）二瓶社 ○パーソナル・コンピュータによる心理学実験入門：誰でもすぐに行えるコンピュータ実験 北村英哉・坂本正浩（編）ナカニシヤ出版（2004） ○実験とテスト：心理学の基礎（実習編）心理学実験指導研究会（1985）培風館 ○心理学のためのレポート・卒業論文の書き方 杉本 敏夫（2005）サイエンス社 ○ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方 石井一成（2011）ナツメ社 ○この1冊できちんと書ける！ 論文・レポートの基本 石黒 圭（2012）日本実業出版社
【成績評価の方法と基準】 ○実験実習の授業ですので、実習への参加、レポート作成を重視し、授業参加50%、レポート50%で成績をつけます。 ○欠席が5回以上になると自動的にE評価になります。 ○実験実習という授業の特性のため、怪我や病気、忌引き、部活動などの大会など、大学が公に認めている理由でも欠席扱いになりますので注意して下さい。
【学生の意見等からの気づき】 本年度授業担当者変更のため特になし。
【学生が準備すべき機器他】 実験の実施やデータの分析、レポートの作成にPCを用います。
【その他の重要事項】 ○この授業で必要になるPCやアプリの操作技術を以下にまとめました。参照し、履修するかどうかの判断に使ってください。https://onl.sc/mNTQVUW ○W・Xクラスで内容は同じです。Wクラスの方は月曜2限、Xの方は月曜3限を履修して下さい。 ○連絡はSlackのDMで受け付けます。初回授業で説明します。
【Outline (in English)】 【Course outline】 As an introductory lab course, this course gives you hands-on experience with several elements of psychological research, such as planning, observation, measurement, data analysis, and discussion, by carrying out three to four experiments. The purpose of this course is to learn how to conduct experiments in psychology and how to present the results of the experiments in writing and in oral presentation. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students should be able to do the followings: 1) explain how to conduct psychological experiments, 2) analyze data, 3) prepare figures and tables, and 4) write research report. 【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 3 hours). 【Grading Criteria / Policy】 Final grade in this class will be decided based on the following: Class participation (50%) and task completion (50%).

PSY100BG（心理学 / Psychology 100）

心理学基礎実験Ⅰ

[X組]

太田 碧

授業コード：A3708 | 曜日・時限：月3/Mon.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「心と行動を科学的にとらえる実験マインドを養おう!」をテーマに心理学の実験を体験し、人間の認知や行動を科学的に捉える実験マインドを養います。人間の心や行動の働きについて「なぜだろう?」と疑問を持つこと、そしてその疑問を実験的に検討するための基礎的な考え方を学ぶことが目標です。目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートの書き方やプレゼンテーション技法を身につけることも重視します。

【到達目標】

○心理学の実験を行いながら、行動を記録・測定し、データを分析して、仮説を検証したり、制御変数を探索したりすることができるようになる。
○チームでデータの分析方法や結果の解釈について生産的に話し合うことができるようになる。
○データをグラフとして作成したり、科学的なレポートとして執筆できるようになる。
○実験結果を発表することができるようになる。また、他のチームの発表を聞き、質疑応答のやりとりができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

知覚や認知、記憶や学習に関わる基礎的な心理学実験をチームに分かれて実習します。チームで話し合い、協力しながら、仮説と実験計画を立案し、準備を進め、実験を実施し、データを集計し、結果をプレゼンテーションします。また、各自レポートをまとめ、提出します。
レポートの形式は、目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートとし、書式については、日本心理学会の『執筆・投稿の手びき』に従って作成することを学びます。
授業に関する連絡、課題の配布、課題へのフィードバックにはGoogleクラスとSlackを使います。Googleクラスの授業コードは学期開始時に学習支援システムで案内します。

Hoppii（ポータルサイト）：https://hoppii2025.hosei.ac.jp/
Google Classroom（Googleクラス）：https://classroom.google.com/

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の内容と方法、約束事について説明し、チームを編成します。
第2回	実験1	記憶に関する実験をし、データを集計し、グラフを作成します。
第3回	実験1	記憶に関する実験のデータについて考察します。
第4回	実験1	記憶に関する実験のレポートを作成します。
第5回	実験2	知覚に関する実験をし、データを集計し、グラフを作成します。
第6回	実験2	知覚に関する実験をし、データを集計し、グラフを作成します。
第7回	実験2	知覚に関する実験のレポートを作成します。
第8回	実験3	実験1-2から自分たちで再現する実験を選び、実施します。
第9回	実験3	自分たちの実験の準備をして実施します。
第10回	実験3	自分たちの実験のデータを集計し、グラフを作成します。
第11回	実験3	自分たちの実験のレポートを作成します。
第12回	研究発表	自分たちの実験について発表する準備をします。
第13回	研究発表	自分たちの実験について発表する準備をします。
第14回	研究発表	自分たちの実験について発表し、質疑応答します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験実習は授業時間内に行いますが、データの集計や分析、レポートの作成などは、授業時間外に行うことになります。具体的には毎回授業終了時に指示します（例：「データをExcelにまとめる」「チームで実験結果について考察する」「レポートを作成し、提出する」）。
また、この授業では実験の「実習」が主な目的なので、各実験に関する詳しい解説は行いません。興味を持った人は各自積極的に参考書などを読んで勉強しましょう。
授業では Word、Excel、PowerPoint を多用します。これらのソフトウェアに慣れていない人は、情報処理の授業を履修したり、ピアが開催する講習会に参加したり、あるいは自習することで、自分から進んで補習して下さい。本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。

【参考書】

○2015年改訂版 執筆・投稿の手びき 日本心理学会（2015）
○心理学実験ノート 心理学実験ノート編集委員会（2001）二瓶社
○パーソナル・コンピュータによる心理学実験入門：誰でもすぐに行えるコンピュータ実験 北村英哉・坂本正浩（編）ナカニシヤ出版（2004）
○実験とテスト：心理学の基礎（実習編）心理学実験指導研究会（1985）培風館
○心理学のためのレポート・卒業論文の書き方 杉本 敏夫（2005）サイエンス社
○ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方 石井一成（2011）ナツメ社
○この1冊できちんと書ける！ 論文・レポートの基本 石黒 圭（2012）日本実業出版社

【成績評価の方法と基準】

○実験実習の授業ですので、実習への参加、レポート作成を重視し、授業参加50%、レポート50%で成績をつけます。
○欠席が5回以上になると自動的にE評価になります。
○実験実習という授業の特性のため、怪我や病気、忌引き、部活動などの大会など、大学が公に認めている理由でも欠席扱いになりますので注意して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更のため特になし。

【学生が準備すべき機器他】

実験の実施やデータの分析、レポートの作成にPCを用います。

【その他の重要事項】

○この授業で必要になるPCやアプリの操作技術を以下にまとめました。参照し、履修するかどうかの判断に使ってください。https://onl.sc/mNTQVUW
○W・Xクラスで内容は同じです。Wクラスの方は月曜2限、Xの方は月曜3限を履修して下さい。
○連絡はSlackのDMで受け付けます。初回授業で説明します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

As an introductory lab course, this course gives you hands-on experience with several elements of psychological research, such as planning, observation, measurement, data analysis, and discussion, by carrying out three to four experiments. The purpose of this course is to learn how to conduct experiments in psychology and how to present the results of the experiments in writing and in oral presentation.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to do the followings:

1) explain how to conduct psychological experiments, 2) analyze data, 3) prepare figures and tables, and 4) write research report.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 3 hours).

【Grading Criteria / Policy】

Final grade in this class will be decided based on the following: Class participation (50%) and task completion (50%).

PSY100BG（心理学 / Psychology 100）

心理学基礎実験Ⅱ

【W組】

竹島 康博

授業コード：A3709 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

目に見えない「こころ」というものを計測するために、心理学では古くから「実験」という研究法が用いられてきました。この授業は、心理学の分野で行われてきた基礎的な実験を自分たちで実際に実施・体験することで、人間の心や行動に関する疑問に実験的にアプローチする考え方や方法を学ぶことが目的です。春学期とはまた異なる実験内容について実践します。また、目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートの書き方について身に付けることも引き続き重視します。特に、秋学期は方法と結果の記述のポイントを重点的に学習します。

【到達目標】

心理学の基礎的な実験を実際に実施・体験することで、自分が調べたい現象に対して、適切な変数の操作および測定が実施できるようになることを目指します。実験課題を自分で実際に作成し、お互いに実施することでこれらを体系的に学びます。さらに、得られた実験データをグラフとして作成し、研究の方法や得られた結果が決められた体裁で記述された科学的レポートを作成できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期と同様にグループに分かれて実習します。分からないところはお互いに教え合うなど、グループで話し合い、協力しながら実習に臨みます。また、実習した内容（実験）を各自レポートにまとめて提出します。レポートの形式は、春学期と同じく目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートとし、書式については日本心理学会の『執筆・投稿の手引き』に従って作成することを学びます。春学期よりも、自分で内容を考えて作成することが求められます。レポートの提出はHoppiiを通じて行う予定です。提出されたレポートについては授業内で講評を行います。また、コメントしたレポートを次のレポート提出前に返却してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の内容と進め方、使用するソフトウェアの説明、心理学実験の基礎の確認
第2回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験1(1)	実験で扱う現象と実験課題についての説明、実験プログラムの作成
第3回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験1(2)	実験の実施と実験データの集計
第4回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験1(3)	レポート執筆時の注意点の確認
第5回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験1(4)	方法の記述内容の議論と執筆
第6回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験1(5)	図表の作成と結果の執筆
第7回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験1(6)	考察の議論と執筆
第8回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験2(1)	実験の実施と現象の解説、データ集計
第9回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験2(2)	実験プログラムの作成の演習
第10回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験2(3)	方法の記述内容の議論と執筆
第11回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験2(4)	実験結果の統計的仮説検定による分析、図表の作成、結果の執筆
第12回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験2(5)	考察の議論と執筆
第13回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験2(6)	受講生同士でのレポートの体裁の確認とブラッシュアップ
第14回	まとめ	実験レポートの書き方の復習、序論の構成と考察のポイントの説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の内容に合わせて、授業内に終わらなかった実習の実施や、レポート作成を学生各自で授業時間外に行います。具体的には各回の授業の最後に指示します。また、春学期と同様にWord、Excel、PowerPointを使用します。これらのソフトウェアに慣れていない人は情報処理の授業を履修したり、ピアが開催する講習会に参加したり、あるいは自習することで自分から進んで補習してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

日本心理学会『2015年改訂版 執筆・投稿の手びき』2015
心理学実験ノート編集委員会『心理学実験ノート』2001 二瓶社
北村英哉・坂本正浩（編）『パーソナル・コンピュータによる心理学実験入門：誰でもすぐにできるコンピュータ実験』2004 ナカニシヤ出版
心理学実験指導研究会『実験とテスト：心理学の基礎（実習編）』1985 培風館
杉本敏夫『心理学のためのレポート・卒業論文の書き方』2005 サイエンス社
石井一成『ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方』2011 ナツメ社
石黒圭『この1冊できちんと書ける！ 論文・レポートの基本』2012 日本実業出版社

【成績評価の方法と基準】

実習への参加とレポート作成を重視します。実習への参加の態度を評価の60%、作成したレポートへの評価を40%とします。ただし、レポートの未提出が1回でもある場合、欠席が5回以上の場合は自動的にE評価になります。実習授業という特性のため、怪我や病気、忌引き、部活動などの大会など、大学が公欠を認めている事由でも配慮が出来ないので注意してください。また、レポートにおける文献引用のルールに基づかないコピー、受講者同士での文章および図表の共有が発覚した場合、どのような事情であっても該当者全員をE評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

今年度は実験の数を1つ減らして、代わりに1つの実験の実習回数を増やしてなるべく実験レポートを一から書けるような授業内容に変更します。本文だけでなく、図表の作成といった実験レポート作成に必要な実習も取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

実験の実施やデータの分析、レポートの作成にPCを用います。授業教室に共用のノートPCはありますが、使い慣れたものがよい場合は持参してください。

【その他の重要事項】

クラス授業で、Wクラスが受講対象です（W・Xクラスで内容は同じです）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve basic psychological experiments associated to perception, cognition, and learning.

【Learning objectives】

The goals of this course are to learn how to conduct experiments in psychology and how to report the results of experiments.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on class contribution (60%) and reports (40%).

PSY100BG（心理学 / Psychology 100）

心理学基礎実験Ⅱ

[X組]

竹島 康博

授業コード：A3710 | 曜日・時限：月3/Mon.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

目に見えない「こころ」というものを計測するために、心理学では古くから「実験」という研究法が用いられてきました。この授業は、心理学の分野で行われてきた基礎的な実験を自分たちで実際に実施・体験することで、人間の心や行動に関する疑問に実験的にアプローチする考え方や方法を学ぶことが目的です。春学期とはまた異なる実験内容について実践します。また、目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートの書き方について身に付けることも引き続き重視します。特に、秋学期は方法と結果の記述のポイントを重点的に学習します。

【到達目標】

心理学の基礎的な実験を実際に実施・体験することで、自分が調べたい現象に対して、適切な変数の操作および測定が実施できるようになることを目指します。実験課題を自分で実際に作成し、お互いに実施することでこれらを体系的に学びます。さらに、得られた実験データをグラフとして作成し、研究の方法や得られた結果が決められた体裁で記述された科学的レポートを作成できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期と同様にグループに分かれて実習します。分からないところはお互いに教え合うなど、グループで話し合い、協力しながら実習に臨みます。また、実習した内容（実験）を各自レポートにまとめて提出します。レポートの形式は、春学期と同じく目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートとし、書式については日本心理学会の『執筆・投稿の手引き』に従って作成することを学びます。春学期よりも、自分で内容を考えて作成することが求められます。レポートの提出はHoppiiを通じて行う予定です。提出されたレポートについては授業内で講評を行います。また、コメントしたレポートを次のレポート提出前に返却してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の内容と進め方、使用するソフトウェアの説明、心理学実験の基礎の確認
第2回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験1(1)	実験で扱う現象と実験課題についての説明、実験プログラムの作成
第3回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験1(2)	実験の実施と実験データの集計
第4回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験1(3)	レポート執筆時の注意点の確認
第5回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験1(4)	方法の記述内容の議論と執筆
第6回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験1(5)	図表の作成と結果の執筆
第7回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験1(6)	考察の議論と執筆
第8回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験2(1)	実験の実施と現象の解説、データ集計
第9回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験2(2)	実験プログラムの作成の演習
第10回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験2(3)	方法の記述内容の議論と執筆
第11回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験2(4)	実験結果の統計的仮説検定による分析、図表の作成、結果の執筆
第12回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験2(5)	考察の議論と執筆
第13回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験2(6)	受講生同士でのレポートの体裁の確認とブラッシュアップ
第14回	まとめ	実験レポートの書き方の復習、序論の構成と考察のポイントの説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の内容に合わせて、授業内に終わらなかった実習の実施や、レポート作成を学生各自で授業時間外に行います。具体的には各回の授業の最後に指示します。また、春学期と同様にWord、Excel、PowerPointを使用します。これらのソフトウェアに慣れていない人は情報処理の授業を履修したり、ピアが開催する講習会に参加したり、あるいは自習することで自分から進んで補習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

日本心理学会『2015年改訂版 執筆・投稿の手びき』2015
心理学実験ノート編集委員会『心理学実験ノート』2001 二瓶社
北村英哉・坂本正浩（編）『パーソナル・コンピュータによる心理学実験入門：誰でもすぐにできるコンピュータ実験』2004 ナカニシヤ出版
心理学実験指導研究会『実験とテスト：心理学の基礎（実習編）』1985 培風館
杉本敏夫『心理学のためのレポート・卒業論文の書き方』2005 サイエンス社
石井一成『ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方』2011 ナツメ社
石黒圭『この1冊できちんと書ける！ 論文・レポートの基本』2012 日本実業出版社

【成績評価の方法と基準】

実習への参加とレポート作成を重視します。実習への参加の態度を評価の60%、作成したレポートへの評価を40%とします。ただし、レポートの未提出が1回でもある場合、欠席が5回以上の場合は自動的にE評価になります。実習授業という特性のため、怪我や病気、忌引き、部活動などの大会など、大学が公欠を認めている事由でも配慮が出来ないので注意してください。また、レポートにおける文献引用のルールに基づかないコピペ、受講者同士での文章および図表の共有が発覚した場合、どのような事情であっても該当者全員をE評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

今年度は実験の数を1つ減らして、代わりに1つの実験の実習回数を増やしてなるべく実験レポートを一から書けるような授業内容に変更します。本文だけでなく、図表の作成といった実験レポート作成に必要な実習も取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

実験の実施やデータの分析、レポートの作成にPCを用います。授業教室に共用のノートPCはありますが、使い慣れたものがよい場合は持参してください。

【その他の重要事項】

クラス授業で、Xクラスが受講対象です（W・Xクラスで内容は同じです）。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve basic psychological experiments associated to perception, cognition, and learning.

[Learning objectives]

The goals of this course are to learn how to conduct experiments in psychology and how to report the results of experiments.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policy]

Grading will be decided based on class contribution (60%) and reports (40%).

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

演習Ⅱ（1）

太田 碧

授業コード：A3711 | 曜日・時限：木4/Thu.4
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2（～4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分たちの関心ある問題を設定し、適切な実験計画を立て、実験を実施し、結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで、心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

【到達目標】

以下の各要素が到達目標となります。

1. 実験計画を立てるために必要な要素計画の基礎知識を理解し、説明できる。
2. 設定した研究目的に基づいて、2要因以上の実験計画を立てることができる。
3. 実際に実験を行うための具体的な方法（手続き）を考案できる。
4. 適切な統計手法を用いて、取得したデータを分析できる。
5. 研究成果を正確かつ効率的に情報伝達できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

実験による研究方法を身につけるため、先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て、実施するというプロジェクト型学習（PBL）に取り組みます。基本的には班活動（グループワーク）によって授業を進めます。2回目から5回目までの授業では、反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で、授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て、計画発表をします。計画発表では、実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて、再度班で実験計画について検討をし、実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には、実際に実験で得られたデータに対する分析結果と、その結果に関する考察まで含めます。本発表までは班活動が中心ですが、最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので、各自で理解を深めておくことが重要です。授業中に、事前課題の回答・班活動・計画発表・本発表などについて、班ごとにまたはクラス全体に向けてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明、実験法についての概説、受講上の注意、班構成について
第2回	要因計画の基礎 1	研究仮説とは、独立変数・従属変数、操作的定義
第3回	要因計画の基礎 2	剰余変数の統制、統制群と実験群、仮説の検証
第4回	要因計画の基礎 3	統計的検定の意味、2要因分散分析における主効果と交互作用、単純主効果
第5回	計画発表準備 1	研究テーマ決定、先行研究の読解、研究の目的・仮説の決定
第6回	計画発表準備 2	実験方法の検討、発表用資料の作成
第7回	計画発表	実験計画の発表
第8回	本発表準備 1	実験計画の修正、実験刺激作成等
第9回	本発表準備 2	実験の実施
第10回	本発表準備 3	データ分析
第11回	本発表準備 4	考察
第12回	本発表準備 5	発表用資料の作成、パワーポイントのスライド作成
第13回	本発表	実験の発表
第14回	総括	授業の振り返り、到達状況の確認、フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、学習支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に2回目から5回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要性があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも、発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。従って、本授業の準備時間は3時間、復習時間は1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業はテキストに沿って行うとは限りませんが、次の本を持っていることを前提とします。随時、参照できるように授業に持ってくることも、予習をしましょう。
後藤宗理・大野木裕明・中澤 潤（編著）「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003年

【参考書】

レジュメの書き方や引用の仕方、発表の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」（藤田哲也（編）、北大路書房、2006年）

【成績評価の方法と基準】

平常点40%、計画発表15%、本発表25%、ミニ論文20%の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。計画発表・本発表では、研究内容に加え、レジュメ（本発表ではスライドも含む）の体裁、発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は、班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので、この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので、班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても、授業内で詳しく説明を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

2024年度の授業改善アンケートに回答してくれた7名のうち「この授業を履修してよかった」で5が6名、4が1名となりました。「理解度」は5が5名と最も多く、4は2名で、理解度3以下の人はいませんでした。準備学習としてのビデオや予習課題が内容の定着につながったのだと思います。授業外学習時間の最頻値は30分以上1時間未満ということで、少し不安になりましたが、「理解度」を考慮すると、効率よく課題をこなせていたと考えることもできるかもしれません。実際、授業内の班活動で、実験や発表に必要な情報収集は行っていたように思えます。しかしながら、発表内容からカウンターバランスなどについて理解できていないようにも感じたので、授業外学習として予習や発表準備だけでなく、復習も行っていたところでした。「授業の工夫」は5が4名、4が2名でしたが、2が1名いました。今後の授業運営としての参考にしたので、できればどの点をもっと工夫して欲しかったのかについて自由記述欄に書いて欲しかったと思います。

この授業で学んだことを、卒業研究のテーマ決めや、測定方法の参考に大いに役立ててもらえたらと思います。

【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は、遅くとも初回授業日中にメールで直接連絡をください。メールアドレスは h.inouee10[at]gmail.com です（[at]を@マークに置き換えてください）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students set research questions by themselves, formulate appropriate experimental designs, conduct experiments, analyze the data, and discuss the results.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. Students can understand and explain the fundamentals of factorial designs necessary for making an experimental design.
2. Students can create an experimental design with two or more factors based on the research objectives they have set.
3. Students can devise specific methods (procedures) for actually conducting experiments.
4. Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.
5. Students can communicate research results accurately and efficiently.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students are expected to watch and read the materials and then submit their preparatory tasks. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

【Grading Criteria / Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research plan presentation 15%, main presentation 25%, mini-thesis 20%.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

演習Ⅱ（2）

押尾 恵吾

授業コード：A3712 | 曜日・時限：火3/Tue.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2（～4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分たちの関心ある問題を設定し、適切な実験計画を立て、実験を実施し、結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで、心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

【到達目標】

以下の各要素が到達目標となります。

1. 実験計画を立てるために必要な要素計画の基礎知識を理解し、説明できる。
2. 設定した研究目的に基づいて、2要因以上の実験計画を立てることができる。
3. 実際に実験を行うための具体的な方法（手続き）を考案できる。
4. 適切な統計手法を用いて、取得したデータを分析できる。
5. 研究成果を正確かつ効率的に情報伝達できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

実験による研究方法を身につけるため、先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て、実施するというプロジェクト型学習（PBL）に取り組みます。基本的には班活動（グループワーク）によって授業を進めます。2回目から5回目までの授業では、反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で、授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て、計画発表をします。計画発表では、実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて、再度班で実験計画について検討をし、実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には、実際に実験で得られたデータに対する分析結果と、その結果に関する考察まで含めます。本発表までは班活動が中心ですが、最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので、各自で理解を深めておくことが重要です。授業中に、事前課題の回答・班活動・計画発表・本発表などについて、班ごとにまたはクラス全体に向けてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明、実験法についての概説、受講上の注意、班構成について
第2回	要因計画の基礎 1	研究仮説とは、独立変数・従属変数、操作的定義
第3回	要因計画の基礎 2	剰余変数の統制、統制群と実験群、仮説の検証
第4回	要因計画の基礎 3	統計的検定の意味、2要因分散分析における主効果と交互作用、単純主効果
第5回	計画発表準備 1	研究テーマ決定、先行研究の読解、研究の目的・仮説の決定
第6回	計画発表準備 2	実験方法の検討、発表用資料の作成
第7回	計画発表	実験計画の発表
第8回	本発表準備 1	実験計画の修正、実験刺激作成等
第9回	本発表準備 2	実験の実施
第10回	本発表準備 3	データ分析
第11回	本発表準備 4	考察
第12回	本発表準備 5	発表用資料の作成、パワーポイントのスライド作成
第13回	本発表	実験の発表
第14回	総括	授業の振り返り、到達状況の確認、フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、学習支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に2回目から5回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要性があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも、発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。従って、本授業の準備時間は3時間、復習時間は1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業はテキストに沿って行うとは限りませんが、次の本を持っていることを前提とします。随時、参照できるように授業に持ってくることも、予習をしましょう。
後藤宗理・大野木裕明・中澤 潤（編著）「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003年

【参考書】

レジュメの書き方や引用の仕方、発表の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」（藤田哲也（編）、北大路書房、2006年）

【成績評価の方法と基準】

平常点40%、計画発表15%、本発表25%、ミニ論文20%の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。計画発表・本発表では、研究内容に加え、レジュメ（本発表ではスライドも含む）の体裁、発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は、班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので、この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので、班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても、授業内で詳しく説明を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

2024年度の授業改善アンケートに回答してくれた9名のうち「この授業を履修してよかった」で5が6名、4が2名、3が1名となりました。「理解度」は5と4が多く5が4名、4が4名、3が1名で、ほぼ例年同様の傾向でした。内容の定着は一定水準に達していたのだと思います。自由記述欄には3名が書いてくれましたが、いずれも肯定的な意見でした。「一度班としての活動で実験を一から組み立てて行うことができたのが良い経験となったと思います。」「実験の進め方や分析の仕方をものすごく丁寧にわかりやすく指導していただいたので良かったです。」「3年に向けて必要な情報が分かりやすく理解出来ました。」という意見をいただきました。
班活動も、班活動のための準備学習（予習）も、教員はお膳立てまではできませんが、実施するかどうかは受講生の皆さん次第です。今年度はみんなサボらずに熱心に取り組んでくれたので、班活動自体にも満足度は高かったのかと思います。今後も協同学習の考え方を踏襲し、より応用的に実践してってください。3年生になれば今度は個人での研究活動が中心になりますので、この授業で学んだことを定期的に振り返ってもらえたらと思います。

【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は、遅くとも初回授業までにメールで直接連絡をください。メールアドレスはoshiodejikken[at]yahoo.co.jp です [at]を@マークに置き換えてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students set research questions by themselves, formulate appropriate experimental designs, conduct experiments, analyze the data, and discuss the results.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.Students can understand and explain the fundamentals of factorial designs necessary for making an experimental design.
- 2.Students can create an experimental design with two or more factors based on the research objectives they have set.
- 3.Students can devise specific methods (procedures) for actually conducting experiments.
- 4.Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.
- 5.Students can communicate research results accurately and efficiently.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students are expected to watch and read the materials and then submit their preparatory tasks. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research plan presentation 15%, main presentation 25%, mini-thesis 20%.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

演習Ⅱ（3）

竹島 康博

授業コード：A3713 | 曜日・時限：木4/Thu.4
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2（～4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分たちの関心ある問題を設定し、適切な実験計画を立て、実験を実施し、結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで、心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

【到達目標】

以下の各要素が到達目標となります。

1. 実験計画を立てるために必要な要素計画の基礎知識を理解し、説明できる。
2. 設定した研究目的に基づいて、2要因以上の実験計画を立てることができる。
3. 実際に実験を行うための具体的な方法（手続き）を考案できる。
4. 適切な統計手法を用いて、取得したデータを分析できる。
5. 研究成果を正確かつ効率的に情報伝達できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

実験による研究方法を身につけるため、先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て、実施するというプロジェクト型学習（PBL）に取り組みます。基本的には班活動（グループワーク）によって授業を進めます。2回目から5回目までの授業では、反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で、授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て、計画発表をします。計画発表では、実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて、再度班で実験計画について検討をし、実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には、実際に実験で得られたデータに対する分析結果と、その結果に関する考察まで含めます。本発表までは班活動が中心ですが、最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので、各自で理解を深めておくことが重要です。授業中に、事前課題の回答・班活動・計画発表・本発表などについて、班ごとにまたはクラス全体に向けてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明、実験法についての概説、受講上の注意、班構成について
第2回	要因計画の基礎 1	研究仮説とは、独立変数・従属変数、操作的定義
第3回	要因計画の基礎 2	剰余変数の統制、統制群と実験群、仮説の検証
第4回	要因計画の基礎 3	統計的検定の意味、2要因分散分析における主効果と交互作用、単純主効果
第5回	計画発表準備 1	研究テーマ決定、先行研究の読解、研究の目的・仮説の決定
第6回	計画発表準備 2	実験方法の検討、発表用資料の作成
第7回	計画発表	実験計画の発表
第8回	本発表準備 1	実験計画の修正、実験刺激作成等
第9回	本発表準備 2	実験の実施
第10回	本発表準備 3	データ分析
第11回	本発表準備 4	考察
第12回	本発表準備 5	発表用資料の作成、パワーポイントのスライド作成
第13回	本発表	実験の発表
第14回	総括	授業の振り返り、到達状況の確認、フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、学習支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に2回目から5回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要性があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも、発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。従って、本授業の準備時間は3時間、復習時間は1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業はテキストに沿って行うとは限りませんが、次の本を持っていることを前提とします。随時、参照できるように授業に持ってくることも、予習をしましょう。
後藤宗理・大野木裕明・中澤 潤（編著）「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003年

【参考書】

レジュメの書き方や引用の仕方、発表の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」（藤田哲也（編）、北大路書房、2006年）

【成績評価の方法と基準】

平常点40%、計画発表15%、本発表25%、ミニ論文20%の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。計画発表・本発表では、研究内容に加え、レジュメ（本発表ではスライドも含む）の体裁、発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は、班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので、この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので、班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても、授業内で詳しく説明を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

授業外での活動の負担が少しでも減るように、今年度も授業内で疑問点や相談には丁寧に回答・アドバイスをします。最後までしっかり取り組んでください。

【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は、遅くとも初回の授業日中にメールで直接連絡をください。メールアドレスはtakeshima[at]hosei.ac.jp です（[at]を@マークに置き換えてください）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students set research questions by themselves, formulate appropriate experimental designs, conduct experiments, analyze the data, and discuss the results.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. Students can understand and explain the fundamentals of factorial designs necessary for making an experimental design.
2. Students can create an experimental design with two or more factors based on the research objectives they have set.
3. Students can devise specific methods (procedures) for actually conducting experiments.
4. Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.
5. Students can communicate research results accurately and efficiently.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students are expected to watch and read the materials and then submit their preparatory tasks. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research plan presentation 15%, main presentation 25%, mini-thesis 20%.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

演習Ⅱ（４）

藤田 哲也

授業コード：A3714 | 曜日・時限：木4/Thu.4
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2（～4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分たちの関心ある問題を設定し、適切な実験計画を立て、実験を実施し、結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで、心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

【到達目標】

以下の各要素が到達目標となります。

1. 実験計画を立てるために必要な要素計画の基礎知識を理解し、説明できる。
2. 設定した研究目的に基づいて、2要因以上の実験計画を立てることができる。
3. 実際に実験を行うための具体的な方法（手続き）を考案できる。
4. 適切な統計手法を用いて、取得したデータを分析できる。
5. 研究成果を正確かつ効率的に情報伝達できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

実験による研究方法を身につけるため、先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て、実施するというプロジェクト型学習（PBL）に取り組みます。基本的には班活動（グループワーク）によって授業を進めます。2回目から5回目までの授業では、反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で、授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て、計画発表をします。計画発表では、実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて、再度班で実験計画について検討をし、実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には、実際に実験で得られたデータに対する分析結果と、その結果に関する考察まで含めます。本発表までは班活動が中心ですが、最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので、各自で理解を深めておくことが重要です。授業中に、事前課題の回答・班活動・計画発表・本発表などについて、班ごとにまたはクラス全体に向けてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明、実験法についての概説、受講上の注意、班構成について
第2回	要因計画の基礎 1	研究仮説とは、独立変数・従属変数、操作的定義
第3回	要因計画の基礎 2	剰余変数の統制、統制群と実験群、仮説の検証
第4回	要因計画の基礎 3	統計的検定の意味、2要因分散分析における主効果と交互作用、単純主効果
第5回	計画発表準備 1	研究テーマ決定、先行研究の読解、研究の目的・仮説の決定
第6回	計画発表準備 2	実験方法の検討、発表用資料の作成
第7回	計画発表	実験計画の発表
第8回	本発表準備 1	実験計画の修正、実験刺激作成等
第9回	本発表準備 2	実験の実施
第10回	本発表準備 3	データ分析
第11回	本発表準備 4	考察
第12回	本発表準備 5	発表用資料の作成、パワーポイントのスライド作成
第13回	本発表	実験の発表
第14回	総括	授業の振り返り、到達状況の確認、フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、学習支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に2回目から5回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要性があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも、発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。従って、本授業の準備時間は3時間、復習時間は1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業はテキストに沿って行うとは限りませんが、次の本を持っていることを前提とします。随時、参照できるように授業に持ってくることも、予習をしましょう。
後藤宗理・大野木裕明・中澤 潤（編著）「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003年

【参考書】

レジュメの書き方や引用の仕方、発表の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」（藤田哲也（編）、北大路書房、2006年）

【成績評価の方法と基準】

平常点40%、計画発表15%、本発表25%、ミニ論文20%の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。計画発表・本発表では、研究内容に加え、レジュメ（本発表ではスライドも含む）の体裁、発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は、班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので、この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので、班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても、授業内で詳しく説明を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

2024年度の授業改善アンケートに回答してくれた9名のうち「この授業を履修してよかった」で5が6名、4が3名となりました。「理解度」は4が多く5名、5は4名で、ほぼ例年同様の傾向でした。理解度3以下の人はいなかったもので、内容の定着は一定水準に達していたのだと思います。授業外学習時間も前年度同様、個人差が大きく感じました（最頻値は3時間以上で5名ですが、1時間未満も1名いるというように）。自由記述欄には3名が書いてくれましたが、いずれも肯定的な意見でした。その中でも「全員真面目に授業に取り組んでいて、心地よく学習することができました。」というのがありました。班活動も、班活動のための準備学習（予習）も、教員はお膳立てまではできませんが、実施するかどうかは受講生の皆さん次第です。今年度はみんなサボらずに熱心に取り組んでくれたので、班活動自体にも満足度は高かったのかと思います。今後も協同学習の考え方を踏襲し、より応用的に実践していってください。3年生になれば今度は個人での研究活動が中心になりますので、この授業で学んだことを定期的に振り返ってもらえたらと思います。

【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は、遅くとも初回授業日中にメールで直接連絡をください。メールアドレスはfujita009[at]hosei.ac.jp です（[at]を@マークに置き換えてください）。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this course, students set research questions by themselves, formulate appropriate experimental designs, conduct experiments, analyze the data, and discuss the results.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.Students can understand and explain the fundamentals of factorial designs necessary for making an experimental design.
- 2.Students can create an experimental design with two or more factors based on the research objectives they have set.
- 3.Students can devise specific methods (procedures) for actually conducting experiments.
- 4.Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.
- 5.Students can communicate research results accurately and efficiently.

[Learning activities outside of classroom]

Before each class meeting, students are expected to watch and read the materials and then submit their preparatory tasks. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research plan presentation 15%, main presentation 25%, mini-thesis 20%.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

演習Ⅱ（5）

田嶋 圭一

授業コード：A3715 | 曜日・時限：火3/Tue.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2（～4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分たちの関心ある問題を設定し、適切な実験計画を立て、実験を実施し、結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで、心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

【到達目標】

以下の各要素が到達目標となります。

1. 実験計画を立てるために必要な要素計画の基礎知識を理解し、説明できる。
2. 設定した研究目的に基づいて、2要因以上の実験計画を立てることができる。
3. 実際に実験を行うための具体的な方法（手続き）を考案できる。
4. 適切な統計手法を用いて、取得したデータを分析できる。
5. 研究成果を正確かつ効率的に情報伝達できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

実験による研究方法を身につけるため、先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て、実施するというプロジェクト型学習（PBL）に取り組みます。基本的に班活動（グループワーク）によって授業を進めます。2回目から5回目までの授業では、反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で、授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て、計画発表をします。計画発表では、実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて、再度班で実験計画について検討をし、実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には、実際に実験で得られたデータに対する分析結果と、その結果に関する考察まで含めます。本発表までは班活動が中心ですが、最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので、各自で理解を深めておくことが重要です。授業中に、事前課題の回答・班活動・計画発表・本発表などについて、班ごとにまたはクラス全体に向けてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明、実験法についての概説、受講上の注意、班構成について
第2回	要因計画の基礎 1	研究仮説とは、独立変数・従属変数、操作的定義
第3回	要因計画の基礎 2	剰余変数の統制、統制群と実験群、仮説の検証
第4回	要因計画の基礎 3	統計的検定の意味、2要因分散分析における主効果と交互作用、単純主効果
第5回	計画発表準備 1	研究テーマ決定、先行研究の読解、研究の目的・仮説の決定
第6回	計画発表準備 2	実験方法の検討、発表用資料の作成
第7回	計画発表	実験計画の発表
第8回	本発表準備 1	実験計画の修正、実験刺激作成等
第9回	本発表準備 2	実験の実施
第10回	本発表準備 3	データ分析
第11回	本発表準備 4	考察
第12回	本発表準備 5	発表用資料の作成、パワーポイントのスライド作成
第13回	本発表	実験の発表
第14回	総括	授業の振り返り、到達状況の確認、フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、学習支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に2回目から5回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要性があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも、発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。従って、本授業の準備時間は3時間、復習時間は1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業はテキストに沿って行うとは限りませんが、次の本を持っていることを前提とします。随時、参照できるように授業に持ってくることも、予習をしましょう。
後藤宗理・大野木裕明・中澤 潤（編著）「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003年

【参考書】

レジュメの書き方や引用の仕方、発表の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」（藤田哲也（編）、北大路書房、2006年）

【成績評価の方法と基準】

平常点40%、計画発表15%、本発表25%、ミニ論文20%の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。計画発表・本発表では、研究内容に加え、レジュメ（本発表ではスライドも含む）の体裁、発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は、班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので、この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので、班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても、授業内で詳しく説明を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

回答者8名のうち、全員が「工夫されていた」、7名が「理解できた」「履修してよかった」と回答してくれました。反転授業形式で事前に課題に取り組んでから授業活動に取り組む仕組みが、高い評価につながったのではないかと思います。授業外学習時間は個人間のばらつきがやや大きく、「週1～2時間」が2名、「週2～3時間」が4名、「週3時間以上」が2名でした。「毎回グループワークがあり、実際に説明する時間があつたため、『なんとなく理解している』という段階から『理解している』の段階にステップアップできた」「少人数の授業なので、積極的な発言がしやすかった。実験についても班員だけでなく、他の受講者、先生からの意見を取り込んでより良いものにできたと思う」といった能動的な取り組みに関するコメントがありました。改善点に関するコメントはありませんでした。

【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は、遅くとも初回授業前日までにメールで直接連絡をください。メールアドレスは [tajima\[at\]hosei.ac.jp](mailto:tajima[at]hosei.ac.jp) です（[at]を@マークに置き換えてください）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students set research questions by themselves, formulate appropriate experimental designs, conduct experiments, analyze the data, and discuss the results.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.Students can understand and explain the fundamentals of factorial designs necessary for making an experimental design.
- 2.Students can create an experimental design with two or more factors based on the research objectives they have set.
- 3.Students can devise specific methods (procedures) for actually conducting experiments.
- 4.Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.
- 5.Students can communicate research results accurately and efficiently.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students are expected to watch and read the materials and then submit their preparatory tasks. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research plan presentation 15%, main presentation 25%, mini-thesis 20%.

PSY300BG（心理学 / Psychology 300）

研究法 I （9）

荒井 弘和

授業コード：A3716 | 曜日・時限：水2/Wed.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4（※2011以前入学者は4）年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
(1) 心理学の問いを設定すること、(2) 心理学の研究を実施する計画を立てること。

【到達目標】
4年生は、心理学の研究計画を立て、研究実施の実施について倫理委員会から承認されることを目標とする。3年生は、心理学の問いを設定できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
(1) 研究論文を読んで発表したり、(2) 意見交換をしたりして、いくつかの研究のパターンを身につけることを目指します。授業中に行うことは、(1) プレゼンテーションと意見交換、(2) グループワークです。
課題に対するフィードバックは、「次の回の授業の序盤に受講生全体に対して」「メーリングリストを利用して受講生全体に対して」「個人的に」のいずれかの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	自分の関心を洗い出す (1)	関心のあるテーマを出し合う。その内容について、意見交換を行う。
第2回	自分の関心を洗い出す (2)	関心のあるテーマを出し合う。その内容について、意見交換を行う。
第3回	自分の関心を洗い出す (3)	関心のあるテーマを出し合う。その内容について、意見交換を行う。
第4回	先行研究を読み、内容をまとめる (1)	関心のあるテーマに関連する研究論文を読み、資料を作成して発表する。その内容について、意見交換を行う。
第5回	先行研究を読み、内容をまとめる (2)	関心のあるテーマに関連する研究論文を読み、資料を作成して発表する。その内容について、意見交換を行う。
第6回	先行研究を読み、内容をまとめる (3)	関心のあるテーマに関連する研究論文を読み、資料を作成して発表する。その内容について、意見交換を行う。
第7回	先行研究を読み、内容をまとめる (4)	関心のあるテーマに関連する研究論文を読み、資料を作成して発表する。その内容について、意見交換を行う。
第8回	先行研究を読み、内容をまとめる (5)	関心のあるテーマに関連する研究論文を読み、資料を作成して発表する。その内容について、意見交換を行う。
第9回	研究計画を立てる (1)	研究計画申請書を作成し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究計画を立て直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第10回	研究計画を立てる (2)	研究計画申請書を作成し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究計画を立て直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第11回	研究計画を立てる (3)	研究計画申請書を作成し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究計画を立て直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第12回	研究計画を立てる (4)	研究計画申請書を作成し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究計画を立て直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第13回	研究計画を立てる (5)	研究計画申請書を作成し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究計画を立て直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第14回	研究計画を完成させる	研究計画申請書を完成させ、倫理委員会に提出する。（提出後、研究を実施する）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
(1) 文献検索、(2) 授業中に提示された課題、(3) 発表資料の作成に取り組みます。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキスト・参考書は用いません。必要に応じて、資料の配付・書籍や文献の紹介を行います。

【参考書】
2010年度～2024年度「法政大学文学部心理学科荒井ゼミ卒業論文集」

【成績評価の方法と基準】
(1) 作成したレポートや発表の内容が60%、(2) 意見交換やグループワークへの参加状況が40%です。欠席・遅刻をした場合は評価が下がります。

【学生の意見等からの気づき】
「興味関心を深掘りする形で段階を踏んで、研究分野を決められたのがよかった。ラフに意見を交換できる形式で、話しやすい」などのコメントをもらいました。今後も、受講生が主体的に対話を重ねながら探究できる授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】
ありません。

【その他の重要事項】
授業の概要を理解するために、また、授業の予定を立てるために、初回の授業には必ず出席してください。
授業中の呼称について、希望があれば担当教員に申し出てください。
担当教員に申告しにくい事柄がある場合、学内の施設（学生相談室やDEIセンター等）を遠慮なく利用してください。

【Outline (in English)】
(Course outline)
(1) To formulate a psychological question; (2) To plan to conduct a psychological study.
(Learning Objectives)
(1) to be able to formulate psychological questions (this is a major goal for 3rd year students), and (2) to be able to formulate a research plan in psychology (this is a major goal for 4th year students).
(Learning activities outside of classroom)
Students will work on (1) literature search, (2) assignments given in class, and (3) preparation of presentation materials.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy)
(1) 60% of the grade will be based on the content of the reports and presentations you make, and (2) 40% of the grade will be based on your participation in opinion exchange and group work. If you are absent or late, your evaluation will be lowered.

PSY300BG（心理学 / Psychology 300）

研究法 I（10）

林 容市

授業コード：A3717 | 曜日・時限：水2/Wed.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4（※2011以前入学者は4）年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、自らが問題・課題を提起し、それらを先行研究のレビュー、実験・調査およびデータ分析によって解決することを通じ、論文作成を見据えた研究の実践方法を学びます。

【到達目標】

1. 目的とするデータが掲載されている論文の検索し、情報を取りまとめる（レビュー）ことができる。
2. 論文に記載されている実験・調査方法、分析法が理解できる。
3. 研究計画を立て、研究計画書を作成できる。
4. 発表資料を作成し、聴衆が理解しやすいプレゼンテーションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

研究課題の設定、文献のレビュー、研究仮説の設定、研究計画書の作成、実験計画、実験・調査の遂行、統計解析、レポートの作成、プレゼンテーションなどの各方法を学び、実践します。まずはグループでの作業から取り組みますが、最終的には個人ごとにテーマを設定し、研究計画書の作成およびプレゼンテーションを行います。本授業で対象とする予定の主たる研究テーマは以下の通りです。

- 身体活動・スポーツ中の感覚認知 / 心理的情報と生理的状態の対応
- 体型認識と減量行動・リバウンド・身体活動量
- 瘦身指向に関与する性格・意識の特徴
- 高齢者・有疾患者の運動・身体活動と Quality of Life / 生活満足度

また、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概要の説明	授業計画や実践内容などについて説明を受け、グループ分けを行う。
第2回	個人研究の計画発表1	卒業論文で対象としたい研究テーマについて、この回の担当者が研究計画を発表する。
第3回	個人研究の計画発表2	前回に続き、卒業論文で対象としたい研究テーマについて、この回の担当者が研究計画を発表する。
第4回	研究テーマの設定	研究遂行に関する講義を受ける。グループごとの研究テーマを設定する。
第5回	研究課題の設定	研究テーマに関する文献をレビューし、グループごとに研究課題を設定する。
第6回	研究計画の立案	この回の担当グループがミニ研究の計画を発表し、内容に関して論議する。
第7回	研究計画書の作成	研究計画書の作成方法に関して講義を受ける。グループで研究計画書を作成する。
第8回	研究の実践1	グループごとに、ミニ研究に向けたデータ収集の準備・実践を行う。
第9回	研究の実践2	グループごとに、データ分析、結果のまとめ・解釈を行う。
第10回	研究成果の発表	ミニ研究の結果報告会（ミニ研究の結果をグループごとに発表する）。
第11回	論文作成法の解説	研究結果を論文にまとめる技法などの講義を受ける。
第12回	個人研究の発表1	卒業論文で対象とする研究テーマを確定し、倫理申請に向けて、この回の担当者が研究内容を報告する。
第13回	個人研究の発表2	前回に続き、卒業論文で対象とする研究テーマを確定し、倫理申請に向けて、この回の担当者が研究計画を発表する。
第14回	個人研究の計画	卒業論文の研究計画について討論し、まとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほとんどの回で文献の検索やレビュー（まとめ）、プレゼンテーションの準備、研究計画書の作成などの課題を課します。それに従って必ず資料等の作成、発表準備をしてきてください。また、個人研究、グループ研究共に、授業以外に時間を設けて実験・調査、発表準備などの作業を行う必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じて適宜資料の配付、書籍・文献の紹介をします。

【参考書】

浦上昌則、脇田貴文、心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方、東京図書。

【成績評価の方法と基準】

評価は、1) 発表や各課題の内容：50%、2) 授業への参画状況（受講生間のコミュニケーション、グループでの作業への参画など。単なる出席状況ではありません）：50%、で行います。

なお、授業へ出席することは評価対象にはなりません。単位取得のための前提となります。特別な事情がない限り必ず出席してください。

【学生の意見等からの気づき】

4年生については、春学期のうちに卒業論文の執筆に向けた作業を進展させることが非常に重要だと感じました。特に倫理申請については、秋学期になってからの取り組みは、時期的に遅すぎますので、春学期中に申請できるよう、授業でも連携して進めていきたいと思います。

3年生については、この数年の課題やプレゼンテーションなどに対して、非常にしっかりと取り組んでくれていたように感じています。今年度も4年次の卒論の執筆に向けて、有益な活動をして行きたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

各種原稿・レポートに対してコメントをつけて返却した場合、タブレットやスマートフォンではそのコメントを確認できないという意見がありました。そのため、自宅または学内でパソコンを使用して原稿やレポートを確認できるように準備・使用環境の確認をしておいてください。

【その他の重要事項】

運営方針や初期の活動を行うグループ分けをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This class aims to develop a research study with a view to paper preparation by raising problems and solving them through reviews of previous research, experiments, surveys, and data analysis. 【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. search for and summarize (review) papers containing interest data.
2. understand the experimental and research methods and analysis methods described in the papers.
3. Develop a research plan and prepare a research protocol.
4. To prepare presentation materials and give presentations that are easy to understand for the audience.

【Learning activities outside of the classroom】 Students will be required to search and review the literature, prepare presentations, and write research proposals in most sessions. For both individual and group research, it is necessary to set aside time outside of class for experiments, surveys, and preparation for presentations. Therefore, this class's standard preparation and review time is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 The overall evaluation will be as follows:

1. Content of presentations and assignments (50%)
2. Class engagement (50%): includes not only attendance but also active participation in communication among students and group work.

PSY300BG（心理学 / Psychology 300）

研究法Ⅱ（9）

荒井 弘和

授業コード：A3718 | 曜日・時限：水2/Wed.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4（※2011以前入学者は4）年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
(1) 心理学の研究計画を実施すること、(2) 心理学の研究論文を執筆すること。

【到達目標】
4年生は、研究法Ⅰで立案した研究計画を実施することを目指す。そして、実施した結果を論文化する。3年生は、研究法Ⅰで設定した問いに基づいた研究計画を立案し、研究計画申請書の概要を完成させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
(1) データ分析の結果を報告したり、(2) その解釈について意見交換をしたりして、論文を執筆することができるようになることを目指します。授業中に行うことは、(1) プレゼンテーションと意見交換、(2) グループワークです。課題に対するフィードバックは、「次の回の授業の序盤に受講生全体に対して」「メーリングリストを利用して受講生全体に対して」「個人的に」のいずれかの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	研究計画の実施経過を報告する	実施経過を報告し、その内容について、意見交換を行う。
第2回	データを分析する (1)	集めたデータを分析し、発表する。その内容について、意見交換を行う。データを再分析して、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第3回	データを分析する (2)	集めたデータを分析し、発表する。その内容について、意見交換を行う。データを再分析して、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第4回	データを分析する (3)	集めたデータを分析し、発表する。その内容について、意見交換を行う。データを再分析して、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第5回	データを分析する (4)	集めたデータを分析し、発表する。その内容について、意見交換を行う。データを再分析して、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第6回	データを分析する (5)	集めたデータを分析し、発表する。その内容について、意見交換を行う。データを再分析して、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第7回	研究論文を完成させる (1)	研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第8回	研究論文を完成させる (2)	研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第9回	研究論文を完成させる (3)	研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第10回	研究論文を完成させる (4)	研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第11回	研究論文を完成させる (5)	研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第12回	研究論文を完成させる (6)	研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。

第13回	研究内容を口頭発表する (1)	研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第14回	研究内容を口頭発表する (2)	研究論文を元に発表資料を作成し、口頭発表を行う。その後、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
(1) 研究の実施（データ収集やデータの分析も含む）、(2) 授業中に提示された課題、(3) 発表資料の作成に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキスト・参考書は用いません。必要に応じて、資料の配付・書籍や文献の紹介を行います。

【参考書】
2010年度～2024年度「法政大学文学部心理学科荒井ゼミ卒業論文集」

【成績評価の方法と基準】
(1) 作成したレポートや発表の内容が60%、(2) 意見交換やグループワークへの参加状況が40%です。欠席・遅刻をした場合は評価が下がります。

【学生の意見等からの気づき】
「グループワークや発表の時間が多く設定されてよかった」などのコメントをもらいました。今後も、受講生が主体的に対話を重ねながら探究できる授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】
ありません。

【その他の重要事項】
授業の概要を理解するために、また、授業の予定を立てるために、初回の授業には必ず出席してください。授業中の呼称について、希望があれば担当教員に申し出てください。担当教員に申告しにくい事柄がある場合、学内の施設（学生相談室やDEIセンター等）を遠慮なく利用してください。

【Outline (in English)】
(Course outline)
(1) To implement a research plan in psychology; (2) To write a research paper in psychology.
(Learning Objectives)
Based on the research plan developed in Research Methods I, students will (1) implement the research plan, and (2) write a paper on the results of the implementation. (2) Write a paper on the results of the research (research report for 3rd year students, graduation thesis for 4th year students).
(Learning activities outside of classroom)
Students will work on (1) conducting research (including data collection and data analysis), (2) assignments presented in class, and (3) preparing presentation materials.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy)
(1) 60% of the grade will be based on the content of the reports and presentations you make, and (2) 40% of the grade will be based on your participation in opinion exchange and group work. If you are absent or late, your evaluation will be lowered.

PSY300BG（心理学 / Psychology 300）

研究法Ⅱ（10）

林 容市

授業コード：A3719 | 曜日・時限：水2/Wed.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4（※2011以前入学者は4）年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまでに修得した知識、経験、手法等を用いて実際に情報収集、データ収集・分析、文章作成を活かして、卒業論文を作成できる能力を身につけること。

【到達目標】

- ・研究テーマ・課題を設定でき、適切な研究計画を立案できる。
- ・妥当な方法を用いてデータ収集・分析し、適切に図表を用いて結果を提示できる。
- ・得られた結果に対して、論理的な考察ができる。
- ・的確な表記・表現を用いて学術論文が執筆できる。
- ・得られた結果を効果的にプレゼンテーションできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

自らの興味に沿って研究テーマを設定し、研究計画について発表し、全体で論議を行います。計画が立案した後は、各自でデータ収集や分析を行い、結果について発表を行い、履修者間で意見交換をします。最終的に卒業論文に関する内容のプレゼンテーションを行います。
また、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明と卒業論文執筆に向けたスケジュールの確認をする。
第2回	次年度に向けた構想発表（1）	3年生が卒業論文に向けた発表を行い、研究計画を発表し、問題点などを含めて全体で論議する。
第3回	次年度に向けた構想発表（2）	3年生のうち、この回の担当者が、卒業論文に向けた発表を行い、研究計画を発表し、問題点などを含めて全体で論議する。
第4回	収集データ・分析結果の発表（1）	4年生が卒業論文で使用する結果を発表し、全体で論議する。
第5回	収集データ・分析結果の発表（2）	前回に続き、この回の担当4年生が、卒業論文で使用する結果発表し、全体で論議する。
第6回	論文執筆における記述方法の説明	卒業論文執筆を念頭に、過去の論文で見られた不備や不適切な事例を紹介しながら、文章表現について学ぶ。
第7回	論文のレビュー：方法・結果	4年生が執筆した卒業論文の「方法」と「結果」をレビューし、全体で推敲・論議する。
第8回	論文のレビュー：考察	4年生が執筆した卒業論文の「考察」をレビューし、全体で推敲・論議する。
第9回	論文のレビュー：全体（1）	執筆された卒業論文を、分担してピアレビューし、意見交換を行う。
第10回	論文のレビュー：全体（2）	前回の意見交換に基づいて修正した卒業論文を再度ゼミ生間でピアレビューする。
第11回	プレゼンテーション（1）	この回の担当4年生が卒業論文の内容をプレゼンテーションし、意見交換を行う。
第12回	プレゼンテーション（2）	前回に続き、この回の担当4年生が卒業論文の内容をプレゼンテーションし、意見交換を行う。
第13回	次年度に向けた進捗状況の確認（1）	翌年度の卒業論文作成に向けて、この回担当の3年生が進捗状況を発表し、論議する。
第14回	次年度に向けた進捗状況の確認（2）	前回に続き、次年度の卒業論文作成に向けて、この回担当の3年生が進捗状況を発表し、論議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外での予習・復習の作業が、論文の完成や種々の発表の重要な要件となります。課された課題に添って、資料作成や発表準備を行って下さい。また、各回のテーマ・内容に沿って、授業内活動の補足など、必要な作業をしてください。なお、各授業における準備および復習等の時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

【参考書】

・松井豊（2010）心理学研究法改訂新版 心理学論文の書き方 -卒業論文や修士論文を書くために、河出書房新社
・酒井聡樹（2007）これからレポート・卒論を書く若者のために、共立出版

【成績評価の方法と基準】

1) 研究実施状況・研究論文の内容：70%、2) 発表・質疑応答の内容20%、2) 発表への質問状況・論議への参加状況：10%、として総合評価します。
なお、授業へ出席することは評価対象にはなりませんが、単位取得のための前提となります。特別な事情がない限り必ず出席してください。

【学生の意見等からの気づき】

本授業での学びに関連する卒業論文の状況に鑑みると、多くの受講生において特に本文の執筆に関して大きな課題があったと感じています。この点は、本授業において、例年よりも時間を割いて学習できるように進めていく予定です。また、3年生の研究計画発表については、この数年、ゼミ全体で意見を出し合い、検討していく方法を採用しているが、効果が高いと評価している。次年度は、発表のタイミングについて再検討し、より効果が高まるように工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

各種原稿・レポートに対してコメントをつけて返却した場合、タブレットやスマートフォンではそのコメントを確認できないという意見がありました。そのため、自宅または学内でパソコンを使用して原稿やレポートを確認できるように準備・使用環境の確認をしておいてください。

【その他の重要事項】

・シラバスの内容については、授業の進行状況や学習者の理解状況によって多少の変更が生じる場合があります。
・授業の運営方針や受講に際しての注意点を説明しますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】The purpose of this class is to create a graduation thesis through the conduct of collecting data, analyzing, sentence writing with the aid of the knowledge, experience, and methods learned while one is still in university.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Set a research theme and problem and formulate an appropriate research plan.
2. Collect and analyze data using appropriate methods and present the results using suitable figures and tables.
3. Interpret the results obtained logically.
4. Write scholarly texts.
5. Present the content of the results obtained effectively.

【Learning activities outside of the classroom】Students are required to prepare materials and presentations according to the assignments given in class. It is also necessary to perform the necessary tasks according to the theme and content of each session. The standard time for preparation and review in each class is two hours.

【Grading Criteria/Policy】The overall evaluation will be as follows:

1. Status of the research and the content of the research paper(70 %)
2. Content of the presentation and the question-and-answer session(20 %)
3. Status of the questions to the presentation and the participation in the discussion(10 %)

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

心理学英語 I

常深 浩平

授業コード：A3720 | 曜日・時限：月 2/Mon.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

いわゆる英文和訳ではなく、テキストの内容を理解するための基礎を身につけることを目標とする。英語による心理学専門用語や論文の形式、表現に慣れ、英語文献を理解し、自らの学習に生かすための基礎力を身につけることを目標とする。

【到達目標】

英語による心理学文献を理解するための基礎的読解力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

リーディング教材に関する質問について、意見を出し合ったり、クラス全体で議論、確認したりする演習型の授業を行う。
授業の初めに、前回の授業で提出された授業内課題の中からいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	学習の準備	自分の英語力を知り、今学期の目標を立てる
第2回	Nature and Nurture	生まれか育ちかを巡る心理学小史の英文読解例を聞き、今後の発表形式を理解する
第3回	Contemporary psychological perspectives	自分の関心のある心理学の領域についての小文を和訳して発表する
第4回	Attachment (1)	ハーロウのアカゲザルの実験の読解（全体像をつかみ、要約する）
第5回	Attachment (2)	ハーロウのアカゲザルの実験の読解（実験の内容を理解する） 実験のビデオを見る
第6回	Obedience to Authority (1)	ミルグラムの服従の研究の読解（なぜこのような研究を行ったかを理解する）
第7回	Obedience to Authority (2)	ミルグラムの服従の研究の読解（この研究の社会的影響を考察する）
第8回	Identity Development (1)	アイデンティティの発達に関する英文の読解（全体像をつかみ、要約する）
第9回	Identity Development (2)	アイデンティティに関する内容に基づいて考察し、簡単な英文で表現する
第10回	Identity Development (3)	アイデンティティに関する内容を相互に発表し合う
第11回	Brain and Neuron	脳と神経細胞に関する英文の読解
第12回	Brain and Area	脳領域に関する英文の読解および読解内容に基づくディベート
第13回	A study of Infant Memory	乳児の記憶についての小文を読み、元となった論文について知る
第14回	学術論文を読む練習	論文の構成・実験と考察の読み方を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リーディング教材は必ず事前に目を通しておく。

出されたリーディング、ライティング課題は、必ず締め切りまでにやって、遅れずに提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、リーディング教材を配布する。

【参考書】

英和辞典や電子辞書等（高校までに使っていたもの等で可）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内課題）60%

発表（担当箇所のレジュメ作成・発表）40%

【学生の意見等からの気づき】

リーディング課題は下読みの時間に余裕が取れるよう早めに提示する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class develops student's basic English skills not for translation, but for comprehend English texts. To be familiar with academic terms, forms of journal papers, expressions of psychology in English, and utilize them to one's own study.

【Learning Objectives】

Through this course, students grow fundamental ability to comprehend English Psychological literature.

【Learning activities outside of classroom】

All students will be expected to have read the relevant part of the text before each class, and to write a short report after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Short reports in each time: 60%

Japanese translation of one's part of text and in-class Presentation : 40%

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

心理学特殊講義 I

木村 健太

授業コード：A3722 | 曜日・時限：月 1/Mon.1
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の研究において必要になる統計分析について、統計解析用ソフトウェアのR言語を用いた分析方法を実践的に学びます。心理学で用いられる統計分析を中心に、データサイエンスの基礎と実践を学びます。

【到達目標】

- ・統計の基本的な分析を行う演習を行い、データサイエンスの基礎を習得する。
- ・Rを用いてデータを取り扱い、データの可視化、記述統計の算出ができる。
- ・Rのコードの作成とエラーに対するデバッグ処理ができる。
- ・平均値の差の検定や変数間の関係性などの統計分析を実施し、適切に分析結果を報告できる。
- ・機械学習の基礎を理解し、基礎的な手法を実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・この授業は完全オンライン形式で実施します。
- ・毎週、講義資料とデータ分析のための課題を公開するので、講義資料と自身で収集する情報を活用して自主的に課題に取り組んでください。
- ・課題に関する質問や疑問は随時受け付け、課題のヒントやフィードバックを提供します。
- ・初回の講義資料内に、質問やフィードバックのやり取りを行うための連絡方法とルールを記載するので注意深く読んでください。
- ・Rのコードやライブラリーの情報は公開されているものが多くあります。自身で情報収集をして実行してみることが知識やスキルの定着につながります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方と授業目標の確認、RとRStudioのインストール、分析環境のセットアップ
第2回	データハンドリング	データの読み込み、データの操作、記述統計の算出
第3回	データの可視化	ヒストグラム、箱ひげ図、散布図などによるデータの可視化
第4回	2つの平均値の比較	対応のあるt検定、対応のないt検定の分析実践、分析結果の報告
第5回	サンプルサイズの設定	効果量、サンプルサイズ、検定力分析の解説、サンプルサイズの設定実践
第6回	3つ以上の平均値の比較 (1)	一要因分散分析、多重比較の分析実施、分析結果の報告
第7回	3つ以上の平均値の比較 (2)	二要因分散分析の分析実施、分析結果の報告
第8回	データ間の関係性の検討	相関分析と単回帰分析の解説、分析の実施、分析結果の報告
第9回	複数の変数でデータを予測する	重回帰分析の手続き解説、重回帰分析の分析実施、分析結果の報告
第10回	二値のデータを予測する	ロジスティック回帰分析の分析実施、分析結果の報告
第11回	質的データを分析する	クロス集計表の作成と可視化、カイニ乗検定の分析実施、分析結果の報告
第12回	共通する因子を見つける	多変量解析の解説、因子分析の分析実施、分析結果の報告
第13回	データをグループに分ける	階層的・非階層的クラスターリングの分析実施、分析結果の報告
第14回	機械学習を使う	機械学習の解説、ランダムフォレストの実行、分析結果の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業資料と課題を毎週一回分ずつ公開します。受講生は授業時間外も自主的に課題に取り組んでください。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
- ・統計分析のプログラムを作成するには、自身で情報収集することがスキルの獲得に有効です。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した資料を配布します。

【参考書】

- ・柳川浩三（著）Rによる教育・言語・心理系のためのデータサイエンス入門 2023 オーム社

- ・川端 一光（著）、岩間徳兼（著）、鈴木雅之（著）Rによる多変量解析入門 2018 オーム社
- ・有賀友紀（著）、大橋俊介（著）RとPythonで学ぶ「実践的」データサイエンス&機械学習 2021 技術評論社

【成績評価の方法と基準】

- ・全14課題の課題得点中の獲得割合（%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

- ・大学のノートPCには管理者権限がなく、自分でソフトなどをインストールできないので、受講者自身のPCを使うことをお勧めします。
- ・受講者自身のPCを用意できない場合は、事前に相談してください。

【その他の重要事項】

- ・オフィスアワー：春・秋学期ともに木曜日3限（BT1109研究室）。訪問希望者は、メール（k.kimura[at]hosei.ac.jp）等で前日までに連絡してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to learn practical methods of statistical analysis, which is necessary in psychological research, using the R language for statistical analysis software.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to write and debug codes in R for statistical analysis, visualize and analyze data, and report the results in appropriate way.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 2 hours).

【Grading Criteria /Policy】

Final grade in this class will be decided based on the following: Weekly assignments (100%) .

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

言語心理学特講

福田 由紀

授業コード：A3723 | 曜日・時限：月3/Mon.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、私たちが日々直面している言語的コミュニケーションの問題を心理学的なアプローチから解決することです。その方策をグループ活動（実習）を通して考えて、自分の言語力をあげていきましょう。この授業では、言語力とは、1つの能力だけでなく、話す・聞く・読む・書くといった領域にまたがる総合的な言語運用能力を指します。

【到達目標】

- ①言葉を読むときに何が起きているかに関する心理学的・脳科学的な知識が身につく。
- ②言語心理学的知識を基礎にして、日常への応用ができる。
- ③自分の言語力を省察し、開発することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義と実習を組み合わせた形式です。授業中、教科書を使いますので用意しておいてください。また、様々な問題について10回の実習を行います。そこでは、グループで討論をし、発表します。

また、Hoppiiを通じて、授業の前に宿題の提出してください。なお、授業の初めに、提出された宿題の内容に関して、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、言語力とは	授業の進め方の確認、言語力とは？
第2回	共有された世界	よりよいコミュニケーションの実現のために必要なこと
第3回	合意形成とは：実習①「砂漠に不時着」	合意形成を体験する
第4回	キャリア教育からみた言語力：実習②グループディスカッション	グループディスカッションを体験し、より良い合意形成を目指す
第5回	伝わる文章1：言葉の特性、実習③どんな情景？	言語の特性を知る
第6回	伝わる文章2：実習④悪文から学ぶ	校正を通して、分かりやすい文章を作成する
第7回	医療現場からみた言語力：実習⑤「スキーマって何ですか？」	既有知識に差がある相手に対して、わかりやすく説明をする
第8回	物語文の指導：実習⑥感情推論	情景理解、イメージ能力、心情理解、感情推論
第9回	説明文の指導：実習⑦トピックセンテンス	PISAの読解力、米国の実践例、眼球運動の実験
第10回	英語教育からみた言語力：実習⑧英語のRST	第二言語の難しさ
第11回	発達性読み書き障がいとは1	ビデオの視聴
第12回	発達性読み書き障がいとは2：実習⑨支援をグループディスカッションから考える	どのような支援ができるか、洗練された討論を通じて合意形成を目指す
第13回	発達性読み書き障がいへの支援：実習⑩模擬テスト	支援を見据えた障がいの捉え方、支援の考え方
第14回	期末テストとその解説、まとめ	期末テストの実施とその解説、授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

* 次週の授業内容にあわせて短い宿題が出されます。授業前にHoppiiから提出して下さい。

- 第1回 言葉は何かを伝える道具です。何を伝えると思いますか？ 思いつく限り、書いてください。
- 第2回 集団で合理的な意志決定を行うためにはどんな方法がいいと思いますか？
- 第3回 合意形成の極意は何だだと思いますか？ 1番重要だと思う事から順に3つ挙げてください。

第4回 言葉にまつわることで、何か誤解したことや、笑い話しはありませんか？

第5回 『彼女(あなたの友人)は視線を外して「おはよう・・・」と言った。』どうしてだと思いますか？ その理由を書いてください。

第6回 スキーマの定義を書いてください

第7回 次の文章を読んでください。トムはどんな気持ちになったと思いますか？

第8回 文章の挿絵は理解を促進しますか？

第9回 あなたはどのくらい英語が得意ですか？

第10回 発達性読み書き障がい字・者の日常生活上の困難を予想する。

第11回 WAIS-Rの数唱は何を調べているか？

第12回 模擬期末テスト（客観式）を作成する。

第13回 期末テストの準備を行い、自己評価する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「言語心理学入門－言語力を育てる－」 福田由紀編 培風館 2012年

【参考書】

適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点40%（宿題と実習点）と期末テストの結果を60%として、総合点により決定されます。期末テストの追試は、履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容、自分で教科書を読んだ内容、そして応用問題が問われます。形式は多肢選択式です。

【学生の意見等からの気づき】

2023年度と2024年度のこの授業は他の先生が担当してくださいましたので、2022年度の授業改善アンケートの気づきを掲載します。

教育心理学の知識や考え方は、教室場面だけではなく、人生の様々なところで役立ちます～という観点から授業をしていました。そのような授業に対して、「心理学的な概念だけではなく、日常にどのように応用できるかという視点から学ぶことができた。過去に自分が受けてきた教育の意図が知れて楽しかった。」とのコメント。嬉しいですね。また、「教材が階層構造でまとまっていたり、様々なイラストを使っていたりして、とても工夫されていて復習しやすかったです。毎回宿題があったので、これも復習に活用できました。」といった授業資料ややり方についてもお褒めのコメント。次回も頑張ります。

【学生が準備すべき機器他】

特定の授業回では、PCを用意することもあります。その場合には、事前に授業内、あるいはHoppiiのお知らせで連絡します。自分の機器、あるいは情報カフェテリアで借りた機器を持参して下さい。

【その他の重要事項】

【教員の実務経歴】

・小学校国語教科書編集委員（教育出版）1996年4月1日～2015年3月31日
・中央教育審議会初等中等教育分科会言語能力の向上に関する特別チーム2014年10月21日～2017年2月14日
・文化審議会臨時委員（国語分科会）2016年3月20日～2023年3月31日

【実験や調査への参加】

授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【Outline (in English)】

Course outline : The purpose of this course is to learn various psychological approaches trying to solve the problems in our communication. Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to do the following:

- A. deepen their understanding about psychology of language
 - B. apply knowledge about psychology of language to one's daily life
 - C. develop one's verbal abilities by participating in group activities
- Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.
- Grading Criteria : Your overall grade in the class will be determined based on the following: final examination: 60%, in-class contribution: 40%.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

人格心理学

杉山 崇

授業コード：A3724 | 曜日・時限：金5/Fri.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では「人格（パーソナリティ）」を手がかりに、人間と社会に関する心理学的理解を深めましょう。さらに、ワークやレポートを通して自己理解、他者理解、人間関係の理解を深めましょう。
人格には1) 人間の心理的な個人差（特徴）、2) 個人の社会相互作用（社会適応）の様式、3) 生得的な生理・反応・行動傾向、4) 後天的な認知構造・信念・スキーマの様式、などさまざまな側面があります。これは、人間が非常に多面的な存在であることを意味しています。この授業では、まず心理学的な「人格」の考え方、人格心理学の基礎的な方法論を学びます。続いて人格心理学の応用や実際問題について事例を交えて学び、「人」を見る視点に幅を持たせましょう。

【到達目標】

- 1) 「人格＝パーソナリティ」の基礎知識・基礎用語を身につける
- 2) 人格心理学を通じた自己理解と他者理解を自分の言葉で語れるようになる。
- 3) 人格心理学を通して人間と人間社会の理解を深め、自分の言葉で語れるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・「学習支援システムHoppii」を活用します。授業時間に必ずHoppiiにアクセスし、学習支援システム内の指示に従って学修を進めて下さい。
 - ・担当教員が配布した講義動画の視聴、または講義資料を熟読した後、課題を提出する形で行います。
 - ・課題には「より深く学ぶための質問」も可能にしています。このシステムを活用して双方型授業として行います。
 - ・課題の提出がない場合は欠席とみなします。
- なお、課題として毎回、リアクションペーパーの提出（またはそれに代わるオンライン上での記入）を貸し、その内容については次回の授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人格とは	ガイダンスと人格心理学の人間観
第2回	人格の理論①	精神分析的アプローチ
第3回	人格の理論②	学習理論、自己理論
第4回	人格の病理	パーソナリティ障害
第5回	類型論①	ユングのタイプ論：パーソナリティと職業
第6回	類型論②	ミロンの類型論
第7回	特性論①	因子分析と特性5因子論
第8回	特性論②	生物学的特性論
第9回	パーソナリティと欲求、恋愛	パーソナリティの偏り
第10回	人格の発達と統合①	遺伝行動学と生涯発達心理学
第11回	人格の発達と統合②	人格（スキーマ）形成と初期経験、スキーマ療法と人格の最適化
第12回	人格の発達と統合③	心理-社会的要因による情動調整
第13回	人格と進化論①	扁桃体の3Fとその統制の進化論
第14回	人格と進化論②	日本文化と謙遜

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【予習】次回授業のキーワードを2時間ほど調べ理解しておくこと。なお、キーワードを事前に知らせます。

【事後学習】人格心理学を通した2時間程度の自己理解の課題を毎回課す。

【テキスト（教科書）】

使用しない。必要に応じて資料やスライドを活用して実施する。
なお、資料はwebで配布するので学習支援システムにアクセスできる環境が必須である。

【参考書】

『心理学要論』培風館
『心理学ビジュアル百科』創元社

【成績評価の方法と基準】

平常点（各授業における課題の提出）70%とレポート（到達目標の達成度）30%レポートは授業内で指示します。

【学生の意見等からの気づき】

学生諸君の忌憚のないご意見を伺い、次年度の改善に役立てたい。みなさんのご意見を楽しみにしています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料配布し課題を出すためPC、インターネットを活用できる環境が必須。また、動画を配信する場合もあります。詳しくは学習支援システムで指示します。

【その他の重要事項】

この授業では人格について知識を深め、自己理解、および他者理解が深まることを目指しましょう。

人格心理学は一つの応用的な心理学の一分野です。心理学には個人差を誤差として、万人共通のメカニズムや法則を探るアプローチ（たとえば学習心理学）や、個人内ではなく環境や状況に人間の行動や感情、認知を変容させる仕組みがあるとするアプローチ（たとえば社会心理学）がありますが、人格心理学には個人内の過程に注目して、個人差の測定を行う観点もあります。応用的な心理学を学ぶための前提として、認知心理学、学習心理学、神経－生理心理学、社会心理学などの基礎的な心理学をある程度理解していることが必要です。

担当教員HP： sugys-lab.com

【Outline (in English)】

(Learning Objectives)

You will learn the normal and abnormal state of the personality and the mechanism of the mind, and will be able to express self-understanding, understanding of others, and understanding of human society in your own words through personality psychology. (Learning activities outside of classroom)

Preparation: Read the specified range of handouts and texts, and search for technical terms for about 2 hours.

Review: A review task of about 2 hours will be imposed each time, and a report for review will be imposed as needed.

(Grading Criteria/Policy)

Normal score (review task + class attitude) 70% and report (achievement of achievement goal) 30%

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

集团社会心理学

越智 啓太

授業コード：A3725 | 曜日・時限：火4/Tue.4
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

<授業概要>

人間の社会行動を科学的に解明する

社会心理学は、我々が、日々遭遇するさまざまな行動を心理学的な観点から分析していく学問です。集团社会心理学の授業では、そのなかでも特に集団と人との交わりの部分、パーソナリティと集団の関係の部分に焦点を当てて検討していきます。具体的には、集団内での自分のポジショニング(キャラを作っていくこと)、ものを売るとき買うときの心理、効果的な広告の方法、部活などにおいて適切なリーダーシップとは、人を説得するときどうすれば良いのか、集団でものを決めると本当にうまくいくのか、3人寄れば文殊の知恵というのは本当か、なぜ国どおしが憎しみあうのかなど、ミクロからマクロまでさまざまなテーマを取り扱います。実際、とても身近な学問です。

<学習目標>

社会心理学の基礎概念と方法論を科学的に理解し、我々が普段遭遇する社会的な事象について心理学的観点から分析できるようにする。

【到達目標】

<到達目標>

- (1)社会心理学の基本的な用語、概念について、その定義や基本的な研究が解説できるようになる。
(2)それらの概念について自分の具体的な経験と結びつけて説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

<授業内容>

我々の社会行動について順次取り上げて、その理論と根拠になった実験例、応用、問題点などについて順次紹介していく。基本的には講義形式である。半期の授業なので、広い社会心理学の分野をすべて取り上げることが出来ないが、みなが関心を持つようなテーマをいくつか選んで深く掘り下げてみたい。授業後には毎回リアクションペーパーを、授業支援システムに書き込む。リアクションペーパーおよびレポート課題については次の講義時かウェブ上で講評および追加解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	集团社会心理学とは何か	授業の進め方、採点ポリシーの説明、社会心理学の概要、社会心理学の研究手法
第2回	消費者行動（1）	価格認知、プロスペクト理論、内的参照価格、ヒューリスティクス
第3回	消費者行動（2）	価格戦略、ブランドコミュニケーション、ブランド認知
第4回	説得的コミュニケーション（1）	態度、説得、送り手の効果、メッセージの効果、スリーパー効果
第5回	説得的コミュニケーション（2）	恐怖喚起コミュニケーション、比較広告、精緻化見込みモデル
第6回	説得的コミュニケーション（3）	要請過程、フットインザドア、ドアインザフェイステクニック、悪徳商法
第7回	うわさ（1）	うわさの伝達を規定する要因、不安と曖昧さの効果
第8回	うわさ（2）	都市伝説の伝達、都市伝説の誕生
第9回	同調とマイノリティインフルエンス（1）	同調行動、同調行動を規定する要因、アッシュの実験
第10回	同調とマイノリティインフルエンス（2）	マイノリティインフルエンス、服従、洗脳
第11回	集団意思決定（1）	社会的な抜き現象
第12回	集団意志決定（2）	集団意志決定におけるバイアス、リスキースhift
第13回	リーダーシップ（1）	リーダーシップのスタイル、リーダーシップを規定する要因、PM理論
第14回	リーダーシップ（2）	コンティンジェンシー理論、パス=ゴール理論、組織学習、地位は人を作るか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自受講に際しては、ダウンロードした授業資料の該当部分を読むことが必要であるが、予習よりは復習の部分に力を入れて欲しい。各チャプターごとに記憶すべき用語（キーワード）使いこなせるようにするとともに、あらかじめ提示する設問を解いておくこと。動画資料や追加資料も準備して、ウェブから利用できるようにしておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。授業に使用するパワーポイント（の抄録版）は、授業支援システムからダウンロードできるようにしておく

【参考書】

越智啓太（編）私たちはなぜ傷つけ合いながら助け合うのか：心理学ビジュアル百科 社会心理学編 創元社（推奨）
越智啓太（著）買い物の科学 実務教育出版
越智啓太（著・監訳）サボタージュマニュアル 北大路書房
中里・松井・中村（編）社会心理学の基礎と展開 八千代出版
を予復習用参考書に使用する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価のためには3/5以上の出席を前提とする。
レポート（80%）+コメント（20%）

【学生の意見等からの気づき】

毎回、比較的良好な評価をいただいております。とくに知的好奇心が満たされた、などのポイントが高くなっています。今年は例年よりもより面白くなるように努力します！今までに比べ、ウェブを通して配付する資料をさらに充実させました。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は各自、授業支援システムからダウンロードする。

【その他の重要事項】

- (1)「社会心理学」（哲学科は心理学2社会心理学）とペアで社会心理学という学問全体を概観する。そのため、「社会心理学」と同時に履修することが望ましい。
(2) D評価のものが毎年5%～10%程度はでているので、決して、「楽勝科目」ではない。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, we will give an overview of social psychology. In particular, I will explain issues communication process and group dynamics.

【Learning Objectives】

- (1) To be able to explain the definition of the basic concept of social psychology and basic research related to the concept.
(2) to be able to explain these concepts in connection with your own concrete experience.
(3) Experience effective presentation report creation.

【Learning activities outside of classroom】

Each lesson requires 2 hours of preparation and 2 hours of review.

【Grading Criteria /Policy】

Participation in classes of 3/5 or higher is a prerequisite for grade evaluation.

Class participation is used only to determine attendance criteria.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Report (80%) + comment & discussion (20%)

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

カウンセリング心理学

下山 晃司

授業コード：A3726 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業前半は、カウンセリングおよび心理療法の主要理論について、各理論の成り立ち（対象者・創始者の哲学）や限界などについて学びます。人間の抱える心理的困難について、複数のアプローチから多角的に理解できるようにすることを目標とします。

授業後半は、継続的なロールプレイングを体験することにより、基本的な傾聴スキルを身につけることをテーマとします。これにより、カウンセリングおよび心理療法を学問としてだけでなく、対人援助における「実践の技（アート）」としても理解することを目指します。

【到達目標】

各理論の基礎的な内容（理論・対象者等）を理解すること。理論間の相違点および共通部分を理解すること。

ロールプレイングを通して、「傾聴」に必要な言語的・非言語的スキルを身につけること、および他者・自己の変化を捉える観察力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

力動的アプローチ、パーソン・センタード・アプローチ、行動療法等の主要理論を下記「授業計画」に沿って、講義形式で解説していきます。

ロールプレイングでは、各自がCo（カウンセラー）、Cl（クライアント）、Ob（オブザーバー）役を担当して、ロールプレイングを反復して行います。

毎回の授業でリアクションペーパーを回収し、次回授業冒頭でいくつかを紹介します（匿名）。質問・意見・要望等に対して全体にフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション・「行動を見る」ヒント・各理論の共通基盤	授業の進め方
第2回	精神分析1	理論と対象者
第3回	精神分析2	防御機制・転移感情
第4回	パーソン・センタード・アプローチ	カウンセラーの態度とグループエンカウンター
第5回	行動療法	基盤となる理論と対象者
第6回	行動変容	基盤となる理論と対象者
第7回	認知行動療法	理論と対象者
第8回	中間試験	前半部分の理解度測定
第9回	ロールプレイング1	4種類のサポート実習
第10回	ロールプレイング2	テーマが決められた面接1
第11回	ロールプレイング3	テーマが決められた面接2
第12回	ロールプレイング4	テーマが決められた面接3
第13回	ロールプレイング5	テーマが自由な面接1
第14回	ロールプレイング6	テーマが自由な面接2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う主要理論について、教科書の該当箇所を予習・復習すること（4時間以上）。

ロールプレイングで習得した内容を実践すること（4時間以上）。

【テキスト（教科書）】

矢澤美香子（編） 2018 基礎から学ぶ心理療法 株式会社ナカニシヤ出版

【参考書】

W.ドライデン & J.ミットン著 酒井汀訳 2005 カウンセリング／心理療法の4つの源流と比較 北大路書房

ポール・ワクテル著 杉原保史訳 2002 心理療法の統合を求めて 精神分析・行動療法・家族療法 金剛出版

【成績評価の方法と基準】

主要理論の理解度および基礎的な知識を測定する筆記試験を中間に実施します（50%）。

反復したロールプレイングを通して得られた知見をまとめたレポートを期末に課します（50%）。レポートの評価の観点とは、授業中に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートに24名中7名の回答がありました。

Q1（授業の工夫）、Q5（履修してよかったか）については、それぞれ3名、4名が「5」（大変工夫していた／大変よかった）と回答し、各項目の最頻値でした。他のQ2（授業外学習）、Q3（理解度）については、回答がばらけました。以上の結果から、理解度等にばらつきはあるものの、回答者の授業満足度は高かったと考えられます。

自由記述は、5名から回答がありました（抜粋）。

・先生の教え方がとても面白く、授業が楽しかったです

・カウンセリングのことを学ぶために、ロールプレイングを行うことで、文字や言葉だけで授業するよりも身をもって体験するので、身につくものが多いと感じた。

・中間テストを境に座学とデモンストレーションの切り替わりが起こることで、インプットとアウトプットが分かりやすく二分されており、個人的にやりやすさを感じた。カウンセリングのロールプレイングも、役職を替えて時間をかけて行うことで、それぞれの立場での発見があった。

「中間テストが厳しすぎる」という回答も複数ありました。中間テスト結果を個別フィードバックしましたが、「標準的な期末レポートを提出しても、60点に達しない（中間50/期末50）」こと（＝単位取得の見込みがない）を伝えた受講生が約半数いました。全員から「中間試験への準備時間」を聴取しましたが、「単位見込みなし」の受講生はほとんど準備をせず、受験したことがありません。「（単位見込みがなくても）ロールプレイングを体験する権利は保証する」ことも伝えましたが、「単位見込みなし」でロールプレイングを体験した受講生は皆無でした。

以上の結果から、ロールプレイングを体験した受講生に関しては、「カウンセリングの実践を学ぶ」という授業目的が達成できていると考えられます。

【学生が準備すべき機器他】

連絡や課題（リアクションペーパー）は授業支援システム（Hoppii）を通して行われますので、確実に登録してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the major counseling methods. It also enhances the development of students' skill in listening to others. Through consecutive role-playing, participants are expected to understand counseling as an 'art,' as well as theory of human understanding. Grading Criteria/Policy is as follows. Intermediate exam:50%, Term end report:50%.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

心理学特殊講義Ⅱ

財津 亘

授業コード：A3727 | 曜日・時限：木4/Thu.4
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、犯罪捜査で活用される「犯罪者プロファイリング」を題材として、過去に実際に発生した事件をグループワークを通じて分析することで、専門性の高い心理学的知識を深めるとともに、犯罪心理学の研究法や多変量解析や機械学習を学習することで、心理学とデータサイエンスの融合的なアプローチを習得することを目指す。

【到達目標】

- 1. 「犯罪者プロファイリング」の基礎的知見を身に着ける
- 2. データサイエンスに必要な、情報収集力、読解力、考察力、プレゼン力、まとめる力など多種多様な能力を高度なレベルで発揮できる
- 3. 多変量データ解析や機械学習といった解析する力を養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の序盤は、過去に発生した事件を取り上げ、犯罪者プロファイリングの基軸となる「事件情報分析」「事件リンク分析」「地理的プロファイリング」「犯人像推定」について概説するとともに、グループワークとして分析を体験する。中盤以降は、「犯人像推定」の調査研究にグループで取り組むこととし、サンプル収集、データ解析、研究発表を行う。

また、各回リアクションペーパーの提出を求めるほか、期末課題として「犯人像推定」調査の発表後に報告書・レポートを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介、授業の概要と目的、到達目標、授業の進め方、評価の方法について概説する
第2回	連続殺人事件にかかる犯人像検討	犯罪者プロファイリングに関する事前知識を持たずにディスカッションを実施し、犯人像の推定を試みる
第3回	事件リンク分析の概要	連続事件における犯行の同一性を検討する方法について概説するとともに、実際の事件を通して事件リンク分析を体験する
第4回	地理的プロファイリングの概要	活動拠点等を推定する地理的プロファイリングについて概説するとともに、実際の事件を通して地理的プロファイリングを体験する
第5回	事件情報分析の概要	犯人像推定調査に先立ち、情報収集や事件整理について概要を説明した後に、データセットの構築を目指し、収集に必要な情報・変数について議論する
第6回	犯人像推定の概要	犯人像の推定方法として事例分析と統計分析を概説する
第7回	統計解析・機械学習①	Rの使い方、ChatGPTの活用、収集したサンプルに関する記述統計の確認を行う

第8回	統計解析・機械学習②	リヴァブル方式(多重コレスポンド分析等)による犯人像推定法を習得する
第9回	統計解析・機械学習③	ベイズ統計・ベイジアンネットワークの概要、および犯人像推定への活用について説明する
第10回	統計解析・機械学習④	ベイジアンネットワークを実践することで、機械学習を用いた犯人像推定を習得する
第11回	犯人像推定調査の報告書等の作成	報告書の作成およびプレゼンテーション資料の作成
第12回	犯人像推定調査の発表	研究成果の発表を行う
第13回	再・連続殺人事件にかかる犯人像検討	第2回で実施した事件と同様の事例を取り上げ、グループディスカッションを実施、本授業で習得した内容を基に改めて犯罪者プロファイリングを実施する
第14回	授業のまとめ	授業の総括および全体討論を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習：授業で用いる資料を熟読するとともに、これまでに習った統計学の授業の復習または多変量データ解析や機械学習に関する知識を各自で学習することで授業に向けた準備をしっかりと行うこと（各2時間）。

事後学習：授業で扱った話題について、新聞記事や書籍、論文等の文献などに触れることで復習し、自分の考えを整理すること（1時間）

【テキスト（教科書）】

指定のテキストはありません。授業内で配布する資料をもとに授業を進めていきます

【参考書】

本授業について理解を深めるために以下の参考書を紹介しておきます

【犯罪者プロファイリング全般】

・越智 啓太 (2021). 犯罪捜査の心理学: プロファイリングで犯人に迫る 化学同人

【多変量データ解析（多重コレスポンド分析を含め多変量データ解析全般が記載してあります）】

・川端 一光, 岩間 徳兼, 鈴木 雅之, (2018). Rによる多変量解析入門 データ分析の実践と理論 オーム社

【ベイズ統計学（基本的な内容です）】

・涌井 貞美 (2013). 図解・ベイズ統計「超」入門 あいまいなデータから未来を予測する技術 SBクリエイティブ

【ベイジアンネットワーク（事例を通してRによる分析を解説した書籍）】

・財津 亘(訳)・金 明哲(監訳)・Marco Scutari(著)・Jean-Baptiste Denis(著) (2023). Rと事例で学ぶベイジアンネットワーク [原著第2版] 共立出版

【成績評価の方法と基準】

授業の理解度（30％）、授業態度や授業への関与度（30％）、プレゼン・発表資料（10％）、最終報告書・レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

本授業では、すべて各自のパソコンを使用して統計解析等を行いますので、ノートパソコンが必須となります

【その他の重要事項】

本授業の履修の際は、以下について留意のうえ履修すること

1. 本授業では、過去に発生した「連続殺人」など重要凶悪犯罪を題材に、その内容を吟味・精査することになります。基本的に、一般人も入手可能な情報を扱いますが、場合によってはショッキングな内容も扱うこともありますので、各自の適性（具体的な事件内容に触れる耐性を含む）を十分考慮して、履修するか否かを決めるようにしてください

2. 本授業は各回が連続性を有しており、かつグループワークで積極的に関与することを求めます。他のメンバーに迷惑をかけないよう、欠席しないことを前提に進めます

3. グループ数は履修者の人数を考慮して決定することとなりますが、基本的に1グループ5～6名程度で構成する予定です

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course deals with "Criminal Profiling", which is utilized in criminal investigations. Through group work, students will analyze actual past cases, deepening their knowledge of specialized psychological concepts. Additionally, by learning multivariate analysis and machine learning methods, students will acquire an integrated approach that combines psychology and data science.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to:

- 1.Acquire fundamental knowledge of "Criminal Profiling".
- 2.Demonstrate advanced abilities in data science, including information collection, reading comprehension, analytical thinking, presentation skills, and summarization skills.
- 3.Develop skills in analyzing data using multivariate analysis and machine learning.

【Learning Activities Outside of Classroom】

1.Before each class meeting

students are expected to thoroughly review the provided materials and revisit previously learned statistical concepts or study multivariate analysis and machine learning independently to prepare for the class (approximately 2 hours per session).

2.After each class, students should engage with related topics through newspapers, books, academic papers, and other sources to reinforce their understanding and organize their thoughts (approximately 1 hour per session).

【Grading Criteria】

- 1.Understanding of the course content (30%)
- 2.Class participation and engagement (30%)
- 3.Presentations and presentation materials (10%)
- 4.Final report (30%)

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

心理学特殊講義Ⅲ

福田 由紀

授業コード：A3728 | 曜日・時限：火4/Tue.4
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、言葉を使っている時の脳活動に関する知識と、NIRS(近赤外分光法)を使い、脳血流量を測定するスキルを身につけることです。

【到達目標】

- ①言語使用時の脳活動に関する基礎知識が身につく。
- ②NIRSを使った測定スキルが身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義と実習を組み合わせた形式です。実習を行った結果は、グループで討論をし、発表します。

また、Hoppiiを通じて、授業の前に課題の提出してください。なお、授業の初めに、提出された課題の内容に関して、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方の確認
第2回	脳の基礎知識	中枢神経系の仕組みについて分担発表
第3回	脳の機能的働き	言語使用時の脳活動について分担発表
第4回	言語使用時の脳の活動 測定方法：fNIRS, fMRI, 脳波など	言語使用時の心理学で利用されている測定方法：fNIRS, fMRI, 脳波などの実例について分担発表
第5回	fNIRSの仕組み	fNIRSの仕組みを知る
第6回	言語流暢性課題を使用したfNIRSの実習1	言語流暢性課題について分担発表
第7回	言語流暢性課題を使用したfNIRSの実習2	NIRS装置の使い方が身につく
第8回	言語流暢性課題を使用したfNIRSの実習3	基本的な測定方法が身につく
第9回	言語流暢性課題を使用したfNIRSの実習4	高度な測定方法が身につく
第10回	言語流暢性課題を使用したfNIRSの実習5	基本的なデータの分析方法が身につく
第11回	言語流暢性課題を使用したfNIRSの実習6	高度なデータの分析方法が身につく
第12回	言語流暢性課題を使用したfNIRSの実習7	考察の観点が身につく
第13回	言語流暢性課題を使用したfNIRSの実習8	効果的なプレゼンテーションの仕方が身につく
第14回	言語流暢性課題を使用したfNIRSの実習9	実習の発表とディスカッション、全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第2回から毎回、授業計画に沿った事前の課題を行い、Hoppiiを通じて提出します。第2回から第5回の講義形式の授業では、該当授業の内容に関して事前に調べてもらいます。第6回から第14回の実習形式の授業では、実際に自分がスムーズに測定するための準備に関する事前課題が用意されています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

福田正人（編）「光トポグラフィー検査ガイドブック 改訂」中山書店
など、適宜授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最後の授業の発表（70%）と他者の発表に対するコメント（10%）、実習への積極的な参加態度（20%）から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

この授業では、実際にNIRSを使うことが目的でした。受講生全てがNIRSの測定はできるようになったと感じてくれました。良かったです。ただし、分析に関してもう少し説明が欲しかったなど、測定後のスキルをもっとフォローした方が良かったようです。来年度以降はその点を配慮します。回答、ありがとうございました。

【その他の重要事項】

NIRSを使った測定を実習する授業のために、受講希望者が多数の場合は抽選となる場合があります。受講希望者は【初回の授業に必ず出席】してください。

【教員の実務経験】

- ・小学校国語教科書編集委員（教育出版）1996年4月1日～2015年3月31日
- ・中央教育審議会初等中等教育分科会言語能力の向上に関する特別チーム2014年10月21日～2017年2月14日
- ・文化審議会臨時委員（国語分科会）2016年3月20日～2023年3月31日

【実験や調査への参加】

授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【Outline (in English)】

Course outline : The purpose of this course is to learn brain activities when we use language and to develop measurement skills for fNIRS.

Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to do the following:

- A. deepen their understanding about brain activities during verbal activities
- B. develop measurement skills for fNIRS

Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.

Grading Criteria : Your overall grade in the class will be determined based on the following: presentation: 70%, comment for the presentation of other people: 10%, in-class contribution: 20%.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

心理学英語Ⅱ

常深 浩平

授業コード：A3730 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

いわゆる英文和訳ではなく、テキストの内容を理解するための基礎を身につけることを目標とする。英語による心理学専門用語や論文の形式、表現に慣れ、英語文献を理解し、自らの学習に生かすための基礎力を身につけることを目標とする。

【到達目標】

英語による心理学文献を理解するための基礎的読解力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

リーディング教材に関する質問について、意見を出し合ったり、クラス全体で議論、確認したりする演習型の授業を行う。
授業の初めに、前回の授業で提出された授業内課題の中からいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	学習の準備	各自今学期の到達目標を決める
第2回	長文読解になれる（1）	記憶に関する英語論文の読解（全体を軽く読む）
第3回	長文読解になれる（2）	言語発達に関する英語論文の読解（全体を軽く読む）
第4回	英語論文の探し方	授業後半で使う英語論文の探し方
第5回	英語論文を読む（1）	英語論文の構成をつかむ
第6回	英語論文を読む（2）	見出しの名称と内容 タイトルとアブストラクトから何が分かるか
第7回	英語論文を読む（3）	メソッドの読み取り方
第8回	英語論文を読む（4）	リザルトとディスカッション、全体の構成
第9回	アカデミックライティング①	読みから書きへ
第10回	アカデミックライティング②	一文の英作文①
第11回	英語論文を読んで、それをレポートする（1）	一文の英作文②
第12回	英語論文を読んで、それをレポートする（2）	一段落の英作文
第13回	英語論文を読んで、それをレポートする（3）	長文の英作文を書くために
第14回	英語レポート発表	作成した英語レポートの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リーディング教材は必ず事前に目を通しておく。
出されたリーディング、ライティング課題は、必ず締め切りまでにやって、遅れずに提出する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、リーディング教材を配布する。

【参考書】

英和辞典・和英辞典等（高校で使っていたもの等でよい）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内課題） 60%

期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

授業内でディスカッションの際に毎回決まった組み合わせにならないように配慮を行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class develops student's basic English skills not for translation, but for comprehend English texts. To be familiar with academic terms, forms of journal papers, expressions of psychology in English, and utilize them to one's own study.

【Learning Objectives】

Through this course, students grow fundamental ability to comprehend English Psychological literature.

【Learning activities outside of classroom】

All students will be expected to have read the relevant part of the text before each class, and to write a short report after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Short reports in each time: 60%

Term-end report : 40%

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

身体運動の心理と生理

林 容市

授業コード：A3738 | 曜日・時限：月3/Mon.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、身体運動の基礎となる心理的・生理的基礎を学び、様々な身体活動やスポーツ実践時における身体動作の学習や発達について理解することを目的とします。

【到達目標】

- ・身体運動に関わる心理的・生理的基礎を学習する。
- ・様々な身体運動の制御や発達に関する知識・情報を学習する。
- ・自身の身体運動についてそのメカズムを理解し、必要に応じて改善できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業の目的の達成には、いかにその課題を解決するかを「考え、実践すること」が重要となります。最新のトピックスを踏まえた講義を通じ、身体運動に関連した心理的・生理的知識を学ぶことが授業目的の一つとなります。その知識を、日常における自らの身体運動時にどのように活かしていくのかを考えることを最も重視し、毎回の授業でリアクションペーパーの提出を求め、その内容を次回以降の授業に反映させます。また、授業内容に関連した個人の考え・意見をまとめたミニレポートの提出を求め、評価の一部とします。なお、授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認、身体活動に関わる諸要因について学ぶ
第2回	身体運動時における骨格筋の働き	骨格筋の構造・機能や筋力・筋パワーについて学ぶ
第3回	身体運動時における神経系の働き・調節1	身体運動時の神経系の基礎的な働きについて学ぶ
第4回	身体運動時における神経系の働き・調節2	神経系による身体動作の調節、運動と様々な反射について学ぶ
第5回	身体運動の知覚と運動の意図	身体運動時の感覚に関するメカニズムを学ぶ
第6回	身体運動の制御と学習	身体運動制御に関する2つのアプローチについて学ぶ
第7回	身体運動とイメージ	身体運動や身体のイメージの知覚に関する基礎を学ぶ
第8回	身体運動の動作を分析する	スポーツの動作を分析する手法や解釈を学ぶ
第9回	複雑な身体運動の獲得	複合運動学習について学ぶ
第10回	姿勢制御のメカニズム	姿勢を制御するシステムやその発達について学ぶ
第11回	移動性機能制御のメカニズム	歩行等を制御するシステムやその発達について学ぶ
第12回	物品操作時の身体運動制御のメカニズム	把握やリーチ等を制御するシステムやその発達について学ぶ
第13回	身体運動の感覚と個人差	子供の身体運動感覚と発達における個人差について学ぶ
第14回	身体運動の発育・発達と幼児期の身体運動の考え方	幼児期・児童期における身体の発育・発達と身体運動のあり方について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として、シラバスに記載されている授業内容に関し、事前に図書館等で情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で、毎回のリアクションペーパーにコメント・回答をしてください。また、ミニレポートの作成に向けて授業ごとに内容を復習し、個人の考え・意見をまとめておいてください。なお、これらの授業に向けた準備および復習の時間はそれぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

【参考書】

健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編 /金芳堂 /2006）

【成績評価の方法と基準】

1) 授業参画の状況と理解度（授業ごとのリアクションペーパーなどで評価）：70%、2) ミニレポート：30%、の配分で総合評価する。
※欠席・遅刻をした場合は単位取得のための学習時間を減じることになるため、「授業参画の状況」の評価が大きく低下します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは、回答者は少ないものの、8割以上の回答者から本授業を履修して良かったとの評価を頂きました。他方、自由記述において「全体感がつかめなかった」とのコメントもありました。新年度は、個別の授業内容はもとより、半期の授業全体を通じて改めて確認し、授業内容を工夫しながら準備をしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】The purpose of this course is to learn the psychological and physiological factors underlying body movements and exercise and understand the learning and development of body movements and physical activities during various physical activities and sports.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Study the psychological and physiological basis of physical activities.
2. Learn the knowledge and information about the control and development of various body movements.
3. Understand the mechanisms of one's body movements and improve them as necessary.

【Learning activities outside of the classroom】Please gather information about the class contents described in the syllabus at the library before attending the class. In addition, students are expected to review the contents of each class and summarize their thoughts and opinions to prepare a mini-report. The standard time for preparation and review for these classes is two hours each.

【Grading Criteria/Policy】The overall evaluation will be as follows:

1. Class participation and understanding such as evaluated through reaction papers for each class(70%)
2. Mini-report(30%).

If a student is absent or late for class, the evaluation of "Class participation" will be significantly reduced because the student will lose study time to obtain credits.

BSP100BG（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミⅠ（文・心理）

藤田 哲也

授業コード：A3739 ｜ 曜日・時限：金1/Fri.1

春学期授業/Spring・2単位 ｜ 配当年次：1年

備考（履修条件等）：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の基礎ゼミⅠでは、受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な、様々な学習スキル（技能）の修得を目標とします。高校までに身につけた学習法を見直し、将来、社会に出たときに役立つスキルへとグレード・アップさせましょう。この授業では、大学での学びを充実させるために必要不可欠であるとともに、社会に出てからも必要とされる、情報収集能力・情報の内容理解・情報発信能力や、他者とのコミュニケーション能力などのスキルと、積極的に活動する態度を身につけることを目指します。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で以下のようなスキルを身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

- 情報収集力として、「自分自身で必要な情報を判断した上で、時間が経過してからでも役立つノート」を取ることができる。
- 情報の内容理解として、「教科書など他者の書いた文章を適切に読解できる」かつ「単なる抜粋ではなく文章内容を把握した上で適切に要約できる」。
- 情報発信能力として、「第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができる」。
- コミュニケーション能力として、「相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができる」。
- 積極的に活動する態度として、「予習や復習といった授業の準備をきちんと行った上で、授業に継続的に参加すること」。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

上記の到達目標を達成するために、「ノートの取り方」や「テキストの読み方」「要約の仕方」「レポートの書き方」などの学習スキルを本当の意味で身につけるために、授業内では多くの「気づき」を得られるような課題に取り組んでもらいます。また、自分の課題を客観的に捉えるために、他の受講生とのペアワークを取り入れます。授業内での活動を充実したものにするため、毎回出席して授業に参加することはもちろんのこと、予習・復習を重視します。この授業で取り上げる学習スキル、たとえば「ノートの取り方」は高校までにも実践してきていると思います。しかし、教員が板書したとおりにノートに書き写すだけでは、大学での学びにとっては不十分です。教員が重要なポイントをもとめる形で板書しなくても、みなさん自身がどこが重要なのかを自分で判断し、時間が経過してから見直しても授業内容を確認できるように工夫してノートを取る必要があるのです。このことは、社会に出てからの情報収集能力に通じています。情報発信側が不親切な情報提示をしたとしても、みなさん自身が適切に内容を把握して必要事項を記録しなくてはなりません。この授業で取り上げる他の学習スキル「テキストの読み方」「要約の仕方」「レポート・論文の書き方」なども同様で、高校までに身につけた「受け身の勉強法」をいったん見直し、積極的な学習法へとステップアップさせていくことが重要になります。

もっとも怖いのは「わかったつもり」「できているつもり」という誤った思い込みです。この授業ではそれを避けるために、授業内で多くの課題に取り組んでもらいます。課題を通じて、自分に不足している点や誤解していた点に、たくさん気づくことができるでしょう。また、課題に取り組む際には、他の受講生とペアを組み、お互いに意見交換したり、課題の評価をしあう機会を設けます。こうしたペアワークの中でも、自分の意見を短時間で的確に述べたり、相手に理解できるように説明をしたり、相手の発言に対して適切な評価をフィードバックするという、コミュニケーション能力についてもトレーニングしていきます。

したがって、この授業では授業に参加することをもっとも重視します。ここでの参加とは、単に教室に足を運ぶだけのことでなく、十分に予習や復習をした上で授業に出席し、授業内容について他の受講生と積極的に意見交換したり、課題から多くの気づきを得るということの意味します。予習や宿題をしていない場合には、授業内でのペアワークに参加できないこともありますので、継続的・積極的に授業に参加するようにしてください。

課題等の評価には学習支援システムを活用する予定です。また、授業の振り返りで書かれた質問・意見・感想の中からいくつかをピックアップし、授業通信としてまとめて翌週の授業で配布することでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション この授業の教育目標を理解し、自分なりに説明できるようになる	基礎ゼミを受講する必要性と「学生」に求められる要素の理解
第2回	ノートの取り方1 高校と大学の授業の違いをふまえ、ノートの取り方を工夫できるようになる	典型的な三つの授業タイプ毎に異なるノートを取ってみる
第3回	ノートの取り方2 ノートを取る目的を説明でき、多様な授業に対応するための観点を得る	前回のノートに対する自己評価と「役立つノート」の必要条件
第4回	初年次教育とは 「大学生」である自分が社会から求められていることを説明できるようになる	「社会人基礎力」「学士力」と初年次教育の教育目標との関連
第5回	テキストの読み方 読解を困難にする要因を理解し、文章の基礎的構成法を自分が書く場面に応用できるようになる	読解過程の心理学的モデルをふまえた「読み」のアドバイスと、弁証法などの論理構成
第6回	要約の仕方 元の文章からの抜粋でなく内容理解を前提とした要約が書けるようになる	社会での情報処理能力と要約の関係と正しい読解をふまえた要約
第7回	きちんと考える方法1 情報を鵜呑みにせず吟味する態度の必要性を理解し、実践できるようになる	書かれた文章に含まれる「事実」と「意見」それぞれの吟味
第8回	きちんと考える方法2 自分の意見を持ち、適切に表現するための基本テクニックを使えるようになる	深く広く考えるためのブレインストーミングなどの手法の実践
第9回	図書館の利用 高校の図書室と大学図書館の違いを理解し、適切に蔵書検索できるようになる	PCを利用した情報検索法と、図書館ツアー
第10回	レポートの書き方1 レポートと作文の違いを説明でき、事実と意見を書き分けられるようになる	大学レポートが要求すること、基本的な原稿作成上のルールの確認
第11回	レポートの書き方2 効率的なレポート作成手順を理解し、出題意図の読み取りができるようになる	レポートや試験の出題意図をふまえた課題作成、宿題に対する添削
第12回	レポート提出と自己評価 レポート評価基準を理解し作成過程を振り返り自分の問題点に気づく	レポートの自己評価と本授業の授業目標の再確認
第13回	ここまでの総括 基礎ゼミで半期間に身につけたことを振り返り、今後の学びの方向性を考える	これまでの授業内での「気づき」の総点検と新たな「気づき」
第14回	レポート返却 レポート自己評価の基準を適切に修正し、内化する	自己評価と教員評価の比較と自己評価基準の修正の必要性の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。詳細は下記の通りです。

第1回	教科書第0講の予習
第2回	教科書第1講の予習とノートの見直し
第3回	教科書第2講の予習と、ノートの整理
第4回	教科書補講の予習とこれまでの総復習
第5回	教科書第3講の予習・第4講のための要約の宿題
第6回	教科書第4講の予習・再度の要約課題
第7回	教科書第5講の予習・教科書の練習課題
第8回	教科書第5講の予習・練習課題の実施
第9回	教科書第6講の予習・情報検索の宿題
第10回	教科書第7講の予習・第9回宿題見直し
第11回	教科書第8講の予習・練習課題直し
第12回	レポート作成・春学期総復習
第13回	「気づき振り返りシート」作成
第14回	これまでのプリント類の整理と振り返り

【テキスト（教科書）】

藤田哲也(編)(2006). 「大学基礎講座 改増版 ―充実した大学生活をおくるために―」, 北大路書房

【参考書】

各回の授業内容に関連したものを、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%) …予習をした上で授業へ出席し積極的にペアワークに参加することや、授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出することを評価の対象とします。連続3回欠席した者、半期中に通算で5回欠席した者は、それ以後の授業への参加を認めず、E評価（未受験）とします。平常点として、授業1回につき+4点を加算し、上限を40点とします。正当な理由無く欠席すると上限の権利が下がります。遅刻は-2点です。この平常点は到達目標の1, 4, 5と対応します。

課題の提出(20%) …授業の進度に合わせて、「要約」と「図書館での情報検索」に関連した宿題を出し、提出したものに各5点を与えます。宿題を行い期限内に提出すること自体を評価します。宿題の内容は授業内でのペアワークの題材となります。半期の終わりに授業全体を振り返る課題を出します。これは振り返りの質（深さ、自分なりの視点の獲得等）に応じた0～10点までの評価とします。この課題の提出は到達目標の2, 3と対応します。

期末レポート(40%) …この授業で学んだことを総合的に応用してレポートを作成できることが評価対象です。レポートの出題意図を読み取ること自体もレポート課題に含まれますので、あまり詳しいことはここには書きませんが、「適切な情報を検索し、内容を吟味して、指定字数で要約し、引用できること」、「引用した資料に対応して自分の意見を述べること」、「わかりやすく論旨の明確な日本語で表現できること」、「引用文献リストを含めた書式・体裁が整っていること」の観点別に、計40点分の評価とする予定です。この期末レポートは主に到達目標の2, 3, 4と対応します。

【学生の意見等からの気づき】

2024年度の授業改善アンケート、WクラスとXクラスを合わせてコメントします：

「履修してよかった」は1限は4.42、2限は4.71で、昨年度と同程度になっていました。ただし1限・2限ともに「授業外学習時間（予習）」の最頻値が週30分～1時間（45.8%、62.5%）と低めでしたので、予習の効果をやってきたからこそ、身につくことがあると、もっと実感してもらえよう工夫したいと思います。レポートの書き方を中心として授業内容については満足度が高かったようですので、その点はさらに工夫を重ねて理解度を高めたいです。自由記述からは、大学での学びで終わらずに、社会に出てからも有益なスキル獲得という捉え方をしていることが把握でき、安心しました。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や教育目標について説明を行うので、受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this class, students will acquire various learning skills necessary for actively learning. Students acquire the ability to collect information, understand contents of information, and communicate information, and attitudes to actively learn.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.As an information gathering ability, students can take useful notes even after a lapse of time after judging the information they need.
- 2.Students can properly read sentences written by others, such as textbooks, to understand the contents of information. In addition, students can not just excerpt, but can summarize the text appropriately after understanding the content of the text.
- 3.As an information dissemination ability, students can write sentences that are easy for others to read and understand and persuasive.
- 4.As a communication ability, students can clearly express their opinions after listening to and understanding the other party's remarks.
- 5.Students can continue to participate in the lesson after properly preparing for the lesson such as preparation and review as an attitude of active activity.

[Learning activities outside of classroom]

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, submission of tasks 20%, report 40%.

BSP100BG（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミⅡ（文・心理）

藤田 哲也

授業コード：A3740 ｜ 曜日・時限：金1/Fri.1

秋学期授業/Fall・2単位 ｜ 配当年次：1年

備考（履修条件等）：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期の基礎ゼミⅡでは、班活動を主体として、情報収集・討論・資料作成・発表のしかたと聴き方について体験的に学びます。大学でのいわゆる「ゼミ」「演習」形式の授業を受けるための準備をすることが、この授業の目的です。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で以下のようなスキルを身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

- 協同学習の考え方に基づいて、積極的・効果的に班活動を行うことができる。
- 情報を伝える相手の視点に立って、必要な情報を集め、それらの情報を適切に取捨選択できる。
- 資料性が高く、かつ、読む気にさせる発表資料にするための注意点を挙げることができ、実際に作成することができる。
- 聞き手が聴く気を保ち、理解しやすい発表をするために必要なことを説明でき、それを実践することができる。
- 他者の発表を聴きながら同時に理解し、適切に評価することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

上記の到達目標を達成するために、受講生自身の主体的な活動が中心の授業となります。「協同学習」の考え方に基づいた、班での協同作業（グループワーク）が多いので、毎回休まずに出席することが重要です。

具体的には、4～6人の班ごとに、「法政大学文学部心理学科に進学しようかどうか迷っている高校生に、“オープンキャンパス”でどのようなことを伝えれば、“法政で学びたい”と思わせることができるか」というテーマで発表（プレゼンテーション）を行うというプロジェクト型学習（PBL）に取り組むことになります。この発表を行うために集める情報が受講生自身に有益となることはもちろんですが、それらの情報・知識を習得することが授業の目的ではなく、発表および発表の準備を通じて、上記の到達目標を達成することが、あくまでも主眼となります。

したがって、この授業では授業に参加することをもっとも重視します。ここでいう参加には、単に教室に足を運ぶだけのことではなく、十分に予習や復習をした上で授業に出席し、班で決めた作業分担について個人の責任を果たすこと、そして実際に発表をすること、他班の発表に対して積極的に評価をしフィードバックすることを含みます。

なお、発表の機会は「構想発表」と「本発表」の二回あります。それぞれの発表の趣旨（発表に求められていること）は異なりますので、よく理解し、準備をして臨んでください。

課題等の評価には学習支援システムを活用する予定です。また、授業の振り返りで書かれた質問・意見・感想の中からいくつかをピックアップし、授業通信としてまとめて翌週の授業で配布することでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション この授業の教育目標を理解し、自分なりの目標を明確にする	秋学期授業の概要と目標、班活動の意義と協同学習、授業での具体的なプロジェクト
第2回	班の構成と活動方針 秋学期のスケジュールを把握する、班活動を充実させるために積極的に行動する	今後のスケジュール確認、班活動ウォーミングアップ、班の活動方針の話し合い
第3回	発表テーマ決定 協同学習による話し合いの技法を実践する、各班での発表テーマを決定する	協同学習の五つの基本原理、班活動のトレーニング、発表テーマについての話し合い
第4回	心理学のカリキュラム 自分の所属する心理学のカリキュラムを説明できる、卒論に対する具体的なイメージを持つ	二年次以降のカリキュラムの概要、二年次の演習Ⅰ履修について、卒論までの道のりと実際

第5回	レジュメの作り方 発表におけるレジュメの役割を説明できる、構想発表に向けて班の意見を集約する	レジュメの作り方に関する班活動、構想発表と本発表について、班活動
第6回	発表のしかた 発表においてもっとも気をつけるべきことを説明できる、構想発表に向けて班の意見を整理する	発表のしかたに関する班活動、発表順の決定、発表に向けての班活動
第7回	発表準備1 他班の発表に対する「聴き方」の注意点を説明できる、構想発表に向けて班の意見を整理する	構想発表の聴き方（観点別評価とコメント作成）、発表に向けての班活動
第8回	構想発表1 構想発表を通じて自分たちの構想を見直す、他班の発表に適切な質問やコメントをする	構想発表、観点別評価とコメント作成
第9回	構想発表2 構想発表を通じて自分たちの構想を見直す、他班の発表と比較して自分の班の特徴を把握できる	構想発表、観点別評価とコメント作成
第10回	こままでの総括 構想発表を通じて明らかになった問題点・改善点を整理して実行に移せる	発表の仕方と内容の両面から見直し、第三者である高校生の視点から客観的に見直し
第11回	発表準備2 本発表に向けて、内容・レジュメ・発表のしかたについての班の方針を明確に挙げることができる	構想発表から気づいた問題点・改善点の再確認と班内での共有
第12回	本発表1 発表内容・発表のしかたについて学んだことを適切に表現できる、他班に適切にコメントできる	本発表、観点別評価とコメント作成
第13回	本発表2 発表について、他班に評価を積極的にフィードバックし、適切に自己評価できる	本発表、観点別評価とコメント作成
第14回	総括 この授業で学んだことを振り返り、自分にとっての意味を説明できる	秋学期授業の到達目標にそった振り返り、春秋学期を通じての基礎ゼミで身につけたことの意識化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間は3時間、復習時間は1時間を標準とします。各回の準備学習の詳細は下記の通りです。効果的に学習を進めるためにも、以前の授業内容の復習も行いましょう。

- 1回 班活動で発表するテーマについての構想案を作成する
- 2回 次回に班での発表タイトルを暫定的に決めるために、情報を集めたり、原案を作成する
- 3回 「班発表中間報告用紙」を班で話し合いながら完成させる
- 4回 演習Ⅰ履修手続きの確認と、教科書第9講の予習
- 5回 班ごとに各自が行うべきことを明確にし、個人の責任を果たすことと、教科書第10講の予習
- 6回 次回の授業内でレジュメの原案が完成できるように準備
- 7回 レジュメの印刷原版を完成させ、指定された日時までに提出する、発表の練習
- 8回 既発表班は構想の見直し、未発表班は発表の練習
- 9回 本発表に向けて構想の練り直し
- 10回 本発表に向けて各班で各自が行うべきことを割り当て、個人の責任を果たす
- 11回 レジュメの印刷原版を完成させ、指定された日時までに提出する、発表の練習
- 12回 既発表班は構想の見直し、未発表班は発表の練習
- 13回 仮にもう一度発表の機会があったとしたら、どこを改善すべきかを整理する
- 14回 一年間この授業で学んできたことを、二年次以降の学習目標に活かすための展望を持つ

【テキスト（教科書）】

藤田哲也(編)(2006)、「大学基礎講座 改増版 ー充実した大学生活をおくるためにー」、北大路書房

【参考書】

各回の授業内容に関連したものを、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）…授業へ出席し積極的に班活動に参加したり、他班の発表に対して適切な評価をすることを評価対象とします。そのため授業終了時の「感想用紙」の記入・提出は必須です。連続3回欠席した者、半期中に通算で5回欠席した者は、それ以後の授業への参加を認めず、E評価（未受験）とします。平常点として、授業一回につき+4点を加算し、上限を40点とします。正当な理由無く欠席すると上限の権利が下がります。この平常点は到達目標の1、5と対応します。

班発表(40%)…構想発表(10%)と本発表(30%)のそれぞれに対して、「発表の内容」、「レジュメ」、「発表のしかた・質疑応答」の観点から評価します。この発表は到達目標の2, 3, 4, 5と対応します。

班活動(20%)…各個人がどれだけ班活動に参加し、貢献できたかについて評価します。具体的には、班活動の成果(班の発表の評価)の1/2に、授業内における班活動への参加率を乗じたものを、各個人の班活動の評価とする予定です。この活動は到達目標の1と対応します。

【学生の意見等からの気づき】

WクラスとXクラスについて同内容の授業なのでまとめてコメントします：回答者がやや少なかったのですが、「履修してよかった」「理解できたか」では約半分が5,「授業は工夫されていたか」ではほぼ全員が5と回答してくれました。肯定的な受け止めをしてくれた人だけが回答してくれたという可能性も否定できませんが、今年度の発表成果について、構想発表から本発表に向けて、全班とも大きく改善できたと思います。その背景にはみんなの準備にかかる時間と労力があつたのだと思います。発表や班活動に対しても、不安や苦手意識が減ったという感想が多く寄せられていましたが、それも「やるべきことをやった結果」であると理解し、2年次以降にも同様の取り組み方を継続して欲しいと思います。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や教育目標について説明と班分けを行うので、受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this class, students learn about collecting information, discussing, creating materials, making presentations and listening through group activities. Students prepare for taking classes in the form of so-called "seminars" and "exercises" at university.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.Students can actively and effectively carry out group activities based on the concept of collaborative learning.
- 2.Students can collect necessary information from the perspective of the person to whom the information is communicated and appropriately select the information.
- 3.Students can give notes to make presentation materials that are highly documentary and motivated to read, and can actually create them.
- 4.Students can explain and practice what is needed to keep listeners listening and make easy-to-understand presentations.
- 5.Students can understand and evaluate appropriately while listening to the presentations of others.

[Learning activities outside of classroom]

The standard preparation time for this class is 3 hours, and the standard review time is 1 hour.

[Grading Criteria /Policy]

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, group presentation 40%, contribution to group activities 20%.

BSP100BG（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミ I（文・心理）

藤田 哲也

授業コード：A3741 | 曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年
備考（履修条件等）：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の基礎ゼミⅠでは、受け身で教えられる存在である「生徒」から、主体的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な、様々な学習スキル（技能）の修得を目標とします。高校までに身につけた学習法を見直し、将来、社会に出たときに役立つスキルへとグレード・アップさせましょう。この授業では、大学での学びを充実させるために必要不可欠であるとともに、社会に出てからも必要とされる、情報収集能力・情報の内容理解・情報発信能力や、他者とのコミュニケーション能力などのスキルと、積極的に活動する態度を身につけることを目指します。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で以下のようなスキルを身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

1. 情報収集力として、「自分自身で必要な情報を判断した上で、時間が経過してからでも役立つノートを取ることができる」。
2. 情報の内容理解として、「教科書など他者の書いた文章を適切に読解できる」かつ「単なる抜粋ではなく文章内容を把握した上で適切に要約できる」。
3. 情報発信能力として、「第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができる」。
4. コミュニケーション能力として、「相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができる」。
5. 積極的に活動する態度として、「予習や復習といった授業の準備をきちんと行った上で、授業に継続的に参加すること」。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

上記の到達目標を達成するために、「ノートの取り方」や「テキストの読み方」「要約の仕方」「レポートの書き方」などの学習スキルを本当の意味で身につけるために、授業内では多くの「気づき」を得られるような課題に取り組んでもらいます。また、自分の課題を客観的に捉えるために、他の受講生とのペアワークを取り入れます。授業内での活動を充実したものにするため、毎回出席して授業に参加することはもちろんのこと、予習・復習を重視します。

この授業で取り上げる学習スキル、たとえば「ノートの取り方」は高校までにも実践してきたと思います。しかし、教員が板書したとおりにノートに書き写すだけでは、大学での学びにとっては不十分です。教員が重要なポイントをまとめる形で板書しなくても、みなさん自身がどこが重要なかを自分で判断し、時間が経過してから見直しても授業内容を確認できるように工夫してノートを取る必要があるのです。このことは、社会に出てからの情報収集能力に通じています。情報発信側が不親切な情報提示をしたとしても、みなさん自身が適切に内容を把握して必要事項を記録しなくてはなりません。この授業で取り上げる他の学習スキル「テキストの読み方」「要約の仕方」「レポート・論文の書き方」なども同様で、高校までに身につけた「受け身の勉強法」をいったん見直し、積極的な学習法へとステップアップさせていくことが重要になります。

もっとも怖いのは「わかったつもり」「できているつもり」という誤った思い込みです。この授業ではそれを避けるために、授業内で多くの課題に取り組んでもらいます。課題を通じて、自分に不足している点や誤解していた点に、たくさん気づくことができるでしょう。また、課題に取り組む際には、他の受講生とペアを組み、お互いに意見交換したり、課題の評価をしあう機会を設けます。こうしたペアワークの中で、自分の意見を短時間で的確に述べたり、相手に理解できるように説明をしたり、相手の発言に対して適切な評価をフィードバックするという、コミュニケーション能力についてもトレーニングしていきます。

したがって、この授業では授業に参加することをもっとも重視します。ここでいう参加とは、単に教室に足を運ぶだけのことでなくて、十分に予習や復習をした上で授業に出席し、授業内容について他の受講生と積極的に意見交換したり、課題から多くの気づきを得るということを意味します。予習や宿題をしていない場合には、授業内でのペアワークに参加できないこともありますので、継続的・積極的に授業に参加するようにしてください。

課題等の評価には学習支援システムを活用する予定です。また、授業の振り返りで書かれた質問・意見・感想の中からいくつかをピックアップし、授業通信としてまとめて翌週の授業で配布することでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション この授業の教育目標を理解し、自分なりに説明できるようにする	基礎ゼミを受講する必要性と「学生」に求められる要素の理解
第2回	ノートの取り方1 高校と大学の授業の違いをふまえ、ノートの取り方を工夫できるようにする	典型的な三つの授業タイプ毎に異なるノートを取ってみる
第3回	ノートの取り方2 ノートを取る目的を説明でき、多様な授業に対応するための観点を得る	前回のノートに対する自己評価と「役立つノート」の必要条件
第4回	初年次教育とは 「大学生」である自分が社会から求められていることを説明できるようにする	「社会人基礎力」「学士力」と初年次教育の教育目標との関連
第5回	テキストの読み方 読解を困難にする要因を理解し、文章の基礎的構成法を自分が書く場面に応用できるようにする	読解過程の心理学的モデルをふまえた「読み」のアドバイスと、弁証法などの論理構成
第6回	要約の仕方 元の文章からの抜粋でなく内容理解を前提とした要約が書けるようになる	社会での情報処理能力と要約の関係と正しい読解をふまえた要約
第7回	きちんと考える方法1 情報を鵜呑みにせず吟味する態度の必要性を理解し、実践できるようにする	書かれた文章に含まれる「事実」と「意見」それぞれの吟味
第8回	きちんと考える方法2 自分の意見を持ち、適切に表現するための基本テクニックを使えるようになる	深く広く考えるためのブレインストーミングなどの手法の実践
第9回	図書館の利用 高校の図書室と大学図書館の違いを理解し、適切に蔵書検索できるようにする	PCを利用した情報検索法と、図書館ツアー
第10回	レポートの書き方1 レポートと作文の違いを説明でき、事実と意見を書き分けられるようになる	大学レポートが要求すること、基本的な原稿作成上のルールの確認
第11回	レポートの書き方2 効率的なレポート作成手順を理解し、出題意図の読み取りができるようになる	レポートや試験の出題意図をふまえた課題作成、宿題に対する添削
第12回	レポート提出と自己評価 レポート評価基準を理解し作成過程を振り返り自分の問題点に気づく	レポートの自己評価と本授業の授業目標の再確認
第13回	これまでの総括 基礎ゼミで半期間に身につけたことを振り返り、今後の学びの方向性を考える	これまでの授業内での「気づき」の総点検と新たな「気づき」
第14回	レポート返却 レポート自己評価の基準を適切に修正し、内化する	自己評価と教員評価の比較と自己評価基準の修正の必要性の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。詳細は下記の通りです。

第1回	教科書第0講の予習
第2回	教科書第1講の予習とノートの見直し
第3回	教科書第2講の予習と、ノートの整理
第4回	教科書補講の予習とこれまでの総復習
第5回	教科書第3講の予習・第4講のための要約の宿題
第6回	教科書第4講の予習・再度の要約課題
第7回	教科書第5講の予習・教科書の練習課題
第8回	教科書第5講の予習・練習課題の実施
第9回	教科書第6講の予習・情報検索の宿題
第10回	教科書第7講の予習・第9回宿題見直し
第11回	教科書第8講の予習・練習課題直し
第12回	レポート作成・春学期総復習
第13回	「気づき振り返りシート」作成
第14回	これまでのプリント類の整理と振り返り

【テキスト（教科書）】

藤田哲也(編)(2006). 「大学基礎講座 改増版 ―充実した大学生活をおくるために―」, 北大路書房

【参考書】

各回の授業内容に関連したものを、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%) …予習をした上で授業へ出席し積極的にペアワークに参加することや、授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出することを評価の対象とします。連続3回欠席した者、半期中に通算で5回欠席した者は、それ以後の授業への参加を認めず、E評価（未受験）とします。平常点として、授業1回につき+4点を加算し、上限を40点とします。正当な理由無く欠席すると上限の権利が下がります。遅刻は-2点です。この平常点は到達目標の1, 4, 5と対応します。

課題の提出(20%) …授業の進度に合わせて、「要約」と「図書館での情報検索」に関連した宿題を出し、提出したものに各5点を与えます。宿題を行い期限内に提出すること自体を評価します。宿題の内容は授業内でのペアワークの題材となります。半期の終わりに授業全体を振り返る課題を出します。これは振り返りの質（深さ、自分なりの視点の獲得等）に応じた0～10点までの評価とします。この課題の提出は到達目標の2, 3と対応します。

期末レポート(40%) …この授業で学んだことを総合的に応用してレポートを作成できることが評価対象です。レポートの出題意図を読み取ること自体もレポート課題に含まれますので、あまり詳しいことはここには書きませんが、「適切な情報を検索し、内容を吟味して、指定字数で要約し、引用できること」、「引用した資料に対応して自分の意見を述べること」、「わかりやすく論旨の明確な日本語で表現できること」、「引用文献リストを含めた書式・体裁が整っていること」の観点別に、計40点分の評価とする予定です。この期末レポートは主に到達目標の2, 3, 4と対応します。

【学生の意見等からの気づき】

2024年度の授業改善アンケート、WクラスとXクラスを合わせてコメントします：

「履修してよかった」は1限は4.42, 2限は4.71で、昨年度と同程度になっていました。ただし1限・2限ともに「授業外学習時間（予習）」の最頻値が週30分～1時間（45.8%, 62.5%）と低めでしたので、予習の効果をやってきたからこそ、身につくことがあると、もっと実感してもらえよう工夫したいと思います。レポートの書き方を中心として授業内容については満足度が高かったようですので、その点はさらに工夫を重ねて理解度を高めたいです。自由記述からは、大学での学びで終わらずに、社会に出てからも有益なスキル獲得という捉え方をしていることが把握でき、安心しました。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や教育目標について説明を行うので、受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this class, students will acquire various learning skills necessary for actively learning. Students acquire the ability to collect information, understand contents of information, and communicate information, and attitudes to actively learn.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.As an information gathering ability, students can take useful notes even after a lapse of time after judging the information they need.
- 2.Students can properly read sentences written by others, such as textbooks, to understand the contents of information. In addition, students can not just excerpt, but can summarize the text appropriately after understanding the content of the text.
- 3.As an information dissemination ability, students can write sentences that are easy for others to read and understand and persuasive.
- 4.As a communication ability, students can clearly express their opinions after listening to and understanding the other party's remarks.
- 5.Students can continue to participate in the lesson after properly preparing for the lesson such as preparation and review as an attitude of active activity.

[Learning activities outside of classroom]

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, submission of tasks 20%, report 40%.

BSP100BG（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）		
基礎ゼミⅡ（文・心理）		
藤田 哲也		
授業コード：A3742 曜日・時限：金2/Fri.2		
秋学期授業/Fall・2単位 配当年次：1年		
備考（履修条件等）：ILAC100番台0群として履修		
その他属性：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
秋学期の基礎ゼミⅡでは、班活動を主体として、情報収集・討論・資料作成・発表のしかたと聴き方について体験的に学びます。大学でのいわゆる「ゼミ」「演習」形式の授業を受けるための準備をすることが、この授業の目的です。		
【到達目標】		
半期の授業が終了した時点で以下のようなスキルを身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。		
1. 協同学習の考え方に基づいて、積極的・効果的に班活動を行うことができる。		
2. 情報を伝える相手の視点に立って、必要な情報を集め、それらの情報を適切に取捨選択できる。		
3. 資料性が高く、かつ、読む気にさせる発表資料にするための注意点を挙げることができる、実際に作成することができる。		
4. 聞き手が聴く気を保ち、理解しやすい発表をするために必要なことを説明でき、それを実践することができる。		
5. 他者の発表を聴きながら同時に理解し、適切に評価することができる。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連		
【授業の進め方と方法】		
上記の到達目標を達成するために、受講生自身の主体的な活動が中心の授業となります。「協同学習」の考え方に基づいた、班での協同作業（グループワーク）が多いので、毎回休まずに出席することが重要です。		
具体的には、4～6人の班ごとに、「法政大学文学部心理学科に進学しようかどうか迷っている高校生に、“オープンキャンパス”でどのようなことを伝えれば、“法政で学びたい”と思わせることができるか」というテーマで発表（プレゼンテーション）を行うというプロジェクト型学習（PBL）に取り組むことになります。この発表を行うために集める情報が受講生自身に有益となることはもちろんですが、それらの情報・知識を習得することが授業の目的ではなく、発表および発表の準備を通じて、上記の到達目標を達成することが、あくまでも主眼となります。		
したがって、この授業では授業に参加することをもっとも重視します。ここでいう参加には、単に教室に足を運ぶだけのことではなく、十分に予習や復習をした上で授業に出席し、班で決めた作業分担について個人の責任を果たすこと、そして実際に発表をすること、他班の発表に対して積極的に評価をフィードバックすることを含みます。		
なお、発表の機会は「構想発表」と「本発表」の二回あります。それぞれの発表の趣旨（発表に求められていること）は異なりますので、よく理解し、準備をして臨んでください。		
課題等の評価には学習支援システムを活用する予定です。また、授業の振り返りで書かれた質問・意見・感想の中からいくつかをピックアップし、授業通信としてまとめて翌週の授業で配布することでフィードバックを行います。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション この授業の教育目標を理解し、自分なりの目標を明確にする	秋学期授業の概要と目標、班活動の意義と協同学習、授業での具体的なプロジェクト
第2回	班の構成と活動方針 秋学期のスケジュールを把握する、班活動を充実させるために積極的に行動する	今後のスケジュール確認、班活動ウォーミングアップ、班の活動方針の話し合い
第3回	発表テーマ決定 協同学習による話し合いの技法を実践する、各班での発表テーマを決定する	協同学習の五つの基本原理、班活動のトレーニング、発表テーマについての話し合い
第4回	心理学のカリキュラム 自分の所属する心理学のカリキュラムを説明できる、卒論に対する具体的なイメージを持つ	二年次以降のカリキュラムの概要、二年次の演習Ⅰ履修について、卒論までの道のりと実際

第5回	レジュメの作り方 発表におけるレジュメの役割を説明できる、構想発表に向けて班の意見を集約する	レジュメの作り方に関する班活動、構想発表と本発表について、班活動
第6回	発表のしかた 発表においてもっとも気をつけるべきことを説明できる、構想発表に向けて班の意見を整理する	発表のしかたに関する班活動、発表順の決定、発表に向けての班活動
第7回	発表準備1 他班の発表に対する「聴き方」の注意点を説明できる、構想発表に向けて班の意見を整理する	構想発表の聴き方（観点別評価とコメント作成）、発表に向けての班活動
第8回	構想発表1 構想発表を通じて自分たちの構想を見直す、他班の発表に適切な質問やコメントをする	構想発表、観点別評価とコメント作成
第9回	構想発表2 構想発表を通じて自分たちの構想を見直す、他班の発表と比較して自分の班の特徴を把握できる ここまでの総括 構想発表を通じて明らかになった問題点・改善点を整理して実行に移せる	構想発表、観点別評価とコメント作成 発表の仕方と内容の両面から見直し、第三者である高校生の視点から客観的に見直し
第10回	発表準備2 本発表に向けて、内容・レジュメ・発表のしかたについての班の方針を明確に挙げる事ができる	構想発表から気づいた問題点・改善点の再確認と班内での共有
第11回	本発表1 発表内容・発表のしかたについて学んだことを適切に表現できる、他班に適切にコメントできる	本発表、観点別評価とコメント作成
第12回	本発表2 発表について、他班に評価を積極的にフィードバックし、適切に自己評価できる	本発表、観点別評価とコメント作成
第13回	総括 この授業で学んだことを振り返り、自分にとっての意味を説明できる	秋学期授業の到達目標にそった振り返り、春秋学期を通じての基礎ゼミで身につけたことの意識化
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
本授業の準備時間は3時間、復習時間は1時間を標準とします。各回の準備学習の詳細は下記の通りです。効果的に学習を進めるためにも、以前の授業内容の復習も行いましょう。		
第1回	班活動で発表するテーマについての構想案を作成する	
第2回	次回に班での発表タイトルを暫定的に決めるために、情報を集めたり、原案を作成する	
第3回	「班発表中間報告用紙」を班で話し合いながら完成させる	
第4回	演習Ⅰ履修手続きの確認と、教科書第9講の予習	
第5回	班ごとに各自が行うべきことを明確にし、個人の責任を果たすことと、教科書第10講の予習	
第6回	次回の授業内でレジュメの原案が完成できるように準備	
第7回	レジュメの印刷原版を完成させ、指定された日時までに提出する、発表の練習	
第8回	既発表班は構想の見直し、未発表班は発表の練習	
第9回	本発表に向けて構想の練り直し	
第10回	本発表に向けて各班で各自が行うべきことを割り当て、個人の責任を果たす	
第11回	レジュメの印刷原版を完成させ、指定された日時までに提出する、発表の練習	
第12回	既発表班は構想の見直し、未発表班は発表の練習	
第13回	仮にもう一度発表の機会があったとしたら、どこを改善すべきかを整理する	
第14回	一年間この授業で学んできたことを、二年次以降の学習目標に活かすための展望を持つ	
【テキスト（教科書）】		
藤田哲也(編)(2006)、「大学基礎講座 改増版 ー充実した大学生活をおくるためにー」、北大路書房		
【参考書】		
各回の授業内容に関連したものを、授業内で紹介します。		
【成績評価の方法と基準】		
平常点（40％）…授業へ出席し積極的に班活動に参加したり、他班の発表に対して適切な評価をすることを評価対象とします。そのため授業終了時の「感想用紙」の記入・提出は必須です。連続3回欠席した者、半期中に通算で5回欠席した者は、それ以後の授業への参加を認めず、E評価（未受験）とします。平常点として、授業一回につき+4点を加算し、上限を40点とします。正当な理由無く欠席すると上限の権利が下がります。この平常点は到達目標の1、5と対応します。		

班発表(40%)…構想発表(10%)と本発表(30%)のそれぞれに対して、「発表の内容」、「レジュメ」、「発表のしかた・質疑応答」の観点から評価します。この発表は到達目標の2, 3, 4, 5と対応します。

班活動(20%)…各個人がどれだけ班活動に参加し、貢献できたかについて評価します。具体的には、班活動の成果(班の発表の評価)の1/2に、授業内における班活動への参加率を乗じたものを、各個人の班活動の評価とする予定です。この活動は到達目標の1と対応します。

【学生の意見等からの気づき】

WクラスとXクラスについて同内容の授業なのでまとめてコメントします：回答者がやや少なかったのですが、「履修してよかった」「理解できたか」では約半分が5,「授業は工夫されていたか」ではほぼ全員が5と回答してくれました。肯定的な受け止めをしてくれた人だけが回答してくれたという可能性も否定できませんが、今年度の発表成果について、構想発表から本発表に向けて、全班とも大きく改善できたと思います。その背景にはみんなの準備にかかる時間と労力があつたのだと思います。発表や班活動に対しても、不安や苦手意識が減ったという感想が多く寄せられていましたが、それも「やるべきことをやった結果」であると理解し、2年次以降にも同様の取り組み方を継続して欲しいと思います。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や教育目標について説明と班分けを行うので、受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students learn about collecting information, discussing, creating materials, making presentations and listening through group activities. Students prepare for taking classes in the form of so-called "seminars" and "exercises" at university.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.Students can actively and effectively carry out group activities based on the concept of collaborative learning.
- 2.Students can collect necessary information from the perspective of the person to whom the information is communicated and appropriately select the information.
- 3.Students can give notes to make presentation materials that are highly documentary and motivated to read, and can actually create them.
- 4.Students can explain and practice what is needed to keep listeners listening and make easy-to-understand presentations.
- 5.Students can understand and evaluate appropriately while listening to the presentations of others.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation time for this class is 3 hours, and the standard review time is 1 hour.

【Grading Criteria /Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, group presentation 40%, contribution to group activities 20%.

DES200GA (デザイン学 / Design science 200)

マス・メディア論

君塚 洋一

授業コード：A3803 | 曜日・時限：月4/Mon.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会におけるコミュニケーションを成り立たせるメディアと情報の特性とはたらきをさまざまな分野の考察を通して理解し、生活者として、また社会や市場への幅広い発信に携わる職業人として、メディアに対する姿勢とその活用の基礎を習得する。

【到達目標】

以下3点を目標とする。

- 1) 身の回りで起こるメディアを介したコミュニケーションのメカニズム、メディアのはたらきを自覚する。
- 2) 環境の監視、事業や制度の運営、文化の共有など、社会においてさまざまな目的のために行われるメディア・コミュニケーションの必要性和問題性の両面を学習する。
- 3) メディア・リテラシーの視点を身につけ、メディアと情報のもたらす現象について客観的な評価を行えるようにする。あわせて、あらゆる社会的活動に不可欠となる他者からの理解と支持を得るための情報発信（PR＝パブリック・リレーションズ）の視点を持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この科目は、各テーマにおいて、対面授業による説明や解題、質疑、受講生のコメント紹介、映像の鑑賞、簡易なグループワークなどを行う。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパー（小課題）からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定で。

＊

メディア史やメディア論の基礎をふまえ、映像、ニュース、広告、SNSなどの具体的な題材を通して、情報テクノロジーと社会・文化のあり方、生活者のメディア利用行動やリアリティ意識の変容、市場情報システム、IT化の進むメディア産業の帰趨など、情報化社会とメディア・人間をめぐるさまざまな問題を考える。

また、著作権をはじめとした知的財産権の取扱いや、個人情報やプライバシーの保護、インターネット等メディアの活用において求められるモラルなど、情報倫理の問題についてもあわせて考えていく。

テーマに関連した資料映像を適宜鑑賞しながら学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義のテーマと履修上の注意
第2回	メディアとは何か	メディアとは何か？／何がメディアになるのか？／メディアの種類（タイプ）
第3回	コミュニケーションとは何か-1	「コミュニケーション」のさまざまなモデル、その規定要因（1）：物理的環境／社会的制御など
第4回	コミュニケーションとは何か-2	「コミュニケーション」のさまざまなモデル、その規定要因（2）：多層性・文脈／対話など
第5回	情報（ニュース）	情報とは何か？／どんな要件を満たせばニュースになるのか？／社会におけるニュースの役割・機能／マス・メディアの報道

第6回	パブリック・メディア-1	プロパガンダ（宣伝）と広報（PR）／近年の推奨コミュニケーションの問題
第7回	パブリック・メディア-2	環境の監視とジャーナリズム
第8回	ふりかえりレポート-1	第1回～第7回のふりかえりレポート
第9回	ソーシャル・メディア	ソーシャル・メディアのはたらきと問題
第10回	観光とメディア	メディアが観光の対象をつくる／「聖地巡礼」／大衆と対象物
第11回	メディアと感情	メディアとしての芸術作品と「ノスタルジー」
第12回	メディア・リテラシー-1	共感をシェアするコミュニケーションとは？
第13回	メディア・リテラシー-2	社会をより適切に理解するコミュニケーションとは？ ・ポスト真実／フェイクニュースの拡散と影響など
第14回	まとめ ふりかえりレポート-2	情報源＝メディアの識別利用／ファクトチェック／メディアと感情／メディアのはたらきへの補論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) インターネット、マスメディア、都市空間などにおいてさまざまなメディア表現にふれ、そのねらいや影響について考える習慣を身につける。
- 2) あるメディア表現について、オーディエンス、送り手・作り手(媒体社、広告会社等)の双方の立場からとらえる視点・発想の転換を行えるよう心がける。
- 3) 前半の1回では、自分が注目したマス・メディアのニュース、まわりの人と話題にしたニュースをピックアップして提出し、授業の題材とする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として使用しない。

【参考書】

- ・稲増一憲『マスメディアとは何か 影響力の正体』中公新書、中央公論社、2022年
- ・法政大学大学院メディア環境設計研究所編『アフターソーシャルメディア 多すぎる情報といかに付き合うか』日経BP、2020年
- ・ダニエル・ブーニュー『コミュニケーション学講義——メディアテクノロジーから情報社会へ』書籍工房早山、2010年
- ・竹内郁郎・児島和人・橋元良明編著『新版メディア・コミュニケーション論1』北樹出版、2005年
- ・笠原和俊『フェイクニュースを科学する——拡散するデマ、陰謀論、プロパガンダのしくみ』化学同人、2018年
- ・カリン・ウォール＝ヨルゲンセン『メディアと感情の政治学』勁草書房、2020年
- ・立岩陽一郎、揚井人文『ファクトチェックとは何か』岩波ブックレットNo.982、岩波書店、2018年

【成績評価の方法と基準】

毎回の小課題の提出（約40％）、ふりかえりレポート（2回：約60％）を課す。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。ただし、7～8割以上の小課題の提出、2回のふりかえりレポートの提出を単位要件とする。

【学生の意見等からの気づき】

メディアと情報について理論と実際の双方を扱うため、とりわけ前者はこの分野の基礎を習得した人でないとやや理解しにくいところがあるかと思う。より平易に伝える努力をする。

毎回、テーマに関わる映像資料、配布資料を用意しており、これらは理解の助けになっているようである。

また、メディア業界における実務について映像を中心に具体的に理解する回を設けているが、業界に関心がある人には好評のようである。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

さまざまなメディアやコンテンツに興味を持つ学生の受講を希望する。メディア論についての基礎的知識を持っていることを前提とした中級者向けの講義を行う。

【受講上の留意点】

本科目は、対面授業、授業内課題、ふりかえりレポートの3つで成り立つ。テーマについて高い関心を持ち、積極的なレスポンスと活動を行う意欲のある受講者を求める。

【Outline (in English)】

Students are advised to understand the characteristics and functions of media and information that make communication in modern society through consideration of various fields. And also they should learn the attitude towards media and the basis of their use as consumers, as future professionals engaged in broad dissemination to society and markets.

*

Learning Objectives

- (1) To become aware of the mechanisms of communication through the media that occur in our daily lives and the functions of the media.
- (2) Learn about both the necessity and problems of media communication, which is used for various purposes in society, such as monitoring the environment, managing businesses and institutions, and sharing culture.
- (3) Students need to acquire the perspective of media literacy and be able to objectively evaluate the phenomena brought about by media and information. At the same time, students need to be able to take the perspective of public relations (PR) to gain the understanding and support of others, which is essential for all social activities.

*

Learning activities outside of classroom

- (1) Acquire the habit of thinking about the aims and effects of various media expressions on television, the Internet, and in urban spaces.
- (2) Students will try to change their perspective and ideas about a certain media expression from the standpoint of both the audience and the sender/producer (media company, advertising company, etc.).
- (3) In the first half of the class, students will be asked to pick up news about mass media that they have paid attention to, or that they have talked about with others, and submit them to the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

*

Grading Criteria/Policy

Students will be required to submit small assignments each time (approx. 40%) and to write a review report (twice: approx. 60%). Based on this grading method, students who have achieved at least 60% of the achievement goals of this class will pass the class. However, students are required to submit at least 70-80% of the small assignments and two retrospective reports for credit.

ARSk300GA（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 300)		
言語文化論Ⅰ		
栗飯原 文子		
授業コード：A3805 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses 春学期授業/Spring・2単位 配当年次：2～4年 その他属性：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 英語圏世界とは、もちろんイギリスや北米だけではなく、世界中に広がるイギリスの統治地域や植民地（そしてアメリカの領土なども）を多く含む。したがって、英語圏世界について学ぶことは、多くの場合、旧植民地地域について学ぶことでもある。そのためにもこの授業では、かつて「第三世界」あるいは「南」と呼ばれた旧植民地地域の歴史的な軌跡を概観して、「世界史」を異なる視点から学び、ひいては「英語圏」という枠組を再考することを目的とする。		
【到達目標】 ・旧植民地地域について学び、現代の国際状況の理解につなげる。 ・旧植民地地域の歴史を振り返り、その主体性を重んじながら、西洋の視点から語られる「世界史」に対する別様の視点を身につける。またそこから、多様な文化的背景をもつ人々および国々の相互交流とその意義や課題について複数の角度から理解する。 ・東西の対立という観点から説明され、理解されがちな冷戦を、旧植民地地域の経験から再考する。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
【授業の進め方と方法】 ・授業は学習支援システムを通じたオンライン（オンデマンド方式）での開講となる。毎週金曜日に「お知らせ」を配信するので確認すること。 ・毎回視聴覚資料を配信する。各自で学習して、期限までに課題を提出すること。 ・リアクションペーパーにおけるコメントの紹介、質問に対する応答を通じて、さらなる議論に活かしたい。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり /Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし /No		
【授業計画】 授業形態：オンライン/online		
回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と進め方、成績評価の基準などについて説明。まず、「英語圏の文化」とはなにか考える。
第2回	英語圏とはなにか	英語圏、英語使用地域の歴史的な背景と現在の状況について考える。
第3回	第一次世界大戦後の世界—民族自決	第一次世界大戦のとらえ方、1919年の「民族自決」の世界的な動向について学ぶ。
第4回	反帝国主義連盟	植民地地域から多数の代表が集まった1927年のブリュッセル会議、その意義について学ぶ。
第5回	第二次世界大戦後の世界—独立への道	第二次世界大戦前後の植民地地域の独立への動きを考える。
第6回	アジア・アフリカ会議	1955年のアジア・アフリカ会議（バンドン会議）の重要性を再考する。
第7回	アフリカ諸国独立	1957年のガーナ独立からアフリカ諸国独立の時代を振り返り、また、独立後の困難について考える。
第8回	非同盟諸国運動	1961年にベオグラードで誕生した非同盟諸国運動というまとまりについて学ぶ。
第9回	キューバ革命と三大大陸人民会議	1959年のキューバ革命の衝撃、革命後のキューバを中心にして発展した連帯運動、この時代を覆うアメリカの影について学ぶ。
第10回	第三世界から見る冷戦①	旧植民地において冷戦とは、決して「冷戦」などではなく、その影響下で激しい戦争が起こっていた。また、多くの場ではアメリカによる軍事介入を受けた。旧植民地地域における「冷戦」とはなんであったか、二度にわけて学ぶ。
第11回	第三世界から見る冷戦②	前回の続き。いくつかの地域と国の事例をもとに、旧植民地地域の「冷戦」の経験を学ぶ。
第12回	構造調整の時代—第三世界の弱体化	旧植民地地域はどのようにして苦境に陥っていったのか。その背景をたどり、現在の文脈につなげて考える。
第13回	現代の諸問題	現在の英語圏および旧植民地地域について概観する。
第14回	期末課題の説明とまとめ	全体の復習をおこない、期末課題について説明する。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 復習として授業時に配布したハンドアウトや資料を読み直すこと。 また、参考文献を適宜紹介するので、それを読むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。		
【テキスト（教科書）】 資料を配布する。		
【参考書】 授業中に紹介する。		
【成績評価の方法と基準】 成績評価の方法と基準は次の通り。 ・各回の課題（リアクションペーパーなど）の提出（60％） ・期末課題（40％） この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。		
【学生の意見等からの気づき】 受講生の思考をうながし、積極的に参加できるような講義を行うよう努力したい。		
【その他の重要事項】 ・初回の授業資料は4月11日（金）13時にアップロードします。 受講希望者は必ず、この時間までに登録を行ってください。 ・受講希望者が多い場合、抽選をおこないます。		
【Outline (in English)】 [Course outline] This course is designed to provide students with new insights into concepts and contours of the "English-speaking world" by focussing on the experiences of formerly colonised peoples and countries. [Learning objectives] Students will be expected to gain a comprehensive understanding of the historical trajectories of the "Third World" and thus a different perspective on World History. [Learning activities outside of classroom] Students will be expected to review the audio-visual materials and the handouts. The required study time is at least four hours for each class session. [Grading policy] Final grade will be decided based on the following: short reports 60% and term-end examination 40%.		

LIT300GA (文学 / Literature 300)

言語文化論Ⅱ

大野 ロベルト

授業コード：A3806 | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英訳を通して日本語に触れることは、ときに日本語のみを媒介とするよりも明瞭に、日本語の実像を描き出してくれる。その果てに見えてくるのは日本語に特有のもの、すなわち日本語のエッセンスであるから、実はこの授業のタイトルは「日英翻訳不可能論」とすべきである。この授業では、とくに「裸」の状態に近い日本語に触れるために、古典の英訳を中心にとりあげる。講義は秋学期に開講される「世界の中の日本語」と響き合う内容となっている。

【到達目標】

英語の運用能力が向上すると共に、受験勉強の「負の遺産」をなげうち、自由なアプローチで古典本来の味わいを楽しめるようになる。現代言語学を中心とする文学理論の知識が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

リアルタイムでの作業を伴わない、フルオンデマンド形式のオンライン授業として実施する。このため講義が中心となるが、随時リアクションペーパー提出を奨励している。これらについては学習支援システムを通じてフィードバックを行い、必要に応じて講義内でも紹介する。成績判断の主な材料としては、中間レポートと期末レポートを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方について説明し、翻訳とは何かについて考える。
2	日本的なるもの	「もののあはれ」の概念を素材に、前回に引き続き翻訳について考える。
3	詩歌を翻訳する 1	俳句の翻訳について考える。
4	詩歌を翻訳する 2	和歌の翻訳について考える。
5	日本語の淵源 1	『古今和歌集』の序文を参考に、日本における詩歌の位置について考える。
6	日本語の淵源 2	『万葉集』などを材料に、日本語の「成立」について考える。
7	物語の誕生 1	『伊勢物語』をとりあげ、物語と文化の関係について考える。
8	物語の誕生 2	『土佐日記』をとりあげ、母国語と外国語の関係について考える。
9	私を書く 1	『枕草子』を素材に、言語と自我の関係について考える。
10	私を書く 2	『徒然草』を素材に、自己と他者の関係について考える。
11	社会を描く 1	『方丈記』をとりあげ、現実とフィクションの問題について考える。
12	社会を描く 2	『無名草子』をとりあげ、言語とジェンダーについて考える。
13	日本語的なるもの	古典と向き合った翻訳者たちの姿から、彼らの見た「日本像」を探る。

14 まとめ

今学期の内容をふりかえりつつ、近現代の日本語に起こった変化について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義のテーマとなるテキストについては、日本語の原典と英訳を事前に丁寧に読み比べ、単語の意味などについては事前に調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。資料は必要に応じて教員が配布する。

【参考書】

授業中に折に触れて紹介するが、以下を挙げておく。

クリステワ『心づくしの日本語』ちくま新書、2011

【成績評価の方法と基準】

平常点10%、中間レポート40%、期末レポート50%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド授業の特性を活かしつつ、対面と比較して遜色のない、臨場感ある講義を心がけたい。

【Outline (in English)】

This course invites the students to survey the essence of the Japanese language by reading classical texts translated into English. In order to truly discover Japan, it is essential to look for things that are left untranslated.

To appreciate various works spanning across centuries of Japanese classical period, and to demonstrate the findings in forms of written assignments and final paper, will be the objective of this course.

The students are expected to spend a total of 4 hours in reviewing and preparing for each class meeting.

The grading criteria is as follows: 10% participation, 40% mid-term paper, and 50% final paper. Students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

CUA200BA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）

民俗学 I

室井 康成

授業コード：A3809 | 曜日・時限：木5/Thu.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3859）で履修する。

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本民俗学の創始者・柳田国男（1875－1962）の研究歴に沿いながら、民俗学の基礎を学ぶ。柳田の生涯は、西南戦争前の明治の初年から、アジア太平洋戦争後の高度経済成長期にまで及ぶ。言わば日本近代を凝縮した人生とも言えるわけで、その経歴に沿いながら、柳田が「民俗」に着目した動機とその社会背景を明らかにし、そこから彼が「民俗」の研究を通じて構想した社会像を考える。

【到達目標】

「民俗」とは、いったい何だろう。民俗芸能・民俗文化財・民俗宗教など、この語を冠した言葉は多用されているが、ここで言う「民俗」とは、私たちの日常生活のあり方を規定する文化的な事象を指している。しかし所与のものではなく、「近代」という時代状況の中で発見されたものである。その「民俗」が、何ゆえその時代に、いかなる契機によって発見されたのか。本講義では、「民俗」および「民俗学」を理解する前段階として、日本における民俗学の創始者・柳田国男の思想と学問を手掛かりとして、この問題を理解し、併せて現代を生きる私たちにとって、「民俗」の何が問題なのかということを考える視座を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありますが、リアクションペーパーなどは求めません。質問等に対するフィードバックは適宜講義内で行ないます。また、講義時に配布するレジュメに、教員へのアクセス方法を記しておりますので、講義時間外でも質問等を受け付けることは可能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義全体の趣旨を説明します。
第2回	DVD「柳田国男―民俗の心を探る旅」の視聴と解説	柳田国男の生涯を描いた映像作品を視聴し、その特徴と問題点を指摘します。
第3回	生い立ちと貧困問題	柳田の民俗学構想には彼が幼少時に見聞した原体験があるとされ、その事例を確認します。
第4回	関西から関東への転居	柳田が幼少時に経験した関西から関東への転居が、その後の民俗学に与えた影響を考えます。
第5回	恋愛抒情詩人から農政官僚へ	柳田は学生時代、後に高名な文学者となる友人を多く持ちました。彼らとの交流が後の民俗学に与えた影響を考えます。
第6回	近代化論と農業政策論	柳田は大学卒業後、農商務省の高級官僚となります。その職務を通じて彼が披歴した近代観・農業観の特徴を確認します。
第7回	『遠野物語』を読む（1）	柳田が官僚時代に刊行した『遠野物語』の学史的位置づけを押さえます。
第8回	『遠野物語』を読む（2）	具体的に『遠野物語』を通読し、そこから読み取れる柳田の思想を考えます。
第9回	政策課題としての「民俗」の発見	柳田の中で発見された「民俗」は、どのような性格のものであったのかを確認します。
第10回	ジャーナリストへの転向と大正デモクラシー	柳田は官僚を辞した後、ジャーナリストになりました。その時代の世相と彼の思想との関連性を考えます。
第11回	民俗学の組織化と柳田国男の孤立	柳田はジャーナリストとして活動しつつ民俗学の体系化を目指します。その過程で起きた問題点の学史的意味を考えます。

第12回	日本の敗戦と新たな民俗学構想	柳田は日本の戦争を止められなかったのは、自身を含めた知識人の力不足だったと考えました。柳田は民俗学を通じてどのような社会貢献をしようとしていたのかを考えます。
第13回	「公民」養成論としての民俗学へ	戦後の柳田は、民俗学の目的を「公民の養成」と明言しました。その意味を検討し、民俗学とは何かを考えます。
第14回	試験と総括	本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義では毎回教員がレジュメを配布するので、そこに記された参考文献については通読しておいてください。また授業外の学習は、上記参考文献を用いた予習・復習（2時間程度）のほか、個々の学生の日常生活の中に散見される「民俗」的な事象・問題に気配りし、それらを学問的に考える姿勢を求めます（随時）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。講義時に教員においてレジュメを作成し、配布します。

【参考書】

福田アジオ『種明かししない柳田国男－日本民俗学のために』（2023年、吉川弘文館）
室井康成『柳田国男の民俗学構想』（2010年、森話社）
室井康成『事大主義－日本・朝鮮・沖縄の「自虐と侮蔑」』（2019年、中央公論新社）
室井康成『政治風土のフォークローア－文明・選挙・韓国』（2023年、七月社）
岩本通弥他編『民俗学の思考法－（いま・ここ）の日常と文化を捉える』（2021年、慶応義塾大学出版会）
その他は、授業時に配布するレジュメで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します（試験100％）。ただし、どのような内容を出題するかは、終講の3～4回前の授業時にお知らせします。
・試験は実質的には机上リポートになります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特にありませんが、近現代の日本および東アジアの歴史に興味がないと、退屈な時間を過ごさざるを得なくなります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, you will learn about the history and characteristics of Japanese folklore-studies. Since the concept of folklore varies from country to country, this lesson will accurately learn the concept of "folklore" used in Japan.

【Learning Objectives】

Understanding Japanese folk-culture and the concept of folklore.

【Learning activities outside of classroom】

Reading the bibliography.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination;100%

CUA200BA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）

民俗学Ⅱ

室井 康成

授業コード：A3810 | 曜日・時限：木5/Thu.5
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3860）で履修する。
その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「レジャー」が一般化した高度経済成長期において、人々の観光への意欲を掻き立てる重要なツールとなったのがテレビの紀行番組である。だが、映像を含むあらゆる視覚資料には製作者の恣意が反映されているものであり、紀行番組もまた然りである。本講義では、そこに描かれた風景や製作意図、その時代的意味合いについての理解に努める。

【到達目標】
戦後の高度経済成長に歩調を合わせる形で放送され、その後の紀行番組に大きな影響を与えたNHKの『新日本紀行』を事例として、その時代に求められた風景や、そこから除外された問題を同時代史の文脈から読み解き、あわせて民俗学的観点から映像作品と同時代性を理解する力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありますが、リアクションペーパーなどは求めません。質問等に対するフィードバックは適宜講義内で行ないます。また、講義時に配布するレジュメに、教員へのアクセス方法を記しておりますので、講義時間外でも質問等を受け付けることは可能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
講義	ガイダンス	講義全体の概要を説明します。履修希望者は必ず出席して下さい。 放送当時の時代背景を講義します。
講義	「新日本紀行」の時代背景と政治性—高度経済成長期の求められた風景と現実（1）	「新日本紀行」の撮影・編集など制作手法の特徴や傾向について講義します。
講義	「新日本紀行」の時代背景と政治性—高度経済成長期の求められた風景と現実（2）	NHKドキュメント映像『山の分校の記録』を視聴し、解説します。 「新日本紀行」の『歌が生まれて、そして』（長崎県奈留島）の回を視聴し、解説します。
講義	テレビ時代到来の意味	「新日本紀行」の『湘南・電車通り』（神奈川県鎌倉）の回を視聴し、解説します。
講義	隠蔽された公害	「新日本紀行」の『十津川物語』（北海道・奈良県）の回を視聴し、解説します。
講義	「観光化」の光と影	「新日本紀行」の『沖縄本島』（沖縄県沖縄本島）の回を視聴し、解説します。
講義	北海道開拓一世たちの心象風景	「新日本紀行」の『塩飽衆昨今』（香川県・岡山県）の回を視聴し、解説します。
講義	日本復帰前の「南島」への視線	「新日本紀行」の『太秦映画村』（京都府太秦）の回を視聴し、解説します。 「新日本紀行」の『江戸の残る町』（東京都神田）の回を視聴し、解説します。
講義	変わりゆく瀬戸内海の島暮らし	「新日本紀行」の『新・遠野物語』（岩手県遠野）の回を視聴し、解説します。
講義	夢を追う人々と都市の活気	高度経済成長期に求められた「日本」像について、これまで視聴した『新日本紀行』を振り返りながら講義します。
講義	首都にきらめく江戸言葉と在来知	本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。
講義	「日本のふるさと」という幻想	
講義	「新日本紀行」が描いた「日本」	
講義	試験と総括	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義では毎回教員がレジュメを配布するので、そこに記された参考文献については通読しておいてください。また授業外の学習は、上記参考文献を用いた予習・復習（2時間程度）のほか、個々の学生の日常生活の中に散見される「民俗」的な事象・問題に気配りし、それらを学問的に考える姿勢を求めます（随時）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。講義時に教員においてレジュメを作成し、配布します。

【参考書】
講義時に配布するレジュメに記載します。

【成績評価の方法と基準】
・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します（試験100％）。ただし、どのような内容を出題するかは、終講の3～4回前の授業時にお知らせします。
・試験は実質的には机上リポートになります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特にありませんが、戦後日本の生活史・文化史・経済史などに興味がないと、受講中とても退屈な時間を過ごさなくてはなりません。

【Outline (in English)】
Because the period of high economic growth when "leisure" became popular, television travel programs have become an important tool in stimulating demand for tourism. However, all visual media, including video, reflect the producers' arbitrary interests, and this applies no less to travel programs. This course aims for students to understand the landscape depicted, the producer's intention and the historical implications.

HIS200BA（史学 / History 200）

イスラム世界論 I

松本 隆志

授業コード：A3811 | 曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、世界のムスリムの人口は、アジアやアフリカだけではなく、ヨーロッパにおいても増え続け、国際社会におけるそのプレゼンスは、日に日に高まりを見せている。その一方で、イスラム原理主義者やアメリカを中心とする西欧諸国から発信された、ムスリムに対する偏った理解や偏見が広まっているのも事実である。この授業では、既存の偏見に惑わされず、受講生一人一人が、イスラム世界の多様な在り方を理解できるよう、イスラムという宗教に関する基礎的知識の習得を目指す。

【到達目標】

この授業は、イスラムという宗教に関する基礎的な知識を提供し、それらの知識に基づきイスラムという宗教、そしてムスリム（イスラム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、現代の複雑なイスラム世界に関する諸問題を歴史的見地から主体的に考えるための基礎的な知見を獲得してもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、現代のイスラム世界を理解する上で欠かせない、イスラム世界の歴史を扱う。授業の前半部では、教義を中心としたイスラムの基礎的知識について、後半部では、そのイスラムが各地域でどのように信徒を獲得し、受容されていったのかについて解説していく。この授業は、講師による講義と、講義内容を踏まえた学生の課題の作成・提出から成る。毎回の課題については講義内で設問が出されるので、学生はその設問に対して論述を作成してもらう。課題の作成には講義後半の20～30分程度を予定している。講義内容をきちんと理解しているか、講義内容を踏まえて自身の見解を論理的に提示できているか、といった点を評価する。そして次の回の講義において、前回提出の課題についてフィードバックすることを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	「イスラム世界」とは何か？
第2回	聖典『クルアーン』の世界	イスラムにおける『クルアーン』の内容とその重要性について
第3回	イスラムの教義	六信五行などイスラムの基本的な教義について
第4回	イスラムの世界観	一神教に共通する世界観とイスラム固有の世界観について
第5回	イスラムの誕生と共同体の成立	ムハンマド、正統カリフ時代におけるイスラム共同体の拡大過程について
第6回	イスラム共同体の分裂	第一次内乱から世襲王朝ウマイヤ朝成立に至る過程と歴史的意義について
第7回	第二次内乱と神のカリフ	ウマイヤ朝半ばに生じたカリフのあり方をめぐる争いについて
第8回	アッバース朝とカリフ権力	アッバース朝初期におけるカリフ権力確立の模索について
第9回	イスラム法とスーフィズム	アッバース朝半ばにおけるイスラム法とスーフィズムの確立・展開について
第10回	西方のイスラム王朝	北アフリカ・イベリア半島におけるイスラム諸王朝について
第11回	イスラムとキリスト教世界	地中海を介した交易や十字軍における中東・ヨーロッパ世界の接触について
第12回	モンゴルとイスラム	アッバース朝滅亡後の歴史的展開について
第13回	イスラム世界と第一次世界大戦	オスマン帝国と第1次世界大戦後の国際社会について
第14回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では西アジアだけではなく、ヨーロッパや、時に中央アジア・南アジアにかけての広い地域の歴史を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々出てくる。次回授業に関するキーワードを示すので、それについて調べて理解を深めることが予習となる。また、毎回のペーパーについて振り返り再検討を試みるのが復習となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

菊地達也編著『図説イスラム教の歴史』河出書房新社、2017
佐藤次高『イスラム世界の興隆』中公文庫、2008
佐藤次高・鈴木董編『都市の文明イスラム』講談社現代新書、1993
鈴木董編『バクス・イスラミカの世紀』講談社現代新書、1993
その他、授業中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート（60%）と毎回の授業終了後に提出する課題（40%）で評価する。授業で学習した知識を材料に、論理的に私見を述べられているか、という点を基準に評価する。レポート作成要領を5月中に配布するので、そちらに基づいて計画的にレポート作成に取り組むこと。毎回提出される課題に素点を付し、学期終了時に課題合計点を成績評価の40%に換算する。また、学期末のレポートの点数を成績評価の60%に換算する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容についての改善の指摘は特になかった。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業資料は学習支援システムから配布し、授業は配布資料をモニターに映しておこなう予定です。手元で授業資料を見ながら受講したい場合は、各自で配布資料を印刷して持ち込むか、あるいはPDF ファイルを閲覧できるPC やスマホ等を用意してください。なお、配布資料はノート代わりに書き込めるよう、余白を多めにして作成します。

【その他の重要事項】

上記の内容は状況の変化等によって変更される可能性があります。その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知します。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we aim to acquire basic knowledge about the religion of Islam so that each student can understand the various ways of the Islamic world without being confused by existing prejudices.

【Learning Objectives】

Students are expected to acquire a basic knowledge of the religion of Islam and, based on that knowledge, to understand the religion of Islam and the diversity of Muslims. By the end of course, students are expected to acquire the basic knowledge necessary to think independently about the complex issues related to the Islamic world today from a broad and unbiased perspective.

【Learning activities outside of classroom】

The key words related to the next class will be presented in class, so researching and deepening your understanding of them will serve as preparation. Reviewing and re-examining each paper will also serve as a review. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Written exam at the end of the semester (60%), paper to be submitted in each class (40%)

Students are allowed to look at the materials in the exam.

The evaluation will be based on whether the students are able to express their personal opinions logically using the knowledge learned in the class.

HIS200BA（史学 / History 200）

イスラム世界論Ⅱ

松本 隆志

授業コード：A3812 | 曜日・時限：金2/Fri.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の「イスラム世界論Ⅰ」では、イスラム世界の信仰と歴史を中心に解説するが、この授業では、現代のイスラム世界の諸側面に焦点を当てる。18世紀以降、イスラム世界では近代化（＝西洋化）の波にさらされる中で、近代社会とイスラムをいかに接続させるか試行錯誤してきた。その営みは21世紀の現在もおお進み中である。この授業では、メディア等で取り上げられるイスラムの諸トピックについて、その歴史背景も含めた理解を促し、一般的なイスラム認識を相対化する視座を提供することを目指す。

【到達目標】

この授業は、イスラム世界の歴史や文化、そして宗教に関する基礎的知識を提供し、それらの知識に基づきイスラム、そしてムスリム（イスラム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、現代の複雑なイスラム世界に関する諸問題を自分の頭で主体的に考える能力を獲得してもらうことを目指してもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、現代のイスラム世界を理解する上で欠かせないイスラム世界の諸側面について、毎回テーマを定めて解説をおこなっていく。各テーマについて、特に歴史的背景を重視した解説をおこなう予定である。授業は、講師による講義と、講義内容を踏まえた課題の作成・提出から成る。毎回の課題については講義内で設問が出されるので、学生はその設問に対して論述を作成してもらう。課題の作成には講義後半の20～30分程度を予定している。そして次の回の講義において、前回提出の課題についてフィードバックすることを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業のテーマ、および授業への取り組み方について
第2回	イスラムの基本概念	唯一神、預言者、クルアーンについて
第3回	イスラムの儀礼・行事	巡礼や祭、およびライフサイクルにおけるイスラム的な慣習について
第4回	食をめぐる規定	ハラールとハラーム、そしてハラール認証ビジネスについて
第5回	イスラムにおける女性	イスラムにおける女性の位置付けと西洋的ジェンダー観との関係について
第6回	日本におけるイスラム	在日・滞日ムスリムコミュニティの歴史と現状について
第7回	イスラム法学	イスラム法学の歴史的背景と現代での役割について
第8回	スーフィズム	スーフィズム（イスラム神秘主義）の歴史的背景と現代での役割について
第9回	スンナ派とシーア派	イスラムの二大派閥の概要と歴史的背景について
第10回	イスラムにおける奴隷	前近代イスラム社会における「奴隷」のあり方について
第11回	イスラムの経済倫理	「リバー」の概念を中心としたイスラム特有の経済倫理について
第12回	イスラム原理主義	「原理主義」の歴史的背景と現状について
第13回	現代の中東情勢	近現代中東史の文脈における「イスラム国」の経緯について
第14回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では、西アジアだけではなく、ヨーロッパから東アジア・東南アジアにかけての広い地域を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々と出てくる。これらの固有名詞についての理解を深めるために、参考書・工具書（各テーマごとに紹介する）を参照しながら、各回の授業の予習・復習に努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回授業資料をHoppiiにて配布します。

【参考書】

小杉泰, 江川ひかり編, 『イスラム：社会生活・思想・歴史』, 新曜社, 2006年.

小杉泰ほか編, 『大学生・社会人のためのイスラム講座』, ナカニシヤ出版, 2018年.
菊地達也編著, 『図説イスラム教の歴史』, 河出書房新社, 2017年.
その他、授業中に各テーマに適した参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート（60%）と毎回の授業終了後に提出する課題（40%）で評価します。毎回提出の課題に素点を付け、学期終了時に合計点を成績評価の40%に換算します。
レポートについては、詳細を記した作成要領を10月中旬にHoppiiで配布予定です。授業で学習した内容を出発点とし、参考文献等の情報を加え、論理的に私見を述べられていることを評価します。レポートの点数を成績評価の60%に換算します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容についての改善の指摘は特になかった。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業資料は学習支援システムから配布し、授業は配布資料をモニターに映しておこなう予定です。手元で授業資料を見ながら受講したい場合は、各自で配布資料を印刷して持ち込むか、あるいはPDFファイルを閲覧できるPCやスマホ等を用意してください。なお、配布資料はノート代わりに書き込めるよう、余白を多めにして作成します。

【その他の重要事項】

上記の内容は状況の変化等によって変更される可能性があります。その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知します。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course will focus on aspects of the modern Islamic world. Since the 18th century, the Islamic world has been exposed to the wave of modernization (= westernization), and trials and errors have been carried out on how to connect modern society with Islam. This activity is still in progress in the 21st century. In this course, we aim to promote understanding of various Islamic topics taken up in the media, including their historical background, and to provide a perspective that relativizes general Islamic perceptions.

【Learning Objectives】

This course provides students with basic knowledge of the history, culture, and religion of the Islamic world. Based on this knowledge, students are expected to understand Islamic society and the diversity of Muslims. By the end of the course, students should acquire the ability to think independently about issues related to the complex Islamic world of today from a broad and unbiased perspective.

【Learning activities outside of classroom】

The key words related to the next class will be presented in class, so researching and deepening your understanding of them will serve as preparation. Reviewing and re-examining each paper will also serve as a review. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Termend examination: 60%, Short reports : 40%

CAR200BA（キャリア教育 / Career education 200）

文学部生のキャリア形成

渡辺 弥生、利根川 真紀、田中 雅人

授業コード：A3813 | 曜日・時限：金5/Fri.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法政大学文学部生として学ぶ皆さんは、自らの人生の中で、「働くこと」・「働き方」をどのように考えているでしょうか。文学部を卒業していった諸先輩はどのような進路や目標を定めて現在の社会で活躍しているのでしょうか。この授業ではさまざまな業界で活躍の多くの卒業生をゲスト講師として迎え、それぞれの働き方の具体的な経験や働くことに対する考え方をお話いただきます。それを通して、受講生の皆さんが自らの人生の中での「働くこと」の意義・位置づけ（＝キャリア）を考え、在学中に何をすべきかについて考える機会とします。

＊この授業は、就業力に関連する「総合的」な能力を涵養する効果があります。

【到達目標】

以下の3つが到達目標です。

- ① 人生の中で「働くこと」の意義について、多角的な視点から考えることができる。
- ② 自らの目指す「働き方」を達成するために、どのような力が必要かを理解する。
- ③ 将来のライフプランを描くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

哲学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連
日本文学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連
英文学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連
史学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連
地理学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連
心理学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

オンラインで行います。さまざまな分野で活躍している文学部卒業生を各回のゲスト講師に迎え、現実の職場で起きていること、仕事の喜びや苦労などを具体的に話していただきます。また、そうしたゲスト講師との質疑応答も行ないます。受講生はそれをふまえた上で、毎回授業内に小レポートを提出します。また、学期末には全体のテーマに関わるレポートを提出します。皆様からの質問やコメント、およびフィードバックについては、質疑応答のかたちで時間を十分に確保して交流します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス（授業の目的と進め方、評価方法などの説明）と「ライフプラン」
第2回	ゲスト講師の講演	(1) ホテル業界
第3回	ゲスト講師の講演	(2) 地方公務員（市町村機関、総合職）
第4回	ゲスト講師の講演	(3) 人事関係
第5回	Workshop	キャリアセンター職員によるワークショップ
第6回	ゲスト講師の講演	(4) 私立中高校教師
第7回	ゲスト講師の講演	(5) 教育（大学職員）
第8回	ゲスト講師の講演	(6) 民間放送局
第9回	ゲスト講師の講演	(7) メーカー
第10回	ゲスト講師の講演	(8) 保険会社
第11回	ゲスト講師の講演	(9) IT・外資系
第12回	ゲスト講師の講演	(10) 公立中学校教師
第13回	ゲスト講師の講演	(11) 観光協会職員
第14回	まとめ	総括レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

さまざまな職種に就いている卒業生をゲスト講師として迎え、その講演が続きますので、自らの将来の生き方や、働くことの意義などを考え、卒業後の進路の選択などについて広い視野を持つように心がけてください。また、それぞれの職種や資格の概要についてもあらかじめ調べておいてください（いわゆる業界研究）。この講義の予習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定テキストはありません。必要に応じて担当教員あるいはゲスト講師が印刷物を配布します。

【参考書】

適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

①毎回の小レポート（10～15分程度でまとめるもの）

②学期末レポート

※①②は成績評価のために必須とします。

- ・上記①・②の内容が一定の基準を満たしていると判断されれば、「P」評価（合格）となり、単位が認定されます。条件を満たしていないと判断された場合「F」評価（不合格）となり、単位は認定されません。
- ・①、②ともに授業の終了後にその都度、提出することとなります。出席をしないで小レポートのみを提出することや、指定時間帯以外の提出は原則的に認められません。
- ・また、4回以上の欠席がある場合にはF評価とします。10分以上の遅刻は欠席扱いとし、遅刻2回で欠席1回とカウントします。
- ・「未受験代替措置」を申請可能な欠席（競技参加による欠席、教職実習、介護実習、就職活動での採用選考、学校保健安全法に定める感染症に罹患、忌引き、などによる欠席）であることを証明する文書が提出された場合は、欠席扱いとはしません。
- ・Zoomへの接続時間には十分気を付け、午後4：50までに接続して出席してください。
- ・第1回のガイダンスには必ず出席し、2回目から慌てないように、授業の進め方、操作方法、課題提出方法について理解し、慣れておいてください。

【学生の意見等からの気づき】

「様々な職業の方のお話が聞けて有意義な時間を過ごすことができました」「様々な職種、経験をしてきた先輩方の話を聞くことで就活とその先の社会人になったときのイメージが鮮明になってよかった」「文学部は就活で苦勞する、という言葉一度々耳にしていたため不安に思った時もあったが、講師の方々が様々な業界で活躍しているのを聞いて安心できた」といったポジティブな意見が多く寄せられました。担当教員一同、この授業の意義を再確認しました。

その一方で、授業の形態については批判的な意見が散見されました。具体的には、「授業開始時間ギリギリに入室許可されることが度々あったため改善して欲しい」「毎回の課題の時間がギリギリになって焦るのもう少し時間が欲しい」といった意見です。「課題を書く時間が欲しい」といった意見でした。ゲスト講師の先生方にお話しただけよう支援しながら、約200名の出欠を管理することがなかなかオンラインや学習支援システムの操作上難しいことが多いので、皆さんに多少の負担はかかってしまうかもしれませんが、次年度改善できるところはしたいと思います。とても多くの受講の喜びの声をいただいていますので、ご協力のほどよろしくお願いします。

最後に、アンケートには個人が特定される情報や、他の方を傷つける表現はご遠慮ください。皆さまにとって安心してご意見を共有できる場となるようご理解をお願いします。

【その他の重要事項】

本授業の参加には法政大学統合認証ID・パスワードによるサインインが必須となります。必ず、事前にサインインの方法を確認し、当日はスムーズに入室できるようにしておいてください。

またZoomでの表示名（ユーザ名）は、必ず事前に「学生証番号 氏名」の表示にしておいてください。「学生証番号 氏名」の表示になっていない場合、待機室からの入室を許可しない場合があります。

【Zoomへのサインイン方法】 法政大学 全学ネットワークシステムユーザ支援WEBサイトに、詳細な手順の記載があります。こちらを確認してください。

- ①ゲスト講師の都合により、スケジュールが変更になる可能性があります。
- ②定員は200名程度です。受講希望者多数の場合には、第1回目の授業参加者（授業レポート提出者）の中から選抜を行います。受講希望者は必ず第1回目の授業に出席してください。この授業は文学部生のみを対象として開講します。他学部の学生は受講できません。
- ③担当教員が全授業に同席し、担当します。
- ④本学学部を卒業し、公務員、教員、教育、放送、交通、サービス業など様々な職種での勤務経験を有する講師が、オムニバス形式により、それぞれの職種における業務内容、仕事と様々なライフイベントとの関係、卒業後のキャリア形成に向けた学部時代の学びなどについて講義をします。
- ⑤写真撮影、録画および無断転載・無断アップロードを禁止します。

【Outline (in English)】

This aim of this course is to let students understand the basic knowledge and skills which are needed to help students decide their future jobs.

This careers education course provides an ideal stepping stone for students seeking to enter the career development profession.

Guest speakers, Hosei graduates, from a variety of fields will give a talk about job search techniques and their job search experiences.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: If the content of each short report and the end-of-term report are judged to meet specific criteria, the student will receive a "P" grade (pass), and credit will be awarded. If it is determined that the requirements are not met, the student will receive an "F" grade (Fail), and no credits will be awarded.

現代のコモンセンス

菅沢 龍文、皆川 卓、森 陽香

授業コード：A3814 | 曜日・時限：金5/Fri.5
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会は日々ますます複雑化し、かつては考えられなかったような出来事や問題が頻繁に生じている。こうした中で、以前の常識や対処方法では通用しなくなっている事柄も数多い。この授業では、今まさに起こっている様々な事例を取り上げ、そうした事柄をどのように判断・評価し、さらにどのようにそれに対処していくべきかについての指針を学ぶ。
この授業によって、受講生は、情報収集・選択力、資料批判力、状況判断・対応力、自己変革力、架橋・変革力、協同行動力など総じて就業力を身につけることとなる。

【到達目標】

- ①自分自身を顧み、改善できるようになる。
- ②対人関係を顧み、改善できるようになる。
- ③自分の考えを適切な言葉で表現・伝達できるようになる。
- ④難しい行為選択について考え、適切に対処できるようになる。
- ⑤社会の諸問題について考え、適切に対処できるようになる。
- ⑥国際化のなかで異文化について考え、適切に対処できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

哲学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連
日本文学科のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連
英文学科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連
史学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連
地理学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連
心理学科のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

オンラインで行う。学内外から招いた講師による60分程度の講義・それに伴う質疑・応答。そして授業の最後に課題テーマに関する小レポートを作成・提出してもらう。学期末の授業時に全体のテーマに関するレポートを作成・提出してもらう。授業の性格上、学生のコメントおよびそれへのフィードバックについては、質疑応答のかたちで行う。そのための時間を十分に確保する。なお、学外から招く講師の事情により、授業日程が変更される可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	担当教員によるガイダンスと講義
第2回	社会と規範1	LGBTと日本の性教育
第3回	実践と倫理1	「常識」を問い直す——「常識」の根拠は何か
第4回	社会と規範2	ビジネス・コンプライアンス入門
第5回	対人問題	いじめを取り巻く感情
第6回	実践と倫理2	安楽死は認められるか
第7回	社会と規範3	大学生の消費者問題と法
第8回	社会と規範4	自律的キャリアを紡ぐためのモラルとマナーとは
第9回	実践と倫理3	働き方を変える主体は—「耐える」・「辞める」以外の選択肢を考える—
第10回	実践と倫理4	著作権の現在地——創作・媒介・受容をめぐって
第11回	社会と規範5	身近なハラスメントとDV
第12回	社会と文化	日本庭園を通して見た世界
第13回	社会と規範6	国際条約、国際的契約、Global public goods（国際公益）とは何か
第14回	まとめ	総括 レポート課題の呈示

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現代が抱えている様々な問題について考察・議論することになるので、新聞・雑誌・テレビ・インターネット等の各種メディアで報じられている社会事象のうち、各回のテーマに関わる事例に対して、これまで以上に注意を払う。また、その際に、単一のメディア情報に偏ることなく、複数のメディア情報から、一時的にはなく常々情報を収集し、評価・分析すると共に、冷静かつ客観的な判断を下す思考トレーニングを繰り返す行う。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に挙げた省察力や改善力、表現力や伝達力、諸問題への対処力の現れが小レポートや学期末レポートの評価基準となる。

①毎回の小レポート（10～15分程度でまとめるもの）

②学期末レポート

※①②は成績評価のために必須とします。

・上記①・②の内容が一定の基準を満たしていると判断されれば、「P」評価（合格）となり、単位が認定されます。条件を満たしていないと判断された場合「F」評価（不合格）となり、単位は認定されません。

・①、②ともに授業の終了後にその都度、提出することとなります。出席をしないで小レポートのみを提出することや、指定時間帯以外の提出は原則的に認められません。

・また、4回以上の欠席がある場合には「F」評価とします。10分以上の遅刻は欠席扱いとし、遅刻2回で欠席1回とカウントします。

・Zoomへの接続時間には十分気を付け、午後4：50までに接続して出席してください。

・「未受験代替措置」を申請可能な欠席（競技参加による欠席、教職実習、介護実習、就職活動での採用選考、学校保健安全法に定める感染症に罹患、忌引き、などによる欠席）であることを証明する文書が提出された場合は、欠席扱いとはしません。

・第1回のガイダンスには必ず出席し、2回目から慌てないように、成績評価の仕方、授業の進め方、操作方法、課題提出方法について理解し、慣れておいてください。

【学生の意見等からの気づき】

・学生の皆さんからは、これまでも有益な意見を数多くいただいています。こうした声をできるだけ活かしながら、現代のコモンセンスを考える授業を行いたいと思います。

・アンケートには個人が特定される情報や、他の方を傷つける表現はご遠慮ください。皆さまにとって安心してご意見を共有できる場となるようご理解をお願いします。

【その他の重要事項】

①本授業の参加には法政大学統合認証ID・パスワードによるサインインが必須となります。必ず、事前にサインインの方法を確認し、当日はスムーズに入室できるようにしておいてください。

②Zoomでの表示名（ユーザ名）は、必ず事前に「学生証番号 氏名」の表示にしておいてください。「学生証番号 氏名」の表示になっていない場合、待機室からの入室を許可しない場合があります。

【Zoomへのサインイン方法】 法政大学 全学ネットワークシステムユーザ支援WEBサイトに、詳細な手順の記載があります。こちらを確認してください。

③ゲスト講師の都合により、スケジュールが変更になる可能性があります。なお、担当教員が全授業に同席します。

④成績評価の仕方や授業の進め方などについて、初回の授業で説明をしますので、必ず初回の授業に出席してください。

⑤写真撮影、録画および無断転載・無断アップロードを禁止します。

【Outline (in English)】

[Course outline and learning objectives]

This course aims to learn various approaches to solving the problems our society faces today. Many social issues will be covered, such as relationships with others, modern social norms, practical ethics, and multiple cultures. Students will be expected to broaden their perspectives and deepen their understanding by participating in group activities and individual literature studies.

[Learning activities outside of the classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course content.

[Grading Criteria/Policies]

The manifestation of the ability to reflect and improve, to express and communicate, and to deal with various problems, as listed in the learning objectives, will be the criteria for evaluation in small reports and the end-of-semester report.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: short reports at each class meeting and the term-end report.

HUG200BA（人文地理学 / Human geography 200）

歴史地理学（1）

米家 志乃布

授業コード：A3819 | 曜日・時限：水1/Wed.1
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：「歴史地理学Ⅰ」を修得済みの場合は履修不可。
・地理学科生は専門科目の選択必修として履修。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマ：「遺産」の歴史・観光地理
本講義で扱う「遺産」とは、世界中に残る人類が残した過去の文化遺産や伝統全般を指します。この講義では、これらの「遺産」の歴史そのものやそれらを後世において語り、利用することによって発展した歴史・観光地理を扱います。たとえば、日本の京都には、多くの「遺産」（神社仏閣・芸術品・祇園祭など）が残されています。これらの「遺産」は、古代の平安京から中世～近代に至る京都の歴史的発展過程のなかで造られてきたものであり、現代では制度としての「文化財」や「世界遺産」に指定されています。京都における「遺産」を深く考えるためには、これらの「遺産」の歴史そのものと保存・活用制度を学ぶことのみならず、「遺産」の歴史を語り利用することによって成り立っている現代の観光都市としての京都の在り方も学ぶ必要があるでしょう。本講義ではこのような視点から、日本や世界各地の「遺産」の歴史と保存・利用、それらをめぐる観光業と地域の在り方に注目し、「遺産」の歴史・観光地理を考察していきます。

【到達目標】

この講義の目標は、日本や世界各地に残る「遺産」について、単に歴史的で普遍的な価値があるという視点だけでなく、観光産業に大きな利用価値があることをどのようにとらえていったらいいのか、肯定的であれ否定的であれ、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 日本・世界における「遺産」の歴史地理学について説明します。2. 日本における「遺産」の保存や利用に関わる法制度について学びます。3. 日本の代表的な歴史的観光都市を取り上げ、「遺産」の歴史と地域の関係について、個別具体的に解説します。1～3について、パワーポイントやプリントを用いて講義します。理解を深めるために、授業内でビデオ観賞もしますので、それについての感想文を書いていただきます。ビデオ鑑賞の感想については、授業内で紹介し、コメントをつけて返却します。大学の方針で、対面授業を基本としますが、学習支援システムでパワーポイントやプリント資料もアップします。授業の効率化のため紙での配布しません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容・授業方法の説明、成績評価の基準など
第2回	「遺産」と歴史地理学	日本・欧米における歴史地理学の方法論
第3回	日本における歴史的遺産と文化財保護制度	歴史的町並み保存・文化的景観を中心に、日本の歴史と景観の関係について学ぶ
第4回	「世界遺産」と各国・各地域の関係	ユネスコの世界遺産制度について学ぶ
第5回	身近な地域から歴史地理学を考える	法政大学周辺の歴史地理、江戸から東京へ、都市構造の継承について学ぶ
第6回	奈良の歴史地理	奈良市内の歴史遺産、特に、平城京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第7回	京都の歴史地理①	都城の歴史、平安京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第8回	京都の歴史地理②	豊臣秀吉による京都改造、江戸時代の京都の名所、近代・現代の歴史的遺産の保存と観光の課題について学ぶ
第9回	伏見の歴史地理	豊臣秀吉による近世城下町プラン、城下町の復元研究について学ぶ
第10回	江戸東京の歴史地理①	江戸の都市構造、江戸の名所について学ぶ
第11回	江戸東京の歴史地理②	東京の都市構造、東京の名所、人々の観光行動の変化について学ぶ
第12回	大阪の歴史地理①	石山本願寺、豊臣秀吉の大坂城建設と城下町整備、徳川時代へ
第13回	大阪の歴史地理②	近代以降の大阪城の意義、大阪のまちづくり

第14回 歴史観光都市・観光地の 京都の祇園祭と現在
取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義にかかわる準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。テレビの旅行番組を見たり、様々な旅行記などを読んで、様々な国や地域の観光の在り方について考えてみましょう。

【テキスト（教科書）】

特に指定はしません。適宜、学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】

適宜、必要に応じて、学習支援システムで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験50%、平常点50%で評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので、他学科や他学部の学生も遠慮なく履修してください。ビデオなど映像教材も活用します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料配信します（紙での配布はしません）。随時確認することができるよう、PCやスマートフォンなど機器類を準備してください。

【その他の重要事項】

歴史地理学の基本・応用を学ぶために、春学期・秋学期合わせての履修を推奨いたします。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This lecture examines a historical geography of heritage in Japan.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to learn, understand and practice about historical geography of heritage and tourism.

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】 Term-end examination:50% and in class contribution:50%

HUG200BA（人文地理学 / Human geography 200）

歴史地理学（2）

米家 志乃布

授業コード：A3820 | 曜日・時限：水 1/Wed.1
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：「歴史地理学Ⅱ」を修得済みの場合は履修不可。
・地理学科生は専門科目の選択必修として履修。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマ：「フロンティア」の歴史・政治地理
本講義で扱う「フロンティア」とは、近代国家が拡大する際の最前線である「辺境地域」を指します。この講義では、担当者の専門の関係から、日本やロシアにおける「フロンティア」の歴史とそれらの地域をめぐる現代まで続く歴史・政治地理を扱います。たとえば、19世紀日本における北方フロンティアとして蝦夷地・北海道、17世紀以降のロシアにおける東方フロンティアとしてシベリアが挙げられます。近代において、帝国主義国家によるその領土拡大と先住民族支配および植民地経営は、歴史学・地理学・民族学などの分野において重要な研究テーマです。現在における北方領土問題も、このフロンティアの歴史、つまり両国家による領土拡大と植民地経営に大きく関わってきます。本講義ではこのような視点から、北東アジアにおける17世紀～20世紀にかけての日本とロシアの「フロンティア」、具体的には、蝦夷地・北海道や樺太・千島、シベリア・極東などの歴史・政治地理を考察していきます。

【到達目標】

この講義の目標は、国民国家と「領土」を歴史・政治地理的に改めて見直し、近代国家とは何か、先住民族・少数民族と近代国家の関係とはどのようなものか、歴史地理学的方法を通して、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 蝦夷地・北海道について、歴史地理学的方法を通して学びます。2. 北方領土問題について学びます。3. 近代国家と「フロンティア」の関係を、先住民族との関係から考えます。北方領土問題やアイヌ民族の文化に関する映像を見て、感想を提出してもらいます。受講生のみなさんの感想は、授業内で紹介し、こちらでコメントして返却します。
大学の方針により、対面授業とします。パワーポイントや資料はすべて学習支援システムで配布します。授業の効率化のため、紙での配布はありません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容および授業方法の説明、成績評価基準について
第2回	画像資料を通して地理的認識をめぐる歴史地理学	画像資料の利用方法を中心に、新しい歴史地理学の方法について学ぶ
第3回	蝦夷地の歴史地理	蝦夷地・北海道をめぐる和人・アイヌ関係を学ぶ
第4回	古地図からみた蝦夷地①	蝦夷地を描いた日本・欧米の地図の歴史
第5回	古地図から見た蝦夷地②	ロシア・日本・ヨーロッパの日本像と蝦夷地
第6回	旅行記から見た蝦夷地・北海道①	松浦武四郎とライマンの旅行記からみた蝦夷地・北海道
第7回	旅行記から見た蝦夷地・北海道②	松浦武四郎とライマンのアイヌ民族へのまなざしについて考える
第8回	風景画から見た北海道・札幌①	風景画・写真・古地図などの画像史料と開拓の歴史の関係
第9回	風景画から見た北海道・札幌②	開拓都市の表象について、歴史地理学的方法で考える
第10回	北方領土問題①	NHKスペシャルを鑑賞する
第11回	北方領土問題②	日本とロシアの国際的な関係、北方領土問題を考える
第12回	千島列島（クリル諸島）・樺太（サハリン）の歴史地理	千島列島・樺太の歴史地理を日本側・ロシア側の両方から学ぶ
第13回	現代に生きるアイヌ民族の若者たち	NHKスペシャルを鑑賞する
第14回	日本におけるアイヌ民族の法的地位と文化振興	日本における先住民族政策史をおさえ、日本のアイヌ民族に関する歴史的状况についておさえる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義にかかわる準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。アイヌ民族にかかわる日本の法令や雑誌の特集などは積極的に読んでみてください。アイヌ民族だけでなく、世界の領土問題や先住民族に関する文献も自分で探して読んでみてください。

【テキスト（教科書）】

米家志乃布『近世蝦夷地の地域情報-日本北方地図史の再考』2021年、法政大学出版局を使います。授業に持参してください。その他、必要に応じて、適宜資料をPDFファイルで学習支援システムにアップします。

【参考書】

適宜、必要に応じて、学習支援システムで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート50%、平常点50%で評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので、他学科・他学部の学生も遠慮なく履修してください。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に教科書の記述をもとにパワーポイントで捕捉しながら説明するか、学習支援システムで資料配信します（紙での配布はしません）。随時確認できるように、教科書は対面授業に持参し、PCやスマートフォンなど機器類を準備してください。

【その他の重要事項】

歴史地理学の基本・応用を学ぶために、通年での履修を推奨します。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This lecture examines a historical geography of northern frontier in Japan and Russia.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to learn, understand, write a report of the history of Hokkaido.

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than 4 hours for a class.

【Grading Criteria】 Term-end examination: 50% and in class contribution:50%

BME200NA（人間医工学 / Biomedical engineering 200）

医療福祉工学

川瀬 利弘

授業コード：A3821 | 曜日・時限：月3/Mon.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

医療福祉の分野で、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術とヒトの科学的理解が必要不可欠であることを理解する。

【到達目標】

1. 福祉工学の基本理念を理解する
2. 様々な技術の基本原理と最新の状況を理解する
3. 生理学や神経科学の大まかな理解に基づき、福祉機器や医療機器について考えられるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

福祉工学を学ぶ上で必要となる基本的な生理学や神経科学、それに基づいた生体計測や、関連する信号処理技術、治療工学、生活支援工学などを、最近の研究成果を踏まえつつわかりやすく講義する。
毎回授業支援システムより資料を配付し、講義の最後にその回のポイントについて小テストを行う。授業の初めに、前回の授業で提出された回答をもとに、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	福祉工学概論	ヒトの感覚・運動機能を機械で補助・代行する分野としての福祉工学について、歴史と現状を概説する。
2	生体計測1：概論	福祉工学に関連する生体計測について、得られる信号の種類や特徴、基本的な取り扱い方を講義する。
3	生体計測2：生体の電気的現象	ヒトの感覚・運動機能を支えている神経や筋肉の電気的現象について講義する。
4	生体計測3：電気的計測	生体から電気的な信号を取り出すための電極のしくみや、これを用いた脳波計や筋電計などを、実際の計測の様子を示しつつ解説する。
5	生活支援工学1：義肢・装具	義肢・装具について、基本的なものから、筋電義手など工学的技術を用いたものまで解説する。
6	生活支援工学2：リハビリテーション・ロボティクス	リハビリテーション訓練や運動支援のためのロボット技術について講義する。
7	生活支援工学3：人工感覚	五感の障害を取り除くための人工感覚技術について講義する。義手に関する身体錯覚実験のデモも行う。
8	生活支援工学4：ブレイン・マシン・インタフェース	脳波などの生体信号計測を用いたインタフェース技術について講義する。生体信号によるインタフェース技術のデモも行う。
9	治療工学1：医療用ロボット	手術支援ロボットなど、医療現場で使われるロボットについて解説する。
10	治療工学2：医療画像	障害や疾患に関する生体内部の情報を得るための医用画像技術について講義する。
11	治療工学3：医療のための情報技術	人工知能などの情報技術による、診断や医療ロボットの高度化について講義する。
12	治療工学4：医療のためのメカトロニクス	医療用ロボットに必要な機械工学などの技術について講義する。
13	福祉工学と感性	障害を抱える当事者の主観的な感覚と福祉工学の関わりについて講義する。
14	福祉・医療機器のこれから	福祉・医療機器の現状をまとめ、残されている課題と、その解決に向けて行われている研究や活動を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末のレポート課題では、文献などの調査をした結果と自分の考えを文章と図を用いてまとめる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に資料を配布するため不要

【参考書】

『福祉工学の挑戦：身体機能を支援する科学とビジネス』（中公新書）
『生まれながらのサイボーグ：心・テクノロジー・知能の未来』（春秋社）
『メカ屋のための脳科学入門：脳をリバースエンジニアリングする』（日刊工業新聞社）
『認知脳科学』（コロナ社）
『医用工学の基礎』（東京電機大学出版局）
『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（光文社新書）

【成績評価の方法と基準】

評価方法：毎回の講義中における小テスト（50%）、および期末のレポート課題（50%）で評価する
評価基準：本科目において設定した達成目標を60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストの結果や前年度の授業改善アンケート結果を参考に、よりわかりやすい説明とするとなど、授業内容の改善に努める。
基本的にオンラインだが、アンケートを踏まえ2023年度からは一部対面とし、対面講義のときに生体信号による機器制御や錯覚のデモンストレーションを行っている。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに講義資料をアップロードし、授業中は貸与パソコンでダウンロード・閲覧できるようにする。

【その他の重要事項】

質問は随時電子メール等により受け付ける。

【Outline (in English)】

Course outline:

In the context of health and welfare, students will learn about the roles of mechanical, electrical, and software engineering. They will understand how engineering technology and a scientific understanding of human functions and behavior are essential factors in the development of this field.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to:

- Understand the basic principles of welfare engineering.
- Understand the fundamental concepts and the latest advancements in various technologies in this field.
- Consider the design and application of welfare and medical instruments based on a general scientific understanding of human functions and behavior.

Learning activities outside of classroom:

For the final report, students will research a specific area of welfare engineering and summarize their insights on the topic.

Before and after each class, students are expected to spend approximately four hours reviewing and deepening their understanding of the course content.

Grading criteria/policy:

Grades will be determined based on quizzes given in each lecture (50%) and the final report (50%).

PHL300BB（哲学 / Philosophy 300）

文化史 1（資格）

伊藤 直樹

授業コード：A3851 | 曜日・時限：火 1/Tue.1
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、縦軸に古代ギリシア文化をとり、横軸に演劇をとって講義をすすめ、アリストテレスの詩学、ギリシア悲劇、ニーチェ『悲劇の誕生』などを扱います。

かつて自然は、人間の文化を制約していました。しかし、人間はその制約を一つずつ取り払って行き、現代は、その制約をなきものにしようとする勢いです。その結果のひとつがAIでしょう。では、科学によって取り払われてきた、その「制約」とはどんなものでしょうか。古代ギリシアの場合、それは「神の秩序」です。人間はその秩序に支配され、受け入れ、しかし反抗し、そして人間自身の秩序を生み出そうとします。ギリシア悲劇が描こうとするのは、そうしたつばぜり合いであり、それが「ドラマ」のひとつの原型となるのです。

本講義では、このつばぜり合いとしてのドラマであるギリシア悲劇を中心に据えて講義を進めます。本講義を受講することによって、受講生は、ギリシア悲劇の理解とドラマの本質についての理解を得ることができます。

【到達目標】

講義を終えた後、受講生が、上記の諸問題について自分なりに考えてゆくことができるようになることが、到達目標である。具体的には、学期末のレポートにおいて、それを行なってもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前提として、ギリシア神話についての知識が必要なので、学習支援システムで、マンガ形式の『ギリシア神話』を資料として示します。目を通しておい

てください。
はじめは、アリストテレスの『詩学』から入ります。『詩学』——と聞くと、なんだか難しそうな作品ですが、光文社古典新訳文庫の帯が、その特徴を的確に述べています。「2000年間、クリエイターたちの必読書である。『ストーリー創作』の原点。」そのとおり、どうすればよいドラマ（悲劇）が出来るのか、を論じている作品です。次に、ギリシア悲劇の全体像にふれます。三大悲劇作家、アイスキュロス、ソフォクレス、エウリピデスです。とくに、ソフォクレス『オイディプス王』をていねいに解説します。〈オイディプス〉は、フロイトのエディプス・コンプレックスの元になった話ですね。ここでは神と人間が抜き差しならないしかたで対峙しています。そのうえで、この舞台の映像を観ます。さらに、ニーチェによるギリシア悲劇の解釈である『悲劇の誕生』を扱います。この著作のキーワードは「ディオニュソスとアポロン」ですね。アリストテレスや『オイディプス王』を知った目からすると、この解釈がよりよくわかるでしょう。そして最後に、ドイツの哲学者H-G・ガダマーの『真理と方法』での芸術論を扱います。ガダマーの芸術論が念頭に置いているのは演劇です。ギリシア悲劇も射程に入っています。
毎回、リアクションペーパーを書いてもらいます。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行うようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義に関するオリエンテーション。 単位取得の条件、単位評価の基準、 本講義のねらいなどの説明。
第2回	ギリシア神話について	ギリシア神話の魅力について
第3回	アリストテレスの『詩学』（1）	アリストテレス思想の全体像
第4回	アリストテレスの『詩学』（2）	アリストテレスの『詩学』について ；ミメシス、歴史との違いなど
第5回	アリストテレスの『詩学』（3）	アリストテレスの『詩学』続き；カタルシスなど
第6回	ギリシア悲劇について（1）	ソフォクレス『オイディプス王』について
第7回	ギリシア悲劇について（2）	『オイディプス王』を観る
第8回	ニーチェ『悲劇の誕生』について（1）	ニーチェ思想の全体像
第9回	ニーチェ『悲劇の誕生』について（2）	ディオニュソスとアポロン
第10回	ニーチェ『悲劇の誕生』について（3）	ソクラテス主義と悲劇の死

第11回	ガダマーの芸術論（1）	ガダマー思想の全体像
第12回	ガダマーの芸術論（2）	芸術と遊び
第13回	ガダマーの芸術論（3）	形態化への変貌、ミメシスの本質
第14回	まとめ	授業全体を回顧してまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容を自分なりに復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内容が多岐にわたるため、特定のテキストは用いない。授業ごとに、資料を配布する。

【参考書】

参考文献等は、そのつどの講義で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末のレポート70％、授業への積極的な貢献度（コメントカードの記述など）30％、となります。

【学生の意見等からの気づき】

マンガや映像などを取り入れ、かつディスカッションなども行った点が、受講生の理解に資することになったようである。
今年度も、そうした方法を取り入れたい。

【Outline (in English)】

This course deals with Greek tragedy, Aristotle's Poetics, Nietzsche's The Birth of Tragedy, etc. By taking this course, students acquire an understanding of Greek tragedy and the nature of drama. Students will submit comments on the class content after attending the lecture. These comments will be used to review the previous class. Final grade will be calculated according to the following process term-end report (70%), and in-class contribution (30%).

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

文化史 2 (資格)

伊藤 直樹

授業コード：A3852 | 曜日・時限：火 1/Tue.1
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3・4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

まず自伝の本質とは何かということについて解説する。
自分が自分について語る自伝には固有の真実がある。客観的な事実が書かれてあるわけでもなく、かといって虚構が書かれているのでもない。その中間にある。ここに自伝の魅力がある。
作品として、アウグスティヌス『告白』、ルソー『告白』、ゲーテ『詩と真実』、フランクリン『フランクリン自伝』、福沢諭吉『福翁自伝』をとりあげ、その時代状況のなかで読み解いてゆく。その上で、受講者全員が、任意の自伝を選びそれについて発表する。最後に、レポートで、上記の自伝を読み、その内容から得たものを報告する。さらに、自分で短い自分史を書く。
昨年度、受講生が自ら取り上げた自伝には、次のようなものがあった。
やなせたかし『アンパンマンの遺書』、三谷幸喜『仕事、三谷幸喜の』、小田凱人『凱旋一九歳で癌になった僕が一七歳で世界一になるまでの話』、美空ひばり『ひばり自伝 わたしと影』、C・ディオール『DIOR by Dior クリスチャン・ディオール自伝』、藤井輝明『この顔でよかった コンプレックスがあるから人は幸せになれる』、マツコ・デラックス『デラックスじゃない』いろいろありました。
この授業を受講することによって、自伝の本質を理解することができます。自伝とはなにかをよく知らない方が多いので、末尾の項目で、昨年度の受講生の感想を取り上げました。参照してください。

【到達目標】

この授業では、「自伝」とはなにか、また著名な自伝はどのようなものであるかを、それぞれの作品が置かれている歴史的、地理的状況を踏まえつつ解説してゆく。受講生の大半は、「自伝」という言葉を知ってはいるが、実際に「自伝」にふれたことがない。しかし、受講生は、この講義を通して、「自伝」についての確実な知識を得て、かつ複数の「自伝」に目を通したことがあることになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて、自伝一般について、また重要な自伝について講義をする。毎回、リアクション・ペーパーを配布し、それに応答しつつ理解を深める。そのうえで、受講生に、任意の一つの作品をとりあげて紹介してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ー「学生に対する評価」 を中心とした、シラバスの 内容説明：自伝とは なにか (1)	自伝の定義：ルジュンヌなどを手がかりに、自伝とはなにかということ を明らかにします。
第2回	自伝とはなにか (2)	自伝において、自己を語るということについて解説します。
第3回	アウグスティヌス『告白』 (1)	アウグスティヌスという人物と彼が置かれていた時代について紹介します。
第4回	アウグスティヌス『告白』 (2)	アウグスティヌスの『告白』の構造を説明します。
第5回	ルソー『告白』 (1)	ルソーという人物と彼が置かれていた時代について紹介します。
第6回	ルソー『告白』 (2)	ルソーの『告白』の構造を説明します。
第7回	ゲーテ『詩と真実』 (1)	ゲーテという人物と彼が置かれていた時代について紹介します。
第8回	ゲーテ『詩と真実』 (2)	ゲーテの『詩と真実』の構造を説明します。
第9回	『フランクリン自伝』	ベンジャミン・フランクリンという人物とその時代、そしてその自伝について紹介します。
第10回	『福翁自伝』	福沢諭吉という人物とその時代、そしてその自伝について紹介します。
第11回	ボーヴォワールの自伝 を読む	ボーヴォワールの、『娘時代』『女ざかり』などをとりあげ、紹介します。
第12回	自分史について	「自分史」について紹介します。
第13回	自伝紹介 1	受講生に、自分で選んだ自伝を紹介してもらいます。

第14回 まとめ
全体を振り返り、クラス全体で自伝についての意見交換をします。そしてレポート提出をしてもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

11月末に、自伝紹介レポートを提出してもらうので、それまでの講義を受けながら、自分なりに自伝とはなにかを問い、紹介すべき自伝を探す。そのうえで、紹介文を書く。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書となるような特定のテキストは使いません。

【参考書】

取り上げる自伝は、次のものです。アウグスティヌス『告白』岩波文庫ほか、ルソー『告白』岩波文庫ほか、ゲーテ『詩と真実』岩波文庫ほか、ベンジャミン・フランクリン『フランクリン自伝』岩波文庫、福澤諭吉『福翁自伝』岩波文庫

【成績評価の方法と基準】

自伝紹介レポートの提出および発表。（自分自身で、任意の自伝を選び、それを読んで授業内で発表する。）
課題レポート。（授業内で取り扱った自伝作品についてのレポート。）
授業への積極的な貢献度（コメントカードの記述など）30％ レポート70％
自伝紹介レポートでは、講義された内容を踏まえつつ、受講生自らが自伝を選定し、読んで報告する。これが課題レポート提出の必要条件となる。次いで、課題レポートでは、講義内容、自分での自伝紹介を踏まえて、さらに、講義内容で扱われたテキストに自らあたることによって、自伝の理解を確認してもらう。
※定期試験は実施しない

【学生の意見等からの気づき】

自伝——と聞いても、わかりづらいので、昨年度の受講生に受講した感想を書いてもらいました。
「「自伝を学ぶ」とは何だろう？ と授業を受ける前は思っていたが、とても興味深かったです。自伝の定義や在り方を学んだだけでなく、これからの人生で自分からはふれなさそうな自伝を読んだり、自分で選んだ自伝を他の人に紹介したり、自分史を書いてみたり、と今後経験しなさそうなことを実践することができてよかったです。」
「自伝という括りで歴史的にも有名な作品を概観し、特徴を比較するというのも十分興味深かったのですが、それを元に学生自身が読んできた自伝について紹介し合ったり、自分史を記すという体験が貴重で、取り組んでいて面白かったです。」

【Outline (in English)】

This course deals with the autobiography. By taking this course, students acquire an understanding of Essence of Autobiography. Students will submit comments on the class content after attending the lecture. These comments will be used to review the previous class. Final grade will be calculated according to the following process term-end report (70%), and in-class contribution (30%).

ART300BC (芸術学 / Art studies 300)

美術史（西洋）A（資格）

安藤 智子

授業コード：A3853 | 曜日・時限：木4/Thu.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代から現代までの美術史の文脈において、芸術作品を様々な視点から考察するとともに、その鑑賞方法を習得する。

【到達目標】

芸術作品の主題、様式、技法等に関する美術史の基礎知識の習得に加え、同時代の鑑賞者の特徴、美術制度や社会状況を踏まえた上で、多角的・重層的に捉える視点を持って、芸術作品を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業当日に資料をアップした上で講義を行う。
講義では、パワーポイントで作品の画像を映写し解説していく。
授業の最後にリアクションペーパーを配布し、各自の考察や感想を記入してもらう。
このリアクションペーパーの提出によって出席とみなす。リアクションペーパーの内容が貧弱で不適切であった場合に欠席となるので留意すること。
また、期末試験の対策として、絵画のディスクリプションについて解説し、授業内で記述方式の演習を行うので必ず出席すること。
春学期は西洋美術史を学習する上での基礎編、秋学期はその応用編といった構成になっている。できれば秋学期も通じ、1年間受講してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と展覧会情報 美術史の学習方法・参考文献
第2回	美術史の基礎概念	美術におけるジャンルとは？
第3回	美術史の基礎用語	絵画鑑賞の基礎となる概念及び造形的な要素を説明する
第4回	絵画のジャンル① 神話画・宗教画・寓意画	ギリシア神話や聖書に典拠した絵画や事物に興味を読み取る寓意、また時事的な絵画まで、物語や出来事を表現する絵画を見ていく
第5回	絵画のジャンル③ 肖像画・風景画・風俗画	物語画以外のジャンルの絵画について外観する
第6回	物語から表象へ	聖書の主題である「受胎告知」を例にとり、テキストから絵画イメージへの変換の過程を検証する
第7回	ロココ芸術から新古典主義へ	ロココから新古典主義の様式の変容を、王侯貴族の支配する社会から市民社会への変革と関係づけて理解する。
第8回	ロマン主義の絵画	時事的な主題を扱った作品や人間の暗部に焦点を当てたロマン主義の絵画を紹介する
第9回	美術館見学	美術館に行き、作品を鑑賞する。
第10回	クールベのレアリスム	第二共和政の時代に起きた新しい美術運動としてのレアリスムを考察する。

第11回	パリの都市大改造	ナポレオン3世が進めたオスマンの都市改造計画により、パリは経済が活況になり文化が花開く。この時期に都市を描いた作品を見ていく。
第12回	印象派の展覧会 絵画のディスクリプションの演習	画家たちが自主的に企画したという視点で印象派の展覧会を検討し、新しい絵画とアカデミックな絵画との相違点を理解する。また、期末試験の対策として、絵画のディスクリプションについて解説し演習を行う。
第13回	田舎の表象	パリ中心の都市文化とは対照的に、田舎の自然の風景や農民の姿を表象した絵画を考察する。
第14回	まとめと質疑応答	これまでの考察をもとに、芸術作品への見方の多様性を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

美術館にできるだけ出向いて、常設のコレクションや企画展に展示されている実際の美術作品を見てほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、参考文献を授業中に適宜紹介する。

【参考書】

『世界美術大全集 西洋編』、小学館、19-24巻、1993-96年
高階秀爾・三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』、新書館、1997年
三浦篤『まなざしのレッスン1—西洋伝統絵画』、東京大学出版会、2001年
三浦篤『まなざしのレッスン2—西洋近現代絵画』、東京大学出版会、2015年
E.H.ゴンブリッチ『美術の物語』、ファイドン、2007年日本語版初版。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験（70％）と、平常点（主に授業で紹介した作品に対するコメント、30％）を参考に成績評価を決定する。
芸術作品に関する基礎知識を身に付けた上で、分析と論証の手続きが一定のレベルに達しているかを評価基準とする。平常点には授業内コメントを含む。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけアート作品を見る機会を増やしてもらうために、授業中に開催中の展覧会の紹介する。また状況が許せば展覧会見学も実施したい。

【Outline (in English)】

Focusing on modern and contemporary art created in Europe, particularly in France, we will study art history from a variety of perspectives.

The goal of this course is to learn how to understand works of art in the context of art history.

If possible, students should voluntarily go to museums to view artworks based on the knowledge they learn in class.

The final grade will be determined by short comments written by the students at the end of each class (30%) and the exam at the end of the course (70%).

ART300BC (芸術学 / Art studies 300)		
美術史 (西洋) B (資格)		
安藤 智子		
授業コード：A3854 曜日・時限：木4/Thu.4		
秋学期授業/Fall・2単位 配当年次：3・4年		
その他属性：		
【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】		
近代から現代までの美術史の文脈において、芸術作品を様々な観点から考察するとともに、その鑑賞方法を習得する。		
【到達目標】		
芸術作品の生成と構造を、美術史の基礎概念をもとに、さらに深く理解する。		
芸術と社会との関係性をより多角的に捉える。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】		
【授業の進め方と方法】		
授業当日に資料をアップした上で講義を行う。		
パワーポイントで作品の画像を映写し解説していく。		
授業最後にリアクションペーパーを配布し、各自の考察や感想を記入してもらう。		
このリアクションペーパーの提出によって出席とみなす。リアクションペーパーの内容が貧弱で不適切であった場合に欠席となるの留意すること。		
期末試験は講義の内容を理解しているかを問うもので、論述式で解答する。		
春学期にすでに絵画のディスクリプションについては解説するので、この知識と理解をベースに論述することが望まれる。		
【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】		
なし /No		
【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】		
なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要 美術史へのアプローチ
第2回	筆触の多様性～印象主義から新印象主義へ	美術史の流れに従って、筆触という技法の表現が変容していく過程を考察する
第3回	視点とパースペクティブ～セザンヌからキュビズムへ	絵画空間における視点、及びパースペクティブに着目し、19世紀後半から20世紀初頭にかけて、ドラスティックな絵画空間の変化を確認する。
第4回	素朴さへの憧れ～ゴーガンとゴッホ	近代社会の進歩や工業化に反発し、非西洋文明のイメージを具現化したゴーガンやゴッホの絵画を検証する
第5回	異文化との出会い	19世紀にイギリスやフランスで開催された万国博覧会から異国の文化、とくに日本美術がヨーロッパ諸国に波及する過程を追う
第6回	象徴主義	19世紀から20世紀にかけて制作された絵画における物語の表象とゴーガンにおける象徴主義までを考察する
第7回	アヴァンギャルド芸術①	20世紀初頭の、フォーヴという美術運動、それに続く西欧社会の軍国主義を反映したイタリア未来派の絵画について考察する
第8回	アヴァンギャルド芸術②	20世紀初頭に現出した美術運動であるダダとシュルレアリスムについて解説する
第9回	ドイツ表現主義と抽象絵画	対象を現実に見ているように再現する芸術作品から、概念によって構成された芸術作品へと転換する過程を考察する
第10回	美術市場の形成	19世紀から20世紀にかけて、画商やコレクターの活動を参照し、個人コレクションが形成される過程を見る
第11回	写真と絵画	19世紀に登場した写真が及びした視覚芸術への影響を考察する
第12回	コンテンポラリーアート	20世紀後半から現代までの美術動向を見る。とくに近年の展覧会で紹介された美術作品を概観する。
第13回	美術館見学	実際に芸術作品を見て考察を深める
第14回	双方向の授業によるディスカッション	これまでの総括 芸術と社会との関係性を包括的に考える
【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】		
できれば、春学期と通年で履修してください。		
様々な美術館の展覧会に出向き、芸術作品を実際に鑑賞してください。		
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。		
【テキスト (教科書)】		
授業の内容に沿って参考図書を適宜紹介していきます。		
【参考書】		
世界美術大全集 西洋編』、小学館、19-24巻、1993-96年		
高階秀爾・三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』、新書館、1997年		
三浦篤『まなごしのレッスン1—西洋伝統絵画』、東京大学出版会、2001年		
三浦篤『まなごしのレッスン2—西洋近現代絵画』、東京大学出版会、2015年		
E.H.ゴンブリッチ『美術の物語』、ファインドン、2007年日本語版初版。		
【成績評価の方法と基準】		
対面授業の場合は、学期末試験(70%)と、平常点(主に授業で紹介した作品についてのコメント、30%)を参考に成績評価を決定する。		
芸術作品に関する基礎知識を身に付けた上で、分析と論証の手続きが一定のレベルに達しているかを評価基準とする。		
【学生の意見等からの気づき】		
授業の内容に沿って、開催中の展覧会を紹介する。		
秋に開催される展覧会によって状況が変わる場合があるが、展覧会見学を行う予定。		
【Outline (in English)】		
Focusing on modern and contemporary art created in Europe, particularly in France, we will study art history from a variety of perspectives.		
The goal of this course is to learn how to understand works of art in the context of art history.		
If possible, students should voluntarily go to museums to view artworks based on the knowledge they learn in class.		
The final grade will be determined by short comments written by the students at the end of each class (30%) and the exam at the end of the course (70%).		

HIS200BE（史学 / History 200）

考古学概論（資格）

高橋 健

授業コード：A3855 | 曜日・時限：月2/Mon.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

旧石器時代から古墳時代までの概要を学ぶ。
日本史の基盤となる原始・古代の人間集団の動向を理解し、歴史学・考古学の研究を行う上で不可欠な歴史的事実の解釈方法を身につけることを目標とする。

【到達目標】

考古学的な成果に基づいて、各時代における文化的な特色、人々の自然環境・社会環境への対応、人間集団のありかたについて説明することができるとともに、それらを比較検討することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

日本列島において人類が活動を開始した旧石器時代から、狩猟・採集経済に生活の基礎がおかれた縄文時代、大陸型の水稲耕作が広がった弥生時代、前方後円墳が営まれ政治権力が発達した古墳時代までの展開について、考古資料を中心として学ぶ。また稲作導入後に異なる歴史をたどった北海道島についても扱う。
授業方法は講義形式による。授業はパワーポイントを使用するが、プリントも併用する。質問やリアクションペーパーへのフィードバックについては授業時間内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の概要と方法・評価基準
第2回	旧石器時代の姿	人類の進化と旧石器文化
第3回	日本の旧石器文化	日本列島における旧石器文化の展開
第4回	縄文時代の概要	地域的・時期的な多様性と共通性
第5回	縄文時代の生業	狩猟・漁労と採集・栽培
第6回	縄文時代の社会	集落と墓からみる社会構造
第7回	縄文から弥生へ	稲作の伝来と社会の変化
第8回	弥生のムラの姿	環濠集落と集団関係
第9回	青銅器と貝製品	遠くに運ばれる儀礼の道具
第10回	弥生墓制と社会の特質	地域的な墓制の展開と地方間の関係
第11回	続縄文文化	稲作を行わなかった地域
第12回	前方後円墳の成立と波及	古墳の成立と社会
第13回	古墳文化の変容と終焉	技術革新と古代国家への道
第14回	擦文文化とオホーツク文化	アイヌ文化の祖先

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献を読み、旧石器時代から古墳時代にかけての理解を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

日本列島を中心とした旧石器時代から古墳時代にかけての概説書を読んでおくこと。このほかの文献については授業内で紹介する。
佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ

佐藤宏之（2019）『旧石器時代 日本文化のはじまり』敬文舎
今村啓爾（2017）『縄文文化 考古調査ハンドブック17』ニューサイエンス社
石川日出志（2010）『農耕社会の成立 シリーズ日本古代史1』岩波新書
白石太一郎（2001）『古墳とその時代 日本史リブレット4』山川出版

【成績評価の方法と基準】

期末に論述式の筆記試験を行う（ノート持ち込み可）。試験は成績評価の70%とする。平常点は成績評価の30%とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

※担当者は博物館学芸員として実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく歴史展開を中心に講義する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will learn an overview of the Japanese archipelago from the Paleolithic period to the Kofun period.

(Learning Objectives)

The purpose of this course is to understand the trends of primitive and ancient human groups, which form the basis of Japanese history, and to learn how to interpret historical facts, which are essential for conducting historical and archeological research.

(Learning activities outside of classroom)

Students should read related literature and deepen their understanding of the period from the Paleolithic period to the Kofun period. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Submit a reaction paper for each class.

Grading will be decided based on %), term end examination (70%) and in class contribution (30%).

HIS200BE (史学 / History 200)

日本考古学 (資格)

高橋 健

授業コード：A3856 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本列島の旧石器時代から古墳時代にかけての歴史展開において、物質文化にもとづいて講義する。社会を支える食料の獲得・生産の方法が時代によってどのように変化したのかを学ぶ。

【到達目標】

日本列島の環境に適応したそれぞれの時代の生業とその特徴について説明することができる。また、考古資料から生業にアプローチする方法とその有効性について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

人間の生活のもっとも基礎となる食料の獲得・生産・加工の方法がどのように変化したのかを、考古資料にもとづいて探る。各回の授業でトピックを設定して行う予定である。授業方法は講義形式による。授業はパワーポイントを使用するが、プリントも併用する。質問やリアクションペーパーへのフィードバックについては授業時間内に行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概要説明	授業の方法・評価基準 この授業で扱う時代の概説
第2回	旧石器時代の環境	遊動的な生活
第3回	旧石器時代の生活	洞穴遺跡の生業
第4回	縄文時代の環境	時期と地域による環境の変化
第5回	縄文時代の生業①	貝塚と動物質食料
第6回	縄文時代の生業②	植物質食料を探る
第7回	縄文時代の生業③	理化学的分析など
第8回	縄文時代の調理	土器を使った料理
第9回	弥生時代の生業①	穀物栽培の開始
第10回	弥生時代の生業②	農耕民による狩猟と漁労
第11回	弥生・古墳時代の調理	コメ調理方法の変化
第12回	北方地域の生業①	稲作を行わなかった文化：続縄文文化・擦文文化
第13回	北方地域の生業②	外来の文化：オホーツク文化
第14回	総括	考古学からみた生業の変遷

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

参考書等をよく読み、時代ごとの特徴を理解するとともに、環境と生業についての知見を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。

【参考書】

西本豊弘・新美倫子編2010『事典人と動物の考古学』吉川弘文館
工藤雄一郎他編2013『ここまでわかった! 縄文人の植物利用』新泉社
横浜市歴史博物館編2019『おにぎりの文化史』河出書房新社
その他の参考書は、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績の70%は物質文化を扱うレポート評価とする。平常点は30%とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

※担当者は博物館学芸員として実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく歴史展開を中心に講義する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This class will cover the historical development of Japan from the Paleolithic to the Kofun period, based on material culture.

(Learning Objectives)

Students learn how the methods of acquiring and producing food have changed over time.

(Learning activities outside of classroom)

The standard time for preparation and review for this class is two hours each. Students should read references to understand the characteristics of each eras and deepen their knowledge of the environment and subsistence.

(Grading Criteria /Policy)

Submit a reaction paper for each class. Your overall grade in the class will be decided based on term-end report (70%) and in class contribution (30%).

HIS200BE（史学 / History 200）

美術史（日本）A（資格）

稲本 万里子

授業コード：A3857 | 曜日・時限：水5/Wed.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

平安時代後期に制作された絵巻を取りあげ、基礎知識を説明する。さらに、どのような技法と表現法が使われているのか解説し、制作年代や注文主などの諸問題を検討する。

視覚表象（ヴィジュアル・イメージ）をさまざまな角度から分析する手法を知るために、絵巻を鑑賞し、技法と表現法を理解し、美術史研究の現況を把握する。

【到達目標】

授業で取りあげた絵巻の基礎知識を習得し、技法と表現法について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこなう。はじめに、美術史と絵巻についての概説をおこなう。次に、平安時代後期に制作された「源氏物語絵巻」「信貴山縁起絵巻」「伴大納言絵巻」を取りあげ、基本的な事柄を説明する。毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写しながら、どのような技法が用いられ、どのような表現がなされているか説明するので、映写時はノートをとることよりも、スライドをじっくり見てもらいたい。そのうえで、制作年代や注文主などの諸問題を検討する。その際、ジェンダーやクラスの視点から注文主の権力や幻想、欲望を読み解く新しい美術史学（ニュー・アート・ヒストリー）の方法を紹介する。授業で紹介する手法を用いて、現代の我々を取り巻く視覚表象の問題についても考えてもらいたい。質問はリアクションペーパーで受けつける。翌週の授業開始時に答え、皆でシェアする。筆記試験の結果と優秀レポートは、成績提出後に講評をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、展覧会の見方	授業内容の説明
第2回	美術史概説	美術史の研究方法・ジャンル・時代区分
第3回	絵巻概説、「源氏物語絵巻」Ⅰ	絵巻の形態、鑑賞法、「源氏物語絵巻」概説
第4回	「源氏物語絵巻」Ⅱ	「源氏物語絵巻」 柏木第一段～御法段
第5回	「源氏物語絵巻」Ⅲ	「源氏物語絵巻」 情景選択法、竹河第一段～橋姫段
第6回	「源氏物語絵巻」Ⅳ	「源氏物語絵巻」 早蕨段～東屋第二段、蓬生段・関屋段、若紫段
第7回	「源氏物語絵巻」Ⅴ	「源氏物語絵巻」 諸問題の検討
第8回	「信貴山縁起絵巻」Ⅰ	「信貴山縁起絵巻」 概説、飛倉巻
第9回	「信貴山縁起絵巻」Ⅱ	「信貴山縁起絵巻」 延喜加持巻、尼公巻
第10回	「信貴山縁起絵巻」Ⅲ	「信貴山縁起絵巻」 諸問題の検討、レポートの書き方
第11回	「伴大納言絵巻」Ⅰ	「伴大納言絵巻」 概説、上巻、中巻
第12回	「伴大納言絵巻」Ⅱ	「伴大納言絵巻」 下巻、諸問題の検討
第13回	授業のまとめⅠ	筆記試験の説明
第14回	授業のまとめⅡ	各作品の相違点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各2時間を標準とする。授業後、作品と作品名が一致するように参考図版を見ておくこと。ただし「源氏物語絵巻」については、「源氏物語」の内容を講義する時間がないので、あらかじめ物語のあらすじを把握しておくことが望ましい。参考書に記した「すぐわかる源氏物語の絵画」が便利。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回スライドとプリントを使って進める。プリントは学修支援システムにアップするので、各自でダウンロードすること。

【参考書】

入門書として、田口榮一監修、稲本万里子・木村朗子・龍澤彩『すぐわかる源氏物語の絵画』（東京美術、2009）、稲本万里子『源氏の系譜―平安時代から現代まで』（森話社、2018）、佐野みどり『じっくり見たい「源氏物語絵巻」』（小学館、2000）、泉武夫『躍動する絵に舌を巻く 信貴山縁起絵巻』（小学館、2004）、黒田泰三『思っきり味わいつくす伴大納言絵巻』（小学館、2002）。各作品についての参考図版、参考文献は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験80％、リアクションペーパー20％。

筆記試験は、基礎知識を習得しているか否かを判断する。ただし、筆記試験の点数の1/4をレポート点に代えることもできる。レポートの提出は任意。レポートの内容については授業中に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度とは授業内容が異なるので、確認のうえ受講すること。教室の設備にかんする苦情は受けつけない。

【学生が準備すべき機器他】

毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写する。対面授業の場合は、学生が準備すべき機器はない。オンライン授業のときは、PC推奨。

【その他の重要事項】

時間配分により、実際の授業では順序や内容が変わることがある。

本務校の都合により対面授業がオンライン授業に変更になる場合は、学修支援システムから連絡する。

【Outline (in English)】

Course outline

In this class, basic knowledge will be explained mainly on narrative scroll from the Late Heian period. Furthermore, I will explain what kind of techniques and expressions are used, and examine various issues such as the production date and the client.

Students will appreciate picture scrolls, understand techniques and expression, and grasp the current state of art history research in order to learn techniques for analyzing visual images from various angles.

Learning Objectives

Become able to explain the basic knowledge of narrative scrolls covered in class, and be able to explain techniques and expressions.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time is 2 hours each. After the lecture, look at the reference illustrations so that the work and the work name match.

Grading Criteria / Policy

Written exam 80% at the end of the semester, reaction paper 20%.

HIS200BE（史学 / History 200）

美術史（日本）B（資格）

稲本 万里子

授業コード：A3858 | 曜日・時限：水5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、平安時代後期から鎌倉時代に制作された絵巻を取りあげ、基礎知識を説明するとともに、どのような技法と表現法が使われているのか解説し、制作年代や注文主などの諸問題を検討する。秋学期は、どのような社会がどのような視覚表象（ヴィジュアル・イメージ）を作り出したのかという問題に重点を置いて講義を進める。

この授業の目的は、視覚表象をさまざまな角度から分析する手法を知るために、絵巻を鑑賞し、技法と表現法を理解し、美術史研究の現況を把握することである。

【到達目標】

授業で取りあげた絵巻の基礎知識を習得し、技法と表現法について説明することができる。

どのような社会がどのような視覚表象を作り出したのか説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこなう。はじめに、美術史と絵巻についての概説をおこなう。次に、平安時代後期から鎌倉時代に制作された絵巻を取りあげ、基本的な事柄を説明する。毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写しながら、どのような技法が用いられ、どのような表現がなされているか説明するので、映写時はノートをとることよりも、スライドをじっくり見てもらいたい。そのうえで、制作年代や注文主など、視覚表象と社会をめぐる諸問題を検討する。その際、ジェンダーやクラスの視点から注文主の権力や幻想、欲望を読み解く新しい美術史学（ニュー・アート・ヒストリー）の方法を紹介する。授業で紹介する手法を用いて、現代の我々を取り巻く視覚表象の問題についても考えてもらいたい。質問はリアクションペーパーで受け付ける。翌週の授業開始時に答え、皆でシェアする。筆記試験の結果と優秀レポートは、成績提出後に講評をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、展覧会の見方	授業内容の説明
第2回	美術史概説、絵巻概説	美術史の研究手法、ジャンル、時代区分、絵巻の形態、鑑賞法
第3回	「鳥獣人物戯画」	「鳥獣人物戯画」の鑑賞と検討
第4回	「病草紙」	「病草紙」の鑑賞と検討
第5回	似絵	似絵作品の鑑賞と検討
第6回	「華嚴宗祖師絵伝」	「華嚴宗祖師絵伝」の鑑賞と検討
第7回	「北野天神縁起絵巻」	「北野天神縁起絵巻」の鑑賞と検討
第8回	「平治物語絵巻」	「平治物語絵巻」の鑑賞と検討
第9回	「男衾三郎絵巻」	「男衾三郎絵巻」の鑑賞と検討、レポートの書き方
第10回	「一遍聖絵」	「一遍聖絵」の鑑賞と検討
第11回	「春日権現験記絵巻」	「春日権現験記絵巻」の鑑賞と検討
第12回	「伊勢物語絵巻」	「伊勢物語絵巻」の鑑賞と検討
第13回	授業のまとめⅠ	筆記試験の説明
第14回	授業のまとめⅡ	様式の展開と各作品の相違点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各2時間を標準とする。授業後、作品と作品名が一致するように参考図版を見てください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回スライドとプリントを使って進める。プリントは学修支援システムにアップするので、各自でダウンロードすること。

【参考書】

入門書として、若杉準治編『絵巻物の鑑賞基礎知識』（至文堂、1995）、榊原悟監修、佐伯英里子・内田啓一『すぐわかる絵巻の見かた』（東京美術、2004）。各作品についての参考図版、参考文献は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験80％、リアクションペーパー20％。

筆記試験は、基礎知識を習得しているか否かを判断する。ただし、筆記試験の点数の1/4をレポート点に代えることもできる。レポートの提出は任意。レポートの内容については授業中に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度とは授業内容が異なるので、確認のうえ受講すること。教室の設備にかんする苦情は受けつけない。

【学生が準備すべき機器他】

毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写する。対面授業のときは、学生が準備すべき機器はない。オンライン授業のときは、PC推奨。

【その他の重要事項】

時間配分により、実際の授業では順序や内容が変わることがある。

本務校の都合により対面授業がオンライン授業に変更になる場合は、学修支援システムから連絡する。

【Outline (in English)】

Course outline

In this class, basic knowledge will be explained mainly on narrative scroll from the Late Heian period to Kamakura period. Furthermore, I will explain what kind of techniques and expressions are used, and examine various issues such as the production date and the client. In the fall semester, lectures will focus on the question of what kind of society created what kind of visual image.

Students will appreciate picture scrolls, understand techniques and expression, and grasp the current state of art history research in order to learn techniques for analyzing visual images from various angles.

Learning Objectives

Become able to explain the basic knowledge of narrative scrolls covered in class, and be able to explain techniques and expressions.

Become able to explain what kind of society produced what kind of visual image.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time is 2 hours each. After the lecture, look at the reference illustrations so that the work and the work name match.

Grading Criteria /Policy

Written exam 80% at the end of the semester, reaction paper 20%.

CUA200BA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）

民俗学Ⅰ（資格）

室井 康成

授業コード：A3859 | 曜日・時限：木5/Thu.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本民俗学の創始者・柳田国男（1875－1962）の研究歴に沿いながら、民俗学の基礎を学ぶ。柳田の生涯は、西南戦争前の明治の初年から、アジア太平洋戦争後の高度経済成長期にまで及ぶ。言わば日本近代を凝縮した人生とも言えるわけで、その経歴に沿いながら、柳田が「民俗」に着目した動機とその社会背景を明らかにし、そこから彼が「民俗」の研究を通じて構想した社会像を考える。

【到達目標】

「民俗」とは、いったい何だろう。民俗芸能・民俗文化財・民俗宗教など、この語を冠した言葉は多用されているが、ここで言う「民俗」とは、私たちの日常生活のあり方を規定する文化的な事象を指している。しかし所与のものではなく、「近代」という時代状況の中で発見されたものである。その「民俗」が、何ゆえその時代に、いかなる契機によって発見されたのか。本講義では、「民俗」および「民俗学」を理解する前段階として、日本における民俗学の創始者・柳田国男の思想と学問を手掛かりとして、この問題を理解し、併せて現代を生きる私たちにとって、「民俗」の何が問題なのかということを考える視座を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありますが、リアクションペーパーなどは求めません。質問等に対するフィードバックは適宜講義内で行ないます。また、講義時に配布するレジュメに、教員へのアクセス方法を記しておりますので、講義時間外でも質問等を受け付けることは可能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義全体の趣旨を説明します。
第2回	DVD『柳田国男－民俗の心を探る旅』の視聴と解説	柳田国男の生涯を描いた映像作品を視聴し、その特徴と問題点を指摘します。
第3回	生い立ちと貧困問題	柳田の民俗学構想には彼が幼少時に見聞した原体験があるとされ、その事例を確認します。
第4回	関西から関東への転居	柳田が幼少時に経験した関西から関東への転居が、その後の民俗学に与えた影響を考えます。
第5回	恋愛抒情詩人から農政官僚へ	柳田は学生時代、後に高名な文学者となる友人を多く持ちました。彼らとの交流が後の民俗学に与えた影響を考えます。
第6回	近代化論と農業政策論	柳田は大学卒業後、農商務省の高級官僚となります。その職務を通じて彼が披歴した近代観・農業観の特徴を確認します。
第7回	『遠野物語』を読む（1）	柳田が官僚時代に刊行した『遠野物語』の学史的立場づけを押さえます。
第8回	『遠野物語』を読む（2）	具体的に『遠野物語』を通読し、そこから読み取れる柳田の思想を考えます。
第9回	政策課題としての「民俗」の発見	柳田の中で発見された「民俗」は、どのような性格のものであったのかを確認します。
第10回	ジャーナリストへの転向と大正デモクラシー	柳田は官僚を辞した後、ジャーナリストになりました。その時代の世相と彼の思想との関連性を考えます。
第11回	民俗学の組織化と柳田国男の孤立	柳田はジャーナリストとして活動しつつ民俗学の体系化を目指します。その過程で起きた問題点の学史的意味を考えます。
第12回	日本の敗戦と新たな民俗学構想	柳田は日本の戦争を止められなかったのは、自身を含めた知識人の力不足だったと考えました。柳田は民俗学を通じてどのような社会貢献をしようとしていたのかを考えます。

第13回	「公民」養成論としての民俗学へ	戦後の柳田は、民俗学の目的を「公民の養成」と明言しました。その意味を検討し、民俗学とは何かを考えます。
第14回	試験と総括	本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義では毎回教員がレジュメを配布するので、そこに記された参考文献については通読しておいてください。また授業外の学習は、上記参考文献を用いた予習・復習（2時間程度）のほか、個々の学生の日常生活の中に散見される「民俗」的な事象・問題に気配りし、それらを学問的に考える姿勢を求めます（随時）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。講義時に教員においてレジュメを作成し、配布します。

【参考書】

福田アジオ『種明かししない柳田国男－日本民俗学のために』（2023年、吉川弘文館）
室井康成『柳田国男の民俗学構想』（2010年、森話社）
室井康成『事大主義－日本・朝鮮・沖縄の「自虐と侮蔑」』（2019年、中央公論新社）
室井康成『政治風土のフォークローア－文明・選挙・韓国』（2023年、七月社）
岩本通弥他編『民俗学の思考法－いま・ここ』の日常と文化を捉える』（2021年、慶応義塾大学出版会）
その他は、授業時に配布するレジュメで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します（試験100％）。ただし、どのような内容を出題するかは、終講の3～4回前の授業時にお知らせします。
・試験は実質的には机上リポートになります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特にありませんが、近現代の日本および東アジアの歴史に興味がないと、退屈な時間を過ごさざるを得なくなります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, you will learn about the history and characteristics of Japanese folklore-studies. Since the concept of folklore varies from country to country, this lesson will accurately learn the concept of "folklore" used in Japan.

【Learning Objectives】

Understanding Japanese folk-culture and the concept of folklore.

【Learning activities outside of classroom】

Reading the bibliography.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination;100%

CUA200BA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）

民俗学Ⅱ（資格）

室井 康成

授業コード：A3860 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「レジャー」が一般化した高度経済成長期において、人々の観光への意欲を掻き立てる重要なツールとなったのがテレビの紀行番組である。だが、映像を含むあらゆる視覚資料には製作者の恣意が反映されているものであり、紀行番組もまた然りである。本講義では、そこに描かれた風景や製作意図、その時代的意味合いについての理解に努める。

【到達目標】

戦後の高度経済成長に歩調を合わせる形で放送され、その後の紀行番組に大きな影響を与えたNHKの『新日本紀行』を事例として、その時代に求められた風景や、そこから除外された問題を同時代史の文脈から読み解き、あわせて民俗学的観点から映像作品と同時代性を理解する力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありますが、リアクションペーパーなどは求めません。質問等に対するフィードバックは適宜講義内で行ないます。また、講義時に配布するレジュメに、教員へのアクセス方法を記しておりますので、講義時間外でも質問等を受け付けることは可能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
講義	ガイダンス	講義全体の概要を説明します。履修希望者は必ず出席して下さい。
講義	「新日本紀行」の時代背景と政治性—高度経済成長期の求められた風景と現実（1）	放送当時の時代背景を講義します。
講義	「新日本紀行」の時代背景と政治性—高度経済成長期の求められた風景と現実（2）	「新日本紀行」の撮影・編集など制作手法の特徴や傾向について講義します。
講義	テレビ時代到来の意味	NHKドキュメント映像『山の分校の記録』を視聴し、解説します。
講義	隠蔽された公害	「新日本紀行」の『歌が生まれて、そして』（長崎県奈留島）の回を視聴し、解説します。
講義	「観光化」の光と影	「新日本紀行」の『湘南・電車通り』（神奈川県鎌倉）の回を視聴し、解説します。
講義	北海道開拓一世たちの心象風景	「新日本紀行」の『十津川物語』（北海道・奈良県）の回を視聴し、解説します。
講義	日本復帰前の「南島」への視線	「新日本紀行」の『沖縄本島』（沖縄県沖縄本島）の回を視聴し、解説します。
講義	変わりゆく瀬戸内海の島暮らし	「新日本紀行」の『塩飽衆昨今』（香川県・岡山県）の回を視聴し、解説します。
講義	夢を追う人々と都市の活気	「新日本紀行」の『太秦映画村』（京都府太秦）の回を視聴し、解説します。
講義	首都にきらめく江戸言葉と在来知	「新日本紀行」の『江戸の残る町』（東京都神田）の回を視聴し、解説します。
講義	「日本のふるさと」という幻想	「新日本紀行」の『新・遠野物語』（岩手県遠野）の回を視聴し、解説します。
講義	「新日本紀行」が描いた「日本」	高度経済成長期に求められた「日本」像について、これまで視聴した『新日本紀行』を振り返りながら講義します。
講義	試験と総括	本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義では毎回教員がレジュメを配布するので、そこに記された参考文献については通読しておいてください。また授業外の学習は、上記参考文献を用

いた予習・復習（2時間程度）のほか、個々の学生の日常生活の中に散見される「民俗」的な事象・問題に気配りし、それらを学問的に考える姿勢を求めます（随時）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。講義時に教員においてレジュメを作成し、配布します。

【参考書】

講義時に配布するレジュメに記載します。

【成績評価の方法と基準】

・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します（試験100％）。ただし、どのような内容を出題するかは、終講の3～4回前の授業時にお知らせします。

・試験は実質的には机上リポートになります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特にありませんが、戦後日本の生活史・文化史・経済史などに興味がないと、受講中とても退屈な時間を過ごさなくてはなりません。

【Outline (in English)】

Because the period of high economic growth when "leisure" became popular, television travel programs have become an important tool in stimulating demand for tourism. However, all visual media, including video, reflect the producers' arbitrary interests, and this applies no less to travel programs. This course aims for students to understand the landscape depicted, the producer's intention and the historical implications.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

文化史 1 (資格)

安原 眞琴

授業コード：A3861 | 曜日・時限：木6/Thu.6
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

文芸読解の前提としての江戸／東京を、古地図や浮世絵などを見ながら学ぶ。

【到達目標】

- ・現在我々がいる「場」への関心、理解を高めることができる。
- ・文学の舞台の重要性に気付くことができる。
- ・古地図や浮世絵の知識を身に付けることができる。
- ・資料の分析・解釈を行う上で必要となる情報を収集し、それらを咀嚼し発表するなど、活用することができる。
- ・現在と過去の町を比較することで、都市の成り立ちや町づくりのあり方などを考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

毎回アクションペーパーを提出し平常点を付加していく。
授業は講義形式だが、中間レポート以降、各自実際に町に出て調査してもらう予定である。

リアクションペーパーと中間レポートはMLS上で点数でフィードバックする。最終レポートはブラッシュアップ時に必要であればアドバイスするが、最終的な点数などの評価はフィードバックも公表もしない。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業の進め方などを説明する。 ・文学の舞台になってきた武蔵野／江戸／東京の土地の歴史を学ぶ。
第2回	東京の概要を知る	「東京」の成り立ちを学ぶ。
第3回	東京の概要を知る	23区の1区ごとの位置や特徴などを学ぶ。(国会図書館のサイト参照)
第4回	古地図の見方を知る	古地図の種類と見方を学ぶ。
第5回	「江戸城」を知る	町の中心「江戸城」について学ぶ。
第6回	城下町「江戸」を知る	町の構造「下町と山の手」について学ぶ。
第7回	日本橋を知る	具体的な町の歴史や特徴を学ぶ。(下町の中心)
第8回	上野を知る	具体的な町の歴史や特徴を学ぶ。(町の鬼門)
第9回	浅草を知る	具体的な町の歴史や特徴を学ぶ。(武蔵野以来の要衝地)
第10回	品川を知る	具体的な町の歴史や特徴を学ぶ。(繁華街・四宿)
第11回	両国を知る	具体的な町の歴史や特徴を学ぶ。(繁華街・火除地)
第12回	吉原を知る	具体的な町の歴史や特徴を学ぶ。(日本最大の繁華街)
第13回	吉原を知る	具体的な町の歴史や特徴を学ぶ。(日本最大の繁華街)
第14回	王子・飛鳥山を知る	具体的な町の歴史や特徴を学ぶ。(郊外・遊山・散歩)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習：授業内容に関する事柄を事前に学習してくる (2時間)
復習：授業で学んだことを踏まえて、事前学習をブラッシュアップしてくる。(2時間)
宿題：担当する町について調べる。

【テキスト (教科書)】

特に定めず、授業時に指示する。

【参考書】

錦絵で楽しむ江戸の名所 (国会図書館のサイト：<https://www.ndl.go.jp/landmarks/index.html>)
安原眞琴『東京の老舗を食べる』(亜紀書房、2015)
安原眞琴『東京おいしい老舗散歩』(東海教育研究所、2017)

【成績評価の方法と基準】

- ・リアクションペーパーを毎回提出させ平常点として加算していきます。60%
 - ・中間レポート (宿題) 20%
 - ・期末レポート 20%
- これらの総合判断により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎年、まじめな学生が多く、この先どんな分野に進むにせよ、ますますの成長を楽しみにさせてくれる。これからも、何か少しでも自分のために学ぼうとし、且つ学んだことを自分のこやしにしていってほしい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使いたいと思っています。

【その他の重要事項】

授業終了時の教壇前での会話・相談をオフィスアワーとします。
ただし、重要な連絡がある場合は、次の安原眞琴公式ホームページのコンタクト欄を使用します。
<http://www.makotooffice.net/>

【Outline (in English)】

Course Outline: In this class, we learn about Edo/Tokyo as a premise for reading comprehension, while examining old maps and ukiyo-e woodblock prints.

Learning Objectives: The aims of the class are to become more conscious of where we are, and of the settings of works of literature, while gaining knowledge about old maps and ukiyo-e. Students learn to collect and digest relevant information, and report on it. Comparing urban areas of the past and present gives students insight into how they are formed and evolve.

Learning Activities Outside of the Classroom: 1 to 2 hours of preparation on the topic of each lecture, and a similar amount of time of review. This will occasionally be supplemented with short assignments.

Grading Criteria/Policy: Grading is based on the following: written reactions to each lecture (60%); mid-semester assignments (20%); and final report (20%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

文化史 2 (資格)

山口 恭子

授業コード：A3862 | 曜日・時限：木6/Thu.6

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、中国、および日本の「書の歴史」を学びます。また、このことを通じ、広く文字の文化に関する知見を養います。

【到達目標】

中国、および日本の書芸術の流れと、それに関わる基本的な事項を習得することを目標とします。とくに、主要な書道史の事項、人物、作品、それらの書道史上の意義等について理解し、説明することができるよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

中国、および日本における書の史的展開について講義します。中国の書道史では漢字の起こりから唐代までを、日本の書道史では飛鳥・奈良時代から江戸時代初期までを中心に上げます。

なお、授業の内容に関して毎時リアクションペーパーを提出していただきます。次回授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行ってゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 中国書道史1 (殷・周の書)	・書および書道史研究について ・古代の漢字 ・甲骨文と金文
第2回	中国書道史2 (秦・漢の書)	・始皇帝の文字統一 ・隸書の発展と後漢の石碑
第3回	中国書道史3 (三国の書)	・書体の発展
第4回	中国書道史4 (東晋の書)	・王羲之、王献之の書
第5回	中国書道史5 (南北朝の書)	・北朝の石刻について
第6回	中国書道史6 (唐の書)	・初唐の三大家と楷書
第7回	日本書道史1 (飛鳥・奈良の書)	・文字の受容 ・聖武天皇、ならびに光明皇后の書
第8回	日本書道史2 (平安前期の書)	・三筆の書
第9回	日本書道史3 (平安中期の書)	・三蹟の書 ・和様の成立
第10回	日本書道史4 (仮名の書のさまたち)	・仮名の書とその書美
第11回	日本書道史5 (平安後期の書)	・西本願寺本三十六人家集
第12回	日本書道史6 (中世の書)	・尊円親王の書 ・さまざまな書流
第13回	日本書道史7 (近世の書)	・寛永の三筆の書
第14回	まとめ	・中国書道史、日本書道史のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館で、『書道全集』（平凡社、1974年）、石川九楊『書の宇宙』（二玄社、1996年）といった全集、図版類を見たり、可能であれば博物館・美術館での展示に足を運ぶなどして、より多くの書にふれること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しません。パワーポイント資料や配布プリントをもとに進めます。

【参考書】

・書学書道史学会編『日本・中国・朝鮮 書道史年表事典』（荏原書房、2005年）
・角井博監修『中国書道史』（芸術新聞社、2009年）
・名兄耶明監修『日本書道史』（芸術新聞社、2009年）
そのほか、講義時に提示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50％）、課題（30％）、平常点（20％）により評価します。試験では、主要な書道史の事項、書家、書作品、それらの書道史上の意義について理解し、説明することができるかを評価基準とします。

【学生の意見等からの気づき】

書の歴史を講ずるだけでなく、作品の鑑賞や解釈などについてみなさんとともに考察する機会を設け、学習のモチベーションを高める工夫をしたいと考えています。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the history of Chinese and Japanese calligraphy.

Learning Objectives: This course aims to understand the fundamentals of the history of calligraphy, such as styles and schools of calligraphy, major calligraphers, and the significance of surviving examples of calligraphy.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours understanding the content of the course

Grading Criteria/Policy: The overall grade of the class will be determined based on: final exam (50%), assignments (30%), and regular class performance (20%).

GEO100BF（地理学 / Geography 100）

地誌学概論

南 春英

授業コード：A3901 | 曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年
備考（履修条件等）：2022年度以前入学生は「地誌学概論（2）（A3409）」を履修する（配当年次は2～4）
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学は地誌学と系統地理学とに大別されます。本講義の到達目標は、講義を通して地誌学のアプローチを理解し、グローバル地誌とテーマ別地誌、比較交流地誌のアプローチを組み合わせる対象とする地域を説明できるようにすることです。地域概念について理解し、空間スケールに着目しながら日本および世界の地理的多様性に関する知見を深めます。

【到達目標】

本講義を受講することによって受講者は、特定の地域の特性や構造、およびその変化について、自然・人文地理学の様々な視点から理解・説明できることと、地域を科学的に見ることが出来るよう目指します。また、地図帳や統計を使って地域を空間的に把握出来るよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義形式で進めていく。講義形式で進めていく。毎回スライドを投影し、適宜プリントを配布する。スライドやプリントに多くの図や写真などを示すことで、視覚的に理解できるように努める。途中、授業理解の促進のために、DVD等を使用する予定です。

毎回の授業の最後にコメントシート（感想、質問など）を提出してもらいます。次の授業開始時に、前回提出されたコメントシートからいくつか取り上げ、コメントに対するフォローを行います。ミニ課題は授業支援システムを通して提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面	イントロ	授業内容の説明
対面	地誌学とは	地誌学の目的とアプローチ
対面	地誌学と国際理解教育	アジアにおける地誌教育
対面	身近な事例	原宿：歴史と若者の街
対面	世界の多様性①	生活と環境
対面	世界の多様性②	世界の食肉文化
対面	グローバル地誌①	現代世界のグローバル化地誌
対面	グローバル地誌②	グローバリゼーションと日本
対面	テーマ別地誌①	中国の多民族と文化の多様性
対面	テーマ別地誌②	中国の都市化と課題
対面	比較交流地誌①	朝鮮半島の文化
対面	網羅累積地誌①	アメリカ合衆国の多様性
対面	地域差①	自然環境と歴史からうまれた北京と上海の住民の省民性
対面	まとめ	授業内試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、講義で扱う地域を地図帳などで確認し、基本的な位置関係や地名を確認しておくことが求められます。また、講義中に紹介する文献をよむことを望みます。こうしたことから、各自がそれぞれ2時間以上自ら学ぶことを期待します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。書籍や文献は授業のなかで随時紹介するので、積極的に読んでください。

【参考書】

時事的な社会情勢の理解に役立つよう、常に最新の題材を取り扱ってきたい。
可児弘明ほか（1998）『民族で読む中国』朝日新聞社
河上税・田村俊和（2009）『日本からみた世界の地域 世界地誌概説』原書房
菊地俊夫（2011）『日本』朝倉書店
国立国語院（2006）『韓国伝統文化事典』教育出版
高井潔司・藤野 彰・曾根康雄（2012）『現代中国を知るための40章』明石書店
帝国書院編集部（2019）『図説地理資料 世界の諸地域NOW』帝国書院
帝国書院編集部（2020）『新・世界の国々＜9＞ 世界各地の生活と環境』帝国書院
藤野 彰（2018）『現代中国を知るための52章』明石書店
矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢（2020）『地誌学概論』朝倉書店
立正大学地理学教室（2007）『日本の地誌』古今書院

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業外課題）：40％、期末試験（持ち込み不可）：60％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

多くの資料・データを提示することで、受講者自身が考察を行った上で、講義内容を理解できる授業となることを心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

This course introduces various fundamental knowledge of regional geography to students taking this course. The goal of this course are to obtain fundamental knowledge of various regions and to acquire the ability to generally and systematically consider various geographical phenomena. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Short reports (40%), term-end examination (60%)

GEO200BF（地理学 / Geography 200）

日本地誌

阪上 弘彬

授業コード：A3902 | 曜日・時限：月4/Mon.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

備考（履修条件等）：2022年度以前入学生は「日本地誌（1）（A3410）」を履修する（配当年次は2～4）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地誌学は地域的特色（地域像）を描くことを目的としたものであり、系統地理学と並び地理学を構成する分野である。本授業は日本を対象地域として、日本の各地域における特色やその背景にある地理的事象・傾向、また地域的特色を描き、分析するために必要な技能について学ぶことを目的とする。

【到達目標】

- ①日本および各地域における地域的特色（地域性）やその背景にある地理的事象・傾向について理解する。
- ②地域的特色（地域性）を描いたり、分析したりするために必要な技能について獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は主に講義を中心としながら、授業回によっては演習や発表などを取り入れます。授業では毎回、リアクションペーパーを提出してもらい、次の授業冒頭で質問への回答やコメントを全体で共有します。なお、授業者の都合で、対面が難しい回はZoomをはじめとしたオンライン授業になる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の目標や今後の進め方、評価について説明する。
第2回	地理学・地誌学とは何か	地理学・地誌学について概説します。
第3回	日本の地域区分と国土開発	日本の地域区分、国土開発について概説します。
第4回	九州・沖縄	とくに自然、環境と生活に着目しながら九州・沖縄について概説します。
第5回	中国・四国	とくに交通に着目しながら中国・四国について概説します。
第6回	近畿①	とくに環境保全、災害に着目しながら近畿について概説します。
第7回	近畿②	とくに景観の保全、観光/ツーリズムに着目しながら近畿について概説します。
第8回	中部	とくに生業と産業、自然環境に着目しながら中部について概説します。
第9回	関東①	とくに都市の成長に着目しながら関東について概説します。
第10回	関東②	とくに他地域・地方のつながりに着目しながら関東について概説します。
第11回	東北	とくに伝統、文化や人口に着目しながら東北について概説します。
第12回	北海道	とくに自然環境、都市と村落に着目しながら北海道について概説します。
第13回	地域の描き方、分析方法	地域の描き方、分析方法に関わる考え方や技能（GISなど）について概説します。
第14回	まとめ	これまでの授業を振り返るとともに、日本全体の特色や地域性について概説します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。なお授業中に取り上げた地域や地理的事象について積極的に書籍やウェブサイトで調べることを推奨します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しませんので、授業前・中に資料（紙媒体もしくは電子媒体）を配布します。

【参考書】

矢ヶ崎 典隆・加賀美 雅弘・牛垣 雄矢(編著) (2020) : 『地理学基礎シリーズ 3 地誌学概論 (第2版)』朝倉書店
上野 和彦・椿 真智子・中村 康子(編) (2015) : 『地理学基礎シリーズ 1 地理学概論 (第2版)』朝倉書店

上杉 和央・小野 映介(編) (2023) : 『みわたす・つなげる 地誌学』古今書院

【成績評価の方法と基準】

レポート (50%) および毎時のコメントペーパー (50%) の合計100%で成績をつけます。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコン等の持参を指示します。

【Outline (in English)】

Regional geography aims to describe regional characteristics/images and is one of the fields comprising geography. This course focuses on Japan and aims to learn about the characteristics of each region of Japan, the geographical phenomena and trends behind them, and the geographical skills necessary to describe and analyze regional characteristics.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Reports(50%) and comment paper(50%).

GEO300BF（地理学 / Geography 300）

地理情報システム（GIS）Ⅰ

中山 大地

授業コード：A3903 | 曜日・時限：金1/Fri.1
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年
 備考（履修条件等）：**秋学期の「地理情報システム（GIS）Ⅰ」を履修する場合は、秋学期「地理情報システム（GIS）Ⅱ」も同時に履修すること。**
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
 デスクトップ型GISであるArcGIS Proを用いて、GISの基本的な操作方法を習得することを目標とする。本講義ではさまざまなGISデータを用いて、ベクタ型・ラスタ型データの基本的な分析方法を学ぶ。

【到達目標】
 GISを用いてベースマップやコロプレスマップが作成できるようになることが本授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
 ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
 20分程度の説明と80分程度の実習を行う。
 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス・GISの基本的な操作1	授業ガイダンス・GISの概念と構成、空間データの視覚化
第2回	GISの基本的な操作2	地図とGIS、空間データの構造、地図の投影法、地形表現
第3回	属性テーブル入門1	属性テーブルの概念、基本的な操作
第4回	属性テーブル入門2	属性検索
第5回	属性テーブル入門3	属性結合
第6回	ネット上のデータの利用1	センサスデータのダウンロードとコロプレスマップの作成
第7回	ネット上のデータの利用2	センサスデータのマージ
第8回	ネット上のデータの利用3	国土数値情報を用いた地図の作製、座標系の変換
第9回	数値地図の利用1	数値地図のインポート、座標系の変換
第10回	位置情報の取得と表示1	経緯度座標からのXYデータ作成
第11回	位置情報の取得と表示2	アドレスマッチングによるXYデータの作成
第12回	人口分布の推定1	センサスデータとジオプロセッシングを用いた面積按分による人口推定
第13回	人口分布の推定2	センサスデータとジオプロセッシングを用いた面積按分による人口推定
第14回	レポートの作成	レポートとしてGIS操作マニュアルを作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
 教科書は使わないが、参考書に挙げる文献が役立つ。

【参考書】
 野上ほか(2001)『地理情報学入門』, 古今書院.
 佐土原ほか(2005)『図解!ArcGIS一身近な事例で学ぼう』, 古今書院.
 高橋ほか(2005)『事例で学ぶGISと地域分析—ArcGISを用いて』, 古今書院.
 村井ほか(2005)『GIS実習マニュアル ArcGIS版』, 日本測量協会.
 橋本雄一(2019)『五訂版 GISと地理空間情報: ArcGIS 10.7とArcGIS Pro 2.3の活用』, 古今書院.

【成績評価の方法と基準】
 レポート課題（80%）、平常点（20%）で成績を決める。講義は出席するのが前提であるため、出席率70%以下の学生に対しては成績をつけない。毎回の課題提出をもって平常点とする。レポートはGISの操作マニュアルの作成である。

【学生の意見等からの気づき】
 該当なし。

【学生が準備すべき機器他】
 情報教室を使用する。作業用にUSBメモリ（16GB以上の空き容量推奨）を使用するため、必ず用意すること。

【その他の重要事項】
 1. 時間割上は秋学期金曜1限に「地理情報システム（GIS）Ⅰ」（授業コードA3903）、春学期金曜2限に「地理情報システム（GIS）Ⅱ」（授業コードA3904）となっているが、実際には9月・10月の金曜1限・2限に「地理情報システム（GIS）Ⅰ」（授業コードA3903）を実施し、11月～1月の金曜1限・2限に「地理情報システム（GIS）Ⅱ」（授業コードA3904）を実施する。
 2. 本授業を履修する場合には、秋学期開講の「地理情報システム（GIS）Ⅱ」（授業コードA3904）も同時に履修すること。本授業のみの履修は認めない。
 3. 本授業を履修する場合は春学期開講の「地理情報システム（GIS）Ⅰ」（授業コードA3471）および「地理情報システム（GIS）Ⅱ」（授業コードA3472）の履修は認めない。
 4. 本授業の単位が取得できなかった場合は、本年度の秋学期開講「地理情報システム（GIS）Ⅱ」（授業コードA3904）の単位も取得できない。
 5. 受講を希望する学生は必ず初回の授業前日までにHoppiiに自己登録すること。期限までに自己登録をしない学生は受講を許可しないので注意すること。
 6. 情報教室は使用可能台数が限られているため、受講希望者が多数の場合には受講できない場合がある。
 7. 遅刻はグループのメンバーに迷惑をかけ授業の進行に支障をきたすため厳禁である。10分以上の遅刻2回で欠席1回とするから注意すること。

【Outline (in English)】
 【Outline】
 The objective of this lecture is to learn the basic operation of GIS using ArcGIS Pro, which are desktop GIS. In this lecture, we learn basic analysis methods of vector and raster data using various GIS data.
 【Work to be done outside of class】
 The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
 【Grading criteria】
 Grades will be determined by the final report (80%) and normal scores (20%). Attendance is a prerequisite for lectures, so students with attendance rates below 70% will not receive a grade. Students are expected to attend the lectures. The report is to write a GIS operation manual.
 【Others】
 Students who wish to take this course must register on Hoppii by the day before the first class. Students who do not register by the deadline will not be allowed to take the course.
 The first class will be held online.

GEO300BF（地理学 / Geography 300）

地理情報システム（G I S）Ⅱ

中山 大地

授業コード：A3904 | 曜日・時限：金2/Fri.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年
備考（履修条件等）：秋学期の「地理情報システム（G I S）Ⅰ」を履修する場合は、秋学期「地理情報システム（G I S）Ⅰ」も同時に履修すること。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デスクトップ型GISであるArcGIS Proを用いて、GISの応用的な分析手法を学ぶ。

【到達目標】

GISを用いた分析能力を習得し、課題を解決するために自らデータを収集・作成し、分析し、結論を導き出せるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

PBL (Problem Based Learning)を行う。2名一組のグループごとに、ある地域の災害避難場所を仮定し、GISを用いてその避難所の設置プランを評価することが課題である。3回目の実習終了時に全体的な計画書を提出する。それ以降は必要なテクニックを教授しながら作業を行う。毎回の作業後には作業報告を作成し、レポートとして最終報告書を提出する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	GISを用いた避難場所の評価手法の説明1	加重コスト距離を用いた空間分割と避難圏の分析
第2回	GISを用いた避難場所の評価手法の説明2	ジオプロセッシングを用いた避難圏の人口推定
第3回	計画書の作成	作業方針を決定
第4回	作業1	災害弱者の定義、避難所選定方針の決定
第5回	作業2	必要なデータの入手1（位置情報を取得することにより、避難所データを入手・作成する）
第6回	作業3	必要なデータの入手2（属性結合による人口データの作成）
第7回	作業4	加重コスト距離を用いた空間分割による避難圏の算出1（ベクトルデータからラスターデータへの変換、空間分割）
第8回	作業5	ジオプロセッシング・面積按分を用いた災害弱者数の推定
第9回	作業6	結果の検討1（避難所・避難圏の評価）
第10回	作業7	キャッチアップ
第11回	作業8	加重コスト距離を用いた空間分割による避難圏の算出2（別シナリオによる作業）
第12回	作業9	結果の検討2（避難所・避難圏の再評価）
第13回	作業10	レポート作成1（結果の地図化など）
第14回	作業11	レポート作成2（結果の考察など）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使わない。プリントを公開する。

【参考書】

プリントを公開する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題1回（最終報告書、100点満点）で成績を決める。講義は出席するのが前提であるため、出席率70%以下の学生に対しては成績をつけない。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

情報教室を使用する。作業用にUSBメモリ（16GB以上の空き容量推奨）を使用するため、必ず用意すること。

【その他の重要事項】

1. 時間割上は秋学期金曜1限に「地理情報システム（G I S）Ⅰ」（授業コードA3903）、春学期金曜2限に「地理情報システム（G I S）Ⅱ」（授業コードA3904）となっているが、実際には9月・10月の金曜1限・2限に「地理情報システム（G I S）Ⅰ」（授業コードA3903）を実施し、11月～1月の金曜1限・2限に「地理情報システム（G I S）Ⅱ」（授業コードA3904）を実施する。
2. 本授業を履修する場合には、秋学期開講の「地理情報システム（G I S）Ⅰ」（授業コードA3903）も同時に履修すること。本授業のみの履修は認めない。
3. 本授業を履修する場合は春学期開講の「地理情報システム（G I S）Ⅰ」（授業コードA3471）および「地理情報システム（G I S）Ⅱ」（授業コードA3472）の履修は認めない。
4. 本授業の単位が取得できなかった場合は、本年度の秋学期開講「地理情報システム（G I S）Ⅰ」（授業コードA3903）の単位も取得できない。
5. 受講を希望する学生は必ず初回の授業前日までにHoppiiに自己登録すること。期限までに自己登録をしない学生は受講を許可しないので注意すること。
6. 情報教室は使用可能台数が限られているため、受講希望者が多数の場合には受講できない場合がある。
7. 遅刻はグループのメンバーに迷惑をかけ授業の進行に支障をきたすため厳禁である。10分以上の遅刻2回で欠席1回とするから注意すること。

【Outline (in English)】

【Outline】

The aim of this course is to learn application of Geographic information Systems using active learning (PBL and group work) using ArcGIS Pro. In this exercise, students work in pairs to conduct Problem Based Learning (PBL).

The task is to evaluate the establishment plan of a disaster shelter in a certain area by using GIS. The students are required to submit an overall plan at the end of the third practical session. After that, the students work according to the plan. Students are required to submit a work report each time and a final report at the end of the semester. Submission of reports and feedback will be done through the learning support system (Hoppii).

【Work to be done outside of class】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Grades will be determined by the final report (80%) and normal scores (20%). Attendance is a prerequisite for lectures, so students with attendance rates below 70% will not receive a grade. The final report is to write a GIS operation manual.

【Others】

Students who wish to take this course must register on Hoppii by the day before the first class. Students who do not register by the deadline will not be allowed to take the course.

The first class will be held online.

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

社会経済地理学A (1)

小原 丈明

授業コード：A3905 | 曜日・時限：火3/Tue.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は受講不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は地理学（主として都市地理学、経済地理学、社会地理学）の立場を中心に関係する他分野も踏まえつつ、都市開発について学ぶものです。都市開発がどのような事象に関わって展開されているのか、都市開発にはどのような利点や問題点があるのかなど、都市開発の諸側面について考えていきます。

【到達目標】

本科目を通じて、都市開発に関わる諸事象を題材にして、地理学、とりわけ都市地理学の見方・考え方を修得することを目標とします。また、都市開発を考えるには都市地理学の見方・考え方のみでは不十分であることから、隣接学問分野の考え方や見方も含めて身に付けることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本科目は講義形式で行います。まず、都市開発との概念や種類など基本事項の理解に努めます。それを踏まえ、土地利用や土地所有、地価・地代、立地、デベロッパーなど都市開発に関わるさまざまな側面について学び、その上で都市開発の功罪（利点や問題点）などについて考えていきます。

本科目では、授業で扱う内容について受講生自身が考えることを求めます。それゆえ、適宜、授業内課題（小レポート課題）や授業外課題を課すことになるので、積極的に取り組むことを期待します。それら課題のフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／都市開発の概要	講義の進め方／都市開発の基本概念・種類
第2回	土地利用①	都市の水平的拡大／都市的土地利用
第3回	土地利用②	都市の垂直的拡大／高度化・高密度化
第4回	土地所有①	土地所有の変遷
第5回	土地所有②	土地所有者の意思決定
第6回	地価・地代	地価の変遷／都市開発と地価の関係性
第7回	立地と開発①	住宅地の立地・開発
第8回	立地と開発②	マンションの立地・開発
第9回	立地と開発③	業務施設（オフィス）の立地・開発
第10回	立地と開発④	商業施設の立地・開発
第11回	都市再開発①	都市再開発の法制度
第12回	都市再開発②	都市再開発の歴史的展開
第13回	都市再開発③	アクターからみた都市再開発
第14回	総括	まとめ／補足／質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示する課題（授業外課題・授業内小レポート課題）に取り組んでもらうことがあります。また、授業で紹介する参考文献を自主的に読むことを望みます。なお、本授業の授業外学習（レポート課題・準備・復習時間）は各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。レジュメならびに講義資料は授業中に配布します。

【参考書】

- ・橋川武郎・粕谷 誠編（2007）：『日本不動産業史』名古屋大学出版会。
- ・實 清隆（2008）：『都市における地価と土地利用変動』古今書院。
- ・全国市街地再開発協会編（1991）：『日本の都市再開発史』同協会。
- ・堤 純（2009）：『土地利用変化のメカニズム』古今書院。
- ・松原 宏（1988）：『不動産資本と都市開発』ミネルヴァ書房。
- ・渡辺尚志・五味文彦編（2002）：『土地所有史』山川出版。
- ・その他の参考文献は講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業外課題・小レポート課題等）：30％、期末試験（持ち込み不可）：70％。授業で扱う内容を正しく理解した上で、それぞれの事象の関係を総合的かつ論理的に考える力を重視します。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業であるため担当者からの話題提供が中心となりますが、多くの資料・データを提示することで、受講生自身が考察を行った上で、講義内容を理解できる授業となるよう心掛けます。

【Outline (in English)】

This course introduces urban developments, especially the advantages and problems of the phenomena from the point of view of geography to students taking this course. The goals of this course are to obtain the knowledge of urban developments and to acquire the way of geographical thinking.

Before /after each class meeting, students will be expected to spend each 2 hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (70 %) and short reports (30 %).

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

社会経済地理学A (2)

小原 文明

授業コード：A3906 | 曜日・時限：火3/Tue.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は「社会経済地理学（1）(A3426)」として履修する
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、農業や工業、商業、サービス産業、オフィスといった各種産業における立地について学び、考えていきます。各種産業の立地の実態を把握するだけでなく、それぞれの理論についての理解も深めていきます。具体的には、理論についてはチューネンやウェーバー、クリスタラー、マーシャル、スコット、ポーター、クルーグマンなどの理論それぞれについて学ぶだけでなく、各理論間の関係性についても考えていきます。また、具体的な事例を通じて、各種産業の立地や集積の実態についても考えていきます。

【到達目標】

本科目を通じて、各種理論のメカニズムや問題点などについて理解できるようになるだけでなく、各産業における立地や集積の実態について理解が深まるようになることを目標とします。また、各種理論や各産業における立地・集積の実態の問題点について批判的に捉え、自身の意見を提示することができるようになることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本科目は講義形式で授業を行うので、基本的には授業担当者からの話題提供が中心となります。授業のコンテンツはパワーポイントによるスライドの内容、配布資料（レジュメ、図表等資料）、口頭説明からなります。なお、特定の教科書は使用しません。授業においては、適宜、授業内小レポート課題や授業外レポート課題を出します。それらレポート課題等のフィードバックは次回以降の授業にて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション／概念整理	授業の狙い・進め方／概念・用語・事象の整理／産業立地論を学ぶ意味
第2回	立地・集積の理論について考える①：チューネンの農業立地論	農業に関する立地・集積の理論
第3回	立地・集積の理論について考える②：ウェーバーの工業立地論1	工業に関する立地・集積の理論／輸送費指向論と労働費指向論
第4回	立地・集積の理論について考える③：ウェーバーの工業立地論2	工業に関する立地・集積の理論／ウェーバーの工業立地論と現代の事象
第5回	立地・集積の理論について考える④：クリスタラーの中心地理論	都市の立地に関する理論／クリスタラーの中心地理論
第6回	立地・集積の理論について考える⑤：レッシュの中心地理論	都市の立地に関する理論／レッシュの中心地理論
第7回	立地・集積の理論について考える⑥：古典的な集積論	マーシャルの集積論／ウェーバーの集積論
第8回	立地・集積の理論について考える⑦：新しい集積論1	スコットの新産業空間論
第9回	立地・集積の理論について考える⑧：新しい集積論2	ポーターの産業クラスター論
第10回	工業立地の実態を考える①：伝統産業	伝統産業の立地の実態
第11回	工業立地の実態を考える②：コンテンツ産業	コンテンツ産業の立地動向・政策の展開・実態（ソフトウェア産業・ゲーム産業・アニメーション産業）
第12回	商業立地の実態を考える	商業（特にチェーンストア）の立地のメカニズム
第13回	オフィス（業務施設）立地の実態を考える	オフィス（業務施設）の立地のメカニズム
第14回	総括	まとめ／補足／質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示する課題（授業外課題・授業内小レポート課題）に取り組んでもらうことがあります。また、授業で紹介する参考文献を自主的に読むことを望みます。なお、本科目の授業外学習（レポート課題・準備・復習時間）は各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。授業資料（レジュメ、配布資料等）は授業内で配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業外課題・小レポート課題等）：30％、期末試験（持ち込み不可）：70％。授業で扱う内容を正しく理解した上で、それぞれの理論や事象の関係性を総合的かつ論理的に考える力を重視します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の理解度の状況に合わせて授業を進めていきます。

【Outline (in English)】

This course introduces various location theories about agriculture, industry and service industry, and relationship between theories and realities to students taking this course. The goals of this course are to obtain the knowledge of mechanism about various location theories. Before /after each class meeting, students will be expected to spend each 2 hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (70 %) and short reports (30 %).

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

社会経済地理学B (1)

伊藤 達也

授業コード：A3907 | 曜日・時限：月3/Mon.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は「社会経済地理学（2）（A3427）」として履修する
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業ではわが国の水問題を全般的に学び、問題の本質の理解に努めます。

【到達目標】
授業の到達目標は「環境問題と向き合い行動する市民意識の育成」です。教員の講義からはわが国で発生している水問題についての理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は教員の講義方式で進めていきます。授業に関する意見や質問は授業の最後に行うリアクションペーパーで提出します。対応すべき内容があった場合、次の授業の開始時に返答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	イントロ	講義概要と目的の説明をします。
第2回	環境問題を考える	環境とは何か、環境問題とは何かについて説明します。
第3回	環境の中の水資源	水資源の特徴について説明します。
第4回	水資源利用の変遷	水資源利用の変遷について説明します。
第5回	水資源開発の論理	ダム・河口堰による水資源開発の方法について説明します。
第6回	ダム・河口堰による環境問題の発生	ダム・河口堰による水資源開発に伴う環境コストについて説明します。
第7回	ダム・河口堰をめぐる全国動き	ダム・河口堰をめぐる全国の動きについて説明します。
第8回	公共事業をめぐる状況と住民運動	ダム・河口堰を中心とする公共事業のあり方について説明します。
第9回	「日本は水資源が豊かなか？」	建設省（現国交省）の日本の水資源理解について考えます。
第10回	「日本は水資源が豊かなか？」の答え	建設省（現国交省）の日本の水資源理解について解説します。
第11回	利根川の水問題とハッ場ダム（1）	利根川の水資源問題について説明します。
第12回	利根川の水問題とハッ場ダム（2）	利根川の水資源問題、特にハッ場ダム問題について検討します。
第13回	水資源政策を展望する（1）	わが国の水資源問題の解決策について説明します。
第14回	水資源政策を展望する（2）	授業をまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の内容を授業にとどめず、実際の暮らしの中の出来事と結び付けてください。よく観察してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
蔵治光一郎編『長良川のアユと河口堰』農文協 2024年
伊藤達也『水資源問題の地理学』原書房 2023年
伊藤達也・梶原健嗣『長良川河口堰とハッ場ダムを歩く』成文堂 2023年

【成績評価の方法と基準】
期末試験70％、平常点30％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容が自らに関係するものであることを気づいてもらえるよう努力します。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントの使用を基本とします。

【Outline (in English)】
Course outline

The goal of this class is to have public awareness to face environmental issues and act. In this class, we learn about water problems in Japan in general.
Learning Objectives
The goal of the class is "cultivation of public awareness to face environmental problems and act". The goal is to deepen the understanding of water problems occurring in Japan from this lecture. Learning activities outside of classroom
Do not limit the content of the lesson to the lesson, but connect it with the events in the actual life. Please observe carefully. The standard preparation and review time for this class is 2 hour each.
Grading Criteria /Policy
The final exam is 70% and the normal score is 30%.

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

社会経済地理学B (2)

伊藤 達也

授業コード：A3908 | 曜日・時限：月3/Mon.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は受講不可
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業ではわが国の水問題を中心に個別事例について学び、問題の本質の理解に努めます。

【到達目標】

授業の到達目標は「環境問題と向き合い行動する市民意識の育成」です。教員の講義からはわが国で発生している水問題についての理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義方式で進めていきます。授業に関する意見や質問は授業の最後に行うリアクションペーパーで提出します。対応すべき内容があった場合、次の授業の開始時に返答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロー水資源問題の様々（地域性）ー	講義概要と目的の説明をします。水資源問題の地域性について考えます。
第2回	ダムと山村	ダムが山村に与えた影響について説明します。
第3回	山村地域への還元策	水源地域への還元策（水源税等）について説明します。
第4回	脱ダム下における五木村の地域再生	熊本県五木村の地域再生について説明します。
第5回	脱ダムにかけた五木村村民の意識	熊本県五木村村民が脱ダムの状況の中でどのような意識にあったかを解説します。
第6回	ダムと環境保全について考える。	2020年の球磨川水害に伴って再燃した川辺川ダム計画について説明します。
第7回	長良川河口堰問題の現在石木ダム問題	長良川河口堰問題の推移と現状を説明します。
第8回	韓国の水辺環境改変事業	韓国のダム・堰問題について説明します。
第9回	石木ダム問題	石木ダム問題について説明します。
第10回	農業用水と地域社会	わが国における農業用水の特徴と地域社会について説明します。
第11回	カッパによる水辺環境保全・地域振興（1）	地域社会とカッパの歴史的関係について説明します。
第12回	カッパによる水辺環境保全・地域振興（2）	現代の地域社会に占めるカッパの果たす役割について説明します。
第13回	カッパによる水辺環境保全・地域振興（3）	カッパによる水辺環境保全、地域振興について説明します。
第14回	水資源問題を解決する	授業をまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容を授業にとどめず、実際の暮らしの中の出来事と結び付けてください。よく観察してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

蔵治光一郎編『長良川のアユと河口堰』農文協、2024年
伊藤達也・梶原健嗣『長良川河口堰とハッ場ダムを歩く』成文堂、2023年
伊藤達也『水資源問題の地理学』原書房、2023年

【成績評価の方法と基準】

期末試験70%、平常点30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容が自らに関係するものであることに気づいてもらえるよう努力します。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントの使用を基本とします。

【Outline (in English)】

Course outline

The goal of this class is to have public awareness to face environmental issues and act. In this class, we learn about water problems in Japan in regionally.

Learning Objectives

The goal of the class is "cultivation of public awareness to face environmental problems and act". The goal is to deepen the understanding of water problems occurring in Japan from this lecture. Learning activities outside of classroom

Do not limit the content of the lesson to the lesson, but connect it with the events in the actual life. Please observe carefully. The standard preparation and review time for this class is 2 hour each. Grading Criteria /Policy

The final exam is 70% and the normal score is 30%.

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

社会経済地理学C (1)**佐々木 達**

授業コード：A3909 | 曜日・時限：火3/Tue.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は受講不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済現象は地域性をどのように作り出すかという経済地理学のオーソドックスな枠組みに基づいて、地域社会や地域経済の変容メカニズムについて企図的な方法論を学習することを狙いとする。

【到達目標】

到達目標①：経済地理学の学問的性格を理解する。

到達目標②：地域（社会・経済）の変容メカニズムについて説明できること

到達目標③：産業立地の基本的枠組みを説明できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

人文地理学は、地球上で展開される人間の諸活動が自然環境や社会環境を反映してどのような地域の特徴を作り出すのかを明らかにする、いわば「輪切りにされた歴史」を把握する学問分野である。本講義は、経済地理学の枠組みから地理の見方や地域の変化を捉える基礎的視点を学習する前半部分と、地域の変化をもたらす産業の在り方や現代的課題を地理学的に考察する後半部分からなる。

授業開始時には、前回のリアクションペーパーに基づいて、講義内容に関する質問や感想について答える。また、講義内容に関する理解度を推し量るために、小問題を課し、回答をフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	経済現象の地域性の解明とは？	経済地理学の基本的な枠組みについて解説する。
第2回	社会科学としての地理学	社会を科学するとは？
第3回	社会的分業と地域の形成①	地域は最初からあるものではなく、作られるものである。
第4回	社会的分業と地域の形成②	資本主義社会の元での地域
第5回	産業立地と地域経済の発展	立地論と地域経済の理論について解説する。
第6回	農業立地論と日本の農業地域	チューネンの農業立地論
第7回	食料供給の地理学	これからも腹いっぱい食べることができるか？
第8回	食のグローバル化はどう進んだか？	グローバル商品としての「醤油」を事例に
第9回	工業立地論と日本の工業地域	ウェーバーの工業立地論
第10回	工業の地方分散と農村工業化	立地論の適用事例
第11回	中心地理論とコンビニの立地戦略	同じ店名のコンビニストアはなぜ向かい側に立地するのか？
第12回	立地競争と日本の商業環境	均衡立地と最適立地
第13回	土地利用を読み解く地図学習の方法	仙台市の交通渋滞の原因は伊達政宗にある！？
第14回	試験とまとめ	試験を実施し、まとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から日本経済新聞等に目を通して、社会や経済に関心をもってください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

【参考書】

中澤高志『経済地理学とは何か』、旬報社、2021年
 伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編著『経済地理学への招待』、ミネルヴァ書房、2020年
 竹中克行編著『人文地理学への招待』、ミネルヴァ書房、2015年
 竹内敦彦・小田宏信編著『日本経済地理読本 第9版』、東洋経済新報社、2014年
 松原宏編著『地域経済論』、古今書院、2014年
 川端基夫『改訂版立地ウォーズ』、新評論、2013年

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（50％）、期末試験（50％）に基づいて総合的に成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する予定です。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic framework of economic geography.

【Learning Objectives】There are three viewpoints of learning objectives.

1. Understanding the basic characteristics of economic geography.

2. Understanding the mechanisms of regional socio-economic transformation.

3. Understanding the explanation of industrial location theory.

【Learning activities outside of classroom】Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following Short report (50%), Term-end examination (50%)

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

社会経済地理学C (2)

佐々木 達

授業コード：A3910 | 曜日・時限：火3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は「社会経済地理学（3）（A3428）」として履修する

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、日本経済の地域構造の再編と農業地域の変貌について学習する。経済現象の地域性を明らかにする経済地理学の枠組みから、日本の経済社会と農業・農村問題の基本問題を明らかにすることが目的である。

【到達目標】

授業のテーマ：日本経済の構造変化と農業地域の変貌

到達目標①：日本経済の変化とそのもとでの国土空間の利用の特徴を理解すること

到達目標②：戦前と戦後の日本経済の発展構造の違いを理解すること

到達目標③：日本経済の構造変化に対する農業地域の対応を理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は2部構成をとる。第1部は日本経済の地域構造の変化である。戦前から戦後の日本社会がどのような変化を辿ってきたのか、その地理的特徴について説明する。第2部は、日本の農業地域の変容メカニズムである。第1部を踏まえて経済構造の変化に農業地域はどのような対応を示してきたのかを検討する。これらを通じて、現在、日本が直面している多くの問題は歴史的なつながりで生み出されていること、および地域間関係の中で形成されてきたことを理解することがねらいとなる。

また、上記の方法を確認するために、双方向型の授業づくりとして複数回のリアクションペーパーや受講生による質疑応答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会経済地理学の枠組み	経済現象の地域性とは？
第2回	産業資本確立期の日本経済の地域構造	明治期の日本経済の課題
第3回	戦前期の日本経済の再生産構造と国土利用	近代的産業、植民地、地主制
第4回	戦後復興期の日本経済の地域構造の再編	敗戦と戦後復興期の国土利用の特徴
第5回	高度経済成長のメカニズム	太平洋ベルトの工業化
第6回	高度経済成長下の農業農村	労働力の大移動と出稼ぎ
第7回	オイルショックと産業構造の転換	電気機械工業の成長と地方の時代
第8回	安定成長期の農業・農村	発展なき成長メカニズムと農家兼業
第9回	低成長期とバブル経済	産業構造の再編と国土利用
第10回	経済のグローバル化と地域	産業空洞化と投資主導型経済構造
第11回	人口減少社会への突入	地方消滅論と農村社会の行方
第12回	これからの日本経済と国土利用	少子高齢化と日本経済の展望
第13回	日本の農業地域はどこに向かうのか？	減反50年、食料消費の多様化、食料自給率について
第14回	試験・まとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本経済や農業・農村の基本的な知識については、新書を読むなどしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

【参考書】

長岡顕・中藤康俊・山口不二雄編『日本農業の地域構造』、大明堂、1978年
石井素介・浮田典良・伊藤喜栄編『図説日本の地域構造』、古今書院、1986年
生源寺真一『日本農業の真実』、ちくま新書、2011年
吉川洋『高度成長』、中公文庫、2012年
増田寛也編著『地方消滅』、中公新書、2014年
中澤高志『住まいと仕事の地理学』、旬報社、2019年

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（50％）、試験（50％）により総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する予定です。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course deals with the structural reorganization of Japanese economy and development of agricultural region.

【Learning Objectives】 There are three viewpoints of learning objectives.

1. Understanding the changes in the Japanese economy and the characteristics of national land use

2. Understanding the differences in the development structure of the Japanese economy before and after the war.

3. Understanding the reflection of agricultural region to structural changes in the Japanese economy

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following Short report (50%), Term-end examination (50%)

GEO400BF（地理学 / Geography 400）

自然地理学演習 A（Ⅰ）

山口 隆子

授業コード：A3911 | 曜日・時限：木4/Thu.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は自然地理学のうち気候学、気象学などを中心テーマとして扱うが、自然環境全般を対象としている。3年生は学術論文やグループワークを通して、自然地理学研究に対する知識・方法論を獲得することを目標とする。4年生は卒業論文の作成を目標とする。

【到達目標】

本演習の狙いや位置づけは、大学という学習の場にあつて、単なる講義科目とは異なり、少人数での意見交換やプレゼンテーションを通じて、各自の思考力・創造力を高めることにあります。さらに、オリジナリティのある「卒業論文」を完成させ、学士号を取得することが最終目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

3年生を中心に運営していきます。4年生は卒業論文の構想発表、中間発表、最終発表などを通して、計画的に卒業論文執筆に取り組んでいくとともに、3年生にアドバイスをすることで、自らの卒業論文にフィードバックさせていくこととします。具体的な運営方法は、第1回目のゼミで話し合います。教員は、各発表に対して講評を行うとともに、オフィス・アワー等に研究室で指導を行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	1年間のゼミ運営について説明・決定
第2回	卒論構想発表	4年生の卒論構想発表
第3回	卒論構想発表	4年生の卒論構想発表
第4回	グループワーク	ゼミ合宿で訪問する地域を対象とした研究を検討
第5回	学生論文紹介	3年生3名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第6回	学生論文紹介	3年生3名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第7回	学生論文紹介	3年生3名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第8回	学生論文紹介	3年生3名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第9回	学生論文紹介	3年生3名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第10回	グループ研究テーマ発表	グループごとに、研究テーマを発表
第11回	卒論中間発表	4年生の卒論中間発表①
第12回	卒論中間発表	4年生の卒論中間発表①
第13回	卒論中間発表	4年生の卒論中間発表①
第14回	卒論中間発表	4年生の卒論中間発表①

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の演習の内容を前提に、各自、ないし各グループで準備すること。論文発表・紹介の際には、2週間前までに論文を決定・提出すること。発表者は、必ずレジュメ（A3もしくはA4 1枚）を人数分準備し、パワーポイントを用いて発表すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてその都度、紹介する。

【参考書】

泉岳樹・松山洋（2017）：『卒論・修論のための自然地理学フィールド調査』。古今書院。120 p。
小野英介・前田洋介（2024）：『地理学で卒業論文を書こう』。古今書院。90p。

【成績評価の方法と基準】

ゼミという科目の性格上、「討論への参加と応答」（50%）、「発表内容」（50%）で評価します。基本的に全回出席が原則です。休む時は理由の連絡をすること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、自然環境全般の実践的な課題への取り組み方を指導していきます。

【Outline (in English)】

Although this exercise treats climatology, biometeorology and so on among the natural geography as the central theme, it covers the whole natural environment. Third graders aim to acquire knowledge and methodology for natural geography research through academic papers and group work. The 4th graders aim to create graduation theses. The aim and positioning of this seminar is to enhance each student's ability to think and be creative through the exchange of opinions and presentations in a small group, unlike a mere lecture course in the learning environment of a university. In addition, the ultimate goal is to complete an original "graduation thesis" and obtain a bachelor's degree. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Each student or group is expected to prepare for the exercises in each class. Students are expected to decide and submit their papers at least two weeks prior to the presentation/introduction. Final grade will be calculated according to the following process presentation(50%), and Discussion(50%).

GEO400BF（地理学 / Geography 400）

自然地理学演習 A（Ⅱ）

山口 隆子

授業コード：A3912 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は自然地理学のうち気候学、気象学などを中心テーマとして扱うが、自然環境全般を対象としている。3年生は学術論文やグループワークを通して、自然地理学研究に対する知識・方法論を獲得することを目標とする。4年生は卒業論文の作成を目標とする。

【到達目標】

本演習の狙いや位置づけは、大学という学習の場にあつて、単なる講義科目とは異なり、少人数での意見交換やプレゼンテーションを通じて、各自の思考力・創造力を高めることにあります。さらに、オリジナリティのある「卒業論文」を完成させ、学士号を取得することが最終目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

3年生を中心に運営していきます。4年生は卒業論文の構想発表、中間発表、最終発表などを通して、計画的に卒業論文執筆に取り組んでいくとともに、3年生にアドバイスをすることを通して、自らの卒業論文にフィードバックさせていくこととします。具体的な運営方法は、第1回目のゼミで話し合います。教員は、各発表に対して講評を行うとともに、オフィス・アワー等に研究室で指導を行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	卒論中間発表	4年生の卒論中間発表②
第2回	卒論中間発表	4年生の卒論中間発表②
第3回	卒論中間発表	4年生の卒論中間発表②
第4回	卒論中間発表	4年生の卒論中間発表②
第5回	卒論構想発表	3年生の卒論構想発表
第6回	卒論構想発表	3年生の卒論構想発表
第7回	卒論構想発表	3年生の卒論構想発表
第8回	卒論構想発表	3年生の卒論構想発表
第9回	学生論文紹介	3年生3名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第10回	卒論最終発表	4年生の卒論発表
第11回	卒論発表	4年生の卒論発表
第12回	グループ発表	グループごとに研究内容を発表
第13回	卒論最終発表	4年生の卒論発表
第14回	卒論最終発表	4年生の卒論発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の演習の内容を前提に、各自、ないし各グループで準備すること。論文発表・紹介の際には、2週間前までに論文を決定・提出すること。発表者は、必ずレジュメ（A3もしくはA4 1枚）を人数分準備し、パワーポイントを用いて発表すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてその都度、紹介する。

【参考書】

泉岳樹・松山洋（2017）：『卒論・修論のための自然地理学フィールド調査』、古今書院、120 p.

小野英介・前田洋介（2024）：『地理学で卒業論文を書こう』、古今書院、90p.

【成績評価の方法と基準】

ゼミという科目の性格上、「討論への参加と応答」（50%）、「発表内容」（50%）で評価します。基本的に全回出席が原則です。休む時は理由の連絡をすること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、自然環境全般の実践的な課題への取り組み方を指導していきます。

【Outline (in English)】

Although this exercise treats climatology, biometeorology and so on among the natural geography as the central theme, it covers the whole natural environment. Third graders aim to acquire knowledge and methodology for natural geography research through academic papers and group work. The 4th graders aim to create graduation theses.

The aim and positioning of this seminar is to enhance each student's ability to think and be creative through the exchange of opinions and presentations in a small group, unlike a mere lecture course in the learning environment of a university. In addition, the ultimate goal is to complete an original "graduation thesis" and obtain a bachelor's degree. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Each student or group is expected to prepare for the exercises in each class. Students are expected to decide and submit their papers at least two weeks prior to the presentation/introduction.

Final grade will be calculated according to the following process presentation(50%), and Discussion(50%).

GEO400BF（地理学 / Geography 400）

自然地理学演習B（Ⅰ）

小川 滋之

授業コード：A3913 | 曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、自然の植生や人間による植物利用、および人類文明環境史など、地理学が関係する周辺諸科学の領域について自由に学習・議論し、自然環境と持続可能な人間社会のあり方について考察を深める。

【到達目標】

地理学諸分野の研究成果に自らが積極的に触れ、批判的に読み解き、また他者と議論する過程を通して、新たな現代的課題を発見し、自分自身がその解決手法を考え、実践していく能力を身に付ける。その成果は、卒業論文として実を結び学士号を取得することが最終目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本演習は少人数のゼミナール形式で行う。ゼミナールにおいては、卒業論文執筆のための研究計画などを担当する学生自らが発表を行い、全員で「さらにより研究にするため、どのような方法を用いればよいか？」を考えて議論し、アドバイスをするという方法で行う。受講者は、その内容についてただ批判するのではなく、発表者側の立場で物事を考えて発言することが重要である。具体的な運営方法は第1回のガイダンスで紹介し、話し合う予定である。プレゼンテーションは、レジュメを用いた発表とプレゼンソフトを用いた発表で行う。スポット的な野外調査や巡検、合宿なども想定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	自己紹介。アカデミックプレゼンテーションの方法について解説する。
第2回	卒論構想1	4年生が卒論の構想についてA4用紙4枚程度にまとめて発表する。
第3回	卒論構想2	4年生が卒論の構想についてA4用紙4枚程度にまとめて発表する。
第4回	卒論構想3	4年生が卒論の構想についてA4用紙4枚程度にまとめて発表する。
第5回	卒論構想4	4年生が卒論の構想についてA4用紙4枚程度にまとめて発表する。
第6回	研究紹介1	3年生が自分が興味あるテーマを選び、論文を読みA4用紙4枚程度にまとめて発表する。
第7回	研究紹介2	3年生が自分が興味あるテーマを選び、論文を読みA4用紙4枚程度にまとめて発表する。
第8回	研究紹介3	3年生が自分が興味あるテーマを選び、論文を読みA4用紙4枚程度にまとめて発表する。
第9回	研究紹介4	3年生が自分が興味あるテーマを選び、論文を読みA4用紙4枚程度にまとめて発表する。
第10回	卒論構想1	4年生が卒論に関する現地調査で取得したデータを紹介する。
第11回	卒論構想2	4年生が卒論に関する現地調査で取得したデータを紹介する。
第12回	プレ卒論構想1	3年生がどのような分野の研究に興味があるのか紹介する。
第13回	プレ卒論構想2	3年生がどのような分野の研究に興味があるのか紹介する。
第14回	現地調査の方法	現地調査の方法について学ぶ。3年生向け。4年生も参加。（合宿形式を予定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習は、人前でプレゼンテーションを行うこと、他人のプレゼンテーションを聞くことが基本となる。人に伝えるための工夫を行い、人の考えを理解するための教養を身に着ける。そのために必要な準備学習・復習時間は、各2時間以上である。

【テキスト（教科書）】

使用しない。演習に必要な資料は、前日までに学習支援システムでアップする。各自、持参すること。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

少人数のゼミナールのため、すべての出席を原則とする（平常点100%）。やむを得ず欠席する場合は事前に連絡すること。1/3以上の欠席の場合は成績評価の対象外となる。

【学生の意見等からの気づき】

質問や意見、相談については時間の許す限り応じる。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、プロジェクター

【その他の重要事項】

受講に際しては、「生物・土壌地理学及び実験Ⅰ」や「生物・土壌地理学及び実験Ⅱ」など自然地理学関連の科目を履修していることが望ましい。また、就職活動や大学院への進学を目指す学生など進路相談にも応じます。

【Outline (in English)】

In this class, students will learn about and discuss areas related to natural history and human life. In the process, students will discover new contemporary issues and acquire the ability to think and implement solutions on their own.

It is fundamental to give presentations in public and to listen to presentations by others. The preparation and review time required for this is at least 2 hours each.

This class is a small-group seminar. As a rule, attendance all day is required.

Evaluate the usual performance score at 100%.

GEO400BF（地理学 / Geography 400）

自然地理学演習B（Ⅱ）

小川 滋之

授業コード：A3914 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、自然の植生や人間による植物利用、および人類文明環境史など、地理学が関係する周辺諸科学の領域について自由に学習・議論し、自然環境と持続可能な人間社会のあり方について考察を深める。

【到達目標】

地理学諸分野の研究成果に自らが積極的に触れ、批判的に読み解き、また他者と議論する過程を通して、新たな現代的課題を発見し、自分自身がその解決手法を考え、実践していく能力を身に付ける。その成果は、卒業論文として実を結び学士号を取得することが最終目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本演習は少人数のゼミナール形式で行う。ゼミナールにおいては、卒業論文執筆のための研究計画などを担当する学生自らが発表を行い、全員で「さらによい研究にするため、どのような方法を用いればよいか？」を考えて議論し、アドバイスをするという方法で行う。受講者は、その内容についてただ批判するのではなく、発表者側の立場で物事を考えて発言することが重要である。具体的な運営方法は第1回のガイダンスで紹介し、話し合う予定である。プレゼンテーションは、レジュメを用いた発表とプレゼンソフトを用いた発表で行う。スポット的な野外調査や巡検、合宿なども想定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミ運営、卒業論文、プレ卒論について議論・説明する。
第2回	プレ卒論構想1	3年生が研究構想について発表する。
第3回	プレ卒論構想2	3年生が研究構想について発表する。
第4回	プレ卒論構想3	3年生が研究構想について発表する。
第5回	プレ卒論構想4	3年生が研究構想について発表する。
第6回	卒論発表1	4年生が卒業論文の内容について発表する。
第7回	卒論発表2	4年生が卒業論文の内容について発表する。
第8回	卒論発表3	4年生が卒業論文の内容について発表する。
第9回	卒論発表4	4年生が卒業論文の内容について発表する。
第10回	データのまとめ方	ゼミ資料のまとめ方、研究データのまとめ方について説明する。
第11回	プレ卒論構想1	3年生が現地調査を行い、取得したデータについて紹介する。
第12回	プレ卒論構想2	3年生が現地調査を行い、取得したデータについて紹介する。
第13回	プレ卒論構想3	3年生が現地調査を行い、取得したデータについて紹介する。
第14回	卒論発表練習	4年生が卒論発表の練習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習は、人前でプレゼンテーションを行うこと、他人のプレゼンテーションを聞くことが基本となる。人に伝えるための工夫を行い、人の考えを理解するための教養を身に着ける。そのために必要な準備学習・復習時間は、各2時間以上である。

【テキスト（教科書）】

使用しない。演習で必要な資料は、前日までに学習支援システムでアップする。各自、持参すること。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

少人数のゼミナールのため、すべての出席を原則とする（平常点100%）。やむを得ず欠席する場合は事前に連絡すること。1/3以上の欠席の場合は成績評価の対象外となる。

【学生の意見等からの気づき】

質問や意見、相談については時間の許す限り応じる。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、プロジェクター

【その他の重要事項】

受講に際しては、「生物・土壤地理学及び実験Ⅰ」や「生物・土壤地理学及び実験Ⅱ」など自然地理学関連の科目を履修していることが望ましい。また、就職活動や大学院への進学を目指す学生など進路相談にも応じます。

【Outline (in English)】

In this class, students will learn about and discuss areas related to natural history and human life. In the process, students will discover new contemporary issues and acquire the ability to think and implement solutions on their own.

It is fundamental to give presentations in public and to listen to presentations by others. The preparation and review time required for this is at least 2 hours each.

This class is a small-group seminar. As a rule, attendance all day is required.

Evaluate the usual performance score at 100%.

GEO400BF（地理学 / Geography 400）

自然地理学演習C（Ⅰ）

前 杵 英明

授業コード：A3915 | 曜日・時限：火4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は自然地理学のうち「地形」を中心とした内容であるが、第四紀学、自然災害科学、および人類文明環境史など、自然地理学が関係する周辺諸科学の領域についても自由に学習・議論し、自然環境と持続可能な人間社会のあり方について考察を深める。

【到達目標】

自然地理学諸分野の研究成果に自らが積極的に触れ、批判的に読み解き、また他者と議論する過程を通して、新たな現代的課題を発見し、自分自身がその解決手法を考え、実践していく能力を身に付ける。その成果は、卒業論文として実を結び学士号を取得することが最終目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミは3年生を中心に運営して行く予定である。4年生は自らの卒業論文の中間発表、最終発表などを授業計画に組み込むことによって、緊張感をもって卒論執筆に取り組むことができる。具体的な運営方法は第1回目のゼミで話しあう予定。教室での発表（プレゼンソフト使用が原則）、議論以外に、スポット的な野外調査や巡検、合宿なども想定している。課題（質問事項）等を課した場合は学習支援システムにて回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	1年間のゼミ運営について議論・説明する
第2回	卒論中間発表1	4年生が春休みに行った卒論の中間発表
第3回	卒論中間発表2	4年生が春休みに行った卒論の中間発表
第4回	卒論中間発表3	4年生が春休みに行った卒論の中間発表
第5回	学生文献発表1	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第6回	学生文献発表2	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第7回	学生文献発表3	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第8回	学生文献発表4	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第9回	卒論中間発表4	4年生の卒論の中間発表
第10回	卒論中間発表5	4年生の卒論の中間発表
第11回	卒論中間発表6	4年生の卒論の中間発表
第12回	学生文献発表5	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第13回	学生文献発表6	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第14回	学生文献発表7	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表準備、プレゼンの工夫など、関連ビジネス書なども参考にする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。授業支援システムに授業資料をアップするので、各自授業に持参してほしい。

【参考書】

授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%

発表、議論への積極的参加。基本的に全回出席が原則。休む時は理由の連絡をすること。理由にかかわらず1/3以上欠席の場合評価しない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン（もしあれば）、powerpoint

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

自然地理学、（変動）地形学、第四紀学

＜研究テーマ＞

プレート沈み込み帯における地震性地殻変動に関する地形・地質学的研究、新生代氷床変動に関する地形・地質学的研究、環境変化と人間社会に関する自然地理学的研究

＜主要研究業績＞

前杵英明ほか（2005）：沈み込み帯沿岸の地殻変動を記録する古潮位計としての完新世暖温帯石灰岩に関する予察的研究. 地理科学, vol.60-3, pp.136-142.

Maemoku, H. et.al. (1997) : Stratigraphy of the Late Quaternary raised beach deposits in the northern part of Langhovde, Lutzow-Holm Bay, East Antarctica. The Proceedings of NIPR Symposium Antarctic Geoscience, 10, 178-186.

Maemoku, H. et.al. (2012)Geomorphological constraints on the Ghaggar River regime during the Mature Harappan period, in Climates, Landscapes, and Civilizations, Geophys. Monogr. Ser., vol. 198, edited by L. Giosan et al., 97– 106, AGU, Washington, D. C.

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire ability to make research work on Physical Geography.

The goals of this course are to be able to read academic paper, to discuss on them with other students, and to complete graduation thesis.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant documents from online study site. Your required study time is at least two hour for each class meeting.

Final grade will be calculated according to the in-class contribution(100%).

GEO400BF (地理学 / Geography 400)

自然地理学演習C (Ⅱ)

前査 英明

授業コード：A3916 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は自然地理学のうち「地形」を中心とした内容であるが、第四紀学、自然災害科学、および人類文明環境史など、自然地理学が関係する周辺諸科学の領域についても自由に学習・議論し、自然環境と持続可能な人間社会のあり方について考察を深める。

【到達目標】

自然地理学諸分野の研究成果に自らが積極的に触れ、批判的に読み解き、また他者と議論する過程を通して、新たな現代的課題を発見し、自分自身がその解決手法を考え、実践していく能力を身に付ける。その成果は、卒業論文として実を結び学士号を取得することが最終目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミは3年生を中心に運営して行く予定である。4年生は自らの卒業論文の中間発表、最終発表などを授業計画に組み込むことによって、緊張感をもって卒論執筆に取り組むことができる。具体的な運営方法は第1回目のゼミで話しあう予定。教室での発表（プレゼンソフト使用が原則）、議論以外に、スポット的な野外調査や巡検、合宿なども想定している。課題（質問事項）等を課した場合は学習支援システムにて回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	卒論中間発表1	4年生の卒論中間発表
第2回	卒論中間発表2	4年生の卒論中間発表
第3回	卒論中間発表3	4年生の卒論中間発表
第4回	学生文献発表1	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する。
第5回	学生文献発表2	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第6回	学生文献発表3	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第7回	学生文献発表4	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第8回	卒論中間発表4	4年生の卒論中間発表
第9回	卒論中間発表5	4年生の卒論中間発表
第10回	学生文献発表5	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第11回	学生文献発表6	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第12回	学生文献発表7	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第13回	卒論構想発表1	3年生の卒論構想発表
第14回	卒論構想発表2	3年生の卒論構想発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表準備、プレゼンの工夫など、関連ビジネス書なども参考にする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。授業支援システムに授業資料をアップするので、各自授業に持参してほしい。

【参考書】

授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%

発表、議論への積極的参加。基本的に全回出席が原則。休む時は理由の連絡をすること。理由にかかわらず1/3以上欠席の場合評価しない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン（もしあれば）、powerpoint

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

自然地理学、(変動)地形学、第四紀学

＜研究テーマ＞

プレート沈み込み帯における地震性地殻変動に関する地形・地質学的研究、新生代水床変動に関する地形・地質学的研究、環境変化と人間社会に関する自然地理学的研究

＜主要研究業績＞

前査英明ほか（2005）：沈み込み帯沿岸の地殻変動を記録する古潮位計としての完新世暖温帯石灰岩に関する予察的研究。地理科学, vol.60-3, pp.136-142.

Maemoku, H. et.al. (1997) : Stratigraphy of the Late Quaternary raised beach deposits in the northern part of Langhovde, Lutzow-Holm Bay, East Antarctica. The Proceedings of NIPR Symposium Antarctic Geoscience, 10, 178-186.

Maemoku, H. et.al. (2012) Geomorphological constraints on the Ghaggar River regime during the Mature Harappan period, in Climates, Landscapes, and Civilizations, Geophys. Monogr. Ser., vol. 198, edited by L. Giosan et al., 97- 106, AGU, Washington, D. C.

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire ability to make research work on Physical Geography.

The goals of this course are to be able to read academic paper, to discuss on them with other students, and to complete graduation thesis.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant documents from online study site. Your required study time is at least two hour for each class meeting.

Final grade will be calculated according to the in-class contribution(100%).

HUG400BF (人文地理学 / Human geography 400)

人文地理学演習A（Ⅰ）

佐々木 達

授業コード：A3917 | 曜日・時限：木4/Thu.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、卒業論文の作成にとって必要な知識、手法の獲得を目指して、ゼミ形式で実施します。学生が主体となって、各自のテーマを決めたうえで、発表とディスカッションを行います。地理学の学術論文（地理学評論、経済地理学年報、人文地理、季刊地理学など）から各自の関心に基づいて選び、内容を報告したうえで、卒業論文に必要なスキルを身に着けることが目的です。

【到達目標】

地理学の学術論文の講読を通じて、各自の研究のアイデア、問題意識の醸成、既存研究の踏査方法、研究手法、図表の作成方法を獲得し、より良い卒業論文の作成できることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はゼミ形式で行います。学生は授業内での発表、議論を行います。本演習受講者は、あらかじめ地理学の査読付き学術論文である地理学評論、経済地理学年報、人文地理、季刊地理学、地理科学、地学雑誌の6誌の中から、関心のある論文を選び、レジュメを作成します。レジュメの作成の際には、①論文の紹介、②取り上げた論文へのコメントと自分の研究テーマとの関連性の記述、③自分の研究テーマの紹介（問題意識と研究目的）を書くこと。レジュメの書式は自由とするが、A4要旨で最大4ページにまとめること。初回時に、各自が取り上げる論文を取りまとめ、受講者に共有したうえでゼミを進めていくこととします。

ゼミのフィードバックは、各ゼミ生の発表レジュメの添削とコメントを返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	自己紹介、発表論文の決定、発表の順番の決定、発表方法に関するガイダンス
第2回	レジュメ、卒業論文の作成方法	論文の読み方、レジュメの作成方法、卒業論文の心構えについて学習する。
第3回	資料の作成方法	文献・資料の探し方、図表の作り方を学習する。
第4回	学生による論文紹介と卒論テーマ発表①	学生による発表とディスカッション
第5回	学生による論文紹介と卒論テーマ発表②	学生による発表とディスカッション
第6回	学生による論文紹介と卒論テーマ発表③	学生による発表とディスカッション
第7回	学生による論文紹介と卒論テーマ発表④	学生による発表とディスカッション
第8回	学生による論文紹介と卒論テーマ発表⑤	学生による発表とディスカッション
第9回	学生による論文紹介と卒論テーマ発表⑥	学生による発表とディスカッション
第10回	学生による論文紹介と卒論テーマ発表⑦	学生による発表とディスカッション
第11回	学生による論文紹介と卒論テーマ発表⑧	学生による発表とディスカッション
第12回	学生による論文紹介と卒論テーマ発表⑨	学生による発表とディスカッション
第13回	学生による論文紹介と卒論テーマ発表⑩	学生による発表とディスカッション
第14回	まとめ	学生発表についての講評、学生間の議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表の目的は、各自の卒業論文のテーマの確定と研究方法の獲得です。学術雑誌論文を紹介する前段階として、必要な論文や資料を収集し、「先行研究のまとめ」と「自らの研究目的」を必ず含めた発表にしてください。発表形式は、レジュメもしくはパワーポイントで行います。本授業の準備・復習時間は各2時間、計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。

【参考書】

経済地理学会編（2024）『経済地理学辞典』丸善出版
伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編（2020）『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房
経済地理学会編（2018）『キーワードで読む経済地理学』原書房
竹中克行編（2015）『人文地理学への招待』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

成績は、ゼミでの発表内容と討論への参加姿勢に基づいて、発表50％、討論50％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

各自、「自分ごと」として積極的にゼミの場を活用してください。

【学生が準備すべき機器他】

学生の発表については、パワーポイントでの発表を原則としますので、PCやタブレットを準備してください。ただし、電子機器を持参できない学生は個別に対応します。

【その他の重要事項】

本演習は、受講前に各自が学術雑誌論文を読んで、自分の研究テーマを深めておくことが前提です。限られた時間で最大限の学習効果を引き出すために、事前学習に労力を惜みまず取り組んでください。事前学習ができていなかった場合、本演習の学習効果はほとんど期待できません。

【Outline (in English)】

Course outline

The Human geography exercise aims to acquire the knowledge and means necessary for a graduation thesis created in the 4th grade. Students make presentations, give their opinions, and have discussions as they participate in the exercises. The purpose is to acquire the skills necessary for the graduation thesis at the stage of selecting and reporting the content based on each interest from geography academic papers.

Learning Objectives

The goals of this course are to acquire the knowledge and means necessary for a graduation thesis

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

・Experiment/Practice (one-credit)

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following presentation of graduation thesis : 50%, discussion: 50%

HUG400BF (人文地理学 / Human geography 400)

人文地理学演習 A (Ⅱ)

佐々木 達

授業コード：A3918 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では論文購読、統計作業や調査報告、プレゼンテーションを通じて、自らの学習成果を発表することで卒業論文作成にあたっての基礎的な能力を身に付けることを目標とします。具体的には、3年生は論文・文献購読、統計作業を通じて知識・方法論を獲得することを目指します。4年生はこれまでに身に付けてきた知識・方法論を活かして、オリジナルな卒業論文の作成を目標とします。

【到達目標】

- (1) 既存研究や該当する研究の位置づけを踏まえて、卒業論文のテーマを自ら設定することができる。
- (2) 研究上必要となる資料や統計、データを加工し、分析・考察できる。
- (3) 論理構成を明確にした卒業論文を作成できる。

4年生はオリジナリティのある卒業論文を執筆するために必要な事柄（問題意識、課題設定、仮説、方法論、資料分析、実態調査）を着実に進めることが求められます。また、3年生にはグループワークによる調査・発表・論文作成や関心事項・論文構想の発表を通じて、卒業論文が作成できるようなスキルを獲得することが求められます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

3年生は卒業論文のテーマ設定や構想に向けて、テキストを輪読し、各研究領域に習熟して問題意識を明確にしていきます。また、グループワークによるゼミ論文の作成に取り組んでもらいます。4年生は卒業論文の進捗状況を報告し、完成に向けて論理構成を固めていきます。

授業形態は演習形式ですので、ゼミ生の発表が中心となります。また、授業以外でも卒業論文の個別相談や学習方法について相談を受けます。なお、3年生と4年生は同時時間帯に演習を行いますが、時間を延長（4時限目、5時限目）して行います。

ゼミ生に対するフォードバックは、発表者のレジュメの添削、発表に対してコメントを返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミの進め方、自己紹介、報告順番の決定の説明
第2回	3年生：グループワークの作業課題 4年生：卒論中間発表①	3年生：グループワークのテーマ決定 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第3回	3年生：文献・論文講読① 4年生：卒論中間報告②	3年生：プレゼン・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第4回	3年生：文献・論文講読② 4年生：卒論中間報告③	3年生：プレゼン・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第5回	3年生：文献・論文講読③ 4年生：卒論中間報告④	3年生：プレゼン・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第6回	3年生：文献・論文講読④ 4年生：卒論中間報告⑤	3年生：プレゼン・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第7回	3年生：文献・論文講読⑤ 4年生：卒論中間報告⑥	3年生：プレゼン・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第8回	3年生：グループワーク中間発表 4年生：グループへのコメント	3年生：グループワークの中間発表 4年生：グループワークと卒業研究
第9回	3年生：文献・論文講読⑥ 4年生：卒論中間報告⑦	3年生：文献紹介のプレゼン・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第10回	3年生：文献・論文講読⑦ 4年生：卒論中間報告⑧	3年生：プレゼン・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第11回	3年生：文献・論文講読⑧ 4年生：卒論中間報告⑨	3年生：プレゼン・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表

第12回	3年生：文献・論文講読⑨ 4年生：卒論中間報告⑩	3年生：プレゼン・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第13回	卒論中間発表・調査計画の報告（1）	卒論研究の進捗状況の発表
第14回	卒論中間発表・調査計画の報告（2）	卒論研究の進捗状況の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

4年生は、卒業論文にむけて、ゼミ以外でも自分の研究テーマと内容を深めるために多くの時間を割いて、文献購読、資料収集・整理に取り組むこと。3年生はゼミ論文の作成にあたって、授業時間外の作業が多くなります。文献調査やデータ収集、レジュメの作成などを授業外で行う時間が多くなります。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回時に、こちらから提示します。

【参考書】

演習中に適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの参加意欲と態度による参加状況（50%）、発表内容（50%）により評価します。出席が最も重視されます。

【学生の意見等からの気づき】

受講生との相談の上で授業計画の詳細を決定します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する場合があります。

【その他の重要事項】

卒業論文の進捗状況について、時間外に面談を受け付けます。

【Outline (in English)】

This seminar deals with the knowledge, skills, methods and ways of thinking which were needed in learning geography. The third year students work on reading books and theses about geographical phenomena, investigation of several subjects in some groups, presentation of various themes, and writing of theses regarding their own researches. The fourth year students work on their own graduation theses throughout of the year.

Before /after each class meeting, students will be expected to spend each 2 hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: making a presentation (50%) and in-class contribution (50%).

HUG400BF（人文地理学 / Human geography 400）

人文地理学演習B（Ⅰ）

増淵 敏之

授業コード：A3919 | 曜日・時限：月2/Mon.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では人文地理学の中のメディア・コンテンツを活用した地域再生を軸にした観光地理学、メディア・コンテンツを軸にした文化地理学を中心に卒業論文作成を目指していきます。文献調査、フィールドワークの手法など卒業論文作成のためのスキルを議論を通じて学んでいきます。3年生は卒業論文のテーマを明確にし、問題意識を高めていき、4年生は卒業論文の作成に取り組んでいきます。授業外では、様々な事象に関心を持ち、適宜、深堀もして下さい。成績は平常点（50％）と発表内容（50％）により評価します。

【到達目標】

- ・研究テーマを明確に設定し、リサーチエスチョン構築、仮説の設定ができる。
- ・研究遂行の上で必要な資料、統計分析、データ化、フィールドワークの手順を把握する。
- ・倫理的で、独自性のある卒業論文を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

3年生は卒業論文のテーマを明確にするため、レクチャーを基にした議論、先行研究サーベイ、グループワークなどを行っていきます。4年生は卒業論文の進捗報告、議論への参加を行っていきます。授業は演習形式、ゼミ生の発表、議論、フィールドワークにより進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	教員自己紹介、学生自己紹介、発表順の確定
第2回	レクチャー	学術論文、文献のサーベイの手法を学ぶ
第3回	レクチャー	教員の研究を基に調査方法について学ぶ。
第4回	4年生の卒業論文のテーマ発表①	研究テーマ、リサーチエスチョン、仮説構築を交えた形での発表
第5回	4年生の卒業論文のテーマ発表②	研究テーマ、リサーチエスチョン、仮説構築を交えた形での発表
第6回	3年生の輪読発表①	テキストの要約を発表、議論
第7回	3年生の輪読発表②	テキストの要約を発表議論
第8回	3年生の輪読発表③	テキストの要約を発表、議論
第9回	3年生の輪読発表④	テキストの要約を発表、議論
第10回	3年生の輪読発表⑤	テキストの要約を発表、議論
第11回	4年生による卒業論文進捗状況発表①	卒業論文の進捗状況、夏季休暇中の調査計画
第12回	4年生による卒業論文進捗状況発表②	卒業論文の進捗状況、夏季休暇中の調査計画
第13回	4年生による卒業論文進捗状況発表③	卒業論文の進捗状況、夏季休暇中の調査計画
第14回	レクチャー	教員の研究を基に調査方法について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外では、様々な事象に関心を持ち、適宜、深堀もして下さい。絶えず卒業論文作成を意識して、必要な文献購読、データ作成、発表のためのレジュメ作成などの授業外の学習時間を確保してもらいたいものです。本授業の復讐、予習等の時間は各2時間程度を希望します。授業の予定は状況により、変更する場合があります。

【テキスト（教科書）】

適宜、紹介します。

【参考書】

適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）と発表内容（50％）により評価します。基本的にはレポート、小テスト等は課しません。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

hoppiiを利用します。

【その他の重要事項】

オフィスアワー月曜日16－18時（新一口坂、5 F15）です。学部のゼミは初めてなので、ご迷惑をおかけすることも多々ありますが、ご容赦ください。不案内な部分は教えてください。また授業計画は状況によって変わることもご理解ください。

【教員経歴】

1981年からNTV映像センター、AIR-G'（FM北海道）、東芝EMI、ソニー・ミュージックエンタテインメントにおいて放送番組、音楽コンテンツの制作及び新人発掘等に長きに渡って従事。

【Outline (in English)】

In this seminar, students will aim to write their graduation thesis, focusing on tourism geography centered on regional revitalization using media and creative works within human geography, and cultural geography centered on media and creative works. Through discussions, you will learn skills for writing a graduation thesis, such as literature research and fieldwork techniques. Third-year students clarify the theme of their graduation thesis and increase their awareness of issues, while fourth-year students work on writing their graduation thesis. Outside of class, please be interested in various phenomena and dig deeper into them as appropriate. Your performance will be evaluated based on your average score (50%) and your presentation content (50%).

HUG400BF（人文地理学 / Human geography 400）

人文地理学演習B（Ⅱ）

増淵 敏之

授業コード：A3920 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では人文地理学の中のメディア・コンテンツを活用した地域再生を軸にした観光地理学、メディア・コンテンツを軸にした文化地理学を中心に卒業論文作成を目指していきます。文献調査、フィールドワークの手法など卒業論文作成のためのスキルを議論を通じて学んでいきます。3年生は卒業論文のテーマを明確にし、問題意識を高めていき、4年生は卒業論文の作成に取り組んでいきます。授業外では、様々な事象に関心を持ち、適宜、深堀もして下さい。成績は平常点（50％）と発表内容（50％）により評価します。

【到達目標】

- ・研究テーマを明確に設定し、リサーチエスチョン構築、仮説の設定ができる。
- ・研究遂行の上で必要な資料、統計分析、データ化、フィールドワークの手順を把握する。
- ・倫理的で、独自性のある卒業論文を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

3年生は卒業論文のテーマを明確にするため、レクチャーを基にした議論、先行研究サーベイ、グループワークなどを行っていきます。4年生は卒業論文の進捗報告、議論への参加を行っていきます。授業は演習形式、ゼミ生の発表、議論、フィールドワークにより進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	教員自己紹介、学生自己紹介、発表順の確定
第2回	レクチャー	学術論文、文献のサーベイの手法を学ぶ
第3回	レクチャー	教員の研究を基に調査方法について学ぶ。
第4回	4年生の卒業論文のテーマ発表①	研究テーマ、リサーチエスチョン、仮説構築を交えた形での発表
第5回	4年生の卒業論文のテーマ発表②	研究テーマ、リサーチエスチョン、仮説構築を交えた形での発表
第6回	3年生の輪読発表①	テキストの要約を発表、議論
第7回	3年生の輪読発表②	テキストの要約を発表議論
第8回	3年生の輪読発表③	テキストの要約を発表、議論
第9回	3年生の輪読発表④	テキストの要約を発表、議論
第10回	3年生の輪読発表⑤	テキストの要約を発表、議論
第11回	4年生による卒業論文進捗状況発表①	卒業論文の進捗状況、夏季休暇中の調査計画
第12回	4年生による卒業論文進捗状況発表②	卒業論文の進捗状況、夏季休暇中の調査計画
第13回	4年生による卒業論文進捗状況発表③	卒業論文の進捗状況、夏季休暇中の調査計画
第14回	レクチャー	教員の研究を基に調査方法について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外では、様々な事象に関心を持ち、適宜、深堀もして下さい。絶えず卒業論文作成を意識して、必要な文献購読、データ作成、発表のためのレジュメ作成などの授業外の学習時間を確保してもらいたいものです。本授業の復讐、予習等の時間は各2時間程度を希望します。授業の予定は状況によって変更もあります。

【テキスト（教科書）】

適宜、紹介します。

【参考書】

適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）と発表内容（50％）により評価します。基本的にはレポート、小テスト等は課しません。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

hoppiiを利用します。

【その他の重要事項】

オフィスアワー月曜日16－18時（新一口坂、5 F15）です。学部のゼミは初めてなので、ご迷惑をおかけすることも多々ありますが、ご容赦ください。不案内な部分は教えてください。また授業計画は状況によって変わることもご理解ください。

【教員経歴】

1981年からNTV映像センター、AIR-G'（FM北海道）、東芝EMI、ソニー・ミュージックエンタテインメントにおいて放送番組、音楽コンテンツの制作及び新人発掘等に長きに渡って従事。

【Outline (in English)】

In this seminar, students will aim to write their graduation thesis, focusing on tourism geography centered on regional revitalization using media and creative works within human geography, and cultural geography centered on media and creative works. Through discussions, you will learn skills for writing a graduation thesis, such as literature research and fieldwork techniques. Third-year students clarify the theme of their graduation thesis and increase their awareness of issues, while fourth-year students work on writing their graduation thesis. Outside of class, please be interested in various phenomena and dig deeper into them as appropriate. Your performance will be evaluated based on your average score (50%) and your presentation content (50%).

HUG400BF (人文地理学 / Human geography 400)

人文地理学演習C（Ⅰ）

小原 文明

授業コード：A3921 | 曜日・時限：木5/Thu.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では各種の作業や調査、プレゼンテーションを通じて、自らの学習成果を発表する力を身に付けることを目標とします。具体的には、3年生は人文地理学に対する関心を広めつつ知識・方法論を獲得することを目指します。4年生はこれまでに身に付けてきた知識・方法論を活かして、オリジナルな卒業論文の作成を目標とします。

【到達目標】

上記のように、本科目を通じて、人文地理学の基礎的な知識や方法論を修得できるようになるとともに、各種の作業や調査、プレゼンテーションを通じて、自らの学習成果を発表する力を身に付けることを目標とします。

具体的には、4年生には適切な問題意識、課題設定、知識（地理学・関連学問）、資料、方法、論理展開、図表作成、文章作成、既往研究上の位置づけの下で、オリジナリティのある卒業論文を執筆することが求められます。また、3年生にはグループワークによる調査・発表・論文作成や、文献講読や関心事項の発表を通じて、4年生時に上記のような卒業論文が作成できるようになるための素地をかためることが求められます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- 本科目はゼミ形式で行います。上記のように3年生と4年生とは到達目標が異なることから、2つのゼミに分けて（木5：3年生用、木6：4年生用）演習を行います。ただし、受講生は全員シラバスの記載通り、木曜日5時限日に受講登録をして下さい。
- 3年生用ゼミでは、春学期には学術書の講読、研究における方法論についての概観および現地フィールドワーク（ブチ巡検）を予定しています。
- 4年生用ゼミでは、一貫して卒業論文の作成に取り組みます。受講生は春学期に3回ずつの発表を行い、皆で討論を展開します。
- 3・4年生全員が集まる合同ゼミも開催し、学年間の交流も図りたいと考えています。また、4年生も3年生ゼミのグループワークに参加してもらい、3年生をサポートしてもらいます。
- また、春学期中には3・4年生合同でゼミ合宿（春合宿）を行います。
- なお、本科目は春学期開講の半期科目ですが、秋学期科目「人文地理学演習C（Ⅱ）」と合わせて受講する必要があります。
- 4月最初の時間には具体的な予定（発表スケジュールなど）を相談の上で決めるので、必ず出席するようにしてください。その際に、秋学期の上記科目の予定についても決めることになるので注意してください。
- 本科目は演習（ゼミナール）形式ですので、課題等のフィードバックは適宜行います。
- 今年度、本科目は基本的に対面形式で行いますが、場合によっては、Zoomによりリアルタイムオンライン形式やハイフレックス形式となる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	3年生：ガイダンス 4年生：ガイダンス	3年生：ゼミの進め方の説明 4年生：ゼミの進め方の説明
第2回	3年生：グループワークの作業 4年生：卒論中間発表1回目	3年生：グループワークのテーマ決定 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第3回	3年生：学術書の講読 4年生：卒論中間発表1回目	3年生：講読・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第4回	3年生：学術書の講読 4年生：卒論中間発表1回目	3年生：講読・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第5回	3年生：学術書の講読 4年生：卒論中間発表1回目	3年生：講読・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第6回	3年生：学術書の講読 4年生：卒論中間発表2回目	3年生：講読・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第7回	3年生：学術書の講読 4年生：卒論中間発表2回目	3年生：講読・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表

第8回	3年生：グループワークの作業 4年生：卒論中間発表2回目	3年生：調査の準備 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第9回	3年生：人文地理学の調査方法・分析方法の検討 4年生：卒論中間発表2回目	3年生：調査・分析の再検討 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第10回	3年生：人文地理学の調査方法・分析方法の検討 4年生：卒論中間発表3回目	3年生：調査・分析の再検討 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第11回	3年生：人文地理学の調査方法・分析方法の検討 4年生：卒論中間発表3回目	3年生：調査・分析の再検討 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第12回	3年生：人文地理学の調査方法・分析方法の検討 4年生：卒論中間発表3回目	3年生：調査・分析の再検討 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第13回	3年生：現地フィールドワーク（ブチ巡検） 4年生：卒論中間発表3回目	3年生：フィールドでの観察・分析 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第14回	3年生：グループワークの作業 4年生：総合討論	3年生：調査の準備 4年生：卒論研究に関する意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当然のことですが、ゼミの時間以外でも調査や発表の準備に力を入れる必要があります。また、自分の興味・関心事項に限らず、常日頃から幅広く情報を得るようにアンテナを張り巡らせるようにしておいてください。したがって、本科目の授業外学習の時間は各回4時間を必要とします。

【テキスト（教科書）】

- 野間晴雄ほか編（2017）：『ジオ・バルNEO—地理学・地域調査便利帖—（第2版）』海青社。
- 本書は地理学を学び、研究する上での必須事項が網羅されているテキストです。本年度はこのテキストを用いて、研究を行う上での方法論を学びます。
- 学術書の講読（3年生ゼミ）の際に用いるテキストは、ガイダンスの際に紹介します。

【参考書】

人文地理学分野の文献に限らず、授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表・課題・成果：60％、討論：40％で評価します。当然ながら、ゼミには必ず出席しなければなりません。その上で、発表内容や討論への参加などゼミへの取り組み姿勢・意欲を重視して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生数により、受講生との相談の上で授業計画の詳細を決定します。

【Outline (in English)】

This seminar deals with the knowledge, skills, methods and ways of thinking which were needed in learning geography. The third year students work on reading books and theses about geographical phenomena, investigation of several subjects in some groups, presentation of various themes, and writing of theses regarding their own researches. The forth year students work on their own graduation theses throughout of the year. Before /after each class meeting, students will be expected to spend each 2 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: making a presentation (60 %) and in-class contribution (40 %).

HUG400BF (人文地理学 / Human geography 400)

人文地理学演習C (Ⅱ)

小原 文明

授業コード：A3922 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では各種の作業や調査、プレゼンテーションを通じて、自らの学習成果を発表する力を身に付けることを目標とします。具体的には、3年生は人文地理学に対する関心を広めつつ知識・方法論を獲得することを目指します。4年生はこれまでに身に付けてきた知識・方法論を活かして、オリジナルな卒業論文の作成を目標とします。

【到達目標】

上記のように、本科目を通じて、人文地理学の基礎的な知識や方法論を修得できるようになるとともに、各種の作業や調査、プレゼンテーションを通じて、自らの学習成果を発表する力を身に付けることを目標とします。

具体的には、4年生には適切な問題意識、課題設定、知識（地理学・関連学問）、資料、方法、論理展開、図表作成、文章作成、既往研究上の位置づけの下で、オリジナリティのある卒業論文を執筆することが求められます。また、3年生にはグループワークによる調査・発表・論文作成、論文紹介や関心事項・論文構想の発表を通じて、4年生時に上記のような卒業論文が作成できるようになるための素地をかためることが求められます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

●本科目はゼミ形式で行います。上記のように3年生と4年生とは到達目標が異なることから、2つのゼミに分けて（木5：3年生用、木6：4年生用）演習を行います。ただし、受講生は全員シラバスの記載通り、木曜日5時限日に受講登録をして下さい。

●3年生用ゼミでは、秋学期には論文紹介、研究における方法論についての概観、関心事項・論文構想の発表、および現地フィールドワーク（プチ巡検）を予定しています。

●4年生用ゼミでは、一貫して卒業論文の作成に取り組みます。受講生は秋学期に3回ずつの発表を行い、皆で討論を展開します。

●3・4年生全員が集まる合同ゼミも開催し、学年間の交流も図りたいと考えています。また、4年生も3年生ゼミのグループワークに参加してもらい、3年生をサポートしてもらいます。

●また、3・4年生合同でゼミ合宿（夏合宿）を行います。

●なお、本科目は秋学期開講の半期科目ですが、春学期科目「人文地理学演習C（Ⅰ）」と合わせて受講する必要があります。したがって、本科目の具体的な予定（発表スケジュールなど）についても春学期の上記科目において決めることになるので注意してください。

●本科目は演習（ゼミナール）形式ですので、課題等のフィードバックは適宜行います。

●今年度、本科目は基本的に対面形式で行いますが、場合によっては、Zoomによりリアルタイムオンライン形式やハイフレックス形式となる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	3年生：グループワークの作業 4年生：卒論中間発表4回目	3年生：調査の展開 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第2回	3年生：グループワークの作業 4年生：卒論中間発表4回目	3年生：調査の展開 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第3回	3年生：学術論文の紹介 4年生：卒論中間発表4回目	3年生：文献紹介のプレゼン・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第4回	3年生：学術論文の紹介 4年生：卒論中間発表4回目	3年生：文献紹介のプレゼン・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第5回	3年生：学術論文の紹介 4年生：卒論中間発表5回目	3年生：文献紹介のプレゼン・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第6回	3年生：学術論文の紹介 4年生：卒論中間発表5回目	3年生文献紹介のプレゼン・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表

第7回	3年生：グループワークの作業 4年生：卒論中間発表5回目	3年生：調査の展開 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第8回	3年生：人文地理学の調査方法・分析方法の検討 4年生：卒論中間発表5回目	3年生：調査・分析の再検討 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第9回	3年生：人文地理学の調査方法・分析方法の検討 4年生：卒論中間発表6回目	3年生：調査・分析の再検討 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第10回	3年生：卒論構想・テーマ発表 4年生：卒論中間発表6回目	3年生：関心事項の発表・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第11回	3年生：卒論構想・テーマ発表 4年生：卒論中間発表6回目	3年生：関心事項の発表・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第12回	3年生：卒論構想・テーマ発表 4年生：卒論中間発表6回目	3年生：関心事項の発表・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第13回	3年生：卒論構想・テーマ発表 4年生：総合討論	3年生：関心事項の発表・討論 4年生：卒論研究に関する意見交換
第14回	3年生：グループワークの報告 4年生：総合討論	3年生：グループワーク発表・討論 4年生：卒論研究に関する意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当然のことですが、ゼミの時間以外でも調査や発表の準備に力を入れる必要があります。また、自分の興味・関心事項に限らず、常日頃から幅広く情報を得るようにアンテナを張り巡らせるようにしておいてください。したがって、本科目の授業外学習の時間は各回4時間を必要とします。

【テキスト（教科書）】

●野間晴雄ほか編（2017）：『ジオ・パルNEO—地理学・地域調査便利帖—（第2版）』海青社。

→本書は地理学を学び、研究する上での必須事項が網羅されているテキストです。本年度はこのテキストを用いて、研究を行う上での方法論を学びます。

●学術書の講読（3年生ゼミ）の際に用いるテキストは、ガイダンスの際に紹介します。

【参考書】

人文地理学分野の文献に限らず、授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表・課題・成果：60％、討論：40％で評価します。当然ながら、ゼミには必ず出席しなければなりません。その上で、発表内容や討論への参加などゼミへの取り組み姿勢・意欲を重視して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者数により、受講生との相談の上で授業計画の詳細を決定します。

【Outline (in English)】

This seminar deals with the knowledge, skills, methods and ways of thinking which were needed in learning geography. The third year students work on reading books and theses about geographical phenomena, investigation of several subjects in some groups, presentation of various themes, and writing of theses regarding their own researches. The forth year students work on their own graduation theses throughout of the year.

Before /after each class meeting, students will be expected to spend each 2 hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: making a presentation (60 %) and in-class contribution (40 %).

HUG400BF (人文地理学 / Human geography 400)

人文地理学演習D (I)

伊藤 達也

授業コード：A3923 | 曜日・時限：木4/Thu.4
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年生は卒業論文を作成します。3年生は本や論文の講読、地域調査を行い、卒業論文作成のための必要知識、手段の獲得を目指します。

【到達目標】

4年生はオリジナリティあふれる優秀な卒業論文の完成が目標です。3年生は次年度に向けての卒業論文作成のための十分な知識と技法を獲得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で行います。4年生と3年生一緒にゼミ実施を前提としています。4年生は春学期3回、秋学期3回の発表を行い、卒論制作に備えます。夏季休暇期間にゼミ合宿を行います。3年生は論文等の講読、卒論構想の発表を行います。また夏季休暇のゼミ合宿時に地域調査を行います。学生の発表に対して授業時間内の議論で対応しますが、足りない場合は授業後も対面に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	レポートの書き方	レポートの書き方について学びます。
第2回	文献検索法	文献の探し方を学びます。
第3回	卒論発表1回目(1)－ テーマの決め方－	4年生の1/3が1回目の発表をします。 卒論のテーマの決め方について学びます。
第4回	卒論発表1回目(2)－客 観性の確保①－	4年生の1/3が1回目の発表をします。 文献提示について学びます。
第5回	卒論発表1回目(3)－客 観性の確保②－	4年生の1/3が1回目の発表をします。 データの収集について学びます。
第6回	3年生発表(1)－地域 調査の概要決定－	3年生の1/3が1回目の発表をします。 地域調査の概要（先行）を決定します。
第7回	3年生発表(2)－テ マの決定－	3年生の1/3が1回目の発表をします。 地域調査のテーマを決定します。
第8回	3年生発表(3)－調 査担当の決定－	3年生の1/3が1回目の発表をします。 地域調査の調査担当を決定します。
第9回	卒論発表2回目(1)－参 考文献の提示－	4年生の1/3が2回目の発表をします。 参考文献の提示について学びます。
第10回	卒論発表2回目(2)－ア ンケート票の作成①－	4年生の1/3が2回目の発表をします。 アンケート票の作成について学びます①。
第11回	卒論発表2回目(3)－ア ンケート票の作成②－	4年生の1/3が2回目の発表をします。 アンケート票の作成について学びます②。
第12回	3年生2回目の発表 (1)－統計データ収集－	3年生の1/3が2回目の発表をします。 統計データの収集について学びます。
第13回	3年生2回目の発表 (2)－地域調査の準備 状況－	3年生の1/3が発表をします。地域調 査の準備状況を説明します。
第14回	3年生2回目の発表 (3)－地域調査の具体 的日程の決定－	3年生の1/3が発表をします。地域調 査の具体的日程を決定します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

3年生は自分の関心領域の研究を進めるとともに常識力を高め、卒論のテーマを確定します。4年生は卒論制作に打ち込みます。本演習の準備・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編（2020）『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房
 山崎 朗ほか（2022）『地域政策（第二版）』中央経済社
 竹中克行編（2015）『人文地理学への招待』ミネルヴァ書房
 藤井 正・神谷浩夫編（2014）『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

成績評価はゼミでの発表内容（50％）と討論への参加程度（50％）で行います。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミをより充実した内容にする予定です。通常授業以外に多くの時間を必要とします

【Outline (in English)】

Course outline

4th grader makes a graduation thesis. 3rd grader reads books and articles and does area investigations, for acquisition of necessary knowledge of graduation thesis.

Learning Objectives

The goal of the 4th grade is to complete an excellent bachelor thesis full of originality. The goal of third graders is to acquire sufficient knowledge and techniques for writing a graduation thesis.

Learning activities outside of classroom

Third graders will pursue research in their area of interest, improve common sense, and finalize the theme of their graduation thesis. Fourth graders devote themselves to bachelor thesis production. The preparation/review time for this exercise is 4hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the content of the presentation at the seminar (50%) and the degree of participation in the discussion (50%).

HUG400BF (人文地理学 / Human geography 400)

人文地理学演習D (Ⅱ)

伊藤 達也

授業コード：A3924 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年生は卒業論文を作成します。3年生は本や論文の講読、地域調査を行い、卒業論文作成のための必要知識、手段の獲得を目指します。

【到達目標】

4年生はオリジナリティあふれる優秀な卒業論文の完成が目標です。3年生は次年度に向けての卒業論文作成のための十分な知識と技法を獲得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で行います。4年生と3年生一緒にゼミ実施を前提としています。4年生は春学期3回、秋学期3回の発表を行い、卒論制作に備えます。3年生は論文等の講読、卒論構想の発表を行います。学生の発表に対して授業時間内の議論で対応しますが、足りない場合は授業後も対面で対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロ	秋学期の予定を説明します。
第2回	地域調査の発表	地域調査結果を発表します。
第3回	卒論発表1回目(1)	4年生の1/3が1回目の発表をします。
第4回	卒論発表1回目(2)	4年生の1/3が1回目の発表をします。
第5回	卒論発表1回目(3)	4年生の1/3が1回目の発表をします。
第6回	3年生発表1回目(1)	3年生の1/3が1回目の発表をします。
第7回	3年生発表1回目(2)	3年生の1/3が1回目の発表をします。
第8回	3年生発表1回目(3)	3年生の1/3が1回目の発表をします。
第9回	卒論発表2回目(1)	4年生の1/3が2回目の発表をします。
第10回	卒論発表2回目(2)	4年生の1/3が2回目の発表をします。
第11回	卒論発表2回目(3)	4年生の1/3が2回目の発表をします。
第12回	3年生発表2回目(1)	3年生の1/3が2回目の発表をします。
第13回	3年生発表2回目(2)	3年生の1/3が2回目の発表をします。
第14回	3年生発表2回目(3) — まとめ—	3年生の1/3が2回目の発表をします。 まとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

3年生は自分の関心領域の研究を進めるとともに常識力を高め、卒論のテーマを確定します。4年生は卒論制作に打ち込みます。本演習の準備・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編（2020）『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房

山崎 朗ほか（2022）『地域政策（第二版）』中央経済社

竹中克行編（2015）『人文地理学への招待』ミネルヴァ書房

藤井 正・神谷浩夫編（2014）『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

成績評価はゼミでの発表内容（50%）と討論への参加程度（50%）で行います。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミをより充実した内容にする予定です。通常授業以外に多くの時間を必要とします

【Outline (in English)】

Course outline

4th grader makes a graduation thesis. 3rd grader reads books and articles and does area investigations, for acquisition of necessary knowledge of graduation thesis.

Learning Objectives

The goal of the 4th grade is to complete an excellent bachelor thesis full of originality. The goal of third graders is to acquire sufficient knowledge and techniques for writing a graduation thesis.

Learning activities outside of classroom

Third graders will pursue research in their area of interest, improve common sense, and finalize the theme of their graduation thesis. Fourth graders devote themselves to bachelor thesis production. The preparation/review time for this exercise is 4 hours each.

Grading Criteria / Policy

Grades will be evaluated based on the content of the presentation at the seminar (50%) and the degree of participation in the discussion (50%).

BSP100BF（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミ I（文・地理）

伊藤 達也

授業コード：A3927 | 曜日・時限：木3/Thu.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年
備考（履修条件等）：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目のテーマは、いわゆる「読み、書き、ソロバン」といった、これから大学で学ぶための基礎的な事柄を習得する点にあります。現代に即して言えば「読んで、書いて、話す」+「コンピュータ（本講義では扱いません）」でしょうか。従って本授業では、大学教育において必要な「読んで、書いて、話す」知識、テクニックについてを学び、修得を目指します。

【到達目標】

「文献や資料が適切に読めるようになること」、「プレゼンテーションが適切にできるようになること」、「文章が適切に書けること」が具体的な到達目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

原則としてゼミ形式で行います。従いましてゼミ生の積極的な参加が不可欠となります。ゼミ内での発表が基本となり、授業内での学生相互の意見の提出、応答が求められます。ゼミ全体のまとめとしてレポート提出を予定しており、レポートはコメントを付けて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロ	本科目の目的について説明します。
2	論文の書き方	論文作成に必要な基礎知識の解説を行います。
3	文献検索の仕方(1)	文献の調べ方について解説します。
4	文献検索の仕方(2)	ネット検索について学びます。
5	科学的なプレゼンテーション	プレゼンテーションの仕方について学びます。
6	プレゼンテーション(1)	ゼミ生の1/9がテーマ発表をします。プレゼンテーションのチェックをします(1)
7	プレゼンテーション(2)	ゼミ生の1/9がテーマ発表をします。プレゼンテーションのチェックをします(2)
8	プレゼンテーション(3)	ゼミ生の1/9がテーマ発表をします。プレゼンテーションのチェックをします(3)
9	プレゼンテーション(4)	ゼミ生の1/9がテーマ発表をします。プレゼンテーションへの質問の仕方を学びます(1)
10	プレゼンテーション(5)	ゼミ生の1/9がテーマ発表をします。プレゼンテーションへの質問の仕方を学びます(2)
11	プレゼンテーション(6)	ゼミ生の1/9がテーマ発表をします。プレゼンテーションへの質問の仕方を学びます(3)
12	プレゼンテーション(7)	ゼミ生の1/9がテーマ発表をします。質問に対する答えの仕方を学びます(1)
13	プレゼンテーション(8)	ゼミ生の1/9がテーマ発表をします。質問に対する答えの仕方を学びます(2)
14	プレゼンテーション(9)	ゼミ生の1/9がテーマ発表をします。質問に対する答えの仕方を学びます(3)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で課される事柄を次週までの間に調べておいてください。各自の発表を丹念に行うとともに、他人の発表へのコメントを欠かさず行うための準備も必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ありません。

【参考書】
講義の中で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

各発表による評価50％、講義への参加度50％で行います。ゼミ形式の科目なので通常の試験は実施しません。毎回、ゼミに参加し、内容の理解に努め、討論に参加してください。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすいしゃべり方を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用します。

【その他の重要事項】

とくにありません。

【Outline (in English)】

(Course outline) (Learning Objectives) The theme of this course is to learn the basics for studying at university, such as so-called "reading, writing, and abacus." In modern times, it would be "reading, writing, speaking" + "computer (not covered in this lecture)". Therefore, in this class, we aim to learn and master the knowledge and techniques of "reading, writing, and speaking" that are necessary for university education.

(Learning activities outside of classroom) The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy) 50% evaluation for each presentation and 50% participation in lectures. Since this is a seminar-style course, there will be no regular exams. Please participate in each seminar, try to understand the content, and participate in the discussion.

BSP100BF（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミ I（文・地理）

米家 志乃布

授業コード：A3928 | 曜日・時限：木3/Thu.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年

備考（履修条件等）：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学では、高校までの受け身の学習とは異なり、自ら能動的に学ぶ姿勢が求められます。つまり、学習に必要な情報収集や情報発信に関わる能力や積極的に自ら学習する意欲が必要です。本授業のテーマは、大学生として必要な学習スキルの修得です。

【到達目標】

このゼミでは、専門ゼミに入る前段階として、大学生として必要な学習スキルを身につけることが目標です。具体的には、文献収集の仕方や文献の読み方、プレゼンテーションの方法、レポートの書き方などを修得することが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的な内容として、図書館での文献検索の実習、文献の収集方法、文献の読み方と内容の要約、テーマに沿ったプレゼンテーションの練習、レポートの作成方法などを学習します。大学生として、主体的に各課題に取り込んでください。課題については、Google クラウドにすべてアップし、受講生で共有します（紙での配布はしません）。クラウドにアップされた課題の内容に対しては、教員よりコメントを付し、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明、成績評価の方法、受講者による自己紹介など
第2回	文献検索の方法	図書館の文献の探し方を学ぶ
第3回	フィールドワーク	大学周辺の巡検（江戸東京を学ぶ）
第4回	テキストの要約1～3	さまざまな土地区画
第5回	文献の要約4～5	碁盤目区画の成立と展開
第6回	文献の要約6～7	旧世界・新世界の多様な土地区画
第7回	文献の要約8～9	近現代日本の方格子地割
第8回	問題意識とテーマ設定	東京をフィールドにして、グループワークをする
第9回	プレゼンテーションの練習①	東京の地形、気候、植生など自然地理グループの発表
第10回	プレゼンテーションの練習②	東京の工業、商業、農業など経済グループの発表
第11回	プレゼンテーションの練習③	江戸や東京の名所、東京の衣食住など歴史文化グループ
第12回	プレゼンテーションの練習④	東京の環境問題、都市問題など社会グループ
第13回	プレゼンテーションの練習⑤	東京における余暇活動、レジャーなど観光グループ
第14回	最終レポートの作成	レポートの書き方・まとめ方を説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

金田章裕『なぜ日本には碁盤目の土地が多いのか』日経プレミアムシリーズ、990円（税込）

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点50％、レポート25％、プレゼンテーション25％

【学生の意見等からの気づき】

各自のテーマ設定を「東京」を地理学的に分析するかたちで統一したところ、テーマが設定しやすく好評でしたので引き続きそのかたちで行います。

【学生が準備すべき機器他】

Google クラウドでの資料配信を行い、共有します。紙では配布しません。パワーポイントの作成もします。必ず各自でPCやタブレットなどの機器類を準備してください（スマートフォンでは対応しきれません）。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course examines academic skills for studying in university.

【Learning Objectives】 The main purpose is collecting information presentation skills and writing papers.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Presentation: 25%、Short reports : 25%、in class contribution: 50%

BSP100BF（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミ I（文・地理）

山口 隆子

授業コード：A3929 | 曜日・時限：木3/Thu.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年
備考（履修条件等）：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学では、高校までの受け身の学習とは異なり、自ら能動的に学ぶ姿勢が求められます。つまり、学習に必要な情報収集や情報発信に関わる能力や積極的に自ら学習する意欲が必要です。本授業のテーマは、大学生として必要な学習スキルの修得です。

【到達目標】

大学生として必要な学習スキルを身につけることが目標です。具体的には、文献収集や読み方、プレゼンテーションの方法、レポートの書き方などを修得することが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

文献検索の実習、文献の収集、文献の読み方と内容の要約、テーマに沿ったプレゼンテーションの練習、レポートの作成方法などを学習します。提出されたリアクションペーパーやレポートには、コメントを付けて返却します。対面での講義が実施できない場合、ZOOMによるオンライン授業になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに～ガイダンス	授業内容の説明、成績評価の方針、受講者による自己紹介など
第2回	大学での学びとは	大学で学ぶことの意味を考える。
第3回	キャンパス探検	キャンパス内及び周辺を、地図を片手に歩く。
第4回	図書館ガイダンス	情報検索や図書検索の方法などを学習します。
第5回	雑誌論文と専門書	地理学科図書室で専門書や雑誌論文を手にとってみます。
第6回	レポートの書き方①書式について	レポートを書くための基本的スキル（書式）を学習します。
第7回	レポートの書き方②内容について	レポートを書くための基本的スキル（内容構成）を学習します。
第8回	レポートの作成①資料収集方法	実際にレポートを作成してみます。そのための資料探しから始めます。
第9回	レポートの作成②Wordの使用方法	レポートを書いてみます。
第10回	プレゼンテーション①PowerPointの使用方法	プレゼンテーションの基礎的技法について解説する。
第11回	プレゼンテーション②第1回	作成したレポートにそって各自プレゼンテーションを行う。出席番号1～8
第12回	プレゼンテーション③第2回	作成したレポートにそって各自プレゼンテーションを行う。出席番号9～18
第13回	プレゼンテーション④第3回	作成したレポートにそって各自プレゼンテーションを行う。出席番号19～25
第14回	卒業後の進路	本授業のまとめと、卒業後の進路について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『学習支援ハンドブック 2025』を使用する。

【参考書】

小笠原喜康（2018）：『最新版 大学生のためのレポート・論文術』。講談社現代新書，234p。
沼崎一郎（2018）：『はじめての研究レポート作成術』。岩波書店，242p。
高橋佑磨・片山なつ（2021）：『伝わるデザインの基本 増補改訂3版 よい資料を作るためのレイアウトのルール』。技術評論社，256p。
宮野公樹（2013）：『研究発表のためのスライドデザイン』。講談社，176p。

【成績評価の方法と基準】

到達目標欄に記載した各目的の達成度を評価基準とし、次の要素配分で評価を行う。
レポート・課題：50％、発表：50％

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

指示された授業時に個人用のパソコン（個人所持のもの、あるいは大学からの貸し出しパソコン）を用意すること。

【その他の重要事項】

地方公務員（技術職）として20年間勤務していた経験を活かし、大学での学びから就職に関するライフサイクルについて講義していきます。

【Outline (in English)】

The theme of this class is the acquisition of learning skills necessary for university students.

The goal is to acquire the study skills necessary to be a university student. Specifically, the goal is to master how to collect and read literature, how to give presentations, and how to write reports.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Some practical assignments may be given in each lecture, so students are expected to fulfill them in their home study and attend the class.

Final grade will be calculated according to the following Mid-term reports(50%), and assignments in the lecture(50%).

BSP100BF（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミ I（文・地理）

福興 直人

授業コード：A3930 | 曜日・時限：木3/Thu.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年
備考（履修条件等）：ILAC100番台0群として履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「読む」「書く」「発表する」という大学生に必要な基本スキルを段階的に習得し、それを他者との協働の関係づくりの中で活用する方法を学びます。具体的には、情報収集、文献の読解と要約、論理的な文章作成、効果的なプレゼンテーション技術の習得に取り組みます。

【到達目標】

1. テキストを構造的かつ批判的に読む力を習得する。
2. レポート作成に必要な基本スキル（テーマ設定、引用、構成）を身につける。
3. 効果的なプレゼンテーション資料を作成し、相手に分かりやすく伝える技術を習得する。
4. 他者とのディスカッションや相互レビューを通じて、協働的に学ぶ姿勢を育成する。
5. 学びの過程で得たスキルを他の科目や今後の学習に応用する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、講義形式、演習形式、グループワークを組み合わせて進めます。具体的な要素として、以下を取り入れます：

講義：各テーマに関する基本的な知識を教員が解説します。必要に応じてスライドや板書を使用します。

演習：実際の文献を用いた読解や要約の練習、レポートのアウトライン作成、発表資料の作成など、実践的な課題に取り組みます。

グループワーク：学生間のペアワークやディスカッションを通じて、他者の視点を取り入れながら自身の課題を見直し、改善します。

プレゼンテーション：授業後半ではグループごとにプレゼンテーションを行い、発表と質疑応答を通じて学びを深めます。

フィードバック：提出された課題やプレゼンテーションに対するフィードバックは、授業内や学習支援システムを通じて提供します。また、学生からの質問や意見に応じて、授業中に双方向のやり取りを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と進行方法の説明を行う。 他已紹介を行う。
2	ノートテイク	講義でのノートの取り方などを学習する。
3	文献の調べ方	図書館等における文献の検索方法を学ぶ。
4	ネット情報の調べ方	ネット情報の調べ方、およびそこで得られた情報の取り扱いについて学ぶ。
5	テキストを読む（1）	テキストを構造的に理解するスキルについて学ぶ。
6	テキストを読む（2）	前回学んだ手法を用いて、より複雑なテキストの分析を行う。
7	テキストを読む（3）	資料の要約方法について学ぶ。
8	レポートを書く（1）	レポートを作成するための基本事項や引用の方法について学ぶ。
9	レポートを書く（2）	アウトラインを作成し、相互にレビューする。
10	レポートを書く（3）	アウトラインを基に下書きを作成し、相互にレビューする。
11	プレゼンテーション（1）	プレゼンテーションの基本的な構成を学ぶ。
12	プレゼンテーション（2）	グループ内でテーマを設定する。 プレゼンテーション資料のデザインにおける基本を学ぶ。 グループ内で構成を考える。
13	プレゼンテーション（3）	グループ内でリハーサルを行い、相互にフィードバックを行う。
14	プレゼンテーション（4）	グループごとにプレゼンテーションを行い、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業後に、授業内容の復習と課題への取り組みが求められます。学習時間の目安として、授業1回につき2時間程度を推奨します。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

使用しない

【成績評価の方法と基準】

授業内での貢献度（態度・意欲）が50%、レポートおよび発表を50%として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course helps students acquire fundamental skills essential for university studies, including reading, writing, and presenting. Students will also learn how to utilize these skills to encourage collaborative relationships. Specifically, the course covers information collection, critical reading and summarization of texts, logical writing, and effective presentation techniques.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to:

Read texts structurally and critically.

Acquire fundamental skills for report writing, including theme setting, citing sources, and structuring content.

Create effective presentation materials and deliver clear and engaging presentations.

Collaborate with peers through discussions and mutual reviews.

Apply acquired skills to other courses and lifelong learning.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Students will be expected to review the course content and complete assignments after each class. Your required study time will be approximately 2 hours per session.

【Grading Criteria /Policy】

The final grade will be based on the following components:

Class participation (engagement and active involvement): 50%

Reports and presentations: 50%

GEO400BF（地理学 / Geography 400）

地理学研究法基礎（1）

前杵 英明、山口 隆子、小寺 浩二

授業コード：A3931 | 曜日・時限：木1/Thu.1
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：2023年度以降入学者のみ受講可
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、3年次以降に卒論作成のための演習（ゼミ）で実践的な研究法を学ぶ前に、地理学の研究方法についての基本的な概念や枠組みについて理解することを目的としている。本授業の内容を修得すれば、3年次以降の演習（ゼミ）にスムーズにステップアップすることができる。なお、本授業では主として自然地理学分野の内容について学ぶ

【到達目標】

本授業の目標は、地理学の研究成果の基本的な構造を理解し、研究論文を効率良く読み解く手法を身に付けることである。地理学の研究論文はどのようなパートで構成されているのか、その中で重要なパートは何か、どのような順序で読んで行くのが効率的か、そして研究論文から読み取るべき基本的内容は何か、とりわけ地理学の各分野における主な研究方法（調査方法や分析・解析方法など）や研究資料などについて理解する。卒論を作成するために既存の研究論文を収集し、その中から必要な情報を効率良く抽出する術を修得できれば、ホップ（本授業）、ステップ（3年ゼミ）、ジャンプ（卒論作成）により、充実した卒業論文を完成させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、主として地理学の各分野の研究論文等の文献を通じて、その分野の研究手法などの基礎的な内容を学ぶものである。したがって、実際に研究論文を読む作業を伴う。各回の授業では地理学の各分野における研究方法等について解説がなされる。なお、課題やリアクションペーパーに対するフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地理学とは、科学とは、卒論とは	本演習の導入的内容
第2回	地理学における研究論文の種類	一般的な学会誌で採用されている研究論文の種類について学ぶ
第3回	研究論文解題1	主に地形分野の研究論文について構造を読み解く
第4回	研究論文解題2	主に地形分野の研究論文について構造を読み解く
第5回	研究論文解題3	主に地形分野の研究論文について構造を読み解く
第6回	気候学の研究とは	気候学の研究手法について解説する
第7回	気候学の研究論文とは	主要な学会誌並びに学会誌以外の気候学の研究論文の探索について
第8回	研究論文解題1	主に気候分野の研究論文について構造を読み解く
第9回	研究論文解題2	主に気候分野の研究論文をレビューする
第10回	研究論文解題3	主に気候分野の研究論文紹介を行う
第11回	文献レビューの基礎	形式に従った文献レビューの方法について学ぶ

第12回	文献レビュー	3編の論文の要旨をまとめ、図表などをもとに考察したレビューを作成する
第13回	レビューをもとにした課題の抽出と研究方法	選定したテーマに関する文献レビューから、課題を抽出し、研究方法を示す
第14回	選定した自然地理学分野の諸課題についてのプレゼンテーション	レビューをもとに、課題・研究方法・期待される成果などについて、プレゼンテーションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の性質上、地理学分野の研究論文等の文献を読むことが求められる。なお、本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

通しでの教科書は使用しないが、地理実習（2）で使用したジオ・パルネオの一部は利用することがある。

【参考書】

野間ほか（2017）：「ジオ・パルネオ」海青社。
木村 学（2013）：「地質学の自然観」東京大学出版会。
中谷宇吉郎（1958）：「科学の方法」岩波新書。
小野映介・前田洋介（2024）：「地理学で卒業論文を書こう」古今書院。

【成績評価の方法と基準】

それぞれの担当教員が担当授業回数に応じて採点し、100点満点で評価する。リアクションペーパーや小テスト、課題、レポート等の平常点で総合的に評価する。期末試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

前年のリアクションペーパーや小テストの結果をもとに、講義内容を修正する。毎回の結果からも微修正を行う。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is for students to understand the basic concepts and frameworks of research methods in geography before learning practical research methods in seminars for graduation thesis writing after the third grade. If you master the content of this class, you will be able to smoothly step up to the seminars after the third grade. You will mainly learn about the content of Physical Geography in this class.

HUG400BF（人文地理学 / Human geography 400）

地理学研究法基礎（2）

佐々木 達、米家 志乃布

授業コード：A3932 | 曜日・時限：木1/Thu.1
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：2023年度以降入学者のみ受講可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、3年次以降に卒論作成のための演習（ゼミ）で実践的な研究法を学ぶ前に、地理学の研究方法についての基本的な概念や枠組みについて理解することを目的としている。本授業の内容を修得すれば、3年次以降の演習（ゼミ）にスムーズにステップアップすることができる。なお、本授業では主として人文地理学分野の内容について学ぶ。

【到達目標】

本授業の目標は、地理学の研究成果の基本的な構造を理解し、研究論文を効率良く読み解く手法を身に付けることである。地理学の研究論文はどのようなパートで構成されているのか、その中で重要なパートは何か、どのような順序で読んで行くのが効率的か、そして研究論文から読み取るべき基本的な内容は何か、とりわけ地理学の各分野における主な研究方法（調査方法や分析・解析方法など）や研究資料などについて理解する。卒論を作成するために既存の研究論文を収集し、その中から必要な情報を効率良く抽出する術を修得できれば、ホップ（本授業）、ステップ（3年ゼミ）、ジャンプ（卒論作成）により、充実した卒業論文を完成させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、主として地理学の各分野の研究論文等の文献を通じて、その分野の研究手法などの基礎的な内容を学ぶものである。したがって、実際に研究論文を読む作業を伴う。各回の授業では地理学の各分野における研究方法等について解説がなされる。なお、課題やリアクションペーパーに対するフィードバックは授業内で行う。授業の担当教員は2名である。2024年度の授業では、前半（第1回～第7回）を佐々木、後半（第8回～第14回）を米家が担当する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／論文とは	論文の読み方、論文のから得られる情報
第2回	人文地理学の研究法1	工業地理分野の研究法
第3回	人文地理学の研究法2	農業地理分野の研究法
第4回	人文地理学の研究法3	商業・流通地理分野の研究法
第5回	人文地理学の研究法4	都市地理分野の研究法
第6回	人文地理学の研究法5	政治・行政地理分野の研究法
第7回	人文地理学の研究法6／小括	社会地理分野の研究法／前半のまとめ
第8回	人文地理学の研究法7	歴史地理分野（景観復原・過去の歴史空間、遺産、史蹟など）の研究法
第9回	人文地理学の研究法8	歴史地理分野（地図・画像資料・地理的認識、風景論）の研究法
第10回	人文地理学の研究法9	観光地理分野（観光地の形成、観光客の動向、観光施設の立地など）の研究法
第11回	人文地理学の研究法10	観光地理分野（観光地の景観、観光地・場所のイメージなど）の研究法
第12回	人文地理学の研究法11	文化地理分野（文化現象、伝統の創造、宗教・民俗など）の研究法
第13回	人文地理学の研究法12	文化地理分野（新しい文化地理学、地理思想、ジェンダーなど）の研究法
第14回	本授業のまとめ	人文地理学分野の卒業論文作成にむけて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の性質上、地理学分野の研究論文等の文献を読むことが求められる。なお、本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

・岡本耕平監修・阿部康久ほか編（2022）：『論文から学ぶ地域調査—地域について卒論・レポートを書く人のためのガイドブック—』ナカニシヤ出版。
・梶田 真ほか編（2007）：『地域調査とははじめ—あるく・みる・かく—』ナカニシヤ出版。
・野間晴雄ほか編著（2017）：『ジオ・バルNEO—地理学・地域調査便利帖—』（第2版）海青社。

その他、適宜授業内で多くの文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

それぞれの担当教員が持ち点50点ずつで、リアクションペーパーや小テスト、課題、レポート等の平常点で総合的に評価する。期末試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

授業内で文献の検索や地理院地図での確認作業などを行ったり、学習支援システムの資料を利用したりするため、ノートPCなどの機器類を授業に持参すること。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is for students to understand the basic concepts and frameworks of research methods in geography before learning practical research methods in seminars for graduation thesis writing after the third grade. If you master the content of this class, you will be able to smoothly step up to the seminars after the third grade. You will mainly learn about the content of Human Geography in this class.

GEO200BF（地理学 / Geography 200）

基礎統計学**矢部 直人**

授業コード：A3933 | 曜日・時限：火2/Tue.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：地理学科2022年度以前入学生は「数理地理学（1）〈A3465〉」として履修する。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年では膨大な地理情報が蓄積されるようになっており、データ分析に対する需要が高まっている。データの取得に関して、公開されているデータの入手、およびアンケート調査の実施について学ぶ。また、データ分析手法に関して、基本的な統計分析の手法に加えて、地理情報を対象とした空間分析手法について学ぶ。

【到達目標】

- ・さまざまなデータを入手することができる
- ・基本的な統計分析ができる
- ・基本的な空間分析ができる
- ・空間分析手法を使った研究の事例について説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。レポートなど課題に対して授業中にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	計量革命とGIS	ガイダンス、地理行列、OD行列、点・線・面
第2回	データの入手	地域統計、統計地図
第3回	基礎統計量とグラフ表現	平均、標準偏差、データの可視化による地域特性の検討
第4回	アンケート調査1	サンプリングと調査法、質問票の作成
第5回	アンケート調査2	クロス集計、検定と推定
第6回	基本的な統計処理	相関、回帰
第7回	多変量解析	クラスター分析、主成分分析、因子分析
第8回	点データの分析1	点分布パターンの分析
第9回	点データの分析2	集積の検出
第10回	線データの分析	ネットワーク分析
第11回	流動データの分析	空間的相互作用モデル、近接性
第12回	面データの分析1	空間的自己相関
第13回	面データの分析2	地理的加重回帰分析、二次元回帰分析
第14回	試験・まとめと解説	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポートを作成する。

適宜、参考書に挙げた文献や、授業中に紹介された文献を読む。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】**●空間分析**

浅見泰司・薄井宏行編 2020.『あいまいな時空間情報の分析』古今書院.

岡部篤行・村山祐司編 2006.『GISで空間分析—ソフトウェア活用術』古今書院.

貞広幸雄・山田育穂・石井儀光編 2018.『空間解析入門』朝倉書店.

杉浦芳夫編 2003.『地理空間分析』朝倉書店.

村山祐司・駒木伸比古 2013.『新版 地域分析—データ入手・解析・評価』古今書院.

●統計学

朝野熙彦 2000.『入門多変量解析の実例 第2版』講談社.

栗原伸一 2001.『入門統計学—検定から多変量解析・実験計画まで』オーム社.

栗原伸一 2021.『入門統計学 第2版—検定から多変量解析・実験計画まで』オーム社.

小島寛之 2006.『完全独習 統計学入門』ダイヤモンド社.

吉田耕作 2003.『経営のための直感的統計学』日経BP社.

吉田耕作 2006.『直感的統計学』日経BP社.

【成績評価の方法と基準】

数回のレポート（30％）、期末試験（70％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

授業回によっては、ノートPCでExcelを使った簡単な作業を予定している。作業をする授業回では、事前にノートPCを持参するよう指示する。なお、タブレットのExcelでは分析機能が絞られているため作業ができないことがある。基本的に対面で授業を実施する予定だが、授業回によってはZoomを使ったオンライン授業に変更する可能性がある。

【その他の重要事項】

この授業は地域調査士の認定科目である。

【Outline (in English)】

Course outline:

This course introduces students to basic statistical and spatial analysis methods.

Learning Objectives:

Able to obtain a variety of data.

Can perform basic statistical analysis.

Can perform basic spatial analysis.

Can describe examples of studies using spatial analysis methods.

Learning activities outside of classroom:

Prepare a report.

Read the references listed in the reference books and the literature introduced in class.

Grading Criteria /Policy:

Evaluation will be based on full report (30%), and final exam (70%).

GEO200LA（地理学 / Geography 200）

観光地理学

呉羽 正昭

授業コード：A3934 | 曜日・時限：月5/Mon.5
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

受講生は、観光・ツーリズムに関する地理学の一般的概念を学びます。観光地理学を理解するために必要な諸概念（観光・ツーリズムの概念や構造など）、さまざまな地域スケールでツーリズムに関する特徴について理解します。また、ツーリズムの時間的・地域的展開みられる諸特徴と問題点、将来の課題について、日本における具体的な地域事例とともに理解します。

【到達目標】

この授業は、観光の概念および観光地理学の方法論を習得すること、環境と観光・ツーリズムとの関係について、日本におけるツーリズムの地域的特徴について理解することを目標とします。ツーリズムやさらにそれを取り巻く生活・文化に関する地域的特色の理解を通じて、広い視野で現代社会を主体的に考察する視点を獲得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式です。理解を深めてもらうために、リアクションペーパーを活用します。準備学習のまとめに使用するとともに、意見・質問の記入も含めて講義内容に関する課題をまとめてもらい、不明点を次回以降の講義で説明することを通じて理解度を確認していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義テーマの概説
第2回	観光・ツーリズムの概念 —観光やツーリズムとは何か？	観光やツーリズムとは何かを解説します
第3回	観光・ツーリズムの構造 —観光・ツーリズムの要素と構造	観光・ツーリズムの要素や構造を解説します
第4回	観光地理学の概念 —概念および方法論	観光地理学の概念および方法論を解説します
第5回	観光地域の変容プロセス —モデルの解説	モデルに基づいて観光地域の変容プロセスを解説します
第6回	観光・ツーリズムの変遷 —古代～マスツーリズム時代～新しいツーリズムの出現	ツーリズムの変遷について解説します
第7回	エコツーリズムの発展プロセス	エコツーリズムの発展プロセスを解説します
第8回	エコツーリズムの特徴と展望 —西表島や屋久島などにおけるエコツーリズム	西表島や屋久島などの事例をもとにエコツーリズムの特徴や課題を解説します
第9回	日本の避暑ツーリズムの地域的展開	避暑の地域的展開に関して解説します
第10回	日本の湯治・温泉ツーリズムの地域的展開	湯治・温泉ツーリズムの地域的展開に関して解説します

第11回	日本のルーラル・ツーリズムの地域的展開	ルーラル・ツーリズムの地域的展開に関して解説します
第12回	日本のスキー・ツーリズムの地域的展開 —明治期～高度経済成長期	明治期から高度経済成長期までのスキー・ツーリズムの地域的展開に関して解説します
第13回	日本のスキー・ツーリズムの地域的展開 —バブル期以降	バブル期以降のスキー・ツーリズムの地域的展開に関して解説します
第14回	まとめ	全体のまとめと総括をします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ毎回、次回講義のトピックに関する課題を出すので、既存文献やインターネットなどで自ら予習して準備します。また、講義中に示された参考文献等で講義内容の理解を深めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中の説明で使用する図表が印刷された資料を配布します。参考文献は講義の中でトピックに応じて随時紹介します。

【参考書】

岡本伸之編 2001『観光学入門』有斐閣。
 溝尾良隆編 2009『観光学の基礎』原書房。
 （財）日本交通公社編 2004『観光読本第2版』東洋経済新報社。
 真板昭夫・石森秀三・海津ゆりえ編 2011『エコツーリズムを学ぶ人のために』世界思想社。
 ピアス，D. 著，内藤嘉昭訳 2001『現代観光地理学』明石書店。
 江口信清・藤巻正己編 2011『観光研究レファレンスデータベース』ナカニシヤ出版。
 呉羽正昭 2017『スキーリゾートの発展プロセス：日本とオーストリアの比較研究』二宮書店。
 矢ヶ崎典隆・山下清海・加賀美雅弘編 2018『グローバリゼーション 縮小する世界』朝倉書店。

【成績評価の方法と基準】

この講義の目標に達したかどうかを期末試験と平常点で評価します。期末試験の評価割合は全体の60％です。毎時間の講義内容の理解度を問う復習課題と次回の講義内容に関する予習課題等の記載内容をそれぞれ評価して平常点（全体の40％）とします。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライド進行の速さについて注意します。

【Outline (in English)】

Students can study basic concept of geography related to tourism. Students can understand various concepts necessary for understanding geography of tourism (concepts and structures of tourism and sightseeing, etc.) and features related to tourism on various regional scales. In addition, Students learn various features, problems and future challenges of tourism that encompasses it, while understanding specific regional examples in Japan.

At the end of the course, students are expected to understand the methodology of tourism geography and the regional characteristics of tourism in Japan.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 60% and Short reports: 40%.

GEO200LA（地理学 / Geography 200）

政治地理学

加賀美 雅弘

授業コード：A3935 | 曜日・時限：水4/Wed.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義はヨーロッパの地理的特徴を食と景観に着目して考察する。前半は、ヨーロッパの食が自然環境と社会によって規定されてきたことを、いくつかの食材に着目して検討し、社会の格差について考える。後半は、ヨーロッパの街並みに着目して、国民と社会の関係について検討する。

【到達目標】

食と景観に着目し、歴史的、空間的に形成されてきたヨーロッパの社会の格差や階層を理解することによって、ヨーロッパという地域を地理学的な視点から理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行われる。基本的にはパワーポイントを使用し、配布資料とあわせて講義内容の理解をはかる。また、毎時間に課すリアクションペーパーで学習内容の理解度を確認し、その総括を次の授業で解説する。また、出された質問に対する回答も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の全体像および進め方を説明する。
第2回	世界の食の地域差	自然・文化・社会と食の関係を考える。
第3回	ヨーロッパの食の地域差	自然と社会と食の関係を考える。
第4回	ヨーロッパにおける貧困層と食	社会的弱者をトウモロコシとジャガイモから考える。
第5回	ヨーロッパにおける富裕層と都市	産業化によって出現した富裕層と都市との関わりについて考える。
第6回	ヨーロッパにおける富裕層と食	都市の社会的強者をカフェを事例にして考える。
第7回	中間まとめ（試験を含む）	授業内容を整理し、ヨーロッパの食と自然・社会についての理解を確認する。
第8回	統合の個性化のヨーロッパ	EUによるヨーロッパ統合と諸地域の個性化について考える。
第9回	ヨーロッパの都市の構造	旧市街を中心にしたヨーロッパの都市構造について考える。
第10回	ヨーロッパにおける街並みの形成	19世紀ヨーロッパの都市における街並み整備の特徴とその理由について考える。
第11回	ヨーロッパにおける街並みの保存	都市において維持・復元される街並みの特徴と、その理由について考える。
第12回	ヨーロッパにおける外国人の街並み	増加する外国人の街並みについて考える。
第13回	ヨーロッパにおける街並みをもたない人々	街並みをもたないロマについて考える。

第14回 最終まとめ（試験を含む） 授業内容を整理し、ヨーロッパの街並みと国民、社会との関わりについての理解を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、テキストを読んで内容を整理しておく。復習として、授業で学んだ内容をテキストを読み直してまとめる作業を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『食で読み解くヨーロッパ地理研究の現場から』 加賀美雅弘著、朝倉書店、3000円

【参考書】

『国境で読み解くヨーロッパ境界の地理紀行』 加賀美雅弘著、朝倉書店、3000円

【成績評価の方法と基準】

第7回の中間まとめに実施する試験33％、第14回の最終まとめに実施する試験：33％、授業中に課すリアクションペーパーの内容：34％

【学生の意見等からの気づき】

授業内で行うリアクションペーパーに授業に関する質問や意見を記載することによって、その内容をできるだけ次の授業に反映させる。

【Outline (in English)】

This lecture examines the geographical characteristics of Europe by focusing on food and landscape. In the first half, we will examine the fact that European food has been determined by the natural environment and society, focusing on some ingredients, and consider social disparities. In the second half, we will focus on the streetscape of Europe and examine the relationship between nation and society. The goal of the course is to understand the disparities and hierarchies of European society that have been historically and spatially formed. Your overall grade in the class will be decided based on the following, examinations taken in the 7th class (33%) and in the last class (33%), and reaction paper in every class (34%)

HUG400BF (人文地理学 / Human geography 400)

人文地理学演習F (I)

村田 陽平

授業コード：A3936 | 曜日・時限：金4/Fri.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、文化・社会地理学に包含される論題を用意した受講生が、卒業論文を完成させるための、①テーマの設定とそれを練り上げる作業、②練り上げたテーマに沿った調査研究の実施状況を報告し、他の受講生と議論を交わす中間発表、③最終的な論文完成に向かった論点の整理、といった過程を進めるためのものである。

【到達目標】

春学期に行なわれるこの授業では、上記概要の①および②を中心に進め、執筆する卒業論文の概略を固めることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

論題を抱えた受講生の発表と、それに対する討論を中心に、授業を進めてゆく。課題等の提出・フィードバックは対面で行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業方針の説明と各受講生の卒業論文作成スケジュールの確認
第2回	論題の表明	全受講生による方針の発表
第3回	論題の確立	受講生相互で議論し、論題を確定させる
第4回	研究内容の報告①	各受講生の発表と質疑応答①
第5回	研究内容の報告②	各受講生の発表と質疑応答②
第6回	研究内容の報告③	各受講生の発表と質疑応答③
第7回	研究内容の報告④	各受講生の発表と質疑応答④
第8回	研究内容の報告⑤	各受講生の発表と質疑応答⑤
第9回	研究内容の報告⑥	各受講生の発表と質疑応答⑥
第10回	研究内容の報告⑦	各受講生の発表と質疑応答⑦
第11回	研究内容の報告⑧	各受講生の発表と質疑応答⑧
第12回	研究内容の報告⑨	各受講生の発表と質疑応答⑨
第13回	研究内容の報告⑩	各受講生の発表と質疑応答⑩
第14回	全体的整理	全体的整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
各自の発表時に与えられた指摘やコメントに対して、誠実かつ主体的に対処し、次回の発表に備えること。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

さまざまな「論文の書き方」についてのマニュアルなどを適宜活用してほしい。

【成績評価の方法と基準】

口頭の発表時の準備状況と問題設定(50%)、授業時の議論の内容(50%)を斟酌して判断・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>文化地理学

<研究テーマ>健康の地理学、感情の地理学、空間の男性学

<主要研究業績>

村田陽平（2009）『空間の男性学：ジェンダー地理学の再構築』京都大学学術出版会

村田陽平（2012）『受動喫煙の環境学：健康とタバコ社会のゆくえ』世界思想社

【Outline (in English)】

This seminar is on Human Geography, especially on Social and Cultural Geography. The aims and goals of this seminar are to comprehend and present and discuss about contents of selected texts. In addition, for students who must write a graduation thesis can get some practical supports. Grading will be decided based on in-class contribution. Before /after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Judgment and evaluation will be made by taking into consideration the state of preparation and problem setting at the time of oral presentation (50%), and the content of discussion during class (50%).

HUG400BF (人文地理学 / Human geography 400)

人文地理学演習F (Ⅱ)

村田 陽平

授業コード：A3937 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は、文化・社会地理学に包含される論題を用意した受講生が、卒業論文を完成させるための、①テーマの設定とそれを練り上げる作業、②練り上げたテーマに沿った調査研究の実施状況を報告し、他の受講生と議論を交わす中間発表、③最終的な論文完成に向かった論点の整理、といった過程を進めるためのものである。

【到達目標】

秋学期に行なわれるこの授業では、上記概要の②および③を中心に進め、執筆する卒業論文の概略を固めることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

論題を抱えた受講生の発表と、それに対する討論を中心にして、授業を進めてゆく。課題等の提出・フィードバックは対面で行なう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明と各受講生の論文作成スケジュールの確認
第2回	研究内容の報告①	受講生の発表と質疑①
第3回	研究内容の報告②	受講生の発表と質疑②
第4回	研究内容の報告③	受講生の発表と質疑③
第5回	研究内容の報告④	受講生の発表と質疑④
第6回	研究内容の報告⑤	受講生の発表と質疑⑤
第7回	研究内容の報告⑥	受講生の発表と質疑⑥
第8回	研究内容の報告⑦	受講生の発表と質疑⑦
第9回	研究内容の報告⑧	受講生の発表と質疑⑧
第10回	研究内容の報告⑨	受講生の発表と質疑⑨
第11回	研究内容の報告⑩	受講生の発表と質疑⑩
第12回	研究内容の報告⑪	受講生の発表と質疑⑪
第13回	最終執筆指導①	論文内容の相互チェックと形式的整理—全体的検討
第14回	最終執筆指導②	論文内容の相互チェックと形式的整理—最終的整理

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
各自の発表時に与えられた指摘やコメントに対して、誠実かつ主体的に対処し、次回の発表に備えること。

【テキスト (教科書)】

使用しない。

【参考書】

さまざまな「論文作成のためのマニュアル」類を適宜活用してほしい。ただし、マニュアルはそれをなぞるためにあるのではなく、精神をくみ取ることが大切である。

【成績評価の方法と基準】

発表のしかたとその内容 (50%) および質疑応答への内容 (50%) とを評価対象とする。自分の関心を他者に的確に説明し、その学問的意義を主張できることが重要である。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This seminar is on Human Geography, especially on Social and Cultural Geography. The aims and goals of this seminar are to comprehend and present and discuss about contents of selected texts. In addition, for students who must write a graduation thesis can get some practical supports. Grading will be decided based on in-class contribution. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Judgment and evaluation will be made by taking into consideration the state of preparation and problem setting at the time of oral presentation (50%), and the content of discussion during class (50%).

HSS100LB（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

身体測定と評価

鈴木 康弘

授業コード：A9017 | 曜日・時限：月3/Mon.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「身体測定と評価」は、身体を正確に測定・分析するための授業であり、身体パラメーターを測定するためのテストや評価方法を学びます。この授業では、スポーツパフォーマンスの向上に向けた科学的なトレーニングを実施するために必要な測定法について理解を深めることができます。

【到達目標】

・基礎的な身体測定・評価法を理解する。
・体力トレーニングを実施する上で基本となる形態・体力測定の理論と具体的な測定・評価法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業では、授業中に提供された知識・情報を単に記憶する・理解するだけでなく、個々人のスポーツ・運動実践場面における適用方法などについて考察することを最も重視します。そのため、共通の学習テーマの下での数回の授業が終了するごとに個人の考え・意見をまとめたミニレポートを提出してもらい、そのレポートを評価の一部とします。

なお、ミニレポート等に対する講評やフィードバックは、次回授業時に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目標と課題の確認
第2回	形態・体組成の測定 その1	長育, 幅育, 量育, 姿勢の測定と評価方法
第3回	形態・体組成の測定 その2	体型・肥瘦度の測定と評価方法
第4回	行動体力の測定 その1	筋力の測定と評価方法
第5回	行動体力の測定 その2	柔軟性の測定と評価方法
第6回	行動体力の測定 その3	無酸素性パワーの測定と評価方法
第7回	行動体力の測定 その4	無酸素性持久力の測定と評価方法
第8回	行動体力の測定 その5	有酸素性持久力の測定と評価方法
第9回	行動体力の測定 その6	調整力（平衡性）の測定と評価方法
第10回	行動体力の測定 その7	調整力（敏捷性）の測定と評価方法
第11回	健康関連指標の測定 その1	メタボリックシンドロームの概念と診断基準
第12回	健康関連指標の測定 その2	安静時・運動時のエネルギー代謝の測定と評価
第13回	健康関連指標の測定 その3	運動時の身体強度, 呼吸循環器系機能の測定と評価
第14回	健康に関する様々な 数値・データのとらえ方	健康リテラシー（健康情報）の評価・意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回の授業で提示する課題に取り組んでから授業にのぞむこと。
・各授業で配布する資料内容を次回までに復習しておくこと。
・シラバスに記載の内容を毎回予習しておくこと。
なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業中に資料を配付します。

【参考書】

・フィットネスチェックハンドブック - 体力測定に基づいたアスリートへの科学的支援 - / 国立スポーツ科学センター（監）/ 大修館書店
・健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法 / 出村慎一（監）/ 杏林書院

【成績評価の方法と基準】

・授業への参画状況（授業ごとのリアクションペーパーなどで評価）：50%
毎回授業内容に関する簡易レポート（A4用紙1枚）の提出を求め、授業ごとに評価を行います。
・課題・ミニレポートの内容：30%
・学習態度：20%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline (in English)】

Course outline:

This course introduces accurately measure and analyze the body, and how to test and assess body parameters to students taking this course.

Learning Objectives:

The goals of this course are to understand basic physical measurement and assessment methods.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /PolicyBody:

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class participation (evaluated by reaction papers for each class): 50%, Short reports : 30%, in class contribution: 20%.

HUG300LA (人文地理学 / Human geography 300)

人文地理学セミナー A

増淵 敏之

授業コード：Q6209 | 曜日・時限：月3/Mon.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：地理学科2～4年
備考（履修条件等）：地理学科生は選択科目として履修する
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、コンテンツツーリズムが注目を集めてきている。従来の例えば「聖地巡礼」ということになるのであろうが、ファンが文化コンテンツ作品に興味を抱いて、その舞台を巡るというものである。こうして記すと別に目新しいものではないという見方もできるであろうが、現在のコンテンツツーリズムは単に観光文脈だけではなく、地域の再生や活性化と結びついている点が重要である。本講義では国内の事例を中心にその展開過程、また今後の国の捉え方や新たなスキーム創出までを射程に入れて論じていく。

【到達目標】

到達目標としてはそれぞれの事例を分析し、評価できる能力をつけることに置く。特に文化コンテンツ作品に対する理解、地域でのコンテンツ創出の可能性、日本化現象、クールジャパンの政策枠組みの理解、幅広い知見の習得に努めてもらいたい。

The goal is for students to gain the ability to analyze and evaluate each case. In particular, we would like students to strive to understand cultural content works, the potential for local content creation, the Japanification phenomenon, and the policy framework of Cool Japan, as well as to acquire a wide range of knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

観光文脈での文化コンテンツの効用を考察していく。授業はコンテンツツーリズムの定義付けからこれまでの流れ、そして最近の事例を紹介しながら進めていく。地域振興としては新たなアプローチといえるので、課題も当然、様々な存在することから、適宜の議論を交えていく。また文化コンテンツ作品そのものの紹介も行っていきたい。状況によっては授業内容の変更もあり得る。

We will consider the utility of cultural content in the context of tourism. The class will proceed by defining content tourism, examining its history, and introducing recent examples. As it can be said to be a new approach to regional development, it naturally comes with a variety of challenges, which will be discussed appropriately. We also plan to introduce the cultural content works themselves. The content of the class may change depending on the situation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス/	ガイダンス/Guidance.
第2回	コンテンツツーリズムの歴史/The history of content tourism.	コンテンツツーリズムのこれまでの経緯/The history of content tourism.

第3回	大河ドラマによる聖地巡礼/Pilgrimage to sacred sites through historical dramas	大河ドラマの観光的側面/Tourism aspects of taiga dramas.
第4回	司馬遼太郎と藤沢周平/Ryotaro Shiba and Shohei Fujisawa.	時代小説を巡る/Exploring historical novels
第5回	韓流ドラマ『冬のソナタ』の魅力/the charm of the Korean drama "Winter Sonata.	韓国観光の契機/Opportunity for tourism in Korea.
第6回	「水木しげるロード」ができた理由/Why Mizuki Shigeru Road" was created.	マンガ、アニメによる観光創出/Creating tourism through manga and anime.
第7回	『らき☆すた』現象/The Lucky Star phenomenon.	アニメツーリズムの活発化/The rise of anime tourism.
第8回	テレビドラマの聖地巡礼/「silent」 「First love 初恋」/ Pilgrimage to the sacred sites of TV dramas: "Silent" and "First Love"	ロケツーリズムの紹介/Introduction to location tourism.
第9回	ご当地ソング考1/ Thoughts on local songs①.	JPOPを巡る旅1/A Journey Through JPOP1
第10回	ご当地ソング2考/ Thoughts on local songs2	JPOPを巡る旅2/A Journey Through JPOP2
第11回	「ガールズ&パンツアー」と地域振興/"Girls & Pan Tour" and regional development.	大洗町/Oarai Town
第12回	「ラブライブ！ サンシャイン!!」と地域振興/"Love Live! Sunshine!!" and regional development.	沼津市/Numazu City
第13回	スタジオジブリ作品を巡る/Explore Studio Ghibli.	「耳をすませば」「千と千尋の神隠し」など/"Whisper of the Heart" and "Spirited Away"
第14回	新海誠作品を巡る/ Exploring Makoto Shinkai's works.	「秒速5センチメートル」「すずめの戸締り」/"Sparrow's Door Lock" from "5 Centimeters per Second"

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習をしてきて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。ただし状況によっては授業の内容の変更もある。Please review the class. The standard time for preparation and review is 2 hours each. However, the content of the class may change depending on the situation.

【テキスト（教科書）】

レジュメを中心に授業を進める。
The class will focus on the resume.

【参考書】

「物語を旅するひとびと」増淵敏之, 彩流社
「物語を旅するひとびと2」増淵敏之, 彩流社
"People Traveling Through Stories" by Toshiyuki Masubuchi, Sairyusha
"People Traveling Through Stories 2" by Toshiyuki Masubuchi, Sairyusha.

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート70%

30% for regular classes, 70% for reports

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を中心にした学生の発表も交えていく。

There will also be presentations by students focusing on specific case studies.

【学生が準備すべき機器他】

映像を使用することもある。

Sometimes video is used.

【その他の重要事項】

基本的には対面で実施、オフィスアワー：月16～18時。

Classes are generally conducted face-to-face, office hours are 4-6pm Mondays.

【担当教員の専門分野等】

<専門領域><研究テーマ><主要研究業績>

【文化地理学】

・『路地裏が文化を生む!：細街路とその界隈の変容』青弓社

【観光地理学】

・増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびと—コンテンツツーリズムとは何か?』彩流社

【地域振興】

・増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生 観光創出から産業振興へ』水曜社

【経済地理学】

・増淵敏之（2010）『欲望の音楽』法政大学出版局

【Outline (in English)】

Content tourism has been attracting attention recently. Traditionally, this would be called a "pilgrimage to sacred places," where fans become interested in cultural content works and travel to the locations where they are set. Explained in this way, it may not seem like anything new, but what is important is that content tourism today is not just a tourist context, but is linked to the regeneration and revitalization of local areas. This lecture will discuss the development of content tourism, focusing on domestic examples, and will also look at how the country will be perceived in the future and the creation of new schemes.

HUG300LA (人文地理学 / Human geography 300)

人文地理学セミナー B

増淵 敏之

授業コード：Q6210 | 曜日・時限：月3/Mon.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：地理学科2～4年
備考（履修条件等）：地理学科生は選択科目として履修する
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要としては、文化観光の一形態であるコンテンツツーリズムを軸に、その発展の過程、現状を視野に入れて論じていきます。またコンテンツツーリズムの資源である文化コンテンツそのものを生産する産業のありかたや拡張するコンテンツ（スポーツ、食文化など）にも言及していきます。授業の目的は観光行動、観光を取り巻く周辺環境の変化を読み込みつつ、コンテンツツーリズムの一般化の要因についてを明らかにすることです。意義は日本の産業振興、地域振興のために文化コンテンツの波及に寄与するコンテンツツーリズムの活用方法を学ぶことで、グローバル社会のなかでの競争優位を考える一助になる点にあります。

【到達目標】

- ・セミナーAの発展的授業です。
- ・学生がコンテンツツーリズムの資源となる文化コンテンツ産業振興政策及び企業のイノベーションを理解することができます。
- ・学生がグローバル社会の中でのコンテンツツーリズムの果たす役割、コンテンツ産業の比較優位確保の重要性を理解できます。
- ・日本のみならず国際的な視点から他国（韓国）のコンテンツツーリズムの現状にも言及していきます。
- ・ This is an advanced seminarA class.
- ・ Students will be able to understand cultural content industry promotion policies and corporate innovation that are resources for content tourism.
- ・ Students will understand the role that content tourism plays in global society and the importance of securing a comparative advantage in the content industry.
- ・ We will also touch on the current state of content tourism in other countries (Korea) from an international perspective, not just in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めます。適宜、授業内での議論も行い、また授業の性格上、映像資料を効果的に使っていきます。
Focus on the lecture. Discussions will be held in class as appropriate, and due to the nature of the class, video materials will be used effectively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス/ guidance	授業の概要/Class outline
第2回	取り巻く環境の変化/ Changes in the surrounding environment	コンテンツを取り巻く経済、社会状況の変化についての説明/ Explanation of changes in economic and social conditions surrounding content

第3回	拡張する文化コンテンツ/ Expanding cultural content	スポーツ、食文化などへと拡張する現状/The current situation is expanding to sports, food culture, etc.
第4回	文化コンテンツ産業の現状/Current state of the cultural content industry	日本の文化コンテンツ産業の概要/Overview of Japan's Cultural Content Industry
第5回	文化コンテンツ産業の東京集中と地域分散/ Concentration of the cultural content industry in Tokyo and regional dispersion	文化コンテンツ産業のこれまでと今後について/The past and future of the cultural content industry
第6回	クールジャパン/ Cool Japan	政府のクールジャパン政策の評価/Evaluation of the government's cool Japan policy
第7回	日本化現象/ Japanification phenomenon	日本の文化コンテンツの海外波及/The spread of Japanese cultural content overseas
第8回	デジタル化と文化コンテンツ/ Digitalization and Cultural Content	流通システムの変化、バーチャル観光/Changes in the distribution system, virtual tourism
第9回	プロダクトプレイスメントとクロスメディア/ Product Placement and Cross Media.	文化コンテンツ作品を活用したプロモーション/Promotion using cultural content
第10回	韓国のコンテンツ産業振興政策/ Korea's content industry promotion policy	韓国のコンテンツ産業政策の評価/Evaluation of Korean content industry policy
第11回	ローカルコンテンツ/ Local content	ローカルでのコンテンツ産業創出/Creating a local content industry
第12回	メディアの変化/ Media changes	メディアの多様化/Media diversification
第13回	体験的具体例の紹介/ Introduction of experiential concrete examples	札幌、岩見沢、南魚沼、宇都宮などの事例/Cases of Sapporo, Iwamizawa, Minami Uonuma, Utsunomiya, etc.
第14回	議論（日本のコンテンツの未来）/ Discussion (Future of Japanese content)	日本のコンテンツは比較優位をどう取ればいいのか？ /How should Japanese content take a comparative advantage?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習、復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各1時間（合計28時間）を標準とします。
Please prepare and review. The standard time for preparation and review for this class is 1 hour each (total of 28 hours).

【テキスト（教科書）】

特にありません。PP（授業資料）を配布します。
Nothing in particular. PP (class materials) will be distributed.

【参考書】

増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびと—コンテンツツーリズムとは何か？』彩流社
増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生 観光創出から産業振興へ』水曜社
Toshiyuki Masubuchi (2010) "People Traveling Through Stories: What is Content Tourism?" Sairyusha Toshiyuki Masubuchi (2018) "Local Content and Regional Revitalization: From Tourism Creation to Industrial Promotion" Suiyosha

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート70%、平常点は授業での発言を評価、レポートは完成度、先行研究のサーベイ、独自性を重視して評価します。授業終了後に提出してもらいます。

Normal score 30%, report 70%, normal score evaluates remarks in class, report evaluates with emphasis on completeness, survey of previous research, and originality. Please submit after class.

【学生の意見等からの気づき】

前年度アンケートを授業に反映させていく。

The previous year's questionnaire will be reflected in the class.

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

Nothing in particular.

【その他の重要事項】

- ・セミナーAを履修してから受講されることをお勧めします。
- ・オフィスアワー月曜日16～18時
- ・実務経験者として、さまざまな地域振興に関わっていますので、携わった事例も授業内で紹介します。
- ・ We recommend taking Seminar A before taking this class.
- ・ Office hours: Mondays from 4pm to 6pm
- ・ As a person with practical experience, I am involved in various regional development projects, so I will introduce some of the cases I have been involved in during the class.

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> <研究テーマ> <主要研究業績>

【文化地理学】

- ・『路地裏が文化を生む! 細街路とその界隈の変容』 青弓社

【観光地理学】

- ・増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびと—コンテンツツーリズムとは何か?』 彩流社

【地域振興】

- ・増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生 観光創出から産業振興へ』 水曜社

【経済地理学】

- ・増淵敏之（2010）『欲望の音楽』 法政大学出版局

【Outline (in English)】

The outline of the class will be to discuss content tourism, a form of cultural tourism, with a view to its development process and current situation. We will also touch upon the state of the industry that produces the cultural content itself, which is the resource of content tourism, and the expanding content (sports, food culture, etc.). The purpose of the class is to clarify the factors behind the generalization of content tourism while examining changes in tourist behavior and the surrounding environment surrounding tourism. The significance is that by learning how to utilize content tourism to contribute to the spread of cultural content for the promotion of Japanese industry and regional development, it will help us consider competitive advantage in the global society.

